

学生便覧

令和6年度

2024年度

琉球大学

目 次

1. 総説	
(1) 学年暦	1
(2) 3つのポリシー (DP・CP・AP)	3
(3) 琉球大学憲章・琉球大学の基本的な目標	5 0
(4) 琉球大学学則	5 4
(5) 琉球大学各学部共通細則	9 8
(6) 琉球大学共通教育等履修規程	1 0 3
2. 諸規程 1	
(1) 琉球大学成績評価不服申立に関する申合せ	1 6 2
(2) 琉球大学G P A制度に関する申合せ	1 6 6
(3) 琉球大学除籍に関する規程	1 6 8
(4) 休学についての申合せ	1 7 1
(5) 琉球大学授業科目の履修中止に関する申合せ	1 7 2
(6) 琉球大学暴風警報及び気象等に関する特別警報発表に伴う 授業及び期末試験の取扱いに関する申合せ	1 7 4
(7) 琉球大学学生の懲戒に関する基準	1 7 7
3. 学部規程及び教育課程	
(1) 琉球大学人文学部規程及び教育課程	1 8 2
(2) 琉球大学国際地域創造学部規程及び教育課程	2 1 4
(3) 琉球大学教育学部規程及び教育課程	2 9 0
(4) 琉球大学理学部規程及び教育課程	3 6 4
(5) 琉球大学医学部規程及び教育課程	4 0 3
(6) 琉球大学工学部規程及び教育課程	4 2 0
(7) 琉球大学農学部規程及び教育課程	5 2 8
4. 琉球大学副専攻	
(1) 副専攻に関する規程	5 6 0
(2) 総合環境学副専攻	5 6 3
(3) 琉球学副専攻	5 6 5
(4) 地域創生副専攻	5 6 6
(5) 日本語教育副専攻	5 6 8
5. 諸規程 2	
(1) 琉球大学編入学規程	5 7 1
(2) 琉球大学転入学規程	5 7 4
(3) 琉球大学再入学規程	5 7 7
(4) 琉球大学転学部、転学科、転課程に関する規程	5 8 0
(5) 琉球大学教育学部特別支援教育特別課程規程	5 8 2
(6) 琉球大学研究生規程	5 8 4
(7) 琉球大学科目等履修生規程	5 9 0
(8) 琉球大学外国人学生規程	5 9 3
(9) 琉球大学留学等及び特別聴講学生に関する規程	5 9 7
(10) 学生が本学在学中又は入学前に大学等において修得した単位等の 認定に関する申合せ	6 0 2
(11) 技能審査等に係る学修の単位認定に関する基準について	6 0 9
(12) 放送大学と琉球大学との単位互換の実施に関する取扱いについて	6 1 2
(13) 教育実習生の実習期間中の講義の取り扱いについて	6 3 4
6. 参考法規 (抜粋)	
(1) 教育職員免許法 (抜粋)	6 3 5
(2) 教育職員免許法施行規則 (抜粋)	6 4 1
(3) 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法 の特例等に関する法律・施行規則	6 5 8

令和6年	4月 1日 (月)		学年及び前学期開始
	4月 1日 (月)		シラバス・授業時間割配当表公開 ※2
	4月 2日 (火) ~	4月 8日 (月)	授業科目の仮登録(前学期/第1・第2クォーター) ※3
	4月 3日 (水) ~	4月 8日 (月)	新入生オリエンテーション
	4月 3日 (水) ~	4月 18日 (木)	定期健康診断(3日は上原キャンパスのみ、4日は実施なし)
	4月 4日 (木)		入学式
	4月 9日 (火)		仮登録抽選
	4月 10日 (水)		仮登録抽選結果開示(前学期/第1・第2クォーター)
	4月 10日 (水) ~	4月 24日 (水)	登録調整期間(前学期/第1・第2クォーター)
	4月 11日 (木)		授業開始(前学期/第1クォーター)
	4月 25日 (木) ~	5月 1日 (水)	履修中止手続期間(第1クォーター)
	4月 25日 (木) ~	5月 15日 (水)	履修中止手続期間(前学期/前学期開始の通年科目)
	5月 2日 (木)		月曜日授業振替(月曜日の3回目) ※4
	5月 22日 (水)		開学記念日
	5月 25日 (土)		体育祭
	6月 1日 (土) ~		教育実習
	6月 10日 (月)		授業終了(第1クォーター) ※7
	6月 11日 (火)		授業開始(第2クォーター)
	6月 11日 (火) ~	7月 1日 (月)	履修中止手続期間(第2クォーター)
	6月 23日 (日)		慰霊の日
	7月 1日 (月)		成績開示(第1クォーター)
	7月 14日 (日)		琉球大学説明会(オープンキャンパス)
	7月 16日 (火)		月曜日授業振替(月曜日の13回目) ※4
	7月 31日 (水) ~	8月 6日 (火)	前学期試験期間 ※5
	8月 7日 (水) ~	8月 8日 (木)	予備日 ※6
	8月 8日 (木)		授業終了(前学期/第2クォーター) ※7
	8月 9日 (金) ~	9月 30日 (月)	夏季休業
	9月 2日 (月)		成績開示(前学期/第2クォーター) ※2
	9月 20日 (金)		授業時間割配当表公開
	9月 21日 (土) ~	9月 22日 (日)	琉大祭
	9月 24日 (火) ~	9月 26日 (木)	授業科目の仮登録(後学期/第3・第4クォーター) ※3
	9月 27日 (金)		仮登録抽選
	9月 30日 (月)		仮登録抽選結果開示(後学期/第3・第4クォーター)
	9月 30日 (月) ~	10月 15日 (火)	登録調整期間(後学期/第3・第4クォーター)
	9月 30日 (月)		前学期終了
	10月 1日 (火)		後学期開始
	10月 1日 (火)		授業開始(後学期/第3クォーター)
	10月 12日 (土) ~	10月 13日 (日)	琉大祭予備日 ※8
	10月 15日 (火)		月曜日授業振替(月曜日の2回目) ※4
	10月 16日 (水) ~	10月 22日 (火)	履修中止手続期間(第3クォーター)
	10月 16日 (水) ~	11月 5日 (火)	履修中止手続期間(後学期/後学期開始の通年科目)
	11月 6日 (水)		月曜日授業振替(月曜日の5回目) ※4
	11月 27日 (水)		授業終了(第3クォーター) ※7
	11月 28日 (木)		授業開始(第4クォーター)
	11月 28日 (木) ~	12月 18日 (水)	履修中止手続期間(第4クォーター)
	12月 4日 (水)		学校推薦型選抜等(休講)
	12月 5日 (木)		水曜日授業振替(水曜日の9回目) ※4
	12月 24日 (火) ~	1月 5日 (日)	冬季休業
令和7年	1月 6日 (月)		授業開始
2025年	1月 6日 (月)		成績開示(第3クォーター)
	1月 17日 (金)		大学入学共通テスト準備(休講)
	1月 18日 (土) ~	1月 19日 (日)	大学入学共通テスト
	2月 3日 (月) ~	2月 7日 (金)	後学期の試験期間 ※5
	2月 10日 (月) ~	2月 12日 (水)	予備日 ※6
	2月 12日 (水)		授業終了(後学期/第4クォーター) ※7
	2月 13日 (木) ~	3月 31日 (月)	春季休業
	2月 13日 (木)		リフレクション・デー ※9
	2月 25日 (火) ~	2月 26日 (水)	一般選抜(前期日程)
	3月 3日 (月)		成績開示(後学期/第4クォーター) ※2
	3月 12日 (水)		一般選抜(後期日程)
	3月 25日 (火)		卒業式
	3月 31日 (月)		学年及び後学期終了

- ※1: 医学部医学科の学年暦はこの学年暦に準じ、医学部において定める。
各研究科の学年暦はこの学年暦に準じ、各研究科において定めることができる。
- ※2: 教務情報システムを利用して提供する。
- ※3: クォーターとは、前学期と後学期のそれぞれ前半と後半に、8週(試験を含む)で授業を行う期間のこと。
- ※4: 指定の曜日の振替日とし、本来の曜日の講義・試験・補講・実習を行わない。
- ※5: 試験期間は、期末試験の他に講義・補講等を行うことがある。
- ※6: 予備日は台風等で全学休講になった日の授業又は定期試験を行う。
- ※7: クォーター科目の期末試験は最終授業時に行う。なお、週1回実施の科目は8回目の授業の後半に実施すること。
- ※8: 準備、片付けを含む。
- ※9: 令和4年度以降に入学した教職課程の履修を希望する学生(教育学部生を除く)が対象。

令和6年度学年暦関係七曜表

月	4月							5月							6月							7月							8月							9月																									
	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土																			
4月		1	2	3	4	5	6																																																						
		7	8	9	10	11	12	13																																																					
		14	15	16	17	18	19	20																																																					
		21	22	23	24	25	26	27																																																					
		28	29	30																																																									
5月																																																													
6月																																																													
7月																																																													
8月																																																													
9月																																																													

第1Q, 第3Q	①~⑮: 授業回数
第2Q, 第4Q	休業日
入学式, 卒業式	
試験期間	
英語統一テスト	

- ◇ 新生オリエンテーション, 琉大祭(準備, 後片付け含む)
- ▽ 大学入学共通テスト, 一般選抜(準備の休講を含む), 学校推薦型選抜
- ◻ 開学記念日, オープンキャンパス, 体育祭
- 国民の祝日等(振替休日, 慰霊の日を含む)
- 台風等で全学休講となった場合の予備日

琉球大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

琉球大学は、「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、「普遍的価値を身につけた21世紀型市民として、地域社会及び国際社会の発展に寄与できる人材」の育成を掲げています。本学では、学士課程教育における人材育成の目的を達成するため、学士課程教育の総称である琉大グローバルシテイズン・カリキュラム（URGCC）の学習教育目標を以下のとおり定め、各教育課程でこれらを身に付けた者に学位を授与します。

1. 自律性
自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。
2. 社会性
市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身に付け、多様な人々と協調・協働して行動できる。
3. 地域・国際性
地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。
4. コミュニケーション・スキル
言語とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。
5. 情報リテラシー
幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。
6. 問題解決力
批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。
7. 専門性
専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、活用することができる。

各学士教育プログラムにおける学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

- 人文社会学部
 - [法学](#) | [政治・国際関係学](#) | [哲学](#) | [心理学](#) | [社会学](#) | [歴史・民俗学](#) | [言語学](#) | [文学](#)
- 国際地域創造学部
 - [観光地域デザイン](#) | [経営学](#) | [経済学](#) | [国際言語文化](#) | [地域文化科学](#)
- 教育学部
 - [学校教育](#)
- 理学部
 - [数理科学](#) | [物理系](#) | [地球環境系](#) | [化学系](#) | [生物系](#)
- 医学部
 - [医学](#) | [保健学](#)
- 工学部
 - [機械工学](#) | [エネルギー環境工学](#) | [電気システム工学](#) | [電子情報通信](#) | [社会基盤デザイン](#) | [建築学](#) | [知能情報](#)
- 農学部
 - [亜熱帯地域農学](#) | [亜熱帯農林環境科学](#) | [地域農業工学](#) | [亜熱帯生物資源科学](#)
- 旧課程
 - 人文社会学部 [哲学・教育学](#)
 - 法文学部 [経済学](#) | [人間行動](#) | [地理歴史人類学](#) | [琉球アジア文化](#) | [英語文化](#)
 - 観光産業科学部 [観光学](#)
 - 理学部 [地学系](#)
 - 工学部 [機械システム工学](#) | [電気電子工学](#)

法学

法学 学士教育プログラムは琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、人文社会系の専門的、学際的分野において真理を探究し、それを基に、個人の尊厳と基本的人権を尊重する平和・共生社会の形成者、社会全体の持続的発展に寄与する人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために、法学学士教育プログラムでは、法体系及び個々の法律の理解・専門的知識を取得し、さらに政治学・国際関係学など社会科学の幅広い知識に触れることで、豊かな学際的知を形成しながら多様な社会との共生の在り方や持続的発展のための政策提言・発信力及び平和共生社会を構築できる実践力の獲得を目指します。法学を通じて法的思考力を培い、必要な判断力やコミュニケーション能力を身に付けます。

本学部の所定の単位を修得し、下記の知識・能力を身に付けた者に学士（法学）の学位を授与します。

- (1) 自律性：法学を学び、自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができるようになる。
- (2) 社会性：法学を学び、市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身に付け、多様な人々と協調・協働し、社会の一員として行動できるようになる。
- (3) 地域・国際性：憲法・行政法学で対象とされる地方自治をはじめ、法学の学びを通じて地域的な側面に通じるとともに、国際的な側面も学び、世界的・地域的に貢献できるようになる。
- (4) コミュニケーション・スキル：法学を学ぶことをとおして、言語を用いて他人とコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができるようになる。
- (5) 情報リテラシー：法学を学び、幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解したうえで取捨選択し、活用することができるようになる。
- (6) 問題解決力：法学を学び、批判的・論理的に問題を立て、思考し、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができるようになる。
- (7) 専門性：法学を学び、法学における思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、活用することができるようになる。

政治・国際関係学

政治・国際関係学 学士教育プログラムは琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、人文社会系の専門的、学際的分野において真理を探究し、それを基に、個人の尊厳と基本的人権を尊重する平和・共生社会の形成者、社会全体の持続的発展に寄与する人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために、政治・国際関係学学士教育プログラムでは、政治・国際関係学を中心とし、法学を含めた社会科学の幅広い知識をもち、地域社会や国際社会に貢献できる人材の育成を目標にします。

本学部の所定の単位を修得し、下記の知識・能力を身に付けた者に学士（政策科学、国際関係論）の学位を授与します。

- (1) 政治・国際関係学を中心とする基礎的・応用的専門知識を身に付け、自ら継続的に学習し行動することができる能力（専門的知識）
- (2) 政治・国際関係学を含む社会科学の分野に関して適切な資料・文献を調査・収集し、修得した専門知識と組み合わせることで課題を発見し分析することができる能力（専門的情報収集・分析力）
- (3) 社会の諸現象に対して問いを立て、知識・調査と論理的思考に基づいて課題を深く探求し、解決を見出す能力（専門的考察力）
- (4) 社会科学の課題に対して多様な他者と協働して取り組むために、自らの考えを討論や文章を通して的確に表現・発信することができる能力（専門的知見の展開力）

哲学

哲学 学士教育プログラムは琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、人文社会系の専門的、学際的分野において真理を探究し、それを基に、個人の尊厳と基本的人権を尊重する平和・共生社会の形成者、社会全体の持続的発展に寄与する人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために、哲学学士教育プログラムでは、教育課程を通して培った専門性に基づいて、人間に対する深い洞察力と豊かな人間性を基に、複雑化した社会の諸領域で柔軟かつ適正な問題解決を可能とする能力を身に付けます。

本学部の所定の単位を修得し、下記の知識・能力を身に付けた者に学士（人文社会）の学位を授与します。

- (1) 各学問分野と関連した高度な専門的能力
- (2) 人間や地域、国際社会に対する知識・理解に基づく深い洞察力、社会性、コミュニケーション・スキル
- (3) 自律的な学習による多様な情報の収集とそれを駆使した問題解決能力、自律性

心理学

心理学 学士教育プログラムは琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、人文社会系の専門的、学際的分野において真理を探究し、それを基に、個人の尊厳と基本的人権を尊重する平和・共生社会の形成者、社会全体の持続的発展に寄与する人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために、心理学学士教育プログラムでは、教育課程を通して培った専門性に基づいて、人間に対する深い洞察力と豊かな人間性を基に、複雑化した社会の諸領域で柔軟かつ適正な問題解決を可能とする能力を身に付けます。

本学部の所定の単位を修得し、下記の知識・能力を身に付けた者に学士（人文社会）の学位を授与します。

- (1) 心理学専攻学生が獲得すべき高度な専門的能力
- (2) 人間や地域、国際社会に対する多角的な知識・理解に基づく深い洞察力
- (3) 自律的な学習による多様な情報の収集と人や社会の問題や課題を分析し解決する能力
- (4) 社会を構成する多様な人々とコミュニケーションを取り、共生・協働していく能力

社会学

社会学 学士教育プログラムは琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、人文社会系の専門的、学際的分野において真理を探究し、それを基に、個人の尊厳と基本的人権を尊重する平和・共生社会の形成者、社会全体の持続的発展に寄与する人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために社会学学士教育プログラムでは、人間集団としての社会のあり方や暮らしを社会学的な視点と方法で読み解き、現前の課題に対して適切な処方箋を提示し、社会制度づくりを提言できる人材に必要なとされる能力の涵養を目指します。

本学部の所定の単位を修得し、下記の知識・能力を身に付けた者に学士（人文社会）の学位を授与します。

- (1) 人間の行動、生き方、生活問題の発生過程及びその解決方法などの社会生活の諸側面を理論的・実証的に捉える能力（論理的思考力）
- (2) 現実の社会で生じている様々な現象を多種多様な角度から分析し、社会の仕組み・変動を見極める能力（分析力）
- (3) 市民社会の発展や生活問題・福祉問題の解決に貢献しうる能力（問題解決力）
- (4) 知識基盤社会を知性と知識を備えた21世紀型市民として、自律的に学習し行動し、多様な人々の存在を認めて尊重し、互いに協働して生きていく総合的教養人としての能力（自律性、社会性を意識）
- (5) 地域や世界における複雑化した問題を全人类的視点から取り組むことができる専門的知識人として、多様な情報を受け取り、自らの考えを論理的かつ的確に伝えることができる能力（地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシーを意識）
- (6) 社会の要求に対応し様々な科学、技術及び情報を自主的、継続的に学習し問題解決する能力（自律性、問題解決力を意識）
- (7) 数学的専門知識を理解し、それを様々な問題に柔軟に応用することができる実践力（専門性、プログラムの「専門性」の学習教育目標の内容の詳細化を意識）

歴史・民俗学

歴史・民俗学 学士教育プログラムは琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、人文社会系の専門的、学際的分野において真理を探究し、それを基に、個人の尊厳と基本的人権を尊重する平和・共生社会の形成者、社会全体の持続的発展に寄与する人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために、歴史・民俗学学士教育プログラムでは、琉球・沖縄及び日本・アジアという地域を主な対象とする広範な文化のありようを深く認識し、歴史・民俗学の研究で得られた知見を通して、地域や世界における複雑化した問題を全人类的視点から取り組むことができる専門的知識人として、多様な情報を受け取り、地域及び国際的な場で活躍する人材育成を目指します。

本学部の所定の単位を修得し、下記の知識・能力を身に付けた者に学士（人文社会）の学位を授与します。

- (1) 琉球・沖縄及び日本・アジアという地域を主な対象とする広範な文化のありようを深く認識する能力（専門的知識）
- (2) 琉球・沖縄及び日本・アジアに関する歴史・民俗・文学・言語を理解し、歴史・民俗学の研究で得られた知見を通して、地域や世界における複雑化した問題を全人类的視点から取り組むことができる専門的知識人として、多様な情報を受け取り、地域及び国際的な場で活躍する高度な能力（専門的情報収集力、社会性）

(3) 歴史・民俗学の知見を通して社会の要求に対応し、様々な科学、技術及び情報を自主的、継続的に学習し問題を解決することで、異なる文化背景を持つ人々と平和的に共生していく能力（自律性、社会的問題解決力）

(4) 歴史・民俗学の知見を通して、議論や意見交換を行い、自らの考えを論理的かつ的確に伝達することで、様々な問題に柔軟に応用することができる実践力（情報発信力、コミュニケーション・スキル、社会的問題解決力）

言語学

言語学 学士教育プログラムは琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、人文社会系の専門的、学際的分野において真理を探究し、それを基に、個人の尊厳と基本的人権を尊重する平和・共生社会の形成者、社会全体の持続的発展に寄与する人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために、言語学学士教育プログラムでは、琉球・沖縄及び日本・アジアという地域を主な対象とする広範な文化のありようを深く認識し、言語学の研究で得られた知見を通して、地域や世界における複雑化した問題を全人类的視点から取り組むことができる専門的知識人として、多様な情報を受け取り、地域及び国際的な場で活躍する人材育成を目指します。

本学部の所定の単位を修得し、下記の知識・能力を身に付けた者に学士（人文社会）の学位を授与します。

(1) 琉球・沖縄及び日本・アジアという地域を主な対象とする広範な文化のありようを深く認識する能力（専門的知識）

(2) 琉球・沖縄及び日本・アジアに関する歴史・民俗・文学・言語を理解し、言語学の研究で得られた知見を通して、地域や世界における複雑化した問題を全人类的視点から取り組むことができる専門的知識人として、多様な情報を受け取り、地域及び国際的な場で活躍する高度な能力（専門的情報収集力、社会性）

(3) 言語学の知見を通して社会の要求に対応し、様々な科学、技術及び情報を自主的、継続的に学習し問題を解決することで、異なる文化背景をもつ人々と平和的に共生していく能力（自律性、社会的問題解決力）

(4) 言語学の知見を通して、議論や意見交換を行い、自らの考えを論理的かつ的確に伝達することで、様々な問題に柔軟に応用することができる実践力（情報発信力、コミュニケーション・スキル、社会的問題解決力）

文学

文学 学士教育プログラムは琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、人文社会系の専門的、学際的分野において真理を探究し、それを基に、個人の尊厳と基本的人権を尊重する平和・共生社会の形成者、社会全体の持続的発展に寄与する人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために、文学学士教育プログラムでは、琉球・沖縄及び日本・アジアという地域を主な対象とする広範な文化のありようを深く認識し、文学の研究で得られた知見を通して、地域や世界における複雑化した問題を全人类的視点から取り組むことができる専門的知識人として、多様な情報を受け取り、地域及び国際的な場で活躍する人材育成を目指します。

本学部の所定の単位を修得し、下記の知識・能力を身に付けた者に、学士（人文社会）の学位を授与します。

(1) 琉球・沖縄及び日本・アジアという地域を主な対象とする広範な文化のありようを深く認識する能力（専門的知識）

(2) 琉球・沖縄及び日本・アジアに関する歴史・民俗・文学・言語を理解し、文学の研究で得られた知見を通して、地域や世界における複雑化した問題を全人类的視点から取り組むことができる専門的知識人として、多様な情報を受け取り、地域及び国際的な場で活躍する高度な能力（専門的情報収集力、社会性）

(3) 文学の知見を通して社会の要求に対応し、様々な科学、技術及び情報を自主的、継続的に学習し問題を解決することで、異なる文化背景を持つ人々と平和的に共生していく能力（自律性、社会的問題解決力）

(4) 文学の知見を通して、議論や意見交換を行い、自らの考えを論理的かつ的確に伝達することで、様々な問題に柔軟に応用することができる実践力（情報発信力、コミュニケーション・スキル、社会的問題解決力）

国際地域創造学部

観光地域デザイン学

観光地域デザイン学士教育プログラムでは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシー及び学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、地域社会の課題を的確に把握・分析するための幅広い教養と観光学に関する専門的知識・技法を兼ね備えるとともに、それらを実践的に活用して地域振興に主体的かつ創造的に取り組み、社会の持続可能な発展に貢献できる人材を育成します。

本プログラムの所定の課程を修め、必要な単位を修得し、以下に掲げる能力を身に付けた学生に、学士（観光学）の学位を授与します。

- (1) 観光学を中心に社会科学分野における幅広い知識・技法を主体的に身に付け、地域社会が抱える課題を的確かつ俯瞰的・多角的に捉える能力（自律性、地域・国際性、情報リテラシー、問題解決力）
- (2) 観光に関わるマネジメントに様々な立場の組織・人々が携わっていることを理解し、立場や文化などによって異なる多様な価値観を尊重して、人々と意見交換・協力しながら問題解決を図る能力（社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、問題解決力）
- (3) 沖縄や島嶼地域をはじめとして、地域の観光について専門的・科学的な観点から論理的かつ実践的に考究することができる能力（地域・国際性、専門性）
- (4) 地域社会の持続可能な発展のための方法・問題解決を、観光地域デザインの専門的知識・技法の観点から考案し実践できる能力（問題解決力、専門性）

経営学

経営学士教育プログラムは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、幅広い教養と高い倫理観を兼ね備え、理論と実践の両面から、地域・国際社会に貢献し、自らの未来を創造できる経営人材を育成することを目的とします。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、次のような目標を達成した者に、学士（経営学）の学位を授与します。

- (1) 経営・会計・マーケティング等に関する専門的かつ幅広いマネジメントの理論を理解し、それを応用・実践につなげる能力
- (2) 高度な職業倫理観と多様な情報を適切に活用するための的確な判断能力
- (3) 高い専門性と幅広い教養を併せもち、自律的に目標の達成に向けて行動することのできるリーダーシップ
- (4) 国際社会で活躍できる国際感覚の養成と外国語運用能力
- (5) 地域社会の発展に寄与できる課題解決能力

経済学

経済学学士教育プログラムでは、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、幅広い教養、経済学に関する深い知識、経済分析の基礎的な手法、それに論理的な思考力と明確な発展能力を身に付けることで、社会を経済学の視点から捉えることのできる人材の育成を目標にしています。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、以下の様な能力の習得をした者に、学士（経済学）の学位を授与します。

- (1) 経済学を中心に社会科学についての幅広い知識を持ち、現代社会の諸問題を総合的・多角的に捉える能力を身に付けます。【自律性、専門性】
- (2) 社会科学の基礎力を応用して、地域社会が抱える問題を見出し、その解決策を提案できる能力を身に付けます。【地域・国際性、問題解決力】
- (3) 情報化社会におけるツールとして、情報を自在に加工・処理できる能力や、社会の様々な場面に対応できるコミュニケーション能力を身に付けます。【社会性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー】

国際言語文化

国際言語文化学士教育プログラムの目的は、本学のディプロマ・ポリシー及び学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、欧米言語・文化に精通し、地域・国際社会で活躍できる人材を養成することにあります。

この目的を踏まえ、本プログラム所定の課程を修め、必要な単位を修得し、以下に示す能力を身に付けたと認められる者に対し、学士（人文学）の学位を授与します。

- (1) 国際的な場面で活躍するための高度な外国語運用能力（地域・国際性、コミュニケーション・スキル）
- (2) 外国語の情報を正確に整理・分析し、グローバルな視点で主体的な見解を導くことができる能力（情報リテラシー）
- (3) 多様な見解や価値観を学びつつ、自らの意見を説得力ある表現で伝達することができる能力（社会性、自律性）
- (4) 異なる文化背景・国籍をもつ人々と協力しながら、地球的視野で物事を判断し、地域あるいは国際社会の様々な課題に対して、専門的知識を基に思考し、行動することができる能力（専門性、自律性、問題解決力）

地域文化科学

地域文化科学学士教育プログラムでは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、幅広い教養と地理学・歴史学・人類学を有機的に結び付けた学問知と実践能力を身に付け、地域社会や国際社会で自立した個人として活躍でき、特に社会科系教員・博物館学芸員や地域における文化振興・まちづくりの中核となる人材の育成を目標とします。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは、所定の課程を修め、次のような能力の習得をした者に、学士（人文学）の学位を授与します。

- （１）地理学・歴史学・人類学に関わる専門的な諸資料（フィールドデータ、地理情報や統計資料、文献史料等）を正確に理解し、そこから課題を発見する能力
- （２）上記の諸資料や諸情報を自ら収集・分析し、課題を解決する能力
- （３）調査研究の成果を論文や報告にまとめ、地域社会・国際社会に向けて発信する能力

◎ 教育学部

学校教育

教育学部は、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、小学校、中学校、特別支援学校等さまざまな教育現場が抱える多様な課題、また島しょ的地域特性や平和共生等沖縄ならではの教育課題と誠実に向き合い、協働しつつ学び続けることができる教師や教育分野の専門家の養成を目指しています。本プログラムの修了者は、沖縄県をはじめとする全国の学校や教育の現場において、人格・能力共に優れた教員等として活躍することが期待されます。

このような人材を育成するために、本プログラムでは、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、次の目標を達成した者に、学士（教育学）の学位を授与します。

- （１）教職教養と市民的教養を基に、教育の専門家として自律的に行動できる。
[自律性を支える教育に関する専門的知識と市民的教養]
- （２）授業と学びのために必要な教科の内容及び指導法に関する深い理解を形成している。
[教科の内容及び指導法に関する深い理解]
- （３）子どもへの理解や学校・学級に関する課題認識に基づき、教育実践を遂行できる。
[子ども理解と学校・学級の実態に即した教育実践遂行力]
- （４）専門家チームの一員として、同僚性を発揮して学校経営に参加するためのコミュニケーション・スキルを獲得している。
[同僚性に基づくコミュニケーションのスキル]
- （５）専修分野に関わる高度な理解や探究法を基盤に、自らの実践的課題を省察し、力量を形成するために学び続けることができる。
[専門分野の理解や探究法に基づく省察力と学び続ける力]
- （６）インクルーシブ教育の理念に基づく特別支援教育やICT教育、島しょ的地域特性や平和共生等の現代的・地域的教育課題に向き合い、保護者や地域の住民、他の専門家と共に協働して、問題解決を推進できる。
[現代的・地域的課題に対する協働的な問題解決力]

◎ 理学部

数理科学

数理科学学士教育プログラムは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、諸科学の基礎としての数理科学の教育研究を行うとともに、数理科学的素養を持ち、社会の多様化と時代の変化に柔軟に対応できる幅広い教養を身に付けた人材を育成することを目的とします。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、以下のような能力を修得した者に、学士(理学)の学位を授与します。

- (1) 社会の多様化及び時代の変化に柔軟に対応して、自律的に学習し行動し、多様な人々の存在を認めて尊重し、互いに協働して生きていく総合的教養人としての能力
- (2) 地域や世界における複雑化した問題に全人类的視点から取り組むことができる専門的知識人として、多様な情報を受け取り、自らの考えを論理的かつ的確に伝えることができる能力
- (3) 多様に変化していく社会の要求に対応して、数理的思考を基盤とした自由な発想や論理的な思考を用いて、問題解決する能力
- (4) 数学的専門知識を理解し、それを様々な問題に柔軟に応用することができる実践力
- (5) 数学に関する文献を読みこなし、様々な科学、技術及び情報を自主的、継続的に学習し情報化社会の発展に資する能力

物理系

物理系学士教育プログラムでは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、多様な自然現象を物理学的に探求し、体系的な理解を通して普遍的法則や考え方についての研究を行うとともに、それらを身に付け、社会や学問の世界において自立できる人間を育て、物理学を通して人類の幸福と社会の進展に貢献できる人材を育成することを目的とします。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、以下のような能力を修得した者に学士（理学）の学位を授与します。

- (1) 力学的な現象や電磁気学的な現象、原子などのミクロな振舞いを基礎法則に基づいて理解できる能力
- (2) 基本的な計測技術、計算機利用技術
- (3) 基本的なプレゼンテーション能力
- (4) 現代物理学の知識に基づいて自然現象や物質の性質を探求する能力

地球環境系

地球環境系学士教育プログラムでは、は琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシー及び学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、大気、海洋並びに地表から地球深部までを対象とし、琉球列島の地理的位置、気候、地質を活かした基礎教育と研究を行い、地球科学を基盤として地域並びに国際社会に貢献できる人材を育成することを目的とします。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、以下のような能力を修得した者に、学士（理学）の学位を授与します。

- (1) 自然科学に基づき広い視野と柔軟な思考力を活用して、論理的に考え行動できる能力
- (2) 海洋、亜熱帯、島嶼などの琉球弧の地理的特性を理解し、類似した自然環境を有する国外の諸地域の問題にも応用できる能力
- (3) 地球温暖化などのグローバルな問題を論理的に整理し、人類と自然との共生について深く考える能力
- (4) 語学学習やプレゼンテーションを通じた国際化に対応できるコミュニケーション能力及び論理的表現能力
- (5) 幅広い情報を収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用できる能力
- (6) 自然科学に関する基礎学力と大気圏・水圏・地圏で起きる地球科学に関する学力を身に付け、地球環境問題を含む諸問題の解決に貢献する課題解決能力

化学系

化学系学士教育プログラムは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、多様な物質の反応・構造・機能を分子科学的に理解する基礎的化学に加えて、新規物質の創成や亜熱帯・島嶼・海洋の地域特性を生かした天然物・環境分野の化学的教育研究を行い、化学的素養を基礎に幅広い分野で活躍できる人材を育成することを目的とします。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは、必要な単位を修得し、以下のような能力を修得した者に学士（理学）の学位を授与します。

- (1) 講義を通して修得した化学の基本的な知識・理論を土台とし、物質の多様な反応・構造・機能並びに自然現象を分子科学的に理解する能力
- (2) 実験実習を通して修得した基本的な知識・原理・実験操作を土台とし、目的に応じた実験器具や汎用機器を選択して適切な実験を計画・推進できる能力
- (3) 得られた実験結果に対して真摯に向き合い、自ら積極的に問題を解決し結論を導ける能力
- (4) 卒業研究などの実験科目で自ら研究計画をたて実践することにより、自律的に行動し、習慣化できる能力
- (5) セミナーや卒業研究発表会などの発表資料作成過程において、スライド・ポスターなどの基本的な作成方法及び表現技法を修得し、論理的に

プレゼンテーションできる能力

(6) 英語で書かれた文献・資料の理解やその内容の発表により語学力の向上を図り、英語を能動的に活用する能力

(7) レポートや卒業論文を作成する過程において、必要な情報の取捨選択や統計処理などのノウハウを修得し、情報を適切に処理・利用する能力

(8) 基礎化学のみならず、亜熱帯・島嶼・海洋の地域特性化学に関する素養を備え、地域・社会の持続的かつ普遍的な発展に寄与できる21世紀型市民としての実践力

生物系

生物系学士教育プログラムでは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、琉球列島の恵まれた自然環境を実体験の場として活用した生物学教育並びに自らの生物学的素養を地域から国際社会までの様々な領域で発揮できる人材を育成することを目的とする。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは、必要な単位を修得し、以下のような能力を修得した者に、学士（理学）の学位を授与します。

(1) 生物系が提供する講義・実習科目の履修を通して修得した、生物学に関する専門的知識

(2) 生物学の知識を基に人間・社会・自然に対する理解を深め、問題を探求し解決する能力

(3) 学士課程の集大成としての卒業研究を通して修得した、知識の活用能力、論理的思考力、課題探求力、問題解決力、表現能力、コミュニケーション能力、総合的判断力

○ 医学部

医学

医学学士教育プログラムは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、医学に関する専門的知識と技術を修得し、高い倫理性を身に付け、医学・医療の進歩や社会的課題に柔軟に対応しうる医師、研究者を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは所定の課程を修め、必要な単位を取得し、次のような目標を達成した者に学位（医学）を授与します。

(1) プロフェッショナリズム：医師として社会に対する責任を果たすために必要な倫理観、社会性、生涯にわたる自己研鑽を怠らない姿勢を身に付けている。さらに、法令を遵守し、適切な対人関係を構築しながら、利他主義、自由平等、寛容平和の精神をもって誠実に医療にあたることができる。

(2) 医学知識：人々の健康で心豊かな長寿を目指す医療を支えるため、基礎・臨床・社会医学・倫理などに関する知識を習得し、それらを医療の現場で応用できる。

(3) 医療実践：患者個人の人格・人間性を尊重した上で、Evidence-based Medicine（EBM）及びNarrative-based Medicine（NBM）に基づいた個別の疾患に対する医療を実践することができる。

(4) コミュニケーション能力：自らとは異なった思考・感情・立場の人々に共感を示し円滑なコミュニケーションを実践できる。

(5) 地域医療への貢献：地域医療の現状及び社会資源に関する知識を習得している。地域特性・状況に応じた医療を実践し、地域医療に貢献する姿勢を身に付けている。

(6) 国際性：グローバルな視点で疾病の臨床、研究の動向を把握し、海外の医療・研究機関と交流できる。

(7) 科学的探究：基礎、臨床、社会医学領域においてその研究の意義を理解し、最新の技術を活用して科学的情報の入手及び意見交換を行い、研究倫理を遵守した立場で疑問点に対して解決するために論理的な思考ができる。

保健学

保健学学士教育プログラムは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシー及び、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、高度な専門的知識と技能、そして、高い倫理観を持ち、グローバルな視点から社会に貢献できる保健医療専門職を養成することを目的としています。加えて、沖縄県の置かれた自然的、地理的並びに歴史的特性を踏まえ、それぞれの専門領域におけるリーダーとして地域医療で活躍できる人材を育成します。

そのような人材を養成するために、学士教育プログラムでは所定の課程を修め、必要な単位を取得し、次のような目標を達成した者に学位（保健学）を授与します。

【看護学学習目標】

- (1) 知識・技能：生命を尊重し、豊かな人間性を備えた看護専門職としての知識・技術及び態度を習得します。
- (2) 実践力：保健学を基盤とした看護実践能力を習得します。
- (3) 専門性：保健医療福祉の専門職者と連携・協働し、社会に貢献できる専門能力を習得します。
- (4) 自律性：社会の変化や医療の高度化、多様化に対応できる柔軟な思考力と自主性を身に付けます。
- (5) 国際性：諸外国との学際的交流を通して、グローバルな視点での看護活動を学びます。
- (6) 問題解決能力：保健学を基盤とした研究能力の習得を通じて、問題解決のスキルを身に付けます。
- (7) 社会性とリーダーシップ：社会人として、また保健医療分野のリーダーとして必要な見識や教養を身に付けます。

【検査技術学学習目標】

- (1) 知識・技能：臨床検査の専門家に必要な医学知識・医療技術を習得します。
- (2) 実践力：病因を解明するために有用な関連科学分野の知識・技術を習得します。
- (3) 専門性：医療・健康関連分野で幅広く活躍するために他専門職者と連携・協働し、医学知識・医療技術を生かした水平展開力を身に付けます。
- (4) コミュニケーション・スキル：医療の現場に求められるコミュニケーション力と協調性を身に付けます。
- (5) 情報リテラシー・国際性：グローバル時代の医療人に要求される語学力やITを活用した情報収集・発信力を習得します。
- (6) 問題解決能力：研究能力の習得を通じて、保健医療問題の解決のための即応力を身に付けます。
- (7) 社会性とリーダーシップ：社会人として、また保健医療分野のリーダーとして必要な見識や教養を身に付けます。

○ 工学部

機械工学

工学部機械工学学士教育プログラムは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、機械工学の基本的な知識、幅広い教養、技術者倫理、ものづくりの基礎、これらを高めていく自己学習能力を身に付け、また、普遍的価値を身に付けた21世紀型市民として、地域社会及び国際社会の発展に寄与できる人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは、琉球大学の学位授与の方針に則り、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、下記の学習目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与します。

(1) 分析・行動（地域・国際性、自律性）

国内外における機械工学の現状を多面的に考え、地域社会が要望する問題を自主的、継続的に学習する能力を身に付けている。

(2) 倫理（社会性）

幅広い教養と倫理観を備えて、深い洞察力や思考力を駆使し、物事を多面的に捉え、社会に対し責任感をもって行動する能力を身に付けている。

(3) 知識（専門性、情報リテラシー）

数学、自然科学、情報技術の基礎分野及び機械工学の専門分野に関する知識を修得し、これらを工学的問題に応用する能力を身に付けている。

(4) 協働・コミュニケーション（チームワーク、コミュニケーション・スキル）

他者との協働作業を通して論理的な説明ができるコミュニケーション能力を有し、英語などによる国際的なコミュニケーション能力を身に付けている。

(5) 解決・統合（問題解決力）

修得した知識を有機的に統合し、安全性・経済性・環境負荷を考慮した機械をデザインし、計画的に問題を解決できる能力を身に付けている。

エネルギー環境工学

工学部エネルギー環境工学 学士教育プログラムは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、エネルギーの効率的な変換・制御、環境に配慮した材料などの幅広い専門的な知識を有するとともに、それら複合分野を統合マネジメントし、総合的な問題であるエネルギー・環境分野に対応できる技術を身に付け、また、普遍的価値を身に付けた21世紀型市民として、地域社会及び国際社会の発展に寄与できる人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは、琉球大学の学位授与方針に則り、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、下記の学習目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与します。

(1) 分析・行動（地域・国際性、自律性）

広く国際社会を俯瞰したエネルギー・環境問題の現状を捉えつつ、地域との関わりを意識した持続可能な社会と人との諸問題について自主的かつ継続的に学

習し、自らの考えを構築する能力を身に付けている。

(2) 倫理（社会性）

知識や情報を、社会規範と高い倫理性をもって適切に判断し、責任感を持って行動する能力を身に付けている。

(3) 知識（専門性、情報リテラシー）

幅広い教養と自然科学の基礎知識を有するとともに、エネルギー・環境についての専門知識を体系的に理解し、活用できる能力を身に付けている。

(4) 協働・コミュニケーション（チームワーク、コミュニケーション・スキル）

自らの考え方が説明でき、かつ他者の考え方も理解できるコミュニケーション能力を有するとともに、他者と相互に協力しながら行動する能力を身に付ける。また国際社会に必要な英語などによるコミュニケーション基礎能力を身に付けている。

(5) 解決・統合（問題解決力）

獲得した知識やスキル、考え方や経験等を総合的に活用することによって、エネルギー・環境に関する課題に対して、計画性をもって実行・解決する能力を身に付けている。

電気システム工学

工学部電気システム工学 学士教育プログラムは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、産業の基盤となっている電気システム技術を修得し応用分野を切り拓くことができ、また、普遍的価値を身に付けた21世紀型市民として、地域社会及び国際社会の発展に寄与できる人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは、琉球大学の学位授与方針に則り、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、下記の学習目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与します。

(1) 幅広い教養と豊かな知性及び柔軟な思考力の修得

地域の歴史・文化や多様な価値観を理解し、幅広い教養と国際的・多角的に物事を考える能力を修得している。

(2) 技術者としての基礎学力の修得

技術者に必要とされる自然科学、数学、情報処理技術の基礎を修得している。

(3) 電気システム工学分野の広がりや理解と専門的な課題に取り組むための知識の修得

1. 電気システム工学分野に関する幅広い専門的知識を修得している。
2. 工学における他分野との関連を理解し、複眼的に諸課題を解決する能力を修得している。

(4) 技術者としてのコミュニケーション能力とチームワーク力の向上

1. 論理的な記述力と語学力の獲得、発表、討論を通して、技術者としてのコミュニケーション能力を修得している。
2. チームでの作業におけるコミュニケーションを通して各自の役割を理解し、自己の行動や他者へ働きかける能力を修得している。

(5) 社会とのつながりを意識した技術者としての責任の理解

科学技術が社会に及ぼす影響と技術者としての責任を理解し、技術者に必須の法規や倫理規範に関する基礎的な知識を修得している。

(6) 問題理解、課題解決能力及び自主的・継続的学習能力の向上

1. 与えられた課題の問題点を理解し、現実的条件下で解決するための情報収集・分析、計画立案、実行とデータ解析する能力を修得している。
2. 課題解決の過程を通して、自主的・継続的に学習する能力を修得し、期限内に課題を仕上げる習慣を身に付けている。

電子情報通信

工学部電子情報通信 学士教育プログラムは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、産業の基盤となっている電子情報通信技術を修得し応用分野を切り拓くことができ、また、普遍的価値を身に付けた21世紀型市民として、地域社会及び国際社会の発展に寄与できる人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは、琉球大学の学位授与方針に則り、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、下記の学習目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与します。

(1) 幅広い教養と豊かな知性及び柔軟な思考力の修得

地域の歴史・文化や多様な価値観を理解し、幅広い教養と国際的・多角的に物事を考える能力を修得している。

(2) 技術者としての基礎学力の修得

技術者に必要とされる自然科学、数学、情報処理技術の基礎を修得している。

(3) 電子情報通信工学分野の広がりや理解と専門的な課題に取り組むための知識の修得

1. 電子情報通信工学分野に関する幅広い専門的知識を修得している。
 2. 工学における他分野との関連を理解し、複眼的に諸課題を解決する能力を修得している。
- (4) 技術者としてのコミュニケーション能力とチームワーク力の向上
1. 論理的な記述力と語学力の獲得、発表、討論を通して、技術者としてのコミュニケーション能力を修得している。
 2. チームでの作業におけるコミュニケーションを通して各自の役割を理解し、自己の行動や他者へ働きかける能力を修得している。
- (5) 社会とのつながりを意識した技術者としての責任の理解
- 科学技術が社会に及ぼす影響と技術者としての責任を理解し、技術者に必須の法規や倫理規範に関する基礎的な知識を修得している。
- (6) 問題理解、課題解決能力及び自主的・継続的学習能力の向上
1. 与えられた課題の問題点を理解し、現実的条件下で解決するための情報収集・分析、計画立案、実行とデータ解析する能力を修得している。
 2. 課題解決の過程を通して、自主的・継続的に学習する能力を修得し、期限内に課題を仕上げる習慣を身に付けている。

社会基盤デザイン

工学部社会基盤デザイン 学士教育プログラムは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、自然環境と調和の取れた持続可能な社会システムや社会基盤施設の設計、及び防災技術に関する課題の解決に取り組み、また、普遍的価値を身に付けた21世紀型市民として、地域社会及び国際社会の発展に寄与できる人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは、琉球大学の学位授与の方針に則り、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、下記の学習目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与します。

(1) 多面的理解

物事を多面的に考えられるための人文・社会科学の素養を身に付けている。

(2) 技術者倫理

亜熱帯島嶼地域の自然・社会環境を理解するとともに、社会基盤デザインの実社会に対する影響や効果を理解し、技術者としての社会的責任(技術者倫理)を考える素養を身に付けている。

(3) 基礎能力

実社会で直面する様々な問題に対応するため、社会基盤デザインの基礎となる数学・自然科学及び情報処理に関する知識とその応用能力を修得している。

(4) 専門技術

社会基盤デザインの主要専門分野である社会システム計画学、水圏環境工学、地盤環境工学、構造設計工学、建設材料学の基礎及び応用能力と継続的な自己学習能力を修得している。

(5) デザイン能力

社会の要求を解決するために、社会基盤デザインの専門技術や情報処理技術を利用し、個人・チームでデザインする能力を修得している。

(6) 表現力

日本語によって物事を論理的に記述し、プレゼンテーションを行う能力を修得している。

(7) 外国語能力

国際的に活躍するために、英語及びその他の外国語の基礎、コミュニケーション及び情報獲得能力を修得している。

(8) 問題解決能力

与えられた制約の下で、自ら課題を発見し、課題を解決するための研究を計画的に遂行し、その結果をまとめ、チームで仕事をするための能力を修得している。

建築学

工学部建築学 学士教育プログラムは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、自然と調和しながら人間生活の安全性・快適性・利便性を追求し、多様化する社会のニーズに対応できる豊かな創造性と幅広い知識を持ち、亜熱帯島嶼地域に属する沖縄の特色ある自然、文化、資源、社会条件から地球レベルの環境、防災、生活空間づくりの課題を含めて、建築学に関わる包括的・基礎的な専門知識と、特定領域の高度な専門知識を有する技術者を育成し、また、普遍的価値を身に付けた21世紀型市民として、地域社会及び国際社会の発展に寄与できる人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは、琉球大学の学位授与の方針に則り、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、下記の学習目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与します。

(1) 国際性、地域性、多面的理解に関する能力

地域の歴史と自然、物事の価値を国際的視野から多面的に捉え、裕な生活環境のあり方を構想できる素養を付けている。

(2) 社会性、倫理を理解する能力

建築関連技術が社会や自然環境に及ぼす効果・影響と、社会的責任を持つ建築技術者としての倫理を理解する能力を身に付けている。

(3) 基礎学力

数学・自然科学・情報技術に関する知識と、それらを建築技術に応用できる能力を身に付けている。

(4) 建築の基礎および専門知識

以下の分野にわたる基礎的・包括的な素養と、特定分野の高度な専門知識とその応用能力を身に付けている。

1. 建築の歴史・芸術性・計画論・居住理論・都市計画・法制度等を学ぶ文化的・社会的分野

2. 都市・建築の音・光・熱等の環境及びそれらを制御する設備を学ぶ環境・設備分野

3. 安全な建築物のための構造学・材料・構法・防災等を学ぶ構造・材料・防災分野

4. 企画・計画・設計製図及び施工・生産を学ぶ設計・施工分野

(5) 問題解決能力

社会の要請を的確に捉え、種々の領域と連携しつつ課題を解決できる能力

(6) 情報リテラシーとコミュニケーション能力

幅広い情報と知識を適切に収集し、言語やコミュニケーション手段を的確に用いて記述、発表、コミュニケーションを行うことができる能力

知能情報

工学部知能情報 学士教育プログラムは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、知能情報学分野の専門知識・実践力及び幅広い教養と技術者倫理が必要とされる社会課題の解決に取り組み、また、普遍的価値を身に付けた21世紀型市民として、地域社会及び国際社会の発展に寄与できる人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは、琉球大学の学位授与方針に則り、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、下記の学習目標を達成した者に、学士（工学）の学位を授与します。

(1) 自律性

自ら掲げた目標を達成するために計画的かつ継続的に行動する。

(2) 社会理解と協調性

学習・研究成果を社会に還元する意義と技術者としての社会に対する責任を理解するとともに、多様な人々と協調して行動する。

(3) コミュニケーション能力

地域・国際社会で通用するコミュニケーション能力を修得する。

(4) 柔軟性

幅広い教養と柔軟な思考力を修得し、複雑な問題に適切に対応する。

(5) 専門性

知能情報学分野の専門的な知識を修得する。

(6) 基礎学力

知能情報学分野を継続して学習するための基礎学力を修得する。

(7) 実践性

知能情報学分野の実践的な技術を修得する。

(8) 課題解決能力と創造性

知能情報学の理論及び技術を総合的に活用し、与えられた制約下で創意工夫により課題を解決する能力を修得する。

● 農学部

亜熱帯地域農学

亜熱帯地域農学 学士教育プログラムでは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、国際的な視点で地域農林畜産業の振興に携わる指導力のある有用な人材並びに地域資源循環システムに基づく持続的農業生産並びに農と社会との共生を構築できる実践的人材を育成します。

本学士教育プログラムでは、修業年限以上在学し、所定の授業科目及び必要な単位を修得したもので下記の能力を有すると認められるものに学士（農学）の学位を授与します。

1. 本学の理念に基づき、知識基盤社会を知性と知識を備えた21世紀型市民として、多様な人々の存在を認めて尊重し、互いに協働して生きていく総合的教養人としての能力
2. 国際的な人・物・情報の流れが重要性を増した時代において、地域や世界における複雑化した問題を全人类的視点から取り組むことができる専門的知識人として、多様な情報を受け取り、自らの考えを論理的かつ的確に伝えることができる能力
3. 「総合科学」としての農学を支える広範な基礎科学に関する知識を築き、農学の安定的・持続的生物生産、環境保全及び生物資源の有効利用の役割を理解し、問題解決に対する責任を認識する能力
4. 沖縄の亜熱帯島嶼性という地理的・自然環境条件及び歴史的・文化的特性を踏まえて、亜熱帯地域社会における自然と農との調和に配慮した持続的農業の構築を目指したフィールド活用型の総合的農学理論を理解し、社会からの要求を確実に捉え、総合的に問題解決する能力
5. 社会の要求に対応し様々な科学、技術及び情報を自主的、継続的に学習し問題解決する能力
6. (農林経済学コース) 持続的食料自給システム並びに都市と農山村との循環型社会の構築に関する専門的知識を理解する能力
(植物開発学コース) 亜熱帯の農作物と植物資源の開発及び持続的生産技術に関する理論並びに実践的展開に関する専門的知識を理解する能力
(循環畜産学コース) 家畜生産を通じた地域資源循環型農業に関する専門的知識を総合的に理解する能力
(農林共生学コース) 亜熱帯域の動植物生産と人との共生関係に関する専門的知識を理解する能力

亜熱帯農林環境科学

亜熱帯農林環境科学 学士教育プログラムでは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、資源生物や野生生物とそれらを取巻く環境の機能・特性の解明を通じ、生物や環境に関連する分野で活躍する有能な人材並びに生物多様性の価値を理解し、豊かな環境の確保と保全に貢献できる実践的人材を育成します。

本学士教育プログラムでは、修業年限以上在学し、所定の授業科目及び必要な単位を修得したもので下記の能力を有すると認められるものに学士(農学)の学位を授与します。

1. 本学の理念に基づき、知識基盤社会を知性と知識を備えた21世紀型市民として、多様な人々の存在を認めて尊重し、互いに協働して生きていく総合的教養人としての能力
2. 国際的な人・物・情報の流れが重要性を増した時代において、地域や世界における複雑化した問題を全人类的視点から取り組むことができる専門的知識人として、多様な情報を受け取り、自らの考えを論理的かつ的確に伝えることができる能力
3. 「総合科学」としての農学を支える広範な基礎科学に関する知識を築き、農学の安定的・持続的生物生産、環境保全及び生物資源の有効利用の役割を理解し、問題解決に対する責任を認識する能力
4. 沖縄の亜熱帯島嶼性という地理的・自然環境条件及び歴史的・文化的特性を踏まえて、農林業を取巻く生物の諸特性解明と制御、増殖技術と調節技術の開発、並びに流域生態系の環境保全・管理と制御を通じて人間と自然環境との調和を理解し、社会からの要求を確実に捉え、総合的に問題解決する能力
5. 社会の要求に対応し様々な科学、技術及び情報を自主的、継続的に学習し問題解決する能力
6. (植物機能学コース) 安心・安全・高品質な作物生産の技術開発を目指して、生理・形態・生態・生化学的機能及び植物と病原微生物との関係性の解明と応用に関する専門知識と応用力
(動物機能学コース) 家畜を含む動物の繁殖・形態・生理・遺伝的諸機能に関する体系的知識及び亜熱帯域に適合した生産技術開発に関する専門的知識と応用力
(森林環境学コース) 亜熱帯域の森林生態系の保全・修復と木材利用の双方が調和した流域管理を実践するための専門的知識と応用力
(生態環境科学コース) 亜熱帯域の自然環境下での昆虫を含む野生生物の進化生態学的特性や土壌を中心とする物質循環系、生物と環境の相互関係に関する専門知識と技術及びそれらを活用した実践的応用力

地域農業工学

地域農業工学 学士教育プログラムでは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、農村環境整備と緑・土・水資源の保全と改善に貢献できる有能な人材並びに情報技術を応用し、食料生産から流通・加工に係わる農業生産、加工及びエネルギーシステムに関する社会的要求を総合的に問題解決できる実践的人材を育成します。

本学士教育プログラムでは、修業年限以上在学し、所定の授業科目及び必要な単位を修得したもので下記の能力を有すると認められるものに学士(農学)の学位を授与します。

1. 本学の理念に基づき、知識基盤社会を知性と知識を備えた21世紀型市民として、多様な人々の存在を認めて尊重し、互いに協働して生きていく総合的教養人としての能力
2. 国際的な人・物・情報の流れが重要性を増した時代において、地域や世界における複雑化した問題を全人类的視点から取り組むことができる専門的知識人として、多様な情報を受け取り、自らの考えを論理的かつ的確に伝えることができる能力

3. 「総合科学」としての農学を支える広範な基礎科学に関する知識を築き、農学の安定的・持続的生物生産、環境保全及び生物資源の有効利用の役割を理解し、問題解決に対する責任を認識する能力
4. 沖縄の亜熱帯島嶼性という地理的・自然環境条件及び歴史的・文化的特性を踏まえて、亜熱帯の島嶼環境と調和した自然循環型農業や田園空間の創造、並びにスマート農業による次世代農業生産システムの創出やバイオマス地域循環システムの構築によって、「緑・土・水」と人間との環境創出を理解し、社会からの要求を確実に捉え、総合的に問題解決する能力
5. 社会の要求に対応し様々な科学、技術及び情報を自主的、継続的に学習し問題解決する能力
6. (地域環境工学コース) 農村空間の創出、農村基盤の整備、亜熱帯特有の自然条件の下での防災及び農村環境の保全に関する技術並びに農と自然との調和に関する工学的探究に関する専門的知識を理解する能力
(バイオシステム工学コース) 食料生産から流通・加工に係わる一連の工程のシステム化・スマート化及びエネルギー利用の最適化と環境負荷低減に関する専門的知識を理解する能力

亜熱帯生物資源科学

亜熱帯生物資源科学 学士教育プログラムでは、琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、亜熱帯生物資源の機能開発と高度利用に関する専門知識と技術を有する有能な人材並びに生物資源関連産業、発酵産業及び健康・食品産業の振興・発展に貢献できる人材、あるいは栄養士として実践的な人材を育成します。

本学士教育プログラムでは、修業年限以上在学し、所定の授業科目及び必要な単位を修得したもので下記の能力を有すると認められるものに学士(農学)の学位を授与します。

1. 本学の理念に基づき、知識基盤社会を知性と知識を備えた21世紀型市民として、多様な人々の存在を認めて尊重し、互いに協働して生きていく総合的教養人としての能力
2. 国際的な人・物・情報の流れが重要性を増した時代において、地域や世界における複雑化した問題を全人类的視点から取り組むことができる専門的知識人として、多様な情報を受け取り、自らの考えを論理的かつ的確に伝えることができる能力
3. 「総合科学」としての農学を支える広範な基礎科学に関する知識を築き、農学の安定的・持続的生物生産、環境保全及び生物資源の有効利用の役割を理解し、問題解決に対する責任を認識する能力
4. 沖縄の亜熱帯島嶼性という地理的・自然環境条件及び歴史的・文化的特性を踏まえて、亜熱帯地域に生息する動植物及び微生物等の生物資源並びに伝統食品・発酵食品・その他食資源の特性や機能性を理解し、社会からの要求を確実に捉え、総合的に問題解決する能力
5. 社会の要求に対応し様々な科学、技術及び情報を自主的、継続的に学習し問題解決する能力
6. (生物機能開発学コース) 亜熱帯の生物資源の機能特性を分子から生体レベルで追求し、人類の福祉に有効な機能性素材の開発や利用に関する専門的知識を理解する能力
(食品機能科学コース) 食品の機能性を健康維持、増進の観点から追求し、新たな食品素材を開発するとともに、健康生活の向上に関する専門的知識を理解する能力
(発酵・生命科学コース) 地域特性を活かした発酵食品の開発並びに亜熱帯生物資源の生命現象の解析とその応用に関する専門的知識を理解する能力
(健康栄養科学コース) 人間栄養学の観点から食を科学的かつ実践的に捉え、地域の特性を考慮した健康・長寿社会の実現に関する専門的知識を理解する能力

旧課程

○ 人文社会学部

哲学・教育学

哲学・教育学 学士教育プログラムは琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシーに基づき、学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、人文社会系の専門的、学際的分野において真理を探究し、それを基に、個人の尊厳と基本的人権を尊重する平和・共生社会の形成者、社会全体の持続的発展に寄与する人材を育成することを目的としています。

そのような人材を育成するために、哲学・教育学学士教育プログラムでは、教育課程を通して培った専門性に基づいて、人間に対する深い洞察力と豊かな人間性を基に、複雑化した社会の諸領域で柔軟かつ適正な問題解決を可能とする能力を身に付けます。

本学部の所定の単位を修得し、下記の知識・能力を身に付けた者に学士（人文社会）の学位を授与します。

- (1) 各学問分野と関連した高度な専門的能力
- (2) 人間や地域、国際社会に対する知識・理解に基づく深い洞察力、社会性、コミュニケーション・スキル
- (3) 自律的な学習による多様な情報の収集とそれを駆使した問題解決能力、自律性

○ 法文学部

経済学

経済学専攻課程では幅広い教養、経済学に関する深い知識、経済分析の基礎的な手法、それに論理的な思考力と明確な発表能力を身に付けることで、社会を経済学の視点から捉えることのできる人材の育成を目標としています。具体的には、以下のような能力の習得を目標とします。

- (1) 経済学を中心に社会科学についての幅広い知識を持ち、現代社会の諸問題を総合的・多角的に捉える能力を身に付ける。[自律性、専門性]
- (2) 社会科学の基礎力を応用して地域社会が抱える問題を見出し、その解決策を提案できる能力を身に付ける。[地域・国際性、問題解決力]
- (3) 情報化社会におけるツールとして情報を自在に駆使できる能力や、社会の様々な場面に対応できるコミュニケーション能力を身に付ける。[社会性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー]

人間行動

人間行動学士教育プログラムでは、教育過程を通して培った専門性に基づいて、人間に対する深い洞察力と豊かな人間性をもとに、複雑化した社会の諸領域で柔軟かつ適正な問題解決を可能とする能力を身につけます。具体的には、次のような能力を身につけます。

- (1) 各学問分野と関連した高度な専門的能力
- (2) 人間や地域、国際社会に対する知識・理解に基づく深い洞察力
- (3) 自律的な学習による多様な情報の収集とそれを駆使した問題解決能力

地理歴史人類学

地理歴史人類学専攻では、地理学・歴史学・人類学を有機的に結びつけた学問知と実践能力を身につけることによって、地域社会や国際社会で自立した個人として活躍できる人材を育成します。具体的には、次のような能力を身につけることを目標とします。

- (1) 地理学・歴史学・人類学に関わる専門的な諸資料（フィールドデータ、地理情報や統計資料、文献史料等）を正確に理解し、そこから課題を発見する能力
- (2) 上記の諸資料や諸情報を自ら収集・分析し、課題を解決する能力
- (3) 調査研究の成果を論文や報告にまとめ、地域社会・国際社会に向けて発信する能力

琉球アジア文化

琉球アジア文化専攻では、対象領域（沖縄、日本、中国、台湾、朝鮮半島）の文化、言語、文学、歴史、民俗に関する学習と研究を通して専門知識を深め、地域社会および国際的な場で琉球・沖縄や日本・アジアを的確かつ、積極的に指導、教育、発信する能力を修得します。具体的には次の能力を指します。

- (1) 琉球・沖縄および日本・アジアという地域を主な対象とする広範な文化のありようを深く認識する能力。
- (2) 琉球・沖縄および日本・アジアに関する歴史・民俗・文学・言語を理解し、地域及び国際的な場で活躍する高度な能力。
- (3) 異なる文化背景を持つ人々と平和的に共生していく能力。
- (4) 議論や意見交換を通して、自らの考えを論理的に伝達する能力。

英語文化

英語文化専攻では、次のような能力を身につけることを学習目標としています。

- (1) 国際的な場面で活躍するための高度な英語運用能力（英語運用能力）
- (2) 情報を正確に整理・分析することによって、主体的な見解を導く能力（情報分析力）
- (3) 多様な見解や価値観を学びつつ、自らの意見を説得力ある表現で伝達することのできる能力（主体的表現力）

- (4) 異なる文化背景・国籍をもつ人々と協力しながら、地球的視野で物事を判断し、行動する能力（コミュニケーション能力）
- (5) 地域あるいは国際社会の様々な課題に対して、言語コミュニケーション学あるいは文学の専門的知識を基に思考し、行動することができる能力（専門的知識と行動力）

○ 観光産業科学部

観光学

グローバル化時代を見据え、持続可能な開発に資する人材、高い学士力を身につけ、現代社会で創造的に活躍できる人材を育成することを目的とします。観光科学科では、①地域及び広く社会に貢献できる能力ならびに②外国語運用能力と国際感覚を有し、国際社会で活躍できる能力を身につけた人材を育てます。その達成のため、地域、国際社会で必要とされる基礎力として、特に語学力を身につけ、専門性として観光ビジネス、観光開発、観光と健康医科学、観光資源マネジメントの幅広い知識と応用力を身につけることを目指します。

○ 理学部

地学系

地学系学士教育プログラムでは、は琉球大学の「自由平等、寛容平和」の建学の精神の下、本学のディプロマ・ポリシー及び学部の専門分野の特色と人材養成目的に基づいて、大気、海洋並びに地表から地球深部までを対象とし、琉球列島の地理的位置、気候、地質を活かした基礎教育と研究を行い、地球科学を基盤として地域並びに国際社会に貢献できる人材を育成することを目的とします。

そのような人材を育成するために、本学士教育プログラムでは、所定の課程を修め、必要な単位を修得し、以下のような能力を修得した者に、学士（理学）の学位を授与します。

- (1) 自然科学に基づき広い視野と柔軟な思考力を活用して、論理的に考え行動できる能力
- (2) 海洋、亜熱帯、島嶼などの琉球弧の地理的特性を理解し、類似した自然環境を有する国外の諸地域の問題にも応用できる能力
- (3) 地球温暖化などのグローバルな問題を論理的に整理し、人類と自然との共生について深く考える能力
- (4) 語学学習やプレゼンテーションを通じた国際化に対応できるコミュニケーション能力及び論理的表現能力
- (5) 幅広い情報を収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用できる能力
- (6) 自然科学に関する基礎学力と大気圏・水圏・地圏で起きる地球科学に関する学力を身に付け、地球環境問題を含む諸問題の解決に貢献する課題解決能力

○ 工学部

機械システム工学 学士教育プログラム

[育成する人材]

亜熱帯島嶼地域性で独特の気候、風土、文化をもつ沖縄では、研究開発、製造に関する幅広い知識を有した機械技術者が求められています。本学科では、機械工学の基礎となる科学技術に親しみ、将来、これを活かして広く社会へ貢献する自立した機械技術者の育成を目指しています。

[身につけるべき知識・能力等]

- (A) 技術的・倫理的視点で社会に貢献できる能力
 - ・幅広い教養と倫理観を備えて、深い洞察力や思考力を駆使し、物事を多面的に捉えて社会に対する責任感を備える。
- (B) 自然科学の基礎から機械の専門分野を習得し、これを応用できる能力
 - ・数学、自然科学、情報技術の基礎分野および機械システム工学の専門分野に関する知識を習得し、これらを工学的問題に応用する能力を養う。
- (C) 習得した能力および知見を基に問題を捉え、その成果を自主的、継続的に社会に向けて、発信・行動できる能力
 - ・自発的で継続した学習習慣により修得した知識を有機的に統合し、安全性・経済性・環境負荷を考慮した機械システムをデザインし、その成果をあらゆる場面で発信する能力を養う。

電気電子工学 学士教育プログラム

[育成する人材]

最新の電気電子工学に裏打ちされた高度な専門性とコミュニケーション能力を併せ持った国際社会で活躍できる優れた人材を育成します。さらに、技術者倫理規範に従って国内外の産業振興、最先端の研究開発、高度人材育成に貢献できる創造力豊かな技術者と研究者を育成します。

[身につけるべき知識・能力等]

- A.電気電子技術者としての基礎学力の修得
- B.電気電子分野の広がりや理解と専門的な課題に取り組む素地の獲得
- C.幅広い教養と豊かな知性及び柔軟な思考力の修得
- D.技術者としてのコミュニケーション能力の向上
- E.技術者と社会との接点および技術者の倫理観および責任の理解
- F.問題理解、課題解決能力の向上
- G.自主学習能力の向上

琉球大学教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

琉球大学は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた人材育成の目標を達成するため、以下に示す方針に基づいて4（6）年間一貫した教育課程を編成・実施します。

1. 各学部・学科等は、授与する学士の専攻分野を踏まえた教育組織として「学士教育プログラム」を構成します。
2. 学士教育プログラムでは、URGCC（琉大グローバルシティズン・カリキュラム）及び各プログラムの学習教育目標に基づき、体系的なカリキュラムを提供します。
3. 21世紀型市民として地域及び国際社会において自ら問題を見出し、多様な人々と協調・協働しながら解決方法を探求する学習能力を養うために、学生が主体となる実践性のある教育を行います。
4. 学士教育プログラムでは、シラバスにおいて授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を明確に提示するとともに、4（6）年間の学習成果を総合的に評価し、教育の質保証の継続的改善に取り組みます。

各学士教育プログラムにおける教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

- 人文社会学部
 - [法学](#) | [政治・国際関係学](#) | [哲学](#) | [心理学](#) | [社会学](#) | [歴史・民俗学](#) | [言語学](#) | [文学](#)
- 国際地域創造学部
 - [観光地域デザイン](#) | [経営学](#) | [経済学](#) | [国際言語文化](#) | [地域文化科学](#)
- 教育学部
 - [学校教育](#)
- 理学部
 - [数理科学](#) | [物理系](#) | [地球環境系](#) | [化学系](#) | [生物系](#)
- 医学部
 - [医学](#) | [保健学](#)
- 工学部
 - [機械工学](#) | [エネルギー環境工学](#) | [電気システム工学](#) | [電子情報通信](#) | [社会基盤デザイン](#) | [建築学](#) | [知能情報](#)
- 農学部
 - [亜熱帯地域農学](#) | [亜熱帯農林環境科学](#) | [地域農業工学](#) | [亜熱帯生物資源科学](#)
- 旧課程
 - 人文社会学部 [哲学・教育学](#)
 - 法文学部 [経済学](#) | [人間行動](#) | [地理歴史人類学](#) | [琉球アジア文化](#) | [英語文化](#)
 - 観光産業科学部 [観光学](#)
 - 理学部 [地学系](#)
 - 工学部 [機械システム工学](#) | [電気電子工学](#)

○ 人文社会学部

法学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、共通教育及び専門基礎教育と専門教育からなる4年一貫の教育課程を編成し、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

専門の学びに関しては、国際法政学科に入学後、希望と成績により、一年次修了時に「法学」プログラムの履修コースに入ります。「法学プログラム」という名称ですが、狭義の法学科目だけでなく、政治学・国際関係論などの隣接学問分野の科目も学習します。

法学の専門授業は、各科目2単位に設定されており、半期でそれぞれの科目の履修を完結します。そして、基礎的な講義科目を履修してから、発展的・応用的な科目に進みます。すなわち、基礎的な講義科目として「基礎社会保障法」「基礎行政法」等の基礎科目を履修した上で、「展開社会保障法」「応用社会保障法」・「展開行政法」「応用行政法」等の展開・応用科目を履修します。これにより、順を追ってより高度な内容にスムーズに入ることができます。

また、演習科目として1年次で「基礎演習Ⅰ」、2年次で「基礎演習Ⅱ・Ⅲ」、3年次及び4年次で「法学演習」を履修します。4年間を通じたこれらの一連の演習科目を通じて、徐々に法学の理解を深めていくとともに、法学の技術的な技法も習得していきます。これら「基礎演習」「法学演習」は、学生の自主性・社会性・問題発見解決能力などを磨く上で、大変重要な科目と位置付けられています。

法学の専門性を身に付ける上で、当然のことながら、法学の専門科目の履修が重要であり、大学の専門分野の学習の主要部分がここにあります。具体的には、憲法、行政法、民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法、労働法、社会保障法の諸分野を中心に学んでいきます。また、法務研究科（法科大学院）教員の協力により、特修科目群が開講されており、法科大学院進学を目指す学生にとっては、たいへん有用な科目群となっています。さらに、情報リテラシーやコミュニケーション・スキルの習得・向上にも努めます。また、地域・平和への理解に資する科目を履修することも重要です。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

政治・国際関係学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則り政治・国際関係学 学士教育プログラムはカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、共通教育及び専門基礎教育と専門教育からなる4年一貫の教育課程を編成し、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

専門の学びに関しては、国際法政学科に入学後、希望と成績により、1年次終了時に「政治・国際関係学」プログラムの履修コースに入ります。本プログラムで学ぶことで、政治や国際関係の諸問題を、専門的・学際的な視点から分析できるようになります。そのため、履修モデルにしたがって政治・国際関係学の理論的・実証的方法を学ぶほか、法学などの隣接学問分野の科目も修得し学際的な視点を得ます。

(1) 入学から卒業まで、学部共通基盤科目及び学科基盤科目の少人数制の必修演習を履修し（1年次後期を除く）、社会科学の分野に関する情報の収集・処理能力を確実に身に付けます。

(2) 学科基盤科目に加えて、学科発展科目から10科目以上を履修し、政治・国際関係学を中心とする基礎的専門知識を身に付け、さらにプログラム発展科目で地域・政策・理論など、学生の関心に合わせた専門性を深め、学際性を広げます。

(3) 卒業に際して必修である卒業研究を完成させます。講義科目の知識蓄積と演習科目での分析を有機的に結び付け、自ら設定したテーマで2万4千字以上の卒業論文を執筆し、問題発見能力、課題解決方法の提案能力を完成させます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

哲学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則り哲学学士教育プログラムはカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、共通教育及び専門基礎教育と専門教育からなる4年一貫の教育課程を編成し、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

専門の学びに関しては、「人間」の本質に関わる様々な問題について、理論的・実証的に学びます。特に3つある基礎演習は、本学科の教育理念を体系的に学修することを目指します。

(1) 1年次には「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」「人間の探究」等を履修し、各プログラム・コースの特徴を学び、自らにふさわしいコースを選択します。

(2) 2年次から3年次にかけては、必修科目及び選択科目を中心に履修し、高度な専門的能力、深い洞察力、問題解決能力を養います。特に「基礎演習Ⅲ」「哲学演習Ⅰ」「哲学演習Ⅱ」「プログラム専門演習Ⅰ」「プログラム専門演習Ⅱ」は、少人数のゼミ形式で行われ、各自のテーマについて研究を深めていきます。それ以外の科目としては、「哲学A」「宗教哲学A」「認知哲学」等の科目の履修を通じて、各コースの専門的な学習を深めます。

(3) 4年次には「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」を履修し、これまでに養ってきた能力をさらに磨くとともに、それらを活用し、各自のテーマについての研究を卒業論文として完成させます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

心理学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則り心理学 学士教育プログラムはカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、共通教育及び専門基礎教育と専門教育からなる4年一貫の教育課程を編成し、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

人間社会学科では全部で4つのコースが用意されており、学生の興味関心に応じて選択することができ、選択は1年次の後期に行い、2年次から正式に各コースに所属します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

専門の学びに関しては、「人間」の本質に関わる様々な問題について、理論的・実証的に学びます。特に「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「共生社会入門」、「心理学実験」等は、本学科の教育理念を体系的に学修することを目指します。

(1) 1年次には「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」「人間の探究」「社会学原論Ⅰ」「心理学概論Ⅰ」等を履修し、各学問分野の特徴及び各コース・プログラムの特徴を学び、自らにふさわしいコース・プログラムを選択します。

(2) 2年次から3年次にかけては、所属するプログラムの必修科目及び選択科目を中心に履修し、高度な専門的能力、深い洞察力、問題解決能力を養います。特に「心理学基礎演習」「心理学課題演習」は少人数のゼミ形式で行われ、各自のテーマについて研究を深めていきます。

(3) 認定心理士、公認心理師となるために学部教育で求められている科目・科目内容を提供しており、専門性を身に付けることのできるカリキュラムとなっています。

(4) 4年次には「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」を履修し、これまでに養ってきた能力をさらに磨くとともに、それらを活用し、各自のテーマについての研究を卒業論文として完成させます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

社会学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則り社会学 学士教育プログラムはカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、共通教育及び専門基礎教育と専門教育からなる4年一貫の教育課程を編成し、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

人間社会学科では全部で6つのコースが用意されており、学生の興味関心に応じて選択することができ、選択は1年次の後期に行い、2年次から正式に各コースに所属します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを实践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

専門の学びに関しては、社会学、社会福祉学、マスコミ学といった3つの専門コースを学際的に統合した教育カリキュラムが提供されています。

(1) 1年次では、「基礎演習Ⅰ」でインタビュースキル、レポート作成法、発表技法を修得し、「基礎演習Ⅱ」で各分野における最適解の導出方法について学び、各コースの「社会学原論」「社会福祉原論」「マスコミ原論」等の入門科目を通して2年次以降に各自の興味関心にあわせて履修コースを1つ選択できるように専門性を深めます。

(2) 2年次では、「基礎演習Ⅲ(平和共生・沖縄理解)」を通して基礎的な分析力を習得し、各コースの専門実習である「社会学実習Ⅰ、Ⅱ」「ソーシャルワーク実習Ⅰ」「マスコミ実習Ⅰ」「マスコミ実習Ⅱ」において、実際の調査・フィールドワーク、福祉の現場での実習、新聞記事作成実習やドキュメンタリー番組の制作を通して、コミュニケーションスキルを向上させるとともに現場での実践力を育み、問題解決力を高めます。

(3) 3年次では、社会福祉学コースにおいては引き続き「ソーシャルワーク実習Ⅱ」において、2年次での実習の経験を活かして市民社会に貢献しうる専門性や問題解決力を高めます。さらに、各コースの「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業研究Ⅰ(社会福祉学コースのみ)」において、講義で学んだ理論と実証方法、演習で培った情報収集力や分析力を活かし、ゼミ論や卒業論文に向けての研究の取り組み方、研究発表の方法を修得します。

(4) 4年次では、社会福祉学コースでは「専門演習Ⅱ」、社会学コースとマスコミ学コースでは「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を履修し、卒業論文完成に向けてのテーマの設定、リサーチの技法などについて学び、調査や文献の読み込みやフィールドワークを行います。1年次から4年次にかけて培ってきた自律学習能力、問題探究力、論理的思考力、多様な視点からの分析力を発揮し、卒業論文を完成させます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせで行います。

歴史・民俗学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則り歴史・民俗学 学士教育プログラムはカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、共通教育及び専門基礎教育と専門教育からなる4年一貫の教育課程を編成し、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを实践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

専門の学びに関しては、以下の通りとなります。

(1) 琉球・沖縄及び日本、中国、朝鮮半島を中心とした地域の文化・歴史を認識するために、1年次以降に歴史・民俗学領域の「概論Ⅰ・Ⅱ」、2年次以降にプログラム設置の講義科目を履修することで、歴史・民俗学に関する知識と読解・研究の方法を段階的に習得します。

(2) 琉球・沖縄及び日本、中国、朝鮮半島を中心とした地域に関する歴史・民俗・文学・言語を理解し、地域及び国際的な場で活躍するために、3年次で歴史・民俗学領域の「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次で歴史・民俗学領域の「演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業論文」を履修することで、課題を自ら設定し、多角的に研究、解決して発信する能力を習得します。

(3) 異なる文化背景をもつ人々と平和的に共生するために、1年次以降に歴史・民俗学領域以外（文学、言語学）の「概論Ⅰ・Ⅱ」を幅広く履修し、異文化及び自らの文化への理解を深めます。また、2年次以降、歴史・民俗学領域の科目を履修し、様々な文化を直接に調査、研究することで他者と共生する能力を習得します。

(4) 1年次～2年次の「基礎演習Ⅰ～Ⅲ」、「情報科学演習」によってレジュメ・レポートの作成、情報の収集・整理、意見交換等の基礎的方法を習得します。3年次で歴史・民俗学領域の「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次で歴史・民俗学領域の「演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業論文」を履修して自ら設定した研究課題に関する資料・論文を作成、発表し、さらに他者との議論、意見交換を通して、自らの考えを論理的に伝達する能力を習得します。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

言語学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則り言語学学士教育プログラムはカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、共通教育及び専門基礎教育と専門教育からなる4年一貫の教育課程を編成し、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

専門の学びに関しては、以下の通りとなります。

(1) 琉球・沖縄及び日本、中国、朝鮮半島を中心にした地域の文化・歴史を認識するために、1年次以降に言語学領域の「概論Ⅰ・Ⅱ」、2年次以降にプログラム設置の講義科目を履修することで、言語学に関する知識と読解・研究の方法を段階的に習得します。

(2) 琉球・沖縄及び日本、中国、朝鮮半島を中心にした地域に関する歴史・民俗・文学・言語を理解し、地域及び国際的な場で活躍するために、3年次で言語学領域の「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次で言語学領域の「演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業論文」を履修することで、課題を自ら設定し、多角的に研究、解決して発信する能力を習得します。

(3) 異なる文化背景をもつ人々と平和的に共生するために、1年次以降に言語学領域以外（歴史・民俗学、文学）の「概論Ⅰ・Ⅱ」を幅広く履修し、異文化及び自らの文化への理解を深めます。また、2年次以降、言語学領域の科目を履修し、様々な文化を直接に調査、研究することで他者と共生する能力を習得します。

(4) 1年次～2年次の「基礎演習Ⅰ～Ⅲ」、「情報科学演習」によってレジュメ・レポートの作成、情報の収集・整理、意見交換等の基礎的方法を習得します。3年次で言語学領域の「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次で言語学領域の「演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業論文」を履修して自ら設定した研究課題に関する資料・論文を作成、発表し、さらに他者との議論、意見交換を通して、自らの考えを論理的に伝達する能力を習得します。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

文学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則り文学学士教育プログラムはカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、共通教育及び専門基礎教育と専門教育からなる4年一貫の教育課程を編成し、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

専門の学びに関しては、以下の通りとなります。

(1) 琉球・沖縄及び日本、中国、朝鮮半島を中心にした地域の文化・歴史を認識するために、1年次以降に文学領域の「概論Ⅰ・Ⅱ」、2年次以降にプログラム設置の講義科目を履修することで、文学に関する知識と読解・研究の方法を段階的に習得します。

(2) 琉球・沖縄及び日本、中国、朝鮮半島を中心にした地域に関する歴史・民俗・文学・言語を理解し、地域及び国際的な場で活躍するために、

3年次で文学領域の「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次で文学領域の「演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業論文」を履修することで、課題を自ら設定し、多角的に研究、解決して発信する能力を習得します。

(3) 異なる文化背景をもつ人々と平和的に共生するために、1年次以降に文学領域以外（歴史・民俗学、言語学）の「概論Ⅰ・Ⅱ」を幅広く履修し、異文化及び自らの文化への理解を深めます。また、2年次以降、文学領域の科目を履修し、様々な文化を直接に調査、研究することで他者と共生する能力を習得します。

(4) 1年次～2年次の「基礎演習Ⅰ～Ⅲ」、「情報科学演習」によってレジュメ・レポートの作成、情報の収集・整理、意見交換等の基礎的方法を習得します。3年次で文学領域の「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次で文学領域の「演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業論文」を履修して自ら設定した研究課題に関する資料・論文を作成、発表し、さらに他者との議論、意見交換を通して、自らの考えを論理的に伝達する能力を習得します。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

国際地域創造学部

観光地域デザイン学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則り観光地域デザイン学士教育プログラムはカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、共通教育及び専門基礎教育と専門教育からなる4年間の教育課程を編成し、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

また、サステナブルツーリズム（持続可能な観光）のコンセプトを基盤に「観光」「地域」「観光と地域の関係」やそれらの成立過程、今後の振興を、ビジネス、資源管理、地域開発など様々な側面から学際的に学ぶことで、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力の修得を目指します。

社会科学分野における幅広い知識と観光学の専門的知識・技法、及び地域・国際社会を俯瞰的・多角的に捉える能力を修得するために、学部共通基盤専門科目（専門基盤力科目と地域・国際基盤力科目で構成）と観光地域デザインプログラム専門科目（基礎科目、応用科目、地域・国際実践力科目で構成）を順次的・体系的に編成します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

本プログラムでは、観光に対するアプローチが異なる3つの科目群、「観光ビジネス&ウェルネス」「観光地開発」「地域資源マネジメント」を設けています。これらの科目群で提供する専門科目の学習を通して、観光に対する多様なアプローチを身に付けます。さらに、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け、各年次に配当することで、順次的な教育を実施します。

教育課程の体系性・構造の詳細については、カリキュラム・マップやナンバリングで明示します。

- 入学から専門プログラム配属までの期間では学部共通基盤専門科目の学習を通して、サステナブルツーリズムのコンセプトを中心に、観光学の専門的知識・技法を学ぶ上での基盤を築きます。
 - 専門基盤力科目：
 - 本プログラムが提供する科目を通して、観光学の基礎、持続可能な観光の理論や概念、地域における観光の活用・実践の事例を学びます。
 - 地域・国際基盤力科目：
 - 沖縄の観光や地域資源について、3つの科目群の観点から学びます。
 - 観光学と他プログラムの専門分野の複合科目によって、俯瞰的・多角的な視点を身に付けます。
- プログラム配属後は、観光地域デザインプログラム専門科目の学習を通して、基礎、応用、実践を順次的・体系的に修得します。さらに4年次後期には卒業研究に取り組みます。
 - 基礎科目：
 - 3つの科目群で提供する専門科目の学習を通じて、観光に対するそれぞれのアプローチの基礎的知識・技法を修得します。
 - 観光語学科目群の学習によって、国際観光に通用する語学力とコミュニケーション・スキルを身に付けます。
 - 応用科目：
 - 3つの科目群それぞれが提供する、より高度な観光地域デザインの専門科目を学習することで、応用的知識・技法を修得します。
 - 地域・国際実践力科目：
 - 様々な授業形式（講義、演習、実習、フィールドワーク）で行う科目を通して、観光を取り巻く多様な現象について基礎的・応用的・実践的に学びます。

- 2年次後期からはゼミに所属し、観光の個別課題について各ゼミの専門領域を通じ、主に演習形式で学んでいきます。
- 卒業研究：
 - 4年次後期には、ゼミでの指導の下、卒業研究に取り組みます。2年次後期からのゼミでの演習の延長に位置づけられます。

また、修得を目指す能力と科目の特性に応じて、講義、演習、実習、フィールドワークの形式を適切に組み合わせた授業を開講します。授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

- アクティブラーニングを取り入れた授業やキャリア開発のための実習科目を通して、主体的・自律的に学ぶ姿勢を身に付けます。
- 講義と演習の形式を適切に組み合わせた授業を通して、地域社会の現状や多様な課題を的確かつ俯瞰的・多角的に把握・分析するために必要な、専門的知識・技法、情報リテラシー能力を修得します。
- グループワークによる演習を組み込んだ授業を通して、多様な人々と協働で問題解決の方法を探求する能力を修得します。
- 実習やフィールドワーク形式の授業を通し、地域社会の現状や課題に主体的に向き合う姿勢を養うとともに、現状・課題を的確に捉える技法を修得します。
- 外国語（特に英語）の運用能力を重視した授業によって、国際的に通用するコミュニケーション・スキルを修得します。
- ハワイ大学の教員による授業（遠隔及びオン・キャンパス）を通して、国際社会の観点と地域を俯瞰的に捉える視点を身に付けます。
- 2年次後期から4年次に渡るゼミ演習では、観光の個別課題に対する各ゼミの専門的アプローチを学ぶことで、専門的な知識・技法を駆使して思考・実践する能力を修得します。
- 集大成である卒業研究では、ゼミの教員による適切かつ柔軟な教育指導の下に研究を進め、それまでの教育課程で身に付けた個々の能力を自在に複合的に駆使・発揮できる実践的能力を修得します。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示した上で、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

各科目の達成目標、評価基準と評価方法は、シラバスにおいて明確に提示し、それらに基づいて客観的に学習成果を評価します。評価の基本的方針は、授業の形式ごとに以下のとおりとします。複数の形式で行う科目での配分や各教員の指導方針に基づく詳細は、シラバスに明記されます。

また、学生調査結果等を検証することにより、教育課程の質の維持・改善に継続的に取り組みます。

- (1) 講義科目は、試験やレポートにより評価します。
- (2) 実習・演習科目は、レポートや発表等の成果物、実習・演習に対する参加姿勢（積極性、貢献性等）により評価します。
- (3) 卒業研究は、卒業論文等の最終成果物や研究を進める過程での活動（中間成果物、ゼミ活動への参加姿勢等）により評価します。

経営学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則り経営学士教育プログラムはカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、学際性と専門性を併せもつ人材の育成という学部の教育方針を受け継ぎ、4年間一貫した教育課程を編成・実施します。

入学してからプログラムに配属するまで「共通教育科目」及び5つの専門分野を融合した「学部共通基盤専門科目」を、プログラムに配属してから4年次までプログラム専門科目として経営に関連する専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業科目を提供します。教育課程については、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。4年間を通した学習をカリキュラム・マップや履修モデルとして提示します。詳細は以下の通りです。

(1) 入学から専門プログラム配属までは、大学での学びを準備するために必修科目とし「基礎演習」を提供します。そして各プログラムに共通する「専門基盤力科目」を設け、「経営学入門（必修）」、「簿記入門（必修）」、「マーケティング入門（必修）」など経営プログラムの入門科目をはじめ、他プログラムに関連する基礎知識を修得する科目まで数多く開講しています。また、自然科学や語学等の「共通教育科目」も提供されています。これらの科目をバランスよく受講することにより、学生は幅広い教養を身に付けることができます。

(2) 昼間主は2年次後期から、夜間主は2年次前期から、学生の興味関心を尊重しながらこれまで履修してきた科目の内容及び成績により、専門プログラムへの配属を行います。プログラムに配属してから卒業するまでの間には「プログラム別専門科目の基礎・応用」及び「地域・国際実践力科目」といった専門性の高い科目を提供します。さらに、昼間主においては他プログラムの専門知識と融合した「プログラム複合科目」も提供さ

れ、夜間主においては自らの関心に応じて他プログラムや他学部が提供する専門科目を履修することも出来ます。これらの専門科目の履修を通じて学生の専門知識を高めながら、自ら選択した専門分野に対する問題意識や解決策に関連する思考力及び実践力を鍛えます。

(3) 上記の他、3・4年次では、必修科目として「地域・国際実践力演習科目（ゼミ）」を設置し、高度な専門知識を一層深めることに寄与します。さらに「卒業研究（必修）」を用意し学生に自らの勉強成果をまとめる機会を提供します。

(4) 英語の学習に関して、海外で学位を取得した教員や国際的に活躍している教員の指導を受けることができます。

(5) 税理士・公認会計士などの資格取得に関しても、実務経験豊富な教員の指導を受けることができます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

シラバスにおいて授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を明確に提示して客観的に評価するとともに、学生調査結果等を組織的に検証することにより、4年間の学習成果を総合的に評価し、教育の質保証の継続的改善に取り組みます。

(1) 講義科目は、講義によって提供する専門知識の理解度を試験やレポートなどにより評価します。

(2) 演習・実習科目は学生による自律的な学習の取り組みとその成果について、取組状況の報告や、完成した最終成果物により評価します。

(3) 卒業研究は、専門知識を用いて自発的に研究課題を導出し、その解決手段を探究する能力について、卒業論文などの研究成果物により評価します。

(4) 卒業時に学生アンケート調査を行い教育の継続的改善を行います。

経済学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則り経済学 学士教育プログラムはカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、共通教育及び専門基礎教育と専門教育からなる4年一貫の教育課程を編成し、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

<基礎> 1年次の基礎演習でパソコン技術及び論文作成技術を習得します。また、1年次には、「社会科学のためのゲーム論入門」、「経済学概論」、「社会科学のための統計入門」、2年次には、「日本経済入門」（※夜間主コースは1年次配当です。）、「経済数学」、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「基礎統計学」を学ぶことにより、経済学の基礎が体系的に習得でき、応用科目にスムーズに移行することができます。

<応用> 「基礎演習」、「経済数学」、「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」、「基礎統計学」の基礎的科目の単位修得を前提とした選択科目として、「財政学」、「金融論」、「環境経済学」、「国際経済学」、「日本経済史」、「西洋経済史」等のバラエティーに富んだ応用科目を履修し、現代社会の諸問題を総合的・多角的に理解し、社会の諸問題に対応できる能力を習得することができます。また、「地域・国際実践力演習Ⅰ～Ⅳ」、「卒業研究」により、それをより発展させることができます。

<実践> 「実践経済学」（※経済人による講義です。）といった、より実践的な科目を選択科目として履修することができます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

国際言語文化

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則り国際言語文化 学士教育プログラムはカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、共通教育及び専門基礎教育と専門教育からなる4年一貫の教育課程を編成し、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

(1) 「専門基盤力科目」から7科目(14単位)以上を履修することで、様々な専門知識の基礎と専門分野の体系的理解を身に付けます。また、1年次～4年次まで全ての学年で提供されている必修の英語科目(英語文化履修コース(夜間主含む))あるいはスペイン語、フランス語、ドイツ語から一つを選択(ヨーロッパ言語文化履修コース)して履修することにより、4技能のバランスの取れた高度な外国語運用能力を修得します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実習などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを实践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

(1) 「情報科学演習」や学部共通科目の「基礎演習」、「異文化理解」、「EU研究」、「メディアの英語」、「実用英語演習I(夜間主)」等を1年次から3年次にかけて履修し、欧米の言語系・文学系の専門科目を1年次から4年次にかけて履修することにより、自主的情報収集能力、情報の整理・分析能力、主体的な見解を導く能力を身に付けます。

(2) (昼間主) 2年次以降で「プログラム専門科目」から文学・言語・文化を柱とした専門科目を履修し、各言語文化圏に関する専門的知識を深めます。さらに「学外実地研修」や「異文化実地研修」を履修することで、学外または海外で実践的な言語運用能力の向上を目指すとともに異文化理解を深める機会を得ることができます。

(夜間主) 2・3年次の「アカデミックプレゼンテーションI、II」、4年次の専門基礎科目や、文学系・言語系の専門科目を履修することにより、多様な見解や価値観を学び、自らの意見に反映させる能力を身に付けます。文学系の必修科目(「英米文化概論I、II、III」、「英米文化研究I～VI」等)や言語系の必修科目(「英語研究I、II、III」等)を履修することにより、地球的規模で物事を判断し行動する能力を身に付けます。また、これらの科目に加えて共通教育の第2外国語や学部共通専門基盤力科目の「メディアの英語」等を履修することにより、異なる文化背景をもつ人々と協力し、共生できる能力の向上を図ります。

(3) (昼間主) 3・4年次の「地域・国際実践力演習I～IV」などのプログラム専門科目や、文学系・言語系の専門科目を履修することにより、多様な見解や価値観を学び、自らの意見に反映させる能力を身に付けます。

(夜間主) 専門基盤力科目(4科目:8単位以上)を通して、複数の学問領域の専門知識の基礎を学び、1年次の「ライティングI」「オーラルコミュニケーションI」、2年次の「オーラルコミュニケーションII」、3年次の「ライティングII」、3年次の「上級英語演習」、「地域・国際実践力演習I～IV」等を段階的に履修することにより、自らの意見を説得力ある英語で伝達する能力を修得します。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、演習科目では知識を応用できる能力や習熟度を評価します。学習成果の集大成となる卒業研究では、それまでの学修を基に文学、文化、言語に関わる専門的課題を自ら探求し解決できたか、あるいは、課題理解を深化できたかを評価します。学習成果を適切に評価することで教育課程の継続的改善に取り組みます。

地域文化科学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則り地域文化科学 学士教育プログラムはカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、共通教育及び専門基礎教育と専門教育からなる4年一貫の教育課程を編成します。具体的には、以下に示す方針に基づいて4年間一貫した教育課程を編成・実施します。

共通教育科目及び専門科目を体系的に編成します。教育課程については、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを实践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

幅広い教養と高度な専門性を段階的に習得できるようカリキュラムを編成しています。年次ごとの主な学習内容は次のとおりです。

(1) 1年次～2年次前期は、まず、国際地域創造学科学生全員の必修科目「基礎演習」を履修することで、大学における論文・レポートの作成方法やプレゼンテーションの方法、基礎技能などを早期に身に付けます。併せて専門分野の知識や研究手法の基礎を習得するために、「地理総合」、「歴史総合」、「人類文化入門」、「地域文化科学フィールドワークI」の履修を必須としています。また、1・2年次の間は各学問分野を幅広く学び、それと並行して共通教育科目を履修することによって、総合的な基礎教養を身に付けます。

(2) 2年次後期～3年次には、「地域文化科学リテラシー」及び「地域文化科学フィールドワークII」を履修し、各専門分野の専門科目で多様な理論を学ぶだけでなく、実習、実験、巡検、史料講読に関する科目を履修し、より実践的な調査研究能力を身に付けます。

(3) 3年次には、学生の問題意識に応じて履修コースを自主的に選択します。さらに卒業論文作成の準備として「地域・国際実践力演習I・II」を履修し、各分野における先端的な研究について理解を深めます。

(4) 4年次には、「地域・国際実践力演習Ⅲ・Ⅳ」及び「卒論研究」を履修し、4年間の学習の集大成として卒業論文を作成します。卒業論文では、自らの問題意識に基づいて課題を設定し、自ら調査して資料を収集・分析し、論文を作成します。さらにプログラム主催の卒業論文発表会で研究成果を発表します。

[学習成果の評価の方針]

- 成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせを行います。シラバスにおいて授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を明確に提示して客観的に評価するとともに、4年間の学習成果を総合的に評価し、教育の質保証の継続的改善に取り組みます。
- [教育課程における教育・学習方法に関する方針]の(1)～(4)で示した主な学習内容を習得できたのかについては、年次ごとに段階的に評価します。

● 教育学部

学校教育

学校教育学士教育プログラムでは、琉球大学のカリキュラム・ポリシー、及び以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するため、以下に示す方針に基づき共通教育及び専門基礎教育と専門教育からなる4年間一貫した教育課程を編成し、その体系性や構造をカリキュラム・マップに示します。

(1) 現代的・地域的な教育課題に向き合い、自律的に行動できる教育の専門家に求められる教職教養及び市民的教養を形成するために、共通教育科目、及び学部共通科目として「教育の総合的理解科目」と「現代的・地域的教育課題に関する科目」を配置します。

(2) 各コース・専攻・専修の専門性に応じて、小学校教諭、中学校教諭及び特別支援学校教諭の一種免許状のいずれか、もしくは複数を卒業要件として課すことによって、取得免許に応じた教育内容に関する理解や、教育実践を遂行する基礎的な能力を形成します。

(3) 子どもや学校・学級に関する理解、それを基盤とする教育実践を遂行する能力、及び同僚性に基づくコミュニケーションのスキルを獲得するために、1年次から系統的に「教育実践に関する科目」を配置します。

(4) 各コース・専攻・専修の専門性に応じた高度な実践的指導力、省察力、コミュニケーション・スキル、問題解決能力等を育成するために、「初年次科目」から「卒業研究」に至るまでの「専修専門科目」を体系的に配置します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

本プログラムでは、大学内の学習の場で提供される講義系・演習系科目と、学校などの教育現場で実践を行う実習系科目との双方を組み込んだ体系的な教育課程の実施により、理論と実践とを往還的に学ぶことができます。

以上の特徴をもつ教育課程を実施するにあたっては、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標に即して、次のような教育・学習方法を採用します。

(1) 教職教養と市民的教養を基に、教育の専門家として自律的に行動できる。

- 学部共通科目の「教育の総合的理解科目」において、教員の責務、教育に関する基礎的な概念、発達や学習に関する理解、教育課程の意義、教育の制度的・社会的な役割、教育方法・技術、情報通信技術を活用した教育等についての理解を形成します。
- 共通教育科目において、憲法、人間関係や心理、情報科学、外国語を中心とする幅広い教養を獲得します。
- 以上の科目領域においては、講義を中心としながら、議論、発表、調査活動等を通して、教育の専門家としての自律性を形成します。

(2) 授業と学びのために必要な教科の内容及び指導法に関する深い理解を形成している。

- 【小学校教育コース】では、「小学校教科」で修得した教科内容に関する理解を基盤に、「各教科の指導法（小学校）」や演習科目にて教材研究や学習指導案作成等を行うことにより、授業と学びの視点から教科内容とその指導法を捉えられるようにします。
- 【中学校教育コース】では、各教科教育専修が提供する「専修専門科目」において、当該教科を構成する学問・芸術等の深い理解を形成します。その上で、「各教科の指導法（中学校）」や演習科目にて教材研究や学習指導案作成等を行うことにより、授業と学びの視点から教科内容とその指導法を捉えられるようにします。
- 【特別支援教育コース】は、取得する基礎免許状の種類に応じて、以上の小学校教育コースもしくは中学校教育コースに準じます。

(3) 子どもへの理解や学校・学級に関する課題認識に基づき、教育実践を遂行できる。

- 学部共通科目「教育の総合的理解科目」における「教育心理学」では、子どもの心身の発達及び学習の過程に関する基礎を理解します。また、「特別の支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援」、「介護等体験指導」、「生徒指導論」、「教育相談」、「学校カウンセリング」では、一人ひとりの子どもの個性やニーズに応じた指導の意義や方法を理解します。
- 学部共通科目「教育の総合的理解科目」における「総合的な学習の時間の授業づくり」、「道徳教育の理論と実践」、「特別活動論」では、学校や学級の実態に応じて教科外学習を実践するための基礎的な理解とスキルを形成します。
- 1年次から系統的に配置する「教職体験Ⅰ」、「教職体験Ⅱ」（「子ども学フィールドワーク」、「インクルーシブ教育フィールドワーク」）、及び「教育実習」等の「教育実践に関する科目」では、実際に子どもに接し、教師の仕事を経験することによって、子どもや学校・学級の実態に応じた教育実践を遂行できるようにします。
- 以上に加え【特別支援教育コース】では、「専修専門科目」において特別支援教育に関する専門性を形成し、子どもの多様なニーズに応じた教育実践を遂行できるようにします。

(4) 専門家チームの一員として、同僚性を発揮して学校経営に参加するためのコミュニケーション・スキルを獲得している。

- 初年次科目教育で修得する各専修の専門性に合ったアカデミック・スキルを基に、共通教育科目や「専修専門科目」、及びそれらの集大成である「卒業研究」において、繰り返し議論・発表やレポート作成を行うことにより、自らの考えや意志を的確に表現できるようにします。
- 1年次から系統的に配置する「教育実践に関する科目」では、実際の学校現場における授業や学級経営などについて学生同士で議論したり、大学や実習先の指導教員と意見交換したりすることを通して、同僚性を構築する意義を理解すると共に、その基礎となるコミュニケーション・スキルを養います。
- いずれの科目においても主体的かつ対話的な学びを重視し、自分の役割を認識したうえで他者と協働して学校や子どもをめぐる様々な課題の解決に取り組む姿勢を身に付けます。

(5) 専修分野に関わる高度な理解や探究法を基盤に、自らの実践的課題を省察し、力量を形成するために学び続けることができる。

- 「専修専門科目」における必修の初年次科目では、各専攻・専修における探究法の基礎を養い、それを「専修専門科目」における探究的な学習活動によって洗練させます。
- 各専修の専門性に合った獲得した探究法を、「各教科の指導法」や「教育実践に関する科目」における教育実践の構想や省察において活用することにより、自らの実践を省察できるようにすると共に、課題の発見と解決を繰り返しながら学び続ける姿勢を形成します。
- 4年間の学びの集大成である「卒業研究」や「教職実践演習」では、教育実践、及び各専修の専門分野における学術的・芸術的実践において、探究と省察を重ねることにより、教育の専門家として学び続ける姿勢とスキルを獲得します。

(6) インクルーシブ教育の理念に基づく特別支援教育やICT教育、島しょ的地域特性や平和共生等の現代的・地域的教育課題に向き合い、保護者や地域の住民、他の専門家と共に協働して、問題解決を推進できる。

- インクルーシブ教育の理念に基づく特別支援教育については「特別の支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援」、ICT教育については「教育におけるICT活用」といった学部共通の必修科目において、現代的教育課題に関する認識を形成すると共に、教員として必要な対応方法を理解します。
- 「現代的・地域的教育課題に関する科目」を断続的に履修することにより、現代社会の諸問題や沖縄独自の問題等についての基礎的な知識を獲得し、各自の専門性や課題意識の深化につなげます。また、教員としてどのように向き合い、解決に向けた実践が可能なのかについて、受講生同士で議論する機会を設けることにより、協働して問題解決するために必要なスキルを形成します。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と本プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるように、以下の方針に則り実施します。

各科目において成績評価の基準と成績評価の方法をシラバス中に明示し、授業の到達目標の達成度を客観的に測ることで実施します。成績評価の方法は、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告など多様な方法の中から適切な方法を選択または組み合わせ実施します。

なお、個々の学生の4年間の学習成果については、「教職カルテ」における学生の自己評価等を用いてディプロマ・ポリシーに示した目標の達成状況を把握します。また、学部（課程）としては、学生調査結果等を組織的に検証することにより、教育課程全体について総合的に評価し、教育の質保証の継続的改善に取り組みます。

● 理学部

数理学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則り本学士教育プログラムはカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、共通教育科目、専門基礎教育科目及び専門教育科目からなる4年一貫の教育課程を体系的に編成し、講義、演習を適切に組み合わせた授業科目を開講します。教育課程については、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

- (1) 共通教育科目は、地域や世界の歴史及び現代社会の問題や諸科学の基礎について理解するため、一般教養及び語学などの科目からなります。
- (2) 専門基礎教育科目は、数学の基礎科目である「微分積分学」と「線形代数学」についての講義と演習からなります。1年次の履修科目には、これらの専門基礎教育科目に加えて「数学序論」という、高校数学と大学数学のギャップを埋め、大学数学への入門となる科目も含まれます。
- (3) 専門教育科目は、代数学・幾何学・解析学など数学の各分野についての講義と演習及び情報科学・応用数理についての講義と演習からなります。専門教育科目には、現代数学の理解に欠かせない代数学・幾何学・解析学の基礎理論についての講義・演習と、各分野の専門知識をより深く学ぶための講義が含まれます。
- (4) 確率及び統計の知識を用いて、保険や年金といった金融商品の算定などを行う数理業務についての資格であるアクチュアリー資格の取得を目指す人のために、アクチュアリーコースを設けています。
- (5) 各学年には2名の指導教員が付き、定期的に行われる年次懇談会において学業面だけでなく、生活面についても指導や意見交換を行っています。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

地域及び国際社会において自ら問題を見出し、多様な人々と協調・協働しながら解決方法を探求する学習能力を養うために、学生が主体となる実践性のある教育を行います。

- (1) 少人数のゼミ形式で行われる「基礎ゼミ」など、アクティブラーニングを取り入れた教育方法を用います。
- (2) 4年間を通じた学習をカリキュラム・マップや履修モデルとして提示します。
- (3) 基礎的な内容を扱う講義には、それに対する演習科目を配置することによって、内容についての理解の定着と問題解決のための実践力を効果的に身に付けることができるように配慮しています。
- (4) 卒業研究では、数学の専門書のゼミ形式による講読が主な内容になります。これを通じて、問題解決に必要な、課題発見力、計画力、創造力等を総合的に修得することを目標とします。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、教育課程の特性や学問分野の性質に応じ、シラバスに記載した全ての達成目標の達成度を測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に当該授業科目に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

シラバスにおいて授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を明確に提示して客観的に評価するとともに、学生調査結果等を組織的に検証することにより、4年間の学習成果を総合的に評価し、教育の質保証の継続的改善に取り組みます。

- (1) 講義科目では、主に記述式試験により、学習した知識の理解度を測ります。
- (2) 演習科目では、問題の解き具合や演習への参加意欲などを評価します。
- (3) 卒業研究や基礎ゼミなどゼミ形式の科目では、発表時における準備の度合い・説明の分かりやすさ・質問に対する応答の仕方などを総合的に評価します。
- (4) 各学期ごとに授業アンケート調査を行い、教育の継続的改善を行います。
- (5) 一人一人に対して学習達成度シートを作成し、各学期における学習の達成度についての自己評価を記入していきますので、最終的には4年間を通じた学習の達成度を把握することができます。

物理系

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則り本学士教育プログラムはカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、以下の方針に基づいて4年間一貫した教育課程を編成・実施します。

共通教育科目、専門基礎教育科目及び専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講します。教育課程については、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

本学士教育プログラムは大別して、理論的な立場から物質と宇宙の根源に迫る「基礎物理学」、固体、液体、気体などの物質の特異性と多様性を理論的に探究する「物性理論物理学」、実験的に探究する「物性実験物理学」の3分野からなります。これらの3分野において、個性や特性に応じた学習を行います。

具体的には、

- (1) 「共通教育」では社会人として必要な教養を身に付け、人間としての視野を広げるとともに専門を学ぶための基礎力を養います。
- (2) 1年次後期からは、専門科目として物理学の基盤をなす、力学、電磁気学、量子力学、熱力学、統計力学、物理数学、物理実験学などを学びます。
- (3) 物理学実験、物理実験Ⅱ、物理実験Ⅲなどにより、実験技術を身に付けます。計算機関連科目によってコンピューターに対する技能や知識を高めます。
- (4) 演習科目における演習問題の解答の発表、実験科目の学期末における発表会、卒業研究の研究発表会を行うことにより、プレゼンテーション能力を身に付けます。
- (5) 3年次までに修得した基礎学力を基に4年次では、基礎物理学、物性理論物理学、物性実験物理学の3分野のいずれかの研究室に所属し、卒業研究を行います。卒業研究では、セミナーによって、その分野の物理学の知識を身に付け、研究、成果の発表、まとめを通して、論理的思考力、洞察力、発想力、独創性などを身に付けます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

シラバスにおいて授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を明確に提示して客観的に評価します。また、組織的な検証により教育の質保証の継続的改善に取り組みます。

地球環境系

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、以下に示す方針に基づいて4年間一貫した教育課程を編成・実施します。

共通教育科目、専門基礎科目及び専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講します。教育課程については、履修モデルやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

- (1) 共通教育科目及び専門基礎科目は、自然科学全般及び地球科学に関する基礎学力を身に付けるために編成されています。
- (2) 専門教育科目では、大気圏・水圏・地圏で起きる地球科学に関する専門的な学力を身に付けるために編成されています。
- (3) 専門分野の体系性に基づき固体地球コースと大気海洋コースを設けています。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

自然科学、特に海洋・亜熱帯・島嶼の地球科学に重点を置いた諸分野の教育・研究を通して、真理を愛し、自主的精神に満ち、自主的行動ができる人間として、地球環境問題や社会問題の解決に寄与できる学習能力を養うために、学生が主体となる実践性のある教育を行います。

(1) 「海洋地学実習」ではフィールド（野外）調査の基礎を習得し、琉球列島の成り立ちを理解し、自然科学の奥深さと幅広さ、面白さを体験します。

(2) 論理的な表現能力を身に付けるため、1年次の「基礎ゼミ」では日本語作文技術の向上を目指します。2年次からは、専門科目を通して、海洋・亜熱帯・島嶼の地学に重点を置いた専門的知識と技能を習得し、視野の拡大を図ります。4年次の「海洋地学セミナー」では学術研究論文の紹介を行い、過去の優れた研究や最先端技術による最新の研究成果にふれることで、柔軟な思考力を培います。また卒業論文をまとめることで、論理的な表現力を身に付けます。

(3) プレゼンテーション能力及び自己表現力を培うため、1年次の「情報科学演習」及び「基礎ゼミ」では、効果的なプレゼン資料の作成方法を学習します。「大学英语」やその他の英語関連科目を受講し、国際化に対応できる英語でのコミュニケーション能力を身に付けます。3～4年次の「海洋地学研究法」や「海洋地学セミナー」では、英語テキストの要約や国際学術論文の紹介を行います。

(4) 4年次の「海洋地学セミナー」や「卒業研究」では、具体的な研究テーマに主体的に取り組むことで、地球科学の理念と社会的役割を認識し、多様な情報を分析し、総合的に問題解決ができる能力を身に付けます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告

等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

シラバスにおいて授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を明確に提示して客観的に評価するとともに、学生調査結果等を組織的に検証することにより、4年間の学習成果を総合的に評価し、教育の質保証の継続的改善に取り組みます。

- (1) 講義科目は、毎回の授業の最後に行うショートテスト、中間試験、期末試験、レポートの成績により評価します。
- (2) 演習・実験・実習は、レポートを課し、目的、観察・観測結果、考察が的確にまとめられているかを評価します。海外実習など一部の科目については、公開報告会を開き、上記に加えて、質疑応答の結果も評価に加味します。
- (3) 卒業研究は、目的、先行研究、検証すべき仮説、仮説を検証するための方法、データ取得、結果、考察が的確にまとめられているかについて、公開発表会での発表と質疑の内容及び提出された論文を基に、所属全教員による評価を行います。
- (4) 卒業時に学生アンケート調査を行い教育の継続的改善を行います。

化学系

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、以下の方針に基づいて4年間一貫した教育課程を編成・実施します。

共通教育科目及び専門教育科目を体系的に編成します。カリキュラムの体系性や構造はカリキュラム・マップやナンバリング、履修プログラムによって明示され、履修計画が立てやすい仕組みとなっています。

- (1) 物質の多様な反応・構造・機能を分子科学的に理解できる素養の修得を目的とし、化学の基礎となる4つの基幹分野（物理化学、有機化学、分析化学、無機化学）の講義・演習を体系的に編成・提供します。
- (2) 目的に応じた実験器具や汎用機器を選択して適切な実験を計画・推進できる能力及び必要な情報・データの取捨選択・統計処理能力の修得を目的とし、上述4つの基幹分野に関する実験科目を体系的に編成・提供します。
- (3) 高度な化学の専門性のみならず、亜熱帯・島嶼・海洋に関する素養を備え、地域・社会の持続的かつ普遍的な発展に寄与できる人材を育てるため、新規物質の創成や亜熱帯・島嶼・海洋の地域特性を生かした天然物・環境分野に関する講義・演習・実験・実習科目を体系的に編成・提供します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

化学的素養を基礎に幅広い分野で活躍できる人材の育成を目的として、多様な物質の反応・構造・機能を分子科学的に理解する基礎的化学のみならず、新規物質の創成や亜熱帯・島嶼・海洋の地域特性を生かした天然物・環境分野の地域特性化学を加えた総合的化学教育を行ないます。

- (1) 学生は学習達成度評価シートの活用により履修状況を把握し、今後の学習計画を立てやすい仕組みとなっています。講義・演習・実験・実習を担当する教員は、各学年に配した2名の年次指導教員と密に連携し、学習達成度評価シートを参考にしながら、個々の学生のニーズに応えたきめ細かな指導・学習サポートを行います。また、大学院生によるTA制度を充実させることで、主体的学習能力の修得をサポートします。
- (2) 1年次から2年次にかけては、共通教育科目を中心に履修します。さらに、専門の講義を理解するための基礎となる専門基礎教育科目である先修科目（「化学Ⅰ」、「化学Ⅱ」、「化学実験」は必修）の講義を履修します。また同時に、少人数（4～6名）による「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」（化学系全教員が担当）を専門教育の必修科目として履修します。
- (3) 2年次前期から化学のあらゆる分野の基礎となる物理化学、有機化学、分析化学、無機化学の専門必修科目の履修がスタートします。2年次後期から3年次前期には前述4分野の必修の実験科目を履修します。
- (4) 2年次後期からは上記4分野の様々な専門選択科目の講義を履修することにより、幅広く化学の基礎を学びます。これに加えて、地域の特色（亜熱帯、島嶼、海洋）を活かした選択必修科目の講義を履修します。
- (5) 専門選択科目のうち基礎科目に区分される科目群の講義においては、必修の講義内容について、化学の基礎である4分野それぞれのコアを形成する重要な内容を学修します。さらに発展的な内容や応用的な分野については、専門選択科目のうちの発展科目に区分される科目群において学びます。海洋化学関連の実験実習科目も発展科目に区分され、これらを履修することによって、地域の特色（亜熱帯、島嶼、海洋）を活かした化学の実験技術の修得を目指します。
- (6) 3年次終了時に必要な単位を取得できていれば、4年次では系内の各研究室のいずれかに配属され、指導教員の指導のもと卒業研究を行い、1年間の研究成果を卒業研究発表会において発表し、卒業論文としてまとめます。卒業研究及びセミナーの目的は、最先端の研究を通じてその分野の専門知識を体得し、研究論文の読解力や説明能力の修得及び研究成果のプレゼンテーション能力を育むことにあります。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告

等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

シラバスにおいて授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を明確に提示して客観的に評価するとともに、学生調査結果等を組織的に検証することにより、4年間の学修成果を総合的に評価し、教育の質保証の継続的改善に取り組みます。

(1) 講義科目は主に期末試験により評価します。科目ごとに中間試験、課題や小テストなどが演習目的で課される場合もありますが、個々の講義の評価方法はシラバスに明記されています。

(2) 実験・実習科目は主にレポートにより評価します。科目ごとにワークシートや小テストなどが演習目的で課される場合もありますが、個々の実験・実習の評価方法はシラバスに明記されています。

(3) 卒業研究の評価は、卒業研究発表会における発表（口頭発表またはポスター発表）及び卒業論文に基づいて行われます。卒業研究発表会における発表により全教員による合否判定を行い、1年間指導にあたった指導教員が総合的に評価します。

生物系

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するために、共通教育及び専門基礎教育と専門教育からなる4年一貫の教育課程を編成し、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

(1) 生物系で学ぶ科目には必修科目と選択科目があります。

(2) 必修科目としては、1年次に小グループで大学生活や学科・系についてのガイダンスを受けたり、専門の研究を実際にみたり、論文の読み方やディスカッションの練習をしたりなどと様々な内容を勉強する「基礎ゼミ」、3年次と4年次に専門分野の論文を読み内容を紹介する「生物学ゼミナール」、4年次に自分自身でテーマを選んで研究する「卒業研究」などがあります。

(3) 2年次からは生物学に関する選択科目を自由に選んで学ぶことができます。

(4) 講義ばかりではなく、2年次の夏休みには西表島や石垣島で陸上やマングローブ域の生物を観察する「生物学野外実習」、2年次と3年次に様々な分野の実験や観察を通して学ぶ「進化生態学実習」ほか、いろいろな実習も受けることができます。

(5) 高校及び中学の教員免許（理科）、博物館学芸員の資格を取得するための課程を履修することもできます。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

(1) 講義形式やゼミナール形式による論文の読解やディスカッション、実習形式によるフィールドワークやラボワークを通して総合的に生物学を学べる教育環境を提供します。

(2) 4年次では卒業研究を行い、学生が主体となって研究に取り組むことで問題解決に必要な力を身に付けます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

(1) シラバスにおいて授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を明確に提示し、客観的に評価を行います。

(2) 卒業研究の評価は、研究過程や中間発表会・最終発表会の発表内容を考慮し、総合的に行います。

○ 医学部

医学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーを具現化した人材を育成するために、共通教育等科目、基礎医学系と臨床医学系の分野を有機的に関連させた6年一貫教育プログラムを編成し、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

- ・初年次教育：リベラルアーツとしての教養科目である共通教育等科目、卒業後について考えてもらうキャリア教育、医学への動機づけを高めるアーリーエクスポージャー科目を提供します。
- ・コース別科目：「一般コース」と、地域枠学生を中心とする「地域医療コース」とで学修内容が異なる「コース科目」を初年次から提供します。
- ・基礎医学教育：細胞・臓器・個体の構造と機能に関する科目、臨床との関連の深い科目、社会医学科目について、講義や実習を通して体系的に学ぶことができるように、複数の講座が協同して統合科目を提供します。
- ・臨床医学教育：医療への動機づけを維持するために、各学年でアーリーエクスポージャー科目＊を開講します。臓器ごとの疾患・病態に関する科目を履修したあと、琉球大学病院及び関連教育・協力病院においてプライマリ・ケアから高度先進医療までを修得することが可能な臨床参加型臨床実習を提供します。
- ・研究：医学に関連する科学的探究心を高めるために、積極的に研究に携わることのできるプログラムを提供します。
- ・国際性：医学英語教育を進めるとともに、国際的な場で活躍できる医師・研究者への動機づけとなるように、医科学研究、臨床実習を海外施設で行う機会を設けます。

＊アーリーエクスポージャー科目：シミュレーション演習、外来患者付添い実習、体験学習、離島地域病院実習

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせで行います。

各科目における学習到達度は、知識、技能、態度について評価します。知識に関する評価は筆記試験、口頭試問などにより行います。技能と態度に関する評価は、観察評価及び臨床技能評価により行います。

臨床実習開始前及び臨床実習後に、知識・態度・技能について総括的評価を行います。知識に関しては知識・問題解決能力客観評価試験（CBT：computer based test）で評価します。技能・態度については客観的臨床能力試験（OSCE：objective structured clinical examination）で評価します。実習開始前並びに実習終了後の総括的評価への合格を、それぞれ臨床実習への参加要件並びに卒業要件としています。

保健学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、共通教育及び専門基礎教育と専門教育からなる4年一貫の教育課程を編成し、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。保健学科教育はカリキュラムを最適化するためにクォーター制を導入しています。専門分野の体系性に基づき、看護学コース、検査技術学コースの2つの履修コースを設け、ディプロマ・ポリシーを具現化した人材を育成するために専門教育カリキュラムを編成し、実施します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

両コースに共通する教育

・第1学年では2つのコースともに「保健医療職として必要な知性・教養・倫理観を養う」ことを重視します。一般教養としての共通教育科目の3つの領域（社会人となるために教養を広げるための教養領域、地域性やキャリアについて学ぶための総合領域、国際化、情報社会への対応のための基幹領域）に加え、専門基礎科目としては、ヒトの健康を様々な側面から理解するための科目群や倫理観を学びます。また、両コースに共通する専門基礎科目として保健医療職としての倫理観を養う「生命倫理学」、医療に従事する者として将来への動機づけを高めるアーリーエクスポージャーを目的としてシミュレーション演習、早期体験演習を設けています。シミュレーション演習では医学科と共に履修することで学生同士の交流を育みます。これらの講義・演習を通じてコミュニケーション・スキルや国際性、社会性及び問題解決力の基盤を形成します。

看護学コース

・第1学年では、共通科目に加え、看護の対象理解に必要な基本的知識を修得するための基礎医学系の講義の提供、さらに、看護の基本となる知識及び技術修得のための看護学基礎領域の講義、演習及び病院、地域における臨地実習を提供します。

・第2学年では、「看護実践能力に必要な基礎的知識と技術の修得」を重視します。基礎医学科目に加え、領域別の看護学講義や演習、臨地実習を通して、看護の対象理解を深め、看護実践能力に必要な基礎的知識と技術を修得します。また、選択コース別に、保健師、助産師の実践能力に必要な基礎的知識を修得する科目を提供します。

・第3学年では、「看護実践能力を高めるための専門的知識と技術の修得」を重視します。領域別の看護学演習を通して、多様な対象のアセスメントや援助方法を学び、看護実践能力を高めるための専門的知識及び技術を修得します。また、選択コース別に、保健師、助産師、養護教諭の実践能力を高めるための専門的知識や技術を修得する科目を提供します。

・第4学年では、「看護実践能力を高めるための専門的知識と技術の統合」及び「問題解決能力、探究力、実践力、プレゼンテーション能力の修得」を重視します。3年次までに習得した専門的知識を基盤として、領域別の臨地実習で知識と技術の統合を図り、専門的知識（根拠）に基づき、対象のニーズに合わせた看護を展開（実践）する能力を修得します。また、卒業研究を通じて、科学的探究ができる資質・能力、生涯にわたって研鑽し続ける姿勢を修得します。その他、選択コース別に、保健師、助産師、養護教諭の臨地実習を提供し、知識と技術の統合を図ります。

・全学年を通して、医療保健システムや地域に存在する社会資源に関する知識を習得し、保健医療問題に看護専門職としての関わり方を学びます。それぞれの専門分野における看護職としての役割を認識し、他職種との連携に関する専門的知識を習得します。さらに臨床や地域の場での実習をとおして、現場で患者をとりまく関係者及び看護師以外の保健医療・福祉専門職者等と連携、協働を体験します。

また、東南アジアを主とする諸外国に生じている健康上の課題を解決するために進められている国際的な研究や学术交流の実態と、これらの活動に加わるための基礎的な知識及び能力を修得します。

検査技術学コース

・第1学年では、共通科目に加え、基礎医学科目を履修することにより生命や疾病の成り立ち、外因に対する生体の反応など、医学の基本かつ必須な知識を習得します。

・第2学年では「検査技術学の基盤となる専門知識の学習」を重視します。基礎医学科目に加え、検査技術学の基礎となる科目を講義と実習で提供することにより生命に関する基本的な知識とともに病因や疾病の成り立ち、病因を分析する方法、データの解析手法、分析技術等を修得します。医療保健システムや地域の医療問題の抽出、解決方法、生活環境を基盤とした疾患の成因や対策について修得します。医療保健システムや地域の医療問題の実態を体験するとともに、地域の医療問題に関する研究を通して問題解決の即応力を修得します。医療保健システムや健康増進、疾病予防のための保健福祉政策、疾病の予防や治療法、健康食品や自立支援に関する知識を身に付けます。

・第3学年では「生命科学、基礎医学から臨床医学に及ぶ幅広い知識と技術の統合」を重視します。講義では医学・検査学の応用科目を履修し、さらに、特別講義や保健技術学実習（臨地実習）にて臨床検査の専門家と接することにより、それまでに習得した知識と技術を実感すると同時に医療人としての自覚を持たせ、医療現場での将来像を描かせます。臨地実習を通じて患者や他の医療従事者とのコミュニケーション能力を培い、チーム医療の一員として他の職種と連携・協働し問題を解決する力を身に付けます。保健医療現場で遭遇する倫理問題について、医療現場の専門家と意見を交換・熟考するとともに、社会人として、医療人として必要な見識や教養を身に付けます。

・第3学年から第4学年では卒業研究にて、「問題解決能力、探究力、実践力、プレゼンテーション能力を身に付けること」を重視します。研究を通して、自ら課題を発見し、情報を収集し、実験の計画を立て、遂行・結果解析し考察する能力を獲得し、プレゼンテーション・卒業論文作成を行うことで、卒業後に専門性を活かした研究や提言のための基礎的となる能力を習得します。4年間にわたる検査技術学の総括をすることにより今まで学んできた知識・技術を有機的に結び付ける力を培い、臨床検査技師として生涯にわたって学び、探求する習慣を獲得します。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

シラバスにおいて授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を明確に提示して客観的に評価するとともに、学生調査結果等を組織的に検証することにより4年間の学習成果を総合的に評価し、教育の質保証の継続的改善に取り組みます。

- ・講義科目は、試験やレポートにより評価します。
- ・演習・実験・実習科目は態度、レポート、試験により評価します。
- ・卒業研究の評価は本人のプレゼンテーション及び質疑応答、卒業論文により評価します。
- ・卒業時に学生アンケート調査を行い、教育の継続的改善を行います。

○ 工学部

機械工学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

工学部機械工学 学士教育プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、以下に示す方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

本学士教育プログラムは4年制で構成されており、共通教育科目、専門基礎科目、及び専門科目を体系的に編成します。カリキュラムマップやナンバリングを用いて体系性や構造を明示します。また、グローバル化に対応したリーダーを育成するため、グローバルエンジニア（GE）プログラムを設けています。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

編成方針に従い、具体的には以下のような学習内容と方法により科目を開設し、それらの具体的な科目名を明示した4年間を通したカリキュラムマップ並びに履修モデルを提示します。

(1) 1年次から4年次にかけて、多面的で幅広い共通教育科目を通して柔軟な思考や豊かな人間性を身に付け、地域、国内、国際社会に関する様々な問題を理解し、生涯を通して学び続ける姿勢を学びます。また、コミュニケーション能力を養うため、大学英語を始めとする外国語科目や日本語表現法入門を学びます。

(2) 1年次から2年次にかけて、技術者として必要な基礎学力を身に付けるため、専門基礎科目である数学、物理や、専門科目の内の基盤的な数学科目（工業数学、確率及び統計）や、工学全般と機械工学分野の広がり理解するための入門科目（工学基礎演習、情報リテラシー等）を学びます。

(3) 2年次から3年次にかけて、機械工学の主要分野である、材料力学、材料・加工学、流体工学、熱工学、制御工学の専門科目を学びます。

(4) 1年次から3年次にかけて、ものづくりに関する演習・実験・実習科目（工学基礎演習、機械製図、材料加工学実習、機械工学実験、機械設計製図、エンジニアリングデザイン演習等）が複数開講され、グループワーク等の実践的な活動を通してチームワークやコミュニケーション・スキル、問題解決力を身に付け、自立したものづくり能力を養います。

(5) 4年次では、集大成的科目である卒業研究においてこれまで身に付けてきた能力を総合的に活用し、技術者に欠かせない問題解決能力やコミュニケーション能力を修得します。

(6) GEプログラムでは、3年次から4年次にかけて、実践的な技術英語の講義・実習や、国際・地域貢献に関する講義、国際インターンシップなどの科目を学びます。

[学習成果の評価方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせで行います。

シラバスに科目ごとの授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を提示し客観的に評価します。

(A) 講義科目は、テストやレポート等により評価します。

(B) 演習・実験科目は、レポートおよびプレゼンテーション等によって評価します。

(C) 卒業研究は、進捗報告、卒業論文および最終発表によって評価します。

エネルギー環境工学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

工学部エネルギー環境工学 学士教育プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、以下に示す方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

本学士教育プログラムは4年制で構成されており、共通教育科目、専門基礎科目、および専門科目を体系的に編成します。カリキュラムマップやナンバリングを用いて体系性や構造を明示します。また、グローバル化に対応したリーダーを育成するため、グローバルエンジニア（GE）プログラムを設けています。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

編成方針に従い、具体的には以下のような学習内容と方法により科目を開設し、それらの具体的な科目名を明示した4年間を通したカリキュラムマップ並びに履修モデルを提示します。

(1) 1年次から4年次にかけて、多面的で幅広い共通教育科目を通して柔軟な思考や豊かな人間性を身に付け、地域、国内、国際社会に関する様々な問題を理解し、生涯を通して学び続ける姿勢を学びます。また、コミュニケーション能力を養うため、大学英語を始めとする外国語科目や日本語表現法入門を学びます。

(2) 1年次から2年次にかけて、技術者として必要な基礎学力を身に付けるため、専門基礎科目である数学、物理や、専門科目の内の基盤的な数

学科目（工業数学、確率及び統計）や、工学全般と機械工学分野の広がりを理解するための入門科目（工学基礎演習、基礎情報処理等）を学びます。

（3）2年次から3年次にかけて、機械工学をベースに、エネルギーの効率的な変換・制御、及び環境に配慮した材料に関する基礎知識を学びます。

（4）1年次から3年次にかけて、ものづくりに関する演習・実験・実習科目（工学基礎演習、製図基礎、ものづくり基礎演習、エネルギー環境工学実験、機械製作図、エンジニアリングデザイン演習、プロジェクトマネジメント等）が複数開講され、グループワーク等の実践的な活動を通してチームワークやコミュニケーション・スキル、問題解決力を身に付け、自立したものづくり能力を養います。

（5）4年次では、集大成的科目である卒業研究においてこれまで身に付けてきた能力を総合的に活用し、技術者に欠かせない問題解決能力やコミュニケーション能力の修得を目指します。

（6）GEプログラムは3年次から、実践的な技術英語の講義・実習や、国際・地域貢献に関する講義、国際インターンシップなどの科目を開講します。

[学習成果の評価方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

シラバスに科目ごとの授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を提示し客観的に評価します。

(A) 講義科目は、テストやレポート等により評価します。

(B) 演習・実験科目は、レポートおよびプレゼンテーション等によって評価します。

(C) 卒業研究は、進捗報告、卒業論文および最終発表によって評価します。

電気システム工学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーにも基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

工学部電気システム工学 学士教育プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、以下に示す方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

本学士教育プログラムは4年制で構成されており、共通教育科目、専門基礎科目、及び専門科目を体系的に編成します。カリキュラムマップやナンバリングを用いて体系的な構造を明示します。また、グローバル化に対応したリーダーを育成するため、グローバルエンジニア（GE）プログラムを設けています。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

編成方針に従い、具体的には以下のような学習内容と方法により科目を開講し、それらの具体的な科目名を明示した4年間を通したカリキュラムマップ並びに履修モデルを提示します。

（1）1年次及び2年次では、人文・社会・自然科学に関する幅広い教養及び語学力向上のための基幹科目、数学・物理等の専門基礎科目を中心に学び、専門科目の基幹科目である電磁気学、回路理論について学びます。

（2）3年次では、専門科目の電力工学、電気機器、制御工学、システム工学等について学びます。

（3）2年次から3年次では、専門科目のエンジニアリングデザイン演習、電気電子基礎実験、電気電子応用実験を履修し、測定機器の使用法やレポートの作成方法について学びます。

（4）4年次における卒業研究では、これまで修得してきた知識を活用して課題解決を実践すると共に、研究発表と卒業論文の作成について学びます。

（5）GEプログラムでは、英語によるコミュニケーション能力の向上、複眼的な見識の獲得、異文化への理解向上のため、実践的な英語技術の講義・実習や、国際・地域貢献に関する講義、国際インターンシップ等の科目を学びます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

シラバスに科目ごとの授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を提示し客観的に評価します。

- (A) 講義科目は、テストやレポート等により評価します。
- (B) 演習・実験科目は、レポートおよびプレゼンテーション等によって評価します。
- (C) 卒業研究は、進捗報告、卒業論文および最終発表等によって評価します。

電子情報通信

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

工学部電子情報通信 学士教育プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、以下に示す方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

本学士教育プログラムは4年制で構成されており、共通教育科目、専門基礎科目、及び専門科目を体系的に編成します。カリキュラムマップやナンバリングを用いて体系性や構造を明示します。また、グローバル化に対応したリーダーを育成するため、グローバルエンジニア（GE）プログラムを設けています。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

編成方針に従い、具体的には以下のような学習内容と方法により科目を開設し、それらの具体的な科目名を明示した4年間を通したカリキュラムマップ並びに履修モデルを提示します。

(1) 1年次及び2年次では、人文・社会・自然科学に関する幅広い教養及び語学力向上のための基幹科目、数学・物理等の専門基礎科目を中心に学び、専門科目の基幹科目である電磁気学、回路理論について学びます。

(2) 3年次では、専門科目の電子物性工学、量子力学、電子計算機、通信工学等について学びます。

(3) 2年次から3年次では、専門科目のエンジニアリングデザイン演習、電気電子基礎実験、電気電子応用実験を履修し、測定機器の使用方法やレポートの作成方法について学びます。

(4) 4年次における卒業研究では、これまで修得してきた知識を活用して課題解決を実践すると共に、研究発表と卒業論文の作成について学びます。

(5) GEプログラムでは、英語によるコミュニケーション能力の向上、複眼的な見識の獲得、異文化への理解向上のため、実践的な英語技術の講義・実習や、国際・地域貢献に関する講義、国際インターンシップ等の科目を学びます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

シラバスに科目ごとの授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を提示し客観的に評価します。

- (A) 講義科目は、テストやレポート等により評価します。
- (B) 演習・実験科目は、レポートおよびプレゼンテーション等によって評価します。
- (C) 卒業研究は、進捗報告、卒業論文および最終発表等によって評価します。

社会基盤デザイン

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

工学部社会基盤デザイン 学士教育プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、以下に示す方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

本学士教育プログラムは4年制で構成されており、共通教育科目、専門基礎科目、及び専門科目を体系的に編成します。カリキュラムマップやナンバリングを用いて体系性や構造を明示します。また、グローバル化に対応したリーダーを育成するため、グローバルエンジニア（GE）プログラムを設けています。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

編成方針に従い、具体的には以下のような学習内容と方法により科目を開設し、それらの具体的な科目名を明示した4年間を通したカリキュラムマップ並びに履修モデルを提示します。

(1) 1年次及び2年次は、人文・社会・自然科学に関する幅広い教養及び語学力向上のための基幹科目、数学・物理等の専門基礎科目を中心に学び、専門教育の導入科目である基礎流体力学を学びます。

(2) 2年次では、社会基盤デザインの専門科目である社会システム計画学、構造力学、水理学、土質力学、建設材料学、情報処理解析法、測量学などを学びます。

(3) 3年次では、社会基盤デザインの応用専門科目である都市地域計画、減災計画、鋼構造工学、河川工学、海岸工学、地盤工学、コンクリート構造工学、社会基盤デザイン実験、マテリアルズ・インフォマティクスなどを学びます。また、幅広い知識と複眼的な視点を身に付けることを目的に、工学科の他コースの専門基礎を学びます。

(4) 4年次では、卒業研究を通して、これまで身に付けてきた知識を活用する能力を身に付けるとともに、課題発見・解決能力及びコミュニケーション能力を身に付けます。専門科目では、英語で書かれた論文などの専門書を読み、内容を理解する能力を修得します。

(5) GEプログラムでは、技術英語や国際インターンシップを通じて英語を使ったコミュニケーション能力を学び、国際協力論や地域創生論などの専門科目により時代のニーズに貢献できる能力を身に付けます。

[学習成果の評価方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

シラバスに科目ごとの授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を提示し客観的に評価する。

(A) 講義・演習科目は、テストやレポート等により点数化して評価します。

(B) 実験・実習科目は、レポートおよびプレゼンテーション等によって評価します。

(C) 卒業研究は、進捗報告、卒業論文および最終発表によって評価します。

建築学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

工学部建築学 学士教育プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、以下に示す方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

本学士教育プログラムは4年制で構成されており、共通教育科目、専門基礎科目、及び専門科目を体系的に編成します。カリキュラムマップやナンバリングを用いて体系性や構造を明示します。また、グローバル化に対応したリーダーを育成するため、グローバルエンジニア（GE）プログラムを設けています。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

編成方針に従い、具体的には以下のような学習内容と方法により科目を開設し、それらの具体的な科目名を明示した4年間を通したカリキュラムマップ並びに履修モデルを提示します。

(1) 1年次及び2年次においては多面的な文化、社会、自然環境等を幅広く学ぶ教養領域科目、言語、コミュニケーション、表現力を修得する基幹領域科目、専門分野の学習の基礎となる物理学、数学を学ぶとともに、工学及び建築学の基礎となる科目を履修します。

(2) 2年次後期と3年次を中心に建築学の各分野の骨格的な内容を修得する科目を履修し、基本的な計画、設計、要素技術の理解と課題解決能力を身に付けます。3年次後期以降は建築学の専門家としての社会における職能や役割、責任を理解する科目(建築法規、建築技術者の倫理等)も履修します。

(3) GEプログラムは3年次から、実践的な英語技術の講義・実習や、国際・地域貢献に関する講義、国際インターンシップなどの科目を開講します。

(4) 4年次では自立した技術者を目指して、それまでに修得した専門知識を課題解決に向けて応用、発展させ、その成果を集成、発表する機会として、卒業設計又は卒業研究に取り組みます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

シラバスに科目ごとの授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を提示し客観的に評価します。

(A) 講義・演習科目は、テストやレポート等により点数化して評価します。

(B) 実験・実習科目は、レポートおよびプレゼンテーション等によって評価します。

(C) 卒業設計又は卒業研究は、進捗報告、設計課題の提出物、卒業論文および最終発表によって評価します。

知能情報

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

工学部知能情報 学士教育プログラムでは、ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、以下に示す方針に基づいて教育課程を編成・実施します。

本学士教育プログラムは4年制で構成されており、共通教育科目、専門基礎科目、及び専門科目を体系的に編成します。カリキュラムマップやナンバリングを用いて体系的な構造を明示します。また、グローバル化に対応したリーダーを育成するため、グローバルエンジニア（GE）プログラムを設けています。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

編成方針に従い、具体的には以下のような学習内容と方法により科目を開設し、それらの具体的な科目名を明示した4年間を通したカリキュラムマップ並びに履修モデルを提示します。

(1) 1年次から3年次にかけて提供される総合力演習科目（工学基礎演習、キャリアデザイン入門、プロジェクトデザイン、キャリアデザイン）の履修を通して、自律性、社会性、コミュニケーション能力を重点的に身に付けます。

(2) 1年次及び2年次において、専門基礎科目、数学基礎科目（工業数学Ⅰ、工業数学Ⅱ、離散数学）及び知能情報コア科目群を履修することで、知能情報学を学習していく上で必要とされる基礎学力、知能情報学の専門基礎知識及びスキルを修得します。

(3) 共通教育の外国語科目に加えて、3・4年次に専門科目として提供される技術英語Ⅰ～Ⅲ、ICT実践英語Ⅰ、Ⅱ等を履修することで、外国語によるコミュニケーション能力を修得します。

(4) 1年次、2年次の総合力演習科目の中の課題解決型グループ演習科目、3年次の知能情報総合実験、エンジニアリングデザイン演習を通して、課題解決能力、協調性、柔軟性を修得します。

(5) 1年次から4年次にかけて、共通教育科目（教養・総合領域）を履修することで、幅広い教養と柔軟な思考力を身に付けます。

(6) 3年次から4年次にかけて提供される知能情報専門科目、セミナーⅠ、同Ⅱ、卒業研究Ⅰ、同Ⅱ等を通して、知能情報学分野のより深い専門知識と先端技術を修得します。

(7) GEプログラムでは3年次から、実践的な英語技術の講義・実習や、国際・地域貢献に関する講義、国際インターンシップなどの科目を開講します。

[学習成果の評価方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

シラバスに科目ごとの授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を提示し客観的に評価します。

(A) 講義科目は、テストやレポート等により評価します。

(B) 演習・実験科目は、レポートおよびプレゼンテーション等によって評価します。

(C) 卒業研究は、進捗報告、卒業論文および最終発表によって評価します。

亜熱帯地域農学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

亜熱帯地域農学 学士教育プログラムではディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、以下に示す方針に基づいて4年間一貫した教育課程を編成・実施します。

1. 共通教育科目、専門基礎科目及び専門教育科目を順次性のある体系的なカリキュラムを編成します。
2. 教育課程については、カリキュラム・マップや履修モデルを用いてその体系性や構造を明示します。
3. 専門分野の体系性に基づき4つの教育コースを設けます

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

1. 1－2年次では、共通教育（教養・総合領域）を履修し、人文・社会・自然科学の諸科学の内容や特有な課題に精通し、また、専門基礎教育による自然科学に関する講義・実験科目を通し、問題解決に必要な固有の知識や方法を身に付け、それらを現代的状況へ応用できる能力を養い21世紀型市民としての教養を修得します。
2. 1－2年次では、共通教育（基幹領域）の履修を通し、外国語や情報科学の知識を修得し、多様な情報を受け取り、自らの考えを的確に伝える能力を身に付けます。
3. 初年次教育科目（「食・農・環境概論」、「基礎フィールド実習」）を履修し、農学の安定的・持続的生物生産、環境保全及び生物資源の有効利用についての知識を修得し、食料問題、環境問題の解決策及び農業のあり方について考えるとともに、農業・林業・畜産業を実際に体験し農学の基礎を身に付け、大学で学ぶ意義を理解し、自律的で協働して学ぶ態度を身に付け、農学の社会的責任を理解します。
4. 2－3年次では、学科共通（コア）科目を履修し、亜熱帯地域社会における自然と農との調和に配慮した持続的農業に関する理解を深めます。選択科目等を通じた講義や実験・実習を通し専門知識の活用を具体的に理解し、亜熱帯地域農学の知識を活用し社会からの要求を確実に捉え、かつ、分野横断的に、農学全体の内容を学修し、問題に総合的に取り組む能力を身に付けます。コース必修科目の履修により、分野に特有な専門的な知識を修得します。
5. 3年次の「キャリアディベロップメント」、「キャリア実習」の科目は、学問が現場で展開される場面を体験しながら、卒業後のキャリアプランを考え社会の一員としての責任を認識します。
6. 4年次では、卒業論文を通して問題解決に向かって自立的・計画的に行動し、多様な情報を分析し、総合的に問題解決をすることができる能力を身に付けるとともに、技術者・研究者として専門能力の向上を自主的に励み、問題を見出し解決する能力を身に付けます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせで行います。

1. 授業の方法・内容などや学習の成果に係る評価基準等をシラバス等で明確に提示し、4年間の学習成果を総合的に評価します。
2. 基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価します。
3. シラバスに記載した到達目標を、試験、レポート、学習記録及び発表・報告等、多様な方法の中から適切な方法を選択又は組み合わせで行います。
4. 学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを卒業論文の内容等から評価します。
5. 学習成果を適切に評価・検証することで、教育課程の継続的改善に取り組みます。

亜熱帯農林環境科学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

亜熱帯農林環境科学 学士教育プログラムではディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、以下に示す方針に基づいて4年間一貫した教育課程を編成・実施します。

1. 共通教育科目、専門基礎科目及び専門教育科目を順次性のある体系的なカリキュラムを編成します。
2. 教育課程については、カリキュラム・マップや履修モデルを用いてその体系性や構造を明示します。
3. 専門分野の体系性に基づき4つの教育コースを設けます。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目等に分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを实践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

1. 1－2年次では、共通教育（教養・総合領域）を履修し、人文・社会・自然科学の諸科学の内容や特有用な課題に精通し、また、専門基礎教育による自然科学に関する講義・実験科目を通し、問題解決に必要な固有の知識や方法を身に付け、それらを現代的状況へ応用できる能力を養い21世紀型市民としての教養を修得します。
2. 1－2年次では、共通教育（基幹領域）の履修を通し、外国語や情報科学の知識を修得し、多様な情報を受け取り、自らの考えを的確に伝える能力を身に付けます。
3. 初年次教育科目（「食・農・環境概論」、「基礎フィールド実習」）を履修し、農学の安定的・持続的生物生産、環境保全及び生物資源の有効利用についての知識を修得し、食料問題、環境問題の解決策及び農業のあり方について考えるとともに、農業・林業・畜産業を実際に体験し農学の基礎を身に付け、大学で学ぶ意義を理解し、自律的で協働して学ぶ態度を身に付け、農学の社会的責任を理解します。
4. 2－3年次では、学科共通（コア）科目を履修し、沖縄及び亜熱帯地域の自然やこれらの地域で営まれる人間活動を理解し、亜熱帯農林環境科学の知識を活用し社会の抱える問題に総合的に取り組む能力を養います。さらに、各コース必修科目の履修を通し、レベルの高い専門知識を身に付け、専門的職業人として問題解決をすることができる能力を身に付けます。
5. 3年次の「キャリアディベロップメント」、「キャリア実習」の科目は、学問が現場で展開される場を体験しながら、卒業後のキャリアプランを考え社会の一員としての責任を認識します。
6. 4年次では、卒業論文を通して問題解決に向かって自立的・計画的に行動し、多様な情報を分析し、総合的に問題解決をすることができる能力を身に付けるとともに、技術者・研究者として専門能力の向上を自主的に励み、問題を見出し解決する能力を身に付けます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせで行います。

1. 授業の方法・内容などや学習の成果に係る評価基準等をシラバス等で明確に提示し、4年間の学習成果を総合的に評価します。
2. 基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価します。
3. シラバスに記載した到達目標を、試験、レポート、学習記録及び発表・報告等、多様な方法の中から適切な方法を選択又は組み合わせで行います。
4. 学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを卒業論文の内容等から評価します。
5. 学習成果を適切に評価・検証することで、教育課程の継続的改善に取り組みます。

地域農業工学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

地域農学工学 学士教育プログラムではディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、以下に示す方針に基づいて4年間一貫した教育課程を編成・実施します。

1. 共通教育科目、専門基礎科目及び専門教育科目を順次性のある体系的なカリキュラムを編成します。
2. 教育課程については、カリキュラム・マップや履修モデルを用いてその体系性や構造を明示します。
3. 専門分野の体系性に基づき2つの教育コースを設けます。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを实践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

1. 1－2年次では、共通教育（教養・総合領域）を履修し、人文・社会・自然科学の諸科学の内容や特有用な課題に精通し、また、専門基礎教育による自然科学に関する講義・実験科目を通し、問題解決に必要な固有の知識や方法を身に付け、それらを現代的状況へ応用できる能力を養い21世紀型市民としての教養を修得します。

2. 1-2年次では、共通教育（基幹領域）の履修を通し、外国語や情報科学の知識を修得し、多様な情報を受け取り、自らの考えを的確に伝える能力を身に付けます。

3. 初年次教育科目（「食・農・環境概論」、「基礎フィールド実習」）を履修し、農学の安定的・持続的生物生産、環境保全及び生物資源の有効利用についての知識を修得し、食料問題、環境問題の解決策及び農業のあり方について考えるとともに、農業・林業・畜産業を実際に体験し農学の基礎を身に付け、大学で学ぶ意義を理解し、自律的で協働して学ぶ態度を身に付け、農学の社会的責任を理解します。

4. 2-3年次では、学科共通（コア）科目を履修し、地域農業工学の原理・理論・法則を理解するとともに亜熱帯島嶼環境での農業・農村環境について理解を深めます。選択科目等を通じた実際現場での事例の学習や実験・実習の経験を通し専門知識の活用を具体的に理解し、地域農業工学の知識を活用し社会からの要求を確実に捉え、かつ、分野横断的に、農学全体の内容を学修し、問題に総合的に取り組む能力を身に付けます。コース必修科目の履修により、分野に特有な専門的な知識を修得します。

5. 3年次の「キャリアディベロップメント」、「キャリア実習」の科目は、学問が現場で展開される場면을体験しながら、卒業後のキャリアプランを考え社会の一員としての責任を認識します。

6. 4年次では、卒業論文を通して問題解決に向かって自立的・計画的に行動し、多様な情報を分析し、総合的に問題解決をすることができる能力を身に付けるとともに、技術者・研究者として専門能力の向上を自主的に励み、問題を見出し解決する能力を身に付けます。

〔学習成果の評価の方針〕

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

1. 授業の方法・内容などや学習の成果に係る評価基準等をシラバス等で明確に提示し、4年間の学習成果を総合的に評価します。
2. 基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価します。
3. シラバスに記載した到達目標を、試験、レポート、学習記録及び発表・報告など、多様な方法の中から適切な方法を選択又は組み合わせて行います。
4. 学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを卒業論文の内容等から評価します。
5. 学習成果を適切に評価・検証することで、教育課程の継続的改善に取り組みます。

亜熱帯生物資源科学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

〔教育課程編成の方針〕

亜熱帯生物資源科学 学士教育プログラムではディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、以下に示す方針に基づいて4年間一貫した教育課程を編成・実施します。

1. 共通教育科目、専門基礎科目及び専門教育科目を順次性のある体系的なカリキュラムを編成します。
2. 教育課程については、カリキュラム・マップや履修モデルを用いてその体系性や構造を明示します。
3. 専門分野の体系性に基づき4つの教育コースを設けます。

〔教育課程における教育・学習方法に関する方針〕

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

1. 1-2年次では、共通教育（教養・総合領域）を履修し、人文・社会・自然科学の諸科学の内容や特有な課題に精通し、また、専門基礎教育による自然科学に関する講義・実験科目を通し、問題解決に必要な固有の知識や方法を身に付け、それらを現代的状況へ応用できる能力を養い21世紀型市民としての教養を修得します。

2. 1-2年次では、共通教育（基幹領域）の履修を通し、外国語や情報科学の知識を修得し、多様な情報を受け取り、自らの考えを的確に伝える能力を身に付けます。

3. 初年次教育科目（「食・農・環境概論」、「基礎フィールド実習」）を履修し、農学の安定的・持続的生物生産、環境保全及び生物資源の有効利用についての知識を修得し、食料問題、環境問題の解決策及び農業のあり方について考えるとともに、農業・林業・畜産業を実際に体験し農学の基礎を身に付け、大学で学ぶ意義を理解し、自律的で協働して学ぶ態度を身に付け、農学の社会的責任を理解します。また、健康栄養科学コースでは、さらに「栄養学」等を履修し、栄養士としての基礎を身に付け、栄養の指導を担う社会的責任を理解します。

4. 2-3年次では、学科共通（コア）科目を履修し、亜熱帯地域社会の要求を認識するために総合的な農学基礎理論を修得します。コース提供科目の履修により、専門分野の基礎から応用までの知識を自ら総括し、亜熱帯生物資源科学に関する問題を総合的に解決する能力を身に付け、社会の要求に対応し理論や技術を活用できる専門職業人としての実践力を身に付けます。

5. 3年次の「キャリアディベロップメント」、「キャリア実習」若しくは「校外実習」の科目は、学問が現場で展開される場면을体験しながら、

卒業後のキャリアプランを考え社会の一員としての責任を認識します。

6. 4年次では、卒業論文を通して問題解決に向かって自立的・計画的に行動し、多様な情報を分析し、総合的に問題解決をすることができる能力を身に付けるとともに、技術者・研究者として専門能力の向上を自主的に励み、問題を見出し解決する能力を身に付けます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

1. 授業の方法・内容などや学習の成果に係る評価基準等をシラバス等で明確に提示し、4年間の学習成果を総合的に評価します。
2. 基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、実験・実習・演習科目では知識を応用できる能力や専門技術・技能の習熟度を評価します。
3. シラバスに記載した到達目標を、試験、レポート、学習記録及び発表・報告等、多様な方法の中から適切な方法を選択又は組み合わせて行います。
4. 学習成果の集大成となる卒業研究では知識・技術を利用して実際に問題解決に近づくことができるかを卒業論文の内容等から評価します。
5. 学習成果を適切に評価・検証することで、教育課程の継続的改善に取り組みます。

旧課程

○ 人文社会学部

哲学・教育学

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則り哲学・教育学 学士教育プログラムはカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、共通教育及び専門基礎教育と専門教育からなる4年一貫の教育課程を編成し、カリキュラム・マップやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

専門の学びに関しては、「人間」の本質に関わる様々な問題について、理論的・実証的に学びます。特に3つある基礎演習は、本学科の教育理念を体系的に学修することを目指します。なお、必修とされる科目はプログラム全体で共通のものもありますが、コースによって異なるものもあります。

(哲学コース、教育学コース)

(1) 1年次には「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」「人間の探究」「教育学入門」等を履修し、各学問分野の特徴及び各コースの特徴を学び、自らにふさわしいコースを選択します。

(2) 2年次から3年次にかけては、所属するコースの必修科目及び選択科目を中心に履修し、高度な専門的能力、深い洞察力、問題解決能力を養います。哲学コース、教育学コースいずれも、特に「基礎演習Ⅲ」「哲学・教育学演習Ⅰ」「哲学・教育学演習Ⅱ」「プログラム専門演習Ⅰ」「プログラム専門演習Ⅱ」は、少人数のゼミ形式で行われ、各自のテーマについて研究を深めていきます。それ以外の科目としては、哲学コースでは「哲学A」「宗教哲学A」「認知哲学」、教育学コースでは「教育社会学」「教育調査」「教育の社会理論」等の科目の履修を通じて、各コースの専門的な学習を深めます。

(3) 4年次には「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」を履修し、これまでに養ってきた能力をさらに磨くとともに、それらを活用し、各自のテーマについての研究を卒業論文として完成させます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせて行います。

経済学

経済学プログラムはバラエティに富んだ専門分野の教員のもと、順次性や体系性が工夫されたカリキュラム体系（基礎～応用～実践）に従って学習が可能です。

<基礎> 1年次の基礎演習でパソコン技術および論文作成技術を習得します。また、1年次には社会科学のためのゲーム論入門（昼のみ）ならびに経済学概論、2年次には社会科学のための統計入門、日本経済入門（夜は1年次）、経済数学、ミクロ経済学、マクロ経済学、基礎統計学を学ぶことにより、経済学の基礎が体系的に習得でき、応用科目にスムーズに移行することができます。

<応用> 基礎演習、経済数学、ミクロ経済学、マクロ経済学、基礎統計学の基礎的科目の単位修得を前提とした選択科目として、財政学、金融論、環境経済学、国際経済学、日本・西洋経済史等のバラエティに富んだ応用科目を履修し、現代社会の諸問題を総合的・多角的に理解し、社会の様々な問題に対応できる能力を習得します。また、地域・国際実践力演習Ⅰ～Ⅳ、卒業研究により、それをより発展させます。

<実践> 実践経済学（経済人による講義、昼のみだが夜も受講可能）といった、より実践的な教育科目を選択科目として履修することができます。

人間行動

人間行動学士教育プログラムでは「人間」の本質に関わるさまざまな問題について、理論的・実証的に学びます。全部で6つのコースが用意されており、学生の興味関心に応じて選択することができます。（選択は1年次の後期に行い、2年次から正式に各コースに所属します。）必修とされる科目はプログラム全体で共通のものもありますが、コースによって異なるものもあります。

（1）1年次には「哲学・倫理学入門」「教育社会学入門」「心理学概論Ⅰ」「人間科学科基礎演習」を履修し、各コースの特徴および各学問分野の特徴を学び、自らにふさわしいコースを選択します。

（2）2年次から3年次にかけては、所属するコースの必修科目および選択科目を中心に履修し、高度な専門的能力、深い洞察力、問題解決能力を養います。特に「人間行動演習Ⅰ」「人間行動演習Ⅱ」は少人数のゼミ形式で行われ、各自のテーマについて研究を深めていきます。

（3）4年次には「卒業研究Ⅰ」「卒業研究Ⅱ」を履修し、これまでに養ってきた能力をさらに磨くとともに、それらを活用し、各自のテーマについての研究を卒業論文として完成させます。

地理歴史人類学

地理歴史人類学専攻では、幅広い教養と高度な専門性を段階的に習得できるようカリキュラムを編成しています。年次ごとの主な学習内容は次のとおりです。

（1）1年次には初年次教育の科目として「基礎演習」「アカデミックリテラシー」を履修し、大学における論文・レポートの作成方法やプレゼンテーションの方法、各学問分野における基礎技能などを早期に身につけます。また、1・2年次の間は各学問分野の概論を幅広く学び、それと並行して共通教育科目を履修することによって、総合的な基礎教養を身につけます。

（2）2・3年次には、各コースの専門科目で多様な理論を学ぶだけでなく、実習・実験・巡検・史料講読などの科目を履修し、より実践的な調査研究能力を身につけます。

（3）3年次には、学生の問題意識に応じて履修コースを自主的に選択します。さらに卒業論文作成の準備として「卒業論文演習」を履修し、各分野における先端的な研究について理解を深めます。

（4）4年次には、4年間の学習の集大成として卒業論文を作成します。卒業論文では、自らの問題意識に基づいて課題を設定し、自ら調査して資料を収集・分析し、論文を作成します。さらに専攻主催の卒業論文発表会で研究成果を発表します。

琉球アジア文化

(1) 琉球・沖縄および日本、中国、朝鮮半島を中心とした地域の文化・歴史を認識するために、基礎的な知識を身につける「琉球アジア研究入門」、1年次以降に第一外国語、第二外国語、各コースの「概論Ⅰ・Ⅱ」、2年次以降に各コース設置の講義科目を履修することで、これらの地域の歴史・民俗・文学・言語に関する知識と読解・研究の方法を段階的に習得します。

(2) 琉球・沖縄および日本、中国、朝鮮半島を中心とした地域に関する歴史・民俗・文学・言語を理解し、地域および国際的な場で活躍するために、3年次で各コースの「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次で「演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業論文」を履修することで、課題を自ら設定し、多角的に研究、解決して発信する能力を習得します。

(3) 異なる文化背景を持つ人々と平和的に共生するために、1年次以降に各コースの「概論Ⅰ・Ⅱ」を幅広く履修し、異文化および自らの文化への理解を深めます。また、2年次以降、各コースの実習科目を履修し、様々な文化を直接に調査、研究することで他者と共生する能力を習得します。

(4) 1年次の「基礎演習」、「情報科学演習」によってレジュメ・レポートの作成、情報の収集・整理、意見交換等の基礎的方法を習得します。3年次で各コースの「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次で「演習Ⅰ・Ⅱ」、「卒業論文」を履修して自ら設定した研究課題に関する資料・論文を作成、発表し、さらに他者との議論、意見交換を通して、自らの考えを論理的に伝達する能力を習得します。

英語文化

(1) 1年次～4年次まで全ての学年で提供されている必修の英語科目を履修することにより、4技能のバランスのとれた高度な英語運用能力を修得します。

(2) 共通教育の「情報科学演習」や専門科目の「基礎演習」、「リーディングⅠ、Ⅱ、Ⅲ」、「メディアの英語Ⅰ」等を1年次から3年次にかけて履修し、言語系・文学系の専門科目を1年次から4年次にかけて履修することにより、自主的情報収集能力、情報の整理・分析能力、主体的な見解を導く能力を身につけます。

(3) 2年次の「ライティングⅠ、Ⅱ」、「オーラルコミュニケーションⅠ、Ⅱ」、3年次の「上級英語演習」、4年次の「高等英語セミナーⅠ、Ⅱ」等を段階的に履修することにより、自らの意見を説得力ある英語で伝達する能力を修得します。

(4) 2年次の「異文化理解」、3年次の「口頭英語表現Ⅰ」、4年次の「高等英語セミナーⅠ、Ⅱ」などの専門基礎科目や、文学系・言語系の専門科目を履修することにより、多様な見解や価値観を学び、自らの意見に反映させる能力を身につけます。

(5) 文学系の必修科目（「英米文学概論」、「イギリス文学概論」、「アメリカ文学概論」等）や言語系の必修科目（「言語コミュニケーション概論Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」等）を履修することにより、地球的規模で物事を判断し行動する能力を身につけます。また、これらの科目に加えて共通教育の第2外国語や専門科目の「メディアの英語Ⅰ」等を履修することにより、異なる文化背景をもつ人々と協力し、共生できる能力の向上を図ります。

🟡 観光産業科学部

観光学

(1) 1年次前期では、学科必修科目である「基礎演習」「情報処理演習」によるスタディスキル、ICT社会に対応した情報処理技術の基礎を学びます。また、観光を科学する人材として身につけておくべき研究倫理について、学問の基本的なルールとしての情報リテラシー（情報活用能力）の一端として習得します。「沖縄観光入門」では専任教員、招聘講師のオムニバス形式により沖縄観光の現状・課題と展望を多面的に学びます。

(2) 1年次後期から2年次にかけて、学科必修科目として「観光学概論」「観光政策論」「持続可能観光論」「観光経済学」「観光地理学」「観光社会学・基礎」「観光ビジネス論」を履修することで、本学科の大きな特色である文理融合型の学際的アプローチから観光を科学する視点を養います。

(3) 2年次から4年次にかけて、本学科のコンセプトであるサステナブルツーリズム（持続可能観光）を基盤とする分野別専門科目を選択履修していきます。3つの専門領域群として「ツーリズム・デベロップメント（7科目）」、「ツーリズム・ビジネス（10科目）」、「ツーリズム・リソースマネジメント（12科目）」から、学生のニーズに沿って柔軟に選択できるカリキュラムを編成しています。これらの履修を通して学際的かつ総合的に観光分野の専門知識を習得します。

(4) 2年次後期から各研究室(ゼミ)に分かれテーマに準じた演習を進めます。学生定員は3~12名の小規模クラスとし、4年次においては卒業研究に取り組みます。「観光学プレ演習」(2年次)、「観光学演習Ⅰ」(3年次)、「観光学演習Ⅱ」(4年次)と、一貫した指導により、それぞれ独自の研究テーマを見出し、論理的思考の涵養、課題解決法や専門性向上に資する能力を養います。

(5) 観光英語科目群の設置：1年次の「観光学概論」では、英語による専門教材で観光分野の基礎的理解を図ります。また、1年次から4年次を通して「ホスピタリティ英語Ⅰ・Ⅱ」「観光ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ」を選択必修科目として履修します。さらに、双方向型のハワイ大学との遠隔(現地の担当教員によるオン・キャンパス・クラスも含む)「TourismDevelopment of Hawaii」を履修することで、コミュニケーション能力の向上を目指すとともに、国際理解、地域社会の多面的理解を図ります。

(6) 学科特色科目群の設置：2年次から4年次にかけて、「エコツーリズム入門」「ヘルスツーリズム論」「自然観光資源概論」「文化観光資源概論」「MICEビジネス概論」「ホスピタリティ中国語Ⅰ・Ⅱ」「ホスピタリティ韓国語」など、本学の地域特性およびアジアを重点市場とした外国人観光客受入れ体制の理解を促進する特色ある科目群を配置しています。3年次の「インターンシップ」では、実際の職場体験を通し、高度な専門職業人に必須の実務的な観光マネジメント能力の養成に向けて、理論的アプローチと実践的アプローチの両立を図ります。

○ 理学部

地学系

琉球大学のカリキュラム・ポリシーに基づき、以下の方針に則りカリキュラムを編成・実施します。

[教育課程編成の方針]

ディプロマ・ポリシーに掲げた人材育成の目標を達成するために、以下に示す方針に基づいて4年間一貫した教育課程を編成・実施します。

共通教育科目、専門基礎科目及び専門教育科目を体系的に編成し、講義、演習、実験、実習を適切に組み合わせた授業科目を開講します。教育課程については、履修モデルやナンバリングを用いてその体系性や構造を明示します。

- (1) 共通教育科目及び専門基礎科目は、自然科学全般及び地球科学に関する基礎学力を身に付けるために編成されています。
- (2) 専門教育科目では、大気圏・水圏・地圏で起きる地球科学に関する専門的な学力を身に付けるために編成されています。
- (3) 専門分野の体系性に基づき固体地球コースと大気海洋コースを設けています。

[教育課程における教育・学習方法に関する方針]

講義・演習・実験・実習・実技などの適切な授業形態を組み合わせ、各授業科目を必修科目、選択科目などに分け各年次に配当し、授業形態に応じて、学生が主体的な学びを実践できるよう効果的な教育方法を取り入れます。

自然科学、特に海洋・亜熱帯・島嶼の地球科学に重点を置いた諸分野の教育・研究を通して、真理を愛し、自主的精神に満ち、自主的行動ができる人間として、地球環境問題や社会問題の解決に寄与できる学習能力を養うために、学生が主体となる実践性のある教育を行います。

(1) 「海洋地学実習」ではフィールド(野外)調査の基礎を習得し、琉球列島の成り立ちを理解し、自然科学の奥深さと幅広さ、面白さを体験します。

(2) 論理的な表現能力を身に付けるため、1年次の「基礎ゼミ」では日本語作文技術の向上を目指します。2年次からは、専門科目を通して、海洋・亜熱帯・島嶼の地学に重点を置いた専門的知識と技能を習得し、視野の拡大を図ります。4年次の「海洋地学セミナー」では学術研究論文の紹介を行い、過去の優れた研究や最先端技術による最新の研究成果にふれることで、柔軟な思考力を培います。また卒業論文をまとめることで、論理的な表現力を身に付けます。

(3) プレゼンテーション能力及び自己表現力を培うため、1年次の「情報科学演習」及び「基礎ゼミ」では、効果的なプレゼン資料の作成方法を学習します。「大学英语」やその他の英語関連科目を受講し、国際化に対応できる英語でのコミュニケーション能力を身に付けます。3~4年次の「海洋地学研究法」や「海洋地学セミナー」では、英語テキストの要約や国際学術論文の紹介を行います。

(4) 4年次の「海洋地学セミナー」や「卒業研究」では、具体的な研究テーマに主体的に取り組むことで、地球科学の理念と社会的役割を認識し、多様な情報を分析し、総合的に問題解決ができる能力を身に付けます。

[学習成果の評価の方針]

成績評価は、「琉球大学における成績評価に関するガイドライン」に基づき、授業科目の達成目標と教育プログラムの学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)との関連を示し、基準となる目標に達成したかを測定できるよう、定期試験、小テスト、レポート、実演、学習記録及び発表・報告等、多面的に適切な方法を選択又は組み合わせで行います。

シラバスにおいて授業内容と方法、達成目標、評価基準と評価方法を明確に提示して客観的に評価するとともに、学生調査結果等を組織的に検証することにより、4年間の学習成果を総合的に評価し、教育の質保証の継続的改善に取り組みます。

- (1) 講義科目は、毎回の授業の最後に行うショートテスト、中間試験、期末試験、レポートの成績により評価します。
- (2) 演習・実験・実習は、レポートを課し、目的、観察・観測結果、考察が的確にまとめられているかを評価します。海外実習など一部の科目に

については、公開報告会を開き、上記に加えて、質疑応答の結果も評価に加味します。

(3) 卒業研究は、目的、先行研究、検証すべき仮説、仮説を検証するための方法、データ取得、結果、考察が的確にまとめられているかについて、公開発表会での発表と質疑の内容及び提出された論文を基に、所属全教員による評価を行います。

(4) 卒業時に学生アンケート調査を行い教育の継続的改善を行います。

○ 工学部

機械システム工学 学士教育プログラム

[教育課程の内容・特色]

学習教育目標を達成した機械システムのエンジニアを目指し、1年次では機械工学を概観した導入科目と、専門分野を学ぶために必要な数学や力学といった基礎的な科目を学び、2年次では、学科共通と三分野から、材料力学や工作・材料学、熱や流体の力学、制御工学等の必修科目を中心に、機械工学に関する知識と技能をバランスよく学びます。3年次以降では、技術者倫理と各分野の応用能力を高めるために、より専門性の高い科目を学び、4年次では卒業研究に注力します。他に、習得したことを基に自ら課題解決を行う実体験型カリキュラムとして、基礎製図や設計製図、少人数のグループに分かれての加工学実習、工学実験などがあります。また、本学科には、時間にゆとりを持って学ぶことができる昼間主コースと、少人数教育で、社会人も学ぶことのできる夜間主コースがあります。

電気電子工学 学士教育プログラム

[教育課程の内容・特色]

本学科では、入学から卒業まで各教員が学生をきめ細かく指導しながら本学科の学習・教育目標を達成するための学習プログラムを提供しています。初年次では電気電子技術者としての基礎学力の修得から始まり、幅広い電気電子工学の広がり理解すると共に興味深い分野を特化しながら専門的な課題に取り組む素地の獲得を目指します。高年次では実験や演習を通して養う自主学習能力や技術者としての倫理観を修得し、最終的には卒業研究を通して技術者には欠かせない問題解決能力の獲得を目指します。さらに、幅広い教養を身につけるための人文・社会科学や国際的なコミュニケーション能力の向上のための外国語を提供し、国際的に活躍できる電気電子技術者を育成します。

前文

琉球大学は、1950年、沖縄戦により灰燼に帰した首里城の跡地に創設された。米国の統治下で、戦後復興と教育再興という住民の強い要望が米国軍政府を動かし、琉球列島初の大学が創設されたのであった。その後、1966年に琉球政府立となり、1972年の日本復帰と同時に国立大学となった。また、1977年に西原町・宜野湾市・中城村の3市町村の接点地域にある広大な新キャンパスへ移転し、2004年には国立大学法人となって、現在に至っている。その間、琉球大学は学問の自由や大学の自治への干渉等、幾多の歴史的試練を経ながらも、地域の人材養成と知の創造に大きく貢献してきた。

21世紀を迎え、大学を取り巻く環境は大きく変化している。経済・社会のグローバル化をはじめ、情報化、少子高齢化、社会的・地域的格差の拡大等の課題に対応して、教育研究機関の役割が多様化するとともに、革新的な取り組みが問われている。とくに国立大学は法人化後、厳しい財政改革を伴う競争と評価の時代を迎えている。琉球大学に対しては、広大な海域を含む島嶼地域における拠点大学として、豊かな自然環境を守り、地域社会の持続的発展に寄与することが求められている。琉球大学は、この憲章に掲げる理念に基づいて、本学の構成員である教職員・学生の協働により、将来の制度変革にも積極的に対応する。

琉球大学は、沖縄の歴史的教訓としての「命(ぬち)どう宝(命こそ宝)」という生命および個人の尊厳の考え方を根本に置き、「再び戦争の惨禍が起こることのないように」とする戦後沖縄の教育原点を深く自覚する。琉球大学は、自然的・文化的・歴史的特性を有する琉球列島にあって、世界の平和と福祉の向上を目指す人間性豊かな責任ある人材養成に果敢に挑戦することを、今後も変わることのない使命とする。

私たち琉球大学の教職員・学生は、「自由平等、寛容平和」の建学の精神を継承・発展させ、「地域特性と国際性を併せ持つ個性豊かな大学」を創り上げる決意を高らかに宣言し、自らが主体となって行動を起こす際の依るべき根本規範として、ここに琉球大学憲章を制定する。

第1章 教育

(教育の目的と理念)

1. 琉球大学は、学生が学習権の主体であることを踏まえ、教育を重視する大学として「自由平等、寛容平和」に満ちた社会の形成者を育成することを教育の目的とする。また、自主自立の精神に基づく教育活動を通して、社会全体の持続可能な発展に寄与することを教育の理念とする。

(教育における責務と社会的評価)

2. 琉球大学は、すべての人々に生涯を通じた教育の機会をひとしく提供し、高等教育機関にふさわしい教育活動を維持、強化、発展させることを責務とする。また、琉球大学は、教育活動において社会に対する責任を負っており、前項に掲げる教育の目的と理念に照らし合わせ、社会的評価を受けることを深く自覚する。

(多文化交流の推進)

3. 琉球大学は、琉球列島が多様な文化を育んできた地域であること、また、多角的な文化交流によって心豊かな人間性が培われることに鑑み、人類が地球上に開花させてきたあらゆる文化を尊重し、交流を推進する。

第2章 研究

(研究の理念)

1. 琉球大学は、学問の自由を尊重し、基礎研究と応用研究は研究活動の両輪であることを踏まえ、知を継承・創造し、発展させることを研究の理念とする。

(地域特性)

2. 琉球大学は、基盤研究の重要性を認識した上で、特色ある自然・文化・歴史を有する琉球列島の地域特性を活かした研究を多様な視点から展開し、世界水準の個性的な研究拠点たることを目指す。

(研究交流の推進)

3. 琉球大学は、地域社会と情報を共有するとともに、国内の機関およびアジア・太平洋地域をはじめとした諸外国の機関との研究交流を推進し、世界に向けて成果を発信する。

（研究における責務と社会的評価）

4. 琉球大学は、知の継承・創造・発展という研究理念を実現する責務と社会から求められる役割との均衡をとりながら、健全な研究体制の維持・発展に努める。研究は、社会的倫理と規範を遵守しつつ、学術的批判および社会的評価を受けながら進められるべきである。

第3章 社会貢献

（開かれた大学と社会的使命）

1. 琉球大学は、社会に「開かれた大学」として、人と人とを結びつける大学を目指す。また、大学が社会を変え、社会が大学を変えるという相互関係を自覚し、琉球列島における最高学府として本学の社会的使命を果たすべく、不断の努力を行う。

（社会との協働）

2. 琉球大学は、学術的に確立した知識・技術を社会に還元するだけでなく、社会と共有する諸課題の解決に取り組む対等のパートナーとして、多様な個人・団体と協働する。

（地域社会の持続的発展への責任）

3. 琉球大学は、地域社会の再生に取り組むとともに、豊かな自然環境を守り、持続可能な地域社会の発展に寄与する責任を担う。

第4章 大学運営

（基本的人権の尊重）

1. 琉球大学は、基本的人権を尊重し、人種、信条、性別、国籍、障害等による差別をしない。また、自らの保有する情報を積極的に公開するとともに、個人情報保護を図る。琉球大学は、すべての構成員がその個性と能力を発揮しうよう、教育・研究・労働環境の整備を図る。

（民主的な大学運営と効率的経営）

2. 琉球大学は、学問の自由と大学の自治を保障するため、民主的な大学運営と教育・研究を支援する効率的な経営を行う。また、法人化後の大学をとりまく環境に対応し、競争と評価に耐えうる財政基盤の確立と健全な経営に努める。

（自律と連帯）

3. 琉球大学は、教職員の自律と連帯に基づく知的共同体を形成し、教職員と学生が一体となって創造・発展する大学を目指す。本学の構成員は、全学的な視点に立ち、それぞれの役割と責任を主体的に果たし、社会の多様な意見を本学の運営に反映させるよう努める。

終章 平和への貢献

沖縄は、アジア諸国間の平和と友好の架け橋として「万国津梁」を担った歴史と沖縄戦において「鉄の暴風」と呼ばれる激戦地とされた歴史を有する。また、戦後の長い米軍統治を経て日本に復帰した現在も、沖縄には広大な米軍基地が存在する。このような沖縄の歴史と現状を踏まえ、琉球大学は、国際平和の構築に貢献する。

琉球大学は、倫理・人道を尊重し、この憲章に掲げる教育、研究、社会貢献、大学運営における目的、理念に基づき、平和に寄与する。

（憲章の改正）

この憲章の改正は、別に定める手続きにより行う。

附則

この憲章は、平成19年5月22日から施行する。

基本理念

琉球大学は、建学の精神である「自由平等、寛容平和」を継承・発展させて、「真理の探求」、「地域・国際社会への貢献」、「平和・共生の追求」を基本理念とする。

基本的な目標

琉球大学は、多様性に富む特色ある自然環境のもとに多彩な歴史を歩んできた沖縄の地に、「高等教育の場を」という人々の熱意に支えられて創設された総合大学である。その創設以来一貫して、この地域の学術文化の中心として、地域の発展に寄与する学術研究を推進し、地域社会を牽引する多くの人材を育成・輩出することを通じて、地域の発展に貢献してきた。この伝統に立脚し、本学は創立100周年を迎える2050年の本学の姿を見据えた長期ビジョンとして、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」、「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」を掲げている。

本学では、これらの基本的ビジョンを基盤に、第4期中期目標期間およびSDGsの掲げる2030年を視野に入れた「琉球大学の中期将来ビジョン」を策定した。それに基づいた以下の取組を通じて、第4期中期目標・中期計画の実現を目指す。

○ 【教育】

沖縄の多様な自然環境、固有の文化、島相互あるいは周辺諸国・地域との関わりの歴史などの地域特性を活かして、学修者本位の教育を行い、優れた人材を社会に輩出する。

○ 【研究】

基礎的かつ普遍的な人類共通の課題と、沖縄に特徴的な島嶼、海洋、亜熱帯、医学および歴史・文化等に関する研究に取り組むとともに、斬新な研究を戦略的に推進し、それらの成果を積極的に発信する。

○ 【地域連携】

本学が有する豊富な知識と知恵を活かした地域との様々な連携を基盤に、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」として、地域の発展に貢献する。

○ 【国際連携】

沖縄の特色ある地理的条件と歴史的経験から得た知恵を活かした、多様な国際的協働関係を通じて、「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」を目指した活動を推進する。

○ 【医療】

亜熱帯域に位置する島嶼であるがゆえに存在する特有の医療課題の解明と解決を目指し、先端的医療の推進を通じて、地域医療を主導する。

○ 【大学運営】

学長のリーダーシップのもと、ガバナンス改革を推進するとともに、構成員の協働により、学生にとっては学びがいきなり、教職員にとっては働きがいきなり、地域にとっては頼りがいのある大学への歩みを強める。

琉球大学学則

(目的)

第1条

本学は、広く教養的知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

琉球大学大学院学則

(目的)

第1条

琉球大学大学院（以下「大学院」という。）は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、又は高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培い、文化の進展に寄与することを目的とする。

2. 大学院のうち専門職大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことを目的とする。

建学の精神

「自由と平等・寛容と平和」

1950年創設の翌年（1951年）、第16代アメリカ合衆国大統領アブラハム・リンカーンの誕生日を選んで2月12日開学記念式典を挙行了た。リンカーンにあやかり、琉球大学は戦後の平和な社会建設の礎として「自由と平等・寛容と平和」の理想をかかげて建学の精神とした。

○琉球大学学則

(1972年3月27日制定)

改正	昭和47年8月29日	昭和48年3月23日	昭和49年1月31日
	昭和49年2月28日	昭和50年4月1日	昭和50年5月27日
	昭和51年2月24日	昭和52年3月26日	昭和53年4月1日
	昭和54年1月31日	昭和54年3月31日	昭和54年8月28日
	昭和54年12月26日	昭和55年3月27日	昭和56年2月27日
	昭和56年11月28日	昭和57年3月31日	昭和57年4月20日
	昭和58年10月25日	昭和59年3月27日	昭和59年4月11日
	昭和61年3月31日	昭和62年4月1日	昭和62年5月21日
	昭和63年2月23日	昭和63年4月1日	昭和63年4月8日
	平成元年4月1日	平成2年4月1日	平成3年2月19日
	平成3年4月1日	平成3年4月12日	平成3年5月21日
	平成3年8月27日	平成4年3月27日	平成5年3月30日
	平成5年9月28日	平成5年10月12日	平成6年3月22日
	平成7年3月28日	平成8年3月26日	平成9年3月25日
	平成10年3月31日	平成11年3月31日	平成11年7月14日
	平成12年2月22日	平成12年3月31日	平成13年3月30日
	平成14年3月29日	平成14年12月17日	平成15年2月4日
	平成15年4月1日	平成15年4月21日	平成15年9月19日
	平成16年4月1日	平成17年3月15日	平成17年6月28日
	平成17年9月27日	平成18年1月24日	平成18年3月16日
	平成18年3月28日	平成18年12月25日	平成19年3月27日
	平成19年12月11日	平成20年2月6日	平成20年2月18日
	平成20年2月28日	平成20年4月22日	平成20年6月24日
	平成21年1月27日	平成21年3月24日	平成21年4月1日
	平成21年4月28日	平成22年1月26日	平成22年3月30日
	平成23年1月25日	平成23年11月22日	平成24年3月27日
	平成24年6月26日	平成24年12月25日	平成26年1月28日
	平成26年7月29日	平成26年10月21日	平成26年12月16日
	平成27年3月24日	平成27年6月23日	平成27年11月24日
	平成28年2月23日	平成28年6月28日	平成28年9月27日
	平成28年12月27日	平成29年2月8日	平成29年3月30日
	平成29年5月23日	平成29年12月20日	平成29年12月27日
	平成30年2月28日	平成30年3月27日	平成31年1月25日

平成31年2月27日 令和2年4月1日 令和3年3月9日
令和3年12月22日 令和4年3月2日 令和5年3月2日
令和6年2月28日 令和6年3月27日

第1章 総則

(目的)

第1条 琉球大学(以下「本学」という。)は、広く教養的知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、その目的を実現するための教育研究を行い、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

(教育研究上の目的)

第2条 本学は、学部、学科又は課程等ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学部規程等に定めるものとする。

(教育研究活動等の状況の公表)

第3条 本学は、教育研究の成果の普及及び活用の促進に資するため、その教育研究活動等の状況を公表するものとする。

2 前項の教育研究活動等の状況の公表については、学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第172条の2に定めるところによる。

第2章 学部、学科及び課程

(学部及び学科又は課程)

第4条 本学の教育研究上の目的を達成するため、次の学部及び学科又は課程を置く。

人文社会学部 国際法政学科、人間社会学科、琉球アジア文化学科

国際地域創造 国際地域創造学科

学部

教育学部 学校教育教員養成課程

理学部 数理科学科、物質地球科学科、海洋自然科学科

医学部 医学科、保健学科

工学部 工学科

農学部 亜熱帯地域農学科、亜熱帯農林環境科学科、地域農業工学科、亜熱帯生物資源科学科

2 前項の国際地域創造学部国際地域創造学科に、学生の教育上の区分として、主として昼間に授業を行うコース(以下「昼間主コース」という。)及び主として夜間に授業を行うコース(以下「夜間主コース」という。)を置く。

第3章 収容定員等

(入学定員、特別編入学定員及び収容定員)

第5条 前条第1項の各学部に置く学科又は課程の入学定員、特別編入学定員及び収容定員は、次の表に掲げるとおりとする。

学部	学科	入学定員	第3年次特別編入学定員	収容定員
人文社会学部	国際法政学科	80人	4人	328人
	人間社会学科	80人	4人	328人
	琉球アジア文化学科	40人	2人	164人
	小計	200人	10人	820人
国際地域創造学部	国際地域創造学科			
	昼間主コース	265人	8人	1,076人
	夜間主コース	80人	12人	344人
	小計	345人	20人	1,420人
教育学部	学校教育教員養成課程	140人		560人
理学部	数理科学科	40人		160人
	物質地球科学科	65人		260人
	海洋自然科学科	95人		380人
	小計	200人		800人
医学部	医学科	100人	※5人	625人
	保健学科	60人		240人
	小計	160人	※5人	865人
工学部	工学科	350人	20人	1,440人
農学部	亜熱帯地域農学科	35人		140人
	亜熱帯農林環境科学科	35人		140人
	地域農業工学科	25人		100人
	亜熱帯生物資源科学科	45人	5人	190人
	小計	140人	5人	570人
合計		1,535人	55人 ※5人	6,475人

備考 ※印を冠するものは、第2年次特別編入学定員を示す。

第4章 修業年限、在学期間、学年、学期及び休業日

(修業年限)

第6条 本学の修業年限は、4年とする。ただし、医学部医学科にあつては、6年とする。

(修業年限の通算)

第7条 第17条第1項の規定に該当する者の既修得単位が第57条第1項の科目等履修生として修得したものであるときは、各学部は当該単位数、その修得に要した期間その他必要と認める事項を勘案し相当の期間を修業年限に通算することができる。ただし、通算する期間は、前条に規定する修業年限の2分の1を超えてはならない。

(在学期間)

第8条 学生は、修業年限の2倍を超えて在学することができない。ただし、第32条第1項、第33条第1項及び第2項、第34条第1項並びに第35条第1項の規定により入学した学生は、入学後の在学すべき年数の2倍を超えて在学することができない。

(学年)

第9条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第10条 学年を次の2学期に分ける。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年の3月31日まで

2 前項の規定にかかわらず、医学部医学科にあつては、第2年次以降は次の3学期とする。

第1学期 4月1日から8月31日まで

第2学期 9月1日から12月31日まで

第3学期 翌年の1月1日から3月31日まで

3 学長は、前2項の学期の期間を必要に応じて変更することができる。

(休業日)

第11条 休業日は、次のとおりとする。

(1) 日曜日及び土曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律178号)に規定する休日

2 春季、夏季及び冬季の休業日は、教育研究評議会の議を経て学長が別に定める。

3 臨時休業日は、その都度学長が定める。

4 休業日の期間中でも、必要な実習その他を課すことができる。

第5章 教育課程、履修方法等

(教育課程の編成方針)

第12条 教育課程は、本学、学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

(教育課程の編成方法等)

第13条 各学部及び学科等は、各授業科目を必修科目、選択科目及び自由科目に分け、これを各年次に配当して教育課程を編成するものとする。

2 本学は、学生が所属する学部及び学科等の教育課程以外に、学際的テーマ又は特定の学問分野について、学生の複眼的な思考力、統合的な理解力等を育成するための教育課程(以下「副専攻」という。)を開設し、その学修成果を認定することができるものとする。

3 前項の副専攻に関し、必要な事項は別に定める。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第 14 条 本学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修)

第 15 条 学長は、教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生が当該大学又は短期大学において履修した科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 学長は、教育上有益と認めるときは、休学している学生が他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 前 2 項の規定により修得したものとみなすことができる単位は、当該学部教授会の議に基づき、60 単位を限度として、卒業の要件となる単位として取り扱うことができる。

(大学以外の教育施設における学修)

第 16 条 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、当該学部教授会の議に基づき、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項の規定により与えることができる単位数は、当該学部教授会の議に基づき、前条の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を限度として、卒業の要件となる単位として取り扱うことができる。

(入学前の既修得単位等の認定)

第 17 条 教育上有益と認めるときは、学生が本学入学前に大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学において履修した授業科目について修得した単位(大学設置基準(昭和 31 年文部省令第 28 号)第 31 条の規定により科目等履修生として修得した単位を含む。)を、当該学部教授会の議に基づき、本学入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学入学前に行った前条第 1 項に規定する学修を、本学入学後の学修とみなし、単位を与えることができる。

3 前 2 項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位については、編入学、転入学及び再入学の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについて、当該学部教授会の議に基づき、第 15 条第 1 項及び前条第 1 項の規定により修得したものとみなす単位数と合わせて 60 単位を限度として、卒業の要件となる単位として取り扱うことができる。

(長期にわたる教育課程の履修)

第 17 条の 2 学長は、学生が職業を有している等の事情により、第 6 条に規定する修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項の規定により教育課程の計画的な履修を認めることができる期間は、第 8 条に規定する在学期間を超えることはできない。

3 前 2 項に規定するもののほか、長期にわたる教育課程の履修に関し必要な事項は、別に定める。

(大学院授業科目の履修)

第 17 条の 3 学長は、本学の大学院(以下「大学院」という。)に進学を希望する学生が、学業優秀と認めるときは、その者の申し出により、大学院の授業科目の履修を認めることができる。

2 前項に規定するもののほか、学生による大学院の授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。

(特別の課程の履修証明)

第 18 条 本学は、文部科学大臣の定めるところにより、本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成し、これを修了したものに対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。

(授業の方法)

第 19 条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 文部科学大臣が別に定める(平成 13 年 3 月 30 日文部科学省告示第 51 号)ところにより、前項の授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(授業科目の区分)

第 19 条の 2 授業科目は、その内容により共通教育、専門基礎教育及び専門教育の科目群に分ける。

(共通教育、専門基礎教育及び専門教育の運営)

第 20 条 共通教育、専門基礎教育及び専門教育の運営については、別に定める。

(履修方法)

第 21 条 授業科目の種類、単位数又は授業時間数、履修方法等は、別に定める。

(単位)

第 22 条 授業科目の単位の計算方法は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該教授による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次項から第 4 項までの基準により単位数を計算するものとする。

2 共通教育及び専門基礎教育については、次のとおりとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、外国語科目については、教育上必要と認められる場合には、30時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、専門基礎科目の実験については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合において、講義及び演習については係数3(ただし、外国語科目において教育上必要と認められる場合には係数1.5とする。)、実験、実習及び実技については係数1.5(ただし、専門基礎科目の実験については係数1とする。)に対し、それぞれの授業時間を乗じて得た数値の和が45時間の授業をもって1単位とする。

3 専門教育については、次のとおりとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で各学部規程で定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で各学部規程で定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、当該学部規程で定める時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、各学部規程で定める時間の授業をもって1単位とする。

4 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適当と認められる場合には、これらに必要な学修を考慮して、単位数を各学部規程で定めることができる。

(単位の授与及び授業科目の履修の認定)

第23条 授業科目を履修した者には、試験及び出席状況その他によって認定の上、単位を与える。ただし、医学部医学科の専門教育科目については、授業科目の履修の認定を行う。

(成績の評価)

第24条 成績の評価は、A、B、C、D又はFの5種の評語をもって表し、A、B、C及びDを合格としFを不合格とする。ただし、現業実習等の場合は、P又はFの評語をもって表し、Pを合格としFを不合格とする。

(成績評価基準等の明示等)

第25条 本学は学生に対して、授業の方法及び内容並びに一年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学は学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行うものとする。

(1 年間の授業期間)

第 26 条 1 年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35 週にわたることを原則とする。

第 6 章 入学、編入学、転入学、再入学、留学等

(入学)

第 27 条 入学の時期は、学年の初めとする。ただし、再入学については、学期の初めとすることができる。

(入学資格)

第 28 条 本学の入学資格は、次のとおりとする。

- (1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
- (2) 通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者
- (3) 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の認定したもの
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程に相当する課程を有するものとして指定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程(修業年限が 3 年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。)で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則(平成 17 年文部科学省令第 1 号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程(昭和 26 年文部省令第 13 号)による大学入学資格検定に合格した者を含む。)
- (8) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18 歳に達したもの

(入学志願手続)

第 29 条 入学を志願する者は、所定の期日までに入学願書に入学検定料及び別に定める書類を添えて願出しなければならない。

(入学者の選抜)

第 30 条 入学志願者に対しては、選抜試験を行う。

(入学手続及び入学許可)

第 31 条 選抜試験の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、誓約書その他必要な書類を提出するとともに、入学料を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に入学を許可する。ただし、第 50 条に規定する者については、入学料の未納にかかわらず入学を許可することができる。

(編入学)

第 32 条 次の各号の一に該当する者で、編入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、学長は、当該学部教授会の議を経て相当年次に入学を許可することができる。

- (1) 大学を卒業した者又は大学において 2 年以上在学し退学した者
- (2) 短期大学、高等専門学校、旧国立工業教員養成所又は旧国立養護教諭養成所を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程(修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)第 90 条第 1 項に規定する者に限る。)
- (4) 高等学校の専攻科の課程、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の専攻科の課程(修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。)
- (5) 学校教育法施行規則附則第 7 条の規定により大学に編入学できる者
- (6) 外国において、学校教育における 14 年以上の課程を修了した者

2 前項に規定するもののほか、編入学に関し必要な事項は、別に定める。

(特別編入学)

第 33 条 次の各号の一に該当する者で、人文社会学部の国際法政学科、人間社会学科及び琉球アジア文化学科、国際地域創造学部国際地域創造学科、工学部工学科並びに農学部亜熱帯生物資源科学科の第 3 年次特別編入学定員により編入学を志願する者については、学長は、当該学部教授会の議を経て入学を許可することができる。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 短期大学、高等専門学校、旧国立工業教員養成所又は旧国立養護教諭養成所を卒業した者
- (3) 専修学校の専門課程(修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。)
- (4) 高等学校の専攻科の課程、中等教育学校の後期課程又は特別支援学校の高等部の専攻科の課程(修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。)を修了した者(学校教育法第 90 条第 1 項に規定する者に限る。)
- (5) 修業年限 4 年以上の大学に 2 年以上在学し、所定の単位を修得した者
- (6) 学校教育法施行規則附則第 7 条の規定により大学の第 3 年次に編入学できる者
- (7) 外国において、学校教育における 14 年以上の課程を修了した者

2 次の各号の一に該当し、医学部医学科の第2年次特別編入学定員により編入学を志願する者については、学長は、当該学部教授会の議を経て入学を許可することができる。

(1) 大学を卒業した者(他の大学(外国の大学を含む。))において、本学の医学部医学科に相当する学科等に在学し、これを卒業した者及び現に在学している者を除く。)

(2) 学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

(3) 外国において、学校教育における16年以上の課程を修了した者

3 前2項に規定するもののほか、特別編入学に関し必要な事項は、別に定める。

(転入学)

第34条 他の大学に在学中の者で、本学に転入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、学長は、当該学部教授会の議を経て相当年次に入学を許可することができる。

2 転入学を志願する者は、現に在学する大学の学長の許可書を願書に添付しなければならない。

3 前2項に規定するもののほか、転入学に関し必要な事項は、別に定める。

(再入学)

第35条 次の各号の一に該当する者で、退学後又は除籍後4年以内に同一学科又は課程(当該学科又は課程について改組等があった場合は、改組等の後の学科又は課程を含む。)に再入学を志願する者があるときは、学長は、当該学部教授会の議を経て相当年次に入学を許可することができる。

(1) 第41条による退学者

(2) 第42条第5号、第6号、第7号及び第8号の規定により除籍された者

2 前項に規定するもののほか、再入学に関し必要な事項は、別に定める。

(転学部、転学科又は転課程)

第36条 本学の学生で、転学部、転学科又は転課程を志願する者があるときは、学期の初めに、学長は、関係学部教授会の議を経て相当年次に転学部、転学科又は転課程を許可することができる。

2 前項に規定するもののほか、転学部、転学科又は転課程に関し必要な事項は、別に定める。

(転学)

第37条 本学の学生で他の大学へ入学又は転入学をしようとする者は、学部長を経て学長の許可を得なければならない。

(留学)

第38条 外国の大学又は短期大学に留学を志願する学生は、学部長を経て学長の許可を受けなければならない。

2 第15条の規定は、学生が留学する場合について準用する。この場合において「他の大学又は短期大学」とあるのは、「外国の大学又は短期大学」と読み替えるものとする。

第7章 休学、復学、退学及び除籍

(休学)

第39条 病気その他の理由により修学を中止しようとする者は、医師の診断書その他の理由書を添え、学部長を経て願い出、学長の許可を得て休学することができる。

2 病気その他の理由により修学が不相当と認められる者に対しては、学長は、当該学部教授会の議を経て必要な期間休学を命ずることができる。

3 休学期間は、当該学期又は学年の終わりまでとする。ただし、特別の理由があるときは、休学期間を延長することができる。

4 休学期間は、通算して4年を超えることはできない。ただし、医学部医学科にあっては、通算して6年を超えることはできない。

5 第32条第1項、第33条第1項及び第2項、第34条第1項並びに第35条第1項の規定により入学した学生の休学期間は、入学後の在学すべき年数を超えることができない。

6 休学期間は、第6条に規定する修業年限及び第8条に規定する在学期間に算入しない。

(復学)

第40条 休学期間の満了した者又は休学期間満了前にその理由が消滅した者は、所定の期日までに学部長を経て願い出、学長の許可を得て復学することができる。

2 病気による休学者が復学しようとするときは、医師の診断書を添付するものとする。

(願い出による退学)

第41条 退学しようとする者は、学部長を経て願い出、学長の許可を得なければならない。

(除籍)

第42条 次の各号の一に該当する者は、当該学部教授会の議を経て、学長が、これを除籍する。

(1) 死亡した者又は長期間にわたり行方不明の者

(2) 第8条に規定する在学期間を超えた者

(3) 第39条第4項及び第5項に規定する休学期間を超えて、なお復学できない者

(4) 病気その他の理由により、成業の見込みがないと認められる者

(5) 休学期間満了後、所定の手続をしない者

(6) 入学料の免除若しくは徴収猶予を不許可とされた者又は入学料の一部免除若しくは徴収猶予を許可された者で、所定の期日までに納付すべき入学料を納付しなかった者

(7) 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者

(8) 卒業に要する最終学年を除く1学年の修得単位(第17条第3項により認定された単位は除く。以下この号及び次項において同じ。)が16単位未満の者。ただし、医学部医学科にあっては、第1年次の修得単位が16単位未満の者に限る。

- 2 前項の規定にかかわらず、同項第8号に該当する者が、引き続き次年度も修学を継続する意思を有し、所定の期日までに、その旨を学部長に届け出た場合には、除籍対象から除くものとする。ただし、この規定により、除籍対象から除かれたことがある者及び再入学した者については、この限りでない。
- 3 第1項の規定にかかわらず、同項各号に該当する者(死亡した者を除く。)が、第62条に規定する懲戒の手續の対象となっている場合は、学長は、当該手續が終了するまでの間、除籍を留保することができる。この場合において、当該学生が退学処分を受けたときは、除籍を行わない。
- 4 前3項に規定するもののほか、除籍に関し必要な事項は、別に定める。

第8章 卒業の認定及び学位の授与

(卒業の認定)

第43条 本学に第6条に規定する年限在学し、各学部が定める卒業要件単位数以上を修得し、所定の教育課程を修了した者には、当該学部教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。

- 2 前項に規定する卒業要件単位数のうち、第19条第2項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。ただし、124単位を超える単位数を卒業要件としている場合は、同条第1項の授業の方法により64単位以上の修得がなされていれば、60単位を超えることができる。
- 3 第1項の規定にかかわらず、本学に3年以上在学した者(医学部医学科の課程に在学する者を除く。)が、卒業の要件として各学部にて定める単位を優秀な成績で修得したものと認められ、かつ、学生が卒業を希望する場合には、当該学部教授会の議を経て、学長が卒業を認定することができる。ただし、卒業の認定の基準は、学部規則において定め、公表しておかなければならない。

(学位の授与)

第44条 本学を卒業した者には、学士の学位を授与する。

- 2 学位に関し必要な事項は、別に定める。

第9章 教員の免許状授与の所要資格の取得

(教員の免許状授与の所要資格の取得)

第45条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法(昭和24年法律第147号)及び教育職員免許法施行規則(昭和29年文部省令第26号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

- 2 本学の学部の学科又は課程において当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、別表に掲げるとおりとする。

第10章 検定料、入学料、授業料及び寄宿料

(検定料、入学料、授業料及び寄宿料)

第 46 条 検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額は、国立大学法人琉球大学料金規程(以下「料金規程」という。)の定めるところによる。

(授業料の納付)

第 47 条 授業料は、年額の 2 分の 1 ずつを次の 2 期に分けて納付しなければならない。ただし、これにより難い特別の事情がある場合は、学長が別に定める納期とすることができる。

区分	納期
前期 (4 月から 9 月まで)	4 月 1 日から 5 月 31 日まで
後期 (10 月から翌年 3 月まで)	10 月 1 日から 11 月 30 日まで

- 2 前項の規定にかかわらず、学生の申出があったときは、前期に係る授業料を徴収するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収するものとする。
- 3 入学年度の前期又は前期及び後期に係る授業料については、第 1 項の規定にかかわらず、入学を許可される者の申出があったときは、入学を許可するときに徴収するものとする。
- 4 第 1 項の徴収期後に入学又は復学を許可された者は、入学又は復学した月から当該期末までの授業料を入学又は復学した月に納付しなければならない。
- 5 学年の途中で卒業する者は、卒業の日の属する月までの授業料を納めなければならない。

(退学及び停学等の場合の授業料)

第 48 条 学期の途中で退学し、又は除籍された者の当該期分の授業料は徴収する。

- 2 停学期間中の授業料は徴収する。
- 3 第 1 項の規定にかかわらず、第 42 条第 1 号、第 6 号又は第 7 号の規定により除籍した場合は、未納の授業料を免除することができる。
- 4 前 3 項に規定するもののほか、退学及び停学等の場合の授業料に関し必要な事項は、別に定める。

(休学の場合の授業料)

第 49 条 本学の学生が授業料の納入期限までに休学を許可され若しくは休学を命ぜられ又は授業料の徴収猶予を受けていた者が休学を許可され若しくは休学を命ぜられた場合は、月割計算により休学当月の翌月から復学当月の前月までの授業料を免除する。

- 2 前項に規定するもののほか、休学の場合の授業料に関し必要な事項は、別に定める。

(入学料の免除及び徴収猶予)

第 50 条 学長は、特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認めるときその他相当と認めるときは、その者の願い出により、入学料の全額若しくは半額を免除し、又はその徴収を猶予することができる。

- 2 本学の戦略的取組として実施する太平洋島嶼地域からの特別編入学により入学した者の入学料を免除する。

3 大学等における修学の支援に関する法律(令和元年法律第8号。以下「修学支援法」という。)に基づき、特に優れた者であって経済的理由により極めて修学に困難があるものに対して、その者の願い出により入学料の全部若しくは一部を減免し、又はその徴収を猶予することができる。

4 前3項に規定するもののほか、入学料の免除及び徴収猶予に関し必要な事項は、別に定める。

(授業料の免除及び徴収の猶予)

第51条 学長は、経済的理由によって授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認めるときその他やむを得ない事情があるときその他相当と認めるときは、その者の願い出により、学長は、授業料の全額若しくは半額を免除し、又はその徴収を猶予することができる。

2 本学学部にて在学する者のうち、人物及び学業成績等が特に優秀であると認められる者の授業料を免除する。

3 本学の戦略的取組として実施する太平洋島嶼地域からの特別編入学により入学した者の授業料を免除する。

4 修学支援法に基づき、特に優れた者であって経済的理由により極めて修学に困難があるものに対して、その者の願い出により授業料の全部若しくは一部を減免し、又はその徴収を猶予することができる。

5 前4項に規定するもののほか、授業料の免除及び徴収の猶予に関し必要な事項は、別に定める。

(寄宿料の免除)

第52条 学長は、学生又は学生の学資を主として負担している者が、風水害等の災害を受け、寄宿料の納付が著しく困難であると認めるときは、その者の願い出に基づき寄宿料を免除することができる。

2 前項に規定するもののほか、寄宿料の免除に関し必要な事項は、別に定める。

(研究生等の授業料等)

第53条 研究生、特別聴講学生、科目等履修生及び外国人学生の検定料、入学料及び授業料については、別に定める。

(納付した授業料等)

第54条 納付した検定料、入学料、授業料及び寄宿料は還付しない。

2 前項の規定にかかわらず、検定料を納付した者が第1段階目の選抜で不合格となった場合及び個別学力検査出願受付後に大学入学共通テスト受験科目の不足等により出願無資格者であることが判明した場合には、当該者の申出により、料金規程第2条第5項による第2段階目の選抜に係る額に相当する額を還付する。

- 3 第1項の規定にかかわらず、第47条第3項の規定により授業料を納付した者が、入学年度の前年度の3月31日までに入学を辞退した場合には、納付した者の申出により当該授業料相当額を還付する。
- 4 第1項の規定にかかわらず、前期分授業料徴収の際、後期分授業料を併せて納付した者が、後期分授業料の徴収時期前に休学又は退学した場合には、後期分の授業料に相当する額を還付する。
- 5 前4項に規定するもののほか、納付した検定料、入学料、授業料及び寄宿料の還付に関し必要な事項は、別に定める。

第10章の2 特別支援教育特別課程

(特別支援教育特別課程)

- 第54条の2 教育学部に、特別支援学校教諭一種免許状(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)授与の所要資格を得させるため、特別支援教育特別課程を置く。
- 2 特別支援教育特別課程に入学することを志願する者があるときは、学長は、教育学部教授会の議を経て、特別支援教育特別課程生として入学を許可することができる。
 - 3 前2項に規定するもののほか、特別支援教育特別課程に関し必要な事項は、別に定める。

第11章 研究生、特別聴講学生、科目等履修生及び外国人学生

(研究生)

- 第55条 本学において特定の専門事項について研究しようとする者があるときは、学部の教育研究に支障のない場合に限り、学長は、当該学部教授会の議を経て、研究生として入学を許可することができる。
- 2 前項の規定は、グローバル教育支援機構、熱帯生物圏研究センター及び島嶼地域科学研究所について準用する。この場合において、「学部」とあるのは「グローバル教育支援機構」、「熱帯生物圏研究センター」又は「島嶼地域科学研究所」と、「当該学部教授会」とあるのは「グローバル教育支援機構教員会議」、「熱帯生物圏研究センター教授会」又は「島嶼地域科学研究所会議」と読み替えるものとする。
 - 3 前2項に規定するもののほか、研究生に関し必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

- 第56条 他の大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学との協議に基づき、当該大学又は短期大学の学生について、学長は、当該学部教授会の議を経て、特別聴講学生として入学を許可し、授業科目の履修を認めることができる。
- 2 前項の規定は、グローバル教育支援機構について準用する。この場合において、「当該学部教授会」とあるのは「グローバル教育支援機構教員会議」と読み替えるものとする。
 - 3 前2項に規定するもののほか、特別聴講学生に関し必要な事項は、別に定める。

(科目等履修生)

第 57 条 本学の学生以外の者で、本学が開設する一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、学長は、当該学部教授会の議を経て、科目等履修生として入学を許可し、単位を与えることができる。

2 前項の規定は、グローバル教育支援機構について準用する。この場合において、「当該学部教授会」とあるのは「グローバル教育支援機構教員会議」と読み替えるものとする。

3 前項に規定するもののほか、科目等履修生に関し必要な事項は、別に定める。
(外国人学生)

第 58 条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、学長は、当該学部教授会の議を経て、外国人学生として入学を許可することができる。

2 前項に規定するもののほか、外国人学生に関し必要な事項は、別に定める。

第 12 章 公開講座

(公開講座及び公開授業)

第 59 条 本学の教育・研究機能を広く社会に開放し、地域社会の発展に資する学習機会を充実させるため、本学に公開講座及び公開授業を開設する。

2 前項に規定するもののほか、公開講座及び公開授業に関し必要な事項は、別に定める。

第 13 章 教員免許状更新講習

(教員免許状更新講習)

第 60 条 本学に教育職員免許法に定める免許状更新講習を開設することができる。

2 前項の講習の名称は、教員免許状更新講習とする。

3 免許状更新講習に関し必要な事項は、別に定める。

第 14 章 賞罰

(表彰)

第 61 条 学生として、表彰に価する行為があった者は、琉球大学学生表彰規程の定めるところにより、学長がこれを表彰する。

(懲戒)

第 62 条 学生が、本学の規則に違反し、又は学生としての本分に反する行為があったときは、学長は、懲戒することができる。

2 前項の懲戒の種類は、退学、停学及び訓告とする。

3 前項の停学の期間は、第 8 条に規定する在学期間に算入し、第 6 条に規定する修業年限には算入しないものとする。ただし、停学の期間が短期(1 か月以下)の場合には、修業年限に算入することができる。

4 懲戒による退学は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者

- (3) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者
- 5 前4項に規定するもののほか、懲戒に関し必要な事項は、別に定める。

第15章 寄宿舎

第63条 本学に、寄宿舎を置く。

- 2 寄宿舎に関し必要な事項は、別に定める。

第16章 雑則

(雑則)

第64条 この学則の施行に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この学則は、1972年4月1日(以下「施行日」という。)から施行する。ただし、第5条中保健学部に係る部分及び第9条については、1972年5月15日から施行する。
- 2 学士の称号に関する規程(1957年学長決定)は、廃止する。
- 3 第2条第1項の規定にかかわらず、施行日の前日に現に存する次に掲げる学科は、当日に当該学科に在学する者(以下「旧在學生」という。)が当該学科に在学しなくなる日までの間存続するものとする。

法文学部

国語国文学科、英語英文学科、地理学科、商学科、美術工芸科

教育学部

教育学科、心理学科、初等教育科、音楽科、保育科、体育科、技術教育科

農学部

家政学科

- 4 施行日前に、除籍された者又は懲戒により退学させられた者の再入学については、第31条の規定にかかわらず、その都度当該学部教授会が定める。
- 5 施行日前に、休学した者の休学期間は、第34条第4項の休学期間に通算するものとする。
- 6 旧在學生の学士の称号については、第39条の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、保健学部卒業者の称号は、保健衛生学士とする。
- 7 施行日前に、懲戒処分により停学を命ぜられた者で、当該停学の期間が施行日以後にわたるものについては、第54条の規定により処分されたものとみなす。

附 則(昭和47年8月29日)

- 1 この学則は、昭和47年8月29日から施行し、昭和47年5月15日から適用する。
- 2 昭和47年5月14日に現に本学に在学していた者に係る授業料の額は、第40条の規定にかかわらず、年額9,240円とする。

- 3 昭和47年5月15日以後において本学に転学、編入学又は再入学(以下「転学等」という。)をした者に係る授業料の額は、当該転学等をした者の属する年次と同年次の本土に所在する国立の大学の在学者に係る額と同額とする。
- 4 昭和47年度における入学を許可される者に係る入学料の額は第40条の規定にかかわらず、4,000円とする。
- 5 昭和47年度の入学、転入学等に係る検定料の額は、第40条の規定にかかわらず、3,000円とする。

附 則(昭和48年3月23日)

この学則は、昭和48年3月23日から施行し、昭和47年5月15日から適用する。

附 則(昭和49年1月31日)

この学則は、昭和49年1月31日から施行し、昭和48年10月1日から適用する。ただし、第41条第1項の改正規定は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則(昭和49年2月28日)

この学則は、昭和49年2月28日から施行し、昭和48年4月12日から適用する。

附 則(昭和50年4月1日)

- 1 この学則は、昭和50年4月1日から施行する。
- 2 第2条第1項の規定にかかわらず、理工学部海洋学科の年度別の総定員は、次の表のとおりとする。

昭和50年度	昭和51年度	昭和52年度	昭和53年度
40名	80名	120名	160名

附 則(昭和50年5月27日)

この学則は、昭和50年5月27日から施行し、昭和50年4月1日から適用する。

附 則(昭和51年2月24日)

この学則は、昭和51年2月24日から施行する。

附 則(昭和52年3月26日)

この学則は、昭和52年5月2日から施行する。

附 則(昭和53年4月1日)

- 1 この学則は、昭和53年4月1日から施行する。
- 2 第2条第2項の規定にかかわらず、理工学部建設工学科の年度別の総定員は、次の表のとおりとする。

昭和 53 年度	昭和 54 年度	昭和 55 年度	昭和 56 年度
40 名	80 名	120 名	160 名

附 則(昭和 54 年 1 月 31 日)

この学則は、昭和 54 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(昭和 54 年 3 月 31 日)

- 1 この学則は、昭和 54 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 理工学部は、改正後の学則第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、昭和 54 年 3 月 31 日に当該学部在学する者が在学しなくなる日までの間存続するものとする。

附 則(昭和 54 年 8 月 28 日)

- 1 この学則は、昭和 54 年 10 月 1 日から施行する。
- 2 医学部は、昭和 56 年度から学生を入学させるものとする。

附 則(昭和 54 年 12 月 26 日)

- 1 この学則は、昭和 54 年 12 月 26 日から施行する。
- 2 附則第 3 項に規定する学科において当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、第 39 条の 2 第 2 項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(昭和 55 年 3 月 27 日)

- 1 この学則は、昭和 55 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 2 条第 2 項の規定にかかわらず、工学部電子・情報工学科の年度別の総定員は、次の表のとおりとする。

昭和 55 年度	昭和 56 年度	昭和 57 年度	昭和 58 年度
40 名	80 名	120 名	160 名

- 3 理工学部において当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、第 39 条の 2 第 2 項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(昭和 56 年 2 月 27 日)

- 1 この学則は、昭和 56 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 2 条第 2 項の規定にかかわらず、医学部医学科の年度別の総定員は、次の表のとおりとする。

昭和 56 年度	昭和 57 年度	昭和 58 年度	昭和 59 年度	昭和 60 年度	昭和 61 年度
100 名	200 名	300 名	400 名	500 名	600 名

- 3 保健学部は、改正後の学則第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、昭和 56 年 3 月 31 日に当該学部在学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

39 条の 2 第 2 項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(昭和 56 年 11 月 28 日)

この学則は、昭和 56 年 11 月 28 日から施行する。

附 則(昭和 57 年 3 月 31 日)

この学則は、昭和 57 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(昭和 57 年 4 月 20 日)

この学則は、昭和 57 年 4 月 20 日から施行し、昭和 57 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(昭和 58 年 10 月 25 日)

この学則は、昭和 58 年 11 月 1 日から施行する。

附 則(昭和 59 年 3 月 27 日)

この学則は、昭和 59 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(昭和 59 年 4 月 11 日)

この学則は、昭和 59 年 4 月 11 日から施行する。

附 則(昭和 61 年 3 月 31 日)

1 この学則は、昭和 61 年 4 月 1 日から施行する。

2 第 2 条第 2 項に定める総定員は、同項の規定にかかわらず、昭和 61 年度から昭和 63 年度までは、次のとおりとする。

学部	学科	昭和 61 年度	昭和 62 年度	昭和 63 年度
法文学部	法政学科	370 人	380 人	390 人
	経済学科	375 人	390 人	405 人
	文学科	202 人	204 人	206 人
	史学科	111 人	122 人	133 人
	社会学科	154 人	168 人	182 人
教育学部	小学校教員養成課程	480 人	480 人	420 人
	中学校教員養成課程	320 人	320 人	320 人
	養護学校教員養成課程	80 人	80 人	80 人
理学部	数学科	120 人	120 人	120 人
	物理学科	125 人	130 人	135 人
	化学科	125 人	130 人	135 人
	生物学科	125 人	130 人	135 人
	海洋学科	165 人	170 人	175 人
医学部	医学科	600 人	600 人	600 人
	保健学科	245 人	250 人	255 人

工学部	機械工学科	180人	200人	220人
	土木工学科	165人	170人	175人
	建設工学科	165人	170人	175人
	電気工学科	165人	170人	175人
	電子・情報工学科	165人	170人	175人
農学部	農学科	125人	130人	135人
	農芸化学科	121人	122人	123人
	農業工学科	104人	108人	112人
	畜産学科	103人	106人	109人
	林学科	80人	80人	80人

附 則(昭和62年4月1日)

- この学則は、昭和62年4月1日から施行する。
- 第2条第2項に定める総定員は、同項の規定にかかわらず、昭和62年度から平成元年度までは、次のとおりとする。

学部	学科	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度
法文学部	法政学科	380人	390人	400人
	経済学科	405人	435人	465人
	文学科	212人	222人	232人
	史学科	122人	133人	144人
	社会学科	168人	182人	196人
教育学部	小学校教員養成課程	480人	480人	480人
	中学校教員養成課程	320人	320人	320人
	養護学校教員養成課程	80人	80人	80人
理学部	数学科	125人	130人	135人
	物理学科	130人	135人	140人
	化学科	130人	135人	140人
	生物学科	130人	135人	140人
	海洋学科	170人	175人	180人
医学部	医学科	600人	600人	600人
	保健学科	250人	255人	260人
工学部	機械工学科	200人	220人	240人
	エネルギー機械工学科	40人	80人	120人
	土木工学科	170人	175人	180人
	建設工学科	170人	175人	180人
	電気工学科	175人	185人	195人
	電子・情報工学科	175人	185人	195人

農学部	農学科	130人	135人	140人
	農芸化学科	126人	131人	136人
	農業工学科	109人	114人	119人
	畜産学科	108人	113人	118人
	林学科	80人	80人	80人

附 則(昭和62年5月21日)

この学則は、昭和62年5月21日から施行する。

附 則(昭和63年2月23日)

この学則は、昭和63年2月23日から施行する。

附 則(昭和63年4月1日)

- この学則は、昭和63年4月1日から施行する。
- 第2条第2項の規定にかかわらず、医学部保健学科、工学部建設工学科及び農学部林学科の昭和63年度から平成2年度までの総定員は、次のとおりとする。

学部	学科	昭和63年度	平成元年度	平成2年度
医学部	保健学科	260人	270人	275人
工学部	建設工学科	180人	190人	195人
農学部	林学科	85人	90人	95人

附 則(昭和63年4月8日)

- この学則は、昭和63年4月8日から施行する。
- 第5条第1項に規定する医学部附属地域医療研究センターは、平成10年3月31日まで存続するものとする。

附 則(平成元年4月1日)

- この学則は、平成元年4月1日から施行する。
- 琉球大学学則の一部を改正する学則(昭和62年4月1日制定)附則第2項、琉球大学学則の一部を改正する学則(昭和63年4月1日制定)附則第2項及び琉球大学学則の一部を改正する学則(昭和63年4月8日制定)附則第2項の改正規定は、平成元年1月8日から適用する。
- 改正後の第2条第2項の規定にかかわらず、教育学部の小学校教員養成課程及び総合科学課程の平成元年度から平成3年度までの総定員は、次のとおりとする。

学部	課程	平成元年度	平成2年度	平成3年度
教育学部	小学校教員養成課程	440人	400人	360人
	総合科学課程	40人	80人	120人

附 則(平成2年4月1日)

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則(平成3年2月19日)

この学則は、平成3年2月19日から施行する。

附 則(平成3年4月1日)

- 1 この学則は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 平成3年3月31日に農学部の農学科、農芸化学科、農業工学科、畜産学科及び林学科に在学していた者については、なお従前の例による。
- 3 農学部の農学科、農芸化学科、農業工学科、畜産学科及び林学科は改正後の学則第2条第1項の規定にかかわらず、平成3年3月31日に農学部の当該学科に在学する者が農学部の当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 4 改正後の第2条第2項の規定にかかわらず、法文学部の経済学科及び社会学科、理学部の数学科、工学部の電子・情報工学科、農学部の農学科、農芸化学科、農業工学科、畜産学科、林学科、生物生産学科、生産環境学科及び生物資源科学科の平成3年度から平成5年度までの総定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成3年度	平成4年度	平成5年度
法文学部	経済学科	495人	510人	525人
	社会学科	211人	226人	241人
理学部	数学科	150人	160人	170人
工学部	電子・情報工学科	210人	220人	230人
農学部	農学科	105人	70人	35人
	農芸化学科	105人	70人	35人
	農業工学科	90人	60人	30人
	畜産学科	90人	60人	30人
	林学科	75人	50人	25人
	生物生産学科	65人	130人	195人
	生産環境学科	50人	100人	150人
	生物資源科学科	40人	80人	120人

- 5 平成3年4月1日に医学部医学科の第4年次以降に在学する者については、改正後の第15条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成3年4月12日)

この学則は、平成3年4月12日から施行する。

附 則(平成3年5月21日)

この学則は、平成3年5月21日から施行し、平成3年4月1日から適用する。

附 則(平成3年8月27日)

この学則は、平成3年8月27日から施行し、平成3年7月1日から適用する。

附 則(平成4年3月27日)

- 1 この学則は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第2条第2項の規定にかかわらず、法文学部の経済学科及び社会学科、理学部の物理学科、工学部の電子・情報工学科の平成4年度から平成6年度までの総定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成4年度	平成5年度	平成6年度
法文学部	経済学科	530人	565人	600人
	社会学科	246人	281人	316人
	学部計	1,560人	1,630人	1,700人
理学部	物理学科	150人	160人	170人
	学部計	770人	790人	810人
工学部	電子・情報工学科	230人	250人	270人
	学部計	1,210人	1,230人	1,250人
大学全体合計		5,920人	6,030人	6,140人

附 則(平成5年3月30日)

この学則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則(平成5年9月28日)

- 1 この学則は、平成5年10月1日から施行する。ただし、第4条の改正規定及び附則第2項の規定は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 琉球大学短期大学部は、改正後の第4条の規定にかかわらず、平成8年3月31日に当該短期大学部に在学する者が当該短期大学部に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 平成5年9月30日に法文学部の法政学科、経済学科、文学科、史学科及び社会学科、工学部の機械工学科、エネルギー機械工学科、土木工学科、建設工学科、電気工学科及び電子・情報工学科に在学していた者については、なお従前の例による。
- 4 法文学部の文学科、史学科及び社会学科、工学部の機械工学科、エネルギー機械工学科、土木工学科、建設工学科、電気工学科及び電子・情報工学科は、改正後の学則第2条第1項の規定にかかわらず、平成5年9月30日に法文学部及び工学部の当該学科に在学する者が法文学部及び工学部の当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 5 改正後の第2条第3項の規定にかかわらず、法文学部の法政学科、経済学科及び人文文学科並びに法政学科、経済学科、文学科、史学科及び社会学科、工学部の機械システ

ム工学科、環境建設工学科、電気電子工学科及び情報工学科並びに機械工学科、エネルギー機械工学科、土木工学科、建設工学科、電気工学科及び電子・情報工学科の平成6年度から平成8年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成6年度	平成7年度	平成8年度
法文学部	法政学科			
	昼間主コース	110人	220人	336人
	夜間主コース	30人	60人	94人
	経済学科			
	昼間主コース	155人	310人	471人
	夜間主コース	60人	120人	184人
	人文学科			
	昼間主コース	210人	420人	636人
	夜間主コース	30人	60人	94人
	(従前の学科)			
	法政学科	300人	200人	100人
	経済学科	445人	310人	155人
	文学科	180人	120人	60人
	史学科	108人	72人	36人
社会学科	232人	168人	84人	
学部計	1,860人	2,060人	2,250人	
工学部	機械システム工学科			
	昼間主コース	110人	220人	333人
	夜間主コース	20人	40人	60人
	環境建設工学科	105人	210人	319人
	電気電子工学科			
	昼間主コース	100人	200人	303人
	夜間主コース	10人	20人	30人
	情報工学科	60人	120人	180人
	(従前の学科)			
	機械工学科	180人	120人	60人
	エネルギー機械工学科	120人	80人	40人
	土木工学科	135人	90人	45人
	建設工学科	150人	100人	50人
	電気工学科	150人	100人	50人
電子・情報工学科	200人	140人	70人	
学部計	1,340人	1,440人	1,540人	
大学全体合計	6,390人	6,700人	6,990人	

附 則(平成5年10月12日)

- 1 この学則は、平成6年4月1日から施行する。ただし、第29条の2第1項の改正規定は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第17条の2、第18条及び第20条の規定は、平成6年度の入学者から適用する。
- 3 前項の規定にかかわらず、各学部又は教養部が必要と認める場合には、改正後の第20条の規定を、平成6年3月31日に在学する者(以下「在学者」という。)に適用することができる。
- 4 各学部又は教養部が必要と認める場合には、在学者に改正後の第17条の2、第18条及び第20条の規定に基づき平成6年度以降の入学者のために開設される授業科目を履修させることができる。この場合において、当該授業科目の履修を、改正前の学則に基づく授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

附 則(平成6年3月22日)

この学則は、平成6年4月1日から施行する。ただし、第5条から第5条の4までの改正規定及び第48条の改正規定は、平成6年6月24日から施行する。

附 則(平成7年3月28日)

この学則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則(平成8年3月26日)

- 1 この学則は、平成8年4月1日から施行する。ただし、第5条の2第1項の改正規定は、平成8年5月11日から施行する。
- 2 平成8年3月31日に理学部の数学科、物理学科、化学科、生物学科及び海洋学科に在学していた者については、なお従前の例による。
- 3 理学部の数学科、物理学科、化学科、生物学科及び海洋学科は、改正後の学則第2条第1項の規定にかかわらず、平成8年3月31日に理学部の当該学科に在学する者が理学部の当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 4 改正後の第2条第3項の規定にかかわらず、理学部の数理科学科、物質地球科学科及び海洋自然科学科並びに数学科、物理学科、化学科、生物学科及び海洋学科の平成8年度から平成10年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成8年度	平成9年度	平成10年度
理学部	数理科学科	45人	90人	135人
	物質地球科学科	72人	144人	216人
	海洋自然科学科 (従前の学科)	108人	216人	324人
	数学科	135人	90人	45人

	物理学科	135 人	90 人	45 人
	化学科	105 人	70 人	35 人
	生物学科	105 人	70 人	35 人
	海洋学科	135 人	90 人	45 人
	学部計	840 人	860 人	880 人
大学全体合計		7,300 人	7,320 人	7,340 人

附 則(平成 9 年 3 月 25 日)

- この学則は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。ただし、第 29 条の 2 第 1 項の改正規定は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。
- 平成 9 年 3 月 31 日に法文学部の法政学科、経済学科及び人文学科、教育学部の小学校教員養成課程及び中学校教員養成課程に在学していた者については、なお従前の例による。
- 法文学部の法政学科、経済学科及び人文学科、教育学部の小学校教員養成課程及び中学校教員養成課程は、改正後の学則第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 9 年 3 月 31 日に法文学部の当該学科及び教育学部の当該課程に在学する者が法文学部の当該学科及び教育学部の当該課程に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 改正後の第 2 条第 3 項の規定にかかわらず、法文学部の総合社会システム学科、人間科学科及び国際言語文化学科並びに法政学科、経済学科及び人文学科、教育学部の学校教育教員養成課程及び総合科学課程並びに小学校教員養成課程及び中学校教員養成課程の平成 9 年度から平成 11 年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成 9 年度	平成 10 年度	平成 11 年度
法文学科	総合社会システム学科			
	昼間主コース	265 人	530 人	807 人
	夜間主コース	90 人	180 人	278 人
	人間科学科	115 人	230 人	348 人
	国際言語文化学科			
	昼間主コース	95 人	190 人	288 人
	夜間主コース	30 人	60 人	94 人
	(従前の学科)			
	法政学科			
	昼間主コース	342 人	232 人	116 人
	夜間主コース	98 人	68 人	34 人
	経済学科			
	昼間主コース	477 人	322 人	161 人
	夜間主コース	188 人	128 人	64 人
	人文学科			

	昼間主コース	642人	432人	216人
	夜間主コース	98人	68人	34人
	学部計	2,440人	2,440人	2,440人
教育学部	学校教育教員養成課程	150人	300人	450人
	総合科学課程 (従前の学科)	170人	180人	190人
	小学校教員養成課程	240人	160人	80人
	中学校教員養成課程	240人	160人	80人
	学部計	880人	880人	880人
大学全体合計		7,320人	7,340人	7,360人

附 則(平成10年3月31日)

- この学則は、平成10年4月1日から施行する。ただし、第5条(地域医療研究センターを除く。)及び第5条の2の改正規定は、平成10年4月9日から施行する。
- 改正後の第2条第3項の規定にかかわらず、法文学部の総合社会システム学科、人間科学科及び国際言語文化学科、理学部の数理科学科、物質地球科学科及び海洋自然科学科、工学部の機械システム工学科、環境建設工学科及び電気電子工学科の平成10年度から平成12年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成10年度	平成11年度	平成12年度
法文学部	総合社会システム学科			
	昼間主コース	520人	787人	1,054人
	夜間主コース	180人	278人	376人
	人間科学科	225人	338人	451人
	国際言語文化学科			
	昼間主コース	185人	278人	371人
	夜間主コース	60人	94人	128人
	学部計	2,420人	2,400人	2,380人
理学部	数理科学科	133人	176人	174人
	物質地球科学科	214人	284人	282人
	海洋自然科学科	318人	420人	414人
	学部計	870人	880人	870人
工学部	機械システム工学科			
	昼間主コース	442人	438人	434人
	夜間主コース	80人	80人	80人
	環境建設工学科	425人	422人	419人
	電気電子工学科			
	昼間主コース	403人	400人	397人

	夜間主コース	40人	40人	40人
	学部計	1,630人	1,620人	1,610人
大学全体合計		7,300人	7,280人	7,240人

- 3 第5条第1項に規定する医学部附属沖縄・アジア医学研究センターは、平成20年3月31日まで存続するものとする。

附 則(平成11年3月31日)

- この学則は、平成11年4月1日から施行する。
- 平成11年3月31日に教育学部の養護学校教員養成課程及び総合科学課程に在学していた者については、なお従前の例による。
- 教育学部の養護学校教員養成課程及び総合科学課程は、改正後の学則第2条第1項の規定にかかわらず、平成11年3月31日に教育学部の当該課程に在学する者が教育学部の当該課程に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 改正後の第2条第3項の規定にかかわらず、法文学部の総合社会システム学科、人間科学科及び国際言語文化学科、教育学部の学校教育教員養成課程及び生涯教育課程、理学部の数理科学科、物質地球科学科及び海洋自然科学科、医学部の医学科、工学部の機械システム工学科、環境建設工学科及び電気電子工学科、農学部の生物生産学科、生産環境学科及び生物資源科学科の平成11年度から平成13年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成11年度	平成12年度	平成13年度
法文学部	総合社会システム学科			
	昼間主コース	767人	1,014人	984人
	夜間主コース	278人	376人	376人
	人間科学科	328人	431人	416人
	国際言語文化学科			
	昼間主コース	268人	351人	336人
	夜間主コース	94人	128人	128人
教育学部	学校教育教員養成課程	400人	350人	300人
	生涯教育課程	90人	180人	270人
理学部	数理科学科	173人	168人	163人
	物質地球科学科	279人	272人	265人
	海洋自然科学科	413人	400人	387人
医学部	医学科	595人	590人	590人
工学部	機械システム工学科			
	昼間主コース	427人	412人	397人
	夜間主コース	80人	80人	80人
	環境建設工学科	415人	405人	395人

	電気電子工学科			
	昼間主コース	393人	383人	373人
	夜間主コース	40人	40人	40人
農学部	生物生産学科	256人	252人	248人
	生産環境学科	196人	192人	188人
	生物資源科学科	158人	156人	154人

附 則(平成11年7月14日)

この学則は、平成11年7月14日から施行する。

附 則(平成12年2月22日)

この学則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成12年3月31日)

- この学則は、平成12年4月1日から施行する。ただし、第29条の2第2項の改正規定は、平成13年4月1日から施行する。
- 改正後の第2条第3項の規定にかかわらず、法文学部の総合社会システム学科、人間科学科及び国際言語文化学科、教育学部の学校教育教員養成課程及び生涯教育課程、理学部の数理科学科、物質地球科学科及び海洋自然科学科、医学部の保健学科、工学部の機械システム工学科、環境建設工学科及び電気電子工学科、農学部の生物生産学科、生産環境学科及び生物資源科学科の平成12年度から平成14年度までの収容定員は、次のとおりとする。

学部	学科	平成12年度	平成13年度	平成14年度
法文学部	総合社会システム学科			
	昼間主コース	1,004人	964人	934人
	夜間主コース	376人	376人	376人
	人間科学科	426人	406人	391人
	国際言語文化学科			
	昼間主コース	351人	336人	326人
	夜間主コース	128人	128人	128人
教育学部	学校教育教員養成課程	500人	450人	400人
	生涯教育課程	180人	270人	360人
理学部	数理科学科	168人	163人	160人
	物質地球科学科	272人	265人	260人
	海洋自然科学科	400人	387人	380人
医学部	保健学科	270人	260人	250人
工学部	機械システム工学科			

	昼間主コース	407人	387人	371人
	夜間主コース	80人	80人	80人
	環境建設工学科	400人	385人	373人
	電気電子工学科			
	昼間主コース	373人	353人	336人
	夜間主コース	40人	40人	40人
農学部	生物生産学科	246人	236人	226人
	生産環境学科	186人	176人	166人
	生物資源科学科	153人	148人	143人

附 則(平成13年3月30日)

この学則は、平成13年4月1日から施行する。ただし、第17条の4、第25条、第29条及び第29条の2の改正規定は、平成13年1月6日から適用する。

附 則(平成14年3月29日)

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則(平成14年12月17日)

この学則は、平成14年12月17日から施行する。

附 則(平成15年2月4日)

この学則は、平成15年2月4日から施行する。

附 則(平成15年4月1日)

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則(平成15年4月21日)

この学則は、平成15年4月21日から施行し、平成15年2月1日から適用する。

附 則(平成15年9月19日)

この学則は、平成15年9月19日から施行する。

附 則(平成16年4月1日)

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成17年3月15日)

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成17年6月28日)

この学則は、平成17年6月28日から施行する。

附 則(平成 17 年 9 月 27 日)

この学則は、平成 17 年 9 月 27 日から施行する。

附 則(平成 18 年 1 月 24 日)

- 1 この学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の 22 条の規定にかかわらず、平成 17 年度以前入学者(再入学については、当初の入学年度が平成 17 年度以前入学者)の成績の評価は、なお従前の例による。

附 則(平成 18 年 3 月 16 日)

この学則は、平成 18 年 3 月 16 日から施行する。

附 則(平成 18 年 3 月 28 日)

この学則は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 18 年 12 月 25 日)

この学則は、平成 18 年 12 月 25 日から施行する。

附 則(平成 19 年 3 月 27 日)

- 1 この学則は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 2 条第 3 項の規定にかかわらず、法文学部の平成 19 年度から平成 21 年度までの収容定員は、次の表のとおりとする。

学部	学科	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
法文学部	総合社会システム学科			
	昼間主コース	839 人	794 人	749 人
	夜間主コース	196 人	176 人	156 人
	産業経営学科			
	昼間主コース	60 人	120 人	180 人
	夜間主コース	20 人	40 人	60 人
	観光科学科	140 人	200 人	220 人
	人間科学科	386 人	386 人	386 人
	国際言語文化学科			
	昼間主コース	326 人	326 人	326 人
夜間主コース	128 人	128 人	128 人	

附 則(平成 19 年 12 月 11 日)

この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 20 年 2 月 6 日)

この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 20 年 2 月 18 日)

この学則は、平成 20 年 2 月 18 日から施行し、平成 19 年 12 月 26 日から適用する。

附 則(平成 20 年 2 月 28 日)

- 1 この学則は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
(法文学部総合社会システム学科の経過措置)
- 2 法文学部総合社会システム学科経営学専攻は、改正後の第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 20 年 3 月 31 日に法文学部総合社会システム学科経営学専攻に在学する者が当該専攻に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
(法文学部産業経営学科の経過措置)
- 3 法文学部産業経営学科は改正後の第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 20 年 3 月 31 日に法文学部産業経営学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
(法文学部観光科学科の経過措置)
- 4 平成 20 年 3 月 31 日以前に法文学部観光科学科に入学し、引き続き在学する者については、平成 20 年 4 月 1 日から観光産業科学部観光科学科に所属するものとする。
- 5 改正後の第 2 条第 3 項の規定にかかわらず、法文学部及び観光産業科学部の平成 20 年度から平成 22 年度までの収容定員は、次の表のとおりとする。

学部	学科	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
法文学部	総合社会システム学科			
	昼間主コース	794 人	749 人	704 人
	夜間主コース	176 人	156 人	136 人
	人間科学科	386 人	386 人	386 人
	国際言語文化学科			
	昼間主コース	326 人	326 人	326 人
夜間主コース	128 人	128 人	128 人	
観光産業科学部	観光科学科	200 人	220 人	240 人
	産業経営学科			
	昼間主コース	120 人	180 人	240 人
	夜間主コース	40 人	60 人	80 人

- 6 平成 20 年 3 月 31 日に法文学部国際言語文化学科社会コースに在学していた者については、当該所要資格を所得できる教員の免許状の種類は、第 39 条の 2 第 2 項(別表)の改正にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則(平成 20 年 4 月 22 日)

この学則は、平成 20 年 4 月 22 日から施行し、平成 20 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(平成 20 年 6 月 24 日)

この学則は、平成 20 年 6 月 24 日から施行する。

附 則(平成 21 年 1 月 27 日)

- 1 この学則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 2 条第 3 項の規定にかかわらず、法文学部の総合社会システム学科、観光産業科学部の観光科学科及び産業経営学科、工学部の機械システム工学科、電気電子工学科及び情報工学科、農学部の亜熱帯地域農学科、亜熱帯農林環境科学科、地域農業工学科及び亜熱帯生物資源科学科の平成 21 年度から平成 23 年度までの収容定員は、次の表のとおりとする。

学部	学科	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
法文学部	総合社会システム学科			
	昼間主コース	749 人	704 人	704 人
	夜間主コース	152 人	128 人	128 人
観光産業科学部	観光科学科	220 人	240 人	240 人
	産業経営学科			
	昼間主コース	180 人	240 人	240 人
	夜間主コース	64 人	88 人	88 人
工学部	機械システム工学科			
	昼間主コース	368 人	370 人	370 人
	夜間主コース	80 人	80 人	80 人
	電気電子工学科			
	昼間主コース	328 人	330 人	330 人
	夜間主コース	40 人	40 人	40 人
	情報工学科	246 人	252 人	252 人
農学部	亜熱帯地域農学科	35 人	70 人	105 人
	亜熱帯農林環境科学科	35 人	70 人	105 人
	地域農業工学科	25 人	50 人	75 人
	亜熱帯生物資源科学科	35 人	70 人	110 人
	(従前の学科)			
	生物生産学科	165 人	110 人	55 人
	生産環境学科	120 人	80 人	40 人
	生物資源科学科	110 人	80 人	40 人
	小計	525 人	530 人	530 人

- 3 改正後の第 2 条第 3 項の規定にかかわらず、平成 21 年度からの医学部入学定員のうち 2 名については、平成 29 年度入学生までの時限的措置である。

- 4 改正後の第2条第3項の表中「第3年次特別編入学定員」とあるのは、医学部にあっては、「第2年次及び第3年次特別編入学定員」と読替する。
- 5 改正後の第29条の2第2項に規定する「第2年次及び第3年次特別編入学定員」のうち、第3年次特別編入学定員については、平成21年度までの措置とする。
- 6 改正後の第2条第3項の規定にかかわらず、医学部医学科の平成21年度から平成25年度までの収容定員は、次の表のとおりとする。

学部	学科	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
医学部	医学科	602人	609人	616人	623人	630人

- 7 農学部の生物生産学科、生産環境学科及び生物資源科学科は、改正後の学則第2条第1項の規定にかかわらず、平成21年3月31日に農学部の当該学科に在学する者が農学部の当該学科に存学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 8 改正後の学則第29条の2第1項で規定する農学部の「亜熱帯生物資源科学科」は、平成22年度まで「生物資源科学科」と読替する。
- 9 前項により、改正前の農学部生物資源科学科における第3年次特別編入学定員5名については平成22年度入学生まで受入れ、平成23年度以降は、改正後の同学部亜熱帯生物資源科学科で受入れるものとする。

附 則(平成21年3月24日)

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成21年4月1日)

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 前項にかかわらず、改正後の第8条第3項の規定については、平成20年4月1日から適用する。

附 則(平成21年4月28日)

この学則は、平成21年4月28日から施行し、平成21年4月1日から適用する。

附 則(平成22年1月26日)

- 1 この学則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第2条第3項の規定にかかわらず、医学部医学科の平成22年度から平成26年度までの収容定員は、次の表のとおりとする。

学部	学科	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
医学部	医学科	614人	626人	638人	650人	662人

- 3 改正後の第2条第3項の規定にかかわらず、平成22年度からの医学部入学定員増(5名)については、平成31年度入学生までの時限的措置である。

附 則(平成 22 年 3 月 30 日)

この学則は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 23 年 1 月 25 日)

- 1 この学則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 学則第 2 条第 3 項の規定にかかわらず、医学部医学科の平成 23 年度から平成 27 年度までの収容定員は、次の表のとおりとする。

学部	学科	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
医学部	医学科	626 人	638 人	650 人	662 人	667 人

附 則(平成 23 年 11 月 22 日)

- 1 この学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 学則第 2 条第 3 項の規定にかかわらず、医学部医学科の平成 24 年度から平成 28 年度までの収容定員は、次の表のとおりとする。

学部	学科	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
医学部	医学科	638 人	650 人	662 人	667 人	667 人

附 則(平成 24 年 3 月 27 日)

この学則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 24 年 6 月 26 日)

この学則は、平成 24 年 7 月 1 日から施行する。ただし、第 7 条の 3 に規定する共同利用・共同研究拠点については、平成 22 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(平成 24 年 12 月 25 日)

- 1 この学則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 学則第 2 条第 3 項の規定にかかわらず、医学部医学科の平成 25 年度から平成 29 年度までの収容定員は、次の表のとおりとする。

学部	学科	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
医学部	医学科	650 人	662 人	667 人	667 人	667 人

附 則(平成 26 年 1 月 28 日)

この学則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 26 年 7 月 29 日)

この学則は、平成 26 年 8 月 1 日から施行する。

附 則(平成 26 年 10 月 21 日)

この学則は、平成 27 年 1 月 1 日から施行する。

附 則(平成 26 年 12 月 16 日)

この学則は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 27 年 3 月 24 日)

- 1 この学則は、平成 27 年 3 月 24 日から施行し、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 医学部医学科の特別編入学生として在学するものは、改正前の第 13 条の規定にかかわらず、改正後の同条の規定を適用する。
- 3 改正後の第 2 条第 3 項の規定にかかわらず、医学部医学科の平成 27 年度から平成 36 年度までの収容定員及び平成 27 年度から平成 31 年度までの入学定員は、次の表のとおりとする。

	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
収容定員	672 人	677 人	682 人	685 人	688 人
入学定員	112 人	112 人	112 人	110 人	110 人

	平成 32 年度	平成 33 年度	平成 34 年度	平成 35 年度	平成 36 年度
収容定員	681 人	669 人	657 人	645 人	635 人

附 則(平成 27 年 6 月 23 日)

この学則は、平成 27 年 7 月 1 日から施行する。

附 則(平成 27 年 11 月 24 日)

この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 28 年 2 月 23 日)

この学則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 28 年 6 月 28 日)

この学則は、平成 28 年 7 月 1 日から施行する。

附 則(平成 28 年 9 月 27 日)

この学則は、平成 28 年 10 月 1 日から施行する。

附 則(平成 28 年 12 月 27 日)

この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 29 年 2 月 8 日)

この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 29 年 3 月 30 日)

- 1 この学則は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
(教育学部生涯教育課程の経過措置)
- 2 教育学部生涯教育課程は、改正後の第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 29 年 3 月 31 日に教育学部生涯教育課程に在学する者が当該課程に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
(工学部の機械システム工学科、環境建設工学科、電気電子工学科及び情報工学科の経過措置)
- 3 工学部の機械システム工学科(昼間主コース)及び同学科(夜間主コース)、環境建設工学科、電気電子工学科(昼間主コース)及び同学科(夜間主コース)並びに情報工学科は、改正後の第 2 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 29 年 3 月 31 日に工学部の機械システム工学科(昼間主コース)及び同学科(夜間主コース)、環境建設工学科、電気電子工学科(昼間主コース)及び同学科(夜間主コース)並びに情報工学科に在学する者が当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 4 改正後の第 2 条第 3 項の規定にかかわらず、教育学部、工学部及び農学部の平成 29 年度から平成 31 年度までの収容定員は、次の表のとおりとする。

学部	学科又は課程	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度
教育学部	学校教育教員養成課程	440 人	480 人	520 人
	生涯教育課程	270 人	180 人	90 人
工学部	工学科	350 人	700 人	1,070 人
	機械システム工学科			
	昼間主コース	280 人	190 人	95 人
	夜間主コース	60 人	40 人	20 人
	環境建設工学科	278 人	188 人	94 人
	電気電子工学科			
	昼間主コース	250 人	170 人	85 人
夜間主コース	30 人	20 人	10 人	
	情報工学科	192 人	132 人	66 人
農学部	亜熱帯地域農学科	140 人	140 人	140 人
	亜熱帯農林環境科学科	140 人	140 人	140 人
	地域農業工学科	100 人	100 人	100 人
	亜熱帯生物資源科学科	160 人	170 人	180 人

- 5 平成 29 年 3 月 31 日に教育学部生涯教育課程並びに工学部機械システム工学科、環境建設工学科、電気電子工学科及び情報工学科に在学する者については、当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、改正後の別表(第 39 条の 2 第 2 項関係)にかかわらず、なお、従前の例による。

附 則(平成 29 年 5 月 23 日)

この学則は、平成 29 年 7 月 1 日から施行する。ただし、改正後の第 29 条及び第 29 条の 2 の規定は、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(平成 29 年 12 月 20 日)

この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。ただし、改正後の第 31 条の規定については、平成 30 年度の入学者から適用する。また、改正後の第 37 条第 3 項の規定については、平成 29 年 12 月 20 日から適用する。

附 則(平成 29 年 12 月 27 日)

この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 30 年 2 月 28 日)

- 1 この学則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
(法文学部及び観光産業科学部の経過措置)
- 2 改正後の第 4 条の規定にかかわらず、平成 30 年 3 月 31 日に法文学部及び観光産業科学部に在学する者が当該学部等に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 3 前項の規定により存続する法文学部の総合社会システム学科、人間科学科及び国際言語文化学科並びに観光産業科学部の産業経営学科に在学する者については、当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、改正後の別表(第 45 条第 2 項関係)にかかわらず、なお、従前の例による。
- 4 改正後の第 5 条の規定にかかわらず、法文学部、観光産業科学部、人文社会学部及び国際地域創造学部の平成 30 年度から平成 32 年度までの収容定員は、次の表のとおりとする。

学部	学科	平成 30 年度	平成 31 年度	平成 32 年度
法文学部	総合社会システム学科			
	昼間主コース	534 人	364 人	182 人
	夜間主コース	98 人	68 人	34 人
	人間科学科	291 人	196 人	98 人
	国際言語文化学科			
	昼間主コース	246 人	166 人	83 人
	夜間主コース	98 人	68 人	34 人
観光産業科学部	観光科学科	180 人	120 人	60 人
	産業経営学科			
	昼間主コース	180 人	120 人	60 人
	夜間主コース	68 人	48 人	24 人
人文社会学部	国際法政学科	80 人	160 人	244 人
	人間社会学科	80 人	160 人	244 人

	琉球アジア文化学科	40人	80人	122人
国際地域創造学部	国際地域創造学科			
	昼間主コース	265人	530人	803人
	夜間主コース	80人	160人	252人

- 5 改正後の第5条の規定にかかわらず、医学部医学科の平成30年度から平成36年度までの収容定員及び平成30年度から平成31年度までの入学定員は、次の表のとおりとする。

	平成30年度	平成31年度
収容定員	687人	692人
入学定員	112人	112人

	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
収容定員	685人	673人	661人	649人	637人

附 則(平成30年3月27日)

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(平成31年1月25日)

- この学則は、平成31年4月1日から施行する。ただし、改正後の第55条、第56条及び第57条及び次項の規定は、平成31年1月25日から施行する。
- この学則を施行するために必要な手続その他の行為は、この学則の施行前においても行うことができる。

附 則(平成31年2月27日)

- この学則は、平成31年4月1日から施行する。ただし、改正後の第17条の2の規定については、平成31年2月27日から施行する。
- 平成31年3月31日に人文社会学部国際法政学科に在学する者については、当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、改正後の別表(第45条第2項関係)にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(令和2年4月1日)

- この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- この学則を施行するために必要な手続その他の行為は、この学則の施行前においても行うことができる。
- 改正後の第5条の規定にかかわらず、医学部医学科の令和2年度から令和8年度までの収容定員並びに令和2年度及び令和3年度の入学定員は、次の表のとおりとする。

	令和2年度	令和3年度

収容定員	697 人	697 人
入学定員	112 人	112 人

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
収容定員	685 人	673 人	661 人	649 人	637 人

附 則(令和3年3月9日)

この学則は、令和3年3月9日から施行する。ただし、改正後の第54条第2項の規定は、令和2年4月1日から適用する。

附 則(令和3年12月22日)

この学則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則(令和4年3月2日)

- 1 この学則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第5条の規定にかかわらず、医学部医学科の令和4年度から令和9年度までの収容定員並びに令和4年度の入学定員は、次の表のとおりとする。

	令和4年度
収容定員	697 人
入学定員	112 人

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
収容定員	685 人	673 人	661 人	649 人	637 人

附 則(令和5年3月2日)

- 1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第5条の規定にかかわらず、医学部医学科の令和5年度から令和10年度までの収容定員及び令和5年度入学定員は、次の表のとおりとする。

	令和5年度				
収容定員	697 人				
入学定員	112 人				
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
収容定員	685 人	673 人	661 人	649 人	637 人

附 則(令和6年2月28日)

この学則は、令和6年4月1日から施行する。

- 2 改正後の第5条の規定にかかわらず、医学部医学科の令和6年度から令和11年度までの収容定員及び令和6年度の入学定員は、次の表のとおりとする。

	令和6年度				
収容定員	697人				
入学定員	112人				
	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
収容定員	685人	673人	661人	649人	637人

附 則(令和6年3月27日)

- 1 この学則は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第62条の規定は、施行日以降に付議された懲戒事案から適用する。

別表(第45条第2項関係)

学部	学科、課程等		教員の 免許状 の種類	免許教科
人文 社会 学部	人間社会学科		高等学校 教諭一 種免 許状	公民
	琉球アジア文化学科	文学プログラム 言語学プログラム	中学校 教諭一 種免 許状 高等学 校教諭 一 種免 許状	国語
国際 地域 創造 学部	国際地 域創造 学科	昼間主 経済学プログラム	中学校 教諭一 種免 許状	社会
		国際言語文化プログラ ム	中学校 教諭一 種免 許状 高等学 校教諭 一 種免 許状	英語
		地域文化科学プログラ ム	中学校 教諭一	社会

				種免許状	
				高等学校教諭一種免許状	地理歴史
		夜間主コース	国際言語文化プログラム	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	英語
教育学部	学校教育教員養成課程			幼稚園教諭一種免許状 小学校教諭一種免許状	
				中学校教諭一種免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語
				高等学校教諭一種免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、保健体育、家庭、工業、英語
				特別支援学校教諭一種免許状 (知的障害者) (肢体不自由者) (病弱者)	
理学部	数理科学科			中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状	数学

			許状	
	物質地球科学科		中学校 教諭一 種免許 状 高等学 校教諭 一種免 許状	理科
	海洋自然科学科			
医学部	保健学科		養護教諭一種免許状	
工学部	工学科	機械工学コース、エネルギー環境工学コース、電気システム工学コース、電子情報通信コース、社会基盤デザインコース、建築学コース	高等学校教諭一種免許状	工業
		知能情報コース	高等学校教諭一種免許状	情報
農学部	亜熱帯地域農学科		高等学校教諭一種免許状	農業
	亜熱帯農林環境科学科			
	地域農業工学科			
	亜熱帯生物資源科学科	生物機能開発学コース、食品機能科学コース、発酵・生命科学コース		
		健康栄養科学コース	栄養教諭二種免許状	

○琉球大学各学部共通細則

(1972年2月15日制定)

改正 昭和56年2月27日 平成9年3月25日
平成17年6月28日 平成18年1月24日
平成20年1月28日 平成21年6月16日
平成26年3月4日 平成28年9月27日
平成29年5月15日 平成30年3月1日
平成30年7月25日 令和3年3月17日
令和4年3月2日

(趣旨)

第1条 この細則は、琉球大学学則(以下「学則」という。)第64条の規定に基づき、履修に関し必要な事項を定める。

(履修登録)

第2条 学生は、所定の期日までに、履修しようとする授業科目の登録を行わなければならない。

- 2 前項の登録は、指導教員から履修登録について指導を受け、承認を得ることによって完了する。
- 3 登録の期間等については、琉球大学学年暦等により公示する。
- 4 履修登録手続に関し必要な事項は、国立大学法人琉球大学グローバル教育支援機構において別に定める。

(履修の制限)

第3条 受講人員は、教材、教室の収容人員等により制限することがある。

(授業科目の不開講)

第4条 受講人員が著しく少ない授業科目は、開講しないことがある。

(履修中止)

- 第5条 授業科目の履修登録を完了した場合であっても、学生は指導教員の承認を得て、履修中の授業科目の履修を中止することができる。
- 2 履修中止が承認された授業科目の単位の授与は行わない。
 - 3 履修中止に関し必要な事項は、別に定める。

(臨時開講科目の登録)

第6条 履修登録の期間終了後、臨時に開講される授業科目の履修登録については、グローバル教育支援機構長又は各学部長の定めるところにより行う。

(1個学期に登録できる単位数)

第7条 1個学期(学期の前半及び後半を含む。)に登録できる単位数の上限は、20単位とする。この場合、集中講義の科目は含まないものとする。

2 各学部において、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を超えて履修科目の登録を認めることができる。

3 教職・各種資格取得希望者等については、指導教員の指導・承認を得て、上限超過を認める。

(1 学年に修得すべき単位等)

第8条 学生は、卒業に要する最終学年を除き、1 学年に最低 16 単位以上修得しなければならない。ただし、医学部医学科にあつては、第1年次にのみ適用する。

(授業科目の再登録)

第9条 既に履修し単位を修得した授業科目は、再度登録することはできない。ただし、F 又は不可と認定された授業科目については、再度登録することができる。

(補講)

第10条 夏季又は春季休業期間中に補講(試験期間以外の期間に行う定期試験を含む。)を行う必要がある場合は、原則として休業期間開始日から1週間以内に行うものとする。

(欠席)

第11条 学生は、登録した授業科目の授業にやむを得ず欠席する場合は、欠席届を科目担当教員に提出しなければならない。

2 病気により1週間以上欠席する場合は、欠席届に医師の診断書を添付し、当該学部長へ提出するものとする。

(試験)

第12条 期末試験は、学期末に一定の期間を定めて行う。試験科目及び日時は、試験の始まる1週間前に公示する。

2 前項の規定にかかわらず授業科目によっては、随時に試験を行うことがある。

(追試験)

第13条 所定の試験に欠席した者の追試験は行わない。ただし、病気、忌引及び公の証明書のある事故その他やむを得ない理由のため受験できなかった者に対しては、願い出により追試験を行うことがある。

(再試験)

第14条 不合格となった授業科目の再試験は行わない。ただし、当該学期に登録した授業科目の中で教授会又はグローバル教育支援機構会議が認めた授業科目については、再試験を行うことがある。

2 再試験の期日は、科目担当教員が指定する。

(単位の授与及び授業科目の履修の認定)

第15条 授業科目の登録を完了し、かつ当該科目を履修した者については、試験その他の成績、学習状況及び出席状況により科目担当教員がその成績を判定し合格した者に

は、所定の単位を与える。ただし、医学部医学科の専門教育科目については、授業科目の履修の認定を行う。

- 2 授業科目の授業総時数の3分の1以上欠席した者には、その授業科目の単位は与えない。この場合において、医学部医学科の専門教育科目については、授業科目の履修の認定は行わない。

(成績評価の基準)

第16条 学則第24条に規定する成績評価の基準は、次のとおりとする。

区分	評語	評点(100点満点中)	評価の内容
合格	A	90点以上	到達目標を達成し、極めて優秀な成績を収めている。
	B	80点以上 90点未満	到達目標を達成し、優秀な成績を収めている。
	C	70点以上 80点未満	到達目標を達成している。
	D	60点以上 70点未満	到達目標を最低限達成している。
不合格	F	60点未満	到達目標を達成していない。

(成績評価の登録)

第17条 科目担当教員は、原則として、次条に定める成績開示日の前日までに、履修登録を完了した学生に係る授業科目(第5条の2第1項の規定により履修が中止されたものを除く。)の成績評価を教務情報システムに登録しなければならない。

(成績開示日)

第18条 授業科目の成績開示日は、学年暦で定める。ただし、9月及び3月卒業対象者並びに16単位未満除籍対象者に係る成績開示日は、各学部が別に定める。

(成績根拠資料の保存)

第19条 科目担当教員は、定期試験に係る試験問題、学生から提出された答案、レポート、出席確認表等(以下「成績根拠資料」という。)を保存しなければならない。

- 2 成績根拠資料の保存に関し必要な事項は、別に定める。

(成績評価の不服申立)

第20条 学生は、該当学期の成績評価に疑問がある場合、不服を申し立てることができる。

- 2 成績評価の不服申立に関し必要な事項は、別に定める。

(GPA制度)

第21条 学生の成績評価の総合点として、GPA(グレード・ポイント・アベレージ)制度を導入する。

- 2 GPA制度に関し必要な事項は、別に定める。

第22条 第9条に基づき再度登録した授業科目について単位が授与された場合は、改めて評価する。

(改廃)

第23条 この細則の改廃は、教育研究評議会の審議及び役員会の議を経て学長が行う。

附 則

- 1 この細則は、1972年4月1日から施行する。
- 2 学部通則(1963年制定)は、廃止する。

附 則(昭和56年2月27日)

この細則は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則(平成9年3月25日)

この細則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成17年6月28日)

この細則は、平成17年6月28日から施行する。

附 則(平成18年1月24日)

- 1 この細則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 改正後の15条の規定にかかわらず、平成17年度以前入学者(再入学については、当初の入学年度が平成17年度以前入学者)の成績の評価の基準は、なお従前の例による。

附 則(平成20年1月28日)

この細則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成21年6月16日)

この細則は、平成21年10月1日から施行する。

附 則(平成26年3月4日)

この細則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則(平成28年9月27日)

この細則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則(平成29年5月15日)

この細則は、平成29年5月15日から実施し、平成29年4月1日から適用する。

附 則(平成30年3月1日)

この細則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(平成30年7月25日)

- 1 この細則は、平成30年7月25日から実施する。
- 2 成績評価提出及び補講についての申合せ(昭和50年2月6日制定)は、廃止する。

附 則(令和3年3月17日)

この細則は、令和3年4月1日から実施する。

附 則(令和4年3月2日)

この細則は、令和4年4月1日から実施する。

○琉球大学共通教育等履修規程

(平成5年10月12日制定)

改正 平成6年2月24日 平成8年2月2日
平成9年3月25日 平成21年1月23日
平成22年9月21日 平成28年11月2日
平成29年2月9日 平成29年5月15日
平成30年3月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、琉球大学学則(以下「学則」という。)第21条の規定に基づき、大学の共通教育及び専門基礎教育(以下「共通教育等」という。)の授業科目の種類、単位数及び履修方法等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(授業科目の区分)

第2条 共通教育等として開設する授業科目の区分は、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 共通教育

教養領域	人文系科目、社会系科目、自然系科目、健康運動系科目
総合領域	総合科目、琉大特色・地域創生科目、キャリア関係科目
基幹領域	情報関係科目、外国語科目

(2) 専門基礎教育

専門基礎科目

2 前項に規定するもののほか、外国人学生のための授業科目として、日本語科目及び日本事情に関する科目を置くことができる。

(授業科目の名称等)

第3条 授業科目の名称、単位数及び講義内容等は、別表1及び別表2のとおりとする。

(履修基準)

第4条 各学科、課程等の共通教育の履修基準は、次に示す基準以上で定めなければならない。

(1) 人文系科目、社会系科目、自然系科目、健康運動系科目、総合科目、琉大特色・地域創生科目、キャリア関係科目及び情報関係科目の授業科目から14単位

(2) 外国語科目

ア 1つの外国語の場合には、6単位

イ 2つの外国語の場合には、各々4単位の計8単位

(履修基準の特例)

第5条 特別な事情のある各学科、課程等にあつては、専門基礎科目の履修単位のうち、2単位までを前条第1号に規定する14単位に含めることができる。

第6条及び第7条 削除

(外国人学生の履修の特例)

第8条 外国人学生が日本語科目の単位を修得した場合には、外国語科目の単位に、日本事情に関する科目の単位を修得した場合には、外国語を除く共通教育の科目の単位にそれぞれ充てることができる。

(履修要件)

第9条 学生は、別表3の各学部学科等別共通教育等履修基準表により、所定の科目及び単位を修得しなければならない。

(授業科目の公示)

第10条 各学期に開講する授業科目、単位数及び担当教員は学期の始めに公示する。ただし、臨時に開講する授業科目についてはその都度公示する。

(授業科目の単位の計算方法)

第11条 授業科目の単位の計算方法は、学則第22条の規定による。

(事務)

第12条 共通教育等に関する事務は、学生部教育支援課において処理する。

(改廃)

第13条 この規程の改廃は、教育研究評議会の議を経て学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、平成6年4月1日から施行する。
- 2 琉球大学教養科目履修規程(1972年3月11日制定)は、廃止する。
- 3 平成6年3月31日に在学する者(以下「在学者」という。)については、なお従前の例による。ただし、各学部又は教養部が必要と認める場合には、この規程第11条の規定を適用することができる。
- 4 各学部又は教養部が必要と認める場合には、この規程に基づき開設される授業科目を在学者に履修させることができる。この場合において当該授業科目の履修は、従前の琉球大学教養科目履修規程に基づく授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

附 則(平成6年2月24日)

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則(平成8年2月2日)

この規程は、平成8年4月1日から施行する。

附 則(平成9年3月25日)

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成21年1月23日)

- 1 この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 4 条及び第 5 条の規定にかかわらず、平成 20 年度以前入学者の履修基準及び同特例は、なお従前の例による。
- 3 観光産業科学部産業経営学科は、改正後の第 4 条及び第 5 条の規定にかかわらず、平成 22 年度までの入学者の履修基準及び同特例は、なお従前の例による。
- 4 農学部は、改正後の第 4 条及び第 5 条の規定にかかわらず、平成 24 年度までの入学者の履修基準及び同特例は、なお従前の例による。

附 則(平成 22 年 9 月 21 日)

この規程は、平成 22 年 9 月 21 日から施行する。

附 則(平成 28 年 11 月 2 日)

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 29 年 2 月 9 日)

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 29 年 5 月 15 日)

この規程は、平成 29 年 5 月 15 日から施行し、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(平成 30 年 3 月 1 日)

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

別表 1～3 略

(別表1)

共通教育等授業科目表

領域	科目	科目 番号	授業科目	単 位	期 間	週 時間	備考	領域	科目	科目 番号	授業科目	単 位	期 間	週 時間	備考				
教育	人	人01	人間と哲学の知	2	半	2		教育	社	社01	法と社会	2	半	2					
		人03	思考の論理入門	2	半	2				社02	憲法概論	2	半	2					
		人04	思考の論理	2	半	2				社03	現代政治の課題	2	半	2					
		人05	西洋思想とインドの思想	2	半	2				社04	日本の政治	2	半	2					
		人06	西洋思想と日本・中国の思想	2	半	2				社06	戦争と平和の諸問題	2	半	2					
		人08	人間と倫理	2	半	2				社11	地域と生活	2	半	2					
		人09	環境の哲学	2	半	2				社12	現代社会のしくみ	2	半	2					
		人10	心の哲学	2	半	2				社13	マスコミと社会	2	半	2					
		人11	心の科学	2	半	2				社15	人類文化の比較	2	半	2					
		人12	人間関係論	2	半	2				社19	ジェンダー学とインターセクショナリティ	2	半	2					
		人15	犯罪心理学入門	2	半	2				社21	現代経済のしくみ	2	半	2					
		人16	比較思想文化論	2	半	2				社22	経済の歴史	2	半	2					
		人17	生命倫理	2	半	2				社23	現代企業のしくみI	2	半	2	新設				
		人18	宗教と世界	2	半	2				社24	ベンチャー起業入門	2	半	2					
		人19	人間と宗教	2	半	2				社25	ベンチャー起業実践	2	半	2					
		人20	人間観と教育	2	半	2				社26	現代企業のしくみII	2	半	2	新設				
		人21	近代日本の社会と表現	2	半	2				社28	現代経済の諸問題	2	半	2					
		人22	日本古典文学の世界	2	半	2				社30	大学教育論	2	半	2					
		人23	文学の楽しみ	2	半	2				社31	教育政策史	2	半	2					
		人24	小説の社会学	2	半	2				社34	マネジメント系SDGs演習	1	Q	2					
		人25	ことばの生態	2	半	2				社35	生命保険実務	2	半	2					
		人26	ことばの構造と意味	2	半	2				社36	損害保険実務	2	半	2					
		人27	日本語のしくみ	2	半	2				社91	社会系特別講義 I	2	半		集中講義				
		人27-1	日本語のはたらき	2	半	2				社92	社会系特別講義 II	2	半		集中講義				
		人28-1	中国古典文学の世界	2	半	2													
		人28-2	20世紀の中国文学	2	半	2													
		人30	アメリカの文学と近代社会	2	半	2													
		人31	日本語研究入門	2	半	2													
人35	歴史を知る	2	半	2															
人36	歴史を探る	2	半	2															
人37	歴史を見る	2	半	2															
人38	歴史を考える	2	半	2															
人39	歴史を深める	2	半	2															
人40	歴史を学ぶ	2	半	2															
人41	歴史を掘る	2	半	2															
人46	考古学入門	2	半	2															
人52	美術の世界	2	半	2															
人55	コーラル・アンサンブルの楽しみ	2	半	2															
人56	楽しく学ぶギター弾き語り I	2	半	2															
人57	楽しく学ぶギター弾き語り II	2	半	2															
人58	ステージスタッフ総合活動	2	半	2															
人61	美術と社会	2	半	2															
人64	陶芸の世界	2	半	2															
人65	オーケストラの楽しみ I	2	半	2															
人66	オーケストラの楽しみ II	2	半	2															
人71	心理学入門 I	1	Q	2															
人72	心理学入門 II	1	Q	2															
人73	共生社会にむけたアクセシビリティ	2	半	2															
人74	アクセシビリティ演習	2	半	2															
人75	ヒューマニティ系SDGs演習	1	Q	2															
人76	ボランティアデザイン I	2	半	2	新設														
人77	ボランティアデザイン II	2	半	2	新設														
人91	人文系特別講義 I	2	半		集中講義														
人92	人文系特別講義 II	2	半		集中講義														
								健康運動系科目	健01	健康・スポーツ科学	2	半	2		講義				
									健03	運動・スポーツ科学演習	2	半	2						

(別表1)

共通教育等授業科目表

領域	科目	科目番号	授業科目	単位	期間	週時間	備考	領域	科目	科目番号	授業科目	単位	期間	週時間	備考
総合	大特色・地域創生科目	琉97	琉大特色・地域創生特別講義VII	2	半	2	集中講義	基 外 国 語 領 域	情報関係科目	情01	情報科学演習	2	半	2	
		琉98	琉大特色・地域創生特別講義VIII	2	半	2	集中講義			情11	日本語表現法入門	2	半	2	
		琉99	琉大特色・地域創生特別講義IX	2	半	2	集中講義		外101	大学英语	4	半	4		
		琉100	沖縄の航空事業と地域振興	2	半	2				外102	英語講読演習 中級	2	半	2	
		琉101	ドローン&フィールドサイエンス	2	半	2	集中講義			外103	英語講読演習 上級	2	半	2	
		琉102	グローバル実践演習 I	2	半	2				外104	英会話演習 中級	2	半	2	
		琉103	グローバル実践演習 II	2	半	2				外105	英会話演習 上級	2	半	2	
		琉104	グローバル実践演習 III	2	半	2				外106	英作文演習 中級	2	半	2	
		琉105	グローバル実践演習 IV	2	半	2				外107	英作文演習 上級	2	半	2	
		琉106	個と多様性	1	Q	2				外108	英語プレゼンテーション演習 中級	2	半	2	
		琉107	グローバルリーダーシップ論 I	1	Q	2				外109	英語プレゼンテーション演習 上級	2	半	2	
		琉108	グローバルリーダーシップ論 II	1	Q	2				外110	TOEIC演習	2	半	2	
		琉109	グローバル実践研修	1	Q	2				外111	TOEFL演習	2	半	2	
		琉110	グローバル実践研修 II	1	Q	2				外112	英検準1級演習	2	半	2	
琉111	沖縄の航空事業と地域振興 II	2	半	2		外113	特定英語課題演習 I	2	半	2					
琉112	世界自然遺産西表島	2	半	2	集中講義	外114	特定英語課題演習 II	2	半	2					
琉113	マングローブ生態系西表島	2	半	2	集中講義	外201	ドイツ語入門 I	2	半	2					
琉114	社会に活かす科学研究	2	半	2	集中講義		外202	ドイツ語入門 II	2	半	2				
総合	キャリア関係科目	C11	キャリア形成入門	2	半		2		外203	ドイツ語入門 III	2	半	2		
		C15	キャリアデザインとジェンダー	2	半		2		外204	ドイツ語入門 IV	2	半	2		
		C22	海外キャリア形成入門	2	半		2	集中講義	外205	ドイツ語会話入門 I	2	半	2		
		C23	海外職場体験	2	半		2	集中講義	外206	ドイツ語会話入門 II	2	半	2		
		C27	実践キャリア形成	2	半		2	新設	外207	インテンシブドイツ語 I	4	半	4		
		C31	地域企業(自治体)お題解決プログラム	2	半		2		外208	インテンシブドイツ語 II	4	半	4		
		C41	日本企業インターンシップ I	2	半		2	集中講義	外209	インテンシブドイツ語 III	2	半	2		
		C42	日本企業インターンシップ II	2	半		2	集中講義	外210	インテンシブドイツ語 IV	2	半	2		
		C91	キャリア関係特別講義 I	2	半		2	集中講義	外211	ドイツ語圏文化入門	2	半	2		
		C92	キャリア関係特別講義 II	2	半		2	集中講義	外301	フランス語入門 I	2	半	2		
		C93	キャリア関係特別講義 III	2	半		2	集中講義		外302	フランス語入門 II	2	半	2	
		C94	キャリア関係特別講義 IV	2	半	2	集中講義	外303		フランス語入門 III	2	半	2		
		C95	キャリア関係特別講義 V	2	半	2	集中講義	外304		フランス語入門 IV	2	半	2		
C96	キャリア関係特別講義 VI	2	半	2	集中講義	外305	フランス語会話入門 I	2		半	2				
C97	キャリア関係特別講義 VII	2	半	2	集中講義	外306	フランス語会話入門 II	2		半	2				
C98	キャリア関係特別講義 VIII	2	半	2	集中講義	外307	インテンシブフランス語 I	4		半	4				
C99	キャリア関係特別講義 IX	2	半	2	集中講義	外308	インテンシブフランス語 II	4		半	4				
総合	地域							外309		インテンシブフランス語 III	2	半	2		
								外310		インテンシブフランス語 IV	2	半	2		
								外311		フランス語圏文化入門	2	半	2		
								外401	スペイン語入門 I	2	半	2			
									外402	スペイン語入門 II	2	半	2		
									外403	スペイン語入門 III	2	半	2		
									外404	スペイン語入門 IV	2	半	2		
									外405	スペイン語会話入門 I	2	半	2		
									外406	スペイン語会話入門 II	2	半	2		
									外407	インテンシブスペイン語 I	4	半	4		
									外408	インテンシブスペイン語 II	4	半	4		
						外409	インテンシブスペイン語 III		2	半	2				
						外410	インテンシブスペイン語 IV		2	半	2				
						外411	スペイン語圏文化入門		2	半	2				

(別表1)

共通教育等授業科目表

領域	科目	科目番号	授業科目	単位	期間	週時間	備考	領域	科目	科目番号	授業科目	単位	期間	週時間	備考
基礎	外国語	外501	中国語基礎I	4	半	4		専門基礎科目	先修科目	先03	線形代数学I	2	半	2	医学科用
		外502	中国語基礎II	4	半	4				先04	線形代数学II	2	半	2	
		外503	中国語中級	4	半	4				先05	線形代数学演習I	2	半	2	
		外504	中国語講読	2	半	2				先06	線形代数学演習II	2	半	2	
		外505	中国語演習	2	半	2				先07	統計学	2	半	2	
		外506	中国語上級	2	半	2				先08	統計学I	2	半	2	
		外507	中国語特演	2	半	2				先09	統計学II	2	半	2	
		外508	中国語会話	2	半	2				先11	微分積分学ST(スタンダードコース)I	2	半	2	
		外509	時事中国語	2	半	2				先12	微分積分学ST(スタンダードコース)II	2	半	2	
		外510	中国語作文	2	半	2				先13	微分積分学AD(アドバンスコース)I	2	半	2	
		外511	実践中国語	2	半	2				先14	微分積分学AD(アドバンスコース)II	2	半	2	
	外国語	外601	朝鮮語基礎I	4	半	4		先21	地学実験	1	半	3			
		外602	朝鮮語基礎II	4	半	4		先23	地球科学I	2	半	2			
		外603	朝鮮語中級	4	半	4		先24	地球科学II	2	半	2			
		外604	朝鮮語講読	2	半	2		先31	物理学I	2	半	2			
		外605	朝鮮語演習	2	半	2		先32	物理学II	2	半	2			
		外701	インドネシア語基礎I	4	半	4		先33	物理学実験	1	Q	4			
		外702	インドネシア語基礎II	4	半	4		先41	化学I	2	半	2			
		外711	タイ語基礎I	4	半	4		先42	化学II	2	半	2			
		外712	タイ語基礎II	4	半	4		先43	化学実験	1	半	3			
		外731	ラテン語入門I	2	半	2		先51	生物学I	2	半	2			
		外732	ラテン語入門II	2	半	2		先52	生物学II	2	半	2			
	外国語	外751	ロシア語入門I	2	半	2		先53	生物学実験	1	半	3			
		外752	ロシア語入門II	2	半	2		目	転換科目	2	半	2			
								転03	微分積分学入門I	2	半	2			
								転04	微分積分学入門II	2	半	2			
	基礎							転11	物理学入門I	2	半	2			
							転12	物理学入門II	2	半	2				
基礎							転23	化学入門I	2	半	2				
							転24	化学入門II	2	半	2				

(別表1)

共 通 教 育 等 授 業 科 目 表

領域	科目	科目 番号	授 業 科 目	単 位	期 間	週 時 間	備 考
日 本 語 ・ 日 本 事 情	日 本 語 本 語	日107	文法C2S	2	半	2	外 国 人 留 学 生 対 象
		日108	文法C2F	2	半	2	
		日203	読解B2S	2	半	2	
		日204	読解B2F	2	半	2	
		日205	読解C1S	2	半	2	
		日206	読解C1F	2	半	2	
		日208	読解C2F	2	半	2	
		日303	聴解B2S	2	半	2	
		日304	聴解B2F	2	半	2	
		日305	聴解C1S	2	半	2	
		日306	聴解C1F	2	半	2	
		日307	聴解C2S	2	半	2	
		日308	聴解C2F	2	半	2	
		日405	アカデミック日本語C1S	2	半	2	
	日406	アカデミック日本語C1F	2	半	2		
	日407	アカデミック日本語C2S	2	半	2		
	日408	アカデミック日本語C2F	2	半	2		
	日 本 事 情 科 目	科 目	日505	会話C1S	2	半	2
			日506	会話C1F	2	半	2
			日507	会話C2S	2	半	2
			日603	漢字B2S	1	半	2
			日604	漢字B2F	1	半	2
			日701	口頭表現C1S	2	半	2
			日702	口頭表現C1F	2	半	2
		目 情 科 目	日703	口頭表現C2S	2	半	2
			日704	口頭表現C2F	2	半	2
			日802	ビジネス日本語入門	2	半	2
			日803	ビジネス日本語 I	2	半	2
日804			ビジネス日本語 II	2	半	2	
日 本 事 情 科 目			日915	沖縄の文化 I	2	半	2
			日916	沖縄の文化 II	2	半	2
	日925	沖縄の歴史 I	2	半	2		
	日926	沖縄の歴史 II	2	半	2		
	日955	日本の文化 I	2	半	2		
	日956	日本の文化 II	2	半	2		
	日965	日本の歴史 I	2	半	2		
	日966	日本の歴史 II	2	半	2		
日 本 事 情 科 目	日983	日本語B2S	4	半	4		
	日984	日本語B2F	4	半	4		

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
人01	人間と哲学の知	2	2-0	1~4	前又は後	西洋哲学の基本的な領域を概観しつつ、人間と世界について考える。	
人03	思考の論理入門	2	2-0	1~4	前又は後	論理学の基本的な領域を概観しつつ、人間の論理的な思考について考える。	
人04	思考の論理	2	2-0	1~4	前又は後	論理学を概観しつつ、人間の論理的な思考について考える。	
人05	西洋思想とインドの思想	2	2-0	1~4	前又は後	西洋思想とインド思想を比較検討しつつ、それぞれの思考様式を明らかにする。	
人06	西洋思想と日本・中国の思想	2	2-0	1~4	前又は後	西洋思想と日本・中国の思想を比較検討しつつ、それぞれの思考様式を明らかにする。	
人08	人間と倫理	2	2-0	1~4	前又は後	倫理学を学びつつ、人間について考える。	
人09	環境の哲学	2	2-0	1~4	前又は後	環境の保全と保存、土地倫理、共有地の悲劇と救命艇倫理、宇宙船倫理、世代間倫理等、環境倫理学における種々の考え方を検討し、さらに、その背景をなす人間観、自然観等を考察する。	
人10	心の哲学	2	2-0	1~4	前又は後	本講義は心をめぐる哲学的な問題を論じるものであり、今日では「心の哲学」と呼ばれる分野を成している。近代以降の心身二元論から21世紀の最先端の話題について、幅広くカバーし、「心」の本性について哲学の立場から論じる。	
人11	心の科学	2	2-0	1~4	前又は後	人間の心と行動を科学的に理解するために、知覚、学習、記憶と思考など、心理学の基礎的側面を中心に概説する。	
人12	人間関係論	2	2-0	1~4	前又は後	人間の発達、パーソナリティ論、社会行動などを通して、自己と他者、対人関係についての理解を心理学的に深めることを目的とする。	
人15	犯罪心理学入門	2	2-0	1~4	後	犯罪心理学の理論を、個人の特性に焦点をあてた理論、家族などの親密な人間関係に焦点をあてた理論、社会の構造や特性に焦点をあてた理論、心理学の原理を用いた理論などに分類して概説し、具体的な犯罪について解説する。また、犯罪者の更生についても概説する。	
人16	比較思想文化論	2	2-0	1~4	前又は後	世界には様々な思想や文化が存在している。どのような思想や文化も地域性や時間性という制約の下にある。それ故、それらの違いがまず強調されるであろう。しかし、それらの中には共通性も見出されうる。本講義では、世界の思想や文化を、比較という観点からその共通性や相違に着目して、論じる。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
人17	生命倫理	2	2-0	1~4	前又は後	生命倫理学を中心に、安楽死と尊厳死、脳死と臓器移植、クローン、ケア論等について検討し、あわせて生と死、人間等について考えてみたい。	
人18	宗教と世界	2	2-0	1~4	前又は後	世界の主要な宗教について、その教義や歴史などを概説する。宗教が関係する諸問題についても取り上げる。	
人19	人間と宗教	2	2-0	1~4	前又は後	多くの宗教に共通する一般的な特徴を中心に紹介しながら、人間にとって、あるいは社会にとって宗教とはどのような意味・役割をもつかについて考える。	
人20	人間観と教育	2	2-0	1~4	前又は後	多様な教育についての考え方を、それを根底で支える人間観と共に紹介し、現代にふさわしい人間観、および教育のあり方について考える。	
人21	近代日本の社会と表現	2	2-0	1~4	前又は後	各時代を代表する作品を取り上げ、作品が時代をどのように浮かび上がらせたか、又、作品が時代によって、どう読まれたかを探る。	
人22	日本古典文学の世界	2	2-0	1~4	前・後	「今昔物語集」を中心に説話文学を学ぶ一方、日本と琉球の民俗現象や類似の文芸について学ぶ。	
人23	文学の楽しみ	2	2-0	1~4	前	大衆文学の代表的作家(司馬遼太郎、松本清張、水上勉等)を取り上げ、彼等の作品が何故、多くの人々に愛され読まれているか、その魅力を探っていく。	
人24	小説の社会学	2	2-0	1~4	後	小説を「社会」とのかかわりで読解し、ある集団・国民の意識、神話、ある時代の文化、精神構造を探る手がかりとする。	
人25	ことばの生態	2	2-0	1~4	前又は後	私たちは「ことば」を使って生きている。「ことば」は社会生活・文化活動を営む上での基礎となっている。一見自明に見える「ことば」、その「ことば」の本質、生理、認知、機能及び生活の中の「ことば」について考察する。	
人26	ことばの構造と意味	2	2-0	1~4	前又は後	意思疎通の優れた手段としての言語の仕組みがどのようなものなのか、意味とは何かなど日本語なり、英語なりの個別言語の体系と意味を考察し、その深層を探る。	
人27	日本語のしくみ	2	2-0	1~4	前・後	日本語の発生、系統をはじめ、その文法、音韻等について体系的なしくみを学ぶと共に、日本語の現在、及び日本語研究の問題点を考察していく。	
人27-1	日本語のはたらき	2	2-0	1~4	後	社会言語学的な側面から、日本語の使用実態や、バリエーションについて考えていく。グループ活動を重視した授業展開を予定している。知識を受け身で得るのではなく、自ら探究する姿勢を重視する。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
人28-1	中国古典文学の世界	2	2-0	1~4	前・後	中国の文学は、その時間的なスケールの長さや内容の多様さにおいて世界に類を見ない豊かさを持っている。漢字に載せて運ばれた思想と美的表現は周辺の国々に強い影響を与えてきた。日本の文学を理解するうえで中国の文学、歴史、思想等を理解することは、基本的な前提条件である。本授業では中国の古典文学について講義する。	
人28-2	20世紀の中国文学	2	2-0	1~4	前・後	中国の文学は、その時間的なスケールの長さや内容の多様さにおいて世界に類を見ない豊かさを持っている。漢字に載せて運ばれた思想と美的表現は周辺の国々に強い影響を与えてきた。中国の近現代文学にはこの国の社会的、歴史的な条件の中で翻弄された人々の思想と生活が反映されている。本授業では中国の近代・現代文学について講義する。	
人30	アメリカの文学と近代社会	2	2-0	1~4	後	アメリカ近代文学の主要作品の講読・解説を中心に南北戦争から現代に至るアメリカの文学と社会及び文化について考える。	
人31	日本語研究入門	2	2-0	1~4	前又は後	普段何気なく話している日本語、そこには母語話者ほど気づきにくいさまざまな謎や仕組みが隠されている。この授業では、グループ活動を通して、日本語研究のさまざまなテーマに触れる。「答えがすぐには見つからない」ことの面白さを知ることも、この授業の目的の一つである。	
人35	歴史を知る	2	2-0	1~4	前又は後	歴史学には、日本史・東洋史・西洋史・考古学といったさまざまな分野がある。それらの分野のなかから、いくつかのテーマに焦点をあわせて、歴史について新たに知ることをねらいとする。	
人36	歴史を探る	2	2-0	1~4	前又は後	歴史学には、日本史・東洋史・西洋史・考古学といったさまざまな分野がある。それらの分野のなかから、いくつかのテーマに焦点をあわせて、さまざまな視点から歴史について探ることをねらいとする。	
人37	歴史を見る	2	2-0	1~4	前又は後	歴史学には、日本史・東洋史・西洋史・考古学といったさまざまな分野がある。それらの分野のなかから、いくつかのテーマに焦点をあわせて、新たな視点から歴史を見ていくことをねらいとする。	
人38	歴史を考える	2	2-0	1~4	前又は後	歴史学には、日本史・東洋史・西洋史・考古学といったさまざまな分野がある。それらの分野のなかから、いくつかのテーマに焦点をあわせて、歴史について考えることをねらいとする。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
人39	歴史を深める	2	2-0	1~4	前又は後	歴史学には、日本史・東洋史・西洋史・考古学といったさまざまな分野がある。それらの分野のなかから、いくつかのテーマに焦点をあわせて、歴史についての理解を深めることをねらいとする。	
人40	歴史を学ぶ	2	2-0	1~4	前又は後	歴史学には、日本史・東洋史・西洋史・考古学といったさまざまな分野がある。それらの分野のなかから、いくつかのテーマに焦点をあわせて、歴史について学ぶことをねらいとする。	
人41	歴史を掘る	2	2-0	1~4	前・後	土の中から掘り出される遺跡・遺物を通して人類の歴史を解き明かす方法を考える。	
人46	考古学入門	2	2-0	1~4	前・後	考古学は、物質資料（遺跡・遺物）から、過去の人類の生活を究明する学問である。本講義では、考古学研究の歩みを踏まえながら、調査の方法、分析の方法や基本的な考え方をわかりやすく整理し、遺跡・遺物から何がわかるかを具体的に学ぶことを目的とする。	
人52	美術の世界	2	2-0	1~4	前・後	美術の広範な領域から特定の課題を設定し講義する。（クラス毎に内容が異なることがあるので共通教育等科目授業計画書に注意すること。）	
人55	コーラルアンサンブルの楽しみ	2	0-2	1~4	前・後	合唱を通して、歌唱に必要な呼吸法・発声法・音楽表現法を学ぶとともにアンサンブル力向上の過程で必要とされるメンバーの相互理解・協調性を陶冶し、豊かな人間性形成を目指す。	
人56	楽しく学ぶギター弾き語りⅠ	2	0-2	1~4	前	ギターの持ち方、調弦法、ハ長調やト長調の基本コードのポジションの学習から始め簡単な弾き歌いを修得する。	
人57	楽しく学ぶギター弾き語りⅡ	2	0-2	1~4	後	前期に続きギターの弾き歌いのテクニックを学習する。前期の内容を発展させ、扱う調性・コードを増やし、さらに詳しく学習する。	隔年開講
人58	ステージスタッフ総合活動	2	0-2	1~4	前	総合舞台芸術を陰で支えるステージスタッフの存在無くしてはいかなるステージ・パフォーマンスも成り立たない。この授業では、背景画・美術道具・衣裳・メイクサポートなどを演習をとおして学び、集団活動をとおしての自律性・問題解決能力・社会性・コミュニケーション力を身につけていく。	
人61	美術と社会	2	2-0	1~4	後	私たちを取り巻く環境そしてそれぞれの経験から成る表現活動を人類の、文化の流れと共に考察する。美術史上及び現代の作家による作品やプロジェクトを検討する。	
人64	陶芸の世界	2	2-0	1~4	前又は後	縄文時代から今日まで、人々はどのように「やきもの」とかわり、発展させてきたのか。その技術的特徴や造形性の変遷について、日本での成り立ちを軸に概説する。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
人65	オーケストラの楽しみⅠ	2	0-2	1~4	前	オーケストラの持つ魅力に親しむことを目的とし、受講生の選択楽器および演奏経験等を考慮した上で編成を組む。ハーモニー練習などアンサンブル基礎練習を行った後、楽器編成に合わせ古典派の楽曲を中心に演奏・研究する。講義を通してパート練習、セクション練習を積み、最終的に合奏へともっていく。	
人66	オーケストラの楽しみⅡ	2	0-2	1~4	後	前期から行なっているハーモニー練習などアンサンブル基礎練習を継続的に行った上で、ロマン派の楽曲を中心に演奏・研究する。 前期に引き続き最終的に合奏へもっていくため、パート練習、セクション練習を積むことが必要となる。	
人71	心理学入門Ⅰ	1	2-0	1~4	前又は後	心理学は心の諸現象を科学的に研究していく学問である。そしてそれはどの学問分野を専門として学ぶにしても、多かれ少なかれ必要となってくる学問であると言えるだろう。よってここでは知覚、認知、発達など心理学の基本的な事項について学ぶ。	クォーター科目
人72	心理学入門Ⅱ	1	2-0	1~4	前又は後	心理学は心の諸現象を科学的に研究していく学問である。そしてそれはどの学問分野を専門として学ぶにしても、多かれ少なかれ必要となってくる学問であると言えるだろう。よってここでは性格、動機、学習など心理学の基本的な事項について学ぶ。	クォーター科目
人73	共生社会にむけたアクセシビリティ	2	2-0	1~4	前	障がいの有無や年齢、文化等の個人の多様性についての知識を深める。そして、見る・聞く・移動するなどの多様な角度から社会的障壁を理解し、それを取り除くために必要な思考性を獲得することを目的とする。	
人74	アクセシビリティ演習	2	2-0	1~4	後	障がいの有無や年齢、文化等の個人の多様なニーズについて理解した上で、学びやすい・過ごしやすい環境を整えるためのコーディネートや社会的障壁に対する対応能力の取得を目的とする。	
人75	ヒューマニティ系SDGs演習	1	0-2	1~4	前	持続可能な開発目標SDGsに積極的に取り組む人材育成のための学修プログラムであるグローバル津梁の応用段階(Level 2)として、ヒューマニティ系SDGsのターゲット、指標を活用した調査分析を実践する。	クォーター科目
人76	ボランティアデザインⅠ	2	2-0	1~4	前	多様性を志向する現代社会において、様々なニーズへの対応力がある人材が求められている。障がいを社会モデルとして捉え、環境を整えるためのコーディネート力、および社会的障壁に対する対応能力を獲得することを目的とする。 本講義では、グループワークを通して障がい種別における社会的障壁を調査し、それを解消するアクセシビリティを考案する。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：人文系科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
人77	ボランティアデザインII	2	2-0	1~4	後	多様性を志向する現代社会において、様々なニーズへの対応力がある人材が求められている。障がい者社会モデルとして捉え、環境を整えるためのアクセシビリティの向上や啓発を目的としたプロジェクトを実際に企画立案することを目的とする。	
人91	人文系特別講義I	2		1~4	前	開講時に公示する。	集中講義
人92	人文系特別講義II	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：社会系科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
社01	法と社会	2	2-0	1~4	前・後	法の概念、目的、効力、適用など、法と社会の諸問題について考える。	
社02	憲法概論	2	2-0	1~4	前・後	憲法についての基礎的知識及び日本国憲法の概要。	
社03	現代政治の課題	2	2-0	1~4	前・後	現代の日本政治を多面的に分析し、そこから日本政治の課題を導き出し、解法の方法を提示する。その際、日本の政治風土、政治文化についても論及し、日本の政治像の全体的な把握を目指す。	
社04	日本の政治	2	2-0	1~4	前又は後	政治学には政治理論、政治史、政治思想史、政治制度、政治過程、政党制、公共政策、地方自治などの様々な分野が方撰されるが、これらをわが国の政治状況に焦点を絞って考察することによって、日本の政治に関する関心と基礎知識を養う。	
社06	戦争と平和の諸問題	2	2-0	1~4	前・後	「戦争を防ぎ、平和を達成するにはどのようにすればよいのか？」という問題意識に基づき、広く戦争と平和に関する諸問題を扱う。さまざまな角度から21世紀国際社会に平和を定着させる方法を考える。	
社11	地域と生活	2	2-0	1~4	前・後	地域と人々の暮らしとの関わりを、人文、自然の両面から考察する。	
社12	現代社会のしくみ	2	2-0	1~4	前・後	現代社会のしくみと変動について、沖縄の事例も取り入れながら考察する。	
社13	マスコミと社会	2	2-0	1~4	前・後	現代社会におけるマスコミと大衆の関わりについて沖縄の事例も取り入れながら考える。	
社15	人類文化の比較	2	2-0	1~4	前・後	家族と親族、宗教と世界文化とパーソナリティ等、人類文化の諸分野について比較考察する。	
社19	ジェンダー学とインターセクショナルリティ	2	2-0	1~4	後	ジェンダー学とインターセクショナルリティの基礎的視座、概念、理論、方法論について学び理解を深めつつ、身近な地域や国内外における文化、社会、政治に表象されるジェンダーの課題を特定し、その問題解決に向けて議論を深める。	
社21	現代経済のしくみ	2	2-0	1~4	前・後	現代社会を構成するミクロ・マクロの経済主体の行動と市場メカニズムを学ぶことにより、経済の資源配分のしくみと雇用・物価・生産の変動というマクロ経済の変動メカニズムを探求する。	
社22	経済の歴史	2	2-0	1~4	前・後	人類の悠久の歴史は、人と人との織り成す歴史である。この中でも資本主義の成立過程は激烈であった。そこで本講義では、資本主義がどのような歴史過程を経て成立したのかをとらえる。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：社会系科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
社23	現代企業のしくみⅠ	2	0-2	1~4	前・後	現代企業のしくみについて、経営分野・マーケティング分野の観点から講義を行う。 ケースやデータ等を利用して企業活動を基礎から学ぶ講義であり、専門分野を問わずに幅広い学生を対象とする講義である。	
社24	ベンチャー起業入門	2	2-0	1~4	前	産学官連携による沖縄ビジネスアイデアコンテストと連動した実践的な講義により、起業に関する基本的な知識の習得のみならず、課題解決能力や自己表現力等、キャリア形成及び就業力の育成につながる起業家マインドと行動パターンを学ぶ。	
社25	ベンチャー起業実践	2	2-0	1~4	後	問題解決型学習（PBL）を通じて、本学の研究シーズ、地域企業の課題、アイデアコンテストの入賞作品等をテーマとし、具体的なビジネスプランを作成する。 チームを編成し、仮想的に会社を立ち上げて、金融機関や企業、その他支援団体等へプレゼンを行う等、ビジネスプランの事業化のプロセスを体験する。	
社26	現代企業のしくみⅡ	2	0-2	1~4	前・後	現代企業のしくみについて、会計分野を中心に企業活動のしくみを学ぶ講義となる。 沖縄県の上場企業や各業界のトップシェアを有する企業を題材として、事例やデータ等を利用して企業活動を基礎から学ぶ講義であり、専門分野を問わずに幅広い学生を対象とする講義である。	
社28	現代経済の諸問題	2	2-0	1~4	前又は後	現代社会がかかえる財政、金融、失業環境などの諸問題について平易に概説する。	
社30	大学教育論	2	2-0	1~4	後	大学教育への理解を深めるため、大学の歴史や役割、大学での学び、大学生等について講義し、受講生の間で予習を前提としたディスカッションを行う。	
社31	教育政策史	2	2-0	1~4	後	本講義では、日米の教育政策、教育制度の歴史を比較しながら、教育の市場化やテスト政策の進展といった現代の教育政策上の課題について考察するとともに、これまでの被教育経験を教育政策の観点から相対化する。	
社34	マネジメント系SDGs 演習	1	0-2	1~4	後	持続可能な開発目標SDGsに積極的に取り組む人材育成のための学修プログラムであるグローバル津梁の応用段階(Level 2)として、マネジメント系SDGsのターゲット、指標を活用した調査分析を実践する。	クォーター 科目

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：社会系科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
社35	生命保険実務	2	2-0	1~4	前・後	本講義では、個人生活・企業活動において不可欠な生活保障サービスを提供している生命保険会社の経営活動・商品内容などを通して、生命保険の概念・機能・効果などを概説します。生命保険について学ぶことは、一人ひとりの人生や生活設計を考えるきっかけとなり、また、国民生活にかかる保障システムを理解するうえでも大変有益です。	
社36	損害保険実務	2	2-0	1~4	前・後	本講義では、私たちの生活を取り巻く地震・台風などの自然災害や病気、交通事故や犯罪などの各種リスクに備える経済システムである損害保険が、日常生活や経済にどのような役割を果たしているのかを学び、消費者や社会人として必要な経済的な備えである損害保険の基本的な知識を習得することを目的とします。	
社91	社会系特別講義Ⅰ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
社92	社会系特別講義Ⅱ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：自然系科目】

科目番号	授業科目	単 位	週時間	受講 年次	学 期	講 義 内 容	備 考
自01	大気の科学	2	2-0	1~4	前・後	地球大気現象についての系統だてた解説を通して、現代社会人としての地球科学的知識の向上と、科学的思考法（演繹法）の習練をはかる。	
自02	地球の科学	2	2-0	1~4	前・後	現代の地球上で起きている様々な地学的現象について解説し、46億年の地球史を地球環境と地球生命の変動を中心に概説する。	
自03	海洋の科学	2	2-0	1~4	前・後	地球の海に関する様々なテーマ（地球の海の起源と進化、海水の化学組成とその変遷史、海底の地学、海洋の大循環、海洋の生態系、サンゴ礁など）を取り上げ概説する。	
自11	統計と社会	2	2-0	1~4	前・後	社会で使われている統計を例にしながら、その仕組みを講義する。	
自12	数理の構造	2	2-0	1~4	前・後	現代数学の仕組みについて、幾つかの話題をもとに講義する。	
自13	数の文化	2	2-0	1~4	前・後	数学と社会の関わりについて、幾つかの話題をもとに講義する。	
自21	時間と空間	2	2-0	1~4	前 期	時間と空間に関する物理的理解や人間の宇宙観の変遷などについて概説する。	
自22	人間と物理学	2	2-0	1~4	後 期	生活の中の物理学や物理学の歴史を通して人間と物理学との関わりを考える。	
自32	分子の世界	2	2-0	1~4	前又は後	物質を構成する分子の化学的性質などについて概説する。	
自41	生物の生活	2	2-0	1~4	前・後	さまざまな生物の生活とまわりの環境との関わりに重点をおいて考える。	
自42	生命の科学	2	2-0	1~4	前・後	生命のしくみを細胞レベルから考える。	
自54	沖縄の風景	2	2-0	1~4	後 期	沖縄の自然環境と生活文化により形作られている身の回りの風景を理解するため、自然、伝統、生活、産業、基地、イメージなど、沖縄の風景の持つ多様な側面についての基礎的な知識を習得すると共に、未来の沖縄の風景について考察する。	
自55	社会統計学基礎	2	2-0	1~4	後 期	自然科学、社会科学、人文科学などの調査研究を行うためには、いろいろな科学的分析方法が用いられる。統計学はそれらの科学的分析方法のひとつであり、母集団の特性を推定し、大量のデータの中に存在する法則性を扱う分析方法である。講義でこの理論と実践を習得する。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：自然系科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
自57	ランドスケープ論	2	2-0	1~4	前・後	海岸線、水、緑地、公園、住宅地、集落などの土地利用のあり方を、ランドスケープの面から考察する。	
自61	地球環境と科学技術	2	2-0	1~4	前 期	今日、地球温暖化をはじめとする様々な環境問題が生じている。本講義では地球環境問題に対する理解を深め、それらの問題を解決するための科学技術について学習する。	
自64	自然環境と土木工学	2	2-0	1~4	後 期	比較的身近な自然環境の仕組みを特に生態学的な視点から解説する。そして、防災と環境保全の関係、環境保全のための土木工学的技術、開発の環境影響とその評価手法等について解説し、自然環境と人との多面的な相互関係とそこでの土木工学の役割について考える機会を提供したい。	
自65	生物資源利用とサイエンス	2	2-0	1~4	前 期	身の回りの生活に関わる農薬・医薬、食品、発酵についてオムニバス方式で講義する。その他、生化学・生命科学に関わる事、特に社会的に注目され問題になっている事を平易に概説する。	
自71	ヒトの健康科学	2	2-0	1~4	前 期	人体の構造や働きを学習し、次いで健康を阻害する諸因子について学習する。すなわち食事、運動、環境社会と健康の関係や、ひとのかかりやすい疾患について、性、年代別に精神的疾患も含めて概説し、疾患を予防し、健康を保持する方法を教授する。健康を害した者の治療法、看護法についても概説する。	
自83	ライフサイエンス系SDGs 演習	1	0-2	1~4	後	持続可能な開発目標SDGsに積極的に取り組む人材育成のための学修プログラムであるグローバル津梁の応用段階(Level 2)として、ライフサイエンス系SDGsのターゲット、指標を活用した調査分析を実践する。	クォーター科目
自84	エンジニアリング系SDGs 演習	1	0-2	1~4	後	持続可能な開発目標SDGsに積極的に取り組む人材育成のための学修プログラムであるグローバル津梁の応用段階(Level 2)として、エンジニアリング系SDGsのターゲット、指標を活用した調査分析を実践する。	クォーター科目
自91	自然系特別講義 I	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
自92	自然系特別講義 II	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【教養領域：健康運動系科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
健01	健康・スポーツ科学	2	2-0	1~4	前・後	健康とスポーツに関する科学的知見に基づいて、身体運動と人間との関わりについて、健康科学およびスポーツ科学などの各教員の研究領域の立場から論述する。	同一学期に運動・スポーツ科学演習と並行して履修可能。
健03	運動・スポーツ科学演習 (バドミントン)	2	0-2	1~4	前又は後	運動種目別の歴史やルール、個人技術やチーム戦術を、ビデオ教材や実際の運動場面を活用しながら理論的に理解するとともに、各種スポーツ種目の技術戦術の習得・向上をねらいとする。また、体力養成や傷害予防、トレーニング法や健康増進などのスポーツ科学の基本的理解を深めながら、生涯に渡ってスポーツを続ける意義を理解することを目的とする。	1種目のみ履修可。 (複数の履修はできない。)
〃	〃 (テニス)						
〃	〃 (卓球)						
〃	〃 (ゴルフ)						
〃	〃 (サッカー)						
〃	〃 (フットサル)						
〃	〃 (バレーボール)						
〃	〃 (バスケットボール)						
〃	〃 (ハンドボール)						
〃	〃 (水泳)						
〃	〃 (ダイビング)						
〃	〃 (空手)						
〃	〃 (沖縄空手)						
〃	〃 (琉球舞踊)						
〃	〃 (ソフトボール)						
〃	〃 (野球)						
〃	〃 (ニュースポーツ)						
〃	〃 (ラート)						
〃	〃 (アウトド・レクリエーション)						
〃	〃 (ウエイトトレーニング)						
〃	〃 (エアロビックス)						
〃	〃 (フォーク・ソーシャルダンス)						
〃	〃 (マラソン)						
〃	〃 (動作療法)						
〃	〃 (インドア・スポーツ)						

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総01	脳の発達と人間	2	2-0	1~4	前又は後	脳の構造・機能・発達と文化や教育との関連について述べる。	
総06	アメリカの文化と社会	2	2-0	1~4	前・後	米国社会の生成、発展、構造、病理等について、社会科学を中心に言語歴史、文化、哲学、教育心理、宗教学等の学際的分野から概説的に解明する。	
総10	住まいの科学	2	2-0	1~4	前・後	気候風土に適した快適な住居とはどのようなものか、安全性、保健性、耐久性及び利便性など住宅の性能について概説する。	
総14	環境問題	2	2-0	1~4	前	沖縄の自然破壊、身の回りから地球環境まで、様々な環境問題についての講義を行う。	
総17	情報科学概論	2	2-0	1~4	前・後	文系、理系、工系といった枠組みを超えたいわゆる境界領域を取り扱う学問分野の一つとして講義を行う。情報化社会の特質やその社会に与える影響、情報活性能力等について講義を行う。	
総20	ヒトの科学と人間の医学	2	2-0	1~4	前	今、医学・医療は大きく変化を遂げつつある。その変化は、医学・医療の内部からだけでなく、幅広い自然科学領域の研究成果や高度な工学的技術の進歩との関わりの中からもたらされるものである。本講義では、基礎医学領域の研究者がそれぞれの分野を概説しつつこれらの点に触れる。	
総21	動物実験の基礎	2	2-0	1~4	前・後	本講義では、生命科学分野における動物実験の意義と役割について、重要な研究成果、研究手法および実験技術を紹介しつつ概説する。また、大学における動物を用いた実習や研究に参加する予定の学生に知っておいてほしい、動物に対する倫理的配慮、動物の適正な管理方法、環境保全と安全管理、および関連法令についての講義を行う。主な受講対象者は医学部医学科の学生であるが、他の学部学科に属する学生の受講も歓迎する。本講義は、前期、後期の2回、開講される。	医学科の学生は1年次に前期講義を、医学科学士編入生は2年次の後期講義を履修すること。
総22	生命科学入門	2	2-0	1~4	前	近年、生命科学分野の研究の発展は著しく、その成果は、ヒトを含む生物の全遺伝情報の解読、遺伝子組換え生物の産業利用、再生医療技術の臨床応用、など、私たちの身近な話題として取り上げられている。本講義は、大学生が常識として知っていなければならない生命現象の基本的知識の習得とそれらの背景や応用的展開などについて学ぶことを目的とする。分子、細胞、臓器組織、個体の各レベルの知識に加え、健康の維持、生態系のありかた、などについて、分子生命科学研究施設の教員が概説するとともに、その社会的意義について考察する。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総28	科学と擬似科学	2	2-0	1~4	後	明らかに科学的とは言えないような有名な擬似科学的理論をいくつか取り上げて、それらがなぜ科学理論と認められないのか、それらをどのような観点から評価すべきなのか等々を科学哲学の考え方を参照しながら検討する。	
総33	人口と食糧	2	2-0	1~4	後	21世紀は急激な人口増加で、食糧難が一層深刻になってくると思われる。本講義では、地球規模での食糧生産の現状と今後の展望について、生産、加工、流通等の面から講義する。	
総36	囲碁の世界	2		1~4	前	囲碁のルール、マナー、基礎的な技術について学ぶと同時に、受講者同士の対局を通じて、判断力、分析力、洞察力、集中力を養う。指導に際しては日本棋院の全面的な協力を得る。初心者を対象とするため、受講対象は囲碁の未経験者に限定する。	集中講義
総38	災害と安全	2	2-0	1~4	後	台風、地震、大雨等の災害が発生するメカニズム及び社会基盤と生活に対する影響と対策さらには安全についての基本的な考え方について概説する。	
総47	総合環境学概論	2	2-0	2~4	前	環境問題について、人文、社会、自然の各分野から学術的、総合的なアプローチを行う。	
総49	生活習慣病予防および健康増進	2	0-2	1~4	前	本カリキュラムは、生活習慣病の予防の重要性について啓発を行い、生活習慣の修正法を体得することを目的とする。方略として、生活習慣病、運動療法、血圧測定法に関する演習を行う。運動及び血圧測定演習の前後で受講者の健康指標の変化を分析する。	
総50	大学で何を学ぶか	2	2-0	1~4	後	学生諸君が将来における自分の役割を見つけ、大学で学んだことを社会で活かすとはどんなことか。そのためにはどうすればいいのかなどを考える教材を提供する。	
総52	海外文化研修A (英語圏)	2		2~4	前 (集中)	海外の交流協定校などでの集中語学訓練や社会文化に関するセミナーへの参加、フィールドトリップや現地学生との交流などを通して、コミュニケーション能力の向上と異文化理解の深化を図る。	参加者の学部・専攻は問わない。「大学英語」と「英語講読演習中級」を履修済であること。その他、「英語講読演習上級」「英会話演習中級」「英作文演習中級」「英語プレゼンテーション演習中級」「TOEFL演習」「アメリカの文化と社会」(以上共通教育等科目)の受講を勧める。
総53	海外文化研修B (中国語圏)	2		2~4	前 (集中)	海外の交流協定校などでの集中語学訓練や社会文化に関するセミナーへの参加、フィールドトリップや現地学生との交流などを通して、コミュニケーション能力の向上と異文化理解の深化を図る。	参加者の学部・専攻は問わない。中国語関連科目を4単位以上履修済みの者。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総54	海外文化研修C (スペイン語圏)	4		2～4	前 (集中)	海外の交流協定校などでの集中語学訓練や社会文化に関するセミナーへの参加、フィールドトリップや現地学生との交流などを通して、コミュニケーション能力の向上と異文化理解の深化を図る。	スペイン語関連科目4単位以上履修済みか履修中であること。
総55	海外文化研修D (フランス語圏)	4		2～4	前 (集中)	海外の交流協定校などでの集中語学訓練や社会文化に関するセミナーへの参加、フィールドトリップや現地学生との交流などを通して、コミュニケーション能力の向上と異文化理解の深化を図る。	フランス語関連科目を4単位以上履修済みか履修中であること。
総56	海外文化研修E (ドイツ語圏)	4		2～4	前 (集中)	海外の交流協定校などでの集中語学訓練や社会文化に関するセミナーへの参加、フィールドトリップや現地学生との交流などを通して、コミュニケーション能力の向上と異文化理解の深化を図る。	ドイツ語関連科目4単位以上履修済みか履修中であること。
総57	環境インターンシップI	2	2-0	1～4	前	エコロジカル・キャンパス学生委員会のメンバーとして大学の環境マネジメントシステムの構築に積極的に参画し、学生にとって一番身近なキャンパス内で環境活動を企画・運営する実践的な授業である。	2016年度～2019年度入学の総合環境学副専攻学生の必須科目「総46 環境インターンシップ」の読み替え科目とする。
総58	環境インターンシップII	2	2-0	1～4	後	「環境インターンシップI」で身につけた知識や実践の経験を活かし、より多角的な視点且つ指導的な立場で委員会の活動に取り組むことが期待される。	「総57 環境インターンシップI」を履修済みであること
総62	環境と文学	2	2-0	1～4	後	文学にみられる人間と自然、人間と環境をめぐる関係性について、アメリカ文学、日本文学、西洋史の観点から考察する。	
総65	異文化コミュニケーション入門	2	2-0	1～4	後	異文化間コミュニケーションの基礎理論を踏まえ、文化的背景を異にする言語が接触した時に起こる種々の言語現象や非言語的行動(表現・身振り・対話者間の距離等)及び価値観・発想・思考形式の違いによって生じる文化摩擦現象の考察を通して、自国及び諸外国の言語文化や社会に対する理解を深める。	
総67	グローバル実践演習I	2	0-4	1～4	1Q	日本人と留学生が特定の課題に協働して取り組むことで、汎用スキルに「専門性」を加えたURGCCの掲げる7つの目標すべての能力を涵養する。特にグローバル実践演習Iでは学生個人の専門性をプレゼンテーション、ディスカッションすることによって、自分が専門として取り組んでいることを批判的に考察し、そのグローバルな場面における活用の仕方を積極的に再構築していくことを目標とする。	日本人と留学生の協働学修科目。 クォーター科目

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総68	グローバル実践演習II	2	0-4	1~4	2Q	日本人と留学生が特定の課題に協働して取り組むことで、汎用スキルに「専門性」を加えたURGCCの掲げる7つの目標すべての能力を涵養する。特にグローバル実践演習IIではPBL形式をとり、異文化間の考え方の相違を最適な解へと結びつけていく活動を通してグローバルな場面における主体的で実践的な問題解決力を習得することを目的とする。	日本人と留学生の協働学習科目。 クォーター科目
総76	倫理総合討論	2	2-0	3~5	前~後	与えられた15のテーマについて医学的のみならず社会・倫理的、法・経済的見地から討論を行う	教員は、調査・学習や討論のすすめ方を指導する。前学期から後学期にかけての通年科目。
総77	地震と防災	2	2-0	3~6	前又は後	地震は自然災害のなかでも、人為被害も含めて被害規模が最も大きく、社会生活を大きな混乱に招く。しかも、地震予知もまだ不可能であり、特に世界の地震の20.7%が集中する日本国にあっては、日本列島それ自身が自然の震動台といっても過言ではない。そのような自然環境のなかで、人間が生活を営む建物の地震被害を軽減化する最新の技術を中心に、耐震工学と防災工学の立場から概論的に講義する。	
総79	総合環境論	2	2-0	3~6	後	環境問題は、言うまでもなく現代世界的に大きな問題であり、様々な分野から真剣にとりくまなければならない。本講義は、それぞれ専門の学問領域を研究している後年次の学生に、それぞれの学問領域の立場から環境問題に対してアプローチしてもらい、発表し、受講者全員で議論するものである。	
総83	適応の心理	2	2-0	1~4	前・後	琉大の理念である「自由と平等、平和と寛容」との関連の中で、青年期の適応の問題をとりあげる。学生同志の自由な討論の中で、適応的に、よりよく生きていくための方策について考えていく。	
総91	総合特別講義I	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総92	総合特別講義II	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総93	総合特別講義III	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総94	総合特別講義IV	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総95	総合特別講義V	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総96	総合特別講義VI	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総97	総合特別講義VII	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総98	総合特別講義VIII	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
総99	総合特別講義IX	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総100	グローバル実践演習Ⅲ	2	4-0	1~4	3Q	異なる背景を持つ日本人学生と留学生が協働することにより共通の目標にいたるプロセスを実践し、その意識とスキルの定着を図る。グローバル実践演習Ⅲにおける特定の課題は、それぞれの受講生が専門とする分野のことであり、それを文化の異なる他者と共有する中で批判的に考察し、グローバルな場面における活用の仕方を積極的に再構築していくこととする。	日本人と留学生の協働学修科目。 クォーター科目
総101	グローバル実践演習Ⅳ	2	4-0	1~4	4Q	異なる背景を持つ日本人学生と留学生が協働することにより共通の目標にいたるプロセスを実践し、その意識とスキルの定着を図る。グローバル実践演習Ⅳにおける課題は、グローバル実践演習Ⅲを発展させたそれぞれの受講生が専門とする多様な分野の視点を統合させ、それを文化の異なる他者と共有する中で批判的に考察し、グローバルな場面における自己の専門性の活用の仕方を積極的に再構築していくこととする。	日本人と留学生の協働学修科目。 クォーター科目
総102	Urban Disaster Prevention	2	4-0	1~4	前	日本国内及び世界各国におけるいくつかの自然災害を取り上げ、その発生のメカニズム、インフラ被害を中心に基礎知識を学んでいく。さらに災害前の準備、災害後の一般市民の避難所運営のあり方についてもグループワークを含めて進めていく。まとめとして、各自、本講義で学んだことを活かし、自然災害についてのテーマを英語によるグループプレゼンテーションで発表する。	クォーター科目
総103	日本語学概説Ⅰ	2	2-0	2	前	日本語そのものへの理解を深めるため、複数の教員がそれぞれ複数回の授業を担当し、さまざまな視点で日本語の特徴を講義する。それを通して、外国語としての日本語教育に求められる日本語学の基礎を学ぶ。	日本語教育副専攻登録者(登録予定者)を優先する。
総104	日本語学概説Ⅱ	2	2-0	2	後	前期の日本語学概説Ⅰを発展させ、さらに日本語そのものへの理解を深めるため、複数の教員がそれぞれ複数回の授業を担当し、さまざまな視点で日本語の特徴を講義する。それを通して、外国語としての日本語教育に求められる日本語学の基礎を学ぶ。	日本語教育副専攻登録者(登録予定者)を優先する。
総105	日本語教育学概説Ⅰ	2	2-0	2	前	日本語学習者の概略を知ることから始め、①日本語(教育)と国語(教育)の違い、②日本語を学習者の立場から見直し、学習者にとってどのようなところが問題となるのかについて考える。	日本語教育副専攻登録者(登録予定者)を優先する。
総106	日本語教育学概説Ⅱ	2	2-0	2	後	①日本語教育の実際と課題を対象者別に検討し、②海外の日本語教育について調べる他、③日本語教育の中で「文化」をどのように扱ったらいいのかを考える。	日本語教育副専攻登録者(登録予定者)を優先する。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総107	日本語教育各論Ⅰ	2	2-0	3~4	前	実際の会話データ（動画および書き起こしスクリプト）を観察・分析することを通して、日本語教育における会話教育について考える。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総108	日本語教育各論Ⅱ	2	2-0	3~4	後	新聞記事など書き言葉のテキストを観察・分析することを通して、日本語教育における読解教育・批判的リテラシー教育について考える。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総109	日本語教材研究Ⅰ	2	2-0	2	前	現代日本語文法を主体的に考える能力を高めつつ、自分のための文法参考書を作ることを最終目標とする。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総110	日本語教材研究Ⅱ	2	2-0	2	後	現代日本語文法を主体的に考える能力を高めつつ、自分のための文法参考書を作ることを最終目標とする。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総111	日本語教授法Ⅰ	2	2-0	3~4	前	日本語教師として教壇に立つために学ばなければならない基本的な項目を取り上げる。講義と討論によって日本語教授法の基礎を学ぶ。学期の後半には模擬授業を行う。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総112	日本語教授法Ⅱ	2	2-0	3~4	後	日本語教師として教壇に立つために学ばなければならない基本的な初級文法、中級教材分析、聴解・読解の生教材作成法を学ぶ。学期の後半には模擬授業を行う。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総113	日本語教育実習	2	0-2	4	前又は後	授業実習だけでなく、1つのコース（学習者募集からコース評価まで）を受講生で分担しながら運営し、教育現場で求められる基本的な能力を培う。	日本語教育副専攻登録者であること。
総114	海外日本語教育実習Ⅰ	2	0-2	4	前又は後	実施の可否については年度ごとの状況によって異なる。	日本語教育副専攻登録者であること。
総115	日本語教育演習Ⅰ	2	2-0	3	前	日本語教育およびその関連領域についての文献を講読し、発表および議論を行い、理解を深める。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総116	日本語教育演習Ⅱ	2	2-0	3	後	日本語教育およびその関連領域についての文献を講読し、発表および議論を行い、研究テーマを決定する。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総117	日本語教育演習Ⅲ	2	2-0	4	前	研究計画を立て、分析方法を学び、調査やデータの収集を行う。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総118	日本語教育演習Ⅳ	2	2-0	4	後	調査結果やデータの分析・考察を行い、論文を執筆する。	日本語教育副専攻登録者（登録予定者）を優先する。
総119	国際共修で学ぶ日本文化Ⅰ	2	1-1	2	後	日本の文化に関する講義を基に日本文化の様式的な側面について与えられたテーマについての調査を行い、多様な文化背景を持つ受講生間で協働学習を行う。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総120	国際共修で学ぶ日本文化II	2	1-1	2	前	日本文化の精神文化的側面について、様々な文化背景を持つ受講生同士がディスカッションや発表を通して互いの問題意識を共有する。調査・体験の振り返りを通して課題を発見し、グループ・プロジェクトなどの協働学習などを通して文化への理解を深める。	
総121	国際共修で学ぶ日本史I	2	2-0	2	後	縄文時代から室町時代までの日本の歴史に関する講義を基に与えられたテーマについての調査を行い、多様な文化背景を持つ受講生間で協働学習を行う。知識を得るだけでなく、歴史的プロセスへの理解を深め、深い異文化・自文化理解を目指す。	
総122	国際共修で学ぶ日本史II	2	2-0	2	前	安土桃山時代から現代までの日本の歴史を、様々な文化背景を持つ受講生同士がディスカッションや発表を通して互いの問題意識を共有する。調査・体験の振り返りを通して課題を発見し、グループ・プロジェクトなどの協働学習などを通して歴史への理解を深める。	
総123	国際共修で学ぶ沖縄の文化I	2	1-1	1~4	後	沖縄・琉球の文化に関する講義を基に、与えられたテーマについての調査を行い、多様な文化背景を持つ受講生間で協働学習を行う。知識を得るだけでなく、文化形成プロセスへの理解を深め、深い異文化・自文化理解を目指す。	日本語教育副専攻登録者(登録予定者)を優先する。
総124	国際共修で学ぶ沖縄の文化II	2	1-1	1~4	前	沖縄・琉球の文化に関する講義を基に、与えられたテーマについての調査を行い、多様な文化背景を持つ受講生間で協働学習を行う。知識を得るだけでなく、文化形成プロセスへの理解を深め、深い異文化・自文化理解を目指す。	日本語教育副専攻登録者(登録予定者)を優先する。
総125	国際共修で学ぶ沖縄の歴史I	2	1-1	1~4	後	琉球・沖縄の歴史に関する講義を基に与えられたテーマについての調査を行い、多様な文化背景を持つ受講生間で協働学習を行う。知識を得るだけでなく、歴史的プロセスへの理解を深め、深い異文化・自文化理解を目指す。	日本語教育副専攻登録者(登録予定者)を優先する。
総126	国際共修で学ぶ沖縄の歴史II	2	1-1	1~4	前	琉球・沖縄の歴史に関する講義を基に与えられたテーマについての調査を行い、多様な文化背景を持つ受講生間で協働学習を行う。知識を得るだけでなく、歴史的プロセスへの理解を深め、深い異文化・自文化理解を目指す。	日本語教育副専攻登録者(登録予定者)を優先する。
総127	グローバルSDGs概論	1	0-2	1~4	前	持続可能な開発目標SDGsに積極的に取り組む人材育成のための学修プログラムであるグローバル津梁の基礎的段階(Level 1)として、SDGsの目的、意義および17のゴール・169のターゲットに対する知識を習得し、理解を図る。	クォーター科目

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：総合科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
総128	言語教育実習	2	1-1	1~4	前・後	短期留学プログラムRISE（琉球大学と国際交流協定を締結している海外の大学からの留学生を受け入れるもの）の中にある日本語教員養成コースの学生とともに、さまざまな言語を教えあったり学びあったりする。そしてそれとおして自分の中の複言語／複文化能力を伸ばし、多様性に寛容で他者とともに生きようとする「市民性」の形成を目指す。	
総129	グローバル・イノベーション演習I	1	0-2	1~4	1Q	国連のSDGsによる持続的社会的実現に資する企画・提案を、社会に還元するための創造的かつ具体的な実践的企画力を習得させる。グローバル・イノベーション演習Iにおいては、知識の習得と理解のため、企画・起業に関する専門家のレクチャーおよび基礎的な演習を行う。	クォーター科目
総130	グローバル・イノベーション演習II	1	0-2	1~4	2Q	国連のSDGsによる持続的社会的実現に資する企画・提案を、社会に還元するための創造的かつ具体的な実践的企画力を習得させる。グローバル・イノベーション演習IIにおいては、応用と分析のため、企画・起業についての分析の枠組みの習得、実践例の研究・分析・評価、研究を踏まえた実践の演習を行う。	クォーター科目
総131	グローバル・イノベーション演習III	1	0-2	1~4	3Q	国連のSDGsによる持続的社会的実現に資する企画・提案を、社会に還元するための創造的かつ具体的な実践的企画力を習得させる。グローバル・イノベーション演習IIIにおいては、企画・提案の独自性、具体性の確立に向けて、起業家等の専門家によるコーチングを踏まえた具体策構築の演習を行う。	クォーター科目
総132	グローバル・イノベーション演習IV	1	0-2	1~4	4Q	国連のSDGsによる持続的社会的実現に資する企画・提案を、社会に還元するための創造的かつ具体的な実践的企画力を習得させる。グローバル・イノベーション演習IVにおいては、クリティカル・シンキングの段階として、独自の企画。提案に対し類似する取組との比較検証、専門家による模擬審査を実施する。	クォーター科目
総133	ゲノム情報の生命科学とデータサイエンス入門	2	2-0	1~4	後	コロナウイルス感染時の重症化やがん、生活習慣病へのかかりやすさは、個人のヒトゲノムに記された情報により担われている。本講義では、高校レベルの生物学の基礎からゲノム情報の発現について講義し、データサイエンス的アプローチで解析する手法を学ぶ。	
総134	昆虫の科学	2		1~4	後	昆虫類は地上で最も繁栄している動物群であり、生物多様性の根幹を担う重要な構成要素です。昆虫類がどのような形態的・生態的な特徴をもち、どのような暮らしをしているかを最新の知見をふまえて概説します。さらに、昆虫類が環境で果たす役割や我々の生活との関わりを紹介します。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色・地域創生科目】

科目番号	授業科目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
琉01	平和論	2	2-0	1~4	前又は後	国内で稀有な戦争・戦後体験を持つ沖縄の現代史と現状を踏まえながら、アジア・世界の平和について考える。	
琉02	核の科学	2	2-0	1~4	前	核の基礎的な原理、その平和利用軍事利用、又人間及び環境に及ぼす影響などを自然科学的、医学的、社会科学的立場から概説する。	
琉03	女性と社会	2	2-0	1~4	前又は後	フェミニズムの理論と動向を紹介しつつ、新しい女性像を探る。更に、沖縄の女性をも視野に入れる。	
琉05	沖縄の基地と戦跡 I	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄の基地や沖縄戦の具体像をとおして平和を考える。	
琉06	沖縄の基地と戦跡 II	2		1~4	前又は後	沖縄の基地や沖縄戦案内の内容・教材・方法を教員と学生同士の共同で作りあげる。	沖縄の基地と戦跡 I を履修していること。 集中講義
琉14	琉球の文学	2	2-0	1~4	前・後	琉球（沖縄）に伝承されてきた歌謡や劇を取りあげ、琉球のことばによる表現について概説する。	
琉18	地域の科学	2	2-0	1~4	前・後	地域と人間生活の関わり合いにおける社会科学的課題について、多角的な講義を行う。	
琉22	琉球の自然	2	2-0	1~4	前	琉球の島じまをとりまく大気のこと、島の地形・地質・陸水のこと、島に生息する植物・動物のことなどを中心に、琉球列島の自然を紹介し、その特性について考察する。	
琉23	琉球の自然保護	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄の自然保護について多角的に学ぶ。沖縄の自然破壊の現状を知り、開発との関係も考える。	
琉24	沖縄のサンゴ礁	2	2-0	1~4	後	沖縄のサンゴ礁について、幅広く物理、化学、生物、地学、海洋学の諸分野にまたがり、学際的見地から講義を行う。この海域のサンゴ礁についての総合的な理解を深めることによって、サンゴ礁域における生命の多様さ、生命の重さと保全の大切さ、自然環境の維持の必要性の重要性を考える。	
琉25	琉球弧の自然誌	2	2-0	1~4	前・後	地学の視点でとらえた琉球弧の特徴や特色をわかりやすく講義する。複数の地球環境系教員が担当し、琉球弧に関する具体的なテーマ（琉球弧の位置づけ、琉球弧周辺で起きている地学的現象、地形と地質、成立ち（地史）、海底地質、琉球弧を取り巻く海洋と気象など）について概説する。	
琉26	琉球の地理	2	2-0	1~4	前	琉球諸島は、亜熱帯の環境、サンゴ礁の海、といった特色ある自然事象に加え、琉球文化圏といわれる独特の文化圏を形成してきており、島嶼経済、サトウキビ農業、といった人文事象についても特色ある地域である。この亜熱帯島嶼環境下にある琉球の非常に特色のある地理的事象について概説する。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色・地域創生科目】

科目 番号	授業科目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
琉33	現代の国際関係	2	2-0	1~4	前・後	現代の国際社会を理解するための基礎的概念を紹介し、現代の諸課題をその歴史的背景をも含めて紹介・検討する。	
琉41-2	琉球アジア研究入門	2	2-0	1~4	前又は後	琉球・沖縄の歴史・言語・文学、日本の文学・歴史など日本を含む琉球、アジアの個々の地域について、あるいは、中国と琉球・沖縄、日本と中国などの交流の歴史にふれ、それぞれの地域の文学や言語を比較・対照しながら、いま何をどのように研究をすすめているのか、なぜ研究をする必要があるのか、解決しなければならない課題はなにか、などなど具体例をあげて講義する。	
琉42	移民論	2	2-0	1~4	前又は後	戦前・戦後を通じて国内でも有数の移民県であることを踏まえて沖縄の移民の歴史と現在を考察する。	
琉46	沖縄の政治と社会	2	2-0	1~4	前・後	近現代の沖縄の政治と社会について、日本の国内政治や国際的環境との関連において考察する。	
琉48	うちなーぐちあしび	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄語（うちなーぐち）を話すだけでなく、読んだり、聞いたりすることによって、沖縄語に親しむ機会を提供する。沖縄語普及協議会発行の『はじめらなうちなーぐち』を使って、まず沖縄語の基本文型の習熟を図る。さらに『沖縄ぬ暮らしとう昔話』などを使って、沖縄語に親しむ。	
琉49	亜熱帯-西表の自然	2		1~4	前	亜熱帯西表島には多くの貴重な動植物が様々な生活を営んでいる。これらの生き物に体験学習の講義という形で接してもらおう。亜熱帯林、マングローブ林等を歩き、生物観察とその調査法等を学ぶ。ほか、サンゴ礁でのシュノーケリングなども行い、西表島の様々な自然環境を観察する。	集中講義
琉50	沖縄の学力と教育	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄は残念ながら全国でもっとも学力の低い地域として知られている。そのうえ、近年の教育改革（ゆとり教育、学習内容の3割減、完全学校週五日制等）により全国的な学力低下が指摘され、そうした意味では、沖縄は二重の学力問題を抱えているといえる。本講義では、そうした沖縄の学力問題を近年の教育改革の動きを踏まえながら、社会学的、心理学的に明らかにしていく。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色・地域創生科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
琉51	琉球語入門Ⅰ	2	2-0	1~4	前	奄美諸島から沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島にいたる琉球列島の諸方言は、マイノリティの言語であるが、その発音や文法の基礎とその上に多様な表現を身につけつつ琉球語の特質を学ぶ。	
琉52	琉球語入門Ⅱ	2	2-0	1~4	後	奄美諸島から沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島にいたる琉球列島の諸方言は、マイノリティの言語であるが、その発音や文法の基礎とその上に多様な表現を身につけつつ琉球列島の各島々の方言の特質を学ぶ。	
琉53	沖縄の染めと織り	2	2-0	1~4	前	沖縄の人々は、独特の自然・気候風土や地理的特性、歴史などを背景に豊かな工芸文化を育んできた。そのなかでも「染織」では、島や地域ごとに様々な素材・技法によって多様で魅力的な多くの染織物が生みだされてきた。 その歴史をひもときながら、沖縄の生活のなかで作り出されてきた染織物について実物や写真で紹介するとともに、現在の沖縄の伝統染織・手仕事の抱える課題についても考察していく。	
琉54	沖縄の歴史入門	2	2-0	1~4	前又は後	琉球王国が日本という近代国家へ併呑される過程（「琉球」から「沖縄」への変容）から、沖縄戦を経て、米軍統治期の「戦後」、日本への「復帰」、現在の「沖縄問題」に至るまでの沖縄近現代史に関する基礎的な歴史事象を概説する。また、沖縄近現代史をめぐる歴史学上の論争について、最新の研究動向を紹介しつつ適宜取り上げることによって、歴史的な観点から現代的な課題へのアプローチについても講じる。	
琉55	琉球学入門	2	2-0	1~4	後	琉球（ここでは、奄美群島と沖縄県全域とする）の歴史、文化・言語、自然環境等における地域特性とそこから派生する様々な事象について概説し、琉球地域の多様性について理解させる。	
琉56	琉球の自然と人	2	2-0	1~4	前・後	多様で個性的な島々からなる奄美・沖縄という地域を事例にして、自然と人間のローカルなかかわりについて考える。特に「亜熱帯」「サンゴ礁」「島嶼」に焦点を当て、主として文化生態地理学・景観地理学の観点から検討する。自然と向き合って生活を営んできた奄美・沖縄の人々の生活文化について、関連写真や図を多く用いた視覚的な授業を目指す。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色・地域創生科目】

科目 番号	授業科目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
琉58	Community environment and planning (コミュニティ環境計画論)	2	4-0	1~4	後	地域の生活環境の実態とその改善のための計画のあり方を、沖縄における具体的な実例を通じて理解する。伝統的なコミュニティから近代的な居住地までの実態と改善のための計画のあり方を学ぶ。講義は大学院留学生のクラスとの合同討論を含めて英語で行われる。	
琉71	現代沖縄地域論	2	2-0	1~4	前又は後	「沖縄」という地域が有する諸特性や地域課題の多様性について学ぶ。オムニバス式の講義と受講者間のディスカッション等を通じて地域社会に関する理解を深める。	
琉72	地域課題フィールドワーク演習	2		1~3	後	地域が抱える課題について、事前学修やフィールドワーク等を通してその実態を知り、解決・改善策について考える。課題ごとにチームを編成し取り組み、最終的にプレゼン報告会において取組の成果を発表する。	集中講義
琉73	現代沖縄の地域振興	2	2-0	1~4	前	沖縄県においていかにして地域振興を図ることができるかをテーマに、地方創生や雇用状況、自治体の政策、起業、NPO等の側面から地域振興に関する基本的事項を学び、ケーススタディを通じて具体的方策や課題意識について学ぶ。	
琉74	地域システム計画論	2	2-0	1~4	前	地域とは何か？計画とは何か？を考え、地域における自然環境、社会環境をシステムとして理解し、如何にして計画を作るのかについて講義する。特に、計画システムにおけるシステムズ・アナリシスの考え方およびこれと各種数理モデル等の関係について考究する。	
琉75	地域環境と生活空間	2	2-0	1~4	前又は後	地域の環境を生活空間として理解し、生活空間の歴史と展望を考える。沖縄の生活空間史、コミュニティの実態、子どもの生活空間、身近な自然環境との関わり等について、現地学習による実感を重視した授業を実施する。	
琉76	地域プロジェクト実践	2		1~4	前又は後	地域の現況や地域が有する資源・課題等の学習による理解をベースに、地域において実際的なプロジェクト型学習を実施し、地域社会の維持・発展に資する実践的な知識やスキルを身につける。	集中講義
琉77	地域フィールドワーク入門	2		1~4	前又は後	地域における問題を発見、分析、解決していくための科学的アプローチとしてフィールドワークを学ぶ。授業では、講義を通じてフィールドワークに関する基本的な知識を理解するとともに、実際のフィールドにおいて研究を実践的に展開する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色・地域創生科目】

科目番号	授業科目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
琉78	島嶼地域科学入門	2	2-0	1~4	後	沖縄や沖縄と共通の課題をもつ島嶼地域社会の現状や問題について、人文・社会科学系を中心とした様々な分野の教員による講義を通して多角的に学び、自律的・持続的な島嶼地域社会の発展を実現する方策について考える。	
琉91	琉大特色・地域創生特別講義Ⅰ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉92	琉大特色・地域創生特別講義Ⅱ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉93	琉大特色・地域創生特別講義Ⅲ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉94	琉大特色・地域創生特別講義Ⅳ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉95	琉大特色・地域創生特別講義Ⅴ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉96	琉大特色・地域創生特別講義Ⅵ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉97	琉大特色・地域創生特別講義Ⅶ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉98	琉大特色・地域創生特別講義Ⅷ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉99	琉大特色・地域創生特別講義Ⅸ	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
琉100	沖縄の航空事業と地域振興	2	2-0	1~4	前	日本トランスオーシャン航空の取組み事例を中心に沖縄における航空事業と地域振興について講義するとともに、沖縄県の空の玄関である那覇空港の視察を通し沖縄における航空事業の役割について理解を深める。	
琉101	ドローン&フィールドサイエンス	2		1~4	前	フィールド調査の際、ドローンを安全に飛ばすための基礎知識、法規、技能を3日間の集中講義で習得する。講義は座学10時間程度と実技講習、筆記及び実技試験の三つで構成される。開催場所は西表島で熱帯生物圏研究センター西表研究施設に連泊して受講する。	集中講義
琉102	グローバル実践演習Ⅰ	2	1-1	1~4	前・後	留学生と日本人学生の協働学習による国際交流と地域貢献を目的としたプロジェクトを企画・運営する。西原町の高校生や地域住民もプロジェクトに参加してもらうことにより、受講生が地域と留学生の間でグローバルリーダーとして活躍する場を設け、近い将来に向けた疑似体験による演習を行う。	
琉103	グローバル実践演習Ⅱ	2	1-1	1~4	前・後	留学生と日本人学生の協働学習による国際交流と地域貢献を目的としたプロジェクトを企画・運営する。西原町の高校生や地域住民もプロジェクトに参加してもらうことにより、受講生が地域と留学生の間でグローバルリーダーとして活躍する場を設け、近い将来に向けた疑似体験による演習を行う。グローバル実践演習Ⅰで得た経験をもとに、プロジェクトの各担当チーム（企画・広報・資金獲得など）のリーダーとなり、より主体的に中心的役割を果たす。	グローバル実践演習Ⅰを履修済みのこと

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色・地域創生科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
琉104	グローバル実践演習Ⅲ	2	1-1	1~4	前・後	留学生と日本人学生の協働学習による、国際交流と地域貢献を目的としたプロジェクトを企画・運営する。西原町の高校生や地域住民との連携を始めとする地域連携により、留学生、日本人がグローバルな視点をもって地域社会の課題解決に取り組む場を設け、リーダーシップを育成する演習を行う。グローバル実践演習Ⅲにおいてはプロジェクトにおける協働力を実践し、習得させる。	グローバル実践演習Ⅱを履修済みのこと
琉105	グローバル実践演習Ⅳ	2	1-1	1~4	前・後	留学生と日本人学生の協働学習による、国際交流と地域貢献を目的としたプロジェクトを企画・運営する。西原町の高校生や地域住民との連携を始めとする地域連携により、留学生、日本人がグローバルな視点をもって地域社会の課題解決に取り組む場を設け、リーダーシップを育成する演習を行う。グローバル実践演習Ⅳにおいてはプロジェクトに対するクリティカルシンキングを実践し、習得させる。	グローバル実践演習Ⅲを履修済みのこと
琉106	個と多様性	1	0-2	1~4	前・後	日本人学生と留学生が履修する国際共修科目。地域・国際性を修得する初段階において、言語や文化の異なる学習者同士がオートエスノグラフィーという研究方法を用いて、「自分の経験を振り返り、『私』がどのように、なぜ、何を感じたかということを探ることを通して、文化的・社会的文脈の理解を深める」（井本 2013:104）、異文化交流に対する意欲、柔軟性、感情の自己管理、忍耐力等を修得する。	日本語または英語で日常会話レベルのコミュニケーションがとれること (CEFR A2 相当以上) クォーター科目
琉107	グローバルリーダーシップ論Ⅰ	1	2-0	1~4	後	国際化・多様化が進む地域社会において、様々な階層と役割においてリーダーシップをとることができる人材に必要な知識やスキルを、講義とワークショップを通して習得する。沖縄をリードする企業や官公庁からも外部講師を招いて講義やワークショップを行い、沖縄の産業や経済の現状や課題について理解を深め、課題解決に向けての議論を行う。	日本語または英語で日常会話レベルのコミュニケーションがとれること (CEFR A2 相当以上) クォーター科目
琉108	グローバルリーダーシップ論Ⅱ	1	0-2	1~4	前	リーダーシップの歴史をたどりながら、現代のグローバル社会に必要とされるリーダーシップおよび組織マネジメントの理論的枠組みの理解を進め、そのスキルの実践の場としての地域社会の具体的な課題解決のワークショップを通じて、地域・国際性に則ったリーダーシップの習得を図る。	日本語または英語で日常会話レベルのコミュニケーション (CEFR A2相当) がとれること クォーター科目

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：琉大特色・地域創生科目】

科目番号	授業科目	単 位	週時間	受講 年次	学 期	講 義 内 容	備 考
琉109	グローバル実践研修	1	0-2	1~4	前・後	留学生と日本人学生がチームになり、地域の様々な団体において実地研修を行い、課題を発見し、その解決法を提案する。中間報告と最終報告のプレゼンテーションを行い、参加者全員でディスカッション、評価を行う。	日本語または英語で日常会話レベルのコミュニケーションがとれること(CEFR A2相当以上) クォーター科目
琉110	グローバル実践研修Ⅱ	1	0-2	1~4	第2Q	留学生と日本人学生がチームになり、地域の様々な団体において実地研修を行い、課題を発見し、その解決法を提案する。中間報告と最終報告のプレゼンテーションを行い、参加者全員でディスカッション、評価を行う。Ⅰとは研修を実施する団体が異なる。	日本語または英語で日常会話レベルのコミュニケーションがとれること(CEFR A2相当以上) クォーター科目
琉111	沖縄の航空事業と地域振興Ⅱ	2	0-2	1~4	後	「沖縄の航空事業と地域振興」についてグループワーク等による演習を通して学ぶ。授業では、日本トランスオーシャン航空の取組み事例を中心にしつつ、航空管制や空港ビル等についても取り上げ、沖縄における航空事業の役割について理解を深める。	沖縄の航空事業と地域振興を履修済みのこと
琉112	世界自然遺産西表島	2		1~4	前	西表島で実施する7日間の実習。西表島の川、海、森を実地踏査し、世界遺産に認められた生態系の繋がりを観察する。一方で海外からの漂流物、観光収入に依存した社会形態、立場の違いによる住民意見の相違等の問題も認識した上で、今後継続的自然、文化を守りつつ生活の営みを継続、向上するにはどのようにしたら良いかを沖縄島嶼にまで展開して議論する。	集中講義
琉113	マングローブ生態系西表島	2		1~4	前	西表島で実施する5日間の実習。西表島のマングローブ生態系を実地踏査し、山河と珊瑚礁を繋ぐマングローブ生態系の機能を考察する。授業は三部構成。一部は亜熱帯林とマングローブの生態系の違いをカーボンストック機能中心に議論。二部は汽水域でマングローブ生態系が何故成立可能なのかを植物生理学的に考察。三部ではマングローブ生態系が存在する河口から珊瑚礁の間で成立する生態系の特徴を把握する。	集中講義
琉114	社会に活かす科学研究	2		1~4	前	琉球大学で産官学が共創して取り組んでいるプロジェクトを例に取り、参画する専門家がそれぞれの立場から「共創」から生まれる「社会実装」をオムニバス形式で紹介する。特に、この講義では「琉大ミーバイ」を例に取り実践的に概説する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：キャリア関係科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
C11	キャリア形成入門	2	2-0	1~3	前・後	本講義では、社会的・職業的自立に向け「社会人基礎力※」、「人生観や職業観」、「ライフ・キャリアデザイン」及び「民間や公務員の就職就活の知識」を身に付けるとともに、自己理解を深め、主体的に進路を選択する能力・態度を育成することを目指している。 ※「社会人基礎力」とは、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力	
C15	キャリアデザインとジェンダー	2	2-0	1~4	後	キャリア形成におけるジェンダーの問題やダイバーシティ推進に関する学生の自発的な学びを促すキャリア関係科目で、キャリアデザインに関するワークショップやグループディスカッションなどを組み合わせたアクティブラーニングにより学生の理解を深める。	
C22	海外キャリア形成入門	2		1~4	前	海外の厳しい環境でビジネスを展開している日本人起業家等をゲスト講師として招き、国内外の諸問題の理解（国際環境、産業構造の変化等）とポストコロナ時代の社会変革を予測し、これからの厳しい環境を生き抜くための「若者のキャリア戦略」を考える講義を実施する。	集中講義
C23	海外職場体験	2		1~3	前又は後	海外での職場体験や人的交流体験を通して、国際感覚を身につけることにより海外への就職機会の拡大や社会貢献の意識向上に繋げる。帰国後は報告会等を実施し、他学生の意識向上にも繋げる。 受講希望者は指定の様式のエントリーシートを提出し、キャリア教育センターが実施する面接試問と併せた総合評価により、受講者を決定する。事前研修3回（各4時間）、約8日間の在外研修、事後研修2回（各4時間）、成果発表より成る。	集中講義
C27	実践キャリア形成	2	2-0	2~4	前・後	「キャリア形成入門」の応用となる授業。自身の卒業後のキャリア形成を具体化するための多様な視点を提供するとともに、残された大学生活において有意義な時間を過ごすための行動や思考を身につける。	キャリア形成入門を履修済みであること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【総合領域：キャリア関係科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
C31	地域企業（自治体）お題解決プログラム	2	2-0	1~4	前・後	県内市町村(自治体)が抱える地域課題について、座学で学び、フィールドワークで体験・調査、課題解決のための実現可能性が高い解決策をグループで検討する。これらを発表会で自治体に企画提案（プレゼンテーション）するPBL型（問題・課題解決型）授業。 これからの地域社会で求められる課題解決に向けた地域公共人材*の職能資格である「初級地域公共政策士」の対象科目。 *協働型社会において、地域社会の共通課題の解決のために、職業やセクター、組織という分断の壁を乗り越えて、パートナーシップを結びながら、協働できる担い手。	
C41	日本企業インターンシップI	2		1~4	前又は後	日本企業に就職する意欲があり、かつ能力の高い外国人留学生を対象に、ビジネス日本語研修、ビジネス専門教育、インターンシップを通じ、日本の産業界に対する理解を促進し、活躍できる人材を育成する。ビジネス日本語会話やビジネス日本語の読み書きの基本を学ぶとともに、日本企業の文化について理解を深め、ビジネスにおける慣習やマナーなどを身につけ、実際に企業でインターンシップ研修をするための準備をする。	集中講義 外国人留学生対象
C42	日本企業インターンシップII	2		1~4	前又は後	沖縄県内の企業で実際にインターンシップ生として働くことで、実践的なビジネス能力を養成し、参加学生自身のキャリアビジョンを構築させ、エンプロイアビリティを高めさせる。企業での実務研修の経験を通して、日本の産業界に対する理解を促進し、将来、高度グローバル人材となって、日本の産業界でグローバルに活躍できる人材を育成する。	集中講義 外国人留学生対象
C91	キャリア関係特別講義I	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
C92	キャリア関係特別講義II	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
C93	キャリア関係特別講義III	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
C94	キャリア関係特別講義IV	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
C95	キャリア関係特別講義V	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
C96	キャリア関係特別講義VI	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
C97	キャリア関係特別講義VII	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
C98	キャリア関係特別講義VIII	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義
C99	キャリア関係特別講義IX	2		1~4	前又は後	開講時に公示する。	集中講義

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：情報関係科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
情01	情報科学演習	2	0-2	1~4	前・後	「情報処理技術を研究・教育の道具として使いこなせない大学は、もはや存在できない。」との危機意識をもって、コンピュータリテラシー（コンピュータ活用能力）の向上を目的とした演習を行う。	
情11	日本語表現法入門	2	2-0	1~4	前・後	基礎的な日本語の音声、文法、語彙表記、文体等を学習するとともに、レポートの作成や発表等を演習する。講義と演習を併用することによって、日本語の表現力を豊かにすることをねらいとする。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
外101	大学英語	4	2-2	1~4	前	国際社会に適応できる英語能力の育成を目的とし、様々な分野内容に関して各種英語教材の実践的聴解・読解を行なうとともに、基礎的かつ実践的な訓練を行なう。	
外102	英語講読演習 中級	2	1-1	1~4	前・後	人文系、社会系、自然科学系のテーマを扱った教材を使用し、パラグラフ・リーディングに重点を置いて、英文の主旨・大意を適確に把握する訓練をし、基礎的な読解力の養成を行う。	大学英語を履修済みであること。
外103	英語講読演習 上級	2	1-1	1~4	前・後	英語講読演習 中級 より程度の高い英文教材の講読を通して、専門外書講読への応用・発展の手がかりを与える。	大学英語を履修済みであること。英語講読演習 中級を履修済みであることが望ましい。
外104	英会話演習 中級	2	1-1	1~4	前・後	国際社会に適応できるコミュニケーション能力を育成するために、英会話の基礎的な知識と理解を基盤として、それをさらに実践的に応用できる能力の養成を行う。	大学英語を履修済みであること。
外105	英会話演習 上級	2	1-1	1~4	前・後	国際社会に適応できるコミュニケーション能力を育成するために、ディスカッションやディベートなど英会話演習 中級 より程度の高く洗練された英語運用能力の養成を行う。	大学英語を履修済みであること。英会話演習 中級を履修済みであることが望ましい。
外106	英作文演習 中級	2	1-1	1~4	前	日常的・社会的な話題について、自分の考えを1~2パラグラフにまとめ、文法的に正しい英語で表現する力を養う。	大学英語を履修済みであること。
外107	英作文演習 上級	2	1-1	1~4	前・後	日常的・社会的な話題について、自分の考えをエッセイ・レポートにまとめ、国際的に適応できる英作文能力の養成を行なう。	大学英語を履修済みであること。英作文演習 中級を履修済みであることが望ましい。
外108	英語プレゼンテーション演習 中級	2	1-1	1~4	前・後	音声・文字による英語メディアや、専門分野の英文教材の理解を元に、英語でのプレゼンテーション能力を養う。	大学英語を履修済みであること。
外109	英語プレゼンテーション演習 上級	2	1-1	1~4	前・後	英語プレゼンテーション演習 中級よりさらに高度な音声・文字による英語メディアや、専門分野の英文教材の理解を元に、リサーチした情報を英語で論理的にプレゼンテーションする能力を養う。	大学英語を履修済みであること。英語プレゼンテーション演習 中級を履修済みであることが望ましい。
外110	TOEIC演習	2	1-1	1~4	前・後	国際社会に適応できる英語運用能力の指標であるTOEICの試験の受験を目指す学生に対し、出題内容に即した指導を行う。	大学英語を履修済みであること。
外111	TOEFL演習	2	1-1	1~4	前・後	アメリカ、カナダをはじめとした、英語圏の留学に際し、英語運用能力の証明として不可欠なTOEFLの受験を目指す学生に対し、出題内容に即した指導を行う。	大学英語を履修済みであること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
外112	英検準1級演習	2	1-1	1~4	前・後	国際社会に適応できる英語運用能力の指標となる英語検定試験の準1級の取得を目指す学生に対し、出題内容に即した指導を行う。	大学英語を履修済みであること。
外113	特定英語課題演習 I	2	1-1	1~4	前・後	映画、演劇、音楽、文学などを通じて、イギリス、アメリカ、アイルランド、カナダ、オーストラリアをはじめとした英語圏の文化に対する深い理解力を養成する。	大学英語を履修済みであること。
外114	特定英語課題演習 II	2	1-1	1~4	前・後	国際的舞台で活躍する際に不可欠な観光、ビジネスなど特定の分野で使われる英語を実践的な訓練を通じて習得させることを目的とする。	大学英語を履修済みであること。
外201	ドイツ語入門 I	2	2-0	1~4	前	ドイツ語とはどのような言葉か。アルファベット、発音の基本、日常の会話表現などを学びながら、ドイツ語に親しむ。	
外202	ドイツ語入門 II	2	2-0	1~4	後	ドイツ語入門 I の続き。	原則としてドイツ語入門 I を履修していること。
外203	ドイツ語入門 III	2	2-0	2~4	前	ドイツ語入門 II の続き。ドイツ語の基礎的なコミュニケーション力を養成する。	原則としてドイツ語入門 II、またはインテンシブドイツ語 I を履修していること。
外204	ドイツ語入門 IV	2	2-0	2~4	後	ドイツ語入門 III の続き。	原則としてドイツ語入門 III を履修していること。
外205	ドイツ語会話入門 I	2	2-0	2~4	前	聴き、話すという面からのドイツ語運用能力の拡充を目指すクラス。	原則としてドイツ語入門 I、II、またはインテンシブドイツ語 I を履修していること。
外206	ドイツ語会話入門 II	2	2-0	2~4	後	ドイツ語会話入門 I の続き。	原則としてドイツ語会話入門 I を履修していること。
外207	インテンシブドイツ語 I	4	4-0	1~4	前	ドイツ語の言語運用能力を習得するための初級クラス。読み、書き、聴き、話すための基礎を学ぶ。	
外208	インテンシブドイツ語 II	4	4-0	1~4	後	インテンシブドイツ語 I の続き。	原則としてインテンシブドイツ語 I、またはドイツ語入門 II を履修していること。
外209	インテンシブドイツ語 III	2	2-0	2~4	前	より高度な言語運用能力を養成するための中級クラス。	原則としてインテンシブドイツ語 II、またはドイツ語入門 IV を履修していること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
外210	インテンスブドイツ語IV	2	2-0	2~4	後	インテンスブドイツ語IIIの続き。	原則としてインテンスブドイツ語IIIを履修していること。
外211	ドイツ語圏文化入門	2	2-0	2~4	前又は後	ドイツやドイツ語圏の文化を言語学習の視点から概観する。	原則としてドイツ語入門I、II、またはインテンスブドイツ語Iを履修していること。
外301	フランス語入門I	2	2-0	1~4	前	フランス語とはどのような言葉か。アルファベット、発音の基本、日常の会話表現などを学びながら、フランス語に親しむ。	
外302	フランス語入門II	2	2-0	1~4	後	フランス語入門Iの続き。	原則としてフランス語入門Iを履修していること。
外303	フランス語入門III	2	2-0	1~4	前	フランス語入門IIの続き。フランス語の基礎的なコミュニケーション力を養成する。	原則としてフランス語入門II、またはインテンスブフランス語Iを履修していること。
外304	フランス語入門IV	2	2-0	1~4	後	フランス語入門IIIの続き。	原則としてフランス語入門IIIを履修していること。
外305	フランス語会話入門I	2	2-0	2~4	前	聴き、話すという面からのフランス語運用能力の拡充を目指すクラス。	原則としてインテンスブフランス語II、またはフランス語入門IVを履修していること。
外306	フランス語会話入門II	2	2-0	1~4	後	フランス語会話入門Iの続き。	原則としてフランス語会話入門Iを履修していること。
外307	インテンスブフランス語I	4	4-0	1~4	前	フランス語の言語運用能力を習得するための初級クラス。読み、書き、聴き話すための基礎を学ぶ。	
外308	インテンスブフランス語II	4	4-0	1~4	後	インテンスブフランス語Iの続き。	原則としてインテンスブフランス語I、またはフランス語入門IIを履修していること。
外309	インテンスブフランス語III	2	2-0	1~4	前	より高度な言語運用能力を養成するための中級クラス。	原則としてインテンスブフランス語II、またはフランス語入門IVを履修していること。
外310	インテンスブフランス語IV	2	2-0	1~4	後	インテンスブフランス語IIIの続き。	原則としてインテンスブフランス語IIIを履修していること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
外311	フランス語圏文化入門	2	2-0	2~4	前又は後	フランスやフランス語圏の文化を言語学習の視点から概観する。	原則としてフランス語入門Ⅱ、あるいはインテンスイブフランス語Ⅰを履修していること。
外401	スペイン語入門Ⅰ	2	2-0	1~4	前	スペイン語とはどのような言葉か。アルファベット、発音の基本、日常の会話表現などを学びながらスペイン語に親しむ。	
外402	スペイン語入門Ⅱ	2	2-0	1~4	後	スペイン語入門Ⅰの続き。	原則としてスペイン語入門Ⅰを履修していること。
外403	スペイン語入門Ⅲ	2	2-0	2~4	前	スペイン語入門Ⅱの続き。スペイン語の基礎的なコミュニケーション力を養成する。	原則としてスペイン語入門Ⅱ、またはインテンスイブスペイン語Ⅰを履修していること。
外404	スペイン語入門Ⅳ	2	2-0	2~4	後	スペイン語入門Ⅲの続き。	原則としてスペイン語入門Ⅲを履修していること。
外405	スペイン語会話入門Ⅰ	2	2-0	2~4	前	聴き、話すという面からのスペイン語運用能力の拡充を目指すクラス。	原則としてスペイン語入門Ⅰ、Ⅱまたはインテンスイブスペイン語Ⅰを履修していること。
外406	スペイン語会話入門Ⅱ	2	2-0	2~4	後	スペイン語会話入門Ⅰの続き。	原則としてスペイン語会話入門Ⅰを履修していること。
外407	インテンスイブスペイン語Ⅰ	4	4-0	1~4	前	スペイン語の言語運用能力を習得するための初級クラス。読み、書き、聴き話すための基礎を学ぶ。	
外408	インテンスイブスペイン語Ⅱ	4	4-0	1~4	後	インテンスイブスペイン語Ⅰの続き。	原則としてインテンスイブスペイン語Ⅰ、またはスペイン語入門Ⅱを履修していること。
外409	インテンスイブスペイン語Ⅲ	2	2-0	2~4	前	より高度な言語運用能力を養成するための中級クラス。	原則としてインテンスイブスペイン語Ⅱ、またはスペイン語入門Ⅳを履修していること。
外410	インテンスイブスペイン語Ⅳ	2	2-0	2~4	後	インテンスイブスペイン語Ⅲの続き。	原則としてインテンスイブスペイン語Ⅲを履修していること。
外411	スペイン語圏文化入門	2	2-0	2~4	前又は後	スペインやスペイン語圏の文化を言語学習の視点から概観する。	原則としてスペイン語入門Ⅰ、Ⅱ、またはインテンスイブスペイン語Ⅰを履修していること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
外501	中国語基礎 I	4	0-4	1~4	前	はじめて中国語を学ぶ者のための入門クラス。正確に発音し、聞き、話し、読み、書く技能の基礎的で総合的な訓練を行う。 1)基礎文法の理解、 2)簡単な日常会話の修得、 3)基礎的な読解力の養成、 4)社会／文化の理解を学習目標とする。	
外502	中国語基礎 II	4	0-4	1~4	後	中国語基礎 I の続き。	中国語基礎 I を既に履修していること。
外503	中国語中級	4	0-4	2~4	前	中国語基礎 I、II で修めた知識を基に、語彙を拡充し、基本構文についての理解を深め、総合的なコミュニケーション能力の基礎を養成する。	中国語基礎 II を既に履修していること。
外504	中国語講読	2	2-0	2~4	後	易しい読み物を教材とし、読解力を養成する。	中国語基礎 I、II を既に履修していること。 中国語中級を履修していることが望ましい。
外505	中国語演習	2	2-0	2~4	後	会話・スピーチ・作文等の実用的コミュニケーション能力の訓練を行う。	中国語基礎 I、II を既に履修していること。 中国語中級を履修していることが望ましい。
外506	中国語上級	2	2-0	3~4	前	種々の教材を講読し、内容を全体的に把握することに重点を置いて、読解力を養成する。	中国語基礎 I、II を既に履修していること。 中国語中級を履修していることが望ましい。
外507	中国語特演	2	2-0	3~4	後	語学演習をゼミナール形式によって行う。	中国語基礎 I、II を既に履修していること。
外508	中国語会話	2	2-0	2~4	前又は後	各種視聴覚教材を活用しながら、聞き取り訓練及び口頭による基礎的表現能力の訓練を行う。	中国語基礎 I、II を既に履修していること。
外509	時事中国語	2	2-0	2~4	前又は後	特定のテーマ(アクチュアルな社会及び文化現象等)にそって、様々な資料を活用しながらその国の風俗・習慣・歴史・文化に対する理解を深める。	中国語基礎 I、II を既に履修していること。
外510	中国語作文	2	2-0	3~4	前又は後	中国語の作文を学び、併せて手紙、ビジネスレター、Eメールなどの作法を学ぶ。	中国語基礎 I、II を既に履修していること。
外511	実践中国語	2	2-0	3~4	前	中国社会における様々な状況を想定し、実践的な中国語の表現力・会話力を身につける。また、中国語圏での留学経験者に対しても、当科目を履修することで、より一層のレベルアップを図る。	外国語科目「中国語」関連科目を既に8単位以上履修していること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
外601	朝鮮語基礎 I	4	0-4	1~4	前	はじめて朝鮮語を学ぶ者のための入門クラス。正確に発音し、聞き、話し読み、書く技能の基礎的で総合的な訓練を行う。 1)基礎文法の理解、 2)簡単な日常会話の修得、 3)基礎的な読解力の養成、 4)社会／文化の理解を学習目標とする。	
外602	朝鮮語基礎 II	4	0-4	1~4	後	朝鮮語基礎 I の続き。引き続き、 1)基礎文法の理解、 2)簡単な日常会話の修得、 3)基礎的な読解力の養成、 4)社会／文化の理解を学習目標とする。	朝鮮語基礎 I を既に履修していること。
外603	朝鮮語中級	4	0-4	2~4	前	朝鮮語基礎 I、II で修めた知識を基に語彙を拡充し基本構文についての理解を深める総合的なコミュニケーション能力基礎を養成する。	朝鮮語基礎 I、II を既に履修していること。
外604	朝鮮語講読	2	2-0	2~4	後	朝鮮語中級の続き、易しい読み物を教材とし読解力を養成する。	朝鮮語中級を既に履修していること。
外605	朝鮮語演習	2	2-0	2~4	後	朝鮮語中級の続き・会話・スピーチ・作文等の実用的コミュニケーション能力の訓練を行う。	朝鮮語中級を既に履修していること。
外701	インドネシア語基礎 I	4	0-4	1~4	前	はじめてインドネシア語を学ぶ者のための入門クラス。正確に発音し、聞き、話し、読み、書く技能の基礎的で総合的な訓練を行う。 1)基礎文法の理解、 2)簡単な日常会話の修得、 3)基礎的な読解力の養成、 4)社会／文化の理解を学習目標とする。	
外702	インドネシア語基礎 II	4	0-4	1~4	後	インドネシア語基礎 I の続き。	インドネシア語基礎 I を既に履修していること。
外711	タイ語基礎 I	4	0-4	1~4	前	はじめてタイ語を学ぶ者のための入門クラス。正確に発音し、聞き、話し、読み、書く技能の基礎的で総合的な訓練を行う。 1)基礎文法の理解、 2)簡単な日常会話の修得、 3)基礎的な読解力の養成、 4)社会／文化の理解を学習目標とする。	
外712	タイ語基礎 II	4	0-4	1~4	後	タイ語基礎 I の続き。	タイ語基礎 I を既に履修していること。
外731	ラテン語入門 I	2	2-0	1~4	前	ラテン語とはどのような言葉か。ヨーロッパの文化的伝統を支えてきた教養古典語に親しむための入門クラス。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【基幹領域：外国語科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
外732	ラテン語入門Ⅱ	2	2-0	1~4	後	ラテン語入門Ⅰの続き。	原則としてラテン語入門Ⅰを履修していること。
外751	ロシア語入門Ⅰ	2	2-0	1~4	前	ロシア語とはどのような言葉か。アルファベット、発音の基本、日常の会話表現などを学びながら、ロシア語に親しむ。	
外752	ロシア語入門Ⅱ	2	2-0	1~4	後	ロシア語入門Ⅰの続き。	原則としてロシア語入門Ⅰを履修していること。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【専門基礎科目：先修科目】

科目番号	授業科目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
先03	線形代数学Ⅰ	2	2-0	1~4	前	行列・行列式・連立一次方程式等を詳細に講義する。	
先04	線形代数学Ⅱ	2	2-0	1~4	後	ベクトル空間、一次変換、固有値等を講義する。	線形代数学Ⅰを履修していることが望ましい。
先05	線形代数学演習Ⅰ	2	0-2	1	前	線形代数学Ⅰの問題解法。	理学部・数理科
先06	線形代数学演習Ⅱ	2	0-2	1	後	線形代数学Ⅱの問題解法。	理学部・数理科
先07	統計学	2	2-0	1	前	資料の整理、確率分布、推定・検定等について概説する。	医学科用
先08	統計学Ⅰ	2	2-0	1~4	前	確率、資料の整理、2項分布、正規分布、 χ -分布等。	
先09	統計学Ⅱ	2	2-0	1~4	後	推定・検定・分散分析等。	統計学Ⅰを履修していることが望ましい。
先11	微分積分学ST(スタンダードコース)Ⅰ	2	2-0	1	前	数学系以外の学生を対象とし、具体問題の計算能力と微分積分学の応用の側面を重視して講義を行う。講義内容は極限、1変数関数の微分法と積分法である。	
先12	微分積分学ST(スタンダードコース)Ⅱ	2	2-0	1	後	数学系以外の学生を対象とし、具体問題の計算能力と微分積分学の応用の側面を重視して講義を行う。講義内容は、2変数関数の偏微分法と重積分である。	微分積分学STⅠを履修していることが望ましい。
先13	微分積分学AD(アドバンスコース)Ⅰ	2	2-0	1	前	数学系学生を念頭に、微分積分学の理論的側面を強調して講義を行う。講義内容は実数論、 ε - δ 論法による極限、1変数関数の微分法と積分法である。	
先14	微分積分学AD(アドバンスコース)Ⅱ	2	2-0	1	後	数学系学生を念頭に、微分積分学の理論的側面を強調して講義を行う。講義内容は ε - δ 論法による級数、2変数関数の偏微分法と重積分である。	微分積分学ADⅠを履修していることが望ましい。
先21	地学実験	1	0-3	1	後	理科系学生を対象とする地学・気象学の基礎的実験。	
先23	地球科学Ⅰ	2	2-0	1~3	前	おもに固体地球科学分野の基礎的な講義で、地球の構造、プレートテクトニクス、地震と火山、鉱物と岩石、火成・変成作用などを含む。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【専門基礎科目：先修科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
先24	地球科学Ⅱ	2	2-0	1~3	後	地球の水圏、大気圏に関する科学の概説。理系学生を対象とし、ある程度数式を用いた講義内容。	
先31	物理学Ⅰ	2	2-0	1~4	前	高等学校で物理学を履修した理系学生を対象とし、物理学の基礎的な内容を理解させる。講義は、主として力学を中心として行う。	
先32	物理学Ⅱ	2	2-0	1~4	後	高等学校で物理学を履修した理系学生を対象とし、物理学の基礎的な内容を理解させる。講義は、主として電磁気学を中心として行う。	物理学Ⅰに引き続き講義を行うので、物理学Ⅰを履修していることが望ましい。
先33	物理学実験	1	0-2	1~4	第1Q 第2Q 第3Q 第4Q	理系学生を対象とし、個々の実験を通して物理学の基礎的な内容を理解させる。	
先41	化学Ⅰ	2	2-0	1~4	前・後	高等学校で化学基礎と化学を履修した理系学生を対象とし高等学校では履修していない化学に関する基礎事項を概説する。	
先42	化学Ⅱ	2	2-0	1~4	前・後	高等学校で化学基礎と化学を履修した理系学生を対象とし「化学Ⅰ」に引き続き高等学校では履修していない化学に関する基礎事項を概説する。	化学Ⅰに引き続き講義を行うので、化学Ⅰを履修していることが望ましい。
先43	化学実験	1	0-3	1~4	前・後	無機・分析化学、物理化学、有機化学に関する基礎的あるいは教育的と思われる実験を行う。実験のテーマのいくつかは高校の授業で既になじみ深いものであり、それ以外のテーマも化学について高度の知識を必要とするものはない。	
先51	生物学Ⅰ	2	2-0	1~2	前・後	生物について、主としてマクロの生命現象の理解、生物と生物の生活の関わり、環境と生物の関わりに重点をおき、理解を深めさせる。	
先52	生物学Ⅱ	2	2-0	1~2	前・後	生物について、主としてミクロの生命現象に関わる諸現象を理解させる。	
先53	生物学実験	1	0-3	1~2	前・後	生物に関する基礎的な実験・観察。	

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【専門基礎科目：転換科目】

科目 番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	講 義 内 容	備 考
転03	微分積分学入門Ⅰ	2	2-0	1	前・後	弧度法、三角関数、逆三角関数、指数関数、対数関数について詳しい丁寧な説明を行い、続いて1変数の微分法およびその応用について講義する。高校で「数学Ⅲ」を履修してきていない学生を対象にした講義である。	
転04	微分積分学入門Ⅱ	2	2-0	1	後	微分積分学入門Ⅰの続き。1変数の微分法とその応用について講義する。なお、時間があれば、2変数関数の2階までの偏微分の計算、合成関係の偏微分および重積分の基本にも触れる。高校で「数学Ⅲ」を履修してきていない学生を対象とした講義である。	
転11	物理学入門Ⅰ	2	2-0	1~2	前	高等学校で物理学を履修していない、あるいは物理基礎のみを履修している理科系学生を対象とし、初歩から始めて物理学の基礎的な内容を理解させる。講義は、数学の基礎についても留意しながら、主として力学を中心として行う。	
転12	物理学入門Ⅱ	2	2-0	1~2	後	高等学校で物理学を履修していない、あるいは物理基礎のみを履修している理科系学生を対象とし、初歩から始めて物理学の基礎的な内容を理解させる。講義は、数学の基礎についても留意しながら、主として電磁気学を中心として行う。	物理学入門Ⅰに引き続き講義を行うので、物理学入門Ⅰを履修していることが望ましい。
転23	化学入門Ⅰ	2	2-0	1~2	前・後	高等学校で化学基礎と化学を履修していない、あるいは化学基礎のみを履修している理科系学生を対象とし、初歩から始めて化学の基礎的な内容を概説する。	
転24	化学入門Ⅱ	2	2-0	1~2	前・後	高等学校で化学基礎と化学を履修していない、あるいは化学基礎のみを履修している理科系学生を対象とし、「化学入門Ⅰ」に引き続き化学の基礎的な内容を理解させる。	化学入門Ⅰに引き続き講義を行うので、化学入門Ⅰを履修していることが望ましい。

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【日本語・日本事情科目】

科目 番号	授業科目	単 位	週時間	受講 年次	学 期	講 義 内 容	備 考
日107	文法C2S	2	0-2		前	上級前半/文法	外国人留学生対象
日108	文法C2F	2	0-2		後	上級前半/文法	外国人留学生対象
日203	読解B2S	2	0-2		前	中級中盤/読解	外国人留学生対象
日204	読解B2F	2	0-2		後	中級中盤/読解	外国人留学生対象
日205	読解C1S	2	0-2		前	中級後半/読解	外国人留学生対象
日206	読解C1F	2	0-2		後	中級後半/読解	外国人留学生対象
日208	読解C2F	2	0-2		後	上級前半/読解	外国人留学生対象
日303	聴解B2S	2	0-2		前	中級中盤/聴解	外国人留学生対象
日304	聴解B2F	2	0-2		後	中級中盤/聴解	外国人留学生対象
日305	聴解C1S	2	0-2		前	中級後半/聴解	外国人留学生対象
日306	聴解C1F	2	0-2		後	中級後半/聴解	外国人留学生対象
日307	聴解C2S	2	0-2		前	上級前半/聴解	外国人留学生対象
日308	聴解C2F	2	0-2		後	上級前半/聴解	外国人留学生対象
日405	アカデミック日本語C1S	2	0-2		前	中級後半/研究活動のための日本語	外国人留学生対象
日406	アカデミック日本語C1F	2	0-2		後	中級後半/研究活動のための日本語	外国人留学生対象
日407	アカデミック日本語C2S	2	0-2		前	上級前半/研究活動のための日本語	外国人留学生対象
日408	アカデミック日本語C2F	2	0-2		後	上級前半/研究活動のための日本語	外国人留学生対象
日505	会話C1S	2	0-2		前	中級後半/会話	外国人留学生対象
日506	会話C1F	2	0-2		後	中級後半/会話	外国人留学生対象
日507	会話C2S	2	0-2		前	上級前半/会話	外国人留学生対象
日603	漢字B2S	1	0-2		前	中級中盤/漢字・語彙	外国人留学生対象
日604	漢字B2F	1	0-2		後	中級中盤/漢字・語彙	外国人留学生対象
日701	口頭表現C1S	2	0-2		前	中級後半/討論、発表	外国人留学生対象
日702	口頭表現C1F	2	0-2		後	中級後半/討論、発表	外国人留学生対象
日703	口頭表現C2S	2	0-2		前	上級前半/討論、発表	外国人留学生対象
日704	口頭表現C2F	2	0-2		後	上級前半/討論、発表	外国人留学生対象
日802	ビジネス日本語入門	2	0-2		前	中級前半/日本での就職のための日本語	外国人留学生対象
日803	ビジネス日本語 I	2	0-2		前及び後	中級中盤/日本での就職のための日本語	外国人留学生対象
日804	ビジネス日本語 II	2	0-2		前及び後	中級後半/日本での就職のための日本語	外国人留学生対象
日915	沖縄の文化 I	2	2-0		前	中級・上級/沖縄の文化と社会	外国人留学生対象
日916	沖縄の文化 II	2	2-0		後	中級・上級/沖縄の文化と社会	外国人留学生対象
日925	沖縄の歴史 I	2	2-0		前	中級以上/沖縄の歴史	外国人留学生対象
日926	沖縄の歴史 II	2	2-0		後	中級以上/沖縄の歴史	外国人留学生対象

(別表2)

共通教育等授業科目講義内容

【日本語・日本事情科目】

科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	講義内容	備考
日955	日本の文化 I	2	2-0		前	中級以上/日本の文化と社会	外国人留学生対象
日956	日本の文化 II	2	2-0		後	中級以上/日本の文化と社会	外国人留学生対象
日965	日本の歴史 I	2	2-0		前	中級以上/日本の歴史	外国人留学生対象
日966	日本の歴史 II	2	2-0		後	中級以上/日本の歴史	外国人留学生対象
日983	日本語B2S	4	2-2		前	中級後半 (JF日本語教育スタンダードB2レベル) の日本語力習得を目指す受講者を対象に、中級以上の文法項目の学習を通し、身近なコンテキストの議論へ参加し、興味関心のある分野については明瞭で詳細な説明が行える能力を養う。	外国人留学生対象 指定されたプレースメントテストを受験していること。または、国際教育センターの担当コーディネーターによる履修指導を受けていること。
日984	日本語B2F	4	2-2		後	中級後半 (JF日本語教育スタンダードB2レベル) の日本語力習得を目指す受講者を対象に、中級以上の文法項目の学習を通し、身近なコンテキストの議論へ参加し、興味関心のある分野については明瞭で詳細な説明が行える能力を養う。	外国人留学生対象 指定されたプレースメントテストを受験していること。または、国際教育センターの担当コーディネーターによる履修指導を受けていること。

(別表3)

各学部学科等別共通教育等履修基準表

学部	学科課程等	昼間 主 夜間 主 の別	入学 定員	専攻 専修 コース 系	共通教育							専門基礎教育	備 考	合計 (単位)			
					教養領域				総合領域						基幹領域		
					健康 運動	人文	社会	自然	総合	琉大特色・ 地域創生	キャリア 関係				情報 関係	外国語	
国際法政学科			80	法学プログラム	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上				2 単位以上	12 単位以上	卒業要件の単位には 含まない	34 単位以上		
					指定科目 なし	指定科目なし						情報科学 演習	○第一外国語は8単 位以上				
					20単位以上							○第二外国語4単位 以上					
					平和共生・沖縄理解科目群（別表に記載）から6単位以上												
国際法政学科			80	政治・ 国際 関係学 プログ ラム	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上				2 単位以上	12 単位以上	卒業要件の単位には 含まない	34 単位以上		
					指定科目 なし	指定科目なし						情報科学 演習	○第一外国語は8単 位以上 ○第二外国語4単位 以上				
					32単位以上							○第二外国語4単位 以上					
					平和共生・沖縄理解科目群（別表に記載）から6単位以上												
人文社会学部	人間社会学科		80	哲学プログラム	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上			2 単位以上	2 単位以上	12 単位以上	卒業要件の単位には 含まない	36 単位以上		
					指定科目 なし	指定科目なし						情報科学 演習	○第一外国語は8単 位以上				
					22単位以上							○第二外国語4単位 以上					
				平和共生・沖縄理解科目群（別表に記載）から6単位以上													
				心理学プログラム	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上			2 単位以上	2 単位以上	12 単位以上			卒業要件の単位には 含まない	36 単位以上
					指定科目 なし	指定科目なし						情報科学 演習	○第一外国語は8単 位以上				
	22単位以上							○第二外国語4単位 以上									
	社会学プログラム	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上			2 単位以上	2 単位以上	12 単位以上	卒業要件の単位には 含まない	36 単位以上					
		指定科目 なし	指定科目なし						情報科学 演習	○第一外国語は8単 位以上							
22単位以上							○第二外国語4単位 以上										
琉球アジア文化学科	歴史・ 民俗学 プロ グラム		40	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上			2 単位以上	16 単位以上	卒業要件の単位には 含まない	36 単位以上				
				指定科目 なし	指定科目なし						情報科学 演習			○第一外国語は8単 位以上			
				18単位以上							○第二外国語8単位 以上						
	言語学プログラム	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上			2 単位以上	16 単位以上	卒業要件の単位には 含まない	36 単位以上						
		指定科目 なし	指定科目なし						情報科学 演習			○第一外国語は8単 位以上					
		18単位以上							○第二外国語8単位 以上								
文学プログラム	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上			2 単位以上	16 単位以上	卒業要件の単位には 含まない	36 単位以上							
	指定科目 なし	指定科目なし						情報科学 演習			○第一外国語は8単 位以上						
	18単位以上							○第二外国語8単位 以上									
計			200														

別表

平和共生・沖縄理解科目群 指定科目一覧

科目番号	科目名	科目番号	科目名
社06	戦争と平和の諸問題	琉23	琉球の自然保護
人06	西洋思想と日本・中国の思想	琉24	沖縄のサンゴ礁
人09	環境の哲学	琉25	琉球弧の自然誌
人16	比較思想文化論	琉26	琉球の地理
人18	宗教と世界	琉33	現代の国際関係
人19	人間と宗教	琉41-2	琉球アジア研究入門
総14	環境問題	琉46	沖縄の政治と社会
総47	総合環境学概論	琉48	うちなーぐちあしび
総62	環境と文学	琉50	沖縄の学力と教育
琉01	平和論	琉51	琉球語入門Ⅰ
琉02	核の科学	琉52	琉球語入門Ⅱ
琉03	女性と社会	琉54	沖縄の歴史入門
琉05	沖縄の基地と戦跡Ⅰ	琉55	琉球学入門
琉06	沖縄の基地と戦跡Ⅱ	琉56	琉球の自然と人
琉14	琉球の文学	琉71	現代沖縄地域論
琉22	琉球の自然		

(別表3)

各学部学科等別共通教育等履修基準表

学部	学科課程等	昼間主 夜間主 の別	入学 定員	専攻 専修 コース 系	共通教育								専門基礎教育	備 考	合計 (単位)		
					教養領域				総合領域			基幹領域					
					健康 運動	人文	社会	自然	総合	琉大特色・ 地域創生	キャリ ア関係	情報 関係				外国語	
国際地域創造学部	国際地域創造学科	昼間主コース	265	観光地域デザインプログラム	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	4 単位以上				12 単位以上	卒業要件の単位には 含まない	30 単位以上		
					指定科目 なし	指定科目なし											
					12単位以上								○第一外国語は英語とし、8 単位以上				
					※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、 キャリア関係、情報関係の中から合計12単位以上								○第二外国語4単位以上				
				28単位以上													
				※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、キャリア関係、情報関係、外国 語の中から合計28単位以上													
				経営プログラム	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	4 単位以上				12 単位以上	卒業要件の単位には 含まない	30 単位以上		
					指定科目 なし	指定科目なし											
					12単位以上								○第一外国語は英語とし、8 単位以上				
					※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、 キャリア関係、情報関係の中から合計12単位以上								○第二外国語4単位以上				
				28単位以上													
				※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、キャリア関係、情報関係、外国 語の中から合計28単位以上													
				経済学プログラム	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	4 単位以上				12 単位以上	卒業要件の単位には 含まない	30 単位以上		
					指定科目 なし	指定科目なし											
					12単位以上								○第一外国語は8単位以上				
					※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、 キャリア関係、情報関係の中から合計12単位以上								○第二外国語4単位以上				
28単位以上																	
※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、キャリア関係、情報関係、外国 語の中から合計28単位以上																	
国際言語文化プログラム	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	4 単位以上			2 単位	16 単位以上	卒業要件の単位には 含まない	30 単位以上						
	指定科目 なし	指定科目なし							情報科学 演習 は必修								
	12単位以上								第一外国語： ○第一外国語が、英語の場合は「大学英語」「英語講読演 習中級」を含むこと ○第一外国語で、ドイツ語、 フランス語、スペイン語を選 択した場合はそれぞれ「イン テンシブドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、 「インテンシブフランス語 Ⅰ・Ⅱ」「インテンシブスベ イン語Ⅰ・Ⅱ」のいずれか8 単位 第二外国語： ○第一外国語が英語の場合、 第二外国語は「インテンシブ ドイツ語Ⅰ・Ⅱ」、「インテ ンシブフランス語Ⅰ・Ⅱ」、 「インテンシブスペイン語 Ⅰ・Ⅱ」、「中国語基礎Ⅰ・ Ⅱ」のうちから1つの言語を 選択する。 ○第一外国語が英語以外の言 語で、第二外国語で英語を選 択する場合、「大学英語」 「英語講読演習中級」を含み 8単位、あるいは第一外国語 で選択した言語以外の同一言 語から8単位								
	※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、 キャリア関係、情報関係の中から合計12単位以上																
28単位以上																	
※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、キャリア関係、情報関係、外国 語の中から合計28単位以上																	
地域文化科学プログラム	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	4 単位以上				12 単位以上	卒業要件の単位には 含まない	30 単位以上						
	指定科目 なし	指定科目なし															
	12単位以上								○第一外国語は8単位以上								
	※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、 キャリア関係、情報関係の中から合計12単位以上								○第二外国語4単位以上								
28単位以上																	
※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、キャリア関係、情報関係、外国 語の中から合計28単位以上																	

(別表3)

各学部学科等別共通教育等履修基準表

学部	学科課程等	昼間主 夜間主 の別	入学 定員	専攻 専修 コース 系	共通教育							専門基礎教育	備 考	合計 (単位)								
					教養領域				総合領域						基幹領域							
					健康 運動	人文	社会	自然	総合	琉大特色・ 地域創生	キャリア 関係	情報 関係			外国語	専門基礎						
国際地域創造学部	国際地域創造学科	夜間主コース	80	経営プログラム	2 単位以上	4 単位以上	4 単位以上	4 単位以上				12 単位以上	卒業要件の単位には 含まない	40 単位以上								
					指定科目 なし	指定科目なし									○第一外国語は8単位以上 ○第二外国語4単位以上							
					22単位以上																	
					※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、 キャリア関係、情報関係の中から合計22単位以上																	
					38単位以上																	
					※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、キャリア関係、情報関係、外国 語の中から合計38単位以上																	
					国際地域創造学部	国際地域創造学科	夜間主コース	80	経済学プログラム	2 単位以上	4 単位以上	4 単位以上			4 単位以上				12 単位以上	卒業要件の単位には 含まない	40 単位以上	
										指定科目 なし	指定科目なし							○第一外国語は8単位以上 ○第二外国語4単位以上				
										22単位以上												
※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、 キャリア関係、情報関係の中から合計22単位以上																						
38単位以上																						
※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、キャリア関係、情報関係、外国 語の中から合計38単位以上																						
国際地域創造学部	国際地域創造学科	夜間主コース	80	国際言語文化プログラム						2 単位以上	4 単位以上	4 単位以上	4 単位以上			2 単位	16 単位以上	卒業要件の単位には 含まない	40 単位以上			
										指定科目 なし	指定科目なし											情報科学 演習 は必修
										22単位以上												
					※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、 キャリア関係、情報関係の中から合計22単位以上																	
					38単位以上																	
					※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、キャリア関係、情報関係、外国 語の中から合計38単位以上																	
					計			345														

(別表3)

各学部学科等別共通教育等履修基準表

学部	学科課程等	昼間主 夜間主 の別	入学定員	専攻 専修 コース 系	共通教育								専門基礎教育	備 考	合計 (単位)		
					教養領域				総合領域			基幹領域					
					健康 運動	人文	社会	自然	総合	琉大特色・ 地域創生	キャリア 関係	情報 関係				外国語	
教育学部	学校教育教員養成課程	140		教育実践学専修	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上			2単位以上	6単位又は8単位以上		20 単位以上	*2つの外国語(計8単位)を修得した場合は、2.2単位以上	
					指定科目なし	心の科学又は人間関係論	憲法概論	指定科目なし			情報科学演習	○英語のみの場合は「大学英語」4単位を含む6単位					
					上記、健康運動～情報関係で指定された科目及び単位を含めて14単位以上								○英語以外の一つの外国語を履修する場合は6単位 ○2つの外国語の場合は各々4単位の計8単位→合計(単位)欄*参照				
					子ども教育開発専修	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上			2単位以上	6単位又は8単位以上		20 単位以上	*2つの外国語(計8単位)を修得した場合は、2.2単位以上
						指定科目なし	心の科学又は人間関係論	憲法概論	指定科目なし			情報科学演習	○英語のみの場合は「大学英語」4単位を含む6単位				
						上記、健康運動～情報関係で指定された科目及び単位を含めて14単位以上								○英語以外の一つの外国語を履修する場合は6単位 ○2つの外国語の場合は各々4単位の計8単位→合計(単位)欄*参照			
					国語教育専修	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上			2単位以上	6単位又は8単位以上		20 単位以上	*2つの外国語(計8単位)を修得した場合は、2.2単位以上
						指定科目なし	心の科学又は人間関係論	憲法概論	指定科目なし			情報科学演習	○英語のみの場合は「大学英語」4単位を含む6単位				
						上記、健康運動～情報関係で指定された科目及び単位を含めて14単位以上								○英語以外の一つの外国語を履修する場合は6単位 ○2つの外国語の場合は各々4単位の計8単位→合計(単位)欄*参照			
社会科教育専修	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上			2単位以上	6単位又は8単位以上		20 単位以上	*2つの外国語(計8単位)を修得した場合は、2.2単位以上					
	指定科目なし	心の科学又は人間関係論	憲法概論	指定科目なし			情報科学演習	○英語のみの場合は「大学英語」4単位を含む6単位									
	上記、健康運動～情報関係で指定された科目及び単位を含めて14単位以上								○英語以外の一つの外国語を履修する場合は6単位 ○2つの外国語の場合は各々4単位の計8単位→合計(単位)欄*参照								
数学教育専修	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上			2単位以上	6単位又は8単位以上	4単位	2.2 単位以上	*2つの外国語(計8単位)を修得した場合は、2.2単位以上					
	指定科目なし	心の科学又は人間関係論	憲法概論	指定科目なし			情報科学演習	○英語のみの場合は「大学英語」4単位を含む6単位									
	上記、健康運動～情報関係で指定された科目及び単位を含めて14単位以上 (※専門基礎科目の指定科目の履修で修得した単位のうち2単位までを上記14単位に含めることができる。)								○英語以外の一つの外国語を履修する場合は6単位 ○2つの外国語の場合は各々4単位の計8単位→合計(単位)欄*参照	○線形代数学Ⅰ ○線形代数学Ⅱ							
理科教育専修	2単位以上	2単位以上	2単位以上	4単位以上			2単位以上	6単位又は8単位以上		20 単位以上	*2つの外国語(計8単位)を修得した場合は、2.2単位以上						
	指定科目なし	指定科目なし	憲法概論	指定科目なし			情報科学演習	○英語のみの場合は「大学英語」4単位を含む6単位									
	上記、健康運動～情報関係で指定された科目及び単位を含めて14単位以上								○英語以外の一つの外国語を履修する場合は6単位 ○2つの外国語の場合は各々4単位の計8単位→合計(単位)欄*参照								
音楽教育専修	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上			2単位以上	6単位又は8単位以上		20 単位以上	*2つの外国語(計8単位)を修得した場合は、2.2単位以上					
	指定科目なし	心の科学又は人間関係論	憲法概論	指定科目なし			情報科学演習	○英語のみの場合は「大学英語」4単位を含む6単位									
	上記、健康運動～情報関係で指定された科目及び単位を含めて14単位以上								○英語以外の一つの外国語を履修する場合は6単位 ○2つの外国語の場合は各々4単位の計8単位→合計(単位)欄*参照								
美術教育専修	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上			2単位以上	6単位又は8単位以上		20 単位以上	*2つの外国語(計8単位)を修得した場合は、2.2単位以上					
	指定科目なし	指定科目なし	憲法概論	指定科目なし			情報科学演習	○英語のみの場合は「大学英語」4単位を含む6単位									
	上記、健康運動～情報関係で指定された科目及び単位を含めて14単位以上								○英語以外の一つの外国語を履修する場合は6単位 ○2つの外国語の場合は各々4単位の計8単位→合計(単位)欄*参照								
保健体育専修	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上			2単位以上	6単位又は8単位以上		20 単位以上	*2つの外国語(計8単位)を修得した場合は、2.2単位以上					
	指定科目なし	心の科学又は人間関係論	憲法概論	指定科目なし			情報科学演習	○英語のみの場合は「大学英語」4単位を含む6単位									
	上記、健康運動～情報関係で指定された科目及び単位を含めて14単位以上								○英語以外の一つの外国語を履修する場合は6単位 ○2つの外国語の場合は各々4単位の計8単位→合計(単位)欄*参照								

(別表3)

各学部学科等別共通教育等履修基準表

学部	学科課程等	昼間主 夜間主 の別	入学定員	専攻 専修 コース 系	共通教育								専門基礎教育	備考	合計 (単位)	
					教養領域				総合領域			基幹領域				
					健康 運動	人文	社会	自然	総合	琉大特色・ 地域創生	キャリア 関係	情報 関係	外国語			専門基礎
教育学部	学校教育教員養成課程		140	技術教育専修	2単位以上	2単位以上	2単位以上	4単位以上	2単位以上			2単位以上	6単位又は8単位以上		20 単位以上 *2つの外国語(計8単位)を修得した場合は、22単位以上	
					指定科目なし		憲法概論	指定科目なし			情報科学演習	○英語のみの場合は「大学英語」4単位を含む6単位				
					上記、健康運動～情報関係で指定された科目及び単位を含めて14単位以上								○英語以外の一つの外国語を履修する場合は6単位			
													○2つの外国語の場合は各々4単位の計8単位→合計(単位)欄*参照			
				生活科学教育専修	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上			2単位以上	6単位又は8単位以上		20 単位以上 *2つの外国語(計8単位)を修得した場合は、22単位以上	
					指定科目なし		憲法概論	指定科目なし			情報科学演習	○英語のみの場合は「大学英語」4単位を含む6単位				
					上記、健康運動～情報関係で指定された科目及び単位を含めて14単位以上								○英語以外の一つの外国語を履修する場合は6単位			
													○2つの外国語の場合は各々4単位の計8単位→合計(単位)欄*参照			
				英語教育専修	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上			2単位以上	6単位又は8単位以上		20 単位以上 *2つの外国語(計8単位)を修得した場合は、22単位以上	
					指定科目なし		憲法概論	指定科目なし			情報科学演習	○英語のみの場合は「大学英語」4単位を含む6単位				
					上記、健康運動～情報関係で指定された科目及び単位を含めて14単位以上								○英語以外の一つの外国語を履修する場合は6単位			
													○2つの外国語の場合は各々4単位の計8単位→合計(単位)欄*参照			
				特別支援教育専修	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上	2単位以上			2単位以上	6単位又は8単位以上		20 単位以上 *2つの外国語(計8単位)を修得した場合は、22単位以上	
					指定科目なし		憲法概論	指定科目なし			情報科学演習	○英語のみの場合は「大学英語」4単位を含む6単位				
					上記、健康運動～情報関係で指定された科目及び単位を含めて14単位以上								○英語以外の一つの外国語を履修する場合は6単位			
													○2つの外国語の場合は各々4単位の計8単位→合計(単位)欄*参照			
計			140													

(別表3)

各学部学科等別共通教育等履修基準表

学部	学科課程等	昼間主 夜間主 の別	入学定員	専攻 専修 コース 系	共通教育							専門基礎教育	備考	合計 (単位)		
					教養領域				総合領域						基幹領域	
					健康 運動	人文	社会	自然	総合	琉大特色・ 地域創生	キャリア 関係				情報 関係	外国語
理学部	数理科学科		40		2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上				8 単位以上	12単位以上	(注1) 健康運動系及び外国語を除いて、24単位を超えて修得した共通教育及び専門基礎教育の授業科目の単位については、6単位まで専門教育の自由科目として読み替えることができる。ただし、専門基礎科目の「微分積分学入門Ⅰ及びⅡ」「微分積分学STⅠ及びⅡ」の4授業科目を除く。 (注2) 健康運動系科目は教員免許と関係するからその点を留意して授業科目を選択すること。	34 単位以上	
					指定科目 なし	指定科目なし			12単位以上		○英語4単位以上 ○上記以外の一つの外国語4単位以上	○微分積分学ADⅠ ○微分積分学ADⅡ ○線形代数学Ⅰ ○線形代数学Ⅱ ○線形代数学演習Ⅰ ○線形代数学演習Ⅱ				
					14単位以上											
	物質地球科学科(物理系)			65		2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上		2単位以上		12 単位以上	9単位以上	(注1) 高等学校で物理を履修していない学生は、物理学Ⅰ・Ⅱの代わりに物理学入門Ⅰ・Ⅱを履修することができる。 (注2) 高等学校で微分積分を履修していない学生は微分・積分学STⅠ・Ⅱの代わりに微分・積分学入門Ⅰ・Ⅱを履修することができる。また、微分・積分に十分な学力のある学生は、微分・積分学STⅠ・Ⅱの代わりに微分積分学ADⅠ・Ⅱを履修することができる。	35 単位以上	
						指定科目 なし	指定科目なし			12単位以上		○英語8単位以上 ○上記以外の一つの外国語4単位以上	○必修9単位 物理学Ⅰ・Ⅱ(注1) 物理学実験、微分積分学STⅠ・Ⅱ(注2)			
14単位以上																
物質地球科学科(地球環境系)			65		2 単位以上	4 単位以上	4 単位以上		2単位		14 単位以上	13単位以上	○地球科学Ⅰ・Ⅱ(必修)及び物理学Ⅰ・Ⅱ(又は同入門Ⅰ・Ⅱ)、化学Ⅰ・Ⅱ(又は同入門Ⅰ・Ⅱ)の中から4単位 ○上記必修科目として取得した科目以外の下記科目から5単位以上 物理学Ⅰ・Ⅱ(又は同入門Ⅰ・Ⅱ)、物理学実験、化学Ⅰ・Ⅱ(又は同入門Ⅰ・Ⅱ)、化学実験、生物学Ⅰ・Ⅱ、生物学実験、地学実験、微分積分学STⅠ・Ⅱ(又は同入門Ⅰ・Ⅱ)、その他の数学科目	45 単位以上		
					指定科目 なし	指定科目なし			16単位以上		○英語10単位以上 ○上記以外の一つの外国語4単位以上					
					18単位以上											
海洋自然科学科(化学系)			95			4 単位以上	4 単位以上				12 単位以上	14単位以上	(注1) 高等学校で微分・積分を履修していない学生は、微分積分学入門Ⅰ・Ⅱを履修することができる。また、微分・積分に十分な学力のある学生は、微分積分学STⅠ・Ⅱの代わりに微分積分学ADⅠ・Ⅱを履修することができる。 (注2) 高等学校で物理を履修していない学生は、物理学Ⅰ・Ⅱの代わりに物理学入門Ⅰ・Ⅱを履修することができる。	46 単位以上		
					指定科目 なし	指定科目なし			18単位以上		○英語8単位以上 ○上記以外の一つの外国語4単位以上	○化学実験、化学Ⅰ・Ⅱ(必修) ○下記科目の中から9単位以上履修すること。 微分積分学STⅠ・Ⅱ(注1) 線形代数学Ⅰ・Ⅱ、物理学Ⅰ・Ⅱ(注2) 物理学実験、生物学Ⅰ・Ⅱ、生物学実験、地学実験				
					20単位以上											
海洋自然科学科(生物系)			95		2 単位以上	4 単位以上	4 単位以上		6単位以上		12 単位以上	14単位以上	(注1) 高等学校で化学を履修していない学生は、化学Ⅰ・Ⅱの代わりに化学入門Ⅰ・Ⅱを履修することができる。 (注2) 高等学校で物理を履修していない学生は物理学Ⅰ・Ⅱの代わりに物理学入門Ⅰ・Ⅱを履修することができる。 (注3) 高等学校で微分積分を履修していない学生は、微分積分学STⅠ・Ⅱ(注3)、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ	46 単位以上		
					指定科目 なし	指定科目なし			18単位以上		○英語8単位以上 ○上記以外の一つの外国語4単位以上	○生物学Ⅰ・Ⅱ、生物学実験(必修) ○下記の科目の中から9単位以上履修すること。 化学Ⅰ・Ⅱ(注1)、化学実験、物理学Ⅰ・Ⅱ(注2)、物理学実験、地球科学Ⅰ・Ⅱ、地学実験、微分積分学STⅠ・Ⅱ(注3)、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、統計学Ⅰ・Ⅱ				
					20単位以上											
計			200													

(別表3)

各学部学科等別共通教育等履修基準表

学部	学科課程等	昼間 夜間 の別	入学定員	専攻 専修 コース 系	共通教育								専門基礎教育	備考	合計 (単位)										
					教養領域				総合領域			基幹領域													
					健康 運動	人文	社会	自然	総合	琉大特色・ 地域創生	キャリア 関係	情報 関係	外国語			専門基礎									
医学部	医学科		112	地域一般 医療コース	健康運動	2 単位以上	人文	2 単位以上	社会	2 単位以上	自然	2 単位以上	総合	6単位	琉大特色・ 地域創生	2 単位	キャリア 関係	2 単位	情報 関係	2 単位	外国語	6単位	専門基礎	3単位	25 単位以上
					指定科目 なし	ヒトの科学と人 間の医学(医学 概論A) 動物実験の基礎 倫理総合討議				指定科目 なし	指定科目 なし	情報科学 演習	○英語6単位以上		○必修科目(3単位) 統計学 化学実験										
					22単位以上 ※上記の単位(18単位)を含め、さらに人文、社会、琉大特色・地域創生の中から4単位以上選択し、合計 22単位以上																				
医学部	保健学科		60	看護学 コース	健康運動	2 単位以上	人文	4 単位以上	社会	4 単位以上	自然	4 単位以上	総合	2単位	琉大特色・ 地域創生	2 単位以上	キャリア 関係	2 単位以上	情報 関係	2 単位以上	外国語	8単位	専門基礎	3単位	26 単位以上
					指定科目 なし	人間関係 論を履修 すること が望まし い	指定科目 なし	ヒトの健 康科学	指定科目なし				情報科学 演習	○英語8単位 又は ○英語4単位及び他 の一つの外国語4単 位											
					16単位以上																				
医学部	保健学科		60	検査技術学 コース	健康運動	2 単位以上	人文	2 単位以上	社会	2 単位以上	自然	4 単位以上	総合	2単位	琉大特色・ 地域創生	2 単位以上	キャリア 関係	2 単位以上	情報 関係	2 単位以上	外国語	8単位	専門基礎	3単位	27 単位以上
					指定科目 なし	計6単位以上				ヒトの健 康科学	動物実験の基 礎、生命科学入 門から履修す ることが望まし い。	指定科目なし				情報科学 演習	○英語8単位 又は ○英語4単位及び他 の一つの外国語4単 位		必修科目(1単位) ○化学実験 選択必修(2単位) ○化学Ⅰ ○化学入門Ⅱ ○生物学Ⅱ ○物理学Ⅱ ○物理入門Ⅱ						
					14単位以上																				
計			172																						

(別表3)

各学部学科等別共通教育等履修基準表

学部	学科課程等	昼間 夜間 主 の別	入学 定員	専攻 専修 コース	共通教育							専門基礎教育	備考	合計 (単位)		
					教養領域				総合領域						基幹領域	
					健康 運動	人文	社会	自然	総合	琉大特色・ 地域創生	キャリア 関係				情報 関係	外国語
工学部	工学	350	350	機械工学コース	2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	指定単位 なし	2 単位以上	2 単位	12 単位以上	11 単位以上	(注1) 微分積分学入門Ⅰ・Ⅱ、物理学入門Ⅰ・Ⅱの履修に際しては、指導教員の指導を受けること。 (注2) 情報科学演習は卒業要件の単位に含めない。	41 単位以上		
				指定科目 なし	指定科目なし				14 単位以上	○日本語 表現法入門	○「大学英語」を含む 英語8単位以上及び英 語以外の一つの外国語 4単位以上 又は ○「大学英語」を含む 英語12単位以上	○微分積分学STⅠ・Ⅱ (又は同入門Ⅰ・Ⅱ) ○物理学Ⅰ・Ⅱ (又は同入門Ⅰ・Ⅱ) ○物理学実験 ○化学入門Ⅰ				
				2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	指定単位 なし	2 単位以上	2 単位	12 単位以上	14 単位以上	(注1) 微分積分学入門Ⅰ・Ⅱ、物理学入門Ⅰ・Ⅱの履修に際しては、指導教員の指導を受けること。 (注2) 情報科学演習は卒業要件の単位に含めない。	44 単位以上			
				指定科目 なし	指定科目なし				14 単位以上	○日本語 表現法入門	○「大学英語」を含む 英語8単位以上及び英 語以外の一つの外国語 4単位以上 又は ○「大学英語」を含む 英語12単位以上	○微分積分学STⅠ・Ⅱ (又は同入門Ⅰ・Ⅱ) ○物理学Ⅰ・Ⅱ (又は同入門Ⅰ・Ⅱ) ○物理学実験 ○化学入門Ⅰ・Ⅱ ○化学実験				
				2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	指定単位 なし	2 単位以上	2 単位	12 単位以上	10 単位以上	(注) 情報科学演習は卒業要件の単位に含めない。	40 単位以上			
				指定科目 なし	指定科目なし				14 単位以上	○日本語 表現法入門	○「大学英語」、「英 語講読演習中級」、 「英語プレゼンテー ション演習中級」を含 む英語8単位以上及び 英語以外の一つの外国 語4単位以上 又は ○「大学英語」、「英 語講読演習中級」、 「英語プレゼンテー ション演習中級」を含 む英語12単位以上	○微分積分学STⅠ・Ⅱ ○物理学Ⅰ ○物理学実験 ○化学入門Ⅰ ○化学実験				
				2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	指定単位 なし	2 単位以上	2 単位	12 単位以上	10 単位以上	(注) 情報科学演習は卒業要件の単位に含めない。	40 単位以上			
				指定科目 なし	指定科目なし				14 単位以上	○日本語 表現法入門	○「大学英語」、「英 語講読演習中級」、 「英語プレゼンテー ション演習中級」を含 む英語8単位以上及び 英語以外の一つの外国 語4単位以上 又は ○「大学英語」、「英 語講読演習中級」、 「英語プレゼンテー ション演習中級」を含 む英語12単位以上	○微分積分学STⅠ・Ⅱ ○物理学Ⅰ ○物理学実験 ○化学入門Ⅰ ○化学実験				
2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	指定単位 なし	2 単位以上	2 単位以上	12 単位以上	4 単位以上	卒業要件に係る専門基礎科目を、4単位を超えて修得した場合は、2単位を上限として人文・社会系科目または総合領域の単位として卒業単位に含めることができる。	34 単位以上							
指定科目 なし	指定科目なし				14 単位以上	○日本語 表現法入門	○「大学英語」を含む 英語8単位以上及び英 語以外の一つの外国語 4単位以上 又は ○「大学英語」を含む 英語12単位以上	○微分積分学STⅠ・Ⅱ ○物理学Ⅰ・Ⅱ ○物理学実験 上記の中から、4単位以上 選択								
2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	指定単位 なし	2 単位以上	2 単位以上	12 単位以上	7 単位以上		37 単位以上							
指定科目 なし	指定科目なし				14 単位以上	○日本語 表現法入門	○「大学英語」を含む 英語8単位以上及び英 語以外の一つの外国語 4単位以上 又は ○「大学英語」を含む 英語12単位以上	○微分積分学STⅠ・Ⅱ ○物理学Ⅰ ○物理学実験								
2 単位以上	2 単位以上	2 単位以上	指定単位 なし	2 単位以上	2 単位	12 単位以上	6 単位以上	(注1) 微分積分学入門Ⅰ・Ⅱ、物理学入門Ⅰの履修に際しては、指導教員の指導を受けること。 (注2) 情報科学演習は卒業要件の単位に含めない。	36 単位以上							
指定科目 なし	指定科目なし				14 単位以上	○日本語 表現法入門	○「大学英語」、「英 語講読演習中級」を含 む英語8単位以上及び 英語以外の一つの外国 語4単位以上 又は ○「大学英語」、「英 語講読演習中級」を含 む英語12単位以上	○微分積分学STⅠ・Ⅱ (又は同入門Ⅰ・Ⅱ) ○物理学Ⅰ (又は同入門Ⅰ)								
計			350													

(別表3)

各学部学科等別共通教育等履修基準表

学部	学科課程等の別	専攻 専修 コース 系	共通教育									専門基礎教育	備考	合計 (単位)		
			教養領域				総合領域			基幹領域						
			健康 運動	人文	社会	自然	総合	琉大特色・ 地域創生	キャリア 関係	情報 関係	外国語				専門基礎	
農学部	亜熱帯地域農学科	35	「健康・スポーツ科学」を含む	4 単位	4 単位以上	4 単位以上				2 単位以上	2 単位以上	12 単位以上	10単位以上	(注) 専門基礎教育の 転換科目を履修する場 合は、指導教員の指導 を受けること。	44 単位以上	
				指定科目なし						キャリア 形成入門	情報科学 演習		生物系 生物学Ⅰ・Ⅱ、生物学実験 化学系 化学Ⅰ・Ⅱ（または化学入 門Ⅰ・Ⅱ）、化学実験 数学系 微分積分学STⅠ・Ⅱ（また は微分積分学入門Ⅰ・ Ⅱ）、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、 統計学Ⅰ・Ⅱ 物理系 物理学Ⅰ・Ⅱ（または物理 学入門Ⅰ・Ⅱ）、物理学実 験 ○上記4系のうち2系を各5 単位以上、計10単位以上。			
				16単位以上								○英語8単位以上 ○上記以外の一つの 外国語4単位以上				
				※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地 域創生、キャリア関係科目の中から6単位以上選択し合計16単 位以上												
農学部	亜熱帯農林環境科学科	35	「健康・スポーツ科学」を含む	4 単位	4 単位以上	4 単位以上				2 単位以上	2 単位以上	12 単位以上	10単位以上	(注) 専門基礎教育の 転換科目を履修する場 合は、指導教員の指導 を受けること。	44 単位以上	
				指定科目なし						キャリア 形成入門	情報科学 演習		生物系 生物学Ⅰ・Ⅱ、生物学実験 化学系 化学Ⅰ・Ⅱ（または化学入 門Ⅰ・Ⅱ）、化学実験 数学系 微分積分学STⅠ・Ⅱ（また は微分積分学入門Ⅰ・ Ⅱ）、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、 統計学Ⅰ・Ⅱ 物理系 物理学Ⅰ・Ⅱ（または物理 学入門Ⅰ・Ⅱ）、物理学実 験 ○上記4系のうち2系を各5 単位以上、計10単位以上。			
				16単位以上								○英語8単位以上 ○上記以外の一つの 外国語4単位以上				
				※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地 域創生、キャリア関係科目の中から6単位以上選択し合計16単 位以上												
農学部	地域農業工学科	25	「健康・スポーツ科学」を含む	4 単位	4 単位以上	4 単位以上				2 単位以上	2 単位以上	12 単位以上	12単位以上	(注) 専門基礎教育の 転換科目を履修する場 合は、指導教員の指導 を受けること。	46 単位以上	
				指定科目なし						キャリア 形成入門	情報科学 演習		生物系 生物学Ⅰ・Ⅱ、生物学実験 化学系 化学Ⅰ・Ⅱ（または化学入 門Ⅰ・Ⅱ）、化学実験 数学系 微分積分学STⅠ・Ⅱ（また は微分積分学入門Ⅰ・ Ⅱ）、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、 統計学Ⅰ・Ⅱ 物理系 物理学Ⅰ・Ⅱ（または物理 学入門Ⅰ・Ⅱ）、物理学実 験 ○上記4系のうち3系からそ れぞれ2単位以上、かつ、2 系から各5単位以上、計12 単位以上。			
				16単位以上								○英語8単位以上 ○上記以外の一つの 外国語4単位以上				
				※上記の単位を含め、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地 域創生、キャリア関係科目の中から6単位以上選択し合計16単 位以上												
農学部	亜熱帯生物資源科学科	45	生物機能開発学／食品機能科学／発酵・生命科学	4 単位	4 単位以上	4 単位以上				2 単位以上	2 単位以上	12 単位以上	10単位以上	(注) 専門基礎教育の 転換科目を履修する場 合は、指導教員の指導 を受けること。	44 単位以上	
				指定科目なし						キャリア 形成入門	情報科学 演習		生物系 生物学Ⅰ・Ⅱ、生物学実験 化学系 化学Ⅰ・Ⅱ（または化学入 門Ⅰ・Ⅱ）、化学実験 物理系 物理学Ⅰ・Ⅱ（または物理 学入門Ⅰ・Ⅱ）、物理学実 験 ○上記3系から2系を各5単 位以上、計10単位以上。			
		健康栄養科学コース	2 単位以上	4 単位以上	4 単位以上				2 単位以上	2 単位以上	12 単位以上	8単位以上	(注) 専門基礎教育の 転換科目を履修する場 合は、指導教員の指導 を受けること。	38 単位以上		
			指定科目なし						キャリア 形成入門	情報科学 演習		生物系 生物学Ⅰ・Ⅱ 化学系 化学Ⅰ・Ⅱ（または化学入 門Ⅰ・Ⅱ） 物理系 物理学Ⅰ・Ⅱ（または物理 学入門Ⅰ・Ⅱ）				
計				140												

○琉球大学成績評価不服申立に関する申合せ

(平成 28 年 9 月 27 日グローバル教育支援機構会議)

改正 平成 29 年 1 月 5 日 平成 29 年 5 月 15 日

平成 30 年 1 月 5 日 平成 30 年 7 月 25 日

平成 31 年 4 月 16 日 令和 3 年 7 月 20 日

令和 4 年 11 月 15 日 令和 5 年 10 月 20 日

第 1 条 この申合せは、琉球大学各学部共通細則第 20 条第 2 項の規定に基づき、成績評価不服申立に関し、必要な事項を定める。

第 2 条 学生は、当該学期(学期の前半及び後半を含む。)の成績評価に疑問がある場合、原則として成績開示日から 10 日を経過する日まで(ただし、土日祝日を除く。)に成績評価確認願(様式 1)を事務部(共通教育等科目は学生部教育支援課、専門教育科目は各学部事務部。以下同じ。)に提出する。

2 事務部は、成績評価確認願を受理した場合、速やかに科目担当教員に送付する。

第 3 条 科目担当教員は、学生からの成績評価に関する申し出又は事務部からの成績評価確認願受理後 5 日以内(ただし、土日祝日を除く。)に事務部に回答する。

2 事務部は、科目担当教員から成績評価の回答があった場合、当該回答書の内容を、共通教育等科目はグローバル教育支援機構長へ、専門教育科目は当該学部の長へ確認のうえ、速やかに当該学生に通知する。

3 前項の規定によらず、グローバル教育支援機構長及び学部長(以下「学部長等」という。)が該当の科目担当である場合等、学部長等が回答の確認を行うことが相応しくない場合にあっては、学部長等が指名する者が回答の確認を行う。

第 4 条 学生は、科目担当教員の回答に不服がある場合、回答を得た日から 5 日以内(ただし、土日祝日を除く。)に、共通教育等科目についてはグローバル教育支援機構長に、専門教育科目については当該学部長に成績評価不服申立書(様式 2)を提出する。

第 5 条 学部長等は、学生からの成績評価不服申立に対し速やかにグローバル教育支援機構大学教育支援部門会議及び学部教育委員会等で審査し、その結果を最終結果として当該学生及び科目担当教員に通知する。

第 6 条 この申合せに定めるもののほか、成績評価不服申立の実施に関し必要な事項について、学部長等が特に必要と認めた場合は、各学部等で別に定めることができる。

第 7 条 この申合せの改廃は、グローバル教育支援機構会議の議を経てグローバル教育支援機構長が行う。

附 則

1 この申合せは、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

2 成績不服申立に関するガイドライン(平成 21 年 7 月 21 日制定)は廃止する。

附 則(平成 29 年 1 月 5 日)

- 1 この申合せは、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の第 2 条の規程に関わらず、学生は、平成 28 年度後学期の成績評価に疑問がある場合、平成 29 年 4 月 10 日まで科目担当教員へ申し出ることができるものとする。

附 則(平成 29 年 5 月 15 日)

この申合せは、平成 29 年 5 月 15 日から実施し、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(平成 30 年 1 月 5 日)

この申合せは、平成 30 年 4 月 1 日から実施する。

附 則(平成 30 年 7 月 25 日)

この申合せは、平成 30 年 7 月 25 日から実施する。

附 則(平成 31 年 4 月 16 日)

この申合せは、平成 31 年 4 月 16 日から実施し、平成 31 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(令和 3 年 7 月 20 日)

この申合せは、令和 3 年 7 月 20 日から実施し、令和 3 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(令和 4 年 11 月 15 日)

この申合せは、令和 5 年 4 月 1 日から実施する。

附 則(令和 5 年 10 月 20 日)

この申合せは、令和 5 年 10 月 20 日から実施し、令和 5 年 10 月 1 日から適用する。

(様式 1)

成績評価確認願

[別紙参照]

(様式 2)

成績評価不服申立書

[別紙参照]

(様式1)

年 月 日

成績評価確認願

グローバル教育支援機構長
学 部 長 殿

学部	
学科(課程)	年次
学籍番号	氏名

年度 学期下記科目の成績評価について、確認をお願いします。

記

科目番号	科目名	組
担当教員		
理由		

※ 学生は、この様式を事務部（共通教育等科目は学生部教育支援課、専門教育科目は各学部事務部）に提出してください。

教員回答欄（該当番号に○）

年 月 日

担当教員名 印

- 現成績評価のとおり
- 右記のとおり評価を訂正します。

評価 () 評点 ()

回答理由

※ 担当教員は、「教員回答欄」を記入の上、この様式を事務部（共通教育等科目は学生部 教育支援課、専門教育科目は各学部事務部）に提出してください。

(様式2)

年 月 日

成績評価不服申立書

グローバル教育支援機構長 殿
学 部 長

学部

学科(課程)

年次

学籍番号

氏名

年度 学期下記科目の担当教員による「成績評価確認願」の回答に対しては
下記理由により納得できませんので不服申立てを行います。

科目番号		科目名		組	
担当教員				評価	
成績評価不服理由(成績評価及び科目担当教員の回答について具体的に記入してください)					

※ 学生は、この様式を事務部(共通教育等科目は学生部教育支援課、専門教育科目は各学部事務部)に提出してください。

○琉球大学 GPA 制度に関する申合せ

(平成 28 年 9 月 27 日グローバル教育支援機構会議)

改正 令和 4 年 7 月 19 日

(目的)

第 1 条 この申合せは、琉球大学各学部共通細則第 21 条第 2 項の規定に基づき、GPA 制度に関し必要な事項を定め、客観的な成績評価を通じて、学生の学習意欲の向上と教員の修学指導への活用を推進し、教育の質の向上に資することを目的とする。

(定義)

第 2 条 GPA とは、グレード・ポイント・アベレージのことで、学生の履修科目の成績評価の平均値をいう。

(配点)

第 3 条 学生は、履修した授業科目の成績評価により、次表のとおり GP(グレード・ポイント)を付与される。

区分	評価	評点(100 点満点中)	G P	評価の内容(英文内容)
合格	A	90 点以上	4	到達目標を達成し、極めて優秀な成績を収めている。 (Excellent)
	B	80 点以上 90 点未満	3	到達目標を達成し、優秀な成績を収めている。 (Good)
	C	70 点以上 80 点未満	2	到達目標を達成している。 (Fair)
	D	60 点以上 70 点未満	1	到達目標を最低限達成している。 (Pass)
不合格	F	60 点未満	0	到達目標を達成していない。 (Failure)

(計算方法等)

第 4 条 GPA は、次の式により計算するものとし、小数点以下第 3 位を四捨五入するものとする。

$$\text{GPA} = (\text{GP} \times \text{単位数}) \text{の総和} / \text{履修登録単位数}$$

- 2 合否(P 又は F)により判定する授業科目及び成績評価が R(認定)の授業科目は、履修登録単位数に含めない。
- 3 履修中止が承認された授業科目の成績評価は W と表示し、履修登録単位数に含めない。

附 則

- 1 この申合せは、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 GPA 制度の実施について(平成 21 年 7 月 21 日全学教育委員会決定)は廃止する。

附 則(令和4年7月19日)

この申合せは、令和4年7月19日から実施する。

○琉球大学除籍に関する規程

(令和5年7月18日制定)

(趣旨)

第1条 この規程は、琉球大学学則（以下「学則」という。）第42条第4項の規定に基づき、除籍に関し必要な事項を定める。

(定義)

第2条 学則第42条第1項第8号の「卒業に要する最終学年」とは、卒業に必要でかつ十分な科目及び単位の登録を完了した者(年度当初に卒業の意思があったものの、履修登録において過誤があった場合又は前提科目が未履修のため当該科目を登録できないと当該学部長が認めた場合を含む。)の属する学年をいう。

(授業料未納による除籍の取扱い)

第3条 学則第42条第1項第7号に定める授業料未納による除籍の取扱いについては、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 授業料未納による除籍の場合は、当該学期の授業科目の登録を取り消し、単位の修得を認めない。研究生にあつては当該期間を研究期間と認めない。
- (2) 卒業に要する最終学年の学生で、9月卒業予定者にあつては8月末日までに、3月卒業予定者にあつては、前学期は9月末日までに、後学期は2月末日までに授業料を納付しない場合は、除籍とする。
- (3) 卒業に要する最終学年を除く学生で、前学期は9月末日までに、後学期は3月末日までに授業料を納付しない場合は、除籍とする。
- (4) 研究生にあつては、在学予定期間末日の1か月前(ただし、在学期間が6か月以上あるときは、入学後6か月以内)までに授業料を納付しない場合は、除籍とする。

(16単位未満による除籍の取扱い)

第4条 学則第42条第1項第8号に定める16単位未満による除籍の取扱いについては、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 学年の途中で再入学、復学及び休学を許可された者並びに停学(1月以下の停学を除く。)の処分を受けた者の修得単位が16単位未満の場合は、16単位未満による除籍対象から除く。
- (2) 大学の事情又は非常災害のため修得単位が16単位未満の場合は、16単位未満による除籍対象から除く。
- (3) 学生交流協定による交換留学の派遣学生については、派遣期間を含む年度の16単位未満による除籍対象から除く。
- (4) 医学部医学科における第1年次とは、入学初年度の者及び入学後初めて履修を開始する者をいう。

(16単位未満による除籍対象外の取扱い)

第5条 学則第42条第2項に定める16単位未満による除籍対象外の取扱いについては、次の各号に掲げるとおりとする。

(1) 引き続き次年度も修学を継続する意思を有する者は、後学期(第4クォーターを含む。)の成績開示日から7日以内(ただし、土日祝日を除く。)に、所定の修学継続届を当該学部長に提出しなければならない。

(2) 修学継続届提出後、当該学生が16単位以上を修得していたことが判明した場合は、修学継続届は取り下げられたものとみなす。

(再入学の取扱い)

第6条 授業料未納及び16単位未満により除籍された者は、次学期の再入学を認めない。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、除籍に関し必要な事項は、グローバル教育支援機構長が別に定める。

(改廃)

第8条 この規程の改廃は、グローバル教育支援機構会議の議を経て、グローバル教育支援機構長が行う。

附 則

- 1 この規程は、令和5年7月18日から施行し、令和5年4月1日から適用する。
- 2 琉球大学除籍に関する申合せ(平成29年12月20日制定)は、廃止する。

修学継続届

[別紙参照]

修学継続届

令和 年 月 日

琉球大学〇〇学部長 殿

所 属	学科・課程	専攻・コース	年次
学籍番号		昼間主	・ 夜間主
氏 名	印		
電話番号	(自宅)	(携帯)	
住 所	〒		
mail			

琉球大学学則第42条第2項に基づき、次年度も修学を継続したいので、提出します。

記

当該年度（令和〇〇年度）の修得単位状況

(1) 前学期： 単位 合計： 単位
 (2) 後学期： 単位

※後学期の成績が未確定の場合は、担当授業科目教員に確認の上、記入ください。

学部長	学科長等	指導教員	事務長	専門職員	担当者	受付年月日

○休学についての申合せ

(昭和 54 年 1 月 31 日制定)

改正 平成 8 年 10 月 22 日 平成 12 年 6 月 27 日

平成 22 年 2 月 16 日 平成 22 年 12 月 21 日

平成 30 年 3 月 1 日

- 1 琉球大学学則第 39 条の規定に基づく休学については、この申合せによるものとする。
- 2 休学の許可は、次の各号のいずれかに該当するものについて許可するものとする。
 - (1) 本人の病気の時。(医師の診断書を必要とする。)
 - (2) 学資の支弁が困難なとき。
 - (3) その他やむを得ない理由があると、当該学部長が特に認めたとき。
- 3 休学願は前学期は 7 月 1 日、後学期は 1 月 20 日までに提出するものとする。
ただし、病気の場合は、この限りではない。
- 4 休学した学期に履修登録済みの授業科目がある場合は、休学が決定した時点で既に評価が確定している場合を除き、当該授業科目の登録を取り消すものとする。

附 則

この申合せは、昭和 54 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 8 年 10 月 22 日)

この申合せは、平成 8 年 10 月 22 日から施行し、平成 8 年 10 月 1 日から適用する。

附 則(平成 12 年 6 月 27 日)

この申合せは、平成 12 年 6 月 27 日から施行する。

附 則(平成 22 年 2 月 16 日)

この申合せは、平成 22 年 2 月 16 日から施行する。

附 則(平成 22 年 12 月 21 日)

この申合せは、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 30 年 3 月 1 日)

この申合せは、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

○琉球大学授業科目の履修中止に関する申合せ

(平成 28 年 9 月 27 日グローバル教育支援機構会議)

改正 平成 29 年 5 月 15 日 平成 30 年 5 月 15 日

令和 3 年 7 月 20 日

- 第 1 条 この申合せは、琉球大学各学部共通細則第 5 条第 3 項の規定に基づき、授業科目の履修中止に関し、必要な事項を定める。
- 第 2 条 授業科目の履修中止とは、学生が指定された期間内に履修登録が完了した授業科目の履修を中止することをいう。
- 第 3 条 履修中止は、全ての授業科目を対象とする。ただし、各学科又は課程において、必修科目を履修中止の対象外とすることができる。
- 第 4 条 履修中止は、学生がシステム上で指導教員へ履修中止の授業科目を申請し、承認を得ることで完了する。
- 2 前項の申請があった場合、事務部は、指導教員から履修中止を承認された授業科目について、速やかに授業科目の担当教員へ報告するものとする。
- 第 5 条 履修中止手続き期間は、各学期の登録調整期間終了日の翌日(土日祝日を除く。)から 3 週間を目処として、学年暦で定める。
- 2 前項の規定にかかわらず、学期の前半に 8 週の期間で提供される科目の履修中止手続き期間は、各学期の登録調整期間終了日の翌日(土日祝日を除く。)から 1 週間を目処として、学年暦で定める。
- 3 第 1 項の規定にかかわらず、学期の後半に 8 週の期間で提供される科目の履修中止手続き期間は、授業開始の日から 3 週間を目処として、学年暦で定める。
- 4 第 1 項の規定にかかわらず、前学期・後学期を通して開講する科目の履修中止手続き期間は、登録調整期間終了日の翌日(土日祝日を除く。)から 3 週間を目処として、学年暦で定める。
- 第 6 条 履修中止が承認された授業科目については、学業成績表に履修中止と表示し、GPA には反映させないものとする。

附 則

この申合せは、平成 29 年 4 月 1 日から実施する。

附 則(平成 29 年 5 月 15 日)

この申合せは、平成 29 年 5 月 15 日から実施し、平成 29 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(平成 30 年 5 月 15 日)

この申合せは、平成 30 年 5 月 15 日から実施する。

附 則(令和 3 年 7 月 20 日)

この申合せは、令和3年10月1日から実施する。ただし、改正後の第1条の規定については、令和3年4月1日から適用する。

○琉球大学暴風警報及び気象等に関する特別警報発表に伴う授業及び期末試験の取扱いに関する申合せ

(平成 26 年 9 月 16 日全学教育委員会決定)

改正 令和 6 年 5 月 31 日

第 1

この申合せは、暴風等による事故の発生を防止する事を目的とし、暴風警報及び気象等に関する特別警報発表に伴う授業及び期末試験の取扱いに関し、必要な事項を定める。

第 2

- 1 沖縄本島内に暴風警報又は暴風特別警報が発表されている間は、授業及び期末試験(以下「授業等」という。)を休講とし、期末試験を予備日に順延する。
- 2 沖縄本島内中南部市町村(別表)の全域又は一部に大雨特別警報が発表されている間は、授業等を休講とし、期末試験を予備日に順延する。
- 3 第 1 項及び第 2 項に定める暴風警報、暴風特別警報又は大雨特別警報(以下「暴風警報等」という。)が授業等の開始後に発表された場合は、速やかに授業等を休講とし、期末試験を予備日に順延する。
- 4 暴風警報等の解除に伴う授業等の取扱いは次に掲げるとおりとする。
 - (1) 午前 6 時 30 分までに、暴風警報等が解除された場合は、第 1 時限から授業等を行う。
 - (2) 午前 11 時までに、暴風警報等が解除された場合は、第 3 時限から授業等を行う。
 - (3) 午後 4 時までに、暴風警報等が解除された場合は、第 6 時限から授業等を行う。
 - (4) 午後 4 時までに、暴風警報等が解除されない場合は、当日行われる予定の授業等は引き続き休講とし、期末試験を予備日に順延する。

第 3

予備日は期末試験期間終了後に続く必要日数の平日とする。

第 4

- 1 第 2 第 2 項に該当しない地域において、大雨特別警報が発表され、安全に授業に出席することができない学生については、これを欠席扱いとはしない。また、当該学生が期末試験を受験できない場合は、追試験等を行うものとする。
- 2 沖縄本島内の一部の地域において、波浪特別警報又は高潮特別警報が発表された場合においては、前項を準用する。
- 3 第 1 項又は第 2 項に該当する学生については、原則として警報が解除されてから 7 日以内に各学部等事務室(共通教育等科目は学生部教育支援課、専門科目は各学部事務部学務担当)へ申し出るものとする。なお、欠席扱いとしない場合の取扱いについては、

「教育実習生の実習期間中の講義の取り扱いについて(昭和47年6月27日評議会制定)」
に準ずる手続により行う。

第5

この申合せに定めのない授業又は期末試験の取扱いについては、学長及び教育を担当する副学長が協議の上、休講等の措置を決定する。

附 則

- 1 この申合せは、平成26年9月16日から実施する。
- 2 暴風警報発令に伴う授業及び期末試験の取扱いに関する申合せ(昭和63年10月25日制定)は、廃止する。

附 則(令和6年5月31日)

この申合せは、令和6年5月31日から実施する。

別表

沖縄本島内 中南部市町 村	読谷村、うるま市、沖縄市、嘉手納町、北谷町、北中城村、宜野湾市、中城村、浦添市、西原町、那覇市、南風原町、与那原町、南城市、豊見城市、八重瀬町、糸満市
---------------------	---

別紙

琉球大学暴風警報及び気象等に関する特別警報発表に伴う授業及び期末試験の取扱い
に関する申合せ関係

[別紙参照]

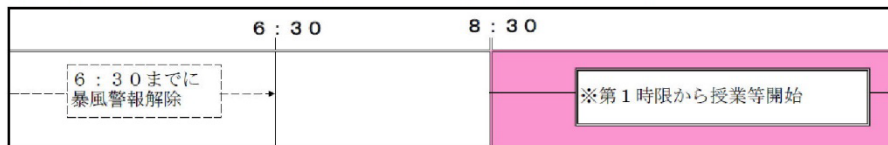
別紙（琉球大学暴風警報及び気象等に関する特別警報発表に伴う授業及び期末試験の取扱いに関する申合せ関係）

1. 台風接近の際は、テレビ・ラジオ等の台風情報に十分注意してください。
2. 警報・特別警報の種類とその発表地域における授業・期末試験の取扱い

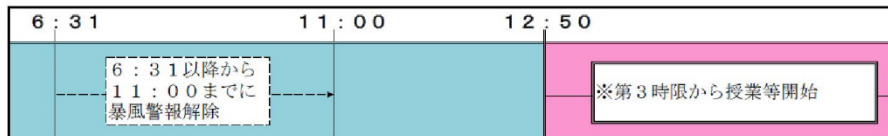
警報・特別警報		発表地域	授業・期末試験の取扱い	
暴風警報等	暴風警報 暴風特別警報	本島内	授業：休講 期末試験：予備日に順延	後日申し出 が必要
	大雨特別警報	中南部市町村	授業：休講 期末試験：予備日に順延	
大雨特別警報	中南部以外	安全に授業に出席が出来ない場合：欠席にしない 期末試験を受験できない場合：追試験等	後日申し出 が必要	
波浪特別警報	本島内	安全に授業に出席が出来ない場合：欠席にしない 期末試験を受験できない場合：追試験等		
高潮特別警報	本島内	安全に授業に出席が出来ない場合：欠席にしない 期末試験を受験できない場合：追試験等		
その他	本島内	学長、教育を担当する理事が協議の上、決定する。		

3. 本申合せに関する参考事例

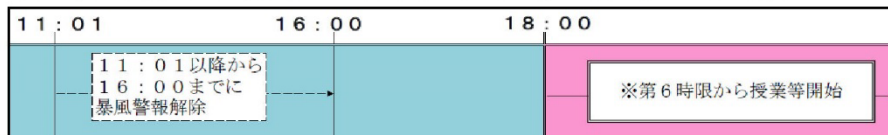
- (1) 暴風警報等が午前6時30分までに解除された場合、第1時限から授業等開始



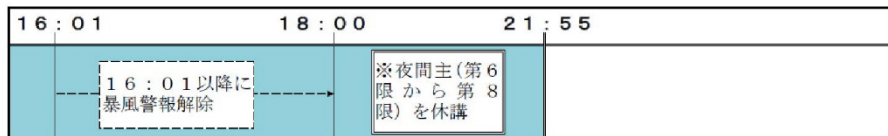
- (2) 暴風警報等が午前6時31分以降から午前11時までに解除された場合、第3時限から授業等開始



- (3) 暴風警報等が午前11時01分以降から午後4時までに解除された場合、第6時限から授業等開始



- (4) 暴風警報等が午後4時01分以降に解除された場合、当日の授業等は休講



注：暴風警報等の発表・解除の時間については、沖縄気象台の発表時間によります。

○琉球大学学生の懲戒に関する基準

(平成 20 年 3 月 25 日制定)

改正 平成 21 年 2 月 27 日 平成 25 年 11 月 29 日

平成 29 年 2 月 8 日 平成 30 年 3 月 1 日

平成 31 年 4 月 16 日 令和 6 年 3 月 27 日

令和 6 年 5 月 31 日

(趣旨)

第 1 条 この基準は、琉球大学学生の懲戒手続に関する規程第 20 条の規定に基づき、学生の懲戒処分に関し、適正かつ公正な運用を図るために必要な事項について定める。

(用語の定義)

第 2 条 この基準における用語の定義は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 「学生」とは、学部学生、大学院学生、特別支援教育特別課程生、研究生、科目等履修生、特別聴講学生、特別研究学生、法務学修生及び外国人学生をいう。
- (2) 「非違行為」とは、懲戒事由に該当する行為をいう。
- (3) 「懲戒処分」とは、琉球大学学則第 62 条及び琉球大学大学院学則第 58 条に規定する退学、停学及び訓告の処分をいう。
- (4) 「退学」とは、本学における学生としての身分を失わせることをいう。
- (5) 「停学」とは、一定の期間を定め又は期間を定めずに、学生の教育課程の履修及び課外活動を禁止することをいう。ただし、ボランティア活動等の奉仕活動については、この限りではない。
- (6) 「訓告」とは、学生の行った非違行為を戒め、将来にわたってそのようなことのないよう、口頭及び文書により注意することをいう。

(基本的な考え方)

第 3 条 懲戒処分は、その対象となる非違行為の態様、結果及び影響並びに当該学生の年齢、経歴及び処分歴等を総合的に考慮するとともに、当該学生の更生という観点からの教育的配慮も加えた上で行わなければならない。

(退学の基準)

第 4 条 学生が、次の各号のいずれかに該当する場合には、これに対し懲戒処分として、退学の処分をすることができる。

- (1) 本学の秩序を乱し、本学の教育研究活動を妨げる行為を行った場合で特に悪質と判断された場合
- (2) 学内又は学外において重大な非違行為を行った場合で特に悪質と判断された場合
- (3) 本学の規則等又は命令に違反する行為を行った場合で特に悪質と判断された場合
- (4) 本学が実施する試験等において、不正行為を行った場合で特に悪質(替え玉受験等)と判断された場合

(5) 研究活動(論文作成を含む。)において、不正行為を行った場合で特に悪質と判断された場合

(6) 前各号に掲げる退学に相当する行為を実行した者を教唆又は幫助した場合
(停学の基準)

第5条 学生が、次の各号のいずれかに該当する場合には、これに対し懲戒処分として、停学の処分をすることができる。

(1) 本学の秩序を乱し、本学の教育研究活動を妨げる行為を行った場合

(2) 学内又は学外において重大な非違行為を行った場合

(3) 本学の規則等又は命令に違反する行為を行った場合で悪質と判断された場合

(4) 本学が実施する試験等において、不正行為を行った場合

(5) 研究活動(論文作成を含む。)において、不正行為を行った場合で悪質と判断された場合

(6) 前各号に掲げる停学に相当する行為を実行した者を教唆又は幫助した場合

2 停学処分の種類は、6月以内の期限を付して行う有期停学と期限を付さずに行う無期停学の2種類とする。

3 前項の停学の期間には、春季休業日、夏季休業日、冬季休業日その他の休業日を含むものとする。

4 無期停学の処分は、学生の反省の程度、学習意欲等を総合的に考慮して、これを解除することができる。ただし、懲戒の効力が発生してから6月を経過した後でなければ解除することはできない。

(悪質性及び重大性の判断)

第6条 第4条及び第5条にいう「悪質」とは、当該非違行為自体が悪質性の高いものであるということを意味し、その判断に当たっては、当該非違行為の態様及び性質、当該非違行為に至った動機並びに当該学生の主観的意図を考慮するものとする。

2 第4条及び第5条にいう「重大な非違行為」とは、被害結果が重大なものであるということを意味し、その判断に当たっては、当該非違行為が被害者に与えた精神的・身体的被害の程度及び物的被害の程度、当該非違行為が社会に及ぼした影響等を勘案するものとする。なお、当該非違行為が物的被害を与えたにとどまる場合には、その被害結果が甚大である場合に限り、重大な非違行為に当たると判断するものとする。

(訓告の基準)

第7条 学生が、次の各号のいずれかに該当する場合には、これに対し懲戒処分として、訓告の処分をすることができる。

(1) 学内又は学外において非違行為を行った場合

(2) 本学の規則等又は命令に違反する行為を行った場合

(3) 本学が実施する試験等において、監督者の注意又は指示に従わなかった場合

(4) 研究活動(論文作成を含む。)において、不正行為を行った場合

(5) 前各号に掲げる訓告に相当する行為を実行した者を教唆又は幫助した場合
(厳重注意等)

第8条 学生が懲戒処分に至らない非違行為(これに準ずるような非難されるべき行為を含む。)を行った場合において、当該学生の所属する学部が必要と認めるときは、当該学生に対し、教育的指導として厳重注意を行うことができる。

2 前項の厳重注意は、当該学部長が、口頭又は文書により行う。

3 前項に定める厳重注意を行ったときは、学部長は、速やかに当該学生の所属・氏名等、事案の概要その他参考事項を学長及び教育・学生支援を担当する副学長に文書により報告しなければならない。

4 学部長は、コンピュータ等を用いて不正行為を行った学生に対して、学内のコンピュータ等の使用を禁ずることができる。

(懲戒の基準)

第9条 懲戒処分の量定は、別表に掲げる懲戒基準に従って決定する。ただし、過去に懲戒処分又は厳重注意を受けたことのある学生に対しては、これよりも重い処分を科すことができる。

(懲戒処分に伴う試験の無効等)

第10条 第4条第4号、第5条第1項第4号又は第7条第3号に規定する行為を行った学生に対しては、科目の成績を無効として取り扱うものとする。無効(不合格:0点)として取り扱う科目は、その悪質性、重大性等から判断し、次の各号のいずれかとする。

(1) 不正行為を行った授業科目又は任意の授業科目

(2) 当該学期の全ての授業科目

(読替え)

第11条 この基準の大学院学生への適用に当たっては、基準中「学部」とあるのは「研究科」と、「学部長」とあるのは「研究科長」と読み替えるものとする。

(改廃)

第12条 この基準の改廃は、教育研究評議会及び役員会の議を経て学長が行う。

附 則

この基準は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成21年2月27日)

この基準は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成25年11月29日)

この基準は、平成25年11月29日から施行する。

附 則(平成29年2月8日)

- 1 この基準は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この基準の施行前に行った学生の行為に対する懲戒処分の適用については、なお従前の例による。

附 則(平成 30 年 3 月 1 日)

この基準は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 31 年 4 月 16 日)

この基準は、平成 31 年 4 月 16 日から実施し、平成 31 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(令和 6 年 3 月 27 日)

- 1 この基準は、令和 6 年 4 月 1 日から実施する。
- 2 改正後の第 8 条及び第 11 条の規定は、実施日以降に付議された懲戒事案から適用する。

附 則(令和 6 年 5 月 31 日)

この基準は、令和 6 年 5 月 31 日から実施する。

別表(第 9 条関係)

懲戒基準

態様	非違行為の具体例	懲戒の種類
犯罪行為	殺人、強盗、強姦等の凶悪な犯罪行為又は犯罪未遂行為	退学
	傷害行為、薬物乱用等の行為	退学又は停学
	痴漢行為(覗き見、盗撮行為その他の迷惑行為を含む。)	退学、停学又は訓告
	窃盗、万引き、詐欺、他人を傷害するに至らない暴力行為等の犯罪行為、脅迫、誹謗中傷、名誉毀損、ストーカー行為等の人権侵害行為(インターネット上を含む)、コンピュータ又はインターネット等を利用した不正行為	
建造物又は器物の破壊、汚損、不法改築等、暴力行為、拘禁、拘束等		
交通違反等行為	人身事故を伴う交通事故を起こした場合で、その原因行為が無免許運転、飲酒運転、暴走運転・騒音運転等の悪質な場合	退学又は停学
	無免許運転、飲酒運転、暴走運転・騒音運転等の悪質な交通法規違反	停学又は訓告
試験等不正行為	本学及び他の機関等が実施する試験等で、本学学生が不正行為を行った場合で特に悪質(替え玉受験等)な場合、又はそれを教唆、幫助した場合	退学、停学又は訓告
	本学及び他の機関等が実施する試験等で、本学学生が、カンニング	停学又は

	等の不正行為をした場合、又はそれを教唆、幫助した場合	訓告
	本学及び他の機関等が実施する試験等で、本学学生が監督者の注意又は指示に従わなかった場合	訓告
研究活動上の不正行為	研究活動(論文作成を含む。)を行う場合の捏造、改ざん、盗用及びこれらの行為の証拠隠滅又は立証妨害をした場合、又はそれを教唆、幫助した場合	退学、停学又は訓告
その他の非違行為	本学の教育研究又は管理運営を著しく妨げる暴力的行為	退学、停学又は訓告
	本学が管理する建造物への不法侵入、又はその不正使用、若しくは占拠	停学又は訓告
	セクシャル・ハラスメント及びアカデミックハラスメント等人権侵害に当たる行為	退学、停学又は訓告
	その他学内外での非違行為	訓告

琉球大学人文社会学部規程

平成30年2月28日
制 定

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人琉球大学組織規則第27条第2項の規定に基づき、琉球大学人文社会学部（以下「本学部」という。）の授業科目、単位、履修方法その他必要な事項を定める。

(教育研究上の目的)

第2条 本学部は、人文社会系の専門的、学際的分野において真理を探究し、それを基に、個人の尊厳と基本的人権を尊重する平和・共生社会の形成者、社会全体の持続的発展に寄与する人材を育成する。

2 各学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次の表に掲げるとおりとする。

学科	教育研究上の目的
国際法政学科	法学・政治学・国際関係学の分野で専門的かつ豊かな学際性を有する研究を行い、それを基に、持続可能な発展と平和・共生社会を可能にするための構想力・実践力を備えた人を育てる。
人間社会学科	人間と社会に関する専門的かつ豊かな学際性を有する研究を行い、それを基に、社会的弱者に配慮し、心豊かで、安心・安全に暮らせる社会を実現するための実践力を備えた人を育てる。
琉球アジア文化学科	琉球とアジアを中心とする歴史・文化に関する専門的かつ豊かな学際性を有する研究を行い、それを基に、文化の理解にとどまらず、それを発信し、継承発展させる実践力を備えた人を育てる。

(プログラム及びコース)

第3条 各学科に、履修上の区分として、次の表に掲げるプログラム及びコースを置く。

学科	プログラム	コース
国際法政学科	法学プログラム	特修法曹コース
	政治・国際関係学プログラム	

人間社会学科	哲学プログラム	
	心理学プログラム	
	社会学プログラム	
琉球アジア文化学科	歴史民俗学プログラム	
	文学プログラム	
	言語学プログラム	

2 前項の規定に定めるもののほか，プログラム及びコースに関し必要な事項は，別に定める。

(共通教育等の授業科目の種類等)

第4条 共通教育及び専門基礎教育の授業科目の種類，単位数，履修方法等は，琉球大学共通教育等履修規程の定めるところによる。

(専門教育の授業科目の種類等)

第5条 専門教育の授業科目の種類，履修方法等は，別表に掲げるとおりとする。

(授業科目の公示)

第6条 各学期に開講する授業科目，授業時間，単位数及び担当教員は，学期の初めに公示する。ただし，臨時に開講する授業科目については，その都度，公示する。

(単位)

第7条 専門教育の授業科目の単位の計算は，次に掲げる基準により行う。

- (1) 講義及び演習については，15時間の授業をもって1単位とする。ただし，教育上必要があると認められる場合には，30時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (2) 実験，実習及び実技については，45時間の授業をもって1単位とする。ただし，教育上必要があると認められる場合には，30時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 1つの授業科目について，講義，演習，実験，実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合において，講義及び演習については係数3（ただし，演習については，教育上必要があると認められる場合には係数1.5とする。），実験及び実習については係数1（ただし，教育上必要があると認められる場合には係数1.5とする。）に対し，それぞれの授業時間を乗じて得た数値の和が45時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず，卒業論文，卒業研究等の授業科目については，これらの学

修の成果を評価して単位を授与することが適当であると認められる場合には、これらに必要な学修を考慮して、単位数を定めるものとする。

3 前2項の規定に基づく各授業科目の単位数及び週時間については、別表に掲げるとおりとする。

(登録、試験、単位の認定等)

第8条 登録、試験、単位の認定等については、琉球大学各学部共通細則の定めるところによる。

(編入学)

第9条 編入学については、琉球大学編入学規程の定めるところによる。

(特別編入学)

第10条 特別編入学については、琉球大学学則第33条の規定の定めるところによる。

(転入学)

第11条 転入学については、琉球大学転入学規程の定めるところによる。

(再入学)

第12条 再入学については、琉球大学再入学規程の定めるところによる。

(転学部及び転学科)

第13条 転学部及び転学科については、琉球大学転学部、転学科、転課程に関する規程の定めるところによる。

(転学)

第14条 本学部の学生で他の大学に入学又は転入学を希望する者は、指導教員及び学部長を経て学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第15条 留学については、琉球大学留学等及び特別聴講学生に関する規程の定めるところによる。

(卒業の要件)

第16条 卒業するには、琉球大学（以下「本学」という。）に4年以上在学し、別表に掲げる単位を修得しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、第3年次特別編入学者の卒業の要件は、本学に2年以上在学し、別表に掲げる単位（第3年次特別編入学以前に在学していた大学、短期大学、高等専門学校等で修得した単位のうち、本学の卒業要件に係る単位として換算する単位（以下「換算単位」という。）を含む。）を修得するものとする。この場合において、換算単位については、教授会が判定する。

（早期卒業）

第16条の2 前条第1項の規定にかかわらず、琉球大学学則第43条第3項に規定する卒業の認定の基準は、別に定める。

（教員免許）

第17条 教育職員の免許状授与の資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）の定めるところにより、別に定める単位を修得しなければならない。

（研究生）

第18条 研究生については、琉球大学研究生規程の定めるところによる。

（特別聴講学生）

第19条 特別聴講学生については、琉球大学留学等及び特別聴講学生に関する規程の定めるところによる。

（科目等履修生）

第20条 科目等履修生については、琉球大学科目等履修生規程の定めるところによる。

（外国人学生）

第21条 外国人学生については、琉球大学外国人学生規程の定めるところによる。

（指導教員）

第22条 学生の修学，進路，就職，学生生活等の指導のため，各学科の年次ごとに指導教員を置く。

2 前項の規定に定めるもののほか，指導教員については，琉球大学における指導教員に関する規程の定めるところによる。

附 則

この規程は，平成30年4月1日から施行する。

附 則（平成31年2月27日）

1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。

2 前項の規定にかかわらず、必要と認める場合には、在学者に平成31年度以降の入学者のために開設された授業科目を履修させることができる。この場合において、当該授業科目の履修を改正前の規定に基づく授業科目の履修とみなし、単位を与える。

附 則（令和4年1月19日）

この規程は、令和4年2月1日から施行する。

附 則（令和6年2月28日）

この規程は、令和6年4月1日から施行する。

(別表) 授業科目の種類及び履修方法

国際法政学科 (法学プログラム、政治・国際関係学プログラム)

学部共通科目(必修科目)

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
学部 科目 共通 基盤	HS101	基礎演習Ⅰ	2	○	(2-0)	1	前	大学で学ぶための基礎的な技能の演習(導入)
	HS102	基礎演習Ⅱ	2	○	(2-0)	2	前	口頭発表・討論・レポート作成を中心とした基礎的な演習(展開)
	HS103	基礎演習Ⅲ	2	○	(2-0)	2	後	特定課題を中心とした口頭発表・討論・レポート作成の演習(発展)

学部共通科目(選択科目)

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
平和 共生 ・ 沖縄 理解 基盤 科目	HS111	共生社会入門	2		(2-0)	1~2	前	「共生社会」というテーマの下で、哲学・心理学・社会学・社会福祉学・マスコミ学の立場から論じる講義
	P&P111	共生哲学	2		(2-0)	1	前	共生について哲学的に考察する。
	SOC111	社会学原論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	集団、社会、文化、社会変動に関する基礎理論
	SW100	社会福祉原論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	社会福祉の概念・構造・歴史
	PSY101	心理学概論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	心理学の主要な理論と研究の概説。
	MCM170	マス・コミ原論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	マス・メディアの概観・社会的機能と影響
	HS113	琉球アジア研究概論	2		(2-0)	2	前	琉球・沖縄の歴史・言語・文学、日本の文学・歴史など、日本を含む琉球、アジアの個々の地域について、あるいは中国と琉球・沖縄、日本と中国などの交流の歴史にふれ、いま何をどのように研究が進められているのか、なぜ研究をする必要があるのか、解決しなければならない課題はなにか等を講義する。

注1：上記「平和共生・沖縄理解基盤科目」から4単位以上履修すること。なお4単位を超えて修得した単位は専門自由科目に振り替えることができる。

学科共通科目（必修科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
学科 目基 盤科	LAW101	法学概論	2	○	(2-0)	1	前	法学の全般的概説の講義
	PIR111	政治・国際関係学概論	2	○	(2-0)	1	後	政治・国際関係学の概説

学科共通科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
学科 発 展 科 目	(法学系科目)							
	LAW201	憲法Ⅰ（人権）	2		(2-0)	1～4	前	憲法の人権部分についての基礎理論の講義 法曹コース登録希望者選択必修科目 *本科目、LAW202憲法Ⅱ（統治）、LAW251民法Ⅰ（総則）の3科目から2科目選択
	LAW202	憲法Ⅱ（統治）	2		(2-0)	1～4	後	憲法の統治機構についての基礎理論の講義 法曹コース登録希望者選択必修科目 *本科目、LAW201憲法Ⅰ（人権）、LAW251民法Ⅰ（総則）の3科目から2科目選択
	LAW251	民法Ⅰ（総則）	2		(2-0)	1～4	後	民法総則についての基礎理論の講義 法曹コース登録希望者選択必修科目 *本科目、LAW201憲法Ⅰ（人権）、LAW202憲法Ⅱ（統治）の3科目から2科目選択
	LAW252	民法Ⅱ（物権）	2		(2-0)	2～4	前	物権についての基礎理論の講義
	LAW221	刑法総論	2		(2-0)	2～4	前又は後	刑法総論についての基礎理論の講義
	LAW231	刑事手続と人権	2		(2-0)	2～4	前	刑事訴訟法についての基礎理論の講義
	LAW241	講義国際法	2		(2-0)	2～4	前	国際法についての基礎理論の講義
	LAW211	基礎行政法	2		(2-0)	2～4	前	行政法についての基礎理論の講義
	LAW253	民法Ⅲ（債権総論）	2		(2-0)	2～4	後	債権総論についての基礎理論の講義
	LAW233	刑事政策	2		(2-0)	2～4	後	刑事政策についての基礎理論の講義
	LAW254	民法Ⅳ（債権各論）	2		(2-0)	3～4	前	債権各論についての基礎理論の講義
	LAW291	基礎社会保障法	2		(2-0)	1～4	後	社会保障法についての基礎理論の講義
	学科 発 展 科 目	(政治・国際関係学系科目)						
PIR211		政治過程論	2		(2-0)	1～4	前又は後	政治過程分析の理論と方法
PIR212		公共政策学	2		(2-0)	1～4	前又は後	公共政策分析の理論と方法
PIR221		政治思想史	2		(2-0)	2～4	前又は後	近現代政治思想史の概観
PIR222		日本政治外交史Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前又は後	明治から現代までの日本の政治と外交の概観
PIR223		日本政治外交史Ⅱ	2		(2-0)	2～4	前又は後	明治から現代までの日本の政治と外交の概観
PIR224		行政学	2		(2-0)	2～4	前又は後	現代行政の理論と分析
PIR225		地方自治論	2		(2-0)	2～4	前又は後	地方自治の現状と課題
PIR311		国際関係史	2		(2-0)	1～4	前又は後	現代国際関係の史的分析
PIR312		国際政治学Ⅰ	2		(2-0)	1～4	前又は後	国際政治分析の理論と方法
PIR313		国際政治学Ⅱ	2		(2-0)	1～4	前又は後	国際政治分析の理論と方法
PIR321		比較政治学Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前又は後	比較政治学の理論と方法
PIR322		比較政治学Ⅱ	2		(2-0)	2～4	前又は後	比較政治学の理論と方法
PIR323		国際社会学	2		(2-0)	2～4	前又は後	国際社会学の理論と方法

注1：上記科目から20単位以上履修すること。ただし所属プログラムから16単位以上、他プログラムから4単位以上履修すること。

なお他プログラムの要件を超えて修得した単位は、専門自由科目に振り替えることができる。

注2：法学プログラムにおいては、学科発展科目のうち「基礎社会保障法」はプログラム発展科目として扱う。

法学プログラム専門科目（必修科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラム 基盤 科目	LAW111	法学演習Ⅰ	2	○	(2-0)	3	前	法学の個別問題についての研究・報告・討論
	LAW112	法学演習Ⅱ	2	○	(2-0)	3	後	法学の個別問題についての研究・報告・討論
	LAW113	法学演習Ⅲ	2	○	(2-0)	4	前	法学の個別問題についての研究・報告・討論
	LAW114	法学演習Ⅳ	2	○	(2-0)	4	後	法学の個別問題についての研究・報告・討論
※ 法曹コース登録学生は3年次に法学演習Ⅲ及びⅣを履修することができる。								

法学プログラム専門科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラム 発展 科目	LAW222	刑法各論	2		(2-0)	2～4	前又は後	刑法各論についての基礎理論の講義
	LAW232	演習刑事人権論	2		(2-0)	2～4	前又は後	刑事法についての演習
	LAW244	沖縄国際人権法	2		(2-0)	2～4	後	沖縄における人権問題を国際人権法の観点から考察する。
	LAW281	基礎労働法	2		(2-0)	2～4	後	労働法についての基礎理論の講義 法曹コース登録者選択科目
	LAW271	民事手続法Ⅰ（判決手続）	2		(2-0)	2～4	後	民事の判決手続についての基礎理論の講義
	LAW212	展開行政法	2		(2-0)	2～4	後	行政法についての基礎理論展開の講義 LAW211「基礎行政法」を履修済みであること。
	LAW292	展開社会保障法	2		(2-0)	2～4	前	社会保障法についての基礎理論展開の講義LAW291 「基礎社会保障法」を履修済みであること。
	LAW282	展開労働法	2		(2-0)	3～4	前	労働法についての基礎理論展開の講義 LAW281「基礎労働法」を履修済みであること。 法曹コース登録者選択科目
	LAW213	応用行政法	2		(2-0)	2～4	後	行政法についての応用理論の講義 LAW211「基礎行政法」を履修済みであること。
	LAW293	応用社会保障法	2		(2-0)	2～4	前	社会保障法についての応用理論の講義 LAW291「基礎社会保障法」を履修済みであること。
	LAW283	応用労働法	2		(2-0)	3～4	前	労働法についての応用理論の講義 LAW281「基礎労働法」を履修済みであること。
	LAW272	民事手続法Ⅱ（執行・保全）	2		(2-0)	3～4	前	民事手続の執行・保全の基礎理論の講義 LAW271「民事手続法Ⅰ（判決手続）」を履修済みであること。
	LAW273	倒産処理法	2		(2-0)	3～4	前	倒産処理法についての基礎理論の講義 LAW271 「民事手続法Ⅰ（判決手続）」を履修済みであること。
	LAW261	商法Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前	商法についての基礎理論の講義
	LAW262	商法Ⅱ	2		(2-0)	3～4	後	商法についての基礎理論の講義
	LAW263	商法Ⅲ	2		(2-0)	3～4	後	商法についての基礎理論の講義
	LAW301	法学特殊講義 A	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義
	LAW302	法学特殊講義 B	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義
	LAW303	法学特殊講義 C	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義
	LAW304	法学特殊講義 D	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義
	LAW305	法学特殊講義 E	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義
	LAW306	法学特殊講義 F	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義
	LAW307	法学特殊講義 G	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義
	LAW308	法学特殊講義 H	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義
	LAW309	法学特殊講義 I	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義
	LAW310	法学特殊講義 J	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義
	LAW311	法学特殊講義 K	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義
	LAW312	法学特殊講義 L	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義
LAW313	法学特殊講義 M	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義	
LAW314	法学特殊講義 N	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義	
LAW315	法学特殊講義 O	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義	
LAW316	法学特殊講義 P	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義	
LAW317	法学特殊講義 Q	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義	
LAW318	法学特殊講義 R	2		(2-0)	1～4	前又は後	法学の特定分野についての講義	

LAW319	法学特殊講義 S	2		(2-0)	1~4	前又は後	法学の特定分野についての講義
LAW320	法学特殊講義 T	2		(2-0)	1~4	前又は後	法学の特定分野についての講義
LAW321	法学特殊講義 U	2		(2-0)	1~4	前又は後	法学の特定分野についての講義
LAW322	法学特殊講義 V	2		(2-0)	1~4	前又は後	法学の特定分野についての講義
LAW323	法学特殊講義 W	1		(2-0)	1~4	前又は後	法学の特定分野についての講義
LAW324	法学特殊講義 X	1		(2-0)	1~4	前又は後	法学の特定分野についての講義
LAW325	法学特殊講義 Y	1		(2-0)	1~4	前又は後	法学の特定分野についての講義
LAW326	法学特殊講義 Z	1		(2-0)	1~4	前又は後	法学の特定分野についての講義
LAW331	公法学特殊講義 A	2		(2-0)	1~4	前又は後	公法学の特定分野についての講義
LAW332	公法学特殊講義 B	2		(2-0)	1~4	前又は後	公法学の特定分野についての講義
LAW333	公法学特殊講義 C	2		(2-0)	1~4	前又は後	公法学の特定分野についての講義
LAW334	公法学特殊講義 D	2		(2-0)	1~4	前又は後	公法学の特定分野についての講義
LAW335	公法学特殊講義 E	2		(2-0)	1~4	前又は後	公法学の特定分野についての講義
LAW336	公法学特殊講義 F	2		(2-0)	1~4	前又は後	公法学の特定分野についての講義
LAW337	公法学特殊講義 G	2		(2-0)	1~4	前又は後	公法学の特定分野についての講義
LAW338	公法学特殊講義 H	2		(2-0)	1~4	前又は後	公法学の特定分野についての講義
LAW339	公法学特殊講義 I	2		(2-0)	1~4	前又は後	公法学の特定分野についての講義
LAW340	公法学特殊講義 J	2		(2-0)	1~4	前又は後	公法学の特定分野についての講義
LAW341	公法学特殊講義 K	2		(2-0)	1~4	前又は後	公法学の特定分野についての講義
LAW342	公法学特殊講義 L	2		(2-0)	1~4	前又は後	公法学の特定分野についての講義
LAW351	私法学特殊講義 A	2		(2-0)	1~4	前又は後	私法学の特定分野についての講義
LAW352	私法学特殊講義 B	2		(2-0)	1~4	前又は後	私法学の特定分野についての講義
LAW353	私法学特殊講義 C	2		(2-0)	1~4	前又は後	私法学の特定分野についての講義
LAW354	私法学特殊講義 D	2		(2-0)	1~4	前又は後	私法学の特定分野についての講義
LAW355	私法学特殊講義 E	2		(2-0)	1~4	前又は後	私法学の特定分野についての講義
LAW356	私法学特殊講義 F	2		(2-0)	1~4	前又は後	私法学の特定分野についての講義
LAW357	私法学特殊講義 G	2		(2-0)	1~4	前又は後	私法学の特定分野についての講義
LAW358	私法学特殊講義 H	2		(2-0)	1~4	前又は後	私法学の特定分野についての講義
LAW359	私法学特殊講義 I	2		(2-0)	1~4	前又は後	私法学の特定分野についての講義
LAW360	私法学特殊講義 J	2		(2-0)	1~4	前又は後	私法学の特定分野についての講義
LAW361	私法学特殊講義 K	2		(2-0)	1~4	前又は後	私法学の特定分野についての講義
LAW362	私法学特殊講義 L	2		(2-0)	1~4	前又は後	私法学の特定分野についての講義
LAW391	卒業研究 I	2		(2-0)	4	前	法学の特定問題についての研究
LAW392	卒業研究 II	2		(2-0)	4	後	法学の特定問題についての研究
LAW611	特修法学基礎演習	1		(2-0)	1	後	法曹コース登録希望者選択（履修推奨）科目
LAW612	特修商法基礎演習	2		(2-0)	2	前	法曹コース登録希望者選択必修科目 *本科目、LAW613特修民事訴訟法基礎演習、LAW614特修刑事訴訟法基礎演習の3科目から2科目選択
LAW613	特修民事訴訟法基礎演習	2		(2-0)	2	前	法曹コース登録希望者選択必修科目 *本科目、LAW612特修商法基礎演習、LAW614特修刑事訴訟法基礎演習の3科目から2科目選択
LAW614	特修刑事訴訟法基礎演習	2		(2-0)	2	後	法曹コース登録希望者選択必修科目 *本科目、LAW612特修商法基礎演習、LAW613特修民事訴訟法基礎演習の3科目から2科目選択
LAW621	特修憲法 I	2		(2-0)	2	前	法曹コース登録者必修科目
LAW622	特修憲法 II	2		(2-0)	2	後	法曹コース登録者必修科目
LAW623	特修憲法問題研究	1		(1-0)	2	後	法曹コース登録者選択科目
LAW631	特修刑法総論 I	1		(1-0)	2	前	法曹コース登録者必修科目
LAW632	特修刑法総論 II	1		(1-0)	2	後	法曹コース登録者必修科目
LAW633	特修刑法各論 I	1		(1-0)	2	前	法曹コース登録者必修科目
LAW634	特修刑法各論 II	1		(1-0)	2	後	法曹コース登録者必修科目
LAW635	特修刑法問題研究	1		(1-0)	2	前	法曹コース登録者選択科目
LAW641	特修民法 I	3		(3-0)	2	前	法曹コース登録者必修科目
LAW642	特修民法 II	3		(3-0)	2	前	法曹コース登録者必修科目
LAW643	特修民法 III	2		(2-0)	2	前	法曹コース登録者必修科目
LAW644	特修民法 IV	2		(2-0)	2	後	法曹コース登録者必修科目
LAW645	特修民法 V	1		(1-0)	3	後	法曹コース登録者必修科目
LAW646	特修民法問題研究 I	1		(1-0)	2	前	法曹コース登録者選択科目
LAW647	特修民法問題研究 II	1		(1-0)	2	後	法曹コース登録者選択科目
LAW651	特修商法 I	2		(2-0)	2	後	法曹コース登録者必修科目

プログラム 発展科目	LAW652	特修商法Ⅱ	2	(2-0)	2	後	法曹コース登録者必修科目
	LAW653	特修商法Ⅲ	2	(2-0)	3	前	法曹コース登録者選択科目
	LAW661	特修民事訴訟法Ⅰ	2	(2-0)	2	後	法曹コース登録者必修科目
	LAW662	特修民事訴訟法Ⅱ	2	(2-0)	3	前	法曹コース登録者選択科目
	LAW671	特修刑事訴訟法Ⅰ	2	(2-0)	3	前	法曹コース登録者必修科目
	LAW672	特修刑事訴訟法Ⅱ	2	(2-0)	3	後	法曹コース登録者必修科目
	LAW681	特修行政法Ⅰ	2	(2-0)	3	前	法曹コース登録者選択科目
	LAW682	特修行政法Ⅱ	2	(2-0)	3	後	法曹コース登録者選択科目
	LAW691	特修法律基礎英語Ⅰ	1	(1-0)	2～3	前	法曹コース登録者選択科目であり法科大学院との共同開講科目（学部での単位としてカウントするか、琉球大学法科大学院進学後の科目等履修としてカウントするかを選択できる。）
	LAW692	特修法律基礎英語Ⅱ	1	(1-0)	2～3	後	法曹コース登録者選択科目であり法科大学院との共同開講科目（学部での単位としてカウントするか、琉球大学法科大学院進学後の科目等履修としてカウントするかを選択できる。）
	LAW693	特修SDG'sと法	2	(2-0)	3	前	法曹コース登録者選択科目であり法科大学院との共同開講科目（学部での単位としてカウントするか、琉球大学法科大学院進学後の科目等履修としてカウントするかを選択できる。）
LAW694	特修英米法研修	2	(2-0)	2	後	法曹コース登録者選択科目であり法科大学院との共同開講科目（学部での単位としてカウントするか、琉球大学法科大学院進学後の科目等履修としてカウントするかを選択できる。）	
LAW695	特修倒産法Ⅰ	2	(2-0)	3	前	法曹コース登録者選択科目であり法科大学院との共同開講科目（学部での単位としてカウントするか、琉球大学法科大学院進学後の科目等履修としてカウントするかを選択できる。）	
LAW696	特修倒産法Ⅱ	2	(2-0)	3	後	法曹コース登録者選択科目であり法科大学院との共同開講科目（学部での単位としてカウントするか、琉球大学法科大学院進学後の科目等履修としてカウントするかを選択できる。）	

注1：上記科目から22単位以上(ただし学科発展科目のうち16単位を超えた法学系科目の単位を含む)修得すること。

注2：22単位を超えた分は専門自由科目に振り替えることができる。

注3：法科大学院進学等特修クラス講義・演習は2023年度以前の入学者のみが履修できる。

政治・国際関係学プログラム専門科目（必修科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラム 基盤 科目	PIR131	政治・国際関係学演習Ⅰ	2	○	(2-0)	3	前	政治・国際関係学における特定課題の研究
	PIR132	政治・国際関係学演習Ⅱ	2	○	(2-0)	3	後	政治・国際関係学における特定課題の研究
	PIR141	政治・国際関係学演習Ⅲ	2	○	(2-0)	4	前	政治・国際関係学における特定課題の研究
	PIR142	政治・国際関係学演習Ⅳ	2	○	(2-0)	4	後	政治・国際関係学における特定課題の研究
	PIR143	卒業研究	4	○	(0-2)	4	通年	特定課題の論文作成

注1：上記科目から12単位履修すること。

注2：演習は同一学期内での同時履修は出来ない。ただし、大学間協定又は部局間協定に基づく交換留学生については、留学前の指導・承認を経て留学後の同時履修を認めることがある。

注3：演習の組は選考により決定される。

政治・国際関係学プログラム専門科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラム 発展 科目	PIR411	海外研修A	2		(0-2)	1~4	前又は後	特定地域・国の総合的現地調査
	PIR412	海外研修B	2		(0-2)	1~4	前又は後	特定地域・国の総合的現地調査
	PIR413	海外研修C	2		(0-2)	1~4	前又は後	特定地域・国の総合的現地調査
	PIR421	原典外書講読A	2		(2-0)	2~4	前又は後	原典・外書文献の講読
	PIR422	原典外書講読B	2		(2-0)	2~4	前又は後	原典・外書文献の講読
	PIR423	原典外書講読C	2		(2-0)	2~4	前又は後	原典・外書文献の講読
	PIR424	原典外書講読D	2		(2-0)	2~4	前又は後	原典・外書文献の講読
	PIR521	政治社会学	2		(2-0)	2~4	前又は後	政治社会学の理論と方法
	PIR522	現代政治理論	2		(2-0)	2~4	前又は後	現代政治の分析に関する一般的・基礎的理論
	PIR523	福祉政策論	2		(2-0)	2~4	前又は後	福祉政策の現状と課題
	PIR524	地域経営論	2		(2-0)	2~4	前又は後	地方自治体等の地域づくり政策の理論と実践
	PIR525	計量政治学	2		(2-0)	2~4	前又は後	数量データを用いた初歩的な政治分析の習得
	PIR526	市民社会論	2		(2-0)	2~4	前又は後	現代市民社会の意義・機能についての理論と実証
	PIR529	東アジア国際関係論	2		(2-0)	2~4	前又は後	東アジア国際関係に関する歴史及び理論的研究
	PIR530	ジェンダーのグローバル政治学	2		(2-0)	2~4	前又は後	ジェンダー視角からの政治理論と分析
	PIR531	日本政治論	2		(2-0)	2~4	前又は後	現代日本の政治についての概観
	PIR621	国際政治経済論	2		(2-0)	2~4	前又は後	国際政治経済論の理論と方法
	PIR622	平和研究	2		(2-0)	2~4	前又は後	平和研究の理論と方法、事例分析
	PIR623	外交政策論	2		(2-0)	2~4	前又は後	外交政策の分析と事例研究
	PIR624	国際協力論	2		(2-0)	2~4	前又は後	国際協力の政治・経済・社会的側面の分析
	PIR625	地球環境論	2		(2-0)	2~4	前又は後	環境をめぐる展開する政治・社会関係の分析
	PIR626	比較社会文化論	2		(2-0)	2~4	前又は後	比較社会文化論の理論と事例の分析
	PIR627	社会運動論	2		(2-0)	2~4	前又は後	社会運動論の理論と事例の分析
	PIR651	東アジア地域研究	2		(2-0)	2~4	前又は後	東アジアの政治・社会過程の具体的分析
	PIR652	東南アジア地域研究	2		(2-0)	2~4	前又は後	東南アジアの政治・社会過程の具体的分析
	PIR653	アメリカ地域研究	2		(2-0)	2~4	前又は後	南北アメリカの政治・社会過程の具体的分析
	PIR654	ヨーロッパ地域研究	2		(2-0)	2~4	前又は後	ヨーロッパの政治・社会過程の具体的分析
	PIR721	政治学特殊講義A	2		(2-0)	2~4	前又は後	政治学における特殊問題
	PIR722	政治学特殊講義B	2		(2-0)	2~4	前又は後	政治学における特殊問題
	PIR723	政治学特殊講義C	2		(2-0)	2~4	前又は後	政治学における特殊問題
	PIR724	政治学特殊講義D	2		(2-0)	2~4	前又は後	政治学における特殊問題
	PIR821	国際関係学特殊講義A	2		(2-0)	2~4	前又は後	国際関係学における特殊問題
	PIR822	国際関係学特殊講義B	2		(2-0)	2~4	前又は後	国際関係学における特殊問題
PIR823	国際関係学特殊講義C	2		(2-0)	2~4	前又は後	国際関係学における特殊問題	
PIR824	国際関係学特殊講義D	2		(2-0)	2~4	前又は後	国際関係学における特殊問題	
PIR921	哲学概論	2		(2-0)	2~4	前又は後	哲学の概論	

注1 上記の科目から22単位以上(ただし学科発展科目のうち16単位を超えた政治・国際関係学系科目の単位を含む)修得すること。

注2 22単位を超えた分は専門自由科目に振り替えることができる。

注3 規程に基づく交換留学先で取得した単位のうち、8単位を上限としてプログラム発展科目に認定することができる。認定については、取得先大学の便覧とシラバスに拠って、専門教育科目に相当しプログラム発展科目に読替が可能であることを条件とする。

国際法政学科（法学プログラム、政治・国際関係学プログラム）卒業要件（学部規程第16条別表）

区 分		プログラム		
		法学	政治・国際関係学	
専門教育	学部共通専門科目	学部共通基盤科目（必修）	6	6
		平和共生・沖縄理解基盤科目（選択）	4	4
	学科共通専門科目	学科基盤科目（必修）	4	4
		学科発展科目（選択） ※1	20	20
	プログラム専門科目	プログラム基盤科目（必修）	8	12
		プログラム発展科目（選択） ※2	22	22
専門自由科目 ※3		26	22	
小 計		90	90	
共通教育 ※4	教養領域・総合領域・基幹領域（情報関係）	健康運動系科目	2	2
		その他の領域	20	32
		人文系科目	2	2
		社会系科目	2	2
		自然系科目	2	2
		総合科目		
		琉大特色・地域創生科目		
		キャリア関係科目		
	情報関係科目	2	2	
		（平和共生・沖縄理解科目群 ※5）	（ 6 ）	（ 6 ）
基幹領域（外国語）	第1外国語	8	8	
	第2外国語	4	4	
小 計		34	34	
総 単 位 数 ※6		124	124	

※1 法学プログラム（法学系科目16単位以上、政治・国際関係学系科目4単位以上）
 法学プログラムにおいては、学科発展科目のうち基礎社会保障法はプログラム発展科目として扱う。
 政治・国際関係学プログラム（政治・国際関係学系科目16単位以上、法学系科目4単位以上履修）

※2 法学プログラムにおいては、学科発展科目のうち16単位を超えた法学系科目の単位を含む。
 政治・国際関係学プログラムにおいては、学科発展科目のうち16単位を超えた政治・国際関係学系科目の単位を含む。

※3 専門自由科目とは次のとおりとする。
 ・他学科・他学部提供の専門教育科目
 ・本学部、本学科、及び所属プログラムの選択科目の履修要件を超えて修得した専門教育科目
 ・卒業要件に相当する単位数を超えた共通教育科目（10単位まで）

※4 共通教育等の履修要件の詳細については「琉球大学共通教育等履修規程」及び同規程別表3「各学部学科等別共通教育等履修基準表」を参照すること。
 共通教育科目のうち、法学プログラムは教養領域（健康運動系科目）および基幹領域（外国語）を除く合計が20単位以上になるよう、
 政治・国際関係学プログラムは教養領域（健康運動系科目）を除く合計が32単位以上になるよう履修すること。
 その際、人文系科目、社会系科目、自然系科目、情報関係科目からそれぞれ2単位以上取得すること。
 そのうち6単位は「平和共生・沖縄理解科目群」に含まれる科目であること。
 情報関係科目は「情報科学演習」の1科目2単位を履修すること。

※5 平和共生・沖縄理解科目群

科目番号	科目名	科目番号	科目名	科目番号	科目名
社06	戦争と平和の諸問題	琉02	核の科学	琉33	現代の国際関係
人06	西洋思想と日本・中国の思想	琉03	女性と社会	琉41-2	琉球アジア研究入門
人09	環境の哲学	琉05	沖縄の基地と戦跡Ⅰ	琉46	沖縄の政治と社会
人16	比較思想文化論	琉06	沖縄の基地と戦跡Ⅱ	琉48	うちなーぐちあしび
人18	宗教と世界	琉14	琉球の文学	琉50	沖縄の学力と教育
人19	人間と宗教	琉22	琉球の自然	琉51	琉球語入門Ⅰ
総14	環境問題	琉23	琉球の自然保護	琉52	琉球語入門Ⅱ
総47	総合環境学概論	琉24	沖縄のサンゴ礁	琉54	沖縄の歴史入門
総62	環境と文学	琉25	琉球弧の自然誌	琉55	琉球学入門
琉01	平和論	琉26	琉球の地理	琉56	琉球の自然と人
				琉71	現代沖縄地域論

※6 卒業単位は124単位以上とする。

※7 法学プログラム特修法曹コース（法曹コース）の修了要件及び同コース登録者の早期卒業要件については別に定める。

【履修方法】

- 一学期に登録できる単位数の上限は、20単位である。ただし、集中講義はこの中に含まない。
 直前に在学した学期の5段階評価によるGPAが3.0以上の者は指導教員の指導・承認を得て26単位まで認める。
 また、教員免許等の資格取得予定者には指導教員の指導・承認を得て26単位まで認める。

人間社会学科（哲学プログラム）

学部共通科目（必修科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
学部共通基盤	HS101	基礎演習Ⅰ	2	○	(2-0)	1	前	大学で学ぶための基礎的な技能の演習（導入）
	HS102	基礎演習Ⅱ	2	○	(2-0)	1～2	前又は後	口頭発表・討論・レポート作成を中心とした基礎的な演習（展開）
	HS103	基礎演習Ⅲ	2	○	(2-0)	1～2	前又は後	特定課題を中心とした口頭発表・討論・レポート作成の演習（発展）

学部共通科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
平和共生・沖縄理解基盤科目	HS111	共生社会入門	2		(2-0)	1～2	前	「共生社会」というテーマの下で、哲学・心理学・社会学・社会福祉学・マスコミ学の立場から論じる講義
	LAW291	基礎社会保障法	2		(2-0)	1～2	後	社会保障法についての基礎理論の講義
	PIR311	国際関係史	2		(2-0)	1～2	前又は後	現代国際関係の史的分析
	P&P111	共生哲学	2		(2-0)	1	前	共生について哲学的に考察する。
	HS113	琉球アジア研究概論	2		(2-0)	2	前	琉球・沖縄の歴史・言語・文学、日本の文学・歴史など、日本を含む琉球、アジアの個々の地域について、あるいは中国と琉球・沖縄、日本と中国などの交流の歴史にふれ、いま何をどのように研究が進められているのか、なぜ研究をする必要があるのか、解決しなければならない課題はなにか等を講義する。

注1：学部共通科目（選択科目）から4単位以上修得すること。

注2：学部共通科目（選択科目）の履修要件（4単位）を超えた分は専門自由科目に振り替えることができる。

学科共通科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
学科基盤科目	P&P112	人間の探究	2		(2-0)	1	後	人間について哲学的に考察する。
	PSY101	心理学概論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	心理学の主要な理論と研究の概説。
	SOC111	社会学原論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	集団、社会、文化、社会変動に関する基礎理論
	SW100	社会福祉原論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	社会福祉の概念・構造・歴史
	MCM170	マス・コミ原論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	マス・メディアの概念・社会的機能と影響
学科発展科目	P&P211	哲学原論	2		(2-0)	2	前	哲学の基礎概念や主要問題を概説する。
	PSY308	司法・犯罪心理学	2		(2-0)	3	前	犯罪・非行、犯罪被害および家事事件に関する基本的知識と、司法・犯罪分野における心理的支援などについての概説。
	PSY408	教育・学校心理学	2		(2-0)	3	後	教育現場における問題や心理社会的課題、および必要な支援などについての概説。
	SW200	障害者福祉論	2		(2-0)	2	前	障害者福祉の理念と意義及び法とサービス体系等
	MCM270	地域と平和	2		(2-0)	2	前又は後	ジャーナリズムと地域平和形成の諸問題研究

注1：学科共通科目（学科基盤科目）から6単位以上、学科共通科目（学科発展科目）から4単位以上修得すること。

注2：学科共通科目（学科基盤科目）の履修要件（6単位）を超えた分はプログラム発展科目に振り替えることができる。

注3：学科共通科目（学科発展科目）の履修要件（4単位）を超えた分はプログラム発展科目に振り替えることができる。

哲学プログラム専門科目（必修科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
ム コ ア 基 礎 科 目	P&P201	哲学演習Ⅰ	2	○	(2-0)	2	前	哲学の基礎理論に関する研究発表と討議。
	P&P202	哲学演習Ⅱ	2	○	(2-0)	2	後	哲学の基礎理論に関する研究発表と討議。
プ ロ グ ラ ム コ ア 発 展 科 目	P&P301	プログラム専門演習Ⅰ	2	○	(2-0)	3	前	哲学の主要理論に関する研究発表と討議。
	P&P302	プログラム専門演習Ⅱ	2	○	(2-0)	3	後	哲学の主要理論に関する研究発表と討議。
	P&P401	卒業研究Ⅰ	2	○	(2-0)	4	前	卒業論文の作成。
	P&P402	卒業研究Ⅱ	2	○	(2-0)	4	後	卒業論文の作成。

哲学プログラム専門科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プ ロ グ ラ ム 発 展 科 目	P&P113	哲学史	2		(2-0)	1	後	哲学を歴史的に概観する。
	P&P212	宗教哲学入門	2		(2-0)	2~4	前	宗教の基本的な思想について哲学的に考察する。
	P&P213	倫理学原論	2		(2-0)	2~4	前	倫理の基礎概念や主要問題を概説する。
	P&P214	比較思想論	2		(2-0)	2~4	前	西洋思想と東洋思想を比較検討する。
	P&P215	論理学概論	2		(2-0)	2~4	後	現代論理学の基礎について概説する。
	P&P216	真理と認識A	2		(2-0)	2~4	後	真理と認識について哲学的に考察する。
	P&P217	真理と認識B	2		(2-0)	2~4	後	真理と認識について哲学的に考察する。
	P&P218	真理と認識C	2		(2-0)	2~4	後	真理と認識について哲学的に考察する。
	P&P219	思考と存在A	2		(2-0)	2~4	後	思考と存在について哲学的に考察する。
	P&P220	思考と存在B	2		(2-0)	2~4	後	思考と存在について哲学的に考察する。
	P&P221	思考と存在C	2		(2-0)	2~4	後	思考と存在について哲学的に考察する。
	P&P222	哲学A	2		(2-0)	2~4	前	哲学の諸問題を考察する。
	P&P223	哲学B	2		(2-0)	2~4	後	哲学の諸問題を考察する。
	P&P224	倫理学A	2		(2-0)	2~4	前	倫理学の諸問題を考察する。
	P&P225	倫理学B	2		(2-0)	2~4	後	倫理学の諸問題を考察する。
	P&P226	世界の思想A	2		(2-0)	2~4	前	世界の思想について哲学的に考察する。
	P&P227	世界の思想B	2		(2-0)	2~4	後	世界の思想について哲学的に考察する。
	P&P228	原典講読入門A	2		(2-0)	2~4	前又は後	原典を読むための入門的演習。
	P&P229	原典講読入門B	2		(2-0)	2~4	前又は後	原典を読むための入門的演習。
	P&P232	原典講読基礎A	2		(2-0)	2~4	前又は後	原典を読むための基礎を習得する。
	P&P233	原典講読基礎B	2		(2-0)	2~4	前又は後	原典を読むための基礎を習得する。
	P&P311	宗教哲学A	2		(2-0)	2~4	前	宗教思想について哲学的に考察する。
	P&P312	宗教哲学B	2		(2-0)	2~4	前	宗教思想について哲学的に考察する。
	P&P313	世界の宗教	2		(2-0)	2~4	前	世界の主要な宗教を哲学的に検討する。
	P&P314	現代の哲学	2		(2-0)	2~4	前	現代の哲学的状況について概説する。
	P&P315	認知哲学	2		(2-0)	2~4	前	知識や認知について哲学的に考察する。
	P&P316	宗教学A	2		(2-0)	2~4	前	宗教について哲学的に考察する。
	P&P317	宗教学B	2		(2-0)	2~4	前	宗教について哲学的に考察する。
	P&P318	論理学と哲学	2		(2-0)	2~4	後	論理学と哲学の関係について考察する。
	P&P319	情報とデータの哲学	2		(2-0)	2~4	後	情報とデータを論理的に扱い、哲学的な考察も行う。
	P&P411	科学と哲学	2		(2-0)	2~4	前	科学と哲学の関係について考察する。

注1：上記の表に掲載のプログラム発展科目に加えて、人間社会学科内の学科共通科目およびプログラム専門科目は必修科目を除き、すべて哲学・教育プログラムのプログラム発展科目に振り替えることができる。

注2：上記の表または注1の科目から30単位以上修得すること。

注3：30単位を超過した分は、専門自由科目に振り替えることができる。

人間社会学科（心理学プログラム）

学部共通科目（必修科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
基盤部 科目通	HS101	基礎演習Ⅰ	2	○	(2-0)	1	前	大学で学ぶための基礎的な技能の演習（導入）
	HS102	基礎演習Ⅱ	2	○	(2-0)	1～2	前又は後	口頭発表・討論・レポート作成を中心とした基礎的な演習（展開）

学部共通科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
平和共生・ 沖縄理解 基盤科目	HS111	共生社会入門	2		(2-0)	1～2	前	「共生社会」というテーマの下で、哲学・心理学・社会学・社会福祉学・マスコミ学の立場から論じる講義
	LAW291	基礎社会保障法	2		(2-0)	1～2	後	社会保障法についての基礎理論の講義
	PIR311	国際関係史	2		(2-0)	1～2	前又は後	現代国際関係の史的分析
	P&P111	共生哲学	2		(2-0)	1	前	共生について哲学的に考察する。
	HS113	琉球アジア研究概論	2		(2-0)	2	前	琉球・沖縄の歴史・言語・文学、日本の文学・歴史など、日本を含む琉球、アジアの個々の地域について、あるいは中国と琉球・沖縄、日本と中国などの交流の歴史にふれ、いま何をどのように研究が進められているのか、なぜ研究をする必要があるのか、解決しなければならない課題はなにか等を講義する。

注1：学部共通科目（選択科目）から4単位以上修得すること。

注2：学部共通科目（選択科目）の履修要件（4単位）を超えた分は専門自由科目に振り替えることができる。

学科共通科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
学科基盤 科目	P&P112	人間の探究	2		(2-0)	1	後	人間について哲学的に考察する。
	PSY101	心理学概論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	心理学の主要な理論と研究の概説。
	SOC111	社会学原論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	集団、社会、文化、社会変動に関する基礎理論
	SW100	社会福祉原論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	社会福祉の概念・構造・歴史
	MCM170	マス・コミ原論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	マス・メディアの概念・社会的機能と影響
学科発展 科目	P&P211	哲学原論	2		(2-0)	2	前	哲学の基礎概念や主要問題を概説する。
	PSY308	司法・犯罪心理学	2		(2-0)	3	前	犯罪・非行、犯罪被害および家事事件に関する基本的知識と、司法・犯罪分野における心理的支援などについての概説。
	PSY408	教育・学校心理学	2		(2-0)	3	後	教育現場における問題や心理社会的課題、および必要な支援などについての概説。
	SW200	障害者福祉論	2		(2-0)	2	前	障害者福祉の理念と意義及び法とサービス体系等
	MCM270	地域と平和	2		(2-0)	2	前又は後	ジャーナリズムと地域平和形成の諸問題研究

注1：学科共通科目（学科基盤科目）から6単位以上、学科共通科目（学科発展科目）から4単位以上修得すること。

注2：学科共通科目（学科基盤科目）の履修要件（6単位）を超えた分はプログラム発展科目に振り替えることができる。

注3：学科共通科目（学科発展科目）の履修要件（4単位）を超えた分はプログラム発展科目に振り替えることができる。

心理学プログラム専門科目（必修科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラムコア基盤科目	PSY201	臨床心理学概論	2	○	(2-0)	2	後	臨床心理学の成り立ちや代表的な理論などについての概説。
	PSY202	社会・集団・家族心理学	2	○	(2-0)	2	後	対人関係、集団、家族などにおける人の意識や行動についての概説。
	PSY204	心理学概論Ⅱ	2	○	(2-0)	2	前	心理学の成り立ちや、人の心の基本的な仕組み・働きについての概説。
	PSY207	心理学実験	2	○	(1-3)	2	後	実験の計画立案および統計に関する基礎的な知識についての概説と演習。
	PSY205	心理学研究法	2	○	(2-0)	2	前	心理学における実証的研究法やデータを用いた実証的な思考方法、研究倫理などについての概説。
	PSY206	心理学統計法Ⅰ	2	○	(1-1)	2	前	心理学で用いられる統計の基礎的な知識や分析手法についての概説。
プログラムコア発展科目	PSY208	心理学統計法Ⅱ	2	○	(1-1)	2	後	心理学で用いられる統計のより高度な知識や分析手法についての概説。
	PSY301	精神医学（精神疾患とその治療）	2	○	(2-0)	3	後	精神疾患総論および薬剤による心身の変化などについての概説。
	PSY302	心理学基礎演習	2	○	(0-2)	3	前	特定教員のもとで研究の基礎を構築する。
	PSY303	心理学課題演習	2	○	(0-2)	3	後	個別に課題を設定し、心理学的な研究法によるデータ収集と分析を行い、研究レポートを作成する。
	PSY401	卒業研究Ⅰ	2	○	(0-4)	4	前	特定教員のもとでの実証的な個別研究。
	PSY402	卒業研究Ⅱ	2	○	(0-4)	4	後	特定教員のもとでの実証的な個別研究。

心理学プログラム専門科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラム発展科目	PSY209	知覚・認知心理学	2		(2-0)	2	後	人の感覚・知覚、認知・思考の機序およびその障害などについての概説。
	PSY305	学習・言語心理学	2		(2-0)	2～3	後	人の行動が変化する過程や言語の習得における機序などについての概説。
	PSY306	神経・生理心理学	2		(2-0)	2～3	後	脳神経系の構造及び機能、記憶・感情等の生理学的反応の機序、高次脳機能障害などについての概説。
	PSY411	コミュニティ心理学	2		(2-0)	2～4	前	コミュニティと個人との関連性や、地域コミュニティにおける援助システムなどについての概説。
	PSY409	産業・組織心理学	2		(2-0)	3～4	前	組織における人の行動や、職場における問題に対する心理的支援などについての概説。
	PSY403	発達心理学	2		(2-0)	3～4	前	認知機能、感情・社会性、自己、生涯における心身の発達および、非定型発達についての基礎的な知識や考え方などについての概説。
	PSY407	福祉心理学	2		(2-0)	3～4	前	福祉現場における問題と必要な支援、虐待についての基本的知識などについての概説。
	PSY210	心理的アセスメント	2		(1-3)	3	前	心理的アセスメントの目的、方法、記録、報告についての概説と演習。
	PSY405	障害者・障害児心理学	2		(2-0)	3～4	後	身体障害、知的障害、精神障害の概要と、障害者・障害児への心理的支援などについての概説。
	PSY211	心理学的支援法	2		(2-0)	3	後	代表的な心理療法・カウンセリングの概要と、適切な支援、心の健康教育などについての概説。
	PSY406	健康・医療心理学	2		(2-0)	3	後	ストレスと心身の疾病との関係や、医療現場・保健現場における心理社会的課題と必要な支援などについての概説。
	PSY404	感情・人格心理学	2		(2-0)	3	前	感情に関する理論および感情喚起の機序、人格の概念および形成過程などについての概説。
	PSY214	外国文献講読	2		(2-0)	2	後	心理学の基礎的な外国文献の講読
	PSY311	心理演習	2		(0-2)	3	後	面接及び心理検査等のロールプレイ並びに事例検討。
PSY312	心理実習	2		(1-3)	4	前	心理的支援を必要とする実際の施設における見学等の実習。	

プログラム 発展科目	PSY212	医学概論（人体の構造と機能及び疾病）	2		(2-0)	2	前	心身機能と身体構造および様々な疾病や障害、心理的支援が必要な疾病などについての概説。
	PSY304	心理専門職キャリア概論Ⅰ（公認心理師の職責）	2		(2-0)	3	前	公認心理師の役割、法的義務、倫理、業務などについての概説。
	PSY310	心理専門職キャリア概論Ⅱ（関係行政論）	2		(2-0)	3	後	保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働分野に関係する制度についての概説。

注1：上記の表に掲載のプログラム発展科目に加えて、人間社会学科内の学科共通科目およびプログラム専門科目は必修科目を除き、すべて心理学プログラムのプログラム発展科目に振り替えることができる。

注2：上記の表または注1の科目から22単位以上修得すること。

注3：22単位を超過した分は、専門自由科目に振り替えることができる。

人間社会学科（社会学プログラム）

学部共通科目（必修科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
学部 科目 共通 基盤	HS101	基礎演習Ⅰ	2	○	(2-0)	1	前	大学で学ぶための基礎的な技能の演習（導入）
	HS102	基礎演習Ⅱ	2	○	(2-0)	1～2	前又は後	口頭発表・討論・レポート作成を中心とした基礎的な演習（展開）
	HS103	基礎演習Ⅲ	2	○	(2-0)	1～2	前又は後	特定課題を中心とした口頭発表・討論・レポート作成の演習（発展）

学部共通科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
平和 共生・ 沖縄 理解 基盤 科目	HS111	共生社会入門	2		(2-0)	1～2	前	「共生社会」というテーマの下で、哲学・心理学・社会学・社会福祉学・マスコミ学の立場から論じる講義
	LAW291	基礎社会保障法	2		(2-0)	1～2	後	社会保障法についての基礎理論の講義
	PIR311	国際関係史	2		(2-0)	1～2	前又は後	現代国際関係の史的分析
	P&P111	共生哲学	2		(2-0)	1	前	共生について哲学的に考察する。
	HS113	琉球アジア研究概論	2		(2-0)	2	前	琉球・沖縄の歴史・言語・文学、日本の文学・歴史など、日本を含む琉球、アジアの個々の地域について、あるいは中国と琉球・沖縄、日本と中国などの交流の歴史にふれ、いま何をどのように研究が進められているのか、なぜ研究をする必要があるのか、解決しなければならない課題はなにか等を講義する。

注1：学部共通科目（選択科目）から4単位以上修得すること。

注2：学部共通科目（選択科目）の履修要件（4単位）を超えた分は専門自由科目に振り替えることができる。

学科共通科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
学科 基盤 科目	P&P112	人間の探究	2		(2-0)	1	後	人間について哲学的に考察する。
	PSY101	心理学概論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	心理学の主要な理論と研究の概説。
	SOC111	社会学原論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	集団、社会、文化、社会変動に関する基礎理論
	SW100	社会福祉原論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	社会福祉の概念・構造・歴史
	MCM170	マス・コミ原論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	マス・メディアの概念・社会的機能と影響
学科 発展 科目	P&P211	哲学原論	2		(2-0)	2	前	哲学の基礎概念や主要問題を概説する。
	PSY308	司法・犯罪心理学	2		(2-0)	3	前	犯罪・非行、犯罪被害および家事事件に関する基本的知識と、司法・犯罪分野における心理的支援などについての概説。
	PSY408	教育・学校心理学	2		(2-0)	3	後	教育現場における問題や心理社会的課題、および必要な支援などについての概説。
	SW200	障害者福祉論	2		(2-0)	2	前	障害者福祉の理念と意義及び法とサービス体系等
	MCM270	地域と平和	2		(2-0)	2	前又は後	ジャーナリズムと地域平和形成の諸問題研究

注1：学科共通科目（学科基盤科目）から6単位以上、学科共通科目（学科発展科目）から4単位以上修得すること。

注2：学科共通科目（学科基盤科目）の履修要件（6単位）を超えた分はプログラム発展科目に振り替えることができる。

注3：学科共通科目（学科発展科目）の履修要件（4単位）を超えた分はプログラム発展科目に振り替えることができる。

社会学プログラム専門科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラムコア基盤科目	SOC211	社会学原論Ⅱ	2		(2-0)	2	前	集団、社会、文化、社会変動に関する基礎理論とその展開
	SOC214	社会学実習Ⅰ	2		(0-4)	2	前	社会学的テーマに基づく調査の企画・実施
	SOC215	社会学実習Ⅱ	2		(0-4)	2	後	社会学的テーマに基づく調査の企画・実施
	SOC216	社会調査法Ⅰ	2		(2-0)	2	前	社会調査の理論と技術
	SW201	社会福祉原論Ⅱ	2		(2-0)	2	前	社会福祉の概念・構造・歴史
	SW202	ソーシャルケースワークⅠ	2		(2-0)	2	前	個人・家族とのソーシャルワークの展開過程と技術
	SW224	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2		(0-2)	3	前	現場体験を通じた専門知識、技術、関連知識の理解
	SW225	ソーシャルワーク実習Ⅱ	2		(0-2)	3	後	現場体験を通じた専門知識、技術、関連知識の理解
	MCM271	マス・コミ原論Ⅱ	2		(2-0)	2	前	マス・メディアの概念・社会的機能と影響
	MCM272	マス・コミ実習Ⅰ	2		(0-4)	2	前	新聞の製作
	MCM273	マス・コミ実習Ⅱ	2		(0-4)	2	後	テレビ番組の企画・制作
	MCM274	マス・コミ史	2		(2-0)	2	前又は後	マス・メディアの歴史的発展及び機能変遷

注1：上記の科目から8単位以上修得すること。

注2：社会学コースの学生は社会学原論Ⅱ、国際比較社会学Ⅰ、社会調査法Ⅰ、社会学実習Ⅰおよび同Ⅱを必ず含めること。

社会福祉学コースの学生は社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルケースワークⅠ、ソーシャルワーク実習Ⅰを必ず含めること。また、社会福祉士受験資格する学生はソーシャルワーク実習Ⅱを必ず含めること。

マス・コミ学コースの学生はマス・コミ原論Ⅱ、マス・コミ実習Ⅰおよび同Ⅱ、マス・コミ史を必ず含めること。

注3：8単位を超過した分は、プログラム発展科目もしくは専門自由科目に振り替えることができる。

社会学プログラム専門科目（必修科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラムコア発展科目	SOC301	専門演習Ⅰ	2	○	(2-0)	3	前又は後	論文研究、調査研究の発表及びその討議
	SOC302	専門演習Ⅱ	2	○	(2-0)	3後又は4前		論文研究、調査研究の発表及びその討議
	SOC401	卒業研究Ⅰ	2	○	(2-0)	3後又は4前		学術研究論文の作成
	SOC402	卒業研究Ⅱ	2	○	(2-0)	4	前又は後	学術研究論文の作成

社会学プログラム専門科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラム発展科目	SOC212	国際比較社会学Ⅰ	2		(2-0)	2	前	グローバル化した社会に関する基礎理論
	SOC213	国際比較社会学Ⅱ	2		(2-0)	2	後	グローバル化した社会に関する基礎理論とその展開
	SOC217	社会調査法Ⅱ	2		(2-0)	2	後	社会調査の理論と技術
	SOC221	働くこととつながることの社会学Ⅰ	2		(2-0)	2～3	前又は後	働くこととつながることの理論と現場学習
	SOC222	働くこととつながることの社会学Ⅱ	2		(2-0)	2～3	前又は後	働くこととつながることの理論と現場学習
	SOC223	多文化共生の社会学Ⅰ	2		(2-0)	2～3	前又は後	海外沖縄移民子弟との交流授業
	SOC224	多文化共生の社会学Ⅱ	2		(2-0)	2～3	前又は後	海外沖縄移民子弟との交流授業
	SOC225	比較社会学Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前又は後	沖縄社会の内なる多様性、現代社会における人の移動と共生についての講義とグループワーク
	SOC226	比較社会学Ⅱ	2		(2-0)	2～4	前又は後	移民、難民、アメラジアンなどをめぐる人の移動と多民族化についての講義
	SOC227	家族社会学	2		(2-0)	2～3	前又は後	現代家族の構造と変容
	SOC228	ジェンダーの社会学	2		(2-0)	2～3	前又は後	ジェンダー現象に関する社会学的研究方法と分析の講義
	SOC229	ライフコースの社会学	2		(2-0)	2～3	前又は後	人生軌道の社会学的構造と変容
	SOC230	沖縄移民とアイデンティティ	2		(2-0)	2～3	前又は後	移民とアイデンティティの理論と現場学習
	SOC231	現代社会学研究Ⅰ	2		(2-0)	2～3	前又は後	社会学的諸問題に関する研究方法と分析の講義
	SOC232	現代社会学研究Ⅱ	2		(2-0)	2～4	前又は後	社会学的諸問題に関する研究方法と分析の講義、応用を含む
	SOC233	現代社会学研究Ⅲ	2		(2-0)	2～4	前又は後	社会学的諸問題に関する研究方法と分析の講義
	SOC234	現代社会学研究Ⅳ	2		(2-0)	2～4	前又は後	社会学的諸問題に関する研究方法と分析の講義

プログラム 発展科目	SOC237	沖縄社会問題論	2		(2-0)	2~4	前又は後	貧困を中心とする沖縄の社会問題をめぐる理論と社会運動
	SOC238	沖縄近現代史	2		(2-0)	2~4	後	米軍統治時代の沖縄を現代の諸問題にひきつけて論ずる
	SW203	ソーシャルケースワークⅡ	2		(2-0)	2	後	個人・家族とのソーシャルワークの展開過程と技術
	SW226	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2		(2-0)	2	後	技術援助の基礎的な知識の理解と演習及び事例検討
	SW227	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2		(2-0)	3	前	技術援助の基礎的な知識の理解と演習及び事例検討
	SW228	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2		(2-0)	3	後	実習の総括と援助技術のより深い理解及び事例検討
	SW205	児童福祉論Ⅰ	2		(2-0)	2	前	児童・家庭等を取りまく社会の変化および、児童福祉の理念と意義、その発達史等
	SW206	児童福祉論Ⅱ	2		(2-0)	2	後	児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法および、社会福祉士等の専門職の役割等
	SW219	地域福祉の理論と方法	4		(2-0)	2	通年	地域福祉の理論及び具体的推進方法等に関する理解
	SW220	ソーシャルグループワーク	4		(2-0)	2~3	前	小集団の理解とソーシャルグループワークの理論、原則、方法
	SW209	公的扶助論	2		(2-0)	2~3	前又は後	公的扶助の概念・発達史・現実の問題
	SW210	高齢者福祉論	2		(2-0)	2	前	高齢者の生活実態及び関連法及びサービス体系等
	SW304	医学概論	2		(2-0)	3	後	人体構造と機能、疾病等に関する基礎的理解
	SW229	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2		(2-0)	2	後	相談援助実習に向けた事前指導
	SW230	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2		(2-0)	3	前	相談援助実習に関する事前、事後指導等
	SW231	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2		(2-0)	3	後	相談援助実習に関する事後的指導及び見学実習等
	SW307	ソーシャルワーク論Ⅰ	2		(2-0)	3	前	相談援助の基盤となる価値観、理念及びその実際
	SW308	ソーシャルワーク論Ⅱ	2		(2-0)	3	後	専門職として必要な知識、技法に関する理解
	SW216	社会福祉運営管理論	2		(2-0)	2	後	福祉サービスの組織、経営、管理運営に関する理解
	SW217	保健医療概論	2		(2-0)	2	後	医療保険制度及び保健医療サービスに関する理解
	SW400	人体構造及び日常生活行動に関する理解	2		(2-0)	4	前	介護技術の根拠となる人体構造等の理解と、サービス提供における配慮等への理解
	SW401	加齢と障害に関する理解	2		(2-0)	4	後	加齢と障害に関する基礎的な理解と、社会的・心理的支援等への理解
	SW218	社会保障論	2		(2-0)	2	前	社会保障の概念・発達史・現実課題
	SW310	権利擁護を支える法制度	2		(2-0)	2	前	社会福祉基礎構造改革において権利擁護制度として位置づけられている諸制度について解説
	SW311	刑事司法と福祉	2		(2-0)	3	後	「刑法」「少年法」「更生保護制度」を中心に諸制度の仕組みや意義を学習
	SW402	社会福祉特殊講義Ⅰ	2		(2-0)	2~4	前又は後	教官テーマによる特殊講義
	SW403	社会福祉特殊講義Ⅱ	2		(2-0)	2~4	前又は後	教官テーマによる特殊講義
	SW404	社会福祉特殊講義Ⅲ	2		(2-0)	2~4	前又は後	教官テーマによる特殊講義
	MCM275	マス・コミ調査分析	2		(2-0)	2	前又は後	マス・コミの役割分析・世論調査及び諸問題の研究
	MCM276	マスコミュニケーション理論	2		(2-0)	2	前又は後	マス・コミの社会的影響に関する諸理論の研究
	MCM277	映像論	2		(2-0)	2	前又は後	映像メディアの機能・社会的影響
MCM381	情報と社会Ⅰ	2		(2-0)	3	前	世論・世論調査の基礎理論	
MCM382	情報と社会Ⅱ	2		(2-0)	3	後	世論調査の技術習得・分析	
MCM278	新聞英語Ⅰ	2		(2-0)	2	前又は後	英文記事講読・英文ニュースの聴取訓練	
MCM279	新聞英語Ⅱ	2		(2-0)	2	前又は後	英文記事の書き方・英文ニュースの聴取訓練	
MCM383	大衆文化論	2		(2-0)	3	前又は後	大衆社会における文化状況、その機能と影響	
MCM384	地域メディア論	2		(2-0)	3	前又は後	島嶼社会におけるコミュニケーションの問題研究	
MCM280	マス・コミ特殊講義Ⅰ	2		(2-0)	2	前又は後	ジャーナリズム・コミュニケーション研究	
MCM281	マス・コミ特殊講義Ⅱ	2		(2-0)	2	前又は後	メディアの現場からのジャーナリズム論	

注1：上記の表に掲載のプログラム発展科目に加えて、人間社会学科内の学科共通科目およびプログラム専門科目は必修科目を除き、すべて社会学プロのプログラム発展科目に振り替えることができる。

注2：上記の表または注1の科目から26単位以上修得すること。

注3：26単位を超過した分は、専門自由科目に振り替えることができる。

人間社会学科（哲学プログラム、心理学プログラム、社会学プログラム）卒業要件（学部規程第16条別表）

区 分		プログラム			
		哲学	心理学	社会学	
専門教育	学部共通専門科目	学部共通基盤科目	6	4	6
		平和共生・沖縄理解基盤科目	4	4	4
	学科共通専門科目	学科基盤科目	6	6	6
		学科発展科目	4	4	4
	プログラム専門科目	プログラムコア基盤科目	4	12	8
		プログラムコア発展科目	8	12	8
		プログラム発展科目	30	22	26
専門自由科目 ※1		26	24	26	
小 計		88	88	88	
共通教育 ※2	教養領域・総合領域・基幹領域（情報関係）	健康運動系科目	2	2	2
		その他の領域	22	22	22
		人文系科目	2	2	2
		社会系科目	2	2	2
		自然系科目	2	2	2
		総合科目			
		琉大特色・地域創生科目			
		キャリア関係科目	2	2	2
	情報関係科目	2	2	2	
		（平和共生・沖縄理解科目群 ※3）	（ 6 ）	（ 6 ）	（ 6 ）
基幹領域（外国語）	第1外国語	8	8	8	
	第2外国語	4	4	4	
小 計		36	36	36	
総 単 位 数 ※4		124	124	124	

※1 専門自由科目とは次のとおりとする。

- ・学部共通科目（選択科目）の履修要件を超えた専門教育科目
- ・他プログラム・他学科・他学部提供の専門教育科目
- ・本プログラムの選択科目の履修要件を超えた専門教育科目
- ・卒業要件に相当する単位数を超えた共通教育科目（10単位まで）

※2 共通教育等の履修要件の詳細については「琉球大学共通教育等履修規程」及び同規程別表3「各学部学科等別共通教育等履修基準表」を参照すること。

※3 平和共生・沖縄理解科目群

以下の科目は、それぞれ人文系科目、社会系科目、総合科目、琉大特色・地域創生科目としてもカウントされる。

科目番号	科目名	科目番号	科目名	科目番号	科目名
社06	戦争と平和の諸問題	琉02	核の科学	琉33	現代の国際関係
人06	西洋思想と日本・中国の思想	琉03	女性と社会	琉41-2	琉球アジア研究入門
人09	環境の哲学	琉05	沖縄の基地と戦跡Ⅰ	琉46	沖縄の政治と社会
人16	比較思想文化論	琉06	沖縄の基地と戦跡Ⅱ	琉48	うちなーぐちあしび
人18	宗教と世界	琉14	琉球の文学	琉50	沖縄の学力と教育
人19	人間と宗教	琉22	琉球の自然	琉51	琉球語入門Ⅰ
総14	環境問題	琉23	琉球の自然保護	琉52	琉球語入門Ⅱ
総47	総合環境学概論	琉24	沖縄のサンゴ礁	琉54	沖縄の歴史入門
総62	環境と文学	琉25	琉球弧の自然誌	琉55	琉球学入門
琉01	平和論	琉26	琉球の地理	琉56	琉球の自然と人
				琉71	現代沖縄地域論

※4 卒業単位は124単位以上とする。

【履修方法】

- 共通教育科目については、「その他の領域」から22単位以上取得すること。
その際、人文系科目、社会系科目、自然系科目、キャリア関係科目、情報関係科目からそれぞれ2単位以上取得すること。
情報関係科目は「情報科学演習」の1科目2単位を履修すること。
22単位のうち、平和共生・沖縄理解科目群の科目も6単位以上取得すること。
- 一学期に登録できる単位数の上限は、20単位である。ただし、集中講義はこの中に含まない。
直前に在学した学期の5段階評価によるGPAが3.0以上の者は指導教員の指導・承認を得て26単位まで認める。
また、教員免許等の資格取得予定者には指導教員の指導・承認を得て26単位まで認める。
- 教員免許を取得したい学生は、教育学部の提供する教職科目以外に教員職員免許法施行規則第4条により必要な科目を履修すること。

琉球アジア文化学科（歴史・民俗プログラム、文学プログラム、言語学プログラム）

学部共通科目（必修科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
学部共通基盤科目	HS101	基礎演習Ⅰ	2	○	(2-0)	1	前	大学で学ぶための基礎的な技能の演習（導入）および大学四年間の生活について知り、卒業後のキャリア形成のための基礎を学ぶ
	HS102	基礎演習Ⅱ	2	○	(2-0)	1～2	前又は後	口頭発表・討論・レポート作成を中心とした基礎的な演習（展開）
	HS103	基礎演習Ⅲ	2	○	(2-0)	1～2	前又は後	特定課題を中心とした口頭発表・討論・レポート作成の演習（発展）

学部共通科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
平和共生・沖縄理解基盤科目	HS111	共生社会入門	2		(2-0)	1～2	前	「共生社会」というテーマの下で、哲学・心理学・社会学・社会福祉学・マスコミ学の立場から論じる講義
	LAW291	基礎社会保障法	2		(2-0)	1～2	後	社会保障法についての基礎理論の講義
	PIR311	国際関係史	2		(2-0)	1～2	前又は後	現代国際関係の史的分析
	P&P111	共生哲学	2		(2-0)	1	前	共生について哲学的に考察する。
	SOC111	社会学原論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	集団、社会、文化、社会変動に関する基礎理論
	SW100	社会福祉原論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	社会福祉の概念・構造・歴史
	PSY101	心理学概論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	心理学の主要な理論と研究の概説。
	MCM170	マス・コミ原論Ⅰ	2		(2-0)	1	後	マス・メディアの概観・社会的機能と影響
	HS113	琉球アジア研究概論	2		(2-0)	2	前	琉球・沖縄の歴史・言語・文学、日本の文学・歴史など、日本を含む琉球、アジアの個々の地域について、あるいは中国と琉球・沖縄、日本と中国などの交流の歴史にふれ、いま何をどのように研究が進められているのか、なぜ研究をする必要があるのか、解決しなければならない課題はなにか等を講義する。

注1：上記「平和共生・沖縄理解基盤科目」から4単位以上履修すること。なお4単位を超えて修得した単位は専門自由科目に振り替えることができる。

学科共通科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
盤学 科目基		※他プログラムのプログラムコア基盤科目を学科基盤科目として扱う。						
展学 科目発		※他プログラムのプログラム発展科目を学科発展科目として扱う。						

注1：学科基盤科目として4単位以上、学科発展科目として4単位以上修得すること。

歴史・民俗学プログラム専門科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラムコア基盤科目	RR111	中琉関係史概論Ⅰ	2		(2-0)	1~4	前	中琉関係史に関する基礎を講義する。
	RR112	中琉関係史概論Ⅱ	2		(2-0)	1~4	後	中琉関係史に関する基礎を講義する。
	RR121	琉球史概論Ⅰ	2		(2-0)	1~4	前	琉球史に関する基礎を講義する。
	RR122	琉球史概論Ⅱ	2		(2-0)	1~4	後	琉球史に関する基礎を講義する。
	RR131	琉球民俗学概論Ⅰ	2		(2-0)	1~4	前	民俗学の基本的事項について、琉球に関する基礎を講義する。
	RR132	琉球民俗学概論Ⅱ	2		(2-0)	1~4	後	民俗学の基本的事項について、琉球に関する基礎を講義する。

注1 上記の科目から8単位以上修得すること。

歴史・民俗学プログラム専門科目（必修科目・選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラムコア発展科目	RR211	琉球史基礎演習Ⅰ	2		(2-0)	3	前	琉球史の基礎について発表と討議を行う。
	RR212	琉球史基礎演習Ⅱ	2		(2-0)	3	後	琉球史の基礎について発表と討議を行う。
	RR213	琉球史基礎演習Ⅲ	2		(2-0)	3	前	琉球史の基礎について発表と討議を行う。
	RR214	琉球史基礎演習Ⅳ	2		(2-0)	3	後	琉球史の基礎について発表と討議を行う。
	RR221	琉球史演習Ⅰ	2		(2-0)	4	前	琉球史の展開について発表と討議を行う。
	RR222	琉球史演習Ⅱ	2		(2-0)	4	後	琉球史の展開について発表と討議を行う。
	RR223	琉球史演習Ⅲ	2		(2-0)	4	前	琉球史の展開について発表と討議を行う。
	RR224	琉球史演習Ⅳ	2		(2-0)	4	後	琉球史の展開について発表と討議を行う。
	RR231	琉球民俗学基礎演習Ⅰ	2		(2-0)	3	前	民俗学の基礎について、琉球に関することを中心に発表と討議を行う。
	RR232	琉球民俗学基礎演習Ⅱ	2		(2-0)	3	後	民俗学の基礎について、琉球に関することを中心に発表と討議を行う。
	RR241	琉球民俗学演習Ⅰ	2		(2-0)	4	前	民俗学に関する論文の研究と発表・討議を行う。
	RR242	琉球民俗学演習Ⅱ	2		(2-0)	4	後	民俗学に関する論文の研究と発表・討議を行う。
	RR251	中琉関係史基礎演習Ⅰ	2		(2-0)	3	前	中琉関係史の基礎的な研究領域について発表と討議を行う。
	RR252	中琉関係史基礎演習Ⅱ	2		(2-0)	3	後	中琉関係史の基礎的な研究領域について発表と討議を行う。
	RR261	中琉関係史演習Ⅰ	2		(2-0)	4	前	中琉関係史の専門的な特定領域について発表と討議を行う。
	RR262	中琉関係史演習Ⅱ	2		(2-0)	4	後	中琉関係史の専門的な特定領域について発表と討議を行う。
	RR200	卒業論文	4	○	(4-0)	4	通年	卒業論文を指導する。

注1 上記の科目から12単位以上（卒業論文（必修）4単位含む）修得すること。

歴史・民俗学プログラム専門科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラム発展科目	RR311	琉球史史料講読Ⅰ	2		(2-0)	2~4	前	琉球史上の基礎史料に関する文献を輪読する。
	RR312	琉球史史料講読Ⅱ	2		(2-0)	2~4	後	琉球史上の基礎史料に関する文献を輪読する。
	RR313	琉球史史料講読Ⅲ	2		(2-0)	2~4	前	琉球史上の基礎史料に関する文献を輪読する。
	RR314	琉球史史料講読Ⅳ	2		(2-0)	2~4	後	琉球史上の基礎史料に関する文献を輪読する。
	RR315	琉球史史料講読Ⅴ	2		(2-0)	2~4	前	琉球史上の基礎史料に関する文献を輪読する。
	RR316	琉球史史料講読Ⅵ	2		(2-0)	2~4	後	琉球史上の基礎史料に関する文献を輪読する。
	RR317	琉球史史料講読Ⅶ	2		(2-0)	2~4	前	琉球史上の基礎史料に関する文献を輪読する。
	RR318	琉球史史料講読Ⅷ	2		(2-0)	2~4	後	琉球史上の基礎史料に関する文献を輪読する。
	RR321	琉球史研究Ⅰ	2		(2-0)	2~4	前	琉球史の特定のテーマについて考究する。
	RR322	琉球史研究Ⅱ	2		(2-0)	2~4	後	琉球史の特定のテーマについて考究する。

プログラム 発展科目	RR323	琉球史研究Ⅲ	2		(2-0)	2~4	前	琉球史の特定のテーマについて考究する。
	RR324	琉球史研究Ⅳ	2		(2-0)	2~4	後	琉球史の特定のテーマについて考究する。
	RR325	琉球史研究Ⅴ	2		(2-0)	2~4	前	琉球史の文化史について考究する。
	RR326	琉球史研究Ⅵ	2		(2-0)	2~4	後	琉球史の文化史について考究する。
	RR327	琉球史研究Ⅶ	2		(2-0)	2~4	前	琉球史の特定のテーマについて考究する。
	RR328	琉球史研究Ⅷ	2		(2-0)	2~4	後	琉球史の特定のテーマについて考究する。
	RR331	琉球民俗学野外調査Ⅰ	2		(2-0)	2~4	前	民俗学的野外調査の訓練を行う。
	RR332	琉球民俗学野外調査Ⅱ	2		(2-0)	2~4	後	民俗学的野外調査の訓練を行う。
	RR341	歴史伝承史料調査実習Ⅰ	2		(2-0)	2~4	前	琉球史の伝承史料について屋外調査を行なう。
	RR342	歴史伝承史料調査実習Ⅱ	2		(2-0)	2~4	後	琉球史の伝承史料について屋外調査を行なう。
	RR351	琉球民俗学研究Ⅰ	2		(2-0)	2~4	前	民俗学の特定のテーマについて考究する。
	RR352	琉球民俗学研究Ⅱ	2		(2-0)	2~4	後	民俗学の特定のテーマについて考究する。
	RR353	琉球民俗学研究Ⅲ	2		(2-0)	2~4	前	民俗学の特定のテーマについて考究する。
	RR354	琉球民俗学研究Ⅳ	2		(2-0)	2~4	後	民俗学の特定のテーマについて考究する。
	RR361	中琉関係史研究Ⅰ	2		(2-0)	2~4	前	中琉関係史の研究論文を用いて講義する。
	RR362	中琉関係史研究Ⅱ	2		(2-0)	2~4	後	中琉関係史の研究論文を用いて講義する。
	RR363	中琉関係史研究Ⅲ	2		(2-0)	2~4	前	中琉関係史の研究論文を用いて講義する。
	RR364	中琉関係史研究Ⅳ	2		(2-0)	2~4	後	中琉関係史の研究論文を用いて講義する。
	RR365	中琉関係史研究Ⅴ	2		(2-0)	2~4	前	中琉関係史の研究論文を用いて講義する。
	RR366	中琉関係史研究Ⅵ	2		(2-0)	2~4	後	中琉関係史の研究論文を用いて講義する。
	RR367	中琉関係史研究Ⅶ	2		(2-0)	2~4	前	中琉関係史の研究論文を用いて講義する。
	RR368	中琉関係史研究Ⅷ	2		(2-0)	2~4	後	中琉関係史の研究論文を用いて講義する。
	RR369	中琉関係史史料講読Ⅰ	2		(2-0)	1~4	前	冊封使録を講読する。
	RR370	中琉関係史史料講読Ⅱ	2		(2-0)	1~4	後	冊封使録を講読する。
	RR371	中琉関係史史料講読Ⅲ	2		(2-0)	1~4	前	冊封使録を講読する。
	RR372	中琉関係史史料講読Ⅳ	2		(2-0)	1~4	後	冊封使録を講読する。
	RR373	中琉関係野外調査Ⅰ	2		(2-0)	1~4	前	中琉関係史に関する野外調査を行う。
	RR374	中琉関係野外調査Ⅱ	2		(2-0)	1~4	後	中琉関係史に関する野外調査を行う。

注1 上記の科目から28単位以上修得すること。

文学プログラム専門科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラムコア基盤科目	RB111	中国文学概論Ⅰ	2		(2-0)	1~4	前	中国文学の基礎的事項について講義する。
	RB112	中国文学概論Ⅱ	2		(2-0)	1~4	後	中国文学の基礎的事項について講義する。
	RB121	日本文学概論Ⅰ	2		(2-0)	1~4	前	日本文学についての基礎知識について講義する。
	RB122	日本文学概論Ⅱ	2		(2-0)	1~4	後	日本文学についての基礎知識について講義する。
	RB131	琉球文学概論Ⅰ	2		(2-0)	1~4	前	琉球文学についての基礎知識について講義する。
	RB132	琉球文学概論Ⅱ	2		(2-0)	1~4	後	琉球文学についての基礎知識について講義する。
	RB141	朝鮮文学概論Ⅰ	2		(2-0)	1~4	前	朝鮮文学の基礎的事項について講義する。
	RB142	朝鮮文学概論Ⅱ	2		(2-0)	1~4	後	朝鮮文学の基礎的事項について講義する。

注1 上記の科目から8単位以上修得すること。

文学プログラム専門科目（必修科目・選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラムコア発展科目	RB201	琉球文学基礎演習Ⅰ	2		(2-0)	3	前	琉球文学研究の基礎的な事柄について発表と討議を行う。
	RB202	琉球文学基礎演習Ⅱ	2		(2-0)	3	後	琉球文学研究の基礎的な事柄について発表と討議を行う。
	RB211	琉球文学演習Ⅰ	2		(2-0)	4	前	琉球文学に関する研究発表と討議を行う。
	RB212	琉球文学演習Ⅱ	2		(2-0)	4	後	琉球文学に関する研究発表と討議を行う。
	RB221	中国文学基礎演習Ⅰ	2		(2-0)	3	前	中国文学の基礎的な事柄について発表と討議を行う。
	RB222	中国文学基礎演習Ⅱ	2		(2-0)	3	後	中国文学の基礎的な事柄について発表と討議を行う。
	RB231	中国文学演習Ⅰ	2		(2-0)	3	前	中国文学について発表と討議を行う。
	RB232	中国文学演習Ⅱ	2		(2-0)	3	後	中国文学について発表と討議を行う。
	RB241	日本古典文学基礎演習Ⅰ	2		(2-0)	3	前	日本古典文学の基礎的な事柄について発表と討議を行う。
	RB242	日本古典文学基礎演習Ⅱ	2		(2-0)	3	後	日本古典文学の基礎的な事柄について発表と討議を行う。
	RB251	日本古典文学演習Ⅰ	2		(2-0)	4	前	日本古典文学について発表と討議を行う。
	RB252	日本古典文学演習Ⅱ	2		(2-0)	4	後	日本古典文学について発表と討議を行う。
	RB261	日本近代文学基礎演習Ⅰ	2		(2-0)	3	前	日本近現代文学の基礎的な事柄について発表と討議を行う。
	RB262	日本近代文学基礎演習Ⅱ	2		(2-0)	3	後	日本近現代文学の基礎的な事柄について発表と討議を行う。
	RB271	日本近現代文学演習Ⅰ	2		(2-0)	4	前	日本近現代文学の基礎的な事柄について発表と討議を行う。
	RB272	日本近現代文学演習Ⅱ	2		(2-0)	4	後	日本近現代文学の基礎的な事柄について発表と討議を行う。
	RB281	朝鮮文学基礎演習Ⅰ	2		(2-0)	3	前	朝鮮文学の基礎的な事柄について発表と討議を行う。
	RB282	朝鮮文学基礎演習Ⅱ	2		(2-0)	3	後	朝鮮文学の基礎的な事柄について発表と討議を行う。
	RB291	朝鮮文学演習Ⅰ	2		(2-0)	3	前	朝鮮文学について発表と討議を行う。
	RB292	朝鮮文学演習Ⅱ	2		(2-0)	4	後	朝鮮文学について発表と討議を行う。
RB200	卒業論文		4	○	(4-0)	4	通年	卒業論文を指導する。

注1 上記の科目から12単位以上（卒業論文（必修）4単位含む）修得すること。

文学プログラム専門科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラム 発展科目	RB301	琉球文学講読Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前	琉球文学の代表的な作品の輪読を行う。
	RB302	琉球文学講読Ⅱ	2		(2-0)	2～4	後	琉球文学の代表的な作品の輪読を行う。
	RB303	琉球文学講読Ⅲ	2		(2-0)	2～4	前	琉球文学の代表的な作品の輪読を行う。
	RB304	琉球文学講読Ⅳ	2		(2-0)	2～4	後	琉球文学の代表的な作品の輪読を行う。
	RB305	琉球文学特講Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前	琉球文学の特殊な事項について講義を行う。
	RB306	琉球文学特講Ⅱ	2		(2-0)	2～4	後	琉球文学の特殊な事項について講義を行う。
	RB307	琉球文学特講Ⅲ	2		(2-0)	2～4	前	琉球文学の特殊な事項について講義を行う。
	RB308	琉球文学特講Ⅳ	2		(2-0)	2～4	後	琉球文学の特殊な事項について講義を行う。
	RB309	日本文学特講Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前	日本文学の特殊な事項について講義を行う。
	RB310	日本文学特講Ⅱ	2		(2-0)	2～4	後	日本文学の特殊な事項について講義を行う。
	RB311	日本文学特講Ⅲ	2		(2-0)	2～4	前	日本文学の特殊な事項について講義を行う。
	RB312	日本文学特講Ⅳ	2		(2-0)	2～4	後	日本文学の特殊な事項について講義を行う。
	RB313	日本古典文学講読Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前	日本古典文学の代表的な作品の輪読を行う。
	RB314	日本古典文学講読Ⅱ	2		(2-0)	2～4	後	日本古典文学の代表的な作品の輪読を行う。
	RB315	日本古典文学講読Ⅲ	2		(2-0)	2～4	前	日本古典文学の代表的な作品の輪読を行う。
	RB316	日本古典文学講読Ⅳ	2		(2-0)	2～4	後	日本古典文学の代表的な作品の輪読を行う。
	RB321	日本文学史Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前	日本文学の歴史的展開について理解する。
	RB322	日本文学史Ⅱ	2		(2-0)	2～4	後	日本文学の歴史的展開について理解する。
	RB323	中国古典文学講読Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前	中国古典文学の代表的な作品の輪読を行う。
	RB324	中国古典文学講読Ⅱ	2		(2-0)	2～4	後	中国古典文学の代表的な作品の輪読を行う。
	RB325	中国古典文学講読Ⅲ	2		(2-0)	2～4	前	中国古典文学の代表的な作品の輪読を行う。
	RB326	中国古典文学講読Ⅳ	2		(2-0)	2～4	後	中国古典文学の代表的な作品の輪読を行う。
	RB327	中国近現代文学講読Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前	中国近現代文学の代表的な作品の輪読を行う。
	RB328	中国近現代文学講読Ⅱ	2		(2-0)	2～4	後	中国近現代文学の代表的な作品の輪読を行う。
	RB329	中国近現代文学講読Ⅲ	2		(2-0)	2～4	前	中国近現代文学の代表的な作品の輪読を行う。
	RB330	中国近現代文学講読Ⅳ	2		(2-0)	2～4	後	中国近現代文学の代表的な作品の輪読を行う。
	RB331	中国古典文学特講Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前	中国古典文学の特殊な事柄について講義する。
	RB332	中国古典文学特講Ⅱ	2		(2-0)	2～4	後	中国古典文学の特殊な事柄について講義する。
	RB333	中国近現代文学特講Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前	中国近現代文学の特殊な事柄について講義する。
	RB334	中国近現代文学特講Ⅱ	2		(2-0)	2～4	後	中国近現代文学の特殊な事柄について講義する。
	RB347	日本文学野外実習Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前	野外での実習を行い、日本文学の歴史的、社会的背景などについて考究する。
	RB348	日本文学野外実習Ⅱ	2		(2-0)	2～4	後	野外での実習を行い、日本文学の歴史的、社会的背景などについて考究する。
	RB337	琉球文学野外調査Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前	野外で実習を行い、琉球文学の資料収集・分析方法について学ぶ。
	RB338	琉球文学野外調査Ⅱ	2		(2-0)	2～4	後	野外で実習を行い、琉球文学の資料収集・分析方法について学ぶ。
RB339	朝鮮文学講読Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前	朝鮮文学に関する文献を輪読する。	
RB340	朝鮮文学講読Ⅱ	2		(2-0)	2～4	後	朝鮮文学に関する文献を輪読する。	
RB341	朝鮮文学講読Ⅲ	2		(2-0)	2～4	前	朝鮮文学に関する文献を輪読する。	
RB342	朝鮮文学講読Ⅳ	2		(2-0)	2～4	後	朝鮮文学に関する文献を輪読する。	
RB343	朝鮮文学特講Ⅰ	2		(2-0)	2～4	前	朝鮮文学の特殊な事柄について講義・報告・討議を行う。	
RB344	朝鮮文学特講Ⅱ	2		(2-0)	2～4	後	朝鮮文学の特殊な事柄について講義・報告・討議を行う。	
RB345	朝鮮文学特講Ⅲ	2		(2-0)	2～4	前	朝鮮文学の特殊な事柄について講義・報告・討議を行う。	
RB346	朝鮮文学特講Ⅳ	2		(2-0)	2～4	後	朝鮮文学の特殊な事柄について講義・報告・討議を行う。	

注1 上記の科目から28単位以上修得すること。

言語学プログラム専門科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラムコア 基盤科目	RG111	中国語学概論Ⅰ	2		(2-0)	2~4	前	中国語と中国語を研究するための基礎的事項について講義する。
	RG112	中国語学概論Ⅱ	2		(2-0)	2~4	後	中国語と中国語を研究するための基礎的事項について講義する。
	RG121	日本語学概論Ⅰ	2		(2-0)	1~4	前	日本語学について、学問研究の基礎を講義する。
	RG122	日本語学概論Ⅱ	2		(2-0)	1~4	後	日本語学について、学問研究の基礎を講義する。
	RG131	琉球語学概論Ⅰ	2		(2-0)	1~4	前	琉球語についての基礎知識について講義する。
	RG132	琉球語学概論Ⅱ	2		(2-0)	1~4	後	琉球語についての基礎知識について講義する。

注1 上記の科目から8単位以上修得すること。

言語学プログラム専門科目（必修科目・選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラムコア 発展科目	RG211	琉球語学基礎演習Ⅰ	2		(2-0)	3	前	基礎的な琉球語研究の方法について発表と討議を行う。
	RG212	琉球語学基礎演習Ⅱ	2		(2-0)	3	後	基礎的な琉球語研究の方法について発表と討議を行う。
	RG221	琉球語学演習Ⅰ	2		(2-0)	4	前	琉球語研究の方法について発表と討議を行う。
	RG222	琉球語学演習Ⅱ	2		(2-0)	4	後	琉球語研究の方法について発表と討議を行う。
	RG231	中国語学基礎演習Ⅰ	2		(2-0)	3	前	中国語を研究するための基礎的事項について発表と討議を行う。
	RG232	中国語学基礎演習Ⅱ	2		(2-0)	3	後	中国語を研究するための基礎的事項について発表と討議を行う。
	RG241	中国語学演習Ⅰ	2		(2-0)	4	前	中国語の特質・諸問題を取り上げて発表と討議を行う。
	RG242	中国語学演習Ⅱ	2		(2-0)	4	後	中国語の特質・諸問題を取り上げて発表と討議を行う。
	RG251	日本語学基礎演習Ⅰ	2		(2-0)	3	前	日本語の基礎的事項を取り上げて発表と討議を行う。
	RG252	日本語学基礎演習Ⅱ	2		(2-0)	3	後	日本語の基礎的事項を取り上げて発表と討議を行う。
	RG261	日本語学演習Ⅰ	2		(2-0)	4	前	日本語の特質・諸問題を取り上げて発表と討議を行う。
	RG262	日本語学演習Ⅱ	2		(2-0)	4	後	日本語の特質・諸問題を取り上げて発表と討議を行う。
	RG200	卒業論文	4	○	(4-0)	4	通年	卒業論文を指導する。

注1 上記の科目から12単位以上（卒業論文（必修）4単位含む）修得すること。

言語学プログラム専門科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
プログラム 発展科目	RG301	音声学Ⅰ	2		(2-0)	2~4	前	言語の音声、音韻について学ぶ。
	RG302	音声学Ⅱ	2		(2-0)	2~4	後	言語の音声、音韻について学ぶ。
	RG303	琉球語学特講Ⅰ	2		(2-0)	2~4	前	さまざまな琉球語の事項について講義する。
	RG304	琉球語学特講Ⅱ	2		(2-0)	2~4	後	さまざまな琉球語の事項について講義する。
	RG305	琉球語学特講Ⅲ	2		(2-0)	2~4	前	さまざまな琉球語の事項について講義する。
	RG306	琉球語学特講Ⅳ	2		(2-0)	2~4	後	さまざまな琉球語の事項について講義する。
	RG307	琉球語学特講Ⅴ	2		(2-0)	2~4	前	さまざまな琉球語の事項について講義する。
	RG308	琉球語学特講Ⅵ	2		(2-0)	2~4	後	さまざまな琉球語の事項について講義する。

プログラム 発展科目	RG309	言語地理学実地調査 I	2	(2-0)	2~4	前	言語地理学のための資料を実地調査によって収集し、言語地図を作成して言語の歴史を学ぶ。
	RG310	言語地理学実地調査 II	2	(2-0)	2~4	後	言語地理学のための資料を実地調査によって収集し、言語地図を作成して言語の歴史を学ぶ。
	RG311	琉球語学野外調査 I	2	(2-0)	2~4	前	学外で臨地調査を行い琉球語の研究方法を学ぶ。
	RG312	琉球語学野外調査 II	2	(2-0)	2~4	後	学外で臨地調査を行い琉球語の研究方法を学ぶ。
	RG313	琉球語学野外調査 III	2	(2-0)	2~4	前	学外で臨地調査を行い琉球語の研究方法を学ぶ。
	RG314	琉球語学野外調査 IV	2	(2-0)	2~4	後	学外で臨地調査を行い琉球語の研究方法を学ぶ。
	RG315	中国語史 I	2	(2-0)	2~4	前	中国語の歴史的展開について講義する。
	RG316	中国語史 II	2	(2-0)	2~4	後	中国語の歴史的展開について講義する。
	RG317	中国語学特講 I	2	(2-0)	2~4	前	中国語学に関する特定のテーマの講義・報告・討議を行う。
	RG318	中国語学特講 II	2	(2-0)	2~4	後	中国語学に関する特定のテーマの講義・報告・討議を行う。
	RG319	中国語学特講 III	2	(2-0)	2~4	前	中国語学に関する特定のテーマの講義・報告・討議を行う。
	RG320	中国語学特講 IV	2	(2-0)	2~4	後	中国語学に関する特定のテーマの講義・報告・討議を行う。
	RG321	中国語学講読 I	2	(2-0)	2~4	前	中国語学に関する文献を輪読する。
	RG322	中国語学講読 II	2	(2-0)	2~4	後	中国語学に関する文献を輪読する。
	RG323	中国語学講読 III	2	(2-0)	3~4	前	中国語学に関する文献を輪読する。
	RG324	中国語学講読 IV	2	(2-0)	3~4	後	中国語学に関する文献を輪読する。
	RG325	日本語学特講 I	2	(2-0)	2~4	前	日本語学の各分野をとりあげ、講義・報告・討議を行う。
	RG326	日本語学特講 II	2	(2-0)	2~4	後	日本語学の各分野をとりあげ、講義・報告・討議を行う。
	RG327	言語学外書講読 I	2	(2-0)	2~4	前	言語学に関する外国語文献を輪読する。
	RG328	言語学外書講読 II	2	(2-0)	2~4	後	言語学に関する外国語文献を輪読する。
	RG329	言語学外書講読 III	2	(2-0)	2~4	前	言語学に関する外国語文献を輪読する。
	RG330	言語学外書講読 IV	2	(2-0)	2~4	後	言語学に関する外国語文献を輪読する。
	RG331	古典日本語概論 I	2	(2-0)	2~4	前	古典日本語の基礎的事項について講義する。
	RG332	古典日本語概論 II	2	(2-0)	2~4	後	古典日本語の基礎的事項について講義する。
	RG333	日本語文法論 I	2	(2-0)	2~4	前	日本語文法論における諸分野についてまなぶ。
	RG334	日本語文法論 II	2	(2-0)	2~4	後	日本語文法論における諸分野についてまなぶ。
	RG335	書道	1	(2-0)	2~4	後	硬筆および毛筆による書の理論と実習
	RG340	海外文化研修	2	(0-2)	1~4	前又は後	海外で研修をおこない、異文化理解を深める。

注1 上記の科目から28単位以上修得すること。

琉球アジア文化学科（歴史・民俗プログラム、文学プログラム、言語学プログラム）卒業要件（学部規程第16条別表）

区 分		プログラム			
		歴史・民俗学プログラム	文学プログラム	言語学プログラム	
専 門 教 育	学部共通専門科目	学部共通基盤科目	6	6	6
		平和共生・沖縄理解基盤科目	4	4	4
	学科共通専門科目	学科基盤科目 ※1	4	4	4
		学科発展科目 ※2	4	4	4
	プログラム専門科目	プログラムコア基盤科目	8	8	8
		プログラムコア発展科目	12	12	12
		プログラム発展科目	28	28	28
専門自由科目 ※3		22	22	22	
小 計		88	88	88	
共 通 教 育 ※ 4	教養領域・総合領域・基 幹領域（情報関係）	健康運動系科目	2	2	2
		その他の領域	18	18	18
		人文系科目	2	2	2
		社会系科目	2	2	2
		自然系科目	2	2	2
		総合科目			
		琉大特色・地域創生科目			
	キャリア関係科目				
	情報関係科目	2	2	2	
	（平和共生・沖縄理解科目群 ※5）		（ 6 ）	（ 6 ）	（ 6 ）
基幹領域（外国語）	第1外国語	8	8	8	
	第2外国語	8	8	8	
小 計		36	36	36	
総 単 位 数 ※6		124	124	124	

※1 他プログラムのプログラムコア基盤科目を学科基盤科目として扱う。

※2 他プログラムのプログラム発展科目を学科発展科目として扱う。

※3 専門自由科目とは次のとおりとする。
 ・他プログラム・他学科・他学部提供の専門教育科目
 ・本プログラムの選択科目の履修要件を超えた専門教育科目
 ・卒業要件に相当する単位数を超えた共通教育科目（10単位まで）

※4 共通教育等の履修要件の詳細については「琉球大学共通教育等履修規程」及び同規程別表3「各学部学科等別共通教育等履修基準表」を参照すること。
 共通教育科目のうち、教養領域（健康運動系科目）および基幹領域（外国語）を除く合計が18単位以上になるよう履修すること。
 その際、人文系科目、社会系科目、自然系科目、情報関係科目からそれぞれ2単位以上取得すること。
 情報関係科目は「情報科学演習」の1科目2単位を履修すること。
 さらに、平和共生・沖縄理解科目群の科目も6単位以上取得すること。
 平和共生・沖縄理解科目群の科目はそれぞれ人文系、社会系、総合領域の単位としてもカウントされる。

※5 平和共生・沖縄理解科目群

科目番号	科目名	科目番号	科目名	科目番号	科目名
社06	戦争と平和の諸問題	琉02	核の科学	琉33	現代の国際関係
人06	西洋思想と日本・中国の思想	琉03	女性と社会	琉41-2	琉球アジア研究入門
人09	環境の哲学	琉05	沖縄の基地と戦跡Ⅰ	琉46	沖縄の政治と社会
人16	比較思想文化論	琉06	沖縄の基地と戦跡Ⅱ	琉48	うちなーぐちあしび
人18	宗教と世界	琉14	琉球の文学	琉50	沖縄の学力と教育
人19	人間と宗教	琉22	琉球の自然	琉51	琉球語入門Ⅰ
総14	環境問題	琉23	琉球の自然保護	琉52	琉球語入門Ⅱ
総47	総合環境学概論	琉24	沖縄のサンゴ礁	琉54	沖縄の歴史入門
総62	環境と文学	琉25	琉球弧の自然誌	琉55	琉球学入門
琉01	平和論	琉26	琉球の地理	琉56	琉球の自然と人
				琉71	現代沖縄地域論

※6 卒業単位は124単位以上とする。

【履修方法】

- 一学期に登録できる単位数の上限は、20単位である。ただし、集中講義はこの中に含まない。
 直前に在学した学期の5段階評価によるGPAが3.0以上の者は指導教員の指導・承認を得て26単位まで認める。
 また、教員免許等の資格取得予定者には指導教員の指導・承認を得て26単位まで認める。
- 琉球アジア文化学科の学生は、三つのプログラムから一つを選び、卒業までにそのプログラムが必要とする単位を修めること。
 また学部共通科目「琉球アジア研究概論」は、琉球アジア文化学科の学生の必修科目であるので全員取得すること。
- 教員免許を取得したい学生は、教育学部の提供する教職科目以外に教員職員免許法施行規則第3条又は第4条により必要な科目を履修すること。

学部共通科目（教職科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
教職課程	HS211	国語科教育法D	2		(2-0)	3	後	中・高校の国語科教育の具体的課題についての考究
	HS212	国語科教育法A	2		(2-0)	2～3	前又は後	
	HS213	国語科教育法B	2		(2-0)	2～3	前又は後	
	HS214	国語科教育法C	2		(2-0)	2～3	前又は後	
	HS215	公民科教育法I	2		(2-0)	2～3	前又は後	
	HS216	公民科教育法II	2		(2-0)	2～3	前又は後	

学部共通科目（選択科目）

科目区分	科目番号	授業科目	単位数	必修	週時間	受講年次	学期	授業内容
キャリア形成科目	HS201	キャリア演習I	2		(2-0)	2～3	前又は後	自らのキャリアデザインを見据えた就職活動の開始準備
	HS202	キャリア演習II	2		(2-0)	2～3	前又は後	本格的な就職活動に向けた具体的な活動の開始準備

社会福祉士国家試験受験資格取得に関する履修要項

1. 社会福祉士とは

「社会福祉士及び介護福祉士法」(1987年制定、2007年改正)により創設された相談援助に関わる福祉専門職の国家資格である。

この資格は、「社会福祉士の名称を用いて、専門知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること又は環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導、福祉サービスを提供する者又は医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者との連絡及び調整その他の援助を行うことを業と」(法2条)するものである。

2. 資格取得方法

社会福祉士の資格を取得するためには、まず国家試験の受験資格を得た後に、国家試験に合格し、厚生労働省備付けの社会福祉士登録簿に登録しなければならない。登録にかかる必要書類については、合格通知と合わせ、試験センターより発送される。

1) 受験資格要件

本学において社会福祉士試験の受験資格を得ようとするものは、「社会福祉士及び介護福祉士法」第7条第1号に基づき、厚生労働大臣が指定した社会福祉に関する科目(以下、「指定科目」という)を修めて卒業すること(もしくは卒業見込みであること)が必要である。

琉球大学において「指定科目」を修めるためには、次の表に示す科目を履修し単位を取得しなければならない。

指定科目	琉球大学が提供する授業科目		
	科目番号	授業科目	単位
医学概論	SW 304	医学概論	2
心理学と心理的支援	PSY101	心理学概論 I	2
社会学と社会システム	SOC111	社会学原論 I	2
	SOC211	社会学原論 II	2
社会福祉の原理と政策	SW 100	社会福祉原論 I	2
	SW 201	社会福祉原論 II	2
社会福祉調査の基礎	SOC216	社会調査法 I	2
ソーシャルワークの基盤と専門職	SW 307	ソーシャルワーク論 I	2
ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)	SW 308	ソーシャルワーク論 II	2
ソーシャルワークの理論と方法	SW 202	ソーシャルケースワーク I	2
	SW 203	ソーシャルケースワーク II	2
ソーシャルワークの理論と方法(専門)	SW 220	ソーシャルグループワーク	4
地域福祉と包括的支援体制	SW 219	地域福祉の理論と方法	4
福祉サービスの組織と経営	SW 216	社会福祉運営管理論	2

指定科目	琉球大学が提供する授業科目		
	科目番号	授業科目	単位
社会保障	LAW 291	基礎社会保障法	2
	SW 218	社会保障論	2
高齢者福祉	SW 210	高齢者福祉論	2
障害者福祉	SW 200	障害者福祉論	2
児童・家庭福祉	SW 205	児童福祉論Ⅰ	2
	SW 206	児童福祉論Ⅱ	2
貧困に対する支援	SW 209	公的扶助論	2
保健医療と福祉	SW 217	保健医療概論	2
権利擁護を支える法制度	SW 310	権利擁護を支える法制度	2
刑事司法と福祉	SW 311	刑事司法と福祉	2
ソーシャルワーク演習	HS 103	基礎演習Ⅲ	2
ソーシャルワーク演習（専門）	SW 204	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
	SW 302	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2
	SW 303	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2
ソーシャルワーク実習指導	SW 211	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2
	SW 305	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2
	SW 306	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2
ソーシャルワーク実習	SW 300	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2
	SW 301	ソーシャルワーク実習Ⅱ	2

2) 国家試験について

国家試験は、受験申し込み受付期間は前年の9月から約1カ月間で、毎年1月末から2月初め頃に県内を含む全国各地で実施されている。

詳しい問い合わせについては、次の試験センターにて行うこと。

(公財) 社会福祉振興・試験センター (03-3486-7559)

<http://www.sssc.or.jp/about/access.html>

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6 SEMPOS (センポス) ビル

琉球大学国際地域創造学部規程

平成30年2月28日
制 定

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人琉球大学組織規則第27条第2項の規定に基づき、琉球大学学則に定めるもののほか、琉球大学国際地域創造学部（以下「本学部」という。）の授業科目、単位、履修方法その他必要な事項を定める。

(教育研究上の目的)

第2条 本学部は、複合分野（観光、経営、経済、文学・言語、地理・歴史・人類学）の学際的学び及び各専門分野における体系的な学びを通して、「専門基盤力と地域国際基盤力」を身につけ、複雑化・多様化する国際及び地域課題に挑戦し、解決する高い専門能力を有する人材を養成する教育・研究を行う。

(昼間主及び夜間主コース制)

第3条 国際地域創造学部国際地域創造学科に、学生の教育上の区分として主として昼間に授業を行うコース（以下「昼間主コース」という。）及び主として夜間に授業を行うコース（以下「夜間主コース」という。）を置く。

(教育プログラム)

第4条 昼間主コース及び夜間主コースに、履修上の区分として、次の表に掲げる教育プログラムを置く。

昼間主コース	観光地域デザインプログラム，経営プログラム，経済学プログラム，国際言語文化プログラム，地域文化科学プログラム
夜間主コース	経営プログラム，経済学プログラム，国際言語文化プログラム

2 前項の規定に定めるもののほか、教育プログラムに関し必要な事項は、別に定める。

(共通教育等の授業科目の種類等)

第5条 共通教育及び専門基礎教育の授業科目の種類、単位数、履修方法等は、琉球大学共通教育等履修規程の定めるところによる。

(専門教育の授業科目の種類等)

第6条 専門教育の授業科目の種類、履修方法等は、別表に掲げるとおりとする。

(授業科目の公示)

第7条 各学期に開講する授業科目、授業時間、単位数及び担当教員は、学期の初めに公示する。ただし、臨時に開講する授業科目については、その都度、公示する。

(単位)

第8条 専門教育の授業科目の単位の計算は、次に掲げる基準により行う。

- (1) 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育上必要があると認められる場合には、30時間の授業をもって1単位とすることができる。
 - (2) 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育上必要があると認められる場合には、30時間の授業をもって1単位とすることができる。
 - (3) 1つの授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合において、講義及び演習については係数3（ただし、演習については、教育上必要があると認められる場合には係数1.5とする。）、実験及び実習については係数1（ただし、教育上必要があると認められる場合には係数1.5とする。）に対し、それぞれの授業時間を乗じて得た数値の和が45時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業研究等については、学修の成果を評価して単位を授与することが適当であると認められる場合には、必要な学修を考慮して、単位数を定めるものとする。
- 3 前2項の規定に基づく各授業科目の単位数及び週時間については、別表に掲げるとおりとする。

(登録、試験、単位の認定等)

第9条 登録、試験、単位の認定等については、琉球大学各学部共通細則の定めるところによる。

(編入学)

第10条 編入学については、琉球大学編入学規程の定めるところによる。

(特別編入学)

第11条 特別編入学については、琉球大学学則第29条の2の定めるところによる。

(転入学)

第12条 転入学については、琉球大学転入学規程の定めるところによる。

(再入学)

第13条 再入学については、琉球大学再入学規程の定めるところによる。

(転学部)

第14条 転学部については、琉球大学転学部、転学科、転課程に関する規程の定めるところによる。

(昼夜間主コースの変更)

第15条 昼夜間主コースの変更については、琉球大学転学部、転学科、転課程に関する規程（1972年3月27日制定）を準用する。

(転学)

第16条 本学部の学生で他の大学に入学又は転入学を希望する者は、指導教員及び学部長を経て学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第17条 留学については、琉球大学留学等及び特別聴講学生に関する規程の定めるところによる。

(卒業の要件)

第18条 卒業するには、琉球大学（以下「本学」という。）に4年以上在学し、別表に掲げる単位を修得しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、第3年次特別編入学者の卒業の要件は、本学に2年以上在学し、別表に掲げる単位（第3年次特別編入学以前に在学していた大学、短期大学、高等専門学校等で修得した単位のうち、本学の卒業要件に係る単位として換算する単位（以下「換算単位」という。）を含む。）を修得するものとする。この場合において、換算単位については、教授会が判定する。

(教員免許)

第19条 教育職員の免許状授与の資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）の定めるところにより、別に定める単位を修得しなければならない。

(研究生)

第20条 研究生については、琉球大学研究生規程の定めるところによる。

(特別聴講学生)

第21条 特別聴講学生については、琉球大学留学等及び特別聴講学生に関する規程の定めるところによる。

(科目等履修生)

第22条 科目等履修生については、琉球大学科目等履修生規程の定めるところによる。

(外国人学生)

第23条 外国人学生については、琉球大学外国人学生規程の定めるところによる。

(指導教員)

第24条 学生の修学、進路、就職、学生生活等の指導のため、年次ごとに指導教員を置く。

2 前項の規定に定めるもののほか、指導教員については、琉球大学における指導教員に関する規程の定めるところによる。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則 (平成31年2月27日)

- 1 この規程は、平成31年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表の規定にかかわらず、平成31年3月31日に本学部 に在学する者については、なお従前の例による。

附 則 (令和2年3月25日)

- 1 この規程は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表の規定にかかわらず、令和2年3月31日に本学部 に在学する者については、なお従前の例による。

附 則 (令和3年1月20日)

- 1 この規程は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 改正後の別表の規定にかかわらず、令和3年3月31日に本学部 に在学する者については、なお従前の例による。

国際地域創造学部におけるプログラム配属の確定に関する内規

平成 31 年 1 月 23 日
制 定

1. 国際地域創造学部入学者のプログラム配属の確定は、昼間主、夜間主ともに 2 年次前期開始時とする。配属先の決定は、以下の基準と手順によって行う。

【基準】

- ① 学生本人の希望
- ② 入学してからの 2 個学期の成績開示日における成績 (GPA)
※GPA が同一の場合、成績が「A」の科目数が多い順に順位付けする。それでも同一順位の学生が複数いた場合は、「B」「C」「D」の順に、科目数の多い学生を順位の上位とする。
なお、平成 30 年度入学生に関しては、昼間主は 1 年次後学期および 2 年次前期の成績、夜間主は 1 年次後学期の成績をその対象とする。
- ③ 入学してからの 2 個学期における合計取得単位数の下限充足 (昼間主、夜間主ともに 32 単位を、合計取得単位数の下限とする)

【手順】

- 1) 基準③を満たしている学生を対象に、第 1 希望のプログラムの受入人員の目安まで GPA の上位者から順に配属を決定する。次に、第 1 希望で配属者数が受入人員の目安に達していないプログラムに対しては、同様の手順を第 2 希望、第 3 希望の順に (昼間主の場合は第 5 希望まで) 繰り返し、プログラムの受入人員の目安を考慮して配属する。
- 2) 基準③を満たしていない学生を対象に、プログラムの残余受入人数をもとに、①と同様の手順に従い、配属を行う。
- 3) 希望順位を第 5 希望 (夜間主の場合は第 3 希望) まで記入していない場合、希望していないプログラムに配属されることがある。また、配属希望届けを指定された期限内に提出しなかった者は、希望に関わらずプログラムを決定することがある。
- 4) 配属対象学生数が目安定員 (昼間主 : 265、夜間主 : 80) を超えた際、目安定員を超えた人数をプログラム数 (昼間主 5、夜間主は 3) で割り、1 未満の端数があれば繰り上げ、各プログラムの目安定員に追加する。なお、各プログラムの目安定員は、下記のとおりとする。

〈各プログラム目安定員〉

- ・ 観光地域デザインプログラム (昼間主：60名)
- ・ 経営プログラム (昼間主：60名、夜間主：20名)
- ・ 経済学プログラム (昼間主：65名、夜間主：30名)
- ・ 国際言語文化プログラム (昼間主：48名、夜間主：30名)
- ・ 地域文化科学プログラム (昼間主：32名)

2. 上記の手順を経て決定した配属プログラムについては、昼間主、夜間主ともに1年次後期終了時(3月末)までに、掲示等、所定の方法で通知する。

附 則

この内規は、平成31年1月23日から施行する。

附 則 (令和2年8月26日)

この内規は、令和2年8月26日から施行する。

附 則 (令和3年1月20日)

この内規は、令和3年1月20日から施行する。

附 則 (令和5年11月22日)

- 1 この内規は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規定にかかわらず、令和6年3月31日に本学部にて在学する者については、なお従前の例による。

琉球大学国際地域創造学部における配属プログラムの変更に関する内規

〔平成31年1月23日
制 定〕

1. 配属プログラムの変更を希望する学生については、所定の手続きを経て学部長がこれを決定する。
2. プログラム配属の変更を希望する学生は、指定する日（希望する配属プログラム変更の開始時期が前学期の場合は前年度の1月10日、後学期の場合は当該年度の7月10日）までの間に、学部長（本学部学務担当）に願書を提出しなければならない。ただし、休学にあるものはこれを認めない。
3. プログラム配属の変更を志願する者に対しては、教務委員会による第一次審査（書類審査）及び配属希望先プログラムによる第二次審査を行うものとし、その審査項目は、次の各号に掲げるとおりとする。
 - 第一次審査：教務委員会（書類審査）
 - (1) 配属希望先プログラムの目安定員（上限は目安定員の105%）

各プログラム目安定員（収容定員を基準とする。）		
観光地域デザインプログラム	昼間主 60名	
経営プログラム	昼間主 60名	夜間主 20名
経済学プログラム	昼間主 65名	夜間主 30名
国際言語文化プログラム	昼間主 48名	夜間主 30名
地域文化科学プログラム	昼間主 32名	
 - (2) 当該学生の成績（GPA）
 - 第二次審査：配属希望先プログラム
 - (1) 申請理由
 - (2) 当該学生が申請時まで履修した全科目の成績（GPA）
 - (3) その他（面接等）
4. 配属プログラムの変更は、前項の審査結果に基づき、代議会の議を経て学部長が許可する。
5. 配属プログラムの変更を許可された者の在学すべき年数及び年次は、代議会の議を経て学部長が決定する。

附 則

この内規は、平成31年1月23日から施行する。

附 則（令和3年7月21日）

- 1 この内規は、令和3年7月21日から施行する。
- 2 琉球大学国際地域創造学部における配属プログラムの変更に関する細則（令和2年3月25日制定）は、廃止する。

国際地域創造学部における休学等した学生に対するプログラム配属確定に
関する申合せ

〔令和元年 9 月 18 日〕
制 定

1. この申合せに該当する学生は、プログラム配属の確定に必要な期間（昼間主、夜間主：2 個学期）の最終学期が、昼間主、夜間主ともに前学期になる者をいう。
2. 該当する学生のプログラム配属確定は、以下の手順で行う。

【手順】

- 1) 第 1 希望のプログラムは、当該年次の学生数が目安定員を下回っている場合、必ず受け入れる。
- 2) 第 1 希望のプログラムは、当該年次の学生数が目安定員を上回っている場合、本申し合わせ該当者と同年次の既配属学生の（昼間主、夜間主ともに 1 年次後学期までの）GPA 最下位を基準に、受入を審議する。
- 3) 2) により受入不可となった場合、第 2 希望のプログラムは、当該年次の学生数が目安定員を下回っているならば、必ず受け入れる。
- 4) 2) により受入不可となった場合、第 2 希望のプログラムは、当該年次の学生数が目安定員を上回っているならば、本申し合わせ該当者と同年次の既配属学生の（昼間主、夜間主ともに 1 年次後期までの）GPA 最下位を基準に、受入を審議する。
- 5) 3) もしくは 4) の手順を経てもなお配属プログラムが確定しない場合、同様の手順を、昼間主ならば第 3 希望から第 5 希望まで、夜間主なら第 3 希望において、確定するまで繰り返す。

附 則

- 1 この申合せは、令和元年 9 月 18 日から実施する。
- 2 この申合せ実施後、必要に応じ見直しを行うこととする。

附 則（令和 5 年 11 月 22 日）

- 1 この内規は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の規定にかかわらず、令和 6 年 3 月 31 日に本学部 に在学する者については、なお従前の例による。

国際地域創造学部における長期履修制度の適用学生に対する
プログラム配属確定に関する申合せ

〔令和5年9月27日〕
制 定

1. この申合せは、琉球大学学則第17条の2に基づき、長期履修制度の適用学生に対するプログラム配属時期、配属手順その他必要な事項を定める。
2. この申合せに該当する学生は、プログラム配属の前に長期履修制度の適用を受けて現在において自ら策定した長期計画に基づき単位履修を行なっている者をいう。
3. 該当する学生のプログラム配属は、「国際地域創造学部における休学等した学生に対するプログラム配属確定に関する申合せ」と同じ取り扱いとし、学部の定めた通常のプログラム配属の時期に行う。
4. 該当する学生のプログラム配属の確定は、以下の手順で行う。

【手順】

- 1) 第1希望のプログラムは、当該年次の学生数が目安定員を下回っている場合、必ず受け入れる。
- 2) 第1希望のプログラムは、当該年次の学生数が目安定員を満たしている又は上回っている場合、本申合せ該当者と入学年度を同じくする既配属学生（休学者を除く）の規定学期のGPA最下位を基準とし、併せて長期計画に基づく単位履修状況を考慮し、受入を審議する。
- 3) 2)により受入不可となった場合、第2希望のプログラムは、当該年次の学生数が目安定員を下回っているならば、必ず受け入れる。
- 4) 2)により受入不可となった場合、第2希望のプログラムは、当該年次の学生数が目安定員を満たしている又は上回っているならば、本申合せ該当者と入学年度を同じくする既配属学生（休学者を除く）の規定学期のGPA最下位を基準とし、併せて長期計画に基づく単位履修状況を考慮し、受入を審議する。
- 5) 3)もしくは4)の手順を経てもなお配属プログラムが確定しない場合、同様の手順を、昼間主ならば第3希望から第5希望まで、夜間主なら第3希望において、確定するまで繰り返す。

附 則

- 1 この申合せは、令和 5 年 9 月 27 日から実施する。
- 2 この申合せ実施後、必要に応じ見直しを行うこととする。

琉球大学国際地域創造学部転学部及び転コースに関する内規

（ 令和元年7月24日
制 定 ）

（趣旨）

第1条 この内規は、琉球大学国際地域創造学部（以下「本学部」という。）における転学部及び転コース（以下「転学部等」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（条件）

第2条 昼間主コース及び夜間主コースともに、2年次前期以降への転入を認める。

2 原則として、プログラム配属前の国際地域創造学科への転入は認めない。

（審査）

第3条 転学部等を志願する者の選考は、次の各号により審査する。

- (1) 当該学部が課す科目の試験
- (2) 在学中の成績
- (3) 入学した際の入学者選抜学力試験の成績
- (4) 面接

2 前項の審査は、志望先プログラムが実施する。

（決定）

第4条 転学部等を許可された者の在学すべき年数及び年次は、本学部代議会が決定する。

（雑則）

第5条 この内規に定めるもののほか、転学部等に必要な事項は、教授会において定める。

附 則

この内規は、令和元年7月24日から実施する。

附 則（令和5年11月22日）

- 1 この内規は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 改正後の規定にかかわらず、令和6年3月31日に琉球大学に在学する者については、なお従前の例による。

○琉球大学国際地域創造学部におけるデータサイエンティスト養成履修カリキュラム実施要項

(令和4年1月26日制定)

改正 令和5年3月15日要項第1号

改正 令和6年2月21日要項第2号

改正 令和6年2月21日要項第3号

(趣旨)

第1条 この要項は、琉球大学国際地域創造学部(以下「本学部」という。)が開設するデータサイエンティスト養成履修カリキュラム(以下「本カリキュラム」という。)の実施に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 本カリキュラムは、琉球大学における数理データサイエンス教育に関する基本方針(令和2年5月19日グローバル教育支援機構会議策定)に基づき、数理・データサイエンス・AI分野における初級・中級程度の知識と技能を修得し、その能力を様々な分野の価値創造につなげていくことのできる人材の養成を目的とする。

(受講対象)

第3条 本カリキュラムは、本学部の学生のみならず、他学部の学生による受講も可能とする。ただし、受講希望者が受講可能人数を超過する場合は、本学部学生の受講を優先する。

(授業科目の区分、科目番号等)

第4条 本カリキュラムの対象となる授業科目の区分、科目番号、位置付け、名称、単位数、受講年次及び開講学期並びに本カリキュラムの修了要件は別表のとおりとする。

(修了の認定)

第5条 別表に定める修了要件を満たした者に対しては、本カリキュラムの修了を認定する。

(修了証の授与)

第6条 前条の規定により本カリキュラムを修了したと認定する者に対して、修了証(別紙様式第1号)を授与する。

2 前項に規定する修了証の授与は、デジタル証明書(当該者が本カリキュラムを修了したことを証明するために作成された電磁的記録をいう。)の発行をもって代えることができる。

(庶務)

第7条 本カリキュラムの庶務は、本学部学務係が行う。

附 則

この要項は、令和4年1月26日から実施する。

附 則(令和5年3月15日要項第1号)

この要項は、令和5年4月1日から実施する。

附 則(令和6年2月21日要項第2号)

この要項は、令和6年2月21日から実施する。

附 則(令和6年2月21日要項第3号)

この要項は、令和6年4月1日から実施する。

別表(第4条関係)

修了要件	授業科目	単位数	受講年次	開講学期
リテラシーレベル				
必修科目	データサイエンス概論	2	「学生便覧」及び「授業時間割配当表」に基づく。	
	データサイエンス初級	2		
選択科目	AI 入門	2		
応用基礎レベル				
必修科目	データサイエンスのための Python プログラミング	2	「学生便覧」及び「授業時間割配当表」に基づく。	
	データサイエンス中級	2		
選択必修科目 1科目以上を修得	データサイエンスのための基礎数学	2		
	社会科学のための統計入門	2		
	経済数学(基礎)	2		
	経済数学(応用)	2		
	基礎統計学	2		
選択科目	データサイエンス上級	2		
	データサイエンス実践演習Ⅰ	2		
	データサイエンス実践演習Ⅱ	2		
	データサイエンス実践演習Ⅲ	2		

※ リテラシーレベルは、必修科目2科目(4単位)を修了要件とする。

応用基礎レベルは、必修科目2科目(4単位)と選択必修科目1科目(2単位)以上を修了要件とする。

※ AI 入門、データサイエンス上級、データサイエンス実践演習Ⅰ、データサイエンス実践演習Ⅱ及びデータサイエンス実践演習Ⅲの単位は、修了要件には含まない。

※ 隔年開講の科目があるため、「授業時間割配当表」で確認してください。

別紙様式第 1 号(第 6 条関係)

修了証

[別紙参照]

別紙様式第1号（第6条関係）

第 号

修 了 証

氏 名

生年月日

所属学部

琉球大学国際地域創造学部が開設するデータサイエンティスト養成履修カリキュラム
（〇〇レベル）を修了したことを証する。

（元号） 年 月 日

琉球大学長 ○ ○ ○ ○ （印）

琉球大学国際地域創造学部長 ○ ○ ○ ○ （印）

令和6年度版

琉球大学 国際地域創造学部 データサイエンティスト 養成履修カリキュラム

カリキュラムの背景と目標

本カリキュラムは、デジタル社会の「読み・書き・そろばん」といわれる、数理・データサイエンス・AIの基礎的素養を育成するため、令和2（2020）年度に国際地域創造学部で開設されました。

データサイエンス（データを処理し、高度なデータ解析を行う分野）の初級・中級程度の能力を養い、養った力を様々な分野において「価値創造」につなげることでできる人材養成を目指しています。

「地域×データサイエンス」「産業×データサイエンス」「文化×データサイエンス」のように、皆さんの専門分野にデータサイエンスの素養をうまく掛け合わせることで、専門分野の学びがより深まることを期待しています。

受講対象の学生

- 国際地域創造学部の在学生（プログラム配属後は全プログラム所属学生）
- 国際地域創造学部以外の他学部生も受講可

修了証の発行

必要な科目を履修し、単位を修得した者にはデータサイエンティストの素養を琉球大学が証明する「修了証」を交付します。



認定期限：令和6年3月31日



認定期限：令和9年3月31日

リテラシーレベル

修了要件：必修4単位

【必修科目】

データサイエンス概論

データサイエンス初級

【選択科目】

AI入門

応用基礎レベル

修了要件：必修4単位＋選択必修2単位以上

【プログラミング科目：必修】

データサイエンスのための
Pythonプログラミング

【数学系科目：選択必修 (いずれか2単位以上を選択)】

データサイエンスのための基礎数学

社会科学のための統計入門

基礎統計学

経済数学（基礎）

経済数学（応用）

【DS・AI科目：必修】

データサイエンス中級

【選択科目】

データサイエンス上級

データサイエンス実践演習Ⅰ

データサイエンス実践演習Ⅱ

データサイエンス実践演習Ⅲ



(別表) 授業科目の種類及び履修方法

国際地域創造学部教職課程

科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
学共 501	社会科教育法A	2	(2-0)	2~4	前又は後	社会科教育の目標、内容、方法等に関する指導
学共 502	社会科教育法B (地理歴史系)	2	(2-0)	3~4	前又は後	社会科教育 (地理歴史系) の目標、内容、方法等に関する指導
学共 503	社会科教育法C	2	(2-0)	3~4	前又は後	社会科教育 (公民系) の目標、内容、方法等に関する指導
学共 504	社会科教育法D	2	(2-0)	3~4	前又は後	社会科教育 (公民系) の目標、内容、方法等に関する指導
学共 505	地理歴史科教育法	2	(0-2)	3~4	前又は後	地理歴史科教育の目標、内容、方法に関する指導
学共 506	英語科教育法A	2	(2-0)	2	後	指導計画、指導案作成、模擬授業、授業研究
学共 507	英語科教育法B	2	(2-0)	3	前	指導計画、指導案作成、模擬授業、授業研究
学共 508	英語科教育法C	2	(2-0)	3	後	指導計画、指導案作成、模擬授業、授業研究
学共 509	英語科教育法D	2	(2-0)	4	前	指導計画、指導案作成、模擬授業、授業研究

学部共通基盤専門科目（昼間主コース）

専門基盤力科目

科目番号	授業科目	提供先プログラム	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
学共100	基礎演習		2	2-0	1	前	初年次教育をベースに、大学での学び方、レポートや論文の書き方、情報の検索と活用法、キャリア教育の最初の一步、等について学ぶ。
学共101	観光地域デザイン入門Ⅱ-観光学概論	観光	2	2-0	1	後	観光学の基礎的な知識や考え方を学ぶ。これにより、観光学における多様なアプローチを身につけていくための基盤を養う。
学共102	経営学入門	経営	2	2-0	1	前又は後	経営学の基本的なフレームワークについて理論的・実践的に学習する。
学共103	簿記入門	経営	4	4-0	1	前	企業が公表する財務諸表の作成技術である複式簿記の基礎を学ぶ。
学共104	社会科学のためのゲーム論入門	経済	2	2-0	1	前又は後	ゲーム理論の基礎的内容についての講義する。
学共105	経済学概論	経済	2	2-0	1	前	市場機構の働きや一国の経済活動などの基礎的な内容について、ケース・スタディなどを通して、講義する。
学共106	言語科学入門	国言	2	2-0	1	前	言語に対する様々な研究方法を学び、言語を科学的に分析することの基礎を学ぶ。
学共107	地理総合	地域	2	2-0	1	前	地理学に関する基礎知識を概観する。
学共108	社会科学のための統計入門	経済	2	2-0	1	前	社会科学研究を行う上で習得すべき基礎的なデータ処理と統計学の基礎を講義する。
学共111	観光地域デザイン入門Ⅲ-サステナビリティと観光	観光	2	2-0	2	前	持続可能な観光地域デザインに向けた考え方や取り組み事例を学び、持続可能な地域社会と観光の関係を考える。
学共112	マーケティング入門	経営	2	2-0	1	後	企業が自社の業績を上げるために展開する活動について、事例を交えてわかりやすく解説する。
学共114	ヨーロッパ文化論	国言	2	2-0	1	後	古代文明から始まり、キリスト教の発展、産業革命を経て現代に至るまで、ヨーロッパ文化の形成と展開の諸相に迫る。
学共115	歴史総合	地域	2	2-0	1	後	歴史学に関する基礎知識を概観する。
学共116	人類文化入門	地域	2	2-0	1	後	人類文化に関する基礎知識を概観する。
学共117	データサイエンスのための基礎数学	経済	2	2-0	1	前又は後	データサイエンスを学ぶ上で必須となる基本的な数学の知識を数学が苦手な学生にも配慮してじっくりと学ぶ。
学共119	データサイエンス初級	経済	2	2-0	1	前又は後	プログラミング言語「Python」を用いて、数値データに加えテキストデータを処理する方法や統計解析の手法を学びデータ解析の力を養う。
学共121	観光地域デザイン入門Ⅰ-テーマ型ツーリズム	観光	2	2-0	1	前	「観光」と一口に言われるものの様々なあり方についてオムニバス講義で学び、観光地域デザインの基礎的な知識を身につける。
学共122	日本経済入門	経済	2	2-0	2	前	日本経済の変遷と、現在の日本経済を取り巻く状況や課題について、初歩的な経済理論を用いながら、幅広く解説する。
学共124	自然地理学概論	地域	2	2-0	2	前	地球表面の自然地理学的事象について概観する。
学共125	現代企業入門	経営	2	2-0	2	前又は後	サービス経営に関する基礎的な知識を、理論とケースから学ぶ。
学共126	会計ファイナンス入門	経営	2	2-0	2	後	前半は企業が公表する会計数値の持つ意味を、後半は企業の資金調達の方法等の基礎を学ぶ。
学共127	キャリア演習Ⅰ	経済	2	0-2	2	前又は後	今後のキャリアデザインを見据え、自ら就職活動をスタートさせることができるようになることを目的とする。
学共128	キャリア演習Ⅱ	経済	2	0-2	3	前又は後	本格的な就職活動に向け、具体的な活動をスタートさせることができるようになることを目的とする。
学共129	英米文化概論Ⅰ	国言	2	2-0	1	後	イギリス・アメリカ文学の基礎知識を作品を通じて通覧し、英米文化に対する理解を深める。
学共130	AI入門	経済	2	2-0	1~4	前又は後	人工知能（AI）技術の動向、その利活用による社会課題解決について学ぶ。また、AIの理解を促進するための演習を行う。

学部共通基盤専門科目（昼間主コース）

地域・国際基盤力科目（プログラム系科目）

科目番号	授 業 科 目	提供先 プログラム	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
学共201	沖縄観光開発入門	観光	2	2-0	1~2	前又は後	観光立県・沖縄の観光基本計画、誘客事業、受け入れ体制整備事業など幅広い分野にまたがる観光振興施策について学ぶ。
学共204	沖縄観光資源マネジメント入門	観光	2	2-0	1~2	前又は後	沖縄の多様な自然環境や独特な歴史・文化を観光資源として活用する際の持続可能なマネジメントのあり方を学ぶ。
学共205	地域経済入門	経済	2	2-0	1~2	前又は後	人口減少や都市化（過疎・過密）が進む中で、地域経済・社会や地方財政が抱える様々な問題を取り上げ、経済学の視点から考察する。
学共206	国際経済入門	経済	2	2-0	1~2	前又は後	国際貿易、国際直接投資、国際金融の基礎知識について講義する。
学共207	経済史入門	経済	2	2-0	1~2	前又は後	近代から現代における経済成長の過程及び諸産業の発展過程を講義する。
学共208	社会政策入門	経済	2	2-0	1~2	前又は後	社会の問題を検討し、解決する主体や方法を、地域再生、文化政策、貧困問題など今日的テーマで考えていく。
学共209	異文化理解	国言	2	2-0	1~2	後	多様な文化背景を持つ英文の講読や、英語によるコミュニケーション活動を通じて異文化についての理解を深める。
学共210	地誌学概論	地域	2	2-0	1~2	前又は後	日本及び外国の地誌について概観する。
学共212	世界史概論（東洋史）	地域	2	2-0	1~2	前又は後	東洋の古代から近現代までの歴史について概観する。
学共213	世界史概論（西洋史）	地域	2	2-0	1~2	前又は後	西洋の古代から近現代までの歴史について概観する。
学共214	社会人類学 I	地域	2	2-0	1~2	前又は後	社会人類学の体系的な概要について学ぶ。
学共215	考古学 I	地域	2	2-0	1~2	前又は後	考古学の体系的な概要について学ぶ。
学共216	民俗学 I	地域	2	2-0	1~2	前又は後	民俗学の体系的な概要について学ぶ。
学共217	まちづくり地域興し論	経営	2	2-0	2	前又は後	様々な切り口から、まちづくり・地域興しの事例を概観しその手法を身に付け、地域資源を生かした提言ができるようにする。
学共218	マーケティング実践研究	経営	2	2-0	2	前又は後	事例を通じて企業のマーケティング活動の内容を理解し、提示された課題に対して討議を行う。
学共221	実践！社会政策	経済	2	2-0	1~2	前又は後	子どもの貧困対策活動や芸術祭等の社会政策の対象となる現場に出向き、ボランティア等の形で実地研修を受ける。事前学習と事後の報告も併せて行う。
学共222	データサイエンス概論	経済	2	2-0	1	前又は後	最先端のデータサイエンスの研究を通してデータサイエンスの概要を学ぶ。
学共223	観光ビジネス&ウェルネス入門	観光	2	2-0	1~2	前又は後	沖縄で優位に展開しうる地域資源を活かしたビジネスおよび成長産業ウェルネス分野の動向について学ぶ。

学部共通基盤専門科目（昼間主コース）

地域・国際基盤力科目（プログラム複合科目）

科目番号	授 業 科 目	主担当 プログラム	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
学共250	島嶼観光入門	観光	2	2-0	1~2	前又は後	島嶼の資源を持続的に活かした観光のあり方について、島嶼の概念や分類、島嶼経済の視点を含め多面的に学ぶ。
学共251	Introduction to Global Business	経営	2	2-0	1~2	前又は後	グローバルな視点から、企業が直面する国際課題と今後の展望について考察する。
学共252	沖縄産業入門	経営	2	2-0	1~2	前又は後	沖縄を基軸とする産業の特徴と問題点を把握し、産業振興に向けた課題について考察する。
学共253	島嶼社会経済入門	経済	2	2-0	1~2	前又は後	島嶼における持続的・自律的な社会と経済について様々な視点から考察する。
学共254	沖縄経済入門	経済	2	2-0	1~2	前又は後	沖縄の産業構造、雇用、財政、沖縄振興策等について講義する。
学共255	EU研究	国言	2	2-0	1~2	前又は後	EU（欧州連合）の始まりと現状、その深化がもたらすヨーロッパ諸国の変化とグローバルな活動などについて概観する。
学共256	メディアの英語	国言	2	2-0	1~2	前	各種メディアをとおして生きた英語を学び、総合的英語力の向上を目指す。
学共257	地域文化資源と博物館	地域	2	2-0	1~2	前又は後	地域の文化資源と博物館の基礎知識を概観する。
学共258	人の移動とグローバル社会	地域	2	2-0	1~2	前又は後	人の移動とグローバル社会について事例を取り上げて概観する。

学部共通基盤専門科目（夜間主コース）

専門基盤力科目

科目番号	授 業 科 目	提供先 プログラム	単位数	週時間	受講 年次	学 期	授 業 内 容
B学共100	基礎演習		2	2-0	1	前	初年次教育をベースに、大学での学び方、レポートや論文の書き方、情報の検索と活用法、キャリア教育の最初の一步、等について学ぶ。
B学共102	経営学入門	経営	2	2-0	1	前又は後	経営学の基本的なフレームワークについて理論的・実践的に学習する。
B学共104	社会科学のためのゲーム論入門	経済	2	2-0	1	前又は後	ゲーム理論の基礎的内容についての講義する。
B学共105	経済学概論	経済	2	2-0	1	前	市場機構の働きや一国の経済活動などの基礎的な内容について、ケース・スタディなどを通して、講義する。
B学共108	社会科学のための統計入門	経済	2	2-0	1	前	社会科学研究を行う上で習得すべき基礎的なデータ処理と統計学の基礎を講義する。
B学共112	マーケティング入門	経営	2	2-0	1	後	企業が自社の業績を上げるために展開する活動について、事例を交えてわかりやすく解説する。
B学共118	実用英語演習 I	国言	2	2-0	1	後	社会におけるさまざまな場面において英語で情報を発信できる総合的英語力を養成する。
B学共119	データサイエンス初級	経済	2	2-0	1	前又は後	プログラミング言語「Python」を用いて、数値データに加えテキストデータを処理する方法や統計解析の手法を学びデータ解析の力を養う。
B学共122	日本経済入門	経済	2	2-0	1	後	現代の日本が直面している様々な経済問題について、初歩的な経済理論を用いて解説する。
B学共256	メディアの英語	国言	2	2-0	1	前	各種メディアをとおして生きた英語を学び、総合的英語力の向上を目指す。
B学共221	実践！社会政策	経済	2	2-0	1~2	前又は後	子どもの貧困対策活動や芸術祭等の社会政策の対象となる現場に出向き、ボランティア等の形で実地研修を受ける。事前学習と事後の報告も併せて行う。
B学共124	自然地理学概論	地域	2	2-0	2	前又は後	地球表面の自然地理学的事象について概観する。
B学共125	現代企業入門	経営	2	2-0	2	前又は後	現代企業に関する基礎的な知識を、理論とケースから学ぶ。
B学共127	キャリア演習 I	経済	2	0-2	2	前又は後	今後のキャリアデザインを見据え、自ら就職活動をスタートさせることができるようになることを目的とする。
B学共128	キャリア演習 II	経済	2	0-2	3	前又は後	本格的な就職活動に向け、具体的な活動をスタートさせることができるようになることを目的とする。
B学共212	世界史概論(東洋史)	地域	2	2-0	2	前又は後	東洋の古代から近現代までの歴史について概観する
B学共213	世界史概論(西洋史)	地域	2	2-0	2	前又は後	西洋の古代から近現代までの歴史について概観する。
B学共214	社会人類学 I	地域	2	2-0	2	前又は後	社会人類学の体系的な概要について学ぶ。
B学共215	考古学 I	地域	2	2-0	2	前又は後	考古学の体系的な概要について学ぶ。
B学共220	経済地理学	地域	2	2-0	2	前又は後	立地論などをテーマとした地理学について学ぶ。

プログラム専門科目（地域・国際実践力科目）一覧表

観光地域デザインプログラム提供 プログラム専門科目（地域・国際実践力科目）

科目番号	授業科目	単位数	年次	学期	備考
観光150	インターンシップ	2	1～3	前又は後	
観光251	観光フィールドワーク演習	2	2	前又は後	
観光252	観光地域デザイン・プレ演習Ⅰ	2	2	前	観光地域デザインプログラム所属学生は必修
観光253	観光地域デザイン・プレ演習Ⅱ	2	2	後	観光地域デザインプログラム所属学生は必修
観光260	実践観光科学Ⅰ	2	2～4	前又は後	
観光261	実践観光科学Ⅱ	2	2～4	前又は後	
観光262	実践観光科学Ⅲ	2	2～4	前又は後	
観光263	実践観光科学Ⅳ	2	2～4	前又は後	
観光270	応用観光科学Ⅰ	2	2～4	前又は後	
観光271	応用観光科学Ⅱ	2	2～4	前又は後	
観光272	応用観光科学Ⅲ	2	2～4	前又は後	
観光273	応用観光科学Ⅳ	2	2～4	前又は後	

経営プログラム提供 プログラム専門科目（地域・国際実践力科目）

科目番号	授業科目	単位数	年次	学期	備考
経営353	実践経営学Ⅰ	2	2～4	前又は後	
経営354	実践経営学Ⅱ	2	2～4	前又は後	
経営355	実践経営学Ⅲ	2	2～4	前又は後	

経済学プログラム提供 プログラム専門科目（地域・国際実践力科目）

科目番号	授業科目	単位数	年次	学期	備考
経済414	協同組合論	2	2～3	前又は後	
経済551	実践経済学Ⅰ	2	2～3	前又は後	
経済552	実践経済学Ⅱ	2	2～3	前又は後	
経済553	実践経済学Ⅲ	2	2～3	前又は後	
経済554	実践経済学Ⅳ	2	2～3	前又は後	
経済555	実践経済学Ⅴ	2	2～3	前又は後	
経済 DS556	データサイエンス実践演習Ⅰ	2	2～4	前又は後	
経済 DS557	データサイエンス実践演習Ⅱ	2	2～4	前又は後	
経済 DS558	データサイエンス実践演習Ⅲ	2	2～4	前又は後	
B経済414	協同組合論	2	2～3	前又は後	
B経済552	実践経済学Ⅱ	2	2～3	前又は後	
B経済555	実践経済学Ⅴ	2	2～3	前又は後	

国際言語文化プログラム提供 プログラム専門科目（地域・国際実践力科目）

科目番号	授業科目	単位数	年次	学期	備考
国言102	異文化実地研修A	2	1～4	前又は後	
国言103	異文化実地研修B	4	1～4	前又は後	
英言387	特定課題演習A (Directed Studies A)	2	3～4	前又は後	
英言387	特定課題演習B (Directed Studies B)	2	3～4	前又は後	
欧言218	ヨーロッパ文学・言語研究	2	2～4	前又は後	

地域文化科学プログラム提供 プログラム専門科目（地域・国際実践力科目）

科目番号	授業科目	単位数	年次	学期	備考
地文200	地域文化科学フィールドワークⅠ	2	2	前	地域文化科学プログラム所属学生は必修
地文300	地域文化科学フィールドワークⅡ	2	3	前	地域文化科学プログラム所属学生は必修
地文221	人文地理学とフィールド	2	2～3	前又は後	
地文222	自然地理学とフィールド	2	2～3	前又は後	
地文223	地誌学とフィールド	2	2～3	前又は後	

注1) 観光地域デザインプログラム所属の学生は観光地域デザインプログラム提供の「地域・国際実践力演習Ⅰ～Ⅳ」（8単位）、「観光地域デザイン・プレ演習Ⅰ～Ⅱ」（4単位）を含めて、自又は他プログラム提供の地域・国際実践力科目群から合計14単位を履修すること。

注2) 経営プログラム所属の学生は経営プログラム提供の「地域・国際実践力演習Ⅰ～Ⅳ」（8単位）を含めて、自又は他プログラム提供の地域・国際実践力科目群から合計12単位を履修すること。

注3) 経済学プログラム所属の学生は経済学プログラム提供の「地域・国際実践力演習Ⅰ～Ⅳ」（8単位）を含めて、自又は他プログラム提供の地域・国際実践力科目群から合計12単位を履修すること。

注4) 国際言語文化プログラム所属の学生は国際言語文化プログラム提供の「地域・国際実践力演習Ⅰ～Ⅳ」（8単位）を含めて、自又は他プログラム提供の地域・国際実践力科目群から合計12単位を履修すること。

注5) 地域文化科学プログラム所属の学生は地域文化科学プログラム提供の「地域・国際実践力演習Ⅰ～Ⅳ」（8単位）、地域文化科学フィールドワークⅠ・Ⅱ（4単位）を含めること。

観光地域デザインプログラム専門科目（基礎科目）

観光ビジネス&ウェルネス科目群

科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授 業 内 容
観光201	ヘルスツーリズム論	2	2-0	2	前又は後	健康と観光の融合を図るヘルスツーリズムの概念および対象領域について地域資源、地域との関わりから学ぶ
観光202	バリアフリー観光論	2	2-0	2	前又は後	バリアフリー関連法規、社会インフラを概説したうえで障害疑似体験やフィールド学習を通して体験的に学ぶ
観光203	スパマネジメント論	2	2-0	2～3	前又は後	観光癒し産業の事例としてスパを題材に、マネジメント理論と実践を交えた講義をオムニバス形式で学ぶ
観光214	観光心理学・基礎	2	2-0	2～3	前又は後	観光現象を心理的側面から捉える観光心理学を概観し、観光目的地の魅力特性の分析など応用的側面を学ぶ
観光215	ヨガ&ウェルネス論	2	2-0	2～3	後	ウェルネスツーリズムにおける主要なプログラムとしてヨガの基礎的理解、市場動向、観光との関わりについて実践的に学ぶ。
観光216	フードビジネス論	2	2-0	3～4	後	フードビジネスの基礎的理解、市場動向、観光との関わりについて実践的に学ぶ。
観光231	旅行ビジネス論	2	2-0	2	前又は後	旅行業の業務内容、地域主導型の旅行業、観光事業について実践的に学ぶ
観光232	観光関連法規・基礎	2	2-0	2～3	前又は後	民法・商法という流れの中に旅行業法を位置付けて、概念の基礎を学ぶ

観光地開発科目群

科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授 業 内 容
観光211	観光経済・統計学基礎	2	2-0	2	前又は後	観光事象をデータ及び、マクロ・ミクロ経済学の視点から学ぶ
観光217	観光地域デザインのためのデータサイエンス：基礎	2	2-0	2～3	前又は後	データサイエンスの基礎的手法を使って、観光に関わる現象を把握・分析する方法を身につける

地域資源マネジメント科目群

科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授 業 内 容
観光221	観光地理学	2	2-0	2	前又は後	観光を地理的、空間的なシステムとして理解し、その形態や発展のあり方について学ぶ
観光222	観光社会学・基礎	2	2-0	2	前又は後	観光の社会的利益に関する事例を学び、さらにそれを議論するための社会学的視点を身につける
観光223	エコツーリズム論・基礎	2	2-0	2	前又は後	エコツーリズムの定義や理念を発生経緯から論じ、国内外で展開されるエコツーリズムの現状や問題点、課題を事例を通して学ぶ
観光224	観光自然人類学	2	2-0	2	前又は後	なぜ私たちヒトは旅をするのかを、地球史の時間的スケールから学ぶ
観光225	自然観光資源概論	2	0-2	2～3	前又は後	自然を観光資源とする多様な自然観光について、持続可能な利活用と地域振興の視点からそのあり方を実践的に学ぶ
観光227	社会調査法	2	2-0	2～3	前又は後	社会調査を行うための基礎的な方法と心構えを学び、調査全体の設計を現実に行うことのできる能力を身につける
観光228	観光地における環境教育	2	2-0	2～3	前又は後	持続可能な開発のための教育(ESD)に基づく環境教育の視点から、観光地形成に必要な対象者及び旅行者に対する教育の機会創出とその教育内容について学ぶ
観光229	ヘリテージツーリズム論・基礎	2	2-0	2～3	前又は後	文化遺産や自然遺産を観光資源として利用するヘリテージツーリズムの理論と方法論を学ぶ

観光語学科目群

科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授 業 内 容
観光241	ツーリズム英語	2	2-0	2～4	前又は後	英語を活用する機会を観光・旅行関連に設定し、英語でのコミュニケーション能力を高める
観光242	ツーリズム・ビジネス英語	2	2-0	2～4	前又は後	旅行業界や宿泊産業などの観光産業分野において専門的に活躍する上で必要な高次の英語能力を身につける
観光243	ツーリズム中国語	2	2-0	2～4	前又は後	観光産業分野において必要な中国語能力を身につける
観光244	ツーリズム韓国語	2	2-0	2～4	前又は後	観光産業分野において必要な韓国語能力を身につける

観光地域デザインプログラム専門科目（応用科目）

観光ビジネス&ウェルネス科目群

科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
観光301	ウェルネスツーリズム論	2	2-0	3～4	前又は後	旅行を通して心身共に美と健康を求めるウェルネスツーリズムの理論、市場、プログラムを先進事例を通して学ぶ
観光302	海洋レジャー産業論	2	2-0	3～4	前又は後	海洋レジャー産業分野としてダイビング産業を中心に利活用の方策と課題を学ぶ
観光303	メディカルツーリズム論	2	2-0	3～4	前又は後	治療や手術、検診など医療を目的にした観光の事業化の先進事例を実践的に学ぶ
観光315	観光心理学・応用	2	2-0	3～4	前又は後	基礎的な観光心理学の理解に基づき、現代社会における観光を取り巻く具体的な事例や課題について旅行者の心理や行動に焦点を当てて学ぶ
観光331	ホテル経営論	2	2-0	3～4	前又は後	国内・外ホテルの経営戦略及び実践手法について講義する
観光332	観光関連法規・応用	2	2-0	3～4	前又は後	観光関連法規の基礎概念を踏まえて、旅行ビジネス関連の約款について学ぶ
観光333	運輸ビジネス論	2	2-0	3～4	前又は後	各交通機関の経営戦略や経営実態を学ぶとともに、運輸ビジネス全般の特質や課題を考察をしていく。
観光334	観光デジタルトランスフォーメーション	2	2-0	2～3	後	デジタルトランスフォーメーション（DX）の基礎的理解、観光との関わりについて実践的に学ぶ。

観光地開発科目群

科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
観光311	Tourism Development	2	2-0	2～4	前又は後	島嶼地域であるハワイの観光産業の現状と課題を通して、持続可能な観光開発のあり方について学ぶ
観光312	観光経済・統計学応用	2	2-0	3～4	前又は後	「観光経済・統計学入門」等の学びを踏まえ、より広範な観光に関連するデータの利用法や限界、分析手法について学ぶ
観光314	観光地危機管理論	2	2-0	3～4	前又は後	観光地経営におけるリスクにはどのようなものがあるかを明らかにし、観光地の危機管理対策を学ぶ
観光316	観光地域デザインのためのデータサイエンス：応用	2	2-0	2～4	前又は後	観光に関わる現象を、データサイエンスの応用的手法を用いて把握・分析する方法を身につける

地域資源マネジメント科目群

科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
観光321	観光社会学・応用	2	2-0	3～4	前又は後	観光現象の社会的局面に関する議論について、事例に基づく座学とグループワークの繰り返しを通じて学ぶ
観光322	エコツーリズム論・応用	2	2-0	3～4	前又は後	エコツーリズムの発展的なあり方として、次代が求める環境共生型観光の構築に向けた取り組みについて、人材育成や資源管理、観光施設整備の視点から多角的に学ぶ
観光323	観光生態学	2	2-0	3～4	前又は後	稀少動植物種や島嶼生態系などを具体的な例に、持続可能な観光の推進に不可欠な生態学的な思考と手法について学ぶ
観光324	観光人類学	2	2-0	3～4	前又は後	異文化の形成過程をさまざまな観点から学び、異文化を理解する姿勢を身につける
観光325	観光景観論	2	2-0	3～4	前又は後	観光景観の特性や政策・制度について解説し、観光地における景観形成のあり方や手法を学ぶ
観光326	インタープリテーション論	2	2-0	3～4	前又は後	インタープリテーション（解説活動）の歴史や役割、その技術と手法について実践的に学ぶ *観光ガイドの技術論も含む
観光327	学習旅行と観光	2	2-0	3～4	前又は後	環境や開発、平和をテーマとしたスタディツアーや教育旅行（修学旅行を含む）の役割について理解し、その現状と課題、可能性について実践的に学ぶ
観光328	ヘリテージツーリズム論・応用	2	2-0	3～4	前又は後	ヘリテージツーリズムの現場における観光現象の実態を、フィールドワークを通じて学ぶ

プログラム専門科目（必修科目）

科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
観光360	卒業研究	2	2-0	4	後	観光地域デザインプログラムを卒業するための集大成科目として、各自が個々の専門性に根ざした研究を進める

観光地域デザインプログラム（地域・国際実践力科目）

科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
観光150	インターンシップ	2	0-2	1～3	前又は後	観光関連産業・観光行政等の現場での業務体験を通じて実務について理解し、自らのキャリア形成に資す
観光251	観光フィールドワーク演習	2	2-0	2～4	前又は後	観光の現場が抱える課題や現状を分析するために必要な知識や手法を実際のフィールドワークを通じて学ぶ
観光252	観光地域デザイン・プレ演習Ⅰ	2	2-0	2	前	観光の個別課題について各ゼミの専門領域を通じて学ぶための基礎的知識や学び方を修得する。
観光253	観光地域デザイン・プレ演習Ⅱ	2	2-0	2	後	観光の個別課題について、各ゼミの専門領域を通じて学ぶ。
観光260	実践観光科学Ⅰ	2	2-0	2～4	前又は後	観光を取り巻く多様な事象について、最近の動向に基づいた実践的な内容を講義と演習で展開する。
観光261	実践観光科学Ⅱ	2	2-0	2～4	前又は後	観光を取り巻く多様な事象について、最近の動向に基づいた実践的な内容を講義と演習で展開する。
観光262	実践観光科学Ⅲ	2	2-0	2～4	前又は後	観光を取り巻く多様な事象について、最近の動向に基づいた実践的な内容を講義と演習で展開する。
観光263	実践観光科学Ⅳ	2	2-0	2～4	前又は後	観光を取り巻く多様な事象について、最近の動向に基づいた実践的な内容を講義と演習で展開する。
観光270	応用観光科学Ⅰ	2	2-0	2～4	前又は後	観光を取り巻く多様な事象について、最近の動向に基づいた実践的且つ応用的な内容を講義と演習で展開する。
観光271	応用観光科学Ⅱ	2	2-0	2～4	前又は後	観光を取り巻く多様な事象について、最近の動向に基づいた実践的且つ応用的な内容を講義と演習で展開する。
観光272	応用観光科学Ⅲ	2	2-0	2～4	前又は後	観光を取り巻く多様な事象について、最近の動向に基づいた実践的且つ応用的な内容を講義と演習で展開する。
観光273	応用観光科学Ⅳ	2	2-0	2～4	前又は後	観光を取り巻く多様な事象について、最近の動向に基づいた実践的且つ応用的な内容を講義と演習で展開する。
観光350	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	2-0	3	前	観光の個別課題について、各ゼミの専門領域を通じて学ぶ
観光351	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	2-0	3	後	観光の個別課題について、各ゼミの専門領域を通じて学ぶ
観光450	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	2-0	4	前	観光の個別課題について、各ゼミの専門領域を通じて学ぶ
観光451	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	2-0	4	後	観光の個別課題について、各ゼミの専門領域を通じて学ぶ

観光地域デザインプログラム専門科目(基礎科目)

観光ビジネス&ウェルネス科目群

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光201	ヘルスツーリズム論	2	2	前又は後	選・必
観光202	バリアフリー観光論	2	2	前又は後	選・必
観光203	スパマネジメント論	2	2~3	前又は後	
観光214	観光心理学・基礎	2	2~3	前又は後	選・必

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光215	ヨガ&ウェルネス論	2	2~3	後	
観光216	フードビジネス論	2	3~4	後	
観光231	旅行ビジネス論	2	2	前又は後	選・必
観光232	観光関連法規・基礎	2	2~3	前又は後	選・必

観光地開発科目群

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光211	観光経済・統計学基礎	2	2	前又は後	選・必

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光217	観光地域デザインのためのデータサイエンス：基礎	2	2~3	前又は後	選・必

地域資源マネジメント科目群

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光221	観光地理学	2	2	前又は後	選・必
観光222	観光社会学・基礎	2	2	前又は後	選・必
観光223	エコツーリズム論・基礎	2	2	前又は後	選・必
観光224	観光自然人類学	2	2	前又は後	選・必

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光225	自然観光資源概論	2	2~3	前又は後	
観光227	社会調査法	2	2~3	前又は後	
観光228	観光地における環境教育	2	2~3	前又は後	
観光229	ヘリテージツーリズム論・基礎	2	2~3	前又は後	

観光語学科目群

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光241	ツーリズム英語	2	2~4	前又は後	
観光242	ツーリズム・ビジネス英語	2	2~4	前又は後	

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光243	ツーリズム中国語	2	2~4	前又は後	
観光244	ツーリズム韓国語	2	2~4	前又は後	

観光地域デザインプログラム専門科目(応用科目)

観光ビジネス&ウェルネス科目群

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光301	ウェルネスツーリズム論	2	3~4	前又は後	
観光302	海洋レジャー産業論	2	3~4	前又は後	
観光303	メディカルツーリズム論	2	3~4	前又は後	
観光315	観光心理学・応用	2	3~4	前又は後	

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光331	ホテル経営論	2	3~4	前又は後	
観光332	観光関連法規・応用	2	3~4	前又は後	
観光333	運輸ビジネス論	2	3~4	前又は後	
観光334	観光デジタル トランスフォーメーション	2	2~3	後	

観光地開発科目群

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光311	Tourism Development	2	2~4	前又は後	
観光312	観光経済・統計学応用	2	3~4	前又は後	

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光314	観光地危機管理論	2	3~4	前又は後	
観光316	観光地域デザインのための データサイエンス：応用	2	2~4	前又は後	

地域資源マネジメント科目群

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光321	観光社会学・応用	2	3~4	前又は後	
観光322	エコツーリズム論・応用	2	3~4	前又は後	
観光323	観光生態学	2	3~4	前又は後	
観光324	観光人類学	2	3~4	前又は後	

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光325	観光景観論	2	3~4	前又は後	
観光326	インタープリテーション論	2	3~4	前又は後	
観光327	学習旅行と観光	2	3~4	前又は後	
観光328	ヘリテージツーリズム論・応用	2	3~4	前又は後	

プログラム専門科目(必修科目)

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光360	卒業研究	2	4	後	必修

観光地域デザインプログラム専門科目(地域・国際実践力科目)

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光150	インターンシップ	2	1~3	前又は後	
観光251	観光フィールドワーク演習	2	2~4	前又は後	
観光252	観光地域デザイン・プレ演習Ⅰ	2	2	前	必修
観光253	観光地域デザイン・プレ演習Ⅱ	2	2	後	必修
観光260	実践観光科学Ⅰ	2	2~4	前又は後	
観光261	実践観光科学Ⅱ	2	2~4	前又は後	
観光262	実践観光科学Ⅲ	2	2~4	前又は後	
観光263	実践観光科学Ⅳ	2	2~4	前又は後	

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
観光270	応用観光科学Ⅰ	2	2~4	前又は後	
観光271	応用観光科学Ⅱ	2	2~4	前又は後	
観光272	応用観光科学Ⅲ	2	2~4	前又は後	
観光273	応用観光科学Ⅳ	2	2~4	前又は後	
観光350	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	3	前	必修
観光351	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	3	後	必修
観光450	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	4	前	必修
観光451	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	4	後	必修

卒業要件 観光地域デザインプログラム

授業科目の区分		必修	選択	選択必修	
共通教育	教養領域	健康運動系科目	2		
		人文系科目	2		
		社会系科目	2		
		自然系科目	2		
	総合領域	総合科目	4	6	
		琉大特色科目・地域創生科目			
		キャリア関係科目			
	基幹領域	情報関係科目			
		第1外国語（英語）	8		
		第2外国語	4		
小計		24	6	0	
共通教育科目総計		30			
専門教育	学部共通基盤専門科目	専門基盤力科目	8	6	
		地域・国際基盤力科目（プログラム系科目）		6	
		地域・国際基盤力科目（プログラム複合科目）			2
	プログラム専門科目	観光地域デザインプログラム専門科目	2	20	8
		地域・国際実践力科目	12	2	
	地域・国際実践力科目（読替科目）			28	
	小計		22	62	10
専門教育科目総計		94			
総単位数		124			

- 卒業単位は合計124単位以上とする。
- 共通教育科目は30単位とする。

教養領域	健康運動系科目	2単位以上
	人文系科目	2単位以上
	社会系科目	2単位以上
	自然系科目	2単位以上
総合領域	総合、琉大特色・地域創生及びキャリア関係科目	4単位以上
基幹領域	第1外国語（英語）	8単位以上
	第2外国語	4単位以上
健康運動系科目を除く教養領域・総合領域及び基幹領域 （※上記の6単位以上には、外国語以外を2単位以上含むこと）		6単位以上

注1) 共通教育等の履修要件の詳細については「琉球大学共通教育等履修規程」及び同規程別表3「各学部学科等別共通教育等履修基準表」を参照すること。

注2) 第1外国語は英語とし、「大学英語」、「英語講読演習中級」、及び選択科目から1科目の8単位を履修すること。

- 専門教育科目は94単位以上とする。

- (1) 学部共通基盤専門科目は以下のとおり、合計22単位以上を履修すること。

○専門基盤力科目は、合計14単位以上履修すること。ただし、

- ・基礎演習(2単位)は、必ず履修すること。
- ・観光地域デザインプログラム提供の、観光地域デザイン入門Ⅰ～Ⅲ(計6単位)は、必ず履修すること。
- ・他プログラムが提供している専門基盤力科目のうち、少なくとも2つのプログラムの科目について、それぞれ1科目以上(計4単位以上)履修すること。

○地域・国際基盤力科目は、合計8単位以上履修すること。ただし、

- ・プログラム系科目を6単位以上履修すること。
- ・プログラム複合科目(選択必修)を2単位以上履修すること。

- (2) プログラム専門科目は以下のとおり、合計44単位以上を履修すること。

○観光地域デザインプログラム専門科目は、合計30単位以上履修すること。ただし、

- ・卒業研究(2単位)は、必ず履修すること。
 - ・以下の科目(選択必修)から4科目(8単位)以上を履修すること。
観光経済・統計学基礎、観光地理学、観光社会学・基礎、旅行ビジネス論、ヘルスツーリズム論、バリアフリー観光論、エコツーリズム論・基礎、観光自然人類学、観光関連法規・基礎、観光心理学・基礎、観光地域デザインのためのデータサイエンス：基礎(以上、全て2単位)
- なお、8単位を超過して取得した上記科目群の単位は、観光地域デザインプログラム専門科目のうち選択科目の単位として読み替えることができる。

○地域・国際実践力科目は、合計14単位以上を履修すること。ただし、

- ・観光地域デザイン・プレ演習Ⅰ～Ⅱ(計4単位)、地域・国際実践力演習Ⅰ～Ⅳ(計8単位)は、必ず履修すること。

- (3) 地域・国際実践力科目(読替科目)は、合計28単位以上を履修すること。なお、

- 学部共通基盤専門科目、観光地域デザインプログラム専門科目、及び地域・国際実践力科目で、必要単位数(それぞれ22単位、30単位、14単位)を超過して取得した単位は、地域・国際実践力科目(読替科目)の単位として読み替えることができる。
- 他プログラム・他学部提供の専門科目(教職科目含む)は、地域・国際実践力科目(読替科目)の単位として読み替えることができる。

- 一学期に登録できる単位数の上限は20単位(共通教育科目を含め)とする。ただし、集中講義はこの中に含めない。
- 直前に在学した学期の5段階評価によるGPAが3.0以上の者は、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。
- 海外交流協定校へ留学した学生については、帰国後の2学期のみ、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。
- 3年次編入学生については、入学後の2学期のみ、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。
- GPAの値にかかわらず、博物館学芸員等の資格取得予定者は、指導教員の指導・承認を得て登録単位の上積み6単位まで認める。ただし、超過する分は資格取得に必要な該当科目とする。
- 資格取得希望者に該当する者のGPAが3.0以上の場合でも26単位までの登録とする。
- 卒業要件に算入できる遠隔授業の単位数は、60単位を上限とする。ただし、単位認定を受けた科目(認定科目)のうち、遠隔授業の科目も含む。

注3) 原則として、必修以外の科目について夜間主コースに開講される授業科目から履修することができ、そのうち40単位までは卒業単位として認められる。

プログラム専門科目（昼間主コース）
 経営プログラム専門科目（基礎科目）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
経営201	組織行動論	2	2-0	2	前又は後	組織における人間行動に関する基本的なフレームワークについて理論的・実践的に学習する。
経営202	経営組織論	2	2-0	2	前又は後	経営組織のマネジメントに関する理論・学説を体系的に学び、実践に活用できるような事例分析などを行う。
経営203	観光情報論	2	2-0	2	前又は後	デスティネーション（観光地）を効果的にマーケティングする際に必要とされる観光情報システムの構築について考える。
経営205	会計学	2	2-0	2	前又は後	現代の企業会計のフレームワークと、貸借対照表・損益計算書の基礎構造を学ぶ。
経営206	流通原論	2	2-0	2	前又は後	製品が生産され地点に至るまでの過程を分析し考察していく。
経営207	経営情報論	2	2-0	2	前又は後	企業経営に不可欠な情報を体系的に学習し、情報システム構築の基礎を理解する。
経営208	消費者行動論	2	2-0	2	前又は後	消費者行動に対する様々な理論や概念を学び、課題やディスカッションを通じて実際の消費者行動を分析するとともに、消費行為に対する理解を深める。
経営301	経営戦略論	2	2-0	3	前又は後	経営戦略の内容を、ドメインの定義、経営資源の展開、競争戦略の決定、ビジネスシステムの決定、の四つに整理したうえで、企業の持続的競争優位に貢献する経営戦略とはどのようなものかという問題について解説する。
経営302	コーポレートファイナンス理論編	2	2-0	3	前又は後	株式投資を通じてファイナンス理論を理解することを目的としている講義である。具体的には、ファンダメンタルズ分析、テクニカル分析、DCF方を利用して株式評価を行う。
経営303	サプライチェーン・マネジメント	2	2-0	3	前又は後	最初の資材購入から消費者への販売までの全プロセスを最適管理するという従来の物流を超えた新しい理論を解説する。
経営304	広告論	2	2-0	3	前又は後	企業のプロモーション活動を「マーケティング」、「関与度」、「芸術表現」といった観点から解説する。受講生の提案練習も行う。
経営307	原価計算論	2	2-0	3	前又は後	事業体(主に企業)における原価計算の理論・技法を講義し、原価管理の観点からコストマネジメントおよび組織管理の手法について学ぶ。
経営308	税務会計論	2	2-0	2	前又は後	法人税法について講義を行う。法人税法については企業会計との違いを重点的に説明する。

プログラム専門科目（昼間主コース）
 経営プログラム専門科目（応用科目）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
経営211	人的資源管理論	2	2-0	2	前又は後	人材マネジメントに関する基本的なフレームワークについて理論的・実践的に学習する。
経営213	ベンチャー企業論	2	2-0	2	前又は後	経営戦略が有効なものであればベンチャー企業は競争優位を獲得できるという枠組みに基づき、ベンチャー企業のマネジメントについて、特に経営戦略を中心に解説していく。
経営222	ホテル経営論	2	2-0	2	前又は後	国内・外ホテルの経営戦略及び実践手法について講義する。
経営225	物流サービス論	2	2-0	2	前又は後	幅広い現代物流の仕組みについて解説する。
経営226	Tourism Development	2	2-0	2	前又は後	島嶼地域であるハワイの観光産業の現状と課題を通して、持続可能な観光開発のあり方について学ぶ。
経営311	競争戦略論	2	2-0	3	前又は後	競争戦略論の代表的な分析視角（ポジショニング論、資源ベース論、能力ベース論など）を取り上げ、その内容と意義を中心に解説する。
経営312	コーポレートファイナンス 実践編	2	2-0	3	前又は後	理論編で学習した知識を利用して、複数の株式へ投資を行うポートフォリオ理論やオプション等のデリバティブ投資を学習する。
経営313	応用簿記論	4	4-0	2	前又は後	簿記入門の講義を履修した学生を対象に、中級レベルの簿記の講義を行う。
経営314	財務会計	2	2-0	2	前又は後	会計学の講義を受けた学生を対象に、財務会計の個別応用論点の講義を行う。
経営316	簿記論演習	2	2-0	3	前又は後	将来会計専門職に就くことを考えている学生を対象に上級簿記の講義を行う。
経営317	財務会計論演習	2	2-0	3	前又は後	将来会計専門職に就くことを考えている学生を対象に上級財務会計の講義を行う。
経営318	管理会計論	2	2-0	3	前又は後	経営管理の観点から管理会計の理論・技法について講義し、意思決定や業績評価さらに予算管理や戦略会計にまで講義を展開する。
経営319	数字で学ぶビジネス	2	2-0	3	前又は後	会計数値を通じてビジネスのしくみを学ぶ。
経営320	中小企業論	2	2-0	3	前又は後	中小企業の機能と意義および中小企業の歴史、現状、今後の展望について、理論的・実証的に学ぶ。
経営321	市場調査論	2	2-0	3	前又は後	経営やマーケティングに関連する様々な課題に対して、適切な調査方法と内容を企画し、そして、その調査の結果から意味を読み取る手法を紹介し学習する。
経営400	卒業研究	2	0-2	4	後	大学生活の集大成として、テーマや課題に取り組んだ学習・研究の成果を卒業論文或いは課題研究報告書としてまとめる。

プログラム専門科目（昼間主コース）

経営プログラム専門科目（地域・国際実践力科目）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
経営353	実践経営学Ⅰ	2	2-0	2～4	前又は後	上場企業の経営法務(株主総会やコーポレートガバナンス等)に関する知識習得と実務的アプローチについて、実務家講師を招待して実施する講義である。
経営354	実践経営学Ⅱ	2	2-0	2～4	前又は後	経営学に関する実践的なトピックスについて学ぶ。テーマは開講年次によって変更するので、シラバスは必ずチェックすること。
経営355	実践経営学Ⅲ	2	2-0	2～4	前又は後	現行の会計の枠組みを学習する座学と、税理士事務所で会計事務所の社会的役割と業務内容について学ぶ職務体験としてのインターシップを組ませた講義
経営361	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	0-2	3	前又は後	個別あるいはチームとしての研究課題を設定し、その課題を紐解くために必要な資料や書籍のサーベイ、討議、発表、等を行う。
経営362	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	0-2	3	前又は後	個別あるいはチームとしての研究課題を設定し、その課題を紐解くために必要な資料や書籍のサーベイ、討議、発表、等を行う。
経営401	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	0-2	4	前又は後	個別あるいはチームとしての研究課題を設定し、その課題を紐解くために必要な資料や書籍のサーベイ、討議、発表、等を行う。
経営402	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	0-2	4	前又は後	個別あるいはチームとしての研究課題を設定し、その課題を紐解くために必要な資料や書籍のサーベイ、討議、発表、等を行う。

プログラム専門科目（昼間主コース）

経営プログラム専門科目（基礎科目）

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
経営201	組織行動論	2	2	前又は後		経営301	経営戦略論	2	3	前又は後	
経営202	経営組織論	2	2	前又は後		経営302	コーポレートファイナンス理論編	2	3	前又は後	
経営203	観光情報論	2	2	前又は後		経営303	サプライチェーン・マネジメント	2	3	前又は後	
経営205	会計学	2	2	前又は後		経営304	広告論	2	3	前又は後	
経営206	流通原論	2	2	前又は後		経営307	原価計算論	2	3	前又は後	
経営207	経営情報論	2	2	前又は後		経営308	税務会計論	2	2	前又は後	
経営208	消費者行動論	2	2	前又は後							

プログラム専門科目（昼間主コース）

経営プログラム専門科目（応用科目）

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
経営211	人的資源管理論	2	2	前又は後		経営314	財務会計	2	2	前又は後	
経営213	ベンチャー企業論	2	2	前又は後		経営316	簿記論演習	2	2	前又は後	
経営222	ホテル経営論	2	2	前又は後		経営317	財務会計論演習	2	3	前又は後	
経営225	物流サービス論	2	2	前又は後		経営318	管理会計論	2	3	前又は後	
経営226	Tourism Development	2	2	前又は後		経営319	数字で学ぶビジネス	2	3	前又は後	
経営311	競争戦略論	2	3	前又は後		経営320	中小企業論	2	3	前又は後	
経営312	コーポレートファイナンス実践編	2	3	前又は後		経営321	市場調査論	2	3	前又は後	
経営313	応用簿記論	4	3	前又は後		経営400	卒業研究	2	4	後	必修科目

注1：卒業研究は必修

プログラム専門科目（昼間主コース）

経営プログラム専門科目（地域国際実践力科目）

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
経営353	実践経営学Ⅰ	2	2～4	前又は後	
経営354	実践経営学Ⅱ	2	2～4	前又は後	
経営355	実践経営学Ⅲ	2	2～4	前又は後	
経営361	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	3	前又は後	必修科目
経営362	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	3	前又は後	必修科目
経営401	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	4	前又は後	必修科目
経営402	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	4	前又は後	必修科目

注1：地域国際実践力演習Ⅰ～Ⅳは必修。

卒業要件 経営プログラム（昼間主コース）

授業科目の区分		必修	選択	選択必修	
共通教育	教養領域	健康運動系科目	2		
		人文系科目	2		
		社会系科目	2		
		自然系科目	2		
	総合領域	総合科目	4	6	
		琉大特色科目・地域創生科目			
		キャリア関係科目			
	基幹領域	情報関係科目			
		第1外国語（英語）	8		
		第2外国語	4		
小計		24	6		
共通教育科目総計		30			
専門教育	学部共通基盤専門科目	専門基盤力科目	10	4	
		地域・国際基盤力科目（プログラム系科目）		6	
		地域・国際基盤力科目（プログラム複合科目）			2
	プログラム専門科目	経営プログラム専門科目	2	30	
		地域・国際実践力科目	8	4	
	地域・国際実践力科目（読替科目）			28	
	小計		20	72	2
専門教育科目総計		94			
総単位数		124			

- 卒業単位は合計124単位以上とする。
- 共通教育科目は30単位とする。

教養領域	健康運動系科目	2単位以上
	人文系科目	2単位以上
	社会系科目	2単位以上
	自然系科目	2単位以上
総合領域	総合、琉大特色・地域創生及びキャリア関係科目	4単位以上
基幹領域	第1外国語（英語）	8単位以上
	第2外国語	4単位以上
健康運動系科目を除く教養領域・総合領域及び基幹領域 （※上記の6単位以上には、外国語以外を2単位以上含むこと）		6単位以上

注1) 共通教育等の履修要件の詳細については「琉球大学共通教育等履修規程」及び同規程別表3「各学部学科等別共通教育等履修基準表」を参照すること。

注2) 第1外国語は英語とし、「大学英语」、「英語講読演習中級」、及び選択科目から1科目の8単位を履修すること。

- 専門教育科目は94単位以上とする。

(1) 学部共通基盤専門科目は以下のとおり、合計22単位以上を履修すること。

○専門基盤力科目は、合計14単位以上履修すること。ただし、

- ・基礎演習(2単位)は、必ず履修すること。
- ・経営プログラム提供の、経営学入門(2単位)、マーケティング入門(2単位)、簿記入門(4単位)の3科目(計8単位)は、必ず履修すること。
- ・他プログラムが提供している専門基盤力科目のうち、少なくとも2つのプログラムの科目について、それぞれ1科目以上(計4単位以上)履修すること。

○地域・国際基盤力科目は、合計8単位以上履修すること。ただし、

- ・プログラム系科目を6単位以上履修すること。
- ・プログラム複合科目(選択必修)を2単位以上履修すること。

(2) プログラム専門科目は以下のとおり、合計44単位以上を履修すること。

○経営プログラム専門科目は、合計32単位以上履修すること。ただし、

- ・卒業研究(2単位)は、必ず履修すること。

○地域・国際実践力科目は、合計12単位以上を履修すること。ただし、

- ・地域・国際実践力演習Ⅰ～Ⅳ(計8単位)は、必ず履修すること。

(3) 地域・国際実践力科目(読替科目)は、合計28単位以上を履修すること。なお、

○学部共通基盤専門科目、経営プログラム専門科目、及び地域・国際実践力科目で、必要単位数(それぞれ22単位、32単位、12単位)を超過して取得した単位は、地域・国際実践力科目(読替科目)の単位として読み替えることができる。

○他プログラム・他学部提供の専門科目(教職科目含む)は、地域・国際実践力科目(読替科目)の単位として読み替えることができる。

- 一学期に登録できる単位数の上限は20単位(共通教育科目を含め)とする。ただし、集中講義はこの中に含まない。
- 直前に在学した学期の5段階評価によるGPAが3.0以上の者は、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。
- 海外交流協定校へ留学した学生については、帰国後の2個学期のみ、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。
- 3年次編入学生については、入学後の2個学期のみ、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。
- GPAの値にかかわらず、博物館学芸員等の資格取得予定者は、指導教員の指導・承認を得て登録単位の上積みまで6単位まで認める。ただし、超過する分は資格取得に必要な該当科目とする。

9. 資格取得希望者に該当する者のGPAが3.0以上の場合でも26単位までの登録とする。
10. 卒業要件に算入できる遠隔授業の単位数は、60単位を上限とする。ただし、単位認定を受けた科目（認定科目）のうち、遠隔授業の科目も含む。

注3) 原則として、昼間主コースの学生は、必修科目以外の夜間主コースに開講される授業科目から履修することができ、そのうち40単位までは卒業単位として認められる。但し、地域・国際実践力演習Ⅰ～Ⅳと卒業研究は40単位制限に含まない。

プログラム専門科目（夜間主コース）
経営プログラム専門科目（基礎科目）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
B経営103	簿記入門	4	4-0	2	前又は後	企業が公表する財務諸表の作成技術である複式簿記の基礎を学ぶ。
B経営201	組織行動論	2	2-0	2	前又は後	組織における人間行動に関する基本的なフレームワークについて理論的・実践的に学習する。
B経営202	経営組織論	2	2-0	2	前又は後	経営組織のマネジメントに関する理論・学説を体系的に学び、実践に活用できるよう事例分析などを行う。
B経営203	観光情報論	2	2-0	2	前又は後	デスティネーション（観光地）を効果的にマーケティングする際に必要とされる観光情報システムの構築について考える。
B経営205	会計学	2	2-0	2	前又は後	現代の企業会計のフレームワークと、貸借対照表・損益計算書の基礎構造を学ぶ。
B経営206	流通原論	2	2-0	2	前又は後	製品が生産され地点に至るまでの過程を分析し考察していく。
B経営207	経営情報論	2	2-0	2	前又は後	企業経営に不可欠な情報を体系的に学習し、情報システム構築の基礎を理解する。
B経営208	消費者行動論	2	2-0	2	前又は後	消費者行動に対する様々な理論や概念を学び、課題やディスカッションを通じて実際の消費者行動を分析するとともに、消費行為に対する理解を深める。
B経営301	経営戦略論	2	2-0	3	前又は後	経営戦略の内容を、ドメインの定義、経営資源の展開、競争戦略の決定、ビジネスシステムの決定、の四つに整理したうえで、企業の持続的競争優位に貢献する経営戦略とはどのようなものかという問題について解説する。
B経営302	コーポレートファイナンス理論編	2	2-0	3	前又は後	株式投資を通じてファイナンス理論を理解することを目的としている講義である。具体的には、ファンダメンタルズ分析、テクニカル分析、DCF方を利用して株式評価を行う。
B経営303	サプライチェーン・マネジメント	2	2-0	3	前又は後	最初の資材購入から消費者への販売までの全プロセスを最適管理するという従来の物流を超えた新しい理論を解説する。
B経営304	広告論	2	2-0	3	前又は後	企業のプロモーション活動を「マーケティング」、「関与度」、「芸術表現」といった観点から解説します。受講生の提案練習も行う。
B経営307	原価計算論	2	2-0	3	前又は後	事業体（主に企業）における原価計算の理論・技法を講義し、原価管理の観点からコストマネジメントおよび組織管理の手法について学ぶ。
B経営308	税務会計論	2	2-0	2	前又は後	法人税法について講義を行う。法人税法については企業会計との違いを重点的に説明する。

プログラム専門科目（夜間主コース）
経営プログラム専門科目（応用科目）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
B経営211	人的資源管理論	2	2-0	2	前又は後	人材マネジメントに関する基本的なフレームワークについて理論的・実践的に学習する。
B経営213	ベンチャー企業論	2	2-0	2	前又は後	経営戦略が有効なものであればベンチャー企業は競争優位を獲得できるという枠組みに基づき、ベンチャー企業のマネジメントについて、特に経営戦略を中心に解説していく。
B経営217	まちづくり地域興し論	2	2-0	2	前又は後	様々な切り口から、まちづくり・地域興しの事例を概観しその手法を身に付け、地域資源を生かした提言ができるようにする。
B経営218	マーケティング実践研究	2	2-0	2	前又は後	事例を通じて企業のマーケティング活動の内容を理解し、提示された課題に対して討議を行う。
B経営225	物流サービス論	2	2-0	2	前又は後	幅広い現代物流の仕組みについて解説する。
B経営311	競争戦略論	2	2-0	3	前又は後	競争戦略論の代表的な分析視角（ポジショニング論、資源ベース論、能力ベース論など）を取り上げ、その内容と意義を中心に解説する。
B経営312	コーポレートファイナンス実践編	2	2-0	3	前又は後	理論編で学習した知識を利用して、複数の株式へ投資を行うポートフォリオ理論やオプション等のデリバティブ投資を学習する予定です。
B経営313	応用簿記論	4	4-0	2	前又は後	簿記入門の講義を履修した学生を対象に、中級レベルの簿記の講義を行う。
B経営314	財務会計	2	2-0	2	前又は後	会計学の講義を受けた学生を対象に、財務会計の個別応用論点の講義を行う。
B経営318	管理会計論	2	2-0	3	前又は後	経営管理の観点から管理会計の理論・技法について講義し、意思決定や業績評価さらに予算管理や戦略会計にまで講義を展開する。
B経営319	数字で学ぶビジネス	2	2-0	3	前又は後	会計数値を通じてビジネスのしくみを学ぶ。
B経営320	中小企業論	2	2-0	3	前又は後	中小企業の機能と意義および中小企業の歴史、現状、今後の展望について、理論的・実証的に学ぶ。
B経営321	市場調査論	2	2-0	3	前又は後	経営やマーケティングに関連する様々な課題に対して、適切な調査方法と内容を企画し、そして、その調査の結果から意味を読み取る手法を紹介し学習する。
B経営353	実践経営学Ⅰ	2	2-0	2～4	前又は後	上場企業の経営法務(株主総会やコーポレートガバナンス等)に関する知識習得と実務的アプローチについて、実務家講師を招待して実施する講義である。
B経営354	実践経営学Ⅱ	2	2-0	2～4	前又は後	経営学に関する実践的なトピックスについて学ぶ。テーマは開講年次によって変更するので、シラバスは必ずチェックすること。
B経営355	実践経営学Ⅲ	2	2-0	2～4	前又は後	現行の会計の枠組みを学習する座学と、税理士事務所で会計事務所の社会的役割と業務内容について学ぶ職務体験としてのインターシップを組ませた講義
B経営400	卒業研究	2	0-2	4	後	大学生生活の集大成として、テーマや課題に取り組んだ学習・研究の成果を卒業論文或いは課題研究報告書としてまとめる。

プログラム専門科目（夜間主コース）

経営プログラム専門科目（地域・国際実践力科目）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
B経営361	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	0-2	3	前又は後	個別あるいはチームとしての研究課題を設定し、その課題を紐解くために必要な資料や書籍のサーベイ、討議、発表、等を行う。
B経営362	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	0-2	3	前又は後	個別あるいはチームとしての研究課題を設定し、その課題を紐解くために必要な資料や書籍のサーベイ、討議、発表、等を行う。
B経営401	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	0-2	4	前又は後	個別あるいはチームとしての研究課題を設定し、その課題を紐解くために必要な資料や書籍のサーベイ、討議、発表、等を行う。
B経営402	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	0-2	4	前又は後	個別あるいはチームとしての研究課題を設定し、その課題を紐解くために必要な資料や書籍のサーベイ、討議、発表、等を行う。

プログラム専門科目（夜間主コース）

経営プログラム専門科目（基礎科目）

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
B経営103	簿記入門	4	2	前又は後	必修科目	B経営301	経営戦略論	2	3	前又は後	
B経営201	組織行動論	2	2	前又は後		B経営302	コーポレートファイナンス理論編	2	3	前又は後	
B経営202	経営組織論	2	2	前又は後		B経営303	サプライチェーン・マネジメント	2	3	前又は後	
B経営203	観光情報論	2	2	前又は後		B経営304	広告論	2	3	前又は後	
B経営205	会計学	2	2	前又は後		B経営307	原価計算論	2	3	前又は後	
B経営206	流通原論	2	2	前又は後		B経営308	税務会計論	2	2	前又は後	
B経営207	経営情報論	2	2	前又は後							
B経営208	消費者行動論	2	2	前又は後							

注1：簿記入門は必修

プログラム専門科目（夜間主コース）

経営プログラム専門科目（応用科目）

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
B経営211	人的資源管理論	2	2	前又は後		B経営318	管理会計論	2	3	前又は後	
B経営213	ベンチャー企業論	2	2	前又は後		B経営319	数字で学ぶビジネス	2	3	前又は後	
B経営217	まちづくり地域興し論	2	2	前又は後		B経営320	中小企業論	2	3	前又は後	
B経営218	マーケティング実践研究	2	2	前又は後		B経営321	市場調査論	2	3	前又は後	
B経営225	物流サービス論	2	2	前又は後		B経営353	実践経営学Ⅰ	2	2～4	前又は後	
B経営311	競争戦略論	2	3	前又は後		B経営354	実践経営学Ⅱ	2	2～4	前又は後	
B経営312	コーポレートファイナンス実践編	2	3	前又は後		B経営355	実践経営学Ⅲ	2	2～4	前又は後	
B経営313	応用簿記論	4	2	前又は後		B経営400	卒業研究	2	4	後	必修科目
B経営314	財務会計	2	2	前又は後							

注1：卒業研究は必修

プログラムの専門科目（夜間主コース）

経営プログラム専門科目（地域国際実践力科目）

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
B経営361	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	3	前又は後	必修科目
B経営362	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	3	前又は後	必修科目
B経営401	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	4	前又は後	必修科目
B経営402	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	4	前又は後	必修科目

注1：地域・国際実践力演習Ⅰ～Ⅳは必修

卒業要件 経営プログラム（夜間主コース）

授業科目の区分		必修	選択	
共通教育	教養領域	健康運動系科目	2	
		人文系科目	4	
		社会系科目	4	
		自然系科目	4	
	総合領域	総合科目	14	
		琉大特色科目・地域創生科目		
		キャリア関係科目		
	基幹領域	情報関係科目	8	
		第1外国語		
		第2外国語		
小計		26	14	
共通教育科目総計		40		
専門教育	学部共通基盤専門科目	専門基盤力科目	6	2
	プログラム専門科目	経営プログラム専門科目（基礎科目）	4	32
		経営プログラム専門科目（応用科目）	2	
		地域・国際実践力科目	8	
	地域・国際実践力科目（読替科目）			30
	小計		20	64
専門教育科目総計		84		
総単位数		124		

- 卒業単位は合計124単位以上とする。
- 共通教育科目は40単位とする。

教養領域	健康運動系科目	2単位以上
	人文系科目	4単位以上
	社会系科目	4単位以上
	自然系科目	4単位以上
基幹領域	第1外国語	8単位以上
	第2外国語	4単位以上

健康運動系科目を除く教養領域・総合領域及び基幹領域
 （※上記の14単位以上には、外国語以外を10単位以上含むこと）

注1）共通教育等の履修要件の詳細については「琉球大学共通教育等履修規程」及び同規程別表3「各学部学科等別共通教育等履修基準表」を参照すること。

注2）第1外国語で英語を選択する場合は、「大学英语」と「英語講読演習中級」を必ず履修し、第2外国語で英語を選択する場合は、「大学英语」を必ず履修すること。

- 専門教育科目は84単位以上とする。

(1) 学部共通基盤専門科目は、基礎演習(2単位・必修)を含む8単位以上を履修する。

専門基盤力科目のうち、経営プログラム提供の経営学入門(2単位)、マーケティング入門(2単位)は必ず履修すること。

(2) プログラム専門科目は以下のとおり合計46単位以上を履修する。

○経営プログラム専門科目は、卒業研究(応用科目・2単位・必修)を含む38単位以上を履修する。

○経営プログラム専門科目の簿記入門(基礎科目・4単位)は必ず履修すること。

○地域・国際実践力科目は、地域・国際実践力演習I～IV(必修・8単位)を必ず履修する。

(3) 地域・国際実践力科目(読替)は30単位以上を履修する。

○学部共通基盤専門科目(8単位)、経営プログラム専門科目(38単位)及び地域国際実践力科目(8単位)を超過した分は、地域・国際実践力科目(読替)の単位として読み替えることができる。

○他プログラム・他学部提供の専門科目(教職科目含む)は、地域・国際実践力科目(読替)の単位として読み替えることができる。

4. 一学期に登録できる単位数の上限は20単位(共通教育科目を含め)とする。ただし、集中講義はこの中に含まない。

5. 直前に在学した学期の5段階評価によるGPAが3.0以上の者は、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。

6. 海外交流協定校へ留学した学生については、帰国後の2個学期のみ、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。

7. 3年次編入学生については、入学後の2個学期のみ、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。

8. GPAの値にかかわらず、博物館学芸員等の資格取得予定者は、指導教員の指導・承認を得て登録単位の上積みをも6単位まで認める。ただし、超過する分は資格取得に必要な該当科目とする。

9. 資格取得希望者に該当する者のGPAが3.0以上の場合でも26単位までの登録とする。

10. 卒業要件に算入できる遠隔授業の単位数は、60単位を上限とする。ただし、単位認定を受けた科目(認定科目)のうち、遠隔授業の科目も含む。

注3) 原則として、夜間主コースの学生は、必修以外の科目について、昼間主コースに開講される授業科目から履修することができ、そのうち40単位までは卒業単位として認められる。但し、地域・国際実践力演習I～IVと卒業研究は40単位制限に含まない。

プログラム専門科目（昼間主コース）
 経済学プログラム専門科目（基礎科目）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
経済101	経済数学（基礎）	2	2-0	2	前又は後	経済学の修得に最低限必要な数学を学習する（基礎）。
経済102	経済数学（応用）	2	2-0	2	前又は後	経済学の修得に最低限必要な数学を学習する（応用）。
経済103	ミクロ経済学（基礎）	2	2-0	2	前又は後	基礎では、各経済主体（消費者・企業）の行動を中心に、ミクロ経済学の初中級の内容を講義する。
経済104	ミクロ経済学（応用）	2	2-0	2	前又は後	応用では、基礎で学んだ内容（経済主体の行動）にもとづいて市場機構のはたらきを中心に、ミクロ経済学の初中級の内容を講義する。
経済105	マクロ経済学（基礎）	2	2-0	2	前又は後	マクロ経済学（応用）とともに、マクロ経済学の初中級の内容を講義する。
経済106	マクロ経済学（応用）	2	2-0	2	前又は後	マクロ経済学（基礎）とともに、マクロ経済学の初中級の内容を講義する。
経済107	基礎統計学	2	2-0	2	前又は後	経済データの分析を行うために必要な基礎的な統計学の理論について講義する。
経済301	日本経済史	2	2-0	2～3	前又は後	近世から近代における経済政策、諸産業の発展過程とその際に生じた公害問題、環境問題などについて講義する。
経済302	西洋経済史	2	2-0	2～3	前又は後	コロンブスによる「新大陸」の発見に始まる西洋を中心としたグローバリゼーションと、アジアへの工業化の波及について講義する。
経済303	経済政策論	2	2-0	2～3	前又は後	経済政策に関わる諸原理と経済理論の政策的応用。日本経済や世界経済を取り巻く構造と変化、政策対応。市場機構と資源配分、経済成長と経済安定化、グローバル化の経済への影響、エネルギー、環境、社会保障など。
経済304	財政学	2	2-0	2～3	前又は後	公共サービスの提供、予算、税制、財政赤字、社会保障、財政政策など、様々な財政学のテーマを取り上げ、その現状と課題を理解しながら、財政の見方を養う。
経済305	金融論	2	2-0	2～3	前又は後	金融経済に関わる経済理論を体系的に講義する。
経済306	計量経済学	2	2-0	2～3	前又は後	基礎的な計量経済学を概説する。
経済307	国際経済学	2	2-0	2～3	前又は後	国際貿易、国際直接投資の理論・政策について講義する。
経済308	ゲーム理論	2	2-0	2～3	前又は後	ゲーム理論に関する初中級の内容を講義する。
経済309	環境経済学	2	2-0	2～3	前又は後	環境問題や環境政策を経済学の視点から読み解くための基礎知識を学ぶ。
経済310	労働経済学	2	2-0	2～3	前又は後	労働供給、労働需要の理論的な理解を土台として、賃金や雇用、失業のメカニズムを学習する。
経済311	公共経済学	2	2-0	2～3	前又は後	公共部門の存在根拠のほか、公共部門による活動やその効果について、主にミクロ経済学の視点から解説する。
経済312	開発経済学	2	2-0	2～3	前又は後	発展途上国の貧困問題を経済学的に考察し、経済開発や開発援助のあり方などについて学習する。
経済313	社会政策論	2	2-0	2～3	前又は後	社会の問題を検討し、解決する主体や方法を考える。社会保障、労働問題、地域再生、文化政策などの分野や「子どもの貧困」などの今日的課題も取り扱う。
経済314	法と経済学	2	2-0	2～3	前又は後	経済モデルを使い、経済学がどのように法制度を説明するのかを不法行為・所有権法等の分野を通して講義する。
経済315	情報処理実習	2	0-2	2～3	前又は後	インターネットの活用とホームページの作成について学習する。
DS317	データサイエンスのためのPythonプログラミング	2	2-0	2～3	前又は後	データサイエンスを学ぶ上で必須となるプログラミングの知識を実践的に学ぶ。（授業内でプログラミングを行うため各自パソコンを持参）

プログラム専門科目（昼間主コース）
 経済学プログラム専門科目（応用科目）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
DS316	データサイエンス中級	2	2-0	2～3	前又は後	プログラミング言語「Python」を用いて、主に機械学習の分類問題を学ぶ。
経済401	産業組織論	2	2-0	3～4	前又は後	企業や企業の集合としての産業全体の経済行動を対象にしたミクロ経済学の応用について講義する。
経済402	地域政策論	2	2-0	3～4	前又は後	地域の公共政策的課題や経済・産業振興に関する諸課題について取り扱う。地域における政策主体や政策目的、地方自治体レベルでの、産業政策、医療・福祉、交通、都市政策等の政策形成プロセス。
経済403	都市経済学	2	2-0	3～4	前又は後	東京一極集中の問題をはじめ、交通混雑、土地利用、住宅や企業の立地、環境、財政など都市が抱える様々な問題を学習する。
経済404	ファイナンス理論	2	2-0	3～4	前又は後	金融資産の概略、価格付け等に関する理論を講義する。
経済405	応用統計学	2	2-0	3～4	前又は後	時系列モデルや一般化線形モデルなど、主に経済データの分析に利用されるより発展的な統計分析の手法について講義する。
経済406	応用計量経済学	2	2-0	3～4	前又は後	計量経済学の応用編。ミクロ計量分析やマクロ計量分析について講義する。
経済407	社会経済史	2	2-0	3～4	前又は後	近代都市の形成過程とその際に生じた諸問題について講義する。
経済408	国際マクロ経済学	2	2-0	3～4	前又は後	国際金融の基礎知識、国際マクロ経済の理論・政策について講義する。
経済409	島嶼経済論	2	2-0	3～4	前又は後	島嶼地域の特性を踏まえた経済のあり方と持続的発展の可能性について考察する。
経済410	教育経済学	2	2-0	3～4	前又は後	経済学的な思考を土台に教育行動を合理的に説明し、その上で教育や教育システムのあるべき姿を考察する。
経済411	地方財政論	2	2-0	3～4	前又は後	地方分権をめぐる様々な論点を経済学の視点から考察し、我が国の地方財政制度の現状や課題について解説する。
経済412	アジア経済論	2	2-0	3～4	前又は後	アジア経済の発展パターンとその要因を経済学的に考察し、他の発展途上国・地域と比較しながら発展のために必要な政策などについて学習する。
経済413	応用金融論	2	2-0	3～4	前又は後	金融政策、金融機関の業務、金融制度、および金融商品の運用について学習する。
経済415	コミュニティ・プロデューサー養成講座	2	2-0	2～4	前	マルチステークホルダーをつなぎ、地域を元気に盛り上げる能力（プロデューサー能力）を高めるための実践的な内容を学習する。
経済416	ICTの活用による地域課題解決	2	2-0	2～4	後	地域社会が抱える様々な課題を解決するために不可欠なICTの活用を担う、地域公共人材の育成を行う。
経済418	FP特殊講義 I	2	2-0	3～4	前又は後	個人が直面する様々なリスクを理解し、それぞれのリスクを保険という金融商品を用いてどのようにマネジメントできるか学習する。
経済419	FP特殊講義 II	2	2-0	3～4	前又は後	資産としての不動産の特徴、長期に及ぶ収支の合理的な計算方法等、また不動産の価格評価の方法、登記制度や土地の境界、不動産の売買や相続の手続き、不動産の売買や保有に関する税務や法律を学習する。
経済420	FP特殊講義 III	2	2-0	3～4	前又は後	相続に関する基本的な事項、例えば法定相続人の範囲、遺産分割協議、相続税や贈与税、家庭裁判所における調停・審判分割、遺言書の書式や効力、成年後見人制度などを概説する。
経済421	競争・公共政策入門	2	2-0	3～4	前	競争政策や公共政策に関わる諸問題に対して、経済学はどう分析し、評価し、政策提言すればよいか、などについてミクロ経済学的アプローチを使い、その基礎について講義する。
DS422	データサイエンス上級	2	2-0	3	前又は後	コンビニでの購買記録など身の回りの様々なものやサービスが電子化され膨大なデータが蓄積される時代になり、これらのデータから有用な知見を引き出せる人材（データサイエンティスト）が社会から強く求められています。データサイエンス上級では、プログラミング言語「Python」を用いて、深層学習（ディープラーニング）を中心に学びます。授業内でプログラミングを行うため各自パソコンを持参してください。
経済499	卒業研究	2	0-2	4	後	卒業論文の作成を行う。

プログラム専門科目（昼間主コース）

経済学プログラム専門科目（地域・国際実践力科目）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
経済501	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	0-2	3	前	分野毎の個別研究・討議・発表・論文の作成を行う。
経済502	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	0-2	3	後	分野毎の個別研究・討議・発表・論文の作成を行う。
経済503	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	0-2	4	前	分野毎の個別研究・討議・発表・論文の作成を行う。
経済504	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	0-2	4	後	分野毎の個別研究・討議・発表・論文の作成を行う。
経済414	協同組合論	2	2-0	2～3	前又は後	地域再生を実践する主な主体として市民活動と協同組合を想定して、実践的な地域再生と仕事おこしの方法を学習することを目的とする。
経済551	実践経済学Ⅰ	2	2-0	2～3	前又は後	金融部門から社会政策に至るまで、現代経済の最前線で活躍している人や組織を講師として招き、経済のあり様や経済学の具体的な応用の実際について講義と演習を行う。
経済552	実践経済学Ⅱ	2	2-0	2～3	前又は後	金融部門から社会政策に至るまで、現代経済の最前線で活躍している人や組織を講師として招き、経済のあり様や経済学の具体的な応用の実際について講義と演習を行う。
経済553	実践経済学Ⅲ	2	2-0	2～3	前又は後	金融部門から社会政策に至るまで、現代経済の最前線で活躍している人や組織を講師として招き、経済のあり様や経済学の具体的な応用の実際について講義と演習を行う。
経済554	実践経済学Ⅳ	2	2-0	2～3	前又は後	金融部門から社会政策に至るまで、現代経済の最前線で活躍している人や組織を講師として招き、経済のあり様や経済学の具体的な応用の実際について講義と演習を行う。
経済555	実践経済学Ⅴ	2	2-0	2～3	前又は後	実践経済学のうち、とくに社会的インパクト投資に関する学習を集中的に行う。
DS556	データサイエンス実践演習Ⅰ	2	2-0	2～4	前又は後	データサイエンスの知識と技術を用い、人や組織との連携のもと、課題解決型の講義と演習を行う。
DS557	データサイエンス実践演習Ⅱ	2	2-0	2～4	前又は後	データサイエンスの知識と技術を用い、人や組織との連携のもと、課題解決型の講義と演習を行う。
DS558	データサイエンス実践演習Ⅲ	2	2-0	2～4	前又は後	データサイエンスの知識と技術を用い、人や組織との連携のもと、課題解決型の講義と演習を行う。

経済学プログラム専門科目（昼間主）

経済学プログラム専門科目（基礎科目）

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
経済101	経済数学（基礎）	2	2	前又は後		経済306	計量経済学	2	2～3	前又は後	
経済102	経済数学（応用）	2	2	前又は後	必修	経済307	国際経済学	2	2～3	前又は後	
経済103	ミクロ経済学（基礎）	2	2	前又は後	必修	経済308	ゲーム理論	2	2～3	前又は後	
経済104	ミクロ経済学（応用）	2	2	前又は後	必修	経済309	環境経済学	2	2～3	前又は後	
経済105	マクロ経済学（基礎）	2	2	前又は後	必修	経済310	労働経済学	2	2～3	前又は後	
経済106	マクロ経済学（応用）	2	2	前又は後	必修	経済311	公共経済学	2	2～3	前又は後	
経済107	基礎統計学	2	2	前又は後	必修	経済312	開発経済学	2	2～3	前又は後	
経済301	日本経済史	2	2～3	前又は後		経済313	社会政策論	2	2～3	前又は後	
経済302	西洋経済史	2	2～3	前又は後		経済314	法と経済学	2	2～3	前又は後	
経済303	経済政策論	2	2～3	前又は後		経済315	情報処理実習	2	2～3	前又は後	
経済304	財政学	2	2～3	前又は後		DS317	データサイエンスのためのPythonプログラミング	2	2～3	前又は後	
経済305	金融論	2	2～3	前又は後							

注1：経済数学（基礎）、経済数学（応用）、基礎統計学、ミクロ経済学（基礎）、ミクロ経済学（応用）、マクロ経済学（基礎）、マクロ経済（応用）の7科目は必修。

経済学プログラム専門科目（応用科目）

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
DS316	データサイエンス中級	2	2～3	前又は後		経済410	教育経済学	2	3～4	前又は後	
経済401	産業組織論	2	3～4	前又は後		経済411	地方財政論	2	3～4	前又は後	
経済402	地域政策論	2	3～4	前又は後		経済412	アジア経済論	2	3～4	前又は後	
経済403	都市経済学	2	3～4	前又は後		経済413	応用金融論	2	3～4	前又は後	
経済404	ファイナンス理論	2	3～4	前又は後		経済415	コミュニティ・プロデューサー養成講座	2	2～4	前	
経済405	応用統計学	2	3～4	前又は後		経済416	ICTの活用による地域課題解決	2	2～4	後	
経済406	応用計量経済学	2	3～4	前又は後		経済418	FP特殊講義Ⅰ	2	3～4	前又は後	
経済407	社会経済史	2	3～4	前又は後		経済419	FP特殊講義Ⅱ	2	3～4	前又は後	
経済408	国際マクロ経済学	2	3～4	前又は後		経済420	FP特殊講義Ⅲ	2	3～4	前又は後	
経済409	島嶼経済論	2	3～4	前又は後		経済421	競争・公共政策入門	2	3～4	前	
						DS422	データサイエンス上級	2	3	前又は後	
						経済499	卒業研究	2	4	後	必修

注1：卒業研究は必修。

経済学プログラム専門科目（地域・国際実践力）

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
経済501	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	3	前	必修	経済414	協同組合論	2	2～3	前又は後	
経済502	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	3	後	必修	経済551	実践経済学Ⅰ	2	2～3	前又は後	
経済503	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	4	前	必修	経済552	実践経済学Ⅱ	2	2～3	前又は後	
経済504	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	4	後	必修	経済553	実践経済学Ⅲ	2	2～3	前又は後	
						経済554	実践経済学Ⅳ	2	2～3	前又は後	
						経済555	実践経済学Ⅴ	2	2～3	前又は後	
						DS556	データサイエンス実践演習Ⅰ	2	2～4	前又は後	
						DS557	データサイエンス実践演習Ⅱ	2	2～4	前又は後	
						DS558	データサイエンス実践演習Ⅲ	2	2～4	前又は後	

卒業要件 経済学プログラム（昼間主コース）

授業科目の区分		必修	選択	選択必修	
共通教育	教養領域	健康運動系科目	2		
		人文系科目	2		
		社会系科目	2		
		自然系科目	2		
	総合領域	総合科目	4	6	
		琉大特色・地域創生科目			
		キャリア関係科目			
	基幹領域	情報関係科目			
		第1外国語	8		
		第2外国語	4		
小計		24	6		
共通教育科目総計		30			
専門教育	学部共通基盤専門科目	専門基盤力科目	2	12	
		地域・国際基盤力科目（プログラム系科目）		6	
		地域・国際基盤力科目（プログラム複合科目）			2
	プログラム専門科目	経済学プログラム専門科目（基礎科目）	14	16 (基礎科目8単位を含む)	
		経済学プログラム専門科目（応用科目）	2		
		地域・国際実践力科目	8		4
	地域・国際実践力科目（読替科目）			28	
	小計		26	64 66	4- 2
専門教育科目総計		94			
総単位数		124			

- 卒業単位は合計124単位以上とする。
- 共通教育科目は30単位とする。

教養領域	健康運動系科目	2単位以上
	人文系科目	2単位以上
	社会系科目	2単位以上
	自然系科目	2単位以上
総合領域	総合、琉大特色・地域創生及びキャリア関係科目	4単位以上
基幹領域	第1外国語	8単位以上
	第2外国語	4単位以上

健康運動系科目を除く教養領域・総合領域及び基幹領域 6単位以上
 (※上記の6単位以上には、外国語以外を2単位以上含むこと)

注1) 共通教育等の履修要件の詳細については「琉球大学共通教育等履修規程」及び同規程別表3「各学部学科等別共通教育等履修基準表」を参照すること。

注2) 第1外国語で英語を選択する場合は、「大学英語」と「英語講読演習中級」を必ず履修し、第2外国語で英語を選択する場合は、「大学英語」を必ず履修すること。

- 専門教育科目は94単位以上とする。

(1) 学部共通基盤専門科目は以下のとおり、合計22単位以上を履修すること。

○ 専門基盤力科目は、合計14単位以上履修すること。ただし、

・基礎演習(2単位)は、必ず履修すること。

・経済学プログラム提供の、社会科学のためのゲーム論入門、経済学概論、社会科学のための統計入門、日本経済入門の中から3科目(6単位)以上を必ず履修すること。

・他プログラムが提供している専門基盤力科目のうち、少なくとも2つのプログラムの科目について、それぞれ1科目以上(計4単位以上)履修すること。

○ 地域・国際基盤力科目は、合計8単位以上履修すること。ただし、

・プログラム系科目を6単位以上履修すること。

・プログラム複合科目(選択必修)2単位以上を履修すること。

(2) 経済学プログラム専門科目は以下のとおり、合計44単位以上を履修すること。

○ 基礎科目のうち、基礎統計学、経済数学(基礎)、経済数学(応用)、ミクロ経済学(基礎)、ミクロ経済学(応用)、マクロ経済学(基礎)、マクロ経済学(応用)の7科目(14単位)を含む22単位以上を履修すること。

○ 応用科目は卒業研究(2単位)を必修とする。

○ 基礎科目と応用科目を合わせて32単位以上を履修すること。

○ 地域・国際実践力科目は、合計12単位以上を履修すること。ただし、

・地域・国際実践力演習I~IV(計8単位)は、必ず履修すること。

(3) 地域・国際実践力科目(読替科目)は28単位以上を履修する。

○ 学部共通基盤専門科目、経済学プログラム専門科目、及び地域・国際実践力科目で、必要単位数(それぞれ22単位、32単位、12単位)を超過して取得した単位は、地域・国際実践力科目(読替科目)の単位として読み替えることができる。

○ 他プログラム・他学部提供の専門科目(教職科目含む)は、地域・国際実践力科目(読替科目)の単位として読み替えることができる。

- 一学期に登録できる単位数の上限は20単位(共通教育科目を含め)とする。ただし集中講義はこの中に含まない。
- 直前に在学した学期の5段階評価によるGPAが3.0以上の者は、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。
- 海外交流協定校へ留学した学生については、帰国後の2学期のみ、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。
- 3年次編入学生については、入学後の2学期のみ、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。
- GPAの値にかかわらず、教員免許・博物館学芸員等の資格取得予定者は、指導教員の指導・承認を得て登録単位の上積み6単位まで認める。ただし、超過する分は資格取得に必要な該当科目とする。
- 資格取得希望者に該当する者のGPAが3.0以上の場合でも26単位までの登録とする。
- 卒業要件に算入できる遠隔授業の単位数は、60単位を上限とする。ただし、単位認定を受けた科目(認定科目)のうち、遠隔授業の科目も含む。

注3) 原則として、昼間主コースの学生は、必修以外の科目について夜間主コースに開講される授業科目から履修することができ、そのうち40単位までは卒業単位として認められる。

プログラム専門科目（夜間主コース）
 経済学プログラム専門科目（基礎科目）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
B経済101	経済数学（基礎）	2	2-0	2	前又は後	経済学の修得に最低限必要な数学を学習する（基礎）。
B経済102	経済数学（応用）	2	2-0	2	前又は後	経済学の修得に最低限必要な数学を学習する（応用）。
B経済103	ミクロ経済学（基礎）	2	2-0	2	前又は後	市場を構成する消費者や企業の行動について説明したうえで、市場の基本的な機能について講義する。
B経済104	ミクロ経済学（応用）	2	2-0	2	前又は後	市場の限界について講義するほか、各経済主体が戦略的状況にある、あるいは保有する情報に格差があるといった従来のミクロ経済学では扱いきれなかった分野を講義する。
B経済105	マクロ経済学（基礎）	2	2-0	2	前又は後	経済全体の生産、雇用、消費、投資の決定メカニズムと、景気循環や経済成長の要因などについて講義する。
B経済106	マクロ経済学（応用）	2	2-0	2	前又は後	マクロ経済体系について学習し、財政政策や金融政策による政府の介入効果について講義する。
B経済107	基礎統計学	2	2-0	2	前又は後	経済データの分析を行うために必要な基礎的な統計学の理論について講義する。
B経済205	地域経済入門	2	2-0	1～2前	前又は後	人口減少や都市化（過疎・過密）が進む中で、地域経済・社会や地方財政が抱える様々な問題を取り上げ、経済学の視点から考察する。
B経済206	国際経済入門	2	2-0	1～2前	前又は後	国際貿易、国際直接投資、国際金融の基礎知識について講義する。
B経済207	経済史入門	2	2-0	1～2前	前又は後	近代から現代における経済成長の過程及び諸産業の発展過程を講義する。
B経済208	社会政策入門	2	2-0	1～2前	前又は後	社会の問題を検討し、解決する主体や方法を、地域再生、文化政策、貧困問題など今日的テーマで考えていく。
B経済254	沖縄経済入門	2	2-0	1～2	前又は後	沖縄の産業構造、雇用、財政、沖縄振興策等について講義する。
B経済301	日本経済史	2	2-0	2～3	前又は後	近世から近代における経済政策、諸産業の発展過程とその際に生じた公害問題、環境問題などについて講義する。
B経済302	西洋経済史	2	2-0	2～3	前又は後	コロンブスによる「新大陸」の発見に始まる西洋を中心としたグローバリゼーションと、アジアへの工業化の波及について講義する。
B経済303	経済政策論	2	2-0	2～3	前又は後	経済政策に関わる諸原理と経済理論の政策的応用。日本経済や世界経済を取り巻く構造と変化、政策対応。市場機構と資源配分、経済成長と経済安定化、グローバル化の経済への影響、エネルギー、環境、社会保障など。
B経済304	財政学	2	2-0	2～3	前又は後	公共サービスの提供、予算、税制、財政赤字、社会保障、財政政策など、様々な財政学のテーマを取り上げ、その現状と課題を理解しながら、財政の見方を養う。
B経済305	金融論	2	2-0	2～3	前又は後	金融経済に関わる経済理論を体系的に講義する。
B経済306	計量経済学	2	2-0	2～3	前又は後	基礎的な計量経済学を概説する。
B経済307	国際経済学	2	2-0	2～3	前又は後	国際貿易、国際直接投資の理論・政策について講義する。
B経済308	ゲーム理論	2	2-0	2～3	前又は後	ゲーム理論に関する初中級の内容を講義する。
B経済309	環境経済学	2	2-0	2～3	前又は後	環境問題や環境政策を経済学の視点から読み解くための基礎知識を学ぶ。
B経済310	労働経済学	2	2-0	2～3	前又は後	労働供給、労働需要の理論的な理解を土台として、賃金や雇用、失業のメカニズムを学習する。

B経済311	公共経済学	2	2-0	2~3	前又は後	公共部門の存在根拠、公共部門による活動やその効果について、主にミクロ経済学の視点から解説する。
B経済312	開発経済学	2	2-0	2~3	前又は後	発展途上国の貧困問題を経済学的に考察し、経済開発や開発援助のあり方などについて学習する。
B経済313	社会政策論	2	2-0	2~3	前又は後	社会の問題を検討し、解決する主体や方法を考える。社会保障、労働問題、地域再生、文化政策などの分野や「子どもの貧困」などの今日的課題も取り扱う。
B経済314	法と経済学	2	2-0	2~3	前又は後	経済モデルを使い、経済学がどのように法制度を説明するのかを不法行為・所有権法等の分野を通して講義する。
B経済315	情報処理実習	2	0-2	2~3	前又は後	インターネットの活用とホームページの作成について学習する。

プログラム専門科目（夜間主コース）
経済学プログラム専門科目（応用科目）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
B経済402	地域政策論	2	2-0	3~4	前又は後	地域の公共政策的課題や経済・産業振興に関する諸課題について取り扱う。地域における政策主体や政策目的、地方自治体レベルでの、産業政策、医療・福祉、交通、都市政策等の政策形成プロセス。
B経済403	都市経済学	2	2-0	3~4	前又は後	東京一極集中の問題をはじめ、交通混雑、土地利用、住宅や企業の立地、環境、財政など都市が抱える様々な問題を学習する。
B経済404	ファイナンス理論	2	2-0	3~4	前又は後	金融資産の概略、価格付け等に関する理論を講義する。
B経済405	応用統計学	2	2-0	3~4	前又は後	時系列モデルや一般化線形モデルなど、主に経済データの分析に利用されるより発展的な統計分析の手法について講義する。
B経済406	応用計量経済学	2	2-0	3~4	前又は後	計量経済学の応用編。ミクロ計量分析やマクロ計量分析について講義する。
B経済407	社会経済史	2	2-0	3~4	前又は後	近代都市の形成過程とその際に生じた諸問題について講義する。
B経済408	国際マクロ経済学	2	2-0	3~4	前又は後	国際金融の基礎知識、国際マクロ経済の理論・政策について講義する。
B経済409	島嶼経済論	2	2-0	3~4	前又は後	島嶼地域の特性を踏まえた経済のあり方と持続的発展の可能性について考察する。
B経済411	地方財政論	2	2-0	3~4	前又は後	地方分権をめぐる様々な論点を経済学の視点から考察し、我が国の地方財政制度の現状や課題について解説する。
B経済412	アジア経済論	2	2-0	3~4	前又は後	アジア経済の発展パターンとその要因を経済学的に考察し、他の発展途上国・地域と比較しながら発展のために必要な政策などについて学習する。
B経済413	応用金融論	2	2-0	3~4	前又は後	金融政策、金融機関の業務、金融制度、および金融商品の運用について学習する。
B経済421	競争・公共政策入門	2	2-0	3~4	前	競争政策や公共政策に関わる諸問題に対して、経済学はどう分析し、評価し、政策提言すればよいか、などについてミクロ経済学的アプローチを使い、その基礎について講義する。
B経済499	卒業研究	2	0-2	4	後	卒業論文の作成を行う。

プログラム専門科目（夜間主コース）

経済学プログラム専門科目（地域・国際実践力科目）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
B経済501	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	0-2	3	前	分野毎の個別研究・討議・発表・論文の作成を行う。
B経済502	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	0-2	3	後	分野毎の個別研究・討議・発表・論文の作成を行う。
B経済503	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	0-2	4	前	分野毎の個別研究・討議・発表・論文の作成を行う。
B経済504	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	0-2	4	後	分野毎の個別研究・討議・発表・論文の作成を行う。
B経済552	実践経済学Ⅱ	2	2-0	2～3	前又は後	金融部門から社会政策に至るまで、現代経済の最前線で活躍している人や組織を講師として招き、経済のあり様や経済学の具体的な応用の実際について講義と演習を行う。
B経済555	実践経済学Ⅴ	2	2-0	2～3	前又は後	実践経済学のうち、とくに社会的インパクト投資に関する学習を集中的に行う。
B経済414	協同組合論	2	2-0	2～3	前又は後	地域再生を实践する主な主体として市民活動と協同組合を想定して、実践的な地域再生と仕事おこしの方法を学習することを目的とする。

経済学プログラム専門科目（夜間主）

経済学プログラム専門科目（基礎科目）

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
B経済101	経済数学（基礎）	2	2	前又は後	必修	B経済301	日本経済史	2	2～3	前又は後	
B経済102	経済数学（応用）	2	2	前又は後	必修	B経済302	西洋経済史	2	2～3	前又は後	
B経済103	ミクロ経済学（基礎）	2	2	前又は後	必修	B経済303	経済政策論	2	2～3	前又は後	
B経済104	ミクロ経済学（応用）	2	2	前又は後	必修	B経済304	財政学	2	2～3	前又は後	
B経済105	マクロ経済学（基礎）	2	2	前又は後	必修	B経済305	金融論	2	2～3	前又は後	
B経済106	マクロ経済学（応用）	2	2	前又は後	必修	B経済306	計量経済学	2	2～3	前又は後	
B経済107	基礎統計学	2	2	前又は後	必修	B経済307	国際経済学	2	2～3	前又は後	
B経済205	地域経済入門	2	1～2前	前又は後		B経済308	ゲーム理論	2	2～3	前又は後	
B経済206	国際経済入門	2	1～2前	前又は後		B経済309	環境経済学	2	2～3	前又は後	
B経済207	経済史入門	2	1～2前	前又は後		B経済310	労働経済学	2	2～3	前又は後	
B経済208	社会政策入門	2	1～2前	前又は後		B経済311	公共経済学	2	2～3	前又は後	
B経済254	沖縄経済入門	2	1～2	前又は後		B経済312	開発経済学	2	2～3	前又は後	
						B経済313	社会政策論	2	2～3	前又は後	
						B経済314	法と経済学	2	2～3	前又は後	
						B経済315	情報処理実習	2	2～3	前又は後	

注1：経済数学（基礎）、経済数学（応用）、基礎統計学、ミクロ経済学（基礎）、ミクロ経済学（応用）、マクロ経済学（基礎）、マクロ経済（応用）の7科目は必修。

B経済学プログラム専門科目（応用科目）

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
B経済402	地域政策論	2	3～4	前又は後		B経済408	国際マクロ経済学	2	3～4	前又は後	
B経済403	都市経済学	2	3～4	前又は後		B経済409	島嶼経済論	2	3～4	前又は後	
B経済404	ファイナンス理論	2	3～4	前又は後		B経済411	地方財政論	2	3～4	前又は後	
B経済405	応用統計学	2	3～4	前又は後		B経済412	アジア経済論	2	3～4	前又は後	
B経済406	応用計量経済学	2	3～4	前又は後		B経済413	応用金融論	2	3～4	前又は後	
B経済407	社会経済史	2	3～4	前又は後		B経済421	競争・公共政策入門	2	3～4	前	
						B経済499	卒業研究	2	4	後	

注1：卒業研究は必修。

B経済学プログラム専門科目（地域・国際実践力）

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
B経済501	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	3	前		B経済414	協同組合論	2	2～3	前又は後	
B経済502	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	3	後		B経済552	実践経済学Ⅱ	2	2～3	前又は後	
B経済503	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	4	前		B経済555	実践経済学Ⅴ	2	2～3	前又は後	
B経済504	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	4	後							

注1：地域・国際実践力演習Ⅰ～Ⅳは必修。

卒業要件 経済学プログラム（夜間主コース）

授業科目の区分		必修	選択	
共通教育	教養領域	健康運動系科目	2	14
		人文系科目	4	
		社会系科目	4	
		自然系科目	4	
	総合領域	総合科目		
		琉大特色・地域創生科目		
		キャリア関係科目		
	基幹領域	情報関係科目		
		第1外国語	8	
		第2外国語	4	
小計		26	14	
共通教育科目総計		40		
専門教育	学部共通基盤専門科目	専門基盤力科目	2	6
	プログラム専門科目	経済学プログラム専門科目（基礎科目）	14	22 (基礎科目8単位を含む)
		経済学プログラム専門科目（応用科目）	2	
		地域・国際実践力科目	8	
	地域・国際実践力科目（読替科目）			30
	小計		26	58
専門教育科目総計		84		
総単位数		124		

- 卒業単位は合計124単位以上とする。
- 共通教育科目は40単位とする。

教養領域	健康運動系科目	2単位以上
	人文系科目	4単位以上
	社会系科目	4単位以上
	自然系科目	4単位以上
基幹領域	第1外国語	8単位以上
	第2外国語	4単位以上

健康運動系科目を除く教養領域・総合領域及び基幹領域
 (※上記の14単位以上には、外国語以外を10単位以上含むこと)

注1) 共通教育等の履修要件の詳細については「琉球大学共通教育等履修規程」及び同規程別表3「各学部学科等別共通教育等履修基準表」を参照すること。

注2) 第1外国語で英語を選択する場合は、「大学英语」と「英語講読演習中級」を必ず履修し、第2外国語で英語を選択する場合は、「大学英语」を必ず履修すること。

- 専門教育科目は84単位以上とする。

(1) 学部共通基盤専門科目は以下のとおり合計8単位以上を履修する。

- 専門基盤力科目は、基礎演習(2単位)を必修とする。
- 経済学プログラム希望の場合、学部共通基盤専門科目の中から経済学系科目2科目を履修する。

(2) 経済学プログラム専門科目は以下のとおり合計46単位以上を履修する。

- 基礎科目のうち、基礎統計学、経済数学(基礎)、経済数学(応用)、ミクロ経済学(基礎)、ミクロ経済学(応用)、マクロ経済学(基礎)、マクロ経済学(応用)の7科目(14単位)を含む22単位以上を履修する。
- 応用科目は卒業研究(2単位)を必修とする。
- 基礎科目と応用科目を合わせて(卒業研究を含む)38単位以上を履修する。
- 地域・国際実践力科目は、地域・国際実践力演習I～IV(8単位)を必修とする。

(3) 地域・国際実践力科目(読替科目)は30単位以上を履修する。

- 学部共通基盤専門科目(8単位)、経済学プログラム専門科目(38単位)及び地域国際実践力科目(8単位)を超過した分は、地域・国際実践力科目(読替)の単位として読み替えることができる。
- 他プログラム・他学部提供の専門科目(教職科目含む)は、地域・国際実践力科目(読替)の単位として読み替えることができる。

4. 一学期に登録できる単位数の上限は20単位(共通教育科目を含め)とする。ただし集中講義はこの中に含まない。

5. 直前に在学した学期の5段階評価によるGPAが3.0以上の者は、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。

6. 海外交流協定校へ留学した学生については、帰国後の2学期のみ、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。

7. 3年次編入学生については、入学後の2学期のみ、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。

8. GPAの値にかかわらず、教員免許・博物館学芸員等の資格取得予定者は、指導教員の指導・承認を得て登録単位の上積みを6単位まで認める。ただし、超過する分は資格取得に必要な該当科目とする。

9. 資格取得希望者に該当する者のGPAが3.0以上の場合でも26単位までの登録とする。

10. 卒業要件に算入できる遠隔授業の単位数は、60単位を上限とする。ただし、単位認定を受けた科目(認定科目)のうち、遠隔授業の科目も含む。

注3) 原則として、夜間主コースの学生は、必修以外の科目について昼間主コースに開講される授業科目から履修することができ、そのうち40単位(教員免許関係の科目を除く)までは卒業単位として認められる。

プログラム専門科目（昼間主コース）

国際言語文化プログラム専門科目（基礎科目）

英語文化

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
英言111	リーディング	2	0-2	2	前	様々な分野の比較的長い英語の論考、エッセイを速読して大意を理解する訓練をする。
英言121	英文法演習	2	1-1	2	前	英文法と英作文を相互補完的に学習する。
英言181	英語研究 I	2	2-0	2	前	英語学／言語学の基礎を中心に学ぶ。
英言221	ライティング	2	0-2	2	後	グローバル及びローカルな問題を扱ったエッセイの書き方を訓練する。
英言231	オーラルコミュニケーション	2	0-2	2	前	日常的な場面において、英語によるコミュニケーション活動が適切に行えるよう訓練する。
英言243	英米文化概論II	2	2-0	2	後	イギリスの代表的作家の主要作品の鑑賞を通してイギリス文学を歴史的に概観する。
英言244	英米文化概論III	2	2-0	3	前	アメリカの代表的作家の主要作品の鑑賞を通してアメリカ文学を歴史的に概観する。
英言281	英語研究 II	2	2-0	2	後	英語を中心とした言語習得に関わる様々な理論を概観しながら、母語習得や第二言語習得（外国語教育）についての基礎的知識を学ぶ。
英言282	英語研究 III	2	2-0	3	前	英語を中心とした（異文化）コミュニケーション学／社会言語学の基礎を中心に学ぶ。

プログラム専門科目（昼間主コース）

国際言語文化プログラム専門科目（応用科目）

英語文化

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
国言101	学外実地研修	2	0-2	2～4	前又は後	合宿研修等を通して、外国語のコミュニケーション能力を身につける。
英言115	英語資格試験演習	2	0-2	3	後	客観的な英語能力の指標となるTOEFLおよびTOEICの試験内容について、学習方略を含めた問題演習を行う。
英言311	アカデミック・プレゼンテーション	2	0-2	3～4	後	様々な学問分野において、英語による効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶ。
英言321	英語スピーチ	2	0-2	2～4	前又は後	パブリック・スピーキングの理論を学び、英語のスピーチを実践することによって、論理的に話す能力と建設的な批判能力を養う。
英言322	英語ディベート	2	0-2	2～4	前又は後	賛否両論ある特定の社会問題について英語で討論し、意志決定能力や論理的思考能力を増進する。
英言360	英米文化研究I	2	2-0	2～4	前又は後	英米文学・文化の様々なテーマについて学び、文学と文化を理解するための基礎的な技術と知識を習得する。
英言361	英米文化研究II	2	2-0	2～4	前又は後	英米文学・文化を分析・解釈するための基礎的な方法について学ぶ。
英言362	英米文化研究III	2	2-0	2～4	前又は後	英米文学・文化を批評するための理論について専門的なアプローチを学ぶ。
英言363	英米文化研究IV	2	2-0	2～4	前又は後	英米文学・文化について、自律した分析や解釈をするための理解を深める。
英言364	英米文化研究V	2	2-0	2～4	前又は後	英米文学・文化について、先行研究を踏まえた専門的な議論の構築の方法や学術論文の書き方について学ぶ。
英言365	英米文化研究VI	2	2-0	2～4	前又は後	英米文学・文化について、自律した見解と先行研究にもとづく議論と執筆ルールを踏まえ、専門性を備えた学術論文執筆の実践を行う。

英言375	英語の意味解釈	2	2-0	2~4	前又は後	英語の意味について理論的・体系的に研究する。
英言377	英語の音声構造	2	2-0	2~4	前又は後	英語の音声と音韻構造を理論的・体系的に研究する。
英言379	英語の文構造	2	2-0	2~4	前又は後	英語の文や句の構造を理論的・体系的に研究する。
英言383	英語の異文化間コミュニケーション	2	2-0	2~4	前又は後	異文化が接触したときの言語現象や非言語行動、および文化摩擦現象をコミュニケーションの基礎理論を通して学ぶ。
英言384	コミュニケーションと文化	2	2-0	2~4	前又は後	英語を中心に、日常的なコミュニケーション事象を分析し、ことばと人、社会、文化との関連性について学ぶ。
英言385	談話とコミュニケーション	2	0-2	2~4	前又は後	英語などの自然会話の連鎖組織や書きことばの構造を考察し、コミュニケーション行為の仕組みと社会性を探求する。
英言386	英語コミュニケーションの多様性	2	2-0	2~4	前又は後	国際語としての英語について、音声・文法・語彙などの多様性を概観し、「世界諸英語(World Englishes)」の状況やその文化的背景について学ぶ。
英言395	英語学習論I	2	2-0	2~4	前又は後	外国語としての英語学習を心理学的手法を用いて概観し、その研究方法と理論を学ぶ。
英言396	英語学習論II	2	2-0	2~4	前又は後	外国語としての英語学習を社会文化理論を用いて精査し、その研究について学ぶ。
英言473	英語圏の言語政策と言語権	2	2-0	2~4	前又は後	英語が公用語または実質的な公用語として機能している国・地域における多言語社会の様態を学び、少数言語話者の言語権を保障した言語政策・言語計画を考察する。
英言474	日英語比較研究	2	2-0	2~4	前又は後	日本語と英語を比較研究し、それぞれの特徴及び共通性を研究する。
英言493	特定言語研究	2	2-0	2~4	前又は後	英語を含めた特定の言語の特定分野について、フィールドワークなどを通して研究する。
英言500	卒業研究	2	0-2	4	後	4年間の学習の集大成として研究論文執筆や発表をおこなう。

プログラム専門科目 (昼間主コース)

国際言語文化プログラム専門科目 (地域・国際実践力科目)

英語文化

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
英言387	特定課題演習A	2	1-1	2~4	前又は後	国際言語文化プログラム提供の学修に関わる特定の課題について、講義、演習あるいは課題プロジェクトを実践することとおして、専門知識の深化を目指す。
英言388	特定課題演習B	2	1-1	2~4	前又は後	国際言語文化プログラム提供の学修に関わる特定の課題について、講義、演習あるいは課題プロジェクトを実践することとおして、専門知識の総合化を目指す。
国言102	異文化実地研修A	2	0-2	1~4	前又は後	英語またはヨーロッパ言語により国外で実施される短期プログラムに参加し、海外の言語・歴史・文化等について学ぶことで、当該言語のコミュニケーション能力の向上や異文化理解の深化を図る。
国言103	異文化実地研修B	4	0-4	1~4	前又は後	英語またはヨーロッパ言語により国外で実施されるプログラムに参加し、海外の言語・歴史・文化等について学ぶことで、当該言語のコミュニケーション能力を向上させ、異文化に対する理解を深める。
国言501	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	0-2	3	前	各分野別に個別研究、討議、発表、論文の作成を行う。
国言502	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	0-2	3	後	各分野別に個別研究、討議、発表、論文の作成を行う。
国言503	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	0-2	4	前	各分野別に個別研究、討議、発表、論文の作成を行う。
国言504	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	0-2	4	後	各分野別に個別研究、討議、発表、論文の作成を行う。

プログラム専門科目 (昼間主コース)

国際言語文化プログラム専門科目 (基礎科目)

英語文化

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
英言111	リーディング	2	2	前		英言281	英語研究Ⅱ	2	3	後	
英言121	英文法演習	2	2	前		英言282	英語研究Ⅲ	2	3	前	
英言181	英語研究Ⅰ	2	2	前							
英言221	ライティング	2	2	後							
英言231	オーラルコミュニケーション	2	2	前							
英言243	英米文化概論Ⅱ	2	2	後							
英言244	英米文化概論Ⅲ	2	3	前							

プログラム専門科目 (昼間主コース)

国際言語文化プログラム専門科目 (応用科目)

英語文化

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	
国言101	学外実地研修	2	2~4	前又は後		英言377	英語の音声構造	2	2~4	前又は後		
英言115	英語資格試験演習	2	3	後		英言379	英語の文構造	2	2~4	前又は後		
英言311	アカデミック・プレゼンテーション	2	3~4	後		英言383	英語の異文化間コミュニケーション	2	2~4	前又は後		
英言321	英語スピーチ	2	2~4	前又は後		英言384	コミュニケーションと文化	2	2~4	前又は後		
英言322	英語ディベート	2	2~4	前又は後		英言385	談話とコミュニケーション	2	2~4	前又は後		
英言360	英米文化研究Ⅰ	2	2~4	前又は後		英言386	英語コミュニケーションの多様性	2	2~4	前又は後		
英言361	英米文化研究Ⅱ	2	2~4	前又は後		英言395	英語学習論Ⅰ	2	2~4	前又は後		
英言362	英米文化研究Ⅲ	2	2~4	前又は後		英言396	英語学習論Ⅱ	2	2~4	前又は後		
英言363	英米文化研究Ⅳ	2	2~4	前又は後		英言473	英語圏の言語政策と言語権	2	2~4	前又は後		
英言364	英米文化研究Ⅴ	2	2~4	前又は後		英言474	日英語比較研究	2	2~4	前又は後		
英言365	英米文化研究Ⅵ	2	2~4	前又は後		英言493	特定言語研究	2	2~4	前又は後		
英言375	英語の意味解釈	2	2~4	前又は後		英言500	卒業研究	2	4	後		必修科目

プログラム専門科目 (昼間主コース)

国際言語文化プログラム専門科目 (地域国際実践力科目)

英語文化

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	
英言387	特定課題演習A	2	2~4	前又は後		
英言388	特定課題演習B	2	2~4	前又は後		
国言102	異文化実地研修A	2	1~4	前又は後		
国言103	異文化実地研修B	4	1~4	前又は後		
国言501	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	3	前		必修科目
国言502	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	3	後		必修科目
国言503	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	4	前		必修科目
国言504	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	4	後		必修科目

プログラム専門科目（昼間主コース）

国際言語文化プログラム専門科目（基礎科目）

日本文化

科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
日国111	日本語文章表現Ⅰ	2	2-0	1	前	メールの書き方、レポート執筆に必要な書き言葉等の知識、文章構成法および発表資料の作成法を学ぶ。
日国112	日本語文章表現Ⅱ	2	2-0	1	後	「日国111」の続き。
日国221	日本語作品講読Ⅰ	2	2-0	2	前	代表的な近現代の文学作品を精読する。
日国222	日本語作品講読Ⅱ	2	2-0	2	後	「日国221」の続き。
日国231	日本文化論Ⅰ	2	2-0	2	前	日本文化や日本社会の諸課題を取り上げ考察する。
日国232	日本文化論Ⅱ	2	2-0	2	後	「日国231」の続き。

プログラム専門科目（昼間主コース）

国際言語文化プログラム専門科目（応用科目）

日本文化

科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
日国323	日本語演習Ⅰ	2	0-2	3~4	前	日本語学一般に関する知識を身につけ、日本語の様々な現象について言語学的に考察する。
日国324	日本語演習Ⅱ	2	0-2	3~4	後	「日国323」の続き。
日国333	日本文化特別研究Ⅰ	2	2-0	3~4	前	日本の文化を幅広く捉え、日本社会の背景となっている様々な事象について学び、日本文化の多様性について認識を深める。
日国334	日本文化特別研究Ⅱ	2	2-0	3~4	後	「日国333」の続き。
日国343	琉球文化特別研究Ⅰ	2	2-0	3~4	前	歴史を中心として、沖縄の風俗、習慣、音楽、言語等、沖縄独特の文化を学び、近現代史からは日本の中の沖縄を理解する。
日国344	琉球文化特別研究Ⅱ	2	2-0	3~4	後	「日国343」の続き。
日国441	二言語対照研究	2	2-0	3~4	前	日本語と自国語とを対照的に言語学的に分析する。
日国443	国際事情Ⅰ	2	2-0	3~4	前	外国との関係における日本を現代史的に考察する。
日国444	国際事情Ⅱ	2	2-0	3~4	後	「日国443」の続き。
日国450	課題研究Ⅰ	2	2-0	3~4	前	特定の研究課題について研究し、レポートの作成、発表を行う
日国451	課題研究Ⅱ	2	2-0	3~4	後	「日国450」の続き。
日国452	課題研究Ⅲ	2	2-0	3~4	前	特定の研究課題について研究し、レポートの作成、発表を行う
日国453	課題研究Ⅳ	2	2-0	3~4	後	「日国452」の続き。

プログラム専門科目（昼間主コース）

国際言語文化プログラム専門科目（地域・国際実践力科目）

日本文化

科目番号	授業科目	単位	週時間	年次	学期	授業内容
国言501	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	0-2	3	前	各分野別に個別研究、討議、発表、論文の作成を行う。
国言502	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	0-2	3	後	各分野別に個別研究、討議、発表、論文の作成を行う。
国言503	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	0-2	4	前	各分野別に個別研究、討議、発表、論文の作成を行う。
国言504	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	0-2	4	後	各分野別に個別研究、討議、発表、論文の作成を行う。

プログラム専門科目（昼間主コース）

国際言語文化プログラム専門科目（基礎科目）

日本文化

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
日国111	日本語文章表現Ⅰ	2	1	前	
日国112	日本語文章表現Ⅱ	2	1	後	
日国221	日本語作品講読Ⅰ	2	2	前	
日国222	日本語作品講読Ⅱ	2	2	後	
日国231	日本文化論Ⅰ	2	2	前	
日国232	日本文化論Ⅱ	2	2	後	

プログラム専門科目（昼間主コース）

国際言語文化プログラム専門科目（応用科目）

日本文化

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
日国323	日本語演習Ⅰ	2	3～4	前	
日国324	日本語演習Ⅱ	2	3～4	後	
日国333	日本文化特別研究Ⅰ	2	3～4	前	
日国334	日本文化特別研究Ⅱ	2	3～4	後	
日国343	琉球文化特別研究Ⅰ	2	3～4	前	
日国344	琉球文化特別研究Ⅱ	2	3～4	後	
日国441	二言語対照研究	2	3～4	前	
日国443	国際事情Ⅰ	2	3～4	前	
日国444	国際事情Ⅱ	2	3～4	後	
日国450	課題研究Ⅰ	2	3～4	前	
日国451	課題研究Ⅱ	2	3～4	後	
日国452	課題研究Ⅲ	2	3～4	前	
日国453	課題研究Ⅳ	2	3～4	後	

プログラム専門科目（昼間主コース）

国際言語文化プログラム専門科目（地域・国際実践力科目）

日本文化

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
国言501	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	3	前	
国言502	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	3	後	
国言503	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	4	前	
国言504	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	4	後	

プログラム専門科目（昼間主コース）
 国際言語文化プログラム専門科目（基礎科目）
 ヨーロッパ言語文化

科目番号	授業科目	単位	週時間	年次	学期	授業内容
欧言200	ドイツ語オーラル・コミュニケーションⅠ	2	0-2	2～3	前	ドイツ語の発音訓練と口頭による表現力の基礎を養成する。
欧言201	ドイツ語トレーニングⅠ	2	0-2	2～3	前	読み、書き、聴き、話すためのより高度なドイツ語運用能力を養成する。
欧言202	フランス語オーラル・コミュニケーションⅠ	2	0-2	2～3	前	フランス語の発音訓練と口頭による表現力の基礎を養成する。
欧言203	フランス語トレーニングⅠ	2	0-2	2～3	前	読み、書き、聴き、話すためのより高度なフランス語運用能力を養成する。
欧言204	スペイン語オーラル・コミュニケーションⅠ	2	0-2	2～3	前	スペイン語の発音訓練と口頭による表現力の基礎を養成する。
欧言205	スペイン語トレーニングⅠ	2	0-2	2～3	前	読み、書き、聴き、話すためのより高度なスペイン語運用能力を養成する。
欧言206	ドイツ社会研究	2	2-0	2～3	前又は後	ドイツの日常生活や社会・文化の諸問題（環境、平和、外国人、再統一後の問題等）を研究する。
欧言207	ドイツ語オーラル・コミュニケーションⅡ	2	0-2	2～3	後	ドイツ語の発音訓練と口頭による表現力の基礎を養成する。
欧言208	ドイツ語文法Ⅰ	2	2-0	2～3	前	ドイツ語の文法規則について理解を深め、その運用能力を養成する。
欧言209	ドイツ語トレーニングⅡ	2	0-2	2～3	後	読み、書き、聴き、話すためのより高度なドイツ語運用能力を養成する。
欧言210	フランス社会研究	2	2-0	2～3	前又は後	フランスの日常生活や社会・文化の諸問題（環境、平和、移民・難民問題等）を研究する。
欧言211	フランス語オーラル・コミュニケーションⅡ	2	0-2	2～3	後	フランス語の発音訓練と口頭による表現力の基礎を養成する。
欧言212	フランス語文法Ⅰ	2	2-0	2～3	前	フランス語の文法規則について理解を深め、その運用能力を養成する。
欧言213	フランス語トレーニングⅡ	2	0-2	2～3	後	読み、書き、聴き、話すためのより高度なフランス語運用能力を養成する。
欧言214	スペイン社会研究	2	2-0	2～3	前又は後	スペインの日常生活や社会・文化の諸問題（環境、平和、移民・難民問題等）を研究する。
欧言215	スペイン語オーラル・コミュニケーションⅡ	2	0-2	2～3	後	スペイン語の発音訓練と口頭による表現力の基礎を養成する。
欧言216	スペイン語文法Ⅰ	2	2-0	2～3	前	スペイン語の文法規則について理解を深め、その運用能力を養成する。
欧言217	スペイン語トレーニングⅡ	2	0-2	2～3	後	読み、書き、聴き、話すためのより高度なスペイン語運用能力を養成する。

プログラム専門科目（昼間主コース）
 国際言語文化プログラム専門科目（応用科目）
 ヨーロッパ言語文化

科目番号	授業科目	単位	週時間	年次	学期	授業内容
国言101	学外実地研修	2	0-2	2～4	前又は後	合宿研修等を通して、外国語のコミュニケーション能力を身につける。
欧言300	ドイツ語ライティングⅠ	2	0-2	2～4	前又は後	ドイツ語の構造や特徴に留意しながら、基礎的な文章表現力を養う。
欧言301	ドイツ語リーディングⅠ	2	0-2	2～4	前又は後	小説、評論、時事ドイツ語等を取り上げた初級者用教材の精読を通して基礎的な読解力を養成する。
欧言302	ドイツ文化研究Ⅰ	2	2-0	3～4	前又は後	ドイツの時事的なテーマ、歴史、文化、芸術、音楽、映画等について研究する。
欧言303	ドイツ語文法Ⅱ	2	2-0	2～4	前又は後	基礎的なドイツ語運用能力を高め、実践的な文法力を養う。
欧言304	フランス語ライティングⅠ	2	0-2	2～4	前又は後	フランス語の構造や特徴に留意しながら、基礎的な文章表現力を養う。
欧言305	フランス語リーディングⅠ	2	0-2	2～4	前又は後	小説、評論、時事フランス語等を取り上げた初級者用教材の精読を通して基礎的な読解力を養成する。

欧言306	フランス文化研究 I	2	2-0	3~4	前又は後	フランスの時事的なテーマ、歴史、文化、芸術、音楽、映画等について研究する。
欧言307	フランス語文法 II	2	2-0	2~4	前又は後	基礎的なフランス語運用能力を高め、実践的な文法力を養う。
欧言308	スペイン語ライティング I	2	0-2	2~4	前又は後	スペイン語の構造や特徴に留意しながら、基礎的な文章表現力を養う。
欧言309	スペイン語リーディング I	2	0-2	2~4	前又は後	小説、評論、時事スペイン語等を取り上げた初級者用教材の精読を通して基礎的な読解力を養成する。
欧言310	スペイン文化研究 I	2	2-0	3~4	前又は後	スペインの時事的なテーマ、歴史、文化、芸術、音楽、映画等について研究する。
欧言311	スペイン語文法 II	2	2-0	2~4	前又は後	基礎的なスペイン語運用能力を高め、実践的な文法力を養う。
欧言312	ドイツ語ライティング II	2	0-2	2~4	前又は後	ドイツ語の構造や特徴に留意しながら、基礎的な文章表現力を養う。
欧言313	ドイツ語表現法	2	0-2	3~4	前又は後	視聴覚教材を用いてリスニング能力の向上をはかるとともに、テーマに応じた口頭表現の訓練を行う。
欧言314	ドイツ語文学史	2	2-0	3~4	前又は後	ドイツ文学の主要作品と思潮を通史として概観する。
欧言315	ドイツ語リーディング II	2	0-2	2~4	前又は後	小説、評論、時事ドイツ語等を取り上げた初級者用教材の精読を通して基礎的な読解力を養成する。
欧言316	ドイツ語学研究	2	2-0	3~4	前又は後	ドイツ語を音韻論、形態論、統語論、意味論の側面から考察する。
欧言317	ドイツ文化研究 II	2	2-0	3~4	前又は後	ドイツの時事的なテーマ、歴史、文化、芸術、音楽、映画等について研究する。
欧言318	フランス語ライティング II	2	0-2	2~4	前又は後	フランス語の構造や特徴に留意しながら、基礎的な文章表現力を養う。
欧言319	フランス語表現法	2	0-2	3~4	前又は後	視聴覚教材を用いてリスニング能力の向上をはかるとともに、テーマに応じた口頭、文章表現の訓練を行う。
欧言320	フランス語文学史	2	2-0	3~4	前又は後	フランス文学の主要作品と思潮を通史として概観する。
欧言321	フランス語リーディング II	2	0-2	2~4	前又は後	小説、評論、時事フランス語等を取り上げた初級者用教材の精読を通して基礎的な読解力を養成する。
欧言322	フランス語学研究	2	2-0	3~4	前又は後	フランス語を音韻論、形態論、統語論、意味論の側面から考察する。
欧言323	フランス文化研究 II	2	2-0	3~4	前又は後	フランスの時事的なテーマ、歴史、文化、芸術、音楽、映画等について研究する。
欧言324	スペイン語ライティング II	2	0-2	2~4	前又は後	スペイン語の構造や特徴に留意しながら、基礎的な文章表現力を養う。
欧言325	スペイン語表現法	2	0-2	3~4	前又は後	視聴覚教材を用いてリスニング能力の向上をはかるとともに、テーマに応じた口頭、文章表現の訓練を行う。
欧言326	スペイン語文学史	2	2-0	3~4	前又は後	スペイン文学の主要作品と思潮を通史として概観する。
欧言327	スペイン語リーディング II	2	0-2	2~4	前又は後	小説、評論、時事スペイン語等を取り上げた初級者用教材の精読を通して基礎的な読解力を養成する。
欧言328	スペイン語学研究	2	2-0	3~4	前又は後	スペイン語を音韻論、形態論、統語論、意味論の側面から考察する。
欧言329	スペイン文化研究 II	2	2-0	3~4	前又は後	スペインの時事的なテーマ、歴史、文化、芸術、音楽、映画等について研究する。
欧言400	ドイツ言語文化演習 I	2	0-2	3~4	前又は後	ドイツの時事的なテーマ、歴史、文化、芸術、音楽、映画等について演習する。
欧言401	ドイツ語アドヴァンストリーディング I	2	0-2	3~4	前又は後	小説、詩、演劇、評論、学術論文、時事ドイツ語等、多種多様な文章の精読を通して正確な読解力を養成する。
欧言402	フランス言語文化演習 I	2	0-2	3~4	前又は後	フランスの時事的なテーマ、歴史、文化、芸術、音楽、映画等について演習する。
欧言403	フランス語アドヴァンストリーディング I	2	0-2	3~4	前又は後	小説、詩、演劇、評論、学術論文、時事フランス語等、多種多様な文章の精読を通して正確な読解力を養成する。
欧言404	スペイン言語文化演習 I	2	0-2	3~4	前又は後	スペインの時事的なテーマ、歴史、文化、芸術、音楽、映画等について演習する。
欧言405	スペイン語アドヴァンストリーディング I	2	0-2	3~4	前又は後	小説、詩、演劇、評論、学術論文、時事スペイン語等、多種多様な文章の精読を通して正確な読解力を養成する。
欧言406	ドイツ言語文化演習 II	2	0-2	3~4	前又は後	ドイツの時事的なテーマ、歴史、文化、芸術、音楽、映画等について演習する。
欧言407	ドイツ語アドヴァンストリーディング II	2	0-2	3~4	前又は後	小説、詩、演劇、評論、学術論文、時事ドイツ語等、多種多様な文章の精読を通して正確な読解力を養成する。
欧言408	フランス言語文化演習 II	2	0-2	3~4	前又は後	フランスの時事的なテーマ、歴史、文化、芸術、音楽、映画等について演習する。
欧言409	フランス語アドヴァンストリーディング II	2	0-2	3~4	前又は後	小説、詩、演劇、評論、学術論文、時事フランス語等、多種多様な文章の精読を通して正確な読解力を養成する。

欧言410	スペイン言語文化演習Ⅱ	2	0-2	3~4	前又は後	スペインの時事的なテーマ、歴史、文化、芸術、音楽、映画等について演習する。
欧言411	スペイン語アドヴァンストリーディングⅡ	2	0-2	3~4	前又は後	小説、詩、演劇、評論、学術論文、時事スペイン語等、多種多様な文章の精読を通して正確な読解力を養成する。
欧言420	卒業研究	2	0-2	4	前又は後	4年間の学習の集大成として研究論文執筆や発表をおこなう。

プログラム専門科目（昼間主コース）

国際言語文化プログラム専門科目（地域・国際実践力科目）

ヨーロッパ言語文化

科目番号	授業科目	単位	週時間	年次	学期	授業内容
国言102	異文化実地研修A	2	0-2	1~4	前又は後	英語またはヨーロッパ言語により国外で実施される短期プログラムに参加し、海外の言語・歴史・文化等について学ぶことで、当該言語のコミュニケーション能力の向上や異文化理解の深化を図る。
国言103	異文化実地研修B	4	0-4	1~4	前又は後	英語またはヨーロッパ言語により国外で実施されるプログラムに参加し、海外の言語・歴史・文化等について学ぶことで、当該言語のコミュニケーション能力を向上させ、異文化に対する理解を深める。
欧言218	ヨーロッパ文学・言語研究	2	1-1	2~4	前又は後	ヨーロッパの文学と言語について、講義や演習を通して専門的な知識を深める。
国言501	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	0-2	3	前	各分野別に個別研究、討議、発表、論文の作成を行う。
国言502	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	0-2	3	後	各分野別に個別研究、討議、発表、論文の作成を行う。
国言503	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	0-2	4	前	各分野別に個別研究、討議、発表、論文の作成を行う。
国言504	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	0-2	4	後	各分野別に個別研究、討議、発表、論文の作成を行う。

プログラム専門科目（昼間主）
 国際言語文化プログラム専門科目（基礎科目）
 ヨーロッパ言語文化

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
欧言200	ドイツ語オーラル・コミュニケーション I	2	2～3	前		欧言209	ドイツ語トレーニング II	2	2～3	後	
欧言201	ドイツ語トレーニング I	2	2～3	前		欧言210	フランス社会研究	2	2～3	前又は後	
欧言202	フランス語オーラル・コミュニケーション I	2	2～3	前		欧言211	フランス語オーラル・コミュニケーション II	2	2～3	後	
欧言203	フランス語トレーニング I	2	2～3	前		欧言212	フランス語文法 I	2	2～3	前	
欧言204	スペイン語オーラル・コミュニケーション I	2	2～3	前		欧言213	フランス語トレーニング II	2	2～3	後	
欧言205	スペイン語トレーニング I	2	2～3	前		欧言214	スペイン社会研究	2	2～3	前又は後	
欧言206	ドイツ社会研究	2	2～3	前又は後		欧言215	スペイン語オーラル・コミュニケーション II	2	2～3	後	
欧言207	ドイツ語オーラル・コミュニケーション II	2	2～3	後		欧言216	スペイン語文法 I	2	2～3	前	
欧言208	ドイツ語文法 I	2	2～3	前		欧言217	スペイン語トレーニング II	2	2～3	後	

プログラム専門科目（昼間主）
 国際言語文化プログラム専門科目（応用科目）
 ヨーロッパ言語文化

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
国言101	学外実地研修	2	2～4	前又は後		欧言320	フランス語文学史	2	3～4	前又は後	
欧言300	ドイツ語ライティング I	2	2～4	前又は後		欧言321	フランス語リーディング II	2	2～4	前又は後	
欧言301	ドイツ語リーディング I	2	2～4	前又は後		欧言322	フランス語学研究	2	3～4	前又は後	
欧言302	ドイツ文化研究 I	2	3～4	前又は後		欧言323	フランス文化研究 II	2	3～4	前又は後	
欧言303	ドイツ語文法 II	2	2～4	前又は後		欧言324	スペイン語ライティング II	2	2～4	前又は後	
欧言304	フランス語ライティング I	2	2～4	前又は後		欧言325	スペイン語表現法	2	3～4	前又は後	
欧言305	フランス語リーディング I	2	2～4	前又は後		欧言326	スペイン語文学史	2	3～4	前又は後	
欧言306	フランス文化研究 I	2	3～4	前又は後		欧言327	スペイン語リーディング II	2	2～4	前又は後	
欧言307	フランス語文法 II	2	2～4	前又は後		欧言328	スペイン語学研究	2	3～4	前又は後	
欧言308	スペイン語ライティング I	2	2～4	前又は後		欧言329	スペイン文化研究 II	2	3～4	前又は後	
欧言309	スペイン語リーディング I	2	2～4	前又は後		欧言400	ドイツ言語文化演習 I	2	3～4	前又は後	
欧言310	スペイン文化研究 I	2	3～4	前又は後		欧言401	ドイツ語アドヴァンストリーディング I	2	3～4	前又は後	
欧言311	スペイン語文法 II	2	2～4	前又は後		欧言402	フランス言語文化演習 I	2	3～4	前又は後	
欧言312	ドイツ語ライティング II	2	2～4	前又は後		欧言403	フランス語アドヴァンストリーディング I	2	3～4	前又は後	
欧言313	ドイツ語表現法	2	3～4	前又は後		欧言404	スペイン言語文化演習 I	2	3～4	前又は後	
欧言314	ドイツ語文学史	2	3～4	前又は後		欧言405	スペイン語アドヴァンストリーディング I	2	3～4	前又は後	
欧言315	ドイツ語リーディング II	2	2～4	前又は後		欧言406	ドイツ言語文化演習 II	2	3～4	前又は後	
欧言316	ドイツ語学研究	2	3～4	前又は後		欧言407	ドイツ語アドヴァンストリーディング II	2	3～4	前又は後	
欧言317	ドイツ文化研究 II	2	3～4	前又は後		欧言408	フランス言語文化演習 II	2	3～4	前又は後	
欧言318	フランス語ライティング II	2	2～4	前又は後		欧言409	フランス語アドヴァンストリーディング II	2	3～4	前又は後	
欧言319	フランス語表現法	2	3～4	前又は後		欧言410	スペイン言語文化演習 II	2	3～4	前又は後	
						欧言411	スペイン語アドヴァンストリーディング II	2	3～4	前又は後	
						欧言420	卒業研究	2	4	前又は後	必修

プログラム専門科目（昼間主）
 国際言語文化プログラム専門科目（地域・国際実践力科目）
 ヨーロッパ言語文化

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
国言102	異文化実地研修 A	2	1～4	前又は後		国言501	地域・国際実践力演習 I	2	3	前	必修
国言103	異文化実地研修 B	4	1～4	前又は後		国言502	地域・国際実践力演習 II	2	3	後	必修
欧言218	ヨーロッパ文学・言語研究	2	2～4	前又は後		国言503	地域・国際実践力演習 III	2	4	前	必修
						国言504	地域・国際実践力演習 IV	2	4	後	必修

卒業要件 国際言語文化プログラム（昼間主コース）

授業科目の区分		必修	選択	選択必修	
共通教育	教養領域	健康運動系科目	2		
		人文系科目	2		
		社会系科目	2		
		自然系科目	2		
	総合領域	総合科目	4		
		琉大特色科目・地域創生科目			
		キャリア関係科目			
	基幹領域	情報関係科目	2		
		第1外国語	8		
		第2外国語	8		
小計		30			
共通教育科目総計		30			
専門教育	学部共通基盤専門科目	専門基盤力科目	2	12	
		地域・国際基盤力科目（プログラム系科目）		6	
		地域・国際基盤力科目（プログラム複合科目）			2
	プログラム専門科目	国際言語文化プログラム専門科目	2	30	
		地域・国際実践力科目	8	4	
	地域・国際実践力科目（読替科目）			28	
	小計		12	80	2
	専門教育科目総計		94		
総単位数		124			

- 卒業単位は合計124単位以上とする。
- 共通教育科目は30単位とする。

教養領域	健康運動系科目	2単位以上
	人文系科目	2単位以上
	社会系科目	2単位以上
	自然系科目	2単位以上
総合領域	情報関係科目 「情報科学演習」は必修	2単位
	総合、琉大特色・地域創生及びキャリア関係科目	4単位以上

基幹領域	第1外国語	8単位以上
------	-------	-------

※第一外国語が英語の場合、「大学英语」「英語講読演習中級」を含むこと。

※第一外国語でドイツ語、フランス語、スペイン語を選択した場合、それぞれ「インテンシブドイツ語I・II」、「インテンシブフランス語I・II」あるいは「インテンシブスペイン語I・II」のいずれかを8単位履修すること。

第2外国語	8単位以上
-------	-------

※第一外国語が英語の場合、第二外国語はインテンシブドイツ語I・II、インテンシブフランス語I・II、インテンシブスペイン語I・II、中国語基礎I・IIのうちから1つの言語を選択する。

※第一外国語が英語以外の言語で、第二言語で英語を選択する場合、「大学英语」「英語講読演習中級」を含み8単位、あるいは第一外国語で選択した言語以外の同一言語から8単位履修する。

※外国人留学生の場合、第一外国語は日本語とし、日本語のクラスを合計8単位履修すること。

第二外国語に関しては、英語の場合は「大学英语」を含み8単位。その他の場合は「ドイツ語入門I、II、III、IV」、「フランス語入門I、II、III、IV」、「スペイン語入門I、II、III、IV」、「中国語基礎I、II」、「朝鮮語基礎I、II」のうちから一つの言語を選択して8単位履修すること。

注1) 共通教育等の履修要件の詳細については「琉球大学共通教育等履修規程」及び同規程別表3「各学部学科等別共通教育等履修基準表」を参照すること。

3. 専門教育科目は94単位以上とする。

(1) 学部共通基盤専門科目は以下のとおり、合計22単位以上を履修すること。ただし、

○専門基盤力科目は、合計14単位以上履修すること。ただし、

- ・基礎演習(2単位)は、必ず履修すること。
- ・国際言語文化プログラム提供の、英米文化概論I、ヨーロッパ文化論、言語科学入門の3科目は、必ず履修すること。
- ・他プログラムが提供している専門基盤力科目のうち、少なくとも2つのプログラムの科目について、それぞれ1科目以上(計4単位以上)履修すること。

○地域・国際基盤力科目は、合計8単位以上履修すること。ただし、

- ・プログラム系科目を6単位以上履修すること。
- ・プログラム複合科目(選択必修)を2単位以上履修すること。

(2) プログラム専門科目は以下のとおり、合計44単位以上を履修すること。

○国際言語文化プログラム専門科目は、合計32単位以上履修すること。ただし、

- ・卒業研究(2単位)は、必ず履修すること。

○地域・国際実践力科目は、合計12単位以上を履修すること。ただし、

- ・地域・国際実践力演習I～IV(計8単位)は、必ず履修すること。

(3) 地域・国際実践力科目(読替科目)は、合計28単位以上を履修すること。なお、

○学部共通基盤専門科目、~~経営~~ 国際言語文化プログラム専門科目、及び地域・国際実践力科目で、必要単位数(それぞれ22単位、32単位)を超過して取得した単位は、地域・国際実践力科目(読替科目)の単位として読み替えることができる。

○他プログラム・他学部提供の専門科目(教職科目含む)は、地域・国際実践力科目(読替科目)の単位として読み替えることができる。

4. 一学期に登録できる単位数の上限は20単位(共通教育科目を含め)とする。ただし、集中講義はこの中に含まない。

5. 直前に在学した学期の5段階評価によるGPAが3.0以上の者は、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。

6. 海外交流協定校へ留学した学生については、帰国後の2個学期のみ、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。

7. 3年次編入学生については、入学後の2個学期のみ、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。

8. GPAの値にかかわらず、教員免許・博物館学芸員等の資格取得予定者は、指導教員の指導・承認を得て登録単位の上積みを6単位まで認める。ただし、超過する分は資格取得に必要な該当科目とする。

9. 資格取得希望者に該当する者のGPAが3.0以上の場合でも26単位までの登録とする。

10. 卒業要件に算入できる遠隔授業の単位数は、60単位を上限とする。

ただし、単位認定を受けた科目(認定科目)のうち、遠隔授業の科目も含む。

注2) 原則として、昼間主コースの学生は、必修以外の科目について夜間主コースに開講される授業科目から履修することができ、そのうち40単位までは卒業単位として認められる。

プログラム専門科目（夜間主コース）
 国際言語文化プログラム専門科目（基礎科目）
 英語文化

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
B英言111	リーディング I	2	0-2	2	前	様々な分野の比較的長い英語の論考、エッセイを速読して大意を理解する訓練をする。
B英言119	実用英語演習II	2	0-2	2	前	社会におけるさまざまな場面において英語と日本語で双方向的に情報を発信できる総合的英語力を養成する。
B英言121	英文法演習	2	1-1	1	後	英文法と英作文を相互補完的に学習する。
B英言142	英米文化概論I	2	2-0	1	前	イギリス・アメリカ文学の基礎知識を作品を通じて通覧し、英米文化に対する理解を深める。
B英言181	英語研究 I	2	2-0	2	前	英語学／言語学の基礎を中心に学ぶ。
B英言201	異文化理解	2	2-0	1	後	多様な文化背景を持つ英文の講読や、英語によるコミュニケーション活動を通じて異文化についての理解を深める。
B英言221	ライティング I	2	0-2	1	後	グローバル及びローカルな問題を扱ったエッセイの書き方を訓練する。
B英言222	ライティング II	2	0-2	3	後	「ライティング I」の続き。
B英言231	オーラルコミュニケーション I	2	0-2	1	前	日常的な場面において、英語によるコミュニケーション活動が適切に行えるよう訓練する。
B英言232	オーラルコミュニケーション II	2	0-2	2	後	「オーラルコミュニケーション I」の続き。
B英言243	英米文化概論II	2	2-0	2	後	イギリスの代表的作家の主要作品の鑑賞を通してイギリス文学を歴史的に概観する。
B英言244	英米文化概論III	2	2-0	3	前	アメリカの代表的作家の主要作品の鑑賞を通してアメリカ文学を歴史的に概観する。
B英言281	英語研究 II	2	2-0	2	後	英語を中心とした言語習得に関わる様々な理論を概観しながら、母語習得や第二言語習得（外国語教育）についての基礎的知識を学ぶ。
B英言282	英語研究 III	2	2-0	3	前	英語を中心とした（異文化）コミュニケーション学／社会言語学の基礎を中心に学ぶ。
B英言311	上級英語演習	2	2-0	3	前	グローバルおよびローカルな問題に関する英文を精読し、自分の意見を論理的な英文で書く訓練をする。
B英言312	アカデミックプレゼンテーション I	2	0-2	2	後	様々な学問分野において、英語による効果的なプレゼンテーションの方法の基礎を学ぶ。
B英言313	アカデミックプレゼンテーション II	2	0-2	3	後	様々な学問分野において、英語による効果的なプレゼンテーションの方法の応用を学ぶ。

プログラム専門科目（夜間主コース）
 国際言語文化プログラム専門科目（応用科目）
 英語文化

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
B英言101	学外実地研修	2	0-2	2~4	前又は後	合宿研修を通して、英語のコミュニケーション能力を身につける。
B英言112	リーディング II	2	0-2	3	前	本講義は、論説文、文芸という種類の異なる英文のテキストを読み、それぞれの主題を核とした批判的思考の実践を身につける。
B英言115	英語資格試験演習	2	0-2	3	後	客観的な英語能力の指標となるTOEFLおよびTOEICの試験内容について、学習方略を含めた問題演習を行う。
B英言333	英米言語文化特殊講義I	2	2-0	2~4	前又は後	（英米）言語文化にまつわる特定のトピックを学ぶ
B英言334	英米言語文化特殊講義II	2	2-0	2~4	前又は後	（英米）言語文化にまつわる特定のトピックを学ぶ
B英言360	英米文化研究I	2	2-0	2~4	前又は後	英米文学・文化の様々なテーマについて学び、文学と文化を理解するための基礎的な技術と知識を習得する。
B英言361	英米文化研究II	2	2-0	2~4	前又は後	英米文学・文化を分析・解釈するための基礎的な方法について学ぶ。
B英言362	英米文化研究III	2	2-0	2~4	前又は後	英米文学・文化を批評するための理論について専門的なアプローチを学ぶ。
B英言363	英米文化研究IV	2	2-0	2~4	前又は後	英米文学・文化について、自律した分析や解釈をするための理解を深める。
B英言364	英米文化研究V	2	2-0	2~4	前又は後	英米文学・文化について、先行研究を踏まえた専門的な議論の構築の方法や学術論文の書き方について学ぶ。

B英言377	英語の音声構造	2	2-0	2~4	前又は後	英語の音声と音韻構造を理論的・体系的に研究する。
B英言379	英語の文構造	2	2-0	3~4	前又は後	英語の文や句の構造を理論的・体系的に研究する。
B英言386	英語コミュニケーションの多様性	2	2-0	2~4	前又は後	国際語としての英語について、音声・文法・語彙などの多様性を概観し、「世界諸英語(World Englishes)」の状況やその文化的背景について学ぶ。
B英言395	英語学習論I	2	2-0	2~4	前又は後	外国語としての英語学習を心理学的手法を用いて概観し、その研究方法と理論を学ぶ。
B英言396	英語学習論II	2	2-0	2~4	前又は後	外国語としての英語学習を社会文化理論を用いて精査し、その研究について学ぶ。
B英言473	英語圏の言語政策と言語権	2	2-0	2~4	前又は後	英語が公用語または実質的な公用語として機能している国・地域における多言語社会の様態を学び、少数言語話者の言語権を保障した言語政策・言語計画を考察する。
B英言500	卒業研究	2	0-2	4	後	4年間の学習の集大成として研究論文執筆や発表をおこなう。

プログラム専門科目 (夜間主コース)

国際言語文化プログラム専門科目 (地域・国際実践力科目)

英語文化

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	授業内容
B国言102	異文化実地研修A	2	0-2	1~4	前又は後	英語またはヨーロッパ言語により国外で実施される短期プログラムに参加し、海外の言語・歴史・文化等について学ぶことで、当該言語のコミュニケーション能力の向上や異文化理解の深化を図る。
B国言103	異文化実地研修B	4	0-4	1~4	前又は後	英語またはヨーロッパ言語により国外で実施されるプログラムに参加し、海外の言語・歴史・文化等について学ぶことで、当該言語のコミュニケーション能力を向上させ、異文化に対する理解を深める。
B国言501	地域・国際実践力演習I	2	0-2	3	前	各分野別に個別研究、討議、発表、論文の作成を行う。
B国言502	地域・国際実践力演習II	2	0-2	3	後	各分野別に個別研究、討議、発表、論文の作成を行う。
B国言503	地域・国際実践力演習III	2	0-2	4	前	各分野別に個別研究、討議、発表、論文の作成を行う。
B国言504	地域・国際実践力演習IV	2	0-2	4	後	各分野別に個別研究、討議、発表、論文の作成を行う。

プログラム専門科目（夜間主コース）

国際言語文化プログラム専門科目（基礎科目）

英語文化

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
B英言111	リーディング I	2	2	前	必修科目	B英言232	オーラルコミュニケーション II	2	2	後	必修科目
B英言119	実用英語演習 II	2	2	前	必修科目	B英言243	英米文化概論 II	2	2	後	必修科目
B英言121	英文法演習	2	1	後	必修科目	B英言244	英米文化概論 III	2	3	前	必修科目
B英言142	英米文化概論 I	2	1	前	必修科目	B英言281	英語研究 II	2	2	後	必修科目
B英言181	英語研究 I	2	2	前	必修科目	B英言282	英語研究 III	2	3	前	必修科目
B英言201	異文化理解	2	1	後	必修科目	B英言311	上級英語演習	2	3	前	必修科目
B英言221	ライティング I	2	1	後	必修科目	B英言312	アカデミックプレゼンテーション I	2	2	後	必修科目
B英言222	ライティング II	2	3	後	必修科目	B英言313	アカデミックプレゼンテーション II	2	3	後	必修科目
B英言231	オーラルコミュニケーション I	2	1	前	必修科目						

プログラム専門科目（夜間主コース）

国際言語文化プログラム専門科目（応用科目）

英語文化

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
B英言101	学外実地研修	2	2~4	前又は後	必修科目	B英言377	英語の音声構造	2	2~4	前又は後	必修科目
B英言112	リーディング II	2	3	前		B英言379	英語の文構造	2	2~4	前又は後	
B英言115	英語資格試験演習	2	3	後		B英言386	英語コミュニケーションの多様性	2	2~4	前又は後	
B英言333	英米言語文化特殊講義 I	2	2~4	前又は後		B英言395	英語学習論 I	2	2~4	前又は後	
B英言334	英米言語文化特殊講義 II	2	2~4	前又は後		B英言396	英語学習論 II	2	2~4	前又は後	
B英言360	英米文化研究 I	2	2~4	前又は後		B英言473	英語圏の言語政策と言語権	2	2~4	前又は後	
B英言361	英米文化研究 II	2	2~4	前又は後		B英言500	卒業研究	2	4	後	
B英言362	英米文化研究 III	2	2~4	前又は後							
B英言363	英米文化研究 IV	2	2~4	前又は後							

プログラム専門科目（夜間主コース）

国際言語文化プログラム専門科目（地域国際実践力科目）

英語文化

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
B国言102	異文化実地研修 A	2	1~4	前又は後	必修科目
B国言103	異文化実地研修 B	4	1~4	前又は後	
B国言501	地域・国際実践力演習 I	2	3	前	
B国言502	地域・国際実践力演習 II	2	3	後	
B国言503	地域・国際実践力演習 III	2	4	前	
B国言504	地域・国際実践力演習 IV	2	4	後	

卒業要件 国際言語文化プログラム（夜間主コース）

授業科目の区分		必修	選択		
共通教育	教養領域	健康運動系科目	2	8	
		人文系科目	4		
		社会系科目	4		
		自然系科目	4		
	総合領域	総合科目			
		琉大特色科目・地域創生科目			
		キャリア関係科目			
	基幹領域	情報関係科目	2		
		第1外国語（英語）	8		
		第2外国語	8		
小計		32	8		
共通教育科目総計		40			
専門教育	学部共通基盤専門科目	専門基盤力科目	6	2	
	プログラム専門科目	国際言語文化プログラム専門科目（基礎科目）	34	4	
		国際言語文化プログラム専門科目（応用科目）	6		
		地域・国際実践力科目	8		
	地域・国際実践力科目（読替科目）			24	
	小計		54	30	
専門教育科目総計		84			
総単位数		124			

- 卒業単位は合計124単位以上とする。
- 共通教育科目は40単位とする。

教養領域	健康運動系科目	2単位以上
	人文系科目	4単位以上
	社会系科目	4単位以上
	自然系科目	4単位以上
	情報関係科目 「情報科学演習」は必修	2単位
健康運動系科目を除く教養領域・総合領域及び情報関係科目		8単位以上
基幹領域	第1外国語（英語）	8単位以上
	第2外国語	8単位以上

2) 第一外国語は英語とし、「大学英語」、「英語講読演習中級」、及び選択科目から1科目の8単位を履修すること。

3) 第二外国語に関しては、「ドイツ語入門I、II、III、IV」、「インテンシブフランス語I・II」、

※外国人留学生の場合、第一外国語は日本語とし、日本語のクラスを合計8単位履修すること。

「スペイン語入門I、II、III、IV」、「中国語基礎I、II」のうちから一つの言語を選択して8単位以上履修すること。

注1) 共通教育等の履修要件の詳細については「琉球大学共通教育等履修規程」及び同規程別表3「各学部学科等別共通教育等履修基準表」を参照すること。

3. 専門教育科目は84単位以上とする。

- 学部共通基盤専門科目は、基礎演習(2単位・必修)を含む8単位以上を履修する。
○学部共通基盤専門科目のうち、国際言語文化プログラム提供のメディアの英語、実用英語演習Iを履修すること。
- プログラム専門科目は以下のとおり合計52単位以上を履修する。
○国際言語文化プログラム専門科目（基礎科目）は、34単位を必ず履修する。
○国際言語文化プログラム専門科目（応用科目）は、リーディングII（2単位）、英語資格試験演習（2単位）、卒業研究（2単位）を含む10単位以上を履修する。
○地域・国際実践力科目は、地域・国際実践力演習I～IV(必修・8単位)を必ず履修する。
- 地域・国際実践力科目（読替科目）は、24単位以上を履修する。
○学部共通基盤専門科目（8単位）、国際言語文化プログラム専門科目（44単位）及び地域国際実践力科目（8単位）を超過した分は、地域・国際実践力科目（読替）の単位として読み替えることができる。
○他プログラム・他学部提供の専門科目（教職科目含む）は、地域・国際実践力科目（読替）の単位として読み替えることができる。

4. 一学期に登録できる単位数の上限は20単位(共通教育科目を含め)とする。ただし、集中講義はこの中に含まない。

5. 直前に在学した学期の5段階評価によるGPAが3.0以上の者は、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。

6. 海外交流協定校へ留学した学生については、帰国後の2個学期のみ、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。

7. 3年次編入学生については、入学後の2個学期のみ、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。

8. GPAの値にかかわらず、教員免許・博物館学芸員等の資格取得予定者は、指導教員の指導・承認を得て登録単位の上積みを6単位まで認める。ただし、超過する分は資格取得に必要な該当科目とする。

9. 資格取得希望者に該当する者のGPAが3.0以上の場合でも26単位までの登録とする。

10. 卒業要件に算入できる遠隔授業の単位数は、60単位を上限とする。
ただし、単位認定を受けた科目（認定科目）のうち、遠隔授業の科目も含む。

注2) 原則として、夜間主コースの学生は、必修以外の科目について昼間主コースに開講される授業科目から履修することができ、そのうち40単位（教員免許関係の科目を除く）までは卒業単位として認められる。

プログラム専門科目（昼間主コース）

地域文化科学プログラム専門科目（基礎科目）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
地文100	地域文化科学入門	2	2-0	1	後	地理学, 歴史学, 人類学の基礎的な技能体験を行う
地文101	社会人類学Ⅱ	2	2-0	1	後	社会人類学の各論を概観する。
地文102	考古学Ⅱ	2	2-0	1	後	考古学の各論を概観する。
地文103	民俗学Ⅱ	2	2-0	1	後	民俗学の各論を概観する。
地文104	日本史概論	2	2-0	1	前又は後	日本の古代から近現代までの歴史について概観する。
地文201	地域文化科学リテラシー	2	0-2	2	前又は後	レポート・論文執筆の技術習得のための演習を行う。
地文211	人文地理学概論	2	2-0	2	前	文化, 社会, 都市, 経済をテーマに地理学を概観する。
地文212	地理学実験Ⅰ	1	0-2	2	前	GIS に関連する情報処理の実習を行う。
地文213	地理学実験Ⅱ	1	0-2	2	後	地理学研究に必要な技能を修得する。
地文214	地理空間情報学	2	2-0	2	後	GIS の基本的機能と空間データに関する講義を行う。
地文215	経済地理学	2	2-0	2～3	前又は後	立地論などをテーマとした地理学の講義を行う。
地文216	島嶼地理学	2	2-0	2～3	前又は後	島嶼地域をテーマとした地理学の講義を行う。
地文217	文化地理学	2	2-0	2～3	前又は後	文化をテーマにした地理学の講義を行う。
地文218	地形学	2	2-0	2～3	前又は後	地形営力論と岩石制約論に関する講義を行う。
地文219	水文環境学	2	2-0	2～3	前又は後	水循環と水収支, および水が関与する環境問題に関する講義を行う。
地文224	地理学研究Ⅰ	2	0-2	2～4	前又は後	地理学の研究テーマに関する演習を行う。
地文225	地理学研究Ⅱ	2	0-2	2～4	前又は後	地理学の研究テーマに関する演習を行う。
地文231	日本史実践演習Ⅰ	2	0-2	2	前又は後	日本史で取り扱う基本的な史料を読解する。
地文232	日本史実践演習Ⅱ	2	0-2	2	前又は後	日本史で取り扱う基本的な史料を読解する。
地文233	日本史実践演習Ⅲ	2	0-2	2	前又は後	日本史で取り扱う基本的な史料を読解する。
地文234	世界史実践演習Ⅰ (東洋史)	2	0-2	2	前又は後	東洋史で取り扱う基本的な史料を読解する。
地文235	世界史実践演習Ⅱ (西洋史)	2	0-2	2	前又は後	西洋史で取り扱う基本的な史料を読解する。
地文236	世界史実践演習Ⅲ (東洋史または西洋史)	2	0-2	2	前又は後	東洋史又は西洋史で取り扱う基本的な史料を読解する。
地文237	文化史	2	2-0	2～3	前又は後	文化史に関する諸問題を概観する。
地文238	日本史研究Ⅰ	2	2-0	2～3	前又は後	日本史の諸問題を考究する。
地文239	日本史研究Ⅱ	2	2-0	2～3	前又は後	日本史の諸問題を考究する。
地文240	日本史研究Ⅲ	2	2-0	2～3	前又は後	日本史の諸問題を考究する。
地文241	日本史研究Ⅳ	2	2-0	2～4	前又は後	日本史の諸問題を考究する。
地文242	日本史研究Ⅴ	2	2-0	2～4	前又は後	日本史の諸問題を考究する。

地文243	日本史研究Ⅵ	2	2-0	2~4	前又は後	日本史の諸問題を考究する。
地文244	世界史研究Ⅰ (東洋史)	2	2-0	2~3	前又は後	東洋史の諸問題を考究する。
地文245	世界史研究Ⅱ (西洋史)	2	2-0	2~3	前又は後	西洋史の諸問題を考究する。
地文246	世界史研究Ⅲ (東洋史または西洋史)	2	2-0	2~3	前又は後	東洋史又は西洋史の諸問題を考究する。
地文247	世界史研究Ⅳ (東洋史)	2	2-0	2~4	前又は後	東洋史の諸問題を考究する。
地文248	世界史研究Ⅴ (西洋史)	2	2-0	2~4	前又は後	西洋史の諸問題を考究する。
地文249	世界史研究Ⅵ (東洋史または西洋史)	2	2-0	2~4	前又は後	東洋史又は西洋史の諸問題を考究する。
地文261	社会人類学調査法Ⅰ	2	2-0	2	前又は後	社会人類学の調査研究法について修得する。
地文262	考古学研究方法論Ⅰ	2	2-0	2	前又は後	考古学の調査研究法について修得する。
地文263	民俗学調査法Ⅰ	2	2-0	2	前又は後	民俗学の調査研究法について修得する。
地文264	社会人類学学説史	2	2-0	2~3	前又は後	社会人類学の学説史に関する講義を行う。
地文265	民族誌Ⅰ	2	2-0	2~3	前又は後	世界各地の民族誌に関する講義を行う。
地文266	民族誌Ⅱ	2	2-0	2~3	前又は後	世界各地の民族誌に関する講義を行う。
地文267	民族誌Ⅲ	2	2-0	2~3	前又は後	世界各地の民族誌に関する講義を行う。
地文268	民族誌Ⅳ	2	2-0	2~3	前又は後	世界各地の民族誌に関する講義を行う。
地文269	考古学史	2	2-0	2~3	前又は後	考古学の歩みについての講義を行う。
地文311	地理学実験Ⅲ	1	0-2	3	前	地理学研究に必要な技能を修得する。
地文312	地理学実験Ⅳ	1	0-2	3	後	地理学研究に必要な技能を修得する。
地文313	社会人類学調査法Ⅱ	2	2-0	3	前又は後	社会人類学の調査研究法について修得する。
地文314	考古学研究方法論Ⅱ	2	2-0	3	前又は後	考古学の調査研究法について修得する。
地文315	民俗学調査法Ⅱ	2	2-0	3	前又は後	民俗学の調査研究法について修得する。

プログラム専門科目（昼間主コース）

地域文化科学プログラム専門科目（応用科目）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
地文306	教職応用演習Ⅰ	2	0-2	3	前又は後	中学社会科，高校地歴科の教職免許取得のための実践的演習を行う。
地文307	教職応用演習Ⅱ	2	0-2	3	前又は後	中学社会科，高校地歴科の教職免許取得のための実践的演習を行う。
地文321	人文地理学研究	2	0-2	3	前又は後	人文地理学の研究テーマに関する演習を行う。
地文322	自然地理学研究	2	0-2	3	前又は後	自然地理学の研究テーマに関する演習を行う。
地文323	地誌学研究	2	0-2	3	前又は後	地誌学の研究テーマに関する演習を行う。
地文324	地理空間分析Ⅰ（GIS）	1	0-2	3	前又は後	GISによる地図作成・空間分析の実習を行う。
地文325	地理空間分析Ⅱ（GIS）	1	0-2	3	前又は後	GISによる地図作成・空間分析の実習を行う。
地文326	人文地理学実践研究	2	0-2	3	前又は後	人文地理学の特定テーマに関する講義を行う。
地文327	自然地理学実践研究	2	0-2	3	前又は後	自然地理学の特定テーマに関する講義を行う。
地文328	地誌学実践研究	2	0-2	3	前又は後	地誌学の特定テーマに関する講義を行う。
地文341	日本史実践演習Ⅳ	2	0-2	3	前又は後	日本史で取り扱う基本的な史料を読解する。
地文342	日本史実践演習Ⅴ	2	0-2	3	前又は後	日本史で取り扱う基本的な史料を読解する。
地文343	日本史実践演習Ⅵ	2	0-2	3	前又は後	日本史で取り扱う基本的な史料を読解する。
地文344	世界史実践演習Ⅳ （東洋史）	2	0-2	3	前又は後	東洋史で取り扱う基本的な史料を読解する。
地文345	世界史実践演習Ⅴ （西洋史）	2	0-2	3	前又は後	西洋史で取り扱う基本的な史料を読解する。
地文346	世界史実践演習Ⅵ （東洋史または西洋史）	2	0-2	3	前又は後	東洋史又は西洋史で取り扱う基本的な史料を読解する。
地文361	社会人類学研究Ⅰ （地域別課題）	2	2-0	2～4	前又は後	社会人類学の地域別課題に関する講義を行う。
地文362	社会人類学研究Ⅱ （方法論的課題）	2	2-0	2～4	前又は後	社会人類学の方法論的課題に関する講義を行う。
地文363	社会人類学研究Ⅲ （地域別課題）	2	2-0	2～4	前又は後	社会人類学の地域別課題に関する講義を行う。
地文364	社会人類学研究Ⅳ （方法論的課題）	2	2-0	2～4	前又は後	社会人類学の方法論的課題に関する講義を行う。
地文365	社会人類学研究Ⅴ （地域別課題）	2	2-0	2～4	前又は後	社会人類学の地域別課題に関する講義を行う。
地文366	社会人類学研究Ⅵ （方法論的課題）	2	2-0	2～4	前又は後	社会人類学の方法論的課題に関する講義を行う。
地文367	考古学研究Ⅰ （地域別課題）	2	2-0	2～4	前又は後	考古学の地域別課題に関する講義を行う。
地文368	考古学研究Ⅱ （地域別課題）	2	2-0	2～4	前又は後	考古学の地域別課題に関する講義を行う。
地文369	考古学研究Ⅲ （時間別課題）	2	2-0	2～4	前又は後	考古学の時間別課題に関する講義を行う。

地文370	考古学研究Ⅳ (時間別課題)	2	2-0	2~4	前又は後	考古学の時間別課題に関する講義を行う。
地文371	考古学研究Ⅴ (方法論的課題)	2	2-0	2~4	前又は後	考古学の方法論的課題に関する講義を行う。
地文372	考古学研究Ⅵ (方法論的課題)	2	2-0	2~4	前又は後	考古学の方法論的課題に関する講義を行う。
地文373	民俗学研究Ⅰ (方法論的課題)	2	2-0	2~4	前又は後	民俗学の方法論的課題に関する講義を行う。
地文374	民俗学研究Ⅱ (地域別課題)	2	2-0	2~4	前又は後	民俗学の地域別課題に関する講義を行う。
地文375	民俗学研究Ⅲ (方法論的課題)	2	2-0	2~4	前又は後	民俗学の方法論的課題に関する講義を行う。
地文376	民俗学研究Ⅳ (地域別課題)	2	2-0	2~4	前又は後	民俗学の地域別課題に関する講義を行う。
地文377	民俗学研究Ⅴ (地域別課題)	2	2-0	2~4	前又は後	民俗学の地域別課題に関する講義を行う。
地文378	民俗学研究Ⅵ (方法論的課題)	2	2-0	2~4	前又は後	民俗学の方法論的課題に関する講義を行う。
地文379	自然遺産と博物館	2	2-0	3~4	前又は後	自然遺産と博物館について体系的な講義を行う。
地文380	文化財と博物館	2	2-0	3~4	前又は後	文化財と博物館について体系的な講義を行う。
地文381	沖縄民俗社会論	2	2-0	2~4	前又は後	沖縄の民俗社会に関する講義を行う。
地文382	沖縄考古学論	2	2-0	3~4	前又は後	琉球列島の考古学についての講義を行う。
地文383	水中考古学	2	2-0	3~4	前又は後	水中考古学に関する講義を行う。
地文384	アジア考古学研究Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	アジア考古学の特定研究課題の講義を行う。
地文385	アジア考古学研究Ⅱ	2	2-0	2~4	前又は後	アジア考古学の特定研究課題の講義を行う。
地文400	卒業研究	2	0-2	4	後	大学生活の集大成として、卒業論文を作成する。

プログラム専門科目（昼間主コース）

地域文化科学プログラム専門科目（地域・国際実践力科目）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
地文200	地域文化科学フィールドワークⅠ	2	0-2	2	前	地理学，歴史学，人類学研究のための実習を行う。
地文300	地域文化科学フィールドワークⅡ	2	0-2	3	前	地理学，歴史学，人類学研究のための実習を行う。
地文221	人文地理学とフィールド	2	0-2	2～3	前又は後	人文地理学の演習と巡検を行う。
地文222	自然地理学とフィールド	2	0-2	2～3	前又は後	自然地理学の演習と巡検を行う。
地文223	地誌学とフィールド	2	0-2	2～3	前又は後	地理学の演習と巡検を行う。
地文301	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	0-2	3	前	卒業論文作成のために必要な指導と演習を行う。
地文302	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	0-2	3	後	卒業論文作成のために必要な指導と演習を行う。
地文401	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	0-2	4	前	卒業論文作成のために必要な指導と演習を行う。
地文402	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	0-2	4	後	卒業論文作成のために必要な指導と演習を行う。

博物館関連授業

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
博101	博物館概論	2	2-0	2～3	前又は後	博物館学の概要に関する講義を行う。
博102	生涯学習概論	2	2-0	2～3	前又は後	生涯学習に関する講義を行う。
博201	博物館経営論	2	2-0	2～3	前又は後	博物館の経営についての講義を行う。
博202	博物館資料論	2	2-0	2～3	前又は後	博物館の資料についての講義を行う。
博203	博物館資料保存論	2	2-0	2～3	前又は後	博物館資料の保存についての講義を行う。
博204	博物館展示論	2	2-0	2～3	前又は後	博物館の展示についての講義を行う。
博205	博物館教育論	2	2-0	2～3	前又は後	博物館の教育についての講義を行う。
博206	博物館情報・メディア論	2	2-0	2～3	前又は後	博物館の情報・メディアについての講義を行う。
博301	博物館実習Ⅰ	2	0-4	4	前又は後	博物館実習の基礎を習得する。
博302	博物館実習Ⅱ	2	0-4	4	前又は後	博物館での実習を行う。

※地域文化科学プログラムの学生は，博物館実習Ⅰ・Ⅱは地域・国際実践力科目，それ以外は地域文化科学プログラム専門科目（基礎科目）になる。

プログラム専門科目（昼間主コース）

地域文化科学プログラム専門科目（基礎科目）

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
地文100	地域文化科学入門	2	1	後		地文244	世界史研究Ⅰ（東洋史）	2	2～3	前又は後	
地文101	社会人類学Ⅱ	2	1	後		地文245	世界史研究Ⅱ（西洋史）	2	2～3	前又は後	
地文102	考古学Ⅱ	2	1	後		地文246	世界史研究Ⅲ（東洋史または西洋史）	2	2～3	前又は後	
地文103	民俗学Ⅱ	2	1	後		地文247	世界史研究Ⅳ（東洋史）	2	2～4	前又は後	
地文104	日本史概論	2	1	前又は後		地文248	世界史研究Ⅴ（西洋史）	2	2～4	前又は後	
地文201	地域文化科学リテラシー	2	2	前又は後		地文249	世界史研究Ⅵ（東洋史または西洋史）	2	2～4	前又は後	
地文211	人文地理学概論	2	2	前		地文261	社会人類学調査法Ⅰ	2	2	前又は後	
地文212	地理学実験Ⅰ	1	2	前		地文262	考古学研究方法論Ⅰ	2	2	前又は後	
地文213	地理学実験Ⅱ	1	2	後		地文263	民俗学調査法Ⅰ	2	2	前又は後	
地文214	地理空間情報学	2	2	後		地文264	社会人類学学説史	2	2～3	前又は後	
地文215	経済地理学	2	2～3	前又は後		地文265	民族誌Ⅰ	2	2～3	前又は後	
地文216	島嶼地理学	2	2～3	前又は後		地文266	民族誌Ⅱ	2	2～3	前又は後	
地文217	文化地理学	2	2～3	前又は後		地文267	民族誌Ⅲ	2	2～3	前又は後	
地文218	地形学	2	2～3	前又は後		地文268	民族誌Ⅳ	2	2～3	前又は後	
地文219	水文環境学	2	2～3	前又は後		地文269	考古学史	2	2～3	前又は後	
地文224	地理学研究Ⅰ	2	2～4	前又は後		地文311	地理学実験Ⅲ	1	3	前	
地文225	地理学研究Ⅱ	2	2～4	前又は後		地文312	地理学実験Ⅳ	1	3	後	
地文231	日本史実践演習Ⅰ	2	2	前又は後		地文313	社会人類学調査法Ⅱ	2	3	前又は後	
地文232	日本史実践演習Ⅱ	2	2	前又は後		地文314	考古学研究方法論Ⅱ	2	3	前又は後	
地文233	日本史実践演習Ⅲ	2	2	前又は後		地文315	民俗学調査法Ⅱ	2	3	前又は後	
地文234	世界史実践演習Ⅰ（東洋史）	2	2	前又は後		博101	博物館概論	2	2～3	前又は後	
地文235	世界史実践演習Ⅱ（西洋史）	2	2	前又は後		博102	生涯学習概論	2	2～3	前又は後	
地文236	世界史実践演習Ⅲ（東洋史または西洋史）	2	2	前又は後		博201	博物館経営論	2	2～3	前又は後	
地文237	文化史	2	2～3	前又は後		博202	博物館資料論	2	2～3	前又は後	
地文238	日本史研究Ⅰ	2	2～3	前又は後		博203	博物館資料保存論	2	2～3	前又は後	
地文239	日本史研究Ⅱ	2	2～3	前又は後		博204	博物館展示論	2	2～3	前又は後	
地文240	日本史研究Ⅲ	2	2～3	前又は後		博205	博物館教育論	2	2～3	前又は後	
地文241	日本史研究Ⅳ	2	2～4	前又は後		博206	博物館情報・メディア論	2	2～3	前又は後	
地文242	日本史研究Ⅴ	2	2～4	前又は後							
地文243	日本史研究Ⅵ	2	2～4	前又は後							

プログラム専門科目（昼間主コース）

地域文化科学プログラム専門科目（応用科目）

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
地文306	教職応用演習Ⅰ	2	3	前又は後		地文368	考古学研究Ⅱ（地域別課題）	2	2～4	前又は後	
地文307	教職応用演習Ⅱ	2	3	前又は後		地文369	考古学研究Ⅲ（時間別課題）	2	2～4	前又は後	
地文321	人文地理学研究	2	3	前又は後		地文370	考古学研究Ⅳ（時間別課題）	2	2～4	前又は後	
地文322	自然地理学研究	2	3	前又は後		地文371	考古学研究Ⅴ（方法論的課題）	2	2～4	前又は後	
地文323	地誌学研究	2	3	前又は後		地文372	考古学研究Ⅵ（方法論的課題）	2	2～4	前又は後	
地文324	地理空間分析Ⅰ（GIS）	1	3	前又は後		地文373	民俗学研究Ⅰ（方法論的課題）	2	2～4	前又は後	
地文325	地理空間分析Ⅱ（GIS）	1	3	前又は後		地文374	民俗学研究Ⅱ（地域別課題）	2	2～4	前又は後	
地文326	人文地理学実践研究	2	3	前又は後		地文375	民俗学研究Ⅲ（方法論的課題）	2	2～4	前又は後	
地文327	自然地理学実践研究	2	3	前又は後		地文376	民俗学研究Ⅳ（地域別課題）	2	2～4	前又は後	
地文328	地誌学実践研究	2	3	前又は後		地文377	民俗学研究Ⅴ（地域別課題）	2	2～4	前又は後	
地文341	日本史実践演習Ⅳ	2	3	前又は後		地文378	民俗学研究Ⅵ（方法論的課題）	2	2～4	前又は後	
地文342	日本史実践演習Ⅴ	2	3	前又は後		地文379	自然遺産と博物館	2	3～4	前又は後	
地文343	日本史実践演習Ⅵ	2	3	前又は後		地文380	文化財と博物館	2	3～4	前又は後	
地文344	世界史実践演習Ⅳ（東洋史）	2	3	前又は後		地文381	沖縄民俗社会論	2	2～4	前又は後	
地文345	世界史実践演習Ⅴ（西洋史）	2	3	前又は後		地文382	沖縄考古学論	2	3～4	前又は後	
地文346	世界史実践演習Ⅵ（東洋史または西洋史）	2	3	前又は後		地文383	水中考古学	2	3～4	前又は後	
地文361	社会人類学研究Ⅰ（地域別課題）	2	2～4	前又は後		地文384	アジア考古学研究Ⅰ	2	3～4	前又は後	
地文362	社会人類学研究Ⅱ（方法論的課題）	2	2～4	前又は後		地文385	アジア考古学研究Ⅱ	2	3～4	前又は後	
地文363	社会人類学研究Ⅲ（地域別課題）	2	2～4	前又は後		地文400	卒業研究	2	4	後	
地文364	社会人類学研究Ⅳ（方法論的課題）	2	2～4	前又は後							
地文365	社会人類学研究Ⅴ（地域別課題）	2	2～4	前又は後							
地文366	社会人類学研究Ⅵ（方法論的課題）	2	2～4	前又は後							
地文367	考古学研究Ⅰ（地域別課題）	2	2～4	前又は後							

プログラム専門科目（昼間主コース）

地域文化科学プログラム専門科目（地域・国際実践力科目）

科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考	科目番号	授業科目	単位	年次	学期	備考
地文200	地域文化科学フィールドワークⅠ	2	2	前		地文302	地域・国際実践力演習Ⅱ	2	3	後	
地文300	地域文化科学フィールドワークⅡ	2	3	前		地文401	地域・国際実践力演習Ⅲ	2	4	前	
地文221	人文地理学とフィールド	2	2～3	前又は後		地文402	地域・国際実践力演習Ⅳ	2	4	後	
地文222	自然地理学とフィールド	2	2～3	前又は後		博301	博物館実習Ⅰ	2	4	前又は後	
地文223	地誌学とフィールド	2	2～3	前又は後		博302	博物館実習Ⅱ	2	4	前又は後	
地文301	地域・国際実践力演習Ⅰ	2	3	前							

卒業要件 地域文化科学プログラム

授業科目の区分		必修	選択	選択必修	
共通教育	教養領域	健康運動系科目	2		
		人文系科目	2		
		社会系科目	2		
		自然系科目	2		
	総合領域	総合科目	4	6	
		琉大特色科目・地域創生科目			
		キャリア関係科目			
	基幹領域	情報関係科目			
		第1外国語	8		
		第2外国語	4		
小計		24	6		
共通教育科目総計		30			
専門教育	学部共通基盤専門科目	専門基盤力科目	8	6	
		地域・国際基盤力科目（プログラム系科目）		6	
		地域・国際基盤力科目（プログラム複合科目）			2
	プログラム専門科目	地域文化科学プログラム専門科目	4	24	4
		地域・国際実践力科目	12		
	地域・国際実践力科目（読替科目）			28	
	小計		24	64	6
	専門教育科目総計		94		
総単位数		124			

1. 卒業単位は合計124単位以上とする。

2. 共通教育科目は30単位とする。

教養領域	健康運動系科目	2単位以上
	人文系科目	2単位以上
	社会系科目	2単位以上
	自然系科目	2単位以上
総合領域	総合、琉大特色・地域創生及びキャリア関係科目	4単位以上
基幹領域	第1外国語	8単位以上
	第2外国語	4単位以上
健康運動系科目を除く教養領域・総合領域及び基幹領域 (※上記の6単位以上には、外国語以外を2単位以上含むこと)		6単位以上

注1) 共通教育等の履修要件の詳細については「琉球大学共通教育等履修規程」及び同規程別表3「各学部学科等別共通教育等履修基準表」を参照すること。

注2) 第1外国語で英語を選択する場合は、「大学英語」と「英語講読演習中級」を必ず履修し、第2外国語で英語を選択する場合は、「大学英語」を必ず履修すること。

3. 専門教育科目は94単位以上とする。

(1) 学部共通基盤専門科目は以下のとおり、合計22単位以上を履修すること。

- 専門基盤力科目は、合計14単位以上履修すること。ただし、
 - ・基礎演習(2単位)は、必ず履修すること。
 - ・地域文化科学プログラム提供の、歴史総合(2単位)、地理総合(2単位)、人類文化入門(2単位)の3科目は必ず履修すること。
 - ・他プログラムが提供している専門基盤力科目のうち、少なくとも2つのプログラムの科目について、それぞれ1科目以上(計4単位以上)履修すること。
- 地域・国際基盤力科目は、合計8単位以上履修すること。ただし、
 - ・プログラム系科目を6単位以上履修すること。
 - ・プログラム複合科目(選択必修)を2単位以上履修すること。

(2) プログラム専門科目は以下のとおり合計44単位以上を履修する。

- 地域文化科学プログラム専門科目は、合計32単位以上履修すること。ただし、
 - ・卒業研究(2単位)、地域文化科学リテラシー(2単位)は、必ず履修すること。
- 卒業論文を書く前に、地理学実験Ⅰ～Ⅳ(4単位)、日本史実践演習(Ⅰ～Ⅵから2科目4単位)、世界史実践演習(Ⅰ～Ⅵから2科目4単位)、社会人類学調査法Ⅰ・Ⅱ(4単位)、考古学研究方法論Ⅰ・Ⅱ(4単位)、民俗学調査法Ⅰ・Ⅱ(4単位)のいずれかを履修していることを原則とする。
- 地域・国際実践力科目は、合計12単位以上を履修すること。ただし、
 - ・地域文化科学フィールドワークⅠ・Ⅱ(計4単位)、地域・国際実践力演習Ⅰ～Ⅳ(計8単位)は、必ず履修すること。

(3) 地域・国際実践力科目(読替)は、合計28単位以上を履修すること。なお、

- 学部共通基盤専門科目、地域文化科学プログラム専門科目、及び地域・国際実践力科目で、必要単位数(それぞれ22単位、32単位、12単位)を超過して取得した単位は、地域・国際実践力科目(読替科目)の単位として読み替えることができる。
- 他プログラム・他学部提供の専門科目(教職科目含む)は、地域・国際実践力科目(読替科目)の単位として読み替えることができる。

4. 一学期に登録できる単位数の上限は20単位(共通教育科目を含め)とする。ただし、集中講義はこの中に含まない。

5. 直前に在学した学期の5段階評価によるGPAが3.0以上の者は、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。

6. 海外交流協定校へ留学した学生については、帰国後の2学期のみ、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。

7. 3年次編入学生については、入学後の2学期のみ、指導教員の指導・承認を得て26単位までの登録を認める。

8. GPAの値にかかわらず、博物館学芸員等の資格取得予定者は、指導教員の指導・承認を得て登録単位の上積みをも6単位まで認める。ただし、超過する分は資格取得に必要な該当科目とする。

9. 資格取得希望者に該当する者のGPAが3.0以上の場合でも26単位までの登録とする。

10. 卒業要件に算入できる遠隔授業の単位数は、60単位を上限とする。ただし、単位認定を受けた科目(認定科目)のうち、遠隔授業の科目も含む。

注3) 原則として、必修科目以外の科目について、夜間主コースに開講される授業科目から履修することができ、そのうち

10単位以内は卒業単位として認める。

博物館学関係授業 学芸員資格について

学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業を行う「博物館法」に定められた、博物館におかれる専門的職員である。学芸員補は学芸員の職務を補助する役割を担う。

次の三つのうち、いずれかに該当すれば資格を取得したことになる（博物館法第5条第1項一・二・三）。

- 1) 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの。
- 2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの。
- 3) 文部科学大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前二号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者。

なお、具体的な施設としては、博物館・美術館の他、水族館や動物園、各種の資料館など、公民館・図書館を除く、多くの社会教育施設があげられる。

琉球大学では学内外の強い要望により、平成7（1995）年博物館学関係授業を開講しているが、平成24年4月1日から「博物館法施行規則の一部を改正する省令」が施行されることになった。これは、人々の知的関心に応える「地域文化の中核的拠点」としての博物館を支える学芸員の高い専門性と実践力を備えた質の高い人材として育成されるように大学などにおける学芸員養成課程の養成科目の改善と充実を図ることを目的にしたものである。

そこで、琉球大学においても、この新科目に対応すべく、下記のように博物館学芸員の新课程を設置するのである。

1. 琉球大学における博物館学関係授業科目の一覧

必修科目

法令上の科目	単位数	本学における提供科目	単位数	提供学部
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	国際地域創造学部
博物館概論	2	博物館概論	2	国際地域創造学部
博物館経営論	2	博物館経営論	2	国際地域創造学部
博物館資料論	2	博物館資料論	2	国際地域創造学部
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	国際地域創造学部
博物館展示論	2	博物館展示論	2	国際地域創造学部
博物館教育論	2	博物館教育論	2	国際地域創造学部
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	国際地域創造学部
博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	2	国際地域創造学部・理学部
		博物館実習Ⅱ	2	国際地域創造学部
計	19		20	

選択科目

法令上の科目	単位数	本学における提供科目	単位数	提供学部
文化史分野	1	文化史	2	国際地域創造学部
		琉球史研究Ⅴ	2	人文社会学部
美術史分野	1	美術理論・美術史基礎	2	教育学部
		美術理論・美術史 A	2	教育学部
考古学分野	1	考古学Ⅰ	2	国際地域創造学部
民俗学分野	1	社会人類学Ⅰ	2	国際地域創造学部
		民俗学Ⅰ	2	国際地域創造学部
物理学分野	1	物理学概論	2	理学部
化学分野	1	化学概論	2	理学部
生物学分野	1	生物学Ⅰ	2	理学部
地学分野	1	地学概論	2	理学部

*選択科目については、上記8分野の中から2分野以上にわたり、それぞれ1科目2単位以上、計4単位以上を選択履修するものとする。

2. 博物館に関する科目の単位修得証明書

本学において、所定の科目の単位を修得した者には、願い出により「博物館に関する科目の単位修得証明書」を交付する。

令和6年度 国際地域創造学部 学生便覧の訂正

修正日	対象	訂正内容																																																																																																		
2024/6/14	プログラム専門科目の地域・国際実践力科目一覧表	<p>経済学プログラム提供 プログラム専門科目(地域・国際実践力科目) ・科目番号の訂正</p> <table border="1"> <tr> <td>経済 DS556</td> <td>データサイエンス実践演習Ⅰ</td> <td>2</td> <td>2～4</td> <td>前又は後</td> <td></td> </tr> <tr> <td>経済 DS557</td> <td>データサイエンス実践演習Ⅱ</td> <td>2</td> <td>2～4</td> <td>前又は後</td> <td></td> </tr> <tr> <td>経済 DS558</td> <td>データサイエンス実践演習Ⅲ</td> <td>2</td> <td>2～4</td> <td>前又は後</td> <td></td> </tr> </table>	経済 DS556	データサイエンス実践演習Ⅰ	2	2～4	前又は後		経済 DS557	データサイエンス実践演習Ⅱ	2	2～4	前又は後		経済 DS558	データサイエンス実践演習Ⅲ	2	2～4	前又は後																																																																																	
経済 DS556	データサイエンス実践演習Ⅰ	2	2～4	前又は後																																																																																																
経済 DS557	データサイエンス実践演習Ⅱ	2	2～4	前又は後																																																																																																
経済 DS558	データサイエンス実践演習Ⅲ	2	2～4	前又は後																																																																																																
2024/6/14	プログラム専門科目の地域・国際実践力科目一覧表	<p>国際言語文化プログラム提供 プログラム専門科目(地域・国際実践力科目) ・科目の追加</p> <table border="1"> <tr> <th>科目番号</th> <th>授業科目</th> <th>単位数</th> <th>年次</th> <th>学期</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>国言102</td> <td>異文化実地研修A</td> <td>2</td> <td>1～4</td> <td>前又は後</td> <td></td> </tr> <tr> <td>国言103</td> <td>異文化実地研修B</td> <td>4</td> <td>1～4</td> <td>前又は後</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英言387</td> <td>特定課題演習A (Directed Studies A)</td> <td>2</td> <td>3～4</td> <td>前又は後</td> <td></td> </tr> <tr> <td>英言387</td> <td>特定課題演習B (Directed Studies B)</td> <td>2</td> <td>3～4</td> <td>前又は後</td> <td></td> </tr> <tr> <td>欧言218</td> <td>ヨーロッパ文学・言語研究</td> <td>2</td> <td>2～4</td> <td>前又は後</td> <td></td> </tr> </table>	科目番号	授業科目	単位数	年次	学期	備考	国言102	異文化実地研修A	2	1～4	前又は後		国言103	異文化実地研修B	4	1～4	前又は後		英言387	特定課題演習A (Directed Studies A)	2	3～4	前又は後		英言387	特定課題演習B (Directed Studies B)	2	3～4	前又は後		欧言218	ヨーロッパ文学・言語研究	2	2～4	前又は後																																																															
科目番号	授業科目	単位数	年次	学期	備考																																																																																															
国言102	異文化実地研修A	2	1～4	前又は後																																																																																																
国言103	異文化実地研修B	4	1～4	前又は後																																																																																																
英言387	特定課題演習A (Directed Studies A)	2	3～4	前又は後																																																																																																
英言387	特定課題演習B (Directed Studies B)	2	3～4	前又は後																																																																																																
欧言218	ヨーロッパ文学・言語研究	2	2～4	前又は後																																																																																																
2024/6/14	経済学プログラム(昼間主コース)卒業要件	<p>・小計の訂正</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">授業科目の区分</th> <th>必修</th> <th>選択</th> <th>選択必修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">共通教育</td> <td rowspan="4">教養領域</td> <td>健康運動系科目</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>人文系科目</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>社会系科目</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>自然系科目</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">総合領域</td> <td>総合科目</td> <td rowspan="3">4</td> <td rowspan="3">6</td> <td rowspan="3"></td> </tr> <tr> <td>琉大特色・地域創生科目</td> </tr> <tr> <td>キャリア関係科目</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">基幹領域</td> <td>情報関係科目</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第1外国語</td> <td>8</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2外国語</td> <td>4</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">小計</td> <td>24</td> <td>6</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">共通教育科目総計</td> <td colspan="3">30</td> </tr> <tr> <td rowspan="7">専門教育</td> <td rowspan="3">学部共通基盤専門科目</td> <td>専門基盤力科目</td> <td>2</td> <td>12</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域・国際基盤力科目(プログラム系科目)</td> <td></td> <td>6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域・国際基盤力科目(プログラム複合科目)</td> <td></td> <td></td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">プログラム専門科目</td> <td>経済学プログラム専門科目(基礎科目)</td> <td>14</td> <td rowspan="3">16 (基礎科目8単位を含む)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>経済学プログラム専門科目(応用科目)</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>地域・国際実践力科目</td> <td>8</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">地域・国際実践力科目(読替科目)</td> <td></td> <td>28</td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">小計</td> <td>26</td> <td>64 66</td> <td>4 2</td> </tr> <tr> <td colspan="2">専門教育科目総計</td> <td colspan="3">94</td> </tr> <tr> <td colspan="2">総単位数</td> <td colspan="3">124</td> </tr> </tbody> </table>	授業科目の区分		必修	選択	選択必修	共通教育	教養領域	健康運動系科目	2			人文系科目	2			社会系科目	2			自然系科目	2			総合領域	総合科目	4	6		琉大特色・地域創生科目	キャリア関係科目	基幹領域	情報関係科目				第1外国語	8			第2外国語	4			小計		24	6		共通教育科目総計		30			専門教育	学部共通基盤専門科目	専門基盤力科目	2	12		地域・国際基盤力科目(プログラム系科目)		6		地域・国際基盤力科目(プログラム複合科目)			2	プログラム専門科目	経済学プログラム専門科目(基礎科目)	14	16 (基礎科目8単位を含む)		経済学プログラム専門科目(応用科目)	2		地域・国際実践力科目	8	4	地域・国際実践力科目(読替科目)			28		小計		26	64 66	4 2	専門教育科目総計		94			総単位数		124		
授業科目の区分		必修	選択	選択必修																																																																																																
共通教育	教養領域	健康運動系科目	2																																																																																																	
		人文系科目	2																																																																																																	
		社会系科目	2																																																																																																	
		自然系科目	2																																																																																																	
	総合領域	総合科目	4	6																																																																																																
		琉大特色・地域創生科目																																																																																																		
		キャリア関係科目																																																																																																		
	基幹領域	情報関係科目																																																																																																		
		第1外国語	8																																																																																																	
		第2外国語	4																																																																																																	
小計		24	6																																																																																																	
共通教育科目総計		30																																																																																																		
専門教育	学部共通基盤専門科目	専門基盤力科目	2	12																																																																																																
		地域・国際基盤力科目(プログラム系科目)		6																																																																																																
		地域・国際基盤力科目(プログラム複合科目)			2																																																																																															
	プログラム専門科目	経済学プログラム専門科目(基礎科目)	14	16 (基礎科目8単位を含む)																																																																																																
		経済学プログラム専門科目(応用科目)	2																																																																																																	
		地域・国際実践力科目	8		4																																																																																															
	地域・国際実践力科目(読替科目)			28																																																																																																
小計		26	64 66	4 2																																																																																																
専門教育科目総計		94																																																																																																		
総単位数		124																																																																																																		
2024/6/14	国際言語文化プログラム(昼間主コース)卒業要件	<p>・該当プログラムの訂正</p> <p>(3) 地域・国際実践力科目(読替科目)は、合計28単位以上を履修すること。なお、 ○学部共通基盤専門科目、経営 国際言語文化プログラム専門科目、及び地域・国際実践力科目で、必要単位数(それぞれ22単位、32単位)を超過して取得した単位は、地域・国際実践力科目(読替科目)の単位として読み替えることができる。 ○他プログラム・他学部提供の専門科目(教職科目含む)は、地域・国際実践力科目(読替科目)の単位として読み替えることができる。</p>																																																																																																		

琉球大学教育学部規程

〔 1972年3月17日 〕
制 定

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人琉球大学組織規則第27条第2項の規定に基づき、琉球大学学則（以下「学則」という。）に定めるもののほか、琉球大学教育学部（以下「本学部」という。）の授業科目、単位、履修方法その他必要な事項を定める。

(教育研究上の目的)

第2条 本学部は、教科に関する知識及びカリキュラムを構成する力に支えられた授業力並びに他者と対話しながら教育課題に向き合って学びの場をコーディネートする力を、関連諸分野の学修・研究及び多様な現場実践を通して習得させることにより、次の各号に掲げる人材を養成することを目的とする。

- (1) 子ども及び教育に関する臨床的課題に気付き、その解決に取り組むことができる教員
- (2) 学校の内外で、学校教育の一貫性を見据えて総合的に連携・協働に取り組むことができる教員
- (3) 学習指導及び生活指導を両輪とする実践力のある教員

(教育組織)

第3条 本学部学校教育教員養成課程に、履修上の区分として、次の各号に掲げるコースを置く。

- (1) 小学校教育コース
- (2) 中学校教育コース
- (3) 特別支援教育コース

2 小学校教育コースに、次の表に掲げる専攻及び専修を置く。

専攻	専修
学校教育専攻	教育実践学専修，子ども教育開発専修
教科教育専攻	国語教育専修，社会科教育専修，数学教育専修，理科教育専修，音楽教育専修，美術教育専修，保健体育専修，技術教育専修，生活科学教育専修，英語教育専修

3 中学校教育コースに、次の表に掲げる専攻及び専修を置く。

専攻	専修
教科教育専攻	国語教育専修，社会科教育専修，数学教育専修，理科教育専修，音楽教育専修，美術教育専修，保健体育専修，技術教育専修，生活科学教育専修，英語教育専修

4 特別支援教育コースに、次の表に掲げる専攻及び専修を置く。

専攻	専修
特別支援教育専攻	特別支援教育専修

(入学時の学生人員)

第4条 学校教育教員養成課程におけるコース及び専攻の入学時の学生人員は、次の表に掲げるとおりとする。

課 程	コース	専攻	学生人員
学校教育教員 養成課程 (140)	小学校教育コース	学校教育専攻	50
		教科教育専攻	45
	中学校教育コース	教科教育専攻	35
	特別支援教育コース	特別支援教育専攻	10

(共通教育等の授業科目の種類等)

第5条 共通教育及び専門基礎教育の授業科目の種類、単位数及び履修方法は、琉球大学共通教育等履修規程の定めるところによる。

(専門教育の授業科目の種類等)

第6条 専門教育の授業科目の種類、履修方法等は、別表に掲げるとおりとする。

(授業科目の公示)

第7条 各学期に開講する授業科目、授業時間、単位及び担当教員は、学期の初めに公示する。ただし、臨時に開講する授業科目については、その都度、公示する。

(単位)

第8条 専門教育の授業科目の単位の計算は、次に掲げる基準により行う。

- (1) 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、演習については、教育上必要と認められる場合には、30時間の授業をもって1単位とすることができる。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文については、学修の成果を評価して単位を授与することが適当であると認められる場合には、これらに必要な学修を考慮して、各コース又は専修が単位数を定めるものとする。
- 3 前2項の規定に基づく各授業科目の単位数及び週時間については、別表に掲げるとおりとする。

(登録、試験、単位の認定等)

第9条 登録、試験、単位の認定等については、琉球大学各学部共通細則の定めるところによる。

(編入学)

第10条 編入学については、琉球大学編入学規程の定めるところによる。

(転入学)

第11条 転入学については、琉球大学転入学規程の定めるところによる。

(再入学)

第12条 再入学については、琉球大学再入学規程の定めるところによる。

(転学部)

第13条 転学部については、琉球大学転学部、転学科、転課程に関する規程の定めるところによる。

(転コース・転専攻・転専修)

第14条 転コース、転専攻及び転専修については、琉球大学転学部、転学科、転課程に関する規程を準用する。

(転学)

第15条 本学部の学生で、他の大学へ入学又は転入学を希望する者は、指導教員及び学部長を経て、学長の許可を得なければならない。

(留学)

第16条 留学については、琉球大学留学等及び特別聴講学生に関する規程の定めるところによる。

(卒業の要件)

第17条 本学部の学生が卒業するためには、琉球大学（以下「本学」という。）に4年以上在学し、別表に規定する単位を修得しなければならない。

2 教授会は、本学部の学生が別表に掲げる登録条件を満たしている場合であっても、教職実践に関する科目の履修等取扱い要項（以下「要項」という。）で定めるところにより、教育実習委員会が管轄する教職実践に関する科目（以下「教職実践科目」という。）の登録を保留することができる。

3 教授会は、本学部の学生に病気・障害等の特段の理由があると認められる場合は、要項で定めるところにより、教育実習及びその事前事後指導科目（以下「教育実習等科目」という。）並びに教職実践演習に代えて教授会が指定する科目（以下「代替科目」という。）を当該学生に履修させることができる。

4 前項の場合においては、教職実践科目を除く実習、実験、調査等の科目のうちから代替科目を指定し、教育実習等科目及び教職実践演習で付与される単位数と同単位数を新たに履修させなければならない。

(教員免許)

第18条 教育職員の免許状授与の資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭

和24年法律第147号)の定めるところにより、別に定める単位を修得しなければならない。

(研究生)

第19条 研究生については、琉球大学研究生規程の定めるところによる。

(特別聴講学生)

第20条 特別聴講学生については、琉球大学留学等及び特別聴講学生に関する規程の定めるところによる。

(科目等履修生)

第21条 科目等履修生については、琉球大学科目等履修生規程の定めるところによる。

(外国人学生)

第22条 外国人学生については、琉球大学外国人学生規程の定めるところによる。

(指導教員)

第23条 学生の修学、進路、就職、学生生活等の指導のため、各専修の年次ごとに指導教員を置く。

2 前項の規定に定めるもののほか、指導教員については、琉球大学における指導教員に関する規程の定めるところによる。

附 則

～附則一部(略)～

附 則(令和6年3月27日)

- 1 この規程は、令和6年4月1日から施行する。
- 2 令和5年3月31日に教育学部に在学していた者については、なお従前の例による。
- 3 第2項の規定にかかわらず、必要と認める場合には、在学者に令和6年度以降の入学者のために開設された授業科目を履修させることができる。この場合において、当該授業科目の履修を改正前の規定に基づく授業科目の履修とみなし、単位を与える。

1. 授業科目表

(1) 教育学部共通科目、琉球大学教職センター提供科目

分野	科目番号	授業科目	単位	分野	科目番号	授業科目	単位
学校教育教員養成課程 教職に関する科目	教職111	教職入門	2	学校教育教員養成課程 教職実践に関する科目	教職151	介護等体験指導	1
	教職311	教職セミナー	2		教共151	介護等体験指導	1
	教職121	教育原理	2		教職161	教職体験Ⅰ(小)	1
	教職221	教育心理学	2		教職162	教職体験Ⅰ	1
	教職201	児童心理学	2		教職261	教職体験Ⅱ(小)	1
	教職203	学習心理学	2		教職262	教職体験Ⅱ	1
	教職213	学校社会学	2		教職360	学校教育実践研究(小)	1
	教職324	教育社会学	2		教職370	学校教育実践研究	1
	教職231	教育課程(教諭)	1		教職361	小学校教育実習A	4
	教職232	教育方法(教諭)	1		教職461	小学校教育実習B	2
	教職237	学級経営実践(教諭)	2		教職462	小学校教育実習C	4
	教職134	授業技術	2		教職481	幼稚園教育実習A	4
	教職321	複式学級授業論	2		教職482	幼稚園教育実習B	2
	教職131	教育におけるICT活用	1		教職371	中学校教育実習A	4
	教職233	道德教育の理論と実践A(教諭)	2		教職471	中学校教育実習B	2
	教職234	道德教育の理論と実践B(教諭)	2		教職472	中学校教育実習C	4
	教職235	特別活動論(教諭)	2		教職473	高等学校教育実習	2
	教職241	生徒指導論(進路指導含む)(教諭)	2		教職491	教職実践演習	2
	教職242	教育相談(教諭)	2				
	教職243	学校カウンセリング(教諭)	2				
	教職501	総合的な学習の時間の授業づくり	1		全教111	教職入門	2
	教職502	特別の支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援	1		全教121	教育原理	2
	教職351	幼稚園教育課程の編成方法	1		全教221	教育心理学	2
	教職352	幼児の教育方法	1		全教215-1	教育社会学A	2
	教職251	人間関係	2		全教215-2	教育社会学B	2
	教職252	環境	2		全教216	教育の社会史	2
	教職253	言葉	2		全教231	教育課程	1
	教職353	健康	2		全教232	教育方法	1
	教職354	表現ⅠA	2		全教131	教育におけるICT活用	1
教職356	表現ⅡA	2	全教233	道德教育の理論と実践	2		
教職357	表現ⅡB	2	全教235	特別活動論	2		
教職332	幼児理解	2	全教241	生徒指導論(進路指導含む)	2		
教職255	幼児と健康	1	全教242	教育相談	2		
教職256	幼児と人間関係	1	全教243	学校カウンセリング	2		
教職257	幼児と環境	1	全教100	教職指導	1		
教職258	幼児と言葉	1	全教301	学校教育実践指導Ⅰ	1		
教職259	幼児と表現	1	全教350	学校教育実践指導Ⅱ	1		
			全教401	中学校教育実習	4		
			全教402	高等学校教育実習	2		
			全教501	総合的な学習の時間	1		
			全教502	特別の支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援	1		

	科目番号	授業科目	単位		科目番号	授業科目	単位
教育学部 共通科目	教共302	初等生活科教育法	2	初年次 教育に 関する 科目	学共101	理解と表現の基礎的スキル	2
	教共306	生活科教育概論	2		学共102	子どもの世界・学びの世界	2
	教共304	職業指導	2		国503	国語科基礎講読	1
	教共601	小学校プログラミング教育概論Ⅰ	1		教数101	数学講読Ⅰ	1
	教共602	小学校プログラミング教育概論Ⅱ	1		社100	社会科入門	2
	英教389	小学校英語演習Ⅰ	2		音100	スタートアップ音楽	2
	技181	ものづくり概論	2		美100	スタートアップ美術	1
	教共113	新聞活用実践講座	2		技111	基礎製図	1
	教共215	離島・へき地教育概論	2		家190	五感を育む体験活動	2
	教共216	子どもと多言語・多文化教育	2		英教101	基礎演習	1
	教共120	環境科学概論	2		特支131	ダイバーシティ教育実践研究ⅠA	1
	教共121	琉球・沖縄史を学びあう	2		特支132	ダイバーシティ教育実践研究ⅠB	1
	教共122	平和教育学概論	2				
	教共123	沖縄の環境と社会	2				
	教共119	沖縄生活文化論	2				
	教共180	インクルーシブ教育指導法Ⅰ	2				
	教共280	インクルーシブ教育指導法Ⅱ	2				
	教共380	インクルーシブ教育指導法Ⅲ	2				
	教共117	障がい者の教育実践と地域発達支援Ⅰ	2				
	教共118	障がい者の教育実践と地域発達支援Ⅱ	2				
	教共603	ICT活用実践講座	1				
	教共125	生徒指導特講	1				
	教共126	学級経営特講	1				
	教セ309	いじめ不登校	2				
	教セ310	教育実践ボランティアⅠ	2				
	教セ311	教育実践ボランティアⅡ	2				
	教セ314	教育実践ボランティアⅢ	2				
	教セ315	教育実践ボランティアⅣ	2				
	教セ313	臨床描画心理学	2				
	教セ312	模擬授業	2				
	教共103	総合演習Ⅲ	2				
	発セ100	発達支援教育実践A	2				
	発セ101	発達支援教育実践B	2				
	教共452	特別支援学校教育実践研究	1				
	教共453	特別支援学校教育実習	3				
	教共501	附属小教育ボランティアA	2				
	教共502	附属小教育ボランティアB	2				
	教共503	附属小教育ボランティアC	2				
	教共504	附属小教育ボランティアD	2				
	教共131	地域文化交流実習	2				
	教共401	教職実践研究	1				
	教共354	離島・へき地校体験実習	2				
	教生310A	学校教育実践研究Ⅰ	1				
幼特111	教職研究	2					
教共602	教職インターンシップ	2					

(2) 各専修提供科目

①-A 教育実践学専修

分野	科目番号	授業科目	単位	分野	科目番号	授業科目	単位	
授業実践に関する科目	実131	教育臨床研究Ⅰ	2	教科外に関する科目	実251	総合的な学習の理論と実践	2	
	実132	教育臨床研究Ⅱ	2		教職322	道徳授業研究Ⅰ	2	
	実212	教育臨床研究Ⅲ	2		教職323	道徳授業研究Ⅱ	2	
	実213	教育臨床研究Ⅳ	2					
	実214	教育心理学演習	2					
	実223	学習指導サブプリメントⅠ	1					
	実224	学習指導サブプリメントⅡ	1					
	実225	学習指導サブプリメントⅢ	1					
	実226	学習指導サブプリメントⅣ	1					
	実227	学習指導サブプリメントⅤ	1					
	実228	学習指導サブプリメントⅥ	1					
	実229	学習指導サブプリメントⅦ	1		共通又は分野外	実203	小学校教育フィールドワーク	1
	実230	学習指導サブプリメントⅧ	1			実302	小学校教育研究法Ⅰ	2
	実233	学校教育リフレクション	2			実303	小学校教育研究法Ⅱ	2
	実234	低学年カリキュラムの理論と実践	2			実401	卒業研究Ⅰ	2
	実235	教材開発演習Ⅰ	2			実402	卒業研究Ⅱ	2
	実236	教材開発演習Ⅱ	2			実501	教育実践学特殊講義Ⅰ	2
						実502	教育実践学特殊講義Ⅱ	2
						実503	教育実践学特殊講義Ⅲ	2
			実504	教育実践学特殊講義Ⅳ	2			
学級運営に関する科目	実204	小学校における特別支援教育	2	専攻共通科目	学共101	理解と表現の基礎的スキル	2	
	実241	学校・学級・授業Ⅰ	2		学共102	子どもの世界・学びの世界	2	
	実242	学校・学級・授業Ⅱ	2		学共103	体験 子どもの世界・学びの世界	2	
	実243	学校・学級・授業Ⅲ	2		学共211	心理学研究法概説	2	
	実244	学校・学級・授業Ⅳ	2					

①-B 子ども教育開発専修

分野	科目番号	授業科目	単位	分野	科目番号	授業科目	単位
共通	子301	子ども教育開発演習Ⅰ	2	幼児の発達と教育	子213-1	保育学基礎研究A	1
	子302	子ども教育開発演習Ⅱ	2		子213-2	保育学基礎研究B	1
	子401	卒業研究Ⅰ	2		子214	子ども教育開発特講B	2
	子402	卒業研究Ⅱ	2		子307	幼稚園教育基礎実践	2
					教職255	幼児と健康	1
					教職256	幼児と人間関係	1
					教職257	幼児と環境	1
					教職258	幼児と言葉	1
				教職259	幼児と表現	1	
子どもの文化・生活世界	教職203	学習心理学	2	地域と学校をつなぐ教育実践	子203	子どものからだと動き	2
	子221	子どもの発達と教育・学校制度	1		子215	子ども学フィールドワーク	2
	子202	教育と法	2		子217	アートと教育	2
	子224	子どもと生活のなかのこぼれ	1		子218	子ども教育開発特講C	2
	子205	子どもと社会	2	専攻共通科目	学共101	理解と表現の基礎的スキル	2
	子206	学校経営と学校図書館	2		学共102	子どもの世界・学びの世界	2
	子207	学校図書館メディアの構成	2		学共103	体験 子どもの世界・学びの世界	2
	子208	学習指導と学校図書館	2		学共211	心理学研究法概説	2
	子209	読書と豊かな人間性	2				
	子210	子ども教育開発特講A	2				
	子304	情報メディアの活用	2				
	子306	子ども読書論	2				
幼児の発達と教育	教職332	幼児理解	2				
	教職201	児童心理学	2				
	教職234	道徳教育の理論と実践B(教諭)	2				
	教職351	幼稚園教育課程の編成方法	1				
	教職352	幼児の教育方法	1				
	教職353	健康	2				
	教職251	人間関係	2				
	教職252	環境	2				
	教職253	言葉	2				
	教職354	表現ⅠA	2				
	教職356	表現ⅡA	2				
	教職357	表現ⅡB	2				
	子211	子どもと自然体験活動	2				
	子212-1	乳幼児教育学A	1				
	子212-2	乳幼児教育学B	1				

② 国語教育専修

分野	科目番号	授業科目	単位	分野	科目番号	授業科目	単位
国語学	国101	日本語学概論	2	国語科教育	国401	国語概説	2
	国102	日本語学講義 I	2		国402	初等国語科教育法	2
	国103	日本語学講義 II	2		国403	国語科教育法A	2
	国104	日本語学特講 I A	2		国404	国語科教育法B	2
	国105	日本語学特講 I B	2		国405	国語科教育法C	2
	国106	日本語学特講 II A	2		国406	国語教育論 I	2
	国107	日本語学特講 II B	2		国407	国語教育論 II	2
	国108	日本語学特講 III	2		国408	国語教育実践研究 I	2
	国109	日本語学演習 I	2		国409	国語教育実践研究 II	2
	国110	日本語学演習 II	2		国410	国語科教材研究 I	2
	国111	言語文化論 I	2		国411	国語科教材研究 II	2
	国112	言語文化論 II	2		国412	国語科教材研究 III	2
	国113	言語文化資料講読 I	2		国413	国語科教材研究 IV	2
	国114	言語文化資料講読 II	2		国414	ことばの教育特講 I A	2
国文学	国201	日本文学概論 I	2		国415	ことばの教育特講 I B	2
	国202	日本文学概論 II	2		国416	ことばの教育特講 II A	2
	国203	日本近代文学講読 I	2		国417	ことばの教育特講 II B	2
	国204	日本近代文学講読 II	2		国418	ことばの教育特講 III A	2
	国205	日本近代文学特講 I A	2		国419	ことばの教育特講 III B	2
	国206	日本近代文学特講 I B	2		国420	ことばの教育特講 IV A	2
	国207	日本近代文学特講 II A	2		国421	ことばの教育特講 IV B	2
	国208	日本近代文学特講 II B	2		国422	ことばの教育特講 V	2
	国209	日本近代文学特講 III	2		国423	ことばの教育特講 VI	2
	国210	日本近代文学演習 I	2		国424	ことばの教育演習 I	2
	国211	日本近代文学演習 II	2		国425	ことばの教育演習 II	2
	国212	日本古典文学講読 I	2		国426	ことばの教育演習 III	2
	国213	日本古典文学講読 II	2		国427	ことばの教育演習 IV	2
	国214	日本古典文学特講 I A	2		国428	ことばの教育フィールドワーク I	2
	国215	日本古典文学特講 I B	2		国429	ことばの教育フィールドワーク II	2
	国216	日本古典文学特講 II A	2	共通又は分野外	国501	書道 I	1
国217	日本古典文学特講 II B	2	国502		書道 II	1	
国218	日本古典文学特講 III	2	国503		国語科基礎講読	1	
国219	日本古典文学演習 I	2	国504		沖縄のことばと文化	2	
国220	日本古典文学演習 II	2	国505		沖縄の文学	2	
漢文学	国301	漢文学概論	2		国506	思春期の自立とことば	2
	国302	漢文学講読 I	2		国600	卒業論文 I	2
	国303	漢文学講読 II	2		国601	卒業論文 II	2
	国304	漢文学特講 I A	2				
	国305	漢文学特講 I B	2				
	国306	漢文学特講 II A	2				
	国307	漢文学特講 II B	2				
	国308	漢文学特講 III	2				
	国309	漢文学演習 I	2				
	国310	漢文学演習 II	2				

③ 社会科教育専修

分野	科目番号	授業科目	単位	分野	科目番号	授業科目	単位
社会科教育	社100	社会科入門	1	歴史	社518	歴史学史料講読Ⅲ(日本史)	2
	社201	社会科教材研究	2		社519	歴史学史料講読Ⅳ(日本史)	2
	社202	社会科教育実践研究	2		社520	歴史学史料講読Ⅴ(外国史)	2
	社390	初等社会科教育法	2		社522	歴史学史料講読Ⅵ(外国史)	2
	社290	社会科要説	2		社525	歴史学史料講読Ⅶ(外国史)	2
	社393	社会科教育法Ⅰ	2		社526	歴史学史料講読Ⅷ(外国史)	2
	社394	社会科教育法Ⅱ	2		社531	史学文献講読Ⅰ	2
	社400	社会科教育法Ⅲ	2		社532	史学文献講読Ⅱ	2
	社401	社会科教育法Ⅳ	2		社321	歴史学演習Ⅰ	1
	社402	社会認識教育実践論	2		社322	歴史学演習Ⅱ	1
	社393A	地理歴史科教育法Ⅰ	2		社329	歴史学演習Ⅲ	1
	社394A	地理歴史科教育法Ⅱ	2		社330	歴史学演習Ⅳ	1
	社393B	公民科教育法Ⅰ	2		社611	海洋文化史論	2
	社394B	公民科教育法Ⅱ	2		社631	琉球・東アジアの史籍Ⅰ	2
	社510	歴史資料講読Ⅰ	2		社632	琉球・東アジアの史籍Ⅱ	2
	社511	歴史資料講読Ⅱ	2		社633	琉球・東アジアの史籍Ⅲ	2
	社512	地理資料講読Ⅰ	2	社634	琉球・東アジアの史籍Ⅳ	2	
	社513	地理資料講読Ⅱ	2	社621	島嶼歴史文化研究Ⅰ	2	
	社410	社会科教育特殊講義Ⅰ	2	社622	島嶼歴史文化研究Ⅱ	2	
	社411	社会科教育特殊講義Ⅱ	2	社623	島嶼歴史文化研究Ⅲ	2	
	社412	社会科教育特殊講義Ⅲ	2	社624	島嶼歴史文化研究Ⅳ	2	
	社413	社会科教育特殊講義Ⅳ	2				
	社514	公民科教育資料講読Ⅰ	2				
	社515	公民科教育資料講読Ⅱ	2				
	社310	社会科教育演習Ⅰ	1				
	社311	社会科教育演習Ⅱ	1				
	社312	社会科教育演習Ⅲ	1				
	社313	社会科教育演習Ⅳ	1				
	社612	沖縄地域学習特殊講義Ⅰ	2				
	社613	沖縄地域学習特殊講義Ⅱ	2				
	社301	卒業論文演習Ⅰ	1				
	社302	卒業論文演習Ⅱ	1				
	社403	卒業論文演習Ⅲ	1				
	社404	卒業論文演習Ⅳ	1				
歴史学	社101	日本史概論	2	地理学	社121	人文地理学概論	2
	社108	外国史概論A	2		社230	自然地理学概論	2
	社115	外国史概論B	2		社221	地誌学概論A	2
	社420	歴史学特殊講義Ⅰ(日本史)	2		社222	地誌学概論B	2
	社421	歴史学特殊講義Ⅱ(日本史)	2		社430	地理学特殊講義Ⅰ	2
	社422	歴史学特殊講義Ⅲ(日本史)	2		社431	地理学特殊講義Ⅱ	2
	社423	歴史学特殊講義Ⅳ(日本史)	2		社432	地理学特殊講義Ⅲ	2
	社424	歴史学特殊講義Ⅴ(外国史)	2		社433	地理学特殊講義Ⅳ	2
	社425	歴史学特殊講義Ⅵ(外国史)	2		社434	地理学特殊講義Ⅴ	2
	社426	歴史学特殊講義Ⅶ(外国史)	2		社435	地理学特殊講義Ⅵ	2
	社427	歴史学特殊講義Ⅷ(外国史)	2		社436	地理学特殊講義Ⅶ	2
	社516	歴史学史料講読Ⅰ(日本史)	2		社437	地理学特殊講義Ⅷ	2
	社517	歴史学史料講読Ⅱ(日本史)	2		社233	地理学外書講読Ⅰ	2
					社234	地理学外書講読Ⅱ	2
					社331	地理学演習Ⅰ	1
					社332	地理学演習Ⅱ	1
					社336	地理学演習Ⅲ	1
					社337	地理学演習Ⅳ	1
			社335A	地理学実習Ⅰ(人文地理)	1		
			社335B	地理学実習Ⅰ(自然地理)	1		
			社338A	地理学実習Ⅱ(人文地理)	1		
			社338B	地理学実習Ⅱ(自然地理)	1		
			社341A	地理学実習Ⅲ(人文地理)	1		
			社341B	地理学実習Ⅲ(自然地理)	1		
			社342A	地理学実習Ⅳ(人文地理)	1		
			社342B	地理学実習Ⅳ(自然地理)	1		

③ 社会科教育専修

分野	科目番号	授業科目	単位	分野	科目番号	授業科目	単位
地理学	社421A	地理学実習Ⅴ(人文地理)	1	哲学	社181	哲学概説	2
	社421B	地理学実習Ⅴ(自然地理)	1		社491	倫理学	2
	社422A	地理学実習Ⅵ(人文地理)	1		社385	哲学史Ⅰ	2
	社422B	地理学実習Ⅵ(自然地理)	1		社386	哲学史Ⅱ	2
	社553	地理学実習Ⅶ(人文地理)	1		社382	哲学史Ⅲ	2
	社551	地理学実習Ⅶ(自然地理)	1		社383	哲学史Ⅳ	2
	社554	地理学実習Ⅷ(人文地理)	1		社487	哲学特殊講義Ⅰ	2
	社552	地理学実習Ⅷ(自然地理)	1		社488	哲学特殊講義Ⅱ	2
	社635	琉球と東アジアの地誌	2		社489	哲学特殊講義Ⅲ	2
社636	琉球弧の自然環境	2	社490		哲学特殊講義Ⅳ	2	
法学	社247	法学概論	2		社387	哲学演習Ⅰ	1
	社560	沖縄と法	2		社388	哲学演習Ⅱ	1
					社389	哲学演習Ⅲ	1
					社384	哲学演習Ⅳ	1
経済学					社561	沖縄／日本の思想	2
					社521	政治学概論	2
	社161	経済学概論	2		社527	政治学特殊講義Ⅰ	2
	社163	国際経済論	2	社528	政治学特殊講義Ⅱ	2	
	社471	経済学特殊講義Ⅰ	2	社529	政治学特殊講義Ⅲ	2	
	社472	経済学特殊講義Ⅱ	2	社530	政治学特殊講義Ⅳ	2	
	社473	経済学特殊講義Ⅲ	2	社533	政治学外書講読Ⅰ	2	
	社474	経済学特殊講義Ⅳ	2	社534	政治学外書講読Ⅱ	2	
	社375	経済学演習Ⅰ	1	社543	政治学演習Ⅰ	1	
	社376	経済学演習Ⅱ	1	社544	政治学演習Ⅱ	1	
	社377	経済学演習Ⅲ	1	社545	政治学演習Ⅲ	1	
	社378	経済学演習Ⅳ	1	社546	政治学演習Ⅳ	1	
	社370	経済時事問題演習Ⅰ	2	社537	政治学実習Ⅰ	1	
	社371	経済時事問題演習Ⅱ	2	社538	政治学実習Ⅱ	1	
				社539	政治学実習Ⅲ	1	
				社540	政治学実習Ⅳ	1	
				社641	地域経営基礎	2	
				社642	地域経営論	2	
				社523	行政学	2	
			社524	地方自治論	2		
			社559	沖縄の政治	2		
			社651	市民性教育実習Ⅰ	1		
			社652	市民性教育実習Ⅱ	1		
			社653	国際関係概論	2		

③ 社会科教育専修

分野	科目番号	授業科目	単位	分野	科目番号	授業科目	単位
社会学	社192	社会学概論	2	分野外	社499	卒業論文 I	2
	社451	社会学特殊講義 I	2		社500	卒業論文 II	2
	社452	社会学特殊講義 II	2		社600	教科書研究	2
	社453	社会学特殊講義 III	2		社601	へき地認識概説	2
	社454	社会学特殊講義 IV	2		社602	へき地認識実践論	2
	社355	社会学方法論	2		社603	へき地認識演習 I	1
	社356	社会学学説研究 I	2		社604	へき地認識演習 II	1
	社357	社会学学説研究 II	2				
	社251	社会調査 I	1				
	社252	社会調査 II	1				
	社351	社会学演習 I	1				
	社352	社会学演習 II	1				
	社353	社会学演習 III	1				
	社354	社会学演習 IV	1				
	社637	現代沖縄社会概説	2				

④ 数学教育専修

分野	科目番号	授業科目	単位	分野	科目番号	授業科目	単位
代数学及び幾何学	教数111	代数学序論 I	2	分野外	教数101	数学講読 I	1
	教数211	代数学序論 I 演習	1		教数102	数学講読 II	1
	教数112	代数学序論 II	2		教数301	数学特別講義 I	2
	教数311	代数学 I	2		教数302	数学特別講義 II	2
	教数312	代数学 II	2		教数303	数学特別講義 III	2
	教数411	代数学特論 I	2		教数304	数学特別講義 IV	2
	教数412	代数学特論 II	2		教数305	数学特別講義 V	2
	教数221	幾何学序論 I	2		教数306	数学特別講義 VI	2
	教数223	幾何学序論 I 演習	1				
	教数222	幾何学序論 II	2		教数401	卒業研究 I	2
	教数321	幾何学 I	2		教数402	卒業研究 II	2
	教数322	幾何学 II	2		教数151	数学入門 I	2
	教数421	幾何学特論 I	2		教数152	数学入門 II	2
	教数422	幾何学特論 II	2				
	解析学及び応用数学	教数131	解析学序論 I		2		
教数231		解析学序論 I 演習	1				
教数132		解析学序論 II	2				
教数331		解析学 I	2				
教数332		解析学 II	2				
教数431		解析学特論 I	2				
教数432		解析学特論 II	2				
教数244		確率統計学 I	2				
教数245		確率統計学 I 演習	1				
教数344		確率統計学 II	2				
教数241		情報数学 I	2				
教数341		情報数学 II	2				
教数441		情報数学特論 I	2				
教数442		情報数学特論 II	2				
教数347		離散数学 I	2				
教数348	離散数学 II	2					
数学科教育	教数201	数学概論	2				
	教数353	数学科教育法A	2				
	教数354	数学科教育法B	2				
	教数356	数学科教育法C	2				
	教数351	数学科教育法D	2				
	教数355	初等算数科教育法	2				
	数教251	算数・数学教材研究	2				
	数教252	算数・数学実践研究	2				

⑤ 理科教育専修

分野	科目番号	授業科目	単位	分野	科目番号	授業科目	単位
物理学	理112	物理学Ⅰ	2	地学	理271	地学Ⅰ	2
	理211	物理学Ⅱ	2		理272	地学Ⅱ	2
	理222	物理学Ⅲ	2		理372	地学Ⅲ	2
	理223	物理学Ⅳ	2		理375	地学Ⅳ	2
	理213	物理学実験Ⅰ	2		理172	地学実験Ⅰ	2
	理214	物理学実験Ⅱ	1		理273	地学実験Ⅱ	1
	理313	物理学実験Ⅲ	2		理374	地球科学野外実習	1
	理511	物理学演習ⅠA	2		理571	地学演習ⅠA	2
	理512	物理学演習ⅠB	2		理572	地学演習ⅠB	2
	理513	物理学演習ⅡA	2		理573	地学演習ⅡA	2
	理514	物理学演習ⅡB	2		理574	地学演習ⅡB	2
	理411	物理学特殊講義Ⅰ	2		理471	地学特殊講義Ⅰ	2
	理412	物理学特殊講義Ⅱ	2		理472	地学特殊講義Ⅱ	2
	化学	理131	化学Ⅰ		2	理科教育	理390
理232		化学Ⅱ	2	理391	理科教育法A		2
理334		化学Ⅲ	2	理392	理科教育法B		2
理335		化学Ⅳ	2	理393	理科教育法C		2
理134		化学実験Ⅰ	2	理495	理科教育法D		2
理234		化学実験Ⅱ	1	理591	理科教育学演習ⅠA		2
理333		化学実験Ⅲ	2	理592	理科教育学演習ⅠB		2
理337		化学実験Ⅳ	2	理594	理科教育学演習ⅡA		2
理531		化学演習ⅠA	2	理595	理科教育学演習ⅡB		2
理532		化学演習ⅠB	2	理491	理科教育特殊講義Ⅰ		2
理533		化学演習ⅡA	2	理492	理科教育特殊講義Ⅱ		2
理534		化学演習ⅡB	2	理301	理科教材研究		2
理431		化学特殊講義Ⅰ	2	理302	理科実践研究		2
理432		化学特殊講義Ⅱ	2				
生物学	理151	生物学Ⅰ	2	共通	理200	自然科学概論	2
	理252	生物学Ⅱ	2		理300	自然科学	2
	理256	生物学Ⅲ	2		理201	理科野外実習	1
	理355	生物学Ⅳ	2		理400	課題研究Ⅰ	2
	理153	生物学実験Ⅰ	2		理401	課題研究Ⅱ	2
	理254	生物学実験Ⅱ	1				
	理258	生物学実験Ⅲ	2				
	理357	生物学実験Ⅳ	2				
	理551	生物学演習ⅠA	2				
	理552	生物学演習ⅠB	2				
	理553	生物学演習ⅡA	2				
	理554	生物学演習ⅡB	2				
	理451	生物学特殊講義Ⅰ	2				
	理452	生物学特殊講義Ⅱ	2				

⑥ 音楽教育専修

分野	科目番号	授業科目	単位	分野	科目番号	授業科目	単位	
器 楽	音151	ピアノⅠA	1	声 楽	音111	合唱ⅠA	1	
	音152	ピアノⅠB	1		音112	合唱ⅠB	1	
	音251	ピアノⅡA	1		音211	合唱ⅡA	1	
	音252	ピアノⅡB	1		音212	合唱ⅡB	1	
	音351	ピアノ特講Ⅰ	2		音311	合唱ⅢA	1	
	音352	ピアノ特講Ⅱ	2		音312	合唱ⅢB	1	
	音353	伴奏法	1		音553	伝統音楽演習Ⅰ	1	
	音155	管・弦・打ⅠA	1		音楽理論・ 音楽史・ 作曲・ 指揮	音131	ソルフェージュA	1
	音156	管・弦・打ⅠB	1			音132	ソルフェージュB	1
	音255	管・弦・打ⅡA	1			音245	音楽理論基礎	2
	音256	管・弦・打ⅡB	1	音246		音楽理論応用	2	
	音357	管・弦・打特講Ⅰ	2	音345		音楽理論演習Ⅰ	2	
	音358	管・弦・打特講Ⅱ	2	音346		音楽理論演習Ⅱ	2	
	音221	合奏ⅠA	1	音334		音楽史概論	2	
	音222	合奏ⅠB	1	音335		音楽史各論	2	
	音321	合奏ⅡA	1	音381		作曲特講Ⅰ	2	
	音322	合奏ⅡB	1	音382		作曲特講Ⅱ	2	
	音421	合奏ⅢA	1	音411	指揮法A	1		
	音422	合奏ⅢB	1	音412	指揮法B	1		
	音461	アンサンブルⅠA	1	音 楽 科 教 育	音365	音楽科教育法(小・中)	2	
音462	アンサンブルⅠB	1	音371		音楽科教育法A(中・高)	2		
音463	アンサンブルⅡA	1	音372		音楽科教育法B(中・高)	2		
音464	アンサンブルⅡB	1	音373		音楽科教育法C(中・高)	2		
音465	アンサンブルⅢA	1						
音466	アンサンブルⅢB	1						
音467	アンサンブルⅣA	1						
音468	アンサンブルⅣB	1						
音121	ギターⅠ	1	分 野 外	音100	スタートアップ音楽	2		
音122	ギターⅡ	1		音161	音楽	2		
音554	伝統音楽演習Ⅱ	1		音271	音楽科教材研究	2		
				音375	音楽科実践研究	1		
				音360	音楽科教育演習Ⅰ	2		
				音361	音楽科教育演習Ⅱ	2		
				音471	卒業研究Ⅰ	2		
				音472	卒業研究Ⅱ	2		
声 楽	音153	声楽ⅠA		1				
	音154	声楽ⅠB		1				
	音253	声楽ⅡA	1					
	音254	声楽ⅡB	1					
	音354	声楽特講Ⅰ	2					
	音355	声楽特講Ⅱ	2					

⑦ 美術教育専修

分野	科目番号	授業科目	単位	分野	科目番号	授業科目	単位	
絵 画	美111	絵画基礎	2	美術理論・美術史	美142	美術理論・美術史基礎	2	
	美112	絵画A	2		美241	美術理論・美術史A	2	
	美211	絵画B	2		美242	美術理論・美術史B	2	
	美212	絵画C	2		美341	美術理論・美術史C	2	
	美311	絵画D	2		美342	美術理論・美術史D	2	
	美115	版画 A	2		美285	美術理論各論 A	2	
彫 刻	美121	彫刻基礎	2		美術科教育	美251	図工科教育法(小・中)	2
	美112	彫刻A	2			美252	美術科教育法A(中・高)	2
	美221	彫刻B	2			美351	美術科教育法B(中・高)	2
	美222	彫刻C	2			美352	美術科教育法C(中・高)	2
	美321	彫刻D	2	美355		工芸科教育法A	2	
	美125	パブリックアート A	2	美356		工芸科教育法B	2	
	美126	パブリックアート B	2	美357		図工・美術教材研究	2	
デ ザ イ ン	美131	デザイン基礎	2	共通 又は 分野 外		美 100	スタートアップ美術	1
	美132	デザインA	2			美202	小専美術	2
	美231	デザインB	2			美291	現代美術演習 A	2
	美232	デザインC	2		美292	現代美術演習 B	2	
	美331	デザインD	2		美381	美術・工芸特別講義 A	2	
	美135	映像メディア表現 A	2		美382	美術・工芸特別講義 B	2	
	美136	映像メディア表現 B	2		美391	美術・工芸特別演習 A	2	
	美185	図法及び製図	2		美392	美術・工芸特別演習 B	2	
美235	デザイン理論	2	美395		卒研基礎 1組	2		
工 芸	美151	工芸基礎	2		美396	卒研基礎 2組	2	
	美162	陶芸A	2	美397	卒研基礎 3組	2		
	美261	陶芸B	2	美398	卒研基礎 4組	2		
	美232	陶芸C	2	美399	卒研基礎 5組	2		
	美361	陶芸D	2	美400	卒業研究	4		
	美172	織染A	2					
	美271	織染B	2					
	美272	織染C	2					
	美371	織染D	2					
	美265	工芸理論	2					

⑧ 保健体育専修

分野	科目番号	授業科目	単位	分野	科目番号	授業科目	単位
体育学	体222	体育原理	2	保健体育教育	体161	体育	2
	体223	体育経営管理学	2		体361	初等体育科教育法	2
	体321	体育心理学	2		体366	保健体育科教育法A	2
	体322	体育社会学	2		体367	保健体育科教育法B	2
	体122	体育史	2		体368	保健体育科教育法C	2
	体325	メンタルマネジメント	2		体369	保健体育科教育法D	2
運動学	体221	運動学	2	分野外	体334	保健体育ゼミナール	2
	体131	生理学・運動生理学	2		体218	保健体育教材研究	2
	体340	運動生理学実験・演習	2		体219	保険体育実践研究	2
	体323	トレーニング論	2		体235	スポーツ情報処理演習	2
	体324	トレーニング論演習	2		体461	卒業論文 I	2
	体318	スポーツ指導論	2		体462	卒業論文 II	2
	体113	陸上競技演習	2				
	体111	器械運動演習	2				
	体112	水泳演習	2				
	体311	柔道	1				
	体312	剣道	1				
	体411	空手	1				
	体213	体操	1				
	体211	舞踊	1				
	体212	バスケットボール	1				
	体214	バレーボール	1				
	体114	サッカー	1				
	体314	ハンドボール	1				
	体413	バドミントン	1				
	体412	テニス	1				
体115	野外教育演習	2					
体313	琉球舞踊	1					
体216	卓球	1					
体217	ソフトボール	1					
学校保健	体251	学校保健	2				
	体241	衛生学・公衆衛生学	2				
	体234	スポーツ・健康管理概論	2				

⑨ 技術教育専修

分野	科目番号	授業科目	単位	分野	科目番号	授業科目	単位				
木材加工	技111	基礎製図	1	情報とコンピュータ	技261	情報技術及び実習Ⅰ	2				
	技211	木材加工基礎	2		技262	知能情報処理実習Ⅰ	1				
	技212	木材加工及び実習	2		技361	情報技術及び実習Ⅱ	2				
	技311	木材材料学	2		技362	知能情報処理実習Ⅱ	1				
	技312	木材加工機械学	2		技461	情報技術及び実習Ⅲ	2				
金属加工	技221	金属加工及び実習Ⅰ	2		技術科教育	技462	知能情報処理実習Ⅲ	1			
	技321	金属材料	2			技271	技術科教育法A	2			
機械	技231	機械基礎及び実習	2			技371	技術科教育法B	2			
	技331	機械力学Ⅰ	2			技372	技術科教育法C	2			
	技332	機械力学Ⅱ	2			技471	技術科教育法D	2			
	技333	機械工作実習Ⅰ	1	技373		技術教育教材研究	2				
	技431	機械総合実習Ⅰ	1	技374		技術教育実践研究	2				
電気	技241	電気磁気・電気回路学及び実習	2	分野外		技375	技術教育特別講義	2			
						技341	電子回路・機器制御及び実習	2	技472	工業科教育法A	2
						技342	電子応用回路Ⅰ	2	技473	工業科教育法B	2
					技343	制御工学	2	技181	ものづくり概論	2	
					技441	電気エネルギー変換工学実習	1	技491	卒業研究Ⅰ	2	
					技442	電気電子教材開発実習	1	技492	卒業研究Ⅱ	2	
					技443	電子応用回路Ⅱ	2				
	栽培	技151	栽培学及び実習		1						

⑩ 生活科学教育専修

分野	科目番号	授業科目	単位	分野	科目番号	授業科目	単位			
生活経営学	家131	生活経営学	2	家庭科教育	家290	家庭	2			
	家237	消費生活と環境	2		家291	家庭科教育法A(中・高)	2			
	家330	生活経営学実習	1		家390	家庭科教育法B(中・高)	2			
衣生活学	家100 家205 家300 家301 家492	衣生活学 被服構成実習Ⅰ 被服構成実習Ⅱ 服飾デザイン 衣生活学特講	2 1 1 2 2		家391	家庭科教育法C(中・高)	2			
					家392	家庭科教育法(小・中)	2			
					家394	家庭科教育教材研究Ⅰ	2			
					家395	家庭科教育教材研究Ⅱ	2			
					家396	家庭科教育教材研究Ⅲ	2			
食生活学	家180 家181 家281 家381 家385 家497	食物学Ⅰ 食物学Ⅱ 調理学実習Ⅰ 調理学実習Ⅱ 食事文化論 調理学特講	2 2 1 1 2 2		家398	家庭科教育実践研究Ⅰ	2			
					家399	家庭科教育実践研究Ⅱ	2			
				分野外	家190 家377 家378 家498 家499	五感を育む体験活動 生活科学演習Ⅰ 生活科学演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2 1 1 2 2	家190	五感を育む体験活動	2
								家377	生活科学演習Ⅰ	1
								家378	生活科学演習Ⅱ	1
								家498	卒業研究Ⅰ	2
家499	卒業研究Ⅱ	2								
住生活学	家110 家210 家211 家496	住生活学Ⅰ 住生活学Ⅱ 住生活学実習 住生活学特講	2 2 1 2	分野外	家190 家377 家378 家498 家499	五感を育む体験活動 生活科学演習Ⅰ 生活科学演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2 1 1 2 2			
								家110	住生活学Ⅰ	2
								家210	住生活学Ⅱ	2
								家211	住生活学実習	1
保育学	家220	保育学	2	分野外	家190 家377 家378 家498 家499	五感を育む体験活動 生活科学演習Ⅰ 生活科学演習Ⅱ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	2 1 1 2 2			

⑪ 英語教育専修

分野	科目番号	授業科目	単位	分野	科目番号	授業科目	単位
英語科教育	英教291	英語科教育法A	2	英語コミュニケーション	英教111	リーディング	2
	英教391	英語科教育法B	2		英教221	ライティング	2
	英教392	英語科教育法C	2		英教231	オーラルコミュニケーション	2
	英教393	英語科教育法D	2		英教256	メディアの英語	2
	英教396	英語評価法演習	2		英教311	アカデミックプレゼンテーション	2
	英教304	英語科教材研究	2		英教321	英語スピーチ	2
	英教305	英語科実践研究	2		英教322	英語ディベート	2
英語学	英教121	英文法演習	2	異文化理解	英教201	異文化理解	2
	英教171	英語研究 I	2		英教383	英語の異文化間コミュニケーション	2
	英教271	英語研究 II	2		英教384	コミュニケーションと文化	2
	英教272	英語研究 III	2		英教385	談話とコミュニケーション	2
	英教375	英語の意味解釈	2		英教386	英語コミュニケーションの多様性	2
	英教377	英語の音声構造	2		英教473	英語圏の言語政策と言語権	2
	英教379	英語の文構造	2		英教474	日英語比較研究	2
	英教394	英語学習論 I	2		分野外	英教101	基礎演習
英教395	英語学習論 II	2	英教102	異文化実地研修A		2	
英米文学	英教129	英米文化概論 I	2	英教103		異文化実地研修B	2
	英教243	英米文化概論 II	2	英教389		小学校英語演習 I	2
	英教244	英米文化概論 III	2	英教390		小学校英語演習 II	2
	英教360	英米文化研究 I	2	英教493		特定言語研究	2
	英教361	英米文化研究 II	2	英教500		卒業研究 I	2
	英教362	英米文化研究 III	2	英教503		卒業研究 II	2
	英教363	英米文化研究 IV	2	英教601	外国語	2	
	英教364	英米文化研究 V	2	英教602	初等外国語教育法	2	

⑫ 特別支援教育専修

分野	科目番号	授業科目	単位	分野	科目番号	授業科目	単位
障害児教育・指導法	特支103	特別支援教育概説	2	共通	教共452	特別支援学校教育実践研究	1
	特支201	知的障害者教育	2		教共453	特別支援学校教育実習	3
	特支301	肢体不自由者教育	2		特支403	卒業研究Ⅰ	2
	特支302	病弱者教育	2		特支404	卒業研究Ⅱ	2
	特支211	発達障害者教育	1		特支131	ダイバーシティ教育実践研究ⅠA	1
	特支313	視覚障害者教育	1		特支132	ダイバーシティ教育実践研究ⅠB	1
	特支314-1	聴覚障害者教育A	1		特支231	ダイバーシティ教育実践研究ⅡA	1
	特支317	重複障害者教育	1		特支232	ダイバーシティ教育実践研究ⅡB	1
	特支121	インクルーシブ教育指導法Ⅰ(特支)	2		特支331	ダイバーシティ教育実践研究ⅢA	1
	特支221	インクルーシブ教育指導法Ⅱ(特支)	2		特支332	ダイバーシティ教育実践研究ⅢB	1
	特支321	インクルーシブ教育指導法Ⅲ(特支)	2		教共180	インクルーシブ教育指導法Ⅰ	2
障害児心理・生理・病理	特支312	肢体不自由者の心理・生理・病理	2	教共280	インクルーシブ教育指導法Ⅱ	2	
	特支303	病弱者の心理・生理・病理	2	教共380	インクルーシブ教育指導法Ⅲ	2	
	特支203	知的障害者の心理・生理・病理	2	特支207	インクルーシブ教育フィールドワーク	1	
	特支316	特別支援教育の心理・生理・病理概説	2	教職502	特別の支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援	1	
				全教502	特別の支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援	1	

2. 履修基準表

該当ページ			P6~7	P31~32	P33~34	P35	P36~37	P38	P41~76(各専修別に記載)				
専修	科目		共通教育等 (注6) (注7)	学部共通		コース共通			専修専門 (専攻共通含む)		自由科目 (注4)	卒業研究	卒業要件 (注7) (注8)
				教育の総合的理解 (注1)	現代的・地域的教育課題に関する科目 (注5)	小学校教科	各教科の指導法	教職実践に関する科目 (注2)	必修	選択			
小学校教育コース	学校教育専攻	教育実践学専修	20	21	5	20	20	10	15	9	0	4	124
		子ども教育開発専修	20	21	5	20	20	11	14	9	0	4	124
	教科教育専攻	国語教育専修	20	21	5	14	20	10	22	8	0	4	124
		社会科教育専修	20	21	7	14	20	10	10	12	6	4	124
		数学教育専修	22	21	5	14	20	10	10	9	9	4	124
		理科教育専修	20	21	5	14	20	10	16	10	4	4	124
		音楽教育専修	20	21	5	14	20	10	19	11	0	4	124
		美術教育専修	20	21	5	14	22	10	11	12	5	4	124
		保健体育専修	20	21	5	14	20	10	22	6	2	4	124
		技術教育専修	20	21	5	14	20	10	16	4	10	4	124
		生活科学教育専修	20	21	5	14	20	10	16	6	8	4	124
		英語教育専修	20	21	5	14	20	10	17	13	0	4	124
中学校教育コース	教科教育専攻	国語教育専修	20	21	5	—	8	10	20	22	14	4	124
		社会科教育専修	20	21	7	—	8	10	26	12	16	4	124
		数学教育専修	22	21	5	—	8	10	22	6	26	4	124
		理科教育専修	20	21	5	—	8	10	20	28	8	4	124
		音楽教育専修	20	21	5	—	8	10	27	12	17	4	124
		美術教育専修	20	21	5	—	8	10	11	22	23	4	124
		保健体育専修	20	21	5	—	8	10	27	11	18	4	124
		技術教育専修	20	21	5	—	8	10	20	22	14	4	124
		生活科学教育専修	20	21	5	—	8	10	20	12	24	4	124
		英語教育専修	20	21	5	—	8	10	27	25	4	4	124
特別支援教育コース	特別支援教育専攻(注3)	特別支援教育専修(小)	20	21	5	10	20	** 9	28	7	0	4	124
		特別支援教育専修(中)	20	21	5	—	8	** 9	28	* 29	0	4	124

(注1)教育の総合的理解(21) = 教育の基礎的理解に関する科目(10) + 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目(11)

(注2)教職実践に関する科目(10) = 教職体験Ⅰ(1) + 教職体験Ⅱ(1) + 介護等体験指導(1) + 学校教育実践研究(1) + 教育実習(4) + 教職実践演習(2)

※子ども教育開発専修においては、教職体験Ⅱの代わりに、子ども学フィールドワーク(2)を履修し、教育実践に関する科目を11単位履修すること。

※特別支援教育専修においては、教職体験Ⅱの代わりに、インクルーシブ教育フィールドワーク(1)を履修すること。

※教職実践演習の一部クラスでは、教職実践研究(自由科目)の履修を前提としているので、注意すること。

(注3)特別支援教育専攻中学校選修の*は、特別支援教育専修の提供する選択科目の他に、1教科の中学校一種免許状取得に必要な『教科に関する専門的事項』の科目20単位以上を含むこと。

**は、介護等体験指導(1)を省く。

(注4)自由科目は、共通教育等科目又は専門教育科目から履修することができる。

(注5)現代的・地域的教育課題に関する科目においては、「地域志向教育科目」を1科目以上履修すること。

(注6)共通教育等科目のうち健康運動系科目の「運動・スポーツ科学演習」については、1種目のみ履修可能(複数種目の履修は不可)。

(注7)共通教育等科目の単位数は、共通教育等科目の外国語において『1つの外国語』を選択した場合の必要な単位数が記載されている。外国語において『2つの外国語』を選択した場合、共通教育等科目の必要な単位数は2単位加算されるので注意すること。また、結果として、卒業要件の単位数も2単位加算されるので、併せて注意すること。

※共通教育等科目の必修科目や履修方法の詳細はP6~7を参照して下さい。

(注8)入学前又は在学中に他大学や大学以外の施設等で修得し本学の科目として認定された単位、及び本学の遠隔授業にて修得した単位についてはそれぞれ60単位を上限として卒業単位に含めることができる。

3. 教育学部共通科目の履修方法

(1) 教育の総合的理解

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		必修選択の別		単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
科目	各科目に含める必要事項	科目番号	科目名	学校教育							
				小コース	中コース						
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職111	教職入門	必	必	2	2-0	1前		教職の意義、教員の役割、職務内容、活動についての概説	幼小中高
		教職311	教職セミナー	自	自	2	2-0	3~4	前・後	学校教育課題について考察する	
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教職121	教育原理※1	必	必	2	2-0	1後~2前		教育の理念、歴史、思想の概説を行う	幼小中高 教職入門を履修済みのこと
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教職221	教育心理学	必	必	2	2-0	2前・3前		健全児及び障害児の発達、学習、評価、適応等の教育心理	幼小中高
		教職201	児童心理学※2	自	自	2	2-0	2~3	後	健全児及び障害児の児童期における発達過程、性格形成等の諸問題の概説	子発は選択
		教職203	学習心理学	自	自	2	2-0	2~3	後	健全児及び障害児の学習過程、学習に関する理論及び学習指導の問題点	子発は選択
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	教職502	特別の支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援	必	必	1	1-0	1後		特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の個別の教育的ニーズに対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。	幼小中高
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教職213	学校社会学	選必	選必	2	2-0	3	前	学校教育の実践・制度の現実を社会学の視点から考察する	幼小中高 1科目選択必修
		教職324	教育社会学	選必	選必	2	2-0	3	前・後	教育実践や教育問題の具体的事例を社会学の視点から考察する	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教職231	教育課程(教諭)	必	必	1	1-0	2	前	教育課程に関する理論と実践	小中高
教職351		幼稚園教育課程の編成方法	自	自	1	1-0	2~3	前又は後	幼稚園教育課程の意義及び編成方法	幼 必修 子発は選択	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術	教職232	教育方法(教諭)	必	必	1	1-0	2	前	教育の内容・方法に関する理論と実践	小中高
		教職237	学級経営実践(教諭)	自	自	2	2-0	2~4	後	子ども理解の視点からの学級経営の理論と具体的実践方法を演習を交えながら検討する	小中高
		教職321	複式学級授業論	自	自	2	2-0	3~4	後	複式学級での授業展開指導のあり方や内容論	小
		教職134	授業技術	自	自	2	2-0	1~4	前	教師として授業を担当するときに必要な技能や知識を講述する	幼小
		教職352	幼児の教育方法	自	自	1	1-0	2~3	前又は後	幼児の教育及び方法の理論と実践	幼 必修 子発は選択

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		必修選択の別		単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
科目	各科目に含める必要事項	科目番号	科目名	学校教育							
				小コース	中コース						
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教職131	教育におけるICT活用	必	必	1	1-0	1後		教育現場におけるICT(情報通信技術)の役割について理解する。	小中高
	道徳の理論及び指導法	教職233	道徳教育の理論と実践A(教諭)	選必	選必	2	2-0	2後～3前		学校道徳教育に関する研究	小中 1科目選択必修
		教職234	道徳教育の理論と実践B(教諭)	選必	選必	2	2-0	3	前	教育心理学的にみた道徳性の概念と発達過程の概説	
	特別活動の指導法	教職235	特別活動論(教諭)	必	必	2	2-0	2前～3前		小、中学校特別活動に関する研究	小中高
	総合的な学習の時間の指導法	教職501	総合的な学習の時間の授業づくり	必	必	1	1-0	2	後	総合的な学習の時間の意義や課題および実践事例の分析をふまえた模擬授業づくり	小中高
	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	教職241	生徒指導論(進路指導含む)(教諭)	必	必	2	2-0	2	前・後	学校における生活指導の研究	小中高
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教職242	教育相談(教諭) ※2	選必	選必	2	2-0	2後～3前		児童・生徒の不応問題に関して事例を通じた相談方法の修得と進路指導の概説	幼小中高 1科目選択必修
		教職243	学校カウンセリング(教諭) ※2	選必	選必	2	2-0	2後～3前		カウンセリングの理論と技術についての概説、児童・生徒の不応問題を中心として	
・幼児理解の理論及び方法	教職332	幼児理解	自	自	2	2-0	3	前	乳幼児における発達過程性格形成等の諸問題の概説	幼 必修 子発は選択	

注:前提科目

※1. 教育原理

「教職入門」を履修済みであること。

※2. 児童心理学・教育相談(教諭)・学校カウンセリング(教諭)

共通教育科目の「心の科学」、「人間関係論」又は専門教育科目の「教育心理学」を履修済みであること。

(2) 現代的・地域的教育課題に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目		必修 選択 の別	単 位 数	週時間	受講 年次	学期	授 業 内 容	備 考
	科目番号	科 目 名							
大学が独自に設定 する科目	教共113	新聞活用実践講座	選必	2	2-0	1~4	前	学校教育現場に新聞を活用するNIEの取り組みや新聞の特長、役割を学び、情報活用能力を養う。併せて、ワークショップ形式で、子どもたちの言語活動の充実や思考力、判断力、表現力等を培う新聞の可能性や活用法を学ぶ	
	教共215	離島・へき地教育概論	選必	2	2-0	2~4	前	離島・へき地の学校教育の現状と課題を概観する	
	教共216	子どもと多言語・多文化教育	選必	2	2-0	2~3	前	学校教育における外国人および日本語指導が必要な児童生徒の現状と課題、その指導方法について学ぶ。	
	教共120	環境科学概論	選必	2	2-0	1~4	後	身近な自然環境について、科学的視点から概説する。	
	教共121	琉球・沖縄史を学びあう	選必	2	2-0	1~4	前	琉球・沖縄史を巡る諸問題について学びあう。	※社会科教育専修は必修科目
	教共123	沖縄の環境と社会	選必	2	2-0	1~4	後	沖縄の環境問題と沖縄社会との関連について、哲学、社会学、政治学、地理学等の視角から考察する方法を学ぶ。	
	教共119	沖縄生活文化論	選必	2	2-0	1~4	後	沖縄の生活文化について、食生活を中心にその現状を踏まえながら、生活課題について考察する	
	英教389	小学校英語演習 I	選必	2	2-0	3~4	前	外国語活動及び教科外国語を担当する際に必要となる基本的な指導法や指導技術について学ぶ	※教育実践学専修は専修専門必修単位、小コース英語教育専修は専修専門選択単位
	技181	ものづくり概論	選必	2	2-0	1~2	後	普通教育におけるものづくり教育の役割とその理論的背景、具体的な授業実践例等を紹介するとともに、製作活動を通して、ものづくり活動の教育的有用性を検証していく	
	教共122	平和教育学概論	選必	2	2-0	1~4	後	沖縄戦、軍事基地を巡る諸問題について概観し、平和教育の目標・方法について考察する	
※地域志向教育科目の7科目から1科目以上選択	教共601	小学校プログラミング教育概論 I	選必	1	1-0	2~4	前・後	プログラミングに関する基礎的な技能を身につけるとともに、児童にプログラミング的思考を育む実践的な授業を考案できるようになる	
	教共602	小学校プログラミング教育概論 II	選必	1	1-0	2~4	前・後	Iを受講済の学生が指導補助者として参加することにより、児童にプログラミング的思考を育む実践的な授業力を伸ばす	Iを受講済みであること。

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目		必修 選択 の別	単 位 数	週時間	受講 年次	学期	授 業 内 容	備 考
	科目番号	科 目 名							
	教共603	ICT活用実践講座	選必	1	1-0	2~4	前又は後	GIGAスクール構想で想定されている「学校現場における一人一台端末環境」についてその目的や理念を学び、実践活動を通して「児童・生徒の学習の基盤となる情報活用能力」の育成手法を学修する	「教育におけるICT活用」を受講済みであること。
	教共125	生徒指導特講	選必	1	1-0	2~3	後	沖縄県の学校における子どもの現状についての事例報告を通して、生徒指導の実際のあり方について理解を深める	「生徒指導論」を履修済み又は履修中であること
	教共126	学級経営特講	選必	1	1-0	2~3	後	学級経営を考えるうえで必要となる理論的な知識を獲得し、学級経営について理解を深める	「特別活動論」を履修済み又は履修中であること
	教共180	インクルーシブ教育指導法Ⅰ	選必	2	0-2	1	通年	通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒(肢体不自由者)の指導法に関する講義	特別支援教育専修以外の学生対象
	教共280	インクルーシブ教育指導法Ⅱ	選必	2	0-2	2	通年	通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒(病弱者)の指導法に関する講義	特別支援教育専修以外の学生対象 Ⅰを履修済であること。
	教共380	インクルーシブ教育指導法Ⅲ	選必	2	0-2	3	通年	通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒(知的障害者)の指導法に関する講義	特別支援教育専修以外の学生対象 Ⅰ・Ⅱを履修済であること。
	教共117	障がい者の教育実践と地域発達支援Ⅰ	選必	2	0-2	1~4	前	附属センターのトータル支援教室において地域の障がい児と関わったり、地域の小学校、中学校、幼稚園の特別支援学級や特別支援学校等での教育実践や子どもたちへの地域発達支援活動に参加することで障害児の理解と実践力を高める	
	教共118	障がい者の教育実践と地域発達支援Ⅱ	選必	2	0-2	1~4	後	附属センターのトータル支援教室において地域の障がい児と関わったり、地域の小学校、中学校、幼稚園の特別支援学級や特別支援学校等での教育実践や子どもたちへの地域発達支援活動に参加することで障害児の理解と実践力を高める	

(3) 小学校教科

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目		必修選択の別		単位	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容	備 考
	科目番号	授 業 科 目	小 コース	中 コース						
国 語 (書写を含む。)	国401	国語概説	選必	自	2	2-0	1	前・後	小学校国語の全領域について基本的事項を概説する。書写を含む。	理科教育専修をのぞく 理科教育専修対象
社 会	社290	社会科要説	選必	自	2	2-0	1~3	前・後	社会科の基礎的内容について概説する	
算 数	教数201	数学概論	選必	自	2	2-0	1~3	前・後	算数・数学における基本的内容について概説する	
理 科	理200	自然科学概論	選必	自	2	2-0	1~3	前・後	小学校理科を教える上で必要な自然科学的な知識や考え方を解説する	
	理300	自然科学	選必	自	2	2-0	1~3	前	自然科学の研究方法、基礎的内容についての講義	
生 活	教共306	生活科教育概論	選必	自	2	2-0	1~2	前・後	小学校生活科の一般的包括的内容と生活科カリキュラム創造の基礎を概説する	
音 楽	音161	音楽	選必	自	2	1-2	1	前・後	音楽基礎理論、鍵盤楽器による弾き歌い及びリコーダーに関する基礎的演習	
図 画 工 作	美202	小専美術	選必	自	2	2-0	1~3	前・後	図画工作のための美術の基礎的演習	
体 育	体161	体育	選必	自	2	2-0	1~2	前・後	体育の基礎技術 前期は水泳、後期は器械又は陸上運動	
家 庭	家290	家庭	選必	自	2	2-0	1~2	前・後	小学校「家庭」各領域の理論と実践を行う	
外 国 語	英教601	外国語	選必	自	2	2-0	1~3	前・後	小学校外国語(英語)に関する基礎的な知識・技能を身につける。	

※小学校教育コースにおける履修単位は、専攻ごとに以下のとおりとする。

- ・学校教育専攻は、全ての科目区分(教科)、計20単位を履修すること。
- ・教科教育専攻は、7以上の各科目区分(教科)、計14単位以上(ただし、音楽を含む)を履修すること。
- ・特別支援教育専攻は、5以上の各科目区分(教科)、計10単位以上を履修すること。

(4) 各教科の指導法

- ・小学校教育コースは、「各教科の指導法」(小学校)について履修すること。
- ・中学校教育コースは、当該専修の「各教科の指導法」(中学校)について履修すること。

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目		必修選択の別		単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
	科目番号	科目名	小コース	中コース						
・各教科の指導法 (小学校)	国402	初等国語科教育法	必	自	2	2-0	2~3	前・後	小学校を中心に、中学校との接続を見通した教科「国語」の目標、内容、方法等についての基礎的講義	
	社390	初等社会科教育法	必	自	2	2-0	2~3	前・後	小学校社会科教育の目標、内容、方法等に関する具体的講述	
	教数355	初等算数科教育法	必	自	2	2-0	2~3	前・後	小学校算数科教育の目標、内容、方法等に関する具体的講述	
	理390	初等理科教育法	必	自	2	2-0	2~3	前・後	小学校理科教育の目標、内容、方法等に関する具体的講述	理科教育専修・中コースは選択
	教共302	初等生活科教育法	必	自	2	2-0	2~3	前・後	小学校生活科教育の目標、内容、方法研究の成果に基づいた具体的な授業実践の検証を通して生活科の在り方について学ぶ	
	音365	音楽科教育法(小・中)	必	自	2	2-0	2~3	前・後	小学校及び中学校音楽科教育の目標、内容、方法等に関する具体的講述と実践	音楽教育専修・中コースは必修
	美251	図工科教育法(小・中)	必	自	2	2-0	2~3	前・後	図工科教育及び美術科教育の目標、内容、方法等についての具体的講述と実践	美術教育専修・中コースは必修
	体361	初等体育科教育法	必	自	2	1-2	2~3	前・後	小学校体育科教育の目標、内容、方法等に関する具体的講述	体育教育専修・中コースは選択
	家392	家庭科教育法(小・中)	必	自	2	2-0	2~3	前・後	小学校及び中学校家庭科教育の目標、内容、方法等に関する具体的講述と実践	生活科学教育専修・中コースは必修
英教602	初等外国語教育法	必	自	2	2-0	2~3	前・後	小学校外国語教育の目標、内容、方法等に関する具体的講述と実践	英語教育専修・中コースは選択	
・各教科の指導法 (中学校)	国403	国語科教育法A	自	必	2	2-0	2~3	前又は後	学習指導要領を踏まえた授業構想を学ぶ	国語教育専修
	国404	国語科教育法B	自	必	2	2-0	2~3	前又は後	具体的実践例をもとに授業を構想する	
	国405	国語科教育法C	自	必	2	2-0	2~3	前又は後	模擬授業と省察を繰り返し体験的に学ぶ	
	国407	国語教育論Ⅱ	必	必	2	2-0	2~3	前又は後	模擬授業と省察を繰り返し体験的に学ぶ	
	社393	社会科教育法Ⅰ	自	必	2	2-0	2	前	社会科教育(公民系)の目標、内容、方法等に関する指導	社会科教育専修
	社394	社会科教育法Ⅱ	自	必	2	2-0	2	後	社会科教育(公民系)の内容とその展開の研究	
	社400	社会科教育法Ⅲ	自	必	2	2-0	2	後	社会科教育(地理歴史系)の目標、内容、方法等に関する指導	
	社401	社会科教育法Ⅳ	自	必	2	2-0	3	前	社会科教育(地理歴史系)の内容とその展開の研究	
	教数353	数学科教育法A	自	必	2	2-0	2	後	数学教育の目的、内容、方法、歴史等に関する概説	数学教育専修
	教数354	数学科教育法B	自	必	2	2-0	3	前	数学教育の内容、教材、方法に関する具体的講述	
	教数356	数学科教育法C	自	必	2	2-0	3	前	数学教育の教材、方法、授業に関する実践的講述	
	教数351	数学科教育法D	自	必	2	2-0	3	後	数学教育の目的、内容、方法等の特定領域に関する考究	
	理391	理科教育法A	選	必	2	2-0	3	前	中・高理科教育の目標、内容、方法等に関する総論	理科教育専修
	理392	理科教育法B	選	必	2	2-0	3	前又は後	中・高理科教育の教材の活用法や学習評価等に関する概説及び模擬授業の実施とその振り返り	
	理393	理科教育法C	選	必	2	2-0	3	前又は後	物理的・地学的内容を中心とした中・高理科教育の教材の効果的な活用法等について	
	理495	理科教育法D	選	必	2	2-0	3	前又は後	生物的・化学的内容を中心とした中・高理科教育の教材の効果的な活用法等について	

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目		必修選択の別		単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
	科目番号	科目名	小コース	中コース						
・各教科の指導法 (中学校)	音365	音楽科教育法(小・中)	必	必	2	2-0	2~3	前・後	小学校及び中学校音楽科教育の目標、内容、方法等に関する具体的講述と実践	音楽教育専修
	音371	音楽科教育法A(中・高)	選	必	2	2-0	2	後	中学校及び高等学校における音楽科教育の基礎理論	
	音372	音楽科教育法B(中・高)	選	必	2	2-0	3	前	中学校及び高等学校における音楽科教育の理論と実践の往還	
	音373	音楽科教育法C(中・高)	選	必	2	2-0	3	後	中学校及び高等学校における音楽科教育の発展演習	
美251	美251	図工科教育法(小・中)	必	必	2	2-0	2~3	前・後	図工科教育及び美術科教育の目標、内容、方法等についての具体的講述と実践	美術教育専修
	美252	美術科教育法A(中・高)	必	必	2	2-0	2	前	美術科教育についての基礎的理論及び授業研究	
	美351	美術科教育法B(中・高)	選	必	2	2-0	3	後	美術科教育の指導内容、指導方法等の研究	
	美352	美術科教育法C(中・高)	選	必	2	2-0	3	前	美術科教育の指導内容、指導方法等の研究	
体366	体366	保健体育科教育法A	選	必	2	2-0	2	後	保健体育科の目標、内容方法に関する指導	保健体育専修
	体367	保健体育科教育法B	選	必	2	2-0	3	前	保健体育科の目標、内容方法に関する指導	
	体368	保健体育科教育法C	選	必	2	2-0	3	前	保健体育科の目標、内容方法に関する指導	
	体369	保健体育科教育法D	選	必	2	2-0	3	後	保健体育科の目標、内容方法に関する指導	
技271	技271	技術科教育法A	自	必	2	2-0	2	後	技術科教育の目標、内容、指導法、授業観察、模擬授業など	技術教育専修
	技371	技術科教育法B	自	必	2	2-0	3	前	教材教具、学習指導案作成及び評価について	
	技372	技術科教育法C	自	必	2	2-0	3	後	実習室の管理運営、実習の安全、事故・災害事例とその対策について	
	技471	技術科教育法D	自	必	2	2-0	4	前	技術科教育の国内外の授業実践例について	
家392	家392	家庭科教育法(小・中)	必	必	2	2-0	2~3	前・後	小学校及び中学校家庭科教育の目標、内容、方法等に関する具体的講述と実践	生活科学教育専修
	家291	家庭科教育法A(中・高)	自	必	2	2-0	2	後	中学校技術・家庭科家庭分野各領域の内容の取扱いと授業研究	
	家390	家庭科教育法B(中・高)	自	必	2	2-0	3	前	高等学校家庭科の各領域の内容の取扱いと授業研究	
	家391	家庭科教育法C(中・高)	自	必	2	2-0	3	後	中・高校家庭科の教育基礎理論	
英教291	英教291	英語科教育法A	選	必	2	2-0	2	後	英語科教育の理論と実践を学ぶ	英語教育専修
	英教391	英語科教育法B	選	必	2	2-0	3	前	英語科教育の理論と実践を学ぶ	
	英教392	英語科教育法C	選	必	2	2-0	3	後	英語科教育の理論と実践を学ぶ	
	英教393	英語科教育法D	選	必	2	2-0	4	前	英語科教育の理論と実践を学ぶ	

(5) 教職実践に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目		必修選択の別		単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考	
	科目	科目番号	科目名	学校教育							
				小コース							中コース
教育実習	教職151	介護等体験指導	選必	選必	1	0-2	1	後	介護等体験のための事前指導	1科目必修 (※特別支援教育専攻は除く)	
	教共151	介護等体験指導	選必	選必	1	0-2	1	後	介護等体験のための事前指導		
	教職161	教職体験Ⅰ(小)	必	自	1	0-2	1	後	主として附属小学校での実習参加型観察することを目的とする		
	教職162	教職体験Ⅰ	自	必	1	0-2	1	後	主として附属中学校での実習参加型観察することを目的とする		
	教職261	教職体験Ⅱ(小)	必	自	1	0-2	2	前	公立小学校等での実習参加型観察することを目的とする		
	教職262	教職体験Ⅱ	自	必	1	0-2	2	前	公立中学校等での実習参加型観察することを目的とする		
	子215	子ども学フィールドワーク	必	自	2	0-2	2	前	多様な学びの文化を、特定の「場=フィールド」を通して考察し、同時代的・創造的な教育プログラムについて実践探求する		子ども教育開発必修
特支207	インクルーシブ教育フィールドワーク	必	必	1	0-2	2	後	公立幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校のいずれかでの、実習参加型観察することを目的とする	特別支援教育必修		
	教職360	学校教育実践研究(小)	必	自	1	0-2	3	通年	小学校教育実習のための事前事後指導	小学校教育コース	
	教職361	小学校教育実習A	必	—	4	3週間	3	前	附属小学校における教壇実践その他。「学校教育実践研究(小)」を同時履修のこと		
	教職461	小学校教育実習B	自	自	2	2週間	4	前・後	公立等小学校における教育実習		
	教職462	小学校教育実習C	自	自	4	4週間	4	前・後	公立等小学校における教育実習		
	教職481	幼稚園教育実習A	自	自	4	4週間	4	前・後	公立等幼稚園における教育実習		
	教職482	幼稚園教育実習B	自	自	2	2週間	4	前・後	公立等幼稚園における教育実習		
	教職370	学校教育実践研究	自	必	1	0-2	3	通年	中学校教育実習のための事前事後指導		中学校教育コース
教職371	中学校教育実習A	—	必	4	4週間	3	前	附属中学校における教壇実践その他。「学校教育実践研究」を同時履修のこと			
教職471	中学校教育実習B	自	自	2	2週間	4	前・後	公立等中学校における教育実習			
教職472	中学校教育実習C	自	自	4	3週間	4	前・後	公立等中学校における教育実習			
教職473	高等学校教育実習	自	自	2	2週間	4	前・後	公立等高等学校における教育実習			
教職実践演習	教共401	教職実践研究	自	自	1	0-1	4	前・後	教職実践演習へ向けての予備的授業	教職実践演習クラスによっては登録条件科目	
	教職491	教職実践演習	必	必	2	0-2	4	前・後	教員として必要な最小限の資質能力を形成し、確認しあう。		登録前提科目を全て履修済であること
	教共354	離島・へき地校体験実習	自	自	2	0-4	3~4	前又は後	一定期間滞在しながら離島・へき地学校における現場体験をとうして教育課題を考える		

※教育実習の登録条件及び教職実践演習の登録条件(次ページ参照)

教育実習の登録条件(令和5年度入学生より)

●教育学部 教育実習の登録条件(附属小学校・中学校実習)【主免用】

【登録条件】教育実習登録時に以下の(1)～(3)の条件を満たすことが必要となります。

(1)以下の科目を履修済みであること。(附属小・附属中共通)

- ①「教職入門」②「教育原理」③「介護等体験指導」④「教職体験Ⅰ(小)」又は「教職体験Ⅰ」 ⑦「教職体験Ⅱ(小)」又は「教職体験Ⅱ」(子ども教育開発専修の学生は「子ども学フィールドワーク」、特別支援教育専攻の学生は「インクルーシブ教育フィールドワーク」)

(2-1)以下の科目を履修済み又は同時履修中であること。(附属小)

- ⑤「特別の支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援」⑥「教育におけるICT活用」⑧「教育心理学」⑨「教育課程(教諭)」⑩「教育方法(教諭)」
⑪「生徒指導論(進路指導)(教諭)」⑫「特別活動論(教諭)」 ⑬「道徳教育の理論と実践A(教諭)又はB(教諭)」⑭「教育相談(教諭)」又は「学校カウンセリング(教諭)」
⑮「小学校教科」12単位以上(特別支援教育専攻は6単位以上)⑯「各教科の指導法」(小学校)8単位以上

(2-2)以下の科目を履修済み又は同時履修中であること。(附属中)

- ⑤「特別の支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援」⑥「情報通信技術を活用した教育の理論と方法の科目(仮称)」⑧「教育心理学」⑨「教育課程(教諭)」⑩「教育方法(教諭)」
⑪「生徒指導論(進路指導)(教諭)」⑫「特別活動論(教諭)」⑬「道徳教育の理論と実践A(教諭)又はB(教諭)」⑭「教育相談(教諭)」又は「学校カウンセリング(教諭)」
⑰「中学校教科」14単位以上⑱「各教科の指導法」(中学校)2単位以上

(3-1)以下の科目を同時履修すること。(附属小)

- ⑲「学校教育実践研究(小)」

(3-2)以下の科目を同時履修すること。(附属中)

- ⑳「学校教育実践研究」

上記条件 該当項目	科目名	受講年次	条件①		条件②	備考
			履修済み	同時履修		
附属小 共通	① 教職入門	1年前期	○			
	② 教育原理	1年後期～2年前期	○			
	③ 介護等体験指導	1年後期	○			※特別支援教育専攻は免除
	④ 教職体験Ⅰ(小)or教職体験Ⅰ	1年後期	○			
	⑤ 特別の支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援	1年後期	○	○		
	⑥ 教育におけるICT活用	1年後期	○	○		
	⑦ 教職体験Ⅱ(小)or教職体験Ⅱ	2年前期				
	子ども学フィールドワーク(※子ども教育開発専修のみ)	2年前期	○			
	インクルーシブ教育フィールドワーク(※特別支援教育専攻のみ)	2年後期				
	⑧ 教育心理学	2年前期	○	○		
	⑨ 教育課程(教諭)	2年前期	○	○		
	⑩ 教育方法(教諭)	2年前期	○	○		
	⑪ 生徒指導論(進路指導を含む)(教諭)	2年前期～2年後期	○	○		
	⑫ 特別活動論(教諭)	2年前期～3年前期	○	○		
⑬ 道徳教育の理論と実践A(教諭)	2年後期～3年前期	○	○			
道徳教育の理論と実践B(教諭)	3年前期					
⑭ 教育相談(教諭)	2年後期～3年前期	○	○			
学校カウンセリング(教諭)	2年後期～3年前期					
附属小	⑮ 小学校教科	1年前期～3年前期	○	○	12単位以上(特別支援教育は6単位以上)	
	⑯ 各教科の指導法(小学校)	2年前期～3年後期	○	○	8単位以上	
附属中	⑰ 中学校教科		○	○	14単位以上	
	⑱ 各教科の指導法(中学校)		○	○	2単位以上	
附属小	⑲ 学校教育実践研究(小)	3年通年		○		
附属中	⑳ 学校教育実践研究	3年通年		○		

※教育実習の登録条件にはなっていないが免許取得には必修・選択必修となる教職科目

	科目名	受講年次
必	総合的な学習の時間の授業づくり	2年後期
選	学校社会学	3年前期
必	教育社会学	3年前期～3年後期

●教育学部 教育実習の登録条件(公立実習)【副免用】

- (1) 附属学校(小学校or中学校)の教育実習を履修済であること。
- (2) 当該免許に係る学校種(教科)の指導法を履修済み又は同時履修すること。
- (3) 副免用(※主免と学校種が違う場合)の学校教育実践研究を履修中であること。

●教育学部 教育実習の登録条件(幼稚園教育実習)【副免用】

- (1) 小学校教育実習を履修済み又は同時履修すること。
- (2) 「幼稚園教育課程の編成方法」、「幼児の教育方法」及び「幼児理解」を履修済みであること
- (3) 「幼稚園教育基礎実践」(事前指導科目)を履修済みであること。

●教職実践演習の登録条件

- (1) 卒業要件の免許(原則として小学校教育コースにあつては小一種、中学校教育コースにあつては中一種など)必須科目を履修済みであること。
※必須科目には共通教育科目「憲法概論」・「情報科学演習」・「健康・スポーツ科学」又は「運動・スポーツ科学」・外国語科目(大学英語等)を含む。
(上記、共通教育等科目は教員免許法施行規則第66条の6に該当する科目である)
※「教職実践研究」を履修済みであることが登録条件のクラスあり。

7. 全学共通の教育実習等科目

共通で開設される教育の基礎的理解に関する科目等（中学校教諭、高等学校教諭、養護教諭、栄養教諭）

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		必修 選択 の別	単 位 数	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考
科 目	各科目に含める必要事項	科目番号	科 目 名							
教育の 基礎的 理解に 関する 科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	全教111	教職入門	必	2	2-0	1	前・後	教職の意義、教員の役割、職務内容、活動についての概説	中・高・養・栄
	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	全教121	教育原理	必	2	2-0	1~2	前・後	教育の理念、歴史、思想の概説を行なう	中・高・養・栄 教職入門を履修済みのこと
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	全教221	教育心理学	必	2	2-0	2~3	前・後	健常児及び障害児の発達、学習、評価、適応等の教育心理	中・高・養・栄
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	全教502	特別の支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援	必	1	1-0	3	前・後	発達障害を含む特別の支援を必要とする子どもの障害の特性及び心身の発達を理解する	中・高・養・栄
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	全教215-1	教育社会学A	選必	2	2-0	2~3	前又は後	教育の実践・制度の現実を社会学の視点から考察する	中・高・養・栄 いずれか1科目選択必修
		全教215-2	教育社会学B	選必	2	2-0	2~3	前又は後	教育の実践・制度の現実を社会学の視点から考察する	
		全教216	教育の社会史	選	2	2-0	2~3	前又は後	日本国民形成論(教育論)の特質の究明	
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	全教231	教育課程	必	1	1-0	2~3	前・後	中等教育課程に関する理論と実践	中・高・養・栄	
道徳、 総合的 な学習 の時間 等の指 導法及 び生徒 指導、 教育相 談等に 関する 科目	教育の方法及び技術	全教232	教育方法	必	1	1-0	2~3	前・後	中等教育の方法に関する理論と実践	中・高
	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)									養・栄
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	全教131	教育におけるICT活用	必	1	1-0	1後~2前	前・後	教育現場におけるICT(情報通信技術)の役割について理解する。	中・高
	道徳の理論及び指導法	全教233	道徳教育の理論と実践	必	2	2-0	2~3	前・後	中等学校道徳教育に関する研究	中・養・栄
	特別活動の指導法	全教235	特別活動論	必	2	2-0	3	前・後	中等特別活動に関する研究	中・高・養・栄
	総合的な学習の時間の指導法	全教501	総合的な学習の時間	必	1	1-0	3	前・後	総合的な学習の時間について、教育課程における位置づけや、現在行われている実践を理解する。	中・高・養・栄
	生徒指導の理論及び方法	全教241	生徒指導論(進路指導を含む)	必	2	2-0	2~3	前・後	中等学校における生徒指導・進路指導の理論・方法を学習する	中・高
	生徒指導の理論及び方法	全教241-1	生徒指導論	必	2	2-0	2~3	前・後	中等学校における生徒指導の理論・方法を学習する	養・栄
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	全教242	教育相談	選必	2	2-0	2	前又は後	児童・生徒の不応問題に関して事例を通じた相談方法の修得と進路指導の概説	中・高・養・栄 いずれか1科目選択必修
全教243		学校カウンセリング	選必	2	2-0	2	前・後	進路指導を含めたカウンセリングの理論と技術についての概説、思春期から青年期の不応問題を中心として		

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		必修 選択 の別	単 位 数	週 時 間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考
科 目	各科目に含める必要事項	科目番号	科 目 名							
		全教100	教職指導	自	1	0-2	1	前	オリエンテーション・適性判断、職場一日体験 集中講義方式(1限から開始)	教員免許外科 目
教育実 践に関 する科 目	教育実習	全教301	学校教育実践指導Ⅰ	必	1	0-2	3	後	学習指導案・学級経営・生徒指導等実践的演習及び模擬授業を含む 「教職指導」を単位取得済みのこと	中・高
		全教350	学校教育実践指導Ⅱ	必	1	0-2	4	前又は 通年	実習直前実践指導及び事後指導「学校教育実践研究Ⅰ」を単位取得済みのこと	
		全教401	中学校教育実習	選	4	3週間	4	前	中学校における教育実習「学校教育実践研究Ⅱ」を同時履修のこと	} 中免必修 高免選択必修
	全教402	高等学校教育実習	選	2	2週間	4	前	高等学校における教育実習「学校教育実践研究Ⅱ」を同時履修のこと		
		教職実践演習	全教411 全教412	教職実践演習(中高) 教職実践演習(高)	必	2	0-2	4	後	各自の履修カルテを踏まえ、実技指導、グループ討論及び補完指導等をどうして教員として必要な知識技能を修得したことを確認する

注:前提科目

1. 教育原理

「教職入門」を履修済みであること。

2. 教育相談(教諭)・学校カウンセリング(教諭)

共通教育科目の「心の科学」、「人間関係論」又は専門教育科目の「教育心理学」を履修済みであること。

注:必修選択の別は、免許取得上の必修選択の別による。

教育実習の登録条件

教育職員免許法の改正に伴い、教育実習の登録条件が変更となりました。

詳細は次頁にて各自確認すること。

教職実践演習の登録条件

教職実践演習を除く他の免許必須科目を履修済みであること。

●教育実習の登録条件(4年次実習) (教育学部以外) 【※令和4年4月以降入学生より適用】

【登録条件】教育実習登録時に以下の(1)～(3)の条件を満たすことが必要となります。

(1)以下の科目を履修済みであること。(高免は⑫を除く、養護免・栄養免は④を除く)

- ①「教職入門」②「教育原理」③「教育心理学」④「教育におけるICT活用」⑤「教育相談or学校カウンセリング」⑥「教育課程」⑦「教育方法」
- ⑨「生徒指導論(進路指導を含む)」(※養護・栄養教諭においては「生徒指導論」)⑫「道徳教育の理論と実践」
- ⑬「各教科の指導法」の科目から4単位以上(ただし、高免の場合は4単位のうち2単位までは同時履修であることを可とする)
- ⑭「教科に関する専門的事項」に係る科目に関しては、必修単位の4分の3以上⑮「学校教育実践指導Ⅰ」

(2)以下の科目を履修済み又は同時履修中であること。

- ⑧「教育社会学A又はB」
- ⑩「特別活動論」⑪「特別な支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援」

(3)以下の科目を同時履修すること。

- ⑯「学校教育実践指導Ⅱ」 ※栄養免は「栄養教育実践研究」、養護免は「養護実践演習」

	科目名	受講年次	条件①		条件②	備考
			履修済み	同時履修		
①	教職入門	1年前期～1年後期	○			
②	教育原理	1年後期～2年前期	○			
③	教育心理学	2年前期～2年後期	○			
④	教育におけるICT活用	1年後期～2年前期	○			栄養免、養護免は除く
⑤	教育相談or学校カウンセリング	2年前期～2年後期	○			
⑥	教育課程	2年前期～3年後期	○			
⑦	教育方法	2年前期～3年後期	○			
⑧	教育社会学AorB	2年前期～3年後期	○	○		
⑨	生徒指導論(進路指導を含む)	2年前期～3年後期	○			栄養免、養護免は「生徒指導論」
⑩	特別活動論	3年前期～3年後期	○	○		
⑪	特別な支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援	3年前期～3年後期	○	○		
⑫	道徳教育の理論と実践	2年前期～3年後期	○			中免、栄養免、養護免のみ
⑬	各教科の指導法科目	2年前期～3年後期	○	※	4単位以上 (※高免については、4単位のうち2単位までは同時履修可とする。)	
⑭	教科に関する専門的事項に係る科目		○		必修単位の4分の3以上	
⑮	学校教育実践指導Ⅰ	3年後期	○			栄養免、養護免は除く
⑯	学校教育実践指導Ⅱ	4年前又は通年		○		栄養免は栄養教育実践研究、養護免は養護実践演習を履修

必修・選択必修の科目で登録条件となっていない科目

科目名	受講年次
総合的な学習の時間	3年前期～

4. 専修・専修専門科目の履修方法

① 学校教育専攻(共通)

必修選択の別	科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
専攻必修	学共101	理解と表現の基礎的スキル	2	2-0	1	前	学校教育専攻での学修に必要とされる基礎的なアカデミック・スキルズを学ぶ	教員免許外科目
	学共102	子どもの世界・学びの世界	2	2-0	1	前	学校教育における「子ども」や「学び」の捉え方・考え方について様々な角度から学び、自分なりの教師像を個々に思い描けるようにする。	教員免許外科目
	学共103	体験 子どもの世界・学びの世界	2	2-0	1	後	フィールドワーク等の実体験を通じて、子どもが学び・育つ場としての多様な環境について実践的に学ぶ	教員免許外科目
専攻選択	学共211	心理学研究法概説	2	2-0	2	後	心理学の研究法(実験や調査法、統計処理、論文作成)の概説を行う	教員免許外科目

①-A 教育実践学専修

必修選択の別	科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
必修	実203	小学校教育フィールドワーク	1	0-2	2	後	小学校教育実践の観察を深めるとともに、継続的な子ども理解を行うことを目的とする	教員免許外科目
	実302	小学校教育研究法Ⅰ	2	0-2	3	前	卒業研究領域を中心とした文献研究などの演習を行う	
	実303	小学校教育研究法Ⅱ	2	0-2	3	後	卒業研究領域を中心とした研究を深める	
	実204	小学校における特別支援教育	2	2-0	2	後	小学校における特別支援教育について、理論と実践の両面から概説する	
	英教389	小学校英語演習Ⅰ	2	2-0	3~4	前	外国語活動及び教科外国語を担当する際に必要となる基本的な指導法や指導技術について学ぶ	
	実401	卒業研究Ⅰ	2	0-4	4	前	特定指導教員のもとでの個別研究を行う	教員免許外科目
実402	卒業研究Ⅱ	2	0-4	4	後	特定指導教員のもとでの個別研究を行う		
選択	実131	教育臨床研究Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	教育実践における臨床事例を取り上げ、実践的に考察する	教員免許外科目
	実132	教育臨床研究Ⅱ	2	2-0	2~4	前又は後	教育実践における臨床事例を取り上げ、実践的に考察する	
	実212	教育臨床研究Ⅲ	2	2-0	2~4	前又は後	教育実践における臨床事例を取り上げ、実践的に考察する	
	実213	教育臨床研究Ⅳ	2	2-0	2~4	前又は後	教育実践における臨床事例を取り上げ、実践的に考察する	
	実214	教育心理学演習	2	0-2	2	後	教育心理学の研究知見の内在化を行い、教育的事項に対する心理学的考察を行う	教員免許外科目
	実223	学習指導サプリメントⅠ	1	2-0	2~4	1Q	学習指導の理論・歴史・実践について概説する	
	実224	学習指導サプリメントⅡ	1	2-0	2~4	2Q	学習指導の理論・歴史・実践について概説する	
	実225	学習指導サプリメントⅢ	1	2-0	2~4	3Q	学習指導の理論・歴史・実践について概説する	
	実226	学習指導サプリメントⅣ	1	2-0	2~4	4Q	学習指導の理論・歴史・実践について概説する	
	実227	学習指導サプリメントⅤ	1	2-0	2~4	1Q	学習指導の理論・歴史・実践について概説する	
	実228	学習指導サプリメントⅥ	1	2-0	2~4	2Q	学習指導の理論・歴史・実践について概説する	
	実229	学習指導サプリメントⅦ	1	2-0	2~4	3Q	学習指導の理論・歴史・実践について概説する	
	実230	学習指導サプリメントⅧ	1	2-0	2~4	4Q	学習指導の理論・歴史・実践について概説する	
	実233	学校教育リフレクション	2	2-0	3~4	前又は後	学校教育を振り返るために必要な理論的枠組みを理解し、学校教育実践を反省的に振り返る姿勢とまなざしを修得する	
	実234	低学年カリキュラムの理論と実践	2	2-0	2~4	前又は後	幼児期や中学年との連続を視野に入れた小学校低学年のカリキュラム編成について概説する	

必修選択の別	科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考
選 択	実235	教材開発演習Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	教科教育の教材開発について理論と実践の両面から考察する	教員免許外科目
	実236	教材開発演習Ⅱ	2	2-0	3~4	前又は後	教科教育の教材開発について理論と実践の両面から考察する	
	実241	学校・学級・授業Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	事例を通して学級運営、生徒指導、職員との協働のありかた等について講述する	
	実242	学校・学級・授業Ⅱ	2	2-0	2~4	前又は後	事例を通して学級運営、生徒指導、職員との協働のありかた等について講述する	
	実243	学校・学級・授業Ⅲ	2	2-0	2~4	前又は後	事例を通して学級運営、生徒指導、職員との協働のありかた等について講述する	
	実244	学校・学級・授業Ⅳ	2	2-0	2~4	前又は後	事例を通して学級運営、生徒指導、職員との協働のありかた等について講述する	
	実251	総合的な学習の理論と実践	2	2-0	3~4	前又は後	実践事例をとおして、総合的学習の授業デザインの視点と方法を概説する	
	英教390	小学校英語演習Ⅱ	2	1-1	3~4	後	小学校英語演習Ⅰを踏まえて、外国語活動及び教科外国語を担当する際に必要となる指導技術や教材開発について、模擬授業を通して学ぶ	
	教職322	道徳授業研究Ⅰ	2	2-0	3~4	前	道徳授業の構想・実践・振り返りに必要な実践的力量を修得する	
	教職323	道徳授業研究Ⅱ	2	2-0	3~4	後	道徳授業の構想・実践・振り返りに必要な実践的力量を修得する	
自 由	実501	教育実践学特殊講義Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	今日的な教育実践に関する話題やテーマについて適宜討論形式を取り入れながら講述する	必要に応じて開講 教員免許外科目
	実502	教育実践学特殊講義Ⅱ	2	2-0	2~4	前又は後	今日的な教育実践に関する話題やテーマについて適宜討論形式を取り入れながら講述する	
	実503	教育実践学特殊講義Ⅲ	2	2-0	2~4	前又は後	今日的な教育実践に関する話題やテーマについて適宜討論形式を取り入れながら講述する	
	実504	教育実践学特殊講義Ⅳ	2	2-0	2~4	前又は後	今日的な教育実践に関する話題やテーマについて適宜討論形式を取り入れながら講述する	

①-B 子ども教育開発専修

必修選択の別	科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
専修 必修	子215	子ども学フィールドワーク	2	0-2	2	前	多様な学びの文化を、特定の「場＝フィールド」を通して考察し、同時代的・創造的な教育プログラムについて実践探求する	※「教職実践に関する科目」の単位
	子221	子どもの発達と教育・学校制度	1	1-0	2	3Q	子どもの発達と教育制度・学校制度についての概説を行なう	子どもの文化・生活世界
	子224	子どもと生活のなかのことは	1	1-0	2	4Q	子どもたちがことばを通してどのように社会化していくのか、日常生活のことばから探る	
	教職351	幼稚園教育課程の編成方法	1	1-0	2~3	前	幼稚園教育課程の意義及び編成方法	幼免科目 幼児の発達と教育
	教職352	幼児の教育方法	1	1-0	2~3	前	幼児の教育及び方法の理論と実践	幼免科目 幼児の発達と教育
	子301	子ども教育開発演習Ⅰ	2	0-2	3	前	子どもの文化・生活世界、幼児の発達と教育、地域と学校をつなぐ教育実践の各領域にかかわる研究の演習を行う	
	子302	子ども教育開発演習Ⅱ	2	0-2	3	後	子どもの文化・生活世界、幼児の発達と教育、地域と学校をつなぐ教育実践の各領域にかかわる研究の演習を行う	
	子401	卒業研究Ⅰ	2	0-4	4	前	子どもの文化・生活世界、幼児の発達と教育、地域と学校をつなぐ教育実践の各領域の教員のもとで卒業研究を行う	教員免許外科目
	子402	卒業研究Ⅱ	2	0-4	4	後	子どもの文化・生活世界、幼児の発達と教育、地域と学校をつなぐ教育実践の各領域の教員のもとで卒業研究を行う	教員免許外科目

必修選択の別	科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
選 択	教職203	学習心理学	2	2-0	2	後	健全児及び障害児の学習の過程、学習に関する理論及び学習指導の概説	教免科目 子どもの文化・生活世界
	子202	教育と法	2	2-0	2~3	後	学校教育に関する法令や裁判例を読み解くための基本的な知識を学び、応用する	子どもの文化・生活世界
	子205	子どもと社会	2	2-0	2	後	子どもの社会的位置づけがどう変化してきたか、歴史的かつ国際比較を交えた視点から考える	子どもの文化・生活世界
	子206	学校経営と学校図書館	2	2-0	2	前又は後	学校図書館の教育的意義や経営などについて学ぶ	司書教諭資格必修 子どもの文化・生活世界
	子207	学校図書館メディアの構成	2	2-0	2~3	前又は後	学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図る	司書教諭資格必修 子どもの文化・生活世界
	子208	学習指導と学校図書館	2	2-0	2~3	前又は後	学習指導における学校図書館メディアの活用について学ぶ	司書教諭資格必修 子どもの文化・生活世界
	子209	読書と豊かな人間性	2	2-0	2~3	前又は後	児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法について学ぶ	司書教諭資格必修 子どもの文化・生活世界
	子212-1	乳幼児教育学A	1	1-0	2	前又は後	幼小連携を視野に入れながら、小学校教育と幼稚園教育との連続性や課題について学ぶ。	幼児の発達と教育
	子212-2	乳幼児教育学B	1	1-0	2	前又は後	幼小連携を視野に入れながら、小学校教育と幼稚園教育との連続性や課題について学ぶ。	幼児の発達と教育
	子304	情報メディアの活用	2	2-0	3~4	前又は後	学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用法について学ぶ	司書教諭資格必修 子どもの文化・生活世界
	子306	子ども読書論	2	2-0	3~4	前又は後	子どもと読書を巡る諸問題について考察する	子どもの文化・生活世界
	教職255	幼児と健康	1	1-0	1~4	前又は後	幼児の心身の発達等において、幼児期は大人と違った特徴や意義があり、その相違の指導方法への関連を理解する	幼免科目
	教職256	幼児と人間関係	1	1-0	1~4	前又は後	愛着理論・関係発達論的な視点を学び、他者との関係や集団との関係の中で幼児期の人と関わる力が育つことを理解する	幼免科目
	教職257	幼児と環境	1	1-0	1~4	前又は後	幼児を取り巻く環境とその現代的課題、幼児と身近な環境との関わりの発達等について学ぶ	幼免科目
	教職258	幼児と言葉	1	1-0	1~4	前又は後	言葉の意義と機能について理解し、乳幼児期から言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする実践的知識を身につける	幼免科目
	教職259	幼児と表現	1	1-0	1~4	前又は後	幼児の表現、表現の発達とその要因、幼児の感性や創造性を豊かにする多様な遊びなどについて実践的に学ぶ	幼免科目
	教職201	児童心理学	2	2-0	2	後	健全児及び障害児の児童期における発達過程、性格形成等の諸問題の概説	教免科目 幼児の発達と教育
	教職332	幼児理解	2	2-0	3	前	乳幼児における発達過程、性格形成等の諸問題の概説	幼免科目 幼児の発達と教育
	教職353	健康	2	2-0	2~4	前又は後	幼稚園における保育内容の一領域である「健康」のねらい・内容を理解し実践のあり方を習得する	幼免科目 幼児の発達と教育
	教職251	人間関係	2	2-0	2~4	前又は後	幼稚園における保育内容の一領域である「人間関係」のねらい・内容を理解し実践のあり方を習得する	幼免科目 幼児の発達と教育
教職252	環境	2	2-0	2~4	前又は後	幼稚園における保育内容の一領域である「環境」のねらい・内容を理解し実践のあり方を習得する	幼免科目 幼児の発達と教育	
教職253	言葉	2	2-0	2~4	前又は後	幼稚園における保育内容の一領域である「言葉」のねらい・内容を理解し実践のあり方を習得する	幼免科目 幼児の発達と教育	

必修選択の別	科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
選 択	教職354	表現ⅠA	2	2-0	2~4	前又は後	幼稚園における保育内容の一領域である「表現」のねらい。内容を理解し実践のあり方を習得する	幼児科目 幼児の発達と教育
	教職356	表現ⅡA	2	2-0	3~4	前又は後	幼稚園における保育内容の一領域である「表現」のねらい・内容を理解し実践のあり方を習得する	幼児科目 幼児の発達と教育
	教職357	表現ⅡB	2	2-0	3~4	前又は後	幼稚園における保育内容の一領域である「表現」のねらい・内容を理解し実践のあり方を習得する	幼児科目 幼児の発達と教育
	子211	子どもと自然体験活動	2	2-0	2~3	後	幼児期の子ども達への自然体験活動について、実践的に学ぶ。	幼児の発達と教育
	子213-1	保育学基礎研究A	1	1-0	2~3	前又は後	これから求められる幼保一元化の流れに対応するため 児童福祉施設としての保育所保育の役割の基礎を学ぶ	幼児の発達と教育
	子213-2	保育学基礎研究B	1	1-0	2~3	前又は後	これから求められる幼保一元化の流れに対応するため 児童福祉施設としての保育所保育の役割の基礎を学ぶ	幼児の発達と教育
	子307	幼稚園教育基礎実践	2	2-0	3	前又は後	幼稚園実践を経験しながら、指導案・省察・子ども理解の基礎を習得する	幼児の発達と教育
	子203	子どものからだと動き	2	2-0	2	後	子どもの発育と動作及び運動の発達について考察する	地域と学校をつなぐ教育実践
	子217	アートと教育	2	2-0	2~3	後	アートの創造的行為によって、新たな教育空間を創出する試みを探る	地域と学校をつなぐ教育実践
	子210	子ども教育開発特講A	2	2-0	2~4	前又は後	子どもの文化・生活世界にかかわる諸問題について探究する	子どもの文化・生活世界
	子214	子ども教育開発特講B	2	2-0	2~4	前又は後	幼児の発達と教育にかかわる諸問題について探究する	幼児の発達と教育
	子218	子ども教育開発特講C	2	2-0	2~4	前又は後	地域と学校をつなぐ教育実践にかかわる諸問題について探究する	地域と学校をつなぐ教育実践

②-A 小学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修

必修 選択 の別	科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	
必 修 (14 単 位)	国101	日本語学概論	2	2-0	1	前又は後	日本語の音韻・文法・語彙等の概説	中学校・教科 の指導法
	国201	日本文学概論Ⅰ	2	2-0	1~2	前又は後	日本近現代文学の通史的概説	
	国202	日本文学概論Ⅱ	2	2-0	1	前又は後	日本古典文学の通史的概説	
	国301	漢文学概論	2	2-0	1~2	前又は後	漢文学の通史的概説	
	国406	国語教育論Ⅰ	2	2-0	2~3	前又は後	国語科教育に関する歴史や基本的な理論	
	国407	国語教育論Ⅱ	2	2-0	2~3	前又は後	国語科教育に関する歴史や基本的な理論	
	国501	書道Ⅰ	1	0-2	1~2	前	硬筆及び毛筆による楷書の理論と実習	
	国503	国語科基礎講読	1	2-0	1	前	国語科を構成する諸分野を扱う初年次教育	
必 修	国600	卒業論文Ⅰ	2	0-2	4	前	特定の課題についての自主的な研究	教員免許外 科目
	国601	卒業論文Ⅱ	2	0-2	4	後	特定の課題についての自主的な研究	
選 択 必 修 (8 単 位)	国111	言語文化論Ⅰ	2	2-0	1~4	前又は後	言語文化(口承・書承)の諸相についての探究	大学が独自に 設定する科目
	国112	言語文化論Ⅱ	2	2-0	1~4	前又は後	言語文化(口承・書承)の諸相についての探究	
	国408	国語教育実践研究Ⅰ	2	2-0	2~3	前	教育実習に向けた実践的研究	
	国409	国語教育実践研究Ⅱ	2	2-0	2~3	前	教育実習に向けた実践的研究	
	国410	国語科教材研究Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	主として小学校国語科を対象とした教材の探究	
	国411	国語科教材研究Ⅱ	2	0-2	2~4	前又は後	主として中学校国語科を対象とした教材の探究	
	国412	国語科教材研究Ⅲ	2	0-2	2~4	前又は後	主として古典(古文・漢文)を対象とした教材の探究	
	国413	国語科教材研究Ⅳ	2	2-0	2~4	前又は後	主として言語事項・郷土教材を対象とした探究	
選 択 (8 単 位)	国102	日本語学講義Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	日本語の音韻・文法・語彙の考究	教員免許外 科目
	国103	日本語学講義Ⅱ	2	2-0	2~4	前又は後	日本語の音韻・文法・語彙の考究	
	国104	日本語学特講ⅠA	2	2-0	3~4	前	日本語学についての専門的講義	
	国105	日本語学特講ⅠB	2	2-0	3~4	後	日本語学についての専門的講義	
	国106	日本語学特講ⅡA	2	2-0	3~4	前	日本語学についての専門的講義	
	国107	日本語学特講ⅡB	2	2-0	3~4	後	日本語学についての専門的講義	
	国108	日本語学特講Ⅲ	2	2-0	1~4	前又は後	日本語学についての専門的講義	
	国109	日本語学演習Ⅰ	2	0-2	3~4	通 年	日本語学に係る特定の問題の演習	
	国110	日本語学演習Ⅱ	2	0-2	3~4	通 年	日本語学に係る特定の問題の演習	
	国113	言語文化資料講読Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	言語文化に関する基礎的資料の講読	
	国114	言語文化資料講読Ⅱ	2	2-0	2~4	前又は後	言語文化に関する基礎的資料の講読	
	国203	日本近代文学講読Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	日本近現代文学の講読	
	国204	日本近代文学講読Ⅱ	2	2-0	2~4	前又は後	日本近現代文学の講読	
	国205	日本近代文学特講ⅠA	2	2-0	3~4	前	日本近現代文学についての専門的講義	
	国206	日本近代文学特講ⅠB	2	2-0	3~4	後	日本近現代文学についての専門的講義	
	国207	日本近代文学特講ⅡA	2	2-0	3~4	前	日本近現代文学についての専門的講義	
	国208	日本近代文学特講ⅡB	2	2-0	3~4	後	日本近現代文学についての専門的講義	
	国209	日本近代文学特講Ⅲ	2	2-0	1~4	前又は後	日本近現代文学についての専門的講義	
	国210	日本近代文学演習Ⅰ	2	0-2	3~4	通 年	日本近現代文学に係る特定の問題の演習	
	国211	日本近代文学演習Ⅱ	2	0-2	3~4	通 年	日本近現代文学に係る特定の問題の演習	
	国212	日本古典文学講読Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	日本古典文学の講読	
	国213	日本古典文学講読Ⅱ	2	2-0	2~4	前又は後	日本古典文学の講読	
	国214	日本古典文学特講ⅠA	2	2-0	3~4	前	日本古典文学についての専門的講義	
	国215	日本古典文学特講ⅠB	2	2-0	3~4	後	日本古典文学についての専門的講義	

選択 (8単位)	国216	日本古典文学特講ⅡA	2	2-0	3~4	前	日本古典文学についての専門的講義	教員免許外 科目		
	国217	日本古典文学特講ⅡB	2	2-0	3~4	後	日本古典文学についての専門的講義			
	国218	日本古典文学特講Ⅲ	2	2-0	1~4	前又は後	日本古典文学についての専門的講義			
	国219	日本古典文学演習Ⅰ	2	0-2	3~4	通年	日本古典文学に係る特定の問題の演習			
	国220	日本古典文学演習Ⅱ	2	0-2	3~4	通年	日本古典文学に係る特定の問題の演習			
	国302	漢文学講読Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	漢文学の基礎的作品の講読			
	国303	漢文学講読Ⅱ	2	2-0	2~4	前又は後	漢文学の基礎的作品の講読			
	国304	漢文学特講ⅠA	2	2-0	3~4	前	漢文学についての専門的講義		教員免許外 科目	
	国305	漢文学特講ⅠB	2	2-0	3~4	後	漢文学についての専門的講義			
	国306	漢文学特講ⅡA	2	2-0	3~4	前	漢文学についての専門的講義			
	国307	漢文学特講ⅡB	2	2-0	3~4	後	漢文学についての専門的講義			
	国308	漢文学特講Ⅲ	2	2-0	1~4	前又は後	漢文学についての専門的講義			
	国309	漢文学演習Ⅰ	2	0-2	3~4	通年	漢文学に係る特定の問題の演習			
	国310	漢文学演習Ⅱ	2	0-2	3~4	通年	漢文学に係る特定の問題の演習			
	国414	ことばの教育特講ⅠA	2	2-0	3~4	前	ことばの教育についての専門的講義			大学が独自に 設定する科目
	国415	ことばの教育特講ⅠB	2	2-0	3~4	後	ことばの教育についての専門的講義			
	国416	ことばの教育特講ⅡA	2	2-0	3~4	前	ことばの教育についての専門的講義			
	国417	ことばの教育特講ⅡB	2	2-0	3~4	後	ことばの教育についての専門的講義			
	国418	ことばの教育特講ⅢA	2	2-0	3~4	前	ことばの教育についての専門的講義			
	国419	ことばの教育特講ⅢB	2	2-0	3~4	後	ことばの教育についての専門的講義			
	国420	ことばの教育特講ⅣA	2	2-0	3~4	前又は後	ことばの教育についての専門的講義			
	国421	ことばの教育特講ⅣB	2	2-0	3~4	前又は後	ことばの教育についての専門的講義			
	国422	ことばの教育特講Ⅴ	2	2-0	1~4	前又は後	ことばの教育についての専門的講義	教員免許外 科目		
	国423	ことばの教育特講Ⅵ	2	2-0	1~4	前又は後	ことばの教育についての専門的講義			
	国424	ことばの教育演習Ⅰ	2	0-2	3~4	通年	ことばの教育に係る特定の問題の演習		大学が独自に 設定する科目	
	国425	ことばの教育演習Ⅱ	2	0-2	3~4	通年	ことばの教育に係る特定の問題の演習			
	国426	ことばの教育演習Ⅲ	2	0-2	3~4	通年	ことばの教育に係る特定の問題の演習	教員免許外 科目		
	国427	ことばの教育演習Ⅳ	2	0-2	3~4	通年	ことばの教育に係る特定の問題の演習			
	国428	ことばの教育フィールド ワークⅠ	2	0-2	1~4	集中	現場の参観・実践等によることばの教育の探究			
国429	ことばの教育フィールド ワークⅡ	2	0-2	1~4	集中	現場の参観・実践等によることばの教育の探究				
自由	国403	国語科教育法A	2	2-0	2~3	前又は後	学習指導要領を踏まえた授業構想を学ぶ		中学校・教科 の指導法	
	国404	国語科教育法B	2	2-0	2~3	前又は後	具体的実践例をもとに授業を構想する			
	国405	国語科教育法C	2	2-0	2~3	前又は後	模擬授業と省察を繰り返し体験的に学ぶ			
	国502	書道Ⅱ	1	0-2	1~4	後	硬筆及び毛筆によるさまざまな書体の理論と実習	教員免許外 科目		
	国504	沖縄のことばと文化	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄の言語文化をめぐる諸事項の概説			
	国505	沖縄の文学	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄の文学についての講読を含む概説			
	国506	思春期の自立とことば	2	2-0	1~4	前又は後	思春期の人間形成と言語との関わりについての概説			

国語教育専修提供の課程共通科目

必修 選択 の別	科目番号	授業科目	単位	週時間	受講 年次	学期	授業内容	
必修	国401	国語概説	2	2-0	1~2	前又は後	小学校国語の全領域にわたる基本的事項の概説 (書写を含む。)	小学校・教科 に関する科目
必修	国402	初等国語科教育法	2	2-0	2~3	前又は後	小学校国語科教育についての基礎的研究	小学校・教科 の指導法

②-B 中学校教育コース 教科教育専攻 国語教育専修

必修 選択 の別	科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	
必 修 (1 2 単 位)	国101	日本語学概論	2	2-0	1	前又は後	日本語の音韻・文法・語彙等の概説	
	国201	日本文学概論Ⅰ	2	2-0	1~2	前又は後	日本近現代文学の通史的概説	
	国202	日本文学概論Ⅱ	2	2-0	1	前又は後	日本古典文学の通史的概説	
	国301	漢文学概論	2	2-0	1~2	前又は後	漢文学の通史的概説	
	国406	国語教育論Ⅰ	2	2-0	2~3	前又は後	国語科教育に関する歴史や基本的な理論	
	国501	書道Ⅰ	1	0-2	1~2	前	硬筆及び毛筆による楷書の理論と実習	
	国503	国語科基礎講読	1	2-0	1	前	国語科を構成する諸分野を扱う初年次教育	
必 修	国600	卒業論文Ⅰ	2	0-2	4	前	特定の課題について研究する	教員免許外 科目
	国601	卒業論文Ⅱ	2	0-2	4	後	特定の課題について研究する	
選 択 必 修 (8 単 位)	国111	言語文化論Ⅰ	2	2-0	1~4	前又は後	言語文化(口承・書承)の諸相についての探究	大学が独自に 設定する科目
	国112	言語文化論Ⅱ	2	2-0	1~4	前又は後	言語文化(口承・書承)の諸相についての探究	
	国408	国語教育実践研究Ⅰ	2	2-0	2~3	前	教育実習に向けた実践的研究	
	国409	国語教育実践研究Ⅱ	2	2-0	2~3	前	教育実習に向けた実践的研究	
	国410	国語科教材研究Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	主として小学校国語科を対象とした教材の探究	
	国411	国語科教材研究Ⅱ	2	0-2	2~4	前又は後	主として中学校国語科を対象とした教材の探究	
	国412	国語科教材研究Ⅲ	2	0-2	2~4	前又は後	主として古典(古文・漢文)を対象とした教材の探究	
国413	国語科教材研究Ⅳ	2	2-0	2~4	前又は後	主として言語事項・郷土教材を対象とした探究		
選 択 (2 2 単 位)	国102	日本語学講義Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	日本語の音韻・文法・語彙の考究	教員免許外 科目
	国103	日本語学講義Ⅱ	2	2-0	2~4	前又は後	日本語の音韻・文法・語彙の考究	
	国104	日本語学特講ⅠA	2	2-0	3~4	前	日本語学についての専門的講義	
	国105	日本語学特講ⅠB	2	2-0	3~4	後	日本語学についての専門的講義	
	国106	日本語学特講ⅡA	2	2-0	3~4	前	日本語学についての専門的講義	
	国107	日本語学特講ⅡB	2	2-0	3~4	後	日本語学についての専門的講義	
	国108	日本語学特講Ⅲ	2	2-0	1~4	前又は後	日本語学についての専門的講義	
	国109	日本語学演習Ⅰ	2	0-2	3~4	通 年	日本語学に係る特定の問題の演習	
	国110	日本語学演習Ⅱ	2	0-2	3~4	通 年	日本語学に係る特定の問題の演習	
	国113	言語文化資料講読Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	言語文化に関する基礎的資料の講読	
	国114	言語文化資料講読Ⅱ	2	2-0	2~4	前又は後	言語文化に関する基礎的資料の講読	
	国203	日本近代文学講読Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	日本近現代文学の講読	
	国204	日本近代文学講読Ⅱ	2	2-0	2~4	前又は後	日本近現代文学の講読	
	国205	日本近代文学特講ⅠA	2	2-0	3~4	前	日本近現代文学についての専門的講義	
	国206	日本近代文学特講ⅠB	2	2-0	3~4	後	日本近現代文学についての専門的講義	
	国207	日本近代文学特講ⅡA	2	2-0	3~4	前	日本近現代文学についての専門的講義	
	国208	日本近代文学特講ⅡB	2	2-0	3~4	後	日本近現代文学についての専門的講義	
	国209	日本近代文学特講Ⅲ	2	2-0	1~4	前又は後	日本近現代文学についての専門的講義	
	国210	日本近代文学演習Ⅰ	2	0-2	3~4	通 年	日本近現代文学に係る特定の問題の演習	
	国211	日本近代文学演習Ⅱ	2	0-2	3~4	通 年	日本近現代文学に係る特定の問題の演習	
	国212	日本古典文学講読Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	日本古典文学の講読	
国213	日本古典文学講読Ⅱ	2	2-0	2~4	前又は後	日本古典文学の講読		
国214	日本古典文学特講ⅠA	2	2-0	3~4	前	日本古典文学についての専門的講義		
国215	日本古典文学特講ⅠB	2	2-0	3~4	後	日本古典文学についての専門的講義		
国216	日本古典文学特講ⅡA	2	2-0	3~4	前	日本古典文学についての専門的講義		

必修 選択 の別	科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	
選 択 (2 2 単 位)	国217	日本古典文学特講ⅡB	2	2-0	3~4	後	日本古典文学についての専門的講義	教員免許外 科目
	国218	日本古典文学特講Ⅲ	2	2-0	1~4	前又は後	日本古典文学についての専門的講義	
	国219	日本古典文学演習Ⅰ	2	0-2	3~4	通 年	日本古典文学に係る特定の問題の演習	教員免許外 科目
	国220	日本古典文学演習Ⅱ	2	0-2	3~4	通 年	日本古典文学に係る特定の問題の演習	
	国302	漢文学講読Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	漢文学の基礎的作品の講読	教員免許外 科目
	国303	漢文学講読Ⅱ	2	2-0	2~4	前又は後	漢文学の基礎的作品の講読	
	国304	漢文学特講ⅠA	2	2-0	3~4	前	漢文学についての専門的講義	教員免許外 科目
	国305	漢文学特講ⅠB	2	2-0	3~4	後	漢文学についての専門的講義	
	国306	漢文学特講ⅡA	2	2-0	3~4	前	漢文学についての専門的講義	教員免許外 科目
	国307	漢文学特講ⅡB	2	2-0	3~4	後	漢文学についての専門的講義	
	国308	漢文学特講Ⅲ	2	2-0	1~4	前又は後	漢文学についての専門的講義	教員免許外 科目
	国309	漢文学演習Ⅰ	2	0-2	3~4	通 年	漢文学に係る特定の問題の演習	
	国310	漢文学演習Ⅱ	2	0-2	3~4	通 年	漢文学に係る特定の問題の演習	教員免許外 科目
	国414	ことばの教育特講ⅠA	2	2-0	3~4	前	ことばの教育についての専門的講義	
	国415	ことばの教育特講ⅠB	2	2-0	3~4	後	ことばの教育についての専門的講義	教員免許外 科目
	国416	ことばの教育特講ⅡA	2	2-0	3~4	前	ことばの教育についての専門的講義	
	国417	ことばの教育特講ⅡB	2	2-0	3~4	後	ことばの教育についての専門的講義	教員免許外 科目
	国418	ことばの教育特講ⅢA	2	2-0	3~4	前	ことばの教育についての専門的講義	
	国419	ことばの教育特講ⅢB	2	2-0	3~4	後	ことばの教育についての専門的講義	大学が独自に 設定する科目
	国420	ことばの教育特講ⅣA	2	2-0	3~4	前又は後	ことばの教育についての専門的講義	
	国421	ことばの教育特講ⅣB	2	2-0	3~4	前又は後	ことばの教育についての専門的講義	教員免許外 科目
	国422	ことばの教育特講Ⅴ	2	2-0	1~4	前又は後	ことばの教育についての専門的講義	
	国423	ことばの教育特講Ⅵ	2	2-0	1~4	前又は後	ことばの教育についての専門的講義	教員免許外 科目
	国424	ことばの教育演習Ⅰ	2	0-2	3~4	通 年	ことばの教育に係る特定の問題の演習	
	国425	ことばの教育演習Ⅱ	2	0-2	3~4	通 年	ことばの教育に係る特定の問題の演習	大学が独自に 設定する科目
	国426	ことばの教育演習Ⅲ	2	0-2	3~4	通 年	ことばの教育に係る特定の問題の演習	
	国427	ことばの教育演習Ⅳ	2	0-2	3~4	通 年	ことばの教育に係る特定の問題の演習	教員免許外 科目
	国428	ことばの教育フィールド ワークⅠ	2	0-2	1~4	集 中	現場の参観・実践等によることばの教育の探究	
	国429	ことばの教育フィールド ワークⅡ	2	0-2	1~4	集 中	現場の参観・実践等によることばの教育の探究	小学校・教 科に関する 科目 小学校・教 科の指導法 教員免許外 科目
自 由	国401	国語概説	2	2-0	1~2	前又は後	小学校国語の全領域にわたる基本的事項の概説 (書写を含む。)	
	国402	初等国語科教育法	2	2-0	2~3	前又は後	小学校国語科教育についての基礎的研究	
	国502	書道Ⅱ	1	0-2	1~4	後	硬筆及び毛筆によるさまざまな書体の理論と実習	
	国504	沖縄のことばと文化	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄の言語文化をめぐる諸事項の概説	
	国505	沖縄の文学	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄の文学についての講読を含む概説	
	国506	思春期の自立とことば	2	2-0	1~4	前又は後	思春期の人間形成と言語との関わりについての概説	

中学校・教職に関する科目(教科の指導法に関する科目)

必修 選択 の別	科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	
必 修	国403	国語科教育法A	2	2-0	2~3	前又は後	学習指導要領を踏まえた授業構想を学ぶ	中学校・教 科の指導法
	国404	国語科教育法B	2	2-0	2~3	前又は後	具体的実践例をもとに授業を構想する	
	国405	国語科教育法C	2	2-0	2~3	前又は後	模擬授業と省察を繰り返し体験的に学ぶ	
	国407	国語教育論Ⅱ	2	2-0	2~3	前又は後	国語科教育に関する歴史や基本的な理論	

③ 社会科教育専修

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受年講次	学期	授業内容	備考	
小コ	中コ									
必修	必修	社100	社会科入門	2	2-0	1	前	社会科で必要とされる基礎的な素養を修得する	教員免許外科目	
		社201	社会科教材研究	2	2-0	2	前	社会科学に関する基礎的研究	大学が独自に設定する科目	
		社202	社会科教育実践研究	2	2-0	2	後	社会科教育に関する実践的知見の修得		
		社301	卒論演習Ⅰ	1	0-2	3	前	卒論テーマに関する研究		教員免許外科目
		社302	卒論演習Ⅱ	1	0-2	3	後	卒論テーマに関する研究		
		社403	卒論演習Ⅲ	1	0-2	4	前	卒論テーマに関する研究		
		社404	卒論演習Ⅳ	1	0-2	4	後	卒論テーマに関する研究		
社499	卒業論文Ⅰ	2	0-4	4	前	特定課題に関する論文の作成	教員免許外科目			
社500	卒業論文Ⅱ	2	0-4	4	後	特定課題に関する論文の作成				
選	必修	社101	日本史概論	2	2-0	2~4	前又は後	日本史に関する重要事項	社会及び地理歴史免許必修	
		社108	外国史概論A	2	2-0	1~4	前又は後	世界史を構成する主要地域の特徴(東洋史的分野)	社会及び地理歴史免許1科目必修	
	社115	外国史概論B	2	2-0	1~4	前又は後	世界史の展開と基礎概念(西洋史的分野)			
	必修	社121	人文地理学概論	2	2-0	1~2	前	人文地理学の一般理論及び地誌の基礎的概念	社会及び地理歴史免許2科目必修	
		社230	自然地理学概論	2	2-0	1~4	前又は後	大気圏・水圏・地圏の自然環境を概説する(地誌の内容を含む)		
	1科目必修	社247	法学概論	2	2-0	1~4	前又は後	法学(国際法を含む)の基礎的概念および方法について概観する	社会及び公民免許1科目必修	
		社521	政治学概論	2	2-0	1~4	前又は後	政治学の基礎的概念及び方法(国際政治の内容を含む)		
	1科目必修	社192	社会学概論	2	2-0	1~4	前又は後	社会学の基礎的諸概念についての概説	〃	
		社161	経済学概論	2	2-0	1~4	前又は後	経済現象を把握する基礎的諸概念(国際経済の内容を含む)	〃	
	1科目必修	社181	哲学概説	2	2-0	2~4	前	哲学の一般的概論	〃	
		社491	倫理学	2	2-0	2~4	前又は後	倫理学の基本的な概観	〃	
	1科目必修	社221	地誌学概論A	2	2-0	1~4	前又は後	自然環境と人間活動との関係を概説する	社会及び地理歴史免許1科目必修	
		社222	地誌学概論B	2	2-0	1~4	前又は後	総合地誌学の方法による日本地誌及び外国地誌の考察を行う		
	択	選	社516	歴史学史料講読Ⅰ(日本史)	2	0-2	1~4	前又は後	歴史学に関する基礎史料読解(日本史琉球史)	〃
			社517	歴史学史料講読Ⅱ(日本史)	2	0-2	1~4	前又は後	〃	
			社518	歴史学史料講読Ⅲ(日本史)	2	0-2	1~4	前又は後	〃	
			社519	歴史学史料講読Ⅳ(日本史)	2	0-2	1~4	前又は後	〃	
			社520	歴史学史料講読Ⅴ(外国史)	2	0-2	1~4	前又は後	歴史学に関する基礎史料の読解(東洋史分野)	
			社522	歴史学史料講読Ⅵ(外国史)	2	0-2	1~4	前又は後	〃	
			社525	歴史学史料講読Ⅶ(外国史)	2	0-2	1~4	前又は後	〃	
社526			歴史学史料講読Ⅷ(外国史)	2	0-2	1~4	前又は後	〃		
社420			歴史学特殊講義Ⅰ(日本史)	2	2-0	1~4	前又は後	日本史・琉球史における諸問題を考察		
社421			歴史学特殊講義Ⅱ(日本史)	2	2-0	1~4	前又は後	〃		
社422			歴史学特殊講義Ⅲ(日本史)	2	2-0	1~4	前又は後	〃		
社423			歴史学特殊講義Ⅳ(日本史)	2	2-0	1~4	前又は後	〃		
社424			歴史学特殊講義Ⅴ(外国史)	2	2-0	1~4	前又は後	歴史学における専門領域の考察(東洋史)		
社425	歴史学特殊講義Ⅵ(外国史)	2	2-0	1~4	前又は後	〃				
社426	歴史学特殊講義Ⅶ(外国史)	2	2-0	1~4	前又は後	〃				
社427	歴史学特殊講義Ⅷ(外国史)	2	2-0	1~4	前又は後	〃				

必修選択 の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考	
小コ	中コ									
選	選	社321	歴史学演習 I	1	0-2	3	前	歴史学の諸問題に関する課題研究、発表、討論		
		社322	歴史学演習 II	1	0-2	3	後	〃		
		社329	歴史学演習 III	1	0-2	4	前	〃		
		社330	歴史学演習 IV	1	0-2	4	後	〃		
		社531	史学文献講読 I	2	2-0	1~4	後	歴史学に関する外書の研究		
		社532	史学文献講読 II	2	2-0	1~4	後	歴史学に関する外書の研究		
		社611	海洋文化史論	2	2-0	1~4	前又は後	海洋地域の文化・自然・歴史について論ずる		
		社621	島嶼歴史文化研究 I	2	2-0	1~4	前又は後	島嶼の特質を歴史文化の視点から考察する		
		社622	島嶼歴史文化研究 II	2	2-0	1~4	前又は後	島嶼の特質を歴史文化の視点から考察する		
		社623	島嶼歴史文化研究 III	2	2-0	1~4	前又は後	〃		
		社624	島嶼歴史文化研究 IV	2	2-0	1~4	前又は後	島嶼の特質を歴史文化の視点から考察する		
		社631	琉球・東アジアの史籍 I	2	2-0	1~4	前又は後	漢文・和文の典籍・文書類を精読する。		
		社632	琉球・東アジアの史籍 II	2	2-0	1~4	前又は後	〃		
		社633	琉球・東アジアの史籍 III	2	2-0	1~4	前又は後	〃		
	社634	琉球・東アジアの史籍 IV	2	2-0	1~4	前又は後	〃			
	択	択	社233	地理学外書講読 I	2	2-0	1~4	前又は後		地理学に関する外書の輪読
			社234	地理学外書講読 II	2	2-0	1~4	前又は後		〃
			社331	地理学演習 I	1	0-2	3	前		論文の研究・討議およびレポートの提出
			社332	地理学演習 II	1	0-2	3	後		〃
			社336	地理学演習 III	1	0-2	4	前		〃
			社337	地理学演習 IV	1	0-2	4	後		〃
			社335A	地理学実習 I(人文地理)	1	0-3	1~4	前		野外調査を主体とする
			社338A	地理学実習 II(人文地理)	1	0-3	2~4	後		〃
			社341A	地理学実習 III(人文地理)	1	0-3	3~4	前		〃
			社342A	地理学実習 IV(人文地理)	1	0-3	3~4	後		〃
			社421A	地理学実習 V(人文地理)	1	0-3	4	前		〃
			社422A	地理学実習 VI(人文地理)	1	0-3	4	後		〃
			社553	地理学実習 VII(人文地理)	1	0-3	1~4	前		〃
			社554	地理学実習 VIII(人文地理)	1	0-3	1~4	後		〃
			社335B	地理学実習 I(自然地理)	1	0-3	1~4	前		野外調査を主体とする
			社338B	地理学実習 II(自然地理)	1	0-3	1~4	後		〃
			社341B	地理学実習 III(自然地理)	1	0-3	1~4	前		〃
			社342B	地理学実習 IV(自然地理)	1	0-3	1~4	後		〃
社421B			地理学実習 V(自然地理)	1	0-3	1~4	前	〃		
社422B			地理学実習 VI(自然地理)	1	0-3	1~4	後	〃		
社551	地理学実習 VII(自然地理)	1	0-3	1~4	前	〃				
社552	地理学実習 VIII(自然地理)	1	0-3	1~4	後	〃				
社430	地理学特殊講義 I	2	2-0	1~4	前又は後	人文地理学の個別分野について詳説する				
社431	地理学特殊講義 II	2	2-0	1~4	前又は後	〃				
社432	地理学特殊講義 III	2	2-0	1~4	前又は後	〃				
社433	地理学特殊講義 IV	2	2-0	1~4	前又は後	〃				
社434	地理学特殊講義 V	2	2-0	1~4	前又は後	自然地理学の個別分野について詳説する				
社435	地理学特殊講義 VI	2	2-0	1~4	前又は後	〃				
社436	地理学特殊講義 VII	2	2-0	1~4	前又は後	〃				
社437	地理学特殊講義 VIII	2	2-0	1~4	前又は後	〃				
社635	琉球と東アジアの地誌	2	2-0	1~4	前又は後	琉球列島を含めた東アジアの地域性を解説する				
社636	琉球弧の自然環境	2	2-0	1~4	後	琉球弧の自然環境を系統的かつ総合的に概説する				

教員免許外科目

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考	
小コ	中コ									
選 択	選	社248	国際法概論	2	2-0	1~4	前又は後	国際法に関する基礎的概念について考察する	教員免許外科目	
		社339	法学演習 I	1	0-2	3	前	現実の社会問題について、法的視点から分析する		
		社340	法学演習 II	1	0-2	3	後	〃		
		社344	法学演習 III	1	0-2	4	前	〃		
		社345	法学演習 IV	1	0-2	4	後	〃		
		社541	法学文献講読 I	2	2-0	2~4	前又は後	リーガルマインド(法的素養)を養うために、法学の基礎的文献を精読する		
		社542	法学文献講読 II	2	2-0	2~4	前又は後	〃		
		社443	法学特殊講義 I	2	2-0	1~4	前又は後	特定の法的問題に関する講義		
		社444	法学特殊講義 II	2	2-0	1~4	前又は後	〃		
		社445	法学特殊講義 III	2	2-0	1~4	前又は後	〃		
		社446	法学特殊講義 IV	2	2-0	1~4	前又は後	特定の法的問題に関する講義		
		社447	法教育特殊講義 I	2	2-0	2~4	前又は後	法教育の意義・内容等に関する講義		
		社448	法教育特殊講義 II	2	2-0	2~4	前又は後	法教育の意義・内容等に関する講義		
		社560	沖縄と法	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄における法的問題について考察する		
	択	択	社163	国際経済論	2	2-0	1~4	前又は後	諸国民経済間の相互関係	
			社375	経済学演習 I	1	0-2	3	前	特定テーマの資料研究、調査研究	
			社376	経済学演習 II	1	0-2	3	後	特定テーマの資料研究、調査研究	
			社377	経済学演習 III	1	0-2	4	前	〃	
			社378	経済学演習 IV	1	0-2	4	後	〃	
			社471	経済学特殊講義 I	2	2-0	2~4	前又は後	経済学の特定問題に関する講義	
			社472	経済学特殊講義 II	2	2-0	2~4	前又は後	〃	
			社473	経済学特殊講義 III	2	2-0	2~4	前又は後	〃	
			社474	経済学特殊講義 IV	2	2-0	2~4	前又は後	〃	
			社370	経済時事問題演習 I	2	2-0	2~4	前又は後	そのときどきの経済時事問題を検討する	
			社371	経済時事問題演習 II	2	2-0	2~4	前又は後	〃	
			社385	哲学史 I	2	2-0	2~4	前	西洋哲学史の概説	
			社386	哲学史 II	2	2-0	2~4	後	〃	
社382	哲学史 III	2	2-0	2~4	前	〃				
社383	哲学史 IV	2	2-0	2~4	後	〃				
社387	哲学演習 I	1	0-2	3	前	特定の哲学論文・著書の研究				
社388	哲学演習 II	1	0-2	3	後	〃				
社389	哲学演習 III	1	0-2	4	前	特定の哲学論文・著書の研究				
社384	哲学演習 IV	1	0-2	4	後	〃				
社487	哲学特殊講義 I	2	2-0	2~4	前	特定の哲学的主題の研究				
社488	哲学特殊講義 II	2	2-0	2~4	後	〃				
社489	哲学特殊講義 III	2	2-0	2~4	前	特定の哲学的主題の研究				
社490	哲学特殊講義 IV	2	2-0	2~4	後	〃				
社561	沖縄/日本の思想	2	2-0	2~4	後	沖縄及び日本の思想的営みについて考察する	教員免許外科目			

必修選択 の別		科目番号	授業科目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考	
小コ	中コ									
選	選	社510	歴史資料講読 I	2	2-0	2~4	前又は後	歴史的資料(日本史)について精読する	教員免許外科 目	
		社511	歴史資料講読 II	2	2-0	2~4	前又は後	歴史的資料(外国史)について精読する		
		社512	地理資料講読 I	2	2-0	2~4	前又は後	地理的資料について精読する		
		社513	地理資料講読 II	2	2-0	2~4	前又は後	〃		
		社310	社会科教育演習 I	1	0-2	3	前	社会科の教科内容に関する研究		
		社311	社会科教育演習 II	1	0-2	3	後	〃		
		社312	社会科教育演習 III	1	0-2	4	前	〃		
		社313	社会科教育演習 IV	1	0-2	4	後	〃		
		社410	社会科教育特殊講義 I	2	2-0	2~4	前又は後	社会科教育の特定問題に関する講義		
		社411	社会科教育特殊講義 II	2	2-0	2~4	前又は後	〃		
		社412	社会科教育特殊講義 III	2	2-0	2~4	前又は後	〃		
		社413	社会科教育特殊講義 IV	2	2-0	2~4	前又は後	〃		
		社514	公民科教育資料講読 I	2	2-0	2~4	前又は後	公民科に関わる資料について精読する		
		社515	公民科教育資料講読 II	2	2-0	2~4	前又は後	〃		
	択	択	社527	政治学特殊講義 I	2	2-0	2~4	前又は後	政治学に関する特殊問題の研究	
			社528	政治学特殊講義 II	2	2-0	2~4	前又は後	〃	
			社529	政治学特殊講義 III	2	2-0	2~4	前又は後	政治学に関する特殊問題の研究	
			社530	政治学特殊講義 IV	2	2-0	2~4	前又は後	〃	
			社533	政治学外書講読 I	2	0-2	2~4	前又は後	政治学に関する外国書の講読	
			社534	政治学外書講読 II	2	0-2	2~4	前又は後	〃	
			社537	政治学実習 I	1	0-2	2~4	前	国際政治、国内政治の実地調査	
			社538	政治学実習 II	1	0-2	2~4	後	国際政治、国内政治の実地調査	
			社539	政治学実習 III	1	0-2	2~4	前	〃	
			社540	政治学実習 IV	1	0-2	2~4	後	〃	
			社543	政治学演習 I	1	0-2	3	前	政治学に関する課題研究	
			社544	政治学演習 II	1	0-2	3	後	〃	
社545			政治学演習 III	1	0-2	4	前	〃		
社546			政治学演習 IV	1	0-2	4	後	〃		
社641			地域経営基礎	2	2-0	2	後	地域づくりの基礎と現状を理解する		
社642			地域経営論	2	2-0	2~4	前又は後	地域経営の現状と課題		
社523			行政学	2	2-0	2~4	前又は後	行政の機能と構造		
社524			地方自治論	2	2-0	2~4	前又は後	自治の現状と問題点		
社559			沖縄の政治	2	2-0	2~4	前又は後	現代沖縄の政治問題を突く		
社651	市民性教育実習 I	1	0-2	3	前又は後	市民的な能力と地域づくりの力を身につける				
社652	市民性教育実習 II	1	0-2	3	前又は後	市民的な能力と地域づくりの力を身につける				
社653	国際関係概論	2	2-0	1~4	前又は後	平和・安全保持研究				

必修選択 の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考
小コ	中コ								
選 選	選 選	社251	社会調査 I	1	0-2	2~4	前	社会学に基づく調査研究	
		社252	社会調査 II	1	0-2	2~4	後	〃	
		社351	社会学演習 I	1	0-2	3	前	社会学に関する研究発表、討論	
		社352	社会学演習 II	1	0-2	3	後	〃	
		社353	社会学演習 III	1	0-2	4	前	〃	
		社354	社会学演習 IV	1	0-2	4	後	〃	
		社355	社会学方法論	2	2-0	1~4	前又は後	社会学の方法論に関する概説	
		社356	社会学学説研究 I	2	2-0	1~4	前又は後	社会学諸学説の検討	
		社357	社会学学説研究 II	2	2-0	1~4	前又は後	〃	
		社451	社会学特殊講義 I	2	2-0	1~4	前又は後	社会学に関する特殊問題の研究	
		社452	社会学特殊講義 II	2	2-0	1~4	前又は後	〃	
		社453	社会学特殊講義 III	2	2-0	1~4	前又は後	〃	
		社454	社会学特殊講義 IV	2	2-0	1~4	前又は後	〃	
		社612	沖縄地域学習特殊講義 I	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄の地域学習の特質について講義する	
		社613	沖縄地域学習特殊講義 II	2	2-0	1~4	前又は後	沖縄の地域学習の特質について講義する	
社637	現代沖縄社会概説	2	2-0	2	前又は後	現代の沖縄社会の社会状況を概観する			
自 自	自 自	社402	社会認識教育実践論	2	2-0	2	前	社会認識教育に関する実践的研究	教員免許外科 目
		社601	へき地認識概説	2	2-0	1~4	前又は後	へき地教育について概観する	
		社602	へき地認識実践論	2	2-0	1~4	前又は後	へき地教育の具体像を探究	
		社603	へき地認識演習 I	1	0-2	1~4	前又は後	へき地教育に関する研究	
		社604	へき地認識演習 II	1	0-2	1~4	前又は後	〃	
由 由									

高校免許「地理歴史」と「公民」に必要な科目と最低修得単位数

※下記の必修・選択は免許取得に係る必修・選択区分(卒業要件の必修選択とは別)

高校免許「地理歴史」				高校免許「公民」			
必修選択の別	授業科目	単位	備考	必修選択の別	授業科目	単位	備考
必修	日本史概論	2	} 1科目必修	必修	法学概論	2	} 1科目必修
	外国史概論A	2			政治学概論	2	
	外国史概論B	2			社会学概論	2	} 1科目必修
	人文地理学概論	2			経済学概論	2	
	自然地理学概論	2			哲学概説	2	} 1科目必修
地誌学概論A	2	倫理学	2				
地誌学概論B	2	} 1科目必修	選択	上記のうち必修科目として取得しなかった科目及び関連する専門科目の中から必要な単位数を修得。但し卒業論文は含まない。	14		
合計	20		合計	20			
教職科目(教科教育法)				教職科目(教科教育法)			
2科目必修	社会科教育法Ⅲ 社会科教育法Ⅳ	2 2	高校の地理歴史の免許の修得をする学生は、Ⅲ、Ⅳの2科目必修	2科目必修	社会科教育法Ⅰ 社会科教育法Ⅱ	2 2	高校の公民の免許の修得をする学生は、Ⅰ、Ⅱの2科目必修

社会科教育専修提供の小学校関係科目

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
小コ	中コ								
必修	自由	社290	社会科要説	2	2-0	1~2	前・後	社会科の基礎的内容について概説	
		社390	初等社会科教育法	2	2-0	2~3	前・後	小学校社会科教育の目標、内容、方法等に関する具体的講術	

社会科教育専修提供の中学校関係科目

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
小コ	中コ								
自由	必修	社393	社会科教育法Ⅰ	2	2-0	2~3	前・後	社会科教育(公民系)の目標、内容、方法等に関する指導	
		社394	社会科教育法Ⅱ	2	2-0	2~3	前・後	社会科教育(公民系)の内容とその展開の研究	
		社400	社会科教育法Ⅲ	2	2-0	2~3	前・後	社会科教育(地理歴史系)の目標、内容、方法等に関する指導	
		社401	社会科教育法Ⅳ	2	2-0	2~3	前・後	社会科教育(地理歴史系)の内容とその展開の研究	

④ 数学教育専修

必修選択の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考	
小コ	中コ									
必修	必修	教数101	数学講読Ⅰ	1	0-1	1	前	数学書講読	教員免許外科目	
	自由	教数102	数学講読Ⅱ	1	0-1	1	後	数学書講読		
選択必修（9単位以上）	必修	教数151	数学入門Ⅰ	2	2-0	1	前	数学全般について種々の立場から考察	小学校教育コースはこの内から9単位選択必修	
		教数152	数学入門Ⅱ	2	2-0	1	後	数学全般について種々の立場から考察		
		教数241	情報数学Ⅰ	2	2-0	3	前	コンピュータと言語に関する講義		
		教数244	確率統計学Ⅰ	2	2-0	2	後	確率統計学に関する講義		
		教数111	代数学序論Ⅰ	2	2-0	2	前	代数系入門1		
		教数112	代数学序論Ⅱ	2	2-0	2又は3	後	代数系入門2		
		教数131	解析学序論Ⅰ	2	2-0	2	前	微分積分学の基礎に関する講義		
		教数132	解析学序論Ⅱ	2	2-0	2又は3	後	微分積分学の発展と応用に関する講義		
		教数221	幾何学序論Ⅰ	2	2-0	2	後	初等幾何に関する講義		
		教数222	幾何学序論Ⅱ	2	2-0	3	前	立体幾何・曲線・曲面		
		数教211	代数学序論Ⅰ 演習	1	0-1	2	前	代数学に関する演習		
		数教231	解析学序論Ⅰ 演習	1	0-1	2	前	解析学に関する演習		
		数教223	幾何学序論Ⅰ 演習	1	0-1	2	後	幾何学に関する演習		
		数教245	確率統計学Ⅰ 演習	1	0-1	2	後	確率統計学に関する演習		
必修	必修	教数401	卒業研究Ⅰ	2	0-4	4	前	課題研究(ゼミ形式)	教員免許外科目	
		教数402	卒業研究Ⅱ	2	0-4	4	後	課題研究(ゼミ形式)		
選択	選択必修（6単位以上）	教数311	代数学Ⅰ	2	2-0	3	前又は後	代数構造の基礎に関する講義	中学校教育コースはこの内から6単位選択必修	
		教数312	代数学Ⅱ	2	2-0	3	前又は後	代数構造の応用に関する講義		
		教数321	幾何学Ⅰ	2	2-0	3	前又は後	基礎的な幾何構造に関する講義		
		教数322	幾何学Ⅱ	2	2-0	3	前又は後	いろいろな幾何構造に関する講義		
		教数331	解析学Ⅰ	2	2-0	3	前又は後	古典的な実解析学に関する講義		
		教数332	解析学Ⅱ	2	2-0	3	前又は後	複素解析学に関する講義		
		教数344	確率統計学Ⅱ	2	2-0	3	前又は後	確率統計学に関する講義		
		教数341	情報数学Ⅱ	2	2-0	3	後	プログラミングに関する講義		
		教数347	離散数学Ⅰ	2	2-0	3又は4	前又は後	基本的な離散構造に関する講義		
		教数348	離散数学Ⅱ	2	2-0	3又は4	前又は後	いろいろな離散構造に関する講義		
	選択	選択	教数411	代数学特論Ⅰ	2	2-0	4	前又は後		代数学の特定分野に関する講義
			教数412	代数学特論Ⅱ	2	2-0	4	前又は後		〃
			教数421	幾何学特論Ⅰ	2	2-0	4	前又は後		幾何学の特定分野に関する講義
			教数422	幾何学特論Ⅱ	2	2-0	4	前又は後		〃
			教数431	解析学特論Ⅰ	2	2-0	4	前又は後		解析学の特定分野に関する講義
			教数432	解析学特論Ⅱ	2	2-0	4	前又は後		〃
			教数441	情報数学特論Ⅰ	2	2-0	4	前又は後		情報数学の特定分野に関する講義
			教数442	情報数学特論Ⅱ	2	2-0	4	前又は後		〃
自由	自由	数教251	算数・数学教材研究	2	2-0	2~3	前又は後	算数・数学教育の教材に関する講義	教員免許外科目	
		数教252	算数・数学実践研究	2	2-0	2~3	前又は後	算数・数学教育の実践に関する講義		
自由	自由	教数301	数学特別講義Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	数学の特定分野に関する講義	教員免許外科目	
		教数302	数学特別講義Ⅱ	2	2-0	2~4	前又は後	数学の特定分野に関する講義		
		教数303	数学特別講義Ⅲ	2	2-0	2~4	前又は後	数学の特定分野に関する講義		
		教数304	数学特別講義Ⅳ	2	2-0	2~4	前又は後	数学の特定分野に関する講義		
		教数305	数学特別講義Ⅴ	2	2-0	2~4	前又は後	数学の特定分野に関する講義		
		教数306	数学特別講義Ⅵ	2	2-0	2~4	前又は後	数学の特定分野に関する講義		

数学教育専修提供の課程共通科目

小学校10教科専門科目

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受年 講次	学期	授業内容	備考
小コ	中コ								
必修	自由	教数201	数学概論	2	2-0	1~3	前・後	数学的アイデア、方法等についての概説	

教職科目(教科の指導法に関する科目)

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受年 講次	学期	授業内容	備考
小コ	中コ								
必修	自由	教数355	初等算数科教育法	2	2-0	2	前・後	小学校算数科教育の目標、内容、方法等に関する具体的講述	
自由	必修	教数353	数学科教育法A	2	2-0	2	後	数学教育の目的、内容、方法、歴史等に関する概説	
		教数354	数学科教育法B	2	2-0	3	前	数学教育の内容、教材、方法に関する具体的講述	
		教数356	数学科教育法C	2	2-0	3	前	数学教育の教材、方法、授業に関する実践的講述	
		教数351	数学科教育法D	2	2-0	3	後	数学教育の目的、内容、方法等の特定領域に関する考究	

⑤ 理科教育専修

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考	
小コ	中コ									
必修	選択	理112	物理学Ⅰ	2	2-0	1	後	物理学の基礎知識、基本概念について解説する	小学校教科の専門性を高める科目	
		理131	化学Ⅰ	2	2-0	1	前	化学の基礎知識、基本概念について解説する		
		理151	生物学Ⅰ	2	2-0	1	前	生物の基本的な構造と機能に関する解説		
		理271	地学Ⅰ	2	2-0	1	後	地球科学の基礎について講義する		
	必修		理213	物理学実験Ⅰ	2	0-4	2	前	コンピュータ活用を含む物理学の基礎的実験	
			理134	化学実験Ⅰ	2	0-4	2	前	コンピュータの活用を含む化学の基礎的実験	
			理153	生物学実験Ⅰ	2	0-4	2	前	コンピュータの活用を含む生物学の基礎的実験	
			理172	地学実験Ⅰ	2	0-4	2	前	コンピュータの活用を含む地学の基礎的実験	
選択	必修	理211	物理学Ⅱ	2	2-0	2	後	波動、電磁気学などを解説する		
		理232	化学Ⅱ	2	2-0	2	後	化学結合、速度論、平衡論、生命化学などを解説する		
		理252	生物学Ⅱ	2	2-0	2	後	生物の生命現象と進化に関する解説		
		理272	地学Ⅱ	2	2-0	2	後	天文、気象、海洋に関する概説		
	選択		理214	物理学実験Ⅱ	1	0-2	2	後	コンピュータの活用を含む物理学の基礎的実験	(後学期前半)
			理234	化学実験Ⅱ	1	0-2	2	後	コンピュータの活用を含む化学Ⅲに関連する基礎実験を行う	(前学期前半)
			理254	生物学実験Ⅱ	1	0-2	2	後	コンピュータ活用を含む生物学に関する基礎的実験	(後学期後半)
			理273	地学実験Ⅱ	1	0-2	2	後	コンピュータ活用を含む地球科学の実験・実習	(前学期後半)
必修		理400	課題研究Ⅰ	2	0-6	4	前	特定のテーマについて教官の指導の下で研究する		
		理401	課題研究Ⅱ	2	0-6	4	後			
選択	選択	理201	理科野外実習	1	0-2	2	前又は後	フィールドワークや施設見学により、理科に関する野外観察や実社会での利用について学ぶ		
		理301	理科教材研究	2	2-0	3	前又は後	児童生徒の学びの実態を踏まえた理科教材の開発を行う		
		理302	理科実践研究	2	2-0	4	前	児童生徒の学びの実態を踏まえた理科教材を活用した実践を行う		
	選択		理222	物理学Ⅲ	2	2-0	3	前	基礎的な量子論とその周辺分野の概説	
			理313	物理学実験Ⅲ	2	0-4	3	後	現代物理学と関連した複数の実験・実習	
			理223	物理学Ⅳ	2	2-0	3	前	現代物理学と最先端科学技術についての概説	
			理334	化学Ⅲ	2	2-0	3	前	無機化学、分析化学の専門的理論及び実践について解説する	

必修選択の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考
小コ	中コ								
選 択	選 択	理333	化学実験Ⅲ	2	0-4	3	後	化学Ⅲに関連する実験を行う	教員免許外 科目
		理335	化学Ⅳ	2	2-0	3	前	有機化学の専門的理論及び実践について解説する	
		理337	化学実験Ⅳ	2	0-4	3	後	化学Ⅳに関連する実験を行う	
		理256	生物学Ⅲ	2	2-0	3	前	植物の多様性、分類、進化に関する解説	
		理355	生物学Ⅳ	2	2-0	3	前	動物の生態、多様性、進化、保全に関する解説	
		理258	生物学実験Ⅲ	2	0-4	3	後	調査、研究方法と資料の整理、まとめ方と実習(野外実習)	
		理357	生物学実験Ⅳ	2	0-4	3	前	調査、研究方法の解説とデータのまとめ方(野外実習も含む)	
		理372	地学Ⅲ	2	2-0	3	前	地史古生物学の基礎と地球表層環境の変遷と生物の進化に関する講義	
		理375	地学Ⅳ	2	2-0	3	前	地球科学に関連する自然環境問題を講義する	
		理374	地球科学野外実習	1	0-2	3	前	地球科学分野の集中的野外実習	
		理511	物理学演習ⅠA	2	0-2	3	後	物理学の特定分野に関する演習	
		理512	物理学演習ⅠB	2	0-2	3	後	物理学の特定分野に関する演習	
		理531	化学演習ⅠA	2	0-2	3	後	化学の特定分野に関する演習	
		理532	化学演習ⅠB	2	0-2	3	後	化学の特定分野に関する演習	
		理551	生物学演習ⅠA	2	0-2	3	後	生物学の特定分野に関する演習	
		理552	生物学演習ⅠB	2	0-2	3	後	生物学の特定分野に関する演習	
		理571	地学演習ⅠA	2	0-2	3	後	地学の特定分野に関する演習	
		理572	地学演習ⅠB	2	0-2	3	後	地学の特定分野に関する演習	
		理591	理科教育学演習ⅠA	2	0-2	3	後	理科教育学の特定分野に関する演習	
		理592	理科教育学演習ⅠB	2	0-2	3	後	理科教育学の特定分野に関する演習	
		理513	物理学演習ⅡA	2	0-2	4	前	物理学の特定分野に関する演習	
		理514	物理学演習ⅡB	2	0-2	4	前	物理学の特定分野に関する演習	
		理533	化学演習ⅡA	2	0-2	4	前	化学の特定分野に関する演習	
		理534	化学演習ⅡB	2	0-2	4	前	化学の特定分野に関する演習	
		理553	生物学演習ⅡA	2	0-2	4	前	生物学の特定分野に関する演習	
		理554	生物学演習ⅡB	2	0-2	4	前	生物学の特定分野に関する演習	
		理573	地学演習ⅡA	2	0-2	4	前	地学の特定分野に関する演習	
		理574	地学演習ⅡB	2	0-2	4	前	地学の特定分野に関する演習	
理594	理科教育学演習ⅡA	2	0-2	4	前	理科教育学の特定分野に関する演習			
理595	理科教育学演習ⅡB	2	0-2	4	前	理科教育学の特定分野に関する演習			
自 由	自 由	理411	物理学特殊講義Ⅰ	2	2-0	1~4	前又は後	物理学の特定分野に関する講義	教員免許外 科目
		理412	物理学特殊講義Ⅱ	2	2-0	1~4	前又は後	物理学の特定分野に関する講義	
		理431	化学特殊講義Ⅰ	2	2-0	1~4	前又は後	化学の特定分野に関する講義	
		理432	化学特殊講義Ⅱ	2	2-0	1~4	前又は後	化学の特定分野に関する講義	
		理451	生物学特殊講義Ⅰ	2	2-0	1~4	前又は後	生物学の特定分野に関する講義	

必修選択の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考
小コ	中コ								
自 由	自 由	理452	生物学特殊講義Ⅱ	2	2-0	1~4	前又は後	生物学の特定分野に関する講義	教員免許外 科目
		理471	地学特殊講義Ⅰ	2	2-0	1~4	前又は後	地学の特定分野に関する講義	
		理472	地学特殊講義Ⅱ	2	2-0	1~4	前又は後	地学の特定分野に関する講義	
		理491	理科教育特殊講義Ⅰ	2	2-0	1~4	前又は後	理科教育の特定分野に関する講義	
		理492	理科教育特殊講義Ⅱ	2	2-0	1~4	前又は後	理科教育の特定分野に関する講義	

理科教育専修提供の課程共通科目

小学校10教科専門科目

必修選択の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考
小選	中選								
		理200	自然科学概論	2	2-0	1~3	前・後	小学校理科を教える上で必要な自然科学的な知識や考え方を概説する	理科教育専修を除く
必修	選択	理300	自然科学	2	2-0	1~3	前	自然科学の研究手法、基礎的内容についての講義	理科教育専修対象

教職科目(教科の指導法に関する科目)

必修選択の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考
小選	中選								
必修	選択	理390	初等理科教育法	2	2-0	2~3	前・後	小学校理科教育の目標、内容、方法等に関する具体的な講述	
選 択	必 修	理391	理科教育法A	2	2-0	3	前	中・高理科教育の目標、内容、方法等に関する総論	
		理392	理科教育法B	2	2-0	3	前又は後	中・高理科教育の教材の活用法や学習評価等に関する概説及び模擬授業の実施とその振り返り	
		理393	理科教育法C	2	2-0	3	前又は後	物理的・地学的内容を中心とした中・高理科教育の教材の効果的な活用法等について	
		理495	理科教育法D	2	2-0	3	前又は後	生物的・化学的内容を中心とした中・高理科教育の教材の効果的な活用法等について	

⑥ 音楽教育専修

必修選択 の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考
小 コ	中 コ								
選	選	音100	スタートアップ音楽	2	2-0	1	前	音楽教育専修での学修に必要な基礎的 スキルを学び、音楽教育への理解を深め て	
必		音131	ソルフェージュA	1	0-2	1	前	読譜及び聴音の基礎	
選	必	音132	ソルフェージュB	1	0-2	1~4	後	読譜及び聴音の応用	
必		音411	指揮法A	1	0-2	3~4	前	指揮法理論及び演習	
選	選	音412	指揮法B	1	0-2	3~4	後	指揮法理論及び演習	指揮法Aを履修済のこと
必	必	音153	声楽 I A	1	0-2	1	前	発声法及び歌唱法の基礎	
	必	音154	声楽 I B	1	0-2	1	後	発声法及び歌唱法の基礎	
選	選 必	音253	声楽 II A	1	0-2	2	前	発声法及び歌唱法の発展演習	声楽 I を履修済みのこと
	選	音254	声楽 II B	1	0-2	2	後	発声法及び歌唱法の発展演習	
必	必	音111	合唱 I A	1	0-2	1	前	合唱理論及び演習	
		音112	合唱 I B	1	0-2	1	後	合唱理論及び演習	
		音211	合唱 II A	1	0-2	2	前	合唱理論及び演習	合唱 I を履修済のこと
選	選	音212	合唱 II B	1	0-2	2	後	合唱理論及び演習	合唱 I を履修済のこと
		音311	合唱 III A	1	0-2	3	前	合唱理論及び演習	合唱 II を履修済のこと
		音312	合唱 III B	1	0-2	3	後	合唱理論及び演習	合唱 II を履修済のこと
必	必	音151	ピアノ I A	1	0-2	1	前	ピアノの基礎的奏法に関する演習	
	必	音152	ピアノ I B	1	0-2	1	後	ピアノ曲の作品解釈と表現に関する基礎 演習	
選	選 必	音251	ピアノ II A	1	0-2	2	前	ピアノ作品様式及び表現技術に関する 演習	ピアノ I を履修済みのこと
	選	音252	ピアノ II B	1	0-2	2	後	ピアノ作品様式及び表現技術に関する 演習	ピアノ II A を履修済みのこと
	必	音155	管・弦・打 I A	1	0-2	1	前	管・弦・打楽器の基礎的奏法に関する演 習	
選	必	音156	管・弦・打 I B	1	0-2	1	後	管・弦・打楽器の基礎的奏法に関する演 習	
	選 必	音255	管・弦・打 II A	1	0-2	2	前	管・弦・打楽器の表現技術に関する演習	管・弦・打 I を履修済みのこと
	選	音256	管・弦・打 II B	1	0-2	2	後	管・弦・打楽器の表現技術に関する演習	
必	必	音221	合奏 I A	1	0-2	1~2	前	オーケストラ合奏	
		音222	合奏 I B	1	0-2	1~2	後	オーケストラ合奏	
		音321	合奏 II A	1	0-2	2~3	前	オーケストラ合奏	合奏 I を履修済のこと
選	選	音322	合奏 II B	1	0-2	2~3	後	オーケストラ合奏	合奏 I を履修済のこと
		音421	合奏 III A	1	0-2	3~4	前	オーケストラ合奏	合奏 II を履修済のこと
		音422	合奏 III B	1	0-2	3~4	後	オーケストラ合奏	合奏 II を履修済のこと
必	必	音245	音楽理論基礎	2	2-0	1	前	和声法の基礎①、楽曲構造分析の基礎	
	必	音246	音楽理論応用	2	2-0	1	後	和声法の基礎②、および作曲・編曲法 の基礎、楽曲構造分析の応用	
		音345	音楽理論演習 I	2	2-0	2	前	和声法、作曲・編曲法の応用 楽曲構造 の分析、および解釈と奏法論の基礎	
選	選	音346	音楽理論演習 II	2	2-0	2~3	後	和声法、作曲・編曲法の応用演習 楽曲 構造の分析および解釈と奏法論の応用	音楽理論演習 I を履修済 みのこと
必	必	音334	音楽史概論	2	2-0	2	後	西洋音楽史、日本や沖縄の伝統音楽及 び民族音楽に関する講義	
選	選	音335	音楽史各論	2	2-0	2~3	前又は後	西洋音楽史、日本や沖縄の伝統音楽及 び民族音楽に関する発展的講義	

必修選択 の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考
小コ	中コ								
必	必	音553	伝統音楽演習Ⅰ	1	0-2	3	前	伝統音楽唱法の実技演習	
		音554	伝統音楽演習Ⅱ	1	0-2	3	後	伝統音楽奏法の実技演習	
		音353	伴奏法	1	0-2	3	前	音楽科指導に必要な鍵盤楽器による歌唱伴奏および伴奏づけの理論と実践	
選	選	音271	音楽科教材研究	2	2-0	2	前	小・中学校音楽科の教科書教材を中心とした教材研究	
		音375	音楽科実践研究	1	2-0	3	前	小・中学校音楽科授業デザイン	音楽科教材研究を履修済のこと
必		音360	音楽科教育演習Ⅰ	2	2-0	3	前	音楽科教育に関する基礎演習	卒論希望者は履修のこと
		音361	音楽科教育演習Ⅱ	2	2-0	3	後	音楽科教育に関する基礎演習	卒論希望者は履修のこと
選	選必	音354	声楽特講Ⅰ	2	1-2	3	前	歌曲、アリア等の独唱の訓練	声楽Ⅰ・Ⅱを履修済みのこと (声楽卒演希望者は履修のこと)
		音355	声楽特講Ⅱ	2	1-2	3	後	歌曲、アリア等の独唱の訓練	
		音351	ピアノ特講Ⅰ	2	1-2	3	前	より高度なピアノ作品と表現技術の演習	ピアノⅠ・Ⅱを履修済みのこと (ピアノ卒演希望者は履修のこと)
		音352	ピアノ特講Ⅱ	2	1-2	3	後	より高度なピアノ作品と表現技術の演習	
		音357	管・弦・打特講Ⅰ	2	1-2	3	前	管・弦・打楽器の作品様式及びより高度な表現技術の演習	管・弦・打Ⅰ・Ⅱを履修済みのこと (管・弦・打卒演希望者は履修のこと)
		音358	管・弦・打特講Ⅱ	2	1-2	3	後	管・弦・打楽器の作品様式及びより高度な表現技術の演習	
		音381	作曲特講Ⅰ	2	2-0	3	前	音楽教育教材のための作・編曲法、及び作品創作	音楽理論演習Ⅰ、Ⅱを履修済みのこと(卒業制作希望者は履修のこと)
		音382	作曲特講Ⅱ	2	2-0	3	後	音楽教育とDTM	
必	必	音471	卒業研究Ⅰ	2	0-4	4	前	中学校教育コース—卒論、卒演、卒作を選択 小学校教育コース—卒論(特定のテーマに関する個別研究)	卒論は音楽教育演習Ⅰ、Ⅱ、卒演は声楽特講、管・弦・打特講、ピアノ特講のいずれかⅠ、Ⅱを、卒作は作曲特講Ⅰ、Ⅱを履修済のこと
		音472	卒業研究Ⅱ	2	0-4	4	後	中学校教育コース—卒論、卒演、卒作を選択 小学校教育コース—卒論(特定のテーマに関する個別研究)	
選	選	音461	アンサンブルⅠA	1	0-2	全	前	室内楽編成によるアンサンブル	
		音462	アンサンブルⅠB	1	0-2	全	後	室内楽編成によるアンサンブル	
		音463	アンサンブルⅡA	1	0-2	全	前	室内楽編成によるアンサンブル	
		音464	アンサンブルⅡB	1	0-2	全	後	室内楽編成によるアンサンブル	
		音465	アンサンブルⅢA	1	0-2	全	前	室内楽編成によるアンサンブル	
		音466	アンサンブルⅢB	1	0-2	全	後	室内楽編成によるアンサンブル	
		音467	アンサンブルⅣA	1	0-2	全	前	室内楽編成によるアンサンブル	
		音468	アンサンブルⅣB	1	0-2	全	後	室内楽編成によるアンサンブル	
		音121	ギターⅠ	1	0-2	1~4	前	ギター奏法の基礎	
		音122	ギターⅡ	1	0-2	1~4	後	ギター奏法の応用	

小学校10教科専門科目

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
小コ	中コ								
必修	選択	音161	音楽	2	1-2	1	前又は後	音楽基礎理論・鍵盤楽器による弾き歌い及びリコーダーに関する基礎的演習	

教職科目(教科の指導法に関する科目)

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
小コ	中コ								
必修	必修 選択	音365	音楽科教育法(小・中)	2	2-0	2~3	前又は後	小学校及び中学校音楽教育の目標、内容、方法等に関する具体的講述と実践	ピアノIA、声楽IA、音楽理論基礎、音楽理論応用を履修済み又は、履修中のこと。
選択		音371	音楽科教育法A(中・高)	2	2-0	2	後	中学校及び高等学校における音楽科教育の基礎理論	
		音372	音楽科教育法B(中・高)	2	2-0	3	前	中学校及び高等学校における音楽科教育の理論と実践の往還	
		音373	音楽科教育法C(中・高)	2	2-0	3	後	中学校及び高等学校における音楽科教育の発展演習	

⑦美術教育専修

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次		学期	授業内容	備考
小コ	中コ					小	中			
必修		美100	スタートアップ美術	1	0-2	1		前	美術教育を学ぶ上での基礎演習	教員免許外科目
		美111	絵画基礎	2	0-4	2	1	前	絵画分野に関する基礎実習	
		美121	彫刻基礎	2	0-4	2	1	前	彫刻分野に関する基礎実習	
		美131	デザイン基礎	2	0-4	2	1	前	デザイン分野に関する基礎実習	
		美142	美術理論・美術史基礎	2	2-0	2	1	後	美術理論・美術史分野に関する基礎講義	
		美151	工芸基礎	2	0-4	2	1	前	工芸分野(陶芸・織染)に関する基礎実習	
5科目選択必修	10科目選択必修	美112	絵画A	2	0-4	2~4	1~4	後	絵画分野に関する実習	
		美122	彫刻A	2	0-4	2~4	1~4	後	彫刻分野に関する実習	
		美132	デザインA	2	0-4	2~4	1~4	後	デザイン分野に関する実習	
		美241	美術理論・美術史A	2	2-0	2~4	2~4	前	美術理論・美術史分野に関する講義	
		美162	陶芸A	2	0-4	2~4	1~4	後	陶芸分野に関する実習	
		美172	織染A	2	0-4	2~4	1~4	後	織染分野に関する実習	
		美211	絵画B	2	0-4	3~4	2~4	前	絵画分野に関する実習	
		美221	彫刻B	2	0-4	3~4	2~4	前	彫刻分野に関する実習	
		美231	デザインB	2	0-4	3~4	2~4	前	デザイン分野に関する実習	
		美242	美術理論・美術史B	2	2-0	3~4	3~4	前	美術理論・美術史分野に関する講義	
		美261	陶芸B	2	0-4	3~4	2~4	前	陶芸分野に関する実習	
		美271	織染B	2	0-4	3~4	2~4	前	織染分野に関する実習	
	美212	絵画C	2	0-4	2~4		後	絵画分野に関する実習		
	美222	彫刻C	2	0-4	2~4		後	彫刻分野に関する実習		
	美232	デザインC	2	0-4	2~4		後	デザイン分野に関する実習		
	美341	美術理論・美術史C	2	2-0	4		前	美術理論・美術史分野に関する講義		
	美262	陶芸C	2	0-4	2~4		後	陶芸分野に関する実習		
	美272	織染C	2	0-4	2~4		後	織染分野に関する実習		
	美311	絵画D	2	2-0	3~4		前	絵画分野に関する演習		
	美321	彫刻D	2	2-0	3~4		前	彫刻分野に関する演習		
	美331	デザインD	2	2-0	3~4		前	デザイン分野に関する演習		
	美342	美術理論・美術史D	2	2-0	3~4		前	美術理論・美術史分野に関する演習		
	美361	陶芸D	2	2-0	3~4		前	陶芸分野に関する演習		
	美371	織染D	2	2-0	3~4		前	織染分野に関する演習		
右より、卒業研究で担当を希望する教員の提供科目を選択必修		美395	卒研基礎1組	2	2-0	3		後	卒業研究に関する基礎演習	教員免許外科目
		美396	卒研基礎2組	2	2-0	3		後	卒業研究に関する基礎演習	
		美397	卒研基礎3組	2	2-0	3		後	卒業研究に関する基礎演習	
		美398	卒研基礎4組	2	2-0	3		後	卒業研究に関する基礎演習	
		美399	卒研基礎5組	2	2-0	3		後	卒業研究に関する基礎演習	
必修		美400	卒業研究	4	1-4	4		通年	卒業論文の執筆、又は卒業作品の制作	

美術教育専修の学生で高等学校教諭一種免許状(美術)取得希望者は、「絵画、彫刻、デザイン、美術理論・美術史の各分野の科目(選択科目を含む)、美術科教育法C(中・高)」から6科目以上選択必修、及び「美術科教育法B(中・高)」必修。※詳細は「教員免許取得の手引」を参照のこと。

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次		学期	授業内容	備考
小コ	中コ					小	中			
選択		美115	版画A	2	2-0	1~4		前又は後	版画に関する演習	
		美125	パブリックアートA	2	2-0	1~4		前	パブリックアートに関する演習	} 教員免許外科目
		美126	パブリックアートB	2	2-0	1~4		後	パブリックアートに関する演習	
		美135	映像メディア表現A	2	2-0	1~4		前	映像メディア表現に関する演習	
		美136	映像メディア表現B	2	2-0	1~4		後	映像メディア表現に関する演習	
		美185	図法及び製図	2	2-0	1~4		前又は後	図形表現の研究	} 高等学校教諭一種免許状(工芸)に必修
		美235	デザイン理論	2	2-0	1~4		前又は後	デザインを中心とした諸問題の研究	
		美265	工芸理論	2	2-0	1~4		前又は後	工芸分野に関する理論的・歴史的考察	
		美285	美術理論各論A	2	2-0	1~4		前	美術の特定テーマに関する講義又は演習	} 教員免許外科目
		美286	美術理論各論B	2	2-0	1~4		後	美術の特定テーマに関する講義又は演習	
		美288	映像芸術論	2	2-0	1~4		前又は後	映像表現に関する講義又は演習	
		美291	現代美術演習A	2	2-0	1~4		前	現代美術に関する演習	
		美292	現代美術演習B	2	2-0	1~4		後	現代美術に関する演習	
		美381	美術・工芸特別講義A	2	2-0	1~4		前	美術・工芸の特定テーマに関する特別講義	
		美382	美術・工芸特別講義B	2	2-0	1~4		後	美術・工芸の特定テーマに関する特別講義	
		美391	美術・工芸特別演習A	2	2-0	1~4		前	美術・工芸の特定テーマに関する特別演習	
	美392	美術・工芸特別演習B	2	2-0	1~4		後	美術・工芸の特定テーマに関する特別演習		

美術教育専修提供の課程共通科目

小学校10教科専門科目

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
小コ	中コ								
必修	選択	美202	小専美術	2	2-0	1~2	前・後	図画工作のための美術の基礎的演習	

教職科目（教科の指導法に関する科目）

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
小コ	中コ								
必修		美251	図工科教育法(小・中)	2	2-0	2	前・後	図工科教育及び美術科教育の目標、内容、方法等についての具体的講述と実践	
必修		美252	美術科教育法A(中・高)	2	2-0	2	前	美術科教育についての基礎的理論及び授業研究	
選択	必修	美351	美術科教育法B(中・高)	2	2-0	3	前	美術科教育の指導内容、指導方法等の研究	
		美352	美術科教育法C(中・高)	2	2-0	3	後	美術科教育の指導内容、指導方法等の研究	
選択		美355	工芸科教育法A	2	2-0	1~4	後	工芸科教育の指導内容、指導方法等の研究	高等学校教諭一種免許状(工芸)に必修
		美356	工芸科教育法B	2	2-0	1~4	後	工芸科教育の指導内容、指導方法等の研究	

教科又は教職に関する科目

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
小コ	中コ								
選択		美357	図工・美術教材研究	2	2-0	3	前	図工・美術についての教材研究	
		美358	図工・美術実践研究	2	2-0	3	前	図工・美術についての教育実践研究	

⑧ 保健体育専修

必修選択の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考	
小コ	中コ									
必 修	必 修	体213	体操	1	0-2	1・2	後	体づくり運動の理論と実技		
		体111	器械運動演習	2	0-2	1	前	器械運動の指導理論と技術習得		
		体112	水泳演習	2	0-2	1	前	近代4種泳法の指導理論と技術習得		
		体113	陸上競技演習	2	0-2	1	後	走・跳・投各種の指導理論と技術習得		
		体131	生理学・運動生理学	2	2-0	1	後	健康・病気の理解に必要な生命現象の仕組みや運動に必要な筋・呼吸・循環器系の生理及び健康・体力論、運動処方		
		体221	運動学	2	2-0	2	前	技術、戦術、運動構造についての運動学的認識を深め、運動の観察と分析する能力を高め、運動指導に役立てる		
		体241	衛生学・公衆衛生学	2	2-0	2	前	運動生活に必要な個人衛生の概要と衣・食・住に関する環境衛生及び公害の諸問題		
		体251	学校保健	2	2-0	2	後	学校保健の概説、小児保健、精神保健及び救急処置		
		体334	保健体育ゼミナール	2	0-2	3	前	外国文献講読、模擬プレゼンテーション、研究シミュレーション		
		体461	卒業論文Ⅰ	2	0-2	4	前	講読または実験・調査による個別研究	教員免許外科目	
体462	卒業論文Ⅱ	2	0-2	4	後	講読または実験・調査による個別研究				
選 択 必 修 4 単 位	選 択 必 修 6 単 位	体222	体育原理	2	2-0	2・3	前	運動文化の本質と構造についての概説し、教科としての「体育」を考察		
		体321	体育心理学	2	2-0	2・3	前	発達、学習、性格特性等を中心に体育心理学の諸問題の概説		
		体223	体育経営管理学	2	2-0	2・3	前	体育経営管理学の概念、目的、構造及び領域に関する概説		
		体322	体育社会学	2	2-0	2・3	後	生涯スポーツに関する概説		
選 択 必 修 1 単 位	選 択 必 修 1 単 位	体311	柔道	1	0-2	1	後	基本動作、対人技術、及び安全対策		
		体312	剣道	1	0-2	1~4	後	基礎技術の習得、学校剣道における技術習得の系統性研究	偶数年開設	
		体411	空手	1	0-2	1~4	前	基本動作、対人技術	奇数年開設	
	1 単 位	選 択 必 修 1 単 位	体211	舞踊	1	0-2	2	後	各種舞踊の基礎実習と理解	
			体313	琉球舞踊	1	0-2	1~4	前	琉球舞踊の基礎技能の実習と理論	
		選 択 必 修 1 単 位	体214	バレーボール	1	0-2	1~3	前	基礎及び応用技術、ルール、ゲームと審判法	
			体413	バドミントン	1	0-2	1~3	後	基礎及び応用技術、ルール、ゲームと審判法	
			体412	テニス	1	0-2	1~3	後	ボレー、ストローク、スマッシュ等の基本的スキルの獲得とダブルスを中心としたゲームの展開	
			体216	卓球	1	0-2	1~3	前	基礎及び応用技術、ルール、ゲームと審判法	
			体314	ハンドボール	1	0-2	1~3	前	ハンドボールの技術・戦術及び審判法、組織のあり方を学習する	
選 択 必 修 1 単 位	体114	サッカー	1	0-2	1~3	後	基礎及び応用技術、ルール・ゲームと審判法			
	体212	バスケットボール	1	0-2	1~3	後	基礎及び応用技術、ルール、ゲームと審判法			
	体217	ソフトボール	1	0-2	1~3	後	基礎及び応用技術、ルール、ゲームと審判法			

必修選択の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考
小コ	中コ								
選 択	選 択	体218	保健体育教材研究	2	2-0	2・3	前	保健体育についての教材開発	教員免許外科目
		体219	保健体育実践研究	2	2-0	2・3	後	児童・生徒を対象とした各種ジュニアスポーツ教室や自然体験キャンプ等の企画立案・運営をとおして実践的指導力を高める	
		体323	トレーニング論	2	2-0	2・3	前	体力トレーニングの基本的な考え方を学習する	
		体122	体育史	2	2-0	2・3	前	古代、中世、近世及び現代のスポーツの歴史と「体育」の変遷に関する概説	
		体318	スポーツ指導論	2	2-0	3	後	指導者のあり方・考え方を中心に「自分の目指す指導者像」の発見のための概説	
		体234	スポーツ・健康管理概論	2	2-0	2	後	スポーツ・健康管理の意義及び実施手順を理解させ、実際の場における諸問題解決の対策を検討する	
		体115	野外教育演習	2	0-2	2	後	野外教育と自然環境保護に必要な知識及びキャンピングスキルの習得	
		体340	運動生理学実験・演習	2	0-2	3	前	外国文献講読、筋・呼吸・循環器系の運動負荷実験	
		体324	トレーニング論演習	2	2-0	3	後	トレーニング法及び体力・運動能力などの測定法の実践	
		体235	スポーツ情報処理演習	2	2-0	2	後	コンピュータを活用してレポートのまとめ方、文献検索、統計処理、データ処理、図表作成等の方法を学ぶ	
体325	メンタルマネージメント	2	2-0	3	後	スポーツ活動のみならず、社会生活を健康かつ生産的に過ごすためのメンタルマネージメント法			

保健体育専修提供の課程共通科目

小学校10教科専門科目

必修選択の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考
小コ	中コ								
選 必	選 択	体161	体育	2	2-0	1・2	前・後	体育の指導法、基礎技術 前期は水泳、後期は器械又は陸上運動	

教職科目(教科の指導法に関する科目)

必修選択の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	備 考
小コ	中コ								
必 修	選 択	体361	初等体育科教育法	2	2-0	2・3	後・前	小学校体育科教育の目標、内容に関する講述と具体的な実践を検討していく	
選 択	必 修	体366	保健体育科教育法A	2	2-0	2	後	保健体育科の目標、内容方法に関する指導	
		体367	保健体育科教育法B	2	2-0	3	前	保健体育科の目標、内容方法に関する指導	
		体368	保健体育科教育法C	2	2-0	3	前	保健体育科の目標、内容方法に関する指導	
		体369	保健体育科教育法D	2	2-0	3	後	保健体育科の目標、内容方法に関する指導	

⑨ 技術教育専修

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
小	中								
必修	必修	技111	基礎製図	1	0-3	1	前	JIS規格に基づいた製図技法を学び、自ら設計製作した部品を用いて協働製作を行う。	
		技211	木材加工基礎	2	2-0	2	前	木材の組織構造、物理的機械的性質、木質材料、木工具、木工機械、基本加工法、接着、塗装等について学習する	
		技212	木材加工及び実習	2	1-3	2	後	木工具、木工機械による加工学習	
		技221	金属加工及び実習 I	2	1-3	2	前	手作業を中心とする金属加工法と金属製品の設計・製図及び製作	
		技231	機械基礎及び実習	2	1-3	2	後	機械要素、機構、機械に働く力等についての講義と、機械の分解組立の実習を通して、機械の機能、設計製作思想を学ぶ	
	自由	技333	機械工作実習 I	1	0-3	3	前	機構のシミュレーション及び中学校ロボットコンテスト仕様のロボットの設計製作	
		技431	機械総合実習 I	1	0-3	4	前	機械工学に関する基礎実験及び実習	
		技241	電気磁気・電気回路学及び実習	2	1-3	2	後	静電気、電流と磁界、電波、交流回路、過度現象等について講義し、基礎的な実験・実習を行う	
		技341	電子回路・機器制御及び実習	2	1-3	3	前	電子物性・電子回路・電気機器・制御、電気エネルギー等について講義し、基礎的な実験・実習を行う	
		技151	栽培学及び実習	1	0-3	1	後	作物の品種、生育と環境、栽培法等に関する基礎理論及び基本的な実習	
必修	技261	情報技術及び実習 I	2	1-3	2	前	コンピュータの基本操作、プログラミング、デジタル回線について講義及び実習を行う		
	技361	情報技術及び実習 II	2	1-3	3	前	コンピュータの歴史、構成及びインターネット技術について講義し、回路設計を行う		
必修	必修	技491	卒業研究 I	2	0-6	4	前	指導教員の指導のもとに課題を設定し、研究を行い報告書をまとめ発表する	登録は教室申し合わせに基づき受け付ける 教員免許外科目
		技492	卒業研究 II	2	0-6	4	後	指導教員の指導のもとに課題を設定し、研究を行い報告書をまとめ発表する	教員免許外科目
選択	選択	技311	木材材料学	2	2-0	3	前	木材及び木質材料の性質、木質環境について学習し、木材が人間の視覚・聴覚・触覚・臭覚等にどのような影響を与えるかについて検討していく	
		技312	木材加工機械学	2	2-0	3	後	平削加工、のこぎり加工、穴あけ加工、研削加工等の各種切削加工について学習し、切削加工の自動化と安全について検討していく	
		技321	金属材料	2	2-0	2	前	実用金属材料の組織学的考察と応用法	
		技331	機械力学 I	2	2-0	3	前	平面応力、曲げ及びねじりに関する基礎理論	
		技332	機械力学 II	2	2-0	3	後	流体の静力学及び運動の基礎理論	

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
小	中								
選	択	技141	電気電子教材開発実習(小)	1	0-3	1~4	後	電気の利用に関わる主に小学生を対象にした教材開発	教員免許外科目
		技342	電子応用回路Ⅰ	2	2-0	2	後	デジタル信号、デジタル回路、アナログ-デジタル変換、デジタル通信に関する講義	
		技343	制御工学	2	2-0	3	後	自動制御の基礎理論、伝達関数に基づくフィードバック制御系の設計に関する講義	
		技441	電気エネルギー変換工学実習	1	0-2	3	前	電気エネルギーと各種エネルギーとの変換機器の設計及び製作実習	
		技442	電気電子教材開発実習	1	0-3	4	前	トランジスタや各種センサを用いた電気電子に関わる各種教材の開発実習	
		技443	電子応用回路Ⅱ	2	2-0	3	後	整流回路、チョップ回路、インバータ、モータ駆動などのパワーエレクトロニクスに関する講義	
		技362	知能情報処理実習Ⅰ	1	0-3	3	後	Cプログラミング(初級)、コンピュータグラフィックスについて実習を行う	
		技363	知能情報処理実習Ⅱ	1	0-3	3	後	Cプログラミング(中級)、画像処理と計測・制御について実習を行う	
		技461	情報技術及び実習Ⅲ	2	1-3	4	前	Javaプログラミング、ネットワークを利用したマイコン制御について講義及び実習を行う	
	技462	知能情報処理実習Ⅲ	1	0-3	4	前	ライトレーサの製作を通して電子回路、マイコンによる計測・制御について実習を行う		
	自由	教共304	職業指導	2	2-0	4	前	高校工業の職業指導	工業免必修
選	択	技373	技術教育教材研究	2	2-0	3	前	技術教育科の題材選定と教材・教具づくりについて検討していく	
		技374	技術教育実践研究	2	2-0	3	後	ものづくりに関する実践的・体験的な活動を通して、生活を工夫し創造する能力を高める教材づくりを行う	

教職科目(教科の指導法に関する科目)

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
小	中								
自	必修	技271	技術科教育法A	2	2-0	2	後	技術科教育の目標、内容、指導法、授業観察、模擬授業など	
		技371	技術科教育法B	2	2-0	3	前	教材教具、学習指導案作成及び評価	
		技372	技術科教育法C	2	2-0	3	後	実習室の管理運営、実習の安全、事故・災害事例とその対策について	
		技471	技術科教育法D	2	2-0	4	前	技術科教育の国内外の授業実践例について	
	自由	技375	技術教育特別講義	2	2-0	3	後	技術教育の研究法について講義し、技術教育に関する論文等を講読し、ディスカッションする	
		技472	工業科教育法A	2	2-0	4	前	高校工業科の目標、原理、学習指導法等について	
		技473	工業科教育法B	2	2-0	4	後	高校工業科の内容の取扱い及び評価について	

⑩ 生活科学教育専修

専修専門科目

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考		
小コ	中コ										
必修	必修	家100	衣生活学	2	2-0	2	前	衣生活に関する入門講義	初年次教育科目 教員免許外科目		
		家110	住生活学Ⅰ	2	2-0	2	前	住生活学に関する講義			
		家131	生活経営学	2	2-0	2	後	家庭経営学、生活設計、家族関係学に関する講義			
		家180	食物学Ⅰ	2	2-0	2	前	食物学(栄養学、食品学、調理学)に関する基礎理論			
		家190	五感を育む体験活動	2	2-0	1	前	家庭科を指導する教員としての目標像等について、体験活動を通して考究する			
		家205	被服構成実習Ⅰ	1	0-3	2	前	被服構成の基礎理論と実習			
		家220	保育学	2	1-2	2	後	乳幼児保育の基本的問題の概説及び保育実習(家庭看護を含む)			
		家281	調理学実習Ⅰ	1	0-3	2	前	日常食の献立と基礎実習			
		家211	住生活学実習	1	0-3	2	後	住生活学に基づく住宅課題の考究及び計画・製図・模型製作に関する実習			
		自由	必修	家237	消費生活と環境	2	2-0	3		前	消費生活を取りまく課題及び持続可能な社会を目指したライフスタイル等に関する講義
家300	被服構成実習Ⅱ			1	0-3	2	後	被服構成(洋裁)の応用実習(着装を含む)			
家377	生活科学演習Ⅰ			1	0-2	3	前	各専門分野についての文献講読、卒業研究に向けての研究討議			
家378	生活科学演習Ⅱ			1	0-2	3	後				
必修	必修	家498	卒業研究Ⅰ	2	0-6	4	前後	特定のテーマについて各指導教員のもとで研究する。			
		家499	卒業研究Ⅱ	2	0-6	4	前後				
選択必修(6単位以上)	選択必修(12単位以上)	家394	家庭科教育教材研究Ⅰ	2	2-0	3	前	小学校・中学校・高等学校の家庭科衣生活領域の教材について考察し、授業づくりを行う	教員免許外科目		
		家395	家庭科教育教材研究Ⅱ	2	2-0	3	前	小学校・中学校・高等学校の家庭科住生活領域の教材について考究し、授業づくりを行う			
		家396	家庭科教育教材研究Ⅲ	2	2-0	3	後	小学校・中学校・高等学校の家庭科食生活領域の教材について考究し、授業づくりを行う			
		家398	家庭科教育実践研究Ⅰ	2	2-0	3	前	家庭科の授業方法を学び、模擬授業の実践を通して家庭科の授業スキルを高める			
		家399	家庭科教育実践研究Ⅱ	2	2-0	4	前	家庭科教材研究Ⅰ～Ⅲを踏まえ、家庭科の授業方法を学び、模擬授業の実践を通して家庭科の授業スキルを高める			
		家181	食物学Ⅱ	2	2-0	3	後	食物学(栄養学、食品学、調理学)に関する総論			
		家210	住生活学Ⅱ	2	2-0	2	後	沖縄の住まいと生活に関する講義			
		家301	服飾デザイン	2	2-0	3	後	色彩・形態などのデザインの基礎から服飾デザインへの応用に関する講義			
		自由	必修	家330	生活経営学実習	1	0-3	3		後	生活経営学に関する演習及び実習
				家381	調理学実習Ⅱ	1	0-3	3		後	和・洋・中・琉の様式別献立と調理実習及び食事作法
家385	食事文化論			2	2-0	3	前	食生活の概要・食料事情・食生活の変遷及び文化について講義する			

自由	自由	家492	衣生活学特講	2	2-0	4	前	衣生活学に関する特別講義	教員免許外科目
		家496	住生活学特講	2	2-0	4	前	住生活学に関する特別講義	
		家497	調理学特講	2	2-0	4	前	調理学に関する特別講義	

生活科学教育専修提供の課程共通科目
小学校10教科専門科目

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
小コ	中コ								
選択必修	自由	家290	家庭	2	2-0	1~4	前・後	小学校「家庭」各領域の理論と実践を行う	

教職科目（教科の指導法に関する科目）

必修選択の別		科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考
小コ	中コ								
必修	必修	家392	家庭科教育法(小・中)	2	2-0	2~4	前・後	小学校及び中学校家庭科教育の目標、内容、方法等に関する具体的講述と実践	
自由	必修	家291	家庭科教育法A(中・高)	2	2-0	2	後	中学校技術・家庭科家庭分野各領域の内容の取扱いと授業研究	
		家390	家庭科教育法B(中・高)	2	2-0	3	前	高等学校家庭科の各領域の内容の取扱いと授業研究	
		家391	家庭科教育法C(中・高)	2	2-0	3	後	中・高等学校家庭科の教育基礎理論	

① 英語教育専修

必修選択の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受 講 年 次	学 期	授 業 内 容	
小コ	中コ								
必 修	必 修	英教101	基礎演習	1	0-2	1	前	ノートのとり方、情報検索・整理法、論理構成法及びレポート作成法を学ぶ	教員免許外科目
		英教121	英文法演習	2	1-1	1	前又は後	英文法と英作文を相互補完的に学習する	
		英教129	英米文化概論Ⅰ	2	2-0	1	後	イギリス・アメリカ文学の基礎知識を作品を通じて通覧し、英米文化に対する理解を深める。	
		英教171	英語研究Ⅰ	2	2-0	2	前又は後	英語学／言語学の基礎を中心に学ぶ	
		英教201	異文化理解	2	1-1	1-2	前又は後	多様な文化背景を持つ英文の講読や、英語によるコミュニケーション活動を通じてその文化についての理解を深める	
		英教111	リーディング	2	0-2	2	前又は後	様々な分野の比較的長い英語の論考、エッセイを速読して大意を理解する訓練をする	
		英教221	ライティング	2	0-2	2	前又は後	グローバル及びローカルな問題を扱ったエッセイの書き方を訓練する	
		英教231	オーラルコミュニケーション	2	0-2	2	前又は後	日常的な場面において、英語によるコミュニケーション活動が適切に行えるよう訓練する	
		英教311	アカデミックプレゼンテーション	2	2-0	3-4	前又は後	様々な学問分野において、英語による効果的なプレゼンテーションの方法を学ぶ	
		選 択		英教243	英米文化概論Ⅱ	2	2-0	2	
英教244	英米文化概論Ⅲ			2	2-0	3	前	アメリカの代表的作家の主要作品の鑑賞を通してアメリカ文学を歴史的に概観する。	
英教271	英語研究Ⅱ			2	2-0	2	前又は後	英語を中心とした言語習得に関わる様々な理論を概観しながら、母語習得や第二言語習得(外国語教育)についての基礎的知識を学ぶ	
英教272	英語研究Ⅲ			2	2-0	2	前又は後	英語を中心とした(異文化)コミュニケーション学／社会言語学の基礎を中心に学ぶ	
英教256	メディアの英語			2	2-0	1-2	前又は後	各種メディアをとらえてきた英語を学び、総合的英語力の向上を目指す	
必 修	必 修	英教500	卒業研究Ⅰ	2	0-4	4	前	特定のトピックについて研究する	教員免許外科目
		英教503	卒業研究Ⅱ	2	0-4	4	後	特定のトピックについて研究する	教員免許外科目
選 択	選 択	英教115	英語資格試験演習	2	0-2	3	前又は後	客観的な英語能力の指標となるTOEFLおよびTOEICの試験内容について、学習方略を含めた問題演習を行う	教員免許外科目
		英教394	英語学習論Ⅰ	2	2-0	2-4	前又は後	外国語としての英語学習を心理的手法を用いて概観し、その研究方法と理論を学ぶ	
		英教395	英語学習論Ⅱ	2	2-0	2-4	前又は後	外国語としての英語学習を社会文化理論を用いて精査し、その研究について学ぶ	
		英教321	英語スピーチ	2	0-2	3-4	前又は後	パブリック・スピーキングの理論を学び、英語のスピーチを実践することによって、論理的に話す能力と建設的な批判能力を養う	
		英教322	英語ディベート	2	0-2	3-4	前又は後	賛否両論ある特定の社会問題などについて英語で討論し、論理的思考能力や判断力、表現力を養成する	
		英教383	英語の異文化間コミュニケーション	2	2-0	3-4	前又は後	異文化が接触したときの言語現象や非言語活動、および文化摩擦現象をコミュニケーションの基礎理論を通して学ぶ	
		英教386	英語コミュニケーションの多様性	2	2-0	3-4	前又は後	国際語としてのえいごについて、音声・文法・語彙などの多様性を概観し、「世界諸英語(World Englishes)」の状況やその文化的背景について学ぶ	

必修選択の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受講 年次	学 期	授 業 内 容		
小コ	中コ									
選 択	現代 地域	英教389	小学校英語演習Ⅰ	2	2-0	3~4	前	外国語活動及び教科外国語を担当する際に必要となる基本的な指導法や指導技術について学ぶ	小学校教科の専門性を高める科目	
		英教390	小学校英語演習Ⅱ	2	1-1	3~4	後	小学校英語演習Ⅰを踏まえて、外国語活動及び教科外国語を担当する際に必要となる指導技術や教材開発について、模擬授業を通して学ぶ	小学校教科の専門性を高める科目	
	英教473	英語圏の言語政策と言語権	2	2-0	3~4	前又は後	英語が公用語又は実質的な公用語として機能している国・地域における多言語社会の機能を学び、少数言語話者の言語圏を保障した言語政策・言語計画を考察する			
	英教384	コミュニケーションと文化	2	2-0	3~4	前又は後	英語を中心に、日常的なコミュニケーション事象を分析し、ことばと人、社会、文化との関連性について学ぶ			
	英教360	英米文化研究Ⅰ	2	2-0	2~4	前又は後	英米文学・文化の様々なテーマについて学び、文学と文化を理解するための基礎的な技術と知識を習得する。			
	英教361	英米文化研究Ⅱ	2	2-0	2~4	前又は後	英米文学・文化を分析・解釈するための基礎的な方法について学ぶ。			
	英教362	英米文化研究Ⅲ	2	2-0	2~4	前又は後	英米文学・文化を批評するための理論について専門的なアプローチを学ぶ。			
	英教363	英米文化研究Ⅳ	2	2-0	2~4	前又は後	英米文学・文化について、自律した分析や解釈をするための理解を深める。			
	英教364	英米文化研究Ⅴ	2	2-0	2~4	前又は後	英米文学・文化について、先行研究を踏まえた専門的な議論の構築の方法や学術論文の書き方について学ぶ。			
	選 択	選 択	英教375	英語の意味解釈	2	1-1	2~4	前・後	英語の意味について理論的・体系的に研究する	
			英教377	英語の音声構造	2	1-1	2~4	前・後	英語の音声と音韻構造を理論的・体系的に研究する	
			英教379	英語の文構造	2	1-1	2~4	前・後	英語の文や句の構造を理論的・体系的に研究する	
			英教385	談話とコミュニケーション	2	0-2	2~4	前又は後	英語などの自然会話の連鎖組織や書き言葉の構造を考察し、コミュニケーション行為の仕組みと社会性を探求する	
			英教396	英語評価法演習	2	0-2	3~4	後	テスト理論の基礎を学んだ上で、パフォーマンステストを含むテスト作成の演習を行う	
			英教410	異文化実地研修A	2	0-2	1~4	前・後	英語圏諸国の大学において行われるサマースクールや短期セミナー等に参加し、その国の言語・歴史・文化等に関する科目を履修するとともに、異文化理解を深める	教員免許外科目
			英教420	異文化実地研修B	2	0-2	1~4	前・後	海外協定校での集中講義やセミナーへの参加、エクスカーションや各国の学生との交流を通して、コミュニケーション能力の向上と異文化理解の深化を図る	
			英教474	日英語比較研究	2	2-0	3~4	前	日本語と英語を比較研究し、それぞれの特徴及び共通性を研究する	
			英教493	特定言語研究	2	2-0	3~4	前	英語を含めた特定の言語の特定分野について、フィールドワークなどを通して研究する	教員免許外科目
			英教304	英語科教材研究	2	2-0	3~4	前又は後	小学校・中学校の英語教材研究及び授業づくりについて研究する。	
	英教305	英語科実践研究	2	2-0	3~4	前又は後	模擬授業などを通して英語の授業力を高める。			

英語科学教育専修提供の課程共通科目

小学校10教科専門科目

必修選択の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受講 年次	学 期	授 業 内 容	
小コ	中コ								
選必	自	英教601	外国語	2	2-0	1~3	前・後	小学校外国語(英語)に関する基礎的な知識・技能を身につける。	

英語教育専修の提供する教職科目(教科の指導法に関する科目)

必修選択の別		科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受講 年次	学 期	授 業 内 容	
小コ	中コ								
必	自	英教602	初等外国語教育法	2	2-0	2~3	前・後	小学校外国語教育の理論と実践を学ぶ	
選 択	必 修	英教291	英語科教育法A	2	2-0	2	後	英語科教育の理論と実践を学ぶ	
		英教391	英語科教育法B	2	2-0	3	前	英語科教育の理論と実践を学ぶ	
		英教392	英語科教育法C	2	2-0	3	後	英語科教育の理論と実践を学ぶ	
		英教393	英語科教育法D	2	2-0	4	前	英語科教育の理論と実践を学ぶ	

⑫ 特別支援教育専修

必修選択の別	科目番号	授業科目	単位	週時間	受講年次	学期	授業内容	備考	免許連関
必修	特支316	特別支援教育の心理・生理・病理概説	2	2-0	1	後	特別支援教育における心理・生理・病理に関して概説をする講義		第3欄
	特支103	特別支援教育概説	2	2-0	1	前	特別支援教育の理念、制度、歴史、課題等に関する講義		第1欄
	特支201	知的障害者教育	2	2-0	2	後	知的障害者教育の教育課程の歴史、教育課程編成に関する基礎的事項に関する講義		第2欄
	特支301	肢体不自由者教育	2	2-0	2	後	肢体不自由者の教育(歴史、概念、特徴、指導法)についての講義		第2欄
	特支302	病弱者教育	2	2-0	3	後	病弱者の教育(歴史、概念、特徴、指導法)についての講義		第2欄
	特支203	知的障害者の心理・生理・病理	2	2-0	2	前	知的障害者の心理、生理及び病理に関する講義		第2欄
	特支207	インクルーシブ教育フィールドワーク	1	0-2	2	後	公立幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校のいずれかでの、実習参加型の観察を行うことを目的とする	※卒業要件上は「教職実践に関する科目」の区分	免許外
	特支312	肢体不自由者の心理・生理・病理	2	2-0	2	前	肢体不自由者の心理、生理及び病理に関する講義		第2欄
	特支303	病弱者の心理・生理・病理	2	2-0	3	前	病弱者の心理、生理及び病理に関する講義		第2欄
	特支121	インクルーシブ教育指導法 I (特支)	2	0-2	1	通年	通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒(肢体不自由者)の指導法に関する講義		第2欄
	特支221	インクルーシブ教育指導法 II (特支)	2	0-2	2	通年	通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒(病弱者)の指導法に関する講義		第2欄
	特支313	視覚障害者教育	1	1-0	3	後	視覚障害者の特徴と指導法に関する講義		第3欄
	特支314-1	聴覚障害者教育A	1	1-0	3	後	聴覚障害者の特徴と指導法に関する講義		第3欄
	特支317	重複障害者教育	1	1-0	3	前	重度・重複障害者の教育(歴史、概念、特徴、指導法)についての講義		第3欄
	特支211	発達障害者教育	1	1-0	2	前	発達障害者の特徴と指導法に関する講義		第3欄
	教共452	特別支援学校教育実践研究	1	0-2	4	前	特別支援学校教育実習に関する事前・事後指導		第4欄
	教共453	特別支援学校教育実習	3	3週間	4	前	特別支援学校における教育実習		第4欄
	特支403	卒業研究 I	2	0-4	4	前	障害者に関する研究及び論文作成		免許外
	特支404	卒業研究 II	2	0-4	4	後	障害者に関する研究及び論文作成発表		免許外
	選択	特支131	ダイバーシティ教育実践研究 I A	1	2-0	1	前	発達障害者を中心としたダイバーシティ教育実践に関する研究及び討論を通してアカデミック・スキルズを学び、理想とする教師像を考求する	
特支132		ダイバーシティ教育実践研究 I B	1	2-0	1	後	発達障害者を中心としたダイバーシティ教育実践に関する研究及び討論を通してアカデミック・スキルズを学び、理想とする教師像を考求する		第3欄
特支231		ダイバーシティ教育実践研究 II A	1	0-1	2	前	発達障害者を中心としたダイバーシティ教育実践に関する研究及び討論		第3欄
特支232		ダイバーシティ教育実践研究 II B	1	0-1	2	後	発達障害者を中心としたダイバーシティ教育実践に関する研究及び討論		第3欄
特支331		ダイバーシティ教育実践研究 III A	1	0-1	3	前	発達障害者を中心としたダイバーシティ教育実践に関する研究及び討論		第3欄
特支332		ダイバーシティ教育実践研究 III B	1	0-1	3	後	発達障害者を中心としたダイバーシティ教育実践に関する研究及び討論		第3欄
特支321		インクルーシブ教育指導法 III (特支)	2	0-2	3	通年	通常の学級における特別な支援を必要とする児童生徒(知的障害者)の指導法に関する講義		第2欄

5. 副免のための教育課程

副免のための授業科目（教育実習を除く）の履修は開放されているが、教育実習を履修しこれらの教員免許状を取得することは教育学部の学生に限る。

履修にあたっては、便覧の巻末に掲載されている教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則を参照して下さい。

(1) 特別支援学校教諭免許状（領域：知的障害者・肢体不自由者・病弱者）取得のための教育課程

特別支援教育に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する授業科目		単位	週時間	受講年次	学期	必修選択の別	
特別支援教育に関する科目	左記の科目に含めるべき科目	科目番号	科目名					特支二種免	
第一欄	特別支援教育の基礎理論に関する科目	特支103	特別支援教育概説	2	2-0	3	前	必修	
第二欄	特別支援教育領域に関する科目	特支203	知的障害者の心理・生理・病理	2	2-0	3	前	必修	
		特支312	肢体不自由者の心理・生理・病理	2	2-0	3	前	必修	
		特支303	病弱者の心理・生理・病理	2	2-0	3	前	必修	
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	特支201	知的障害者教育	2	2-0	3	後	必修	
		特支301	肢体不自由者教育	2	2-0	3	後	必修	
		特支302	病弱者教育	2	2-0	3	後	必修	
第三欄	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	特支316	特別支援教育の心理・生理・病理概説	2	2-0	2~3	後	必修	
		特支313	視覚障害者教育	1	1-0	3	後	必修	
	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	特支314-1	聴覚障害者教育A	1	1-0	3	後	必修	
		特支317	重複障害者教育	1	1-0	3	前	必修	
		特支211	発達障害者教育	1	1-0	3	前	必修	
第四欄	心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	教共452	特別支援学校教育実践研究	1	0-2	4	前	必修	
		教共453	特別支援学校教育実習	3	3週間	4	前	必修	
計				24					

注 意

1. 幼、小、中又は高校のいずれかの教員免許を取得していること。（取得見込みを含む。）
2. 小学校教育実習Aもしくは中学校教育実習Aを履修済みのこと。
3. 特別支援学校教育実習の登録条件
 - ア) 「特支103 特別支援教育概説」、「特支201 知的障害者教育」、「特支301 肢体不自由者教育」を履修済みのこと。
 - イ) 実習時期と期間 : 5~6月に3週間（15日間）

(2) 幼稚園教諭免許状取得のための教育課程

領域及び保育内容の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		単位数	必修選択の別		備考
科目	各科目に含める必要事項	科目番号	授業科目		幼二	幼一	
領域に関する専門的事項	国語	国401	国語概説	2		選 必	「国語教育論Ⅰ」を除く科目から2単位以上、選択必修
		国406	国語教育論Ⅰ	2		選 択	
	算数	数教290	数学概論	2		選 必	
	生活	教共306	生活科教育概論	2		選 必	
	音楽	音161	音楽	2		選 必	
	図画工作	美202	小専美術	2		選 必	
体育	体161	体育	2		選 必		
保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	教職353	健康	2		必 修	単位の半数までは、小免の授与を受ける場合の各教科の指導法(国・算・音・図・生・体)又は特別活動の指導法の単位をもってあてることができる。	
	教職251	人間関係	2		必 修		
	教職252	環境	2		必 修		
	教職253	言葉	2		必 修		
	教職354	表現ⅠA	2		必 修		
	教職356	表現ⅡA	2		必 修		
教職357	表現ⅡB	2		必 修			

教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		単位数	必修選択の別		備考
科目	各科目に含める必要事項	科目番号	授業科目		幼二	幼一	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教職121	教育原理	2	必 修	必 修	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職111	教職入門	2	必 修	必 修	
		教職311	教職セミナー	2		選 択	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教職212	教育行政学	2	選 択	選 必	} 1科目必修
		教職211	教育法	2	選 択	選 必	
		教職213	学校社会学	2	選 択	選 必	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教職221	教育心理学	2	必 修	必 修	
		教職201	児童心理学	2	選 択	選 択	
		教職203	学習心理学	2	選 択	選 択	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	教職502	特別の支援を必要とする多様な子どもへの理解と支援	2		必 修	
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教職351	幼稚園教育課程の編成方法	1	必 修	必 修		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	教職352	幼児の教育方法	1	必 修	必 修	
		教職237	学級経営実践(教諭)	2		選 択	
		教職134	授業技術	2		選 択	
幼児理解の理論及び方法	教職332	幼児理解	1	必 修	必 修		
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教職242	教育相談(教諭)	2	選 択	選 必	} 1科目必修	
	教職243	学校カウンセリング(教諭)	2	選 択	選 必		
教育実習	教職360	学校教育実践研究(小)	1	必 修	必 修	5単位必修 他の学校種免の授与を受ける場合の実習の単位(3単位まで)をあてることができる	
	教職481	幼稚園教育実習A	4	選 択	選 択		
	教職361	小学校教育実習A	4	選 択	選 択		
	教職482	幼稚園教育実習B	2	選 択	選 択		
	教職461	小学校教育実習B	2	選 択	選 択		
	教職161	職業体験Ⅰ(小)	2	選 択	選 択		
教職261	職業体験Ⅱ(小)	2	選 択	選 択			
教職実践演習	教職491	教職実践演習	2	必 修	必 修		

注:小学校教諭免を取得することを前提とします。

6. 司書教諭の資格取得について

履修すべき科目及び単位

科目番号	授 業 科 目	単 位	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容	備 考
子206	学校経営と学校図書館	2	2-0	2	前又は後	学校図書館の教育的意義や経営などについて学ぶ。	
子207	学校図書館メディアの構成	2	2-0	2～3	前又は後	学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を図る。	
子208	学習指導と学校図書館	2	2-0	2～3	前又は後	学習指導における学校図書館メディアの活用について学ぶ。	
子209	読書と豊かな人間性	2	2-0	2～3	前又は後	児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法について学ぶ。	
子304	情報メディアの活用	2	2-0	3～4	前又は後	学校図書館における多様な情報メディアの特性と活用法について学ぶ。	

(1) 基礎資格

小学校、中学校、高等学校、又は特別支援学校の教諭の普通免許状を有する者及び取得見込みの者。

(2) 修了証書の交付

必要な単位をすべて修得後、文科省の委託を受けた学校図書館司書教諭講習を行う大学等に申請をすることにより、修了証書が交付される(単位を修得しただけでは司書教諭資格取得者として認められないので注意すること)。

講習の期間、その他講習実施の細目については、毎年(5月頃)官報で公告されています。

琉球大学理学部規程

（ 昭和54年2月1日 ）
制 定

（趣旨）

第1条 この規程は、国立大学法人琉球大学組織規則第27条第2項の規定に基づき、琉球大学学則に定めるもののほか、琉球大学理学部（以下「本学部」という。）の授業科目、単位、履修方法その他必要な事項を定める。

第2条 本学部の学科（数理科学科を除く）に系を置く。

学 科	系
物質地球科学科	物理系, 地学系
海洋自然科学科	化学系, 生物系

（教育研究上の目的）

第3条 本学部は、普遍的な基礎科学の重要性を念頭に置き、優れた人材の育成と理学分野の研究の発展を目指し、更に、亜熱帯島嶼の特性を生かした特色のある教育研究を推進することを目的とする。

2 各学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次の表に掲げるとおりとする。

学 科		教 育 研 究 上 の 目 的
数理科学科		諸科学の基礎としての数理科学の教育研究を行うとともに、数理科学的素養を持ち、社会の多様化と時代の変化に柔軟に対応できる幅広い教養を身に付けた人材を育成することを目的とする。
物質地球科学科	物理系	多様な自然現象を物理学的に探求し、体系的な理解を通して普遍的法則や考え方についての研究を行うとともに、それらを身に付け、社会や学問の世界において自立できる人間を育て、物理学を通して人類の幸福と社会の進展に貢献できる人材を育成することを目的とする。
	地学系	大気、海洋並びに地表から地球深部までを対象とし、琉球列島の地理的位置、気候、地質を活かした基礎教育と研究を行い、地球科学を基盤として地域並びに国際社会に貢献できる人材を育成することを目的とする。
海洋自然科学科	化学系	多様な物質の反応・構造・機能を分子科学的に理解する基礎的化学に加えて、新規物質の創成や亜熱帯・島嶼・海洋の地域特性を生かした天然物・環境分野の化学的教育研究を行い、化学的素養を基礎に幅広い分野で活躍できる人材を育成することを目的とする。
	生物系	琉球列島の恵まれた自然環境を実体験の場として活用した生物学教育並びに自らの生物学的素養を地域から国際社会までの様々な領域で発揮できる人材を育成することを目的とする。

(共通教育等の授業科目の種類等)

第4条 共通教育及び専門基礎教育の授業科目の種類、単位数、履修方法等は、琉球大学共通教育等履修規程の定めるところによる。

(専門教育の授業科目の種類等)

第5条 専門教育の授業科目の種類、履修方法等は、別表に掲げるとおりとする。

(授業科目の公示)

第6条 各学期に開講する授業科目、授業時間、単位数及び担当教員は、学期の初めに公示する。ただし、臨時に開講する授業科目については、その都度、公示する。

(単位)

第7条 専門教育の授業科目の単位の計算は、次に掲げる基準により行う。

- (1) 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育上必要があると認められる場合には、30時間の授業をもって1単位とすることができる。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育上必要があると認められる場合には、45時間の授業をもって1単位とすることができる。
 - (3) 1つの授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合において、講義及び演習については係数3(ただし、演習については、教育上必要があると認められる場合には係数1.5とする。)、実験及び実習については係数1(ただし、教育上必要があると認められる場合には係数1.5とする。)に対し、それぞれの授業時間を乗じて得た数値の和が45時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適当であると認められる場合には、これらに必要な学修を考慮して、単位数を定めるものとする。
- 3 前2項の規定に基づく各授業科目の単位数及び週時間については、別表に掲げるとおりとする。

(登録、試験、単位の認定等)

第8条 登録、試験、単位の認定等については、琉球大学各学部共通細則の定めるところによる。

(編入学)

第9条 編入学については、琉球大学編入学規程の定めるところによる。

(転入学)

第10条 転入学については、琉球大学転入学規程の定めるところによる。

(再入学)

第11条 再入学については、琉球大学再入学規程の定めるところによる。

(転学部及び転学科)

第12条 転学部及び転学科については、琉球大学転学部、転学科、転課程に関する規程の定めるところによる。

(転学)

第13条 本学部の学生で他の大学に入学又は転入学を希望する者は、指導教員及び学部長を経て学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第14条 留学については、琉球大学留学等及び特別聴講学生に関する規程の定めるところによる。

(卒業の要件)

第15条 卒業するには、琉球大学（以下「本学」という。）に4年以上在学し、別表に掲げる単位を取得しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、第3年次特別編入学者の卒業の要件は、本学に2年以上在学し、別表に掲げる単位（第3年次特別編入学以前に在学していた大学、短期大学、高等専門学校等で修得した単位のうち、本学の卒業要件に係る単位として換算する単位（以下「換算単位」という。）を含む。）を修得するものとする。この場合において、換算単位については、教授会が判定する。

(教員免許)

第16条 教育職員の免許状授与の資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）の定めるところにより、別に定める単位を修得しなければならない。

(研究生)

第17条 研究生については、琉球大学研究生規程の定めるところによる。

(特別聴講学生)

第18条 特別聴講学生については、琉球大学留学等及び特別聴講学生に関する規程の定めるところによる。

(科目等履修生)

第19条 科目等履修生については、琉球大学科目等履修生規程の定めるところによる。

(外国人学生)

第20条 外国人学生については、琉球大学外国人学生規程の定めるところによる。

(指導教員)

第21条 学生の修学、進路、就職、学生生活等の指導のため、各学科の年次ごとに指導教員を置く。

2 前項の規定に定めるもののほか、指導教員については、琉球大学における指導教員に関す

る規程の定めるところによる。

附 則

この規程は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則（昭和62年1月21日）

この規程は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則（平成4年4月22日）

この規程は、平成4年4月22日から施行し、平成4年4月10日から適用する。

附 則（平成5年4月28日）

この規程は、平成5年4月28日から施行し、平成5年4月1日から適用する。

附 則（平成5年12月12日）

- 1 この規程は、平成6年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第4条及び第4条の2の規定は、平成6年度の入学者から適用する。
- 3 前項の規定にかかわらず、必要と認める場合には、改正後の第4条の2の規定を、平成6年3月31日に在学する者（以下「在学者」という。）に適用する。
- 4 前2条にかかわらず、必要と認める場合には、在学者に改正後の第4条及び第4条の2の規定に基づき平成6年度以降の入学者のために開設される授業科目を履修させる。この場合において、当該授業科目の履修を、改正前の規定に基づく授業科目の履修とみなし、単位を与える。

附 則（平成8年2月21日）

- 1 この規程は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 平成8年3月31日に理学部の数学科、物理学科、化学科、生物学科、海洋学科に在学していた者については、改正後の第4条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 理学部の数学科、物理学科、化学科、生物学科、海洋学科は改正後の第2条の規定にかかわらず、平成8年3月31日に理学部の当該学科に在学する者が理学部の当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則（平成19年3月27日）

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成20年3月4日）

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成30年12月19日）

この規程は、平成31年1月1日から施行する。

(別表1) 理学部共通授業科目分類表

区分	科目番号	授業科目	単位数	区分	科目番号	授業科目	単位数	
理学部基礎科目	理共101	基礎ゼミⅠ(数理科学)	1	教職科目として特に開設されたもの	理共351	数学科教育法Ⅰ	2	
	理共101	基礎ゼミⅠ(物質地球科学)	1		理共352	数学科教育法Ⅱ	2	
	理共101	基礎ゼミⅠ(海洋自然科学)	1		理共353	数学科教育法Ⅲ	2	
	理共102	基礎ゼミⅡ(数理科学)	1		理共354	数学科教育法Ⅳ	2	
	理共102	基礎ゼミⅡ(物質地球科学)	1		理共356	理科教育法Ⅰ	2	
	理共102	基礎ゼミⅡ(海洋自然科学)	1		理共357	理科教育法Ⅱ	2	
	理共104	自然科学のための数学Ⅰ	2		理共358	理科教育法Ⅲ	2	
	理共105	自然科学のための数学Ⅱ	2		理共359	理科教育法Ⅳ	2	
総合的・学際的科目等	理共203	熱帯環境化学概論	2		その他	理共401	博物館実習Ⅰ	2
	理共204	物質化学概論	2			理共402	乗船実習Ⅰ	2
	理共207	地球科学概論	2	理共403		乗船実習Ⅱ	2	
	理共208	総合演習「現代社会と化学」	2	理共405		キャリア演習	2	
	理共209	熱帯生物学概論	2	理共406		海外自然科学研修Ⅰ	4	
				理共407		国際理学研修Ⅰ	2	
				理共408		海外自然科学研修Ⅱ	4	

(別表2) 学部共通授業科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等	
理学部基礎科目	理共101	基礎ゼミⅠ(数理科学)	1	0—1	1年	前又は後	大学での学習の基礎的事項を少人数で学ぶ	全学科必修数理科学科及び海洋自然科学科、物質地球科学科(地球環境系)は前期に開講	
	理共101	基礎ゼミⅠ(物質地球科学)							
	理共101	基礎ゼミⅠ(海洋自然科学)							
	理共102	基礎ゼミⅡ(数理科学)	1	0—1	1年	前又は後	大学での学習の基礎的事項を少人数で学ぶ	全学科必修数理科学科及び海洋自然科学科、物質地球科学科(地球環境系)は後期に開講	
	理共102	基礎ゼミⅡ(物質地球科学)							
	理共102	基礎ゼミⅡ(海洋自然科学)							
	理共104	自然科学のための数学Ⅰ	2	2—0	1年	前期	1変数関数の微分積分		
	理共105	自然科学のための数学Ⅱ	2	2—0	1年	後期	多変数関数の微分積分と微分方程式		
	総合的・学際的科目等	理共203	熱帯環境化学概論	2	2—0	1～2年	前期	地球環境の問題及び生態系を化学の分野より解説する。	
		理共204	物質化学概論	2	2—0	1～2年	後期	化学全般について解説を行う	
理共207		地球科学概論	2	2—0	1～2年	随時	地球科学の概説		

(別表2) 学部共通授業科目

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
理	理共208	総合演習「現代社会と化学」	2	2—0	1～4年	後期	化学に関する総合演習	
	理共209	熱帯生物学概論	2	2—0	1～2年	後期	生物の営みに対する理解を深め、自然環境の重要性に対する認識を高めてもらうことを目標に、琉球列島の生物に関する多様な研究を紹介しながら、生物科学における位置づけと他の分野との関連等について概説する。	
学部 共通	理共351	数学科教育法Ⅰ	2	0—2	2～3年	前又は後	数学教育の実践研究	
	理共352	数学科教育法Ⅱ	2	0—2	2～3年	前又は後	数学教育の実践研究	
	理共353	数学科教育法Ⅲ	2	0—2	2～3年	前又は後	数学教育の実践研究	
	理共354	数学科教育法Ⅳ	2	0—2	2～3年	前又は後	数学教育の実践研究	
	理共356	理科教法Ⅰ	2	2—0	3～4年	前又は後	理科教育の実践研究	
	理共357	理科教法Ⅱ	2	2—0	3～4年	前又は後	理科教育の実践研究	
	理共358	理科教法Ⅲ	2	2—0	3～4年	前又は後	理科教育の実践研究	
	理共359	理科教法Ⅳ	2	2—0	3～4年	前又は後	理科教育の実践研究	
科目	理共401	博物館実習Ⅰ	2	0—4	4年	前期	自然史博物館の標本管理等に関する実習	博物館学芸員資格取得のための科目
	理共402	乗船実習Ⅰ	2	集中	2～4年	前又は後	外洋における各種海洋観測と航海術入門	
	理共403	乗船実習Ⅱ	2	集中	3～4年	前又は後	卒論などの試料・データ収集	事前に乗船実習Ⅰを習得
	理共405	キャリア演習	2	0—2	3年	前期	学生の就職活動支援のための演習	
	理共406	海外自然科学研修Ⅰ	4	集中	3～4年	—	自然科学(特に地球科学)に関する海外での研修(野外巡検、施設見学等)	
	理共408	海外自然科学研修Ⅱ	4	集中	3～4年	—	自然科学(特に地球科学)に関する海外での研修(野外巡検、施設見学等)	
	理共407	国際理学研修Ⅰ	2	集中	2～4年	—	理学分野(特に化学と生物)に関する海外での研修(フィールド調査、実習、施設見学等)	

[数理科学科]

(別表1) 講座別授業科目分類表

講座名	科目番号	授業科目	単位数	
基礎 数 理 学	数理211	代数学序論 I	2	
	数理212	代数学序論 II	2	
	数理215	代数学序論演習 I	2	
	数理216	代数学序論演習 II	2	
	数理221	幾何学序論 I	2	
	数理222	幾何学序論 II	2	
	数理225	幾何学序論演習 I	2	
	数理226	幾何学序論演習 II	2	
	数理311	代数学 I	2	
	数理312	代数学 II	2	
	数理411	代数学 III	2	
	数理412	代数学 IV	2	
	数理321	幾何学 I	2	
	数理322	幾何学 II	2	
	数理421	幾何学 III	2	
	数理422	幾何学 IV	2	
	数理413 ~416	代数学特論 I ~ IV	各2	
	数理423 ~426	幾何学特論 I ~ IV	各2	
	数 理 解 析 学	数理231	解析学序論 I	2
		数理232	解析学序論 II	2
数理235		解析学序論演習 I	2	
数理236		解析学序論演習 II	2	
数理331		解析学 I	2	
数理332		解析学 II	2	
数理431		解析学 III	2	
数理432		解析学 IV	2	
数理341		関数解析学 I	2	
数理342		関数解析学 II	2	
数理441		関数解析学 III	2	
数理442		関数解析学 IV	2	
数理433 ~436		解析学特論 I ~ IV	各2	
数理443 ~446		関数解析学特論 I ~ IV	各2	

講座名	科目番号	授業科目	単位数
情 報 数 理 学	数理351	確率統計学 I	2
	数理352	確率統計学 II	2
	数理353 ~356	保険数学 I ~ IV	各2
	数理361	計算機概論 I	2
	数理362	計算機概論 II	2
	数理371	計算機言語 I	2
	数理372	計算機言語 II	2
	数理373	組合せ論	2
	数理471	情報理論 I	2
	数理472	情報理論 II	2
	数理473 ~476	情報数理学特論 I ~ IV	各2
	数理477	数理論理学	2
	数理481	数理統計学 I	2
	数理482	数理統計学 II	2
	数理483	確率過程論 I	2
	数理484	確率過程論 II	2
	数理485	応用統計学 I	2
	数理486	応用統計学 II	2
	数理487	応用統計学	2
	共 通 科 目	数理101	数学序論 I
数理102		数学序論 II	2
数理105		数学序論演習 I	2
数理106		数学序論演習 II	2
数理207		数学講読 I	2
数理208		数学講読 II	2
数理309		数学講読 III	2
数理310		数学講読 IV	2
数理403		卒業研究 I	6
数理404		卒業研究 II	6
数理203 ~206		特別講義 I ~ IV	各2
数理303 ~308		特別講義 V ~ X	各2
数理381 ~386		特別講義 A ~ F	各1

[数理科学科]

(別表2)授業科目及び単位数

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
必修科目	数理101	数 学 序 論 I	2	2-0	1年	前期	集合と論理、実数体と複素数体の構造	
	数理102	数 学 序 論 II	2	2-0	1年	後期		
	数理105	数 学 序 論 演 習 I	2	0-2	1年	前期	数学序論 I、II の授業に関する問題解法	
	数理106	数 学 序 論 演 習 II	2	0-2	1年	後期		
	数理211	代 数 学 序 論 I	2	2-0	2年	前期	群、環、体	
	数理215	代 数 学 序 論 演 習 I	2	0-2	2年	前期	代数学序論 I の授業に関する問題解法	
	数理221	幾 何 学 序 論 I	2	2-0	2年	前期	集合と距離空間	
	数理225	幾 何 学 序 論 演 習 I	2	0-2	2年	前期	幾何学序論 I の授業に関する問題解法	
	数理231	解 析 学 序 論 I	2	2-0	2年	前期	解析学の基礎	
	数理235	解 析 学 序 論 演 習 I	2	0-2	2年	前期	解析学序論 I の授業に関する問題解法	
	数理403	卒 業 研 究 I	6	0-6	4年	前期	各教員の指導のもとにテキストを指定して輪講	*(注1)参照
	数理404	卒 業 研 究 II	6	0-6	4年	後期		*(注1)、**(注2)参照
選択必修科目	数理212	代 数 学 序 論 II	2	2-0	2年	後期	環上の加群	
	数理216	代 数 学 序 論 演 習 II	2	0-2	2年	後期	代数学序論 II の授業に関する問題解法	
	数理222	幾 何 学 序 論 II	2	2-0	2年	後期	位相空間	
	数理226	幾 何 学 序 論 演 習 II	2	0-2	2年	後期	幾何学序論 II の授業に関する問題解法	
	数理232	解 析 学 序 論 II	2	2-0	2年	後期	多変数の微積分	
	数理236	解 析 学 序 論 演 習 II	2	0-2	2年	後期	解析学序論 II の授業に関する問題解法	
	数理311	代 数 学 I	2	2-0	3年	前期	可換体(ガロア理論)	
	数理321	幾 何 学 I	2	2-0	3年	前期	位相幾何	
	数理331	解 析 学 I	2	2-0	3年	前期	1変数複素関数論	
	数理341	関 数 解 析 学 I	2	2-0	3年	前期	ルベーグ積分論	
	数理351	確 率 統 計 学 I	2	2-0	3年	前期	確率論の基礎	
	数理361	計 算 機 概 論 I	2	1-1	2~3年	前又は後	計算機の使い方	
選択科目	数理203	特 別 講 義 I	2	2-0	1~4年	前又は後	数学の特定分野に関する講義	
	数理204	特 別 講 義 II	2	2-0	2~4年	前又は後	数学の特定分野に関する講義	
	数理205	特 別 講 義 III	2	2-0	2~4年	前又は後	数学の特定分野に関する講義	

【数理科学科】

(別表2)授業科目及び単位数

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
選 択 科 目	数理206	特 別 講 義 IV	2	2-0	2~4年	前又は後	数学の特定分野に関する講義	
	数理207	数 学 講 読 I	2	0-2	2~3年	前又は後	多種多様な数学の本の精読	
	数理208	数 学 講 読 II	2	0-2	2~3年	前又は後	多種多様な数学の本の精読	
	数理303	特 別 講 義 V	2	2-0	2~4年	前又は後	数学の特定分野に関する講義	
	数理304	特 別 講 義 VI	2	2-0	2~4年	前又は後	数学の特定分野に関する講義	
	数理305	特 別 講 義 VII	2	2-0	2~4年	前又は後	数学の特定分野に関する講義	
	数理306	特 別 講 義 VIII	2	2-0	2~4年	前又は後	数学の特定分野に関する講義	
	数理307	特 別 講 義 IX	2	2-0	2~4年	前又は後	数学の特定分野に関する講義	
	数理308	特 別 講 義 X	2	2-0	2~4年	前又は後	数学の特定分野に関する講義	
	数理309	数 学 講 読 III	2	0-2	2~3年	前又は後	多種多様な数学の本の精読	
	数理310	数 学 講 読 IV	2	0-2	2~3年	前又は後	多種多様な数学の本の精読	
	数理312	代 数 学 II	2	2-0	3年	後期	可換環と多元環	
	数理322	幾 何 学 II	2	2-0	3年	後期	多様体	
	数理332	解 析 学 II	2	2-0	3年	後期	1変数複素関数論(続論)	
	数理342	関 数 解 析 学 II	2	2-0	3年	後期	ルベーグ積分論(続論)	
	数理352	確 率 統 計 学 II	2	2-0	3年	後期	確率論の理論と応用	
	数理353	保 険 数 学 I	2	2-0	2~4年	前又は後	保険数学の基礎と応用	
	数理354	保 険 数 学 II	2	2-0	2~4年	前又は後	保険数学の基礎と応用	
	数理355	保 険 数 学 III	2	2-0	2~4年	前又は後	保険数学の基礎と応用	
	数理356	保 険 数 学 IV	2	2-0	2~4年	前又は後	保険数学の基礎と応用	
	数理362	計 算 機 概 論 II	2	1-1	3~4年	後期	計算機の使い方	
	数理371	計 算 機 言 語 I	2	1-1	3~4年	前又は後	プログラミング	
	数理372	計 算 機 言 語 II	2	1-1	3~4年	前又は後		
	数理373	組 合 せ 論	2	2-0	3~4年	前又は後	組合せ論の基礎	
	数理411	代 数 学 III	2	2-0	3~4年	前期	代数学曲線・整数論	
	数理412	代 数 学 IV	2	2-0	3~4年	後期		
数理413	代 数 学 特 論 I	2	2-0	3~4年	前又は後	代数学の特定分野のトピックスを紹介する		
数理414	代 数 学 特 論 II	2	2-0	3~4年	前又は後	代数学の特定分野のトピックスを紹介する		
数理415	代 数 学 特 論 III	2	2-0	3~4年	前又は後	代数学の特定分野に関する講義		
数理416	代 数 学 特 論 IV	2	2-0	3~4年	前又は後	代数学の特定分野に関する講義		

[数理科学科]

(別表2)授業科目及び単位数

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
選 択 科 目	数理421	幾何学Ⅲ	2	2-0	3~4年	前期	微分幾何、多様体	
	数理422	幾何学Ⅳ	2	2-0	3~4年	後期		
	数理423	幾何学特論Ⅰ	2	2-0	3~4年	前又は後	幾何学の特定分野のトピックスを紹介する	
	数理424	幾何学特論Ⅱ	2	2-0	3~4年	前又は後	幾何学の特定分野のトピックスを紹介する	
	数理425	幾何学特論Ⅲ	2	2-0	3~4年	前又は後	幾何学の特定分野に関する講義	
	数理426	幾何学特論Ⅳ	2	2-0	3~4年	前又は後	幾何学の特定分野に関する講義	
	数理431	解析学Ⅲ	2	2-0	3~4年	前期	微分方程式論	
	数理432	解析学Ⅳ	2	2-0	3~4年	後期	フーリエ解析の理論と応用	
	数理433	解析学特論Ⅰ	2	2-0	3~4年	前又は後	解析学の特定分野のトピックスを紹介する	
	数理434	解析学特論Ⅱ	2	2-0	3~4年	前又は後	解析学の特定分野のトピックスを紹介する	
	数理435	解析学特論Ⅲ	2	2-0	3~4年	前又は後	解析学の特定分野に関する講義	
	数理436	解析学特論Ⅳ	2	2-0	3~4年	前又は後	解析学の特定分野に関する講義	
	数理441	関数解析学Ⅲ	2	2-0	3~4年	前期	バナッハ空間論	
	数理442	関数解析学Ⅳ	2	2-0	3~4年	後期		
	数理443	関数解析学特論Ⅰ	2	2-0	3~4年	前又は後	関数解析学の特定分野に関する講義	
	数理444	関数解析学特論Ⅱ	2	2-0	3~4年	前又は後	関数解析学の特定分野に関する講義	
	数理445	関数解析学特論Ⅲ	2	2-0	3~4年	前又は後	関数解析学の特定分野に関する講義	
	数理446	関数解析学特論Ⅳ	2	2-0	3~4年	前又は後	関数解析学の特定分野に関する講義	
	数理471	情報理論Ⅰ	2	2-0	3~4年	前期	情報の統計理論と応用	
	数理472	情報理論Ⅱ	2	2-0	3~4年	後期		
	数理473	情報数理学特論Ⅰ	2	2-0	3~4年	前又は後	情報数理学の特定分野のトピックスを紹介する	
	数理474	情報数理学特論Ⅱ	2	2-0	3~4年	前又は後	情報数理学の特定分野のトピックスを紹介する	
	数理475	情報数理学特論Ⅲ	2	2-0	3~4年	前又は後	情報数理学の特定分野に関する講義	
	数理476	情報数理学特論Ⅳ	2	2-0	3~4年	前又は後	情報数理学の特定分野に関する講義	
	数理477	数理論理学	2	2-0	3~4年	前又は後	数理論理学の基礎	

[数理科学科]

(別表2)授業科目及び単位数

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
選 択 科 目	数理481	数 理 統 計 学 I	2	2-0	3~4年	前期	数理統計学の理論と応用	
	数理482	数 理 統 計 学 II	2	2-0	3~4年	後期	数理統計学の理論と応用	
	数理483	確 率 過 程 論 I	2	2-0	3~4年	前期	確率過程の理論と応用	
	数理484	確 率 過 程 論 II	2	2-0	3~4年	後期	確率過程の理論と応用	
	数理485	応 用 統 計 学 I	2	2-0	2~4年	前期	経済学、会計学の理論と応用	
	数理486	応 用 統 計 学 II	2	2-0	2~4年	後期	経済学、会計学の理論と応用	
	数理487	応 用 統 計 学	2	2-0	2~4年	前又は後	経済学、会計学の理論と応用	
	数理381	特 別 講 義 A	1	1-0	2~4年	前又は後	数学の特定分野に関する講義	
	数理382	特 別 講 義 B	1	1-0	2~4年	前又は後	数学の特定分野に関する講義	
	数理383	特 別 講 義 C	1	1-0	2~4年	前又は後	数学の特定分野に関する講義	
	数理384	特 別 講 義 D	1	1-0	2~4年	前又は後	数学の特定分野に関する講義	
	数理385	特 別 講 義 E	1	1-0	2~4年	前又は後	数学の特定分野に関する講義	
	数理386	特 別 講 義 F	1	1-0	2~4年	前又は後	数学の特定分野に関する講義	

* (注1)卒業研究Ⅰ・Ⅱの履修にあたっては、微分積分学ADⅠ・Ⅱ、線形代数学Ⅰ・Ⅱ、線形代数学演習Ⅰ・Ⅱ、基礎ゼミⅠ・Ⅱ、2年次までの専門の必修科目の単位をすべて修得済みであること、および、選択必修科目を18単位以上、卒業に必要な単位を合計100単位以上修得していること。

** (注2)卒業研究Ⅱの履修にあたっては、原則として卒業研究Ⅰを履修済みであること。

[数理科学科]

卒業の要件

I. 共通教育

1. 教養領域

健康運動系科目

人文系科目

社会系科目

自然系科目

2. 総合領域

総合科目

琉大特色・地域創生科目

キャリア関係科目

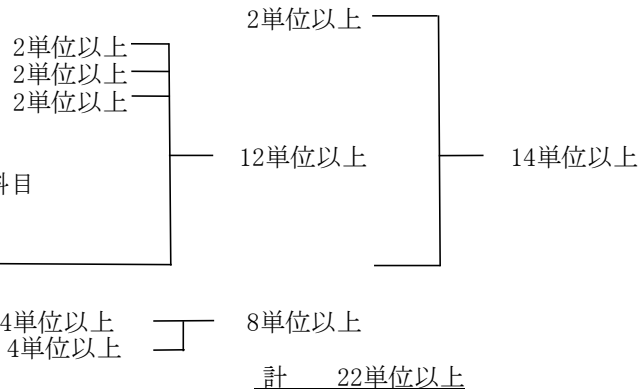
3. 基幹領域

情報関係科目

外国語科目

英語

他の1つの外国語



II. 専門基礎教育

下記の科目は必修

微分積分学ADⅠ 2単位

微分積分学ADⅡ 2単位

線形代数学Ⅰ 2単位

線形代数学Ⅱ 2単位

線形代数学演習Ⅰ 2単位

線形代数学演習Ⅱ 2単位

計 12単位以上

III. 専門教育

理学部共通科目 2単位以上*

必修科目(本学科指定科目) 32単位以上

選択必修科目(本学科提供科目) 20単位以上

選択科目(本学科提供科目) 16単位以上

自由科目(本学科以外提供科目、但し、夜間主コース科目を除く)

計 90単位以上

合計 124単位以上

* 但し、基礎ゼミⅠ・Ⅱを含むこと。

[注意]

健康運動系および外国語科目を除く共通教育および専門基礎教育の授業科目の修得単位が24単位を超えたとき、6単位までは専門教育の自由科目の単位として読み替えることができる。

ただし、専門基礎教育科目の「微分積分学入門Ⅰ及びⅡ」及び「微分積分学STⅠ及びⅡ」の4授業科目は除く。

[物質地球科学科 物理系]

(別表1) 講座別授業科目分類表

講座名	科目番号	授業科目	単位数
学 科 共 通 科 目	物共101	物理学概論	2
	物共102	物理学基礎実験	1
	物共103	化学概論	2
	物共104	化学基礎実験	1
	物共105	生物学概論	2
	物共106	生物学基礎実験	1
	物共107	地学概論	2
	物共108	地学基礎実験	1
	物共109	理科基礎実験	1
物 質 基 礎 学	物物201	力学	2
	物物202	解析力学	2
	物物203	物理数学 I	2
	物物204	物理数学 II	2
	物物211	力学演習	2
	物物212	解析力学演習	2
	物物301	初等量子力学	2
	物物302	量子力学	2
	物物303	熱力学	2
	物物304	統計力学	2
	物物311	初等量子力学演習	2
	物物312	量子力学演習	2
	物物313	熱力学演習	2
	物物314	統計力学演習	2
	物物321	物理数学 III	2
	物物322	物理数学 IV	2
	物物323	相対論	2
	物物324	流体力学	2
	物物326	宇宙物理学	2
	物物421	量子力学特論	2
物物423	統計力学特論	2	

講座名	科目番号	授業科目	単位数
物 質 情 報 学	物物122	エレクトロニクス入門	2
	物物132	プログラミング入門	2
	物物205	電磁気学 I	2
	物物206	電磁気学 II	2
	物物207	物理実験学	2
	物物208	物理実験 II	2
	物物215	電磁気学演習 I	2
	物物216	電磁気学演習 II	2
	物物222	原子物理学	2
	物物231	数値解析演習 I	2
	物物305	物理実験 III	2
	物物325	光 学	2
	物物328	波動論	2
	物物329	数値解析演習 II	2
物物333	計算物理学	2	
物物344	物理実験 IV	1	
物物429	物性論	2	
共 通 科 目	物物101	物理学基礎演習 I	2
	物物102	物理学基礎演習 II	2
	物物401	卒業研究 I	4
	物物402	卒業研究 II	4
	物物427	物理学トピックス I	2
	物物428	物理学トピックス II	2
	物物431	物理学特別講義 A	2
	物物432	物理学特別講義 B	2
	物物433	物理学特別講義 C	2
	物物434	物理学特別講義 D	2
	物物435	物理学特別講義 E	2
	物物436	物理学特別講義 F	2
物物441	物理学特別講義 G	2	

[物質地球科学科 物理系]

(別表1) 講座別授業科目分類表

講座名	科目番号	授業科目	単位数
共通科目	物物442	物理学特別講義H	2
	物物443	物理学特別講義I	2
	物物444	物理学特別講義J	2
	物物445	物理学特別講義K	2
	物物446	物理学特別講義L	2
	物物451	物理学特別セミナーA	1
	物物452	物理学特別セミナーB	1
	物物453	物理学特別セミナーC	1
	物物454	物理学特別セミナーD	1
	物物455	物理学特別セミナーE	1
	物物456	物理学特別セミナーF	1
	物物461	物理学特別セミナーG	1
	物物462	物理学特別セミナーH	1
	物物463	物理学特別セミナーI	1
	物物464	物理学特別セミナーJ	1
	物物465	物理学特別セミナーK	1
物物466	物理学特別セミナーL	1	

[物質地球科学科 物理系]

(別表2)授業科目及び単位数

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
学 科 共 通 科 目	物共101	物 理 学 概 論	2	2-0	2~3年	前又は後	物理学全般についての概説	先31、先32又は転11、転12
	物共102	物 理 学 基 礎 実 験	1	0-2	2~3年	前又は後	コンピュータ活用を含む物理学全般 についての実験	先33
	物共103	化 学 概 論	2	2-0	2~3年	前又は後	化学の基礎についての概説	先41、先42又は転23、転24
	物共104	化 学 基 礎 実 験	1	0-2	2~3年	前又は後	コンピュータ活用を含む化学全般に ついての実験	先43
	物共105	生 物 学 概 論	2	2-0	2~3年	前又は後	生物学の概説	先51、先52
	物共106	生 物 学 基 礎 実 験	1	0-2	2~3年	前又は後	コンピュータ活用を含む生物学のさ まざまな分野の実験及び実習	先53
	物共107	地 学 概 論	2	2-0	2~3年	前又は後	地学全般についての概説	先23*、先24*
	物共108	地 学 基 礎 実 験	1	0-2	2~3年	前又は後	コンピュータ活用を含む地学全般に ついての実験	
	物共109	理 科 基 礎 実 験	1	0-2	2~3年	前又は後	理科分野全般に関する実験や実 習。理科の実験・実習の考え方や方 法論を包括的に概説し、実験・実習 (物理学・化学・生物学・地学それぞ れの題材を含む)を行う。	先33、先43、先53
必 修 科 目	物物201	力 学	2	2-0	1年	後期	古典力学の原理解説	
	物物202	解 析 力 学	2	2-0	2年	後期	変分原理、ラグランジアン、ハミルト ニアン	
	物物203	物 理 数 学 I	2	2-0	2年	前期	ベクトル、行列、行列式	
	物物204	物 理 数 学 II	2	2-0	1年	後期	物理のためのベクトル解析	
	物物205	電 磁 気 学 I	2	2-0	2年	前期	静電場、電流	
	物物206	電 磁 気 学 II	2	2-0	2年	後期	静磁場、電磁誘導、電磁波	
	物物207	物 理 実 験 学	2	2-0	2年	前期	物理実験の計画と進め方	
	物物208	物 理 実 験 II	2	0-6	2年	後期	諸物性測定的基本的方法を実験的 に学習する	
	物物301	初 等 量 子 力 学	2	2-0	3年	前期	量子力学の基礎	
	物物302	量 子 力 学	2	2-0	3年	後期	量子力学の基礎原理とその応用	
	物物303	熱 力 学	2	2-0	3年	前期	熱力学の3法則とその応用	
	物物304	統 計 力 学	2	2-0	3年	後期	統計力学の基礎原理、統計集団、 応用例	
	物物305	物 理 実 験 III	2	0-6	3年	前期	光、電子及び物質に関する原子物 理学についての基礎実験	
	物物401	卒 業 研 究 I	4	0-8	4年	前期	特定のテーマについて専門的な研 究を行う	卒研着手条件をみたすこと
物物402	卒 業 研 究 II	4	0-8	4年	後期	特定のテーマについて専門的な研 究を行う	卒研着手条件をみたすこと	

*必修科目と重なっているなどやむを得ない事情がある場合は、先23の代わりに自02、先24の代わりに自01又は自03での履修を認める。

【物質地球科学科 物理系】

(別表2)授業科目及び単位数

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
選 択 科 目	物物101	物理学基礎演習Ⅰ	2	0-2	1年	前期	問題演習を中心とした大学物理への入門	
	物物102	物理学基礎演習Ⅱ	2	0-2	1年	後期	問題演習を中心とした大学物理への入門	
	物物122	エレクトロニクス入門	2	2-0	2年	後期	回路理論と電子回路素子の特性	
	物物132	プログラミング入門	2	2-0	2年	前期	計算機プログラミング言語の初歩	
	物物211	力学演習	2	0-2	2年	前期	「力学」の演習	
	物物212	解析力学演習	2	0-2	2年	後期	「解析力学」の演習	
	物物215	電磁気学演習Ⅰ	2	0-2	2年	前期	「電磁気学Ⅰ」の演習	
	物物216	電磁気学演習Ⅱ	2	0-2	2年	後期	「電磁気学Ⅱ」の演習	
	物物222	原子物理学	2	2-0	2年	後期	電磁場内の電子の運動、粒子散乱及び原子模型	
	物物231	数値解析演習Ⅰ	2	0-2	2年	後期	数値計算の基礎とプログラミングの演習	
	物物311	初等量子力学演習	2	0-2	3年	前期	「初等量子力学」の演習	
	物物312	量子力学演習	2	0-2	3年	後期	「量子力学」の演習	
	物物313	熱力学演習	2	0-2	3年	前期	「熱力学」の演習	
	物物314	統計力学演習	2	0-2	3年	後期	「統計力学」の演習	
	物物321	物理数学Ⅲ	2	2-0	3年	前期	複素関数論の基礎	
	物物322	物理数学Ⅳ	2	2-0	2年	後期	フーリエ解析	
	物物323	相対論	2	2-0	3年	前期	相対論的力学と共変形式の電磁気学	
	物物324	流体力学	2	2-0	3年	後期	静力学、理想流体、粘性流体の初等的な力学	
	物物325	光学	2	2-0	3年	後期	幾何及び波動光学、レーザー分光学	
	物物326	宇宙物理学	2	2-0	3年	後期	天体物理学と宇宙論の基礎	
	物物328	波動論	2	2-0	2年	前期	音波や電磁波などの波動の初等的一般論	
	物物329	数値解析演習Ⅱ	2	0-2	3年	前期	物理現象の数値計算による解法とプログラミングの演習	
	物物333	計算物理学	2	2-0	3年	後期	基本的な物理現象のシミュレーション	
	物物344	物理実験Ⅳ	1	0-2	3年	後期	担当教員の研究室で与えられた課題について実験を行う	物理実験Ⅱ、Ⅲ
	物物421	量子力学特論	2	2-0	4年	前期	量子力学の理論体系についての理解を深める	
	物物423	統計力学特論	2	2-0	4年	前期	統計力学の理論と応用	
	物物429	物性論	2	2-0	4年	前期	現代物性論の基礎	
	物物427	物理学トピックスⅠ	2	2-0	2~3年	後期	最近の話題	
物物428	物理学トピックスⅡ	2	2-0	2~3年	後期	最近の話題		

注意:選択科目の中には開講されないものもある。

[物質地球科学科 物理系]

(別表2)授業科目及び単位数

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
選 択 科 目	物物431	物理学特別講義A	2	2-1	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物432	物理学特別講義B	2	2-2	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物433	物理学特別講義C	2	2-0	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物434	物理学特別講義D	2	2-0	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物435	物理学特別講義E	2	2-0	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物436	物理学特別講義F	2	2-0	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物441	物理学特別講義G	2	2-0	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物442	物理学特別講義H	2	2-0	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物443	物理学特別講義I	2	2-0	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物444	物理学特別講義J	2	2-0	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物445	物理学特別講義K	2	2-0	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物446	物理学特別講義L	2	2-0	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物451	物理学特別セミナーA	1	1-0	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物452	物理学特別セミナーB	1	1-0	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物453	物理学特別セミナーC	1	1-0	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物454	物理学特別セミナーD	1	1-0	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物455	物理学特別セミナーE	1	1-0	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物456	物理学特別セミナーF	1	1-0	3~4年	前又は後	集中講義	
	物物461	物理学特別セミナーG	1	1-0	3~4年	前又は後	集中講義	
物物462	物理学特別セミナーH	1	1-0	3~4年	前又は後	集中講義		
物物463	物理学特別セミナーI	1	1-0	3~4年	前又は後	集中講義		
物物464	物理学特別セミナーJ	1	1-0	3~4年	前又は後	集中講義		
物物465	物理学特別セミナーK	1	1-0	3~4年	前又は後	集中講義		
物物466	物理学特別セミナーL	1	1-0	3~4年	前又は後	集中講義		

物理学特別講義A~L及び物理学特別セミナーA~Lは、主に集中講義として随時に開講される。

[物質地球科学科 物理系]

卒業の要件

I. 共通教育

1. 教養領域

健康運動系科目
人文系科目
社会系科目
自然系科目

2単位以上
2単位以上

2単位以上

2. 総合領域

総合科目
琉大特色・地域創生科目
キャリア関係科目

2単位以上

12単位以上

14単位以上

3. 基幹領域

情報関係科目
外国語科目

8単位以上
4単位以上

12単位以上

計 26単位以上

II. 専門基礎教育

必修科目

物理学Ⅰ・Ⅱ^{注1}、物理学実験、微分積分学STⅠ・Ⅱ^{注2} 9単位

計 9単位以上

III. 専門教育

理学部共通科目
学科共通科目

4単位以上^{注3}

必修科目

34単位以上

選択科目

30単位以上

50単位以上

自由科目^{注4}

計 88単位以上

合計 124単位以上^{注5}

注1) 高等学校で物理を履修していない者は物理学Ⅰ・Ⅱの代わりに物理学入門Ⅰ・Ⅱをとってもよい。

注2) 高等学校で微分・積分を履修していない者は微分積分学STⅠ・Ⅱの代わりに微分積分学入門Ⅰ・Ⅱをとってもよい。
また、微分・積分に十分な学力のある者は、微分積分学STⅠ・Ⅱの代わりに微分積分学ADⅠ・Ⅱをとってもよい。

注3) 基礎ゼミⅠ・Ⅱは必修とする。

注4) 自由科目は、物理系以外の専門科目、および備考1、2により読み替えた科目である。ただし、夜間主コース科目は除く。

注5) 124単位を取得するためには、Ⅰ.共通教育、Ⅱ.専門基礎教育、Ⅲ.専門教育の最少単位に加えて、さらに1単位(どの分野でもかまわない)を取得する必要がある。

(備考1) 理学部共通科目及び学科共通科目の合計単位が、4単位を超えた場合、その超えた単位を自由科目の単位とみなすことができる。

(備考2) 健康運動系および外国語科目を除く共通教育および専門基礎教育の授業科目の合計修得単位が21単位を超えたとき、10単位までは専門教育の自由科目の単位として読み替えることができる。

ただし、専門基礎科目の「物理学入門Ⅰ及びⅡ」の2授業科目は除く。

(備考3) 外国人学生の場合には、琉球大学共通教育等履修規程第8条により次の特例を認める。

(1) 共通教育の人文、社会、自然、総合、キャリア関係、琉大特色・地域創生のうち4単位まで、日本事情科目で読み替えることができる。

(2) 英語以外の一つの外国語科目(4単位以上)を日本語科目で読み替えることができる。

[物質地球科学科 地球環境系]

(別表1) 講座別授業科目分類表

講座名	科目番号	授業科目	単位数
学 科 共 通 科 目	物共101	物理学概論	2
	物共102	物理学基礎実験	1
	物共103	化学概論	2
	物共104	化学基礎実験	1
	物共105	生物学概論	2
	物共106	生物学基礎実験	1
	物共107	地学概論	2
	物共108	地学基礎実験	1
	物共109	理科基礎実験	1
海 洋 地 圏 科 学	物地251	地震学	2
	物地261	岩石鉱物学入門	2
	物地262	偏光顕微鏡実習	2
	物地263	岩石鉱物成因論	2
	物地264	岩石鉱物学実験	2
	物地273	地理情報システム演習	2
	物地275	地層学	2
	物地378	地質図学演習	2
	物地379	固体地球物理学	2
	物地383	地球史学	2
	物地397	計算地球科学	2
	物地399	地震学実験	2
海 洋 水 圏 科 学	物地151	プログラミング入門	2
	物地280	気候変動学	2
	物地285	海洋微古生物学	2
	物地286	海洋微古生物学実験	2
	物地290	流体力学	2
	物地291	気象学	2
	物地292	物理数学演習	2

講座名	科目番号	授業科目	単位数
海 洋 水 圏 科 学	物地293	海洋物理学	2
	物地296	地球科学のためのデータ解析	2
	物地298	気象学実験	2
	物地382	地史学実験	2
	物地391	台風物理学	2
	物地395	地球流体力学	2
共 通 科 目	物地101	海洋地学実習	1
	物地351	海洋地学研究法 I	2
	物地352	海洋地学研究法 II	2
	物地451	海洋地学セミナー I	2
	物地452	海洋地学セミナー II	2
	物地453	卒業研究 I	6
	物地454	卒業研究 II	6
	物地551	海洋地学特別講義 I	2
	物地552	海洋地学特別講義 II	2
	物地553	海洋地学特別講義 III	2
	物地554	海洋地学特別講義 IV	2
	物地555	海洋地学特別講義 V	2
	物地556	海洋地学特別講義 VI	2
	物地557	海洋地学特別講義 VII	2
	物地558	海洋地学特別講義 VIII	2
	物地559	海洋地学特別講義 IX	2
	物地560	海洋地学特別講義 X	2
	物地561	海洋地学特別講義 XI	2
	物地562	海洋地学特別講義 XII	2
	物地563	海洋地学特別講義 A	1
物地564	海洋地学特別講義 B	1	
物地565	海洋地学特別講義 C	1	

[物質地球科学科 地球環境系]

(別表1)講座別授業科目分類表

講座名	科目番号	授業科目	単位数
共通科目	物地566	海洋地学特別講義D	1
	物地567	海洋地学特別講義E	1
	物地568	海洋地学特別講義F	1
	物地569	海洋地学特別講義G	1
	物地570	海洋地学特別講義H	1
	物地572	海洋地学特別講義J	1
	物地573	海洋地学特別講義K	1
	物地574	海洋地学特別講義L	1
	物地580	地学インターンシップ I	2
	物地585	地学インターンシップA	1

【物質地球科学科 地球環境系】

(別表2) 授業科目及び単位数

区分	群	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
学科 共通 科目		物共101	物理学概論	2	2-0	2~3年	前又は後	物理学全般についての概説	先31、先32又は転11、転12
		物共102	物理学基礎実験	1	0-2	2~3年	前又は後	コンピュータ活用を含む物理学全般についての実験	先33
		物共103	化学概論	2	2-0	2~3年	前又は後	化学の基礎についての概説	先41、先42又は転23、転24
		物共104	化学基礎実験	1	0-2	2~3年	前又は後	コンピュータ活用を含む化学全般についての実験	先43
		物共105	生物学概論	2	2-0	2~3年	前又は後	生物学の概説	先51、先52
		物共106	生物学基礎実験	1	0-2	2~3年	前又は後	コンピュータ活用を含む生物学のさまざまな分野の実験及び実習	先53
		物共107	地学概論	2	2-0	2~3年	前又は後	地学全般についての概説	先23*、先24*
		物共108	地学基礎実験	1	0-2	2~3年	前又は後	コンピュータ活用を含む地学全般についての実験	
		物共109	理科基礎実験	1	0-2	2~3年	前又は後	理科分野全般に関する実験や実習。理科の実験・実習の考え方や方法論を包括的に概説し、実験・実習(物理学・化学・生物学・地学それぞれの題材を含む)を行う。	先33、先43、先53
必修 科目	地球 環境 系 共通 科目	物地101	海洋地学実習	1	集中	1年	前又は後	海洋地学に関する実習	注1)
		物地351	海洋地学研究法Ⅰ	2	2-0	3年	前又は後	地球環境系各研究室に所属するに先立つ共通的な研究テーマの学習	注2)
		物地352	海洋地学研究法Ⅱ	2	2-0	3年	前又は後	地球環境系各研究室ごとの研究テーマによる学習	物地351
		物地451	海洋地学セミナーⅠ	2	2-0	4年	前又は後	地球環境系各研究室ごとの研究テーマによる文献講読	
		物地452	海洋地学セミナーⅡ	2	2-0	4年	前又は後	地球環境系各研究室ごとの研究テーマによる文献講読	物地451
		物地453	卒業研究Ⅰ	6	6-0	4年	前又は後	地球環境系各研究室ごとによる卒業研究	注3)
		物地454	卒業研究Ⅱ	6	6-0	4年	前又は後	地球環境系各研究室ごとによる卒業研究	物地453
選択 科目	A 群	物地261	岩石鉱物学入門	2	2-0	2年	前期	岩石学と造岩鉱物学の基礎学習	
		物地262	偏光顕微鏡実習	2	0-4	2年	前期	偏光顕微鏡の使用法と岩石観察技術の習得	
		物地263	岩石鉱物成因論	2	2-0	2年	後期	特に沈み込み帯マグマの発生と分化に関する岩石鉱物化学	物地261
		物地264	岩石鉱物学実験	2	0-4	2年	後期	岩石の化学分析とデータ処理方法	物地262
		物地251	地震学	2	2-0	2年	後期	地震学の基礎(マグニチュード、地震計、震源決定など)	

*必修科目と重なっているなどやむを得ない事情がある場合は、先23の代わりに自02、先24の代わりに自01又は自03での履修を認める。

[物質地球科学科 地球環境系]

(別表2) 授業科目及び単位数

区分	群	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
選 択 目 群	A	物地273	地理情報システム演習	2	2-0	2~4年	後期	空間分析の重要なツールであるGISソフトの基本操作とデータ取扱い方法を習得する	
		物地275	地 層 学	2	2-0	2年	後期	層序学・堆積学・地史学の基本的概念や手法の概説	
		物地285	海 洋 微 古 生 物 学	2	2-0	3年	前期	微化石を形成する生物の生物学・古生物学	
		物地286	海 洋 微 古 生 物 学 実 験	2	0-4	3年	後期	微化石の検出と観察(走査電子顕微鏡も使用)	
		物地378	地 質 図 学 演 習	2	2-0	2~3年	後期	地質図の作成と読み方に関する室内・野外実習	
		物地379	固 体 地 球 物 理 学	2	2-0	3年	後期	地震、重力、地殻熱流量等に基づく固体地球の考察	
		物地382	地 史 学 実 験	2	0-4	3年	前期	各地質時代毎の化石及び堆積岩の記載、層序解析	
		物地383	地 球 史 学	2	2-0	3年	前期	地球46億年の歴史を、地球形成期から現在までの時間軸に沿って、固体地球の進化と表層環境の進化および生命の進化との相互作用の視点から概観する。	
		物地397	計 算 地 球 科 学	2	2-0	3年	前期	地球科学で使われる数値解析の基礎	
	物地399	地 震 学 実 験	2	0-4	3年	後期	地震計測方法および地震記録の解析方法を実験により学習する		
	B	物地151	プログラミング入門	2	2-0	1~3年	後期	計算機プログラミング言語の基礎	
		物地280	気 候 変 動 学	2	2-0	2~3年	後期	過去260万年に発生した気候変動を紹介し、その駆動メカニズムを概説する。これらの気候変動と温暖化との関連についても紹介する。	
		物地290	流 体 力 学	2	2-0	2~3年	後期	大気や水などの流体の力学について講義する	
		物地291	気 象 学	2	2-0	2年	前期	力学、熱力学など物理学に基礎を置いた大気現象の解説	
		物地292	物 理 数 学 演 習	2	2-0	2年	前期	地球科学のための物理数学演習、「流体力学」の学習に必要なベクトル解析、微分方程式、フーリエ級数など	
		物地293	海 洋 物 理 学	2	2-0	3年	後期	大規模海流循環などの海洋物理過程	
		物地296	地球科学のためのデータ解析	2	2-0	2~3年	前期	観測等によって得られたデータの処理・解析・可視化に関する講義及び実習	
		物地298	気 象 学 実 験	2	0-4	2年	後期	気象現象の理解を助ける基礎的な実験と観測手法入門	
		物地391	台 風 物 理 学	2	2-0	3年	後期	力学・熱力学の観点から、台風の構造・進路・強度、海洋や陸面との相互作用について学習する	
物地395		地 球 流 体 力 学	2	2-0	3年	前期	地球大気や大気の大気力学現象の基礎を講義する		

【物質地球科学科 地球環境系】

(別表2)授業科目及び単位数

区分	群	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
地球環境系 選択科目 の 他 の 共 通 科 目	地球環境系 の 他 の 共 通 科 目	物地551	海洋地学特別講義Ⅰ	2	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地552	海洋地学特別講義Ⅱ	2	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地553	海洋地学特別講義Ⅲ	2	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地554	海洋地学特別講義Ⅳ	2	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地555	海洋地学特別講義Ⅴ	2	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地556	海洋地学特別講義Ⅵ	2	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地557	海洋地学特別講義Ⅶ	2	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地558	海洋地学特別講義Ⅷ	2	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地559	海洋地学特別講義Ⅸ	2	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地560	海洋地学特別講義Ⅹ	2	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地561	海洋地学特別講義Ⅺ	2	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地562	海洋地学特別講義Ⅻ	2	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地563	海洋地学特別講義A	1	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地564	海洋地学特別講義B	1	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地565	海洋地学特別講義C	1	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地566	海洋地学特別講義D	1	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地567	海洋地学特別講義E	1	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地568	海洋地学特別講義F	1	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地569	海洋地学特別講義G	1	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地570	海洋地学特別講義H	1	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地572	海洋地学特別講義J	1	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地573	海洋地学特別講義K	1	集中		随時	海洋地学における特別課題	
		物地574	海洋地学特別講義L	1	集中		随時	海洋地学における特別課題	
物地580	地学インターンシップⅠ	2	集中		随時	地学に関するインターンシップ			
物地585	地学インターンシップA	1	集中		随時	地学に関するインターンシップ			

注1) 学生教育研究傷害保険に加入すること。

注2) 理学部共通科目の基礎ゼミⅠ・同Ⅱ、専門基礎教育13単位以上、外国語科目8単位以上、前記以外の共通教育科目10単位以上を予め修得済みであること。

注3) 海洋地学研究法Ⅰ、同Ⅱを予め履修済みであり、且つ、卒業に必要な単位数のうち、卒業研究Ⅰ、同Ⅱ、及び海洋地学セミナーⅠ、同Ⅱを除いた未修得単位数が6単位以下であること。

[物質地球科学科 地球環境系]

卒業の要件

I. 共通教育

1. 教養領域

健康運動系科目

人文系科目

社会系科目

自然系科目

2. 総合領域

総合科目

琉大特色・地域創生科目

キャリア関係科目

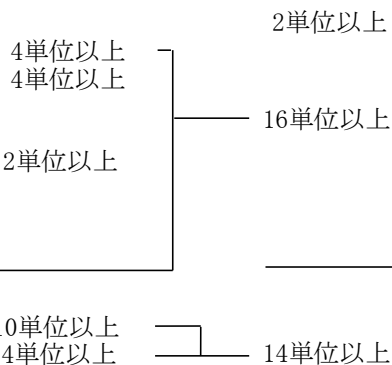
3. 基幹領域

情報関係科目

外国語科目

英語

他の外国語*



計 32単位以上

II. 専門基礎教育

必修科目

地球科学 I・II (4単位必修)

及び物理学 I・II (又は物理学入門 I・II)、

化学 I・II (又は化学入門 I・II)の中から4単位**

8単位

選択科目

上記必修科目として取得した科目以外の下記専門基礎科目から5単位以上***

物理学 I・II (又は物理学入門 I・II)、物理学実験、化学 I・II (又は化学入門 I・II)、化学実験、

生物学 I・II、生物学実験、地学実験、微分積分学ST I・II (又は微分積分学入門 I・II)、

その他の数学科目

5単位以上

計 13単位以上

III. 専門教育

理学部共通科目

学科共通科目

必修科目(本系指定科目)

選択科目(本系提供科目でA群6単位以上、B群6単位以上を

それぞれ含むこと)

自由科目(本系以外での提供科目、但し、夜間主コース科目を除く)

4単位以上****

21単位

30単位以上

54単位以上

計 79単位以上

合計 124単位以上

* 同一外国語の4単位以上を含むこと。

** 同一分野の I と II の科目を合わせて4単位とすること(入門の有無は問わない)。

*** 以下の科目の両方を卒業要件に含めることはできない。

物理学 I と物理学入門 I

物理学 II と物理学入門 II

化学 I と化学入門 I

化学 II と化学入門 II

微分積分学ST I と微分積分学入門 I

微分積分学ST II と微分積分学入門 II

**** 基礎ゼミ I・II は必修とする。理学部共通科目及び学科共通科目の合計単位が4単位を超えた場合は、その超えた単位を自由科目の単位と見なすことができる。

(備考) 専門基礎教育科目の「微分積分学ST I・II」、または理学部共通科目の「自然科学のための数学 I・II」のいずれかを履修することが望ましい。

[海洋自然科学科 化学系]

(別表1) 講座別授業科目分類表

講座名	科目番号	授業科目	単位数
学科 共通 科目	海共101	物理学概論	2
	海共102	物理学基礎実験	1
	海共103	化学概論	2
	海共104	化学基礎実験	1
	海共105	生物学概論	2
	海共106	生物学基礎実験	1
	海共107	地学概論	2
	海共108	地学基礎実験	1
	海共109	理科基礎実験	1
分子 機能 化学	海化211	物理化学 I	2
	海化213	物理化学 II	2
	海化217	物理化学演習	2
	海化218	物理化学 III	2
	海化219	物理化学 IV	2
	海化251	有機化学 I	2
	海化252	有機化学 II	2
	海化312	生体分子化学	2
	海化319	化学統計熱力学	2
	海化322	光化学	2
	海化327	アドバンスト物理化学	2
	海化328	物理化学実験	2
	海化330	物性物理化学	2
	海化351	有機化学 III	2
	海化352	有機化学 IV	2
	海化353	有機化学実験 I	1
	海化354	有機化学実験 II	1
海化362	天然物化学	2	
海化364	有機反応論	2	
海化365	有機合成化学	2	

講座名	科目番号	授業科目	単位数
分子 機能 化学	海化461	有機化学演習	2
	海化510	物理化学特別講義A	1
	海化511	物理化学特別講義B	1
	海化514	有機化学特別講義A	1
	海化515	有機化学特別講義B	1
	解 析 化 学	海化231	分析化学 I
海化232		分析化学 II	2
海化233		分析化学実験 I	1
海化234		分析化学実験 II	1
海化271		無機化学 I	2
海化272		無機化学 II	2
海化275		無機化学実験	2
海化331		放射化学	2
海化333		機器分析	2
海化334		機器分析演習	2
海化335		分析化学特別実習	1
海化341		環境化学	2
海化343		地球化学	2
海化346		サンゴ礁の化学	2
海化348		放射化学実験	2
海化372		電気化学	2
海化374		錯体化学	2
海化376		固体化学	2
海化377		エネルギー化学	2
海化512		分析化学特別講義A	1
海化513	分析化学特別講義B	1	
海化516	無機化学特別講義A	1	
海化517	無機化学特別講義B	1	

[海洋自然科学科 化学系]

(別表1) 講座別授業科目分類表

講座名	科目番号	授業科目	単位数
海洋化学	海化292	海洋化学概論	2
	海化391	海洋無機化学	2
	海化393	海洋無機化学実験	2
	海化394	海洋有機化学	2
	海化396	海洋有機化学実験	2
	海化518	海洋化学特別講義A	1
	海化519	海洋化学特別講義B	1
共通科目	海化531	化学英語	2
	海化532	文献講読	2
	海化533	計算機化学概論	2
	海化534	研究基礎実習	2
	海化535	化学研究法	2
	海化581	セミナー I	1
	海化582	セミナー II	1
	海化591	卒業研究 I	4
	海化592	卒業研究 II	4

[海洋自然科学科 化学系]

(別表2)授業科目及び単位数

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
学科共通科目	海共101	物理学概論	2	2-0	2~3年	前又は後	物理学全般についての概説	先31、先32又は 転11、転12
	海共102	物理学基礎実験	1	0-2	2~3年	前又は後	コンピュータ活用を含む物理学全般についての実験	先33
	海共103	化学概論	2	2-0	2~3年	前又は後	化学の基礎についての概説	先41、先42又は 転23、転24
	海共104	化学基礎実験	1	0-2	2~3年	前又は後	コンピュータ活用を含む化学全般についての実験	先43
	海共105	生物学概論	2	2-0	2~3年	前又は後	生物学の概説	先51、先52
	海共106	生物学基礎実験	1	0-2	2~3年	前又は後	コンピュータ活用を含む生物学のさまざまな分野の実験及び実習	先53
	海共107	地学概論	2	2-0	2~3年	前又は後	地学全般についての概説	先23*、先24*
	海共108	地学基礎実験	1	0-2	2~3年	前又は後	コンピュータ活用を含む地学全般についての実験	
	海共109	理科基礎実験	1	0-2	2~3年	前又は後	理科学分野全般に関する実験や実習。理科の実験・実習の考え方や方法論を包括的に概説し、実験・実習(物理学・化学・生物学・地学それぞれの題材を含む)を行う。	先33、先43、 先53
必修科目	海化211	物理化学Ⅰ	2	2-0	2年	前期	量子化学の基礎	
	海化213	物理化学Ⅱ	2	2-0	2年	前期	熱力学の三法則と化学平衡の理論	
	海化231	分析化学Ⅰ	2	2-0	2年	前期	定性分析の理論及び各論	
	海化232	分析化学Ⅱ	2	2-0	2年	後期	定量分析の理論及び各論	
	海化233	分析化学実験Ⅰ	1	0-2	2年	後期	陽イオンの定性分析	
	海化234	分析化学実験Ⅱ	1	0-2	2年	後期	定量分析(重量分析、容量分析)	
	海化251	有機化学Ⅰ	2	2-0	2年	前期	有機化学の基礎概念と脂肪族化合物の基本骨格とその反応	
	海化252	有機化学Ⅱ	2	2-0	2年	後期	有機化合物の構造決定と芳香族化合物の基本骨格とその反応	
	海化271	無機化学Ⅰ	2	2-0	2年	前期	無機物質の製法、性質、化学反応論、結合の基礎	
	海化272	無機化学Ⅱ	2	2-0	2年	後期	無機物質の製法、性質、反応論及び結合理論	
	海化275	無機化学実験	2	0-4	2年	後期	無機化合物の合成・同定および機能評価	先43
	海化328	物理化学実験	2	0-4	3年	前期	物理化学の基礎的実験	
	海化353	有機化学実験Ⅰ	1	0-2	3年	前期	有機化学の基礎的実験	先43
	海化354	有機化学実験Ⅱ	1	0-2	3年	前期	有機化学の基礎的実験	先43
	海化581	セミナーⅠ	1	0-2	4年	前期	それぞれの専門分野に関するセミナー	
	海化582	セミナーⅡ	1	0-2	4年	後期	それぞれの専門分野に関するセミナー	
海化591	卒業研究Ⅰ	4	0-8	4年	前期	特殊な問題についての研究、テーマは各教員と相談して決める。		
海化592	卒業研究Ⅱ	4	0-8	4年	後期	特殊な問題についての研究、テーマは各教員と相談して決める。		

*必修科目と重なっているなどやむを得ない事情がある場合は、先23の代わりに自02、先24の代わりに自01又は自03での履修を認める。

【海洋自然科学科 化学系】

(別表2)授業科目及び単位数

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
科目A 選択必修	海化218	物理化学Ⅲ	2	2-0	2年	後期	量子化学(分子の構造・対称性)と構造化学(分子分光法)	海化211
	海化219	物理化学Ⅳ	2	2-0	2年	後期	化学反応速度論および化学変化に関する物理化学	海化213
選択必修科目B	海化292	海洋化学概論	2	2-0	2年	後期	海洋を無機化学および有機化学から解説する。	
	海化346	サンゴ礁の化学	2	2-0	3年	後期	現在及び過去のサンゴ礁の化学的側面について総合的に学ぶ。	
	海化362	天然物化学	2	2-0	3年	後期	天然物化学研究法	海化251履修済み。海化252および351を履修していることが望ましい。
	海化391	海洋無機化学	2	2-0	3年	前期	海洋の無機化学的諸現象について	
	海化394	海洋有機化学	2	2-0	3年	前期	海洋生物の毒及びその他の生理活性物質の化学	
選択科目	海化217	物理化学演習	2	0-2	2年	前期	「物理化学Ⅰ」、「物理化学Ⅱ」の問題演習	
	海化312	生体分子化学	2	2-0	3年	前又は後	生体分子の物理化学	
	海化319	化学統計熱力学	2	2-0	3年	前又は後	化学熱力学の分子論的取り扱い	
	海化322	光化学	2	2-0	3年	前又は後	光化学の基礎と応用および実験法	
	海化327	アドバンスト物理化学	2	2-0	3年	前又は後	最先端化学において、物理化学がどのような役割を果たしているか解説する	
	海化330	物性物理化学	2	2-0	3年	前又は後	固体とソフトマターの構造と物性	
	海化331	放射化学	2	2-0	3年	前期	放射能に関する基礎理論及び応用	
	海化333	機器分析	2	2-0	3年	後期	機器を用いた分析法の理論及び各論	
	海化334	機器分析演習	2	0-2	3年	前又は後	機器分析実験法と結果の報告	
	海化335	分析化学特別実習	1	0-2	3~4年	前期	野外調査法の演習及び特殊研究施設を利用した実習	
	海化341	環境化学	2	2-0	3年	後期	環境における化学変化およびその化学的特徴	海化231 海化232
	海化343	地球化学	2	2-0	3~4年	前又は後	地圏、水圏、気圏の物質収支の基礎的考察	
	海化348	放射化学実験	2	0-4	3年	後期	放射能測定に関する基礎的実験	海化331
	海化351	有機化学Ⅲ	2	2-0	3年	前期	官能基を持つ有機化合物とその構造、性質および反応	海化251及び海化252を履修していることが望ましい。
	海化352	有機化学Ⅳ	2	2-0	3年	前又は後	生体関連分子の解説	
	海化364	有機反応論	2	2-0	3年	前又は後	やや高度な有機反応についての理論的解説	海化251 海化252
海化365	有機合成化学	2	2-0	3年	前又は後	有機化合物の合成方法の理論的解説	海化251 海化252 海化351	

【海洋自然科学科 化学系】

(別表2)授業科目及び単位数

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
選 択 科 目	海化372	電 気 化 学	2	2-0	3年	前期	溶液及び固体の電気化学	
	海化374	錯 体 化 学	2	2-0	3年	前期	配位化合物の立体化学、結合論 及び反応論	
	海化376	固 体 化 学	2	2-0	3年	前又は後	固体物質・材料の合成、構造及び 物性・機能	
	海化377	エ ネ ル ギ ー 化 学	2	2-0	3年	前期	実社会で利用されるエネルギー関 連の無機化学	
	海化393	海 洋 無 機 化 学 実 験	2	0-4	3年	前期	海水の化学分析	
	海化396	海 洋 有 機 化 学 実 験	2	0-4	3年	前期	海洋生物成分の抽出、分離、構造 決定	
	海化461	有 機 化 学 演 習	2	0-2	3~4年	後期	有機化学の基礎問題についての 演習	海化251 海化252 海化351
	海化510	物理化学特別講義A	1	2-0	3~4年	前又は後	物理化学の分野における最近の 話題等	
	海化511	物理化学特別講義B	1	2-0	3~4年	前又は後	物理化学の分野における最近の 話題等	
	海化512	分析化学特別講義A	1	2-0	3~4年	前又は後	分析化学一般の分野における特 別講義	
	海化513	分析化学特別講義B	1	2-0	3~4年	前又は後	地球化学一般の分野における特 別講義	
	海化514	有機化学特別講義A	1	2-0	3~4年	前又は後	各分野における最近の話題やト ピックス	
	海化515	有機化学特別講義B	1	2-0	3~4年	前又は後	各分野における最近の話題やト ピックス	
	海化516	無機化学特別講義A	1	2-0	3~4年	前又は後	無機化学及びその境界領域にお ける最近の話題やトピックス	
	海化517	無機化学特別講義B	1	2-0	3~4年	前又は後	無機化学及びその境界領域にお ける最近の話題やトピックス	
	海化518	海洋化学特別講義A	1	2-0	3~4年	前又は後	海洋化学における最近の話題やト ピックス	
	海化519	海洋化学特別講義B	1	2-0	3~4年	前又は後	海洋化学における最近の話題やト ピックス	
	海化531	化 学 英 語	2	2-0	3年	前又は後	化合物名、反応式、数値等の英語 表現	
	海化532	文 献 講 読	2	2-0	3年	前又は後	化学関係の外国語の文献を講読 する	
	海化533	計 算 機 化 学 概 論	2	2-0	3年	前又は後	データ解析、プログラミングの基礎	
	海化534	研 究 基 礎 実 習	2	0-2	3年	後期	卒業研究を行うにあたって必要 な基礎的な技術や知識を少人数で 学ぶ	
	海化535	化 学 研 究 法	2	2-0	3~4年	後期	化学研究の方法論を学ぶ	

注意: 選択科目の中には毎年開講されないものもある。

[海洋自然科学科 化学系]

卒業の要件

I. 共通教育

1. 教養領域

健康運動系科目

人文系科目

社会系科目

自然系科目

2. 総合領域

総合科目

琉大特色・地域創生科目

キャリア関係科目

3. 基幹領域

情報関係科目

外国語科目

英語

他の1つの外国語

4単位以上

4単位以上

18単位以上

20単位以上

8単位以上

4単位以上

12単位以上

計32単位以上

II. 専門基礎教育

必修科目[化学 I・II、化学実験] 5単位

選択科目[微分積分学ST I・II^{注1}、

線形代数学 I・II、物理学 I・II^{注2}、物理学実験、

生物学 I・II、生物学実験、地学実験] 9単位以上

計14単位以上

III. 専門教育

理学部共通科目^{注3}

学科共通科目

必修科目

選択必修科目^{注4}

選択科目

自由科目^{注5}

4単位以上

34単位

4単位以上

24単位以上

36単位以上

計78単位以上

合計124単位以上

注1) 高等学校で微分・積分を履修していない者は、微分積分学ST I・IIの代わりに微分積分学入門 I・IIをとってもよい。

また、微分・積分に十分な学力のある者は、微分積分学ST I・IIの代わりに微分積分学AD I・IIをとってもよい。

注2) 高等学校で物理を履修していない者は、物理学 I・IIの代わりに物理学入門 I・IIをとってもよい。

注3) 基礎ゼミ I・IIを含むこと。

注4) AとBからそれぞれ2単位以上修得すること。単位が4単位を超えた場合、その超えた単位を選択科目単位とみなすことができる。

注5) 自由科目とは、理学部化学系以外の系、学科、学部で開講される専門科目である。ただし、夜間主コース科目は除く。理学部共通科目及び学科共通科目の合計単位が4単位を超えた場合、その超えた単位を自由科目の単位とみなすことができる。

[海洋自然科学科 生物系]

(別表1) 講座別授業科目分類表

講座名	科目番号	授業科目	単位数
学 科 共 通 科 目	海共101	物理学概論	2
	海共102	物理学基礎実験	1
	海共103	化学概論	2
	海共104	化学基礎実験	1
	海共105	生物学概論	2
	海共106	生物学基礎実験	1
	海共107	地学概論	2
	海共108	地学基礎実験	1
	海共109	理科基礎実験	1
	進 化 生 態 学	海生203	進化生態学実習 I
海生204		進化生態学実習 II	1
海生205		進化生態学実習 III	1
海生206		進化生態学実習 IV	1
海生207		進化生態学実習 V	1
海生208		進化生態学実習 VI	1
海生209		進化生態学実習 VII	1
海生210		進化生態学実習 VIII	1
海生216		植物分類学	2
海生217		動物分類学	2
海生218		進化生態学実習 IX	1
海生219		進化生態学実習 X	1
海生312		植物生態学	2
海生346		動物生態学	2
海生348		サンゴ礁生態学	2
海生350		海洋生態学	2
海生372		進化多様性科学	2
海生451		進化生態学特殊講義 I	2
海生452		進化生態学特殊講義 II	2
海生453		進化生態学特殊講義 III	2
海生454	進化生態学特殊講義 IV	2	

講座名	科目番号	授業科目	単位数
進 化 生 態 学	海生455	進化生態学特殊講義 A	1
	海生456	進化生態学特殊講義 B	1
	海生457	進化生態学特殊講義 C	1
	海生458	進化生態学特殊講義 D	1
	海生511	進化生態学特別実験 I	1
	海生512	進化生態学特別実験 II	1
	海生513	進化生態学特別実験 III	1
	海生514	進化生態学特別実験 IV	1
	海生515	進化生態学特別実験 V	1
	海生516	進化生態学特別実験 VI	1
海生517	進化生態学特別実験 VII	1	
海生518	進化生態学特別実験 VIII	1	
熱 帯 生 命 機 能 学	海生251	熱帯生命機能学実習 I	1
	海生252	熱帯生命機能学実習 II	1
	海生253	熱帯生命機能学実習 III	1
	海生254	熱帯生命機能学実習 IV	1
	海生255	熱帯生命機能学実習 V	1
	海生256	熱帯生命機能学実習 VI	1
	海生257	熱帯生命機能学実習 VII	1
	海生258	熱帯生命機能学実習 VIII	1
	海生320	細胞学	2
	海生322	環境適応生理学	2
	海生324	発生生物学	2
	海生338	分子細胞生物学	2
	海生342	無脊椎動物学	2
	海生345	分子生理学	2
	海生321	植物生理学	2
	海生461	生命機能学特殊講義 I	2
海生462	生命機能学特殊講義 II	2	

[海洋自然科学科 生物系]

(別表1) 講座別授業科目分類表

講座名	科目番号	授業科目	単位数
熱帯生命機能学	海生463	生命機能学特殊講義Ⅲ	2
	海生464	生命機能学特殊講義Ⅳ	2
	海生465	生命機能学特殊講義A	1
	海生466	生命機能学特殊講義B	1
	海生467	生命機能学特殊講義C	1
	海生468	生命機能学特殊講義D	1
	海生521	熱帯生命機能学特別実験Ⅰ	1
	海生522	熱帯生命機能学特別実験Ⅱ	1
	海生523	熱帯生命機能学特別実験Ⅲ	1
	海生524	熱帯生命機能学特別実験Ⅳ	1
	海生525	熱帯生命機能学特別実験Ⅴ	1
	海生526	熱帯生命機能学特別実験Ⅵ	1
	海生527	熱帯生命機能学特別実験Ⅶ	1
	海洋生物学	海生261	海洋生物生産学実習Ⅰ
海生262		海洋生物生産学実習Ⅱ	1
海生263		海洋生物生産学実習Ⅲ	1
海生264		海洋生物生産学実習Ⅳ	1
海生265		海洋生物生産学実習Ⅴ	1
海生266		海洋生物生産学実習Ⅵ	1
海生267		海洋生物生産学実習Ⅶ	1
海生268		海洋生物生産学実習Ⅷ	1
海生269		海洋生物生産学実習Ⅸ	1
海生270		海洋生物生産学実習Ⅹ	1
海生328		比較内分泌学	2
海生331		海洋生物生産学	2
海生335		脊椎動物学	2
海生341		藻類学	2
海生343		海洋資源生物学	2
海生344		海洋動物行動学	2
海生349	サンゴ礁多様性保全学	2	
海生371	魚類学	2	

講座名	科目番号	授業科目	単位数	
海洋生物学	海生471	海洋生物生産学特殊講義Ⅰ	2	
	海生472	海洋生物生産学特殊講義Ⅱ	2	
	海生473	海洋生物生産学特殊講義Ⅲ	2	
	海生474	海洋生物生産学特殊講義Ⅳ	2	
	海生475	海洋生物生産学特殊講義A	1	
	海生476	海洋生物生産学特殊講義B	1	
	海生477	海洋生物生産学特殊講義C	1	
	海生478	海洋生物生産学特殊講義D	1	
	海生531	海洋生物生産学特別実験Ⅰ	1	
	海生532	海洋生物生産学特別実験Ⅱ	1	
	海生533	海洋生物生産学特別実験Ⅲ	1	
	海生534	海洋生物生産学特別実験Ⅳ	1	
	海生535	海洋生物生産学特別実験Ⅴ	1	
	海生536	海洋生物生産学特別実験Ⅵ	1	
	生物系共通	海生200	生物学野外実習	2
		海生302	生物学ゼミナールⅠ	2
海生401		生物学ゼミナールⅡ	2	
海生402		卒業研究Ⅰ	6	
海生403		卒業研究Ⅱ	6	
海生441		生物学特殊講義Ⅰ	2	
海生442		生物学特殊講義Ⅱ	2	
海生443		生物学特殊講義Ⅲ	2	
海生444		生物学特殊講義Ⅳ	2	
海生445		生物学特殊講義A	1	
海生446		生物学特殊講義B	1	
海生447		生物学特殊講義C	1	
海生448	生物学特殊講義D	1		
単位互換	海生351	公開臨海実習Ⅰ	1	
	海生352	公開臨海実習Ⅱ	1	
	海生353	公開臨海実習Ⅲ	1	
	海生361	サンゴ礁生物学特別実験Ⅰ	1	
	海生362	サンゴ礁生物学特別実験Ⅱ	1	

[海洋自然科学科 生物系]

(別表2) 授業科目及び単位数

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
学 科 共 通 科 目	海共101	物 理 学 概 論	2	2-0	2~3年	前又は後	物理学全般についての概説	先31、先32又は転11、 転12
	海共102	物 理 学 基 礎 実 験	1	0-2	2~3年	前又は後	コンピュータ活用を含む物理学全般 についての実験	先33
	海共103	化 学 概 論	2	2-0	2~3年	前又は後	化学の基礎についての概説	先41、先42又は転23、転 24
	海共104	化 学 基 礎 実 験	1	0-2	2~3年	前又は後	コンピュータ活用を含む化学全般に ついての実験	先43
	海共105	生 物 学 概 論	2	2-0	2~3年	前又は後	生物学の概説	先51、先52
	海共106	生 物 学 基 礎 実 験	1	0-2	2~3年	前又は後	コンピュータ活用を含む生物学のさ まざまな分野の実験及び実習	先53
	海共107	地 学 概 論	2	2-0	2~3年	前又は後	地学全般についての概説	先23*、先24*
	海共108	地 学 基 礎 実 験	1	0-2	2~3年	前又は後	コンピュータ活用を含む地学全般に ついての実験	
	海共109	理 科 基 礎 実 験	1	0-2	2~3年	前又は後	理科分野全般に関する実験や実習。 理科の実験・実習の考え方や方法論 を包括的に概説し、実験・実習(物理 学・化学・生物学・地学それぞれの題 材を含む)を行う。	先33、先43、先53
必 修 科 目	海生302	生 物 学 ゼ ミ ナ ー ル I	2	0-2	3年	前・後	論文の読み方と発表のしかたに関す る講義と実習	基礎取得科目について は注1~6を参照すること
	海生401	生 物 学 ゼ ミ ナ ー ル II	2	0-2	4年	前・後	〃	〃
	海生402	卒 業 研 究 I	6	0-12	4年	前・後	特定のテーマにつき教員の指導の もとに研究し、論文としてまとめて提出 する	〃
	海生403	卒 業 研 究 II	6	0-12	4年	前・後	〃	〃
選 択 必 修 科 目	海生203	進 化 生 態 学 実 習 I	1	0-2	2~3年	前又は後	動植物を対象とした生態学・分類学・ 形態学に関する基礎的実習	〃
	海生204	進 化 生 態 学 実 習 II	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生205	進 化 生 態 学 実 習 III	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生206	進 化 生 態 学 実 習 IV	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生207	進 化 生 態 学 実 習 V	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生208	進 化 生 態 学 実 習 VI	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生209	進 化 生 態 学 実 習 VII	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生210	進 化 生 態 学 実 習 VIII	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生218	進 化 生 態 学 実 習 IX	1	0-2	2~3年	夏期集中	海産無脊椎動物の進化生態および 生態学的な実習	〃
	海生219	進 化 生 態 学 実 習 X	1	0-2	2~3年	前期	動植物を対象とした生態学・分類学・ 形態学に関する基礎的実習	〃
	海生251	熱 帯 生 命 機 能 学 実 習 I	1	0-2	2~3年	前又は後	機能生物学に関する基礎的実習	〃
	海生252	熱 帯 生 命 機 能 学 実 習 II	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生253	熱 帯 生 命 機 能 学 実 習 III	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃

*必修科目と重なっているなどやむを得ない事情がある場合は、先23の代わりに自02、先24の代わりに自01又は自03での履修を認める。

[海洋自然科学科 生物系]

(別表2) 授業科目及び単位数

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
選 択 必 修 科 目	海生254	熱帯生命機能学実習Ⅳ	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	基礎取得科目については注1~6を参照すること
	海生255	熱帯生命機能学実習Ⅴ	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生256	熱帯生命機能学実習Ⅵ	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生257	熱帯生命機能学実習Ⅶ	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生258	熱帯生命機能学実習Ⅷ	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生261	海洋生物生産学実習Ⅰ	1	0-2	2~3年	前又は後	海洋生物学に関する基礎的実習	〃
	海生262	海洋生物生産学実習Ⅱ	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生263	海洋生物生産学実習Ⅲ	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生264	海洋生物生産学実習Ⅳ	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生265	海洋生物生産学実習Ⅴ	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生266	海洋生物生産学実習Ⅵ	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生267	海洋生物生産学実習Ⅶ	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生268	海洋生物生産学実習Ⅷ	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
	海生269	海洋生物生産学実習Ⅸ	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃
海生270	海洋生物生産学実習Ⅹ	1	0-2	2~3年	前又は後	〃	〃	
選 択 科 目	海生200	生物学野外実習	2	0-4	2年	前期	森林、河川、海岸における生物の観察と実習	〃
	海生216	植物分類学	2	2-0	2~4年	前又は後	維管束植物の分類・形態・進化に関する講義	〃
	海生217	動物分類学	2	2-0	2~4年	前又は後	動物を分類するための方法と理論に関する講義	〃
	海生312	植物生態学	2	2-0	2~4年	前又は後	植物群落の組成・構造・分布・動態に関する講義	〃
	海生320	細胞学	2	2-0	2~4年	前又は後	真核細胞の基本構造と機能に関する講義	〃
	海生322	環境適応生理学	2	2-0	2~4年	前又は後	環境ストレスに対する生理適応機構に関する講義	〃
	海生324	発生生物学	2	2-0	2~4年	前又は後	発生現象を分子・細胞レベルから考察する講義	〃
	海生328	比較内分泌学	2	2-0	2~4年	前又は後	脊椎動物の内分泌器官の形態と機能に関する講義	〃

[海洋自然科学科 生物系]

(別表2) 授業科目及び単位数

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
選 択 科 目	海生331	海洋生物生産学	2	2-0	2~4年	前又は後	有用水産生物の増養殖についての解説	基礎取得科目については注1~6を参照すること
	海生335	脊椎動物学	2	2-0	2~4年	前又は後	脊椎動物の各群を系統学の視点から紹介する講義	〃
	海生338	分子細胞生物学	2	2-0	2~4年	後期	遺伝子や一般的な細胞内機能の調節・制御に関する講義	〃
	海生341	藻類学	2	2-0	2~4年	後期	藻類の系統、分類、形態に関して概説する。	〃
	海生342	無脊椎動物学	2	2-0	2~4年	後期	プロチスタと多細胞性無脊椎動物の体制と系統に関して概説する。	〃
	海生345	分子生理学	2	2-0	2~4年	前期	生物機能(感覚と形態形成)の分子的基盤について、哺乳類の嗅神経系や昆虫の色模様形成過程を中心に解説する	〃
	海生343	海洋資源生物学	2	2-0	2~4年	前期	海洋生物資源の生物学的特徴について概説する。	〃
	海生344	海洋動物行動学	2	2-0	2~4年	前期	海洋に暮らす浮遊生物から大型ほ乳類までを対象に、その回遊から認知・学習に至る広範な行動を理解し、それらと生物生産との関連性を学ぶ。	〃
	海生346	動物生態学	2	2-0	2~4年	後期	動物の生態に関する基礎的な理論について概説する	〃
	海生348	サンゴ礁生態学	2	2-0	2~4年	前又は後	サンゴ礁生物を対象とした生態学の講義	〃
	海生349	サンゴ礁多様性保全学	2	2-0	2~4年	前又は後	サンゴ礁生物の多様性とその保全について、遺伝学、系統学、分類学的視点から総合的に解説する。	〃
	海生350	海洋生態学	2	2-0	2~4年	前又は後	海洋学の基礎について幅広く概説し、海の環境や多様な生物のしくみを学ぶと共に、近年問題になりつつある様々な環境問題について紹介する。	〃
	海生321	植物生理学	2	2-0	2~4年	前期	植物の生存を支える主な生理現象について概説する。	〃
	海生371	魚類学	2	2-0	2~4年	後期	魚類に関して総合的に解説する講義	〃
	海生372	進化多様性科学	2	2-0	2~4年	前期	進化や生物多様性について、様々な研究例を紹介し解説する講義	〃
	海生351	公開臨海実習Ⅰ	1	0-2	2~4年	随時		受講を志願し許可を受けること(掲示による応募案内参照)
	海生352	公開臨海実習Ⅱ	1	0-2	2~4年	随時		〃
	海生353	公開臨海実習Ⅲ	1	0-2	2~4年	随時		〃
	海生361	サンゴ礁生物学特別実験Ⅰ	1	0-2	2~4年	随時	サンゴ礁生物の生態に関する実験・実習	基礎取得科目については注1~6を参照すること
	海生362	サンゴ礁生物学特別実験Ⅱ	1	0-2	2~4年	随時	サンゴ礁動物(腔腸動物・魚類)の生理に関する実験	〃
海生441	生物学特殊講義Ⅰ	2	2-0	2~4年	随時	生物学に関する様々な講義	〃	
海生442	生物学特殊講義Ⅱ	2	2-0	2~4年	随時	〃	〃	
海生443	生物学特殊講義Ⅲ	2	2-0	2~4年	随時	〃	〃	
海生444	生物学特殊講義Ⅳ	2	2-0	2~4年	随時	〃	〃	

[海洋自然科学科 生物系]

(別表2) 授業科目及び単位数

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
選 択 科 目	海生445	生物学特殊講義 A	1	1-0	2~4年	随時	〃	基礎取得科目については注1~6を参照すること
	海生446	生物学特殊講義 B	1	1-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生447	生物学特殊講義 C	1	1-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生448	生物学特殊講義 D	1	1-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生451	進化生態学特殊講義 I	2	2-0	2~4年	随時	生態・進化・系統・分類に関する様々な分野の講義	〃
	海生452	進化生態学特殊講義 II	2	2-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生453	進化生態学特殊講義 III	2	2-0	2~4年	随時	生態・進化・系統・分類に関する様々な分野の講義	〃
	海生454	進化生態学特殊講義 IV	2	2-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生455	進化生態学特殊講義 A	1	1-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生456	進化生態学特殊講義 B	1	1-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生457	進化生態学特殊講義 C	1	1-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生458	進化生態学特殊講義 D	1	1-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生461	生命機能学特殊講義 I	2	2-0	2~4年	随時	機能生物学に関する様々な講義	〃
	海生462	生命機能学特殊講義 II	2	2-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生463	生命機能学特殊講義 III	2	2-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生464	生命機能学特殊講義 IV	2	2-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生465	生命機能学特殊講義 A	1	1-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生466	生命機能学特殊講義 B	1	1-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生467	生命機能学特殊講義 C	1	1-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生468	生命機能学特殊講義 D	1	1-0	2~4年	随時	〃	〃
海生471	海洋生物生産学特殊講義 I	2	2-0	2~4年	随時	海洋生物学に関する様々な講義	〃	
海生472	海洋生物生産学特殊講義 II	2	2-0	2~4年	随時	〃	〃	
海生473	海洋生物生産学特殊講義 III	2	2-0	2~4年	随時	〃	〃	
海生474	海洋生物生産学特殊講義 IV	2	2-0	2~4年	随時	〃	〃	

【海洋自然科学科 生物系】

(別表2) 授業科目及び単位数

区分	科目番号	授業科目	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	基礎修得科目等
選 択 科 目	海生475	海洋生物生産学特殊講義A	1	1-0	2~4年	随時	〃	基礎取得科目については注1~6を参照すること
	海生476	海洋生物生産学特殊講義B	1	1-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生477	海洋生物生産学特殊講義C	1	1-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生478	海洋生物生産学特殊講義D	1	1-0	2~4年	随時	〃	〃
	海生511	進化生態学特別実験Ⅰ	1	0-2	3~4年	随時	系統分類・生態学分野に関する専門的実験	〃
	海生512	進化生態学特別実験Ⅱ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生513	進化生態学特別実験Ⅲ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生514	進化生態学特別実験Ⅳ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生515	進化生態学特別実験Ⅴ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生516	進化生態学特別実験Ⅵ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生517	進化生態学特別実験Ⅶ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生518	進化生態学特別実験Ⅷ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生521	熱帯生命機能学特別実験Ⅰ	1	0-2	2~4年	随時	機能生物学に関する専門的実験	〃
	海生522	熱帯生命機能学特別実験Ⅱ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生523	熱帯生命機能学特別実験Ⅲ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生524	熱帯生命機能学特別実験Ⅳ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生525	熱帯生命機能学特別実験Ⅴ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生526	熱帯生命機能学特別実験Ⅵ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生527	熱帯生命機能学特別実験Ⅶ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生531	海洋生物生産学特別実験Ⅰ	1	0-2	2~4年	随時	海洋生物学に関する専門的実験	〃
	海生532	海洋生物生産学特別実験Ⅱ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生533	海洋生物生産学特別実験Ⅲ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生534	海洋生物生産学特別実験Ⅳ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生535	海洋生物生産学特別実験Ⅴ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃
	海生536	海洋生物生産学特別実験Ⅵ	1	0-2	2~4年	随時	〃	〃

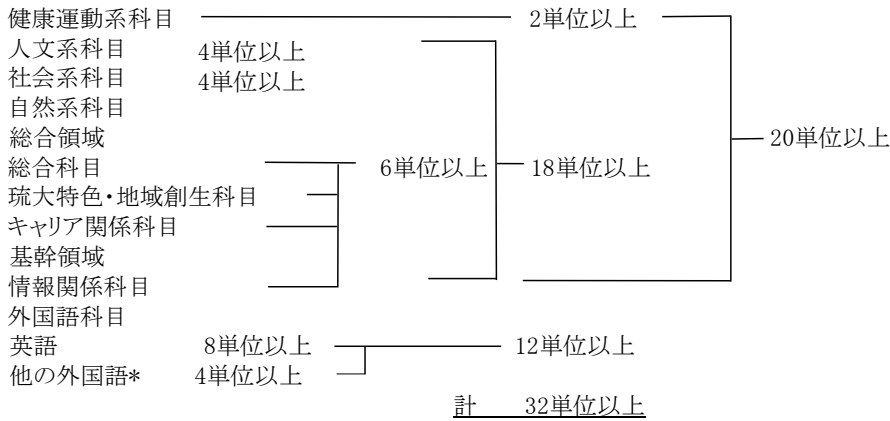
- 注) 1. 生物学ゼミナールⅠ・Ⅱを履修するにあたっては、80単位以上を取得していること。ただし、履修年次は3年後期以降とする。
 2. 卒業研究Ⅰ・Ⅱを履修するにあたっては、ゼミナールⅠを先修していること。
 3. 海洋自然科学科の学生が生物系提供の専門科目を履修するにあたっては、先51、先52、先53を先修すること。
 4. 海洋自然科学科以外の学生が、生物系提供の専門科目を履修するにあたっては、実験や実習の場合には先53を、講義の場合は先51および先52を先修すること。ただし、先51は自41で、先52は自42で代替可能である。
 5. 授業科目の履修に際し、必ず学生教育研究傷害保険または相当する保険に加入すること。
 6. 特殊講義は正規の授業科目と並行して開講される場合がある。この際、原則として正規の授業科目は休講にはならない。

[海洋自然科学科 生物系]

卒業の要件

I. 共通教育

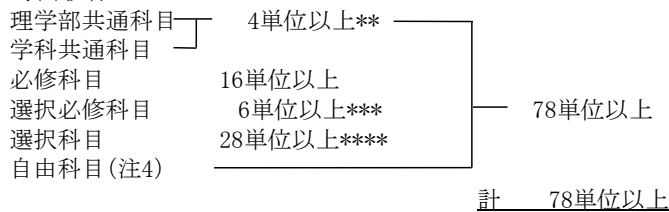
1. 教養領域



II. 専門基礎教育

- 必修科目(生物学 I・II, 生物学実験) 5単位
- 選択科目[化学 I・II (注1), 化学実験, 物理学 I・II (注2), 物理学実験, 地球科学 I・II, 地学実験, 微分積分学ST I・II (注3), 線形代数学 I・II, 統計学 I・II] 9単位以上
- 計 14単位以上

III. 専門教育



合計 124単位以上

* 同一外国語の4単位以上を含むこと。

** 基礎ゼミ I・II、2単位を含むこと。

*** 各講座の提供科目から各2単位以上を取得すること。

**** このうち特殊講義は10単位以下であること。各講座の提供科目から各8単位以上を取得すること。

注1) 高等学校で化学を履修していない者は、化学 I・II の代わりに化学入門 I・II をとってもよい。

注2) 高等学校で物理を履修していない者は、物理学 I・II の代わりに物理学入門 I・II をとってもよい。

注3) 高等学校で微分積分を履修していない者は、微分積分学ST I・II の代わりに微分積分学入門 I・II をとってもよい。

注4) 自由科目とは、理学部生物系以外の系、学科、学部で開講される専門科目である。ただし、夜間主コース科目は除く。

理学部共通科目及び学科共通科目の合計単位が4単位を超えた場合、その超えた単位を自由科目の単位とみなすことができる。

博物館学関係授業 学芸員資格について

学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業を行う「博物館法」に定められた、博物館におかれる専門的職員である。学芸員補は学芸員の職務を補助する役割を担う。

次の三つのうち、いずれかに該当すれば資格を取得したことになる（博物館法第5条第1項一・二・三）。

- 1) 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの。
- 2) 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあったもの。
- 3) 文部科学大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前二号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認められた者。

なお、具体的な施設としては、博物館・美術館の他、水族館や動物園、各種の資料館など、公民館・図書館を除く、多くの社会教育施設があげられる。

琉球大学では学内外の強い要望により、平成7（1995）年博物館学関係授業を開講しているが、平成24年4月1日から「博物館法施行規則の一部を改正する省令」が施行されることになった。これは、人々の知的関心に応える「地域文化の中核的拠点」としての博物館を支える学芸員の高い専門性と実践力を備えた質の高い人材として育成されるように大学などにおける学芸員養成課程の養成科目の改善と充実を図ることを目的にしたものである。

そこで、琉球大学においても、この新科目に対応すべく、下記のように博物館学芸員の新課程を設置するものである。

1. 琉球大学における博物館学関係授業科目の一覧

必修科目

法令上の科目	単位数	本学における提供科目	単位数	提供学部
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	国際地域創造学部
博物館概論	2	博物館概論	2	国際地域創造学部
博物館経営論	2	博物館経営論	2	国際地域創造学部
博物館資料論	2	博物館資料論	2	国際地域創造学部
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	国際地域創造学部
博物館展示論	2	博物館展示論	2	国際地域創造学部
博物館教育論	2	博物館教育論	2	国際地域創造学部
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	国際地域創造学部
博物館実習	3	博物館実習Ⅰ	2	国際地域創造学部・理学部
		博物館実習Ⅱ	2	国際地域創造学部
計	19		20	

選択科目

法令上の科目	単位数	本学における提供科目	単位数	提供学部
文化史分野	1	文化史	2	国際地域創造学部
		琉球史研究Ⅴ	2	人文社会学部
美術史分野	1	美術理論・美術史基礎	2	教育学部
		美術理論・美術史 A	2	教育学部
考古学分野	1	考古学Ⅰ	2	国際地域創造学部
民俗学分野	1	社会人類学Ⅰ	2	国際地域創造学部
		民俗学Ⅰ	2	国際地域創造学部
物理学分野	1	物理学概論	2	理学部
化学分野	1	化学概論	2	理学部
生物学分野	1	生物学Ⅰ	2	理学部
地学分野	1	地学概論	2	理学部

*選択科目については、上記8分野の中から2分野以上にわたり、それぞれ1科目2単位以上、計4単位以上を選択履修するものとする。

2. 博物館に関する科目の単位修得証明書

本学において、所定の科目の単位を修得した者には、願い出により「博物館に関する科目の単位修得証明書」を交付する。

○琉球大学医学部規程

(昭和 56 年 3 月 31 日制定)

(趣旨)

第 1 条 この規程は、国立大学法人琉球大学組織規則第 27 条第 2 項の規定に基づき、琉球大学学則(以下「学則」という。)に定めるもののほか、琉球大学医学部(以下「医学部」という。)の授業科目、単位、授業時間、履修方法その他必要な事項を定める。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第 1 条の 2 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

(学科及び講座)

第 2 条 本学部に、次の学科及び講座を置く。

医学科

保健学科 基礎看護学、成人老年看護学、母子看護学、地域看護学、生体検査学、病態検査学

(教育研究上の目的)

第 2 条の 2 医学部の教育研究上の目的及び医学科、保健学科の人材の育成に関する目的は、次のとおりとする。

医学部

(1) 島嶼環境にある沖縄県のおかれた自然的・地理的条件並びに歴史的背景をふまえ、地域医療を充実させる。

(2) 国民の医療、福祉、保健の向上に貢献するとともに、南に開かれた国際性豊かな医学部として発展させ、東南アジアを主とする諸外国との学術交流及び保健・医療協力に寄与する。

医学科

医学に関する専門の学術を修得し、医の倫理を身につけ、医学の進歩に柔軟に対応しうる医師、研究者を育成する。

保健学科

保健学に関する専門の学術を修得し、生命を尊重する思いやりを持った、地域社会並びに国際社会に貢献する保健医療専門識者を育成する。

(共通教育等の授業科目の種類等)

第 3 条 共通教育及び専門基礎教育(以下「共通教育等」という。)の授業科目の種類、単位数及びその履修方法は、琉球大学共通教育等履修規程の定めるところによる。

2 医学科の第 2 年次特別編入学者にあつては、前項に定める単位の修得を要さない。ただし、「動物実験の基礎」及び「倫理総合討論」にあつては、履修するものとする。

(専門教育の授業科目等)

第 4 条 各学科の専門科目の種類、単位数、授業時間数及び履修方法については、別表 1 及び別表 2 のとおりとする。

2 医学科の第 2 年次特別編入学者にあつては、1 年次対象の科目の履修を要さない。

(単位の計算方法)

第 5 条 専門教育の授業科目の単位の計算方法は、次のとおりとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育上必要と認められる場合には、30時間の授業をもって1単位とする。
 - (2) 実験及び実習については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育上必要と認められる場合には、30時間の授業をもって1単位とする。
 - (3) 一つの授業科目について、講義、演習、実験又は、実習のうち二以上の方法の併用により行う場合において、講義及び演習については係数3(ただし、演習については、教育上必要と認める場合には係数1.5)、実験及び実習については係数1(ただし、演習については、教育上必要と認める場合には係数1.5)に対し、それぞれの授業時間を乗じて得た数値の和が45時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適当と認められる場合には、これらに必要な学修を考慮して、単位数を定めるものとする。

(授業科目の公示)

第6条 各学科の各学期に開設する授業科目、単位数、授業時間数及び担当教員は、各学期の始めに公示する。ただし、臨時に開講する授業科目については、開講1週間前までに公示する。

(登録・試験及び成績評価)

第7条 医学科及び保健学科の共通教育等の科目並びに保健学科専門科目の登録、試験及び成績評価については、琉球大学各学部共通細則の定めるところによる。

2 医学科専門科目の試験、履修及び進級等については、別に定める。

(臨床実習履修条件)

第8条 医学科の臨床実習を開始できる者は、共公益社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構が行う共用試験(OSCE: Objective Structured Clinical Examination、CBT: Computer Based Testing)に合格した者でなければならない。

(関連教育病院)

第9条 医学科は、関連教育病院において学生の臨床実習の一部を行なわせるものとする。

2 前項の臨床実習に関する必要な事項は、別に定める。

(卒業の要件)

第10条 卒業するには、医学科にあつては本学に6年以上(学則第33条第2項の規定に基づく医学科の第2年次特別編入学者の卒業要件は5年以上)在学し、別表3に定める単位の修得並びに専門科目を履修し、かつ、総合試験及び臨床実習後 OSCE(Post-CC OSCE)に合格しなければならない。

2 保健学科にあつては本学に4年以上在学し、別表4に定める単位の修得並びに専門科目を履修しなければならない。

(卒業の判定)

第11条 卒業の判定は、教授会が行う。

(各種免許)

第12条 保健学科の学生で、各種の免許状を取得しようとする者は、当該免許にかかる所要の単位を修得しなければならない。

(指導教員)

第13条 学生の勉学その他の相談に応じるため、各学科の年次ごとに指導教員を置く。

(改廃)

第14条 この規程の改廃は、医学部教授会の議を経て、学部長が行う。

附 則(昭和57年4月19日)

この規程は、昭和57年4月19日から施行し、昭和57年4月1日から適用する。

附 則(昭和58年4月11日)

この規程は、昭和58年4月11日から施行し、昭和58年4月1日から適用する。

附 則(昭和59年4月26日)

この規程は、昭和59年4月26日から施行し、改正後の琉球大学医学部規程の規定は、昭和59年4月1日から適用する。

附 則(昭和60年4月24日)

この規程は、昭和60年4月24日から施行し、改正後の琉球大学医学部規程の規定は、昭和60年4月1日から適用する。

附 則(平成2年6月8日)

この規程は、平成2年6月8日から施行する。

附 則(平成6年3月22日)

- 1 この規程は、平成6年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第4条、第5条及び第10条の規定は、平成6年度の入学者から適用する。
- 3 前項の規定にかかわらず、必要と認める場合には、改正後の第5条の規定を平成6年3月31日に在学する者(以下「在学者」という。)に適用する。
- 4 前2項の規定にかかわらず、必要と認める場合には、在学者に改正後の第4条及び第5条の規定に基づき平成6年度以降の入学者のために開設される授業科目を履修させる。この場合において、当該授業科目の履修を改正前の規定に基づく授業科目の履修とみなし、単位を与える。

附 則(平成7年6月28日)

この規程は、平成7年6月28日から施行する。

附 則(平成7年11月28日)

この規程は、平成8年4月1日から施行し、改正後の第4条別表1は、平成7年4月1日に在学する者に適用する。

附 則(平成13年6月27日)

この規程は、平成13年6月27日から施行し、平成13年4月1日から適用する。

附 則(平成15年2月24日)

- 1 この規程は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 平成15年3月31日に在学していた者については、改正後の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成 16 年 4 月 1 日)

この規程は、平成 16 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 17 年 4 月 1 日)

この規程は、平成 17 年 4 月 1 日から施行し、平成 17 年 3 月 1 日から適用する。

附 則(平成 18 年 2 月 22 日)

この規程は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 19 年 4 月 1 日)

この規程は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 20 年 4 月 1 日)

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 20 年 7 月 23 日)

この規程は、平成 20 年 7 月 23 日から施行する。

附 則(平成 21 年 4 月 1 日)

この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 22 年 3 月 19 日)

この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 25 年 3 月 27 日)

この規程は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 26 年 3 月 19 日)

この規程は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 27 年 2 月 18 日)

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 27 年 6 月 24 日)

この規程は、平成 27 年 6 月 24 日から施行する。

附 則(平成 28 年 2 月 24 日)

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 29 年 2 月 22 日)

この規程は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 30 年 2 月 28 日)

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 30 年 5 月 23 日)

- 1 この規程は、平成 30 年 5 月 23 日から施行し、平成 30 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 第 3 条第 2 項の規定は、平成 29 年度以前に在籍していた者についても適用する。

附 則(平成 30 年 9 月 26 日)

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 30 年 11 月 28 日)

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 31 年 3 月 5 日)

- 1 この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 第 10 条第 1 項については、平成 31 年 4 月 1 日以降の在籍者に適用する。

附 則(令和元年 11 月 27 日)

この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 2 年 3 月 4 日)

- 1 この規程は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 別表 3 脚注の一部改正については、必要と認める場合、令和 2 年 4 月 1 日に在籍する第 2 年次特別編入学学生にも適用する。

附 則(令和 2 年 11 月 25 日)

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行し、改正後の別表 1 及び別表 2 は、令和 3 年 4 月 1 日以降に在籍する者に適用する。

附 則(令和 3 年 3 月 5 日)

この規程は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 3 年 9 月 6 日)

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 4 年 3 月 19 日)

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 4 年 12 月 21 日)

この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 5 年 3 月 6 日)

- 1 この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 令和 5 年度以前に編入学した学生については、改正後の第 4 条第 2 項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(令和 6 年 3 月 27 日)

この規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行し、改正後の別表 1 及び別表 3 は、令和 6 年度の入学者から適用する。

別表1

医学科専門科目の種類及び授業時間数

(1) 専門教育科目

科目番号	授 業 科 目	授業時間数	備 考
医121	分子細胞生物学	141	
医122	人体の構造と機能	79	
医123	解剖学実習・骨学実習	99	
医124	組織学実習	51	
医125	医療情報学Ⅰ	5	
医221	神経科学	53	
医222	微生物・免疫学	117	
医223	遺伝医学	18	
医224	発生再生医学	18	
医227	薬理学	84	
医228	医療情報学Ⅱ	7	
医229	病理総論Ⅰ	10	
医230	病理総論Ⅱ	14	
医261	症候とその評価法	14	
医262	呼吸器・胸壁・縦隔系	20	
医263	腎・泌尿器系	25	
医264	循環器系	34	
医265	精神医学系	20	
医266	神経医学系	20	
医267	感染症系	18	
医268	代謝学系	15	
医269	臨床薬理学	11	
医270	地域医療／プライマリ・ケア	9	
医321	沖縄特色科目	15	
医322	病理各論Ⅰ	34	
医323	病理各論Ⅱ	30	
医361	治療学系	13	
医362	消化器系	26	
医363	麻酔医学系	24	
医364	女性生殖器系	34	
医365	歯・顎・口腔系	12	
医366	運動器系	25	
医367	内分泌系	23	
医368	皮膚結合組織系	24	
医369	膠原病・リウマチ病学	16	
医370	血液学系	15	
医371	感覚器系（耳）	22	
医372	感覚器系（眼）	14	
医373	救急医療系	16	
医374	小児医学系	28	
医375	放射線医学系	15	
医376	形成再建イノベーション学	5	
医421	衛生学・公衆衛生学	57	
医422	法医学・医事法制	28	
医423	病理総合学習	33	
医461	医療学総論（特別演習）	30	
医462	T B L チュートリアル	90	
医463	B P E	32	
医561	総合講義	24	
医661	臨床実習	2,880	
	合 計	4,447	

(2) 基盤教育科目

必修・選択の別	科目番号	授 業 科 目	単 位
必 修	医101	外 来 患 者 付 添 い 実 習	1
	医102	シ ミ ュ レ ー シ ョ ン 演 習	2
	医104	医 学 概 論 B	1
	医206	体 験 学 習	1
	医207	医 学 外 国 語	1
	医401	救 急 車 同 乗 実 習	1
	医402	東 洋 医 学 概 説	1

(3) コース科目

必修・選択の別		科目番号	授 業 科 目	単 位
一般 コース	地域医療 コース			
必 修	必 修	医111	基 礎 医 学 演 習	2
		医112	プ ラ イ マ リ ・ ケ ア 演 習 I	2
必 修	必 修	医211	医 学 系 演 習	1
		医212	プ ラ イ マ リ ・ ケ ア 演 習 II	1
必 修		医311	離 島 地 域 病 院 実 習	1
必 修	必 修	医312	医 科 学 研 究	11
		医313	プ ラ イ マ リ ・ ケ ア 演 習 III	12

別表3
医学科卒業要件

授業科目の区分			一般コース		地域医療コース	
			必修	選択	必修	選択
共通教育	教養領域	健康運動系科目				
		人文系科目	2単位	※人文、社会、 琉大特色・地 域創生から4 単位	2単位	※人文、社会、 琉大特色・地 域創生から4 単位
		社会系科目	2単位		2単位	
		自然系科目				
	総合領域	6単位 ・ヒトの科学と人間の医学 ・動物実験の基礎 ・倫理総合討論	6単位 ・ヒトの科学と人間の医学 ・動物実験の基礎 ・倫理総合討論			
	基幹領域	情報関係科目	2単位 ・情報科学演習		2単位 ・情報科学演習	
		外国語科目	6単位 ・英語科目		6単位 ・英語科目	
	小計		22単位		22単位	
専門基礎教育	先修科目	3単位 ・統計学 ・化学実験		3単位 ・統計学 ・化学実験		
専門教育	専門科目					
	基盤教育科目	8単位 ・外来患者付添い実習 ・シミュレーション演習 ・医学概論B ・体験学習 ・医学外国語 ・救急車同乗実習 ・東洋医学概説		8単位 ・外来患者付添い実習 ・シミュレーション演習 ・医学概論B ・体験学習 ・医学外国語 ・救急車同乗実習 ・東洋医学概説		
	コース科目	15単位 ・基礎医学演習 ・医学系演習 ・離島地域病院実習 ・医科学研究		15単位 ・プライマリ・ケア演習Ⅰ ・プライマリ・ケア演習Ⅱ ・プライマリ・ケア演習Ⅲ		
	専門教育科目	4,447時間		4,447時間		
合計		48単位 4,447時間		48単位 4,447時間		

別表1 保健学科 専門教育科目の種類・単位数・授業時間数

年次	科目番号	授業科目名	単位	週時間	受講年次	ク/オ学期ター
一 年 次	保Q 101	生命倫理学	1	(1-0)	1	2
	保Q 102	保健福祉政策論	2	(2-0)	1	1
	保Q 103	シミュレーション演習	2	(2-0)	1	1
	保Q 111	看護学概論	2	(2-0)	1	2
	保Q 112	保健関係法規	1	(1-0)	1	2
	保Q 114	早期体験演習	1	(1-0)	1	2
	保Q 121	生化学	2	(2-0)	1	3
	保Q 122	栄養学	2	(2-0)	1	3
	保Q 371	看護英語文献講読	1	(1-0)	1~4	3
	保Q 123	解剖学・組織学	2	(1-3)	1	3・4
	保Q 124	生理学	2	(1-3)	1	3・4
	保Q 131	微生物学	2	(1-3)	1	4
	保Q 133	生活援助看護技術 I	3	(3-0)	1	4
	保Q 134	生活援助看護技術実習 I	1	(0-3)	1	後期(集中)
保Q 135	地域包括ケア実習 I	1	(0-3)	1	後期(集中)	
二 年 次	保Q 132	地域看護学	2	(2-0)	2	1
	保Q 201	疫学	2	(2-0)	2	1
	保Q 211	分析化学	2	(1-3)	2	1
	保Q 212	免疫学	1	(1-0)	2	1
	保Q 216	臨床検査総論	3	(2-3)	2	1
	保Q 234	保健統計学	2	(2-0)	2	1
	保Q 202	薬理学	2	(1-3)	2	1・2
	保Q 204	生活援助看護技術 II	3	(3-0)	2	1・2
	保Q 205	病理学	3	(2-3)	2	1・2
	保Q 221	高齢期看護学	2	(2-0)	2	2
	保Q 222	母性看護学	2	(2-0)	2	2
	保Q 224	フィジカルアセスメント	2	(2-0)	2	2
	保Q 233	臨床検査管理・機器総論	2	(2-0)	2	2
	保Q 235	医動物学	1	(1-0)	2	2
	保Q 236	医動物学実習	1	(0-3)	2	2
	保Q 238	臨床血液学	3	(2-3)	2	2
	保Q 255	生化学検査学	1	(1-0)	2	2
	保Q 277	遺伝看護学	1	(1-0)	2	2
	保Q 231	生化学実習	1	(0-3)	2	3
	保Q 241	生活援助看護技術実習 II	2	(0-6)	2	3
	保Q 243	高齢期看護実習 I	1	(0-3)	2	3
	保Q 244	地域包括ケア実習 II	1	(0-3)	2	3
	保Q 256	総合検査学 I	1	(1-0)	2	3
	保Q 252	医用電子工学	3	(2-2)	2	3・4
	保Q 237	食品衛生学	2	(2-0)	2・3	4
	保Q 262	症候病態論	2	(2-0)	2	4
	保Q 263	成人看護学	2	(2-0)	2	4
保Q 264	精神看護学	2	(2-0)	2	4	
保Q 265	小児看護学	2	(2-0)	2	4	
保Q 266	国際環境保健学	1	(1-0)	2	4	
保Q 271	病態生理学	2	(2-0)	2	4	
保Q 272	臨床化学 I	3	(2-3)	2	4	
保Q 273	臨床心理学	2	(2-0)	2	4	
保Q 275	分子生物学入門	1	(1-0)	2	4	
保Q 276	公衆衛生看護学概論	2	(2-0)	2	4	
保Q 278	島嶼地域看護論	1	(1-0)	2	4	
保Q 314	ウイメンズヘルス	2	(2-0)	2	4	
三 年 次	保Q 302	母性看護実践学	2	(2-0)	3	1
	保Q 303	緩和ケア論	1	(1-0)	3	1
	保Q 304	看護システムと国際看護	1	(1-0)	3	1
	保Q 311	公衆衛生看護実践学 I	2	(2-0)	3	2
	保Q 312	助産の理論	2	(2-0)	3	1
	保Q 315	養護概説	2	(2-0)	3	1
	保Q 320	臨床免疫学	3	(2-3)	3	1

年次	科目番号	授業科目名	単位	週時間	受講年次	ク/オ学期ター
三 年 次	保Q 323	病理組織細胞学	3	(2-3)	3	1
	保Q 325	臨床微生物学	3	(2-3)	3	1
	保Q 333	救急・災害援助	1	(1-0)	3	1
	保Q 334	周産期学	2	(2-0)	3	1
	保Q 214	地域アセスメント実習	1	(0-3)	3	1・2
	保Q 215	地域アセスメント	1	(1-0)	3	1・2
	保Q 321	臨床生理学 I	2	(1-3)	3	1・2
	保Q 326	技術卒業研究 I	2	(0-6)	3	1・2
	保Q 331	感染看護学	1	(1-0)	3・4	1又は2
	保Q 305	高齢期看護実践学	2	(2-0)	3	2
	保Q 306	在宅看護実践学	2	(2-0)	3	2
	保Q 307	在宅看護学	2	(2-0)	3	1
	保Q 317	健康教育学	2	(2-0)	3	2
	保Q 318	助産診断・技術学 I	3	(3-0)	3	2
	保Q 322	臨床病態学総論	1	(1-0)	3	2
	保Q 327	臨床化学 II	2	(2-0)	3	2
	保Q 328	臨床生理学 II	3	(3-0)	3	2
	保Q 329	遺伝子診断技術学	2	(1-2)	3	2
	保Q 332	がん看護論	1	(1-0)	3	2
	保Q 335	学校保健学	2	(2-0)	3	2
	保Q 336	保健技術学実習 I	1	(0-3)	3	2
	保Q 353	助産管理	1	(1-0)	3	2
	保Q 319	ヘルスカウンセリング論	2	(2-0)	3	3
	保Q 341	小児看護実践学	2	(2-0)	3	3
	保Q 342	慢性期看護実践学	2	(2-0)	3	3
	保Q 343	精神看護実践学	2	(2-0)	3	3
	保Q 344	急性期看護実践学	2	(2-0)	3	3
	保Q 351	公衆衛生看護実践学 II	2	(2-0)	3	3
	保Q 352	助産診断・技術学 II	3	(3-0)	3	3
	保Q 354	地域母子保健	1	(1-0)	3	3
	保Q 345	卒業研究 I	1	(0-3)	3	3・4
	保Q 363	保健技術学実習 II	11	(0-33)	3	3・4
保Q 346	高齢期看護実習 II	2	(0-6)	3	4	
保Q 347	母性看護実習	2	(0-6)	3	4	
保Q 348	在宅看護実習	2	(0-6)	3	4	
保Q 362	技術卒業研究 II	2	(0-6)	3	4	
保Q 373	病理特殊検査法	2	(2-0)	3	4	
保Q 374	画像診断学	2	(2-0)	3	4	
四 年 次	保Q 446	公衆衛生看護管理 I	1	(1-0)	4	1
	保Q 412	小児看護実習	2	(0-6)	4	1・2
	保Q 413	慢性期看護実習	2	(0-6)	4	1・2
	保Q 414	精神看護実習	2	(0-6)	4	1・2
	保Q 415	急性期看護実習	2	(0-6)	4	1・2
	保Q 416	成人総合看護実習	1	(0-3)	4	1・2
	保Q 403	総合検査学 II	2	(2-0)	4	2
	保Q 404	遺伝子診断応用学	1	(1-0)	4	2
	保Q 422	公衆衛生看護実習 I	4	(0-12)	4	前期(集中)
	保Q 423	助産実習 I	2	(0-6)	4	前期(集中)
	保Q 424	養護実践演習	1	(1-0)	4	前期(集中)
	保Q 425	養護実習	4	4週間	4	前期(集中)
	保Q 426	助産診断・技術学 III	4	(4-0)	4	前期(集中)
	保Q 432	看護統合実習	2	(0-6)	4	3
	保Q 442	公衆衛生看護実習 II	1	(0-3)	4	3
	保Q 447	公衆衛生看護管理 II	1	(1-0)	4	3
保Q 445	教職実践演習(養護教諭)	2	(2-0)	4	3・4	
保Q 448	助産実習 II	6	(0-18)	4	3・4	
保Q 444	助産統合実習	1	(0-3)	4	4	
保Q 401	技術卒業研究 III	4	(0-12)	4	1~4	
保Q 431	卒業研究 II	2	(0-6)	4	1~4	

※集中講義は、夏季休業又は春季休業中の開講を含む。

別表2
保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別	看 検	科 目 番 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	ク ォ ー タ ー	授 業 内 容
必	必	保Q 101	生命倫理学	1	(1-0)	1	2	保健医療における生と死の倫理的問題について考える。
必	必	保Q 102	保健福祉政策論	2	(2-0)	1	1	保健・医療・福祉の基本理念と制度を理解し、関係職種相互の連携について学ぶ。行政組織を理解し、保健医療福祉計画の企画および評価について実践的に学び、保健医療サービスの提供に関する制度的しくみを体系的に学ぶ。健康に係る政策形成過程を事例を用いて学ぶ。
選	必	保Q 103	シミュレーション演習	2	(2-0)	1	1	医療現場で遭遇する様々な状況をシミュレーションで再現して、実際に患者や家族と関わる医療者としての知識・技術・態度を学習する。患者や家族との良好な関係を築くためのコミュニケーション技術や、患者や患者の置かれている環境について理解するための五感を使った医療者の感性を養うため、各演習でシミュレーションして患者や家族とどのように対話し、対応するののかをともに考える。
必	選	保Q 111	看護学概論	2	(2-0)	1	2	看護の歴史、看護学の概念、看護の対象である人間・健康・環境について理解する。また、看護実践の理論的枠組みについて事例を通して学ぶ。
選	必	保Q 112	保健関係法規	1	(1-0)	1	2	保健医療福祉に関する基本法令、関係法令について学ぶ。
選	選	保Q 114	早期体験演習	1	(1-0)	1	2	看護職、臨床検査技師等のゲストスピーカーの講話、グループ討議、病院等における看護師または臨床検査技師等への同行（見学）実習を通して、保健医療施設（特定機能病院、地域の病院等）の役割機能、看護職、臨床検査技師等の職種、業務内容の理解を深める。また、将来の進路決定に向けて、自らの医療職に対する適性について考え、今後の学習へのモチベーションを高める。
必	必	保Q 121	生化学	2	(2-0)	1	3	生命現象を引き起こす目に見えない物質とその化学反応の基礎的知識を学ぶ。生体物質の構成とその代謝、代謝異常、様々な疾患との関連について、細胞レベル分子レベルで学習する。
必	必	保Q 122	栄養学	2	(2-0)	1	3	食物に含まれる栄養素の種類と役割、その体内代謝とエネルギー代謝、栄養状態の評価について学ぶ。さらに、ライフステージ別の栄養、疾患別食事療法と栄養補給法について学ぶ。
必	必	保Q 123	解剖学・組織学	2	(1-3)	1	3・4	人体の肉眼的構造と微細構造について基本的な事柄を講義で学ぶ。重要な器官については系統解剖実習と顕微鏡実習により理解を深める。
必	必	保Q 124	生理学	2	(1-3)	1	3・4	生理学は、生命現象のメカニズム、調節機構を理解する学問である。人体に見られる種々の生命現象のメカニズムについて、個々のシステムの働きと身体全体としての調節の働きと両面から講義する。基本的な検査技術を用いた実習を行なう。実習の結果をまとめレポートを作成する。
必	必	保Q 131	微生物学	2	(1-3)	1	4	疾病に関連する細菌、ウイルス、真菌などの分類、性質、病原性、薬剤反応性などについて基本的知識を学ぶ。
必	選	保Q 132	地域看護学	2	(2-0)	2	1	地域で生活する人びとに対する看護の基本を学び、公衆衛生看護（行政）、在宅看護、産業看護、学校看護の基本的な理念・目標・技術を学ぶ。また、母子から高齢者までの住民の多様なニーズに対応できる地域の社会資源、関係機関について学び、地域看護活動を展開するための基本的知識、技術を学ぶ。
必		保Q 133	生活援助看護技術 I	3	(3-0)	1	4	看護に共通な基本技術、日常生活援助看護技術、コミュニケーション技術について学ぶ。
必		保Q 134	生活援助看護技術実習 I	1	(0-3)	1	後期 (集中)	対象者を全人的に理解し、日常生活援助技術、コミュニケーション技術を実践的に学ぶ。

別表2
保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別	科 目 番 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	ク ォ ー タ ー	授 業 内 容	
								看 検
必	保Q 135	地域包括ケア実習 I	1	(0-3)	1	後期 (集中)	地域で生活している小児から高齢者及び心身に疾病・障害をもっている人々との関わりを体験し、他者への関心と理解を深め、また、人々の生活の場である地域や人々が支えあって生活する意義について学ぶ。	
必	必	保Q 201	疫学	2	(2-0)	2	1	人間集団の中で出現する健康関連事象の頻度と分布およびそれらに影響を与える要因を包括的に考究し、健康増進や疾病予防のあり方について学ぶ。
必	必	保Q 202	薬理学	2	(1-3)	2	1・2	医薬品の薬理作用、副作用及び臨床応用
必		保Q 204	生活援助看護技術 II	3	(3-0)	2	1・2	診療・検査に伴う看護技術、指導技術、フィジカルアセスメント、事例を用いて看護過程の展開方法について学ぶ。
選	必	保Q 205	病理学	3	(2-3)	2	1・2	病理学は病気の本質を明らかにする学問である。病気の原因とそれによる病的変化が発生するメカニズムを理解する。さらに病気により生じた臓器・組織の構造上、機能上の変化を学ぶ。
選	必	保Q 211	分析化学	2	(1-3)	2	1	生化学実習や臨床化学につながる化学分析の理論を学習し、器具・機器による基本的実験方法や得られたデータの解析方法を学ぶ。
必	必	保Q 212	免疫学	1	(1-0)	2	1	細菌やウイルスなどの微生物が体内に侵入することによって引き起こされる免疫反応について、これに関わる細胞群とサイトカインなどの液性因子が織りなす生体反応として捉え、さらに過剰な免疫反応（アレルギー）と免疫不全状態についてもこれら生体反応の異常として理解できるように講義する。
選	選	保Q 214	地域アセスメント実習	1	(0-3)	3	1・2	地域社会の個人、家族、集団の健康の保持増進、疾病の予防、回復および地域生活への適応を援助するために人びとが生活する地域について学ぶ。「地域で生活する」人びとの日常を理解し、看護の対象者理解に役立てる。
選	選	保Q 215	地域アセスメント	1	(1-0)	3	1・2	地域に顕在、潜在する健康課題を捉えるための地域のアセスメントに関する理論、技術を学ぶ。
選	必	保Q 216	臨床検査総論	3	(2-3)	2	1	臨床検査に必要な知識、技術及び尿、便、血液などの一般検査について実習を行い、臨床的意義を学習する。
必	選	保Q 221	高齢期看護学	2	(2-0)	2	2	ライフサイクルからみた高齢（老年）期の特徴と加齢に伴う生活の変化、健康障害の特徴について理解し、健康の保持増進、自立した生活を支援するための高齢者看護の役割について学ぶ。
必		保Q 222	母性看護学	2	(2-0)	2	2	母性看護の対象となる人々を理解するために必要な基本概念、看護援助に必要なリプロヘルス、人生移行などの基本理論について学ぶ。
必		保Q 224	フィジカルアセスメント	2	(2-0)	2	2	医学的知識に裏づけられた、フィジカルアセスメントの知識・技術を習得する。事例を用いた演習を行い、実践的なアセスメント力を養う。
選	必	保Q 231	生化学実習	1	(0-3)	2	3	生体を構成する様々な物質の性質や機能及び生化学実験の原理を、定性・定量法、分離法など実験実習を通して学ぶ。
選	必	保Q 233	臨床検査管理・機器総論	2	(2-0)	2	2	検査技術管理(検体採取法や検体管理、成績の精度管理など)を含む検査管理総論と検査機器の保守管理を含む検査機器総論を学習する。
選	選	保Q 234	保健統計学	2	(2-0)	2	1	人間集団を対象とした健康関連情報の種類、分布、収集方法、統計的整理、分析、評価など、統計学の基礎について学ぶ。
選	必	保Q 235	医動物学	1	(1-0)	2	2	人間に病害を与える自然界の動物の形態、生態（感染経路、病害）、予防法について学習する。
	必	保Q 236	医動物学実習	1	(0-3)	2	2	医動物学の講義と平行し、重要事項について実習・見学を通して検査・予防方法などを習得する。

別表2
保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・選択の別	看 検	科目番号	授業科目名	単位	週時間	受講年次	クォーター	授 業 内 容
選	必	保Q 237	食品衛生学	2	(2-0)	2・3	4	食品衛生関連法規、細菌性を含む食中毒、食品添加物、遺伝子組換え食品、食品汚染の問題、保健機能食品を含めた健康食品等について学ぶことで食の安全管理について理解する。
選	必	保Q 238	臨床血液学	3	(2-3)	2	2	臨床検査に必要な血液学および血液疾患について学習する。
必		保Q 241	生活援助看護技術実習Ⅱ	2	(0-6)	2	3	生活援助看護技術、診療援助看護技術の実践を通して看護過程の展開方法について学ぶ。
必		保Q 243	高齢期看護実習Ⅰ	1	(0-3)	2	3	介護老人福祉施設で生活している高齢者の生活場面をとおして施設における高齢者看護の実践について学ぶ。
必		保Q 244	地域包括ケア実習Ⅱ	1	(0-3)	2	3	入院治療後、症状が安定した人々およびその家族が安心して地域で生活できるよう、在宅復帰支援について理解を深める。また、在宅復帰支援における関連機関、職種との連携の在り方、看護の役割について考察できる。
選	必	保Q 252	医用電子工学	3	(2-2)	2	3・4	臨床検査及び医療に応用されている電子工学の理論と医用機器について学習する。
選	必	保Q 255	生化学検査学	1	(1-0)	2	2	生体の基本構成成分の性質、機能を理解し、各成分を同定するための様々な実験方法や試薬取扱いについて学習する。
選	必	保Q 256	総合検査学Ⅰ	1	(1-0)	2	3	臨床検査と疾患との関連、予防医学と健康診断、検査の信頼性と認証制度について学習する。
必	必	保Q 262	症候病態論	2	(2-0)	2	4	主な疾患の症候、病態、治療の基本を学習する。
必	選	保Q 263	成人看護学	2	(2-0)	2	4	生活者、発達段階、健康のレベルの視点から成人期である対象を捉え、ヘルスプロモーションから疾病、障害を有する人々への看護を展開する上での基礎的知識や看護理論について学ぶ。
必	選	保Q 264	精神看護学	2	(2-0)	2	4	心や性の発達、家庭、学校、職場、地域における精神保健と援助の概要、精神障害の基礎知識について学習する。
必		保Q 265	小児看護学	2	(2-0)	2	4	小児の成長・発達及び生活と社会・健康問題について理解し、小児看護の基本的理論と生活援助技術について学ぶ。
必	必	保Q 266	国際環境保健学	1	(1-0)	2	4	自然生態系と人間、有害環境因子、地球温暖化と環境・健康問題、感染症について国際的な視点で講義する。
選	必	保Q 271	病態生理学	2	(2-0)	2	4	頻度の高い患者の訴えを取り上げ、病態の成立機序を学習する。
	必	保Q 272	臨床化学Ⅰ	3	(2-3)	2	4	臨床化学検査における様々な生体内物質の定量測定法の原理や試薬取扱い、検体取扱い方法、得られる結果と病態との関連や臨床的意義について、講義と実習を通して学習する。主に化学反応と光学的検出法を組み合わせた検体検査の実習を行い、その検査手技を修得し、結果の考察や問題解決に取り組む。
選	選	保Q 273	臨床心理学	2	(2-0)	2	4	さまざまな保健医療場面における対象者の心理学的理解と、心理アセスメント・心理療法を学ぶ。
選	選	保Q 275	分子生物学入門	1	(1-0)	2	4	遺伝子診断技術学に必要な分子生物学の基礎について学ぶ。
選	選	保Q 276	公衆衛生看護学概論	2	(2-0)	2	4	公衆衛生看護活動の概要を学び、地域を基盤とした予防の考え方を学ぶ。顕在化した健康課題を抱える対象者のみでなく、潜在化した健康課題を抱える対象者への支援方法について対象別に学ぶ。
選	選	保Q 277	遺伝看護学	1	(1-0)	2	2	遺伝医療（遺伝性疾患や遺伝学的検査、遺伝カウンセリングの実際等）に関する基礎的知識を学ぶとともに、周産期や小児、難病、がん等の領域における事例検討や討議を通して、遺伝的課題を有する人への必要なケアについて学ぶ。

別表2
保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別	科 目 番 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	ク ォ ー タ ー	授 業 内 容	
								看 検
選	保 Q 278	島嶼地域看護論	1	(1-0)	2	4	島嶼地域の特性を理解し、看護の役割や保健活動について学ぶ。	
必	保 Q 302	母性看護実践学	2	(2-0)	3	1	ヒューマン・セクシャリティ、リプロダクティブ・ヘルス/ライツを尊重し、特に周産期の女性や家族に対する看護援助の知識・実践技術を学ぶ。	
必	保 Q 303	緩和ケア論	1	(1-0)	3	1	患者をトータルペインの視点で捉え、症状の緩和とQOLの改善にむけての援助を提供するための基本的知識を学ぶ。また、終末期における看護について学ぶとともに死をめぐる倫理的課題やチーム医療についても理解を深め、看護の役割について考える。	
必	保 Q 304	看護システムと国際看護	1	(1-0)	3	1	チーム医療および国際協力に対応できるように、メンバーシップ、リーダーシップ、看護マネジメント、医療安全管理、災害看護、諸外国との協働について学ぶ。	
必	保 Q 305	高齢期看護実践学	2	(2-0)	3	2	高齢期にある対象の特徴を踏まえ、老化や健康障害に応じた援助方法について、生活機能・QOL及び倫理的な観点から学ぶ。	
必	保 Q 306	在宅看護実践学	2	(2-0)	3	2	在宅療養者や家族のライフサイクル、健康課題、生活障害に応じた看護展開について学ぶ。	
必	選	保 Q 307	在宅看護学	2	(2-0)	3	1	在宅で療養する人（在宅療養者）や家族の看護展開に必要な看護技術、社会資源の活用方法、他機関との連携やマネジメントなど、在宅における看護者の役割及び機能について学ぶ。
選	保 Q 311	公衆衛生看護実践学 I	2	(2-0)	3	2	公衆衛生看護の対象となる人々や健康課題の特徴について学ぶ。個人や家族を単位とした生活と健康を多角的・継続的にアセスメントする方法や健康課題を解決・改善する方法について学ぶ。	
選	保 Q 312	助産の理論	2	(2-0)	3	1	周産期における母子の健康や女性の生涯を通じた健康づくりに焦点をあて、どの時期においても最適な援助ができるよう、助産師が身につけるべき助産の基礎理論を学ぶ。	
選	保 Q 314	ウイメンズヘルス	2	(2-0)	2	4	女性の生涯を通じた性・生殖に関する健康問題への援助を学ぶ。	
選	保 Q 315	養護概説	2	(2-0)	3	1	養護教諭の存在意義と職務の概要ならびに職務を遂行するための基本的な知識及び方法を学ぶ。	
選	保 Q 317	健康教育学	2	(2-0)	3	2	健康教育における理論と方法を学び、行動変容にかかわる実践力を高める。	
選	保 Q 318	助産診断・技術学 I	3	(3-0)	3	2	周産期医療の現場や少子化社会のニーズへの対応、出産や女性の健康に関わるための助産診断技術の基礎的知識を学習する。周産期メンタルヘルスやハイリスク妊産婦支援のための知識と技術について学ぶ。	
選	保 Q 319	ヘルスカウンセリング論	2	(2-0)	3	3	心身相関についての理解を前提に、カウンセリングの理論および基本的技法をふまえて、学校で行われる健康相談—特に養護教諭による健康相談の特徴と進め方および関係者との連携について、適宜演習を交えて解説する。	
必	保 Q 320	臨床免疫学	3	(2-3)	3	1	病態の成立機序を免疫学的側面により学習する。	
選	必	保 Q 321	臨床生理学 I	2	(1-3)	3	1・2	心電図検査、呼吸心機能検査、超音波検査などの臨床生理検査について、その原理と検査の実際について学習する。
必	必	保 Q 322	臨床病態学総論	1	(1-0)	3	2	様々な疾病について臓器別・機能別に分類して捉え、病因・病態、診断と主な治療法について系統的に理解できることを目的として講義する。内容は序論に始まり12の臓器別・機能別疾患群からなり、各疾患群の臨床病理の基本を把握できるようになっている。
必	保 Q 323	病理組織細胞学	3	(2-3)	3	1	病理組織学、細胞診断学及び病理標本、細胞標本の作製に必要な知識と技術を講義と実習を通じて学ぶ。	

別表2
保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別 看 検	科 番	目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	ク ォ ー タ ー	授 業 内 容	
必	保 Q	325	臨床微生物学	3	(2-3)	3	1	疾病に関連する細菌、ウイルス、真菌などの疾病発症に至る機構、病原性の発揮、薬剤抵抗性機構及びこれら病原微生物の検査法について学ぶ。	
必	保 Q	326	技術卒業研究 I	2	(0-6)	3	1・2	保健諸分野の研究手法論、実験計画法、調査法などを学習する。	
必	保 Q	327	臨床化学 II	2	(2-0)	3	2	様々な生体内物質の質的・量的変動を通して病態診断や疾病に関して、臨床生化学検査の側面から学習する。血清などの検体中生化学成分検査の臨床的意義と診断への応用、臨床現場における自動化学分析法や精度管理、放射性同位元素を用いた検査に関連する安全管理及び法令についても学習する。	
必	保 Q	328	臨床生理学 II	3	(3-0)	3	2	画像診断や感覚機能検査を中心として生理機能検査とその臨床的意義について学習する。	
必	保 Q	329	遺伝子診断技術学	2	(1-2)	3	2	分子生物学的手法を用いた各分野の臨床検査について学習する。	
選	選	保 Q	331	感染看護学	1	(1-0)	3・4	1又は2	医療・保健・福祉などの施設、在宅、地域の場における個人及び集団の特徴を把握して、感染予防、感染症からの治療・回復の促進、感染防止そして医療安全のための看護の役割について学ぶ。
選	選	保 Q	332	がん看護論	1	(1-0)	3	2	がんに関する基礎的知識を習得し、がん患者・家族に対する援助方法について学習する。
必	選	保 Q	333	救急・災害援助	1	(1-0)	3	1	救急法の実際を体験し理論を習得し、災害援助の哲学と実際を学ぶ。
選	選	保 Q	334	周産期学	2	(2-0)	3	1	妊婦・産婦・褥婦管理に必要な症候・病態を学ぶ。
選	選	保 Q	335	学校保健学	2	(2-0)	3	2	学校における保健管理や保健教育のあり方について学ぶ。
必	保 Q	336	保健技術学実習 I	1	(0-3)	3	2	臨床実習に必要な知識、技能や態度を備えているか確認し、必要な指導を行う。	
必	保 Q	341	小児看護実践学	2	(2-0)	3	3	小児の健康の維持・増進・回復及びQOLの向上に必要な看護の理論と技術について学ぶ。	
必	保 Q	342	慢性期看護実践学	2	(2-0)	3	3	成人教育の基礎理論を土台として、疾病に関する知識（病態生理、治療法など）、疾病や症状に伴う身体的、心理社会的問題の理解と患者・家族の個性を加味した生活援助及び看護援助方法について学ぶ。	
必	保 Q	343	精神看護実践学	2	(2-0)	3	3	精神の健康問題をもつ対象者の看護援助方法について学習する。	
必	保 Q	344	急性期看護実践学	2	(2-0)	3	3	周術期・急性期にある患者の身体的・心理的・社会的特徴を理解し、生命維持と症状緩和、回復過程の促進、安全・安楽の保持、生活の再構築に向けた看護の役割、援助方法を学ぶ。	
必	保 Q	345	卒業研究 I	1	(0-3)	3	3・4	保健・看護諸分野の研究の基礎（含む研究倫理）、研究方法論、実験計画法、調査法などを学習する。	
必	保 Q	346	高齢期看護実習 II	2	(0-6)	3	4	療養している高齢者を包括的及び生活機能の視点からアセスメントし、高齢者の健康レベルに応じた看護援助の実際について学ぶ。	
必	保 Q	347	母性看護実習	2	(0-6)	3	4	母性看護の知識と技術を臨地実習の場を通して統合し、実践力を高める。	
必	保 Q	348	在宅看護実習	2	(0-6)	3	4	訪問看護ステーションにおいて、疾病や障害を持つ療養者、終末期にある対象・家族への在宅看護活動に同行し、看護技術の提供、環境整備、療養生活の維持・向上にむけた他機関との連携、ケアマネジャーとの協働を体験する。また、受持ち事例をアセスメントし、課題検討や看護計画立案、評価、修正を通して実践力を養う。	

別表2
保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別	科 番	目 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	ク ォ ー タ ー	授 業 内 容
選		保 Q 351	公衆衛生看護実践学Ⅱ	2	(2-0)	3	3	地域の生活集団、グループ、地域組織を対象とした健康保持増進のための公衆衛生看護活動を学ぶ。
選		保 Q 352	助産診断・技術学Ⅱ	3	(3-0)	3	3	妊娠・分娩・産褥・新生児各期の経過診断及び健康生活にかかわる診断について学ぶ。
選		保 Q 353	助産管理	1	(1-0)	3	2	助産管理の概念と助産業務および管理運営について学ぶ。また、助産業務に係る法律、災害、リスク・マネジメントと助産師活動について学び、助産師の社会的責務について理解する。
選		保 Q 354	地域母子保健	1	(1-0)	3	3	日本および諸外国における地域の母子保健に関連する保健制度や施策について学ぶ。産後うつ・育児不安・子どもの虐待など、地域における子育て世代をめぐる問題と支援方法について学ぶ。
	必	保 Q 362	技術卒業研究Ⅱ	2	(0-6)	3	4	保健諸分野の研究方法論、実験計画法、調査法などを学習する。
	必	保 Q 363	保健技術学実習Ⅱ	11	(0-33)	3	3・4	臨床検査に関する実務を学内外の病院において習得する。
選	選	保 Q 371	看護英語文献講読	1	(1-0)	1-4	3	医療、健康問題、ケア（看護）に関する文献の講読を通して、英語に慣れ親しみ、国際雑誌や英文で書かれた記事などを読解するために必要な基礎力を習得する。
選	必	保 Q 373	病理特殊検査法	2	(2-0)	3	4	特殊染色、免疫組織染色の理論、電子顕微鏡の理論とその応用について講義する。
選	必	保 Q 374	画像診断学	2	(2-0)	3	4	各種の画像検査法の特徴及び臓器別に特徴的な疾患の診断について学習する。
	必	保 Q 401	技術卒業研究Ⅲ	4	(0-12)	4	1~4	保健諸分野における調査、実験研究を行い、研究論文の作成ならびに研究発表を行う。
選	必	保 Q 403	総合検査学Ⅱ	2	(2-0)	4	2	医療機関等における臨床検査業務や各種管理、精度管理、検体取扱いなどを習得し、職業倫理について学習する。また臨床検査各分野における最新検査法や話題の疾患について演習を行い理解する。
選	選	保 Q 404	遺伝子診断応用学	1	(1-0)	4	2	大学病院の検査部で行われている遺伝子検査および医学部の研究室で行われている最先端の遺伝子に関する研究について概説する。ヒト遺伝子の構造、機能解析により得られた情報が病気の発生病機構の解明やそれに基づく診断、治療にも大きな進展をもたらしている。この講義においては、琉球大学病院検査・輸血部で行われている遺伝子検査および医学部で行われている最先端の遺伝子研究について理解し、臨床検査への応用力を習得する。
必		保 Q 412	小児看護実習	2	(0-6)	4	1・2	健康に問題のある小児に看護を実践し、小児の健康回復・維持・予防及びQOLの向上に必要な小児看護技術、社会資源、小児病棟管理等について学ぶ。

別表2
保健学科 専門教育科目の履修内容

必修・ 選択 の別	科 目 番 号	授 業 科 目 名	単 位	週 時 間	受 講 年 次	ク ォ ー タ ー	授 業 内 容
必	保Q 413	慢性期看護実習	2	(0-6)	4	1・2	慢性的な健康障害を有する人(対象)およびその家族を包括的に捉え、疾患や障害とともに生きる体験や生活への影響を理解し、看護上の課題解決やセルフケアを伴う社会生活を支援するための看護実践能力を養う。
必	保Q 414	精神看護実習	2	(0-6)	4	1・2	精神の健康問題をもつ対象者の看護援助の実際について学習する。
必	保Q 415	急性期看護実習	2	(0-6)	4	1・2	急性期や重篤な状態、周産期にある人(対象)およびその家族を包括的に捉え、生命維持、身体的リスクの低減と症状緩和、安全・安楽の保持、生活機能の回復、生活の再構築に向けた看護実践能力を養う。
必	保Q 416	成人総合看護実習	1	(0-3)	4	1・2	対象に必要な看護をマネジメントする「看護管理」、および安全なケア・医療を提供する「医療安全・リスクマネジメント」の実際を学ぶ。
選	保Q 422	公衆衛生看護実習Ⅰ	4	(0-12)	4	前期 (集中)	公衆衛生看護学で学んだ理論や方法を、地域住民の生活場において体験し、公衆衛生看護活動の実践に必要な知識、技術、態度を習得する。
選	保Q 423	助産実習Ⅰ	2	(0-6)	4	前期 (集中)	病院実習を通して、妊娠期の助産ケアに必要な基礎知識・技術を習得する。助産実習を通して分娩期の基本的な診断技術を学ぶ。
選	保Q 424	養護実践演習	1	(1-0)	4	前期 (集中)	養護教諭としての専門的知識と技術の習得をより効果的にすすめるために、養護実習に即して事前指導・中間報告会ならびに事後指導を行う。
選	保Q 425	養護実習	4	4週間	4	前期 (集中)	教育活動全般ならびに学校保健活動(保健管理・保健教育・組織活動)の展開を実際に体験し、養護教諭として学校保健活動を推進していく実践的能力を培う。
選	保Q 426	助産診断・技術学Ⅲ	4	(4-0)	4	前期 (集中)	助産診断に基づく基礎技術と分娩助産技術・相談技術について学ぶ。地域における子育て世代を包括的に支援する技術を学ぶ。
必	保Q 431	卒業研究Ⅱ	2	(0-6)	4	1~4	研究計画書に沿って研究を行い研究論文の作成ならびに発表を行う。
必	保Q 432	看護統合実習	2	(0-6)	4	3	各領域実習を終えた学生がさらに関心を深めたい領域(基礎・成人・老年・在宅・小児・母性・精神)の中から、自己の課題目標を主体的に設定し、その課題を達成するための実習を行い、総合的な看護実践能力を養う。
選	保Q 442	公衆衛生看護実習Ⅱ	1	(0-3)	4	3	地域で暮らす人びとの健康課題の把握および解決方法を習得する。
選	保Q 444	助産統合実習	1	(0-3)	4	4	周産期のハイリスク母子管理の立場から、低出生体重児の看護管理及び産科病棟における業務管理の実際を学ぶ。低出生体重児のケアをとおし、正常妊娠および分娩、産褥経過の重要性と助産師の果たす予防的役割を考察する。
選	保Q 445	教職実践演習(養護教諭)	2	(2-0)	4	3・4	各自の履修カルテをふまえ、実技指導、グループ討論及び補完指導等を通して、養護教諭として必要な知識技能を修得したことを確認する。
選	保Q 446	公衆衛生看護管理Ⅰ	1	(1-0)	4	1	公衆衛生看護管理に必要な政策形成過程について学ぶ。
選	保Q 447	公衆衛生看護管理Ⅱ	1	(1-0)	4	3	公衆衛生看護管理の展開について学ぶ。さらに、保健師としての専門的自立と人材育成について学ぶ。
選	保Q 448	助産実習Ⅱ	6	(0-18)	4	3・4	助産師として実践に必要な診断技術や分娩助産技術・保健指導技術を習得する。

別表4
保健学科卒業要件

	授業科目区分	看護学コース		検査技術学コース		
		必修	選択	必修	選択必修	
共通教育等科目	教養領域	健康運動系科目	2単位		2単位	
		人文系科目 *注1	4単位		2単位	} 2単位
		社会系科目 *注2	4単位		2単位	
		自然系科目	4単位 ・ヒトの健康科学(2単位)を含む		4単位 ・ヒトの健康科学(2単位)を含む	
	総合領域	総合科目 *注4	2単位		2単位	
		琉大特色・地域創生科目				
		キャリア関係科目				
	基幹領域	情報関係科目	2単位 ・情報科学演習(2単位)を含む		2単位 ・情報科学演習(2単位)を含む	
		外国語科目	8単位 ・英語(8単位)、又は英語(4単位)と他の一つの外国語(4単位)		8単位 ・英語(8単位)、又は英語(4単位)と他の一つの外国語(4単位)	
	専門基礎教育			1単位 ・化学実験	2単位 *注5 ・化学Ⅰ ・化学入門Ⅱ ・生物学Ⅱ ・物理学Ⅱ ・物理学入門Ⅱ	
小計		26単位以上 *注3		27単位以上		

	授業科目区分	看護学コース		検査技術学コース		
		必修	選択	必修	選択	
専門教育科目	保健学科共通必修基礎科目		22単位 *注3		22単位 *注6	
	専門科目	基礎領域	25単位 *注3	11単位以上	75単位 *注6	2単位以上
		実践領域	36単位 *注3			
		展開領域	6単位 *注3			
小計		100単位以上		99単位以上		
卒業要件		共通教育等 + 専門教育 = 126単位以上				

*注1 看護学コース学生は、共通教育「人文系科目」の「人間関係論」を履修することが望ましい。

*注2 看護学コースの養護教諭一種免許取得を希望するもの、および保健師免許取得によって卒業後に養護教諭二種免許の申請を希望するものは、共通教育「社会系科目」の「憲法概論」を履修する。

*注3 看護学コースにおいて3年次3・4Qに開講されている専門教育科目(必修)を履修するには、下記条件を全て満たさなければならない。

条件1: 卒業要件に必要な共通教育等科目を26単位以上修得していること。

条件2: 3年次前期までに開講されている専門教育科目(必修)を全て修得していること。

*注4 検査技術学コースの共通教育「総合科目」2単位は、「動物実験の基礎」、「生命科学入門」から履修することが望ましい。

*注5 検査技術学コースの「専門基礎教育」選択必修2単位は、化学、生物、物理の中から高校で履修していない科目を履修すること。また、2科目以上履修することが望ましい。

*注6 検査技術学コースにおいて保健技術学実習Ⅱおよび技術卒業研究Ⅱ・Ⅲを履修するには、下記条件を全て満たさなければならない。

条件1: 保健技術学実習Ⅱ、技術卒業研究Ⅱ・Ⅲ、食品衛生学、画像診断学、病理特殊検査法、総合検査学Ⅱ(計25単位)を除く3年前学期までの専門教育必修科目72単位を修得していること。

条件2: 共通教育等科目と専門選択科目を合わせた今後履修すべき科目の単位数が6単位以下であること。

◎ 専門教育科目の授業時間・内容等については、「保健学科履修要綱」及び「琉球大学 Syllabus Web」参照すること。

◎ 看護学コースの保健師あるいは助産師免許取得を希望するものは、「保健学科履修要綱」に基づき各免許指定科目を履修する。

◎ 看護学コースの養護教諭一種免許取得を希望するものは、「保健学科履修要綱」及び「教員免許取得の手引き」に基づき履修する。また、学期毎に「教職履修カルテ」の記入をする。

琉球大学工学部規程

〔 昭和54年2月1日
制 定 〕

(趣旨)

第1条 この規程は、琉球大学学則に定めるもののほか、国立大学法人琉球大学組織規則第27条第2項の規定に基づき、琉球大学工学部（以下「本学部」という。）の授業科目、単位、履修方法その他必要な事項を定める。

(教育研究上の目的)

第2条 本学部は、今日の工業・技術社会に応え、幅広い教養と技術者倫理、コミュニケーション能力及び高度で最新の専門知識を身につけ、安心・安全な社会の創出及び地域環境保全や平和に貢献し得る、豊かな創造力と実践力を兼ね備えた人材を育成し、基礎科学研究の成果を、実際の産業や人間の生活・福祉等に役立てるよう応用・開発することを目的とする教育・研究を行う。

(学科、コース及びプログラム)

第3条 本学部工学科に、次のコース及び講座を置く。

学 科	コ ー ス	講 座
工 学 科	機械工学コース	機械工学講座
	エネルギー環境工学コース	エネルギー環境工学講座
	電気システム工学コース	電気システム工学講座
	電子情報通信コース	電子情報通信講座
	社会基盤デザインコース	社会基盤デザイン講座
	建築学コース	建築学講座
	知能情報コース	知能情報講座

2 前項に規定する各コースに、グローバルエンジニアプログラム（以下「GEプログラム」という。）を置く。

3 GEプログラムに関し必要な事項は、別に定める。

(コースの教育研究上の目的)

第3条の2 本学部工学科に置く各コースの人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次の表に掲げるとおりとする。

コース	教育研究上の目的
機械工学コース	機械工学の基本的な学問体系を教授し、幅広い教養と技術者倫理、自らの知識・能力を活かして機器の設計、製造、研究開発に取り組めるものづくりの基礎、変化する環境に対して自らの力でこれら高められる自己学習能力を身につけ、国内外で幅広く活躍できる人材を育成することを目的とする。

エネルギー環境工学コース	エネルギー・環境問題を考慮し、エネルギー源や環境負荷低減技術の開発と利用及びエネルギーの効率的な変換や制御と、環境に配慮した材料の知識に加えて、化学、環境、マネジメント工学などを学ぶことで、幅広い専門的な知識を有するとともに、それら複合分野を統合マネジメントし、総合的な問題であるエネルギー・環境分野に対応できる人材を育成することを目的とする。
電気システム工学コース	現代社会の基盤である電気エネルギーの効率的な発生や変換技術に加えて、人口減少や超高齢化社会に向けて持続可能な社会の形成に必要とされる再生可能エネルギーやロボットの活用を推進していくため、電気工学やシステム制御工学の専門知識を有し、幅広い視野と柔軟的思考を兼ね備えた人材を育成することを目的とする。
電子情報通信コース	進展する高度ICT社会において、それらを根幹から支えるエレクトロニクス技術と情報通信技術の基礎知識を有し、さらに情報通信機器の高機能化を実現する集積回路技術や新機能デバイス、高度通信技術、高度センシング技術などの専門知識を備え、情報通信、エレクトロニクス、またその融合分野で活躍できる人材を育成することを目的とする。
社会基盤デザインコース	亜熱帯性・島嶼性・海洋性の地理的特性を活かした環境調和型の工学的価値を創造し、空港、港湾、離島架橋、道路、鉄軌道を含む公共交通システム等、地域の観光リゾート産業を支える持続可能な社会基盤を創成するとともに、環境共生、災害リスク軽減、社会資本の長寿命化及び新エネルギー開発に関わる海洋・海底資源開発等の技術的ニーズに対応できる人材を育成することを目的とする。
建築学コース	地域的課題の解決に資する役割を負って国内及び国際的に活躍できる素養を身につけるため、亜熱帯島嶼地域の自然・社会・文化的条件のもとでの建築と地域環境のあり方を深く探究するとともに、普遍的な建築関連技術を修得することにより、自然と調和し安全で快適な建築物、それらの集合した都市・地域を計画・設計・建設・管理できる技術者を育成することを目的とする。
知能情報コース	論理的思考力と自然科学の知識を基盤として知能情報分野の専門知識・実践力・デザイン能力・解析能力及び幅広い教養と技術者倫理・能動的学習能力を修得するとともに、知能情報技術が社会と人間及び環境に与える影響と使命を深く理解し、知能・情報・システムの先端技術を通じて国際的視点に立って柔軟かつ自律的に活躍できる技術者を育成することを目的とする。

(共通教育等の授業科目の種類等)

第4条 共通教育及び専門基礎教育の授業科目の種類、単位数、履修方法等は、琉球大学共通教育等履修規程の定めるところによる。

(専門教育の授業科目の種類等)

第5条 専門教育の授業科目の種類、履修方法等は、別表に掲げるとおりとする。

(授業科目の公示)

第6条 各学期に開講する授業科目、授業時間、単位数及び担当教員は、学期の初めに公示する。ただし、臨時に開講する授業科目については、その都度、公示する。

(単位)

第7条 専門教育の授業科目の単位の計算は、次に掲げる基準により行う。

- (1) 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育上必要と認められる場合には、30時間の授業をもって1単位とすることができる。
 - (2) 実験、実習及び実技については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育上必要と認められる場合には、45時間の授業をもって1単位とすることができる。
 - (3) 1つの授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合において、講義及び演習については係数3（ただし、演習については、教育上必要があると認められる場合には係数1.5とする。）、実験及び実習については係数1（ただし、教育上必要があると認められる場合には係数1.5とする。）に対し、それぞれの授業時間を乗じて得た数値の和が45時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業研究Ⅰ及びⅡ並びに卒業設計又は卒業研究Ⅰ及びⅡ等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適当であると認められる場合には、これらに必要な学修を考慮して、単位数を定めるものとする。
- 3 前2項に基づく各授業科目の単位数及び週時間については、別表に掲げるとおりとする。

(登録、試験、単位の認定等)

第8条 登録、試験、単位の認定等については、琉球大学各学部共通細則の定めるところによる。

(編入学)

第9条 編入学については、琉球大学編入学規程の定めるところによる。

(転入学)

第10条 転入学については、琉球大学転入学規程の定めるところによる。

(再入学)

第11条 再入学については、琉球大学再入学規程の定めるところによる。

(転学部及び転コース等)

第12条 転学部については、琉球大学転学部、転学科、転課程に関する規程の定めるところによる。

- 2 コース制に伴う最終コース決定時の進路変更に関し必要な事項については、別に定める。
- 3 転コースに関し必要な事項については、別に定める。

(転学)

第13条 本学部の学生で他の大学に入学又は転入学を希望する者は、指導教員及び学部長を経て学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第14条 留学については、琉球大学留学等及び特別聴講学生に関する規程の定めるところによる。

(卒業の要件)

第15条 卒業するには、琉球大学（以下「本学」という。）に4年以上在学し、別表に掲げる単位を修得しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、第3年次特別編入学者の卒業の要件は、本学に2年以上在学し、別表に掲げる単位（第3年次特別編入学以前に在学していた大学、短期大学、高等専門学校等で修得した単位のうち、本学の卒業要件に係る単位として換算する単位（以下「換算単位」という。）を含む。）を修得するものとする。この場合において、換算単位については、教授会が判定する。

(教員免許)

第16条 教育職員の免許状授与の資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）の定めるところにより、別に定める単位を修得しなければならない。

(研究生)

第17条 研究生については、琉球大学研究生規程の定めるところによる。

(特別聴講学生)

第18条 特別聴講学生については、琉球大学留学等及び特別聴講学生に関する規程の定めるところによる。

(科目等履修生)

第19条 科目等履修生については、琉球大学科目等履修生規程の定めるところによる。

(外国人学生)

第20条 外国人学生については、琉球大学外国人学生規程の定めるところによる。

(指導教員)

第21条 学生の修学、進路、就職、学生生活等の指導のため、各コースの年次ごとに指導教員を置く。

2 前項の規定に定めるもののほか、指導教員については、琉球大学における指導教員に関する規程の定めるところによる。

(改廃)

第22条 この規程の改廃は、教授会の議を経て学部長が行う。

附 則

この規程は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則（昭和55年5月22日）

この規程は、昭和55年5月22日から施行し、昭和55年4月1日から適用する。

附 則（昭和56年4月1日）

この規程は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則（昭和57年4月1日）

この規程は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則（昭和58年4月1日）

この規程は、昭和58年4月1日から施行する。

附 則（昭和60年1月30日）

この規程は、昭和60年1月30日から施行する。

附 則（昭和60年10月22日）

この規程は、昭和60年10月22日から施行し、昭和60年4月1日から適用する。

附 則（昭和62年3月18日）

この規程は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則（昭和63年4月8日）

この規程は、昭和63年4月8日から施行する。

附 則（平成元年5月29日）

この規程は、平成元年5月29日から施行する。

附 則（平成2年6月8日）

この規程は、平成2年6月8日から施行する。

附 則（平成4年4月10日）

この規程は、平成4年4月10日から施行する。

附 則（平成5年3月15日）

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附 則（平成5年9月29日）

1 この規程は、平成5年10月1日から施行する。

2 平成5年9月30日に工学部の機械工学科，エネルギー機械工学科，土木工学科，建設工学科，電気工学科及び電子・情報工学科に在学していた者については，なお従前の例による。

3 工学部の機械工学科，エネルギー機械工学科，土木工学科，建設工学科，電気工学科及び電子・情報工学科は，改正後の第2条の規定にかかわらず，平成5年9月30日に工学部に在学する者が工学部の当該学科に在学しなくなる日までの間，存続するものとする。

附 則（平成6年2月23日）

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成16年11月17日）

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則（平成20年2月9日）

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成26年2月19日）

この規程は、平成26年2月19日から施行する。

附 則（平成29年3月30日）

- 1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 平成29年3月31日に工学部の機械システム工学科、環境建設工学科、電気電子工学科及び情報工学科に在学していた者については、なお従前の例による。
- 3 工学部の機械システム工学科、環境建設工学科、電気電子工学科及び情報工学科は、改正後の第2条の規定にかかわらず、平成29年3月31日に工学部に在学する者が工学部の当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則（平成30年9月26日）

この規程は、平成30年9月26日から施行する。

機械工学コース

•授業科目分類表	1
•教育課程(授業内容)	2
•卒業要件	10
•GE 科目リスト	11
•履修モデル	12

別表(第5条関係)

機械工学コース

1. 提供科目

①授業科目分類表

※工学融合科目について、自コース及びエネルギー環境工学コースが提供している科目を履修登録することはできない。

分類	科目番号	授業科目名	単位数	必修	分類	科目番号	授業科目名	単位数	必修	
工学共通科目	工共100	工学基礎演習	2	○	コース専門科目	機械326	溶接工学	2		
	工共101	キャリアデザイン入門	1	○		機械335	流体機械学	2		
	工共111	工業数学I	2	○		機械336	粘性流体力学	2		
	工共112	工業数学II	2	○		機械341	伝熱工学	2	○	
	工共114	プログラミングI	2	○		機械345	熱機関工学	2		
	工共118	基礎数学I	1			機械346	蒸気工学	2		
	工共119	基礎数学II	1			機械351	機械力学	2	○	
	工共150	工学概論	2			機械355	基礎制御工学II	2		
	工共211	工業数学III	2	○		機械356	機械運動学	2		
	工共212	工業数学IV	2			機械357	現代制御理論	2		
	工共213	確率及び統計	2	○		機械358	基礎メカトロニクス	2		
	工共214	プログラミングII	2			機械415	機器構造学	2		
	工共300	技術者の倫理	2	○		機械425	高分子合成論	2		
	工共301	キャリアデザイン	2	○		機械435	高速空気力学	2		
	工共302	エンジニアリングデザイン演習	2	○		機械436	航空工学	2		
	工共320	Frontiers of Engineering	2			機械445	物質移動工学	2		
	工共321	技術英語I	2			機械455	信号処理工学	2		
	工共322	技術英語II	2			機械456	ロボット工学	2		
	工共330	地域課題解決実践演習	2			機械471	機械工学特別講義I	2		
	工共331	産業社会学原論I	2			機械472	機械工学特別講義II	2		
	工共332	産業社会学原論II	2			機械473	機械工学特別講義III	2		
	工共333	地域創生論	2			機械474	機械工学特別講義IV	2		
	工共334	国際協力論	2			機械475	機械工学特別講義V	2		
	工共335	知的財産権	2			機械476	機械工学特別講義VI	2		
	工共336	品質管理	2			機械481	機械工学特別講義A	1		
	工共337	経営工学概論	2			機械482	機械工学特別講義B	1		
	工共338	インターンシップI	1			機械483	機械工学特別講義C	1		
	工共339	インターンシップII	1			機械484	機械工学特別講義D	1		
	工共340	インターンシップIII	2			機械485	機械工学特別講義E	1		
	工共341	国際インターンシップI	1			機械486	機械工学特別講義F	1		
	工共351	工業科教育法A	2			工学融合科目(導入科目)	機械991	材料生産工学概論	2	
	工共352	工業科教育法B	2				機械992	熱流体工学概論	2	
	工共401	卒業研究I	3	○			エネ991	エネルギー変換工学基礎	2	
	工共402	卒業研究II	3	○			エネ992	環境エネルギー工学概論	2	
	工共403	卒業設計または卒業研究I	3				電気991	電気電子工学基礎	2	
	工共404	卒業設計または卒業研究II	3				電気992	メカトロニクス	2	
	工共405	セミナーI	1				電情991	電気電子工学基礎	2	
	工共406	セミナーII	1				電情992	通信工学概論	2	
	工共421	技術英語III	2				社基991	基礎流体力学	2	
	工共441	国際インターンシップII	2				社基992	橋設計論	2	
	工共450	職業指導(工業)	2				社基994	道路交通計画	2	
	工共451	情報科教育法A	2				社基997	都市地域計画	2	
	工共452	情報科教育法B	2				社基998	岩盤工学	2	
	工共453	教職総合演習(情報)	2				建築991	居住建築概論	2	
	コース専門科目	機械101	情報リテラシー	1			○	知能991	コンピュータサイエンス基礎	2
機械102		機械製図	2	○	知能992	情報システム開発演習	2			
機械103		工業力学	2	○	工学融合科目(選択科目)	機械981	機器構造学	2		
機械201		材料加工学実習	2	○		機械982	亜熱帯材料学	2		
機械205		機械基礎演習	1			機械983	流体機械学	2		
機械211		材料力学I	2	○		エネ981	エネルギー移動工学	2		
機械212		材料力学II	2	○		エネ982	腐食防食工学	2		
機械221		材料加工学I	2	○		エネ983	熱機関工学	2		
機械222		機械材料I	2	○		電気981	パワーエレクトロニクス	2		
機械225		材料加工学II	2			電気984	電気機器	2		
機械226		機械材料II	2			電気985	発電工学	2		
機械231		流体力学I	2	○		電情981	電気電子計測工学I	2		
機械232		流体力学II	2	○		電情983	量子力学I	2		
機械241		熱力学I	2	○		社基981	プロジェクトマネジメント	2		
機械242		熱力学II	2	○		社基982	維持管理工学	2		
機械251		計測工学	2	○		社基983	腐食防食と疲労	2		
機械252		基礎制御工学I	2	○		社基984	減災計画	2		
機械301		機械工学実験I	1.5	○		社基985	環境衛生工学	2		
機械302		機械工学実験II	1.5	○		建築982	都市デザイン演習	2		
機械303		機械設計製図I	1.5	○		建築983	耐震設計概論	2		
機械304		機械設計製図II	1.5	○		建築984	都市および地方計画	2		
機械305		機械設計演習	1			知能981	ネットワークセキュリティ	2		
機械311		機器設計基礎学	2	○		知能983	知能ロボット	2		
機械315		弾性力学	2			知能984	データマイニング	2		
機械325		亜熱帯材料学	2							

別表(第5条関係)

工学共通科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
工学共通科目	工共100	工学基礎演習	2	2-0	1	前	高校から大学への環境変化に伴う自己学習に対する意識改革に加えて、自主性・自律性を高め、専門分野の導入教育により大学で学ぶための素養を身に付ける。	○
	工共101	キャリアデザイン入門	1	1-0	1	前	各コースの専門性や身に付けていくべきスキル、ならびに卒業後の進路に関する概説	○
	工共111	工業数学Ⅰ	2	2-0	1	前	行列、連立一次方程式、行列式、ベクトル、固有値など	○
	工共112	工業数学Ⅱ	2	2-0	1	前又は後	1階常微分方程式、2階の同次線形微分方程式、非同次方程式など	○
	工共114	プログラミングⅠ	2	2-0	1・2	前又は後	変数と代入、式、制御文、関数など	○
	工共118	基礎数学Ⅰ	1	1-0	1	前	初等関数に関する補習や微分積分法の初歩について演習を行う。専門科目を学ぶ上で必須となる数学の基礎を身につける。	
	工共119	基礎数学Ⅱ	1	1-0	1	後	1変数関数の微分積分学の基本的な計算演習を行う。授業では例題の解答、解説を行い、そのあと受講生各自で演習問題に取り組む。専門科目を学ぶ上で必須となる数学の基礎を身につける。	
	工共150	工学概論	2	2-0	1	後	機械、エネルギー環境、電気、電子、建築、社会基盤、情報分野における工学における基礎知識、技術、考え方を解説する。	
	工共211	工業数学Ⅲ	2	2-0	1・2	前又は後	フーリエ級数、フーリエ積分及び変換、偏微分方程式の解法など	○
	工共212	工業数学Ⅳ	2	2-0	2	前又は後	複素数と複素平面、複素数の極形式、複素関数の微分、留数定理、実積分への応用など	
	工共213	確率及び統計	2	2-0	1・2	後	尺度と基本統計量、二項分布、ポアソン分布、一様分布、正規分布、T分布、X ² 分布、点推計・区間推計、仮説検定、適合度検定・独立性検定、回帰分析	○
	工共214	プログラミングⅡ	2	2-0	2・3	前又は後	アルゴリズム、数値解法など	
	工共300	技術者の倫理	2	2-0	1・3	前又は後	社会に対する技術者の責任、社会的倫理、道徳の実践、職業観、職業人としての生き方、自己実現、リーダーシップ、技術者の倫理、情報社会の倫理、会社と社会の関係、チームワークと協調性、日本と国際社会の関係	○
	工共301	キャリアデザイン	2	2-0	3	前又は後	キャリア形成、技術者のキャリア、職業観協働とコミュニケーション-ビジョン共有、自律的行動と協調、コンセンサスと少数意見、コンセンサスとプロセス、自己理解と他者理解、企業活動とスタートアップ、自己表現と自己実現	○
	工共302	エンジニアリングデザイン演習	2	2-0	3	後	班に分かれて協働で課題を設定しそれを解決する能力を養う。課題解決に向けて計画作成と中途の評価・改善を協働で行い、結果を発表する。	○
	工共320	Frontiers of Engineering	2	2-0	3・4	後	英語による様々な工学分野における最近の研究内容等の解説	
	工共321	技術英語Ⅰ	2	2-0	3	前	科学技術分野における英語論文の構成要素(概要、序論、方法、結果、討論/結論)、文法、文章および段落構成	
	工共322	技術英語Ⅱ	2	2-0	3	後	英語による口頭発表やポスター発表のためのプレゼンテーションスキル	
	工共330	地域課題解決実践演習	2	2-0	3・4	後	沖縄の地域課題、課題発見、調査手法と分析手法およびその実践、解決策の立案と検討-網羅性、妥当性、実現可能性協働の実践	

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
工学共通科目	工共331	産業社会学原論Ⅰ	2	2-0	3・4	前	社会的技術者、芸術論、企業経営論、人生観、文明論、多面性、ケース学習	
	工共332	産業社会学原論Ⅱ	2	2-0	3・4	後	先駆的起業家、社会的役割、IT、農業、環境	
	工共333	地域創生論	2	2-0	3	前	沖縄21世紀ビジョン基本計画の中において、工学と関連の深い分野に関する各行政施策の基本的な考え方、しくみ、および関連法規を学び、地域創生に資する公共政策論のあり方を学ぶ。	
	工共334	国際協力論	2	2-0	3	前	主に開発途上段階にある大洋州、東南アジア地域等における、国際協力のあり方と現在実施している事例について学ぶ。講義は座学と国際協力の事例に基づいた実践(ワークショップ)による体験型の学びを重視する。	
	工共335	知的財産権	2	2-0	3・4	前又は後	知的財産権における一連の法律群全体を概観した上で、その中でも特に重要な特許法、実用新案法、著作権法、意匠法、商標法等の基礎について解説する。	
	工共336	品質管理	2	2-0	3・4	後	製品やサービス活動における因果関係を理解し、品質管理の概念・実務を管理図法、統計的手法、抜取検査法の講義・演習を通して解析や問題解決能力を養う。	
	工共337	経営工学概論	2	2-0	3・4	後	経営工学、管理事務、生産管理、IE技法、工程管理、工程分析、在庫管理、品質管理、FA化技術、システム信頼性、性能評価	
	工共338	インターンシップⅠ	1		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共339	インターンシップⅡ	1		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共340	インターンシップⅢ	2		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共341	国際インターンシップⅠ	1		3・4		企業・行政・研究機関・大学等において、英語等日本語以外を用いた国際的な業務や専門知識に関わる実習を行う。	
	工共351	工業科教育法A	2	2-0	3	後	教職課程、工業技術教育、工業高等学校教育、教育関連法令、カリキュラム編成、単元計画、学習指導案、授業設計、授業理論、進路指導	
	工共352	工業科教育法B	2	2-0	4	前	教職課程、工業技術教育、工業高等学校教育、教育評価法、教員研修、資格取得、教員製作	
	工共401	卒業研究Ⅰ	3	0-6	4	前又は後	教員の指導のもとに特定テーマや研究計画を設定して研究を行い、研究成果を発表する。	○
	工共402	卒業研究Ⅱ	3	0-6	4	前又は後	教員の指導のもとに特定テーマや研究計画を設定して研究を行い、研究成果を発表する。	○
	工共403	卒業設計または卒業研究Ⅰ	3	0-6	4	前又は後	建築学全般に関する理解を深める。設計実践、設計研究、調査研究または実験的研究および解析的研究に関する理解を深め、設計または研究を遂行する。	
	工共404	卒業設計または卒業研究Ⅱ	3	0-6	4	前又は後	建築学全般に関する理解を深める。設計実践、設計研究、調査研究または実験的研究および解析的研究に関する理解を深め、設計または研究を遂行する。	
	工共405	セミナーⅠ	1	1-0	3・4	前又は後	各コースの専門分野に関する論文講読および討論	
	工共406	セミナーⅡ	1	1-0	3・4	前又は後	各コースの専門分野に関する論文講読および討論	
	工共421	技術英語Ⅲ	2	2-0	4	前	科学技術分野における英語論文のライティング技術と実践	

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
工学共 通科目	工共441	国際インターンシップⅡ	2		3・4		企業・行政・研究機関・大学等において、英語等日本語以外を用いた国際的な業務や専門知識に関わる実習を行う。	
	工共450	職業指導(工業)	2	2-0	4	前	進路指導, 就職指導, 自己実現, 主体的職業選択能力, 職業観, 勤労観, 職業構造, 産業社会, 生涯教育, キャリア教育計画	
	工共451	情報科教育法A	2	2-0	3	後	教職課程, 教科情報, 授業設計, 指導法, 教育観, 学習観, 学習指導要領, 情報活用実践力, プレゼンテーション, 評価方法, 学習指導案, 科学的理解, 模擬授業	
	工共452	情報科教育法B	2	2-0	4	前	教職課程, 教科情報, 授業評価, 生徒評価, ルーブリック, ポートフォリオ, 模擬授業	
	工共453	教職総合演習(情報)	2	2-0	4	前	教職課程, 地域社会, 実践的活動, 教員資質, 教育現場, 教育ボランティア, 社会活動, 連携授業	

別表(第5条関係)

機械工学コース

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
コース 専門 科目	機械101	情報リテラシー	1	1-0	1	前	情報倫理やセキュリティ、コンピュータリテラシーの向上を目的に学習支援ツールの利用法を習得する。	○
	機械102	機械製図	2	0-4	1	後	JISによる機械製図演習	○
	機械103	工業力学	2	2-0	1	後	静力学、質点及び剛体の運動学、力積と運動量、仕事	○
	機械201	材料加工学実習	2	0-4	2	前又は後	エンジニアリングデザインのための機械加工法の実習	○
	機械205	機械基礎演習	1	1-0	2・3	前又は後	機械に関する基礎演習	○
	機械211	材料力学I	2	2-0	2	前	単軸応力、ひずみ、フックの法則、静定・不静定問題、組合応力、平面問題	○
	機械212	材料力学II	2	2-0	2	後	軸のねじり、コイルバネ、曲げモーメント、曲げ応力、静定はりのたわみ、カスチリアーノの定理	○
	機械221	材料加工学I	2	2-0	2	前	溶融、塑性及び切削加工の理論と応用	○
	機械222	機械材料I	2	2-0	2	前	状態図の基礎と金属材料への応用（熱処理を含む）及び析出相・再結晶相の動力学	○
	機械225	材料加工学II	2	2-0	2	後	切削、研削及び研磨加工の理論と応用	○
	機械226	機械材料II	2	2-0	2	後	拡散と金属組織及び格子欠陥と金属強度	○
	機械231	流体力学I	2	2-0	2	前	流体の諸性質と流れの表し方、流体静力学、流れの基礎方程式、流れの相似則、ベルヌーイの式、測定法	○
	機械232	流体力学II	2	2-0	2	後	運動量の法則、次元解析と相似則、粘性流体の流れ、乱流、管路内の流れ、物体に作用する力、揚力、翼、翼列	○
	機械241	熱力学I	2	2-0	2	前	熱力学の第一法則、理想気体と状態変化、第二法則、エントロピーとエネルギーの有効利用	○
	機械242	熱力学II	2	2-0	2	後	化学反応、燃焼、ガスサイクル、蒸気サイクル、冷凍サイクルと空気調和	○
	機械251	計測工学	2	2-0	2	後	計測器と計測対象、単位と標準、誤差と精度の数理等	○
	機械252	基礎制御工学I	2	2-0	2	後	自動制御系の基本構成、伝達関数とブロック線図、過渡応答、安定性、周波数応答	○
	機械301	機械工学実験I	1.5	0-3	3	前	機械工学に関する各種基礎実験	○
	機械302	機械工学実験II	1.5	0-3	3	後	機械工学に関する各種基礎実験	○
	機械303	機械設計製図I	1.5	3-0	3	前	CAD、CAE等のコンピュータによる設計製図	○
	機械304	機械設計製図II	1.5	3-0	3	後	流体機械又は熱交換器に関する設計計算と製図	○
	機械305	機械設計演習	1	1-0	3	前又は後	機械に関する設計演習	○
	機械311	機器設計基礎学	2	2-0	3・4	前又は後	ボルト、ナット、リベット、キー、軸、軸受、歯車、摩擦伝動、ベルト伝動、プレーキ等の要素設計・計算	○
	機械315	弾性力学	2	2-0	3・4	前又は後	弾性体に生ずる応力、ひずみの解析についての基礎理論	○

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修	
コース 専門科目	機械325	亜熱帯材料学	2	2-0	3・4	前又は後	多糖の基礎と構造, バイオベース材料の高機能化, バイオベース材料の加工・化学修飾	○	
	機械326	溶接工学	2	2-0	3・4	前	溶接機器の原理, 構造, 溶接理論, 溶接設計		
	機械335	流体機械学	2	2-0	3	前	ターボ機械の分類, 基礎理論, 損失および効率, 相似則, キャピテーション現象, 不安定流動現象, 水撃		
	機械336	粘性流体力学	2	2-0	3・4	前又は後	粘性をもつ実在流体の力学, 境界層理論		
	機械341	伝熱工学	2	2-0	3	前	熱伝導, 対流, 放射伝熱の基礎と自然現象, 工学機器への応用, 熱交換器の基礎		
	機械345	熱機関工学	2	2-0	3・4	前又は後	内燃機関の概要及び歴史, 構造, 熱力学の理論と実際, 出力と効率, 吸・排気系統, ガソリンエンジンとディーゼルエンジン, エンジンと環境問題		
	機械346	蒸気工学	2	2-0	3・4	前又は後	蒸気原動機概説, ボイラ, 燃料と燃焼装置, 伝熱装置, 蒸気タービン概要, 復水装置		
	機械351	機械力学	2	2-0	3	前	1自由度系の振動, 多自由度系の振動, 連続体の振動, 回転体の振動		○
	機械355	基礎制御工学II	2	2-0	3	前	制御系設計法, PID制御		
	機械356	機械運動学	2	2-0	3・4	前又は後	機械と機構, 機構の運動学, リンク装置, カム装置, 歯車装置		
	機械357	現代制御理論	2	2-0	3・4	後	状態空間表現, 安定性, 可制御性, 可観測性, 状態フィードバックと極配置, オブザーバ		
	機械358	基礎メカトロニクス	2	2-0	3・4	前又は後	電子回路基礎, センサ, アクチュエータ, マイクロコントローラ		
	機械415	機器構造学	2	2-0	3・4	前又は後	機械構造物の例としての航空機などの構造に関する基礎的な理論, 構造力学の基礎		
	機械425	高分子合成論	2	2-0	3・4	前又は後	高分子合成基礎, 逐次重合, 連鎖重合, 共重合, ポリマー構造と設計		
	機械435	高速空気力学	2	2-0	3・4	前又は後	圧縮性を考慮した流体の力学, 超音速流れ		
	機械436	航空工学	2	2-0	3・4	前又は後	航空機の基本構造から始まり, 揚力や推力の原理を習得し, 翼の特性や空気力について学ぶ		
	機械445	物質移動工学	2	2-0	3・4	前又は後	拡散の基礎的概念, 分子拡散とフィックの法則, 質量保存の方程式(連続の式), 対流拡散, 異相界面拡散, 総括物質移動係数, 工学における物質移動現象の解析など		
	機械455	信号処理工学	2	2-0	3・4	前又は後	データ処理の基礎, 高速フーリエ変換及びその他の変換, パワースペクトル, 時系列解析		
	機械456	ロボット工学	2	2-0	3・4	前又は後	メカニズムの動力学, 逆動力学, ロボットの運動学, 機構の制御, マニプレータ概説		
	機械471	機械工学特別講義I	2	2-0	2・3・4	前又は後	工学の特定分野に関する講義		
機械472	機械工学特別講義II	2	2-0	2・3・4	前又は後	"			
機械473	機械工学特別講義III	2	2-0	2・3・4	前又は後	"			

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
コ ー ス 専 門 科 目	機械474	機械工学特別講義IV	2	2-0	2・3・4	前又 は後	"	
	機械475	機械工学特別講義V	2	2-0	2・3・4	前又 は後	"	
	機械476	機械工学特別講義VI	2	2-0	2・3・4	前又 は後	"	
	機械481	機械工学特別講義A	1	1-0	2・3・4	前又 は後	"	
	機械482	機械工学特別講義B	1	1-0	2・3・4	前又 は後	"	
	機械483	機械工学特別講義C	1	1-0	2・3・4	前又 は後	"	
	機械484	機械工学特別講義D	1	1-0	2・3・4	前又 は後	"	
	機械485	機械工学特別講義E	1	1-0	2・3・4	前又 は後	"	
機械486	機械工学特別講義F	1	1-0	2・3・4	前又 は後	"		

別表(第5条関係)

工学融合科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
工学融合科目(導入科目)	機械991	材料生産工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	材料力学及び機械要素設計の基礎、機械材料及び材料加工学の基礎
	機械992	熱流体工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	流体力学及び流体機械学の基礎、熱力学及び伝熱工学の基礎
	エネ991	エネルギー変換工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	燃焼、蒸気サイクル、冷凍サイクルと空気調和の基礎および伝導、対流、放射伝熱の基礎
	エネ992	環境エネルギー工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	地球環境、環境アセスメント、省エネルギー技術、再生可能エネルギー
	電気991	電気電子工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	電気工学、電子工学、情報通信工学に関する基礎について学ぶ
	電気992	メカトロニクス	2	2-0	3・4	前又は後	メカトロニクスに関わるセンサ、アクチュエータ、サーボモータ、制御システム
	電情991	電気電子工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	電気工学、電子工学、情報通信工学に関する基礎について学ぶ
	電情992	通信工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	有線通信および無線通信に関する基礎について学ぶ
	社基991	基礎流体力学	2	2-0	3・4	後	相対性原理と運動法則の成立、流体力学と自然の中の流れ、流体力学の基礎理論、流体力学の定理、定理と応用、流体の数値計算
	社基992	橋設計論	2	2-0	3・4	前	橋の歴史、橋の構造形式及びその力学的意味と特性
	社基994	道路交通計画	2	2-0	3・4	前	道路工学基礎、道路構造令、舗装、交通調査概論、四段階推定法、交通需要マネジメント
	社基997	都市地域計画	2	2-0	3・4	後	都市の歴史と都市計画の理論と制度の仕組み(規制・誘導・事業)について学ぶ。また、これまでの日本の国土計画の流れとこれからの地域計画の方向性についての知識を習得する。
	社基998	岩盤工学	2	2-0	3・4	後	地殻の構成、岩の力学的特性、破壊・風化メカニズム、海底鉱物資源の種類や採掘法等の各問題に関して、力学的・数理的な解析手法を説明し、実務への展開法について講述する。
	建築991	居住建築概論	2	2-0	3・4	前又は後	住宅をはじめとする人間の居住を支える建築について、建築学に関わる幅広い視点から総合的に学ぶ。
	知能991	コンピュータサイエンス基礎	2	2-0	3・4	前又は後	コンピュータの仕組み、アルゴリズム、プログラミングの解説と演習を通して、コンピュータサイエンスの基礎を習得する。
	知能992	情報システム開発演習	2	2-0	3・4	前又は後	AI機械学習やwebアプリケーション等に関する情報システムの設計とプログラム開発の基礎をチーム演習を通して習得する。

別表(第5条関係)

工学融合科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
工学融合科目 (選択科目)	機械981	機器構造学	2	2-0	3・4	前又は後	機械構造物の例としての航空機などの構造に関する基礎的な理論, 構造力学の基礎
	機械982	亜熱帯材料学	2	2-0	3・4	前又は後	多糖の基礎と構造, バイオベース材料の高機能化, バイオベース材料の加工・化学修飾
	機械983	流体機械学	2	2-0	3・4	前	ターボ機械の分類, 基礎理論, 損失および効率, 相似則, キャビテーション現象, 不安定流動現象, 水撃
	エネ981	エネルギー移動工学	2	2-0	3・4	前又は後	伝導, 対流, 放射伝熱の基礎と自然現象, 工学機器への応用, 定常・非定常熱伝導の理論
	エネ982	腐食防食工学	2	2-0	3・4	前	材料表面性と表面処理, 腐食, 防食の理論と応用
	エネ983	熱機関工学	2	2-0	3・4	前又は後	内燃機関の概要及び歴史, 構造, 熱力学の理論と実際, 出力と効率, 吸・排気系統, ガソリンエンジンとディーゼルエンジン, エンジンと環境問題
	電気981	パワーエレクトロニクス	2	2-0	3・4	後	電力用半導体デバイス, スイッチングデバイス, サイリスタコンバータ, DC/DCコンバータ, スイッチングレギュレータ, インバータ, インバータによる交流電動機の制御
	電気984	電気機器	2	2-0	3・4	前	電気-機械エネルギー変換の基礎, 直流機および変圧器の原理・構造・特性, 制御, 同期機, 誘導機, 整流子機の原理・構造・特性, 制御
	電気985	発電工学	2	2-0	3・4	後	水力発電, 火力発電および原子力発電の原理・構成・特性, 自然エネルギーの利用と発電方式
	電情981	電気電子計測工学I	2	2-0	3・4	前	測定方式, 測定値の処理, 電圧・電流・電力及び回路素子の特性測定法
	電情983	量子力学 I	2	2-0	3・4	前	古典力学の限界と量子力学の誕生, 量子力学の基礎, 自由粒子, 井戸型ポテンシャルと量子井戸, トンネル効果
	社基981	プロジェクトマネジメント	2	2-0	3・4	後	施工管理法(施工計画, 工程管理, 品質管理, 安全管理), 土木施工技術
	社基982	維持管理工学	2	2-0	3・4	後	構造物の機能・性能とメンテナンスの基本, 構造物の劣化現象, 構造物の点検方法および劣化予測・評価の方法, 補修・補強の方法
	社基983	腐食防食と疲労	2	2-0	3・4	後	橋梁, 港湾施設, 発電所施設の維持管理工学概論, 鋼材の腐食メカニズム及び防食メカニズム, 鋼構造の疲労メカニズム及び疲労強度設計
	社基984	減災計画	2	2-0	3・4	後	災害概論, リスクコミュニケーション, 地域防災計画, 地区防災計画, 学校危機管理, 防災教育, 減災計画方法論
	社基985	環境衛生工学	2	2-0	3・4	後	安全で衛生的な生活環境を支える社会基盤にはどのようなものがあるか, また, 人間の活動が地球環境に及ぼす影響について解説し, 持続可能な社会の実現のために必要な技術者としての知識と倫理観について学ぶ。
	建築982	都市デザイン演習	2	3-0	3・4	前	都市デザイン, 地区デザイン, 景観デザインに関する計画・設計の演習を行う。
	建築983	耐震設計概論	2	2-0	3・4	後	地震荷重と耐震設計法, 耐震診断, 耐震補強・補修法など耐震設計の基礎を紹介する。
	建築984	都市および地方計画	2	2-0	3・4	隔年前期	都市および地方計画の調査, 立案, 実施に必要とされる法制度体系を理解し, 実際の計画事例を学ぶ
	知能981	ネットワークセキュリティ	2	2-0	3・4	後	情報セキュリティの仕組み, 攻撃, ファジング, ポリシーと運用, 脅威分析モデル等に関するスキル
知能983	知能ロボット	2	2-0	3・4	後	ロボットの歴史と基本概念, ロボットハードウェアの要素技術, ロボットモーション, ロボットパーセプション, ロボットインテリジェンス	
知能984	データマイニング	2	2-0	3・4	前	機械学習, 統計, 集合知, Webインテリジェンス, 統計, 可視化, パターン抽出, 評価	

卒業要件(機械工学コース)

1. 共通教育

教養領域

健康運動系科目 ----- 2 単位以上

人文系科目 ----- 2 単位以上

社会系科目 ----- 2 単位以上

自然系科目 ----- 2 単位以上

総合領域

総合科目 ----- 2 単位以上

キャリア関係科目 ----- 2 単位以上

琉大特色・地域創生科目 ----- 2 単位以上

基幹領域

情報関係科目 (日本語表現法入門) ----- 2 単位

外国語科目 「大学英語」を含む英語 ----- 8 単位以上

英語以外の一外国語 ----- 4 単位以上

又は、

「大学英語」を含む英語 ----- 12 単位以上

14 単位以上
※1

30 単位以上
※2

2. 専門基礎教育

専門基礎科目 (先修科目)

(微分積分学ST I, 同 II, 物理学 I, 同 II,
物理学実験, 化学入門 I) ----- 11 単位以上
※3, 4

3. 専門教育

専門科目

(必修)

工学共通科目 ----- 25 単位

コース専門科目 ----- 39 単位

64 単位

(選択)

工学共通科目 ----- 21 単位以上

コース専門科目 ----- 21 単位以上

工学融合科目 ----- 4 単位以上

※5, 6, 7

※8

25 単位以上

89 単位以上

合計 130 単位以上

※1 合計14単位以上(ただし、人文系、社会系、総合、キャリア関係、琉大特色・地域創生科目で合計12単位以上)。

人文・社会系科目及び総合領域の指定単位以外にこれらの領域から8単位以上を自由選択する。ただし、自然系から2単位まで含めることができる。

※2 情報科学演習は卒業要件の単位に含めない。

※3 高等学校で微分・積分、物理の教科を履修していない学生は、指導教員の認定により転換科目中の微分積分学入門 I, 同 II, 物理学入門 I, 同 IIを履修し、それらの単位を先修科目中のそれぞれ対応する微分積分学ST I, 同 II, 物理学 I, 同 IIに読み替えることができる。

※4 専門基礎科目について、11単位を超えて修得した場合は、2単位に限り人文・社会系科目及び総合領域の自由選択(※1)の単位として含めることができる。ただし、同じ内容の科目の重複は認められない。

※5 基礎数学 I, 同 IIは卒業要件の単位に含めない。

※6 他コース専門科目から修得した単位は6単位まで選択科目として卒業単位に含めることができる。ただし、同じ内容の科目の重複は認められない。

※7 「(全教412) 教職実践演習(高)」については、専門科目の選択科目として卒業単位に含めることができる。

※8 エネルギー環境工学コースを除く1つのコースの工学融合科目から4単位以上を履修する。

※9 外国人学生の場合には、琉球大学共通教育等履修規程第8条により次の特例を認める。

(1) 共通教育の人文系、社会系、自然系、総合、キャリア関係、琉大特色・地域創生科目のうち4単位まで、日本事情科目で読み替えることができる。

(2) 英語以外の一つの外国語(4単位以上)を日本語科目で読み替えることができる。

GE プログラムとして修得すべき科目リスト

機械工学コース(材料物質工学プログラム・熱流体工学プログラム
・知能機械システムプログラム)

科目番号	科目名	単位数
工共 321	技術英語 I	2
工共 322	技術英語 II	2
工共 421	技術英語 III	2
工共 333	地域創生論	2
工共 334	国際協力論	2
工共 336	品質管理	2
工共 338	インターンシップ I	1
工共 339	インターンシップ II	1
工共 340	インターンシップ III	2
工共 341	国際インターンシップ I	1
工共 441	国際インターンシップ II	2
※ESCM11030	インターンシップ I	1
※ESCM12010	インターンシップ II	1
※ESCM11040	インターンシップ III	2
※ESCM12020	インターンシップ IV	2
※ESCM11020	国際インターンシップ I	2
※ESCM13010	国際インターンシップ II	2

いずれか、
1 科目以上

※は大学院授業科目

機械工学コース 履修モデル

令和6年度 / 2024年度

教育分野	1年次		2年次		3年次		4年次		総単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通教育			健康運動 選 2							2 (2.0)
	教養領域1 選 2	教養領域2 選 2	教養領域3 選 2	教養領域4 選 2			総合領域2 選 2	総合領域3 選 2	14 (14.0)	
	日本語表現法入門 必 2								2 (2.0)	
	大学英語 必 4	英語科目1 選 2	英語科目2 選 2							12 (12.0)
専門基礎	第2外国語 I 選 2	第2外国語 II 選 2								
	微分積分学ST I 必 2	微分積分学ST II 必 2								
専門基礎	微分積分学入門 I 選 2	微分積分学入門 II 選 2							11	
	物理学 I 必 2	物理学 II 必 2								
専門基礎	物理学入門 I 選 2	物理学入門 II 選 2								
	化学 I 選 2	化学 II 選 2								
専門基礎	化学実験 選 1	化学入門 必 2	化学入門 II 選 2							
	物理実験 必 1									
工学共通科目	キャリアデザイン入門 必 1									
	工学基礎演習 必 2									
工学共通科目	工業数学 I 必 2	工業数学 II 必 2	工業数学 III 必 2	確率及び統計 必 2	インターンシップ I 選 GE 1	エンジニアリングデザイン演習 必 2	知的財産権 選 2	地域課題解決実践演習 選 2	29 (25.0)	
	基礎数学 I 選 1	基礎数学 II 選 1		プログラミング I 必 2	インターンシップ II 選 GE 1	技術者の倫理 必 2	産業社会学原論 I 選 2	産業社会学原論 II 選 2		
工学共通科目		工学概論 選 2		工業数学 IV 選 2	インターンシップ III 選 GE 2	技術英語 I 選 GE 2	国際インターンシップ I 選 GE 1	Frontiers of Engineering 選 2		
					国際協力論 ^{※1} 選 GE 2	技術英語 II 選 GE 2	国際インターンシップ II 選 GE 2	経営工学概論 選 2		
工学共通科目					技術英語 I 選 GE 2	品質管理 選 GE 2	技術英語 III 選 GE 2	セミナー I 選 1		
					プログラミング II 選 2	工業科教育法 A 選 2	卒業研究 I 必 3	卒業研究 II 必 3		
工学共通科目							職業指導(工業) 選 2			
							工業科教育法 B 選 2			
コース専門科目	情報リテラシー 必 1	工業力学 必 2	材料力学 I 必 2	材料力学 II 必 2	機器設計基礎学 必 2	高分子合成論 選 2	機器構造学 選 2	弾性力学 選 2	56 (39.0)	
		機械製図 必 2	材料加工学 I 必 2	材料加工学 II 選 2	溶接工学 選 2		非熱帯材料学 選 2			
コース専門科目			機械材料 I 必 2	機械材料 II 選 2						
			流体力学 I 必 2	流体力学 II 必 2	流体機械学 選 2		粘性流体力学 選 2	高速空気力学 選 2	航空工学 選 2	
コース専門科目			熱力学 I 必 2	熱力学 II 必 2	伝熱工学 必 2	蒸気工学 選 2	熱機関工学 選 2	物質移動工学 選 2		
				基礎制御工学 I 必 2	基礎制御工学 II 選 2	基礎制御理論 選 2	現代制御理論 選 2	信号処理工学 選 2		
コース専門科目				計測工学 必 2	機械力学 必 2	機械運動学 選 2		ロボット工学 選 2		
					基礎メカトロニクス 選 2					
工学融合科目			材料加工学実習 必 2		機械工学実験 I 必 1.5	機械工学実験 II 必 1.5				
			機械基礎演習 選 1		機械設計製図 I 必 1.5	機械設計製図 II 必 1.5				
工学融合科目						機械設計演習 選 1				
					工学融合導入科目 選 2	工学融合導入科目 選 2			4 (0.0)	
工学融合科目					工学融合科目 選 2	工学融合科目 選 2				
総単位数 ^{※2}	20 (20.0)	19 (19.0)	20 (20.0)	18 (18.0)	17 ^{※1} (9.0)	20 ^{※1} (11.0)	11 (5.0)	5 (3.0)	130 (105.0)	

備考
 ■ は必修科目、■ は履修モデルとして選択した選択科目を示す。また、枠無し科目は、それ以外の選択科目を示す(総単位数にカウントしていない)。
 ■ は、GE指定科目、一般は選択科目を示す。 ※1 集中講義(地域創生論(2単位)、国際協力論(2単位))を含むことがある。
 ※2 総単位数の下にある()内の数字は必修科目(共通教育含む)の単位数を表す。卒業要件の130単位を満了するためには、必修科目の総単位数105単位以上に専門選択科目25単位(工学融合科目含む)を取得する必要がある。なお、共通教育科目・専門選択科目については履修方法の一例を示している。
 「(全教412) 教職実践演習(高)」については、専門科目の選択科目として卒業単位に含めることができる。

エネルギー環境工学コース

・授業科目分類表	1
・教育課程(授業内容)	2
・卒業要件	10
・GE 科目リスト	11
・履修モデル	12

別表（第5条関係）

エネルギー環境工学コース

1. 提供科目

①授業科目分類表

※工学融合科目について、自コース及び機械工学コースが提供している科目を履修登録することはできない。

分類	科目番号	授業科目名	単位数	必修	分類	科目番号	授業科目名	単位数	必修		
工学共通科目	工共100	工学基礎演習	2	○	コース専門科目	エネ318	蒸気工学	2	○		
	工共101	キャリアデザイン入門	1	○		エネ325	環境流体工学	2			
	工共111	工業数学Ⅰ	2	○		エネ326	エネルギー流体機械	2			
	工共112	工業数学Ⅱ	2	○		エネ330	機械力学	2			
	工共114	プログラミングⅠ	2	○		エネ335	数値計算	2			
	工共118	基礎数学Ⅰ	1			エネ336	環境システム制御工学	2			
	工共119	基礎数学Ⅱ	1			エネ345	腐食防食工学	2			
	工共150	工学概論	2			エネ346	材料加工学	2			
	工共211	工業数学Ⅲ	2	○		エネ347	亜熱帯材料学	2			
	工共212	工業数学Ⅳ	2			エネ353	機械設計法	1			
	工共213	確率及び統計	2	○		エネ354	機械製作図	1			
	工共214	プログラミングⅡ	2			エネ355	システム要素設計学	2			
	工共300	技術者の倫理	2	○		エネ356	メカニカルCAD	1			
	工共301	キャリアデザイン	2	○		エネ358	機械設計技術演習	1			
	工共302	エンジニアリングデザイン演習	2	○		エネ365	分離工学	1			
	工共320	Frontiers of Engineering	2			エネ366	水素エネルギー工学	1			
	工共321	技術英語Ⅰ	2			エネ405	プロジェクトマネジメント演習	1			
	工共322	技術英語Ⅱ	2			エネ406	エネルギー環境工学プロジェクト演習基礎	2			
	工共330	地域課題解決実践演習	2			エネ407	環境経済学	2			
	工共331	産業社会学原論Ⅰ	2			エネ455	機構学	2			
	工共332	産業社会学原論Ⅱ	2			エネ471	エネルギー環境工学特別講義Ⅰ	2			
	工共333	地域創生論	2			エネ472	エネルギー環境工学特別講義Ⅱ	2			
	工共334	国際協力論	2			エネ473	エネルギー環境工学特別講義Ⅲ	2			
	工共335	知的財産権	2			エネ474	エネルギー環境工学特別講義Ⅳ	2			
	工共336	品質管理	2			エネ475	エネルギー環境工学特別講義Ⅴ	2			
	工共337	経営工学概論	2			エネ476	エネルギー環境工学特別講義Ⅵ	2			
	工共338	インターンシップⅠ	1			エネ481	エネルギー環境工学特別講義A	1			
	工共339	インターンシップⅡ	1			エネ482	エネルギー環境工学特別講義B	1			
	工共340	インターンシップⅢ	2			エネ483	エネルギー環境工学特別講義C	1			
	工共341	国際インターンシップⅠ	1			エネ484	エネルギー環境工学特別講義D	1			
	工共351	工業科教育法A	2			エネ485	エネルギー環境工学特別講義E	1			
	工共352	工業科教育法B	2			エネ486	エネルギー環境工学特別講義F	1			
	工共401	卒業研究Ⅰ	3	○		工学融合科目（選択科目）	機械991	材料生産工学概論		2	
	工共402	卒業研究Ⅱ	3	○			機械992	熱流体工学概論		2	
	工共403	卒業設計または卒業研究Ⅰ	3				エネ991	エネルギー変換工学基礎		2	
	工共404	卒業設計または卒業研究Ⅱ	3				エネ992	環境エネルギー工学概論		2	
	工共405	セミナーⅠ	1				電気991	電気電子工学基礎		2	
	工共406	セミナーⅡ	1				電気992	メカトロニクス		2	
	工共421	技術英語Ⅲ	2				電情991	電気電子工学基礎		2	
	工共441	国際インターンシップⅡ	2				電情992	通信工学概論		2	
	工共450	職業指導（工業）	2				社基991	基礎流体力学		2	
	工共451	情報科教育法A	2				社基992	橋設計論		2	
	工共452	情報科教育法B	2				社基994	道路交通計画		2	
	工共453	教職総合演習（情報）	2				社基997	都市地域計画		2	
	コース専門科目	エネ101	製図基礎	2				社基998		岩盤工学	
エネ102		工業力学	2	○	建築991	居住建築概論	2				
エネ103		基礎情報処理	1	○	知能991	コンピュータサイエンス基礎	2				
エネ200		エネルギー環境工学実験Ⅰ	1	○	知能992	情報システム開発演習	2				
エネ202		エネルギー環境工学概論	2	○	機械981	機器構造学	2				
エネ210		熱力学	2	○	機械982	亜熱帯材料学	2				
エネ211		エネルギー変換工学	2		機械983	流体機械学	2				
エネ220		流体工学	2	○	エネ981	エネルギー移動工学	2				
エネ221		応用流体工学	2	選必	エネ982	腐食防食工学	2				
エネ230		環境計測工学	2	○	エネ983	熱機関工学	2				
エネ231		基礎制御工学	2	○	電気981	パワーエレクトロニクス	2				
エネ240		エネルギー材料工学	2		電気984	電気機器	2				
エネ245		金属材料	2	○	電気985	発電工学	2				
エネ250		材料力学	2	○	電情981	電気電子計測工学I	2				
エネ255		応用材料力学	2		電情983	量子力学Ⅰ	2				
エネ260		物理化学	2	○	社基981	プロジェクトマネジメント	2				
エネ261		化学工学	2	○	社基982	維持管理工学	2				
エネ300		エネルギー環境工学実験Ⅱ	1	○	社基983	腐食防食と疲労	2				
エネ301		環境工学	2	○	社基984	減災計画	2				
エネ302		プロジェクトマネジメント	2	○	社基985	環境衛生工学	2				
エネ306		メカトロニクス製作基礎	1		建築982	都市デザイン演習	2				
エネ307		環境教育論	2		建築983	耐震設計概論	2				
エネ308		ものづくり基礎演習	1		建築984	都市および地方計画	2				
エネ315	エネルギー移動工学	2	選必	知能981	ネットワークセキュリティ	2					
エネ316	エネルギー空調工学	2		知能983	知能ロボット	2					
エネ317	熱機関工学	2		知能984	データマイニング	2					

別表(第5条関係)

工学共通科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
工学共通科目	工共100	工学基礎演習	2	2-0	1	前	高校から大学への環境変化に伴う自己学習に対する意識改革に加えて、自主性・自律性を高め、専門分野の導入教育により大学で学ぶための素養を身に付ける。	○
	工共101	キャリアデザイン入門	1	1-0	1	前	各コースの専門性や身に付けていくべきスキル、ならびに卒業後の進路に関する概説	○
	工共111	工業数学Ⅰ	2	2-0	1	前	行列、連立一次方程式、行列式、ベクトル、固有値など	○
	工共112	工業数学Ⅱ	2	2-0	1	前又は後	1階常微分方程式、2階の同次線形微分方程式、非同次方程式など	○
	工共114	プログラミングⅠ	2	2-0	1・2	前又は後	変数と代入、式、制御文、関数など	○
	工共118	基礎数学Ⅰ	1	1-0	1	前	初等関数に関する補習や微分積分法の初歩について演習を行う。専門科目を学ぶ上で必須となる数学の基礎を身につける。	
	工共119	基礎数学Ⅱ	1	1-0	1	後	1変数関数の微分積分学の基本的な計算演習を行う。授業では例題の解答、解説を行い、そのあと受講生各自で演習問題に取り組む。専門科目を学ぶ上で必須となる数学の基礎を身につける。	
	工共150	工学概論	2	2-0	1	後	機械、エネルギー環境、電気、電子、建築、社会基盤、情報分野における工学における基礎知識、技術、考え方を解説する。	
	工共211	工業数学Ⅲ	2	2-0	1・2	前又は後	フーリエ級数、フーリエ積分及び変換、偏微分方程式の解法など	○
	工共212	工業数学Ⅳ	2	2-0	2	前又は後	複素数と複素平面、複素数の極形式、複素関数の微分、留数定理、実積分への応用など	
	工共213	確率及び統計	2	2-0	1・2	後	尺度と基本統計量、二項分布、ポアソン分布、一様分布、正規分布、T分布、X ² 分布、点推計・区間推計、仮説検定、適合度検定・独立性検定、回帰分析	○
	工共214	プログラミングⅡ	2	2-0	2・3	前又は後	アルゴリズム、数値解法など	
	工共300	技術者の倫理	2	2-0	1・3	前又は後	社会に対する技術者の責任、社会的倫理、道徳の実践、職業観、職業人としての生き方、自己実現、リーダーシップ、技術者の倫理、情報社会の倫理、会社と社会の関係、チームワークと協調性、日本と国際社会の関係	○
	工共301	キャリアデザイン	2	2-0	3	前又は後	キャリア形成、技術者のキャリア、職業観協働とコミュニケーション-ビジョン共有、自律的行動と協調、コンセンサスと少数意見、コンセンサスとプロセス、自己理解と他者理解、企業活動とスタートアップ、自己表現と自己実現	○
	工共302	エンジニアリングデザイン演習	2	2-0	3	後	班に分かれて協働で課題を設定しそれを解決する能力を養う。課題解決に向けて計画作成と中途の評価・改善を協働で行い、結果を発表する。	○
	工共320	Frontiers of Engineering	2	2-0	3・4	後	英語による様々な工学分野における最近の研究内容等の解説	
	工共321	技術英語Ⅰ	2	2-0	3	前	科学技術分野における英語論文の構成要素(概要、序論、方法、結果、討論/結論)、文法、文章および段落構成	
	工共322	技術英語Ⅱ	2	2-0	3	後	英語による口頭発表やポスター発表のためのプレゼンテーションスキル	
	工共330	地域課題解決実践演習	2	2-0	3・4	後	沖縄の地域課題、課題発見、調査手法と分析手法およびその実践、解決策の立案と検討-網羅性、妥当性、実現可能性協働の実践	

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
工学 共通 科目	工共331	産業社会学原論Ⅰ	2	2-0	3・4	前	社会的技術者、芸術論、企業経営論、人生観、文明論、多面性、ケース学習	
	工共332	産業社会学原論Ⅱ	2	2-0	3・4	後	先駆的起業家、社会的役割、IT、農業、環境	
	工共333	地域創生論	2	2-0	3	前	沖縄21世紀ビジョン基本計画の中において、工学と関連の深い分野に関する各行政施策の基本的な考え方、しくみ、および関連法規を学び、地域創生に資する公共政策論のあり方を学ぶ。	
	工共334	国際協力論	2	2-0	3	前	主に開発途上段階にある大洋州、東南アジア地域等における、国際協力のあり方と現在実施している事例について学ぶ。講義は座学と国際協力の事例に基づいた実践(ワークショップ)による体験型の学びを重視する。	
	工共335	知的財産権	2	2-0	3・4	前又は後	知的財産権における一連の法律群全体を概観した上で、その中でも特に重要な特許法、実用新案法、著作権法、意匠法、商標法等の基礎について解説する。	
	工共336	品質管理	2	2-0	3・4	後	製品やサービス活動における因果関係を理解し、品質管理の概念・実務を管理図法、統計的手法、抜取検査法の講義・演習を通して解析や問題解決能力を養う。	
	工共337	経営工学概論	2	2-0	3・4	後	経営工学、管理事務、生産管理、IE技法、工程管理、工程分析、在庫管理、品質管理、FA化技術、システム信頼性、性能評価	
	工共338	インターンシップⅠ	1		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共339	インターンシップⅡ	1		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共340	インターンシップⅢ	2		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共341	国際インターンシップⅠ	1		3・4		企業・行政・研究機関・大学等において、英語等日本語以外を用いた国際的な業務や専門知識に関わる実習を行う。	
	工共351	工業科教育法A	2	2-0	3	後	教職課程、工業技術教育、工業高等学校教育、教育関連法令、カリキュラム編成、単元計画、学習指導案、授業設計、授業理論、進路指導	
	工共352	工業科教育法B	2	2-0	4	前	教職課程、工業技術教育、工業高等学校教育、教育評価法、教員研修、資格取得、教員製作	
	工共401	卒業研究Ⅰ	3	0-6	4	前又は後	教員の指導のもとに特定テーマや研究計画を設定して研究を行い、研究成果を発表する。	○
	工共402	卒業研究Ⅱ	3	0-6	4	前又は後	教員の指導のもとに特定テーマや研究計画を設定して研究を行い、研究成果を発表する。	○
	工共403	卒業設計または卒業研究Ⅰ	3	0-6	4	前又は後	建築学全般に関する理解を深める。設計実践、設計研究、調査研究または実験的研究および解析的研究に関する理解を深め、設計または研究を遂行する。	
	工共404	卒業設計または卒業研究Ⅱ	3	0-6	4	前又は後	建築学全般に関する理解を深める。設計実践、設計研究、調査研究または実験的研究および解析的研究に関する理解を深め、設計または研究を遂行する。	
	工共405	セミナーⅠ	1	1-0	3・4	前又は後	各コースの専門分野に関する論文講読および討論	
	工共406	セミナーⅡ	1	1-0	3・4	前又は後	各コースの専門分野に関する論文講読および討論	
	工共421	技術英語Ⅲ	2	2-0	4	前	科学技術分野における英語論文のライティング技術と実践	

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
工学共 通科目	工共441	国際インターンシップⅡ	2		3・4		企業・行政・研究機関・大学等において、英語等日本語以外を用いた国際的な業務や専門知識に関わる実習を行う。	
	工共450	職業指導(工業)	2	2-0	4	前	進路指導, 就職指導, 自己実現, 主体的職業選択能力, 職業観, 勤労観, 職業構造, 産業社会, 生涯教育, キャリア教育計画	
	工共451	情報科教育法A	2	2-0	3	後	教職課程, 教科情報, 授業設計, 指導法, 教育観, 学習観, 学習指導要領, 情報活用実践力, プレゼンテーション, 評価方法, 学習指導案, 科学的理解, 模擬授業	
	工共452	情報科教育法B	2	2-0	4	前	教職課程, 教科情報, 授業評価, 生徒評価, ルーブリック, ポートフォリオ, 模擬授業	
	工共453	教職総合演習(情報)	2	2-0	4	前	教職課程, 地域社会, 実践的活動, 教員資質, 教育現場, 教育ボランティア, 社会活動, 連携授業	

別表（第5条関係）

エネルギー環境工学コース

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
コ ー ス 専 門 科 目	エネ101	製図基礎	2	1-3	1	後	JIS機械製図法に基づいた機械製図の基礎	
	エネ102	工業力学	2	2-0	1	後	静力学、質点の運動学、質点及び剛体及び剛体の運動学	○
	エネ103	基礎情報処理	1	2-0	1	後	情報倫理やセキュリティ、コンピュータリテラシーの向上を目的に学習支援ツールの利用法を習得する。	○
	エネ200	エネルギー環境工学実験 I	1	0-2	2	後	講義（座学）で示された理論や事象などに関する基礎実験テーマ群の中から、実験IIとは異なる数テーマを選択してグループ編成で実施	○
	エネ202	エネルギー環境工学概論	2	2-0	2	後	エネルギー工学、環境工学に関連した最新の研究動向	○
	エネ210	熱力学	2	2-0	2	前	熱力学の第一法則、理想流体と状態変化、第二法則、エントロピーとエネルギーの有効利用	○
	エネ211	エネルギー変換工学	2	2-0	2	後	化学反応、燃焼、ガスサイクル、蒸気サイクル、冷凍サイクルと空調	
	エネ220	流体工学	2	2-0	2	前	流体の諸性質と流れの表し方、流体静力学、流れの基礎方程式、流れの相似則、ベルヌーイの式、測定法	○
	エネ221	応用流体工学	2	2-0	2	後	流体によるエネルギー輸送、粘性流体力学、境界層理論、ポテンシャル流れ	選必
	エネ230	環境計測工学	2	2-0	2	後	計測の基礎、力・圧力等の測定、温度・流量等の測定、電気計測の基礎	○
	エネ231	基礎制御工学	2	2-0	2	後	自動制御系の基本構成と制御方式、伝達関数とブロック線図、過渡応答、安定性、PID制御	○
	エネ240	エネルギー材料工学	2	2-0	2	後	物理、化学的視点から循環型社会の構築に必要な光、熱、化学エネルギーと電気エネルギー間のエネルギー変換材料の理解を目的とする	
	エネ245	金属材料	2	2-0	2	前	結晶構造、二元合金状態図、炭素鋼の組織と熱処理、鋳鉄、ステンレス鋼、非鉄金属	○
	エネ250	材料力学	2	2-0	2	前	単軸の応力とひずみ、フックの法則、組合応力、平面問題、熱応力、軸のねじり、曲げモーメント、曲げ応力、静定はりのたわみ	○
	エネ255	応用材料力学	2	2-0	2	後	静定・不静定はりの問題、カスティリアーノの定理、円筒と球の応力と変形、座屈問題	
	エネ260	物理化学	2	2-0	2	前	量子力学基礎、気体の性質、分配関数、状態変化、熱力学法則	○
	エネ261	化学工学	2	2-0	2	前	物質収支、流動、伝熱、物質輸送、プロセス制御、反応工学	○
	エネ300	エネルギー環境工学実験 II	1	0-2	3	前	講義（座学）で示された理論や事象などに関する基礎実験テーマ群の中から、実験Iとは異なる数テーマを選択してグループ編成で実施	○
	エネ301	環境工学	2	2-0	3	後	環境アセスメント、地球温暖化、公害対策、LCA・CO2排出権・売買等	○
	エネ302	プロジェクトマネジメント	2	2-0	1	前	PJマネジメントとは（概要）、PJリーダーとPJマネージャーの違い、PJマネジメントの必要性・重要性	○
	エネ306	メカトロニクス製作基礎	1	2-0	3・4	前	回路設計演習	

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修	
コ ー ス 専 門 科 目	エネ307	環境教育論	2	2-0	3・4	前又は後	環境教育の成立と変遷，環境教育の考え方と手法について理解し，持続可能な社会モデル開発のための環境教育概要について学ぶ	選必	
	エネ308	ものづくり基礎演習	1	1-0	3・4	後	ものづくりに関する基礎演習		
	エネ315	エネルギー移動工学	2	2-0	3・4	前又は後	伝導，対流，放射伝熱の基礎と自然現象，工学機器への応用，定常・非定常熱伝導の理論		
	エネ316	エネルギー空調工学	2	2-0	3・4	前又は後	冷凍・空調の役割，蒸気圧縮冷凍サイクル，吸収冷凍サイクル，空気調和，湿り空気線図と空調プロセス，配管・流動プロセス，空調設計・制御の最適化，（機械系+電気系，配管・流体）		
	エネ317	熱機関工学	2	2-0	3・4	前又は後	内燃機関の概要及び歴史，構造，熱力学の理論と実際，出力と効率，吸・排気系統，ガソリンエンジンとディーゼルエンジン，エンジンと環境問題		
	エネ318	蒸気工学	2	2-0	3・4	前又は後	蒸気原動機概説，ボイラ，燃料と燃焼装置，伝熱装置，蒸気タービン概要，復水装置		
	エネ325	環境流体工学	2	2-0	3・4	前	循環と渦度，速度ポテンシャル，流れ関数，自由表面波，静水圧平衡，ベナール対流，地衡流など		
	エネ326	エネルギー流体機械	2	2-0	3・4	前又は後	ターボ機械の分類，基礎理論，損失および効率，相似則，キャビテーション現象，不安定流動現象，水撃		
	エネ330	機械力学	2	2-0	3	前	1自由度振動系の自由振動と強制振動，多自由度振動系の振動，回転子の振れ回り，連続体の振動		○
	エネ335	数値計算	2	2-0	3・4	前	数値解析，差分法，有限要素法，境界要素法の基礎		選必
	エネ336	環境システム制御工学	2	2-0	3・4	前	制御理論，スマートグリッド（配電制御技術）		
	エネ345	腐食防食工学	2	2-0	3・4	前	腐食防食の基礎，均一腐食，局部腐食，ガルバニック腐食，電位-pH図		
	エネ346	材料加工工学	2	2-0	2・3	前	溶解，塑性及び切削の加工機械による加工法の基礎		
	エネ347	亜熱帯材料学	2	2-0	3・4	前又は後	多糖の基礎と構造，バイオベース材料の高機能化，バイオベース材料の加工・化学修飾		
	エネ353	機械設計法	1	1-0	3	後	材料力学，材料学，機械要素設計学などに基づく，機械の形状・寸法決めと強度計算方法，設計書の書き方に関する演習		
	エネ354	機械製作図	1	1-0	3	後	3次元CADの概念と機能，操作方法の習得と機械部品の製図，3Dプリンターによる工作に関する演習		
	エネ355	システム要素設計学	2	2-0	3・4	前	エネルギーを伝える基本的要素（ネジ，軸，軸受，歯車，ベルト車等）の設計		
	エネ356	メカニカルCAD	1	2-0	3・4	前	3次元CADの概念，機能とモデリング，アセンブリ，データ変換と活用		
	エネ358	機械設計技術演習	1	1-0	3・4	後	機械に関する設計演習		
	エネ365	分離工学	1	1-0	3	前	平衡分離と速度差分離，分離に使用する材料，相平衡，移動現象論	選必	
エネ366	水素エネルギー工学	1	1-0	3	前	水素エネルギーの製造方法・輸送方法・利用方法に関する物理化学現象と技術	選必		
エネ405	プロジェクトマネジメント演習	1	2-0	4	前	PJマネジメント事例および課題発見・研究開発PJ提案			

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
コ ー ス 専 門 科 目	エネ406	エネルギー環境工学プロジェクト演習基礎	2	2-0	4	前	エネルギー利用（電気，熱）効率・管理問題に対して，創造的に行うオープンエンドなプロセスを通じてエンジニアリングデザインを学習する。	
	エネ407	環境経済学	2	2-0	3・4	前又は後	環境税や排出権取引制度，廃棄物対策等，環境政策の評価と経済の関係	
	エネ455	機構学	2	2-0	3・4	後	エネルギーを伝える剛体の運動，基本機構（リンク，カム，摩擦車，歯車，ベルト伝動），平面機構の運動解析	
	エネ471	エネルギー環境工学特別講義Ⅰ	2	2-0	2・3・4	前又は後	エネルギー環境工学の特定分野に関する講義	
	エネ472	エネルギー環境工学特別講義Ⅱ	2	2-0	2・3・4	前又は後	〃	
	エネ473	エネルギー環境工学特別講義Ⅲ	2	2-0	2・3・4	前又は後	〃	
	エネ474	エネルギー環境工学特別講義Ⅳ	2	2-0	2・3・4	前又は後	〃	
	エネ475	エネルギー環境工学特別講義Ⅴ	2	2-0	2・3・4	前又は後	〃	
	エネ476	エネルギー環境工学特別講義Ⅵ	2	2-0	2・3・4	前又は後	〃	
	エネ481	エネルギー環境工学特別講義A	1	1-0	2・3・4	前又は後	〃	
	エネ482	エネルギー環境工学特別講義B	1	1-0	2・3・4	前又は後	〃	
	エネ483	エネルギー環境工学特別講義C	1	1-0	2・3・4	前又は後	〃	
	エネ484	エネルギー環境工学特別講義D	1	1-0	2・3・4	前又は後	〃	
	エネ485	エネルギー環境工学特別講義E	1	1-0	2・3・4	前又は後	〃	
	エネ486	エネルギー環境工学特別講義F	1	1-0	2・3・4	前又は後	〃	

別表(第5条関係)

工学融合科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
工学融合科目(導入科目)	機械991	材料生産工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	材料力学及び機械要素設計の基礎、機械材料及び材料加工学の基礎
	機械992	熱流体工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	流体力学及び流体機械学の基礎、熱力学及び伝熱工学の基礎
	エネ991	エネルギー変換工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	燃焼、蒸気サイクル、冷凍サイクルと空気調和の基礎および伝導、対流、放射伝熱の基礎
	エネ992	環境エネルギー工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	地球環境、環境アセスメント、省エネルギー技術、再生可能エネルギー
	電気991	電気電子工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	電気工学、電子工学、情報通信工学に関する基礎について学ぶ
	電気992	メカトロニクス	2	2-0	3・4	前又は後	メカトロニクスに関わるセンサ、アクチュエータ、サーボモータ、制御システム
	電情991	電気電子工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	電気工学、電子工学、情報通信工学に関する基礎について学ぶ
	電情992	通信工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	有線通信および無線通信に関する基礎について学ぶ
	社基991	基礎流体力学	2	2-0	3・4	後	相対性原理と運動法則の成立、流体力学と自然の中の流れ、流体力学の基礎理論、流体力学の定理、定理と応用、流体の数値計算
	社基992	橋設計論	2	2-0	3・4	前	橋の歴史、橋の構造形式及びその力学的意味と特性
	社基994	道路交通計画	2	2-0	3・4	前	道路工学基礎、道路構造令、舗装、交通調査概論、四段階推定法、交通需要マネジメント
	社基997	都市地域計画	2	2-0	3・4	後	都市の歴史と都市計画の理論と制度の仕組み(規制・誘導・事業)について学ぶ。また、これまでの日本の国土計画の流れとこれからの地域計画の方向性についての知識を習得する。
	社基998	岩盤工学	2	2-0	3・4	後	地殻の構成、岩の力学的特性、破壊・風化メカニズム、海底鉱物資源の種類や採掘法等の各問題に関して、力学的・数理的な解析手法を説明し、実務への展開法について講述する。
	建築991	居住建築概論	2	2-0	3・4	前又は後	住宅をはじめとする人間の居住を支える建築について、建築学に関わる幅広い視点から総合的に学ぶ。
	知能991	コンピュータサイエンス基礎	2	2-0	3・4	前又は後	コンピュータの仕組み、アルゴリズム、プログラミングの解説と演習を通して、コンピュータサイエンスの基礎を習得する。
	知能992	情報システム開発演習	2	2-0	3・4	前又は後	AI機械学習やwebアプリケーション等に関する情報システムの設計とプログラム開発の基礎をチーム演習を通して習得する。

別表(第5条関係)

工学融合科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
工学融合科目 (選択科目)	機械981	機器構造学	2	2-0	3・4	前又は後	機械構造物の例としての航空機などの構造に関する基礎的な理論, 構造力学の基礎
	機械982	亜熱帯材料学	2	2-0	3・4	前又は後	多糖の基礎と構造, バイオベース材料の高機能化, バイオベース材料の加工・化学修飾
	機械983	流体機械学	2	2-0	3・4	前	ターボ機械の分類, 基礎理論, 損失および効率, 相似則, キャビテーション現象, 不安定流動現象, 水撃
	エネ981	エネルギー移動工学	2	2-0	3・4	前又は後	伝導, 対流, 放射伝熱の基礎と自然現象, 工学機器への応用, 定常・非定常熱伝導の理論
	エネ982	腐食防食工学	2	2-0	3・4	前	材料表面性と表面処理, 腐食, 防食の理論と応用
	エネ983	熱機関工学	2	2-0	3・4	前又は後	内燃機関の概要及び歴史, 構造, 熱力学の理論と実際, 出力と効率, 吸・排気系統, ガソリンエンジンとディーゼルエンジン, エンジンと環境問題
	電気981	パワーエレクトロニクス	2	2-0	3・4	後	電力用半導体デバイス, スイッチングデバイス, サイリスタコンバータ, DC/DCコンバータ, スイッチングレギュレータ, インバータ, インバータによる交流電動機の制御
	電気984	電気機器	2	2-0	3・4	前	電気-機械エネルギー変換の基礎, 直流機および変圧器の原理・構造・特性, 制御, 同期機, 誘導機, 整流子機の原理・構造・特性, 制御
	電気985	発電工学	2	2-0	3・4	後	水力発電, 火力発電および原子力発電の原理・構成・特性, 自然エネルギーの利用と発電方式
	電情981	電気電子計測工学I	2	2-0	3・4	前	測定方式, 測定値の処理, 電圧・電流・電力及び回路素子の特性測定法
	電情983	量子力学 I	2	2-0	3・4	前	古典力学の限界と量子力学の誕生, 量子力学の基礎, 自由粒子, 井戸型ポテンシャルと量子井戸, トンネル効果
	社基981	プロジェクトマネジメント	2	2-0	3・4	後	施工管理法(施工計画, 工程管理, 品質管理, 安全管理), 土木施工技術
	社基982	維持管理工学	2	2-0	3・4	後	構造物の機能・性能とメンテナンスの基本, 構造物の劣化現象, 構造物の点検方法および劣化予測・評価の方法, 補修・補強の方法
	社基983	腐食防食と疲労	2	2-0	3・4	後	橋梁, 港湾施設, 発電所施設の維持管理工学概論, 鋼材の腐食メカニズム及び防食メカニズム, 鋼構造の疲労メカニズム及び疲労強度設計
	社基984	減災計画	2	2-0	3・4	後	災害概論, リスクコミュニケーション, 地域防災計画, 地区防災計画, 学校危機管理, 防災教育, 減災計画方法論
	社基985	環境衛生工学	2	2-0	3・4	後	安全で衛生的な生活環境を支える社会基盤にはどのようなものがあるか, また, 人間の活動が地球環境に及ぼす影響について解説し, 持続可能な社会の実現のために必要な技術者としての知識と倫理観について学ぶ。
	建築982	都市デザイン演習	2	3-0	3・4	前	都市デザイン, 地区デザイン, 景観デザインに関する計画・設計の演習を行う。
	建築983	耐震設計概論	2	2-0	3・4	後	地震荷重と耐震設計法, 耐震診断, 耐震補強・補修法など耐震設計の基礎を紹介する。
	建築984	都市および地方計画	2	2-0	3・4	隔年前期	都市および地方計画の調査, 立案, 実施に必要とされる法制度体系を理解し, 実際の計画事例を学ぶ
	知能981	ネットワークセキュリティ	2	2-0	3・4	後	情報セキュリティの仕組み, 攻撃, ファジング, ポリシーと運用, 脅威分析モデル等に関するスキル
知能983	知能ロボット	2	2-0	3・4	後	ロボットの歴史と基本概念, ロボットハードウェアの要素技術, ロボットモーション, ロボットパーセプション, ロボットインテリジェンス	
知能984	データマイニング	2	2-0	3・4	前	機械学習, 統計, 集合知, Webインテリジェンス, 統計, 可視化, パターン抽出, 評価	

卒業要件(エネルギー環境工学コース)

1. 共通教育

教養領域

健康運動系科目 ----- 2 単位以上

人文系科目 ----- 2 単位以上

社会系科目 ----- 2 単位以上

自然系科目 ----- 14 単位以上

総合領域

総合科目 ----- 2 単位以上

キャリア関係科目 ----- 2 単位以上

琉大特色・地域創生科目 ----- 2 単位以上

基幹領域

情報関係科目 (日本語表現法入門) ----- 2 単位

外国語科目 「大学英語」を含む英語 ----- 8 単位以上

英語以外の一外国語 ----- 4 単位以上

又は、

「大学英語」を含む英語 ----- 12 単位以上

※1

30 単位以上
※2

2. 専門基礎教育

専門基礎科目 (先修科目)

(微分積分学ST I, 同 II, 物理学 I, 同 II, 物理学実験, 化学入門 I, 同 II, 化学実験) ----- 14 単位以上
※3

3. 専門教育

専門科目

(必修)

工学共通科目 ----- 25 単位

コース専門科目 ----- 29 単位

54 単位

(選択必修)*4

コース専門科目 ----- 8 単位

86 単位以上

(選択)

工学共通科目 ----- 20 単位以上

コース専門科目 ----- 20 単位以上

工学融合科目 ----- 4 単位以上

※8

24 単位以上

合計 130 単位以上

※1 合計14単位以上(ただし、人文系、社会系、総合、キャリア関係、琉大特色・地域創生科目で合計12単位以上)。

人文・社会系科目及び総合領域の指定単位以外にこれらの領域から8単位以上を自由選択する。ただし、自然系から2単位まで含めることができる。

※2 情報科学演習は卒業要件の単位に含めない。

※3 高等学校で微分・積分、物理の教科を履修していない学生は、指導教員の認定により転換科目中の微分積分学入門 I, 同 II, 物理学入門 I, 同 II を履修し、それらの単位を先修科目中のそれぞれ対応する微分積分学ST I, 同 II, 物理学 I, 同 II に読み替えることができる。

※4 単位が8単位を超えた場合、その超えた単位数を選択科目単位とみなすことができる。

※5 基礎数学 I, 同 II は卒業要件の単位に含めない。

※6 他コース専門科目から修得した単位は6単位まで選択科目として卒業単位に含めることができる。ただし、同じ内容の科目の重複は認められない。

※7 「(全教412) 教職実践演習(高)」については、専門科目の選択科目として卒業単位に含めることができる。

※8 機械工学コースを除く1つのコースの工学融合科目から4単位以上を履修する。

※9 外国人学生の場合には、琉球大学共通教育等履修規程第8条により次の特例を認める。

(1) 共通教育の人文系、社会系、自然系、総合、キャリア関係、琉大特色・地域創生科目のうち4単位まで、日本事情科目で読み替えることができる。

(2) 英語以外の一つの外国語(4単位以上)を日本語科目で読み替えることができる。

GE プログラムとして修得すべき科目リスト

エネルギー環境工学コース(材料物質工学プログラム・熱流体工学プログラム
・知能機械システムプログラム)

科目番号	科目名	単位数
工共 321	技術英語 I	2
工共 322	技術英語 II	2
工共 421	技術英語 III	2
工共 333	地域創生論	2
工共 334	国際協力論	2
工共 336	品質管理	2
エネ 405	プロジェクトマネジメント演習	1
工共 338	インターンシップ I	1
工共 339	インターンシップ II	1
工共 340	インターンシップ III	2
工共 341	国際インターンシップ I	1
工共 441	国際インターンシップ II	2
※ESCM11030	インターンシップ I	1
※ESCM12010	インターンシップ II	1
※ESCM11040	インターンシップ III	2
※ESCM12020	インターンシップ IV	2
※ESCM11020	国際インターンシップ I	2
※ESCM13010	国際インターンシップ II	2

いずれか、
1 科目以上

※は大学院授業科目

教育分野	1年次		2年次		3年次		4年次		総単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通教育	健康運動 選 2								2 (2.0)	
	教養領域1 選 2	総合領域1 選 2	総合領域2 選 2	教養領域2 選 2	教養領域3 選 2	教養領域4 選 2	総合領域3 選 2		14 (14.0)	
	日本語表現法入門 必 2									2 (2.0)
	大学英语 必 4	英語科目1 選 2	英語科目2 選 2	第2外国語I 選 2	第2外国語II 選 2					12 (12.0)
専門基礎	微分積分学ST I 必 2	微分積分学ST II 必 2							14 (14.0)	
	微分積分学入門 I 選 2	微分積分学入門 II 選 2								
工学共通科目	物理学 I 必 2	物理学 II 必 2							32 (25.0)	
	物理学入門 I 選 2	物理学入門 II 選 2								
	化学 I 選 2	化学 II 選 2								
	化学入門 I 必 2	化学入門 II 必 2								
	物理学実験 必 1	化学実験 必 1								
	キャリアデザイン入門 必 1									
	工学基礎演習 必 2									
	工業数学 I 必 2	工業数学 II 必 2	工業数学 III 必 2	工業数学 IV 選 2	インターンシップ I 選 1 GE	キャリアデザイン 必 2	知的財産権 選 2	地域課題解決実践演習 選 2		
	基礎数学 I 選 1	基礎数学 II 選 1		確率及び統計 必 2	インターンシップ II 選 GE 1	エンジニアリングデザイン演習 必 2	産業社会学原論 I 選 2	産業社会学原論 II 選 2		
		工学概論 選 2		プログラミング I 必 2	インターンシップ III 選 GE 2	技術者の倫理 必 2	国際インターンシップ I 選 GE 1	Frontiers of Engineering 選 2		
				地域創生論 ^{※1} 選 GE 2		国際インターンシップ II 選 GE 2	経営工学概論 選 2			
				国際協力論 ^{※1} 選 GE 2		技術英語 III (記述応用) 選 GE 2	セミナー I 選 1			
				技術英語 I (記述基礎) 選 GE 2	技術英語 II (プレゼン) 選 GE 2	卒業研究 I 必 3	卒業研究 II 必 3			
				プログラミング II 選 2	品質管理 選 2 GE	職業指導 選 2	教職実践演習(工) 選 2			
					工業科教育法A 選 2	工業科教育法B 選 2				
コース専門科目					流体工学 必 2	応用流体工学 選 2	環境流体工学 選 2		50 (29.0)	
			熱力学 必 2	エネルギー変換工学 選 2	エネルギー流体機械 選 2	エネルギー移動工学 選 2	エネルギー空調工学 選 2			
			材料力学 必 2	応用材料力学 選 2	システム要素設計学 選 2	蒸気工学 選 2	熱機関工学 選 2			
			金属材料 必 2	エネルギー材料工学 選 2	腐食防食工学 選 2	環境システム制御工学 選 2	機構学 選 2			
			材料加工学 選 2	基礎制御工学 必 2	分離工学 選 1	環境工学 必 2	環境教育論 選 2	重熱帯材料学 選 2		
			化学工学 必 2	環境計測工学 必 2	本素エネルギー工学 選 1	環境工学 必 2	環境経済学 選 2			
			物理化学 必 2		機械力学 必 2	環境工学 選 2	環境工学 選 2			
			基礎情報処理 必 1		数値計算 選 2	環境工学 選 2	環境工学 選 2			
			製図基礎 選 2		メカニカルCAD 選 1	環境工学 選 2	環境工学 選 2			
			工業力学 必 2		エネルギー環境工学実験 I 必 1	環境工学 選 2	環境工学 選 2			
		プロジェクトマネジメント 必 2		エネルギー環境工学実験 II 必 1	環境工学 選 2	環境工学 選 2				
工学融合科目					メカトロニクス製作基礎 選 1	環境工学 選 2	環境工学 選 2		4 (0.0)	
					工学融合導入科目 選 2	工学融合科目 選 2	工学融合科目 選 2			
総単位数 ^{※2}	20 (18.0)	20 (14.0)	20 (12.0)	19 (13.0)	19 ^{※1} (3.0)	20 ^{※1} (8.0)	9 (3.0)	3 (3.0)	130 (74.0)	
備考	<p>□ は必修科目、□ は履修モデルとして選択した選択科目を示す。また、枠無し科目は、それ以外の選択科目を示す(総単位数にカウントしていない)。</p> <p>□ は、GE指定科目、一般は選択科目を示す。※1 集中講義(地域創生論(2単位)、国際協力論(2単位))を含むことがある。</p> <p>※2 総単位数の下にある()内の数字は必修科目(共通教育含む)の単位数を表す。卒業要件の130単位を満たすためには、必修科目の総単位数101単位以外に専門選択科目29単位(工学融合科目含む)を取得する必要がある。なお、共通教育科目・専門選択科目については履修方法の一例を示している。</p>									

電気システム工学コース

•授業科目分類表	1
•教育課程(授業内容)	2
•卒業要件	10
•GE科目リスト	11
•履修モデル	12

別表(第5条関係)

電気システム工学コース

1. 提供科目

①授業科目分類表

※工学融合科目について、自コースおよび電子情報通信コースが提供している科目を履修登録することはできない。

分類	科目番号	授業科目名	単位数	必修	分類	科目番号	授業科目名	単位数	必修
工学共通科目	工共100	工学基礎演習	2	○	工学融合科目(導入科目)	電気310	制御工学	2	選必修
	工共101	キャリアデザイン入門	1	○		電気311	デジタル制御	2	
	工共111	工業数学I	2	○		電気327	電気電子材料	2	
	工共112	工業数学II	2	○		電気328	パワーエレクトロニクス	2	
	工共114	プログラミングI	2	○		電気336	発電工学	2	
	工共118	基礎数学 I	1	○		電気337	電力工学	2	
	工共119	基礎数学 II	1	○		電気338	電気機器	2	
	工共150	工学概論	2	○		電気350	システム工学	2	
	工共211	工業数学III	2	○		電気400	電力工学実験	2	
	工共212	工業数学IV	2	○		電気401	電子情報通信実験	2	
	工共213	確率及び統計	2	○		電気410	生体計測工学	2	
	工共214	プログラミングII	2	○		電気430	電気機器設計製図	2	
	工共300	技術者の倫理	2	○		電気431	電力系統工学	2	
	工共301	キャリアデザイン	2	○		電気432	電気法規及び施設管理	1	
	工共302	エンジニアリングデザイン演習	2	○		電気450	メカトロニクス	2	
	工共320	Frontiers of Engineering	2	○		電気452	デジタル信号およびフィルタ	2	
	工共321	技術英語 I	2	○		電気453	組込み設計	2	
	工共322	技術英語 II	2	○		電気490	電気システム工学特別講義 I	2	
	工共330	地域課題解決実践演習	2	○		電気491	電気システム工学特別講義 II	2	
	工共331	産業社会学原論 I	2	○		電気492	電気システム工学特別講義 III	2	
	工共332	産業社会学原論 II	2	○		電気493	電気システム工学特別講義 IV	2	
	工共333	地域創生論	2	○		電気494	電気システム工学特別講義 V	2	
	工共334	国際協力論	2	○		電気495	電気システム工学特別講義 VI	2	
	工共335	知的財産権	2	○		機械991	材料生産工学概論	2	
	工共336	品質管理	2	○		機械992	熱流体工学概論	2	
	工共337	経営工学概論	2	○		エネ991	エネルギー変換工学基礎	2	
	工共338	インターンシップI	1	○		エネ992	環境エネルギー工学概論	2	
	工共339	インターンシップII	1	○		電気991	電気電子工学基礎	2	
	工共340	インターンシップIII	2	○		電気992	メカトロニクス	2	
	工共341	国際インターンシップ I	1	○		電情991	電気電子工学基礎	2	
	工共351	工業科教育法A	2	○		電情992	通信工学概論	2	
	工共352	工業科教育法B	2	○		社基991	基礎流体力学	2	
	工共401	卒業研究 I	3	選必修		社基992	橋設計論	2	
	工共402	卒業研究 II	3	選必修		社基994	道路交通計画	2	
	工共403	卒業設計または卒業研究 I	3	選必修		社基997	都市地域計画	2	
	工共404	卒業設計または卒業研究 II	3	選必修		社基998	岩盤工学	2	
	工共405	セミナーI	1	選必修		建築991	居住建築概論	2	
	工共406	セミナーII	1	選必修		知能991	コンピュータサイエンス基礎	2	
	工共407	卒業研究	6	選必修		知能992	情報システム開発演習	2	
	工共408	セミナー	2	選必修		機械981	機器構造学	2	
	工共421	技術英語 III	2	○		機械982	亜熱帯材料学	2	
	工共441	国際インターンシップ II	2	○		機械983	流体機械学	2	
	工共450	職業指導(工業)	2	○		エネ981	エネルギー移動工学	2	
	工共451	情報科教育法A	2	○		エネ982	腐食防食工学	2	
	工共452	情報科教育法B	2	○		エネ983	熱機関工学	2	
工共453	教職総合演習(情報)	2	○	電気981	パワーエレクトロニクス	2			
コース専門科目	電気100	エンジニアリングデザイン基礎	1	○	電気984	電気機器	2		
	電気101	ベクトル解析	2	○	電気985	発電工学	2		
	電気102	電磁気学 I	2	○	電情981	電気電子計測工学I	2		
	電気103	回路理論 I	2	○	電情983	量子力学 I	2		
	電気200	電磁気学 II	2	○	社基981	プロジェクトマネジメント	2		
	電気201	電磁気学 III	2	○	社基982	維持管理工学	2		
	電気202	電磁気学 IV	2	○	社基983	腐食防食と疲労	2		
	電気203	回路理論 II	2	○	社基984	減災計画	2		
	電気204	回路理論 III	2	○	社基985	環境衛生工学	2		
	電気205	回路理論 IV	2	○	建築982	都市デザイン演習	2		
	電気206	電気電子計測工学 I	2	○	建築983	耐震設計概論	2		
	電気207	電気電子計測工学 II	2	○	建築984	都市および地方計画	2		
	電気208	電子回路基礎	2	○	知能981	ネットワークセキュリティ	2		
	電気209	電気電子基礎実験	2	○	知能983	知能ロボット	2		
	電気300	電気電子応用実験	2	○	知能984	データマイニング	2		
	電気301	情報数学	2	○					
	電気302	パルス・デジタル回路	2	○					
	電気303	数値解析	2	○					

別表(第5条関係)

工学共通科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
工学共通科目	工共100	工学基礎演習	2	2-0	1	前	高校から大学への環境変化に伴う自己学習に対する意識改革に加えて、自主性・自律性を高め、専門分野の導入教育により大学で学ぶための素養を身に付ける。	○
	工共101	キャリアデザイン入門	1	1-0	1	前	各コースの専門性や身に付けていくべきスキル、ならびに卒業後の進路に関する概説	○
	工共111	工業数学Ⅰ	2	2-0	1	前	行列、連立一次方程式、行列式、ベクトル、固有値など	○
	工共112	工業数学Ⅱ	2	2-0	1	前又は後	1階常微分方程式、2階の同次線形微分方程式、非同次方程式など	○
	工共114	プログラミングⅠ	2	2-0	1・2	前又は後	変数と代入、式、制御文、関数など	○
	工共118	基礎数学Ⅰ	1	1-0	1	前	初等関数に関する補習や微分積分法の初歩について演習を行う。専門科目を学ぶ上で必須となる数学の基礎を身につける。	○
	工共119	基礎数学Ⅱ	1	1-0	1	後	1変数関数の微分積分学の基本的な計算演習を行う。授業では例題の解答、解説を行い、そのあと受講生各自で演習問題に取り組む。専門科目を学ぶ上で必須となる数学の基礎を身につける。	○
	工共150	工学概論	2	2-0	1	後	機械、エネルギー環境、電気、電子、建築、社会基盤、情報分野における工学における基礎知識、技術、考え方を解説する。	○
	工共211	工業数学Ⅲ	2	2-0	1・2	前又は後	フーリエ級数、フーリエ積分及び変換、偏微分方程式の解法など	○
	工共212	工業数学Ⅳ	2	2-0	2	前又は後	複素数と複素平面、複素数の極形式、複素関数の微分、留数定理、実積分への応用など	○
	工共213	確率及び統計	2	2-0	1・2	後	尺度と基本統計量、二項分布、ポアソン分布、一様分布、正規分布、T分布、X ² 分布、点推計・区間推計、仮説検定、適合度検定・独立性検定、回帰分析	○
	工共214	プログラミングⅡ	2	2-0	2・3	前又は後	アルゴリズム、数値解法など	○
	工共300	技術者の倫理	2	2-0	1・3	前又は後	社会に対する技術者の責任、社会的倫理、道徳の実践、職業観、職業人としての生き方、自己実現、リーダーシップ、技術者の倫理、情報社会の倫理、会社と社会の関係、チームワークと協調性、日本と国際社会の関係	○
	工共301	キャリアデザイン	2	2-0	3	前又は後	キャリア形成、技術者のキャリア、職業観協働とコミュニケーション・ビジョン共有、自律的行動と協調、コンセンサスと少数意見、コンセンサスとプロセス、自己理解と他者理解、企業活動とスタートアップ、自己表現と自己実現	○
	工共302	エンジニアリングデザイン演習	2	2-0	3	後	班に分かれて協働で課題を設定しそれを解決する能力を養う。課題解決に向けて計画作成と中途の評価・改善を協働で行い、結果を発表する。	○
	工共320	Frontiers of Engineering	2	2-0	3・4	後	英語による様々な工学分野における最近の研究内容等の解説	○
	工共321	技術英語Ⅰ	2	2-0	3	前	科学技術分野における英語論文の構成要素(概要、序論、方法、結果、討論/結論)、文法、文章および段落構成	○
	工共322	技術英語Ⅱ	2	2-0	3	後	英語による口頭発表やポスター発表のためのプレゼンテーションスキル	○
工共330	地域課題解決実践演習	2	2-0	3・4	後	沖縄の地域課題、課題発見、調査手法と分析手法およびその実践、解決策の立案と検討-網羅性、妥当性、実現可能性協働の実践	○	

別表(第5条関係)

工学共通科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
工学 共通 科目	工共331	産業社会学原論Ⅰ	2	2-0	3・4	前	社会的技術者、芸術論、企業経営論、人生観、文明論、多面性、ケース学習	
	工共332	産業社会学原論Ⅱ	2	2-0	3・4	後	先駆的起業家、社会的役割、IT、農業、環境	
	工共333	地域創生論	2	2-0	3	前	沖縄21世紀ビジョン基本計画の中において、工学と関連の深い分野に関する各行政施策の基本的な考え方、しくみ、および関連法規を学び、地域創生に資する公共政策論のあり方を学ぶ。	
	工共334	国際協力論	2	2-0	3	前	主に開発途上段階にある大洋州、東南アジア地域等における、国際協力のあり方と現在実施している事例について学ぶ。講義は座学と国際協力の事例に基づいた実践(ワークショップ)による体験型の学びを重視する。	
	工共335	知的財産権	2	2-0	3・4	前又は後	知的財産権における一連の法律群全体を概観した上で、その中でも特に重要な特許法、実用新案法、著作権法、意匠法、商標法等の基礎について解説する。	
	工共336	品質管理	2	2-0	3・4	後	製品やサービス活動における因果関係を理解し、品質管理の概念・実務を管理図法、統計的手法、抜取検査法の講義・演習を通して解析や問題解決能力を養う。	
	工共337	経営工学概論	2	2-0	3・4	後	経営工学、管理事務、生産管理、IE技法、工程管理、工程分析、在庫管理、品質管理、FA化技術、システム信頼性、性能評価	
	工共338	インターンシップⅠ	1		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共339	インターンシップⅡ	1		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共340	インターンシップⅢ	2		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共341	国際インターンシップⅠ	1		3・4		企業・行政・研究機関・大学等において、英語等日本語以外を用いた国際的な業務や専門知識に関わる実習を行う。	
	工共351	工業科教育法A	2	2-0	3	後	教職課程、工業技術教育、工業高等学校教育、教育関連法令、カリキュラム編成、単元計画、学習指導案、授業設計、授業理論、進路指導	
	工共352	工業科教育法B	2	2-0	4	前	教職課程、工業技術教育、工業高等学校教育、教育評価法、教員研修、資格取得、教具製作	
	工共401	卒業研究Ⅰ	3	0-6	4	前又は後	教員の指導のもとに特定テーマや研究計画を設定して研究を行い、研究成果を発表する。	
	工共402	卒業研究Ⅱ	3	0-6	4	前又は後	教員の指導のもとに特定テーマや研究計画を設定して研究を行い、研究成果を発表する。	選必
	工共403	卒業設計または卒業研究Ⅰ	3	0-6	4	前又は後	建築学全般に関する理解を深める。設計実践、設計研究、調査研究または実験的研究および解析的研究に関する理解を深め、設計または研究を遂行する。	
	工共404	卒業設計または卒業研究Ⅱ	3	0-6	4	前又は後	建築学全般に関する理解を深める。設計実践、設計研究、調査研究または実験的研究および解析的研究に関する理解を深め、設計または研究を遂行する。	
	工共405	セミナーⅠ	1	1-0	3・4	前又は後	各コースの専門分野に関する論文講読および討論	選必
	工共406	セミナーⅡ	1	1-0	3・4	前又は後	各コースの専門分野に関する論文講読および討論	選必
	工共407	卒業研究	6	0-6	4	通年	教員の指導のもとに特定テーマや研究計画を設定して研究を行い、研究成果を発表する。	選必

別表(第5条関係)

工学共通科目

②教育課程

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
工学 共通 科目	工共408	セミナー	2	1-0	4	通年	各コースの専門分野に関する論文講読および討論	選必
	工共421	技術英語Ⅲ	2	2-0	4	前	科学技術分野における英語論文のライティング技術と実践	
	工共441	国際インターンシップⅡ	2		3・4		企業・行政・研究機関・大学等において、英語等日本語以外を用いた国際的な業務や専門知識に関わる実習を行う。	
	工共450	職業指導(工業)	2	2-0	4	前	進路指導, 就職指導, 自己実現, 主体的職業選択能力, 職業観, 勤労観, 職業構造, 産業社会, 生涯教育, キャリア教育計画	
	工共451	情報科教育法A	2	2-0	3	後	教職課程, 教科情報, 授業設計, 指導法, 教育観, 学習観, 学習指導要領, 情報活用実践力, プレゼンテーション, 評価方法, 学習指導案, 科学的理解, 模擬授業	
	工共452	情報科教育法B	2	2-0	4	前	教職課程, 教科情報, 授業評価, 生徒評価, ルーブリック, ポートフォリオ, 模擬授業	
	工共453	教職総合演習(情報)	2	2-0	4	前	教職課程, 地域社会, 実践的活動, 教員資質, 教育現場, 教育ボランティア, 社会活動, 連携授業	

別表(第5条関係)

電気システム工学コース

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
コース 専門 科目	電気100	エンジニアリングデザイン基礎	1	0-2	1	後	前半は電気電子工作中で使われる部品や基礎的な回路について学び、後半はグループ毎に課題製作を行いプレゼンテーションを行う	○
	電気101	ベクトル解析	2	2-0	1	後	ベクトル解析と力学および電磁気学への応用	○
	電気102	電磁気学Ⅰ	2	1-2	1	後	真空中の静電界（ガウスの法則）、電位と電界の解析（ラプラス方程式、ポアソン方程式）	○
	電気103	回路理論Ⅰ	2	1-2	1	後	直流回路、正弦波交流回路、回路素子、正弦波電圧・電流及び電力のベクトル表示、交流回路の複素計算法	○
	電気200	電磁気学Ⅱ	2	1-2	2	前	導体系、キャパシタンス、誘電体中の電界、定常電流（オームの法則）	○
	電気201	電磁気学Ⅲ	2	1-2	2	前	静磁界、定常電流と磁界（アンペールの法則）、ローレンツ力、磁性体	○
	電気202	電磁気学Ⅳ	2	1-2	2	後	電磁誘導（ファラデーの法則）、インダクタンス、マクスウェル方程式、電磁波	○
	電気203	回路理論Ⅱ	2	1-2	2	前	線形定常交流回路網における回路の方程式等の基礎的事項、一端子対回路、二端子対回路	○
	電気204	回路理論Ⅲ	2	1-2	2	後	過渡現象、非正弦波交流回路	○
	電気205	回路理論Ⅳ	2	1-2	2	後	三相交流回路、平衡回路、不平衡回路、分布定数回路	○
	電気206	電気電子計測工学Ⅰ	2	2-0	2	前	測定方式、測定値の処理、電圧・電流・電力及び回路素子の特性測定法	○
	電気207	電気電子計測工学Ⅱ	2	2-0	2	後	周波数測定、磁気測定、波形測定、光計測および計測応用	○
	電気208	電子回路基礎	2	2-0	2	後	電子回路の基礎、増幅回路の基礎、基本増幅回路、負帰還増幅回路、演算増幅器（トランジスタ回路）、発振回路	○
	電気209	電気電子基礎実験	2	0-4.5	2	後	電圧・電流計、表計算ソフトウェアによる最小二乗法と誤差解析、単相・三相交流量の測定、CR回路、数値解析によるCR回路の解析、磁気測定、直流電動機の実験、ダイオードの静特性および整流特性測定、RLC回路、トランジスタの静特性、実験機器使用法	○
	電気300	電気電子応用実験	2	0-4.5	3	前	単相変圧器の三相結線、三相誘導電動機の実験、直流チョップパの基本回路、直流チョップパの特性解析、デジタル基本回路、順序回路、薄膜形成技術の基礎、薄膜の電気抵抗率測定、アクティブフィルタ、発振回路、ホール効果、トランジスタ増幅回路、CMOS論理回路	○
	電気301	情報数学	2	2-0	3	前	群論、束と関係、一階述語論理、代数、グラフ理論、整数論、オートマン、形式言語、ベトリネット	○
	電気302	パルス・デジタル回路	2	2-0	3	前	パルス波形操作回路、パルス発生回路、トランジスタとデジタル回路、デジタル回路の応用（シュミット回路、比較回路、計数回路、AD/DA変換回路）	○
	電気303	数値解析	2	2-0	3	後	方程式の根、連立1次方程式、補間法、関数の近似、数値積分、常微分方程式、偏微分方程式、固有値問題	○

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
コース専門科目	電気310	制御工学	2	2-0	3	前	伝達関数, ブロック線図, 過渡応答法, 周波数応答法, 安定判別, 安定度, ボード線図	
	電気311	デジタル制御	2	2-0	3	後	デジタル制御システムの構成, 連続時間システムの離散化, デジタル制御システムの安定性, デジタルシステムの制御系設計	
	電気327	電気電子材料	2	2-0	3	前	結晶構造, 欠陥, 結晶組織, 合金, 状態図, 導電材料, 抵抗材料, 誘電・絶縁材料, 磁性材料	
	電気328	パワーエレクトロニクス	2	2-0	3	後	電力用半導体デバイス, スイッチングデバイス, サイリスタコンバータ, DC/DCコンバータ, スイッチングレギュレータ, インバータ, インバータによる交流電動機の制御	
	電気336	発電工学	2	2-0	3	後	水力発電, 火力発電および原子力発電の原理・構成・特性, 自然エネルギーの利用と発電方式	
	電気337	電力工学	2	2-0	3	前	電力伝送の理論及び技術, 送配電線路の保護方式, コロナ, グロー, アーク放電などのプラズマ物理学の基礎, 気体, 液体, 固体の絶縁破壊, 高電圧の応用, 変電技術および変電設備	
	電気338	電気機器	2	2-0	3	前	電気-機械エネルギー変換の基礎, 直流機および変圧器の原理・構造・特性, 制御, 同期機, 誘導機, 整流子機の原理・構造・特性, 制御	
	電気350	システム工学	2	2-0	3	前	状態方程式, 安定性, 可制御性, 可観測性, 状態観測器, 最適レギュレータの設計	
	電気400	電力工学実験	2	0-4.5	4	前	三相同期発電機の特長, シンクロ電機(セルシン)とシンクロサーボ機構の特長, 低気圧中での放電, 並列インバータの動作特性, モータ制御(三相PWMインバータの制御法), モータ制御(マイクロコンピュータを使った制御プログラム), モータ制御(三相PWMインバータによる電動機駆動), シーケンス制御(基本回路), シーケンス制御(応用回路), 三相同期電動機の始動法, 三相同期発電機の特長並行運転, 絶縁材料の絶縁破壊試験, 衝撃電圧発生装置の取扱法, 直流電動機の手動制御システム	選必修
	電気401	電子情報通信実験	2	0-4.5	4	前	発光ダイオードとルミネッセンスの測定, 半導体の熱電効果, デジタルフィルタ, マイクロ波の原理, マイクロ波に関する測定実験, 直流通電圧回路の原理と回路, 直流通電圧回路の製作と特性測定, PN接合の作成, PN接合の評価, 移動ロボットの開発環境とセンサ及び駆動装置, 移動ロボットのプログラミング, 移動ロボットによる迷路脱出プログラムの作成, 移動ロボットの性能評価	選必修
	電気410	生体計測工学	2	2-0	4	前	生体センサ, 生体計測システム, 生体計測に関連する電子回路技術	
	電気430	電気機器設計製図	2	2-0	4	後	電気材料, 冷却方式, 磁気回路, 出力方式, JIS製図法	
	電気431	電力系統工学	2	2-0	4	前	電力系統の運用, 計画, 電力潮流計算, 電力系統の制御, 経済運用, 電力系統の状態推定	
	電気432	電気法規及び施設管理	1	1-0	4	前	電気法規の体系, 電気事業法, 電気設備技術基準, 電気施設管理, 電気工事法	
	電気450	メカトロニクス	2	2-0	4	前	メカトロニクスに関わるセンサ, アクチュエータ, サーボモータ, 制御システム	
	電気452	デジタル信号およびフィルタ	2	2-0	4	前	標本化定理, 離散フーリエ変換, FFT, Z変換, デジタルフィルタ, FIRフィルタ, IIRフィルタ	
	電気453	組込み設計	2	2-0	4	前	組込みシステムに関連するハードウェアおよびソフトウェア, 組込みシステムの設計方式	

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
コ ー ス 専 門 科 目	電気490	電気システム工学特別講義Ⅰ	2	2-0	3・4	前又 は後	電気システム工学の各分野における学外の権威者がそ の専門とする領域を講義する	
	電気491	電気システム工学特別講義Ⅱ	2	2-0	3・4	前又 は後	〃	
	電気492	電気システム工学特別講義Ⅲ	2	2-0	3・4	前又 は後	〃	
	電気493	電気システム工学特別講義Ⅳ	2	2-0	3・4	前又 は後	〃	
	電気494	電気システム工学特別講義Ⅴ	2	2-0	3・4	前又 は後	〃	
	電気495	電気システム工学特別講義Ⅵ	2	2-0	3・4	前又 は後	〃	

別表(第5条関係)

工学融合科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
工学融合科目(導入科目)	機械991	材料生産工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	材料力学及び機械要素設計の基礎、機械材料及び材料加工学の基礎
	機械992	熱流体工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	流体力学及び流体機械学の基礎、熱力学及び伝熱工学の基礎
	エネ991	エネルギー変換工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	燃焼、蒸気サイクル、冷凍サイクルと空調和の基礎および伝導、対流、放射伝熱の基礎
	エネ992	環境エネルギー工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	地球環境、環境アセスメント、省エネルギー技術、再生可能エネルギー
	電気991	電気電子工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	電気工学、電子工学、情報通信工学に関する基礎について学ぶ
	電気992	メカトロニクス	2	2-0	3・4	前又は後	メカトロニクスに関わるセンサ、アクチュエータ、サーボモータ、制御システム
	電情991	電気電子工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	電気工学、電子工学、情報通信工学に関する基礎について学ぶ
	電情992	通信工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	有線通信および無線通信に関する基礎について学ぶ
	社基991	基礎流体力学	2	2-0	3・4	後	相対性原理と運動法則の成立、流体力学と自然の中の流れ、流体力学の基礎理論、流体力学の定理、定理と応用、流体の数値計算
	社基992	橋設計論	2	2-0	3・4	前	橋の歴史、橋の構造形式及びその力学的意味と特性
	社基994	道路交通計画	2	2-0	3・4	前	道路工学基礎、道路構造令、舗装、交通調査概論、四段階推定法、交通需要マネジメント
	社基997	都市地域計画	2	2-0	3・4	後	都市の歴史と都市計画の理論と制度の仕組み(規制・誘導・事業)について学ぶ。また、これまでの日本の国土計画の流れとこれからの地域計画の方向性についての知識を習得する。
	社基998	岩盤工学	2	2-0	3・4	後	地殻の構成、岩の力学的特性、破壊・風化メカニズム、海底鉱物資源の種類や採掘法等の各問題に関して、力学的・数理的な解析手法を説明し、実務への展開法について講述する。
	建築991	居住建築概論	2	2-0	3・4	前又は後	住宅をはじめとする人間の居住を支える建築について、建築学に関わる幅広い視点から総合的に学ぶ。
	知能991	コンピュータサイエンス基礎	2	2-0	3・4	前又は後	コンピュータの仕組み、アルゴリズム、プログラミングの解説と演習を通して、コンピュータサイエンスの基礎を習得する。
	知能992	情報システム開発演習	2	2-0	3・4	前又は後	AI機械学習やwebアプリケーション等に関する情報システムの設計とプログラム開発の基礎をチーム演習を通して習得する。

別表(第5条関係)

工学融合科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
工学融合科目 (選択科目)	機械981	機器構造学	2	2-0	3・4	前又は後	機械構造物の例としての航空機などの構造に関する基礎的な理論, 構造力学の基礎
	機械982	亜熱帯材料学	2	2-0	3・4	前又は後	多糖の基礎と構造, バイオベース材料の高機能化, バイオベース材料の加工・化学修飾
	機械983	流体機械学	2	2-0	3・4	前	ターボ機械の分類, 基礎理論, 損失および効率, 相似則, キャビテーション現象, 不安定流動現象, 水撃
	エネ981	エネルギー移動工学	2	2-0	3・4	前又は後	伝導, 対流, 放射伝熱の基礎と自然現象, 工学機器への応用, 定常・非定常熱伝導の理論
	エネ982	腐食防食工学	2	2-0	3・4	前	材料表面性と表面処理, 腐食, 防食の理論と応用
	エネ983	熱機関工学	2	2-0	3・4	前又は後	内燃機関の概要及び歴史, 構造, 熱力学の理論と実際, 出力と効率, 吸・排気系統, ガソリンエンジンとディーゼルエンジン, エンジンと環境問題
	電気981	パワーエレクトロニクス	2	2-0	3・4	後	電力用半導体デバイス, スイッチングデバイス, サイリスタコンバータ, DC/DCコンバータ, スイッチングレギュレータ, インバータ, インバータによる交流電動機の制御
	電気984	電気機器	2	2-0	3・4	前	電気-機械エネルギー変換の基礎, 直流機および変圧器の原理・構造・特性, 制御, 同期機, 誘導機, 整流子機の原理・構造・特性, 制御
	電気985	発電工学	2	2-0	3・4	後	水力発電, 火力発電および原子力発電の原理・構成・特性, 自然エネルギーの利用と発電方式
	電情981	電気電子計測工学I	2	2-0	3・4	前	測定方式, 測定値の処理, 電圧・電流・電力及び回路素子の特性測定法
	電情983	量子力学 I	2	2-0	3・4	前	古典力学の限界と量子力学の誕生, 量子力学の基礎, 自由粒子, 井戸型ポテンシャルと量子井戸, トンネル効果
	社基981	プロジェクトマネジメント	2	2-0	3・4	後	施工管理法(施工計画, 工程管理, 品質管理, 安全管理), 土木施工技術
	社基982	維持管理工学	2	2-0	3・4	後	構造物の機能・性能とメンテナンスの基本, 構造物の劣化現象, 構造物の点検方法および劣化予測・評価の方法, 補修・補強の方法
	社基983	腐食防食と疲労	2	2-0	3・4	後	橋梁, 港湾施設, 発電所施設の維持管理工学概論, 鋼材の腐食メカニズム及び防食メカニズム, 鋼構造の疲労メカニズム及び疲労強度設計
	社基984	減災計画	2	2-0	3・4	後	災害概論, リスクコミュニケーション, 地域防災計画, 地区防災計画, 学校危機管理, 防災教育, 減災計画方法論
	社基985	環境衛生工学	2	2-0	3・4	後	安全で衛生的な生活環境を支える社会基盤にはどのようなものがあるか, また, 人間の活動が地球環境に及ぼす影響について解説し, 持続可能な社会の実現のために必要な技術者としての知識と倫理観について学ぶ。
	建築982	都市デザイン演習	2	3-0	3・4	前	都市デザイン, 地区デザイン, 景観デザインに関する計画・設計の演習を行う。
	建築983	耐震設計概論	2	2-0	3・4	後	地震荷重と耐震設計法, 耐震診断, 耐震補強・補修法など耐震設計の基礎を紹介する。
	建築984	都市および地方計画	2	2-0	3・4	隔年前期	都市および地方計画の調査, 立案, 実施に必要とされる法制度体系を理解し, 実際の計画事例を学ぶ
	知能981	ネットワークセキュリティ	2	2-0	3・4	後	情報セキュリティの仕組み, 攻撃, ファジング, ポリシーと運用, 脅威分析モデル等に関するスキル
知能983	知能ロボット	2	2-0	3・4	後	ロボットの歴史と基本概念, ロボットハードウェアの要素技術, ロボットモーション, ロボットパーセプション, ロボットインテリジェンス	
知能984	データマイニング	2	2-0	3・4	前	機械学習, 統計, 集合知, Webインテリジェンス, 統計, 可視化, パターン抽出, 評価	

卒業要件(電気システム工学コース)

1. 共通教育

教養領域

健康運動系科目	-----	2 単位以上	} 30 単位以上 ※2, 4
人文系科目	-----	2 単位以上	
社会系科目	-----	2 単位以上	
自然系科目	-----	2 単位以上	
総合領域	} 14 単位以上 ※1	} 2 単位以上	
総合科目			
キャリア関係科目			
琉大特色・地域創生科目	-----	2 単位以上	
基幹領域	} 2 単位	} 8 単位以上	
情報関係科目			
外国語科目			「大学英語」, 「英語プレゼンテーション中級」, 「英語講読演習中級」を含む英語 -----
	英語以外の一外国語 -----	4 単位以上	
	又は,	※3	
	「大学英語」, 「英語プレゼンテーション中級」, 「英語講読演習中級」を含む英語 -----	12 単位以上	

2. 専門基礎教育

専門基礎科目 (先修科目)	-----	10 単位以上
	(微分積分学ST I, 同 II, 物理学 I, 物理学実験, 化学入門 I, 化学実験)	

3. 専門教育

専門科目			} 90 単位以上
(必修)			
工学共通科目	-----	20 単位	
コース専門科目	-----	27 単位	
(選択必修)			
工学共通科目			
「卒業研究」	-----	6 単位	
「セミナー」	-----	2 単位	
		※5	
コース専門科目			
「電力工学実験」又は「電子情報通信実験」	-----	2 単位	
(選択)			
工学共通科目	} -----	29 単位以上	
コース専門科目			※6, 7, 9
工学融合科目	-----	4 単位以上	
		※8	

合計 130 単位以上

※1 人文系, 社会系, 総合, キャリア関係, 琉大特色・地域創生科目で合計12単位以上履修しなければならない。

※2 情報科学演習は卒業要件の単位に含めない。

※3 英語以外の外国語を履修する場合は1言語あたり4単位以上を履修しなければならない。
履修単位数が4単位に満たない言語は卒業要件の単位には含めない。

※4 外国人学生には琉球大学共通教育等履修規程第8条により次の特例を認める。

(1) 共通教育の人文系, 社会系, 自然系, 総合, キャリア関係, 琉大特色・地域創生科目のうち4単位まで, 日本事情科目で読み替えることができる。

(2) 英語以外のひとつの外国語科目(4単位)を日本語科目で読み替えることができる。

※5 「卒業研究」および「セミナー」を履修すべき年度に留学を希望するGEプログラムの学生は, コース長が認めた場合に限り, 「卒業研究」の代替として「卒業研究 I」および「卒業研究 II」を, 「セミナー」の代替として「セミナー I」および「セミナー II」を履修することができる。

※6 電子情報通信コース専門科目から修得した単位は16単位まで選択科目として卒業単位に含めることができる。

※7 電子情報通信コースを除く他コース専門科目から修得した単位は6単位まで選択科目として卒業単位に含めることができる。

※8 電子情報通信コースを除く1つのコースの工学融合科目から4単位以上を履修する。

※9 「(全教412) 教職実践演習(高)」については, 専門科目の選択科目として卒業単位に含めることができる。

GE プログラムとして修得すべき科目リスト

電気システム工学コース(電気エネルギー・システム制御プログラム)

科目番号	科目名	単位数
工共 321	技術英語 I	2
工共 322	技術英語 II	2
工共 421	技術英語 III	2
工共 324	国際協力論	2
工共 330	地域課題解決実践演習	2
工共 333	地域創生論	2
工共 338	インターンシップ I	1
工共 339	インターンシップ II	1
工共 340	インターンシップ III	2
工共 341	国際インターンシップ I	1
工共 441	国際インターンシップ II	2
※ESCM11030	インターンシップ I	1
※ESCM12010	インターンシップ II	1
※ESCM11040	インターンシップ III	2
※ESCM12020	インターンシップ IV	2
※ESCM11020	国際インターンシップ I	2
※ESCM13010	国際インターンシップ II	2

いずれか、
1 科目以上

※は大学院授業科目

教育分野	1年次		2年次		3年次		4年次		総単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通教育	教養領域	健康運動1 選 2							2 (0.0)	
	総合領域	教養領域1 選 2	教養領域2 選 2	教養領域3 選 2		教養領域4 選 2			14 (0.0)	
	基礎領域	日本語表現法入門 必 2							2 (2.0)	
		大学英語 必 4	英語講読中級 必 2	英語プレ中級 必 2					12 (8.0)	
専門教育	専門基礎	微積分分学STⅠ 必 2 物理学Ⅰ 必 2 物理学実験 必 1 化学入門Ⅰ 必 2	微積分分学STⅡ 必 2 化学実験 必 1						10 (10.0)	
	工学共通科目	工業数学Ⅰ 必 2 基礎数学Ⅰ 必 1 キャリアデザイン入門 必 1 工学基礎演習 必 2	工業数学Ⅱ 必 2 基礎数学Ⅱ 選 1 プログラミングⅠ 必 2 工学概論 選 2	工業数学Ⅲ 必 2 工業数学Ⅳ 必 2 プログラミングⅡ 選 2	確率及び統計 選 2	技術者の倫理 必 2 キャリアデザイン 必 2 国際協力論※1 選 2 技術英語Ⅰ 選 2 地域創生論※1 選 2 産業社会学原論Ⅰ 選 2 インターンシップⅠ 選 1	エンジニアリングデザイン演習 必 2 Frontiers of Eng. 選 2 技術英語Ⅱ 選 2 産業社会学原論Ⅱ 選 2 インターンシップⅡ 選 1	卒業研究(通年) 選 6 または 卒業研究Ⅰ 選 3 卒業研究Ⅱ 選 3 セミナー(通年) 選 2 または セミナーⅠ 選 1 セミナーⅡ 選 1 技術英語Ⅲ 選 2 地域課題解決実践演習 選 2 インターンシップⅢ 選 2	品質管理 選 2 経営工学概論 選 2	32 (20.0)
	コース専門科目		電磁気学Ⅰ 必 2 ベクトル解析 必 2 回路理論Ⅰ 必 2 エンジニアリングデザイン基礎 必 1	電磁気学Ⅱ 必 2 電磁気学Ⅲ 必 2 回路理論Ⅱ 必 2 電気電子計測工学Ⅰ 必 2	電磁気学Ⅳ 必 2 回路理論Ⅲ 必 2 回路理論Ⅳ 必 2 電子回路基礎 必 2 電気電子計測工学Ⅱ 選 2 電気電子基礎実験 必 2	情報数学 選 2 パルス・デジタル回路 選 2 電気機器 選 2 電力工学 選 2 電気電子材料 選 2 制御工学 選 2 システム工学 選 2	電気電子応用実験 必 2 数値解析 選 2 発電工学 選 2 パワーエレクトロニクス 選 2 デジタル制御 選 2	組み込み設計 選 2 生体計測工学 選 2 電力工学実験 必 2 または 電子情報通信実験 選 2 電力系統工学 選 2 電気法規及び施設管理 選 1 デジタル信号およびフィルタ 選 2 メカトロニクス 選 2	電気機器設計製図 選 2	54 (27.0)
	工学融合科目					工学融合導入科目 選 2 工学融合科目 選 2	工学融合科目 選 2 工学融合科目 選 2			4 (0.0)
総単位数	19.0 (19.0)	20.0 (16.0)	20.0 (14.0)	20.0 (10.0)	20.0 ※1 (6.0)	16.0 (2.0)	7.0 (2.0)	8.0 (0.0)	130.0 (69.0)	
備考	<p>□ は必修科目，選択必修科目 □ は履修モデルとして選択した選択科目を示す。 囲いの付いていない科目はそれ以外の選択（随時）</p> <p>□ はGE指定科目，一般は選択科目 ※1 集中講義（地域創生論（2単位），国際協力論（2単位））を含むことがある。</p> <p>※総単位数の下にある（ ）内の数字は必修科目・選択必修科目（共通教育含む）の単位数を表す。 共通教育科目・専門選択科目については履修方法の一例を示している。</p>									

電子情報通信コース

•授業科目分類表	1
•教育課程(授業内容)	2
•卒業要件	10
•GE科目リスト	11
•履修モデル	12

別表(第5条関係)

電子情報通信コース

1. 提供科目

①授業科目分類表

※工学融合科目について、自コース及び電気システム工学コースが提供している科目を履修登録することはできない。

分類	科目番号	授業科目名	単位数	必修	分類	科目番号	授業科目名	単位数	必修
工学共通科目	工共100	工学基礎演習	2	○	コース専門科目	電情331	電子物性工学Ⅱ	2	選必修
	工共101	キャリアデザイン入門	1	○		電情332	量子力学Ⅰ	2	
	工共111	工業数学Ⅰ	2	○		電情333	量子力学Ⅱ	2	
	工共112	工業数学Ⅱ	2	○		電情334	電子デバイス工学	2	
	工共114	プログラミングⅠ	2	○		電情335	集積デバイス工学	2	
	工共118	基礎数学Ⅰ	1	○		電情336	電子デバイス材料工学	2	
	工共119	基礎数学Ⅱ	1	○		電情337	電子回路応用	2	
	工共150	工学概論	2	○		電情338	電気機器	2	
	工共211	工業数学Ⅲ	2	○		電情351	電子計算機Ⅰ	2	
	工共212	工業数学Ⅳ	2	○		電情352	電子計算機Ⅱ	2	
	工共213	確率及び統計	2	○		電情353	通信工学Ⅰ	2	
	工共214	プログラミングⅡ	2	○		電情354	通信工学Ⅱ	2	
	工共300	技術者の倫理	2	○		電情355	電磁波工学	2	
	工共301	キャリアデザイン	2	○		電情400	電力工学実験	2	
	工共302	エンジニアリングデザイン演習	2	○		電情401	電子情報通信実験	2	
	工共320	Frontiers of Engineering	2	○		電情410	生体計測工学	2	
	工共321	技術英語Ⅰ	2	○		電情450	電気通信関係法規	2	
	工共322	技術英語Ⅱ	2	○		電情451	情報と符号の理論	2	
	工共330	地域課題解決実践演習	2	○		電情452	デジタル信号およびフィルタ	2	
	工共331	産業社会学原論Ⅰ	2	○		電情453	組込み設計	2	
	工共332	産業社会学原論Ⅱ	2	○		電情490	電子情報通信特別講義Ⅰ	2	
	工共333	地域創生論	2	○		電情491	電子情報通信特別講義Ⅱ	2	
	工共334	国際協力学論	2	○		電情492	電子情報通信特別講義Ⅲ	2	
	工共335	知的財産権	2	○		電情493	電子情報通信特別講義Ⅳ	2	
	工共336	品質管理	2	○		電情494	電子情報通信特別講義Ⅴ	2	
	工共337	経営工学概論	2	○		電情495	電子情報通信特別講義Ⅵ	2	
	工共338	インターンシップⅠ	1	○		機械991	材料生産工学概論	2	
	工共339	インターンシップⅡ	1	○		機械992	熱流体工学概論	2	
	工共340	インターンシップⅢ	2	○		エネ991	エネルギー変換工学基礎	2	
	工共341	国際インターンシップⅠ	1	○		エネ992	環境エネルギー工学概論	2	
	工共351	工業科教育法A	2	○		電気991	電気電子工学基礎	2	
	工共352	工業科教育法B	2	○		電気992	メカトロニクス	2	
	工共401	卒業研究Ⅰ	3	○		電情991	電気電子工学基礎	2	
	工共402	卒業研究Ⅱ	3	○		電情992	通信工学概論	2	
	工共403	卒業設計または卒業研究Ⅰ	3	○		社基991	基礎流体力学	2	
	工共404	卒業設計または卒業研究Ⅱ	3	○		社基992	橋設計論	2	
	工共405	セミナーⅠ	1	○		社基994	道路交通計画	2	
	工共406	セミナーⅡ	1	○		社基997	都市地域計画	2	
	工共407	卒業研究	6	○		社基998	岩盤工学	2	
	工共408	セミナー	2	○		建築991	居住建築概論	2	
	工共421	技術英語Ⅲ	2	○		知能991	コンピュータサイエンス基礎	2	
	工共441	国際インターンシップⅡ	2	○		知能992	情報システム開発演習	2	
	工共450	職業指導(工業)	2	○					
	工共451	情報科教育法A	2	○					
	工共452	情報科教育法B	2	○					
工共453	教職総合演習(情報)	2	○						
コース専門科目	電情100	エンジニアリングデザイン基礎	1	○	工学融合科目(選択科目)	機械981	機器構造学	2	
	電情101	ベクトル解析	2	○		機械982	亜熱帯材料学	2	
	電情102	電磁気学Ⅰ	2	○		機械983	流体機械学	2	
	電情103	回路理論Ⅰ	2	○		エネ981	エネルギー移動工学	2	
	電情200	電磁気学Ⅱ	2	○		エネ982	腐食防食工学	2	
	電情201	電磁気学Ⅲ	2	○		エネ983	熱機関工学	2	
	電情202	電磁気学Ⅳ	2	○		電気981	パワーエレクトロニクス	2	
	電情203	回路理論Ⅱ	2	○		電気984	電気機器	2	
	電情204	回路理論Ⅲ	2	○		電気985	発電工学	2	
	電情205	回路理論Ⅳ	2	○		電情981	電気電子計測工学Ⅰ	2	
	電情206	電気電子計測工学Ⅰ	2	○		電情983	量子力学Ⅰ	2	
	電情207	電気電子計測工学Ⅱ	2	○		社基981	プロジェクトマネジメント	2	
	電情208	電子回路基礎	2	○		社基982	維持管理工学	2	
	電情209	電気電子基礎実験	2	○		社基983	腐食防食と疲労	2	
	電情300	電気電子応用実験	2	○		社基984	減災計画	2	
	電情301	情報数学	2	○		社基985	環境衛生工学	2	
	電情302	パルス・デジタル回路	2	○		建築982	都市デザイン演習	2	
	電情303	数値解析	2	○		建築983	耐震設計概論	2	
	電情310	制御工学	2	○		建築984	都市および地方計画	2	
	電情311	デジタル制御	2	○		知能981	ネットワークセキュリティ	2	
電情327	電気電子材料	2	○	知能983	知能ロボット	2			
電情328	パワーエレクトロニクス	2	○	知能984	データマイニング	2			
電情330	電子物性工学Ⅰ	2	○						

別表(第5条関係)

工学共通科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
工学 共通 科目	工共100	工学基礎演習	2	2-0	1	前	高校から大学への環境変化に伴う自己学習に対する意識改革に加えて、自主性・自律性を高め、専門分野の導入教育により大学で学ぶための素養を身に付ける。	○
	工共101	キャリアデザイン入門	1	1-0	1	前	各コースの専門性や身に付けていくべきスキル、ならびに卒業後の進路に関する概説	○
	工共111	工業数学Ⅰ	2	2-0	1	前	行列、連立一次方程式、行列式、ベクトル、固有値など	○
	工共112	工業数学Ⅱ	2	2-0	1	前又は後	1階常微分方程式、2階の同次線形微分方程式、非同次方程式など	○
	工共114	プログラミングⅠ	2	2-0	1・2	前又は後	変数と代入、式、制御文、関数など	○
	工共118	基礎数学Ⅰ	1	1-0	1	前	初等関数に関する補習や微分積分法の初歩について演習を行う。専門科目を学ぶ上で必須となる数学の基礎を身に付ける。	○
	工共119	基礎数学Ⅱ	1	1-0	1	後	1変数関数の微分積分学の基本的な計算演習を行う。授業では例題の解答、解説を行い、そのあと受講生各自で演習問題に取り組む。専門科目を学ぶ上で必須となる数学の基礎を身に付ける。	○
	工共150	工学概論	2	2-0	1	後	機械、エネルギー環境、電気、電子、建築、社会基盤、情報分野における工学における基礎知識、技術、考え方を解説する。	○
	工共211	工業数学Ⅲ	2	2-0	1・2	前又は後	フーリエ級数、フーリエ積分及び変換、偏微分方程式の解法など	○
	工共212	工業数学Ⅳ	2	2-0	2	前又は後	複素数と複素平面、複素数の極形式、複素関数の微分、留数定理、実積分への応用など	○
	工共213	確率及び統計	2	2-0	1・2	後	尺度と基本統計量、二項分布、ポアソン分布、一様分布、正規分布、T分布、X ² 分布、点推計・区間推計、仮説検定、適合度検定・独立性検定、回帰分析	○
	工共214	プログラミングⅡ	2	2-0	2・3	前又は後	アルゴリズム、数値解法など	○
	工共300	技術者の倫理	2	2-0	1・3	前又は後	社会に対する技術者の責任、社会的倫理、道徳の実践、職業観、職業人としての生き方、自己実現、リーダーシップ、技術者の倫理、情報社会の倫理、会社と社会の関係、チームワークと協調性、日本と国際社会の関係	○
	工共301	キャリアデザイン	2	2-0	3	前又は後	キャリア形成、技術者のキャリア、職業観協働とコミュニケーション・ビジョン共有、自律的行動と協調、コンセンサスと少数意見、コンセンサスとプロセス、自己理解と他者理解、企業活動とスタートアップ、自己表現と自己実現	○
	工共302	エンジニアリングデザイン演習	2	2-0	3	後	班に分かれて協働で課題を設定しそれを解決する能力を養う。課題解決に向けて計画作成と中途の評価・改善を協働で行い、結果を発表する。	○
	工共320	Frontiers of Engineering	2	2-0	3・4	後	英語による様々な工学分野における最近の研究内容等の解説	○
	工共321	技術英語Ⅰ	2	2-0	3	前	科学技術分野における英語論文の構成要素(概要、序論、方法、結果、討論/結論)、文法、文章および段落構成	○
	工共322	技術英語Ⅱ	2	2-0	3	後	英語による口頭発表やポスター発表のためのプレゼンテーションスキル	○
工共330	地域課題解決実践演習	2	2-0	3・4	後	沖縄の地域課題、課題発見、調査手法と分析手法およびその実践、解決策の立案と検討・網羅性、妥当性、実現可能性協働の実践	○	

別表(第5条関係)

工学共通科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修	
工学 共通 科目	工共331	産業社会学原論Ⅰ	2	2-0	3・4	前	社会的技術者、芸術論、企業経営論、人生観、文明論、多面性、ケース学習		
	工共332	産業社会学原論Ⅱ	2	2-0	3・4	後	先駆的起業家、社会的役割、IT、農業、環境		
	工共333	地域創生論	2	2-0	3	前	沖縄21世紀ビジョン基本計画の中において、工学と関連の深い分野に関する各行政施策の基本的な考え方、しくみ、および関連法規を学び、地域創生に資する公共政策論のあり方を学ぶ。		
	工共334	国際協力論	2	2-0	3	前	主に開発途上段階にある大洋州、東南アジア地域等における、国際協力のあり方と現在実施している事例について学ぶ。講義は座学と国際協力の事例に基づいた実践(ワークショップ)による体験型の学びを重視する。		
	工共335	知的財産権	2	2-0	3・4	前又は後	知的財産権における一連の法律群全体を概観した上で、その中でも特に重要な特許法、実用新案法、著作権法、意匠法、商標法等の基礎について解説する。		
	工共336	品質管理	2	2-0	3・4	後	製品やサービス活動における因果関係を理解し、品質管理の概念・実務を管理図法、統計的手法、抜取検査法の講義・演習を通して解析や問題解決能力を養う。		
	工共337	経営工学概論	2	2-0	3・4	後	経営工学、管理事務、生産管理、IE技法、工程管理、工程分析、在庫管理、品質管理、FA化技術、システム信頼性、性能評価		
	工共338	インターンシップⅠ	1		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習		
	工共339	インターンシップⅡ	1		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習		
	工共340	インターンシップⅢ	2		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習		
	工共341	国際インターンシップⅠ	1		3・4		企業・行政・研究機関・大学等において、英語等日本語以外を用いた国際的な業務や専門知識に関わる実習を行う。		
	工共351	工業科教育法A	2	2-0	3	後	教職課程、工業技術教育、工業高等学校教育、教育関連法令、カリキュラム編成、単元計画、学習指導案、授業設計、授業理論、進路指導		
	工共352	工業科教育法B	2	2-0	4	前	教職課程、工業技術教育、工業高等学校教育、教育評価法、教員研修、資格取得、教員製作		
	工共401	卒業研究Ⅰ	3	0-6	4	前又は後	教員の指導のもとに特定テーマや研究計画を設定して研究を行い、研究成果を発表する。		選必
	工共402	卒業研究Ⅱ	3	0-6	4	前又は後	教員の指導のもとに特定テーマや研究計画を設定して研究を行い、研究成果を発表する。		選必
	工共403	卒業設計または卒業研究Ⅰ	3	0-6	4	前又は後	建築学全般に関する理解を深める。設計実践、設計研究、調査研究または実験的研究および解析的研究に関する理解を深め、設計または研究を遂行する。		
	工共404	卒業設計または卒業研究Ⅱ	3	0-6	4	前又は後	建築学全般に関する理解を深める。設計実践、設計研究、調査研究または実験的研究および解析的研究に関する理解を深め、設計または研究を遂行する。		
	工共405	セミナーⅠ	1	1-0	3・4	前又は後	各コースの専門分野に関する論文講読および討論	選必	
	工共406	セミナーⅡ	1	1-0	3・4	前又は後	各コースの専門分野に関する論文講読および討論	選必	
	工共407	卒業研究	6	0-6	4	通年	教員の指導のもとに特定テーマや研究計画を設定して研究を行い、研究成果を発表する。	選必	

別表(第5条関係)

工学共通科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
工学共通科目	工共408	セミナー	2	1-0	4	通年	各コースの専門分野に関する論文講読および討論	選必
	工共421	技術英語Ⅲ	2	2-0	4	前	科学技術分野における英語論文のライティング技術と実践	
	工共441	国際インターンシップⅡ	2		3・4		企業・行政・研究機関・大学等において、英語等日本語以外を用いた国際的な業務や専門知識に関わる実習を行う。	
	工共450	職業指導(工業)	2	2-0	4	前	進路指導, 就職指導, 自己実現, 主体的職業選択能力, 職業観, 勤労観, 職業構造, 産業社会, 生涯教育, キャリア教育計画	
	工共451	情報科教育法A	2	2-0	3	後	教職課程, 教科情報, 授業設計, 指導法, 教育観, 学習観, 学習指導要領, 情報活用実践力, プレゼンテーション, 評価方法, 学習指導案, 科学的理解, 模擬授業	
	工共452	情報科教育法B	2	2-0	4	前	教職課程, 教科情報, 授業評価, 生徒評価, ルーブリック, ポートフォリオ, 模擬授業	
	工共453	教職総合演習(情報)	2	2-0	4	前	教職課程, 地域社会, 実践的活動, 教員資質, 教育現場, 教育ボランティア, 社会活動, 連携授業	

別表(第5条関係)

電子情報通信コース
②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
コース専門科目	電情100	エンジニアリングデザイン基礎	1	0-2	1	後	前半は電気電子工作で使われる部品や基礎的な回路について学び、後半はグループ毎に課題製作を行いプレゼンテーションを行う	○
	電情101	ベクトル解析	2	2-0	1	後	ベクトル解析と力学および電磁気学への応用	○
	電情102	電磁気学Ⅰ	2	1-2	1	後	真空中の静電界(ガウスの法則)、電位と電界の解析(ラプラス方程式、ポアソン方程式)	○
	電情103	回路理論Ⅰ	2	1-2	1	後	直流回路、正弦波交流回路、回路素子、正弦波電圧・電流及び電力のベクトル表示、交流回路の複素計算法	○
	電情200	電磁気学Ⅱ	2	1-2	2	前	導体系、キャパシタンス、誘電体中の電界、定常電流(オームの法則)	○
	電情201	電磁気学Ⅲ	2	1-2	2	前	静磁界、定常電流と磁界(アンペールの法則)、ローレンツ力、磁性体	○
	電情202	電磁気学Ⅳ	2	1-2	2	後	電磁誘導(ファラデーの法則)、インダクタンス、マクスウェル方程式、電磁波	○
	電情203	回路理論Ⅱ	2	1-2	2	前	線形定常交流回路網における回路の方程式等の基礎的事項、一端子対回路、二端子対回路	○
	電情204	回路理論Ⅲ	2	1-2	2	後	過渡現象、非正弦波交流回路	○
	電情205	回路理論Ⅳ	2	1-2	2	後	三相交流回路、平衡回路、不平衡回路、分布定数回路	○
	電情206	電気電子計測工学Ⅰ	2	2-0	2	前	測定方式、測定値の処理、電圧・電流・電力及び回路素子の特性測定法	○
	電情207	電気電子計測工学Ⅱ	2	2-0	2	後	周波数測定、磁気測定、波形測定、光計測および計測応用	○
	電情208	電子回路基礎	2	2-0	2	後	電子回路の基礎、増幅回路の基礎、基本増幅回路、負帰還増幅回路、演算増幅器(トランジスタ回路)、発振回路	○
	電情209	電気電子基礎実験	2	0-4.5	2	後	電圧・電流計、表計算ソフトウェアによる最小二乗法と誤差解析、単相・三相交流量の測定、CR回路、数値解析によるCR回路の解析、磁気測定、直流電動機の特 性、ダイオードの静特性および整流特性測定、RLC回路、トランジスタの静特性、実験機器使用法	○
	電情300	電気電子応用実験	2	0-4.5	3	前	単相変圧器の三相結線、三相誘導電動機の特 性、直流チョップの基本回路、直流チョップの特性解析、デジタル基本回路、順序回路、薄膜形成技術の基礎、薄膜の電気抵抗率測定、アクティブフィルタ、発振回路、ホール効果、トランジスタ増幅回路、CMOS論理回路	○
	電情301	情報数学	2	2-0	3	前	群論、束と関係、一階述語論理、代数、グラフ理論、整数論、オートマン、形式言語、ベトリネット	○
	電情302	パルス・デジタル回路	2	2-0	3	前	パルス波形操作回路、パルス発生回路、トランジスタとデジタル回路、デジタル回路の応用(シュミット回路、比較回路、計数回路、AD/DA変換回路)	○
	電情303	数値解析	2	2-0	3	後	方程式の根、連立1次方程式、補間法、関数の近似、数値積分、常微分方程式、偏微分方程式、固有値問題	○

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
コ ー ス 専 門 科 目	電情310	制御工学	2	2-0	3	前	伝達関数, ブロック線図, 過渡応答法, 周波数応答法, 安定判別, 安定度, ボード線図	
	電情311	デジタル制御	2	2-0	3	後	デジタル制御システムの構成, 連続時間システムの離散化, デジタル制御システムの安定性, デジタルシステムの制御系設計	
	電情327	電気電子材料	2	2-0	3	前	結晶構造, 欠陥, 結晶組織, 合金, 状態図, 導電材料, 抵抗材料, 誘電・絶縁材料, 磁性材料	
	電情328	パワーエレクトロニクス	2	2-0	3	後	電力用半導体デバイス, スイッチングデバイス, サイリスタコンバータ, DC/DCコンバータ, スイッチングレギュレータ, インバータ, インバータによる交流電動機の制御	
	電情330	電子物性工学 I	2	2-0	3	前	量子論の基礎, 気体の分子運動, 原子を結びつける力, 結晶の構造	
	電情331	電子物性工学 II	2	2-0	3	後	格子振動による比熱, 格子原子の熱振動, 金属の自由電子論, 固体内電子のエネルギー, 物質の光学的性質, 誘電体	
	電情332	量子力学 I	2	2-0	3	前	古典力学の限界と量子力学の誕生, 量子力学の基礎, 自由粒子, 井戸型ポテンシャルと量子井戸, トンネル効果	
	電情333	量子力学 II	2	2-0	3	後	調和振動子, 水素原子模型とその応用, 摂動論, 時間に依存する摂動論, レーザの原理と半導体レーザーの基礎, 量子効果デバイス	
	電情334	電子デバイス工学	2	2-0	3	前	半導体の基礎的性質, PN接合ダイオード, 接合型トランジスタ, 電界効果トランジスタ	
	電情335	集積デバイス工学	2	2-0	3	後	MOS形電界効果トランジスタの動作原理, 集積回路プロセス, 化合物半導体デバイス, 光デバイス	
	電情336	電子デバイス材料工学	2	2-0	3	後	電子デバイス用無機および有機材料とその応用	
	電情337	電子回路応用	2	2-0	3	後	増幅回路の応用, 変調復調回路の原理, 電源回路, MOSLSI, BIPLSI	
	電情338	電気機器	2	2-0	3	前	電気-機械エネルギー変換の基礎, 直流機および変圧器の原理・構造・特性, 制御, 同期機, 誘導機, 整流子機の原理・構造・特性, 制御	
	電情351	電子計算機 I	2	2-0	3	前	束と関係, データ表現と演算, ブール代数, 論理式の簡約化, 組合せ論理回路, 順序回路	
	電情352	電子計算機 II	2	2-0	3	後	コンピュータの基本回路と基本装置, コンピュータの構成と制御方式, コンピュータアーキテクチャー, ニューパラダイムコンピュータ	
	電情353	通信工学 I	2	2-0	3	前	通信工学の基礎知識, 有線通信, 無線通信, 画像通信システム	
	電情354	通信工学 II	2	2-0	3	後	交換方式, 各種通信網, データ伝送, コンピュータネットワーク, マルチメディア通信, 通信セキュリティ	
電情355	電磁波工学	2	2-0	3	後	電波工学の基礎, 電磁波と放射, アンテナ, 電波伝搬, 導波管, 空洞共振器, マイクロ波回路素子		

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
コース専門科目	電情400	電力工学実験	2	0-4.5	4	前	三相同期発電機の特性、シンクロ電機（セルシン）とシンクロサーボ機構の特性、低気圧中での放電、並列インバータの動作特性、モータ制御（三相PWMインバータの制御法）、モータ制御（マイクロコンピュータを使った制御プログラム）、モータ制御（三相PWMインバータによる電動機駆動）、シーケンス制御（基本回路）、シーケンス制御（応用回路）、三相同期電動機の始動法、三相同期発電機の特性並行運転、絶縁材料の絶縁破壊試験、衝撃電圧発生装置の取扱法、直流電動機速度制御システム	選必
	電情401	電子情報通信実験	2	0-4.5	4	前	発光ダイオードとルミネッセンスの測定、半導体の熱電効果、デジタルフィルタ、マイクロ波の原理、マイクロ波に関する測定実験、直流定電圧回路の原理と回路、直流定電圧回路の製作と特性測定、PN接合の作成、PN接合の評価、移動ロボットの開発環境とセンサ及び駆動装置、移動ロボットのプログラミング、移動ロボットによる迷路脱出プログラムの作成、移動ロボットの性能評価	選必
	電情410	生体計測工学	2	2-0	4	前	生体センサ、生体計測システム、生体計測に関連する電子回路技術	
	電情450	電気通信関係法規	2	2-0	3・4	前又は後	電気通信事業法、有線通信法、電波法及びこれらに基づく命令、国際通信条約	
	電情451	情報と符号の理論	2	2-0	4	前	情報量とエントロピー、情報源の性質、符号化定理、誤り訂正符号、線形符号、巡回符号	
	電情452	デジタル信号およびフィルタ	2	2-0	4	前	標本化定理、離散フーリエ変換、FFT、Z変換、デジタルフィルタ、FIRフィルタ、IIRフィルタ	
	電情453	組込み設計	2	2-0	4	前	組込みシステムに関連するハードウェアおよびソフトウェア、組込みシステムの設計方式	
	電情490	電子情報通信特別講義Ⅰ	2	2-0	3・4	前又は後	電子工学、情報工学、通信工学の各分野における学外の権威者がその専門とする領域を講義する	
	電情491	電子情報通信特別講義Ⅱ	2	2-0	3・4	前又は後	〃	
	電情492	電子情報通信特別講義Ⅲ	2	2-0	3・4	前又は後	〃	
	電情493	電子情報通信特別講義Ⅳ	2	2-0	3・4	前又は後	〃	
	電情494	電子情報通信特別講義Ⅴ	2	2-0	3・4	前又は後	〃	
	電情495	電子情報通信特別講義Ⅵ	2	2-0	3・4	前又は後	〃	

別表(第5条関係)

工学融合科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
工学融合科目(導入科目)	機械991	材料生産工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	材料力学及び機械要素設計の基礎、機械材料及び材料加工学の基礎
	機械992	熱流体工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	流体力学及び流体機械学の基礎、熱力学及び伝熱工学の基礎
	エネ991	エネルギー変換工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	燃焼、蒸気サイクル、冷凍サイクルと空気調和の基礎および伝導、対流、放射伝熱の基礎
	エネ992	環境エネルギー工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	地球環境、環境アセスメント、省エネルギー技術、再生可能エネルギー
	電気991	電気電子工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	電気工学、電子工学、情報通信工学に関する基礎について学ぶ
	電気992	メカトロニクス	2	2-0	3・4	前又は後	メカトロニクスに関わるセンサ、アクチュエータ、サーボモータ、制御システム
	電情991	電気電子工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	電気工学、電子工学、情報通信工学に関する基礎について学ぶ
	電情992	通信工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	有線通信および無線通信に関する基礎について学ぶ
	社基991	基礎流体力学	2	2-0	3・4	後	相対性原理と運動法則の成立、流体力学と自然の中の流れ、流体力学の基礎理論、流体力学の定理、定理と応用、流体の数値計算
	社基992	橋設計論	2	2-0	3・4	前	橋の歴史、橋の構造形式及びその力学的意味と特性
	社基994	道路交通計画	2	2-0	3・4	前	道路工学基礎、道路構造令、舗装、交通調査概論、四段階推定法、交通需要マネジメント
	社基997	都市地域計画	2	2-0	3・4	後	都市の歴史と都市計画の理論と制度の仕組み(規制・誘導・事業)について学ぶ。また、これまでの日本の国土計画の流れとこれからの地域計画の方向性についての知識を習得する。
	社基998	岩盤工学	2	2-0	3・4	後	地殻の構成、岩の力学的特性、破壊・風化メカニズム、海底鉱物資源の種類や採掘法等の各問題に関して、力学的・数理的な解析手法を説明し、実務への展開法について講述する。
	建築991	居住建築概論	2	2-0	3・4	前又は後	住宅をはじめとする人間の居住を支える建築について、建築学に関わる幅広い視点から総合的に学ぶ。
	知能991	コンピュータサイエンス基礎	2	2-0	3・4	前又は後	コンピュータの仕組み、アルゴリズム、プログラミングの解説と演習を通して、コンピュータサイエンスの基礎を習得する。
	知能992	情報システム開発演習	2	2-0	3・4	前又は後	AI機械学習やwebアプリケーション等に関する情報システムの設計とプログラム開発の基礎をチーム演習を通して習得する。

別表(第5条関係)

工学融合科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
工学融合科目 (選択科目)	機械981	機器構造学	2	2-0	3・4	前又は後	機械構造物の例としての航空機などの構造に関する基礎的な理論, 構造力学の基礎
	機械982	亜熱帯材料学	2	2-0	3・4	前又は後	多糖の基礎と構造, バイオベース材料の高機能化, バイオベース材料の加工・化学修飾
	機械983	流体機械学	2	2-0	3・4	前	ターボ機械の分類, 基礎理論, 損失および効率, 相似則, キャビテーション現象, 不安定流動現象, 水撃
	エネ981	エネルギー移動工学	2	2-0	3・4	前又は後	伝導, 対流, 放射伝熱の基礎と自然現象, 工学機器への応用, 定常・非定常熱伝導の理論
	エネ982	腐食防食工学	2	2-0	3・4	前	材料表面性と表面処理, 腐食, 防食の理論と応用
	エネ983	熱機関工学	2	2-0	3・4	前又は後	内燃機関の概要及び歴史, 構造, 熱力学の理論と実際, 出力と効率, 吸・排気系統, ガソリンエンジンとディーゼルエンジン, エンジンと環境問題
	電気981	パワーエレクトロニクス	2	2-0	3・4	後	電力用半導体デバイス, スイッチングデバイス, サイリスタコンバータ, DC/DCコンバータ, スイッチングレギュレータ, インバータ, インバータによる交流電動機の制御
	電気984	電気機器	2	2-0	3・4	前	電気-機械エネルギー変換の基礎, 直流機および変圧器の原理・構造・特性, 制御, 同期機, 誘導機, 整流子機の原理・構造・特性, 制御
	電気985	発電工学	2	2-0	3・4	後	水力発電, 火力発電および原子力発電の原理・構成・特性, 自然エネルギーの利用と発電方式
	電情981	電気電子計測工学I	2	2-0	3・4	前	測定方式, 測定値の処理, 電圧・電流・電力及び回路素子の特性測定法
	電情983	量子力学 I	2	2-0	3・4	前	古典力学の限界と量子力学の誕生, 量子力学の基礎, 自由粒子, 井戸型ポテンシャルと量子井戸, トンネル効果
	社基981	プロジェクトマネジメント	2	2-0	3・4	後	施工管理法(施工計画, 工程管理, 品質管理, 安全管理), 土木施工技術
	社基982	維持管理工学	2	2-0	3・4	後	構造物の機能・性能とメンテナンスの基本, 構造物の劣化現象, 構造物の点検方法および劣化予測・評価の方法, 補修・補強の方法
	社基983	腐食防食と疲労	2	2-0	3・4	後	橋梁, 港湾施設, 発電所施設の維持管理工学概論, 鋼材の腐食メカニズム及び防食メカニズム, 鋼構造の疲労メカニズム及び疲労強度設計
	社基984	減災計画	2	2-0	3・4	後	災害概論, リスクコミュニケーション, 地域防災計画, 地区防災計画, 学校危機管理, 防災教育, 減災計画方法論
	社基985	環境衛生工学	2	2-0	3・4	後	安全で衛生的な生活環境を支える社会基盤にはどのようなものがあるか, また, 人間の活動が地球環境に及ぼす影響について解説し, 持続可能な社会の実現のために必要な技術者としての知識と倫理観について学ぶ。
	建築982	都市デザイン演習	2	3-0	3・4	前	都市デザイン, 地区デザイン, 景観デザインに関する計画・設計の演習を行う。
	建築983	耐震設計概論	2	2-0	3・4	後	地震荷重と耐震設計法, 耐震診断, 耐震補強・補修法など耐震設計の基礎を紹介する。
	建築984	都市および地方計画	2	2-0	3・4	隔年前期	都市および地方計画の調査, 立案, 実施に必要とされる法制度体系を理解し, 実際の計画事例を学ぶ
	知能981	ネットワークセキュリティ	2	2-0	3・4	後	情報セキュリティの仕組み, 攻撃, ファジング, ポリシーと運用, 脅威分析モデル等に関するスキル
知能983	知能ロボット	2	2-0	3・4	後	ロボットの歴史と基本概念, ロボットハードウェアの要素技術, ロボットモーション, ロボットパーセプション, ロボットインテリジェンス	
知能984	データマイニング	2	2-0	3・4	前	機械学習, 統計, 集合知, Webインテリジェンス, 統計, 可視化, パターン抽出, 評価	

GE プログラムとして修得すべき科目リスト

電子情報通信コース(電気システム・デバイスプログラム)

科目番号	科目名	単位数
工共 321	技術英語 I	2
工共 322	技術英語 II	2
工共 421	技術英語 III	2
工共 324	国際協力論	2
工共 330	地域課題解決実践演習	2
工共 333	地域創生論	2
工共 338	インターンシップ I	1
工共 339	インターンシップ II	1
工共 340	インターンシップ III	2
工共 341	国際インターンシップ I	1
工共 441	国際インターンシップ II	2
※ESCM11030	インターンシップ I	1
※ESCM12010	インターンシップ II	1
※ESCM11040	インターンシップ III	2
※ESCM12020	インターンシップ IV	2
※ESCM11020	国際インターンシップ I	2
※ESCM13010	国際インターンシップ II	2

いずれか、
1 科目以上

※は大学院授業科目

教育分野	1年次		2年次		3年次		4年次		総単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
共通教育	健康運動1 選 2								2 (0.0)
		教養領域1 選 2	教養領域2 選 2	教養領域3 選 2		教養領域4 選 2			14 (0.0)
				総合領域1 選 2	総合領域2 選 2	総合領域3 選 2			
	日本語表現法入門 必 2								2 (2.0)
基幹領域	大学英语 必 4	英語講読中級 必 2	英語プレゼン中級 必 2						12 (8.0)
			外国語1 選 2	外国語2 選 2					
専門基礎	微積分学STⅠ 必 2	微積分学STⅡ 必 2							10 (10.0)
	物理学Ⅰ 必 2	物理学実験 必 1							
	化学入門Ⅰ 必 2	化学実験 必 1							
工学共通科目	工業数学Ⅰ 必 2	工業数学Ⅱ 必 2	工業数学Ⅲ 必 2	確率及び統計 選 2	技術者の倫理 必 2		卒業研究(通年) 必 6	卒業研究(通年) 必 6	32 (20.0)
	基礎数学Ⅰ 必 1	基礎数学Ⅱ 選 1	工業数学Ⅳ 必 2		キャリアデザイン 必 2	エンジニアリングデザインの選択 必 2	卒業研究Ⅰ 必 3	卒業研究Ⅱ 必 3	
	キャリアデザイン入門 必 1	プログラミングⅠ 必 2	プログラミングⅡ 選 2		技術英語Ⅰ 選 2	技術英語Ⅱ 選 2	セミナー(通年) 必 2	セミナー(通年) 必 2	
	工学基礎演習 必 2				地域創生論 ^{※1} 選 2	国際協力論 ^{※1} 選 2	Frontier of Eng. 選 2	セミナーⅠ 必 1	
	工学概論 選 2			産業社会学原論Ⅰ 選 2	産業社会学原論Ⅱ 選 2	インターンシップⅡ 選 1	技術英語Ⅲ 選 2	品質管理 選 2	
				インターンシップⅠ 選 1	インターンシップⅢ 選 2		地域課題解決実践演習 選 2	経営工学概論 選 2	
専門教育		電磁気学Ⅰ 必 2	電磁気学Ⅱ 必 2	電磁気学Ⅳ 必 2					55 (27.0)
		ベクトル解析 必 2	電磁気学Ⅲ 必 2	回路理論Ⅲ 必 2	情報数学 選 2		組込み設計 選 2		
		回路理論Ⅰ 必 2	回路理論Ⅱ 必 2	回路理論Ⅳ 必 2	ハルス・デジタル回路 選 2		生体計測工学 選 2		
			電気電子計測工学Ⅰ 必 2	電子回路基礎 必 2	電気電子応用実験 必 2		電気通信実験 必 2		
コース専門科目				電気電子計測工学Ⅱ 選 2			または 電力工学実験 必 2		
		エンジニアリングデザインの選択 必 1		電気電子基礎実験 必 2					
					電子物性工学Ⅰ 選 2	数値解析 選 2			
					電子デバイス工学 選 2	電子回路応用 選 2			
				量子力学Ⅰ 選 2	電子物性工学Ⅱ 選 2				
				電気機器 選 2	集積デバイス工学 選 2				
				電子計算機Ⅰ 選 2	量子力学Ⅱ 選 2				
				通信工学Ⅰ 選 2	電子デバイス材料工学 選 2				
					電子計算機Ⅱ 選 2				
					通信工学Ⅱ 選 2				
					電磁波工学 選 2				
					制御工学 選 2				
					電気電子材料 選 2				
					コース専門選択科目から合計 10	コース専門選択科目から合計 8	コース専門選択科目から合計 6		
合工科学目融					工学融合導入科目 選 2	工学融合科目 選 2			4 (0.0)
					工学融合科目 選 2	工学融合科目 選 2			
総単位数	20.0 (18.0)	19.0 (17.0)	20.0 (14.0)	20.0 (10.0)	20.0 (6.0) ※1	16.0 (2.0)	8.0 (2.0)	8.0 (0.0)	131.0 (69.0)

備考

 は必修科目, 選択必修科目 は履修モデルとして選択した選択科目を示す。 囲いの付いていない科目はそれ以外の選択 (随時) はGE指定科目, 一般は選択科目を示す。

※1 集中講義(地域創生論(2単位), 国際協力論(2単位))を含むことがある。

※総単位数の下にある () 内の数字は必修科目・選択必修科目 (共通教育含む) の単位数を表す。

共通教育科目・専門選択科目については履修方法の一例を示している。

社会基盤デザインコース

•授業科目分類表	1
•教育課程(授業内容)	2
•卒業要件	10
•GE科目リスト	11
•履修モデル	12

別表(第5条関係)

社会基盤デザインコース

1. 提供科目

①授業科目分類表

※工学融合科目について、自コースが提供している科目を履修登録することはできない。

分類	科目番号	授業科目名	単位数	必修	分類	科目番号	授業科目名	単位数	必修
工学共通科目	工共100	工学基礎演習	2	○	工学融合科目(導入学科目)	社基322	河川工学	2	○ 選必
	工共101	キャリアデザイン入門	1	○		社基323	港湾工学	2	
	工共111	工業数学I	2	○		社基330	地盤工学	2	
	工共112	工業数学II	2	○		社基334	岩盤工学	2	
	工共114	プログラミングI	2			社基340	減災計画	2	
	工共118	基礎数学I	1			社基350	コンクリート構造工学	2	
	工共119	基礎数学II	1			社基355	コンクリート構造設計演習	2	
	工共150	工学概論	2			社基356	マテリアルズ・インフォマティクス	2	
	工共211	工業数学III	2	○		社基360	プロジェクトマネジメント	2	
	工共212	工業数学IV	2			社基361	社会基盤デザイン実験	2	
	工共213	確率及び統計	2			社基370	環境衛生工学	2	
	工共214	プログラミングII	2			社基380	社会基盤デザイン特別講義I	2	
	工共300	技術者の倫理	2	○		社基381	社会基盤デザイン特別講義II	2	
	工共301	キャリアデザイン	2	○		社基382	社会基盤デザイン特別講義III	2	
	工共302	エンジニアリングデザイン演習	2	○		社基383	社会基盤デザイン特別講義IV	2	
	工共320	Frontiers of Engineering	2			社基384	社会基盤デザイン特別講義V	2	
	工共321	技術英語I	2			社基385	社会基盤デザイン特別講義VI	2	
	工共322	技術英語II	2			社基390	社会基盤デザイン特別講義VII	1	
	工共330	地域課題解決実践演習	2			社基391	社会基盤デザイン特別講義VIII	1	
	工共331	産業社会学原論I	2			社基392	社会基盤デザイン特別講義IX	1	
	工共332	産業社会学原論II	2			社基393	社会基盤デザイン特別講義X	1	
	工共333	地域創生論	2			社基394	社会基盤デザイン特別講義XI	1	
	工共334	国際協力論	2			社基395	社会基盤デザイン特別講義XII	1	
	工共335	知的財産権	2			社基901	都市地域計画	2	
	工共336	品質管理	2			社基902	基礎流体力学	2	
	工共337	経営工学概論	2			社基903	橋設計論	2	
	工共338	インターンシップI	1			社基905	道路交通計画	2	
	工共339	インターンシップII	1			機械991	材料生産工学概論	2	
	工共340	インターンシップIII	2			機械992	熱流体工学概論	2	
	工共341	国際インターンシップI	1			エネ991	エネルギー変換工学基礎	2	
	工共351	工業科教育法A	2			エネ992	環境エネルギー工学概論	2	
	工共352	工業科教育法B	2			電気991	電気電子工学基礎	2	
	工共401	卒業研究I	3	○		電気992	メカトロニクス	2	
	工共402	卒業研究II	3	○		電情991	電気電子工学基礎	2	
	工共403	卒業設計または卒業研究I	3			電情992	通信工学概論	2	
	工共404	卒業設計または卒業研究II	3			社基991	基礎流体力学	2	
	工共405	セミナーI	1			社基992	橋設計論	2	
	工共406	セミナーII	1			社基994	道路交通計画	2	
	工共421	技術英語III	2			社基997	都市地域計画	2	
	工共441	国際インターンシップII	2			社基998	岩盤工学	2	
	工共450	職業指導(工業)	2			建築991	居住建築概論	2	
	工共451	情報科教育法A	2			知能991	コンピュータサイエンス基礎	2	
	工共452	情報科教育法B	2			知能992	情報システム開発演習	2	
工共453	教職総合演習(情報)	2		機械981	機器構造学	2			
コース専門科目	社基140	社会システム計画学I	2	○	機械982	亜熱帯材料学	2		
	社基160	情報処理解析法	2	○	機械983	流体機械学	2		
	社基212	静定構造力学及び演習	3	○	エネ981	エネルギー移動工学	2		
	社基213	不静定構造力学	2	○	エネ982	腐食防食工学	2		
	社基220	水理学I及び演習	3	○	エネ983	熱機関工学	2		
	社基221	水理学II	2	○	電気981	パワーエレクトロニクス	2		
	社基230	土質力学I及び演習	3	○	電気984	電気機器	2		
	社基231	土質力学II	2	○	電気985	発電工学	2		
	社基240	社会システム計画学II	2	○	電情981	電気電子計測工学I	2		
	社基251	建設材料学I	2	○	電情983	量子力学I	2		
	社基252	建設材料学II	2		社基981	プロジェクトマネジメント	2		
	社基260	測量学I	2	○	社基982	維持管理工学	2		
	社基261	測量学実習I	1.5	○	社基983	腐食防食と疲労	2		
	社基262	測量学II	2		社基984	減災計画	2		
	社基263	測量学実習II	1.5		社基985	環境衛生工学	2		
	社基264	建設行政	2		建築982	都市デザイン演習	2		
	社基265	シミュレーション工学	2	○	建築983	耐震設計概論	2		
	社基310	鋼構造工学	2	○	建築984	都市および地方計画	2		
	社基311	腐食防食と疲労	2		知能981	ネットワークセキュリティ	2		
	社基312	維持管理工学	2		知能983	知能ロボット	2		
社基314	鋼構造設計演習	2	選必	知能984	データマイニング	2			
社基320	海岸工学	2	○						

別表(第5条関係)

工学共通科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
工学共通科目	工共100	工学基礎演習	2	2-0	1	前	高校から大学への環境変化に伴う自己学習に対する意識改革に加えて、自主性・自律性を高め、専門分野の導入教育により大学で学ぶための素養を身に付ける。	○
	工共101	キャリアデザイン入門	1	1-0	1	前	各コースの専門性や身に付けていくべきスキル、ならびに卒業後の進路に関する概説	○
	工共111	工業数学Ⅰ	2	2-0	1	前	行列、連立一次方程式、行列式、ベクトル、固有値など	○
	工共112	工業数学Ⅱ	2	2-0	1	前又は後	1階常微分方程式、2階の同次線形微分方程式、非同次方程式など	○
	工共114	プログラミングⅠ	2	2-0	1・2	前又は後	変数と代入、式、制御文、関数など	
	工共118	基礎数学Ⅰ	1	1-0	1	前	初等関数に関する補習や微分積分法の初歩について演習を行う。専門科目を学ぶ上で必須となる数学の基礎を身につける。	
	工共119	基礎数学Ⅱ	1	1-0	1	後	1変数関数の微分積分学の基本的な計算演習を行う。授業では例題の解答、解説を行い、そのあと受講生各自で演習問題に取り組む。専門科目を学ぶ上で必須となる数学の基礎を身につける。	
	工共150	工学概論	2	2-0	1	後	機械、エネルギー環境、電気、電子、建築、社会基盤、情報分野における工学における基礎知識、技術、考え方を解説する。	
	工共211	工業数学Ⅲ	2	2-0	1・2	前又は後	フーリエ級数、フーリエ積分及び変換、偏微分方程式の解法など	○
	工共212	工業数学Ⅳ	2	2-0	2	前又は後	複素数と複素平面、複素数の極形式、複素関数の微分、留数定理、実積分への応用など	
	工共213	確率及び統計	2	2-0	1・2	後	尺度と基本統計量、二項分布、ポアソン分布、一様分布、正規分布、T分布、X ² 分布、点推計・区間推計、仮説検定、適合度検定・独立性検定、回帰分析	
	工共214	プログラミングⅡ	2	2-0	2・3	前又は後	アルゴリズム、数値解法など	
	工共300	技術者の倫理	2	2-0	1・3	前又は後	社会に対する技術者の責任、社会的倫理、道徳の実践、職業観、職業人としての生き方、自己実現、リーダーシップ、技術者の倫理、情報社会の倫理、会社と社会の関係、チームワークと協調性、日本と国際社会の関係	○
	工共301	キャリアデザイン	2	2-0	3	前又は後	キャリア形成、技術者のキャリア、職業観協働とコミュニケーション・ビジョン共有、自律的行動と協調、コンセンサスと少数意見、コンセンサスとプロセス、自己理解と他者理解、企業活動とスタートアップ、自己表現と自己実現	○
	工共302	エンジニアリングデザイン演習	2	2-0	3	後	班に分かれて協働で課題を設定しそれを解決する能力を養う。課題解決に向けて計画作成と中途の評価・改善を協働で行い、結果を発表する。	○
	工共320	Frontiers of Engineering	2	2-0	3・4	後	英語による様々な工学分野における最近の研究内容等の解説	
	工共321	技術英語Ⅰ	2	2-0	3	前	科学技術分野における英語論文の構成要素(概要、序論、方法、結果、討論/結論)、文法、文章および段落構成	
	工共322	技術英語Ⅱ	2	2-0	3	後	英語による口頭発表やポスター発表のためのプレゼンテーションスキル	
工共330	地域課題解決実践演習	2	2-0	3・4	後	沖縄の地域課題、課題発見、調査手法と分析手法およびその実践、解決策の立案と検討・網羅性、妥当性、実現可能性協働の実践		

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
工学共通科目	工共331	産業社会学原論Ⅰ	2	2-0	3・4	前	社会的技術者、芸術論、企業経営論、人生観、文明論、多面性、ケース学習	
	工共332	産業社会学原論Ⅱ	2	2-0	3・4	後	先駆的起業家、社会的役割、IT、農業、環境	
	工共333	地域創生論	2	2-0	3	前	沖縄21世紀ビジョン基本計画の中において、工学と関連の深い分野に関する各行政施策の基本的な考え方、しくみ、および関連法規を学び、地域創生に資する公共政策論のあり方を学ぶ。	
	工共334	国際協力論	2	2-0	3	前	主に開発途上段階にある大洋州、東南アジア地域等における、国際協力のあり方と現在実施している事例について学ぶ。講義は座学と国際協力の事例に基づいた実践(ワークショップ)による体験型の学びを重視する。	
	工共335	知的財産権	2	2-0	3・4	前又は後	知的財産権における一連の法律群全体を概観した上で、その中でも特に重要な特許法、実用新案法、著作権法、意匠法、商標法等の基礎について解説する。	
	工共336	品質管理	2	2-0	3・4	後	製品やサービス活動における因果関係を理解し、品質管理の概念・実務を管理図法、統計的手法、抜取検査法の講義・演習を通して解析や問題解決能力を養う。	
	工共337	経営工学概論	2	2-0	3・4	後	経営工学、管理事務、生産管理、IE技法、工程管理、工程分析、在庫管理、品質管理、FA化技術、システム信頼性、性能評価	
	工共338	インターンシップⅠ	1		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共339	インターンシップⅡ	1		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共340	インターンシップⅢ	2		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共341	国際インターンシップⅠ	1		3・4		企業・行政・研究機関・大学等において、英語等日本語以外を用いた国際的な業務や専門知識に関わる実習を行う。	
	工共351	工業科教育法A	2	2-0	3	後	教職課程、工業技術教育、工業高等学校教育、教育関連法令、カリキュラム編成、単元計画、学習指導案、授業設計、授業理論、進路指導	
	工共352	工業科教育法B	2	2-0	4	前	教職課程、工業技術教育、工業高等学校教育、教育評価法、教員研修、資格取得、教員製作	
	工共401	卒業研究Ⅰ	3	0-6	4	前又は後	教員の指導のもとに特定テーマや研究計画を設定して研究を行い、研究成果を発表する。	○
	工共402	卒業研究Ⅱ	3	0-6	4	前又は後	教員の指導のもとに特定テーマや研究計画を設定して研究を行い、研究成果を発表する。	○
	工共403	卒業設計または卒業研究Ⅰ	3	0-6	4	前又は後	建築学全般に関する理解を深める。設計実践、設計研究、調査研究または実験的研究および解析的研究に関する理解を深め、設計または研究を遂行する。	
	工共404	卒業設計または卒業研究Ⅱ	3	0-6	4	前又は後	建築学全般に関する理解を深める。設計実践、設計研究、調査研究または実験的研究および解析的研究に関する理解を深め、設計または研究を遂行する。	
	工共405	セミナーⅠ	1	1-0	3・4	前又は後	各コースの専門分野に関する論文講読および討論	
	工共406	セミナーⅡ	1	1-0	3・4	前又は後	各コースの専門分野に関する論文講読および討論	
	工共421	技術英語Ⅲ	2	2-0	4	前	科学技術分野における英語論文のライティング技術と実践	

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
工学共 通科目	工共441	国際インターンシップⅡ	2		3・4		企業・行政・研究機関・大学等において、英語等日本語以外を用いた国際的な業務や専門知識に関わる実習を行う。	
	工共450	職業指導(工業)	2	2-0	4	前	進路指導, 就職指導, 自己実現, 主体的職業選択能力, 職業観, 勤労観, 職業構造, 産業社会, 生涯教育, キャリア教育計画	
	工共451	情報科教育法A	2	2-0	3	後	教職課程, 教科情報, 授業設計, 指導法, 教育観, 学習観, 学習指導要領, 情報活用実践力, プレゼンテーション, 評価方法, 学習指導案, 科学的理解, 模擬授業	
	工共452	情報科教育法B	2	2-0	4	前	教職課程, 教科情報, 授業評価, 生徒評価, ルーブリック, ポートフォリオ, 模擬授業	
	工共453	教職総合演習(情報)	2	2-0	4	前	教職課程, 地域社会, 実践的活動, 教員資質, 教育現場, 教育ボランティア, 社会活動, 連携授業	

別表(第5条関係)

社会基盤デザインコース

②教育課程

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
コ ー ス 専 門 科 目	社基140	社会システム計画学Ⅰ	2	2-0	2	前	計画プロセス, 社会調査法, 問題の明確化, 基礎統計手法, 回帰分析モデル	○
	社基160	情報処理解析法	2	2-0	2	前	データ解析に関する基礎理論から高度シミュレーション技術までを講述する。また, C言語を使った情報解析システムを構築する方法に関する基礎知識を説明し, 実務への具体的展開方法を明確化する。	○
	社基212	静定構造力学及び演習	3	2-1	2	前	トラス, はり及びラーメンの反力及び断面力, 影響線, 応力, 主応力, 静定ばりのたわみ及びたわみ角の計算(微分方程式)	○
	社基213	不静定構造力学	2	2-0	2	後	エネルギー原理, 仮想仕事の原理, 力学的エネルギーの算定, 不静定構造解析, 撓み角法による弾性変形解析	○
	社基220	水理学Ⅰ及び演習	3	2-1	2	前	静水圧, 相対静止流れ, 連続の式, 運動方程式, ベルヌーイの定理, 流線, 粘性流	○
	社基221	水理学Ⅱ	2	2-0	2	後	乱流, 管水路流れ, 開水路流れ, 等流, 漸変流, 急変流, 跳水	○
	社基230	土質力学Ⅰ及び演習	3	2-1	2	前	土の工学的性質, 透水, 地盤内応力, 圧密現象等の土質力学における各問題に対して, 力学的・数理的な解析手法を説明し, 実務への展開法について講述するとともに, 演習を実施する。	○
	社基231	土質力学Ⅱ	2	2-0	2	前	土の破壊理論, 土圧安定性, 締固め特性等の地盤工学における各問題に関して, 力学的・数理的な解析手法を説明し, 実務への展開法について講述する。	○
	社基240	社会システム計画学Ⅱ	2	2-0	2	後	数理計画問題, ネットワーク計画問題, 最短経路問題, 工程管理計画	○
	社基251	建設材料学Ⅰ	2	2-0	2	前	建設工事で使用される材料の特徴, コンクリートを構成する材料, フレッシュコンクリート, 硬化コンクリートの性質, コンクリートの耐久性	○
	社基252	建設材料学Ⅱ	2	2-0	2	後	特殊コンクリート, セラミックス, 高分子材料, アスファルト, 材料利用と環境負荷	○
	社基260	測量学Ⅰ	2	2-0	2	前	距離・平板・トラバース・水準・スタジア測量, 三角測量, 測定値の誤差	○
	社基261	測量学実習Ⅰ	1.5	0-3	2	前	基礎知識を身につけることを目的として, 測量機器の操作や測量方法を水準測量, 閉合トラバース測量, 平板測量について講義する。これに基づいて, 班ごとに測量現場で実習を行い, その成果をレポートとして提出させ評価する。	○
	社基262	測量学Ⅱ	2	2-0	2	後	空間情報工学と測量の関係, リモートセンシング, 写真測量, GISについての基礎および応用能力を身に付け, 応用測量と最新の測量技術についての知識を習得する。	○
	社基263	測量学実習Ⅱ	1.5	0-3	2	後	前期に学習した基礎知識を応用し, 基準点測量(水準測量, 結合トラバース測量), 路線測量(曲線設置), 電子平板測量について講義する。これに基づいて, 班ごとに測量現場で実習を行い, その成果をレポートとして提出させ評価する。	○

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
コ ー ス 専 門 科 目	社基264	建設行政	2	2-0	2	前	土木法規，行政概論	
	社基265	シミュレーション工学	2	2-0	2	後	CAD，BIM／CIMの基礎理論を説明し，差分法や有限要素法を用いた社会基盤構造物のシミュレーションへつなげる方法論を講述する。	○
	社基310	鋼構造工学	2	2-0	3	前	鋼材の応力ひずみ特性及び引張強度，鋼構造の座屈強度，高力ボルト及び溶接継手強度	○
	社基311	腐食防食と疲労	2	2-0	3	後	橋梁，港湾施設，発電所施設の維持管理工学概論，鋼材の腐食メカニズム及び防食メカニズム，鋼構造の疲労メカニズム及び疲労強度設計	
	社基312	維持管理工学	2	2-0	3	後	構造物の機能・性能とメンテナンスの基本，構造物の劣化現象，構造物の点検方法および劣化予測・評価の方法，補修・補強の方法	
	社基314	鋼構造設計演習	2	0-4	3	後	橋梁の設計，製図及び模型製作	選必
	社基320	海岸工学	2	2-0	3	前	波の基礎理論，流速場，波のエネルギー，波の変形，波の予測，沖縄の沿岸特性，サンゴ礁海岸と生態系	○
	社基322	河川工学	2	2-0	3	後	水文循環，流出解析，河床変動，治水，水質管理，水圏生態系，生物多様性	
	社基323	港湾工学	2	2-0	3	後	波浪と港湾構造物，港湾の役割，港湾と地域振興，港湾と空港，港湾と環境，港湾と防災	
	社基330	地盤工学	2	2-0	3	前	土中の物質移動，地盤汚染，地盤災害等の各問題に関して説明し，実務への展開法について講述する。講義の最終回には，実際現場において見られる地盤工学の問題点について，対話形式で議論する。	○
	社基334	岩盤工学	2	2-0	3	後	地殻の構成，岩の力学的特性，破壊・風化メカニズム，海底鉱物資源の種類や採掘法等の各問題に関して，力学的・数理的な解析手法を説明し，実務への展開法について講述する。	
	社基340	減災計画	2	2-0	3	後	災害概論，リスクコミュニケーション，地域防災計画，地区防災計画，学校危機管理，防災教育，減災計画方法論	
	社基350	コンクリート構造工学	2	2-0	3	前	材料とその設計用値，鉄筋コンクリートはり・柱の設計，各種性能照査，プレストレストコンクリート概説	○
	社基355	コンクリート構造設計演習	2	0-4	3	後	鉄筋コンクリートはり（T型断面）の設計，CEA技術の適用	選必
	社基356	マテリアルズ・インフォマティクス	2	2-0	3	前	材料開発における機械学習の基礎知識を説明し，機械学習アルゴリズムとその材料開発への応用についてコンクリート材料を例にPythonプログラムを構築および実行方法について講義する。	
	社基360	プロジェクトマネジメント	2	2-0	3	後	土木技術検定試験への対応 計画、水工、地盤、構造、材料分野の専門演習 一級土木施工学科試験対応 施工管理法（施工計画，工程管理，品質管理，安全管理），土木施工技術	
	社基361	社会基盤デザイン実験	2	0-4	3	前	水工学実験（層流と乱流，円管内の流れの抵抗，開水路の流れ，水の波，リーフ上の波の変形特性など），地盤工学実験（土粒子密度，土の一軸圧縮強さ，透水特性など），コンクリート工学実験（セメント・骨材・コンクリートの物理的性・力学的性質など）の各実験を行う。最終回では，結果報告会を開催する。	○
	社基370	環境衛生工学	2	2-0	3	後	安全で衛生的な生活環境を支える社会基盤にはどのようなものがあるか，また，人間の活動が地球環境に及ぼす影響について解説し，持続可能な社会の実現のために必要な技術者としての知識と倫理観について学ぶ。	

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
コ ー ス 専 門 科 目	社基380	社会基盤デザイン特別講義Ⅰ	2	2-0	2・3・4		社会基盤デザインに関する最新の話題又は特定分野に関する講義	
	社基381	社会基盤デザイン特別講義Ⅱ	2	2-0	2・3・4		〃	
	社基382	社会基盤デザイン特別講義Ⅲ	2	2-0	2・3・4		〃	
	社基383	社会基盤デザイン特別講義Ⅳ	2	2-0	2・3・4		〃	
	社基384	社会基盤デザイン特別講義Ⅴ	2	2-0	2・3・4		〃	
	社基385	社会基盤デザイン特別講義Ⅵ	2	2-0	2・3・4		〃	
	社基390	社会基盤デザイン特別講義Ⅶ	1	1-0	2・3・4		〃	
	社基391	社会基盤デザイン特別講義Ⅷ	1	1-0	2・3・4		〃	
	社基392	社会基盤デザイン特別講義Ⅸ	1	1-0	2・3・4		〃	
	社基393	社会基盤デザイン特別講義Ⅹ	1	1-0	2・3・4		〃	
	社基394	社会基盤デザイン特別講義Ⅺ	1	1-0	2・3・4		〃	
	社基395	社会基盤デザイン特別講義Ⅻ	1	1-0	2・3・4		〃	
	社基901	都市地域計画	2	2-0	3	前	都市の歴史と都市計画の理論と制度の仕組み（規制・誘導・事業）について学ぶ。また、これまでの日本の国土計画の流れとこれからの地域計画の方向性についての知識を習得する。	
	社基902	基礎流体力学	2	2-0	1	後	相対性原理と運動法則の成立，流体力学と自然の中の流れ，流体力学の基礎理論，流体力学の定理，定理と応用，流体の数値計算	
社基903	橋設計論	2	2-0	3	前	橋の歴史，橋の構造形式及びその力学的意味と特性		
社基905	道路交通計画	2	2-0	3	前	道路工学基礎，道路構造令，舗装，交通調査概論，四段階推定法，交通需要マネジメント		

別表(第5条関係)

工学融合科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
工学融合科目(導入科目)	機械991	材料生産工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	材料力学及び機械要素設計の基礎、機械材料及び材料加工学の基礎
	機械992	熱流体工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	流体力学及び流体機械学の基礎、熱力学及び伝熱工学の基礎
	エネ991	エネルギー変換工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	燃焼、蒸気サイクル、冷凍サイクルと空気調和の基礎および伝導、対流、放射伝熱の基礎
	エネ992	環境エネルギー工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	地球環境、環境アセスメント、省エネルギー技術、再生可能エネルギー
	電気991	電気電子工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	電気工学、電子工学、情報通信工学に関する基礎について学ぶ
	電気992	メカトロニクス	2	2-0	3・4	前又は後	メカトロニクスに関わるセンサ、アクチュエータ、サーボモータ、制御システム
	電情991	電気電子工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	電気工学、電子工学、情報通信工学に関する基礎について学ぶ
	電情992	通信工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	有線通信および無線通信に関する基礎について学ぶ
	社基991	基礎流体力学	2	2-0	3・4	後	相対性原理と運動法則の成立、流体力学と自然の中の流れ、流体力学の基礎理論、流体力学の定理、定理と応用、流体の数値計算
	社基992	橋設計論	2	2-0	3・4	前	橋の歴史、橋の構造形式及びその力学的意味と特性
	社基994	道路交通計画	2	2-0	3・4	前	道路工学基礎、道路構造令、舗装、交通調査概論、四段階推定法、交通需要マネジメント
	社基997	都市地域計画	2	2-0	3・4	後	都市の歴史と都市計画の理論と制度の仕組み(規制・誘導・事業)について学ぶ。また、これまでの日本の国土計画の流れとこれからの地域計画の方向性についての知識を習得する。
	社基998	岩盤工学	2	2-0	3・4	後	地殻の構成、岩の力学的特性、破壊・風化メカニズム、海底鉱物資源の種類や採掘法等の各問題に関して、力学的・数理的な解析手法を説明し、実務への展開法について講述する。
	建築991	居住建築概論	2	2-0	3・4	前又は後	住宅をはじめとする人間の居住を支える建築について、建築学に関わる幅広い視点から総合的に学ぶ。
	知能991	コンピュータサイエンス基礎	2	2-0	3・4	前又は後	コンピュータの仕組み、アルゴリズム、プログラミングの解説と演習を通して、コンピュータサイエンスの基礎を習得する。
	知能992	情報システム開発演習	2	2-0	3・4	前又は後	AI機械学習やwebアプリケーション等に関する情報システムの設計とプログラム開発の基礎をチーム演習を通して習得する。

別表(第5条関係)

工学融合科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
工学融合科目 (選択科目)	機械981	機器構造学	2	2-0	3・4	前又は後	機械構造物の例としての航空機などの構造に関する基礎的な理論, 構造力学の基礎
	機械982	亜熱帯材料学	2	2-0	3・4	前又は後	多糖の基礎と構造, バイオベース材料の高機能化, バイオベース材料の加工・化学修飾
	機械983	流体機械学	2	2-0	3・4	前	ターボ機械の分類, 基礎理論, 損失および効率, 相似則, キャビテーション現象, 不安定流動現象, 水撃
	エネ981	エネルギー移動工学	2	2-0	3・4	前又は後	伝導, 対流, 放射伝熱の基礎と自然現象, 工学機器への応用, 定常・非定常熱伝導の理論
	エネ982	腐食防食工学	2	2-0	3・4	前	材料表面性と表面処理, 腐食, 防食の理論と応用
	エネ983	熱機関工学	2	2-0	3・4	前又は後	内燃機関の概要及び歴史, 構造, 熱力学の理論と実際, 出力と効率, 吸・排気系統, ガソリンエンジンとディーゼルエンジン, エンジンと環境問題
	電気981	パワーエレクトロニクス	2	2-0	3・4	後	電力用半導体デバイス, スイッチングデバイス, サイリスタコンバータ, DC/DCコンバータ, スイッチングレギュレータ, インバータ, インバータによる交流電動機の制御
	電気984	電気機器	2	2-0	3・4	前	電気-機械エネルギー変換の基礎, 直流機および変圧器の原理・構造・特性, 制御, 同期機, 誘導機, 整流子機の原理・構造・特性, 制御
	電気985	発電工学	2	2-0	3・4	後	水力発電, 火力発電および原子力発電の原理・構成・特性, 自然エネルギーの利用と発電方式
	電情981	電気電子計測工学I	2	2-0	3・4	前	測定方式, 測定値の処理, 電圧・電流・電力及び回路素子の特性測定法
	電情983	量子力学 I	2	2-0	3・4	前	古典力学の限界と量子力学の誕生, 量子力学の基礎, 自由粒子, 井戸型ポテンシャルと量子井戸, トンネル効果
	社基981	プロジェクトマネジメント	2	2-0	3・4	後	施工管理法(施工計画, 工程管理, 品質管理, 安全管理), 土木施工技術
	社基982	維持管理工学	2	2-0	3・4	後	構造物の機能・性能とメンテナンスの基本, 構造物の劣化現象, 構造物の点検方法および劣化予測・評価の方法, 補修・補強の方法
	社基983	腐食防食と疲労	2	2-0	3・4	後	橋梁, 港湾施設, 発電所施設の維持管理工学概論, 鋼材の腐食メカニズム及び防食メカニズム, 鋼構造の疲労メカニズム及び疲労強度設計
	社基984	減災計画	2	2-0	3・4	後	災害概論, リスクコミュニケーション, 地域防災計画, 地区防災計画, 学校危機管理, 防災教育, 減災計画方法論
	社基985	環境衛生工学	2	2-0	3・4	後	安全で衛生的な生活環境を支える社会基盤にはどのようなものがあるか, また, 人間の活動が地球環境に及ぼす影響について解説し, 持続可能な社会の実現のために必要な技術者としての知識と倫理観について学ぶ。
	建築982	都市デザイン演習	2	3-0	3・4	前	都市デザイン, 地区デザイン, 景観デザインに関する計画・設計の演習を行う。
	建築983	耐震設計概論	2	2-0	3・4	後	地震荷重と耐震設計法, 耐震診断, 耐震補強・補修法など耐震設計の基礎を紹介する。
	建築984	都市および地方計画	2	2-0	3・4	隔年前期	都市および地方計画の調査, 立案, 実施に必要とされる法制度体系を理解し, 実際の計画事例を学ぶ
	知能981	ネットワークセキュリティ	2	2-0	3・4	後	情報セキュリティの仕組み, 攻撃, ファジング, ポリシーと運用, 脅威分析モデル等に関するスキル
知能983	知能ロボット	2	2-0	3・4	後	ロボットの歴史と基本概念, ロボットハードウェアの要素技術, ロボットモーション, ロボットパーセプション, ロボットインテリジェンス	
知能984	データマイニング	2	2-0	3・4	前	機械学習, 統計, 集合知, Webインテリジェンス, 統計, 可視化, パターン抽出, 評価	

卒業要件(社会基盤デザインコース)

1. 共通教育

教養領域

健康運動系科目 ----- 2 単位以上

人文系科目 ----- 2 単位以上

社会系科目 ----- 2 単位以上

自然系科目 ----- 14 単位以上

総合領域

総合科目 ----- 2 単位以上

キャリア関係科目 ----- 2 単位以上

琉大特色・地域創生科目 ----- 2 単位以上

基幹領域

情報関係科目 (日本語表現法入門) ----- 2 単位以上

外国語科目 「大学英語」を含む英語 ----- 8 単位以上

英語以外の一外国語 ----- 4 単位以上

又は、

「大学英語」を含む英語 ----- 12 単位以上

30 単位以上

2. 専門基礎教育

専門基礎科目 ----- 4 単位以上

(先修科目)

(微分積分学ST I, 同 II, 物理学 I, 同 II, 物理学実験)

3. 専門教育

専門科目

(必修)

工学共通科目 ----- 21 単位

コース専門科目 ----- 38.5 単位

(選択)

工学共通科目 ----- 32.5 単位以上

コース専門科目 ----- 32.5 単位以上

工学融合科目 ----- 4 単位以上

96 単位以上

合計 130 単位以上

- ※1 人文および社会系科目からそれぞれ2単位以上、総合領域の中から2単位以上修得しなければならない。自然系科目は2単位まで卒業単位に含めることができる。
- ※2 卒業要件に係る専門基礎科目を、4単位を超えて修得した場合は、※1の要件を満たした上で、2単位を上限として人文・社会系科目または総合領域の単位として卒業単位に含めることができる。
- ※3 他コース専門科目から修得した単位は6単位まで選択科目として卒業単位に含めることができる。
- ※4 外国人学生には琉球大学共通教育等履修規程第8条により次の特例を認める。
 - (1) 共通教育の人文系、社会系、自然系、総合、キャリア関係、琉大特色・地域創生科目のうち4単位まで、日本事情科目で読み替えることができる。
 - (2) 英語以外のひとつの外国語科目(4単位)を日本語科目で読み替えることができる。
- ※5 基礎数学 I, 同 II は卒業要件の単位に含めない。
- ※6 工学融合科目群のうち、1つのコースから選択必修を含む4単位以上を履修する。
- ※7 鋼構造設計演習、コンクリート構造設計演習から1科目以上修得すること。
- ※8 インターンシップ科目は2単位まで(国際インターンシップを含めると4単位まで)を卒業単位に含めることができる。
- ※9 卒業研究を履修するためには、以下の条件をすべて満たす必要がある。
 - ・共通教育、専門基礎教育、専門教育の区別なく、卒業要件を満たすために今後修得しなければならない単位数が、卒業研究を含めて合計20単位以下であること。
 - ・卒業研究 I・II 以外の専門必修の未修得科目数が4科目以下であること。
 - ・社会基盤デザイン実験の単位を修得していること。
 - ・鋼構造設計演習、もしくは、コンクリート構造設計演習の単位を修得していること。
- ※10 「(全教412) 教職実践演習(高)」については、専門科目の選択科目として卒業単位に含めることができる。

GEプログラムとして修得すべき科目リスト

社会基盤デザインコース(社会基盤デザインプログラム)

科目番号	科目名	単位数
工共 321	技術英語Ⅰ	2
工共 322	技術英語Ⅱ	2
工共 421	技術英語Ⅲ	2
工共 324	国際協力論	2
工共 333	地域創生論	2
工共 338	インターンシップⅠ	1
工共 339	インターンシップⅡ	1
工共 340	インターンシップⅢ	2
工共 341	国際インターンシップⅠ	1
工共 441	国際インターンシップⅡ	2
※ESCM11030	インターンシップⅠ	1
※ESCM12010	インターンシップⅡ	1
※ESCM11040	インターンシップⅢ	2
※ESCM12020	インターンシップⅣ	2
※ESCM11020	国際インターンシップⅠ	2
※ESCM13010	国際インターンシップⅡ	2

いずれか、
1科目以上

※は大学院授業科目

社会基盤デザインコース 履修モデル

令和6年度／2024年度

教育分野	1年次		2年次		3年次		4年次		総単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
共通教育	健康運動 選 2								2 (2.0)
		教養領域1 選 2 教養領域2 選 2 教養領域3 選 2 総合領域1 選 2 総合領域2 選 2		教養領域4 選 2 総合領域3 選 2					14 (14.0)
	日本語表現法入門 必 2								2 (2.0)
	大学英語 必 4 第2外国語 I 選 2	英語科目1 選 2 第2外国語 II 選 2	英語科目2 選 2						12 (12.0)
	微積分分学ST I 選 2 物理学 I 選 2	微積分分学ST II 選 2 物理学 II 選 2 物理学実験 選 1							4 (0.0)
専門基礎	キャリアデザイン入門 必 1 工学基礎演習 必 2	工学概論 選 2			キャリアデザイン 必 2 インターンシップ I ※1 選 1 インターンシップ II 選 1 インターンシップ III 選 2 地域創生論 選 GE 2 技術英語 I (記述基礎) 選 GE 2 プログラミング II 選 2	技術者の倫理 必 2 エンジニアリングデザイン演習 必 2 国際協力論※1 選 GE 2 技術英語 II (プレゼン) 選 GE 2 セミナー II 選 1 工業科教育法A 選 2 情報科教育法A 選 2	知的財産権 選 2 品質管理 選 2 産業社会学原論 I 選 2 国際インターンシップ I 選 GE 1 国際インターンシップ II 選 GE 2 技術英語 III (記述応用) 選 GE 2 セミナー I 選 1 卒業研究 I 必 3 職業指導 選 2 工業科教育法B 選 2 情報科教育法B 選 2 総合演習 選 2	地域課題解決実践演習 選 GE 2 経営工学概論 選 2 産業社会学原論 II 選 2 Frontiers of Engineering 選 2 卒業研究 II 必 3 教職実践演習 選 2	24 (21.0)
	工業数学 I 必 2 工業数学 II 必 2	工業数学 III 必 2	確率及び統計 選 2 プログラミング I 選 2 工業数学 IV 選 2						
	基礎数学 I 選 1	基礎数学 II 選 1							
工学共通科目			静定構造力学及び演習 必 3 建設材料科学 I 必 2 社会システム計画学 I 必 2 基礎流体力学 選 2 水理学 I 及び演習 必 3 土質力学 I 及び演習 必 3 情報処理解析法 必 2 測量学 I 必 2 測量学実習 I 必 1.5 建設行政 ※1 選 2	不定定構造力学 必 2 建設材料科学 II 選 2 社会システム計画学 II 必 2 水理学 II 必 2 土質力学 II 必 2 シミュレーション工学 必 2 測量学 II 選 2 測量学実習 II 選 1.5	鋼構造工学 必 2 橋設計論 選 2 コンクリート構造工学 必 2 道路交通計画 選 2 都市地域計画 選 2 海岸工学 必 2 地震工学 必 2 マテリアルズ・インフォマティクス 選 2 社会基盤デザイン実験 必 2	腐食防食と疲労 選 2 鋼構造設計演習 選 2 維持管理工学 選 2 コンクリート構造設計演習 選 2 減災計画 選 2 河川工学 選 2 港湾工学 選 2 岩盤工学 選 2 プロジェクトマネジメント 選 2 環境衛生工学 選 2			68 (38.5)
	工学融合科目					工学融合科目 選 2 工学融合科目 選 2	工学融合科目 選 2 工学融合科目 選 2		
総単位数	19 (19.0)	20 (18.0)	22.5 ※1 (20.5)	19.5 (14.0)	21 ※1 (12.0)	21 (4.0)	4 (3.0)	3 (3.0)	130 (93.5)

備考 は必修科目、 は履修モデルとして選択した選択科目を意味する。 ※1 集中講義を含むことがある。

 はGEに関連する選択科目を示す。

※2 総単位数の下にある () 内の数字は必修科目 (共通教育含む) の単位数を表す。なお、共通教育科目・専門選択科目については履修方法の一例を示している。

建築学コース

•授業科目分類表	1
•教育課程(授業内容)	2
•卒業要件	10
•GE 科目リスト	11
•履修モデル	12

別表（第5条関係）

建築学コース

1. 提供科目

①授業科目分類表

※工学融合科目について、自コースが提供している科目を履修登録することはできない。

分類	科目番号	授業科目名	単位数	必修	分類	科目番号	授業科目名	単位数	必修	
工学共通科目	工共100	工学基礎演習	2		工学融合科目（導入科目）	建築251	構造設計Ⅰ	2	○	
	工共101	キャリアデザイン入門	1	○		建築260	防災工学概論	2	○	
	工共111	工業数学Ⅰ	2	○		建築300	建築生産	2	○	
	工共112	工業数学Ⅱ	2	○		建築301	建築法規	2	○	
	工共114	プログラミングⅠ	2			建築310	建築意匠	2		
	工共118	基礎数学Ⅰ	1			建築311	建築設計製図Ⅲ	3		
	工共119	基礎数学Ⅱ	1			建築312	現代建築思潮	2		
	工共150	工学概論	2			建築313	建築設計製図Ⅳ	3		
	工共211	工業数学Ⅲ	2			建築320	居住地計画	2		
	工共212	工業数学Ⅳ	2			建築321	都市デザイン演習	2		
	工共213	確率及び統計	2			建築322	都市および地方計画	2		
	工共214	プログラミングⅡ	2			建築330	建築設備計画	2	○	
	工共300	技術者の倫理	2			建築331	建築環境工学Ⅱ	2	○	
	工共301	キャリアデザイン	2			建築332	建築環境工学実験	1		
	工共302	エンジニアリングデザイン演習	2	○		建築333	建築環境工学演習	1		
	工共320	Frontiers of Engineering	2			建築334	建築環境設備設計	2		
	工共321	技術英語Ⅰ	2			建築340	建築材料構造実験	1		
	工共322	技術英語Ⅱ	2			建築350	構造設計Ⅱ	2	○	
	工共330	地域課題解決実践演習	2			建築351	耐震設計概論	2		
	工共331	産業社会学原論Ⅰ	2			建築352	建築基礎構造	2		
	工共332	産業社会学原論Ⅱ	2			建築492	建築技術者の倫理	1	○	
	工共333	地域創生論	2				建築学特別講義Ⅰ～Ⅴ	1		
	工共334	国際協力論	2				建築学特別講義Ⅵ～Ⅹ	2		
	工共335	知的財産権	2			工学融合科目（選択科目）	機械991	材料生産工学概論	2	
	工共336	品質管理	2				機械992	熱流体工学概論	2	
	工共337	経営工学概論	2				エネ991	エネルギー変換工学基礎	2	
	工共338	インターンシップⅠ	1				エネ992	環境エネルギー工学概論	2	
	工共339	インターンシップⅡ	1				電気991	電気電子工学基礎	2	
	工共340	インターンシップⅢ	2				電気992	メカトロニクス	2	
	工共341	国際インターンシップⅠ	1				電情991	電気電子工学基礎	2	
	工共351	工業科教育法A	2				電情992	通信工学概論	2	
	工共352	工業科教育法B	2				社基991	基礎流体力学	2	
	工共401	卒業研究Ⅰ	3	○			社基992	橋設計論	2	
	工共402	卒業研究Ⅱ	3	○			社基994	道路交通計画	2	
	工共403	卒業設計または卒業研究Ⅰ	3	○			社基997	都市地域計画	2	
	工共404	卒業設計または卒業研究Ⅱ	3	○			社基998	岩盤工学	2	
	工共405	セミナーⅠ	1				建築991	居住建築概論	2	
	工共406	セミナーⅡ	1				知能991	コンピュータサイエンス基礎	2	
	工共421	技術英語Ⅲ	2			知能992	情報システム開発演習	2		
	工共441	国際インターンシップⅡ	2			機械981	機器構造学	2		
	工共450	職業指導（工業）	2			機械982	亜熱帯材料学	2		
	工共451	情報科教育法A	2			機械983	流体機械学	2		
	工共452	情報科教育法B	2			エネ981	エネルギー移動工学	2		
	工共453	教職総合演習（情報）	2			エネ982	腐食防食工学	2		
	コース専門科目	建築101	建築基礎情報処理	1			エネ983	熱機関工学	2	
建築110		建築デザイン基礎	2	○	電気981	パワーエレクトロニクス	2			
建築150		建築構造力学Ⅰ	3	○	電気984	電気機器	2			
建築151		建築構造力学Ⅱ	3	○	電気985	発電工学	2			
建築200		測量学	2		電情981	電気電子計測工学Ⅰ	2			
建築202		フィールドセミナーⅠ	1		電情983	量子力学Ⅰ	2			
建築203		フィールドセミナーⅡ	1		社基981	プロジェクトマネジメント	2			
建築211		建築設計製図Ⅰ	3	○	社基982	維持管理工学	2			
建築212		建築史概論	2	○	社基983	腐食防食と疲労	2			
建築213		建築設計製図Ⅱ	3	○	社基984	減災計画	2			
建築215		建築計画	2	○	社基985	環境衛生工学	2			
建築220		都市計画	2	○	建築982	都市デザイン演習	2			
建築221		住空間計画	2	○	建築983	耐震設計概論	2			
建築230		建築環境工学Ⅰ	2	○	建築984	都市および地方計画	2			
建築240		建築材料学	2	○	知能981	ネットワークセキュリティ	2			
建築242		環境材料学	2	○	知能983	知能ロボット	2			
建築491		建築概論	2	○	知能984	データマイニング	2			
建築493		建築情報学	2							

別表(第5条関係)

工学共通科目
②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
工学共通科目	工共100	工学基礎演習	2	2-0	1	前	高校から大学への環境変化に伴う自己学習に対する意識改革に加えて、自主性・自律性を高め、専門分野の導入教育により大学で学ぶための素養を身に付ける。	
	工共101	キャリアデザイン入門	1	1-0	1	前	各コースの専門性や身に付けていくべきスキル、ならびに卒業後の進路に関する概説	○
	工共111	工業数学Ⅰ	2	2-0	1	前	行列、連立一次方程式、行列式、ベクトル、固有値など	○
	工共112	工業数学Ⅱ	2	2-0	1	前又は後	1階常微分方程式、2階の同次線形微分方程式、非同次方程式など	○
	工共114	プログラミングⅠ	2	2-0	1・2	前又は後	変数と代入、式、制御文、関数など	
	工共118	基礎数学Ⅰ	1	1-0	1	前	初等関数に関する補習や微分積分法の初歩について演習を行う。専門科目を学ぶ上で必須となる数学の基礎を身につける。	
	工共119	基礎数学Ⅱ	1	1-0	1	後	1変数関数の微分積分学の基本的な計算演習を行う。授業では例題の解答、解説を行い、そのあと受講生各自で演習問題に取り組む。専門科目を学ぶ上で必須となる数学の基礎を身につける。	
	工共150	工学概論	2	2-0	1	後	機械、エネルギー環境、電気、電子、建築、社会基盤、情報分野における工学における基礎知識、技術、考え方を解説する。	
	工共211	工業数学Ⅲ	2	2-0	1・2	前又は後	フーリエ級数、フーリエ積分及び変換、偏微分方程式の解法など	
	工共212	工業数学Ⅳ	2	2-0	2	前又は後	複素数と複素平面、複素数の極形式、複素関数の微分、留数定理、実積分への応用など	
	工共213	確率及び統計	2	2-0	1・2	後	尺度と基本統計量、二項分布、ポアソン分布、一様分布、正規分布、T分布、X ² 分布、点推計・区間推計、仮説検定、適合度検定・独立性検定、回帰分析	
	工共214	プログラミングⅡ	2	2-0	2・3	前又は後	アルゴリズム、数値解法など	
	工共300	技術者の倫理	2	2-0	1・3	前又は後	社会に対する技術者の責任、社会的倫理、道徳の実践、職業観、職業人としての生き方、自己実現、リーダーシップ、技術者の倫理、情報社会の倫理、会社と社会の関係、チームワークと協調性、日本と国際社会の関係	
	工共301	キャリアデザイン	2	2-0	3	前又は後	キャリア形成、技術者のキャリア、職業観協働とコミュニケーション-ビジョン共有、自律的行動と協調、コンセンサスと少数意見、コンセンサスとプロセス、自己理解と他者理解、企業活動とスタートアップ、自己表現と自己実現	
	工共302	エンジニアリングデザイン演習	2	2-0	3	後	班に分かれて協働で課題を設定しそれを解決する能力を養う。課題解決に向けて計画作成と中途の評価・改善を協働で行い、結果を発表する。	○
	工共320	Frontiers of Engineering	2	2-0	3・4	後	英語による様々な工学分野における最近の研究内容等の解説	
	工共321	技術英語Ⅰ	2	2-0	3	前	科学技術分野における英語論文の構成要素(概要、序論、方法、結果、討論/結論)、文法、文章および段落構成	
	工共322	技術英語Ⅱ	2	2-0	3	後	英語による口頭発表やポスター発表のためのプレゼンテーションスキル	
	工共330	地域課題解決実践演習	2	2-0	3・4	後	沖縄の地域課題、課題発見、調査手法と分析手法およびその実践、解決策の立案と検討-網羅性、妥当性、実現可能性協働の実践	

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
工学共通科目	工共331	産業社会学原論Ⅰ	2	2-0	3・4	前	社会的技術者、芸術論、企業経営論、人生観、文明論、多面性、ケース学習	
	工共332	産業社会学原論Ⅱ	2	2-0	3・4	後	先駆的起業家、社会的役割、IT、農業、環境	
	工共333	地域創生論	2	2-0	3	前	沖縄21世紀ビジョン基本計画の中において、工学と関連の深い分野に関する各行政施策の基本的な考え方、しくみ、および関連法規を学び、地域創生に資する公共政策論のあり方を学ぶ。	
	工共334	国際協力論	2	2-0	3	前	主に開発途上段階にある大洋州、東南アジア地域等における、国際協力のあり方と現在実施している事例について学ぶ。講義は座学と国際協力の事例に基づいた実践(ワークショップ)による体験型の学びを重視する。	
	工共335	知的財産権	2	2-0	3・4	前又は後	知的財産権における一連の法律群全体を概観した上で、その中でも特に重要な特許法、実用新案法、著作権法、意匠法、商標法等の基礎について解説する。	
	工共336	品質管理	2	2-0	3・4	後	製品やサービス活動における因果関係を理解し、品質管理の概念・実務を管理図法、統計的手法、抜取検査法の講義・演習を通して解析や問題解決能力を養う。	
	工共337	経営工学概論	2	2-0	3・4	後	経営工学、管理事務、生産管理、IE技法、工程管理、工程分析、在庫管理、品質管理、FA化技術、システム信頼性、性能評価	
	工共338	インターンシップⅠ	1		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共339	インターンシップⅡ	1		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共340	インターンシップⅢ	2		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共341	国際インターンシップⅠ	1		3・4		企業・行政・研究機関・大学等において、英語等日本語以外を用いた国際的な業務や専門知識に関わる実習を行う。	
	工共351	工業科教育法A	2	2-0	3	後	教職課程、工業技術教育、工業高等学校教育、教育関連法令、カリキュラム編成、単元計画、学習指導案、授業設計、授業理論、進路指導	
	工共352	工業科教育法B	2	2-0	4	前	教職課程、工業技術教育、工業高等学校教育、教育評価法、教員研修、資格取得、教員製作	
	工共401	卒業研究Ⅰ	3	0-6	4	前又は後	教員の指導のもとに特定テーマや研究計画を設定して研究を行い、研究成果を発表する。	
	工共402	卒業研究Ⅱ	3	0-6	4	前又は後	教員の指導のもとに特定テーマや研究計画を設定して研究を行い、研究成果を発表する。	
	工共403	卒業設計または卒業研究Ⅰ	3	0-6	4	前又は後	建築学全般に関する理解を深める。設計実践、設計研究、調査研究または実験的研究および解析的研究に関する理解を深め、設計または研究を遂行する。	○
	工共404	卒業設計または卒業研究Ⅱ	3	0-6	4	前又は後	建築学全般に関する理解を深める。設計実践、設計研究、調査研究または実験的研究および解析的研究に関する理解を深め、設計または研究を遂行する。	○
	工共405	セミナーⅠ	1	1-0	3・4	前又は後	各コースの専門分野に関する論文講読および討論	
	工共406	セミナーⅡ	1	1-0	3・4	前又は後	各コースの専門分野に関する論文講読および討論	
	工共421	技術英語Ⅲ	2	2-0	4	前	科学技術分野における英語論文のライティング技術と実践	

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
工学 共通 科目	工共441	国際インターンシップⅡ	2		3・4		企業・行政・研究機関・大学等において、英語等日本語以外を用いた国際的な業務や専門知識に関わる実習を行う。	
	工共450	職業指導(工業)	2	2-0	4	前	進路指導, 就職指導, 自己実現, 主体的職業選択能力, 職業観, 勤労観, 職業構造, 産業社会, 生涯教育, キャリア教育計画	
	工共451	情報科教育法A	2	2-0	3	後	教職課程, 教科情報, 授業設計, 指導法, 教育観, 学習観, 学習指導要領, 情報活用実践力, プレゼンテーション, 評価方法, 学習指導案, 科学的理解, 模擬授業	
	工共452	情報科教育法B	2	2-0	4	前	教職課程, 教科情報, 授業評価, 生徒評価, ルーブリック, ポートフォリオ, 模擬授業	
	工共453	教職総合演習(情報)	2	2-0	4	前	教職課程, 地域社会, 実践的活動, 教員資質, 教育現場, 教育ボランティア, 社会活動, 連携授業	

別表(第5条関係)

建築学コース

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
コース 専門 科目	建築101	建築基礎情報処理	1	2-0	1	前	琉球大学及び学生生活の基礎情報、パソコン操作、インターネット、ワープロ、表計算等の操作法	
	建築110	建築デザイン基礎	2	2-0	1	後	建築デザイン作業の過程で必要となる基礎的な作図法やその考え方について講義し、それらを実際の作業を通して身につける。	○
	建築150	建築構造力学Ⅰ	3	4-0	1	前	構造力学の基礎、力のつりあい、剛体の静力学、材料力学、断面の性質、応力とひずみ	○
	建築151	建築構造力学Ⅱ	3	4-0	1	後	直線部材の変形、直角変位図、仮想仕事の原理、静定構造物の変形、仮想仕事法について講義と演習を行う。	○
	建築200	測量学	2	2-0	2	前	距離・平板・トラバース・水準・スタジア測量、三角測量、測定値の誤差	
	建築202	フィールドセミナーⅠ	1	1-0	2・3・4		建築学の最新の問題又は特定分野に関する演習	
	建築203	フィールドセミナーⅡ	1	1-0	2・3・4		同上	
	建築211	建築設計製図Ⅰ	3	6-0	2	前	建築設計製図に関わる基本演習及び小規模建築物に関わる設計理念に基づく設計演習（住宅コピー、住宅など）	○
	建築212	建築史概論	2	2-0	2	後	日本及び西洋建築の空間的特質を、各時代を代表する具体的建築事例を通して時代背景や構造及び意匠的側面から解説	○
	建築213	建築設計製図Ⅱ	3	6-0	2	後	中規模建築物に関わる設計理念に基づく設計演習（文化施設、集住施設、宿泊施設など）	○
	建築215	建築計画	2	2-0	2	前	各種建築物の計画について、機能、空間、構造、構法、設備などのキーワードを用い、合理的根拠にもとづいた建築計画の要点を講義する。	○
	建築220	都市計画	2	2-0	2	前	都市の実態と課題、都市空間の目標の設定と実現の方法、土地利用と建築のコントロール、都市施設と市街地開発について講義する。	○
	建築221	住空間計画	2	2-0	2	後	住宅および地域の生活空間の歴史、地域性、住生活論、集住空間の特性と住空間の計画の基本的考え方について講義する。	○
	建築230	建築環境工学Ⅰ	2	2-0	2	後	建築環境の概論、建築音響、日照と日射、建築光環境	○
	建築240	建築材料学	2	2-0	2	前	建物を構成する材料について、コンクリート材料を主として、木材、ガラス、石材、鋼材について講義する。	○
	建築242	環境材料学	2	2-0	2	後	循環型社会構築に資するよう、建築材料の耐久性、リサイクルについて学び、さらに仕上材や機能付与材料について学ぶ。	○
	建築251	構造設計Ⅰ	2	2-0	2	後	鉄筋コンクリート構造の基本事項、はり・柱・スラブ・耐震壁などの力学性状、およびその許容応力度設計法について講義を行う。	○
	建築260	防災工学概論	2	2-0	2	後	構造設計法、安全性と信頼性、極値統計、地震・津波、強風、積雪、火災、都市防災	○
	建築300	建築生産	2	2-0	3	前	施工計画、各種建築工事の施工法	○
	建築301	建築法規	2	2-0	3	後	建築基準法、同施行令および都市計画法の概説	○
建築310	建築意匠	2	2-0	3	前	今日の建造物の造形意匠を理解する上で最も基礎となる近代建築に関する意匠の諸相を中心に建築運動の主要な流れと作品の特色を講義		

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
コース 専門 科目	建築311	建築設計製図Ⅲ	3	6-0	3	前	公共建築物に関わる設計理念に基づく設計演習（コミュニティ施設、複合施設など）	
	建築312	現代建築思潮	2	2-0	3	後	国内外の現代建築の動向に関して、トピックごとに重要なキーワードと理念を解説しながら、具体的事例を通して講義を行う。	
	建築313	建築設計製図Ⅳ	3	6-0	3	後	大規模建築物に関わる設計理念に基づく設計演習（教育施設、都市関連施設、商業施設など）	
	建築320	居住地計画	2	2-0	3	前	居住地の歴史的形成過程と地域生活空間の課題、開発および改善計画について講義する。	
	建築321	都市デザイン演習	2	3-0	3	前	都市デザイン、地区デザイン、景観デザインに関する計画・設計の演習を行う。	
	建築322	都市および地方計画	2	2-0	3	隔年 前期	都市および地方計画の調査、立案、実施に必要なとされる法制度体系を理解し、実際の計画事例を学ぶ。	
	建築330	建築設備計画	2	2-0	3	前	電気設備、給排水・衛生設備、空気調和設備、防災設備、情報設備、保全・管理の基本的な考え方と事例	○
	建築331	建築環境工学Ⅱ	2	2-0	3	前	建築の空調設計等の基礎となる熱環境及び換気や空気質維持のための空気環境に関する基礎的な知識とその実用への適用を理解する。	○
	建築332	建築環境工学実験	1	0-3	3	前	建築環境における熱や空気の流れ等の基礎的な現象を実験を通して理解する。	
	建築333	建築環境工学演習	1	2-0	3	後	主として室内環境の基本的な音、熱、光に関する計算及び設計演習	
	建築334	建築環境設備設計	2	2-0	3	後	建築環境工学及び建築設備の適応な応用に基づいて、高品質の建築環境を設計するための環境問題に対する解決策を考える。	
	建築340	建築材料構造実験	1	0-3	3	後	現代の建築・土木構造物に使用されている主な構造材料であるコンクリートや鉄鋼の基本的特性を、実験を通して理解する。	
	建築350	構造設計Ⅱ	2	2-0	3	前	鉄骨造の許容応力度設計法、高力ボルト接合、溶接接合、木材の性質、在来軸組構法、壁量、集成材	○
	建築351	耐震設計概論	2	2-0	3	後	地震荷重と耐震設計法、耐震診断、耐震補強・補修法など耐震設計の基礎を紹介する。	
	建築352	建築基礎構造	2	2-0	3	後	土圧理論、山留及び地下壁に作用する土圧、直接基礎について学ぶ。	

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
コース専門科目	建築481	建築学特別講義Ⅰ	1	1-0	2・3・4	前又は後	建築学コースに関する最新の問題又は特定分野に関する講義	
	建築482	建築学特別講義Ⅱ	1	1-0	2・3・4	前又は後	〃	
	建築483	建築学特別講義Ⅲ	1	1-0	2・3・4	前又は後	〃	
	建築484	建築学特別講義Ⅳ	1	1-0	2・3・4	前又は後	〃	
	建築485	建築学特別講義Ⅴ	1	1-0	2・3・4	前又は後	〃	
	建築486	建築学特別講義Ⅵ	2	1-0	2・3・4	前又は後	〃	
	建築487	建築学特別講義Ⅶ	2	2-0	2・3・4	前又は後	〃	
	建築488	建築学特別講義Ⅷ	2	2-0	2・3・4	前又は後	〃	
	建築489	建築学特別講義Ⅸ	2	2-0	2・3・4	前又は後	〃	
	建築490	建築学特別講義Ⅹ	2	2-0	2・3・4	前又は後	〃	
	建築491	建築概論	2	2-0	1	前	建築学の概要に関する入門的な講義を行う。	○
	建築492	建築技術者の倫理	1	1-0	4	前	建築技術者に求められる倫理について、建築分野別の課題や事例を踏まえて講述する。	○
	建築493	建築情報学	2	2-0	3	後	建築学および工学に関連したデータ解析の基礎理論および各種数値解析手法の原理を講述する。また、Pythonを使った基礎的なプログラムを作成する。	

別表(第5条関係)

工学融合科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
工学融合科目(導入科目)	機械991	材料生産工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	材料力学及び機械要素設計の基礎、機械材料及び材料加工学の基礎
	機械992	熱流体工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	流体力学及び流体機械学の基礎、熱力学及び伝熱工学の基礎
	エネ991	エネルギー変換工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	燃焼、蒸気サイクル、冷凍サイクルと空調和の基礎および伝導、対流、放射伝熱の基礎
	エネ992	環境エネルギー工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	地球環境、環境アセスメント、省エネルギー技術、再生可能エネルギー
	電気991	電気電子工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	電気工学、電子工学、情報通信工学に関する基礎について学ぶ
	電気992	メカトロニクス	2	2-0	3・4	前又は後	メカトロニクスに関わるセンサ、アクチュエータ、サーボモータ、制御システム
	電情991	電気電子工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	電気工学、電子工学、情報通信工学に関する基礎について学ぶ
	電情992	通信工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	有線通信および無線通信に関する基礎について学ぶ
	社基991	基礎流体力学	2	2-0	3・4	後	相対性原理と運動法則の成立、流体力学と自然の中の流れ、流体力学の基礎理論、流体力学の定理、定理と応用、流体の数値計算
	社基992	橋設計論	2	2-0	3・4	前	橋の歴史、橋の構造形式及びその力学的意味と特性
	社基994	道路交通計画	2	2-0	3・4	前	道路工学基礎、道路構造令、舗装、交通調査概論、四段階推定法、交通需要マネジメント
	社基997	都市地域計画	2	2-0	3・4	後	都市の歴史と都市計画の理論と制度の仕組み(規制・誘導・事業)について学ぶ。また、これまでの日本の国土計画の流れとこれからの地域計画の方向性についての知識を習得する。
	社基998	岩盤工学	2	2-0	3・4	後	地殻の構成、岩の力学的特性、破壊・風化メカニズム、海底鉱物資源の種類や採掘法等の各問題に関して、力学的・数理的な解析手法を説明し、実務への展開法について講述する。
	建築991	居住建築概論	2	2-0	3・4	前又は後	住宅をはじめとする人間の居住を支える建築について、建築学に関わる幅広い視点から総合的に学ぶ。
	知能991	コンピュータサイエンス基礎	2	2-0	3・4	前又は後	コンピュータの仕組み、アルゴリズム、プログラミングの解説と演習を通して、コンピュータサイエンスの基礎を習得する。
	知能992	情報システム開発演習	2	2-0	3・4	前又は後	AI機械学習やwebアプリケーション等に関する情報システムの設計とプログラム開発の基礎をチーム演習を通して習得する。

別表(第5条関係)

工学融合科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
工学融合科目 (選択科目)	機械981	機器構造学	2	2-0	3・4	前又は後	機械構造物の例としての航空機などの構造に関する基礎的な理論, 構造力学の基礎
	機械982	亜熱帯材料学	2	2-0	3・4	前又は後	多糖の基礎と構造, バイオベース材料の高機能化, バイオベース材料の加工・化学修飾
	機械983	流体機械学	2	2-0	3・4	前	ターボ機械の分類, 基礎理論, 損失および効率, 相似則, キャビテーション現象, 不安定流動現象, 水撃
	エネ981	エネルギー移動工学	2	2-0	3・4	前又は後	伝導, 対流, 放射伝熱の基礎と自然現象, 工学機器への応用, 定常・非定常熱伝導の理論
	エネ982	腐食防食工学	2	2-0	3・4	前	材料表面性と表面処理, 腐食, 防食の理論と応用
	エネ983	熱機関工学	2	2-0	3・4	前又は後	内燃機関の概要及び歴史, 構造, 熱力学の理論と実際, 出力と効率, 吸・排気系統, ガソリンエンジンとディーゼルエンジン, エンジンと環境問題
	電気981	パワーエレクトロニクス	2	2-0	3・4	後	電力用半導体デバイス, スイッチングデバイス, サイリスタコンバータ, DC/DCコンバータ, スイッチングレギュレータ, インバータ, インバータによる交流電動機の制御
	電気984	電気機器	2	2-0	3・4	前	電気-機械エネルギー変換の基礎, 直流機および変圧器の原理・構造・特性, 制御, 同期機, 誘導機, 整流子機の原理・構造・特性, 制御
	電気985	発電工学	2	2-0	3・4	後	水力発電, 火力発電および原子力発電の原理・構成・特性, 自然エネルギーの利用と発電方式
	電情981	電気電子計測工学I	2	2-0	3・4	前	測定方式, 測定値の処理, 電圧・電流・電力及び回路素子の特性測定法
	電情983	量子力学 I	2	2-0	3・4	前	古典力学の限界と量子力学の誕生, 量子力学の基礎, 自由粒子, 井戸型ポテンシャルと量子井戸, トンネル効果
	社基981	プロジェクトマネジメント	2	2-0	3・4	後	施工管理法(施工計画, 工程管理, 品質管理, 安全管理), 土木施工技術
	社基982	維持管理工学	2	2-0	3・4	後	構造物の機能・性能とメンテナンスの基本, 構造物の劣化現象, 構造物の点検方法および劣化予測・評価の方法, 補修・補強の方法
	社基983	腐食防食と疲労	2	2-0	3・4	後	橋梁, 港湾施設, 発電所施設の維持管理工学概論, 鋼材の腐食メカニズム及び防食メカニズム, 鋼構造の疲労メカニズム及び疲労強度設計
	社基984	減災計画	2	2-0	3・4	後	災害概論, リスクコミュニケーション, 地域防災計画, 地区防災計画, 学校危機管理, 防災教育, 減災計画方法論
	社基985	環境衛生工学	2	2-0	3・4	後	安全で衛生的な生活環境を支える社会基盤にはどのようなものがあるか, また, 人間の活動が地球環境に及ぼす影響について解説し, 持続可能な社会の実現のために必要な技術者としての知識と倫理観について学ぶ。
	建築982	都市デザイン演習	2	3-0	3・4	前	都市デザイン, 地区デザイン, 景観デザインに関する計画・設計の演習を行う。
	建築983	耐震設計概論	2	2-0	3・4	後	地震荷重と耐震設計法, 耐震診断, 耐震補強・補修法など耐震設計の基礎を紹介する。
	建築984	都市および地方計画	2	2-0	3・4	隔年前期	都市および地方計画の調査, 立案, 実施に必要とされる法制度体系を理解し, 実際の計画事例を学ぶ
	知能981	ネットワークセキュリティ	2	2-0	3・4	後	情報セキュリティの仕組み, 攻撃, ファジング, ポリシーと運用, 脅威分析モデル等に関するスキル
知能983	知能ロボット	2	2-0	3・4	後	ロボットの歴史と基本概念, ロボットハードウェアの要素技術, ロボットモーション, ロボットパーセプション, ロボットインテリジェンス	
知能984	データマイニング	2	2-0	3・4	前	機械学習, 統計, 集合知, Webインテリジェンス, 統計, 可視化, パターン抽出, 評価	

卒業要件(建築学コース)

1. 共通教育

教養領域

健康運動系科目	-----	2 単位以上	} ----- 30 単位以上 ※2
人文系科目	-----	2 単位以上	
社会系科目	-----	2 単位以上	
自然系科目	-----	2 単位以上	
総合領域		14 単位以上	
総合科目	-----	※1	
キャリア関係科目	-----	2 単位以上	
琉大特色・地域創生科目	-----	2 単位以上	
基幹領域			
情報関係科目	(日本語表現法入門) -----	2 単位以上	
外国語科目	「大学英語」を含む英語 -----	8 単位以上	} ----- 12 単位以上
	英語以外の一外国語 -----	4 単位以上	
	又は, 「大学英語」を含む英語 -----	12 単位以上	

2. 専門基礎教育

専門基礎科目 (先修科目)	(微分積分学ST I, 同 II, 物理学 I, 物理学実験)	-----	7 単位以上 ※3
------------------	---------------------------------	-------	--------------

3. 専門教育

専門科目

(必修)				} ----- 93 単位以上
工学共通科目	-----	13 単位	} ----- 35 単位以上	
		※4		
コース専門科目	-----	45 単位		
(選択)				
工学共通科目	-----	31 単位以上	} ----- 35 単位以上	
コース専門科目	-----	※5,6,7		
工学融合科目	-----	4 単位以上		

合計 130 単位以上
※8

- ※1 人文系, 社会系, 総合, キャリア関係, 琉大特色・地域創生科目で合計12単位以上履修しなければならない。
- ※2 琉球大学学則第58条により入学した外国人学生にあつては, 琉球大学共通教育等履修規程第8条により次の特例を認める。
(1) 共通教育の人文系, 社会系, 自然系, 総合, キャリア関係, 琉大特色・地域創生科目のうち4単位まで, 日本事情科目で読み替えることができる。
(2) 第2外国語(4単位以上)を日本語科目で読み替えることができる。
- ※3 卒業要件を越えて履修した専門基礎科目のうち2単位までを専門科目として卒業単位に含めることができる。
- ※4 「工業科教育法A」、「工業科教育法B」、「職業指導」の3科目については, 卒業単位には含めない。
- ※5 建築学コースが認める他学部の科目を4単位まで専門科目として卒業単位に含めることができる。専門基礎科目、工学科他コースの専門科目およびコースで認められた他学部の科目の合計10単位までを専門科目として卒業単位に含めることができる。
- ※6 「(全教412) 教職実践演習(高)」については, 専門科目の選択科目として卒業単位に含めることができる。
- ※7 建築環境工学実験, 建築材料構造実験から1科目以上必ず履修しなければならない。
- ※8 卒業設計又は卒業研究を履修登録するためには, 卒業要件を満たすために今後取得しなければならない単位数が, 卒業設計又は卒業研究を含めて合計24単位以下であること。

GE プログラムとして修得すべき科目リスト

建築学コース(建築学プログラム)

必修科目	科目番号	科目名	単位数
	工共 321	技術英語 I	2
	工共 322	技術英語 II	2
	工共 323	技術英語 III	2
	工共 333	地域創生論	2
	工共 334	国際協力論	2
指定科目	科目番号	科目名	単位数
	建築 202	フィールドセミナー I	1
	建築 203	フィールドセミナー II	1
	建築 310	建築意匠	2
	建築 312	現代建築思潮	2
	建築 320	居住地計画	2
	建築 321	都市デザイン演習	2
	建築 322	都市及び地方計画	2
	建築 334	建築環境設備設計	2
	建築 351	耐震設計概論	2
	建築 352	建築基礎構造	2
工共 338	インターンシップ I	1	
工共 339	インターンシップ II	1	
工共 340	インターンシップ III	2	
工共 341	国際インターンシップ I	1	
工共 441	国際インターンシップ II	2	
※ESCM11030	インターンシップ I	1	
※ESCM12010	インターンシップ II	1	
※ESCM11040	インターンシップ III	2	
※ESCM12020	インターンシップ IV	2	
※ESCM11020	国際インターンシップ I	2	
※ESCM13010	国際インターンシップ II	2	
備考) GE プログラムとしての学部において修得すべき科目は、 上記に示す必修科目 10 単位と、指定科目の中から 2 単位 以上、インターンシップ科目から 1 科目以上の計 13 単位 以上である。			

2 単位以上

いずれか、
1 科目以上

※は大学院授業科目

※は大学院授業科目

建築学コース 履修モデル

令和6年度 / 2024年度

教育分野	1年次		2年次		3年次		4年次		総単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
共通教育	教養領域		健康運動 選 2						2 (0.0)
	総合領域		教養領域1 選 2	総合領域1 選 2	教養領域2 選 2	教養領域3 選 2	教養領域4 選 2	総合領域3 選 2	14 (0.0)
	基礎領域	日本語表現法入門 必 2							2 (2.0)
		大学英语 必 4	英語科目1 選 2	英語科目2 選 2 第2外国語 I 選 2	第2外国語 II 選 2				12 (4.0)
専門基礎	微分積分学ST I 必 2 物理学 I 必 2 物理学実験 必 1	微分積分学ST II 必 2 物理学 II 選 2							7 (7.0)
	キャリアデザイン入門 必 1 工学基礎演習 選 2 工業数学 I 必 2 基礎数学 I 選 1	工学概論 選 2 工業数学 II 必 2 基礎数学 II 選 1 確率及び統計 選 2 プログラミング I 選 2	インターンシップ I 選 GE 1 インターンシップ II 選 GE 1 インターンシップ III 選 GE 2 工業数学 III 選 2 プログラミング II 選 2	工業数学 IV 選 2	キャリアデザイン 選 2 国際インターンシップ I 選 GE 1 国際インターンシップ II 選 GE 2 地域創生論 ^{※1} 選 GE 2 産業社会学原論 I 選 2 技術英語 I (記述基礎) 選 GE 2 知的財産権 選 2 品質管理 選 2 技術者の倫理 選 2	エンジニアリングデザイン演習 必 2 Frontiers of Engineering 選 2 国際協力論 ^{※1} 選 GE 2 産業社会学原論 II 選 2 技術英語 II (プレゼン) 選 GE 2 工業科教育法 A 選 2 経営工学概論 選 2 セミナー I 選 1	技術英語 III (記述応用) 選 GE 2 職業指導 選 2 工業科教育法 B 選 2 卒業設計または卒業研究 I 必 3 卒業設計または卒業研究 II 必 3 セミナー II 選 1		13 (13.0)
工学共通科目	建築概論 必 2 建築基礎情報処理 選 1	建築デザイン基礎 必 2	建築設計製図 I 必 3 建築計画 必 2 都市計画 必 2	建築設計製図 II 必 3 建築史概論 必 2 住空間計画 必 2 建築環境工学 I 必 2 構造設計 I 必 2 環境材料学 必 2 防災工学概論 必 2 測量学 選 2 フィールド・セミナー I 選 GE 1	建築生産 必 2 建築設計製図 III 選 3 建築意匠 選 GE 2 居住地計画 選 GE 2 都市デザイン演習 選 GE 2 ★都市及び地方計画 選 GE 2 建築環境工学 II 必 2 建築設備計画 必 2 建築環境工学実験 ^{※3} 選 1 構造設計 II 必 2	建築法規 必 2 現代建築思潮 選 GE 2 建築環境工学演習 選 1 建築環境設備設計 選 GE 2 建築材料構造実験 ^{※3} 選 1 耐震設計概論 選 GE 2 建築基礎構造 選 GE 2 建築情報学 選 2	建築技術者の倫理 必 1		76 (45.0)
	工学融合科目				工学融合導入科目 選 2 工学融合科目 選 2	工学融合科目 選 2 工学融合科目 選 2			4 (0.0)
総単位数	20 (19.0)	20 (9.0)	20 (9.0)	20 (15.0)	20 (8.0)	16 (4.0)	9 (4.0)	5 (3.0)	130 (71.0)
備考	<p>□ は必修科目, □ は, GE指定科目, 一般は選択科目を示す。 ★は隔年開講科目</p> <p>※1 集中講義(地域創生論(2単位), 国際協力論(2単位))を含むことがある。 ※2 総単位数の下にある()内の数字は必修科目(共通教育含む)の単位数を表す。なお, 共通教育科目・専門選択科目については履修方法の一例を示している。 ※3 建築環境工学実験, 建築材料構造実験から1科目以上必ず履修すること。</p>								

知能情報コース

•授業科目分類表	1
•教育課程(授業内容)	2
•卒業要件	10
•GE科目リスト	12
•履修モデル	13

別表（第5条関係）

知能情報コース

1. 提供科目

①授業科目分類表

※工学融合科目について、自コースが提供している科目を履修登録することはできない。

分類	科目番号	授業科目名	単位数	必修	分類	科目番号	授業科目名	単位数	必修
工学共通科目	工共100	工学基礎演習	2	○	工学融合科目（導入科目）	知能229	知能情報基礎演習Ⅳ	1	○
	工共101	キャリアデザイン入門	1	○		知能301	知能情報総合実験	2	○
	工共111	工業数学Ⅰ	2	○		知能302	AIoTメディアコンピューティング	2	
	工共112	工業数学Ⅱ	2	○		知能321	ソフトウェア工学	2	
	工共114	プログラミングⅠ	2	○		知能322	数理計画とアルゴリズム	2	
	工共118	基礎数学Ⅰ	1			知能323	並列分散処理	2	
	工共119	基礎数学Ⅱ	1			知能326	機械学習	2	
	工共150	工学概論	2			知能327	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	
	工共211	工業数学Ⅲ	2			知能327	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	
	工共212	工業数学Ⅳ	2			知能329	デジタル制御論	2	
	工共213	確率及び統計	2			知能330	画像処理	2	
	工共214	プログラミングⅡ	2	○		知能331	ネットワークセキュリティ	2	
	工共300	技術者の倫理	2	○		知能332	知能ロボット	2	
	工共301	キャリアデザイン	2	○		知能333	コレクティブインテリジェンス	2	
	工共302	エンジニアリングデザイン演習	2	○		知能334	データマイニング	2	
	工共320	Frontiers of Engineering	2			知能338	ソフトウェア開発演習Ⅱ	2	
	工共321	技術英語Ⅰ	2			知能339	ソフトウェア開発演習Ⅲ	2	
	工共322	技術英語Ⅱ	2			知能421	ICT実践英語Ⅰ	2	
	工共330	地域課題解決実践演習	2			知能422	ICT実践英語Ⅱ	2	
	工共331	産業社会学原論Ⅰ	2			知能481	情報技術演習Ⅰ	2	
	工共332	産業社会学原論Ⅱ	2			知能482	情報技術演習Ⅱ	2	
	工共333	地域創生論	2			知能483	情報技術演習Ⅲ	1	
	工共334	国際協力論	2			知能484	情報技術演習Ⅳ	1	
	工共335	知的財産権	2			知能491	知能情報特別講義Ⅰ	2	
	工共336	品質管理	2			知能492	知能情報特別講義Ⅱ	2	
	工共337	経営工学概論	2			知能493	知能情報特別講義Ⅲ	1	
	工共338	インターンシップⅠ	1			知能494	知能情報特別講義Ⅳ	1	
	工共339	インターンシップⅡ	1						
	工共340	インターンシップⅢ	2			機械991	材料生産工学概論	2	
	工共341	国際インターンシップⅠ	1			機械992	熱流体工学概論	2	
	工共351	工業科教育法A	2			エネ991	エネルギー変換工学基礎	2	
	工共352	工業科教育法B	2			エネ992	環境エネルギー工学概論	2	
	工共401	卒業研究Ⅰ	3	○		電気991	電気電子工学基礎	2	
	工共402	卒業研究Ⅱ	3	○		電気992	メカトロニクス	2	
	工共403	卒業設計または卒業研究Ⅰ	3			電情991	電気電子工学基礎	2	
	工共404	卒業設計または卒業研究Ⅱ	3			電情992	通信工学概論	2	
	工共405	セミナーⅠ	1	○		社基991	基礎流体力学	2	
	工共406	セミナーⅡ	1	○		社基992	橋設計論	2	
	工共421	技術英語Ⅲ	2			社基994	道路交通計画	2	
	工共441	国際インターンシップⅡ	2			社基997	都市地域計画	2	
	工共450	職業指導(工業)	2			社基998	岩盤工学	2	
	工共451	情報科教育法A	2			建築991	居住建築概論	2	
	工共452	情報科教育法B	2			知能991	コンピュータサイエンス基礎	2	
	工共453	教職総合演習(情報)	2			知能992	情報システム開発演習	2	
	コース専門科目	知能101	プログラミング演習Ⅰ	1		○	機械981	機器構造学	2
知能102		プログラミング演習Ⅱ	1	○	機械982	亜熱帯材料学	2		
知能103		離散数学	2	○	機械983	流体機械学	2		
知能203		アルゴリズムとデータ構造	2	○	エネ981	エネルギー移動工学	2		
知能204		情報ネットワークⅠ	2	○	エネ982	腐食防食工学	2		
知能205		コンピュータシステム	2	○	エネ983	熱機関工学	2		
知能206		データサイエンス基礎	4	○	電気981	パワーエレクトロニクス	2		
知能207		プロジェクトデザイン	2	○	電気984	電気機器	2		
知能208		オペレーティングシステム	2	○	電気985	発電工学	2		
知能209		コンピュータアーキテクチャ	2	○	電情981	電気電子計測工学Ⅰ	2		
知能210		データベースシステム	2	○	電情983	量子力学Ⅰ	2		
知能211		人工知能	2	○	社基981	プロジェクトマネジメント	2		
知能212		ソフトウェア開発演習Ⅰ	2	○	社基982	維持管理工学	2		
知能213		知能情報基礎演習Ⅰ	1	○	社基983	腐食防食と疲労	2		
知能214		知能情報基礎演習Ⅱ	1	○	社基984	減災計画	2		
知能221		デジタル回路	2		社基985	環境衛生工学	2		
知能222		情報処理技術概論	2		建築982	都市デザイン演習	2		
知能223		情報ネットワークⅡ	2		建築983	耐震設計概論	2		
知能226		デジタル信号処理	2		建築984	都市および地方計画	2		
知能227		情報理論	2		知能981	ネットワークセキュリティ	2		
知能228	知能情報基礎演習Ⅲ	1	○	知能983	知能ロボット	2			
					知能984	データマイニング	2		

別表(第5条関係)

工学共通科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
工学共通科目	工共100	工学基礎演習	2	2-0	1	前	高校から大学への環境変化に伴う自己学習に対する意識改革に加えて、自主性・自律性を高め、専門分野の導入教育により大学で学ぶための素養を身に付ける。	○
	工共101	キャリアデザイン入門	1	1-0	1	前	各コースの専門性や身に付けていくべきスキル、ならびに卒業後の進路に関する概説	○
	工共111	工業数学Ⅰ	2	2-0	1	前	行列、連立一次方程式、行列式、ベクトル、固有値など	○
	工共112	工業数学Ⅱ	2	2-0	1	前又は後	1階常微分方程式、2階の同次線形微分方程式、非同次方程式など	○
	工共114	プログラミングⅠ	2	2-0	1・2	前又は後	変数と代入、式、制御文、関数など	○
	工共118	基礎数学Ⅰ	1	1-0	1	前	初等関数に関する補習や微分積分法の初歩について演習を行う。専門科目を学ぶ上で必須となる数学の基礎を身につける。	
	工共119	基礎数学Ⅱ	1	1-0	1	後	1変数関数の微分積分学の基本的な計算演習を行う。授業では例題の解答、解説を行い、そのあと受講生各自で演習問題に取り組む。専門科目を学ぶ上で必須となる数学の基礎を身につける。	
	工共150	工学概論	2	2-0	1	後	機械、エネルギー環境、電気、電子、建築、社会基盤、情報分野における工学における基礎知識、技術、考え方を解説する。	
	工共211	工業数学Ⅲ	2	2-0	1・2	前又は後	フーリエ級数、フーリエ積分及び変換、偏微分方程式の解法など	
	工共212	工業数学Ⅳ	2	2-0	2	前又は後	複素数と複素平面、複素数の極形式、複素関数の微分、留数定理、実積分への応用など	
	工共213	確率及び統計	2	2-0	1・2	後	尺度と基本統計量、二項分布、ポアソン分布、一様分布、正規分布、T分布、X ² 分布、点推計・区間推計、仮説検定、適合度検定・独立性検定、回帰分析	
	工共214	プログラミングⅡ	2	2-0	2・3	前又は後	アルゴリズム、数値解法など	○
	工共300	技術者の倫理	2	2-0	1・3	前又は後	社会に対する技術者の責任、社会的倫理、道徳の実践、職業観、職業人としての生き方、自己実現、リーダーシップ、技術者の倫理、情報社会の倫理、会社と社会の関係、チームワークと協調性、日本と国際社会の関係	○
	工共301	キャリアデザイン	2	2-0	3	前又は後	キャリア形成、技術者のキャリア、職業観協働とコミュニケーション-ビジョン共有、自律的行動と協調、コンセンサスと少数意見、コンセンサスとプロセス、自己理解と他者理解、企業活動とスタートアップ、自己表現と自己実現	○
	工共302	エンジニアリングデザイン演習	2	2-0	3	後	班に分かれて協働で課題を設定しそれを解決する能力を養う。課題解決に向けて計画作成と中途の評価・改善を協働で行い、結果を発表する。	○
	工共320	Frontiers of Engineering	2	2-0	3・4	後	英語による様々な工学分野における最近の研究内容等の解説	
	工共321	技術英語Ⅰ	2	2-0	3	前	科学技術分野における英語論文の構成要素(概要、序論、方法、結果、討論/結論)、文法、文章および段落構成	
	工共322	技術英語Ⅱ	2	2-0	3	後	英語による口頭発表やポスター発表のためのプレゼンテーションスキル	
	工共330	地域課題解決実践演習	2	2-0	3・4	後	沖縄の地域課題、課題発見、調査手法と分析手法およびその実践、解決策の立案と検討-網羅性、妥当性、実現可能性協働の実践	

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
工学 共通 科目	工共331	産業社会学原論Ⅰ	2	2-0	3・4	前	社会的技術者、芸術論、企業経営論、人生観、文明論、多面性、ケース学習	
	工共332	産業社会学原論Ⅱ	2	2-0	3・4	後	先駆的起業家、社会的役割、IT、農業、環境	
	工共333	地域創生論	2	2-0	3	前	沖縄21世紀ビジョン基本計画の中において、工学と関連の深い分野に関する各行政施策の基本的な考え方、しくみ、および関連法規を学び、地域創生に資する公共政策論のあり方を学ぶ。	
	工共334	国際協力論	2	2-0	3	前	主に開発途上段階にある大洋州、東南アジア地域等における、国際協力のあり方と現在実施している事例について学ぶ。講義は座学と国際協力の事例に基づいた実践(ワークショップ)による体験型の学びを重視する。	
	工共335	知的財産権	2	2-0	3・4	前又は後	知的財産権における一連の法律群全体を概観した上で、その中でも特に重要な特許法、実用新案法、著作権法、意匠法、商標法等の基礎について解説する。	
	工共336	品質管理	2	2-0	3・4	後	製品やサービス活動における因果関係を理解し、品質管理の概念・実務を管理図法、統計的手法、抜取検査法の講義・演習を通して解析や問題解決能力を養う。	
	工共337	経営工学概論	2	2-0	3・4	後	経営工学、管理事務、生産管理、IE技法、工程管理、工程分析、在庫管理、品質管理、FA化技術、システム信頼性、性能評価	
	工共338	インターンシップⅠ	1		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共339	インターンシップⅡ	1		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共340	インターンシップⅢ	2		2・3・4		官公庁および企業等における現場実習	
	工共341	国際インターンシップⅠ	1		3・4		企業・行政・研究機関・大学等において、英語等日本語以外を用いた国際的な業務や専門知識に関わる実習を行う。	
	工共351	工業科教育法A	2	2-0	3	後	教職課程、工業技術教育、工業高等学校教育、教育関連法令、カリキュラム編成、単元計画、学習指導案、授業設計、授業理論、進路指導	
	工共352	工業科教育法B	2	2-0	4	前	教職課程、工業技術教育、工業高等学校教育、教育評価法、教員研修、資格取得、教員製作	
	工共401	卒業研究Ⅰ	3	0-6	4	前又は後	教員の指導のもとに特定テーマや研究計画を設定して研究を行い、研究成果を発表する。	○
	工共402	卒業研究Ⅱ	3	0-6	4	前又は後	教員の指導のもとに特定テーマや研究計画を設定して研究を行い、研究成果を発表する。	○
	工共403	卒業設計または卒業研究Ⅰ	3	0-6	4	前又は後	建築学全般に関する理解を深める。設計実践、設計研究、調査研究または実験的研究および解析的研究に関する理解を深め、設計または研究を遂行する。	
	工共404	卒業設計または卒業研究Ⅱ	3	0-6	4	前又は後	建築学全般に関する理解を深める。設計実践、設計研究、調査研究または実験的研究および解析的研究に関する理解を深め、設計または研究を遂行する。	
	工共405	セミナーⅠ	1	1-0	3・4	前又は後	各コースの専門分野に関する論文講読および討論	○
	工共406	セミナーⅡ	1	1-0	3・4	前又は後	各コースの専門分野に関する論文講読および討論	○
	工共421	技術英語Ⅲ	2	2-0	4	前	科学技術分野における英語論文のライティング技術と実践	

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
工学 共通 科目	工共441	国際インターンシップⅡ	2		3・4		企業・行政・研究機関・大学等において、英語等日本語以外を用いた国際的な業務や専門知識に関わる実習を行う。	
	工共450	職業指導(工業)	2	2-0	4	前	進路指導, 就職指導, 自己実現, 主体的職業選択能力, 職業観, 勤労観, 職業構造, 産業社会, 生涯教育, キャリア教育計画	
	工共451	情報科教育法A	2	2-0	3	後	教職課程, 教科情報, 授業設計, 指導法, 教育観, 学習観, 学習指導要領, 情報活用実践力, プレゼンテーション, 評価方法, 学習指導案, 科学的理解, 模擬授業	
	工共452	情報科教育法B	2	2-0	4	前	教職課程, 教科情報, 授業評価, 生徒評価, ルーブリック, ポートフォリオ, 模擬授業	
	工共453	教職総合演習(情報)	2	2-0	4	前	教職課程, 地域社会, 実践的活動, 教員資質, 教育現場, 教育ボランティア, 社会活動, 連携授業	

別表(第5条関係)

知能情報コース

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
コース 専門科目	知能101	プログラミング演習 I	1	2-0	1	前	UNIX基礎, プログラミング及びソフトウェア演習, Python	○
	知能102	プログラミング演習 II	1	2-0	1	後	C, Java, プログラミング及びソフトウェア演習	○
	知能103	離散数学	2	2-0	1	後	数理論理学, 命題論理, 一階述語論理, λ計算, ファジイ論理	○
	知能203	アルゴリズムとデータ構造	2	2-0	2	前	スタック, 待ち行列, リスト, 木, データの抽象化, 二分探索木, ヒープ, 整列, 計算複雑度, ハッシュ法, グラフの探索	○
	知能204	情報ネットワーク I	2	2-0	2	前	OSI参照モデルとTCP/IP, データリンク, IPプロトコル, IPに関する技術, TCPとUDP等に関する基礎的スキル, セキュリティ, 運用	○
	知能205	コンピュータシステム	2	2-0	2	前	コンピュータハードウェアの構成要素, 機能と役割, 基本ソフトウェアの機能と役割	○
	知能206	データサイエンス基礎	4	4-0	2	前	データ解析, 確率論, 統計モデル, 大規模データ, 統計解析言語, 論理的思考	○
	知能207	プロジェクトデザイン	2	2-0	2	前	グループワークを通じ, 様々なリサーチ・デザイン手法を習得する。また, ロジカル&ラテラル思考法を用いた進路設計, コミュニケーションスキルの獲得を行う。	○
	知能208	オペレーティングシステム	2	2-0	2	後	資源管理, 仮想化, アーキテクチャとOS, プロセス, スケジューリング, 同期, 入出力管理, 主記憶管理, ファイル管理, 通信管理	○
	知能209	コンピュータアーキテクチャ	2	2-0	2	後	マイクロプロセッサ, メモリ, マイクロプログラム, パイプライン, 記憶階層, キャッシュ, 仮想記憶, 並列計算機	○
	知能210	データベースシステム	2	2-0	2	後	データベース・システムの構成要素, E-Rモデル, 関係モデル, MySQL, アクセス法, 関係代数, 正規形, 問い合わせ言語, 情報検索	○
	知能211	人工知能	2	2-0	2	後	問題解決, 探索, ゲーム木探索, 機械学習, ニューラルネット, 進化計算, エージェント, 人工知能と社会	○
	知能212	ソフトウェア開発演習I	2	2-0	2	後	チームでソフトウェアを開発するための方法論をPBL演習を通して学習する。基本スキルとして, モデリングの基礎, 分散型バージョン管理, 反復型ソフトウェア開発を習得する。	○
	知能213	知能情報基礎演習 I	1	0-4	2	前(Q1)	知能情報分野の基礎課題演習を通して専門知識の理解を深めるとともに, 報告書の書き方, ツール・機器等の利用法を学ぶ	○
	知能214	知能情報基礎演習 II	1	0-4	2	前(Q2)	知能情報分野の基礎課題演習を通して専門知識の理解を深めるとともに, 報告書の書き方, ツール・機器等の利用法を学ぶ	○
	知能221	デジタル回路	2	2-0	2・3	前	CMOS論理ゲートの基礎, 論理式の展開・圧縮, 組み合わせ回路の設計, 同期回路(カウンタ, レジスタ)の設計	
	知能222	情報処理技術概論	2	2-0	2・3	前	情報処理技術, ハードウェア, ソフトウェア, ネットワークシステム等, 基本情報処理技術に関する事項	
	知能223	情報ネットワーク II	2	2-0	2・3	後	ルーティングプロトコル, アプリケーションプロトコル, セキュリティ等に関する基礎的スキル	

別表(第5条関係)

知能情報コース

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修
コース 専門 科目	知能226	デジタル信号処理	2	2-0	2・3	後	標本化定理, フーリエ変換, Z変換, デジタル・フィルタ, 時不変線形系の動特性推定	
	知能227	情報理論	2	2-0	2・3	後	情報源の確率過程, 情報量とエントロピー, 情報伝送, 通信路, 符号系の性質, 符号化の理論, 誤りの検出, 訂正可能な符号系	
	知能228	知能情報基礎演習Ⅲ	1	0-4	2	後(Q3)	知能情報分野の基礎課題演習を通して専門知識の理解を深めるとともに, 報告書の書き方, ツール・機器等の利用法を学ぶ	○
	知能229	知能情報基礎演習Ⅳ	1	0-4	2	後(Q4)	知能情報分野の基礎課題演習を通して専門知識の理解を深めるとともに, 報告書の書き方, ツール・機器等の利用法を学ぶ	○
	知能301	知能情報総合実験	2	0-4	3	前	班に分かれて協働で課題を設定, または与えられた課題を解決する能力を養う。課題解決に向けて計画作成と中途の評価・改善を行い, 結果を発表する。	○
	知能302	AIoTメディアコンピューティング	2	2-0	3・4	前	AIoT (AI×IoT)、エッジ・クラウドコンピューティング、IP伝送技術、IoT・エッジAI機械学習、クラウドAI機械学習、情報理論と画像・映像符号化、ネットワークセキュリティ、AIoT最新技術動向と実応用	
	知能321	ソフトウェア工学	2	2-0	3・4	前	手続き抽象化, ソフトウェア設計プロセス, ライフ・サイクル, 形式的仕様記述, ソフトウェアの再利用, オブジェクト指向設計	
	知能322	数理計画とアルゴリズム	2	2-0	3・4	前	線形計画法, シンプレックス法, 相対定理, 組合せ最適化, 数理計画法	
	知能323	並列分散処理	2	2-0	3・4	前	並列計算機, メッセージ通信型並列コンピュータ, 共有メモリ型プロセッサ, 並列プログラミング	
	知能326	機械学習	2	2-0	3・4	前	教師あり学習 (ナイーブベイズ, SVM, 決定木), 教師なし学習 (相関ルール, クラスタリング手法)	
	知能327	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	2-0	3・4	前	グラフィカルユーザーインターフェイス, バーチャルリアリティ, グラフィックスと可視化, 対話型インターフェイス	
	知能329	デジタル制御論	2	2-0	3・4	後	離散時間系と状態方程式, Z変換とパルス伝達関数, 標本化定理, 安定性と線形構造, デジタル最適制御	
	知能330	画像処理	2	2-0	3・4	後	画像入出力, 画像の性質と各種変換, フィルタリング, 幾何学的変換, 2値画像処理, 領域処理, 特徴抽出とマッチング, 画像符号化と復元, 動画画像処理, 画像解析とAI情報処理, 次世代型画像処理と産業応用	
	知能331	ネットワークセキュリティ	2	2-0	3・4	後	情報セキュリティの仕組み, 攻撃, ファジング, ポリシーと運用, 脅威分析モデル等に関するスキル	
	知能332	知能ロボット	2	2-0	3・4	後	ロボットの歴史と基本概念, ロボットハードウェアの要素技術, ロボットモーション, ロボットパーセプション, ロボットインテリジェンス	
	知能333	コレクティブインテリジェンス	2	2-0	3・4	後	生物, 人間社会, ネットワークなどで見られる集団的知性, 集合知, 群知能とそれらの種類, 例, 技法について学ぶ。	
	知能334	データマイニング	2	2-0	3・4	前	機械学習, 統計, 集合知, Webインテリジェンス, 統計, 可視化, パターン抽出, 評価	

別表(第5条関係)

知能情報コース

②教育課程

分類	科目 番号	授業科目名	単位数	週時間	受講 年次	学期	授業内容	必修
コ ー ス 専 門 科 目	知能338	ソフトウェア開発演習II	2	2-0	3・4	前又 は後	ユーザーセンタード・デザイン、情報アーキテクチャ の設計、Webフロント技術などの情報工学分野におけ る実践技術	
	知能339	ソフトウェア開発演習III	2	2-0	3・4	前又 は後	アジャイルソフトウェア開発、テスト駆動開発、分散 バージョン管理などの情報工学分野における実践技術	
	知能421	ICT実践英語I	2	2-0	4	前	技術英語表現およびプレゼンテーションスキルの基礎	
	知能422	ICT実践英語II	2	2-0	4	後	技術英語表現およびプレゼンテーションスキルの活用	
	知能481	情報技術演習I	2	2-0	2・3・4	前又 は後	情報工学分野における実践技術を養成する。	
	知能482	情報技術演習II	2	2-0	2・3・4	前又 は後	情報工学分野における実践技術を養成する。	
	知能483	情報技術演習III	1	1-0	2・3・4	前又 は後	情報工学分野における実践技術を養成する。	
	知能484	情報技術演習IV	1	1-0	2・3・4	前又 は後	情報工学分野における実践技術を養成する。	
	知能491	知能情報特別講義I	2	2-0	2・3・4	前又 は後	情報工学分野における最新技術に関する講義を行う。	
	知能492	知能情報特別講義II	2	2-0	2・3・4	前又 は後	情報工学分野における最新技術に関する講義を行う。	
	知能493	知能情報特別講義III	1	1-0	2・3・4	前又 は後	情報工学分野における最新技術に関する講義を行う。	
	知能494	知能情報特別講義IV	1	1-0	2・3・4	前又 は後	情報工学分野における最新技術に関する講義を行う。	

別表(第5条関係)

工学融合科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
工学融合科目(導入科目)	機械991	材料生産工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	材料力学及び機械要素設計の基礎、機械材料及び材料加工学の基礎
	機械992	熱流体工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	流体力学及び流体機械学の基礎、熱力学及び伝熱工学の基礎
	エネ991	エネルギー変換工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	燃焼、蒸気サイクル、冷凍サイクルと空気調和の基礎および伝導、対流、放射伝熱の基礎
	エネ992	環境エネルギー工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	地球環境、環境アセスメント、省エネルギー技術、再生可能エネルギー
	電気991	電気電子工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	電気工学、電子工学、情報通信工学に関する基礎について学ぶ
	電気992	メカトロニクス	2	2-0	3・4	前又は後	メカトロニクスに関わるセンサ、アクチュエータ、サーボモータ、制御システム
	電情991	電気電子工学基礎	2	2-0	3・4	前又は後	電気工学、電子工学、情報通信工学に関する基礎について学ぶ
	電情992	通信工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	有線通信および無線通信に関する基礎について学ぶ
	社基991	基礎流体力学	2	2-0	3・4	後	相対性原理と運動法則の成立、流体力学と自然の中の流れ、流体力学の基礎理論、流体力学の定理、定理と応用、流体の数値計算
	社基992	橋設計論	2	2-0	3・4	前	橋の歴史、橋の構造形式及びその力学的意味と特性
	社基994	道路交通計画	2	2-0	3・4	前	道路工学基礎、道路構造令、舗装、交通調査概論、四段階推定法、交通需要マネジメント
	社基997	都市地域計画	2	2-0	3・4	後	都市の歴史と都市計画の理論と制度の仕組み(規制・誘導・事業)について学ぶ。また、これまでの日本の国土計画の流れとこれからの地域計画の方向性についての知識を習得する。
	社基998	岩盤工学	2	2-0	3・4	後	地殻の構成、岩の力学的特性、破壊・風化メカニズム、海底鉱物資源の種類や採掘法等の各問題に関して、力学的・数理的な解析手法を説明し、実務への展開法について講述する。
	建築991	居住建築概論	2	2-0	3・4	前又は後	住宅をはじめとする人間の居住を支える建築について、建築学に関わる幅広い視点から総合的に学ぶ。
	知能991	コンピュータサイエンス基礎	2	2-0	3・4	前又は後	コンピュータの仕組み、アルゴリズム、プログラミングの解説と演習を通して、コンピュータサイエンスの基礎を習得する。
	知能992	情報システム開発演習	2	2-0	3・4	前又は後	AI機械学習やwebアプリケーション等に関する情報システムの設計とプログラム開発の基礎をチーム演習を通して習得する。

別表(第5条関係)

工学融合科目

②教育課程

分類	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容
工学融合科目 (選択科目)	機械981	機器構造学	2	2-0	3・4	前又は後	機械構造物の例としての航空機などの構造に関する基礎的な理論, 構造力学の基礎
	機械982	亜熱帯材料学	2	2-0	3・4	前又は後	多糖の基礎と構造, バイオベース材料の高機能化, バイオベース材料の加工・化学修飾
	機械983	流体機械学	2	2-0	3・4	前	ターボ機械の分類, 基礎理論, 損失および効率, 相似則, キャビテーション現象, 不安定流動現象, 水撃
	エネ981	エネルギー移動工学	2	2-0	3・4	前又は後	伝導, 対流, 放射伝熱の基礎と自然現象, 工学機器への応用, 定常・非定常熱伝導の理論
	エネ982	腐食防食工学	2	2-0	3・4	前	材料表面性と表面処理, 腐食, 防食の理論と応用
	エネ983	熱機関工学	2	2-0	3・4	前又は後	内燃機関の概要及び歴史, 構造, 熱力学の理論と実際, 出力と効率, 吸・排気系統, ガソリンエンジンとディーゼルエンジン, エンジンと環境問題
	電気981	パワーエレクトロニクス	2	2-0	3・4	後	電力用半導体デバイス, スイッチングデバイス, サイリスタコンバータ, DC/DCコンバータ, スイッチングレギュレータ, インバータ, インバータによる交流電動機の制御
	電気984	電気機器	2	2-0	3・4	前	電気-機械エネルギー変換の基礎, 直流機および変圧器の原理・構造・特性, 制御, 同期機, 誘導機, 整流子機の原理・構造・特性, 制御
	電気985	発電工学	2	2-0	3・4	後	水力発電, 火力発電および原子力発電の原理・構成・特性, 自然エネルギーの利用と発電方式
	電情981	電気電子計測工学I	2	2-0	3・4	前	測定方式, 測定値の処理, 電圧・電流・電力及び回路素子の特性測定法
	電情983	量子力学 I	2	2-0	3・4	前	古典力学の限界と量子力学の誕生, 量子力学の基礎, 自由粒子, 井戸型ポテンシャルと量子井戸, トンネル効果
	社基981	プロジェクトマネジメント	2	2-0	3・4	後	施工管理法(施工計画, 工程管理, 品質管理, 安全管理), 土木施工技術
	社基982	維持管理工学	2	2-0	3・4	後	構造物の機能・性能とメンテナンスの基本, 構造物の劣化現象, 構造物の点検方法および劣化予測・評価の方法, 補修・補強の方法
	社基983	腐食防食と疲労	2	2-0	3・4	後	橋梁, 港湾施設, 発電所施設の維持管理工学概論, 鋼材の腐食メカニズム及び防食メカニズム, 鋼構造の疲労メカニズム及び疲労強度設計
	社基984	減災計画	2	2-0	3・4	後	災害概論, リスクコミュニケーション, 地域防災計画, 地区防災計画, 学校危機管理, 防災教育, 減災計画方法論
	社基985	環境衛生工学	2	2-0	3・4	後	安全で衛生的な生活環境を支える社会基盤にはどのようなものがあるか, また, 人間の活動が地球環境に及ぼす影響について解説し, 持続可能な社会の実現のために必要な技術者としての知識と倫理観について学ぶ。
	建築982	都市デザイン演習	2	3-0	3・4	前	都市デザイン, 地区デザイン, 景観デザインに関する計画・設計の演習を行う。
	建築983	耐震設計概論	2	2-0	3・4	後	地震荷重と耐震設計法, 耐震診断, 耐震補強・補修法など耐震設計の基礎を紹介する。
	建築984	都市および地方計画	2	2-0	3・4	隔年前期	都市および地方計画の調査, 立案, 実施に必要とされる法制度体系を理解し, 実際の計画事例を学ぶ
	知能981	ネットワークセキュリティ	2	2-0	3・4	後	情報セキュリティの仕組み, 攻撃, ファジング, ポリシーと運用, 脅威分析モデル等に関するスキル
知能983	知能ロボット	2	2-0	3・4	後	ロボットの歴史と基本概念, ロボットハードウェアの要素技術, ロボットモーション, ロボットパーセプション, ロボットインテリジェンス	
知能984	データマイニング	2	2-0	3・4	前	機械学習, 統計, 集合知, Webインテリジェンス, 統計, 可視化, パターン抽出, 評価	

卒業要件(知能情報コース)

1. 共通教育

教養領域

健康運動系科目 ----- 2 単位以上

人文系科目 ----- 2 単位以上

社会系科目 ----- 2 単位以上

自然系科目 ----- 2 単位以上

総合領域

総合科目 ----- 2 単位以上

キャリア関係科目 ----- 2 単位以上

琉大特色・地域創生科目 ----- 2 単位以上

基幹領域

情報関係科目 (日本語表現法入門) ----- 2 単位 ※4

外国語科目

「大学英語」, 「英語講読演習中級」を含む
英語 ----- 8 単位以上

英語以外の一外国語 ----- 4 単位以上

又は,

「大学英語」, 「英語講読演習中級」を含む
英語 ----- 12 単位以上

2 単位以上

14 単位以上

※1

2 単位以上

2 単位 ※4

8 単位以上

4 単位以上

12 単位以上

30 単位以上

2. 専門基礎教育

専門基礎科目

(先修科目)

(微積分学ST I, 同 II (又は微積分学入門 I, 同 II),
物理学 I (又は物理学入門 I))

6 単位以上

3. 専門教育

専門科目 ※2, ※9

情報技術系

2 単位

総合力演習

7 単位

研究・基礎演習・実験

16 単位

数学基礎

6 単位

(工業数学 I, 同 II, 離散数学)

知能情報コア

26 単位

工学融合

4 単位以上

※7

数学基礎

(工業数学Ⅲ, 同Ⅳ, 確率及び統計)

22 単位以上

37 単位以上

※10

知能情報アドバンス

知能情報関連

専門科目(自由) ※3

合計 130 単位以上

※1 人文系, 社会系, 総合, キャリア関係, 琉大特色・地域創生科目で合計12単位以上履修しなければならない。自然系科目は2単位まで卒業単位に含めることができる。

※2 専門科目は, 知能情報コースが提供する科目及び工学部共通・融合科目で構成される。(知能情報コースの専門科目分類表参照)

※3 専門科目(自由)とは, 他コースまたは他学部の提供する科目(大学または他学部が提供する教職に関する科目を含む)のことであり, 共通教育および専門

基礎科目(先修科目)は含まない。ただし, 他学部提供の情報系科目の履修登録には指導教員の承認が必要である。

※4 共通教育科目の情報科学演習は卒業要件の総単位数に含めることはできない。

※5 外国人学生の場合には, 琉球大学共通教育等履修規程第8条により次の特例を認める。

(1) 共通教育の人文系, 社会系, 自然系, 総合, キャリア関係, 琉大特色・地域創生科目のうち4単位まで, 日本事情科目で読み替えることができる。

(2) 英語以外の一つの外国語(4単位以上)を日本語科目で読み替えることができる。

※6 入学年次の便覧に記載されていない科目の取扱い及び履修計画に関しては, 指導教員に相談すること。

※7 1つのコースの工学融合科目から4単位以上を履修する。

※8 4年次(6個学期在学後)または5個学期在学後の4月の時点で卒業研究Iを登録するためには, 次の2項目の条件を満たしていなければならない。

(1) 6個学期在学の学生については, 取得単位数が100以上であること。また, 5個学期在学の学生については取得単位数が85以上であること。

(2) 原則として3年後学期までの専門必修科目の全ての単位を取得していること。

※9 専門科目における科目分類(情報技術系～専門科目(自由))と科目との対応関係は, 別表の知能情報コースの専門科目分類表に示す。

※10 教職科目の「(全教412) 教職実践演習(高)」は, 「知能情報関連」の科目として卒業単位に含めることができる。

知能情報コースの専門科目分類表

分類	科目
情報技術系	プログラミング演習Ⅰ，同Ⅱ
総合力演習	<u>工学基礎演習</u> ， <u>キャリアデザイン入門</u> ， <u>プロジェクトデザイン</u> ， <u>キャリアデザイン</u>
研究・基礎演習・実験	知能情報基礎演習Ⅰ～Ⅳ，知能情報総合実験， <u>エンジニアリングデザイン演習</u> ， <u>卒業研究Ⅰ</u> ， <u>同Ⅱ</u> ， <u>セミナーⅠ</u> ， <u>同Ⅱ</u>
数学基礎	<u>工業数学Ⅰ</u> ， <u>工業数学Ⅱ</u> ，離散数学， <u>確率及び統計</u> ， <u>工業数学Ⅲ</u> ， <u>同Ⅳ</u>
知能情報コア	<u>プログラミングⅠ</u> ， <u>同Ⅱ</u> ， <u>技術者の倫理</u> ， <u>アルゴリズムとデータ構造</u> ， <u>データサイエンス基礎</u> ， <u>コンピュータシステム</u> ， <u>情報ネットワークⅠ</u> ， <u>ソフトウェア開発演習Ⅰ</u> ， <u>コンピュータアーキテクチャ</u> ， <u>オペレーティングシステム</u> ， <u>データベースシステム</u> ， <u>人工知能</u>
知能情報アドバンスト	<u>デジタル回路</u> ， <u>情報ネットワークⅡ</u> ， <u>デジタル信号処理</u> ， <u>情報理論</u> ， <u>ソフトウェア工学</u> ， <u>数理計画とアルゴリズム</u> ， <u>ヒューマンコンピュータインタラクション</u> ， <u>ソフトウェア開発演習Ⅱ</u> ， <u>同Ⅲ</u> ， <u>デジタル制御論</u> ， <u>画像処理</u> ， <u>ネットワークセキュリティ</u> ， <u>機械学習</u> ， <u>知能ロボット</u> ， <u>コレクティブインテリジェンス</u> ， <u>データマイニング</u> ， <u>AIoTメディアコンピューティング</u> 、 <u>並列分散処理</u>
知能情報関連	情報処理技術概論，情報技術演習Ⅰ～Ⅳ，知能情報特別講義Ⅰ～Ⅵ，ICT実践英語Ⅰ，同Ⅱ， <u>および上記下線科目以外の全ての工学共通科目</u> ， <u>教職実践演習（高）</u>
専門科目（自由）	他コース及び他学部の専門教育における提供科目 (ただし、他学部提供の情報系科目の履修登録には指導教員の承認が必要である。)

注) 下線は工学共通科目

GE プログラムとして修得すべき科目リスト

知能情報コース(知能情報プログラム)

科目番号	科目名	単位数
工共 321	技術英語 I	2
工共 322	技術英語 II	2
工共 421	技術英語 III	2
工共 330	地域課題解決実践演習	2
工共 333	地域創生論	2
工共 334	国際協力論	2
工共 338	インターンシップ I	1
工共 339	インターンシップ II	1
工共 340	インターンシップ III	2
工共 341	国際インターンシップ I	1
工共 441	国際インターンシップ II	2
※ESCM11030	インターンシップ I	1
※ESCM12010	インターンシップ II	1
※ESCM11040	インターンシップ III	2
※ESCM12020	インターンシップ IV	2
※ESCM11020	国際インターンシップ I	2
※ESCM13010	国際インターンシップ II	2

いずれか、
1 科目以上

※は大学院授業科目

教育分野	1年次		2年次		3年次		4年次		総単位数	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
共通教育		健康運動 選 2							2 (2.0)	
	教養領域1 選 2		教養領域2 選 2		教養領域3 選 2	教養領域4 選 2			14 (14.0)	
		総合領域1 選 2		総合領域2 選 2			総合領域3 選 2		2 (2.0)	
	日本語表現法入門 必 2								12 (12.0)	
専門基礎	微分積分学ST I 必 2	微分積分学ST II 必 2							6 (6.0)	
	微分積分学入門 I 選 2	微分積分学入門 II 選 2								
	物理学 I 必 2	物理学 II 選 2								
	物理学入門 I 選 2	物理学入門 II 選 2								
工学共通科目	キャリアデザイン入門 必 1	工学概論 選 2			キャリアデザイン 必 2				28 (25.0)	
	工学基礎演習 必 2				インターンシップ I GE 選 1	エンジニアリングデザイン演習 必 2	知的財産権 選 2	産業社会学原論 I 選 2	産業社会学原論 II 選 2	
	技術者の倫理 必 2				インターンシップ III GE 選 2	インターンシップ II GE 選 1		産業社会学原論 II 選 2	Frontiers of Engineering 選 2	
					地域創生論 ^{※1} GE 選 2	国際協力論 ^{※1} GE 選 2	国際インターンシップ I GE 選 1		国際インターンシップ II GE 選 2	
	工業数学 I 必 2	工業数学 II 必 2	工業数学 III 選 2	確率及び統計 選 2	技術英語 I (記述基礎) GE 選 2	技術英語 II (プレゼン) GE 選 2	技術英語 III (記述応用) GE 選 2		国際インターンシップ II GE 選 2	
	基礎数学 I 選 1	基礎数学 II 選 1		工業数学 IV 選 2	地域課題解決実践演習 GE 選 2	Frontiers of Engineering 選 2	セミナー I 必 1	セミナー II 必 1		
	プログラミング I 必 2	プログラミング II 必 2				品質管理 選 2	卒業研究 I 必 3	卒業研究 II 必 3		
				情報科教育法 A 選 2		経営工学概論 選 2	職業指導 選 2			
						情報科教育法 B 選 2		教職総合演習(情報) 選 2	教職実践演習(高) 選 2	
コース専門科目	プログラミング演習 I 必 1	プログラミング演習 II 必 1	アルゴリズムとデータ構造 必 2	オペレーティングシステム 必 2	ソフトウェア工学 ^{※3} 選 2		ソフトウェア工学 ^{※3} 選 2	デジタル制御論 ^{※3} 選 2	デジタル制御論 ^{※3} 選 2	
		離散数学 必 2	情報ネットワーク I 必 2	コンピュータアーキテクチャ 必 2	数値計画とアルゴリズム ^{※3} 選 2	データマイニング ^{※3} 選 2	デジタル制御論 ^{※3} 選 2	画像処理 ^{※3} 選 2	画像処理 ^{※3} 選 2	
			情報ネットワーク II 必 2	人工知能 必 2	IoTメディアコンピューティング 選 2		画像処理 ^{※3} 選 2	ネットワークセキュリティ ^{※3} 選 2	ネットワークセキュリティ ^{※3} 選 2	
			データサイエンス基礎 必 4	データベースシステム 必 2	機械学習 ^{※3} 選 2		ネットワークセキュリティ ^{※3} 選 2	知能ロボット ^{※3} 選 2	知能ロボット ^{※3} 選 2	
			プロジェクトデザイン 必 2		情報理論 選 2		知能ロボット ^{※3} 選 2	IoTメディアコンピューティング 選 2	IoTメディアコンピューティング 選 2	
					人間コンピュータインタラクション ^{※3} 選 2		IoTメディアコンピューティング 選 2	知能ロボット ^{※3} 選 2	知能ロボット ^{※3} 選 2	
					情報ネットワーク II 選 2		知能ロボット ^{※3} 選 2	知能ロボット ^{※3} 選 2	知能ロボット ^{※3} 選 2	
			デジタル回路 選 2		情報理論 選 2		知能ロボット ^{※3} 選 2	知能ロボット ^{※3} 選 2	知能ロボット ^{※3} 選 2	
			情報処理技術概論 選 2		人間コンピュータインタラクション ^{※3} 選 2		知能ロボット ^{※3} 選 2	知能ロボット ^{※3} 選 2	知能ロボット ^{※3} 選 2	
					デジタル信号処理 選 2		知能ロボット ^{※3} 選 2	知能ロボット ^{※3} 選 2	知能ロボット ^{※3} 選 2	
工学融合科目					ソフトウェア開発演習 I 必 2	ソフトウェア開発演習 II 選 2	ソフトウェア開発演習 III 選 2	ソフトウェア開発演習 II 選 2	ソフトウェア開発演習 III 選 2	
					知能情報基礎演習 I 必 1	知能情報基礎演習 II 必 1	知能情報基礎演習 III 必 2	知能情報基礎演習 III 必 2	知能情報基礎演習 III 必 2	
総単位数	20 (18.0)	17 (11.0)	20 (14.0)	20 (12.0)	17 (4.0)	14 (2.0)	16 (4.0)	6 (4.0)	130 (69.0)	
備考	<p>□ は必修科目、□ は履修モデルとして選択した選択科目を示す。また、枠無し科目は、それ以外の選択科目を示す(総単位数にカウントしていない)。</p> <p>□ は、GE指定科目、一般は選択科目を示す。 ※1 集中講義(地域創生論(2単位)、国際協力論(2単位))を含むことがある。</p> <p>※2 総単位数の下にある()内の数字は必修科目の単位数を表す。卒業要件を満たすためには、必修科目以外に必要な選択科目を履修する必要がある(コースの卒業要件を必ず確認すること)。なお、本モデルは共通教育科目・専門選択科目については履修方法の一例を示している。</p> <p>※3 隔年開講科目であるため(毎年度は開講されない)、年度によって3年次履修になるか4年次履修になるか変わるの注意すること。</p>									

工学部入学者のコース配属の確定に関する申合せ

平成29年3月30日 制定

1. 工学部入学者のコース配属の確定は2年次前期開始時とする。入学時に配属されたコースから変更を希望しない学生については、特段の手続きなしでそのコースに配属を確定する。コース配属変更を希望する学生については、所定の手続きを経て工学部長（以下「学部長」という。）がこれを決定する。
2. コース配属の変更を希望する学生は、入学翌年の1月末日までに学部長あてに進路変更願を提出しなければならない（提出先：工学部学務係）。なお、1年次の時点で休学した学生は、コース配属変更はできないものとする。
3. 学部長は学生の願い出に対し教育委員会等に審議を依頼する。教育委員会は、同委員会での協議、コース会議での議を経て、同年の3月中旬までに審議結果を教授会に諮るものとする。学部長は教授会での最終審議結果を速やかに本人へ通知する。
4. コース配属確定後の各コースの学生数の変動幅は、各コースの目安定員*の約10%（次表参照）とする。コース配属の変更を希望する学生数が上記範囲内にある場合は、原則として変更を認める。

*各コースの目安定員

コース	目安定員
機械工学コース	55人
エネルギー環境工学コース	55人
電気システム工学コース	45人
電子情報通信コース	45人
社会基盤デザインコース	45人
建築学コース	45人
知能情報コース	60人

5. 選考は成績等を基準に順位付けをして行うが、詳細は別途定める。

附 則

この申合せは、平成29年3月30日から施行する。

附 則（平成30年8月17日）

この申合せは、平成30年8月17日から施行する。

附 則（令和元年8月23日）

この申合せは、令和元年8月23日から施行する。

附 則（令和2年9月30日）

この申合せは、令和2年9月30日から施行する。

工学科のコース制に伴う最終コース決定時の進路変更願

工学部長 殿

工学科 コースに最終配属を希望しますので、保護者等の了解の上
以下のとおり申請いたします。

1. 申請者氏名等

現所属コース	コース
(学籍番号) 氏名	() 印
本人住所	電話(携帯) () Eメール ()
保護者等氏名	印 続柄 ()
保護者等住所	電話(携帯) ()

【注意事項】

- ・「建築学コース」へ希望する場合には、下記の内容をご確認の上、チェックを入れて申請してください。
 - 履修状況、必修の取得状況を確認するため、成績表を建築学コースへ開示することに同意します。
- ・「知能情報コース」へ希望する場合には、下記の内容をご確認の上、チェックを入れて申請してください。
 - EMaTを受験し、スコア票の写しを添付します。

2. コース配属の変更を希望する理由（詳細に記すこと。裏面に記入枠を作り追記することも可）

(備考) この進路変更願は、入学翌年の1月末日までに工学部学務係へ提出しなければならない。

工学部において取得できる教員免許状

コース	取得できる免許状の種類	免許教科	基礎資格
機械工学 エネルギー環境工学 電気システム工学 電子情報通信 社会基盤デザイン 建築学	高等学校教諭一種免許状	工業	学士（工学）
知能情報	〃	情報	〃

一種免許取得に必要な最低取得単位数

免許状の種類	免許状取得に必要な科目及び最低取得単位数	備考
高等学校教諭一種 免許状（工業）	<p>1. 教科及び教科の指導法に関する科目 24 単位 工学部開設の指定科目 工学概論と職業指導（工業）は必ず履修のこと</p> <p>2. 教育の基礎的理解に関する科目等 24 単位 教育学部開設の指定科目（科目番号全教〇〇〇）</p> <p>3. 大学が独自に設定する科目 12 単位</p> <p>4. その他の要取得科目 日本国憲法（憲法概論） 2 単位 体育（健康運動系科目） 2 単位 外国語コミュニケーション（大学英語） 4 単位 情報機器の操作（情報科学演習） 2 単位</p>	<p>教科及び教科の指導法に関する科目と教育の基礎的理解に関する科目等及び大学が独自に設定する科目は工学部開設指定科目（知能情報コース開設科目を除く）の単位で代替可</p> <p>教育職員免許法施行規則第66条の6に定められた科目</p>
高等学校教諭一種 免許状（情報）	<p>1. 教科及び教科の指導法に関する科目 24 単位 知能情報コース開設の指定科目</p> <p>2. 教育の基礎的理解に関する科目等 25 単位 教育学部開設の指定科目（科目番号全教〇〇〇）</p> <p>3. 大学が独自に設定する科目 12 単位 教職総合演習（情報）と知能情報コース開設指定科目</p> <p>4. その他の要取得科目 日本国憲法（憲法概論） 2 単位 体育（健康運動系科目） 2 単位 外国語コミュニケーション（大学英語） 4 単位 情報機器の操作（情報科学演習） 2 単位</p>	<p>教育職員免許法施行規則第66条の6に定められた科目</p>

琉球大学工学部グローバルエンジニア（GE）プログラム規程

〔平成29年3月30日〕
制 定

（趣旨）

第1条 この規程は、琉球大学工学部規程第3条第3項の規定に基づき、グローバルエンジニア（GE）プログラム（以下「GEプログラム」という。）に関し、必要な事項を定める。

（目的）

第2条 GEプログラムは、工学部と大学院理工学研究科博士前期課程（以下「博士前期課程」という。）を含む教育であり、GEプログラム専用科目の体系的な学修や短期・長期の留学をカリキュラムに組み込み、国際的に貢献できる高度専門技術者の育成及びこれらの教育をとおして地域の産業を牽引し、製造（次世代型ものづくり）、エネルギー、情報通信、建設、環境、防災、電力などの産業に新たな価値を創造しつつ、社会のグローバル化に対応できる人材を育成することを目的とする。

（登録手続及び選考等）

- 第3条 GEプログラムの登録人員は、全コースで1学年35名（各コース5名）程度とする。
- 2 GEプログラムに登録を希望する学生（以下「GEプログラム希望学生」という。）は、卒業（見込み含む）までの期間が2年となる前年度の2月1日までに、工学部長に願書（別紙様式1及び別紙様式2）を提出しなければならない。
 - 3 GEプログラムに欠員がある場合は、卒業（見込み含む）までの期間が1年となる4月に追加登録を行うことができる。
 - 4 GEプログラムの追加登録は、追加募集が行われる場合に希望することができる。この場合、追加募集が行われる年の2月1日までに工学部長に願書（別紙様式1及び別紙様式2）を提出しなければならない。
 - 5 GEプログラム希望学生は、登録願書を提出する時点で65単位以上を修得した者又は修得見込みの者とする。ただし、追加登録を希望する学生は、登録願書を提出する時点で原則として、4月に卒業研究に着手できる見込みの者とする。
 - 6 転入学生、再入学生及び転学部学生については、原則として、GEプログラムへの登録の対象としない。
 - 7 GEプログラム希望学生の選考（追加登録含む。）については、別表に定めるとおりとする。
 - 8 GEプログラム希望学生の選考の時期は、3月中旬までに教授会にて決定の上、すみやかに本人に結果を通知する。追加登録については、追加募集を行う年の3月中旬までに教授会にて決定の上、すみやかに本人に結果を通知する。

（履修方法）

第4条 GEプログラムの履修方法については、各コースで別に定める。

（卒業要件）

第5条 GEプログラムに登録された学生（以下「GEプログラム学生」という。）の学部の卒業要件については、各コースの卒業要件と同じとする。

（願い出による辞退）

第6条 GEプログラム学生は、本人の願い出によりGEプログラムを辞退することができる。この場合、工学部長にGEプログラム辞退願（別紙様式3）を提出しなければならない。

（大学院入試等）

第7条 GEプログラム学生の博士前期課程への進学については、GEプログラム特別選考を実施する。GEプログラム特別選考に関し必要な事項は、別に定める。

2 琉球大学大学院学則第49条第6項に定めるGEプログラムを履修する者とは、GEプログラム特別選考に合格し、かつ博士前期課程に入学する者とする。

(登録除外)

第8条 GEプログラム学生が次の各号の一つに該当する場合は、教授会の議を経てGEプログラムから除外する。

(1) 琉球大学学則(以下「学則」という。)第62条で定める懲戒となった場合

(2) 学則第41条で定める退学となった場合

(3) 学則第42条で定める除籍となった場合

(4) GEプログラム特別選考に出願しない場合

(5) GEプログラム特別選考で不合格となった場合

(6) GEプログラム登録決定後、GEプログラム規程第3条第5項に規定する登録要件を満たさないことが判明した場合

(7) GEプログラム登録後、学業不振(病気、災害、事故、経済的理由等による休学を除く。)により、2年ないし1年(追加登録者)で卒業できなかった場合

2 GEプログラム登録後、一度登録を除外された者は、再登録を行うことはできない。

(修了認定)

第9条 博士前期課程修了時にGEプログラム修了に必要な科目を修得した者については、修了を認定し、修了証を授与する。

(雑則)

第10 この規程に定めるもののほか、GEプログラムに関し必要な事項については、工学部教育委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成29年3月30日から施行する。

附 則(平成30年9月26日)

この規程は、平成30年9月26日から施行する。

附 則(令和元年12月18日)

この規程は、令和元年12月18日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

附 則(令和2年4月22日)

この規程は、令和2年4月22日から施行する。

附 則(令和3年1月27日)

この規程は、令和3年1月27日から施行する。

附 則(令和3年7月28日)

この規程は、令和3年7月28日から施行する。

附 則(令和4年6月22日)

この規程は、令和4年6月22日から施行する。

附 則(令和5年10月25日)

この規程は、令和5年10月25日から施行する。

令和 年 月 日

G E プログラム登録願（新規・追加）

工 学 部 長 殿

GEプログラムへの登録を希望しますので、保護者等の同意の上、次のとおり申請します。

所属コース	コース
(学籍番号) 氏名	()
単位取得状況 (新規のみ)	<input type="checkbox"/> 65 単位以上取得 <input type="checkbox"/> 65 単位取得見込み
卒業研究着手見込み (追加のみ)	見込み： <input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
本人住所	〒 電話(携帯) () E-mail ()
保護者等確認欄 (該当の箇所を○で 囲ってください。)	GEプログラムに登録し、大学院理工学研究科博士前期課程へ進学することについて、 (同意する ・ 同意しない) 保護者等氏名 _____

(備考)

この願書は、2月1日までに工学部学務係へ提出しなければならない。

志 望 理 由 書

コース	学籍番号	
	氏 名	
(志望理由, 志望動機, 将来計画等について以下にまとめること)		

GEプログラム辞退願

令和 年 月 日

工学部長 殿

学籍番号 _____

所 属 _____ コース

氏 名 (自署) _____

指導教員氏名 (自署) _____

保護者等確認欄

GEプログラムの辞退に(同意する ・ 同意しない)

私は、以下の理由により、GEプログラムを辞退します。

GEプログラム選考に関する選抜方法及び各コースの配点等

コース名	GPA※1	GTEC※2	志望理由書	面接 (志望理由等)	備考等 (1・2年次の単位 取得状況を考慮)
機械工学コース	40	40	20	—	
エネルギー環境工学コース	40	40	20	—	
電気システム工学コース	40	40	20	—	
電子情報通信コース	40	40	20	—	
社会基盤デザインコース	40	40	20	—	
建築学コース	40	40	20	—	
知能情報コース	40	40	—	20	

※1 GPA : グレード・ポイント・アベレージのことで、学生の履修科目の成績評価の平均値。GPA に関しては、後学期成績開示日より7日前時点で確定している直近の通算 GPA を用いる。

※2 GTEC: 外国語科目の「大学英語」履修者の統一試験として全学で実施されるテストの配点。琉大入学以降の TOEIC, TOEFL_PBT, TOEFL_IBT からの換算も可能。TOEIC, TOEFL_PBT, TOEFL_IBT スコアで申請する場合は、下記の式により計算し、小数点第1位で四捨五入され、GTEC スコアに変換される。

$$GTEC = \frac{TOEIC + 137.03}{2.836} \quad \text{式(1)}$$

$$GTEC = \frac{\frac{TOEFL_PBT - 296}{0.348} + 137.03}{2.836} \quad \text{式(2)}$$

$$GTEC = \frac{\frac{TOEFL_IBT + 94.077}{0.3163} - 296}{0.348} + 137.03 \quad \text{式(3)}$$

(選抜方法)

- ①各コースの配点方法に従って各コース内の順位付けを行う。
- ②各コースそれぞれ5名まで順位に従って選抜する。
- ③それ以降の順位付けは、以下のとおりとする。
 - ・志願者のいるコースで1名ずつ追加候補を出す。
 - ・候補者間順位は、GTEC と GPA を各50%の得点として用いる。
 - ・35名を超えてとる場合も準じる。
- ④いずれかの項目で0点があった場合には、GEプログラムへの登録は認められない。

〔 昭和 4 7 年 4 月 1 日
制 定 〕

(趣旨)

第 1 条 この規程は、国立大学法人琉球大学組織規則第 2 7 条第 2 項の規定に基づき、琉球大学学則に定めるもののほか、琉球大学農学部（以下「本学部」という。）の授業科目、単位、履修方法その他必要な事項を定める。

(教育研究上の目的)

第 2 条 本学部は、沖縄の亜熱帯島嶼性という地理的・自然環境条件及び歴史的・文化的特性を活かし、生物の生存環境と人間の共生を目指して、持続的食料生産、地域農業、環境保全、生物資源・エネルギー利用、栄養・健康・長寿及び発酵・生命に関する専門教育と研究を深化させ、その成果の蓄積・活用と人材育成によって、地域社会並びに国際社会の発展に貢献することを目的とする。

2 各学科の人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的は、次の表に掲げるとおりとする。

学 科	教育研究上の目的
亜熱帯地域農学科	国際的な視点で地域農林畜産業の振興に携わる指導力のある有用な人材、並びに地域資源循環システムに基づく持続的農業生産並びに農と社会との共生を構築できる実践的人材を育成する。
亜熱帯農林環境科学科	資源生物や野生生物とそれらを取巻く環境の機能・特性の解明を通じ、生物や環境に関連する分野で活躍する有能な人材、並びに生物多様性の価値を理解し、豊かな環境の確保と保全に貢献できる実践的人材を育成する。
地域農業工学科	農村環境整備と緑・土・水資源の保全と改善に貢献できる有能な人材、並びに情報技術を応用し、食料生産から流通・加工に係わる農業生産及びエネルギーシステムに関する社会的要求を総合的に問題解決できる実践的人材を育成する。
亜熱帯生物資源科学科	亜熱帯生物資源の機能開発と高度利用に関する専門知識と技術を有する有能な人材、並びに生物資源関連産業、発酵産業及び健康・食品産業の振興・発展に貢献できる実践的人材の育成と栄養士を養成する。

(学士教育プログラム及び教育コース)

第 3 条 本学部の学科に学士教育プログラム及び教育コースを別表 1 のとおり置く。

(共通教育等の授業科目の種類等)

第 4 条 共通教育及び専門基礎教育の授業科目の種類、単位数、履修方法等は、琉球大学共通教育等履修規程の定めるところによる。

(専門教育の授業科目の種類等)

第 5 条 専門教育の授業科目の種類は別表 2 のとおりとし、履修方法等は別表 3 に掲げるとおりとする。

(授業科目の公示)

第 6 条 各学期に開講する授業科目、授業時間、単位数及び担当教員は、学期の初めに公示する。ただし、臨時に開講する授業科目については、その都度、公示する。

(単位)

第7条 専門教育の授業科目の単位の計算は、次に掲げる基準により行う。

- (1) 講義及び演習については、15時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育上必要があると認められる場合には、30時間の授業をもって1単位とすることができる。
 - (2) 実験及び実習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育上必要があると認められる場合には、45時間の授業をもって1単位とすることができる。
 - (3) 1つの授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合において、講義及び演習については係数3（ただし、演習については、教育上必要があると認められる場合には係数1.5とする。）、実験及び実習については係数1（ただし、教育上必要があると認められる場合には係数1.5とする。）に対し、それぞれの授業時間を乗じて得た数値の和が45時間の授業をもって1単位とする。
- 2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適当であると認められる場合には、これらに必要な学修を考慮して、単位数を定めるものとする。
- 3 前2項の規定に基づく各授業科目の単位数及び週時間については、別表3に掲げるとおりとする。

(登録、試験、単位の認定等)

第8条 登録、試験、単位の認定等については、琉球大学各学部共通細則の定めるところによる。

(編入学)

第9条 編入学については、琉球大学編入学規程の定めるところによる。

(転入学)

第10条 転入学については、琉球大学転入学規程の定めるところによる。

(再入学)

第11条 再入学については、琉球大学再入学規程の定めるところによる。

(転学部及び転学科)

第12条 転学部及び転学科については、琉球大学転学部、転学科、転課程に関する規程の定めるところによる。

(転学)

第13条 本学部の学生で他の大学に入学又は転入学を希望する者は、指導教員及び学部長を経て学長の許可を受けなければならない。

(留学)

第14条 留学については、琉球大学留学等及び特別聴講学生に関する規程の定めるところによる。

(卒業の要件)

第15条 卒業するには、琉球大学（以下「本学」という。）に4年以上在学し、別表4に掲げる単位を修得しなければならない。

- 2 前項の規定にかかわらず、第3年次特別編入学者の卒業の要件は、本学に2年以上在学し、別表4に掲げる単位（第3年次特別編入学以前に在学していた大学、短期大学、高等専門学校等で修得した単位のうち、本学の卒業要件に係る単位として換算する単位（以下「換算単位」という。）を含む。）を修得するものとする。この場合において、換算単位については、教授会が判定する。

(教員免許)

第16条 教育職員の免許状授与の資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年

法律第147号)の定めるところにより、所要の単位を修得しなければならない。

(研究生)

第17条 研究生については、琉球大学研究生規程の定めるところによる。

(特別聴講学生)

第18条 特別聴講学生については、琉球大学留学等及び特別聴講学生に関する規程の定めるところによる。

(科目等履修生)

第19条 科目等履修生については、琉球大学科目等履修生規程の定めるところによる。

(外国人学生)

第20条 外国人学生については、琉球大学外国人学生規程の定めるところによる。

(指導教員)

第21条 学生の修学、進路、就職、学生生活等の指導のため、各学科の年次ごとに指導教員を置く。

2 前項の規定に定めるもののほか、指導教員については、琉球大学における指導教員に関する規程の定めるところによる。

附 則

- 1 この規程は、昭和47年4月1日から施行する。
- 2 この規程施行の際、現に在学する者に係る教育課程に関しては、第6条の規定にかかわらずこの規程施行の際、現に効力を有していた本学の諸規程を適用する。

附 則(昭和50年10月23日)

この規程は、昭和50年10月23日から施行し、昭和47年4月1日から適用する。
ただし、別表1中畜産学科の畜産環境学・衛生学の学科目は昭和50年4月1日から適用する。

附 則(昭和52年11月17日)

この規程は、昭和53年度に入学する者から適用する。

附 則(昭和53年10月9日)

この規程は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則(昭和54年10月11日)

この規程は、昭和55年4月1日から施行する。ただし、別表1の改正規定については昭和54年4月1日から適用する。

附 則(昭和55年9月25日)

この規程は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則(昭和56年11月25日)

この規程は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則(平成3年4月1日)

- 1 この規程は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 平成3年3月31日に農学部の農学科、農芸化学科、農業工学科、畜産学科、林学科に在学していた者については、改正後の第6条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 農学部の農学科、農芸化学科、農業工学科、畜産学科、林学科は改正後の第2条の規定にかかわらず、平成3年3月31日に農学部の当該学科に在学する者が農学部の当該学科に在学し

なくなる日までの間、存続するものとする。

附 則（平成5年12月22日）

- 1 この規程は、平成6年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第6条及び第8条の規定は、平成6年度の入学者から適用する。
- 3 前項の規定にかかわらず、必要と認める場合には、改正後の第8条の規定を、平成6年3月31日に在学する者（以下「在学者」という。）に適用する。
- 4 前2項の規定にかかわらず、必要と認める場合には、在学者に改正後の第6条及び第8条の規定に基づき平成6年度以降の入学者のために開設される授業科目の履修とみなし、単位を与える。

附 則（平成6年4月13日）

この規程は、平成6年4月13日から施行する。ただし、第4条の改正規定は、平成6年6月24日から施行する。

附 則（平成14年4月1日）

この規程は、平成14年4月10日から施行する。

附 則（平成15年4月1日）

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成20年4月1日）

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成21年4月1日）

- 1 この規程は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成21年3月31日に農学部の生物生産学科、生産環境学科、生物資源科学科に在学する者については、改正後の第10条の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 農学部の生物生産学科、生産環境学科、生物資源科学科は改正後の第4条の規定にかかわらず、平成21年3月31日に農学部の当該学科に在学する者が農学部の当該学科に在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則（平成22年4月1日）

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成29年3月8日）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年10月24日）

この規程は、平成30年10月24日から施行する。

附 則（平成30年12月12日）

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則（令和2年2月27日）

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則（令和3年2月24日）

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則（令和4年3月9日）
この規程は、令和4年4月1日から施行する。

附 則（令和5年1月8日）
この規程は、令和5年4月1日から施行する。

附 則（令和6年3月13日）
この規程は、令和6年4月1日から施行する。

別表1（学士教育プログラム及び教育コース）

学 科	学士教育プログラム	教育コース
亜熱帯地域農学科	亜熱帯地域農学プログラム	農林経済学コース，植物開発学コース，循環畜産学コース，農林共生学コース
亜熱帯農林環境科学科	亜熱帯農林環境科学プログラム	植物機能学コース，動物機能学コース，森林環境学コース，生態環境科学コース
地域農業工学科	地域農業工学プログラム	バイオシステム工学コース，地域環境工学コース
亜熱帯生物資源科学科	亜熱帯生物資源科学プログラム	生物機能開発学コース，食品機能科学コース，発酵・生命科学コース，健康栄養科学コース

別表2、別表3、別表4（次頁、別紙のとおり）

別表2 授業科目の種類
亜熱帯地域農学科

コース等名	科目番号	授業科目	単位	コース等名	科目番号	授業科目	単位	
学部 共通科目	農共101	食・農・環境概論	2	循環畜産学	地252	家畜飼養栄養学	2	
	農共102	基礎フィールド実習	1		地253	草地農業論	2	
	農共301	キャリアディベロップメント	1		地254	家畜飼料学	2	
	農共302	キャリア実習	1		地351	家畜環境管理学	2	
学科共通 専門科目	地111	食農資源経済学	2		地352	家畜行動管理学	2	
	地211	農林経営経済学	2		地353	家畜微生物学	2	
	地231	植物開発学	2		地354	畜産資源経済学演習	2	
	地251	循環畜産学	2		地355	家畜飼料管理学実験	1	
	地271	動植物人間関係学	2		地356	家畜衛生学	2	
	地272	フィールド実習Ⅰ	1		地357	畜産資源経済学	2	
	地273	フィールド実習Ⅱ	1		地359	家畜環境衛生学実験	1	
	地201	亜熱帯地域農学演習	2		地451	家畜疾病学	2	
	地501	外国文献講読Ⅰ	2		地551	循環畜産学特別講義Ⅰ	2	
	地502	外国文献講読Ⅱ	2		地552	循環畜産学特別講義Ⅱ	2	
農経 林学	地503	卒業論文Ⅰ	3		農共 生学	地274	フィールド実習Ⅲ	1
	地504	卒業論文Ⅱ	3			地275	園芸福祉学概論	2
	地212	森林環境経済学	2	地372		家畜福祉論	2	
	地213	農業政策学	2	地373		畜産共生技術論	2	
	地311	農業経営学	2	地377		畜産周辺関係学	2	
	地312	農産物流通学	2	地381		農業実践論	2	
	地313	森林政策学	2	地383		森林情報計測学	2	
	地317	森林経営計画学	2	地384		森林情報計測学実習	1	
	地319	農業政策学演習	1	地379		森林ツーリズム論	2	
	地320	農産物流通学演習	1	地387		作物栽培環境学	2	
	地321	森林経営計画学演習	1	地388		緑化修景施工論	2	
	地322	経済学概論	2	地389		造園施工基礎演習	1	
	地323	環境経済学	2	地391		造園施工演習	1	
	地324	農村調査演習実習	2	地392		森と人間の文化論	2	
地325	森林政策学演習実習	2	地571	農林共生科学特別講義Ⅰ	2			
地390	比較林政学	2	地572	農林共生科学特別講義Ⅱ	2			
植開 発学	地411	アグリビジネス論	2	他学 科 提 供 科 目	環231	生物統計学	2	
	地412	島嶼農業論	2		環253	森林植物学	2	
	地232	基礎遺伝学	2		環257	造林学	2	
	地331	植物育種学	2		環258	森林保護学	2	
	地332	園芸学概論	2		環275	食料生産と環境	2	
	地333	種苗生産学	2		環311	植物病理学概論	2	
	地334	熱帯果樹園芸学	2		環316	熱帯作物学	2	
	地335	植物育種学実験	1		環331	家畜生理学	2	
	地336	蔬菜園芸学	2		環332	家畜繁殖学	2	
	地337	観賞植物園芸学	2		環335	家畜育種学	2	
	地338	園芸学実験	1		環357	森林生態学	2	
	地339	植物開発学演習	1		環372	応用昆虫学	2	
	地340	植物生産学	2		学部提供 公開科目	農共211	熱帯農学総合実習	2
	地531	植物開発学特別講義Ⅰ	2		農共212	亜熱帯林体験実習	1	
地532	植物開発学特別講義Ⅱ	2	教員免許 取得の ための 授業科目	農職401	農業科教育法Ⅰ	2		
				農職402	農業科教育法Ⅱ	2		
				地職401	職業指導	2		

別表3 授業科目の履修方法, 単位数及び週時間
亜熱帯地域農学科

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分			
							A	B	C	D
農共101	食・農・環境概論	2	2-0	1	前	琉球大学農学部が目指す農・食・環境の考え方を解説する。	●	●	●	●
農共102	基礎フィールド実習	1	0-3	1	前	農業・林業・畜産業に関する実習をオムニバス形式で行う。	●	●	●	●
農共301	キャリアディベロップメント	1	2-0	3	前	社会における職業に対する考え方, 専門性が社会に持つ意味と重要性について議論し, 社会的・職業的自立を考えるとともに, 就職支援のための講義と演習を行う。	●	●	●	●
農共302	キャリア実習	1	0-3	3	前	学外の亜熱帯地域農学に関連する機関や組織, その他における現地実習を通じて実務経験・能力を養う。	○	○	○	○
環231	生物統計学	2	2-0	2	前	農学ならびに生物学分野で得られたデータの要約と推定方法, 検定方法について解説を行う。	●	●	●	●
地211	農林経営経済学	2	2-0	2	前	農林業にかかわる基礎理論とその応用, 世界経済の中で農林業の諸問題, 地域農林業の果たす役割等について解説する。	●	●	●	●
地231	植物開発学	2	2-0	2	前	植物資源開発の歴史から高度な植物資源の開発・利用方法までを概説する。	●	●	●	●
地251	循環畜産学	2	2-0	2	前	畜産業は物質循環型農業システムであることを説明し, システム維持のための理論と展開方法について概説する。	●	●	●	●
地271	動植物人間関係学	2	2-0	2	後	農業の多面的機能, 自然生態系の均衡を理解し, 動植物との共生関係と動植物から受ける癒しの位置付けを概説する。	●	●	●	●
地111	食農資源経済学	2	2-0	1	後	社会・経済的視点からみた世界と日本の食料・農業・農村の現状と動向について概説する。	●	●	●	●
地272	フィールド実習 I	1	0-3	2	後	フィールドにおける植物栽培・管理を対象とする基礎的実習を行う。	●	●	●	●
地273	フィールド実習 II	1	0-3	2	後	フィールドにおける家畜飼育・管理を対象とする基礎的実習を行う。	●	●	●	●
地201	亜熱帯地域農学演習	2	0-2	2	後	与えられた課題について少人数グループで書籍, 文献, Web等から情報を収集・整理・加工しプレゼンテーションを行う。	○	○	○	○
地501	外国文献講読 I	2	2-0	3	前	各専門分野に関する外国語文献の講読を行う。	●	●	●	●
地502	外国文献講読 II	2	2-0	3	後	各専門分野に関する外国語文献の講読を行う。	●	●	●	●
地503	卒業論文 I	3	0-9	4	前	各分野の関連課題について, 教員の指導のもとに研究を企画立案し, 実験・調査を進める。	●	●	●	●
地504	卒業論文 II	3	0-9	4	後	各分野の関連課題について, 教員の指導のもとに研究を継続させ, 論文を提出する。	●	●	●	●
地213	農業政策学	2	2-0	2	後	農業生産における政策の意義と役割について解説する。	◎	○	○	○
地311	農業経営学	2	2-0	3	前	技術と経済が結節する生産の単位である農業経営の基礎理論について解説する。	◎	○	○	○
地312	農産物流通学	2	2-0	3	前	生産者・消費者双方の視点から現代における農産物の市場構造と流通システムについて概説する。	◎	○	○	◎
地313	森林政策学	2	2-0	2	後	森林・林業・木材産業に関する政策・法律・組織・歴史および国内の現状について解説する。	◎	○	○	◎
地212	森林環境経済学	2	2-0	2	前	森林をめぐる国内外の諸問題(森林環境問題, 木材貿易, 新たな森林産業の展開など)について解説する。	◎	○	○	○
地317	森林経営計画学	2	2-0	3	後	森林の管理経営を効果的で持続的に実施するための森林計画の立案, 実行及び結果の評価に必要な理論と方法を解説する。	◎	○	○	○
地411	アグリビジネス論	2	2-0	4	前	アグリビジネスの産業構造と展開過程及び発展戦略について概説する。	◎	○	○	○
地390	比較林政学	2	2-0	3	後	欧米先進国を中心とする諸外国の森林・林業政策と国際的な森林問題について解説する。	◎	○	○	○
地412	島嶼農業論	2	2-0	4	前	第一次産業を中心に生活の基盤としての島嶼の生産のあり方について考える。	○	○	○	○
地319	農業政策学演習	1	0-3	3	後	農業政策の理論と役割に関する共同討議を行う。	◎			
地320	農産物流通学演習	1	0-3	3	後	食料・農業を取り巻く経済的社会的諸問題や農産物の市場・流通問題について発表及び討議を行う	◎			
地321	森林経営計画学演習	1	0-3	3	後	森林経営計画と森林施業に関する基礎理論とその応用について共同討議する。	◎			

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分			
							A	B	C	D
地322	経済学概論	2	2-0	3	前	経済学の基礎に関する概説	◎			
地323	環境経済学	2	2-0	3	前	公共経済学の理論を基礎として、環境税や排出権取引制度、廃棄物対策等、環境政策の評価について講義する。	◎			
地324	農村調査演習実習	2	2-2	3	前	農村調査は農業、農村や農家経済の実態を把握する上で重要な手法であり、この科目では調査の設計から実態調査を経て、報告書作成に至る一連の過程を修得する。	◎	○	○	○
地325	森林政策学演習実習	2	1-3	3	前	グループ毎に森林に関するアンケート調査や針葉樹人工林の毎木調査・定性間伐・造材・搬出等の作業実習を行い、間伐前後の環境変化の測定、労働生産性の評価、木材の生産販売における経済分析について講義・討議を行う。	◎	○		○
環253	森林植物学	2	2-0	2	前	樹木の外部形態および内部の組織構造、樹木の成長機構と繁殖様式について学ぶ。	○			
環258	森林保護学	2	2-0	2	後	樹木の病理学の基礎となる概念を解説し、菌類病を中心とした森林植物の生物病害について基礎的知識を講義する。	○			
地232	基礎遺伝学	2	2-0	2	後	細胞分裂、遺伝の法則、連鎖、遺伝子、染色体などについて概説する。	○	◎	○	○
地336	蔬菜園芸学	2	2-0	3	後	園芸学は果樹園芸、蔬菜園芸、花卉園芸からなる。この講義では、蔬菜園芸における基礎的、応用的な技術を概説する。	○	◎	○	○
地331	植物育種学	2	2-0	3	前	植物育種の基礎理論および実際の育種法を詳説する。	○	◎	○	○
地332	園芸学概論	2	2-0	3	前	園芸は果樹、蔬菜および花卉部門からなっている。本講義はこれら園芸部門に共通する基本的知識と技術を概説する。	○	◎	○	◎
地337	観賞植物園芸学	2	2-0	3	後	花卉園芸植物の分類、生態および栽培法について概説する。	○	◎	○	○
地333	種苗生産学	2	2-0	3	前	種苗生産が重要性を雑種性との関連で概説し、植物繁殖の原理、種苗育成の概要、育苗技術を数種植物を事例に説明する。	○	◎	○	○
地334	熱帯果樹園芸学	2	2-0	3	前	熱帯果樹に関する基本的知識と技術を概説する。	○	◎	○	○
地338	園芸学実験	1	0-3	3	後	熱帯作物の繁殖と栽培に関する実験を行う。		◎		
地335	植物育種学実験	1	0-3	3	前	作物育種の基礎理論と基礎技術に関する実験を行う。		◎		
地339	植物開発学演習	1	0-3	3	後	植物開発学に関する課題の演習を行う。		◎		
地340	植物生産学	2	2-0	3	後	熱帯・亜熱帯地域の耕地環境下での作物の物質生産の仕組みを中心に、その環境下で生育する作物の栽培、生理、生態及び育種を総合的に理解するための科目である。	○	◎	○	○
環311	植物病理学概論	2	2-0	2	前	作物生産上不可欠である植物病の防除のため、基礎微生物学から最新のバイオテクノロジーの技術に関する知識を教授する。	○	◎	○	○
環316	熱帯作物学	2	2-0	2・3	後	熱帯作物の形態、性状、来歴、生理生態的特性、生産過程および栽培法を概説する。	○	◎	○	○
環372	応用昆虫学	2	2-0	2・3	前	近年の総合的害虫管理技術や方法論を体系的に解説し、島嶼における害虫管理や環境保全に関する近年のトピックを学ぶ。	○	◎	○	○
地531	植物開発学特別講義 I	2	2-0	3	前	植物開発に関する最近の研究成果について教授する。	○	◎	○	○
地532	植物開発学特別講義 II	2	2-0	3	後	分子遺伝に関する最新の知見・情報について概説する。	○	◎	○	○
地252	家畜飼養栄養学	2	2-0	2・3	前	飼料成分と家畜栄養成分を個別に解説し、各成分の消化・吸収・代謝について教授する。	○	○	◎	○
地253	草地農業論	2	2-0	2	後	循環型畜産の基盤となる草地について、その成立過程や利用の現状、社会経済的な位置付けについて解説する。	○	○	◎	○
地351	家畜環境管理学	2	2-0	3	前	暑熱条件を中心とした環境が家畜生産に及ぼす影響、また、家畜生産が環境に及ぼす影響について教授する。	○	○	◎	○
地356	家畜衛生学	2	2-0	3	後	家畜疾病予防、各種疾病各論、飼養衛生、管理衛生、家畜衛生関連法規について教授する。	○	○	◎	○
地352	家畜行動管理学	2	2-0	3	前	家畜の行動管理に関する専門用語と基本的概念、行動発現のしくみ、家畜の管理について解説する。	○	○	◎	◎
地451	家畜疾病学	2	2-0	2・3	後	人獣共通伝染病をはじめ牛豚鶏における個々疾病について説明する。	○	○	◎	○
地353	家畜微生物学	2	2-0	3	前	家畜関連の微生物の分類、形態、生理、代謝、培養条件、遺伝・変異、消毒・化学療法、感染、免疫等の基礎的内容を教授する。	○	○	◎	○

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分			
							A	B	C	D
地254	家畜飼料学	2	2-0	2	後	家畜の飼料の分類と調製する際の家畜栄養との関連、飼料安全法など関連法規についても教授する。	○	○	◎	○
地357	畜産資源経済学	2	2-0	3	後	畜産部門は世界の経済と強く結びつきつつ展開している。この講義では、飼料や畜産物の生産と流通の現状について、経済学的な見地から解説する。	○	○	◎	○
地359	家畜環境衛生学実験	1	0-3	3	後	前半は家畜衛生学に関する基礎的な実験・実習、後半は家畜を取り巻く畜舎環境および排せつ物やその処理に関する測定方法等の実験・実習			◎	
地354	畜産資源経済学演習	2	2-0	3	前	畜産部門は特に飼料確保を通じて世界と結びついている。この演習では、畜産資源経済に関わる基本的なテキストを輪読し、畜産の生産、加工、流通、消費について議論する。			◎	
地355	家畜飼養管理学実験	1	0-3	3	前	家畜栄養成分成分測定、並びに飼養管理技術について実験する。			◎	
環332	家畜繁殖学	2	2-0	2	前	各種家畜における多様な生殖様式について内分泌学的な面から解説する。	○	○	◎	○
環335	家畜育種学	2	2-0	3	後	近代育種学の基礎となる遺伝的パラメータの推定方法、個体育種価の予測法について解説する。	○	○	◎	○
環331	家畜生理学	2	2-0	2・3	前	動物の生命保持に不可欠な機能について解説し、その生体における役割を解説する。	○	○	◎	○
地551	循環畜産学特別講義Ⅰ	2	2-0	2・3・4	前	畜産学関連の最近の研究成果について教授する。	○	○	○	○
地552	循環畜産学特別講義Ⅱ	2	2-0	2・3・4	後	畜産学関連の最新の知見・情報について概説する。	○	○	○	○
地274	フィールド実習Ⅲ	1	0-3	2	後	フィールドにおける森林管理を対象とする基礎的実習を行う。主に与那フィールドでの集中実習。	○	○	○	◎
地275	園芸福祉学概論	2	2-0	2	後	園芸福祉の考え方や目標、実践方法、運営方法などについて教授し、「農」の持つ新たな役割について論述する。	○	○	○	◎
環275	食料生産と環境	2	2-0	2	後	地球環境に関わる食糧生産について概説し、農作物の生産性の増大を図り、持続的生産を可能とする作物の栽培管理法について解説する。	○	○	○	◎
地372	家畜福祉論	2	2-0	2・3	前	家畜の福祉とは何か？、家畜生産における家畜福祉の考え方を多面的に教授する。	○	○	◎	◎
地373	畜産共生技術論	2	2-0	3	前	畜産とそれを取巻く諸事象について、社会的・科学的領域を解説する。	○	○	○	◎
地377	畜産周辺関係学	2	2-0	3	後	家畜管理の理論と技術、国内外の畜産技術について解説する。	○	○	○	◎
地381	農業実践論	2	2-0	3	後	農業やその生産・生活環境に関連する学外の専門家、農業経営者技術者、また農業行政の担当者等による講義。	○	○	○	◎
地383	森林情報計測学	2	2-0	3	前	森林に関わる幅広い情報を紹介するとともに、森林計測の意義について説明する。森林計測の技術や理論については、詳細な説明を行う。	○	○	○	◎
地384	森林情報計測学実習	1	0-3	3	後	森林内で森林計測方法を習得する。計測によって得られたデータの処理および解析にも取り組み、森林情報として取りまとめる。集中形式で実施する。	○	○	○	◎
地379	森林ツーリズム論	2	2-0	3	前	国内外の森林をめぐるツーリズムの現状を解説し、学生自らツーリズムの課題に取り組む。	◎	○	○	◎
地387	作物栽培環境学	2	2-0	3	後	持続的な高品質作物栽培と環境保全型作物のための作物生産機構、土壌、肥料、雑草管理、連作及び間作技術について教授する。	○	○	○	◎
地388	緑化修景施工論	2	2-0	2・3	前	庭園や緑地の一般的な知識、緑化・造園樹木の管理や施工法に関する知識および関係法規等について教授する。	○	○	○	◎
地389	造園施工基礎演習	1	0-3	2・3	後	造園施工に関する基礎的な技法について演習を行う。	○	○	○	○
地392	森と人間の文化論	2	2-0	3	後	森と人との共生圏における森林が持つ多面的機能を考察し、燃料確保、食料生産、景観維持、文化的（精神的・宗教的）な価値などについて概説する。また、持続的な森林の利用と保全に関する諸課題について社会経済的側面から論述する。	○	○	○	◎
環257	造林学	2	2-0	2	後	需要に合わせた木材資源の効率的生産のため、森林生態学に則った持続可能な森林の取り扱いと森林の保育管理技術に関する基礎理論を学ぶ。	○			○
環357	森林生態学	2	2-0	2	後	森林における生物-環境間や生物間の相互作用の理解に基づいて、森林生態系の一次生産や維持・更新機構、物質・エネルギー循環、生態系機能について概説する。	○	○	○	◎
地391	造園施工演習	1	0-3	3・4	前	垣根製作、敷石や飛石の据付など造園施工の技法に関する演習を行う。	○	○	○	○

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分			
							A	B	C	D
地571	農林共生科学特別講義Ⅰ	2	2-0	2・3・4	前	農林共生科学関連の最近の研究成果について教授する。	○	○	○	○
地572	農林共生科学特別講義Ⅱ	2	2-0	2・3・4	後	農林共生科学関連の最新の知見・情報について概説する。	○	○	○	○
農共211	熱帯農学総合実習	2	0-6	2	前	熱帯農学に関する基礎的理論の習得と現地における総合実験及び演習	自由			
農共212	亜熱帯林体験実習	1	0-3	2	前	亜熱帯林について、幅広い知識の習得を目指す。全国単位互換「公開森林実習」該当科目				

注1. 履修にあたっては、教育コース別区分欄から選択すること。
 A：農林経済学コース
 B：植物開発学コース
 C：循環畜産学コース
 D：農林共生学コース
 注2. ●：必修科目，◎：選択必修科目，○：選択科目，自由：自由科目

【教員免許状取得のための授業科目】

※入学年度の「教員免許状取得の手引き」を参考に、必要な単位数、授業科目名について必ず年次教職課程指導教員に相談してください。

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	免許状の種類
農職401	農業科教育法Ⅰ	2	2-0	3・4	前	学習指導要領における農業科の目標・内容を学習し、学習評価について理解し、具体的な授業実践について学ぶ。	高一種免（農業）
農職402	農業科教育法Ⅱ	2	2-0	3・4	後	農業科の基礎的な学習指導の理論・方法等を学び、実習指導や教材活用を含めた授業設計について理解する。	
地職401	職業指導	2	2-0	3・4	前	実践的側面に重点を置いた職業教育、産業教育の基礎を学ぶ。	

別表4 卒業の要件 亜熱帯地域農学科

卒業単位は126単位以上とする。

1. 共通教育・・・34単位以上

(1) 教養領域及び総合領域・・・20単位以上

- 人 文 4単位以上
- 社 会 4単位以上
- 健康運動 4単位（「健康・スポーツ科学」2単位（必須）を含む）
- キャリア関係 2単位以上（「キャリア形成入門」2単位（必須）を含む）

※上記単位以外に、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、キャリア関係の科目から計6単位以上を履修すること。

(2) 基幹領域・・・14単位以上

- 情報関係 2単位以上（情報科学演習）
- 外国語 12単位以上（英語8単位以上、他の一つの外国語4単位以上）

2. 専門基礎教育・・・10単位以上

- (1) 生物系（生物学Ⅰ・Ⅱ，同実験）
- (2) 化学系（化学Ⅰ・Ⅱ[または化学入門Ⅰ・Ⅱ]，同実験）
- (3) 数学系（微分積分学STⅠ・Ⅱ[または微分積分学入門Ⅰ・Ⅱ]，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，統計学Ⅰ・Ⅱ）
- (4) 物理系（物理学Ⅰ・Ⅱ[または物理学入門Ⅰ・Ⅱ]，同実験）

※（1）～（4）の2系を各5単位以上、計10単位以上を履修すること。

※転換科目の微分積分学入門Ⅰ・Ⅱは高校で「数学Ⅲ」を履修していない学生、化学入門Ⅰ・Ⅱ，または物理学入門Ⅰ・Ⅱの履修は、それぞれ高等学校で化学または物理学を履修していない、あるいは「化学基礎」または「物理基礎」のみを履修している学生が対象。

転換科目の履修に関しては、指導教員の指導を受けること。

3. 専門教育・・・82単位以上

(1) 学部共通科目・・・4単位

- ・食・農・環境概論（2単位），基礎フィールド実習（1単位），キャリアディベロップメント（1単位）の合計4単位を履修する。

(2) 学科共通科目・・・24単位

- ・農林経営経済学（2単位），植物開発学（2単位），循環畜産学（2単位），動植物人間関係学（2単位），食農資源経済学（2単位），フィールド実習Ⅰ（1単位），フィールド実習Ⅱ（1単位），生物統計学（2単位）外国文献講読Ⅰ（2単位），外国文献講読Ⅱ（2単位），卒業論文Ⅰ（3単位），卒業論文Ⅱ（3単位）の合計24単位を履修する。

(3) 専門教育科目・・・54単位以上

- ・農林経済学コース，植物開発学コース，循環畜産学コース，農林共生学コースの4コースのうち1つを選択して履修する。各コースの単位として指定された選択必修科目から，16単位以上を履修する。
- ・学部共通科目，学科共通科目，各コースの専門教育科目（選択科目）のうちから38単位以上を履修する。

○選択科目には，専門教育に関連した，他学部，他学科の提供専門科目及び学科内の指定外科目（教職に関する科目及び博物館学関係授業の必修科目は除く）を自由科目として6単位まで含むことができる。

ただし，自由科目の履修に関しては，指導教員と十分に相談すること。

共通教育 (34単位以上)		専門基礎教育 (10単位以上)	
教養領域及び総合領域	基幹領域	先修科目（又は転換科目）	
20単位以上	14単位以上	10単位以上	
専門教育（82単位以上，これには自由科目6単位まで含むことが可）			
学部共通科目	学科共通科目	コース提供科目	学科内専門教育科目
(必修) 4単位	(必修) 24単位	(選択必修) 16単位以上 [選択必修科目に指定されている科目を16単位を超えて履修した科目の単位は、選択科目として扱う。]	(選択) 38単位以上 [学部共通科目及び学科共通科目内の選択科目を含む。]

別表2 授業科目の種類
亜熱帯農林環境科学科

コース等名	科目番号	授業科目	単位	コース等名	科目番号	授業科目	単位	
学部 共通科目	農共101	食・農・環境概論	2	森 環 境 林 学	環253	森林植物学	2	
	農共102	基礎フィールド実習	1		環254	森林植物学実験	1	
	農共301	キャリアディベロップメント	1		環256	森林生態学・森林測量学実習	1	
	農共302	キャリア実習	1		環257	造林学	2	
学科共通 専門科目	環211	作物生理学	2		環258	森林保護学	2	
	環231	生物統計学	2		環259	リモートセンシング概論	2	
	環232	動物機能学	2		環260	造林学実習	1	
	環251	森林環境学	2		環264	樹木生理・遺伝育種学	2	
	環261	流域防災学	2		環353	森林微生物学	2	
	環271	生態学・環境学	2		環355	森林保護学実験	1	
	環371	保全生物学	2		環356	リモートセンシング実習	1	
	環201	亜熱帯農林環境科学演習	2		環357	森林生態学	2	
	環501	外国文献講読Ⅰ	2		環359	森林微生物学実験	1	
	環502	外国文献講読Ⅱ	2		環360	流域防災学演習実習	2	
	環503	卒業論文Ⅰ	3		環361	森林環境科学演習	1	
	環504	卒業論文Ⅱ	3		環551	森林環境科学特別講義Ⅰ	2	
	植 機 能 物 学	環212	作物学		2	環552	森林環境科学特別講義Ⅱ	2
環213		植物ウイルス病学	2		生 態 環 境 学 科	環272	進化生態学	2
環311		植物病理学概論	2			環273	基礎昆虫学	2
環312		植物病理学実験	1			環274	環境土壌学	2
環313		熱帯作物学実験	1	環275		食料生産と環境	2	
環314		熱帯植物病理学	2	環276		農耕地の生態	2	
環315		土壌微生物学	2	環372		応用昆虫学	2	
環316		熱帯作物学	2	環375		土壌肥料学実験	1	
環317		熱帯エネルギー作物学	2	環377		昆虫学実験	1	
環318		植物線虫学	2	環378		土壌環境科学	2	
環319		熱帯肥培管理論	2	環379		生態環境科学実験	1	
環511		植物機能科学特別講義Ⅰ	2	環475		生態環境科学演習	2	
環512		植物機能科学特別講義Ⅱ	2	環573		生態環境科学特別講義Ⅰ	2	
動 機 能 物 学	環131	野生動物管理学	2	環574	生態環境科学特別講義Ⅱ	2		
	環233	動物遺伝学	2	他 学 科 目 提 供 科 目	地212	森林環境経済学	2	
	環234	動物生体機構学	2		地232	基礎遺伝学	2	
	環235	動物環境生理学	2		地252	家畜飼養栄養学	2	
	環331	家畜生理学	2		地253	草地農業論	2	
	環332	家畜繁殖学	2		地272	フィールド実習Ⅰ	1	
	環333	動物解剖生理学実習	1		地273	フィールド実習Ⅱ	1	
	環334	家畜繁殖学実験	1		地274	フィールド実習Ⅲ	1	
	環335	家畜育種学	2		地313	森林政策学	2	
	環336	家畜人工繁殖学	2		地317	森林経営計画学	2	
	環337	家畜育種学実験	1		地331	植物育種学	2	
	環431	動物生殖制御学	2		地332	園芸学概論	2	
	環531	動物機能科学特別講義Ⅰ	2		地356	家畜衛生学	2	
	環532	動物機能科学特別講義Ⅱ	2		地383	森林情報計測学	2	
学部提供 公開科目	農共211	熱帯農学総合実習	2		教員免許 取得の ための 授業科目	農職401	農業科教育法Ⅰ	2
	農共212	亜熱帯林体験実習	1	農職402		農業科教育法Ⅱ	2	
				環職401		職業指導	2	

別表3 授業科目の履修方法、単位数及び週時間
 亜熱帯農林環境科学科

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分			
							A	B	C	D
農共101	食・農・環境概論	2	2-0	1	前	琉球大学農学部が目指す農・食・環境の考え方を解説する。	●	●	●	●
農共102	基礎フィールド実習	1	0-3	1	前	農業・林業・畜産業に関する実習をオムニバス形式で行う。	●	●	●	●
農共301	キャリアディベロップメント	1	2-0	3	前	社会における職業に対する考え方、専門性が社会に持つ意味と重要性について議論し、社会的・職業的自立を考えるとともに、就職支援のための講義と演習を行う。	●	●	●	●
農共302	キャリア実習	1	0-3	3	前	学外の亜熱帯地域農学に関連する機関や組織、その他における現地実習を通じて実務経験・能力を養う。	○	○	○	○
環231	生物統計学	2	2-0	2	前	農学ならびに生物学分野で得られたデータの要約と推定方法、検定方法について解説を行う。	●	●	●	●
環232	動物機能学	2	2-0	2	前	動物の生命保持に不可欠な機能について解説し、その生体における役割を考察する。	●	●	●	●
環271	生態学・環境学	2	2-0	2	前	生態系の力学的な機構の基本を理解し、環境諸問題に科学的に対応できる基本姿勢を習得する。	●	●	●	●
環251	森林環境学	2	2-0	2	前	地球環境の危機が叫ばれる中、地球全体から地域にいたる環境保全において森林が果たす役割を造林学、森林生態学、森林水文学、砂防学、森林土壌学の様々な観点から講述する。	●	●	●	●
環211	作物生理学	2	2-0	2	前	熱帯、温帯産作物の比較を通じ、作物の生理特性の基礎概念を教え、光合成に及ぼす各種環境要因との関係を詳説する。	●	●	●	●
環371	保全生物学	2	2-0	3	前	新しい応用生物学分野の基本概念を解説し、稀少生物保護、外来種問題等の環境問題における科学的解決の方法論を学習する。	●	●	●	●
環261	流域防災学	2	2-0	2	後	森林、流域の防災・減災の機能や流域の水土災害リスクについての理論とメカニズム、砂防学、森林水文学を含めた関連対策等を学び、これらの社会や環境の及ぼす影響を講義する。さらに、生態系における水土移動の現象、災害リスクマネジメント、災害レジリエンスを学ぶ。	●	●	●	●
環201	亜熱帯農林環境科学演習	2	0-2	2	後	与えられた課題について少人数グループで書籍、文献、Web等から情報を収集・整理・加工しプレゼンテーションを行う。	○	○	○	○
環501	外国文献講読 I	2	2-0	3	前	各専門分野に関する外国語文献の講読を行う。	●	●	●	●
環502	外国文献講読 II	2	2-0	3	後	各専門分野に関する外国語文献の講読を行う。	●	●	●	●
環503	卒業論文 I	3	0-9	4	前	各分野の関連課題について、教員の指導のもとに研究を企画立案し、実験・調査を進める。	●	●	●	●
環504	卒業論文 II	3	0-9	4	後	各分野の関連課題について、教員の指導のもとに研究を継続させ、論文を提出する。	●	●	●	●
環311	植物病理学概論	2	2-0	2	前	作物生産上不可欠である植物病の防除のため、基礎微生物学から最新のバイオテクノロジーまでの技術に関する知識を教授する。	◎	○	○	○
環314	熱帯植物病理学	2	2-0	3	後	熱帯・亜熱帯の環境下で発生する植物病害の種類、発生状況、発生生態および防除法について解説する。	◎	○	○	○
環213	植物ウイルス病学	2	2-0	2	後	植物ウイルスの分類からウイルス病の発生病態および防除法について解説する。	◎	○	○	○
環315	土壌微生物学	2	2-0	3	後	土壌微生物は物質循環や生物多様性の創出に重要な生物である。本講義では共生菌、糞生菌、根圏微生物および植物病原菌などについて概説する。	◎	○	○	◎
環316	熱帯作物学	2	2-0	3	後	熱帯作物の形態、性状、来歴、生理生態的特性、生産過程および栽培法を概説する。	◎	○	○	○
環212	作物学	2	2-0	2	前	作物の栽培管理、収量性、生理生態環境およびその相互作用について概説する。	◎	○	○	○
環317	熱帯エネルギー作物学	2	2-0	3	後	エネルギー生産を行うために栽培される各種作物の特性およびこれらをエネルギーに変換する技術について解説する。	◎	○	○	○
環318	植物線虫学	2	2-0	2	後	温帯や熱帯・亜熱帯の植物寄生性線虫類や土壌線虫類の分類、生理・生態ならびに防除法について解説する。	◎	○	○	○
環319	熱帯肥培管理論	2	2-0	3	後	熱帯地域に広く分布する酸性土壌の種類と特性、作物生産上の問題点と土壌の改良策、肥料の種類と施肥法について解説する。	◎	○	○	◎
環312	植物病理学実験	1	0-3	3	前	熱帯・亜熱帯性植物の重要病害を題材に、病原微生物の分離・培養、形態・分類、接種、薬剤防除試験等の実験を行う。	◎			

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分			
							A	B	C	D
環313	熱帯作物学実験	1	0-3	3	前	熱帯植物の光エネルギー、土壌養水分吸収による成長過程を測定し、成分分析方法を習得する。	◎			
地272	フィールド実習I	1	0-3	2	後	フィールドにおける植物栽培・管理を対象とする基礎的実習を行う。	◎			◎
地232	基礎遺伝学	2	2-0	2	後	細胞分裂、遺伝の法則、連鎖、遺伝子、染色体などについて概説する。	◎	○	○	○
地331	植物育種学	2	2-0	3	前	植物育種の基礎理論および実際の育種法を詳説する。	◎	○		○
地332	園芸学概論	2	2-0	3	前	園芸は果樹、野菜および花卉部門からなっている。本講義はこれら園芸部門に共通する基本的知識と技術を概説する。	◎	○		○
環511	植物機能科学特別講義 I	2	2-0	1・2・3・4	前	作物学分野の最近の知見について概説する。	○	○	○	○
環512	植物機能科学特別講義 II	2	2-0	1・2・3・4	後	植物病理学分野の最近の知見について概説する。	○	○	○	○
環331	家畜生理学	2	2-0	3	前	家畜の生命保持に不可欠な機能について解説し、その生体における役割を解説する。	○	◎		○
環335	家畜育種学	2	2-0	3	後	近代育種学の基礎となる遺伝的パラメータの推定方法、個体育種価の予測法について解説する。	○	◎		○
環233	動物遺伝学	2	2-0	2	前	メンデル遺伝学から始まる近代遺伝学の理解に必要な基礎的事項について解説する。	○	◎		○
環332	家畜繁殖学	2	2-0	2	前	各種家畜における多様な生殖様式について内分泌学的な面から解説する。	○	◎		○
環234	動物生体機構学	2	2-0	2	後	哺乳類のマクロ形態について、教科書に沿って要点を概説する。	○	◎		○
環131	野生動物管理学	2	2-0	2	前	琉球列島の哺乳類の分布や生活史、種の多様性・脆弱性、管理に係わる諸問題（外来種管理など）について概説する。	○	◎	○	◎
環336	家畜人工繁殖学	2	2-0	2	後	家畜繁殖学で学んだ繁殖に関する基礎的理論を基礎に、家畜の繁殖効率を高めるための応用技術を概説する。	○	◎		○
環431	動物生殖制御学	2	2-0	3	前	動物の生殖細胞に関する基礎概念から発生工学に関する応用内容までを解説する。	○	◎		○
環235	動物環境生理学	2	2-0	2	後	温熱環境を中心とした環境に対する生体の生理的、形態的および生産的反応を通して作用メカニズムや程度を解説する。	○	◎		○
環333	動物解剖生理学実習	1	0-3	3	前	前半の生理学実習では家畜生理の実験を行い、後半の解剖学実習では家畜、実験・野生動物の解剖手技の解説と実習を行う。		◎		
環334	家畜繁殖学実験	1	0-3	3	前	家畜繁殖学および家畜人工繁殖学の授業を実験・実習を通して理解を深めさせる。		◎		
環337	家畜育種学実験	1	0-3	3	後	動物系の育種学で基礎となる品種特性、集団構造、量的形質の遺伝分析について演習を行う。		◎		
地273	フィールド実習 II	1	0-3	2	後	フィールドにおける家畜飼育・管理を対象とする基礎的実習を行う。		◎		○
地252	家畜飼養栄養学	2	2-0	3	前	飼料成分と家畜栄養成分を個別に解説し、各成分の消化・吸収・代謝について教授する。	○	◎		○
地356	家畜衛生学	2	2-0	3	後	家畜疾病予防、各種疾病各論、飼養衛生、管理衛生、家畜衛生関連法規について教授する。	○	◎		○
地253	草地農業論	2	2-0	2	後	循環型畜産の基盤となる草地について、その成立過程や利用の現状、社会経済的な位置付けについて解説する。	○	◎		○
環531	動物機能科学特別講義 I	2	2-0	1・2・3・4	前	動物機能科学分野に関する最近の研究成果について教授する。	○	○	○	○
環532	動物機能科学特別講義 II	2	2-0	1・2・3・4	後	動物機能科学分野に関する最新の知見について解説する。	○	○	○	○
環256	森林生態学・森林測量学実習	1	0-3	2	後	森林調査に必要な測量技術と森林生態系の仕組みや機能を評価するための各種調査手法について実習を通じて習得する。				◎
環253	森林植物学	2	2-0	2	前	樹木の外部形態および内部構造を細胞、組織、器官、個体レベルのそれぞれから学ぶ。森林を構成する基本単位としての樹木を知る。特に樹木の成長機構と繁殖様式について学ぶ。	○	○	◎	○
環264	樹木生理・遺伝育種学	2	2-0	2	前	樹木の光合成や呼吸、蒸散を中心とした生理機構の仕組みや樹木の遺伝様式などの遺伝育種、林木育種事業について学ぶ。	○	○	◎	○
環257	造林学	2	2-0	2	後	需要に合わせた木材資源の効率的生産のため、森林生態学に則った持続可能な森林の取り扱いと森林の保育管理技術、伐採搬出と林道を含む林業工学に関する基礎理論を学ぶ。	○	○	◎	◎

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分			
							A	B	C	D
環357	森林生態学	2	2-0	2	後	森林における生物-環境間や生物間の相互作用の理解に基づいて、森林生態系の一次生産や維持・更新機構、物質・エネルギー循環、生態系機能について概説する。	○	○	◎	◎
環258	森林保護学	2	2-0	2	後	樹木の病理学の基礎となる概念を解説し、菌類病を中心とした森林植物の生物病害について基礎的知識を講義する。	○	○	○	○
環353	森林微生物学	2	2-0	3	前	森林植物や森林土壌中の微生物（病原菌、内生菌、菌根菌、根粒細菌、材質腐朽菌等）の概要と森林生態系での役割を講義する。	○	○	○	○
環259	リモートセンシング概論	2	2-0	3	前	リモートセンシングの基礎概念とそれを支える広範な技術等を論述する。	○	○	○	○
環260	造林学実習	1	0-3	2	後	森林植生、樹木、土壌、環境等に関する調査・観察・測定を森林内で実習し、森林の生産力の評価、林分調査のデータの解析法を習得する。			◎	
環254	森林植物学実験	1	0-3	2	前	森林植物学の履修に必要な技術と研究手法（植物種の識別同定能力、植物や菌類組織の顕微鏡観察）を実験実習によって学ぶ。			◎	
環355	森林保護学実験	1	0-3	3	前	森林植物における病理現象の観察、試料採取、分離・培養、病原性の同定、防除方法等を実験実習する。			○	
環359	森林微生物学実験	1	0-3	3	後	森林植物と微生物による広義の共生現象について、その観察・関与する微生物の同定などの基礎的な知識・技術を学習する。			○	
環356	リモートセンシング実習	1	0-3	3	前	リモートセンシングの基礎及び応用のための計測・計算・解析等の実習を行う。			○	
環360	流域防災学演習実習	2	2-2	3	後	流域防災学の講義を踏まえ、その理解に役立つ砂防学、森林土木学を含めた演習課題と現場での実習を行う。			◎	
環361	森林環境科学演習	1	0-3	3	後	森林、環境に関する課題を自ら設定し、その解決のために調査、実験等を行う。			◎	
地274	フィールド実習Ⅲ	1	0-3	2	後	フィールドにおける森林管理を対象とする基礎的実習を行う。主に与那フィールドでの集中実習。			○	◎
地212	森林環境経済学	2	2-0	2	前	森林をめぐる国内外の諸問題（森林環境問題、木材貿易、新たな森林産業の展開など）について解説する。			○	
地313	森林政策学	2	2-0	4	後	森林・林業・木材産業に関する政策・法律・組織・歴史および国内の現状について解説する。	○	○	○	○
地317	森林経営計画学	2	2-0	3	後	森林の管理経営を効果的で持続的に実施するための森林計画の立案、実行及び結果の評価に必要な理論と方法を解説する。			○	
地383	森林情報計測学	2	2-0	3	前	森林に関わる幅広い情報を紹介するとともに、森林計測の意義について説明する。森林計測の技術や理論については、詳細な説明を行う。			○	
環551	森林環境科学特別講義Ⅰ	2	2-0	1・2・3・4	前	森林環境科学分野に関する最近の研究成果について教授する。	○	○	○	○
環552	森林環境科学特別講義Ⅱ	2	2-0	1・2・3・4	後	森林環境科学分野に関する最新の知見について解説する。	○	○	○	○
環272	進化生態学	2	2-0	2	後	進化生態学（行動生態学、社会生物学）の基本理論を解説し、農学や自然保護などの応用的側面でも役立つ教養を身につける。	○	○		◎
環273	基礎昆虫学	2	2-0	2	後	昆虫の基本的性質（分類、生活史、形態、行動、生態、遺伝等）を解説し、島嶼における昆虫多様性や生物資源としての重要性を学ぶ。	○	○	○	◎
環372	応用昆虫学	2	2-0	3	前	近年の総合的害虫管理技術や方法論を体系的に解説し、島嶼における害虫管理や環境保全に関する近年のトピックを学ぶ。	○	○	○	○
環274	環境土壌学	2	2-0	2	後	土壌を構成する各種成分について概説するとともに、利用形態別の土壌の環境について解説する。	○	○	◎	◎
環275	食料生産と環境	2	2-0	2	後	地球環境に関わる食糧生産について概説し、農作物の生産性の増大を図り、持続的生産を可能とする作物の栽培管理法について解説する。	○	○	◎	◎
環276	農耕地の生態	2	2-0	2	前	食料生産の基盤である農耕地の生態について、動物や微生物を含めた土壌と植物の関係を中心に解説する。	○	○	○	○
環375	土壌肥科学実験	1	0-3	3	前	土壌特性、植物生長と栄養、肥料成分のそれぞれの基本的測定実験を行う。				◎
環377	昆虫学実験	1	0-3	3	前	昆虫学のデータ収集法、分析法および標本管理法を実習で学ぶ。				◎
環378	土壌環境科学	2	2-0	3	前	土壌を中心とした元素循環と地球規模での環境問題としての土壌圏と大気圏のガスの循環について解説する。			◎	◎
環379	生態環境科学実験	1	0-3	3	後	生態環境科学に関する実験を個別的に行う。				○

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分			
							A	B	C	D
地272	フィールド実習Ⅰ	1	0-3	2	後	フィールドにおける植物栽培・管理を対象とする基礎的実習を行う。	◎			◎
地273	フィールド実習Ⅱ	1	0-3	2	後	フィールドにおける家畜飼育・管理を対象とする基礎的実習を行う。		◎		○
地274	フィールド実習Ⅲ	1	0-3	2	後	フィールドにおける森林管理を対象とする基礎的実習を行う。主に与那フィールドでの集中実習。			○	◎
環475	生態環境科学演習	2	0-2	4	前	生態環境科学に関する課題について演習する。				○
環573	生態環境科学特別講義Ⅰ	2	2-0	1・2・3・4	前	生態環境科学分野に関する最近の研究成果について教授する。	○	○	○	○
環574	生態環境科学特別講義Ⅱ	2	2-0	1・2・3・4	後	生態環境科学分野に関する最新の知見について解説する。	○	○	○	○
農共211	熱帯農学総合実習	2	0-6	2	前	熱帯農学に関する基礎的理論の習得と現地における総合実験及び演習	自由			
農共212	亜熱帯林体験実習	1	0-3	2	前	亜熱帯林について、幅広い知識の習得を目指す。全国単位互換「公開森林実習」該当科目				

注1. 履修にあたっては、教育コース別区分欄から選択すること。
 A：植物機能学コース
 B：動物機能学コース
 C：森林環境学コース
 D：生態環境科学コース
 注2. ●：必修科目，◎：選択必修科目，○：選択科目，自由：自由科目

【教員免許状取得のための授業科目】

※入学年度の「教員免許状取得の手引き」を参考に、必要な単位数、授業科目名について必ず年次教職課程指導教員に相談してください。

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	免許状の種類
農職401	農業科教育法Ⅰ	2	2-0	3・4	前	学習指導要領における農業科の目標・内容を学習し、学習評価について理解し、具体的な授業実践について学ぶ。	高一種免(農業)
農職402	農業科教育法Ⅱ	2	2-0	3・4	後	農業科の基礎的な学習指導の理論・方法等を学び、実習指導や教材活用を含めた授業設計について理解する。	
環職401	職業指導	2	2-0	3・4	前	実践的側面に重点を置いた職業教育、産業教育の基礎を学ぶ。	

別表4 卒業の要件 亜熱帯農林環境科学科

卒業単位は126単位以上とする。

1. 共通教育・・・34単位以上

(1) 教養領域及び総合領域・・・20単位以上

- 人 文 4単位以上
- 社 会 4単位以上
- 健康運動 4単位（「健康・スポーツ科学」2単位（必須）を含む）
- キャリア関係 2単位以上（「キャリア形成入門」2単位（必須）を含む）

※上記単位以外に、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、キャリア関係の科目から計6単位以上を履修すること。

(2) 基幹領域・・・14単位以上

- 情報関係 2単位以上（情報科学演習）
- 外国語 12単位以上（英語8単位以上、他の一つの外国語4単位以上）

2. 専門基礎教育・・・10単位以上

- (1) 生物系（生物学Ⅰ・Ⅱ，同実験）
- (2) 化学系（化学Ⅰ・Ⅱ[または化学入門Ⅰ・Ⅱ]，同実験）
- (3) 数学系（微分積分学STⅠ・Ⅱ[または微分積分学入門Ⅰ・Ⅱ]，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，統計学Ⅰ・Ⅱ）
- (4) 物理系（物理学Ⅰ・Ⅱ[または物理学入門Ⅰ・Ⅱ]，同実験）

※（1）～（4）の2系を各5単位以上、計10単位以上を履修すること。

※転換科目の微分積分学入門Ⅰ・Ⅱは高校で「数学Ⅲ」を履修していない学生、化学入門Ⅰ・Ⅱ，または物理学入門Ⅰ・Ⅱの履修は、それぞれ高等学校で化学または物理学を履修していない、あるいは「化学基礎」または「物理基礎」のみを履修している学生が対象。

転換科目の履修に関しては、指導教員の指導を受けること。

3. 専門教育・・・82単位以上

(1) 学部共通科目・・・4単位

- ・食・農・環境概論（2単位），基礎フィールド実習（1単位），キャリアディベロップメント（1単位）の合計4単位を履修する。

(2) 学科共通科目・・・24単位

- ・作物生理学（2単位），動物機能学（2単位），森林環境学（2単位），生態学・環境学（2単位），保全生物学（2単位），流域防災学（2単位），生物統計学（2単位），外国文献講読Ⅰ（2単位），外国文献講読Ⅱ（2単位），卒業論文Ⅰ（3単位），卒業論文Ⅱ（3単位）の合計24単位を履修する。

(3) 専門教育科目・・・54単位以上

- ・植物機能学コース，動物機能学コース，森林環境学コース，生態環境科学コースの4コースのうち1つを選択して履修する。各コースの単位として指定された選択必修科目から，16単位以上を履修する。
- ・学部共通科目，学科共通科目，各コースの専門教育科目（選択科目）のうちから38単位以上を履修する。

○選択科目には，専門教育に関連した，他学部，他学科の提供専門科目及び学科内の指定外科目（教職に関する科目及び博物館学関係授業の必修科目は除く）を自由科目として6単位まで含むことができる。ただし，自由科目の履修に関しては，指導教員と十分に相談すること。

共通教育 (34単位以上)		専門基礎教育 (10単位以上)	
教養領域及び総合領域	基幹領域	先修科目（又は転換科目）	
20単位以上	14単位以上	10単位以上	
専門教育（82単位以上，これには自由科目6単位まで含むことが可）			
学部共通科目	学科共通科目	コース提供科目	学科内専門教育科目
(必修) 4単位	(必修) 24単位	(選択必修) 16単位以上 [選択必修科目に指定されている科目を16単位を超えて履修した科目の単位は，選択科目として取り扱う。]	(選択) 38単位以上 [学部共通科目及び学科共通科目内の選択科目を含む。]

別表2 授業科目の種類

地域農業工学科

コース等名	科目番号	授業科目	単位	コース等名	科目番号	授業科目	単位	
学部 共通科目	農共101	食・農・環境概論	2	地域環境 工学	工234	測量学	2	
	農共102	基礎フィールド実習	1		工235	測量学実習	1	
	農共301	キャリアディベロップメント	1		工236	数学・力学演習	1	
	農共302	キャリア実習	1		工238	水理学	2	
学科共通 専門科目	工134	農村環境概論	2		工239	農村農地の整備	2	
	工211	農業生産システム論	2		工240	土地環境保全学	2	
	工212	ポストハーベストテクノロジー	2		工241	土の物理学	2	
	工231	工学の力学	2		工332	材料・コンクリート工学	2	
	工232	応用数学	2		工333	水文・気象学	2	
	工233	応用力学	2		工334	施設工学	2	
	工314	農業情報工学	2		工335	水資源工学	2	
	工331	農業農村工学	2		工339	農業農村整備の実際	2	
	工200	技術者倫理	2		工341	農村農地防災工学	2	
	工202	地域農業工学演習Ⅰ	2		工348	農村計画学	2	
	工301	地域農業工学演習Ⅱ	2		工531	地域環境総合演習Ⅰ	1	
	工302	地域農業工学演習Ⅲ	2		工532	地域環境総合演習Ⅱ	1	
	工501	外国文献講読Ⅰ	2		工534	地域環境実験Ⅰ	1	
	工502	外国文献講読Ⅱ	2		工535	地域環境実験Ⅱ	1	
	工503	卒業論文Ⅰ	3		工541	地域環境工学特別講義Ⅰ	2	
	工504	卒業論文Ⅱ	3		工542	地域環境工学特別講義Ⅱ	2	
バイオ システム 工学	工311	農業環境計測工学	2		他学科 提供科目	環274	環境土壌学	2
	工313	生物資源プロセス工学	2			環378	土壌環境科学	2
	工315	農業電気・電子工学概論	2			環317	熱帯エネルギー作物学	2
	工316	農業エネルギー工学	2		学部提供 公開科目	農共211	熱帯農学総合実習	2
	工317	生物材料工学	2			農共212	亜熱帯林体験実習	1
	工319	農業システム設計学	2		教員免許 取得の ための 授業科目	農職401	農業科教育法Ⅰ	2
	工513	農業機械・農業情報工学実験	1	農職402		農業科教育法Ⅱ	2	
	工514	ポストハーベスト工学実験	1	工職401		職業指導	2	
	工515	バイオシステム工学セミナーⅠ	1					
	工516	バイオシステム工学セミナーⅡ	1					
	工517	バイオシステム工学セミナーⅢ	1					
	工521	バイオシステム工学特別講義Ⅰ	2					
工522	バイオシステム工学特別講義Ⅱ	2						

別表3 授業科目の履修方法, 単位数及び週時間
地域農業工学科

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分	
							A	B
農共101	食・農・環境概論	2	2-0	1	前	琉球大学農学部が目指す農・食・環境の考え方を解説する。	●	●
農共102	基礎フィールド実習	1	0-3	1	前	農業・林業・畜産業に関する実習をオムニバス形式で行う。	●	●
農共301	キャリアディベロップメント	1	2-0	3	前	社会における職業に対する考え方, 専門性が社会に持つ意味と重要性について議論し, 社会的・職業的自立を考えるとともに, 就職支援のための講義と演習を行う。	●	●
農共302	キャリア実習	1	0-3	3	前	学外の亜熱帯地域農学に関連する機関や組織, その他における現地実習を通じて実務経験・能力を養う。	○	○
工134	農村環境概論	2	2-0	1	後	農村環境に関わる土地・水利用の状況, 農村環境の諸問題と解決に向けた取組等について概説する。	●	●
工211	農業生産システム論	2	2-0	2	前	生物生産をシステム工学的な観点から整理し, その基礎技術を学び, 機械化・情報化による高度な生産システムについて概説する。	●	●
工212	ポストハーベストテクノロジー	2	2-0	1	後	農産物の鮮度維持と流通のための生理学, 物理学, 工学的特性, 穀類や青果物の収穫・調製・加工に必要な機器と原理を概説する。	●	●
工231	工学の力学	2	2-0	2	前	地域(農村・農地を含む)の整備と保全に必要な力学の基礎的知識を修得する。	●	●
工232	応用数学	2	2-0	2	前	微分積分を中心に力学において必要な物理数学について講義する。	●	●
工233	応用力学	2	2-0	2	後	橋梁や建築への荷重がもたらす応力や変形, はりのたわみやたわみ角, 柱の座屈などについて解説する。	●	●
工314	農業情報工学	2	2-0	3	前	農業農村および生物生産における情報化の進展を概説し, プログラミング, ハードウェア, アルゴリズムおよびデータベース等, 情報工学の基礎を学修する。	●	●
工331	農業農村工学	2	2-0	2	前	農業の生産性向上と農村の生活環境の整備, 農業農村に係わる中小都市も含めた地域全体の持続的発展を図るため, 循環を基調とした社会を構築し, 水・土などの地域資源を人と自然の調和, 環境への配慮を重視し合理的に管理する科学技術の基礎を解説する。	●	●
工200	技術者倫理	2	2-0	2	後	技術を実践する「行為者」である技術者の新しい「倫理」とは何かを解説する。	●	●
工202	地域農業工学演習Ⅰ	2	0-2	2	後	与えられた課題について少人数グループで書籍, 文献, Web等から情報を収集・整理・加工しプレゼンテーションを行う。	○	○
工301	地域農業工学演習Ⅱ	2	0-2	3	前	卒業論文に繋がる研究テーマに関して, 情報収集, 課題探索, 調査・実験・解析およびデータ処理の手法, 数値モデル等の研究の基礎的事項を学習する。	○	○
工302	地域農業工学演習Ⅲ	2	0-2	3	後	卒業論文に繋がる研究テーマを探索するため, 情報収集, 課題探索, 調査・実験・解析等の研究の基礎的事項を学習する。	○	○
工501	外国文献講読Ⅰ	2	2-0	3	前	各専門分野に関する外国語文献の講読を行う。	●	●
工502	外国文献講読Ⅱ	2	2-0	3	後	各専門分野に関する外国語文献の講読を行う。	●	●
工503	卒業論文Ⅰ	3	0-9	4	前	各分野の関連課題について, 教員の指導のもとに研究を企画立案し, 実験・調査を進める。	●	●
工504	卒業論文Ⅱ	3	0-9	4	後	各分野の関連課題について, 教員の指導のもとに研究を継続させ, 論文を提出する。	●	●
工316	農業エネルギー工学	2	2-0	2	後	農作業あるいは農業生態系におけるエネルギーの流れを詳説し, エントロピーの概念を論述する。	◎	○
工311	農業環境計測工学	2	2-0	3	前	作物に関する知識と栽培環境を制御する原理を解説し, 園芸施設的设计や運営に必要な計測技術の基礎的事項を概説する。	◎	○
工313	生物資源プロセス工学	2	2-0	3	前	農産物等の生物材料を中心にして, 農産加工施設において必要とする基本的な物理・化学的な基本操作について解説する。	◎	○
工317	生物材料工学	2	2-0	3	後	生物由来の素材と他の無機材料との違いや農産物の特性を学修した上で, 機器装置使用や設備設計の際の基礎知識を解説する。	◎	○
工315	農業電気・電子工学概論	2	2-0	3	前	電気・電子機器及び情報機器の構造, 性能の理解に必要な基礎的事項と作動原理を概説し, 簡単な実験で応用事例を学修する。	◎	○

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分	
							A	B
工319	農業システム設計学	2	2-0	3	後	システム工学の基本的な手法を学び、農業システムの解析・構築法を学ぶとともに、システム設計の考え方を修得する。	◎	○
工513	農業機械・農業情報工学実験	1	0-3	3	後	農業機械および農業情報に関する実験実習を行い、基本的な計測機器や情報機器の使い方およびデータ処理等を学習する。	◎	
工514	ポストハーベスト工学実験	1	0-3	3	前	穀類と青果物の物性や品質、鮮度保持等ポストハーベスト分野の実験実習を行い、実験データの整理のしかた、報告書のまとめ方を学習する。	◎	
工515	バイオシステム工学セミナーⅠ	1	0-3	3	後	他の講義の内容に沿って、バイオシステム工学分野の実践や実務的技術に関する調査や演習を能動的に学修する。	◎	○
工516	バイオシステム工学セミナーⅡ	1	0-3	4	前	他の講義の内容に沿って、バイオシステム工学分野の実践や実務的技術に関する調査や演習を能動的に学修する。	◎	○
工517	バイオシステム工学セミナーⅢ	1	0-3	4	後	他の講義の内容に沿って、バイオシステム工学分野の実践や実務的技術に関する調査や演習を能動的に学修する。	◎	○
工521	バイオシステム工学特別講義Ⅰ	2	2-0	2・3・4	前	農業情報や農業システム分野の最新の学問的動向と技術を概説する。	○	○
工522	バイオシステム工学特別講義Ⅱ	2	2-0	2・3・4	後	農産物の流通・加工分野の最新の学問的動向と技術を概説する。	○	○
工334	施設工学	2	2-0	3	後	資源循環型農業生産や農村生活に必要な水利施設、資源循環利用施設、道路施設、下水施設等の種類、役割、機能、構造等を概説する。	○	◎
工332	材料・コンクリート工学	2	2-0	3	前	農業生産に関わるダム、水路等の構造物の材料（鋼材、コンクリート、高分子材等）の製造方法、性質及び用途を概説する。	○	◎
工238	水理学	2	2-0	2	後	水に関する流体力学について講義する。	○	◎
工333	水文・気象学	2	2-0	3	前	大気象の主な現象、流域水収支及び流出解析について講義する。	○	◎
工335	水資源工学	2	2-0	3	後	水資源の開発及び管理、灌漑の具体的な方法について講義する。	○	◎
工234	測量学	2	2-0	2	前	測量について技術及び誤差について講義を行う。	○	◎
工235	測量学実習	1	0-3	2	前	角測量、水準測量、平板測量、トータルステーションによる測量実習を行う。	○	◎
工236	数学・力学演習	1	0-3	2	前	応用数学と工学の力学関連の演習を行う。	○	◎
工239	農村農地の整備	2	2-0	2	後	農村農地に関わる整備計画、農村農地整備に係る調査・計画・施工に関する考え方や内容・手法について講義する。	○	◎
工240	土地環境保全学	2	2-0	3	前	地形・地質・土質、降雨の浸食能、土砂流出、地すべり等と土地保全について解説する。	○	◎
工339	農業農村整備の実際	2	2-0	3	後	農業農村整備に関わる諸問題、整備事業の計画作成・実施、事業の現地視察、赤土等流出防止対策の実際、海外技術協力等について概説する。	○	◎
工341	農村農地防災工学	2	2-0	3	後	台風や降雨に伴う地すべり・崩壊・落石等の特徴やメカニズム、ならびにその安全対策の基本について概説する。	○	○
工348	農村計画学	2	2-0	3	前	農業農村の整備計画に関わる事項として、農村環境整備、農村自然環境保全、農村景観、農業・環境、農村社会・文化について解説する。	○	○
工241	土の物理学	2	2-0	2	後	土壌および土層の理工学性の基本的事項について解説する。	○	◎
工531	地域環境総合演習Ⅰ	1	0-3	3	前	応用力学、水理学および土の物理学について解説し、数学・工学に関する演習を行う。	○	◎
工532	地域環境総合演習Ⅱ	1	0-3	3	後	応用力学、水理学および土の物理学、材料・コンクリート工学、水文・気象学、土質力学に関する演習を行う。	○	◎
工534	地域環境実験Ⅰ	1	0-3	2	後	農村環境および農地保全・防災に関する実験・実習を行う。		◎
工535	地域環境実験Ⅱ	1	0-3	3	前	農業水利・施設に関する実験・実習を行う。		◎
工541	地域環境工学特別講義Ⅰ	2	2-0	2・3・4	前	農村環境・基盤環境学分野の最新の学問的動向と技術を解説する。	○	○
工542	地域環境工学特別講義Ⅱ	2	2-0	2・3・4	後	農村環境保全・防災学分野の最新の学問的動向と技術を解説する。	○	○

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分	
							A	B
環274	環境土壌学	2	2-0	2	後	土壌を構成する各種成分について概説するとともに、利用形態別の土壌の環境について解説する。	○	
環378	土壌環境科学	2	2-0	3	前	土壌を中心とした元素循環と地球規模での環境問題としての土壌圏と大気圏のガスの循環について解説する。	○	
環317	熱帯エネルギー作物学	2	2-0	3	後	エネルギー生産を行うために栽培される各種作物の特性およびこれらをエネルギーに変換する技術について解説する。	○	
農共211	熱帯農学総合実習	2	0-6	2	前	熱帯農学に関する基礎的理論の習得と現地における総合実験及び演習	自由	
農共212	亜熱帯林体験実習	1	0-3	2	前	亜熱帯林について、幅広い知識の習得を目指す。全国単位互換「公開森林実習」該当科目		

注1. 履修にあたっては、教育コース別区分欄から選択すること。

A: バイオシステム工学コース

B: 地域環境工学コース

注2. ●: 必修科目, ◎: コース必修科目, ○: 選択科目, 自由: 自由科目

【教員免許状取得のための授業科目】

※入学年度の「教員免許状取得の手引き」を参考に、必要な単位数、授業科目名について必ず年次教職課程指導教員に相談してください。

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	免許状の種類
農職401	農業科教育法Ⅰ	2	2-0	3・4	前	学習指導要領における農業科の目標・内容を学習し、学習評価について理解し、具体的な授業実践について学ぶ。	高一種免（農業）
農職402	農業科教育法Ⅱ	2	2-0	3・4	後	農業科の基礎的な学習指導の理論・方法を学び、実習指導や教材活用を含めた授業設計について理解する。	
工職401	職業指導	2	2-0	3・4	前	実践的側面に重点を置いた職業教育、産業教育の基礎を学ぶ。	

別表4 卒業の要件 地域農業工学科

卒業単位は126単位以上とする。

1. 共通教育・・・34単位以上

(1) 教養領域及び総合領域・・・20単位以上

- 人 文 4単位以上
- 社 会 4単位以上
- 健康運動 4単位（「健康・スポーツ科学」2単位（必須）を含む）
- キャリア関係 2単位以上（「キャリア形成入門」2単位（必須）を含む）

※上記単位以外に、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、キャリア関係の科目から計6単位以上を履修すること。

(2) 基幹領域・・・14単位以上

- 情報関係 2単位以上（情報科学演習）
- 外国語 12単位以上（英語8単位以上、他の一つの外国語4単位以上）

2. 専門基礎教育・・・12単位以上

- (1) 生物系（生物学Ⅰ・Ⅱ，同実験）
- (2) 化学系（化学Ⅰ・Ⅱ[または化学入門Ⅰ・Ⅱ]，同実験）
- (3) 数学系（微分積分学STⅠ・Ⅱ[または微分積分学入門Ⅰ・Ⅱ]，線形代数学Ⅰ・Ⅱ，統計学Ⅰ・Ⅱ）
- (4) 物理系（物理学Ⅰ・Ⅱ[または物理学入門Ⅰ・Ⅱ]，同実験）

※上記4系のうち3系からそれぞれ2単位以上、かつ、2系から各5単位以上、計12単位以上を履修すること。

※転換科目の微分積分学入門Ⅰ・Ⅱは高校で「数学Ⅲ」を履修していない学生、化学入門Ⅰ・Ⅱ、または物理学入門Ⅰ・Ⅱの履修は、それぞれ高等学校で化学または物理学を履修していない、あるいは「化学基礎」または「物理基礎」のみを履修している学生が対象。
転換科目の履修に関しては、指導教員の指導を受けること。

3. 専門教育・・・80単位以上

(1) 学部共通科目・・・4単位

・食・農・環境概論（2単位），基礎フィールド実習（1単位），キャリアディベロップメント（1単位）の合計4単位を履修する。

(2) 学科共通科目・・・28単位

・農村環境概論（2単位），農業生産システム論（2単位），ポストハーベストテクノロジー（2単位），工学の力学（2単位），応用数学（2単位），応用力学（2単位），農業情報工学（2単位），農業農村工学（2単位），技術者倫理（2単位），外国文献講読Ⅰ（2単位），外国文献講読Ⅱ（2単位），卒業論文Ⅰ（3単位），卒業論文Ⅱ（3単位）の合計28単位を履修する。

(3) 専門教育科目・・・48単位以上

- ・バイオシステム工学コースと地域環境工学コースの2コースのうち1つを選択して履修する。
- ・バイオシステム工学コースでは、コースが指定する科目17単位以上に加え、学部共通科目、学科共通科目、各コースの専門教育科目（選択科目）のうちから31単位以上履修する。
- ・地域環境工学コースでは、コースが指定する科目26単位以上に加え、学部共通科目、学科共通科目、各コースの専門教育科目（選択科目）のうちから22単位以上履修する。

○選択科目には、専門教育に関連した、他学部、他学科の提供専門科目及び学科内の指定外科目（教職に関する科目及び博物館学関係授業の必修科目は除く）を自由科目として6単位まで含むことができる。ただし、自由科目の履修に関しては、指導教員と十分に相談すること。

共通教育（34単位以上）		専門基礎教育（12単位以上）	
教養領域及び総合領域	基幹領域	先修科目（又は転換科目）	
20単位以上	14単位以上	12単位以上	
専門教育（80単位以上、これには自由科目6単位まで含むことが可）			
学部共通科目	学科共通科目	コース提供科目	学科内専門教育科目 [学部共通科目及び学科共通科目内の選択科目を含む。]
バイオシステム工学コース	(必修) 4単位	(必修) 28単位	(コース必修) 17単位以上 (選択) 31単位以上
地域環境工学コース			(コース必修) 26単位以上 (選択) 22単位以上

別表2 授業科目の種類

亜熱帯生物資源科学科 (生物機能開発学コース, 食品機能科学コース, 発酵・生命科学コース)

コース等名	科目番号	授業科目	単位	コース等名	科目番号	授業科目	単位	
学部 共通科目	農共101	食・農・環境概論	2	食品機能 科学	資334	食品機能化学	2	
	農共102	基礎フィールド実習	1		資335	栄養生理学	2	
	農共301	キャリアディベロップメント	1		資337	食品利用加工学	2	
	農共302	キャリア実習	1		資531	食品機能科学実験Ⅰ	1	
学科共通 専門科目	資101	亜熱帯生物資源科学総論	2		資532	食品機能科学実験Ⅱ	1	
	資151	生物化学	2		資533	食品機能科学セミナーⅠ	1	
	資211	物理化学	2		資534	食品機能科学セミナーⅡ	1	
	資231	有機化学	2		資535	食品機能科学特別講義Ⅰ	2	
	資201	亜熱帯生物資源科学演習	2		資536	食品機能科学特別講義Ⅱ	2	
	資501	外国文献講読Ⅰ	2		発酵・ 生命科学	資251	生命科学	2
	資502	外国文献講読Ⅱ	2			資252	微生物機能学	2
	資503	卒業論文Ⅰ	3			資253	食品生物学	2
	資504	卒業論文Ⅱ	3	資351		応用酵素学	2	
	資202	亜熱帯生物資源科学実験Ⅰ	1	資352		発酵化学	2	
資203	亜熱帯生物資源科学実験Ⅱ	1	資354	発酵・生命科学実験		1		
資204	亜熱帯生物資源科学実験Ⅲ	1	資355	タンパク質工学		2		
生物機能 開発学	資212	分子生物学	2	資356		泡盛醸造学	2	
	資214	糖鎖生命科学	2	資357		生命情報科学	2	
	資217	生物資源利用学	2	資359		泡盛醸造学実験	1	
	資234	天然物化学	2	資551	発酵・生命科学セミナーⅠ	1		
	資311	遺伝子工学	2	資552	発酵・生命科学セミナーⅡ	1		
	資314	薬理学	2	資553	発酵・生命科学特別講義Ⅰ	2		
	資315	生物学	2	資554	発酵・生命科学特別講義Ⅱ	2		
	資317	植物分子生理学	2	学部提供 公開科目	農共211	熱帯農学総合実習	2	
	資319	海洋生物資源学	2		農共212	亜熱帯林体験実習	1	
	資511	生物機能開発学実験Ⅰ	1	教員免許 取得のため の授業 科目	農職401	農業科教育法Ⅰ	2	
	資512	生物機能開発学実験Ⅱ	1		農職402	農業科教育法Ⅱ	2	
	資513	生物機能開発学セミナーⅠ	1		資職401	職業指導	2	
	資514	生物機能開発学セミナーⅡ	1					
	資515	生物機能開発学特別講義Ⅰ	2					
	資516	生物機能開発学特別講義Ⅱ	2					

別表3 授業科目の履修方法、単位数及び週時間

亜熱帯生物資源科学科 (生物機能開発学コース, 食品機能科学コース, 発酵・生命科学コース)

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分		
							A	B	C
農共101	食・農・環境概論	2	2-0	1	前	琉球大学農学部が目指す農・食・環境の考え方を解説する。	●	●	●
農共102	基礎フィールド実習	1	0-3	1	前	農業・林業・畜産業に関する実習をオムニバス形式で行う。	●	●	●
農共301	キャリアディベロップメント	1	2-0	3	前	社会における職業に対する考え方, 専門性が社会に持つ意味と重要性について議論し, 社会的・職業的自立を考えるとともに, 就職支援のための講義と演習を行う。	●	●	●
農共302	キャリア実習	1	0-3	3	前	学外の亜熱帯地域農学に関連する機関や組織, その他における現地実習を通じて実務経験・能力を養う。	○	○	○
資101	亜熱帯生物資源科学総論	2	2-0	1	後	亜熱帯生物資源科学科教員の研究紹介を行う。	●	●	●
資151	生物化学	2	2-0	1	後	生物を構成する化合物と水の構造と化学的性質について講義する。	●	●	●
資211	物理化学	2	2-0	2	前	生命現象を理解するために必要な物理化学の基礎を学ぶ。	●	●	●
資231	有機化学	2	2-0	2	前	生命現象に向けての, 有機化学の基礎を学ぶ。	●	●	●
資201	亜熱帯生物資源科学演習	2	0-2	2	後	与えられた課題について少人数グループで書籍, 文献, Web等から情報を収集・整理・加工しプレゼンテーションを行う。	○	○	○
資501	外国文献講読 I	2	2-0	3	前	各専門分野に関する外国語文献の講読を行う。	●	●	●
資502	外国文献講読 II	2	2-0	3	後	各専門分野に関する外国語文献の講読を行う。	●	●	●
資503	卒業論文 I	3	0-9	4	前	各分野の関連課題について, 教員の指導のもとに研究を企画立案し, 実験・調査を進める。	●	●	●
資504	卒業論文 II	3	0-9	4	後	各分野の関連課題について, 教員の指導のもとに研究を継続させ, 論文を提出する。	●	●	●
資202	亜熱帯生物資源科学実験 I	1	0-3	2	後	多糖の調製・定量, 多糖分解酵素の特性, 抗生物質と形質転換, 生理活性物質の抽出・精製・活性測定などバイオ関連実験を行う。	●	●	●
資203	亜熱帯生物資源科学実験 II	1	0-3	2	後	食品ならびに生体の成分の分析及びこれらが関与する化学反応に関連した基礎実験を行う。	●	●	●
資204	亜熱帯生物資源科学実験 III	1	0-3	2	後	微生物の分離・培養や観察に関する基礎実験, 遺伝子工学の基礎となる抗生物質と形質転換, 酵素タンパク質の精製と反応速度, 泡盛製造を通して発酵技術を習得する。	●	●	●
資212	分子生物学	2	2-0	2	後	生物および生命現象を分子のレベルで理解するための基礎知識を教授する。	◎	○	◎
資214	糖鎖生命科学	2	2-0	2	後	生体情報分子としての働きが注目される糖鎖について, その構造および機能等について講義する。	◎	○	○
資217	生物資源利用学	2	2-0	2	後	生物資源の種類, 組成, 利用法について幅広く解説する。	◎	○	○
資234	天然物化学	2	2-0	2	前	生物活性物質に関する広範な知識を身につけるとともに, 医薬・農薬などの開発に寄与する天然物(低分子有機化合物)について学習する。	◎	○	○
資311	遺伝子工学	2	2-0	3	前	遺伝子操作技術の基本知識, それを理解するために必要な分子生物学の知識の習得	○	○	○
資314	薬理学	2	2-0	3	後	薬物の作用機構, 効果と副作用, 化学構造式と活性の相関, 食事と生活習慣病などを解説する。	○	○	○
資315	生物工学	2	2-0	3	後	分子生物学, 生化学, 植物工学, 細胞工学をベースにした, バイオテクノロジーの基本的事項を教授する。	○	○	○
資317	植物分子生理学	2	2-0	3	前	植物の形態形成や環境との関わりなどに焦点をあてて, 植物の生命活動の仕組みについて分子レベルで解説する。	○	○	○
資319	海洋生物資源学	2	2-0	3	前	海洋生物が有する様々な機能性成分を紹介し, それを人類のために利用する手段について概説する。	◎	○	○
資511	生物機能開発学実験 I	1	0-3	3	前	生物機能開発のため生物資源から有効物質を単離し, 解析するといった基礎的実験。	◎	○	○
資512	生物機能開発学実験 II	1	0-3	3	後	分子生物学, 生化学的手法を用いた生物機能開発に関する基礎実験。	◎	○	○
資513	生物機能開発学セミナー I	1	0-3	4	前	生物機能開発に関連のある論文の紹介。	◎	○	○
資514	生物機能開発学セミナー II	1	0-3	4	後	生物機能開発に関連のある論文の紹介。	◎	○	○
資515	生物機能開発学特別講義 I	2	2-0	4	前	生物機能開発に関する学外の研究者による特別講義。	○	○	○
資516	生物機能開発学特別講義 II	2	2-0	4	後	生物機能開発に関する学外の研究者による特別講義。	○	○	○

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	コース履修区分		
							A	B	C
資334	食品機能化学	2	2-0	3	前	食品の持つ生体調節機能を中心に特定保健用食品や保健機能食品などの具体例を挙げながら科学的根拠に基づいた食品機能の情報を提供する。	○	◎	○
資335	栄養生理学	2	2-0	3	前	基礎的な人体の構造と働き、栄養素の消化・吸収と代謝・調節の仕組みを詳説し、栄養と生活習慣病との関連、適正食物摂取量の計算法を教授する。	○	◎	○
資337	食品利用加工学	2	2-0	3	後	食品の加工法及び加工、保存等による食品成分の変化について講義する。	○	◎	○
資531	食品機能科学実験 I	1	0-3	3	前	食品のマクロ成分や食品機能に関して、汎用機器を用いた基礎実験を行う。		◎	
資532	食品機能科学実験 II	1	0-3	3	後	食品中の高分子化合物の分析や食品成分の免疫機能、抗菌活性の評価といった応用的な実験を行う。		◎	
資533	食品機能科学セミナー I	1	0-3	4	前	食品関連の英語文献の講読及びプレゼンテーションによる演習。		◎	
資534	食品機能科学セミナー II	1	0-3	4	後	食品関連の英語文献の講読及びプレゼンテーションによる演習。		◎	
資535	食品機能科学特別講義 I	2	2-0	4	前	食品機能に関する学外講師による特別講義。	○	○	○
資536	食品機能科学特別講義 II	2	2-0	4	後	食品機能に関する学外講師による特別講義。	○	○	○
資251	生命科学	2	2-0	2	後	生物の誕生、進化、細胞の構造と機能、エビジェネティクスなど生命の仕組みについて講義する。	○	○	◎
資252	微生物機能学	2	2-0	2	前	多様な微生物の分類や細胞構造、微生物機能の特性と応用について講義する。	○	◎	◎
資253	食品生物工学	2	2-0	2	後	微生物、酵素、タンパク質工学による食品生産技術とその機能について講義する。	○	○	○
資351	応用酵素学	2	2-0	3	前	酵素の分類と科学的特性、酵素及びバイオリクターの利用による物質生産に関する講義を行う。	○	○	◎
資352	発酵化学	2	2-0	3	前	発酵と代謝、物質生産などについて、生物化学的および微生物学的観点から解説する。	○	○	◎
資354	発酵・生命科学実験	1	0-3	3	前	微生物の培養やDNAやタンパク質の定量などの発酵・生命科学に関する基礎的な実験を行う。			◎
資355	タンパク質工学	2	2-0	3	前	タンパク質の構造とタンパク質の一生について基礎的事項を学びタンパク質の分離・分析法およびタンパク質工学の手法について講義する。	○	○	○
資356	泡盛醸造学	2	2-0	3	後	泡盛の歴史と文化や他の酒類との比較とともに、泡盛醸造に関する技術などについて講義を行う。	○	○	○
資357	生命情報科学	2	2-0	3	後	分子生物学の基本と遺伝情報のDNA、mRNA、タンパク質レベルでの解析手法、各種生命情報データベースとそれらのプログラム活用法について学ぶ。	○	○	○
資359	泡盛醸造学実験	1	0-3	3	後	微生物の単離と生化学試験による同定、泡盛醸造工程や蒸留工程について実験し、官能評価方法を実習する。			◎
資551	発酵・生命科学セミナー I	1	0-3	4	前	発酵科学関連の英語文献の講読及びプレゼンテーションによる演習。			◎
資552	発酵・生命科学セミナー II	1	0-3	4	後	生命科学関連の英語文献の講読及びプレゼンテーションによる演習。			◎
資553	発酵・生命科学特別講義 I	2	2-0	4	前	発酵・生命科学に関する学外講師による特別講義。	○	○	○
資554	発酵・生命科学特別講義 II	2	2-0	4	後	発酵・生命科学に関する学外講師による特別講義。	○	○	○
資271	食品分析学	2	2-0	2	前	食品学の基礎となる食品の分類、食品成分の化学構造、性質および特性について講義する。	○	○	○
資278	健康長寿科学	2	2-0	2・3	前	長寿と健康に関して明らかにされている事項のうち、生理的、生化学的、植物機能化学的、遺伝的見地からそれぞれ紹介する。	○	○	○
資279	食品衛生学	2	2-0	2	後	食中毒を引き起こす食中毒菌や食品による感染症、食品衛生法を中心とする食品関連法規、食品衛生管理システムなどの食品安全について教授する。	○	◎	○
資282	栄養生化学	2	2-0	2	後	栄養活動と栄養との関係、栄養素、栄養素の消化吸収・代謝について化学的及び生化学的視点から論ずる。	○	○	○
資286	食品科学	2	2-0	2	後	食品材料の種類、性状、利用および嗜好性成分に関する講義を行う。	○	○	○
農共211	熱帯農学総合実習	2	0-6	2	前	熱帯農学に関する基礎的理論の習得と現地における総合実験及び演習。	自由		
農共212	亜熱帯林体験実習	1	0-3	2	前	亜熱帯林について、幅広い知識の習得を目指す。全国単位互換「公開森林実習」該当科目。			

注1. 履修にあたっては、教育コース別区分欄から選択すること。

A：生物機能開発学コース

B：食品機能科学コース

C：発酵・生命科学コース

注2. ●：必修科目，◎：コース必修科目，○：選択科目，自由：自由科目

【教員免許状取得のための授業科目】

※入学年度の「教員免許状取得の手引き」を参考に、必要な単位数、授業科目名について、必ず年次教職課程指導教員に相談してください。

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	免許状の種類
農職401	農業科教育法Ⅰ	2	2-0	3・4	前	学習指導要領における農業科の目標・内容を学習し、学習評価について理解し、具体的な授業実践について学ぶ。	高一種免（農業）
農職402	農業科教育法Ⅱ	2	2-0	3・4	後	農業科の基礎的な学習指導の理論・方法等を学び、実習指導や教材活用を含めた授業設計について理解する。	
資職401	職業指導	2	2-0	3・4	前	実践的側面に重点を置いた職業教育、産業教育の基礎を学ぶ。	

別表4 卒業の要件 亜熱帯生物資源科学科

(生物機能開発学コース, 食品機能科学コース, 発酵・生命科学コース)

卒業単位は126単位以上とする。

1. 共通教育・・・34単位以上

(1) 教養領域及び総合領域・・・20単位以上

- 人 文 4単位以上
- 社 会 4単位以上
- 健康運動 4単位 (「健康・スポーツ科学」2単位 (必須) を含む)
- キャリア関係 2単位以上 (「キャリア形成入門」2単位 (必須) を含む)

※上記単位以外に、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、キャリア関係の科目から計6単位以上を履修すること。

(2) 基幹領域・・・14単位以上

- 情報関係 2単位以上 (情報科学演習)
- 外国語 12単位以上 (英語8単位以上, 他の一つの外国語4単位以上)

2. 専門基礎教育・・・10単位以上

- (1) 生物系 (生物学Ⅰ・Ⅱ, 同実験)
- (2) 化学系 (化学Ⅰ・Ⅱ [または化学入門Ⅰ・Ⅱ], 同実験)
- (3) 物理系 (物理学Ⅰ・Ⅱ [または物理学入門Ⅰ・Ⅱ], 同実験)

※(1)～(3)の2系を各5単位以上, 計10単位以上を履修すること。

※転換科目の化学入門Ⅰ・Ⅱ, または物理学入門Ⅰ・Ⅱの履修は, それぞれ高等学校で化学または物理学を履修していない, あるいは「化学基礎」または「物理基礎」のみを履修している者を対象とする。転換科目の履修に関しては, 指導教員の指導を受けること。

3. 専門教育・・・82単位以上

(1) 学部共通科目・・・4単位

・食・農・環境概論 (2単位), 基礎フィールド実習 (1単位), キャリアディベロップメント (1単位) の合計4単位を履修する。

(2) 学科共通科目・・・21単位

・亜熱帯生物資源科学総論 (2単位), 生物化学 (2単位), 物理化学 (2単位), 有機化学 (2単位), 亜熱帯生物資源科学実験Ⅰ (1単位), 亜熱帯生物資源科学実験Ⅱ (1単位), 亜熱帯生物資源科学 実験Ⅲ (1単位), 外国文献講読Ⅰ (2単位), 外国文献講読Ⅱ (2単位), 卒業論文Ⅰ (3単位), 卒業論文Ⅱ (3単位) の合計21単位を履修する。

(3) 専門教育科目・・・57単位以上

- ・生物機能開発学コース, 食品機能科学コース, 発酵・生命科学コース3コースのうち1つを選択して履修する。各コースの単位として指定された14単位を履修する。
- ・学部, 学科並びに各コースの専門教育科目 (選択科目) のうちから43単位以上を履修する。

○選択科目には, 専門教育に関連した, 他学部, 他学科の提供専門科目及び学科内の指定外科目 (教職に関する科目及び博物館学関係授業の必修科目は除く) を自由科目として6単位まで含むことができる。ただし, 自由科目の履修に関しては, 指導教員と十分に相談すること。

共通教育 (34単位以上)		専門基礎教育 (10単位以上)	
教養領域及び総合領域	基幹領域	先修科目 (又は転換科目)	
20単位以上	14単位以上	10単位以上	
専門教育 (82単位以上, これには自由科目6単位まで含むことが可)			
学部共通科目	学科共通科目	コース提供科目	学科内専門教育科目
(必修) 4単位	(必修) 21単位	(コース必修) 14単位	(選択) 43単位以上 〔学部共通科目及び学科共通科目内の選択科目を含む。〕

別表2 授業科目の種類

亜熱帯生物資源科学科 健康栄養科学コース

コース等名	科目番号	授業科目	単位	コース等名	科目番号	授業科目	単位	
学部 共通科目	農共101	食・農・環境概論	2	健康栄養 科学	資279	食品衛生学	2	
	農共102	基礎フィールド実習	1		資281	食品衛生学実験	1	
	農共301	キャリアディベロップメント	1		資282	栄養生化学	2	
	農共302	キャリア実習	1		資283	栄養生化学実験	1	
学科共通 専門科目	資101	亜熱帯生物資源科学総論	2		資284	ライフステージ栄養学	2	
	資151	生物化学	2		資285	ライフステージ栄養学実習	1	
	資211	物理化学	2		資286	食品科学	2	
	資231	有機化学	2		資371	栄養指導論 I	2	
	資201	亜熱帯生物資源科学演習	2		資372	栄養指導実習 I	1	
	資501	外国文献講読 I	2		資373	臨床栄養学	2	
	資502	外国文献講読 II	2		資374	給食管理	2	
	資503	卒業論文 I	3		資375	臨床栄養学実習 I	1	
資504	卒業論文 II	3	資376		給食管理実習	1		
健康栄養 科学	資171	健康管理学概論	2		資377	臨床栄養学実習 II	1	
	資172	栄養学	2		資378	校外実習	1	
	資173	生理学	2		資379	栄養指導論 II	2	
	資174	解剖生理学	2		資381	栄養指導実習 II	1	
	資175	栄養学実験	1		資382	食育実践演習	2	
	資271	食品分析学	2		資383	健康栄養科学演習	2	
	資272	食品分析学実験	1		資384	栄養教諭論	2	
	資273	病理学	2		資471	公衆栄養学	2	
	資274	調理学	2		資472	公衆栄養学実習	1	
	資275	調理学実習	1		資571	栄養科学セミナー I	1	
	資276	公衆衛生学	2		資572	栄養科学セミナー II	1	
	資277	解剖生理学実験	1		資573	栄養科学特別講義 I	2	
	資278	健康長寿科学	2		資574	栄養科学特別講義 II	2	
	学部提供 公開科目	農共211	熱帯農学総合実習		2			
農共212		亜熱帯林体験実習	1					
教員免許 取得の ための 授業科目	農職401	農業科教育法 I	2					
	農職402	農業科教育法 II	2					
	農職404	栄養教育実践研究	1					
	農職405	栄養教育実習	2					
	農職406	教職実践演習 (栄養教諭)	2					
	資職401	職業指導	2					

別表3 授業科目の履修方法、単位数及び週時間
亜熱帯生物資源科学科(健康栄養科学コース)

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	履修区分	備考
農共101	食・農・環境概論	2	2-0	1	前	琉球大学農学部が目指す農・食・環境の考え方を解説する。	●	
農共102	基礎フィールド実習	1	0-3	1	前	農業・林業・畜産業に関する実習をオムニバス形式で行う。	●	
農共301	キャリアディベロップメント	1	2-0	3	前	社会における職業に対する考え方、専門性が社会に持つ意味と重要性について議論し、社会的・職業的自立を考えるとともに、就職支援のための講義と演習を行う。	●	
農共302	キャリア実習	1	0-3	3	前	学外の亜熱帯地域農学に関連する機関や組織、その他における現地実習を通じて実務経験・能力を養う。	○	
資101	亜熱帯生物資源科学総論	2	2-0	1	後	亜熱帯生物資源科学科教員の研究紹介を行う。	●	
資151	生物化学	2	2-0	1	後	生物を構成する化合物と水の構造と化学的性質について講義する。	●	
資211	物理化学	2	2-0	2	前	生命現象を理解するために必要な物理化学の基礎を学ぶ。	●	
資231	有機化学	2	2-0	2	前	生命現象に向けての、有機化学の基礎を学ぶ。	●	
資201	亜熱帯生物資源科学演習	2	0-2	2	後	与えられた課題について少人数グループで書籍、文献、Web等から情報を収集・整理・加工しプレゼンテーションを行う。	○	
資501	外国文献講読 I	2	2-0	3	前	各専門分野に関する外国語文献の講読を行う。	●	
資502	外国文献講読 II	2	2-0	3	後	各専門分野に関する外国語文献の講読を行う。	●	
資503	卒業論文 I	3	0-9	4	前	各分野の関連課題について、教員の指導のもとに研究を企画立案し、実験・調査を進める。	●	
資504	卒業論文 II	3	0-9	4	後	各分野の関連課題について、教員の指導のもとに研究を継続させ、論文を提出する。	●	
資171	健康管理学概論	2	2-0	1	後	健康管理の意義、実施手順および諸問題解決の対策について講義する。	○	栄必
資172	栄養学	2	2-0	1	前	栄養学の歴史、各栄養素の体内での働き、消化吸収などについて講義する。	○	栄必
資173	生理学	2	2-0	2	前	人体の種々の生命現象のメカニズムにおける個々のシステムの働きや身体全体の調節機構について講義する。	◎	栄必
資174	解剖生理学	2	2-0	1	後	人体の構造、形態および生理機能について学ぶ。さらに身体と健康の関わりについて発育・発達面からも考える。	○	栄必
資175	栄養学実験	1	0-3	1	前	各種栄養素の栄養的特徴や性質および体内での変化について、実験を通して学ぶ。	○	栄必
資271	食品分析学	2	2-0	2	前	食品学の基礎となる食品の分類、食品成分の化学構造、性質および特性について講義する。	○	栄必
資272	食品分析学実験	1	0-3	2	後	食品成分の定性、定量実験ならびに加工特性について実験を行う。	○	栄必
資273	病理学	2	2-0	2	前	病気の原因の考え方を形態学的に講義する。	○	栄必
資274	調理学	2	2-0	2	前	食品の調理性、嗜好性および調理操作について講義する。	◎	栄必
資275	調理学実習	1	0-3	2	前	日本料理、西洋料理、中国料理、琉球料理の基礎的調理を行う。	○	栄必
資276	公衆衛生学	2	2-0	1	前	衛生行政、衛生統計、対象別保健についての講義を行う。	○	栄必
資277	解剖生理学実験	1	0-3	2	前	ヒトと相同性を有するげっ歯動物を用いて、細胞、組織、器官レベルでの解剖実験を行う。	○	栄必
資278	健康長寿科学	2	2-0	2	前	長寿と健康に関して明らかにされている事項のうち、生理的、生化学的、植物機能化学的、遺伝的見地からそれぞれ紹介する。	○	栄必
資279	食品衛生学	2	2-0	2	後	細菌学と免疫学の基礎に、食品衛生関連法規、細菌性・ウイルス性食中毒、化学性食中毒、食品添加物、食品衛生対策などを教授する。	○	栄必
資281	食品衛生学実験	1	0-3	2	後	食品衛生に関する細菌学的、理化学的実験を行う。	○	栄必
資282	栄養生化学	2	2-0	2	後	栄養活動と栄養との関係、栄養素、栄養素の消化吸収・代謝について化学的および生化学的視点から論ずる。	○	栄必
資283	栄養生化学実験	1	0-3	2	後	栄養素の化学的特性および体内の代謝に関する系統的な定性、定量実験を行う。	○	栄必
資284	ライフステージ栄養学	2	2-0	2	後	妊婦、授乳婦、乳幼児期、学童期、青・壮年期、老年期の各期における栄養に関する講義を行う。	○	栄必
資285	ライフステージ栄養学実習	1	0-3	2	後	妊婦、授乳婦、乳幼児期、学童期、青・壮年期、老年期の各期に応じた献立作成および調理実習を行う。	○	栄必
資286	食品科学	2	2-0	2	後	食品材料の種類、性状、利用および嗜好性成分に関する講義を行う。	○	栄必
資371	栄養指導論 I	2	2-0	3	前	栄養教育・指導に必要な基礎理論を学習する。	◎	栄必

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	履修区分	備考
資372	栄養指導実習Ⅰ	1	0-3	3	前	栄養教育・指導に必要な実践的基礎技術を学ぶ。	○	栄必
資373	臨床栄養学	2	2-0	3	前	各疾患別の症状, 食事療法に関する講義を行う。	◎	栄必
資374	給食管理	2	2-0	3	前	集団給食の合理的運営とその管理方法を学ぶ。	◎	栄必
資375	臨床栄養学実習Ⅰ	1	0-3	3	前	病態時における献立作成の基礎を学び, 疾患別の調理実習を行う。	○	栄必
資376	給食管理実習	1	0-3	3	前	給食管理業務に関する大量調理の基礎的知識と技術を学ぶ。	○	栄必
資377	臨床栄養学実習Ⅱ	1	0-3	3	前	病態時の栄養管理の実際について, 病院実習を通して学ぶ。	○	栄必
資378	校外実習	1	0-3	3	前	集団給食施設における給食管理業務について, 実習を通して学ぶ。	○	栄必
資379	栄養指導論Ⅱ	2	2-0	3	後	ライフステージ別, ライフスタイル別, 病態別での栄養教育・指導に関する講義を行う。	○	栄必
資381	栄養指導実習Ⅱ	1	0-3	3	後	ライフステージ別, ライフスタイル別, 病態別での栄養教育・指導を想定し演習を行う。	○	栄必
資382	食育実践演習	2	2-0	3	前	食育概論や食文化について学び, 演習を行う。	○	
資383	健康栄養科学演習	2	2-0	3	後	栄養や健康に関する課題について研究テーマを設定し, 実験や調査を行う。	○	
資384	栄養教諭論	2	2-0	3	後	栄養士の専門性から, 学校・家庭・地域と連携した食育推進を行うための理論と職務内容を学ぶ。	○	栄教必
資471	公衆栄養学	2	2-0	4	前	栄養行政と関係法規, 国民・県民栄養の現状と動向, 公衆栄養活動に関する国内諸外国の問題点と対策に関する講義を行う。	◎	栄必
資472	公衆栄養学実習	1	0-3	4	前	地域住民の健康管理における栄養領域の果たす役割について, 実習を通して学ぶ。	○	栄必
資571	栄養科学セミナーⅠ	1	0-3	4	前	健康・栄養科学に関連する文献の講読およびプレゼンテーションを行う。	◎	
資572	栄養科学セミナーⅡ	1	0-3	4	後	健康・栄養科学に関連する文献の講読およびプレゼンテーションを行う。	◎	
資573	栄養科学特別講義Ⅰ	2	2-0	4	前	健康・栄養科学に関する学外講師による特別講義を行う。	○	
資574	栄養科学特別講義Ⅱ	2	2-0	4	後	健康・栄養科学に関する学外講師による特別講義を行う。	○	
資212	分子生物学	2	2-0	2	後	生物および生命現象を分子のレベルで理解するための基礎知識を教授する。	○	
資214	糖鎖生命科学	2	2-0	2	後	生体情報分子としての働きが注目される糖鎖について, その構造および機能等について講義する。	○	
資217	生物資源利用学	2	2-0	2	後	生物資源の種類, 組成, 利用法について幅広く解説する。	○	
資234	天然物化学	2	2-0	2	後前	生物活性物質に関する広範な知識を身につけるとともに, 医薬・農薬などの開発に寄与する天然物(低分子有機化合物)について学習する。	○	
資251	生命科学	2	2-0	2	後	生物の誕生, 進化, 細胞の構造と機能, エピジェネティクスなど生命の仕組みについて講義する。	○	
資252	微生物機能学	2	2-0	2	前	多様な微生物の分類や細胞構造, 微生物機能の特性と応用について講義する。	○	
資253	食品生物工学	2	2-0	2	後	微生物, 酵素, タンパク質工学による食品生産技術とその機能について講義する。	○	
資311	遺伝子工学	2	2-0	3	前	遺伝子操作技術の基本知識, それを理解するために必要な分子生物学の知識の習得。	○	
資314	薬理学	2	2-0	2	後	薬物の作用機構, 効果と副作用, 化学構造式と活性の相関, 食事と生活習慣病などを解説する。	○	
資315	生物工学	2	2-0	3	後	分子生物学, 生化学, 植物工学, 細胞工学をベースにした, バイオテクノロジーの基本的事項を教授する。	○	
資317	植物分子生理学	2	2-0	3	前	植物の形態形成や環境との関わりなどに焦点をあてて, 植物の生命活動の仕組みについて分子レベルで解説する。	○	
資319	海洋生物資源学	2	2-0	3	前	海洋生物が有する様々な機能性成分を紹介し, それを人類のために利用する手段について概説する。	○	
資334	食品機能化学	2	2-0	3	前	食品の持つ生体調節機能を中心に特定保健用食品や保健機能食品などの具体例を挙げながら科学的根拠に基づいた食品機能の情報を提供する。	○	
資335	栄養生理学	2	2-0	3	前	基礎的な人体の構造と働き, 栄養素の消化・吸収と代謝・調節の仕組みを詳説し, 栄養と生活習慣病との関連, 適正食物摂取量の計算法を教授する。	○	
資337	食品利用加工学	2	2-0	3	後	食品の加工法及び加工, 保存等による食品成分の変化について講義する。	○	
資351	応用酵素学	2	2-0	3	前	酵素の分類と科学的特性, 酵素及びバイオリクターの利用による物質生産に関する講義を行う。	○	

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	履修区分	備考
資352	発酵化学	2	2-0	3	前	発酵と代謝, 物質生産などについて, 生物化学的および微生物学的観点から解説する。	○	
資355	タンパク質工学	2	2-0	3	前	タンパク質の構造とタンパク質の一生について基礎的事項を学びタンパク質の分離・分析法およびタンパク質工学の手法について講義する。	○	
資356	泡盛醸造学	2	2-0	3	後	泡盛の歴史と文化や他の酒類との比較とともに, 泡盛醸造に関する技術などについて講義を行う。	○	
資357	生命情報科学	2	2-0	3	後	分子生物学の基本と遺伝情報のDNA, mRNA, タンパク質レベルでの解析手法, 各種生命情報データベースとそれらのプログラム活用法について学ぶ。	○	
農共211	熱帯農学総合実習	2	0-6	2	前	熱帯農学に関する基礎的理論の習得と現地における総合実験及び演習。	自由	
農共212	亜熱帯林体験実習	1	0-3	2	前	亜熱帯林について, 幅広い知識の習得を目指す。全国単位互換「公開森林実習」該当科目。		

注1. ●:必修科目, ◎:コース必修科目, ○:選択科目, 栄必:栄養士免許取得必修科目, 自由:自由科目

【教員免許状取得のための授業科目】

※入学年度の「教員免許状取得の手引き」を参考に, 必要な単位数, 授業科目名について必ず年次教職課程指導教員に相談してください。

科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	免許状の種類
農職401	農業科教育法Ⅰ	2	2-0	3・4	前	学習指導要領における農業科の目標・内容を学習し, 学習評価について理解し, 具体的な授業実践について学ぶ。	高一種免(農業)
農職402	農業科教育法Ⅱ	2	2-0	3・4	後	農業科の基礎的な学習指導の理論・方法等を学び, 実習指導や教材活用を含めた授業設計について理解する。	
資職401	職業指導	2	2-0	3・4	前	実践的側面に重点を置いた職業教育, 産業教育の基礎を学ぶ。	
農職404	栄養教育実践研究	1	0-2	4	前	栄養教育実習のための事前・事後指導。	栄教二種免
農職405	栄養教育実習	1	0-2	4	前	小学校又は中学校における栄養教育実習。	
農職406	教職実践演習(栄養教諭)	2	0-2	4	後	各自の履修カルテを踏まえ, 実技指導, グループ討論および補完指導等を通して栄養教諭として必要な知識技能を修得したことを確認する。	

別表4 卒業の要件 亜熱帯生物資源科学科
(健康栄養科学コース)

卒業単位は126単位以上とする。

1. 共通教育・・・30単位以上

(1) 教養領域及び総合領域・・・16単位以上

人 文 4単位以上

社 会 4単位以上

健康運動 2単位以上 (「運動・スポーツ科学演習」2単位 (必須) を含む)

キャリア関係 2単位以上 (「キャリア形成入門」2単位 (必須) を含む)

※上記単位以外に、健康運動を除く、人文、社会、自然、総合、琉大特色・地域創生、キャリア関係の科目から計4単位以上を履修すること。

(2) 基幹領域・・・14単位以上

情報関係 2単位以上 (情報科学演習)

外国語 12単位以上 (英語8単位以上、他の一つの外国語4単位以上)

2. 専門基礎教育・・・8単位以上

(1) 生物系 (生物学Ⅰ・Ⅱ)

(2) 化学系 (化学Ⅰ・Ⅱ [または化学入門Ⅰ・Ⅱ])

(3) 物理系 (物理学Ⅰ・Ⅱ [または物理学入門Ⅰ・Ⅱ])

※転換科目の化学入門Ⅰ・Ⅱ、または物理学入門Ⅰ・Ⅱの履修は、それぞれ高等学校で化学または物理学を履修していない者、あるいは「化学基礎」または「物理基礎」のみを履修している者を対象とする。

転換科目の履修に関しては、指導教員の指導を受けること。

3. 専門教育・・・88単位以上

(1) 学部共通科目・・・4単位

・食・農・環境概論 (2単位)、基礎フィールド実習 (1単位)、キャリアディベロップメント (1単位) の合計4単位を履修する。

(2) 学科共通科目・・・18単位

・亜熱帯生物資源科学総論 (2単位)、生物化学 (2単位)、物理化学 (2単位)、有機化学 (2単位)、外国文献講読Ⅰ (2単位)、外国文献講読Ⅱ (2単位)、卒業論文Ⅰ (3単位)、卒業論文Ⅱ (3単位) の合計18単位を履修する。

(3) 専門教育科目・・・66単位以上

・健康栄養科学コースの単位として指定された14単位を履修する。

・学部、学科並びに各コースの専門教育科目 (選択科目) のうちから52単位以上を履修する。

○選択科目には、専門教育に関連した、他学部、他学科の提供専門科目及び学科内の指定外科目 (教職に関する科目及び博物館学関係授業の必修科目は除く) を自由科目として6単位まで含むことができる。ただし、自由科目の履修に関しては、指導教員と十分に相談すること。

共通教育 (30単位以上)		専門基礎教育 (8単位以上)	
教養領域及び総合領域	基幹領域	先修科目 (又は転換科目)	
16単位以上	14単位以上	8単位以上	
専門教育 (88単位以上、これには自由科目6単位まで含むことが可)			
学部共通科目	学科共通科目	コース提供科目	学科内専門教育科目
(必修) 4単位	(必修) 18単位	(コース必修) 14単位	(選択) 52単位以上 [学部共通科目及び学科共通科目内の選択科目を含む。]

琉球大学副専攻に関する規程

〔平成20年2月28日〕
制 定

(趣旨)

第1条 この規程は、琉球大学学則第13条第3項の規定に基づき、琉球大学における副専攻(以下「副専攻」という。)の教育課程に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 副専攻は、学部及び学科等で編成する教育課程以外に、学際的テーマ又は特定の学問分野について、授業科目を体系的に編成し提供することによって、学生の複眼的な思考力、統合的な理解力を育成することを目的とする。

(定義)

第3条 この規程において「部局等」とは、学部、グローバル教育支援機構及び地域連携推進機構をいう。

(副専攻の教育課程、登録及び履修)

第4条 副専攻の登録を希望する学生は、所属する学部の指導教員の承認を得て、当該副専攻学生として登録申請し、当該副専攻の承認を受けなければならない。

- 2 副専攻学生としての登録は、第6条第2項に規定する当該副専攻主任(以下「副専攻主任」という。)に、所定の副専攻登録申請書を提出することによる。
- 3 登録を承認された学生は、当該副専攻の定める教育課程を履修しなければならない。
- 4 副専攻で修得した単位は、学生の所属学部の卒業要件における単位として認定することができるものとする。
- 5 副専攻の履修は、原則として2年次から認めるものとする。ただし、共通教育等科目については、各副専攻の定めるところにより、1年次からの履修を認めることができる。
- 6 学生が副専攻登録前に履修した当該副専攻の授業科目の単位については、第7条に規定する副専攻会議の議を経て、登録後の副専攻における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
- 7 学生が登録することができる副専攻は、二つまでとする。

(副専攻の修了認定)

第5条 学長は、前条第3項の教育課程を履修し、20単位以上を修得した者に対しては、当該副専攻会議の議を経て、修了を認定し、副専攻修了証書を授与することができる。

- 2 副専攻主任は、前項の規定に基づき副専攻の修了を認定された学生について、当該学生が所属する学部の指導教員に通知する。

(副専攻の教員組織)

第6条 副専攻の教員組織は、副専攻に登録しその運用に関わる複数の教員で組織する。

- 2 副専攻の教員組織に、副専攻主任を置く。
- 3 副専攻主任は、当該副専攻の運営を掌理する。

(副専攻会議)

第7条 副専攻に関する事項を審議するために、各副専攻に副専攻会議を置く。

- 2 副専攻会議は、副専攻主任及び副専攻科目を担当する者のうちから副専攻主任が指名する者で組織する。
- 3 副専攻会議に議長を置き、副専攻主任をもって充てるものとし、議長は副専攻会議を主宰する。
- 4 議決を要する事項については、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 5 副専攻会議が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(副専攻の開設)

第8条 副専攻の開設は、年度初めとする。

- 2 副専攻の開設認定を受けようとする部局等の教員は、所定の副専攻開設認定申請書をグローバル教育支援機構長（以下「機構長」という。）に提出しなければならない。
- 3 前項の規定により副専攻開設認定申請書を提出する場合は、あらかじめ科目提供学部等の承認を得なければならない。
- 4 機構長は、部局等の教員から副専攻開設認定申請書の提出があったときは、グローバル教育支援機構会議（以下「機構会議」という。）の議を経て、学長に提出しなければならない。
- 5 前項の規定による提出を受けた学長は、教育研究評議会の議を経て副専攻の開設の認定を行う。

(副専攻に関する変更)

第9条 前条第5項の規定により認定された副専攻の修了要件を変更しようとする副専攻主任は、所定の副専攻修了要件変更願を機構長に提出しなければならない。

- 2 機構長は、前項の規定による提出があったときは、機構会議の議を経て、学長に提出しなければならない。
- 3 前項の規定による提出を受けた学長は、教育研究評議会の議を経て副専攻の変更の認定を行う。
- 4 前条第5項の規定により認定された副専攻の教員組織の変更、授業科目の追加及び授業科目の削除を行おうとする副専攻主任は、副専攻会議の議を経て、所定の副専攻教員組織又は授業科目変更願を機構長に提出しなければならない。
- 5 前項の規定により副専攻教員組織又は授業科目変更願を提出する場合は、あらかじめ科目提供学部等の承認を得なければならない。
- 6 機構長は、第4項の規定による提出があったときは、機構会議の議を経て、変更の認定を行う。

(副専攻の廃止)

第10条 副専攻の廃止は、年度末とする。

- 2 廃止しようとする副専攻の副専攻主任は、所定の副専攻廃止願を機構長に提出しなければならない。
- 3 機構長は、副専攻主任から副専攻廃止願の提出があったときは、機構会議の議を経て、学長に提出しなければならない。

4 前項の規定による提出を受けた学長は、教育研究評議会の議を経て、副専攻の廃止決定を行う。

(庶務)

第11条 副専攻に関する庶務は、学生部教育支援課及び当該副専攻の副専攻主任が所属する部局等を所管する事務部において処理する。

(雑則)

第12条 この規程に定めるもののほか、副専攻に関し必要な事項は、別に定める。

(改廃)

第13条 この規程の改廃は、機構会議の議を経て学長が行う。

附 則

- 1 この規程は、平成20年4月1日から施行する。
- 2 第4条で規定する副専攻の登録及び履修は、平成20年度の入学者から実施する。
- 3 前項の規定にかかわらず、日本語教育副専攻については、当該副専攻が必要と認める場合は、平成20年4月1日に在籍する者に適用する。

附 則（平成23年11月22日）

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成28年7月11日）

この規程は、平成28年7月11日から施行し、平成28年4月1日から適用する。

附 則（平成29年5月15日）

この規程は、平成29年5月15日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

附 則（平成30年7月19日）

この規程は、平成30年7月19日から施行する。

総合環境学副専攻

1. 授業科目

区分	学部	科目番号	授 業 科 目	単位数	最低履修 単位数	学期
必 修 科 目						
共通教育科目		総47	総合環境学概論	2	6	前
		総57	環境インターンシップⅠ	2		前
		総79	総合環境論	2		後
選 択 科 目						
共通教育科目		人09	環境の哲学	2	8	前または後
		社11	地域と生活	2		前・後
		社15	人類文化の比較	2		前・後
		自01	大気科学	2		前・後
		自02	地球科学	2		前・後
		自03	海洋科学	2		前・後
		自57	ランドスケープ論	2		前・後
		自61	地球環境と科学技術	2		前
		総10	住まいの科学	2		前・後
		総33	人口と食糧	2		後
		総58	環境インターンシップⅡ	2		後
		総62	環境と文学	2		後
		琉22	琉球の自然	2		前
		琉25	琉球弧の自然誌	2		前・後
		琉26	琉球の地理	2		前・後
		琉58	Community environment and planning	2		後
	琉75	地域環境と生活空間	2	前又は後		
	先23	地球科学Ⅰ	2	前		
	先24	地球科学Ⅱ	2	後		
専門教育科目	国際地域創造学部	経済309	環境経済学	2	10	前又は後
		英言353	アメリカ文学研究Ⅳ	2		前又は後
		学共217	まちづくり地域興し論	2		前又は後
		観光223	エコツーリズム論・基礎	2		前又は後
		観光228	観光地における環境教育	2		前又は後
		観光322	エコツーリズム論・応用	2		前又は後
		観光326	インタープリテーション論	2		前又は後
		観光327	学習旅行と観光	2		前又は後
	人文社会学部	RR131	琉球民俗学概論Ⅰ	2		前
		RR132	琉球民俗学概論Ⅱ	2		後
	教育学部	社221	地誌学概論A	2		後
		社230	自然地理学概論	2		前
		家212	生活環境論	2		後
	理学部	海化341	環境化学	2		後
		海生348	サンゴ礁生態学	2		後
		物地285	海洋微古生物学	2		前
		物共107/海共107	地学概論	2		前
	工学部	社基370/社基985	環境衛生工学	2		後
		エネ301	環境工学	2		後
		エネ307	環境教育論	2		前又は後
建築230		建築環境工学Ⅰ	2	後		
建築242		環境材料学	2	後		
建築320		居住地計画	2	前		
建築331		建築環境工学Ⅱ	2	前		
建築991		居住建築概論	2	前又は後		

令和6年度学生便覧

区分	学部	科目番号	授 業 科 目	単位数	最低履修 単位数	学期
専 門 教 育 科 目	農学部	地271	動植物人間関係学	2		後
		地323	環境経済学	2		前
		地351	家畜環境管理学	2		前
		工211	農業生産システム論	2		後
		環251	森林環境学	2		前
		環253	森林植物学	2		前
		環257	造林学	2		後
		環264	樹木生理・遺伝育種学	2		前
		環272	進化生態学	2		前
		環275	食料生産と環境	2		後
		環378	土壌環境科学	2		前

2. 修了要件

副専攻学生として登録し、必修科目を6単位、共通教育科目8単位以上、専門教育科目10単位以上、計24単位以上を履修すること。（総合環境学概論は2年次までに履修済であることが望ましい）

※副専攻学生としての正式の登録は2年次からである。

琉球学副専攻

1. 授業科目

区分	学部	科目番号	授 業 科 目	単位数	最低履修 単位数	学期	
必 修 科 目							
共通教育科目		琉55	琉球学入門（※1）	2	2	後	
選 択 科 目							
共通教育科目		琉05	沖縄の基地と戦跡Ⅰ	2	10	前	
		琉06	沖縄の基地と戦跡Ⅱ	2		前	
		琉14	琉球の文学	2		前	
		琉23	琉球の自然保護（※2）	2		後	
		琉24	沖縄のサンゴ礁（※2）	2		後	
		琉26	琉球の地理	2		前・後	
		琉41-2	琉球アジア研究入門	2		前・後	
		琉42	移 民 論	2		後	
		琉46	沖縄の政治と社会	2		前	
		自54	沖縄の風景	2		前	
		琉48	うちなーぐちあしび	2		後	
		琉50	沖縄の学力と教育	2		前又は後	
		琉51	琉球語入門Ⅰ	2		前	
		琉52	琉球語入門Ⅱ	2		後	
専門教育科目	人文社会学部	RR121	琉球史概論Ⅰ	2	10	前	
		RR122	琉球史概論Ⅱ	2		後	
		RR131	琉球民俗学概論Ⅰ	2		前	
		RR132	琉球民俗学概論Ⅱ	2		後	
		RR111	中琉関係史概論Ⅰ	2		前	
		RR112	中琉関係史概論Ⅱ	2		後	
		RB131	琉球文学概論Ⅰ	2		前	
		RB132	琉球文学概論Ⅱ	2		後	
		RG131	琉球語学概論Ⅰ	2		前	
		RG132	琉球語学概論Ⅱ	2		後	
		国際地域創造	観光228	観光地における環境教育		2	前又は後
		教育学部	教共122	平和教育学概論		2	後
		理学部	理共209	熱帯生物学概論（※3）		2	後
			海化292	海洋化学概論		2	後
農学部	地379	森林ツーリズム論	2	後			

2. 修了要件

副専攻学生として登録し、必修科目を2単位、共通教育科目10単位以上、専門教育科目10単位以上、計22単位以上を履修したうえで修了レポートを提出し、修了判定会議において合格すること。

- ※1. 「琉球学入門」はオムニバス形式。副専攻の教員が分担して担当する。
- ※2. 「琉球の自然保護」及び「沖縄のサンゴ礁」は、副専攻登録学生を優先配置しない。
- ※3. 「熱帯生物学概論」は、副専攻登録学生10名を優先して配置する。

地域創生副専攻

1. 授業科目

区分	学部	科目番号	授業科目	単位数	最低履修単位数	学期
選 択 必 修 科 目						
地域創生理解	共通教育科目	琉71	現代沖縄地域論	2	2	後
		琉73	現代沖縄の地域振興	2		前
選 択 科 目						
地域創生理解科目	共通教育科目	社11	地域と生活	2	8	—
		社12	現代社会のしくみ(※1)	2		前・後
		社24	ベンチャー起業入門	2		前
		C15	キャリアデザインとジェンダー	2		後
		C31	地域企業(自治体)お題解決プログラム	2		前・後
		琉18	地域の科学	2		前
		琉50	沖縄の学力と教育	2		前又は後
		琉74	地域システム計画論	2		前
		琉100	沖縄の航空事業と地域振興	2		前
		琉111	沖縄の航空事業と地域振興Ⅱ	2		後
	人文社会学部	PIR212	公共政策学	2	前・後	
		PIR224	行政学	2	後	
		PIR225	地方自治論	2	後	
	国際地域創造学部	学共122/B学共122	日本経済入門	2	前	
		学共205/B経済205	地域経済入門	2	後	
		学共217	まちづくり地域興し論	2	後	
		学共208/B経済208	社会政策入門	2	前	
		経済304/B経済304	財政学	2	前又は後	
		経済311/B経済311	公共経済学	2	前又は後	
		経済313/B経済313	社会政策論	2	後	
		経済403/B経済403	都市経済学	2	前又は後	
		B経済411	地方財政論	2	前・後	
		経済555/B経済555	実践経済学Ⅴ	2	後期集中	
	教育学部	全教216	教育の社会史	2	後	
	工学部	建築321	都市デザイン演習	2	前	
	農学部	地213	農業政策学	2	後	
		地411	アグリビジネス論	2	前	
地412		島嶼農業論	2	集中		
工134		農村環境概論	2	第4クォーター		
地域創生活動・実践科目	共通教育科目	社25	ベンチャー起業実践	2	6	後
		琉72	地域課題フィールドワーク演習	2		後期集中
		琉76	地域プロジェクト実践	2		集中
		琉77	地域フィールドワーク入門	2		後
		琉102	グローバル実践演習Ⅰ	2		前・後
		琉103	グローバル実践演習Ⅱ	2		前・後
		琉104	グローバル実践演習Ⅲ	2		前・後
		琉105	グローバル実践演習Ⅳ	2		前・後
	人文社会学部	SOC222	働くこととつながることの社会学Ⅱ	2		後
		SOC231	現代社会学研究Ⅰ	2		前
		SOC232	現代社会学研究Ⅱ	2		前
		SOC233	現代社会学研究Ⅲ	2		後
	国際地域創造学部	学共221	実践!社会政策	2		集中
	農学部	工239	農村農地の整備	2		後

区分	学部	科目番号	授 業 科 目	単位数	最低履修 単位数	学期
琉 大 特 色 ・ 地 域 創 生 特 別 講 義 科 目	共通教育科目	総95	総合特別講義Ⅴ	2		後期集中
		総96	総合特別講義Ⅵ	2		前期集中
		総97	総合特別講義Ⅶ	2		後期集中
		総98	総合特別講義Ⅷ	2		前期集中
		総99	総合特別講義Ⅸ	2		前期集中
		琉91	琉大特色・地域創生特別講義Ⅰ	2		前
		琉92	琉大特色・地域創生特別講義Ⅱ	2		前
		琉93	琉大特色・地域創生特別講義Ⅲ	2		前
		琉94	琉大特色・地域創生特別講義Ⅳ	2		前
		琉95	琉大特色・地域創生特別講義Ⅴ	2		後期集中
		琉96	琉大特色・地域創生特別講義Ⅵ	2		後
		琉97	琉大特色・地域創生特別講義Ⅶ	2		後期集中
		琉98	琉大特色・地域創生特別講義Ⅷ	2		後
		琉99	琉大特色・地域創生特別講義Ⅸ	2		後

2. 修了要件

副専攻学生として登録し、選択必修科目から2単位、地域創生理解科目から8単位以上、地域創生活動・実践科目から6単位以上、琉大特色・地域創生特別講義科目も含めて、全体で20単位以上を履修すること。

ただし、琉大特色・地域創生特別講義科目は年度によって授業内容が異なる場合があるため、当該年度の授業内容を対象科目とするか、「地域創生理解科目」・「地域創生活動・実践科目」のいずれに該当するかについて履修指導を行うとともに、修了判定会議で最終確認を行う。

※過去に開講されていた科目及び今後新規に開講される科目も対象として修了認定を行う。

※1.「現代社会のしくみ」は野入直美先生が担当するクラスのみを対象科目とする。

日本語教育副専攻

1. 授業科目

区分	学部	科目番号	授 業 科 目	単位数	最低履修 単位数	学期
必 修 科 目						
共通 教育 科 目		総103	日本語学概説Ⅰ	2	18	前
		総104	日本語学概説Ⅱ	2		後
		総105	日本語教育学概説Ⅰ	2		前
		総106	日本語教育学概説Ⅱ	2		後
		総109	日本語教材研究Ⅰ	2		前
		総110	日本語教材研究Ⅱ	2		後
		総111	日本語教授法Ⅰ	2		前
		総112	日本語教授法Ⅱ	2		後
		総113	日本語教育実習	2		前又は後
選 択 必 修 科 目						
共通教 育科目		総107	日本語教育各論Ⅰ	2	2	前
		総108	日本語教育各論Ⅱ	2		後
選 択 科 目						
共通教 育科目		総115	日本語教育演習Ⅰ	2	6	前
		総116	日本語教育演習Ⅱ	2		後
		総117	日本語教育演習Ⅲ	2		前
		総118	日本語教育演習Ⅳ	2		後
		総114	海外日本語教育実習Ⅰ	2		前又は後
専 門 教 育 科 目	人文社会学部	RG301	音声学Ⅰ	2	6	前
		RG302	音声学Ⅱ	2		後
		RG111	中国語学概論Ⅰ	2		前
		RG112	中国語学概論Ⅱ	2		後
		RG325	日本語学特講Ⅰ	2		前
		RG326	日本語学特講Ⅱ	2		後
		RB141	朝鮮文学概論Ⅰ	2		前
		RB142	朝鮮文学概論Ⅱ	2		後
	国際地域創造学部	学共209	異文化理解	2		前又は後
		学共114	ヨーロッパ文化論	2		後
		英言181	英語研究Ⅰ	2		前
		英言281	英語研究Ⅱ	2		後
		英言383	英語の異文化間コミュニケーション	2		前又は後
		英言384	コミュニケーションと文化	2		前又は後
英言385	談話とコミュニケーション	2	前又は後			

2. 修了要件

副専攻学生として登録し、必修科目を18単位、選択必修科目を2単位以上、選択科目6単位以上、計26単位以上を履修すること。必修科目及び選択必修科目、一部の選択科目の授業内容については別紙を参考とすること。

日本語教育副専攻（別紙）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
総103	日本語学概説Ⅰ	2	2-0	2	前	日本語教育副専攻課程における日本語学の入門講義である。日本語そのものへの理解を深めるため5人の教員がそれぞれ3回の授業を担当する。音声・語彙・文法・文字表記・方言など、さまざまな視点で日本語の特徴を学ぶ。
総104	日本語学概説Ⅱ	2	2-0	2	後	日本語学概説Ⅰに続く日本語教育副専攻課程における日本語学の入門講義である。日本語そのものへの理解を深めるため5人の教員がそれぞれ3回の授業を担当する。音声・語彙・文法・文字表記・方言など、さまざまな視点で日本語の特徴を学ぶ。
総105	日本語教育学概説Ⅰ	2	2-0	2	前	日本語学習者の概略を知ることから始め、①日本語(教育)と国語(教育)の違い、②日本語を学習者の立場から見直し、学習者にとってどのようなところが問題となるのかについて考える。
総106	日本語教育学概説Ⅱ	2	2-0	2	後	①日本語教育の実際と課題を対象者別に検討し、②海外の日本語教育について調べる他、③日本語教育の中で「文化」をどのように扱った方がいいのか考える。
総109	日本語教材研究Ⅰ	2	2-0	2	前	現代日本語文法を主体的に考える能力を高めつつ、自分のための文法参考書を作ることを最終目標とする。
総110	日本語教材研究Ⅱ	2	2-0	2	後	現代日本語文法を主体的に考える能力を高めつつ、自分のための文法参考書を作ることを最終目標とする。
総111	日本語教授法Ⅰ	2	2-0	3~4	前	日本語教師として教壇に立つために学ばならない基本的な項目を取り上げる。講義と討論によって日本語教授法の基礎を学ぶ。学期の後半には模擬授業を行う。
総112	日本語教授法Ⅱ	2	2-0	3~4	後	日本語教師として教壇に立つために学ばなければならない基本的な初級文法、中級教材分析、聴解・読解の生教材作成法を学ぶ。学期の後半には模擬授業を行う。
総113	日本語教育実習	2	0-2	4	前又は後	授業実習だけでなく、1つのコース(学習者募集からコース評価まで)を受講生で分担しながら運営し、教育現場で求められる基本的な能力を培う。
総107	日本語教育各論Ⅰ	2	2-0	3~4	前	実際の会話データ(動画、および書き起こしスクリプト)を観察・分析することを通して、日本語教育における会話教育について考える。
総108	日本語教育各論Ⅱ	2	2-0	3~4	後	新聞記事など書き言葉のテキストを観察・分析することを通して、日本語教育における読解教育・批判的リテラシー教育について考える。
総115	日本語教育演習Ⅰ	2	2-0	3	前	日本語教育およびその関連領域についての文献を講読し、発表および議論を行い、理解を深める。
総116	日本語教育演習Ⅱ	2	2-0	3	後	日本語教育およびその関連領域についての文献を講読し、発表および議論を行い、研究テーマを決定する。

日本語教育副専攻（別紙）

科目番号	授 業 科 目	単位数	週時間	受講年次	学 期	授 業 内 容
総117	日本語教育演習Ⅲ	2	2-0	4	前	研究計画を立て、分析方法を学び、調査やデータの収集を行う。
総118	日本語教育演習Ⅳ	2	2-0	4	後	調査結果やデータの分析・考察を行い、論文を執筆する。
総114	海外日本語教育実習Ⅰ（※）	2	0-2	4	前又は後	

※ 実施の可否については年度ごとの状況によって異なる。

○琉球大学編入学規程

(1972年3月27日制定)

改正 昭和47年8月29日 昭和49年11月8日
昭和50年4月1日 昭和51年2月24日
昭和53年12月2日 昭和54年6月25日
平成3年8月27日 平成6年3月22日
平成9年3月25日 平成13年2月6日
平成16年5月17日 平成20年2月18日
平成22年9月21日 平成27年11月17日
平成29年5月23日 平成30年3月1日

第1条 この規程は、琉球大学学則第32条第2項の規定に基づき、編入学に関し、必要な事項を定める。

第2条 編入学を志願する者があるときは、当該学科又は課程に欠員(入学定員に満たないことをいう。)のある場合に限り、願書を受け付ける。

第3条 編入学を志願する者は、次の書類に国立大学法人琉球大学料金規程(以下「料金規程」という。)に規定する検定料を添え、2月1日までに当該学部へ提出しなければならない。

- (1) 編入学願書
- (2) 履歴書
- (3) 最終出身校の成績証明書
- (4) その他学部長等が必要と認める書類

第4条 編入学の時期は、学年の始めとする。

第5条 編入学を志願する者の選考は、次の各号により審査する。

- (1) 当該学部の課す専門科目の試験
- (2) 当該学部の課す共通教育の科目及び専門基礎科目の試験
- (3) 最終出身校の成績証明書
- (4) 面接

2 前項の規定にかかわらず、大学、短期大学その他の教育施設において修得した単位又は学修の成果により、前項第1号又は第2号の試験を免除することができる。

第6条 編入学については、前条の審査結果に基づき、当該学部教授会の議を経て、学長が許可する。

第7条 編入学を許可された者が編入学前に大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学において履修した授業科目について修得した単位(大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第31条の規定により科目等履修生として修得した単位を含む。)を、

当該学部教授会の議に基づき、本学編入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 編入学を許可された者が編入学前に行った短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、当該学部教授会の議に基づき、本学編入学後の学修とみなし、単位を与えることができる。

第8条 編入学を許可された者の在学すべき年数及び年次は、当該学部教授会が決定する。

第9条 第6条の規定に基づき、合格の通知を受けた者は、所定の手続をするとともに料金規程に規定する入学金を納入しなければならない。

- 2 学長は、前項の手続を完了した者に編入学を許可する。

第10条 編入学を許可された者の授業料は、当該者の属する年次の在学者にかかる額と同額とする。

第11条 この規程に定めるもののほか、編入学に関し必要な事項は、当該学部長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、1972年4月1日から施行する。
- 2 他大学よりの転入学および編入学について(1958年4月24日評議会決定)は、廃止する。

附 則(昭和47年8月29日)

- 1 この規程は、昭和47年8月29日から施行し、昭和47年5月15日から適用する。
- 2 昭和47年5月15日から昭和51年3月31日までの間において編入学を許可される者に係る授業料の額については、第11条の規定にかかわらず、当該編入学をした者の属する年次と同年次の本土に所在する国立の大学の在学者にかかる額と同額とする。

附 則(昭和49年11月8日)

この規程は、昭和49年11月8日から施行する。

附 則(昭和50年4月1日)

- 1 この規程は、昭和50年4月1日から施行する。
- 2 昭和50年度の編入学に係る検定料の額は、第4条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(昭和51年2月24日)

この規程は、昭和51年2月24日から施行する。

附 則(昭和53年12月2日)

この規程は、昭和53年12月2日から施行する。

附 則(昭和54年6月25日)

この規程は、昭和54年6月25日から施行する。

附 則(平成3年8月27日)

この規程は、平成3年8月27日から施行し、平成3年7月1日から適用する。

附 則(平成6年3月22日)

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成9年3月25日)

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成13年2月6日)

この規程は、平成13年2月6日から施行し、平成12年4月1日から適用する。

附 則(平成16年5月17日)

この規程は、平成16年5月17日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則(平成20年2月18日)

この規程は、平成20年2月18日から施行し、平成19年12月26日から適用する。

附 則(平成22年9月21日)

この規程は、平成22年9月21日から施行する。

附 則(平成27年11月17日)

この規程は、平成27年11月17日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則(平成29年5月23日)

この規程は、平成29年5月23日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

附 則(平成30年3月1日)

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

○琉球大学転入学規程

(1972年3月27日制定)

改正 昭和47年8月29日 昭和49年11月8日
昭和50年4月1日 昭和53年12月2日
昭和54年6月25日 平成3年8月27日
平成6年3月22日 平成9年3月25日
平成16年5月17日 平成22年9月21日
平成27年11月17日 平成30年3月1日

第1条 琉球大学学則第34条第3項の規定に基づき、転入学に関し、必要な事項を定める。

第2条 転入学とは、他の大学に在学中の者が、本学にある学科又は課程に他大学の同一若しくは類似の学科又は課程から入学することをいう。

第3条 転入学を志願する者があるときは、当該学科又は課程に、欠員(入学定員に満たないことをいう。)のある場合に限り、願書を受け付ける。

第4条 転入学を志願する者は、次の書類に国立大学法人琉球大学料金規程(以下「料金規程」という。)に規定する検定料を添えて2月1日までに当該学部へ提出しなければならない。

- (1) 転入学願書
- (2) 履歴書
- (3) 在学中の成績証明書
- (4) 転学許可書
- (5) その他学部長等が必要と認める書類

第5条 転入学の時期は、学年の始めとする。

第6条 転入学を志願する者の選考は、次の各号により審査する。

- (1) 該学部が課す専門科目の試験
- (2) 当該学部が課す共通教育の科目及び専門基礎科目の試験
- (3) 在学中の成績
- (4) 面接

2 前項の規定にかかわらず、大学、短期大学及び大学以外の教育施設において修得した単位又は学修の成果により前項第1号又は第2号の試験を免除することができる。

第7条 転入学については、前条の審査結果に基づき、当該学部教授会の議を経て、学長が許可する。

第8条 転入学を許可された者が転入学前に大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学において履修した授業科目について修得した単位(大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第31条の規定により科目等履修生として修得した単位を含む。)を、

当該学部教授会の議に基づき、本学転入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

- 2 転入学を許可された者が転入学前に行った短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、当該学部教授会の議に基づき、本学転入学後の学修とみなし、単位を与えることができる。

第9条 転入学を許可された者の在学すべき年数及び年次は、当該学部教授会が決定する。

第10条 第7条の規定に基づき合格の通知を受けた者は、所定の手続をするとともに料金規程に規定する入学金を納入しなければならない。

- 2 学長は、前項の手続を完了した者に転入学を許可する。

第11条 転入学を許可された者の授業料は、当該者の属する年次の在学者にかかる額と同額とする。

第12条 この規程に定めるもののほか、転入学に関し必要な事項は、当該学部長が定める。

附 則

この規程は、1972年4月1日から施行する。

附 則(昭和47年8月29日)

- 1 この規程は、昭和47年8月29日から施行し、昭和47年5月15日から適用する。
- 2 昭和47年5月15日から昭和51年3月31日までの間において転入学を許可される者に係る授業料の額については、第11条の規定にかかわらず、当該転入学をした者の属する年次と同年次の本土に所在する国立の大学の在学者に係る額と同額とする。

附 則(昭和49年11月8日)

この規程は、昭和49年11月8日から施行する。

附 則(昭和50年4月1日)

- 1 この規程は、昭和50年4月1日から施行する。
- 2 昭和50年度の転入学に係る検定料の額は、第4条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(昭和53年12月2日)

この規程は、昭和53年12月2日から施行する。

附 則(昭和54年6月25日)

この規程は、昭和54年6月25日から施行する。

附 則(平成3年8月27日)

この規程は、平成3年8月27日から施行し、平成3年7月1日から適用する。

附 則(平成6年3月22日)

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成9年3月25日)

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成16年5月17日)

この規程は、平成16年5月17日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則(平成22年9月21日)

この規程は、平成22年9月21日から施行する。

附 則(平成27年11月17日)

この規程は、平成27年11月17日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則(平成30年3月1日)

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

○琉球大学再入学規程

(1972年3月27日制定)

改正 昭和47年8月29日 昭和49年1月31日
昭和49年11月8日 昭和50年4月1日
昭和50年5月27日 昭和54年6月25日
平成3年8月27日 平成16年5月17日
平成20年11月25日 平成22年9月21日
平成27年11月17日 平成29年12月20日
平成30年3月1日

第1条 この規程は、琉球大学学則第35条第2項の規定に基づき、再入学に関し、必要な事項を定める。

第2条 再入学とは、学則第41条の規定により退学した者並びに第42条第5号、第6号、第7号及び第8号の規定により除籍された者が、本学の同一学科又は課程(当該学科又は課程について改組等があった場合は、改組等の後の学科又は課程を含む。)に再び入学することをいう。

第3条 再入学を志願する者は、次に掲げる書類に、国立大学法人琉球大学料金規程(以下「料金規程」という。)に規定する検定料を添えて、指定する日(前学期にあつては2月10日、後学期にあつては8月10日をいう。)までに当該学部へ提出しなければならない。

- (1) 再入学願書
- (2) 履歴書
- (3) 前各号に掲げるもののほか、当該学部長が必要と認める書類

第4条 再入学の時期は、学期始めとする。

第5条 再入学については当該学部教授会の議を経て、学長が許可する。

第6条 再入学の選考の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の手続をするとともに料金規程に規定する入学料を納入しなければならない。

2 学長は、前項の手続きを完了した者に再入学を許可する。

第7条 再入学は1回に限りこれを認める。

第8条 再入学を許可された者の既に修得した単位の取扱いについては、当該学部教授会が決定する。

第9条 再入学を許可された者の在学すべき年数及び年次は、当該学部教授会が決定する。

第10条 再入学を許可された者の授業料は、当該者の属する年次の在学者に係る額と同額とする。

第11条 この規程に定めるもののほか、再入学については当該学部長が定める。

附 則

この規程は、1972年4月1日から施行する。

附 則(昭和47年8月29日)

- 1 この規程は、昭和47年8月29日から施行し、昭和47年5月15日から適用する。
- 2 昭和47年度における再入学を許可される者に係る入学料の額は、第6条の規定にかかわらず、4,000円とする。
- 3 昭和47年度の再入学に係る検定料の額は、第3条の規定にかかわらず、3,000円とする。
- 4 昭和47年5月15日から昭和51年3月31日の間において再入学を許可される者に係る授業料の額については、第10条の規定にかかわらず、当該再入学をした者の属する年次と同年次の本土に所在する国立の大学の在学者に係る額と同額とする。

附 則(昭和49年1月31日)

この規程は、昭和50年3月1日から施行する。

附 則(昭和49年11月8日)

この規程は、昭和49年11月8日から施行する。

附 則(昭和50年4月1日)

- 1 この規程は、昭和50年4月1日から施行する。
- 2 昭和50年度の再入学に係る検定料の額は、第4条の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(昭和50年5月27日)

この規程は、昭和50年5月27日から施行し、昭和50年4月日から適用する。

附 則(昭和54年6月25日)

この規程は、昭和54年6月25日から施行する。

附 則(平成3年8月27日)

この規程は、平成3年8月27日から施行し、平成3年7月1日から適用する。

附 則(平成16年5月17日)

この規程は、平成16年5月17日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則(平成20年11月25日)

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成22年9月21日)

この規程は、平成 22 年 9 月 21 日から施行する。

附 則(平成 27 年 11 月 17 日)

この規程は、平成 27 年 11 月 17 日から施行し、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(平成 29 年 12 月 20 日)

この規程は、平成 29 年 12 月 20 日から施行する。

附 則(平成 30 年 3 月 1 日)

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

○琉球大学転学部、転学科、転課程に関する規程

(1972年3月27日制定)

改正 昭和50年3月1日 平成20年11月25日

平成22年2月16日 平成22年9月21日

平成27年11月17日 平成30年3月1日

第1条 琉球大学学則第36条第2項の規定に基づき、転学部、転学科および転課程(以下「転学科等」という。)に関し、必要な事項を定める。

第2条 転学科等を志願できる者は、転学科等を行う時点において本学に1年以上在学している者でなければならない。

第3条 転学科等を志願する者は、次の書類を指定する日(前学期にあつては2月10日、後学期にあつては8月10日)までに当該学部へ提出しなければならない。

- (1) 転学科等願書
- (2) 履歴書
- (3) 所属学部長の承諾書(学部を異にする場合に限り。)
- (4) その他学部長等が必要と認める書類

第4条 転学科等を志願する者の選考は、次の各号により審査する。

- (1) 当該学部が課す科目の試験
- (2) 在学中の成績
- (3) 入学した際の入学者選抜学力試験の成績
- (4) 面接

第5条 転学科等については、前条の審査結果に基づき、当該学部教授会の議を経て、学長が許可する。

第6条 転学科等を許可された者の既に修得した単位は認める。

第7条 転学科等を許可された者の在学すべき年数および年次は、当該学部教授会が決定する。

第8条 転学科等を許可された者の授業料は、当該者の属する年次の在学者にかかる額と同額とする。

附 則

- 1 この規程は、1972年4月1日(以下「施行日」という。)から施行する。
- 2 施行日の前日に現に存する学科に在学する者が、当該学科と同一もしくは類似する学則第2条第1項に規定する学科または課程に転学部、転学科、転課程を希望するときは、第3条から第5条までの規定にかかわらず、学長は、当該学部教授会の議を経てこれを許可することができる。

附 則(昭和50年3月1日)

この規程は、昭和 50 年 3 月 1 日から施行する。

附 則(平成 20 年 11 月 25 日)

この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 22 年 2 月 16 日)

この規程は、平成 22 年 2 月 16 日から施行する。

附 則(平成 22 年 9 月 21 日)

この規程は、平成 22 年 9 月 21 日から施行する。

附 則(平成 27 年 11 月 17 日)

この規程は、平成 27 年 11 月 17 日から施行し、平成 27 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(平成 30 年 3 月 1 日)

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

○琉球大学教育学部特別支援教育特別課程規程

(平成31年1月25日制定)

(趣旨)

第1条 この規程は、琉球大学学則第54条の2第3項の規定に基づき、教育学部特別支援教育特別課程(以下「特別課程」という。)に関し、必要な事項を定める。

(入学資格等)

第2条 特別課程に入学することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者で、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭又は高等学校教諭の普通免許状を有するものとする。

(1) 大学を卒業した者

(2) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者

(3) 文部科学大臣の指定した者

2 各年度の入学者の受入れは、原則として10人を上限とする。

(出願手続)

第3条 特別課程への入学を志願する者(以下「入学志願者」という。)は、次に掲げる書類に検定料を添えて願出しなければならない。

(1) 願書

(2) 履歴書

(3) 学士の学位を有すること又はその見込があることを示す書類

(4) 教育職員免許状の写し又は教育職員免許状取得見込証明書

(5) 前各号に掲げるもののほか、教育学部長が必要と認める書類

2 入学志願者で職業を有する者は、所属長の承諾書を添付しなければならない。

(入学の時期)

第4条 特別課程への入学の時期は、年度の初めとする。

2 特別課程の標準修業年限は1年とする。

(在学期間)

第5条 特別課程の学生(以下「特別支援教育特別課程生」という。)は、修業年限の2倍を超えて在学することができない。

(入学者の選抜)

第6条 入学志願者に対しては、選抜試験を行う。

2 学長は、選抜試験の結果を踏まえ、教育学部教授会の議を経て、合格者を決定する。

(入学の手続及び許可)

第7条 合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、必要な書類を提出するとともに、入学料を納付しなければならない。

2 学長は、前項の手続を完了した者に特別課程への入学を許可する。

(授業科目、単位及び履修方法)

第8条 授業科目の種類、単位及び履修方法は、教育学部長が別に定める。

(特別支援教育特別課程生証)

第9条 特別支援教育特別課程生は、所定の期日までに写真2葉を提出し、特別支援教育特別課程生証の交付を受けなければならない。

(検定料、入学料及び授業料等)

第10条 検定料、入学料及び授業料の額は、国立大学法人琉球大学料金規程の定めるところによる。

2 実験及び実習等に要する経費については、特別支援教育特別課程生に負担させることができる。

(証書の交付)

第11条 学長は、所定の単位を履修した特別支援教育特別課程生に対して、教育学部教授会の議を経て、特別支援学校教諭一種免許状(知的障害者、肢体不自由者、病弱者)の取得要件を満たしていることを証する特別課程修了証書を交付する。

(準用)

第12条 特別支援教育特別課程生の取扱いについては、この規程に定めるもののほか、学則その他の学部学生に関する諸規則を準用することができる。

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、特別課程に関し必要な事項は、教育学部長が別に定める。

(改廃)

第14条 この規程の改廃は、教育研究評議会の議を経て学長が行う。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。ただし、第2条、第3条、第6条、第7条、第8条及び第10条の規定は、平成31年1月25日から施行する。

○琉球大学研究生規程

(昭和 56 年 11 月 28 日制定)

改正 昭和 57 年 3 月 31 日 昭和 58 年 4 月 1 日
昭和 59 年 3 月 27 日 昭和 60 年 6 月 25 日
昭和 61 年 6 月 24 日 昭和 62 年 9 月 22 日
平成元年 4 月 1 日 平成元年 4 月 1 日
平成 2 年 1 月 30 日 平成 3 年 4 月 1 日
平成 3 年 10 月 1 日 平成 5 年 2 月 23 日
平成 6 年 3 月 22 日 平成 9 年 3 月 25 日
平成 16 年 5 月 17 日 平成 17 年 6 月 28 日
平成 20 年 2 月 6 日 平成 20 年 11 月 25 日
平成 22 年 9 月 21 日 平成 27 年 11 月 17 日
平成 30 年 3 月 1 日 平成 31 年 1 月 25 日

第 1 条 琉球大学学則第 55 条第 3 項及び琉球大学大学院学則第 54 条の規定に基づき、研究生に関し、必要な事項を定める。

第 2 条 研究生は、指導教員の指導の下に特定事項の研究に従事するものとする。

第 3 条 学部の研究生として入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 前号と同等以上の学力を有すると認められた者

第 4 条 大学院の研究生として入学することのできる者の資格は、前条に定める入学資格以上とし、研究科の定めるところによる。

第 5 条 研究生を志願する者は、次の各号に掲げる書類を指定する日(前学期にあつては 2 月 10 日、後学期にあつては 8 月 10 日)までに当該学部又は研究科に提出しなければならない。ただし、医学部については、入学しようとする月の 15 日前までに提出しなければならない。

- (1) 研究生願書
- (2) 履歴書
- (3) 学力判定に必要な書類
- (4) その他学部長等が必要と認める書類

2 前項の規定にかかわらず、外国人研究生の提出期限については、必要に応じて当該学部又は研究科が別に定めることができる。

3 研究生を志願する者は第 1 項に規定する書類を提出する際に、検定料を納入しなければならない。

4 研究生を志願する者で、職務を持つ者は、所属長の承諾書を添付しなければならない。

第6条 研究生の入学は、学期の初めとする。ただし、特別の事情があると認められる場合は、この限りでない。

第7条 研究生の研究期間は、1個学期又は2個学期とする。ただし、学期の途中で入学を許可された者については、この限りでない。

2 研究期間は、当該学部教授会又は研究科委員会(以下「教授会等」という。)の議を経て、延長することができる。

第8条 研究生の選考は、当該学部教授会等の議を経て、学長が行う。

第9条 前条の選考の結果に基づき合格通知を受けた者は、所定の期日までに、入学料を納入しなければならない。

2 学長は、入学料を納入した者に、研究生として入学を許可する。

第10条 研究生として入学を許可された者は、所定の期日までに写真2葉を提出し、研究生証の交付を受けなければならない。

第11条 研究生の授業料は、在学予定期間に応じて、6月分に相当する額を当該期間における当初の月に納入しなければならない。ただし、在学予定期間が6月未満であるときは、その期間に相当する額を当該期間における当初の月に納入しなければならない。

2 研究又は実験等に要する経費は、別に負担させることができる。

第12条 検定料、入学料及び授業料の額は、国立大学法人琉球大学料金規程に定める額とする。

第13条 既納の検定料、入学料及び授業料は、還付しない。

第13条の2 授業料の納付を怠り、督促してもなお納付しない者は、当該教授会等の議を経て、学長がこれを除籍する。

第14条 研究生は、指導教員が必要と認めた場合には、指定する授業科目を受講しなければならない。

第15条 研究生は、最初に研究主題及び研究計画を指導教員へ提出しなければならない。

2 研究生は、指導教員の指示に従い、レポート又は論文を提出しなければならない。

第16条 学長は、前条第2項に規定するレポート又は論文を提出した者に、当該学部教授会等の議を経て、単位及び修了証書を授与することができる。

2 前項の規定に基づき授与できる単位数は、1個学期4単位又は2個学期8単位とする。

第17条 研究生の取扱いについては、この規程に定めるもののほか、学内諸規程を準用する。

第18条 この規程に定めるもののほか、研究生に関する必要な事項は、当該学部又は研究科が別に定めることができる。

(準用)

第19条 この規程は、グローバル教育支援機構、熱帯生物圏研究センター及び島嶼地域科学研究所について準用する。この場合において、「学部」とあるのは「グローバル

教育支援機構」、「熱帯生物圏研究センター」又は「島嶼地域科学研究所」と、「当該学部教授会」とあるのは「グローバル教育支援機構教員会議」、「熱帯生物圏研究センター教授会」又は「島嶼地域科学研究所会議」と読み替えるものとする。

附 則

- 1 この規程は、昭和56年11月28日から施行する。
- 2 第4条第2項の規定については、前項の規定にかかわらず、昭和57年4月1日から施行する。ただし、昭和56年度の入学に係る検定料の額は、なお従前の例による。
- 3 琉球大学研究生規程(昭和47年7月14日制定)は、廃止する。

附 則(昭和57年3月31日)

この規程は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則(昭和58年4月1日)

- 1 この規程は、昭和58年4月1日から施行する。
- 2 昭和58年度の入学に係る検定料の額は、第4条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(昭和59年3月27日)

- 1 この規程は、昭和59年4月1日から施行する。
- 2 昭和59年度に入学する研究生に係る授業料の額は、第10条第1項の規定にかかわらず前期にあつては、月額12,000円とする。

附 則(昭和60年6月25日)

- 1 この規程は、昭和60年6月25日から施行する。
- 2 昭和60年度の入学に係る検定料の額は、第4条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 昭和60年度における入学を許可された者に係る入学料の額は、第8条第1項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(昭和61年6月24日)

- 1 この規程は、昭和61年6月24日から施行する。
- 2 昭和61年3月31日に在学する者及び昭和61年度入学者に係る授業料の額は、第10条第1項の規定にかかわらず、なお従前の例による。ただし、在学期間が延長された場合で、当該延長期間の始期が昭和62年4月1日以後であるものを除く。

附 則(昭和62年9月22日)

- 1 この規程は、昭和62年9月22日から施行する。

- 2 昭和 62 年度の入学に係る検定料の額は、改正後の第 4 条第 2 項の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 昭和 62 年度の入学者に係る入学料の額は、改正後の第 8 条第 1 項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成元年 4 月 1 日)

- 1 この規程は、平成元年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成元年 3 月 31 日以後引き続き在学している者の授業料の額は、改正後の第 10 条第 1 項の規定にかかわらず、在学期間(在学期間が延長された場合で、当該延長期間の始期が平成元年 4 月 1 日以後であるものを除く。)が満了するまでの間は、なお従前の例による。

附 則(平成元年 4 月 1 日)

- 1 この規程は、平成元年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成元年 3 月 31 日以後引き続き在学している者の授業料の額は、改正後の第 10 条第 1 項の規定にかかわらず、在学期間(在学期間が延長された場合で、当該延長期間の始期が平成元年 4 月 1 日以後であるものを除く。)が満了するまでの間は、月額 16,700 円とする。
- 3 平成元年度において入学した者(平成元年 3 月 31 日以後引き続き在学している者であって、在学期間が延長された場合における当該延長期間の始期が平成元年 4 月 1 日以後であるものを含む。)に係る平成元年度の前期の授業料の額は、改正後の第 10 条第 1 項の規定にかかわらず、月額 18,700 円とする。

附 則(平成 2 年 1 月 30 日)

- 1 この規程は、平成 2 年 1 月 30 日から施行する。
- 2 平成元年度の入学に係る検定料の額は、改正後の第 4 条第 2 項の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 平成元年度の入学者に係る入学料の額は、改正後の第 8 条第 1 項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成 3 年 4 月 1 日)

- 1 この規程は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 3 年 3 月 31 日以後引き続き在学している者の授業料の額は、改正後の第 10 条第 1 項の規定にかかわらず、在学期間(在学期間が延長された場合で、当該延長期間の始期が平成 3 年 4 月 1 日以後であるものを除く。)が満了するまでの間は、なお従前の例による。

附 則(平成3年10月1日)

- 1 この規程は、平成3年10月1日から施行する。
- 2 平成3年度の入学に係る検定料の額は、改正後の第4条第2項の規定にかかわらず、なお従前の例による。
- 3 平成3年10月1日以後において平成3年度の入学者の入学を許可するときに徴収する入学料の額は、改正後の第8条第1項の規定にかかわらず、60,000円とする。

附 則(平成5年2月23日)

- 1 この規程は、平成5年4月1日から施行する。
- 2 平成5年3月31日以後引き続き在学している者の授業料の額は、改正後の第10条第1項の規定にかかわらず、在学期間(在学期間が延長された場合で、当該延長期間の始期が平成5年4月1日以後であるものを除く。)が満了するまでの間は、なお従前の例による。

附 則(平成6年3月22日)

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成9年3月25日)

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成16年5月17日)

この規程は、平成16年5月17日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則(平成17年6月28日)

この規程は、平成17年6月28日から施行する。

附 則(平成20年2月6日)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成20年11月25日)

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成22年9月21日)

この規程は、平成22年9月21日から施行する。

附 則(平成27年11月17日)

この規程は、平成27年11月17日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則(平成30年3月1日)

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 31 年 1 月 25 日)

この規程は、平成 31 年 1 月 25 日から施行する。

○琉球大学科目等履修生規程

(平成5年10月12日制定)

改正 平成9年3月25日 平成11年1月14日
平成12年3月31日 平成16年5月17日
平成20年11月25日 平成22年9月21日
平成22年12月21日 平成27年11月17日
平成29年5月15日 平成30年3月1日

(趣旨)

第1条 琉球大学学則第57条第2項の規定に基づき、科目等履修生の取扱いに関し、必要な事項を定める。

(入学資格)

第2条 科目等履修生の入学資格は、高等学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力を有する者とする。

(出願手続)

第3条 科目等履修生として入学を志願する者(以下「入学志願者」という。)は、次の書類に検定料を添えて、指定する日(前学期にあつては2月15日、後学期にあつては8月15日)までに当該学部又は学生部教育支援課へ提出しなければならない。

- (1) 科目等履修生願書
- (2) 履歴書
- (3) 学力判定に必要な書類
- (4) その他学部長等が必要と認める書類

2 入学志願者で職業を有する者は、所属長の承諾書を添付しなければならない。

(入学の時期)

第4条 科目等履修生の入学の時期は、学期の始めとする。

(入学者の選考)

第5条 入学者の選考は、当該学部教授会の議を経て、学長が行う。

(入学許可)

第6条 前条の選考結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、登録カード等を提出すると同時に、入学料を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続を完了した者に科目等履修生として入学を許可する。

(履修期間)

第7条 科目等履修生の履修の期間は、当該年度限りとする。ただし、年度を越えて開設する授業科目を履修するときは、当該授業科目の履修が完了する年度までとする。

(科目等履修生証)

第8条 科目等履修生として入学を許可された者は、所定の期日までに写真2葉を提出し、科目等履修生証の交付を受けなければならない。

(授業料の納付)

第9条 履修する授業科目に係る授業料は、登録カード等を所属学部又は学生部教育支援課に提出すると同時に、財務部(医学部の科目等履修生にあつては医学部)へ納付しなければならない。

(検定料、入学料及び授業料)

第10条 検定料、入学料及び授業料の額は、国立大学法人琉球大学料金規程に定める額とする。

2 実験及び実習等に要する経費は、別に負担させることがある。

(既納の授業料等)

第11条 既納の検定料、入学料及び授業料は、還付しない。

(単位の授与)

第12条 授業科目の登録を完了し、かつ当該科目を履修した者について、試験その他の成績、学習状況及び出席状況により担当教員がその成績を判定し合格した者には、所定の単位を与える。

(証明書の交付)

第13条 科目等履修生の単位、在学期間等については、本人の請求により所定の証明書を交付する。

(準用)

第14条 科目等履修生の取扱いについては、この規程に定めるもののほか学内諸規則を準用する。

(補則)

第15条 この規程に定めるもののほか、科目等履修生に関する必要な事項は、学長が別に定める。

附 則

1 この規程は、平成6年4月1日から施行する。

2 琉球大学聴講生及び委託生規程(昭和47年7月14日制定)は、廃止する。

附 則(平成9年3月25日)

この規程は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成11年1月14日)

この規程は、平成11年1月14日から施行し、平成10年4月9日から適用する。

附 則(平成12年3月31日)

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成16年5月17日)

この規程は、平成16年5月17日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則(平成20年11月25日)

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則(平成22年9月21日)

この規程は、平成22年9月21日から施行する。

附 則(平成22年12月21日)

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則(平成27年11月17日)

この規程は、平成27年11月17日から施行し、平成27年4月1日から適用する。

附 則(平成29年5月15日)

この規程は、平成29年5月15日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

附 則(平成30年3月1日)

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

○琉球大学外国人学生規程

(昭和 53 年 12 月 2 日制定)

改正 昭和 54 年 12 月 26 日 平成 4 年 10 月 20 日

平成 6 年 3 月 22 日 平成 9 年 3 月 25 日

平成 22 年 9 月 21 日 平成 30 年 3 月 1 日

平成 31 年 4 月 16 日 令和 6 年 3 月 5 日

第 1 条 琉球大学学則第 58 条及び琉球大学大学院学則第 56 条の規定による外国人学生については、別に定めるもののほか、この規程の定めるところによる。

第 2 条 外国人学生の区分は、次のとおりとする。

- (1) 学部学生
- (2) 大学院学生
- (3) 特別支援教育特別課程生
- (4) 研究生
- (5) 科目等履修生
- (6) 特別聴講学生
- (7) 特別研究学生

第 3 条 前条第 1 号から第 5 号までに規定する外国人学生として入学を志願できる者は、この規程に定める入学資格を有し、特に定める場合を除き、修学に必要な日本語を理解できる者でなければならない。

2 外国人学生の入学時期は、原則として学年の始めとする。

第 4 条 学部学生として入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 外国において学校教育における 12 年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部大臣の指定したもの
- (2) 日本において高等学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者

第 5 条 大学院修士課程(博士前期課程を含む。)の学生、特別支援教育特別課程生又は研究生として入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者
- (2) 日本において大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者

第 5 条の 2 大学院博士後期課程の学生として入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 外国において、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (2) 日本において修士の学位を授与された者又はこれと同等以上の学力があると認められた者

第6条 大学院博士課程(医学)の学生として入学することができる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 外国において学校教育における18年の課程(最終の課程は、医学又は歯学)を修了した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者
- (2) 日本において大学(歯学又は医学の課程)を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者

第7条 科目等履修生として入学することのできる者は次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部大臣の指定したもの
- (2) 日本において高等学校を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者

第8条 入学志願者は、次の各号に定められた書類に所定の検定料を添え、所定の期日までに当該学部又は研究科へ提出しなければならない。

- (1) 第4条第1号に該当する者
 - イ 願書
 - ロ 履歴書
 - ハ 最終出身学校の学業成績証明書
 - ニ 外務省在外公館、本邦所在の外国公館の発行する身分証明書、依頼状等
 - ホ 旅券の写又は外国人登録済証明書(国外にある者は除く)
 - ヘ 日本語理解力調査書
 - ト その他本学が必要と認める書類
- (2) 第4条第2号に該当する者
 - イ 願書
 - ロ 調査書(文部省所定の様式により出身高等学校長が作成したもの)
 - ハ 旅券の写又は外国人登録済証明書
 - ニ その他本学が必要と認める書類
- (3) 第5条、第5条の2及び第6条に該当する者は、前各号に準ずる。
- (4) 第7条第1号に該当する者
 - イ 願書
 - ロ 履歴書
 - ハ 最終出身学校の学業成績証明書
 - ニ 日本語理解力調査書
 - ホ その他本学が必要と認める書類
- (5) 第7条第2号に該当する者
 - イ 願書
 - ロ 履歴書

- ハ 最終出身学校の学業成績証明書
- ニ その他本学が必要と認める書類

第9条 入学の選考は、学則その他入学選考に関する諸規則を準用する。

2 前項によりがたい事情があると認めた場合は、特別の選考を行うことができる。

第10条 入学の許可は、前条の選考結果に基づき当該学部教授会又は当該研究科委員会の議を経て学長が行う。

2 第1項により科目等履修生として入学を許可された者の履修期間は、琉球大学科目等履修生規程第7条の規定にかかわらず1年とすることができる。ただし、科目等履修生願書は学期ごとに提出しなければならない。

第11条 入学を許可された者は、所定の期日までに在留資格(留学)を記載した外国人登録済証明書その他必要書類を提出するとともに所定の入学料を納付しなければならない。

2 前項の入学手続きを所定の期日までに完了しない者に対しては、入学の許可を取り消す。

第12条 国費外国人留学生制度実施要項(昭和29年文部大臣裁定)に基づく外国人学生については、検定料、入学料及び授業料(以下「授業料等」という。)を徴収しない。

第13条 本学と外国の大学との間において締結された大学間交流協定、学部間交流協定及びこれらに準ずるもの(以下「協定」という。)に基づいて受け入れる特別研究学生及び特別聴講学生の授業料等が相互に不徴収と定められている場合、当該外国人学生の授業料等は、協定に定める人数、期間等の範囲内に限り徴収しない。

2 琉球大学研究生規程第5条第3項、第9条第1項及び第11条第1項並びに琉球大学科目等履修生規程第3条第1項、第6条第1項及び第9条の規定にかかわらず、本学と外国の団体との間において締結された連携協力に関する覚書及びこれに準ずるもの(以下「覚書」という。)に基づいて受け入れる研究生及び科目等履修生の授業料等が不徴収と定められている場合、当該外国人学生の授業料等は、徴収しない。

第14条 外国人学生のための授業科目として開設する日本語科目及び日本事情に関する科目の名称、単位数及び講義内容は、琉球大学共通教育等履修規程第3条の別表1に定めるとおりとする。ただし、履修希望者が少数の場合は、開講しないことがある。

第15条 外国人学生のうち学部学生として入学した者が、日本語科目の単位を修得した場合には外国語科目の単位に、日本事情に関する科目の単位を修得した場合には外国語を除く共通教育の科目の単位に、それぞれ充てることができる。

第16条 外国人学生の取扱いについては、この規程に定めるもののほか学内諸規則を準用する。

第17条 この規程の改廃は、グローバル教育支援機構会議の議を経て、グローバル教育支援機構長が行う。

附 則

- 1 この規程は、昭和 53 年 12 月 2 日から施行する。
- 2 琉球大学外国人学生規程(昭和 47 年 7 月 14 日制定)は、廃止する。

附 則(昭和 54 年 12 月 26 日)

この規程は、昭和 54 年 12 月 26 日から施行する。

附 則(平成 4 年 10 月 20 日)

この規程は、平成 4 年 10 月 20 日から施行する。

附 則(平成 6 年 3 月 22 日)

この規程は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 9 年 3 月 25 日)

この規程は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 22 年 9 月 21 日)

この規程は、平成 22 年 9 月 21 日から施行する。

附 則(平成 30 年 3 月 1 日)

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 31 年 4 月 16 日)

この規程は、平成 31 年 4 月 16 日から施行し、平成 31 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(令和 6 年 3 月 5 日)

この規程は、令和 6 年 3 月 5 日から施行し、令和 6 年 2 月 20 日から適用する。

○琉球大学留学等及び特別聴講学生に関する規程

(昭和48年3月23日制定)

改正 昭和49年2月28日 昭和51年6月15日
昭和53年4月1日 昭和55年3月27日
昭和57年3月31日 昭和58年11月1日
昭和59年3月27日 昭和61年6月24日
平成元年4月1日 平成元年4月1日
平成3年4月1日 平成4年10月20日
平成5年2月23日 平成6年2月24日
平成9年3月25日 平成19年2月27日
平成20年2月28日 平成22年9月21日
平成30年3月1日 令和6年5月31日

第1節 目的

(目的)

第1条 この規程は、琉球大学学則第15条の4に規定する他の大学又は短期大学(以下「他の大学」という。)及び第38条に規定する外国の大学又は短期大学における授業科目の履修並びに第56条に規定する特別聴講学生の取扱いについて必要な事項を定め、もって単位の互換制度の円滑な実施を図ることを目的とする。

第2節 他の大学における授業科目の履修及び留学

第2条 他の大学における授業科目の履修及び外国の大学又は短期大学への留学(以下「留学等」という。)を志願する者は、学部長を経て学長の許可を受けなければならない。

(提出書類)

第3条 留学等を志願する者は、次の各号に掲げる書類を提出しなければならない。

(1) 他大学における授業科目履修願又は留学願

(2) 当該大学の要求する書類

(授業料)

第4条 留学等を許可された者の当該留学等の期間中の本学における授業料は、これを徴収する。

(留学等に要する費用)

第5条 留学等を許可された者の当該大学における留学等に要する費用は特に定めるもののほか自己負担とする。

(単位及び評価の取扱い)

第6条 留学等により履修した授業科目の単位及び評価は、原則としてそのまま認める。

(履修科目)

第7条 留学等により履修できる授業科目は、本学の専門科目に相当する科目とする。ただし、当該大学との協議により本学の共通教育の科目及び専門基礎科目に相当する科目についても履修させることができる。

(単位認定の特例)

第8条 学生が留学等に際し、当該大学と本学の学年歴の相異その他やむを得ない理由により本学所定の単位の認定方法によることができない場合は、担当教員にその理由を付して願い出、単位を修得することができる。

2 前項の規定により単位を修得しようとする者は、当該授業科目の授業総時数の3分の2を超えて出席した者でなければならない。

第3節 特別聴講学生

(提出書類)

第9条 本学に特別聴講学生として志願する者は、当該大学を経て、次の各号に掲げる書類を提出しなければならない。

- (1) 特別聴講学生願
- (2) 履歴書
- (3) 成績証明書
- (4) その他必要に応じて本学の要求する書類

(入学許可)

第10条 特別聴講学生の入学は、当該学部教授会の議を経て、学長が許可する。

(検定料及び入学科)

第11条 特別聴講学生の検定料及び入学科は徴収しない。

(授業料)

第12条 特別聴講学生の授業料は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 大学間交流協定、学部間交流協定又はこれに準ずるものにより、相互に授業料等を不徴収とした場合は、徴収しない。
- (2) 前号以外の場合は、国立大学法人琉球大学料金規程に定める授業料の額を徴収する。

(聴講期間)

第13条 特別聴講学生の聴講期間は、原則として1箇年以内とする。

(登録単位数)

第14条 特別聴講学生の1個学期の登録単位は、原則として20単位以内とする。

(特別聴講学生証)

第15条 特別聴講学生として入学を許可された者は、所定の期日までに写真2葉を当該学部又は学生部教育支援課へ提出し、特別聴講学生証の交付を受けなければならない。

第16条 特別聴講学生の取り扱いについては、この規程の定めるもののほか、学部学生の例による。

第4節 雑則

(雑則)

第17条 この規程に定めるもののほか、他大学における授業科目の履修、留学及び特別聴講学生の取り扱いについては、当該大学との協議のうえ決定するものとする。

(準用規定)

第18条 大学院の特別聴講学生については、大学院学則に定めるもののほか、本規程の特別聴講学生に関する規定を準用する。

2 前項の場合において、「学部長」とあるのは「研究科長」と、「学部教授会」とあるのは「研究科委員会」と読み替えるものとする。

附 則

この規程は、昭和48年3月23日から施行し、昭和47年5月15日から適用する。

附 則(昭和49年2月28日)

この規定は、昭和49年2月28日から施行する。

附 則(昭和51年6月15日)

- 1 この規定は、昭和51年6月15日から施行し、昭和51年4月1日から適用する。
- 2 昭和51年の特別聴講学生に係る授業料の額は第12条第2号の改正規定にかかわらず昭和51年度に限り、前期にあつては1単位に相当する授業につき1,200円とする。ただし、前期及び後期を通じて1単位となる授業科目の授業料の額は、前期の1単位と後期の1単位に相当する授業料の額のそれぞれ2分の1に相当する額を合わせた額とする。

附 則(昭和53年4月1日)

この規程は、昭和53年4月1日から施行する。

附 則(昭和55年3月27日)

この規程は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則(昭和57年3月31日)

この規程は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則(昭和58年11月1日)

この規程は、昭和58年11月1日から施行する。

附 則(昭和59年3月27日)

- 1 この規程は、昭和59年4月1日から施行する。

- 2 昭和 59 年度に入学する特別聴講学生に係る授業料の額は、第 12 条第 2 号の規定にかかわらず前期にあつては、1 単位に相当する授業につき 6,000 円とする。ただし、単位の修得に前期及び後期を通じての履修を必要とする授業科目の授業料の額は、前期の 1 単位に相当する授業料の額の 2 分の 1 に相当する額と後期の 1 単位に相当する授業についての授業料の額の 2 分の 1 に相当する額とを合せた額とする。

附 則(昭和 61 年 6 月 24 日)

- 1 この規程は、昭和 61 年 6 月 24 日から施行する。
- 2 昭和 61 年度に入学する特別聴講学生に係る授業料の額は、第 12 条第 2 号の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成元年 4 月 1 日)

この規程は、平成元年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成元年 4 月 1 日)

- 1 この規程は、平成元年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成元年度に入学する特別聴講学生に係る授業料の額は、改正後の第 12 条第 2 号の規定にかかわらず、平成元年度の前期にあつては、1 単位に相当する授業につき 9,400 円とする。ただし、単位の修得に前期及び後期を通じての履修を必要とする授業科目の授業料の額は、前期の 1 単位に相当する授業料の額の 2 分の 1 に相当する額と、後期の 1 単位に相当する授業料の額の 2 分の二に相当する額とを合わせた額とする。

附 則(平成 3 年 4 月 1 日)

この規程は、平成 3 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 4 年 10 月 20 日)

この規程は、平成 4 年 10 月 20 日から施行する。

附 則(平成 5 年 2 月 23 日)

- 1 この規程は、平成 5 年 2 月 23 日から施行する。
- 2 平成 4 年度に入学する特別聴講学生に係る授業料の額は、改正後の第 12 条第 2 号の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成 6 年 2 月 24 日)

この規程は、平成 6 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 9 年 3 月 25 日)

この規程は、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成19年2月27日)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則(平成20年2月28日)

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則(平成22年9月21日)

この規程は、平成22年9月21日から施行する。

附 則(平成30年3月1日)

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則(令和6年5月31日)

この規程は、令和6年5月31日から施行する。

○学生が本学在学中又は入学前に大学等において修得した単位等の認定に関する
申合せ

(平成6年7月14日制定)

改正 平成9年3月25日 平成12年2月22日
平成18年1月24日 平成20年2月18日
平成20年11月28日 平成22年12月21日
平成27年2月17日 平成30年3月1日
令和5年5月25日

(趣旨)

第1条 この申合せは、琉球大学学則(以下「学則」という。)第15条、第16条、第17条及び第38条第2項の規定に基づく単位の認定に関し、必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この申合せにおいて「大学等」とは、学則第15条に規定する他の大学又は短期大学、第16条に規定する大学以外の教育施設、第17条に規定する大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学及び第38条第2項に規定する外国の大学又は短期大学をいう。

2 この申合せにおいて「修得単位等」とは、学生が本学在学中又は入学前に大学等において修得した単位又は行った学修をいう。

3 この申合せにおいて「共通教育等」とは、共通教育科目及び専門基礎科目をいう。
(単位認定の対象となる修得単位等)

第3条 単位認定の対象となる修得単位等は、次のとおりとする。

(1) 他の大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学との協議に基づき、
学生が当該大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位

(2) 学生が本学入学前に大学若しくは短期大学又は外国の大学若しくは短期大学において履修した授業科目について修得した単位(大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第31条の規定により科目等履修生として修得した単位を含む。)

(3) 短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修

(4) 大学の専攻科における学修

(5) 高等専門学校の課程における学修

(6) 専修学校の専門課程のうち修業年限が2年以上のものにおける学修

(7) 次に掲げる学校以外の教育施設で学校教育に類する教育を行うものにおける学修

イ 防衛省設置法(昭和29年法律第164号)による防衛大学校

ロ 職業能力開発促進法(昭和44年法律第64号)による職業能力開発短期大学校、職業開発大学校及び職業能力開発総合大学校(旧職業訓練法(昭和33年法律第133号)による中央職業訓練所及び職業訓練大学校、職業訓練法の一部を改正する法律(昭

和 60 年法律第 56 号)による改正前の職業訓練法(昭和 44 年法律第 64 号)による職業訓練大学校及び職業訓練短期大学校並びに職業能力開発促進法及び雇用促進事業団法の一部を改正する法律(平成 9 年法律第 45 号)による改正前の職業能力開発促進法による職業能力開発大学校を含む。)

ハ 独立行政法人水産大学校法(平成 11 年法律第 191 号)による独立行政法人水産大学校(旧水産庁設置法(昭和 23 年法律第 78 号)による水産講習所並びに旧農林水産省設置法(昭和 24 年法律第 153 号)、旧農林水産省組織令(昭和 27 年政令第 389 号)及び独立行政法人国立公文書館等の設立に伴う関係政令の整備等に関する政令(平成 12 年政令第 333 号)による改正前の農林水産省組織令(平成 12 年政令第 253 号)による水産大学校を含む。)

ニ 高度専門医療に関する研究等を行う独立行政法人に関する法律(平成 20 年法律第 93 号)による国立高度専門医療研究センターの職員の養成及び研修を目的として看護に関する学理及び技術の教授及び研究並びに研修を行う施設(厚生労働省組織規則の一部を改正する省令(平成 22 年厚生労働省組織規則の一部を改正する省令(平成 22 年厚生労働省令第 58 号)による改正前の厚生労働省組織規則(平成 13 年厚生労働省令第 1 号)による国立看護大学校を含む。)

ホ 国土交通省組織令(平成 12 年政令第 255 号)による気象大学校(旧運輸省設置法(昭和 24 年法律第 157 号)及び旧運輸省組織令(昭和 59 年政令第 175 号)による気象大学校を含む。)及び海上保安大学校(旧運輸省組織令による海上保安大学校を含む。)

- (8) 教育職員免許法(昭和 24 年法律第 147 号)別表第 3 備考第 4 号の規定により文部科学大臣の認定を受けて大学、短期大学等が行う講習又は公開講座における学修
- (9) 社会教育法(昭和 24 年法律第 207 号)第 9 条の 5 の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学、短期大学その他の教育機関が行う社会教育主事の講習における学修
- (10) 図書館法(昭和 25 年法律第 118 号)第 6 条の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学又は短期大学が行う司書及び司書補の講習における学修
- (11) 学校図書館法(昭和 28 年法律第 185 号)第 5 条第 3 項の規定により文部科学大臣の委嘱を受けて大学又は短期大学が行う司書教諭の講習における学修
- (12) 青少年及び成人の学習活動に係る知識・技能審査事業の認定に関する規則(平成 12 年文部省令第 25 号)又は技能審査の認定に関する規則(昭和 42 年文部省告示第 237 号)による文部科学大臣の認定を受けた技能審査の合格に係る学修
- (13) アメリカ合衆国の営利を目的としない法人であるエデュケーショナル・テストイング・サービスが英語の能力を判定するために実施するトフル及びトーイック又は次に掲げる要件を備えた知識及び技能に関する審査であってこれらと同等以上の社会的評価を有するものにおける成果に係る学修

- イ 審査を行うものが国又は一般社団法人若しくは一般財団法人その他の団体であること。
- ロ 審査の内容が、学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条第1項に規定する大学の目的に照らし適切なものであること。
- ハ 審査が全国的な規模において、毎年1回以上行われるものであること。
- ニ 審査の実施方法が、適切かつ公平であること。

(出願手続)

第4条 修得単位等の認定を希望する者は、次の書類を添えて所属学部長に願い出るものとする。

- (1) 修得単位等に係る単位認定申請書(様式第1号)
- (2) 大学等の成績証明書又はこれに相当する書類
- (3) その他本学が必要と認める書類

2 前項の書類の提出については、次のとおりとする。ただし、本学入学前に修得した単位等については、入学した年度に申請しなければならない。

区分	提出期間	
	第1期	第2期
本学入学前及び在学中に修得した単位 (学則第15条、第16条、第17条、第38条第2項関係)	4月1日～4月12日	9月25日～10月6日

(単位の認定)

第5条 当該学部長は、認定の願い出のあった修得単位等について、教授会の議に基づいて認定を行うものとする。この場合、共通教育等に相当する科目の単位の認定に当たっては、第5条の2の規定により審査するものとする。

2 前項において単位の認定を行うに当たっては、第3条第5号から第13号に規定する学修について、大学教育に相当する水準を有すると認めたものについて行うものとする。

第5条の2 単位認定を願い出た授業科目の内容が、原則として認定を希望する本学の授業科目と同等とみなされ、かつ、単位数が同一又は多い場合に限り、本学の当該授業科目の単位の範囲内で認める。ただし、本学が、大学等において履修した授業科目等に相当する授業科目を開設していない場合は、審議の上、大学等において修得した科目等の名称のまま、本学の単位数に換算して認めることができる。

2 本学(短期大学部を除く。)で修得した単位については、申請どおり認めるものとする。

3 登録を完了した科目は、認定の対象外とし、認定された科目は、登録できないものとする。

(認定した単位の取扱い)

第6条 修得単位等の認定については、学則第15条、第16条、第17条及び第38条により修得したものとみなす単位数を合わせて60単位以内を、卒業の要件となる単位とし

て取り扱うものとする。ただし、学則第 19 条第 2 項の授業方法により修得したものとみなす単位数は、学則第 43 条第 2 項のとおり取り扱うものとする。

- 2 前条の規定により認定する科目の単位数が、前項の卒業の要件となる単位数を超える場合は、認定する科目及びその単位数を当該学部長が確定するものとする。

(単位認定通知書の交付)

第 7 条 当該学部長は、認定した単位及び授業科目について、修得単位等に係る単位認定通知書(様式第 2 号)を交付する。

(修業年限)

第 8 条 単位認定を行った場合にあっては、修業年限は短縮されない。

(単位認定に伴う指導等)

第 9 条 単位の認定を行った場合には、認定した単位に代えて他の選択科目の履修を行わせるなど学習内容の豊富化を図るよう当該学部において適切な指導を行うものとする。

(認定の評語)

第 10 条 認定された科目の評語は、R で表示するものとする。

(補則)

第 11 条 この申合せに定めるもののほか、単位の認定に関する必要な事項は、各学部長が別に定める。

(改廃)

第 12 条 この申合せの改廃は、グローバル教育支援機構会議の議を経て、グローバル教育支援機構長が行う。

附 則

- 1 この申合せは、平成 6 年 7 月 14 日から施行する。
- 2 一般教育科目等の単位換算に関する細則(昭和 57 年 2 月 27 日制定)は廃止する。

附 則(平成 9 年 3 月 25 日)

この申合せは、平成 9 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 12 年 2 月 22 日)

この申合せは、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 18 年 1 月 24 日)

- 1 この申合せは、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 改正後の 10 条の規定にかかわらず、平成 17 年度以前入学者(再入学については、当初の入学年度が平成 17 年度以前入学者)の評語は、なお従前の例による。

附 則(平成 20 年 2 月 18 日)

この申合せは、平成 20 年 2 月 18 日から施行し、平成 19 年 12 月 26 日から適用する。
ただし、改正後の第 1 条、第 2 条、第 4 条及び第 6 条については、平成 20 年 4 月 1 日
から適用する。

附 則(平成 20 年 11 月 28 日)

- 1 この申合せは、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 平成 21 年 3 月 31 日に在学していた者が、本学入学前に修得した単位等の認定申請書
類提出期間は、改正後の第 4 条第 2 項の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則(平成 22 年 12 月 21 日)

この申合せは、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 27 年 2 月 17 日)

この申合せは、平成 27 年 2 月 17 日から施行し、平成 26 年 9 月 1 日から適用する。

附 則(平成 30 年 3 月 1 日)

この申合せは、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(令和 5 年 5 月 25 日)

この申合せは、令和 5 年 5 月 25 日から実施し、令和 5 年 4 月 1 日から適用する。

様式第 1 号

修得単位等に係る単位認定申請書
[別紙参照]

様式第 2 号

修得単位等に係る単位認定通知書
[別紙参照]

様式第1号

修得単位等に係る単位認定申請書

年 月 日

_____部長殿

所 属____学部____学科（課程）____（科） 年次
 学籍番号_____氏 名_____印
 指導教員_____印

- 1 学則第15条, 学則第16条
 2 学則第17条 の規定により単位の認定を受けたいので,
 3 学則第38条第2項 下記により申請します。
 (* 1. 2. 3のいずれかを○で囲むこと。)

記

単位等の修得を行った機関名	単位等の修得を行った時期	添付する書類
	1 本学在学中 2 本学入学前（ 年度）	1 成績証明書 2 修了（在学）証明書 3 その他

認定を希望する本学の授業科目				大学等において修得した単位等				
科目区分	科目番号	授業科目名	単位	授業科目名等	単位等	評価等	遠隔授業	備考

○記載上の注意：

- 1 原則として右欄に記載する授業科目に対応させて左欄の本学の授業科目名等を記入すること。
- 2 認定を希望する順に記入すること。
- 3 遠隔授業で単位等を修得した場合は、遠隔授業の欄に「○」を記入すること。

様式第 2 号

修得単位等に係る単位認定通知書

年 月 日

所 属 _____ 学部 _____ 学科（課程） _____（科） _____ 年次
 学籍番号 _____
 氏 名 _____ 殿

認定する本学の授業科目					大学等において修得した単位等				
科目 区分	科目 番号	授業科目名	単 位	遠 隔 授 業	授 業 科 目 名 等	単 位 等	評 価 等	遠 隔 授 業	備 考

※遠隔授業として認定された科目は、遠隔授業の欄に「○」を記入しています。

- 1 学則第 15 条, 学則第 16 条
- 2 学則第 17 条
- 3 学則第 38 条第 2 項

の規定に基づき、上記のとおり本学において修得又は履修したものとみなし単位を認定する。

年 月 日

_____ 部長 印

○技能審査等に係る学修の単位認定に関する基準について

改正 平成26年3月18日 平成27年2月17日

学生が本学在学中又は入学前に大学等において修得した単位等の認定に関する申し合せ第3条第12号及び13号に基づく技能審査等にかかる学修の単位に関する基準(外国語科目関係)については、下記のとおりとする。

記

英語

対象となる技能審査等	認定授業科目	最大認定 単位数	認定 (標語)
英検1級	英検準1級演習2単位、TOEFL演習又は、TOEIC演習のうち2単位の計4単位	4単位	R
TOEFL PBT 580点以上 CBT 237点以上 iBT 92点以上	TOEFL演習2単位、英検準1級演習又は、TOEIC演習のうち2単位の計4単位	4単位	R
TOEIC860点以上 (IPテストは除く)	TOEIC演習2単位、TOEFL演習又は、英検準1級演習のうち2単位の計4単位	4単位	R
国連英検特A級及びA級 商業英語Aクラス	英検準1級演習、TOEFL演習、TOEIC演習、特定英語課題演習I、特定英語課題演習IIのうち計4単位	4単位	R
英検準1級	英検準1級演習2単位	2単位	R
TOEFL PBT 530～579点 CBT 197～237点 iBT 71～91点	TOEFL演習2単位	2単位	R
TOEIC 700点～859点 (IPテストは除く)	TOEIC演習2単位	2単位	R
国連英語B級 商業英語Bク	特定英語課題演習I又はIIのうち2単位	2単位	R

ラス			
----	--	--	--

ドイツ語

対象となる技能 審査等		認定授業科目	最大認定 単位数	認定 (標語)
ドイツ語 技能検定	5級	ドイツ語入門 I	2 単位	R
	4級	インテンシブドイツ語 I、又は、ドイツ語入門 I、II	4 単位	R
	3級	インテンシブドイツ語 I、II 又はドイツ語入門 I、I I、III、IV	8 単位	R
	2級 以上	インテンシブドイツ語 I、II、III、IV 又はドイツ語入 門 I、II、III、IV、インテンシブドイツ語 III、IV	12 単位	R

対象となる技能 審査等		認定授業科目	最大認定 単位数	認定 (標語)
フランス 語技能検 定	5級	インテンシブフランス語 I、又はフランス語入門 I、II	4 単位	R
	4級	インテンシブフランス語 I、II 又は、フランス語入門 I、II、III、IV	8 単位	R
	3級 以上	インテンシブフランス語 I、II、III、IV 又は、フラン ス語入門 I、II、III、IV 及びインテンシブフランス語 III、IV	12 単位	R

仏検(財団法人フランス語教育振興会)

対象となる技能 審査等		認定授業科目	最大認定 単位数	認定 (標語)
スペイン 語技能検 定	6級	スペイン語入門 I	2 単位	R
	5級	インテンシブスペイン語 I 又は、スペイン語入門 I、II		
	4級	インテンシブスペイン語 I、II 又は、スペイン語入門 I、II、III、IV	8 単位	R
	3級 以上	インテンシブスペイン語 I、II、III、IV 又は、スペイ ン語入門 I、II、III、IV とインテンシブスペイン語 II I、IV	12 単位	R

※ 西検(財団法人スペイン語協会)

中国語

対象となる技能審査等	認定授業 科目	最大認定単 位数	認定(表 語)
------------	------------	-------------	------------

1) 中国語検定 3 級以上 (ただし、平成 16 年度以前取得者については準 2 級以上とする。)	中国語基礎 I	8 単位	R
2) 漢語水平考試験 (HSK) 5 級以上	中国語基礎 II		
3) 実用中国語技能検定 3 級以上			
4) 中国語コミュニケーション能力試験 (TECC) C レベル (550 点) 以上			

※ 1) 日本中国語検定協会 2) 中国国家教育部 3) 財団法人アジア国際交流奨学財団
4) 中国語コミュニケーション協会 (TECC)

附 則

この基準は、平成 21 年 5 月 19 日から施行し、平成 21 年 4 月 1 日から適用する。

附 則(平成 26 年 3 月 18 日)

この基準は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則(平成 27 年 2 月 17 日)

この基準は、平成 27 年 2 月 17 日から施行し、平成 26 年 9 月 1 日から適用する。

放送大学と琉球大学との単位互換の実施に関する取扱要項

(令和5年5月25日制定)

(趣旨)

第1条 この要項は、学則第15条に基づき、「放送大学と琉球大学との間における単位互換に関する協定書」及び「放送大学と琉球大学との間における単位互換に関する協定についての覚書」に定めるもののほか、放送大学と琉球大学（以下「本学」という。）との単位互換の実施について、必要な事項を定める。

(単位互換科目)

第2条 放送大学で開講される授業科目のうち、単位互換により本学の学生が履修する授業科目（以下「互換科目」という。）は、別表「放送大学との単位互換科目」のとおりとする。

(受入れ学生数)

第3条 単位互換の協定に基づき、放送大学が受入れる本学学生の数は、150人とする。

(学生の身分)

第4条 単位互換の協定により放送大学の授業科目を履修する学生の放送大学における身分は、「特別聴講学生」とする。

(出願手続き)

第5条 放送大学への出願手続きは、次に掲げるとおりとする。

- (1) 放送大学への出願手続きは、放送大学が定める手続き・様式により行い、各学部学務担当係で出願書類を取りまとめて学生部へ提出する。学生部は、提出された出願書類を放送大学へ送付する。
- (2) 放送大学から受入れ予定学生として決定された者の授業料(聴講料)は、学生が個々に所定の銀行口座に振り込むものとする。

(履修方法)

第6条 互換科目の履修期間、成績の評価及び単位の授与については、放送大学の定めるところによる。

(単位の認定)

第7条 単位の認定については、次に掲げるとおりとする。

- (1) 各学部・学科・課程等が別表に定める互換科目の単位を当該学部・学科・課程等の学生が修得した場合は、本学で修得した単位とみなし、卒業の要件となる単位として取扱うことができる。ただし、卒業の要件となる単位数は、学則第15条に定める60単位に含むものとする。
- (2) 学則第19条第2項の授業方法により修得した互換科目の単位については、学則第43条第2項のとおり取り扱うものとする。

(成績評価)

第8条 放送大学が行う成績の評価は、下記のとおり取扱う。

放送大学評語	琉球大学評語
Ⓐ	A
A	B
B	C
C	D
D E	F

(留意事項)

第9条 放送大学と単位互換を実施する際には、次に掲げる事項に留意する。

- (1) 互換科目の登録単位数は、「琉球大学各学部共通細則」第7条に定める1個学期の上限単位数20単位には含まないものとし、同細則第8条に定める1学年最低履修単位数16単位には含むものとする。
- (2) 放送大学において履修する授業科目の通信指導の再提出及び再試験の実施は翌学期に行われることから、当該再試験により修得された単位は、再試験が行われた学期に修得されたものとして取り扱う。
- (3) 最終学年の最終学期に在学する学生は履修できない。

(改廃)

第10条 この要項の改廃は、グローバル教育支援機構会議の議を経て、グローバル教育支援機構長が行う。

附 則 (令和5年5月25日)

- 1 この取り扱いは、令和5年5月25日から実施し、令和5年4月1日から適用する。
- 2 放送大学と琉球大学との単位互換の実施に関する取扱いについて(平成7年10月1日教育委員会)は、廃止する。

令和6年度放送大学との単位互換科目一覧

学 部 名	人 文 社 会 学 部
-------	-------------

1. 共 通 教 育 科 目

学 科 ・ コー ス 等	本 学 の 授 業 科 目 区 分	放 送 大 学 の 科 目 名	科 目 コ ー ド	単 位
国 際 法 政 学 科 法 学 プ ロ グ ラ ム	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	放送大学で開講するすべての基盤科目 と導入科目		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		
備 考	区分は放送大学の区分に従う。			

学 科 ・ コー ス 等	本 学 の 授 業 科 目 区 分	放 送 大 学 の 科 目 名	科 目 コ ー ド	単 位
国 際 法 政 学 科 政 治 ・ 国 際 関 係 学 プ ロ グ ラ ム	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科 目 ド	単 位
人間社会学科	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		
琉球アジア文化学科	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		

2. 専門科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科 目 ド	単 位
国際法政学科	専門科目	単位互換科目なし		
人間社会学科	専門科目	単位互換科目なし		
琉球アジア文化学科	専門科目	単位互換科目なし		

令和6年度放送大学との単位互換科目一覧

学部名	国際地域創造学部
-----	----------

1. 共通教育科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
国際地域創造学科	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	放送大学で開講するすべての基盤科目と導入科目		放送大学の単位に従う
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		

2. 専門科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
国際地域創造学科	専門科目	単位互換科目なし		

令和6年度放送大学との単位互換科目一覧

学部名	法文学部
-----	------

1. 共通教育科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
総合社会システム学科 経済学専攻 政治・国際関係専攻	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
人間科学科	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		
国際言語文化学科	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		

2. 専 門 科 目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科 目 コ ー ド	単 位
総合社会システム学科 経済学専攻 (昼間主コース) (夜間主コース)	専門科目	現代経済学('19)	1548476	2
備 考	経済学、現代経済分析、市民社会、産業社会、公共社会、産業システムの各コースにおいて、コース関連科目とする。			
学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科 目 コ ー ド	単 位
総合社会システム学科 政治・国際関係専攻	専門科目	単位互換科目なし		
人 間 科 学 科	専門科目	単位互換科目なし		
国際言語文化学科	専門科目	単位互換科目なし		

令和6年度放送大学との単位互換科目一覧

学部名	観光産業科学部
-----	---------

1. 共通教育科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
観光科学科	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	放送大学で開講するすべての基盤科目と導入科目		放送大学の単位に従う
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		
産業経営学科 (昼間主コース) (夜間主コース)	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	放送大学で開講するすべての導入科目		放送大学の単位に従う
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		
備考	区分は放送大学の区分に従う。			

2. 専門科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
産業経営学科 (昼間主コース) (夜間主コース)	専門科目	国際経営('19)	1548530	2

令和6年度放送大学との単位互換科目一覧

学部名	教育学部
-----	------

1. 共通教育科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
全コース	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		

2. 専門科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
全コース		単位互換科目なし		

令和6年度放送大学との単位互換科目一覧

学部名	理学部
-----	-----

1. 共通教育科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
全学科	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		

2. 専門科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
全学科		単位互換科目なし		

令和6年度放送大学との単位互換科目一覧

学部名	医学部
-----	-----

1. 共通教育科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
医学科	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	統計学(19) ※ラジオ 上記科目の中から2単位以内	1562959	2
保健学科	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		

2. 専門科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
全学科		単位互換科目なし		

令和6年度放送大学との単位互換科目一覧

学部名	工学部
-----	-----

1. 共通教育科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
機械システム工学科 (昼間主コース) (夜間主コース)	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目)	放送大学で開講する導入科目のうち、 人文系と社会系の一般科目すべて 昼間主コース 2単位以内(人文系・社会系より) 夜間主コース 2単位以内(人文系・社会系より)		
	(自然系科目) (健康運動系科目)			
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		
環境建設工学科	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
電気電子工学科 (昼間主コース) (夜間主コース)	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目)	放送大学で開講する導入科目のうち、 人文系と社会系の一般科目すべて 昼間主コース 4単位以内 (人文系(心理と教育・人間と文化)・社会系(生活と福祉・社会と産業)より) 夜間主コース 4単位以内 (人文系(心理と教育・人間と文化)・社会系(生活と福祉・社会と産業)より)		
	(自然系科目) (健康運動系科目)			
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		
情報工学科	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		

令和6年度放送大学との単位互換科目一覧

学部名	工学部
-----	-----

2. 専門科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
機械システム工学科 (昼間主コース) (夜間主コース)	専門科目	エネルギーと社会 ('19) 昼間主コース 選択科目として2単位以内 夜間主コース 選択科目として2単位以内	1930036	2
環境建設工学科	専門科目	単位互換科目なし		
電気電子工学科 (昼間主コース) (夜間主コース)	専門科目	国際経営 ('19) 情報セキュリティ概論 ('22) 環境を可視化する技術と応用 ('23) 著作権法 ('22) 昼間主コース 自由科目として4単位以内 夜間主コース 自由科目として6単位以内	1548530 1579347 1539566 1539450	2 2 2 2
情報工学科	専門科目	情報社会のユニバーサルデザイン ('19) ユーザ調査法 ('20) 自由科目として4単位以内	1570340 1570390	2 2

令和6年度放送大学との単位互換科目一覧

学部名	工学部
-----	-----

1. 共通教育科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
工学科 機械工学コース	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目)	放送大学で開講する導入科目のうち、 人文系と社会系の一般科目すべて 2単位以内（人文系・社会系より）		
	(自然系科目) (健康運動系科目)			
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		
工学科 エネルギー環境工学 コース	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目)	放送大学で開講する導入科目のうち、 人文系と社会系の一般科目すべて 2単位以内（人文系・社会系より）		
	(自然系科目) (健康運動系科目)			
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
工学科 電気システム工学コース	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目)	放送大学で開講する導入科目のうち、 人文系と社会系の一般科目すべて 2単位以内（人文系(心理と教育・人間と文化)・社会系(生活と福祉・社会と産業)より)		
	(自然系科目) (健康運動系科目)			
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし			
工学科 電子情報通信コース	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目)	放送大学で開講する導入科目のうち、 人文系と社会系の一般科目すべて 2単位以内（人文系(心理と教育・人間と文化)・社会系(生活と福祉・社会と産業)より)		
	(自然系科目) (健康運動系科目)			
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし			

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
工学科 社会基盤デザインコース	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		
工学科 建築学コース	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		
工学科 知能情報コース	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		

令和6年度放送大学との単位互換科目一覧

学部名	工学部
-----	-----

2. 専門科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
工学科 機械工学コース	専門科目	エネルギーと社会（'19） 選択科目として2単位以内	1930036	2
工学科 エネルギー環境工学 コース	専門科目	エネルギーと社会（'19） 選択科目として2単位以内	1930036	2
工学科 電気システム工学 コース	専門科目	国際経営（'19） 情報セキュリティ概論（'22） 環境を可視化する技術と応用（'23） 選択科目として2単位以内	1548530 1579347 1539566	2 2 2
工学科 電子情報通信コース	専門科目	国際経営（'19） 情報セキュリティ概論（'22） 環境を可視化する技術と応用（'23） 選択科目として2単位以内	1548530 1579347 1539566	2 2 2
工学科 社会基盤デザイン コース	専門科目	単位互換科目なし		
工学科 建築学コース	専門科目	単位互換科目なし		
工学科 知能情報コース	専門科目	情報社会のユニバーサルデザイン（'19） ユーザ調査法（'20） 自由科目として4単位以内	1570340 1570390	2 2

令和6年度放送大学との単位互換科目一覧

学部名	農 学 部
-----	-------

1. 共通教育科目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
亜熱帯地域農学科	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		
亜熱帯農林環境科学科	共通教育 - 教養領域 (人文系科目) (社会系科目) (自然系科目) (健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目) (琉大特色・地域創生科目) (キャリア関係科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目) (外国語科目)	単位互換科目なし		
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
地域農業工学科	共通教育 - 教養領域 (人文系科目)	単位互換科目なし		
	(社会系科目)	問題解決の進め方('19)	1140051	2
	(自然系科目)	初歩からの数学('18)	1160028	2
		初歩からの化学('18)	1760106	2
		初歩からの物理('22)	1760157	2
		上記科目から4単位以内		
	(健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目)	単位互換科目なし		
	(琉大特色・地域創生科目)			
	(キャリア関係科目)			
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目)	単位互換科目なし		
	(外国語科目)			
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		
亜熱帯生物資源科学科	共通教育 - 教養領域 (人文系科目)	単位互換科目なし		
	(社会系科目)	単位互換科目なし		
	(自然系科目)	初歩からの数学('18)	1160028	2
		初歩からの化学('18)	1760106	2
		上記科目から4単位以内		
	(健康運動系科目)	単位互換科目なし		
	共通教育 - 総合領域 (総合科目)	単位互換科目なし		
	(琉大特色・地域創生科目)			
	(キャリア関係科目)			
	共通教育 - 基幹領域 (情報関係科目)	単位互換科目なし		
	(外国語科目)			
	専門教育 (専門基礎科目)	単位互換科目なし		
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・「初歩からの数学」、「初歩からの化学」、「初歩からの物理」の3科目については、主として推薦入学による入学学生を対象とする。 ・一般入試による入学学生の受講に際しては、指導教員の許可を得ること。 ・「初歩からの数学」、「初歩からの化学」、「初歩からの物理」の3科目については、4単位(2科目)まで自由単位と認める。 ※この単位互換一覧は平成21年度以降の入学学生に適用			

2. 専 門 科 目

学科・コース等	本学の授業科目区分	放送大学の科目名	科目コード	単位
亜熱帯地域農学科	専門科目	共生のための技術者倫理('24)【教育協力型】	5730015	2
		現代国際社会と有機農業('23) 自由科目として4単位以内	1539493	2
亜熱帯農林環境科学科	専門科目	共生のための技術者倫理('24)【教育協力型】 自由科目として2単位以内	5730015	2
地域農業工学科	専門科目	共生のための技術者倫理('24)【教育協力型】 必修科目として2単位	5730015	2
亜熱帯生物資源科学科	専門科目	食と健康('18)	1519158	2
		生命分子と細胞の科学('19)	1562894	2
		共生のための技術者倫理('24)【教育協力型】 自由科目として4単位以内	5730015	2

○教育実習生の実習期間中の講義の取り扱いについて

(昭和47年6月27日評議会制定)

改正 平成13年9月27日

教育実習(小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律に基づく「介護等の体験」を含む。)を受けるため講義等に出席できない学生については、次により処理する。

1 欠席扱いにはしない。

2

イ レポートの提出あるいは、補講等の措置を講じ、出席扱いにする。

ロ 上記イについては各教員に一任する。

附 則(平成13年9月27日)

この取扱いは、平成13年10月1日から施行する。

教育職員免許法（抜粋）

第1章 総則

第1条～第2条（略）

（免許）

第3条 教育職員は、この法律により授与する各相当の免許状を有する者でなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、主幹教諭（養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。）及び指導教諭については各相当学校の教諭の免許状を有する者を、養護をつかさどる主幹教諭については養護教諭の免許状を有する者を、栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭については栄養教諭の免許状を有する者を、講師については各相当学校の教員の相当免許状を有する者を、それぞれ充てるものとする。

3 特別支援学校の教員（養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭、養護教諭、養護助教諭、栄養教諭並びに特別支援学校において自立教科等の教授を担当する教員を除く。）については、第一項の規程にかかわらず、特別支援学校の教員の免許状のほか、特別支援学校の各部に相当する学校の教員の免許状を有する者でなければならない。

4 義務教育学校の教員（養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭、養護教諭、養護助教諭並びに栄養教諭を除く。）については、第1項の規定にかかわらず、小学校の教員の免許状及び中学校の教員の免許状を有する者でなければならない。

5 中等教育学校の教員（養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭、養護教諭、養護助教諭並びに栄養教諭を除く。）については、第1項の規定にかかわらず、中学校の教員の免許状及び高等学校の教員の免許状を有する者でなければならない。

6 （略）

第3条の2（略）

第2章 免許状

（種類）

第4条 免許状は、普通免許状、特別免許状及び臨時免許状とする。

2～4 （略）

5 中学校及び高等学校の教員の普通免許状及び臨時免許状は、次に掲げる各教科について授与するものとする。

一 中学校の教員にあつては、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業（職業指導及び職業実習（農業、工業、商業、水産及び商船のうちいずれか一以上の実習とする。以下同じ。）を含む。）、職業指導、職業実習、外国語（英語、ドイツ語、フランス語その他の各外国語に分ける。）及び宗教

二 高等学校の教員にあつては、国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、看護実習、家庭、家庭実習、情報、情報実習、農業、農業実習、工業、工業実習、商業、商業実習、水産、水産実習、福祉、福祉実習、商船、商船実習、職業指導、外国語（英語、ドイツ語、フランス語その他の各外国語に分ける。）及び宗教

6 （略）

第4条の2 特別支援学校の教員の普通免許状及び臨時免許状は、一又は二以上の特別支援教育領域について授与するものとする。

2 特別支援学校において専ら自立教科等の教授を担当する教員の普通免許状及び臨時免許状は、前条第2項の規定にかかわらず、文部科学省令で定めるところにより、障害の種類に応じて文部科学省令で定める自立教科等について授与するものとする。

3 特別支援学校教諭の特別免許状は、前項の文部科学省令で定める自立教科等について授与するものとする。

（授与）

第5条 普通免許状は、別表第一、別表第二若しくは別表第二の二に定める基礎資格を有し、かつ、大学若しくは文部科学大臣の指定する養護教諭養成機関において別表第一、別表第二若しくは別表第二の二に定める単位を修得した者又はその免許状を授与するため行う教育職員検定に合格した者に授与する。ただし、次の各号のいずれかに該当する者には、授与しない。

一 18歳未満の者

二 高等学校を卒業しない者（通常の課程以外の課程におけるこれに相当するものを修了しない者を含む。）ただし、文部科学大臣において高等学校を卒業した者と同等以上の資格を有すると認められた者を除く。

三 成年被後見人又は被保佐人

四 禁錮以上の刑に処せられた者

五 第10条第1項第2号又は第3号に該当することにより免許状がその効力を失い、当該失効の日から3年を経過しない者

六 第11条第1項から第3項までの規定により免許状取上げの処分を受け、当該処分の日から3年を経過しない者

七 日本国憲法施行の日〔昭和22年5月3日〕以後において、日本国憲法又はその下に成立した政府を暴力で破壊することを主張する政党その他の団体を結成し、又はこれに加入した者

略

(免許状の授与の手続等)

第5条の2 免許状の授与を受けようとする者は、申請書に授与権者が定める書類を添えて、授与権者に申し出るものとする。

2 特別支援学校の教員の免許状の授与に当たっては、当該免許状の授与を受けようとする者の別表第一の第三欄に定める特別支援教育に関する科目（次項において「特別支援教育科目」という。）の修得の状況又は教育職員検定の結果に応じて、文部科学省令で定めるところにより、一又は二以上の特別支援教育領域を定めるものとする。

3 特別支援学校の教員の免許状の授与を受けた者が、その授与を受けた後、当該免許状に定められている特別支援教育領域以外の特別支援教育領域（以下「新教育領域」という。）に関して特別支援教育科目を修得し、申請書に当該免許状を授与した授与権者が定める書類を添えて当該授与権者にその旨を申し出た場合、又は当該授与権者が行う教育職員検定に合格した場合には、当該授与権者は、前項に規定する文部科学省令で定めるところにより、当該免許状に当該新教育領域を追加して定めるものとする。

第6条～第23条 (略)

別表第一（第5条，第5条の2関係）

第一欄		第二欄	第三欄	
所要資格 免許状の種類		基礎資格	大学において修得することを必要とする最低単位数	
			教科及び教職に関する科目	特別支援教育に関する科目
幼稚園教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。	75	
	一種免許状	学士の学位を有すること。	51	
	二種免許状	短期大学士の学位を有すること。	31	
小学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。	83	
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59	
	二種免許状	短期大学士の学位を有すること。	37	
中学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。	83	
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59	
	二種免許状	短期大学士の学位を有すること。	35	
高等学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること。	83	
	一種免許状	学士の学位を有すること。	59	
特別支援学校教諭	専修免許状	修士の学位を有すること及び小学校，中学校，高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有すること。		50
	一種免許状	学士の学位を有すること及び小学校，中学校，高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有すること。		26
	二種免許状	小学校，中学校，高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有すること。		16

備考

- 1 この表における単位の修得方法については，文部科学省令で定める（別表第二から別表第八までの場合においても同様とする。）。
- 1の2 （略）
- 2 第二欄の「修士の学位を有すること」には，学校教育法第104条第3項に規定する文部科学大臣の定める学位を有する場合又は大学（短期大学を除く。第6号及び第7号において同じ）の専攻科若しくは文部科学大臣するこれに相当する課程に一年以上在学し，30単位以上修得した場合を含むものとする。（別表第二及び別表第二の二の場合においても同様とする。）
- 2の2 第二欄の「学士の学位を有すること」には，学校教育法第104条第2項に規定する文部科学大臣の定める学位（専門職大学を卒業した者に対して授与されるものに限る。）を有する場合又は文部科学大臣が学士の学位を有することと同等以上の資格を有すると認めた場合を含むものとする。（別表第二の場合においても同様とする。）
- 2の3 第二欄の「短期大学士の学位を有すること」には，学校教育法第104条第2項に規定する文部科学大臣の定める学位（専門職大学を卒業した者に対して授与されるものを除く。）若しくは同条第6項に規定する文部科学大臣の定める学位を有する場合，文部科学大臣の指定する教員養成機関を卒業した場合又は文部科学大臣が短期大学士の学位を有することと同等以上の資格を有すると認めた場合を含むものとする。（別表第二の二の場合においても同様とする。）
- 3 高等学校教諭以外の教諭の二種免許状の授与の所要資格に関しては，第三欄の「大学」には，文部科学大臣の指定する教員養成機関を含むものとする。
- 4 この表の規定により幼稚園，小学校，中学校若しくは高等学校の教諭の専修免許状若しくは一種免許状又は幼稚園，小学校若しくは中学校の教諭の二種免許状の授与を受けようとする者については，特に必要なものとして文部科学省令で定める科目の単位を大学又は文部科学大臣の指定する教員養成機関において修得していることを要するものとする（別表第二及び別表第二の二の場合においても同様とする。）。
- 5 第三欄に定める科目の単位は，次のいずれかに該当するものでなければならない（別表第二及び別表第二の二の場合においても同様とする。）。

- イ 文部科学大臣が第16条の3第4項の政令で定める審議会等に諮問して免許状の授与の所要資格を得させるために適当と認める課程（以下「認定課程」という。）において修得したもの
- ロ 免許状の授与を受けようとする者が認定課程以外の大学の課程又は文部科学大臣が大学の課程に相当するものとして指定する課程において修得したもので、文部科学省令で定めるところにより当該者の在学する認定課程を有する大学が免許状の授与の所要資格を得させるための教科及び教職に関する科目として適当であると認めるもの
- 6 前号の認定課程には、第三欄に定める科目の単位のうち、教科及び教職に関する科目（教員の職務の遂行に必要な基礎的な知識技能を修得させるためのものとして文部科学省令で定めるものに限る。）又は特別支援教育に関する科目の単位を修得させるために大学が設置する修業年限を1年とする課程を含むものとする。
- 7 専修免許状に係る第三欄に定める科目の単位数のうち、その単位数からそれぞれの一種免許状に係る同欄に定める科目の各単位数をそれぞれ差し引いた単位数については、大学院の課程又は大学の専攻科の課程において修得するものとする（別表第二の二の場合においても同様とする。）。
- 8 一種免許状（高等学校教諭の一種免許状を除く。）に係る第三欄に定める科目の単位数は、短期大学の課程及び短期大学の専攻科で文部科学大臣が指定するものの課程において修得することができる。この場合において、その単位数からそれぞれの二種免許状に係る同欄に定める科目の各単位数を差し引いた単位数については、短期大学の専攻科の課程において修得するものとする。

別表第二（第5条関係）

第一欄		第二欄	第三欄
免許状の種類	所要資格	基礎資格	大学又は文部科学大臣の指定する養護教諭養成機関において修得することを必要とする養護及び教職に関する科目の最低単位数
	専修免許状	修士の学位を有すること。	80
養護教諭	一種免許状	イ 学士の学位を有すること。	56
		ロ 保健師助産師看護師法第7条第1項の規定により保健師の免許を受け、文部科学大臣の指定する養護教諭養成機関に半年以上在学すること。	12
		ハ 保健師助産師看護師法第7条第3項の規定により看護師の免許を受け、文部科学大臣の指定する養護教諭養成機関に1年以上在学すること。	22
	二種免許状	イ 短期大学士の学位を有すること又は文部科学大臣の指定する養護教諭養成機関を卒業すること。	42
		ロ 保健師助産師看護師法第7条の規定により保健師の免許を受けていること。	
	ハ 保健師助産師看護師法第51条第1項の規定に該当すること又は同条第3項の規定により免許を受けていること。		

備考

- 1 第二欄の「短期大学士の学位を有すること又は文部科学大臣の指定する養護教諭養成機関を卒業すること」には、学校教育法第104条第2項に規定する文部科学大臣の定める学位（専門職大学を卒業した者に対して授与されるものを除く。）若しくは同条第6項に規定する文部科学大臣の定める学位を有する場合又は文部科学大臣が短期大学士の学位を有すること若しくは文部科学大臣の指定する養護教諭養成機関を卒業することと同等以上の資格を有すると認めた場合を含むものとする。
- 2 専修免許状に係る第三欄に定める養護又は教職に関する科目の単位数のうち、その単位数から一種免許状のイの項に定める当該科目の単位数を差し引いた単位数については、大学院の課程又は大学（短期大学

を除く。)の専攻科の課程において修得するものとする。

- 3 この表の一種免許状のロの項又はハの項の規定により一種免許状の授与を受けた者が、この表の規定により専修免許状の授与を受けようとするときは、専修免許状に係る第三欄に定める単位数のうち一種免許状のイの項に定める単位数については既に修得したものとみなす。
- 4 一種免許状に係る第三欄に定める単位数(イの項に定めるものに限る。)は、短期大学の課程及び短期大学の専攻科で文部科学大臣が指定するものの課程において修得することができる。この場合において、その単位数から二種免許状のイの項に定める各単位数を差し引いた単位数については、短期大学の専攻科の課程において修得するものとする。

別表第二の二（第5条関係）

第一欄		第二欄	第三欄
所要資格		基礎資格	大学において修得することを必要とする栄養に係る教育及び教職に関する科目の最低単位数
免許状の種類			
栄養教諭	専修免許状	修士の学位を有すること及び栄養士法第2条第3項の規定により管理栄養士の免許を受けていること。	46
	一種免許状	学士の学位を有すること、かつ、栄養士法第2条第3項の規定により管理栄養士の免許を受けていること又は同法第5条の3第4号の規定により指定された管理栄養士養成施設の課程を修了し、同法第2条第1項の規定により栄養士の免許を受けていること。	22
	二種免許状	短期大学士の学位を有すること及び栄養士法第2条第1項の規定により栄養士の免許を受けていること。	14
備考			
<p>1 第二欄の「学士の学位を有すること」には、学校教育法第104条第2項に規定する文部科学大臣の定める学位（専門職大学を卒業した者に対して授与されるものに限る。）を有する場合又は文部科学大臣が学士の学位を有することと同等以上の資格を有すると認めた場合を含むものとする。</p> <p>2 第三欄の「大学」には、文部科学大臣の指定する教員養成機関を含むものとする。</p>			

教育職員免許法施行規則（抜粋）

第1章 単位の修得方法等

〔単位の修得方法等〕

第1条 教育職員免許法（昭和24年法律第147号。以下「免許法」という。）別表第一から別表第八までにおける単位の修得方法等に関しては、この章の定めるところによる。

〔単位の計算方法〕

第1条の2 免許法別表第一から別表第八までにおける単位の計算方法は、大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第21条第2項及び第3項（大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）第15条において準用する場合を含む。）、専門職大学設置基準（平成29年文部科学省令第33号）第14条第2項及び第3項、大学通信教育設置基準（昭和50年文部省令第33号）第5条、短期大学設置基準（昭和50年文部省令第21号）第7条第2項及び第3項、専門職短期大学設置基準（平成29年文部科学省令第34号）第11条第2項及び第3項並びに短期大学通信教育設置基準（昭和57年文部省令第3号）第5条に定める基準によるものとする。

〔基礎資格を取得する場合の単位の修得方法〕

第1条の3 免許法別表第一備考第2号の規定により専修免許状に係る基礎資格を取得する場合の単位の修得方法は、大学院における単位の修得方法の例によるものとする。

〔幼稚園教諭の科目の単位の修得方法〕

第2条 免許法別表第一に規定する幼稚園教諭の普通免許状の授与を受ける場合の教科及び教職に関する科目の単位の修得方法は、次の表の定めるところによる。

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状
最低修得単位数	第二欄 領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	16	16	12
		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			
	第三欄 教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	10	6
		教育の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			
		幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			
		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）				
	第四欄 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	4	4	4
		幼児理解の理論及び方法			
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法					

最低修得単位数	第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	5	5	5
			教職実践演習	2	2	2
	第六欄	大学が独自に設定する科目		38	14	2

備考

- 1 領域及び保育内容の指導法に関する科目（領域に関する専門的事項に係る部分に限る。以下「領域に関する専門的事項に関する科目」という。）の単位の修得方法は、学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第38条に規定する幼稚園教育要領で定める健康、人間関係、環境、言葉及び表現の領域に関する専門的事項を含む科目のうち1以上の科目について修得するものとする。
- 2 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）並びに教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）は、学校教育法施行規則第38条に規定する幼稚園教育要領に掲げる事項に即し、育成を目指す資質及び能力を育むための主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する内容並びに包括的な内容を含むものとする。
- 3 教育の基礎的理解に関する科目（特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解に係る部分に限る。第9条の表備考第7号及び第8号において、「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解に関する科目」という。）は1単位以上を修得するものとする（次条第1項、第4条第1項、第5条第1項、第9条及び第10条の表の場合においても同様とする。）
- 4 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目に教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）の内容を含む場合にあつては、教育の基礎的理解に関する科目に教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）の内容を含むことを要しない（次条第1項、第4条第1項及び第5条第1項の表の場合においても同様とする。）
- 5 カリキュラム・マネジメントは、次に掲げる事項を通じて、教育課程に基づき組織的かつ計画的に学校教育の質の向上を図っていくことを取り扱うものとする（次条第1項、第4条第1項、第5条第1項、第9条及び第10条の表の場合においても同様とする。）
 - イ 幼児、児童又は生徒、学校及び地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと。
 - ロ 教育課程の実施状況を評価し、その改善を図っていくこと。
 - ハ 教育課程の実施に必要な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと。
- 6 教育実習は、幼稚園（特別支援学校の幼稚部を含む。次条第1項の表備考第5号において同じ。）、小学校（義務教育学校の前期課程、特別支援学校の小学部及び海外に在留する邦人の子女のための在外教育施設で、文部科学大臣が小学校の課程と同等の課程を有するものとして認定したものを含む。次条第1項の表備考第5号及び第4条第1項の表備考第7号において同じ。）及び修学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成18年法律第77号）第2条第7項に規定する幼保連携型認定こども園（以下「幼保連携認定子ども園」という。）の教育を中心とするものとする。
- 7 教育実習の単位数には、教育実習に係る事前及び事後の指導（授与を受けようとする普通免許状に係る学校以外の学校、専修学校、社会教育に関する施設、社会福祉施設、児童自立支援施設及びボランティア団体における教育実習に準ずる経験を含むことができる。）の1単位を含むものとする。（次条第1項、第4条第1項、第5条第1項、第7条第1項、第9条及び第10条の表の場合においても同様とする。）
- 8 教育実習の単位数には、2単位まで、学校体験活動（学校における授業、部活動等の教育活動その他の校務に関する補助又は幼児、児童若しくは生徒に対して学校の授業の終了後若しくは休業日において学校その他適切な施設を利用して行う学習その他の活動に関する補助を体験する活動であつて教育実習以外のものをいう。）の単位を含むことができる（次条第1項、第4条第1項、第5条第1項、第7条第1項及び第9条の表の場合においても同様とする。この場合において、高等学校教諭又は特別支援学校教諭の普通免許状の授与を受ける場合にあつては、「2単位」とあるのは「1単位」と読み替えるものとする。）。この場合において、教育実習に他の学校の教諭の普通免許状の授与を受ける場合のそれぞれの科目の単位をもつてあてることができない（次条第1項、第4条第1項及び第5条第1項の表の場合においても同様とする。）

- 9 教育実習の単位は、幼稚園（特別支援学校の幼稚部及び附則第22項第4号に規定する幼稚園に相当する旧令による学校を含む。次号において同じ。）、小学校（義務教育学校の前期課程、特別支援学校の小学部、海外に在留する邦人の子女のための在外教育施設で、文部科学大臣が小学校の課程と同等の課程を有するものとして認定したもの及び同項1号に規定する小学校に相当する旧令による学校を含む。）又は幼保連携認定こども園において、教員（海外に在留する邦人の子女のための在外教育施設で、文部科学大臣が小学校の課程と同等の課程を有するものとして認定したものにおいて教育に従事する者を含む。）として1年以上良好な成績で勤務した旨の実務証明責任者の証明を有する者については、経験年数1年について1単位の割合で領域及び保育内容の指導法に関する科目（保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）に係る部分に限る。以下「保育内容の指導法に関する科目」という。）又は教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目若しくは教育実践に関する科目（以下「教諭の教育の基礎的理解に関する科目等」という。）（教育実習を除く。）の単位をもってこれに替えることができる（次条第1項の表の場合においても同様とする。）
- 9の2 前号に規定する実務証明責任者は、幼稚園、小学校（義務教育学校の前期課程、特別支援学校の小学部及び附則第22項第1号に規定する小学校に相当する旧令による学校を含む。）又は幼保連携型認定こども園の教員にあつてはその者の勤務する学校の教員について免許法別表第3の第三欄に規定する実務証明責任者と同様とし、海外に在留する邦人の子女のための在外教育施設で、文部科学大臣が小学校の課程と同等の課程を有するものとして認定したものにおいて教育に従事する者にあつてはその者についての第67条の表第三欄に規定する実務証明責任者と同様とする（次条第1項の表の場合においても同様とする。）
- 10 教育実践演習は、当該演習を履修する者の教科及び教職に関する科目（教育実践演習を除く。）の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものとする（次条第1項、第4条第1項、第5条第1項、第9条及び第10条の表の場合においても同様とする。）
- 11 教諭の教育の基礎的理解に関する科目等の単位は、教育の基礎的理解に関する科目にあつては8単位（二種免許状の授与を受ける場合にあつては6単位）まで、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目にあつては2単位まで、教育実習にあつては3単位まで、教育実践演習にあつては2単位まで、小学校、中学校又は高等学校の教諭の普通免許状の授与を受ける場合のそれぞれの科目の単位をもってあてることができる（次条第1項及び第4条第1項の場合においても同様とする。）
- 12 教育の基礎的理解に関する科目（教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）に係る部分に限る。次条第1項、第4条第1項、第5条第1項、第9条及び第10条の表（表の部分に限る。）を除き、以下「教育課程の意義及び編成の方法に関する科目」という。）並びに道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）に係る部分に限る。）附則第10項の表備考第2号イにおいて「教育の方法及び技術に関する科目」という。）の単位のうち、2単位（二種免許状の授与を受ける場合にあつては1単位）までは、小学校の教諭の普通免許状の授与を受ける場合の単位をもってあてることができる（次条第1項の表の場合においても同様とする。）
- 13 保育内容の指導法に関する科目の単位のうち、半数までは、小学校教諭の普通免許状の授与を受ける場合の教科及び教科の指導法に関する科目（各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）に係る部分に限る。次条第1項、第4条第1項及び第5条第1項の表（表の部分に限る。）を除き、以下「各教科の指導法に関する科目」という。）又は、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（特別活動の指導法に係る部分に限る。次条第1項、第4条第1項、第5条第1項の表（表の部分に限る。）を除き、以下「特別活動の指導法に関する科目」という。）の単位をもってあてることができる。
- 14 大学が独自に設定する科目の単位の修得方法は、次に掲げる免許状の授与を受ける場合に応じ、それぞれ定める科目について修得するものとする（次条第1項、第4条第1項及び第5条第1項の表の場合においても同様とする。高等学校教諭の普通免許状お授与を受ける場合にあつては、「一種免許状又は二種免許状」とあるのは、「一種免許状」と読み替えるものとする。）
- イ 専修免許状 領域に関する専門的事項に関する科目、保育内容の指導法に関する科目又は教諭の教育の基礎的理解に関する科目等
- ロ 一種免許状又は二種免許状 領域に関する専門的事項に関する科目、保育内容の指導法に関する科目若しくは教諭の教育の基礎的理解に関する科目等又は大学が加えるこれらに準ずる科目

- 2 学生が前項の科目の単位を修得するに当たっては、大学は、各科目についての学生の知識及び技能の修得状況に応じ適切な履修指導を行うよう努めるものとする。
- 3 保育内容の指導法に関する科目及び教諭の教育の基礎的理解に関する科目等の単位を修得させるために大学が設置する修業年限を1年とする課程における単位の修得方法は、第1項に定める修得方法の例によるものとする。
- 4 大学は第1項に規定する各科目の開設に当たっては、各科目の内容の整合性及び連続性を確保するとともに、効果的な教育方法を確保するよう努めるものとする。

〔小学校教諭の科目の単位の修得方法〕

第3条 免許法別表第一に規定する小学校教諭の普通免許状の授与を受ける場合の教科及び教職に関する科目の単位の修得方法は、次の表の定めるところによる。

第一欄		教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状
最	第二欄	教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	30	30	16
			各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			
低	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	10	6
			教育の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			
			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			
単	第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	10	6
			総合的な学習の時間の指導法			
			特別活動の指導法			
			教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）			
			生徒指導の理論及び方法			
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			
			進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			

最低修得単位数	第五欄	教育実践に関する科目	教育実習	5	5	5
			教職実践演習	2	2	2
	第六欄	大学が独自に設定する科目		26	2	2

備考

- 1 教科及び教科の指導法に関する科目（教科に関する専門的事項に係る部分に限る。次条第1項及び第5条第1項の表（表の部分に限る。）を除き、以下「教科に関する専門的事項に関する科目」という。）の単位の修得方法は、国語（書写を含む。）、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育及び外国語（英語、ドイツ語、フランス語、その他の各外国語に分ける。）（第3号及び第11条の2の表備考第2号において「国語等」という。）の教科に関する専門的事項を含む科目のうち1以上の科目について修得するものとする。
- 2 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）、道徳の理論及び指導法、総合的な学習の時間の指導法並びに特別活動の指導法は、学校教育法施行規則第52条に規定する小学校学習指導要領に掲げる事項に即し、育成を目指す資質及び能力を育むための主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する内容並びに包括的な内容を含むものとする。
- 3 各教科の指導法に関する科目の単位の修得方法は、専修免許状又は一種免許状の授与を受ける場合にあつては、国語等の教科の指導法に関する科目についてそれぞれ1単位以上を、二種免許状の授与を受ける場合にあつては、6以上の教科の指導法に関する科目（音楽、図画工作又は体育の教科の指導法に関する科目のうち2以上を含む。）についてそれぞれ1単位以上を修得するものとする。
- 4 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（道徳の理論及び指導法に係る部分に限る。）の単位の修得方法は、専修免許状又は一種免許状の場合は2単位以上、二種免許状の場合は1単位以上修得するものとする（次条第1項の表の場合においても同様とする。）。
- 5 教育実習は、小学校、幼稚園、中学校（義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程、特別支援学校の中等部及び海外に在留する邦人の子女のための在外教育施設で、文部科学大臣が中学校の課程と同等の課程を有するものとして認定したものを含む。次条第1項の表備考第7号及び第5条第1項の表備考第3号において同じ。）及び幼保連携型認定こども園の教育を中心とするものとする。
- 6 各教科の指導法に関する科目の単位のうち、生活の教科の指導法に関する科目の単位にあつては2単位まで、特別活動の指導法に関する科目の単位にあつては1単位まで、幼稚園の教諭の普通免許状の授与を受ける場合の保育内容の指導法に関する科目の単位をもつてあてることができる。

2～4 （略）

〔中学校教諭の科目の単位の修得方法〕

第4条 免許法別表第一に規定する中学校教諭の普通免許状の授与を受ける場合の教科及び教職に関する科目の単位の修得方法は、次の表の定めるところによる。

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状
最低修得単位数	第二欄	教科に関する専門的事項	28	28	12
		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）			

最 低 修	第 三 欄	教育の基礎的 理解に関する 科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10 (6)	10 (6)	6 (3)
			教育の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			
			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			
得 単 位	第 四 欄	道徳、総合的 な学習の時間 等の指導法及 び生徒指導、 教育相談等に 関する科目	道徳の理論及び指導法	10 (6)	10 (6)	6 (4)
			総合的な学習の時間の指導法			
			特別活動の指導法			
			教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）			
			生徒指導の理論及び方法			
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			
			進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
数	第 五 欄	教育実践に 関する科目	教育実習	5 (3)	5 (3)	5 (3)
			教職実践演習	2	2	2
数	第 六 欄	大学が独自に 設定する科目		28	4	4

備考

- 1 教科に関する専門的事項に関する科目の修得方法は、次に掲げる免許教科の種類に応じ、それぞれに定める教科に関する専門的事項に関する科目についてそれぞれ1単位以上修得するものとする。
 - イ 国語 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）、国文学（国文学史を含む。）、漢文学、書道（書写を中心とする。）、
 - ロ 社会 日本史・外国史、地理学（地誌を含む。）、「法律学、政治学」、「社会学、経済学」、「哲学、倫理学、宗教学」
 - ハ 数学 代数学、幾何学、解析学、「確率論、統計学」、コンピューター
 - ニ 理科 物理学、物理学実験（コンピューター活用を含む。）、化学、化学実験（コンピューター活用を含む。）、生物学、生物学実験（コンピューター活用を含む。）、地学、地学実験（コンピューター活用を含む。）、
 - ホ 音楽 ソルフェージュ、声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）、器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）、指揮法、音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）、音楽史（日本の伝統的音楽及び諸民族の音楽を含む。）、
 - ヘ 美術 絵画（映像メディア表現を含む。）、彫刻、デザイン（映像メディアを含む。）、工芸、美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）、
 - ト 保健体育 体育実技、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動学方法を含む。）、生理学（運動生理を含む。）、衛生学・公衆衛生学、学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）、
 - チ （略）
 - リ 技術 木材加工（製図及び実習を含む。）、金属加工（製図及び実習を含む。）、機械（実習を含む。）、電気（実習を含む。）、栽培（実習を含む。）、情報とコンピューター（実習を含む。）、
 - ヌ 家庭 家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）、被服学（被服製作実習を含む。）、食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）、住居学、保育学（実習を含む。）、
 - ル （略）
 - ヲ （略）
 - ワ 英語 英語学、英語文学、英語コミュニケーション、異文化理解
 - カ （略）
- 2 前号に掲げる教科に関する専門的事項は、一般的包括的な内容を含むものでなければならない（次条第1項の表の場合においても同様とする。）、
- 3 英語以外の外国語の免許状の授与を受ける場合の教科に関する専門的事項に関する科目の単位の修得方法は、それぞれ英語の場合の例によるものとする（次条第1項の表においても同様とする。）、
- 4 第1号中「」内に示された事項は当該事項の1以上にわたって行うものとする（次条第1項、第9条、第15条第2項、第18条の2及び第64条第2項の表の場合においても同様とする。）、ただし、「農業、工業、商業、水産」の修得方法は、これらの教科に関する専門的事項に関する科目（商船をもつて水産と替えることができる。）、についてそれぞれ2単位以上を修得するものとする。）、
- 5 各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）、教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）、教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）、道徳に理論及び指導法、総合的な学習の時間の指導法並びに特別活動の指導法は、学校教育法施行規則第74条に規定する中学校学習指導要領に掲げる事項に即し、育成を目指す資質及び能力を育むための主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する内容並びに包括的な内容を含むものとする。）、
- 6 各教科の指導法に関する科目の単位の修得方法は、受けようとする免許教科について、専修免許状又は一種免許状の授与を受ける場合にあつては8単位以上を、二種免許状の授与を受ける場合にあつては、2単位以上を修得するものとする（次条第1項の表の場合においても同様とする。この場合において、「8単位以上を、二種免許状の授与を受ける場合にあつては2単位以上」とあるのは「4単位以上」と読み替えるものとする。）、
- 7 教育実習は、中学校、小学校及び高等学校（中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部及び海外に在留する邦人の子女のための在外教育施設で、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定したものを含む。）、次条第1項の表備考台3号の場合において同じ。）、の教育を中心とするものとする。）、
- 8 教育実習の単位は、中学校（義務教育学校の後期課程、中等教育学校の前期課程、特別支援学校の中学部、海外に在留する邦人の子女のための在外教育施設で、文部科学大臣が中学校の課程と同等の課程を有するものとして認定したもの及び附則第22項第2号に規定する中学校に相当する旧令による学校を含む。）、又は高等学校（中等教育学校の後期課程、特別支援学校の高等部、海外に在留する邦人の子女のための在外教育施設で、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定したもの及び同項第3号に規定する高等学校に相当する旧令による学校を含む。）、において、教員（海外に在留する邦人の子女のための在外教育施設で、文部科学大臣が中学校又は高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定したもののにおいて教育に従事する者を含む。）、として1年以上良好な成績で勤務した旨の実務証明責任者の証明を有する者については、経験年数1年について1単位の割合で、表に掲げる普通免許状の授与を受ける場合の各教科の指導法に関する科目又は教諭の教育の基礎的理解に関する科目等（教育実習を除く。）、の単位をもつて、これに替えることができる（次条第1項の表の場合においても同様とする。）、

8の2 前号に規定する実務証明責任者は、中学校（義務教育学校の後期課程，中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部並びに附則第22項第2号に規定する中学校に相当する旧令による学校を含む。）又は高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部並びに同項第3号に規定する高等学校に相当する旧令による学校を含む。）の教員にあつてはその者の勤務する学校の教員についての免許法別表第3の第三欄に規定する実務証明責任者と同様とし，海外に在留する邦人の子女のための在外教育施設で，文部科学大臣が中学校又は高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定したものにおいて教育に従事する者にあつてはその者についての第67条の表第三欄に規定する実務証明責任者と同様とする（次条第1項の表の場合においても同様とする。）。

9 音楽及び美術の各教科についての普通免許状については，当分の間，各教科の指導法に関する科目及び教諭の教育の基礎的理解に関する科目等の単位数（専修免許状に係る単位数については，教育職員免許法別表第1備考第7号の規定を適用した後の単位数）のうちその半数までの単位は，当該免許状に係る教科に関する専門的事項に関する科目について修得することができる。この場合において，各教科の指導法に関する科目にあつては1単位以上，その他の科目にあつては括弧内の数字以上の単位を修得するものとする。

2～4 （略）

〔高等学校教諭の科目の単位の修得方法〕

第5条 免許法別表第一に規定する高等学校教諭の普通免許状の授与を受ける場合の教科及び教職に関する科目の単位の修得方法は，次の表の定めるところによる。

第一欄	教科及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状
最低	第二欄 教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	24	24
		各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
修得単位数	第三欄 教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10 (4)	10 (4)
		教育の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
		教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
		幼児，児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
		特別の支援を必要とする幼児，児童及び生徒に対する理解		
		教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		

最 低 修 得 単 位	第 四 欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	8 (5)	8 (5)
			特別活動の指導法		
			教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
			生徒指導の理論及び方法		
			教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
			進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
位	第 五 欄	教育実践に関する科目	教育実習	3 (2)	3 (2)
			教職実践演習	2	2
数	第 六 欄	大学が独自に設定する科目		36	12

備考

- 1 教科に関する専門的事項に関する科目の修得方法は、免許教科の種類に応じ、それぞれに定める教科に関する専門的事項に関する科目についてそれぞれ1単位以上修得するものとする。
- イ 国語 国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）、国文学（国文学史を含む。）、漢文学
- ロ 地理歴史 日本史、外国史、人文地理学・自然地理学、地誌
- ハ 公民 「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」、「社会学、経済学（国際経済を含む。）、哲学、倫理学、宗教学、心理学」
- ニ 数学 代数学、幾何学、解析学、「確率論、統計学」、コンピューター
- ホ 理科 物理学、化学、生物学、地学、「物理学実験（コンピューター活用を含む。）、化学実験（コンピューター活用を含む。）、生物学実験（コンピューター活用を含む。）、地学実験（コンピューター活用を含む。）」
- ヘ 音楽 ソルフェージュ、声楽（合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む。）、器楽（合奏及び伴奏並びに和楽器を含む。）、指揮法、音楽理論・作曲法（編曲法を含む。）・音楽史（日本の伝統的音楽及び諸民族の音楽を含む。）」
- ト 美術 絵画（映像メディア表現を含む。）、彫刻、デザイン（映像メディアを含む。）、工芸、美術理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む。）」
- チ 工芸 図法・製図、デザイン、工芸制作（プロダクト制作を含む。）、工芸理論・デザイン理論・美術史（鑑賞並びに日本の伝統工芸及びアジアの工芸を含む。）」
- リ （略）
- ヌ 保健体育 体育実技、「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動学方法を含む。）、生理学（運動生理を含む。）、衛生学・公衆衛生学、学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）」
- ル （略）
- ヲ （略）
- ワ 家庭 家庭経営学（家族関係学及び家庭経済学を含む。）、被服学（被服製作実習を含む。）、食物学（栄養学、食品学及び調理実習を含む。）、住居学（製図を含む。）、保育学（実習及び家庭看護を含む。）、家庭電気・家庭機械・情報処理
- カ 情報 情報社会・情報倫理、コンピューター・情報処理（実習を含む。）、情報システム（実習を含む。）」

。), 情報通信ネットワーク(実習を含む。), マルチメディア表現・マルチメディア技術(実習を含む。), 情報と職業

ヨ 農業 農業の関係科目, 職業指導

タ 工業 工業の関係科目, 職業指導

レ (略)

ソ (略)

ツ (略)

ネ (略)

ナ (略)

ラ 英語 英語学, 英語文学, 英語コミュニケーション, 異文化理解

ム (略)

2 各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。), 教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。), 教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。), 総合的な学習の時間の指導法並びに特別活動の指導法は, 学校教育法施行規則第84条に規定する高等学校学習指導要領に掲げる事項に即し, 育成を目指す資質及び能力を育むための主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に資する内容並びに包括的な内容を含むものとする。

3 教育実習は, 高等学校及び中学校の教育を中心とするものとする。

4 教諭の教育の基礎的理解に関する科目等の単位は, 教育の基礎的理解に関する科目にあつては8単位まで, 道徳, 総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導, 教育相談等に関する科目, 教育実習並びに教職実践演習にあつてはそれぞれ2単位まで, 幼稚園, 小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受ける場合のそれぞれの科目の単位をもつてあてることができる。

5 数学, 理科, 音楽, 美術, 工芸, 書道, 農業, 商業, 水産及び商船の各教科についての普通免許状については, 当分の間, 各教科の指導法に関する科目及び教諭の教育の基礎的理解に関する科目等の単位数(専修免許状に係る単位数については, 教育職員免許法別表第1備考第7号の規定を適用した後の単位数)のうちその半数までの単位は, 当該免許状に係る教科に関する専門的事項に関する科目について修得することができる。この場合において, 各教科の指導法に関する科目にあつては1単位以上, その他の科目にあつては括弧内の数字以上の単位を修得するものとする。

6 工業の普通免許状の授与を受ける場合は, 当分の間, 各教科の指導法に関する科目及び教諭の教育の基礎的理解に関する科目等(専修免許状に係る単位数については, 免許法別表第1備考第7号の規定を適用した後の単位数)の全部又は一部の単位は, 当該免許状に係る教科に関する専門的事項に関する科目について修得することができる。

2~4 (略)

第6条 削除

[特別支援学校教諭等の科目の単位の修得方法]

第7条 免許法別表第一に規定する特別支援学校教諭の普通免許状の授与を受ける場合の特別支援教育に関する科目の単位の修得方法は、次の表の定めるところによる。

特別支援教育に関する科目 免許状の種類		最低修得単位数			
		第一欄	第二欄	第三欄	第四欄
		特別支援教育の基礎理論に関する科目	特別支援教育領域に関する科目		免許状に定められることとなる特別支援学校教育領域以外の領域に関する科目
心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	
特別支援学校教諭	専修免許状	2	16	5	3
	一種免許状	2	16	5	3
	二種免許状	2	8	3	3

備考

- 第一欄に掲げる科目は、特別支援学校の教育に係る、心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想並びに心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育に係る社会的、制度的又は経営的事項を含むものとする。
- 第二欄に掲げる科目の単位の修得方法は、特別支援教育領域のうち、一又は二以上の免許状教育領域（授与を受けようとする免許状に定められることとなる特別支援教育領域をいう。次項において同じ。）について、それぞれ次のイ又はロに定める単位を修得するものとする。
 - イ 視覚障害者又は聴覚障害者に関する教育の領域を定める免許状の授与を受けようとする場合にあつては、当該領域に関する心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（以下「心理等に関する科目」という。）並びに当該領域に関する心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（以下「教育課程等に関する科目」という。）について合わせて8単位（二種免許状の授与を受ける場合にあつては4単位）以上（当該心理等に関する科目に係る1単位以上及び当該教育課程に関する科目に係る2単位（二種免許状の授与を受ける場合にあつては1単位）以上を含む。）
 - ロ 知的障害者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。以下同じ。）に関する教育の領域を定める免許状の授与を受けようとする場合にあつては、当該領域に関する心理等に関する科目及び当該領域に関する教育課程等に関する科目について合わせて4単位（二種免許状の授与を受ける場合にあつては2単位）以上（当該心理等に関する科目に係る1単位以上及び当該教育課程等に関する科目に係る2単位（二種免許状の授与を受ける場合にあつては1単位）以上を含む。）
- 第三欄に掲げる科目は、視覚障害者、聴覚障害者、知的障害者、肢体不自由者及び病弱者に関する教育並びにその他障害により教育上特別の支援を必要とする者に対する教育に関する事項のうち、授与を受けようとする免許状に定められることとなる特別支援教育領域に関する事項以外の全ての事項を含むものとする。
- 第四欄に定める単位は、特別支援学校において、教員として一年以上良好な成績で勤務した旨の実務証明責任者の証明を有するものについては、経験年数一年について1単位の割合で、それぞれ第一欄から第三欄までに掲げる科目に関する単位をもつて、これに替えることができる。
- 前号に規定する実務証明責任者は、特別支援学校の教員についての免許法別表第3の第三欄に規定する実務証明責任者と同様とする（第5項第3号においても同様とする。）

2 免許法別表第一に規定する特別支援学校教諭の専修免許状の授与を受ける場合の特別支援教育に関する科目の単位は、前項に規定するもののほか、免許状教育領域の種類に応じ、大学の加える特別支援教育に関する科目についても修得することができる。

3 特別支援教育に関する科目の修得により免許法第5条の2第3項の規定による新教育領域の追加の定めを受けようとする場合における特別支援教育に関する科目の単位の修得方法は、追加の定めを受けようとする新教育領域の種類に応じ、第1項の表備考第2号イ又はロに定める単位を修得するものとする。

- 4 前項の規定により修得するものとされる単位は、新教育領域の追加の定めを受けようとする者が免許状の授与を受けた際又は過去に新教育領域の追加の定めを受けた際に修得した単位（新たに追加の定めを受けようとする新教育領域に関する科目に係るものに限る。）をもつて、これに替えることができる。この場合において、第1項の表の第3欄に掲げる科目について修得した単位数が同欄に定める最低修得単位数に不足することとなるときは、同欄に掲げる科目について、その不足する単位数と同数以上の単位を修得しなければならない。
- 5 免許法第5条の2第3項に規定する教育職員検定のうち、特別支援学校教諭の普通免許状に新教育領域を追加して定める場合の学力及び実務の検定は、次に定めるところによつて行わなければならない。
- 一 学力の検定は、追加の定めを受けようとする新教育領域の種類に応じ、第1項の表第2欄に掲げる科目についてそれぞれ次のイ又はロに定める単位を習得するものとする。
- イ 視覚障害者又は聴覚障害者に関する教育の領域の追加の定めを受けようとする場合にあつては、当該領域に関する心理等に関する科目及び当該領域に関する教育課程等に関する科目について合わせて4単位（二種免許状に新教育領域の追加の定めを受けようとする場合にあつては2単位）以上（当該心理等に関する科目に係る1単位以上及び当該教育課程等に関する科目に係る1単位以上を含む。）
- ロ 知的障害者、肢体不自由者又は病弱者に関する教育の領域の追加の定めを受けようとする場合にあつては、当該領域に関する心理等に関する科目及び当該領域に関する教育課程等に関する科目についてそれぞれ1単位（二種免許状に当該領域の追加の定めを受ける場合にあつては当該心理等に関する科目及び当該教育課程等に関する科目の内容を含む科目1単位）以上
- 二 前号の単位は、文部科学大臣の認定する講習、大学の公開講座若しくは通信教育において修得した単位又は文部科学大臣が大学に委嘱して行う試験の合格により修得した単位をもつて替えることができる。
- 三 実務の検定は、特別支援学校の教員（専修免許状又は一種免許状に新教育領域の追加の定めを受けようとする場合にあつては、当該免許状に定められている特別支援教育領域又は追加の定めを受けようとする新教育領域を担当する教員に限り、二種免許状に新教育領域の追加の定めを受けようとする場合にあつては、幼稚園、小学校、中学校、高等学校又は中等教育学校の教員を含む。）として1年間良好な成績で勤務した旨の実務証明責任者の証明を有することを必要とする。
- 6 第4項の規定は、前項の場合について準用する。この場合において、「前項」とあるのは「第5項」と読み替えるものとする。
- 7 免許法別表第一備考第6号に規定する特別支援教育に関する科目の単位を修得させるために大学が設置する修業年限を1年とする課程（以下「特別支援教育特別課程」という。）における特別支援教育に関する科目の単位の修得方法は、第1項から第4項までに定める修得方法の例によるものとする。

〔養護教諭の科目の単位の修得方法〕

第9条 免許法別表第二に規定する養護教諭の普通免許状の授与を受ける場合の養護及び教職に関する科目の単位の修得方法は、次の表の定めるところによる。

第一欄	養護及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状	
最 低 修 得 単 位 数	第二欄	養護に関する科目	28	28	24	
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	8	5
			教育の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			
			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			
	第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	6	3
			教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）			
			生徒指導の理論及び方法			
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法						
第五欄	教育実践に関する科目	養護実習	5	5	4	
		教職実践演習	2	2	2	
第六欄	大学が独自に設定する科目		31	7	4	

備考

- 1 養護に関する科目の単位の修得方法は、次に掲げる免許状の授与を受ける場合に応じ、それぞれ定める単位数を修得するものとする。
 - イ 専修免許状又は一種免許状 衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）4単位以上、学校保健2単位以上、養護概説2単位以上、健康相談活動の理論・健康相談活動の方法2単位以上、栄養学（食品学を含む。）2単位以上、解剖学・生理学2単位以上、「微生物学、免疫学、薬理概論」2単位以上、精神保健2単位以上、看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）10単位以上
 - ロ 二種免許状 衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）2単位以上、学校保健1単位以上、養護概説1単位以上、健康相談活動の理論・健康相談活動の方法2単位以上、栄養学（食品学を含む。）2単位以上、解剖学・生理学2単位以上、「微生物学、免疫学、薬理概論」2単位以上、精神保健2単位以上、看護学（臨床実習及び救急処置を含む。）10単位以上
- 2 道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目に教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）の内容を含む場合にあっては、教育の基礎的理解に関する科目に教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）の内容を含むことを要しない（次条の表の場合においても同様とする。）。
- 3 養護実習の単位は、養護教諭、養護助教諭又は第69条の2に規定する職員として1年以上良好な成績で勤務した旨の実務証明責任者の証明を有する者については、経験年数1年について1単位の割合で、教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目又は教育実践に関する科目（以下「養護教諭・栄養教諭の教育の基礎的理解に関する科目等」という。）（養護実習を除く。）の単位をもつて、これに替えることができる。
- 3の2 前号に規定する実務証明責任者は、養護教諭、養護助教諭又は第69条の2に規定する職員にあつてはその者の勤務する学校の教員についての免許法別表第三の第三欄に規定する実務責任者と同様とする。
- 4 教育の基礎的理解に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目の単位は、教育の基礎的理解に関する科目にあつては6単位（二種免許状の授与を受ける場合にあっては4単位）まで、道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目にあつては2単位まで、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校の教諭の普通免許状の授与を受ける場合のそれぞれの教育の基礎的理解に関する科目又は道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目の単位をもつてあてることができる（次条の表の場合においても同様とする。）。
- 5 教育の基礎的理解に関する科目又は道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目の単位は、教育の基礎的理解に関する科目にあつては6単位（二種免許状の授与を受ける場合にあっては4単位）まで、道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目にあつては8単位（二種免許状の授与を受ける場合にあっては4単位）まで、栄養教諭の普通免許状の授与を受ける場合のそれぞれの科目の単位をもつてあてることができる（次条の表の場合におしても同様とする。）。
- 6 大学が独自に設定する科目の単位の修得方法は、次に掲げる免許状の授与を受ける場合に応じ、それぞれ定める科目について修得するものとする。
 - イ 専修免許状 養護に関する科目又は養護教諭・栄養教諭の教育の基礎的理解に関する科目等
 - ロ 一種免許状又は二種免許状 養護に関する科目若しくは養護教諭・栄養教諭の教育の基礎的理解に関する科目等又は大学が加えるこれらに準ずる科目
- 7 免許法別表第二の養護教諭の一種免許状のロの項に規定する養護及び教職に関する科目の単位の修得方法は、養護に関する科目のうち衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）、学校保健、養護概説及び栄養学（食品学を含む。）に含まれる内容について、合わせて3単位以上を、教育の基礎的理解に関する科目（教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に係る部分に限る。次号において「教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する科目」という。）、教育の基礎的理解に関する科目（幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程に係る部分に限る。次号において「幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程に関する科目」という。）並びに特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解に関する科目のうち1単位以上の科目並びに養護実習について、それぞれ2単位以上を修得するものとする。
- 8 免許法別表第二の養護教諭の一種免許状のハの項に規定する養護及び教職に関する科目の単位の修得方法は、養護に関する科目のうち衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）並びに栄養学（食品学を含む。）についてそれぞれ2単位以上を、学校保健及び養護概説について合わせて2単位以上を、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想に関する科目、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程に関する科目並びに特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解に関する科目のうち1以上の科目並びに養護実習について、それぞれ2単位以上を修得するものとする。

〔栄養教諭の科目の単位の修得方法〕

第10条 免許法別表第2の2に規定する栄養教諭の普通免許状の授与を受ける場合の栄養に係る教育及び教職に関する科目の修得方法は、次の表の定めるところによる。

第一欄	栄養に係る教育及び教職に関する科目	右項の各科目に含めることが必要な事項	専修免許状	一種免許状	二種免許状	
最低修得単位数	第二欄	栄養に係る教育に関する科目	4	4	2	
	第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	8	5
			教育の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			
			教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			
			幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			
			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			
			教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			
	第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	6	6	3
			教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）			
			生徒指導の理論及び方法			
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法						
第五欄	教育実践に関する科目	栄養教育実習	2	2	2	
		教職実践演習	2	2	2	
第六欄	大学が独自に設定する科目		24			

備考

- 1 栄養に係る教育に関する科目の単位の修得方法は、栄耀教諭の役割及び職務内容に関する事項、幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項、食生活に関する歴史及び文化的事項並びに食に関する指導の方法に関する事項を含む科目について、専修免許状又は一種免許状の授与を受ける場合にあつては4単位以上を、二種免許状の授与を受ける場合にあつては2単位以上を修得するものとする。
- 2 大学が独自に設定する科目の単位の修得方法は、栄養に係る教育に関する科目若しくは大学が加えるこれに準ずる科目（管理栄養士学校指定規則（昭和41年文部省・厚生省令第2号）別表第一に掲げる教育内容に係るものに限る。）又は養護教諭・栄養教諭の教育の基礎的理解に関する科目等のうち1以上の科目について単位を修得するものとする。

〔一種免許を有する者等の単位数〕

- 第10条の2 幼稚園、小学校、中学校若しくは特別支援学校の教諭、養護教諭若しくは栄養教諭の一種免許状若しくは二種免許状を有する者又はこれらの免許状に係る所要資格を得ている者が、免許法別表第一、別表第二又は別表第二の二の規程により、それぞれの専修免許状又は一種免許状の授与を受けようとするときは、これらの別表の専修免許状又は一種免許状に係る第三欄に定める単位数のうちその者が有し又は所要資格を得ている一種免許状又は二種免許状に係る第三欄に定める単位数は、既に修得したものとみなす。
- 2 前項の規定の適用を受ける場合（一種免許状を有している者又は一種免許状に係る所要資格を得ている者が専修免許状の授与を受けようとする場合を除く。）の各教科の指導法に関する科目（幼稚園教諭の普通免許状の授与を受ける場合にあつては保育内容の指導法に関する科目。第20条第1項、第22条第3項及び第66条の8において同じ。）、教諭の教育の基礎的理解に関する科目若しくは養護教諭・栄養教諭の教育の基礎的理解に関する科目等（第22条第3項において「教育の基礎的理解に関する科目等」という。）、特別支援教育に関する科目、養護に関する科目又は栄養に係る教育に関する科目の単位の修得方法は、第2条から第5条まで、第7条、第9条及び第10条に規定する授与を受けようとする専修免許状又は一種免許状に係る各科目の単位数から二種免許状に係る各科目の単位数を差し引いた単位数について修得するものとする。
 - 3 免許法別表第一、別表第二又は別表第二の二の規定により幼稚園、小学校、中学校若しくは特別支援学校の教諭、養護教諭又は栄養教諭の専修免許状若しくは一種免許状の授与を受けようとする者又は高等学校教諭の専修免許状の授与を受けようとする者は、それぞれの一種免許状又は二種免許状（高等学校教諭の普通免許状の授与を受けようとする場合にあつては一種免許状）の授与を受けるために修得した科目の単位をこれらの別表の専修免許状又は一種免許状（高等学校教諭の普通免許状の授与を受けようとする場合にあつては専修免許状）に係る第三欄に掲げる単位数に含めることができる。ただし、第2条から第6条、第7条、第9条、第10条、第10条の3及び第10条の4に規定する一種免許状又は二種免許状（高等学校教諭の普通免許状の授与を受けようとする場合にあつては一種免許状）に係る各科目の単位数を上限とする。
 - 4 第7条第3項又は第5項の規定により一種免許状に新教育領域の追加の定めを受けようとする者が、当該領域を定めた二種免許状を所持している場合、当該領域を定めた二種免許状に係る所要資格を得ている場合又は特別支援学校教諭の二種免許状に当該新教育領域の追加の定めを受けることができる者である場合には、同条第3項又は第5項に定める単位数のうち二種免許状に当該領域の追加の定めを受けるためにそれぞれ必要な単位数は、既に修得したものとみなす。
 - 5 第7条第3項又は第5項の規定により一種免許状に新教育領域の追加の定めを受けようとする者は、当該新教育領域を定めた二種免許状の授与を受けるため、又は二種免許状に当該新教育領域の追加の定めを受けるために修得した科目の単位を同条第3項又は第5項に定める一種免許状に係る単位数に含めることができる。ただし、同条第3項又は第5項に定める単位数のうち、二種免許状に当該新教育領域の追加の定めを受けるためにそれぞれ必要な単位数を上限とする。
- 第10条の3 認定課程を有する大学に入学した者は、当該大学の認めるところにより、当該大学に入学する前に大学（認定課程を有する大学（授与を受けようとする普通免許状に係る学校に相当する学校の教員を養成する外国の大学を含む。）に限る。）において修得した科目の単位のうち、大学設置基準第30条第1項（大学院設置基準第15条において準用する場合を含む。）、専門職大学設置基準第26条第1項、短期大学設置基準第16条第1項、専門職短期大学設置基準第23条第1項又は専門職大学院設置基準（平成15年文部科学省令第16号）第22条第1項若しくは第28条第1項の規定により当該大学における授業科目の履修により修得したものとみなされるものについては、当該大学が有する認定課程に係る免許状の授与を受けるための科目の単位数に含めることができる。この場合において、当該大学に入学する前の大学が短期大学である場合にあつては、第2条から第5条まで、第7条、第9条及び第10条に規定する二種免許状（高等学校教諭の普通免許状の授与を受ける場合にあつては、中学校 教諭の二種免許状）に係る各科目の単位数を上限とする。
- 2 免許法別表第一、別表第二又は別表第二の二の規定により普通免許状の授与を受けようとする者は、認定課程を有する大学の認めるところにより、認定課程を有する他の大学（授与を受けようとする普通免許状に係る学校に相当する学校の教員を養成する外国の大学を含む。）において修得した科目の単位のうち、大学設置基準第28条（大学院設置基準第15条において準用する場合を含む。）、専門職大学設置基準第24条第1項、短期大学設置基準第14条、専門職短期大学設置基準第21条第1項又は専門職大学院設置基準第21条若しくは第27条の規定により当該大学における授業科目の履修により修得したものとみなされるものについては、当該大学が有する認定課程に係る免許状の授与を受けるための科目の単位に含めることができる。

第 1 1 条～第 6 6 条の 5 (略)

〔科目の単位〕

第 6 6 条の 6 免許法別表第一備考第 4 号に規定する文部科学省令で定める科目の単位は、日本国憲法 2 単位、
体育 2 単位、外国語コミュニケーション 2 単位及び情報機器の操作 2 単位とする。

第 6 6 条の 7～第 7 6 条 (略)

附 則 (略)

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律

(趣旨)

第1条 この法律は、義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる措置を講ずるため、小学校及び中学校の教諭の普通免許状の授与について教育職員免許法（昭和24年法律第147号）の特例等を定めるものとする。

(教育職員免許法の特例)

第2条 小学校及び中学校の教諭の普通免許状の授与についての教育職員免許法第5条第1項の規定の適用については、当分の間、同項中「修得した者」とあるのは、「修得した者（18歳に達した後、7日を下らない範囲内において文部科学省令で定める期間、特別支援学校又は社会福祉施設その他の施設で文部科学大臣が厚生労働大臣と協議して定めるものにおいて、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行った者に限る。）」とする。

2 前項の規定により読み替えられた教育職員免許法第5条第1項の規定による体験（以下「介護等の体験」という。）に関し必要な事項は、文部科学省令で定める。

3 介護等に関する専門的知識及び技術を有する者又は身体上の障害により介護等の体験を行うことが困難な者として文部科学省令で定めるものについての小学校及び中学校の教諭の普通免許状の授与については、第1項の規定は、適用しない。

(関係者の責務)

第3条 国、地方公共団体及びその他の関係機関は、介護等の体験が適切に行われるようにするために必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

2 特別支援学校及び社会福祉施設その他の施設で文部科学大臣が厚生労働大臣と協議して定めるものの設置者は、介護等の体験に関し必要な協力を行うよう努めるものとする。

3 大学及び文部科学大臣の指定する教員養成機関は、その学生又は生徒が介護等の体験を円滑に行うことができるよう適切な配慮をするものとする。

(教員の採用時における介護等の体験の勘案)

第4条 小学校又は中学校又は義務教育学校の教員を採用しようとする者は、その選考に当たっては、この法律の趣旨にのっとり、教員になろうとする者が行った介護等の体験を勘案するよう努めるものとする。

附 則

1 この法律は、平成10年4月1日から施行する。

2 この法律の施行の日前に大学又は文部科学大臣の指定する教員養成機関に在学した者で、これらを卒業するまでに教育職員免許法別表第一に規定する小学校又は中学校の教諭の普通免許状に係る所要資格を得たものについては、第2条第1項の規定は、適用しない。

附 則（平成11年12月22日法律第160号）抄

(施行期日)

第1条 この法律（第2条及び第3条を除く。）は、平成13年1月6日から施行する。

附 則（平成18年6月21日法律第80号）抄

(施行期日)

第1条 この法律は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成27年6月24日法律第46号）抄

(施行期日)

第1条 この法律は、平成28年4月1日から施行する。

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律施行規則

(介護等の体験の期間)

第1条 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（以下「特例法」という。）第2条第1項の文部科学省令で定める期間は、7日間とする。

(介護等の体験を行う施設)

第2条 特例法第2条第1項の文部科学大臣が定める施設は、次のとおりとする。

一 児童福祉法（昭和22年法律第164号）に規定する乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設、知的障害児施設、知的障害児通園施設、盲ろうあ児施設、肢体不自由児施設、重症心身障害児施設、情緒障害児短期治療施設及び児童自立支援施設

二 削除

三 削除

四 生活保護法（昭和25年法律第144号）に規定する救護施設、更生施設及び授産施設

五 社会福祉法（昭和26年法律第45号）に規定する授産施設

六 削除

- 七 老人福祉法（昭和38年法律第133号）に規定する老人デイサービスセンター，老人短期入所施設，養護老人ホーム及び特別養護老人ホーム
- 八 介護保険法（平成9年法律第123号）に規定する介護老人保健施設
- 九 独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園法（平成14年法律第167号）第11条第1号の規定により独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園が設置する施設
- 九の二 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成十七年法律第123号）に規定する障害者支援施設及び地域活動支援センター
- 十 前各号に掲げる施設に準ずる施設として文部科学大臣が認める施設

（介護等の体験を免除する者）

第3条 特例法第2条第3項に規定する介護等に関する専門的知識及び技術を有する者として文部科学省令で定めるものは次の各号の一に該当する者とする。

- 一 保健師助産師看護師法（昭和23年法律第203号）第7条の規定により保健師の免許を受けている者
 - 二 保健師助産師看護師法第7条の規定により助産師の免許を受けている者
 - 三 保健師助産師看護師法第7条の規定により看護師の免許を受けている者
 - 四 保健師助産師看護師法第8条の規定により准看護師の免許を受けている者
 - 五 教育職員免許法（昭和24年法律第147号）第5条第1項の規定により特別支援学校の教員の免許を受けている者
 - 六 理学療法士及び作業療法士法（昭和40年法律第137号）第3条の規定により理学療法士の免許を受けている者
 - 七 理学療法士及び作業療法士法第3条の規定により作業療法士の免許を受けている者
 - 八 社会福祉士及び介護福祉士法（昭和62年法律第30号）第4条の規定により社会福祉士の資格を有する者
 - 九 社会福祉士及び介護福祉士法第39条の規定により介護福祉士の資格を有する者
 - 十 義肢装具士法（昭和62年法律第61号）第3条の規定により義肢装具士の免許を受けている者
- 2 特例法第2条第3項に規定する身体上の障害により介護等の体験を行うことが困難な者として文部科学省令で定めるものは，身体障害者福祉法第4条に規定する身体障害者のうち，同法第15条第4項の規定により交付を受けた身体障害者手帳に，障害の程度が1級から6級である者として記載されている者とする。

（介護等の体験に関する証明書）

- 第4条 小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者は，教育職員免許法第5条の2第1項の規定による免許状の授与の申出を行うにあたって，同項に規定する書類のほか，介護等の体験を行った学校又は施設の長が発行する介護等の体験に関する証明書を提出するものとする。
- 2 学校又は施設の長は，小学校又は中学校の普通免許状の授与を受けようとする者から請求があったときは，その者の介護等の体験に関する証明書を発行しなければならない。
 - 3 証明書の様式は，別記様式（省略）のとおりとする。

附 則

この省令は，平成10年4月1日から施行する。

附 則 （略）

附 則（平成16年3月31日文部科学省令第19号）

この省令は，公布の日から施行し，第2条第6号の改正規定は，社会福祉の増進のための社会福祉事業法等の一部を改正する等の法律第6条の規定の施行の日から，同条第8号の改正規定は，独立行政法人国立重度知的障害者総合福祉施設のぞみの園の設立の日から，同条第9号の改正規定は，介護保険法の施行の日から適用する。

附 則 （平成18年9月25日文部科学省令第36号）

- 1 この省令は，平成18年10月1日から施行する。
- 2 この省令の施行の日から障害者自立支援法（平成17年法律第123号）附則第1条第3号に掲げる規定の施行の日の前日までの間は，改正後の第2条第9号の2中「及び地域活動支援センター」とあるのは，「，地域活動支援センター並びに同法附則第41条第1項，同法附則第48条又は同法附則第58条第1項の規定によりなお従前の例により運営をすることができることとされた同法附則第41条第1項に規定する身体障害者更生援護施設，同法附則第48条に規定する精神障害者社会復帰施設（同法附則第46条の規定による改正前の精神保健及び精神障害者の福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）に規定する精神障害者生活訓練施設，精神障害者授産施設及び精神障害者福祉工場に限る。）及び同法附則第58条第1項に規定する知的障害者援護施設（同法附則第52条の規定による改正前の知的障害者福祉法（昭和35年法律第37号）に規定する知的障害者更生施設及び知的障害者授産施設に限る。）」とする。

附 則 （略）

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律施行規則（平成9年文部省令第40号）第2条第10号の規定により、同条第1号から第9号に掲げる施設に準じる施設として文部大臣が認める施設を指定する件（平成9年11月26日文部省告示第187号）

小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律施行規則（平成9年文部省令第40号）第2条第10号の規定により、同条各号に掲げる施設に準ずる施設として文部科学大臣が認める施設を、次のように指定する。

- 一 障害者自立支援法（平成17年文部省令第123号）に規定する障害福祉サービス事業（生活介護，児童デイサービス，自立訓練，就労移行支援又は就労継続支援を行うものに限る。）を行う施設（小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特定等に関する法律施行規則第2条第1号に規定する施設を除く。）
- 二 削除
- 三 削除
- 四 高齢者又は身体障害者に対し老人福祉法（昭和38年法律第133号）第10条の4第1項第2号又は身体障害者福祉法第18条第1項第2号に規定する便宜を供与し，併せて高齢者，身体障害者等に対する食事の提供その他の福祉サービスで地域住民が行うものを提供する事業であって，市町村又は社会福祉法人が実施するものを行う施設
- 五 老人福祉法第29条第1項に規定する有料老人ホームのうち，当該有料老人ホーム内において介護サービスの提供を行うことを入居契約において定めているもの（軽度の介護サービスの提供のみを行うものを除く。）
- 六 原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律（平成6年法律第117号）第39条に規定する事業を行う施設
- 七 児童福祉法第27条第2項に規定する指定国立療養所等

附 則（平成11年3月23日文部省令告示第52号）
この告示は，平成11年4月1日から施行する。

附 則 （略）